五 十 音 順 索 引

0

0．1%グルコジンW水（0．1%10mL） 195

1

10%サリチル酸ワセリン軟膏東豊（10%10g） 206

2

20%ブドウ糖注射液「ニッシン」（20%20mL1管） 218

5

5%ブドウ糖注射液「ニッシン」（5%20mL1管） 218

50mgアリナミンF糖衣錠（50mg1錠） 211

D

DTビック（0．1mL1瓶） 377

Dーソルビトール経口液75%「コーワ」（75%10mL） 397

E

EOB・プリモビスト注シリンジ（18．143%10mL1筒） 393

EPLカプセル250mg（250mg1カプセル） 108

H

HMG注射用150単位「F」（150単位1管（溶解液付）） 153

K

KCL注20mEqキット「テルモ」（1モル20mL1キット） 226

M

MS 1

P

PL配合顆粒（1g） 47

S

SPトローチ0．25mg「明治」（0．25mg1錠） 145

あ

アイトロール錠20mg（20mg1錠） 102

亜鉛華（10%）単軟膏「ニッコー」（10g） 198

アキネトン注射液5mg（0．5%1mL1管） 28

アキュミン静注（185MBq1瓶） 318

アクアチムクリーム1%（1%1g） 197

アクチバシン注2400万（2400万国際単位1瓶（溶解液付）） 276

アクチバシン注600万（600万国際単位1瓶（溶解液付）） 276

アクトシン軟膏3%（3%1g） 207

アクトヒブ（10μg1瓶（溶解液付）） 367

アコファイド錠100mg（100mg1錠） 145

アシクロビル点滴静注液250mg「日医工」（250mg1管） 357

アジルサルタンOD錠20mg「サワイ」（20mg1錠） 91

アスコルビン酸注500mgPB「日新」（500mg1管） 213

アズノールうがい液4%（4%1mL） 131

アズノール軟膏0．033%（0．033%10g） 198

アスピリン原末「マルイシ」（10g） 18

アセトアミノフェンDS40%「三和」（40%1g） 18

アセリオ静注液1000mgバッグ（1000mg100mL1袋） 19

アゾセミド錠30mg「JG」（30mg1錠） 86

アタラックスーPカプセル25mg（25mg1カプセル） 36

アタラックスーP注射液（25mg／ml）（2．5%1mL1管） 36

アデノスキャン注60mg（60mg20mL1瓶） 397

アデホスーLコーワ注20mg（20mg1管） 286

アデホスコーワ顆粒10%（10%1g） 286

アートセレブ脳脊髄手術用洗浄灌流液（500mL1キット） 241

アトニンーO注5単位（5単位1管） 153

アトラント外用液1%（1%1mL） 206

アトルバスタチンOD錠10mg「トーワ」（10mg1錠） 109

アドレナリン注0．1%シリンジ「テルモ」（0．1%1mL1筒） 157

アトロピン注0．05%シリンジ「テルモ」（0．05%1mL1筒） 62

アネメトロ点滴静注液500mg（500mg100mL1瓶） 378

アプレピタントカプセル125mg「サワイ」（125mg1カプセル） 145

アプレピタントカプセル80mg「サワイ」（80mg1カプセル） 146

アマルエット配合錠4番「ニプロ」（1錠） 112

アマンタジン塩酸塩錠50mg「杏林」（50mg1錠） 29

アミヴィッド静注（370MBq1瓶） 318

アミオダロン塩酸塩静注150mg「TE」（150mg3mL1管） 77

アミオダロン塩酸塩速崩錠100mg「TE」（100mg1錠） 77

アミカシン硫酸塩注射液200mg「SW」（200mg1管） 333

アミサリン注200mg（10%2mL1管） 78

アミティーザカプセル12μg（12μg1カプセル） 142

アミノレバンEN配合散（10g） 220

アミノレバン点滴静注（500mL1袋） 220

アムビゾーム点滴静注用50mg（50mg1瓶） 350

アムロジピンOD錠5mg「NP」（5mg1錠） 102

アムロジピン錠2．5mg「サワイ」（2．5mg1錠） 102

アメジニウムメチル硫酸塩錠10mg「日医工」（10mg1錠） 113

アモキシシリンカプセル250mg「日医工」（250mg1カプセル） 334

アラセナーA軟膏3%（3%1g） 357

アリピプラゾール錠3mg「サワイ」（3mg1錠） 36

アルガトロバン注射液10mg「サワイ」（10mg20mL1管） 113

アルキニン液10（10%10mL） 195

アルピニー坐剤100（100mg1個） 19

アルピニー坐剤200（200mg1個） 20

アルファカルシドール錠0．5μg「アメル」（0．5μg1錠） 211

アルプロスタジルアルファデクス注射用20μg「タカタ」（20μg1瓶） 114

アルプロスタジル注10μgシリンジ「サワイ」（10μg2mL1筒） 115

アルロイドG内用液5%（10mL） 136

アレビアチン散10%（10%1g） 9

アレビアチン錠100mg（100mg1錠） 9

アレンドロン酸錠35mg「トーワ」（35mg1錠） 286

アロカリス点滴静注235mg（235mg10mL1瓶） 146

アロチノロール塩酸塩錠10mg「JG」（10mg1錠） 78
アロフト錠20mg（20mg1錠） 63
アロプリノール錠100mg「サワイ」（100mg1錠） 275
アンテベートクリーム0．05%（0．05%1g） 198
アンテベート軟膏0．05%（0．05%1g） 199
アンテベートローション0．05%（0．05%1g） 199
アンブロキソール塩酸塩徐放OD錠45mg「サワイ」（45mg1錠） 123
アンペック坐剤10mg（10mg1個） 399

い

イオパミドール300注20mL「F」（61．24%20mL1瓶） 383
イオパミドール370注シリンジ100mL「F」（75．52%100mL1筒） 383
イオパミロン注300（61．24%100mL1瓶） 384
イオパミロン注300（61．24%50mL1瓶） 384
イオパミロン注300シリンジ（61．24%100mL1筒） 385
イオパミロン注370（75．52%100mL1瓶） 385
イオパミロン注370シリンジ（75．52%100mL1筒） 386
イオヘキソール350注100mL「F」（75．49%100mL1瓶） 386
イグラチモド錠25mg「サワイ」（25mg1錠） 287
イコサペント酸エチル粒状カプセル900mg「サワイ」（900mg1包） 241
イスコチン錠100mg（100mg1錠） 354
イソジンゲル10%（10%10g） 195
イソジンシュガーパスタ軟膏（1g） 208
イソバイドシロップ70%分包30mL（70%30mL1包） 86
イソビスト注240（51．26%10mL1瓶） 387
一般診断用精製ツベルクリン（PPD）1人用（（一般診断用・1人用）0．25μg1瓶（溶解液付）） 378
イナビル吸入粉末剤20mg（20mg1キット） 358
イノバン注0．3%シリンジ（0．3%50mL1筒） 74
イベニティ皮下注105mgシリンジ（105mg1．17mL1筒） 287
イミダプリル塩酸塩錠5mg「DSEP」（5mg1錠） 91
イムノブラダー膀注用80mg（80mg1瓶（溶解液付）） 378
イムラン錠50mg（50mg1錠） 287
インクレミンシロップ5%（1mL） 215
インスリン アスパルトBS注ソロスター NR「サノフィ」（300単位1キット） 177
インスリン グラルギンBS注ミリオペン「リリー」（300単位1キット） 177
インスリン リスプロBS注ソロスター HU「サノフィ」（300単位1キット） 178
インタール吸入液1%（1%2mL1管） 126
インテバン外用液1%（1%1mL） 199
インデラル錠10mg（10mg1錠） 79
イントラリポス輸液20%（20%100mL1袋） 225
インフリキシマブBS点滴静注用100mg「NK」（100mg1瓶） 146

う

ヴィーン3G輸液（500mL1袋） 226
ヴィーンD輸液（500mL1袋） 226
ウテメリン錠5mg（5mg1錠） 191
ウブレチド錠5mg（5mg1錠） 61
ウラリット配合錠（1錠） 275
ウルソデオキシコール酸錠100mg「トーワ」（100mg1錠） 144
ウロカルン錠225mg（225mg1錠） 191
ウログラフイン注60%（60%20mL1管） 387
ウロナーゼ静注用6万単位（60000単位1瓶） 277

え

エイムゲン（一人分1瓶（溶解液付）） 367
エキザルベ（1g） 199
エクストラニール腹膜透析液（1．5L1袋（排液用バッグ付）） 248
エクストラニール腹膜透析液（1．5L1袋） 248
エクストラニール腹膜透析液（2L1袋（排液用バッグ付）） 249
エクストラニール腹膜透析液（2L1袋） 249
エクセグラン錠100mg（100mg1錠） 10
エクラープラスター20μg／cm2（（1．5mg）7．5cm×10cm） 200
エスシタロプラムOD錠10mg「トーワ」（10mg1錠） 37
エスゾピクロン錠1mg「サワイ」（1mg1錠） 3
エストラーナテープ0．72mg（（0．72mg）9平方cm1枚） 176
エストリール腟錠0．5mg（0．5mg1錠） 188
エスポー皮下用24000シリンジ（24000国際単位0．5mL1筒） 288
エスワンタイホウ配合OD錠T20（20mg1錠（テガフール相当量）） 311
エスワンタイホウ配合OD錠T25（25mg1錠（テガフール相当量）） 312
エゼチミブ錠10mg「DSEP」（10mg1錠） 109
エソメプラゾールカプセル20mg「ニプロ」（20mg1カプセル） 136
エタノール「ケンエー」（10mL） 195
エダラボン点滴静注液30mgバッグ「NP」（30mg100mL1キット） 47
エチゾラム錠0．5mg「トーワ」（0．5mg1錠） 38
エトドラク錠200mg「SW」（200mg1錠） 20
エナラプリルマレイン酸塩錠5mg「トーワ」（5mg1錠） 91
エパルレスタット錠50mg「JG」（50mg1錠） 288
エピナスチン塩酸塩錠20mg「VTRS」（20mg1錠） 320
エビプロスタット配合錠DB（1錠） 191
エピルビシン塩酸塩注射用10mg「NK」（10mg1瓶） 315
エフィエントOD錠20mg（20mg1錠） 242
エフィエント錠3．75mg（3．75mg1錠） 242
エフェドリン「ナガキ」注射液40mg（4%1mL1管） 123
エブトール250mg錠（250mg1錠） 354
エフピーOD錠2．5（2．5mg1錠） 29
エブランチルカプセル15mg（15mg1カプセル） 92
エプレレノン錠50mg「杏林」（50mg1錠） 92
エホチール注10mg（1%1mL1管） 74
エリキュース錠2．5mg（2．5mg1錠） 234
エリキュース錠5mg（5mg1錠） 234
エリスロシン錠200mg（200mg1錠） 345
エルシトニン注40単位（40エルカトニン単位1mL1管） 289

エルデカルシトールカプセル0．75μg「トーワ」（0．75μg1カプセル） 211
エルネオパNF1号輸液（1000mL1キット） 221
エルネオパNF1号輸液（1500mL1キット） 221
エルネオパNF2号輸液（1000mL1キット） 221
エルネオパNF2号輸液（1500mL1キット） 222
エレジェクト注シリンジ（2mL1筒） 216
エレンタール配合内用剤（10g） 222
塩化カリウム（10g） 216
塩化カリウム徐放錠600mg「St」（600mg1錠） 216
塩化ナトリウム注10%「日新」（10%20mL1管） 226
塩化ナトリウム＊（山善）（10g） 383
エンシュア・H（10mL） 223
エンタカポン錠100mg「サンド」（100mg1錠） 30
エンテカビル錠0．5mg「EE」（0．5mg1錠） 358
エンレスト錠100mg（100mg1錠） 115

お

オイラックスクリーム10%（10%10g） 200
大塚蒸留水（500mL1瓶） 382
大塚生食注（100mL1瓶） 226
大塚生食注（500mL1袋） 227
大塚生食注（500mL1瓶） 226
大塚糖液5%（5%250mL1袋） 218
大塚糖液50%（50%200mL1袋） 218
オキシコドン徐放錠20mgNX「第一三共」（20mg1錠） 399
オキシコドン徐放錠5mgNX「第一三共」（5mg1錠） 399
オキシコドン注射液10mg「第一三共」（1%1mL1管） 400
オキシコドン注射液50mg「第一三共」（1%5mL1管） 400
オキシドール「ヤクハン」（10mL） 195
オキナゾール膣錠600mg（600mg1錠） 189
オキノーム散2．5mg（2．5mg1包） 401
オキノーム散5mg（5mg1包） 401
オクソラレンローション1%（1%1mL） 208
オクトレオスキャン静注用セット（1セット） 319
オクトレオチド皮下注100μg「あすか」（100μg1mL1管） 178
オーグメンチン配合錠250RS（（375mg）1錠） 334
オザグレルNa静注液80mg「日医工」（80mg8mL1管） 289
オスタバロ皮下注カートリッジ1．5mg（1．5mg0．75mL1筒） 155
オセルタミビルカプセル75mg「サワイ」（75mg1カプセル） 358
オノアクト点滴静注用50mg（50mg1瓶） 79
オピソート注射用0．1g（100mg1管（溶解液付）） 61
オフェブカプセル100mg（100mg1カプセル） 289
オフェブカプセル150mg（150mg1カプセル） 290
オフサロン点眼液（5mL1瓶） 64
オプソ内服液5mg（5mg2．5mL1包） 402
オフロキサシン点眼液0．3%「杏林」（0．3%1mL） 64
オムニパーク240注10mL（51．77%10mL1瓶） 387
オムニパーク300注100mL（64．71%100mL1瓶） 388
オムニパーク300注シリンジ100mL（64．71%100mL1筒） 388
オムニパーク350注100mL（75．49%100mL1瓶） 389
オムニパーク350注シリンジ100mL（75．49%100mL1筒） 389
オメプラゾール注射用20mg「日医工」（20mg1瓶） 137
オランザピンOD錠2．5mg「明治」（2．5mg1錠） 38
オリブ油＊（丸石）（10mL） 382
オルケディア錠1mg（1mg1錠） 290
オルダミン注射用1g（10%10g1瓶） 230
オルメサルタンOD錠20mg「DSEP」（20mg1錠） 93
オロパタジン塩酸塩錠5mg「サワイ」（5mg1錠） 321
オロパタジン点眼液0．1%「サンド」（0．1%1mL） 65
オンジェンティス錠25mg（25mg1錠） 30
オンデキサ静注用200mg（200mg1瓶） 243
オンブレス吸入用カプセル150μg（150μg1カプセル） 126

か

ガスコンドロップ内用液2%（2%1mL） 134
ガスサール錠40mg（40mg1錠） 134
ガストログラフイン経口・注腸用（1mL） 390
ガドテル酸メグルミン静注38%シリンジ10mL「GE」（37．695%10mL1筒） 393
ガドテル酸メグルミン静注38%シリンジ15mL「GE」（37．695%15mL1筒） 394
ガドビスト静注1．0mol／Lシリンジ10mL（60．47%10mL1筒） 394
ガドビスト静注1．0mol／Lシリンジ5mL（60．47%5mL1筒） 394
ガドビスト静注1．0mol／Lシリンジ7．5mL（60．47%7．5mL1筒） 394
カナグルOD錠100mg（100mg1錠） 278
カナマイシンカプセル250mg「明治」（250mg1カプセル） 334
カバサール錠0．25mg（0．25mg1錠） 31
ガベキサートメシル酸塩注射用100mg「サワイ」（100mg1瓶） 291
ガベキサートメシル酸塩注射用500mg「サワイ」（500mg1瓶） 291
カペシタビン錠300mg「ヤクルト」（300mg1錠） 313
カモスタットメシル酸塩錠100mg「日医工」（100mg1錠） 291
ガランタミンOD錠8mg「日医工」（8mg1錠） 48
カリメート経口液20%（20%25g1包） 116
カルチコール注射液8．5%10mL（8．5%10mL1管） 215
カルテオロール塩酸塩LA点眼液2%「わかもと」（2%1mL） 65
カルナクリン錠50（50単位1錠） 179
カルバゾクロムスルホン酸Na錠30mg「トーワ」（30mg1錠） 231
カルバゾクロムスルホン酸Na静注100mg「トーワ」（0．5%20mL1管） 231
カルベジロール錠1．25mg「サワイ」（1．25mg1錠） 93
カルベジロール錠10mg「サワイ」（10mg1錠） 94
カルベジロール錠2．5mg「サワイ」（2．5mg1錠） 95
カルボシステインDS50%「タカタ」（50%1g） 124
カルボシステイン錠250mg「JG」（250mg1錠） 124
カルボシステインシロップ5%「タカタ」（5%1mL） 124

カロナール錠200（200mg1錠） 20
眼・耳科用リンデロンA軟膏（1g） 65
乾燥BCGワクチン（経皮用・1人用）（一人分1管（溶解液付）） 367
乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン「タケダ」（一人分1瓶（溶解液付）） 367
乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」（一人分1瓶（溶解液付）） 368
乾燥弱毒生風しんワクチン「タケダ」（一人分1瓶（溶解液付）） 368
乾燥まむし抗毒素″化血研″（各6000単位入1瓶（溶解液付）） 372
カンデサルタン錠4mg「あすか」（4mg1錠） 95

き

キシロカイン液「4%」（4%1mL） 56
キシロカインゼリー2%（2%1mL） 56
キシロカイン注射液「0．5%」エピレナミン（1：100000）含有（0．5%10mLバイアル） 56
キシロカイン注射液「1%」エピレナミン（1：100000）含有（1%10mLバイアル） 57
キシロカイン注射液「2%」エピレナミン（1：80000）含有（2%10mLバイアル） 57
キドパレン輸液（1050mL1キット） 223
キプレスチュアブル錠5mg（5mg1錠） 321
キャブピリン配合錠（1錠） 243
球形吸着炭細粒「マイラン」（1g） 272
キュバール100エアゾール（15mg8．7g1瓶） 127
強力ポステリザン（軟膏）（1g） 190
キンダリー透析剤AF4号（6L1瓶（炭酸水素ナトリウム液付）） 247

く

クエチアピン錠25mg「アメル」（25mg1錠） 39
クエン酸第一鉄Na錠50mg「サワイ」（鉄50mg1錠） 216
グーフィス錠5mg（5mg1錠） 142
グラクティブ錠50mg（50mg1錠） 279
グラケーカプセル15mg（15mg1カプセル） 213
クラシエ葛根湯エキス細粒（1g） 324
クラシエ加味逍遙散料エキス細粒（1g） 324
クラシエ桂枝茯苓丸料エキス細粒（1g） 324
クラシエ柴苓湯エキス細粒（1g） 324
クラシエ芍薬甘草湯エキス細粒（1g） 324
クラシエ当帰芍薬散料エキス細粒（1g） 325
クラシエ人参養栄湯エキス細粒（1g） 325
クラシエ八味地黄丸料エキス細粒（1g） 325
グラナテック点眼液0．4%（0．4%1mL） 65
グラニセトロン点滴静注バッグ3mg／100mL「HK」（3mg100mL1袋） 147
グラニセトロン内服ゼリー2mg「ケミファ」（2mg1包） 148
クラバモックス小児用配合ドライシロップ（（636．5mg）1g） 335
クラリスロマイシンDS小児用10%「タカタ」（100mg1g） 345
クラリスロマイシン錠200mg「サワイ」（200mg1錠） 346
クリアクター静注用80万（80万国際単位1瓶） 277
グリクラジド錠40mg「サワイ」（40mg1錠） 279
グリセオール注（200mL1袋） 116
グリセリン浣腸「オヲタ」120（50%120mL1個） 142
グリセリン浣腸「オヲタ」60（50%60mL1個） 143
グリセリン浣腸「オヲタ」小児用30（50%30mL1個） 143
グリセリン「ケンエー」（10mL） 143
グリチロン配合錠（1錠） 271
グリメピリド錠0．5mg「NP」（0．5mg1錠） 280
グリメピリド錠1mg「NP」（1mg1錠） 280
クリンダマイシンリン酸エステル注射液600mg「サワイ」（600mg1管） 329
グルカゴンGノボ注射用1mg（1mg1瓶（溶解液付）） 392
グルコリン配合静注（20mL1管） 271
クレキサン皮下注キット2000IU（2000低分子ヘパリン国際単位0．2mL1筒） 235
クロトリマゾール膣錠100mg「F」（100mg1錠） 189
クロピドグレル錠75mg「SANIK」（75mg1錠） 243
グロブリン筋注450mg／3mL「JB」（150mg1mL） 372
クロマイ膣錠100mg（100mg1錠） 189

け

ケイセントラ静注用1000（1000国際単位1瓶（溶解液付）） 373
ケイセントラ静注用500（500国際単位1瓶（溶解液付）） 373
ケイツーN静注10mg（10mg1管） 214
ケイツーシロップ0．2%（0．2%1mL） 214
ケトプロフェンテープS20mg「テイコク」（7cm×10cm1枚） 200
ケナコルトーA皮内用関節腔内用水懸注50mg／5mL（10mg1mLバイアル） 158
ケフラールカプセル250mg（250mg1カプセル） 335
ゲーベンクリーム1%（1%1g） 197
ケラチナミンコーワクリーム20%（20%1g） 207
ケレンディア錠10mg（10mg1錠） 117
ケレンディア錠20mg（20mg1錠） 117
献血アルブミン20%静注10g／50mL「ニチヤク」（20%50mL1瓶） 373
献血アルブミン5%静注12．5g／250mL「JB」（5%250mL1瓶） 374
献血グロベニンーI静注用2500mg（2．5g50mL1瓶（溶解液付）） 374
献血ノンスロン1500注射用（1500単位1瓶（溶解液付）） 375
ゲンタシン注60（60mg1管） 336
ゲンタマイシン硫酸塩軟膏0．1%「イワキ」（1mg1g） 197

こ

コアベータ静注用12．5mg（12．5mg1瓶） 81
抗D人免疫グロブリン筋注用1000倍「JB」（1000倍1瓶（溶解液付）） 376
コデインリン酸塩散1%「メタル」（1%1g） 125
コートリル錠10mg（10mg1錠） 158
コートロシン注射用0．25mg（0．25mg1管） 153
コバシル錠4mg（4mg1錠） 96
コミナティ筋注シリンジ12歳以上用（0．3mL1筒） 369
コララン錠2．5mg（2．5mg1錠） 117
コンスタン0．4mg錠（0．4mg1錠） 3

コントミン筋注25mg（0．5%5mL1管） 39

さ

ザイザルシロップ0．05%（0．05%1mL） 321
サイプレジン1%点眼液（1%1mL） 66
酢酸「ニッコー」（10mL） 207
サムタス点滴静注用8mg（8mg1瓶） 87
サムチレール内用懸濁液15%（750mg5mL1包） 364
サラゾスルファピリジン腸溶錠500mg「CH」（500mg1錠） 353
サラゾピリン錠500mg（500mg1錠） 353
サワシリン細粒10%（100mg1g） 336
酸化マグネシウム細粒83%「ヨシダ」（83%1g） 141
酸化マグネシウム錠250mg「ケンエー」（250mg1錠） 141
酸化マグネシウム錠330mg「ケンエー」（330mg1錠） 141
サンピロ点眼液2%（2%5mL1瓶） 66
産婦人科用イソジンクリーム5%（5%10g） 196
サンリズム注射液50（50mg5mL1管） 81

し

ジアゼパム錠2「トーワ」（2mg1錠） 3
ジェニナック錠200mg（200mg1錠） 355
ジエノゲスト錠1mg「モチダ」（1mg1錠） 179
ジェービックV（一人分1瓶（溶解液付）） 369
ジオクチルソジウムスルホサクシネート耳科用液5%「CEO」（5%1mL） 71
ジギラノゲン注0．4mg（0．02%2mL1管） 74
ジクトルテープ75mg（75mg1枚） 21
シクロスポリンカプセル25mg「サンド」（25mg1カプセル） 292
ジクロフェナクNa坐剤25mg「日新」（25mg1個） 21
ジクロフェナクNa坐剤50mg「日新」（50mg1個） 22
ジクロフェナクNa錠25mg「トーワ」（25mg1錠） 23
ジスロマック細粒小児用10%（100mg1g） 347
ジスロマック錠250mg（250mg1錠） 347
ジソピラミド徐放錠150mg「SW」（150mg1錠） 81
シナール配合顆粒（1g） 214
ジノプロスト注射液1000μg「F」（1mg1mL1管） 179
ジピリダモール錠25mg「トーワ」（25mg1錠） 103
ジフェニドール塩酸塩錠25mg「トーワ」（25mg1錠） 72
シベノール静注70mg（70mg5mL1管） 82
シベレスタットNa点滴静注用100mg「ニプロ」（100mg1瓶） 293
シベンゾリンコハク酸塩錠100mg「サワイ」（100mg1錠） 82
ジャディアンス錠10mg（10mg1錠） 280
重ソー静注7%「NS」（7%20mL1管） 272
硝酸イソソルビドテープ40mg「サワイ」（40mg1枚） 103
小児用ムコソルバンシロップ0．3%（0．3%1mL） 124
ジルチアゼム塩酸塩徐放カプセル100mg「日医工」（100mg1カプセル） 103
ジルチアゼム塩酸塩注射用50mg「サワイ」（50mg1瓶） 104
シルニジピン錠10mg「サワイ」（10mg1錠） 96
シロスタゾール錠100mg「トーワ」（100mg1錠） 244
シロドシンOD錠4mg「サワイ」（4mg1錠） 191
シングリックス筋注用（1瓶（溶解液付）） 369
人工涙液マイティア点眼液（5mL1瓶） 66
シンビット静注用50mg（50mg1瓶） 82

す

水溶性ハイドロコートン注射液100mg（100mg2mL1瓶） 159
水溶性プレドニン20mg（20mg1管） 159
スインプロイク錠0．2mg（0．2mg1錠） 143
スガマデクス静注液200mgシリンジ「マルイシ」（200mg2mL1筒） 272
スーグラ錠50mg（50mg1錠） 281
スタデルムクリーム5%（5%1g） 200
ステリクロンW液0．05（0．05%10mL） 196
ステルイズ水性懸濁筋注240万単位シリンジ（240万単位1筒） 329
ストロメクトール錠3mg（3mg1錠） 380
スピオルトレスピマット60吸入（60吸入1キット） 127
スピリーバ2．5μgレスピマット60吸入（150μg1キット） 127
スピロノラクトン錠25mg「トーワ」（25mg1錠） 87
スピロペント錠10μg（10μg1錠） 128
スポンゼル（10cm×7cm1枚） 231
スマトリプタン錠50mg「SPKK」（50mg1錠） 101
スミスリンローション5%（5%1g） 381
スルバシリン静注用3g（（3g）1瓶） 337

せ

生食液NS（20mL1管） 227
生食注シリンジ「テルモ」10mL（10mL1筒） 227
精製水「ケンエー」（10mL） 382
生理食塩液PL「フソー」（50mL1瓶） 227
生理食塩液バッグ「フソー」（1L1袋） 227
生理食塩液バッグ「フソー」（250mL1袋） 228
生理食塩液「ヒカリ」（1L1瓶） 228
ゼビュディ点滴静注液500mg（500mg8mL1瓶） 359
セファゾリンNa点滴静注用1gバッグ「オーツカ」（1g1キット（生理食塩液100mL付）） 337
セファゾリンナトリウム注射用1g「日医工」（1g1瓶） 338
セファランチン錠1mg（1mg1錠） 210
セフェピム塩酸塩静注用1g「サンド」（1g1瓶） 338
セフォチアム静注用1gバッグ「日医工」（1g1キット（生理食塩液100mL付）） 339
セフゾン細粒小児用10%（100mg1g） 339
セフタジジム静注用1g「VTRS」（1g1瓶） 340
セフトリアキソンナトリウム静注用1g「日医工」（1g1瓶） 340
ゼフナートクリーム2%（2%1g） 206
セフメタゾールNa静注用1g「NP」（1g1瓶） 341
セフメタゾールナトリウム点滴静注用バッグ1g「NP」（1g1キット（生理食塩液100mL付）） 341
セルトラリン錠25mg「アメル」（25mg1錠） 40
セレコキシブ錠100mg「VTRS」（100mg1錠） 23
セレスタミン配合錠（1錠） 161
セレニカR顆粒40%（40%1g） 10

セレネース錠0．75mg（0．75mg1錠） 40
セレネース注5mg（0．5%1mL1管） 41
センノシド錠12mg「トーワ」（12mg1錠） 143

そ

ゾコーバ錠125mg（125mg1錠） 359
ソセゴン注射液15mg（15mg1管） 24
ソナゾイド注射用16μL（1瓶（溶解液付）） 395
ゾニサミドOD錠25mgTRE「SMPP」（25mg1錠） 31
ゾビラックス眼軟膏3%（3%1g） 66
ソフラチュール貼付剤10cm（（10．8mg）10cm×10cm1枚） 197
ゾフルーザ錠20mg（20mg1錠） 360
ゾラデックス1．8mgデポ（1．8mg1筒（ゴセレリンとして）） 180
ゾラデックスLA10．8mgデポ（10．8mg1筒（ゴセレリンとして）） 180
ソランタール錠100mg（100mg1錠） 24
ソリフェナシンコハク酸塩OD錠5mg「サワイ」（5mg1錠） 192
ソル・コーテフ注射用100mg（100mg1瓶（溶解液付）） 162
ソルダクトン静注用200mg（200mg1管） 87
ソルデム1輸液（200mL1袋） 228
ソルデム1輸液（500mL1袋） 228
ソルデム3A輸液（200mL1袋） 229
ソルデム3A輸液（500mL1袋） 228
ゾルピデム酒石酸塩OD錠5mg「トーワ」（5mg1錠） 4
ソル・メドロール静注用125mg（125mg1瓶（溶解液付）） 163
ソル・メドロール静注用500mg（500mg1瓶（溶解液付）） 164
ソルラクト輸液（500mL1袋） 229
ゾレドロン酸点滴静注4mg／5mL「サンド」（4mg5mL1瓶） 293

た

ダイアコート軟膏0．05%（0．05%1g） 201
ダイアップ坐剤10（10mg1個） 4
ダイアップ坐剤6（6mg1個） 4
ダイアニールーN PD−4 1．5腹膜透析液（1．5L1袋（排液用バッグ付）） 251
ダイアニールーN PD−4 1．5腹膜透析液（1L1袋（排液用バッグ付）） 250
ダイアニールーN PD−4 1．5腹膜透析液（2．5L1袋） 250
ダイアニールーN PD−4 1．5腹膜透析液（2L1袋（排液用バッグ付）） 251
ダイアニールーN PD−4 1．5腹膜透析液（2L1袋） 249
ダイアニールーN PD−4 1．5腹膜透析液（5L1袋） 252
ダイアニールーN PD−4 2．5腹膜透析液（1．5L1袋（排液用バッグ付）） 254
ダイアニールーN PD−4 2．5腹膜透析液（1L1袋（排液用バッグ付）） 253
ダイアニールーN PD−4 2．5腹膜透析液（2．5L1袋） 253
ダイアニールーN PD−4 2．5腹膜透析液（2L1袋（排液用バッグ付）） 254
ダイアニールーN PD−4 2．5腹膜透析液（2L1袋） 252
ダイアニールーN PD−4 2．5腹膜透析液（5L1袋） 255
ダイアモックス錠250mg（250mg1錠） 88
ダイアモックス注射用500mg（500mg1瓶） 88
ダイフェン配合錠（1錠） 365
タクロリムスカプセル1mg「VTRS」（1mg1カプセル） 294
タケキャブ錠10mg（10mg1錠） 137
タゾピペ配合静注用4．5「明治」（（4．5g）1瓶） 341
タダラフィル錠5mgZA「日医工」（5mg1錠） 192
ダットスキャン静注（167MBq1筒） 319
タナドーパ顆粒75%（75%1g） 74
タマガワヨードホルムガーゼ 196
タミフルドライシロップ3%（3%1g） 360
タムスロシン塩酸塩OD錠0．1mg「トーワ」（0．1mg1錠） 192
タモキシフェン錠20mg「DSEP」（20mg1錠） 316
ダラシンTゲル1%（1%1g） 197
ダラシンカプセル150mg（150mg1カプセル） 330
タリージェOD錠5mg（5mg1錠） 48
タリビッド眼軟膏0．3%（0．3%1g） 66
タリビッド耳科用液0．3%（3mg1mL） 71
タルチレリンOD錠5mg「サワイ」（5mg1錠） 49
ダルテパリンNa静注4000単位／16mLシリンジ「ニプロ」（4000低分子ヘパリン国際単位16mL1筒） 235
ダルベポエチン アルファ注120μgシリンジ「KKF」（120μg0．5mL1筒） 295
ダルベポエチン アルファ注180μgシリンジ「KKF」（180μg0．5mL1筒） 296
ダルベポエチン アルファ注20μgシリンジ「KKF」（20μg0．5mL1筒） 297
ダルベポエチン アルファ注30μgシリンジ「KKF」（30μg0．5mL1筒） 298
ダルベポエチン アルファ注40μgシリンジ「KKF」（40μg0．5mL1筒） 299
ダルベポエチン アルファ注5μgシリンジ「KKF」（5μg0．5mL1筒） 300
ダルベポエチン アルファ注60μgシリンジ「KKF」（60μg0．5mL1筒） 301
炭カル錠500mg「旭化成」（500mg1錠） 141
炭酸水素ナトリウム錠500mg「VTRS」（500mg1錠） 142
炭酸ランタンOD錠250mg「フソー」（250mg1錠） 118
炭酸リチウム錠100mg「大正」（100mg1錠） 41
単シロップ「ケンエー」（10mL） 383
ダントリウムカプセル25mg（25mg1カプセル） 60
ダントリウム静注用20mg（20mg1瓶） 60
タンニン酸アルブミン「ニッコー」（1g） 134
タンボコール錠50mg（50mg1錠） 83

ち

チアプリド錠25mg「サワイ」（25mg1錠） 49
チアミン塩化物塩酸塩注50mg「フソー」（50mg1管） 211
チウラジール錠50mg（50mg1錠） 155
チザニジン錠1mg「日医工」（1mg1錠） 63
注射用HCG5000単位「F」（5000単位1管） 154
注射用水（100mL1瓶） 382
注射用水（20mL1管） 382
注射用ナファタット10（10mg1瓶） 302
注射用フサン10（10mg1瓶） 302

注射用フサン50（50mg1瓶） 303
注射用ペニシリンGカリウム100万単位（100万単位1瓶） 330
チラーヂンS散0．01%（0．01%1g） 155
チラーヂンS錠25μg（25μg1錠） 156
チラーヂンS錠50μg（50μg1錠） 156
沈降破傷風トキソイド「生研」（0．5mL1瓶） 372

つ

ツムラ牛車腎気丸エキス顆粒（医療用）（1g） 325
ツムラ五苓散エキス顆粒（医療用）（1g） 325
ツムラ柴朴湯エキス顆粒（医療用）（1g） 326
ツムラ十全大補湯エキス顆粒（医療用）（1g） 326
ツムラ真武湯エキス顆粒（医療用）（1g） 326
ツムラ大黄甘草湯エキス顆粒（医療用）（1g） 326
ツムラ大建中湯エキス顆粒（医療用）（1g） 326
ツムラ麦門冬湯エキス顆粒（医療用）（1g） 327
ツムラ半夏厚朴湯エキス顆粒（医療用）（1g） 327
ツムラ半夏瀉心湯エキス顆粒（医療用）（1g） 327
ツムラ補中益気湯エキス顆粒（医療用）（1g） 327
ツムラ抑肝散エキス顆粒（医療用）（1g） 327
ツムラ六君子湯エキス顆粒（医療用）（1g） 328
ツロブテロールテープ2mg「サワイ」（2mg1枚） 128

て

テイコプラニン点滴静注用200mg「日医工」（200mg1瓶） 330
ディスコビスク1．0眼粘弾剤（1mL1筒） 67
低分子デキストランL注（500mL1袋） 229
デエビゴ錠2．5mg（2．5mg1錠） 49
テオフィリンドライシロップ20%「タカタ」（20%1g） 128
テオロング錠100mg（100mg1錠） 129
デカドロン錠0．5mg（0．5mg1錠） 164
デキサート注射液1．65mg（1．65mg0．5mL1管） 165
デキサート注射液3．3mg（3．3mg1mL1管） 167
デキサメタゾン口腔用軟膏0．1%「NK」（0．1%1g） 148
デキストロメトルファン臭化水素酸塩錠15mg「トーワ」（15mg1錠） 123
デクスメデトミジン静注液200μg／50mLシリンジ「ニプロ」（200μg50mL1筒） 5
テクスメテン軟膏0．1%（0．1%1g） 201
テグレトール錠200mg（200mg1錠） 11
デスモプレシン点鼻スプレー2．5μg「フェリング」（125μg1瓶） 154
テタガムP筋注シリンジ250（250国際単位1mL1筒） 376
デトキソール静注液2g（10%20mL1瓶） 273
テネリアOD錠20mg（20mg1錠） 281
デノタスチュアブル配合錠（1錠） 215
デポ・メドロール水懸注20mg（20mg1mL1瓶） 169
デュタステリドカプセル0．5mgAV「サワイ」（0．5mg1カプセル） 181
デュピクセント皮下注300mgペン（300mg2mL1キット） 322
デュロキセチン錠20mg「ケミファ」（20mg1錠） 42
テラ・コートリル軟膏（1g） 201
テラムロ配合錠AP「DSEP」（1錠） 96
テリパラチドBS皮下注キット600μg「モチダ」（600μg1キット） 156
テリルジー100エリプタ30吸入用（30吸入1キット） 131
テリルジー200エリプタ30吸入用（30吸入1キット） 131
テルビナフィン塩酸塩クリーム1%「VTRS」（1%1g） 206
テルミサルタン錠40mg「サワイ」（40mg1錠） 97
テルモ糖注10%（10%500mL1袋） 219
デルモベートクリーム0．05%（0．05%1g） 201
デルモベートスカルプローション0．05%（0．05%1g） 202
デルモベート軟膏0．05%（0．05%1g） 202
テレミンソフト坐薬10mg（10mg1個） 144
点眼・点鼻用リンデロンA液（1mL） 67

と

トアラセット配合錠「ケミファ」（1錠） 24
ドキサゾシン錠2mg「トーワ」（2mg1錠） 97
ドグマチール錠50mg（50mg1錠） 138
トコフェロールニコチン酸エステルカプセル100mg「トーワ」（100mg1カプセル） 118
ドネペジル塩酸塩OD錠3mg「NP」（3mg1錠） 50
ドネペジル塩酸塩OD錠5mg「NP」（5mg1錠） 50
ドパコール配合錠L100（1錠） 32
ドパストン静注50mg（0．25%20mL1管） 32
トフィソパム錠50mg「トーワ」（50mg1錠） 5
ドプスOD錠100mg（100mg1錠） 33
ドブタミン持続静注150mgシリンジ「テルモ」（0．3%50mL1筒） 75
ドプラム注射液400mg（20mg1mLバイアル） 121
トラセミドOD錠8mg「TE」（8mg1錠） 89
トラゼンタ錠5mg（5mg1錠） 281
トラゾドン塩酸塩錠25mg「アメル」（25mg1錠） 42
トラネキサム酸注1000mg／10mL「日新」（10%10mL1管） 231
トラベルミン配合錠（1錠） 72
トラマールOD錠25mg（25mg1錠） 25
トランサミンカプセル250mg（250mg1カプセル） 232
トランサミンシロップ5%（5%1mL） 232
トリクロリールシロップ10%（10%1mL） 5
トリクロルメチアジド錠1mg「トーワ」（1mg1錠） 89
トリプタノール錠10（10mg1錠） 43
トリメブチンマレイン酸塩錠100mg「トーワ」（100mg1錠） 148
トルバプタンOD錠7．5mg「オーツカ」（7．5mg1錠） 89
トルリシティ皮下注0．75mgアテオス（0．75mg0．5mL1キット） 181
トレシーバ注 フレックスタッチ（300単位1キット） 182
トレーランG液75g（225mL1瓶） 395
ドロレプタン注射液25mg（2．5mg1mLバイアル） 1
トロンビン液モチダ ソフトボトル1万（10000単位10mL1キット） 232
ドンペリドン錠10mg「サワイ」（10mg1錠） 148

な

ナイキサン錠100mg（100mg1錠） 25
ナウゼリン坐剤10（10mg1個） 149
ナウゼリン坐剤30（30mg1個） 149
ナウゼリンドライシロップ1%（1%1g） 149
ナトリックス錠1（1mg1錠） 98
ナフトピジルOD錠25mg「日医工」（25mg1錠） 193
ナルフラフィン塩酸塩OD錠2．5μg「サワイ」（2．5μg1錠） 51
ナロキソン塩酸塩静注0．2mg「AFP」（0．2mg1mL1管） 122

に

ニカルジピン塩酸塩注射液25mg「日医工」（25mg25mL1管） 98
ニカルジピン塩酸塩注射液2mg「サワイ」（2mg2mL1管） 98
ニコペリック腹膜透析液（1．5L1袋（排液用バッグ付）） 256
ニコペリック腹膜透析液（1．5L1袋） 255
ニコペリック腹膜透析液（2L1袋（排液用バッグ付）） 256
ニコペリック腹膜透析液（2L1袋） 256
ニコランジル錠5mg「トーワ」（5mg1錠） 104
ニコランジル点滴静注用48mg「サワイ」（48mg1瓶） 104
ニコランマート錠5mg（5mg1錠） 105
ニセルゴリン錠5mg「トーワ」（5mg1錠） 118
ニゾラールクリーム2%（2%1g） 206
日点アトロピン点眼液1%（1%5mL1瓶） 67
ニトプロ持続静注液6mg（6mg2mL1管） 99
ニトログリセリン静注5mg／10mL「TE」（5mg10mL1管） 105
ニトログリセリンテープ27mg「トーワ」（(27mg)9．6平方cm1枚） 105
ニトログリセリン点滴静注50mg／100mL「TE」（50mg100mL1袋） 106
ニトロペン舌下錠0．3mg（0．3mg1錠） 106
ニフェジピンCR錠20mg「日医工」（20mg1錠） 106
ニフェジピンL錠20mg「トーワ」（20mg1錠） 107
ニフレック配合内用剤（1袋） 397
乳酸カルシウム水和物「ケンエー」原末（10g） 215
乳糖水和物「ホエイ」（10g） 382
ニュープロパッチ4．5mg（4．5mg1枚） 33
ニュープロパッチ9mg（9mg1枚） 34
ニューモバックスNPシリンジ（0．5mL1筒） 369

ね

ネオアミユー輸液（200mL1袋） 223
ネオザロカインパスタ（1g） 209
ネオシネジンコーワ5%点眼液（5%1mL） 67
ネオシネジンコーワ注1mg（0．1%1mL1管） 101
ネオステリングリーンうがい液0．2%（1mL） 209
ネオフィリン注250mg（2．5%10mL1管） 75
ネオラミン・スリービー液（静注用）（10mL1管） 214

の

ノイロトロピン錠4単位（4単位1錠） 26
ノウリアスト錠20mg（20mg1錠） 34
ノバミン錠5mg（5mg1錠） 43
ノボラピッド30ミックス注 フレックスペン（300単位1キット） 182
ノボラピッド注 フレックスペン（300単位1キット） 182
ノボリンN注フレックスペン（300単位1キット） 183
ノボリンR注フレックスペン（300単位1キット） 183
ノルアドリナリン注1mg（0．1%1mL1管） 170

は

バイアスピリン錠100mg（100mg1錠） 244
ハイカリックRF輸液（500mL1袋） 219
ハイドレアカプセル500mg（500mg1カプセル） 314
パキロビッドパック300（1シート） 361
パキロビッドパック600（1シート） 361
白色ワセリン＊（日興製薬）（10g） 382
バクトラミン注（5mL1管） 379
バクトロバン鼻腔用軟膏2%（2%1g） 331
バクニュバンス水性懸濁注シリンジ（0．5mL1筒） 370
パパベリン塩酸塩注40mg「日医工」（4%1mL1管） 63
ハーフジゴキシンKY錠0．125（0．125mg1錠） 75
ハプトグロビン静注2000単位「JB」（2000単位100mL1瓶） 376
ハベカシン注射液200mg（200mg4mL1管） 331
バラシクロビル顆粒50%「SPKK」（50%1g） 361
バラシクロビル錠500mg「SPKK」（500mg1錠） 362
バリコンミール（99%10g） 390
バリトゲンHD（98．6%10g） 390
バリトップP（94．6%10g） 390
パルタンM錠0．125mg（0．125mg1錠） 190
パルタンM注0．2mg（0．02%1mL1管） 190
バルプロ酸ナトリウム徐放錠A200mg「トーワ」（200mg1錠） 11
バルプロ酸ナトリウムシロップ5%「DSP」（5%1mL） 12
パルミコート吸入液0．5mg（0．5mg2mL1管） 132
パルモディアXR錠0．2mg（0．2mg1錠） 109
パロキセチンOD錠10mg「トーワ」（10mg1錠） 43
バロス発泡顆粒－S（1g） 391
パロノセトロン静注0．75mg／5mL「タイホウ」（0．75mg5mL1瓶） 150
バンコマイシン塩酸塩散0．5g「明治」（500mg1瓶） 332
バンコマイシン塩酸塩点滴静注用0．5g「明治」（0．5g1瓶） 332
バンコマイシン塩酸塩点滴静注用1g「明治」（1g1瓶） 332
パントシン細粒50%（50%1g） 212
パントール注射液500mg（500mg1管） 212
ハンプ注射用1000（1000μg1瓶） 107

ひ

ヒアルロン酸Na関節注25mgシリンジ「NP」（1%2．5mL1筒） 303
ヒアルロン酸Na点眼液0．1%「センジュ」（0．1%5mL1瓶） 67

ピヴラッツ点滴静注液150mg（150mg6mL1瓶） 118
ビーエスエスプラス500眼灌流液0．0184%（0．46%20mL1瓶(希釈液付)） 68
ピオグリタゾンOD錠15mg「NS」（15mg1錠） 282
ビオフェルミンR散（1g） 135
ビオフェルミン錠剤（1錠） 135
ビカネイト輸液（500mL1袋） 229
光糖液5%（5%100mL1瓶） 219
光糖液5%（5%500mL1瓶） 219
ビカルタミド錠80mg「NK」（80mg1錠） 317
ビクシリン注射用2g（2g1瓶） 342
ビクトーザ皮下注18mg（18mg3mL1キット） 183
ピコスルファートナトリウム内用液0．75%「JG」（0．75%1mL） 144
ビザミル静注（185MBq1瓶） 319
ビジパーク270注100mL（54．97%100mL1瓶） 391
ビ・シフロール錠0．125mg（0．125mg1錠） 34
ビソノテープ4mg（4mg1枚） 99
ビソプロロールフマル酸塩錠0．625mg「トーワ」（0．625mg1錠） 83
ビソプロロールフマル酸塩錠5mg「日医工」（5mg1錠） 84
ビタジェクト注キット（2筒1キット） 214
ピタバスタチンCa・OD錠2mg「サワイ」（2mg1錠） 110
ピドキサール錠20mg（20mg1錠） 212
ピトレシン注射液20（20単位1管） 154
ビーフリード輸液（500mL1キット） 224
ビムパット錠100mg（100mg1錠） 12
ビムパット点滴静注100mg（100mg10mL1瓶） 13
ピモベンダン錠1．25mg「TE」（1．25mg1錠） 76
ヒューマリンR注100単位／mL（100単位1mLバイアル） 184
ヒューマログミックス50注ミリオペン（300単位1キット） 184
ピラマイド原末（1g） 355
ピルシカイニド塩酸塩カプセル25mg「DSEP」（25mg1カプセル） 84
ビルダグリプチン錠50mg「JG」（50mg1錠） 282
ヒルトニン0．5mg注射液（0．5mg1管） 393
ヒルナミン錠(25mg)（25mg1錠） 44
ビレーズトリエアロスフィア56吸入（56吸入1キット） 132
ピレノキシン懸濁性点眼液0．005%「参天」（0．005%5mL1瓶） 68
ビンゼレックス皮下注160mgオートインジェクター（160mg1mL1キット） 304

ふ

ファスジル塩酸塩点滴静注液30mg「KCC」（30．8mg2mL1管） 119
ファモチジンOD錠20mg「トーワ」（20mg1錠） 138
ファモチジン静注20mg「日新」（20mg20mL1管） 139
ファンギゾンシロップ100mg／mL（100mg1mL） 350
フィコンパ錠2mg（2mg1錠） 13
フィコンパ点滴静注用2mg（2mg1瓶） 14
フィジオ140輸液（500mL1袋） 229
フィジオ35輸液（500mL1袋） 230
フィブラストスプレー500（500μg1瓶(溶解液付)） 208
フィルグラスチムBS注75μgシリンジ「F」（75μg0．3mL1筒） 245
フェキソフェナジン塩酸塩錠60mg「SANIK」（60mg1錠） 322
フェジン静注40mg（40mg2mL1管） 217
フェソロデックス筋注250mg（250mg5mL1筒） 317
フェノバール注射液100mg（10%1mL1管） 6
フェノバルビタール散10%「ホエイ」（10%1g） 6
フェブキソスタット錠10mg「DSEP」（10mg1錠） 275
フェロ・グラデュメット錠105mg（105mg1錠） 217
フェロベリン配合錠（1錠） 135
フェンタニルクエン酸塩1日用テープ1mg「第一三共」（1mg1枚） 404
フェンタニルクエン酸塩1日用テープ2mg「第一三共」（2mg1枚） 404
フェンタニルクエン酸塩1日用テープ6mg「第一三共」（6mg1枚） 405
フェンタニル注射液0．1mg「テルモ」（0．005%2mL1管） 406
フェントステープ0．5mg（0．5mg1枚） 407
フォシーガ錠10mg（10mg1錠） 283
フォシーガ錠5mg（5mg1錠） 283
フォゼベル錠20mg（20mg1錠） 119
フォゼベル錠5mg（5mg1錠） 119
フォリアミン錠（5mg1錠） 212
フォリアミン注射液（15mg1管） 213
ブコラム口腔用液2．5mg（2．5mg0．5mL1筒） 15
フシジンレオ軟膏2%（20mg1g） 198
ブスコパン錠10mg（10mg1錠） 63
ブスコパン注20mg（2%1mL1管） 64
フスタゾール糖衣錠10mg（10mg1錠） 123
ブデホル吸入粉末剤60吸入「JG」（60吸入1キット） 132
ブドウ糖（10g） 220
ブドウ糖注50%シリンジ「テルモ」（50%20mL1筒） 220
プラザキサカプセル110mg（110mg1カプセル） 235
プラザキサカプセル75mg（75mg1カプセル） 236
フラジール膣錠250mg（250mg1錠） 189
フラジール内服錠250mg（250mg1錠） 379
プラノバール配合錠（1錠） 177
プラバスタチンNa錠10mg「サワイ」（10mg1錠） 110
プラリア皮下注60mgシリンジ（60mg1mL1筒） 304
プランルカストDS10%「タカタ」（10%1g） 322
プリズバインド静注液2．5g（2．5g50mL1瓶） 246
プリビナ液0．05%（0．05%1mL） 71
プリビナ点眼液0．5mg／mL（0．05%1mL） 68
ブリモニジン酒石酸塩点眼液0．1%「SEC」（0．1%1mL） 68
プリモボラン錠5mg（5mg1錠） 157
ブリンゾラミド懸濁性点眼液1%「サンド」（1%1mL） 68
プリンペラン錠5（5mg1錠） 150
フルオレサイト静注500mg（10%5mL1瓶） 395
フルオロメトロン点眼液0．1%「センジュ」（0．1%1mL） 69

フルコナゾールカプセル100mg「サワイ」（100mg1カプセル） 365
フルコナゾール静注液200mg「サワイ」（0．2%100mL1瓶） 366
フルチカゾンフランカルボン酸エステル点鼻液27．5μg「武田テバ」56噴霧用（3mg6g1キット） 72
フルティフォーム125エアゾール120吸入用（120吸入1瓶） 133
フルニトラゼパム錠1mg「JG」（1mg1錠） 7
フルマゼニル静注0．5mgシリンジ「テルモ」（0．5mg5mL1筒） 122
フルマリンキット静注用1g（1g1キット（生理食塩液100mL付）） 343
プレガバリンOD錠25mg「VTRS」（25mg1錠） 51
プレガバリンOD錠75mg「VTRS」（75mg1錠） 52
プレドニゾロン錠1mg（旭化成）（1mg1錠） 170
プレドニン眼軟膏（0．25%1g） 69
プレドニン錠5mg（5mg1錠） 171
プレベナー20水性懸濁注（0．5mL1筒） 370
プロスタール錠25（25mg1錠） 176
プロスタンディン軟膏0．003%（0．003%1g） 208
フロセミド錠20mg「JG」（20mg1錠） 90
プロタノールL注0．2mg（0．02%1mL1管） 76
プロタミン硫酸塩静注100mg「モチダ」（1%10mLバイアル） 232
ブロチゾラムOD錠0．25mg「サワイ」（0．25mg1錠） 7
プロトピック軟膏0．1%（0．1%1g） 208
プロナーゼMS（20000単位） 398
プロハンス静注シリンジ13mL（13mL1筒） 395
プロピレングリコール＊（丸石）（10mL） 382
プロポフォール静注1%20mL「マルイシ」（200mg20mL1管） 1
プロポフォール静注1%50mL「マルイシ」（500mg50mL1瓶） 2
ブロムフェナクNa点眼液0．1%「日新」（0．1%1mL） 69
ブロムヘキシン塩酸塩吸入液0．2%「タイヨー」（0．2%1mL） 125
ブロムヘキシン塩酸塩錠4mg「サワイ」（4mg1錠） 125
ブロメライン軟膏5万単位／g＊（ジェイドルフ）（50000単位1g） 278
フロリードゲル経口用2%（2%1g） 366

へ

ベオーバ錠50mg（50mg1錠） 193
ペグフィルグラスチムBS皮下注3．6mg「ニプロ」（3．6mg0．36mL1筒） 246
ベクルリー点滴静注用100mg（100mg1瓶） 363
ベサコリン散5%（5%1g） 62
ベタニス錠25mg（25mg1錠） 193
ベタヒスチンメシル酸塩錠6mg「トーワ」（6mg1錠） 72
ベタメタゾン錠0．5mg「サワイ」（0．5mg1錠） 172
ペチジン塩酸塩注射液35mg「タケダ」（3．5%1mL1管） 408
ベニジピン塩酸塩錠4mg「トーワ」（4mg1錠） 107
ベネット錠2．5mg（2．5mg1錠） 305
ベノキシール点眼液0．4%（0．4%1mL） 69
ヘパリンCa皮下注2万単位／0．8mL「サワイ」（20000単位1瓶） 236
ヘパリンNa注5千単位／5mL「モチダ」（5000単位5mL1瓶） 237
ヘパリンNaロック用100単位／mLシリンジ「オーツカ」5mL（500単位5mL1筒） 237
ヘパリン類似物質外用泡状スプレー0．3%「日本臓器」（1g） 237
ヘパリン類似物質油性クリーム0．3%「ニプロ」（1g） 238
ヘブスブリンIH静注1000単位（1000単位5mL1瓶） 376
ヘブスブリン筋注用200単位（200単位1mL1瓶（溶解液付）） 377
ヘプタバックスーII水性懸濁注シリンジ0．25mL（0．25mL1筒） 371
ヘプタバックスーII水性懸濁注シリンジ0．5mL（0．5mL1筒） 371
ベラプロストNa錠20μg「サワイ」（20μg1錠） 247
ペリアクチンシロップ0．04%（0．04%10mL） 319
ベリキューボ錠2．5mg（2．5mg1錠） 120
ペリセート360NL腹膜透析液（1．5L1袋（排液用バッグ付）） 257
ペリセート360NL腹膜透析液（1L1袋（排液用バッグ付）） 257
ペリセート360NL腹膜透析液（2L1袋（排液用バッグ付）） 258
ペリセート360NL腹膜透析液（2L1袋） 258
ペリセート360NL腹膜透析液（3L1袋） 258
ペリセート400NL腹膜透析液（1．5L1袋（排液用バッグ付）） 259
ペリセート400NL腹膜透析液（1L1袋（排液用バッグ付）） 259
ペリセート400NL腹膜透析液（2L1袋（排液用バッグ付）） 260
ペリセート400NL腹膜透析液（2L1袋） 260
ペリセート400NL腹膜透析液（3L1袋） 260
ベリチーム配合顆粒（1g） 140
ベルソムラ錠15mg（15mg1錠） 53
ヘルベッサー錠30（30mg1錠） 108
ペロスピロン塩酸塩錠4mg「アメル」（4mg1錠） 44
ペンタサ錠250mg（250mg1錠） 150

ほ

ボアラクリーム0．12%（0．12%1g） 202
ボアラ軟膏0．12%（0．12%1g） 203
ホクナリンテープ0．5mg（0．5mg1枚） 129
ホクナリンテープ1mg（1mg1枚） 129
ボグリボースOD錠0．2mg「トーワ」（0．2mg1錠） 284
ホスアプレピタント点滴静注用150mg「NK」（150mg1瓶） 151
ボースデル内用液10（10mg250mL1袋） 396
ホストイン静注750mg（750mg10mL1瓶） 15
ホスホマイシンナトリウム静注用2g「日医工」（2g1瓶） 343
ホスミシン錠500（500mg1錠） 343
ホスミシンドライシロップ400（400mg1g） 344
ボスミン外用液0．1%（0．1%1mL） 172
ボスミン注1mg（0．1%1mL1管） 173
ホスリボン配合顆粒（100mg1包（リンとして）） 217
ポビドンヨードガーグル液7%「明治」（7%1mL） 131
ポビドンヨード消毒液10%「ケンエー」（10%10mL） 196

ポプスカイン0．25%注バッグ250mg／100mL（250mg100mL1袋） 57
ポラプレジンクOD錠75mg「サワイ」（75mg1錠） 139
ポララミン注5mg（0．5%1mL1管） 320
ボリコナゾール錠200mg「DSEP」（200mg1錠） 351
ボリコナゾール錠50mg「DSEP」（50mg1錠） 351
ポリスチレンスルホン酸Ca経口ゼリー20%分包25g「三和」（20%25g1個） 120
ホリゾン注射液10mg（10mg1管） 7
ポリドカスクレロール1%注2mL（1%2mL1管） 233
ポリフル細粒83．3%（83．3%1g） 151
ボルベン輸液6%（6%500mL1袋） 230

ま

マイザー軟膏0．05%（0．05%1g） 203
マイトマイシン注用10mg（10mg1瓶） 316
マキサカルシトール軟膏25μg／g「タカタ」（0．0025%1g） 209
マキュエイド眼注用40mg（40mg1瓶） 69
マグコロール内用液13．6%分包250mL（13．6%250mL1包） 391
マグセント注100mL（100mL1瓶） 194
マスーレッド錠25mg（25mg1錠） 305
マドパー配合錠L100（1錠） 35
マンニットールS注射液（300mL1袋） 220

み

ミオコールスプレー0．3mg（0．65%7．2g1缶） 108
ミカファンギンNa点滴静注用75mg「明治」（75mg1瓶） 352
ミグリトールOD錠50mg「サワイ」（50mg1錠） 284
ミダゾラム注射液10mg「NIG」（10mg2mL1管） 8
ミッドペリックL135腹膜透析液（1．5L1袋（排液用バッグ付）） 261
ミッドペリックL135腹膜透析液（1L1袋（排液用バッグ付）） 261
ミッドペリックL135腹膜透析液（2．5L1袋） 263
ミッドペリックL135腹膜透析液（2L1袋（排液用バッグ付）） 262
ミッドペリックL135腹膜透析液（2L1袋） 262
ミッドペリックL250腹膜透析液（1．5L1袋（排液用バッグ付）） 264
ミッドペリックL250腹膜透析液（1L1袋（排液用バッグ付）） 263
ミッドペリックL250腹膜透析液（2．5L1袋） 265
ミッドペリックL250腹膜透析液（2L1袋（排液用バッグ付）） 265
ミッドペリックL250腹膜透析液（2L1袋） 264
ミドリンM点眼液0．4%（0．4%1mL） 70
ミドリンP点眼液（1mL） 70
ミネブロ錠2．5mg（2．5mg1錠） 100
ミノサイクリン塩酸塩錠100mg「サワイ」（100mg1錠） 348
ミノサイクリン塩酸塩点滴静注用100mg「サワイ」（100mg1瓶） 349
ミヤBM細粒（1g） 135
ミラクリッド注射液5万単位（50000単位1mL1管） 306
ミルセラ注シリンジ150μg（150μg0．3mL1筒） 306
ミルセラ注シリンジ250μg（250μg0．3mL1筒） 307
ミルセラ注シリンジ75μg（75μg0．3mL1筒） 307
ミルタザピン錠15mg「ニプロ」（15mg1錠） 45
ミールビック（一人分1瓶（溶解液付）） 377
ミルリノン注10mg「タカタ」（10mg10mL1管） 76
ミレーナ52mg（1個） 189
ミンクリア内用散布液0．8%（20mL1筒） 398

む

ムコサールドライシロップ1．5%（1．5%1g） 125
ムコフィリン吸入液20%（17．62%2mL1包） 125

め

メイラックス錠2mg（2mg1錠） 8
メイロン静注7%（7%250mL1袋） 273
メキシチールカプセル50mg（50mg1カプセル） 85
メキシレチン塩酸塩錠100mg「杏林」（100mg1錠） 85
メコバラミン錠500μg「SW」（0．5mg1錠） 213
メサペイン錠10mg（10mg1錠） 408
メサペイン錠5mg（5mg1錠） 409
メジコン配合シロップ（10mL） 126
メチコバール注射液500μg（0．5mg1管） 213
滅菌精製水＊（ヤクハン）（10mL） 382
メトクロプラミド注10mg「NIG」（0．5%2mL1管） 151
メトトレキサート錠2mg「タナベ」（2mg1錠） 308
メトプロロール酒石酸塩錠40mg「トーワ」（40mg1錠） 100
メトホルミン塩酸塩錠250mgMT「DSPB」（250mg1錠） 284
メトリジン錠2mg（2mg1錠） 102
メプチンエアー10μg吸入100回（0．0143%5mL1キット） 130
メプチン吸入液ユニット0．3mL（0．01%0．3mL1個） 130
メプチンシロップ5μg／mL（0．0005%1mL） 130
メプチンドライシロップ0．005%（0．005%1g） 130
メマンチン塩酸塩錠20mg「DSEP」（20mg1錠） 53
メマンチン塩酸塩錠5mg「DSEP」（5mg1錠） 53
メルカゾール錠5mg（5mg1錠） 157
メロペネム点滴静注用0．5g「明治」（500mg1瓶） 344

も

モサプリドクエン酸塩錠5mg「日医工」（5mg1錠） 152
モリプロンF輸液（200mL1袋） 224
モルヒネ塩酸塩注射液10mg「第一三共」（1%1mL1管） 402
モルヒネ塩酸塩注射液50mg「第一三共」（1%5mL1管） 403
モンテルカスト錠10mg「KM」（10mg1錠） 323

や

薬用炭「日医工」（1g） 135

ゆ

ユーエフティ配合カプセルT100（100mg1カプセル（テガフール相当量）） 315
ユニタルク胸膜腔内注入用懸濁剤4g（4g1瓶） 317
ユリス錠1mg（1mg1錠） 276

ユーロジン2mg錠（2mg1錠） 8

よ

ヨウ化カリウム丸50mg「日医工」（50mg1丸） 217

ら

ライゾデグ配合注 フレックスタッチ（300単位1キット） 185
ラキソベロン錠2．5mg（2．5mg1錠） 144
ラクティオンパップ70mg（10cm×14cm1枚） 203
ラグノスNF経口ゼリー分包12g（54．167%12g1包） 308
ラゲブリオカプセル200mg（200mg1カプセル） 363
ラコールNF配合経腸用液（10mL） 224
ラコールNF配合経腸用半固形剤（10g） 225
ラシックス注20mg（20mg1管） 90
ラタノプロスト点眼液0．005%「ニットー」（0．005%1mL） 70
ラックビー微粒N（1%1g） 135
ラピアクタ点滴静注液バイアル150mg（150mg15mL1瓶） 363
ラビピュール筋注用（1瓶（溶解液付）） 371
ラボナール注射用0．3g（300mg1管） 2
ラメルテオン錠8mg「トーワ」（8mg1錠） 54
ラロキシフェン塩酸塩錠60mg「トーワ」（60mg1錠） 309
ランソプラゾールOD錠15mg「ケミファ」（15mg1錠） 139
ランタスXR注ソロスター（450単位1キット） 185
ランマーク皮下注120mg（120mg1．7mL1瓶） 309

り

リアルダ錠1200mg（1200mg1錠） 152
リオナ錠250mg（250mg1錠） 120
リクシアナOD錠15mg（15mg1錠） 238
リクシアナOD錠60mg（60mg1錠） 239
リクラスト点滴静注液5mg（5mg100mL1袋） 309
リグロス歯科用液キット1200μg（1200μg1キット） 209
リグロス歯科用液キット600μg（600μg1キット） 210
リコモジュリン点滴静注用12800（12800単位1瓶） 239
リスペリドンOD錠1mg「トーワ」（1mg1錠） 45
リスペリドン内用液1mg／mL「トーワ」（0．1%1mL） 46
リーゼ錠5mg（5mg1錠） 47
リゾビスト注（44．6mg1．6mL1瓶） 396
リドカイン塩酸塩注0．5%「日新」（0．5%5mL1管） 58
リドカイン塩酸塩注1%「日新」（1%10mL1管） 58
リドカイン塩酸塩ビスカス2%「日新」（2%1mL） 59
リドカイン静注用2%シリンジ「テルモ」（2%5mL1筒） 85
リドカインテープ18mg「YP」（（18mg）30．5mm×50．0mm1枚） 59
リドカイン点滴静注液1%「タカタ」（1%200mL1袋） 59
リドカインポンプスプレー8%「日新」（1g） 60
リトドリン塩酸塩点滴静注液50mg「あすか」（1%5mL1管） 194
リーバクト配合顆粒（4．15g1包） 225
リバクレオン顆粒300mg分包（300mg1包） 140
リバスチグミンテープ18mg「久光」（18mg1枚） 54
リバスチグミンテープ4．5mg「久光」（4．5mg1枚） 54
リバスチグミンテープ9mg「久光」（9mg1枚） 55
リバゼブ配合錠HD（1錠） 111
リバーロキサバン錠10mg「バイエル」（10mg1錠） 240
リバーロキサバン錠15mg「バイエル」（15mg1錠） 240
リピオドール480注10mL（10mL1管） 392
リファンピシンカプセル150mg「サンド」（150mg1カプセル） 349
リフキシマ錠200mg（200mg1錠） 353
リボトリール細粒0．1%（0．1%1g） 16
リボトリール錠1mg（1mg1錠） 16
リマチル錠100mg（100mg1錠） 320
リマプロストアルファデクス錠5μg「SN」（5μg1錠） 247
硫酸Mg補正液1mEq／mL（0．5モル20mL1管） 64
リュープリンPRO注射用キット22．5mg（22．5mg1筒） 185
リュープリンSR注射用キット11．25mg（11．25mg1筒） 186
リュープロレリン酢酸塩注射用キット3．75mg「あすか」（3．75mg1筒） 187
リン酸Na補正液0．5mmol／mL（0．5モル20mL1管） 230
リンデロン－VGローション（1mL） 203
リンデロン－Vクリーム0．12%（0．12%1g） 204
リンデロンシロップ0．01%（0．01%1mL） 173
リンデロン注2mg（0．4%）（2mg1管） 174
リンデロン点眼・点耳・点鼻液0．1%（0．1%1mL） 70
リンパック透析剤TA1（2袋1組） 248

る

ルムジェブ注ミリオペン（300単位1キット） 188
ルリクールVG軟膏0．12%（1g） 204
ルリコナゾールクリーム1%「イワキ」（1%1g） 207
ルリコナゾール軟膏1%「イワキ」（1%1g） 207

れ

レギチーン注射液5mg（0．5%1mL1瓶） 396
レギュニール LCa 1．5腹膜透析液（1．5L1袋（排液用バッグ付）） 266
レギュニール LCa 1．5腹膜透析液（1L1袋（排液用バッグ付）） 266
レギュニール LCa 1．5腹膜透析液（2．5L1袋） 267
レギュニール LCa 1．5腹膜透析液（2L1袋（排液用バッグ付）） 267
レギュニール LCa 1．5腹膜透析液（5L1袋） 268
レギュニール LCa 2．5腹膜透析液（1．5L1袋（排液用バッグ付）） 269
レギュニール LCa 2．5腹膜透析液（1L1袋（排液用バッグ付）） 268
レギュニール LCa 2．5腹膜透析液（2．5L1袋） 270
レギュニール LCa 2．5腹膜透析液（2L1袋（排液用バッグ付）） 269
レギュニール LCa 2．5腹膜透析液（5L1袋） 270
レギュニール LCa 4．25腹膜透析液（2L1袋） 271
レスタミンコーワクリーム1%（1%10g） 204
レトロゾール錠2．5mg「サワイ」（2．5mg1錠） 318
レナジェル錠250mg（250mg1錠） 120

レパグリニド錠0．25mg「サワイ」（0．25mg1錠） 285
レパグリニド錠0．5mg「サワイ」（0．5mg1錠） 285
レパーサ皮下注140mgペン（140mg1mL1キット） 111
レバミピド錠100mg「オーツカ」（100mg1錠） 140
レペタン坐剤0．4mg（0．4mg1個） 26
レペタン注0．2mg（0．2mg1管） 26
レベチラセタム錠500mg「トーワ」（500mg1錠） 17
レベチラセタム点滴静注500mg「日新」（500mg5mL1管） 17
レベミル注 フレックスペン（300単位1キット） 188
レボカルニチンFF静注1000mgシリンジ「ニプロ」（1000mg5mL1筒） 310
レボフロキサシン錠500mg「DSEP」（500mg1錠（レボフロキサシンとして）） 355
レボフロキサシン点眼液1．5%「日点」（1．5%1mL） 71
レボフロキサシン点滴静注500mg／20mL「DSEP」（500mg20mL1瓶） 356
レボホリナート点滴静注用100mg「NK」（100mg1瓶） 273
レボホリナート点滴静注用25mg「NK」（25mg1瓶） 274
レミフェンタニル静注用2mg「第一三共」（2mg1瓶） 410
レルベア100エリプタ30吸入用（30吸入1キット） 133
レルベア200エリプタ30吸入用（30吸入1キット） 134

ろ

ロイコボリン注3mg（0．3%1mL1管） 274
ロキソニンゲル1%（1%1g） 204
ロキソプロフェンNa錠60mg「トーワ」（60mg1錠） 27
ロキソプロフェンNaテープ100mg「ユートク」（10cm×14cm1枚） 205
ロキソプロフェンナトリウムパップ100mg「ケミファ」（10cm×14cm1枚） 205
ロクロニウム臭化物静注液50mg／5．0mL「マルイシ」（50mg5mL1瓶） 60
ロコイドクリーム0．1%（0．1%1g） 205
ロコイド軟膏0．1%（0．1%1g） 205
ロサルタンK錠50mg「日新」（50mg1錠） 100
ロスバスタチン錠2．5mg「DSEP」（2．5mg1錠） 112
ロゼバラミン筋注用25mg（25mg1瓶） 55
ロタリックス内用液（1．5mL1本） 372
ロナプリーブ点滴静注セット1332（1セット） 364
ロピオン静注50mg（50mg5mL1管） 27
ロピニロール徐放錠2mg「トーワ」（2mg1錠） 35
ロペミンカプセル1mg（1mg1カプセル） 135
ロペミン小児用細粒0．05%（0．05%1g） 136
ロルファン注射液1mg（0．1%1mL1管） 122

わ

ワゴスチグミン注0．5mg（0．05%1mL1管） 62
ワソラン錠40mg（40mg1錠） 108
ワソラン静注5mg（0．25%2mL1管） 86
ワーファリン錠1mg（1mg1錠） 241
ワントラム錠100mg（100mg1錠） 28

薬 効 分 類 別 目 次

1 神経系及び感覚器官用医薬品

1 神経系及び感覚器官用医薬品 1
1．1 中枢神経系用薬 1
1．1．1 全身麻酔剤 1
1．1．2 催眠鎮静剤，抗不安剤 3
1．1．3 抗てんかん剤 9
1．1．4 解熱鎮痛消炎剤 18
1．1．6 抗パーキンソン剤 28
1．1．7 精神神経用剤 36
1．1．8 総合感冒剤 47
1．1．9 その他の中枢神経系用薬 47
1．2 末梢神経系用薬 56
1．2．1 局所麻酔剤 56
1．2．2 骨格筋弛緩剤 60
1．2．3 自律神経剤 61
1．2．4 鎮けい剤 62
1．3 感覚器官用薬 64
1．3．1 眼科用剤 64
1．3．2 耳鼻科用剤 71
1．3．3 鎮暈剤 72

2 個々の器官系用医薬品

2 個々の器官系用医薬品 74
2．1 循環器官用薬 74
2．1．1 強心剤 74
2．1．2 不整脈用剤 77
2．1．3 利尿剤 86
2．1．4 血圧降下剤 91
2．1．6 血管収縮剤 101
2．1．7 血管拡張剤 102
2．1．8 高脂血症用剤 108
2．1．9 その他の循環器官用薬 112
2．2 呼吸器官用薬 121
2．2．1 呼吸促進剤 121
2．2．2 鎮咳剤 123
2．2．3 去たん剤 123
2．2．4 鎮咳去たん剤 125
2．2．5 気管支拡張剤 126
2．2．6 含嗽剤 131
2．2．9 その他の呼吸器官用薬 131
2．3 消化器官用薬 134
2．3．1 止しゃ剤，整腸剤 134
2．3．2 消化性潰瘍用剤 136
2．3．3 健胃消化剤 140
2．3．4 制酸剤 141
2．3．5 下剤，浣腸剤 142
2．3．6 利胆剤 144
2．3．9 その他の消化器官用薬 145
2．4 ホルモン剤（抗ホルモン剤を含む） 153
2．4．1 脳下垂体ホルモン剤 153
2．4．3 甲状腺，副甲状腺ホルモン剤 155
2．4．4 たん白同化ステロイド剤 157
2．4．5 副腎ホルモン剤 157
2．4．7 卵胞ホルモン及び黄体ホルモン剤 176
2．4．8 混合ホルモン剤 177
2．4．9 その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。） 177
2．5 泌尿生殖器官及び肛門用薬 188
2．5．2 生殖器官用剤（性病予防剤を含む。） 188
2．5．3 子宮収縮剤 190
2．5．5 痔疾用剤 190
2．5．9 その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬 191
2．6 外皮用薬 195
2．6．1 外皮用殺菌消毒剤 195
2．6．3 化膿性疾患用剤 197
2．6．4 鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤 198
2．6．5 寄生性皮ふ疾患用剤 206
2．6．6 皮ふ軟化剤（腐しょく剤を含む。） 207
2．6．9 その他の外皮用薬 207
2．7 歯科口腔用薬 209
2．7．1 歯科用局所麻酔剤 209
2．7．9 その他の歯科口腔用薬 209
2．9 その他の個々の器官系用医薬品 210
2．9．0 その他の個々の器官系用医薬品 210

3 代謝性医薬品

3 代謝性医薬品 211
3．1 ビタミン剤 211
3．1．1 ビタミンA及びD剤 211
3．1．2 ビタミンB1剤 211
3．1．3 ビタミンB剤（ビタミンB1剤を除く。） 212
3．1．4 ビタミンC剤 213
3．1．6 ビタミンK剤 213
3．1．7 混合ビタミン剤（ビタミンA・D混合製剤を除く。） 214
3．2 滋養強壮薬 215
3．2．1 カルシウム剤 215
3．2．2 無機質製剤 215
3．2．3 糖類剤 218
3．2．5 たん白アミノ酸製剤 220
3．2．9 その他の滋養強壮薬 225
3．3 血液・体液用薬 226
3．3．1 血液代用剤 226
3．3．2 止血剤 230
3．3．3 血液凝固阻止剤 234
3．3．9 その他の血液・体液用薬 241
3．4 人工透析用薬 247
3．4．1 人工腎臓透析用剤 247
3．4．2 腹膜透析用剤 248
3．9 その他の代謝性医薬品 271
3．9．1 肝臓疾患用剤 271
3．9．2 解毒剤 272

3．9．4 痛風治療剤 275
3．9．5 酵素製剤 276
3．9．6 糖尿病用剤 278
3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品 286

4 組織細胞機能用医薬品

4 組織細胞機能用医薬品 311
4．2 腫瘍用薬 311
4．2．2 代謝拮抗剤 311
4．2．3 抗腫瘍性抗生物質製剤 315
4．2．9 その他の腫瘍用薬 316
4．3 放射性医薬品 318
4．3．0 放射性医薬品 318
4．4 アレルギー用薬 319
4．4．1 抗ヒスタミン剤 319
4．4．2 刺激療法剤 320
4．4．9 その他のアレルギー用薬 320

5 生薬及び漢方処方に基づく医薬品

5 生薬及び漢方処方に基づく医薬品 324
5．2 漢方製剤 324
5．2．0 漢方製剤 324

6 病原生物に対する医薬品

6 病原生物に対する医薬品 329
6．1 抗生物質製剤 329
6．1．1 主としてグラム陽性菌に作用するもの 329
6．1．2 主としてグラム陰性菌に作用するもの 333
6．1．3 主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの 334
6．1．4 主としてグラム陽性菌，マイコプラズマに作用するもの 345
6．1．5 主としてグラム陽性・陰性菌，リケッチア，クラミジアに作用するもの 348
6．1．6 主として抗酸菌に作用するもの 349
6．1．7 主としてカビに作用するもの 350
6．1．9 その他の抗生物質製剤（複合抗生物質製剤を含む。） 353
6．2 化学療法剤 353
6．2．1 サルファ剤 353
6．2．2 抗結核剤 354
6．2．4 合成抗菌剤 355
6．2．5 抗ウイルス剤 357
6．2．9 その他の化学療法剤 364
6．3 生物学的製剤 367
6．3．1 ワクチン類 367
6．3．2 毒素及びトキソイド類 372
6．3．3 抗毒素類及び抗レプトスピラ血清類 372
6．3．4 血液製剤類 372
6．3．6 混合生物学的製剤 377
6．3．9 その他の生物学的製剤 378
6．4 寄生動物用薬 378
6．4．1 抗原虫剤 378
6．4．2 駆虫剤 380

7 治療を主目的としない医薬品

7 治療を主目的としない医薬品 382
7．1 調剤用薬 382
7．1．1 賦形剤 382
7．1．2 軟膏基剤 382
7．1．3 溶解剤 382
7．1．4 矯味，矯臭，着色剤 383
7．1．9 その他の調剤用薬 383
7．2 診断用薬（体外診断用医薬品を除く） 383
7．2．1 X線造影剤 383
7．2．2 機能検査用試薬 392
7．2．9 その他の診断用薬（体外診断用医薬品を除く。） 393
7．9 その他の治療を主目的としない医薬品 397
7．9．9 他に分類されない治療を主目的としない医薬品 397

8 麻薬

8 麻薬 399
8．1 アルカロイド系麻薬（天然麻薬） 399
8．1．1 あへんアルカロイド系麻薬 399
8．2 非アルカロイド系麻薬 404
8．2．1 合成麻薬 404

本　文

1 神経系及び感覚器官用医薬品

1 神経系及び感覚器官用医薬品

MS

両
麻 ハイリスク

【YJコード】811400491027
【薬効分類】1 神経系及び感覚器官用医薬品
【一般名】モルヒネ塩酸塩水和物
【メーカー】製)アムジェン
【区分】抗がん剤

1．1 中枢神経系用薬

1．1．1 全身麻酔剤

ドロレプタン注射液25mg（2．5mg1mLバイアル）

内 注射 流通
劇

【YJコード】1119401A1036
【薬効分類】1．1．1 全身麻酔剤
【一般名】ドロペリドール
【メーカー】製)アルフレッサファーマ 販)第一三共
【薬価】93円/1mLバイアル
【薬価収載日】2006/06/09
【標榜薬効】麻酔用神経遮断剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．フェンタニール併用による手術，検査，処置時の全身麻酔，局所麻酔の補助
2．単独投与による麻酔前投薬
【用法用量】〇フェンタニルクエン酸塩との併用
導入麻酔
成人 0．1～0．2mL／kg(ドロペリドール 0．25～0．5mg／kg)を，フェンタニル注射液0．1～0．2mL／kg(フェンタニルクエン酸塩7．85～15．7μg／kg)とともに緩徐に静注，点滴静注(ブドウ糖液等で希釈)。
局所麻酔の補助
局所麻酔剤投与10～15分後，成人 0．1mL／kg(ドロペリドール0．25mg／kg)を，フェンタニル注射液0．1mL／kg(フェンタニルクエン酸塩 7．85μg／kg)とともに緩徐に静注。
適宜増減。
〇単独麻酔前投薬
成人 0．02～0．04mL／kg(ドロペリドール 0．05～0．1mg／kg)
麻酔開始30～60分前 筋注。
適宜増減。
注意
用法・用量は感受性，全身状態，手術々式，麻酔法等によるが，フェンタニルとの併用での導入麻酔・局所麻酔，また単独での麻酔前投薬は下記の通り。
1．導入麻酔剤
アトロピン硫酸塩水和物等の麻酔前投薬に続き，本剤とフェンタニルの1回量を緩徐に静注(点滴静注が安全確実)。症例により，同時にGO，GOF等の吸入麻酔やチアミラール等の静注用全身麻酔剤の併用もあり。
2．局所麻酔補助
メピバカイン等の持続硬膜外麻酔の補助に併用。症例により，全身麻酔や気管内挿管を必要とせずに手術可能な例あり。
3．麻酔前投薬
麻酔開始30分～1時間前に1回量を筋注。投与後10～30分後には鎮静効果あり。症例により，アトロピン硫酸塩水和物の併用もあり。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．痙攣発作の既往。
3．外来患者。
4．重篤な心疾患。
5．QT延長症候群。
6．新生児，乳児，2歳以下の幼児。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．血圧降下(頻度不明)。
2．不整脈(頻度不明)，期外収縮(頻度不明)，QT延長(頻度不明)，心室頻拍(Torsades de pointes含む)(頻度不明)，心停止(頻度不明)。
3．ショック(頻度不明)。
4．間代性痙攣(頻度不明)。
5．悪性症候群(頻度不明)(体温上昇，筋硬直，不安，混乱，昏睡，CK上昇等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
過敏症 ― ― 掻痒，紅斑，蕁麻疹
呼吸器 呼吸抑制 ― ―
循環器 ― ― 起立性低血圧，頻脈，徐脈，血圧上昇
精神神経系 ― 頭痛，気分動揺，不眠 せん妄，傾眠，錐体外路症状，覚醒遅延，ふるえ，眩暈，興奮
肝臓 ― ― AST上昇，ALT上昇
その他 悪心・嘔吐，発汗，咽頭痛 喘鳴，吃逆，四肢冷感，体温降下，嗄声 喀痰排出増加，喀痰排出困難，発熱，口渇
(表終了)

プロポフォール静注1%20mL「マルイシ」（200mg20mL1管）

内 注射 流通
劇

【YJコード】1119402A1120
【薬効分類】1．1．1 全身麻酔剤
【一般名】プロポフォール
【メーカー】製)丸石製薬
【薬価】752円/1A
【薬価収載日】2019/12/13
【標榜薬効】全身麻酔・鎮静用剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．全身麻酔の導入・維持
2．集中治療の人工呼吸中の鎮静
【用法用量】全身麻酔の導入・維持
1．導入
成人 0．05mL／kg／10秒(プロポフォール 0．5mg／kg／10秒)就眠まで静注。ASAIII・IVには，より緩徐に投与。
成人 0．2～0．25mL／kg(プロポフォール 2～2．5mg／kg)で就眠。高齢者はより少量で就眠あり。就眠後は必要時に適宜追加。
2．維持
酸素又は酸素・亜酸化窒素混合ガスと併用 静注。適宜，速度調節。
成人 0．4～1mL／kg／時(プロポフォール 4～10mg／kg／時)で適切な麻酔深度が得られる。
鎮痛剤(麻薬性鎮痛剤，局所麻酔剤等)を併用。
局所麻酔剤併用ではより低用量で麻酔深度が得られる。
集中治療の人工呼吸中の鎮静
成人(高齢者含む) 0．03mL／kg／時(プロポフォール 0．3mg／kg／時) 持続静注。適宜，速度調節。
成人 0．03～0．3mL／kg／時(プロポフォール 0．3～3mg／kg／時)で適切な鎮静深度が得られる。
適宜，速度増減。必要時鎮痛剤併用。
注意
全身麻酔の導入・維持
1．維持の使用例
(表開始)
導入後時間(分) 0～10 10～20 20～30 30～
速度 1mL／kg／時(プロポフォール 10mg／kg／時) 0．8mL／kg／時(プロポフォール 8mg／kg／時) 0．6mL／kg／時(プロポフォール 6mg／kg／時) 全身状態により調節
(表終了)
集中治療の人工呼吸中の鎮静
2．持続注入で投与。急速投与しない。
3．7日まで。鎮静効果があり，7日を超えて本剤による鎮静の必要時，全身状態を慎重に観察。
使用例
(表開始)
時間(分) 0～5 5～
速度 0．03mL／kg／時 0．03～0．3mL／kg／時 (適宜増減)
(表終了)

■禁忌

【禁忌】効能共通
1．本剤・本剤の成分に過敏症の既往。
集中治療の人工呼吸中の鎮静
2．小児等。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低血圧(4．3%)。
2．アナフィラキシー(頻度不明)(血管浮腫，気管支痙攣，紅斑，低血圧)。
3．気管支痙攣(頻度不明)。
4．舌根沈下(0．1%)，一過性無呼吸(頻度不明)。
5．てんかん様体動(頻度不明)(痙攣・反弓緊張等)。
6．重篤な徐脈(頻度不明)，不全収縮(頻度不明)。
7．心室頻拍(頻度不明)，心室性期外収縮(0．1%)，左脚ブロック(頻度不明)。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

8. 肺水腫(頻度不明)。
9. 覚醒遅延(頻度不明)。
10. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇等)。
11. 重篤な悪性高熱類似症状(頻度不明)(原因不明の頻脈, 不整脈・血圧変動, 急激な体温上昇, 筋硬直, 血液の暗赤色化(チアノーゼ), 過呼吸, ソーダライムの異常加熱・急激な変色, 発汗, アシドーシス, 高カリウム血症, ミオグロビン尿等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
循環器 徐脈, ST低下
中枢神経系 振戦 頭痛
呼吸器 吃逆 咳嗽
消化器 悪心, 嘔吐, 口腔内分泌物増加 膵炎
皮膚 発赤, 紅斑
肝臓 AST上昇, ALT上昇, LDH上昇, γ－GTP上昇, ビリルビン上昇 AI－P上昇
泌尿器 変色尿(白濁, 緑尿等) 腎機能障害
精神神経系 多幸症 性欲抑制不能, せん妄
血液 白血球増加, 低アルブミン血症 低蛋白血症
注射部位 注射時疼痛(血管痛) 静脈炎・血栓症 しびれ感
その他 術後発熱 戦慄
(表終了)

プロポフォール静注1%50mL「マルイシ」(500mg50mL1瓶)

内 注射 流通
劇

【YJコード】1119402A2150
【薬効分類】1. 1. 1 全身麻酔剤
【一般名】プロポフォール
【メーカー】製)丸石製薬
【薬価】1021円/1V
【薬価収載日】2019/12/13
【標榜薬効】全身麻酔・鎮静用剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1. 全身麻酔の導入・維持
2. 集中治療の人工呼吸中の鎮静
【用法用量】全身麻酔の導入・維持
1. 導入
成人 0. 05mL／kg／10秒(プロポフォール 0. 5mg／kg／10秒)就眠まで静注。ASAⅢ・Ⅳには, より緩徐に投与。
成人 0. 2～0. 25mL／kg(プロポフォール 2～2. 5mg／kg)で就眠。高齢者はより少量で就眠あり。就眠後は必要時に適宜追加。
2. 維持
酸素又は酸素・亜酸化窒素混合ガスと併用 静注。適宜, 速度調節。
成人 0. 4～1mL／kg／時(プロポフォール 4～10mg／kg／時)で適切な麻酔深度が得られる。
鎮痛剤(麻薬性鎮痛剤, 局所麻酔剤等)を併用。
局所麻酔剤併用ではより低用量で麻酔深度が得られる。
集中治療の人工呼吸中の鎮静
成人(高齢者含む) 0. 03mL／kg／時(プロポフォール 0. 3mg／kg／時) 持続静注。適宜, 速度調節。
成人 0. 03～0. 3mL／kg／時(プロポフォール 0. 3～3mg／kg／時)で適切な鎮静深度が得られる。
適宜, 速度増減。必要時鎮痛剤併用。
注意
全身麻酔の導入・維持
1. 維持の使用例
(表開始)
導入後時間(分) 0～10 10～20 20～30 30～
速度 1mL／kg／時(プロポフォール 10mg／kg／時) 0. 8mL／kg／時(プロポフォール 8mg／kg／時) 0. 6mL／kg／時(プロポフォール 6mg／kg／時) 全身状態により調節
(表終了)
集中治療の人工呼吸中の鎮静
2. 持続注入で投与。急速投与しない。
3. 7日まで。鎮静効果があり, 7日を超えて本剤による鎮静の必要時, 全身状態を慎重に観察。
使用例
(表開始)
時間(分) 0～5 5～
速度 0. 03mL／kg／時 0. 03～0. 3mL／kg／時 (適宜増減)
(表終了)

■禁忌

【禁忌】効能共通
1. 本剤・本剤の成分に過敏症の既往。
集中治療の人工呼吸中の鎮静
2. 小児等。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 低血圧(4. 3%)。
2. アナフィラキシー(頻度不明)(血管浮腫, 気管支痙攣, 紅斑, 低血圧)。
3. 気管支痙攣(頻度不明)。
4. 舌根沈下(0. 1%), 一過性無呼吸(頻度不明)。
5. てんかん様体動(頻度不明)(痙攣・反弓緊張等)。
6. 重篤な徐脈(頻度不明), 不全収縮(頻度不明)。
7. 心室頻拍(頻度不明), 心室性期外収縮(0. 1%), 左脚ブロック(頻度不明)。
8. 肺水腫(頻度不明)。
9. 覚醒遅延(頻度不明)。
10. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇等)。
11. 重篤な悪性高熱類似症状(頻度不明)(原因不明の頻脈, 不整脈・血圧変動, 急激な体温上昇, 筋硬直, 血液の暗赤色化(チアノーゼ), 過呼吸, ソーダライムの異常加熱・急激な変色, 発汗, アシドーシス, 高カリウム血症, ミオグロビン尿等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
循環器 徐脈, ST低下
中枢神経系 振戦 頭痛
呼吸器 吃逆 咳嗽
消化器 悪心, 嘔吐, 口腔内分泌物増加 膵炎
皮膚 発赤, 紅斑
肝臓 AST上昇, ALT上昇, LDH上昇, γ－GTP上昇, ビリルビン上昇 AI－P上昇
泌尿器 変色尿(白濁, 緑尿等) 腎機能障害
精神神経系 多幸症 性欲抑制不能, せん妄
血液 白血球増加, 低アルブミン血症 低蛋白血症
注射部位 注射時疼痛(血管痛) 静脈炎・血栓症 しびれ感
その他 術後発熱 戦慄
(表終了)

ラボナール注射用0. 3g (300mg1管)

内 注射 流通
劇

【YJコード】1115400X1027
【薬効分類】1. 1. 1 全身麻酔剤
【一般名】チオペンタールナトリウム
【メーカー】製)ニプロESファーマ 販)田辺三菱製薬 販)ニプロ
【薬価】750円/1A
【標榜薬効】全身麻酔剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1. 全身麻酔
2. 全身麻酔の導入
3. 局所麻酔剤・吸入麻酔剤との併用
4. 精神神経科の電撃療法の麻酔
5. 局所麻酔剤中毒・破傷風・子癇等に伴う痙攣
6. 精神神経科の診断(麻酔インタビュー)
【用法用量】静注
・濃度 2. 5%水溶液(5%溶液は静脈炎の可能性)。
・投与量・投与法 調製したチオペンタール水溶液を静注。用量や静注速度に個人差があるが, 基準は下記。
1. 全身麻酔の導入
最初 2～4mL(2. 5%溶液 50～100mg) 注入。患者の状態をみながら応答しなくなるまで追加(応答がなくなった時の量が就眠量)。就眠量の半量ないし同量を追加後, 他の麻酔法に移行。気管内挿管時は筋弛緩剤を併用。
2. 短時間麻酔
(1). 患者とコンタクトを保ちながら 最初 2～3mL(2. 5%溶液 50～75mg) 10～15秒位で注入後30秒間観察。必要時2～3mLを同速度で注入(応答がなくなった時の量が就眠量)。術前, さらに2～3mLを同速度で分割注入すれば10～15分程度の麻酔が得られる。
(2). 短時間で手術が終了しない時, 注射針を静脈中に刺したまま呼吸, 脈拍, 血圧, 角膜反射, 瞳孔対光反射等に注意しながら1～4mL(2. 5%溶液 25～100mg)を分割注入(1回最大1g)。手術に要する麻酔深度を保つ。
3. 精神神経科の電撃療法時の麻酔
12mL(2. 5%溶液 300mg) 約25～35秒で注入。必要な麻酔深度に達したことを確認後, 直ちに電撃療法を行う。
4. 局所麻酔剤, 吸入麻酔剤と併用
2～4mL(2. 5%溶液 50～100mg) 間欠的に静注。点滴投与の場合, 静脈内点滴麻酔法に準ずる。
5. 痙攣時
患者の全身状態を観察しながら 2～8mL(2. 5%溶液 50～200mg)を痙攣が止まるまで徐々に注入。
6. 精神神経科の診断(麻酔インタビュー)
約1mL／分 3～4mL注入。2～10分で呼びかければ覚醒し, 質問に答えるようになればインタビュー実施。以後は約1mL／分で追加。
直腸内注入
・濃度 10%水溶液。
・投与量 20～40mg／kg(10%溶液 0. 2～0. 4mL／kg)を基準。
・注入法 注射器の先に導尿用カテーテルをつけ肛門より直腸に挿入し, 注腸。注入後15分で麻酔に入り, 約1時間持続。
筋注

1 神経系及び感覚器官用医薬品

・濃度 2～2．5%(7歳以下 2%)水溶液(2．5%以上で組織壊死あり)。
・筋注部位 筋肉の多い部位を選んで注射。
・投与量 20mg／kg(2%溶液 1mL／kg)を基準。
・投与法 全量を2～3等分し，5分ごとに必要時追加。注入後5～15分で麻酔に入り，約40～50分持続。
注意
筋注は，乳幼小児で静脈が確保できない等の場合に使用経験あり。壊死，局所障害あり(動物)，恩恵が危険性よりも重要視される場合にのみ適用。

■禁忌
【禁忌】1．ショック・大出血による循環不全，重症心不全。
2．急性間欠性ポルフィリン症。
3．アジソン病。
4．重症気管支喘息。
5．バルビツール酸系薬物に過敏症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック(0．1%未満)，アナフィラキシー(頻度不明)(蕁麻疹，呼吸困難，チアノーゼ，血圧低下等)。
2．呼吸停止，呼吸抑制(頻度不明)(舌根沈下，咽・喉頭痙攣，気管支痙攣，咳嗽(発作)，しゃっくり)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
循環器(注1) 不整脈，頻脈 血圧低下
過敏症(注1) 皮疹
その他(注1) 術中運動不安，術中興奮，筋緊張，唾液・気道分泌増加
精神神経系(注2) 悪心，嘔吐，頭痛，眩暈，流涙，ふるえ，痙攣，興奮，複視，尿閉，倦怠感，不快感 顔面潮紅，しびれ感
(表終了)
(注1)麻酔中。
(注2)覚醒時。

1．1．2 催眠鎮静剤，抗不安剤

エスゾピクロン錠1mg「サワイ」(1mg1錠)
両 内服 後発 流通

【YJコード】1129010F1117
【薬効分類】1．1．2 催眠鎮静剤，抗不安剤
【一般名】エスゾピクロン
【先発品】ルネスタ錠1mg
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】7.7円/1T
【薬価収載日】2021/06/18
【標榜薬効】不眠症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】不眠症
【用法用量】成人 1回2mg 就寝前 内服。
高齢者 1回1mg 就寝前 内服。
適宜増減，成人 1回3mg，高齢者 1回2mgまで。
注意
1．通常量を超える増量時は慎重に行い，症状の改善に伴い減量。
2．就寝直前に服用。睡眠途中で起床して活動する時は服用しない。
3．高度の肝機能障害・腎機能障害 1回1mg。増量時，1回2mgまで。
4．食事と同時又は食直後の服用は避ける。食後投与で，血中濃度低下の可能性。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分・ゾピクロンに過敏症の既往。
2．重症筋無力症。
3．急性閉塞隅角緑内障。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(蕁麻疹，血管浮腫等)。
2．依存性(頻度不明)(薬物依存)，離脱症状(不安，異常な夢，悪心，胃不調，反跳性不眠等)。
3．呼吸抑制(頻度不明)，炭酸ガスナルコーシス。
4．肝機能障害(1%未満)(AST，ALT，AI－P，γ－GTPの上昇等)，黄疸(頻度不明)。
5．精神症状，意識障害(悪夢(異常な夢)，意識レベルの低下(各0．3%)，興奮(激越)，錯乱(錯乱状態)，幻覚，攻撃性，せん妄，異常行動(各頻度不明)等)。
6．一過性前向性健忘，もうろう状態，睡眠随伴症状(夢遊症状等)(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 3%以上 1～3%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 傾眠 頭痛，浮動性眩暈 不安，注意力障害，異常な夢，うつ病 神経過敏，記憶障害，錯感覚，思考異常，感情不安定，錯乱状態
過敏症 発疹，掻痒症
消化器 味覚異常 口渇 口腔内不快感，口内乾燥，下痢，便秘，悪心
消化不良，嘔吐
肝臓 AST，ALT，AI－P，γ－GTP，ビリルビンの上昇
その他 倦怠感，湿疹，尿中ブドウ糖陽性，尿中血陽性 リビドー減退，筋肉痛，片頭痛，背部痛，高血圧，末梢性浮腫
(表終了)

コンスタン0．4mg錠(0．4mg1錠)
両 内服 流通
精3

【YJコード】1124023F1029
【薬効分類】1．1．2 催眠鎮静剤，抗不安剤
【一般名】アルプラゾラム
【メーカー】製)武田テバ薬品 販)武田薬品工業
【薬価】6.1円/1T
【標榜薬効】マイナートランキライザー

■効能効果・用法用量
【効能効果】心身症(胃・十二指腸潰瘍，過敏性腸症候群，自律神経失調症)の身体症候・不安・緊張・抑うつ・睡眠障害
【用法用量】成人 1日1．2mg 1日3回 分割 内服。適宜増減。
増量時 1日最高2．4mgまで漸増 1日3～4回 分割 内服。
高齢者 1回0．4mgから開始 1日1～2回。増量時 1日1．2mgまで。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．急性閉塞隅角緑内障。
3．重症筋無力症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．依存性(薬物依存)，離脱症状(各頻度不明)(痙攣発作，せん妄，振戦，不眠，不安，幻覚，妄想等)。
2．刺激興奮(頻度不明)，錯乱(0．1%未満)。
3．呼吸抑制(頻度不明)。
4．アナフィラキシー(頻度不明)(掻痒，蕁麻疹，顔面潮紅・腫脹，息切れ等)。
5．肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 眠気 眩暈・ふらつき，頭痛，不眠，眼症状(霧視，複視)，構音障害，焦燥感，神経過敏 健忘，振戦 尿失禁
肝臓 AST，ALTの上昇 γ－GTPの上昇
循環器 動悸 血圧低下
消化器 口渇，悪心，嘔吐，食欲不振，腹痛，腹部不快感，便秘，下痢
過敏症 発疹，掻痒 光線過敏症
骨格筋 脱力感・倦怠感，筋弛緩等の筋緊張低下症状
その他 発汗
(表終了)

ジアゼパム錠2「トーワ」(2mg1錠)
両 内服 後発 流通
精3

【YJコード】1124017F2054
【薬効分類】1．1．2 催眠鎮静剤，抗不安剤
【一般名】ジアゼパム
【先発品】2mgセルシン錠，ホリゾン錠2mg
【メーカー】製)東和薬品 販)和薬
【薬価】5.9円/1T
【標榜薬効】精神安定剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．神経症の不安・緊張・抑うつ
2．うつ病の不安・緊張
3．心身症(消化器疾患，循環器疾患，自律神経失調症，更年期障害，腰痛症，頸肩腕症候群)の身体症候・不安・緊張・抑うつ
4．下記の筋緊張の軽減
脳脊髄疾患に伴う筋痙攣・疼痛
5．麻酔前投薬
【用法用量】成人 1回2～5mg 1日2～4回 内服(外来 1日15mg以内)。
小児 下記量 1日1～3回 分割 内服。
3歳以下 1日1～5mg。
4～12歳 1日2～10mg。
筋痙攣 成人 1回2～10mg 1日3～4回 内服。
適宜増減。
麻酔前投薬 成人 1回5～10mg 就寝前又は術前 内服。
適宜増減。

1　神経系及び感覚器官用医薬品

■禁忌
【禁忌】1. 急性閉塞隅角緑内障。
2. 重症筋無力症。
3. リトナビル(HIVプロテアーゼ阻害剤), ニルマトレルビル・リトナビルの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 依存性(薬物依存), 離脱症状(各頻度不明)(痙攣発作, せん妄, 振戦, 不眠, 不安, 幻覚, 妄想等)。
2. 刺激興奮, 錯乱(各頻度不明)。
3. 呼吸抑制(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
精神神経系 眠気, ふらつき, 眩暈, 歩行失調, 頭痛, 失禁, 言語障害, 振戦, 霧視, 複視, 多幸症
肝臓 黄疸
血液 顆粒球減少, 白血球減少
循環器 頻脈, 血圧低下
消化器 悪心, 嘔吐, 食欲不振, 便秘, 口渇
過敏症 発疹
その他 倦怠感, 脱力感, 浮腫
(表終了)

ゾルピデム酒石酸塩OD錠5mg「トーワ」(5mg1錠)

両　内服　後発　流通
精3

【YJコード】1129009F3060
【薬効分類】1. 1. 2　催眠鎮静剤, 抗不安剤
【一般名】ゾルピデム酒石酸塩
【メーカー】製)東和薬品
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2013/12/13
【標榜薬効】入眠剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】不眠症(統合失調症, 躁うつ病に伴う不眠症除く)
注意
不眠症の原疾患を確定後投与。統合失調症, 躁うつ病に伴う不眠症には有効性なし。
【用法用量】成人　1回5～10mg　就寝直前　内服。高齢者　1回5mgから開始。適宜増減, 1日10mgまで。
注意
製剤共通
1. もうろう状態, 睡眠随伴症状(夢遊症状等)が用量依存的にあらわれるので, 少量(1回5mg)から開始。増量時は10mgまでとし, 症状の改善に伴い減量。
2. 就寝直前に服用。健忘の報告があるので, 薬効消失前に活動を開始する可能性がある時は服用しない。
3. 高齢者 少量(1回5mg)から開始, 1回10mgまで。
OD錠
4. 口腔内で崩壊するが, 口腔粘膜から吸収されないため, 唾液又は水で飲み込む。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 重篤な肝障害。
3. 重症筋無力症。
4. 急性閉塞隅角緑内障。
5. 本剤で睡眠随伴症状(夢遊症状等)の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 依存性(薬物依存(頻度不明)), 離脱症状(0. 1～5%未満)(反跳性不眠, いらいら感等)。
2. 精神症状(せん妄(頻度不明), 錯乱(0. 1～5%未満), 幻覚, 興奮, 脱抑制(各0. 1%未満), 意識レベルの低下(頻度不明)等), 意識障害。
3. 一過性前向性健忘(0. 1～5%未満), もうろう状態(頻度不明), 睡眠随伴症状(夢遊症状等)(頻度不明), 死亡含む重篤な自傷・他傷行為, 事故等。
4. 呼吸抑制(頻度不明), 炭酸ガスナルコーシス。
5. 肝機能障害(AST, ALT, γ－GTP, AI－Pの上昇等), 黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
精神神経系 ふらつき, 眠気, 頭痛, 残眠感, 頭重感, 眩暈, 不安, 悪夢, 気分高揚 錯視 しびれ感, 振戦
血液 白血球増多, 白血球減少
肝臓 ALT上昇, γ－GTP上昇, AST上昇, LDH上昇
腎臓 蛋白尿
消化器 悪心, 嘔吐, 食欲不振, 腹痛 下痢 口の錯感覚, 食欲亢進
循環器 動悸
過敏症 発疹, 掻痒感
骨格筋 倦怠感, 疲労, 下肢脱力感　筋痙攣
眼 複視　視力障害, 霧視
その他 口渇, 不快感　味覚異常, 転倒
(表終了)

ダイアップ坐剤10(10mg1個)

両　外用　流通
精3　ハイリスク

【YJコード】1124701J3025
【薬効分類】1. 1. 2　催眠鎮静剤, 抗不安剤
【一般名】ジアゼパム
【メーカー】製)高田製薬　販)アサヒグループ食品
【薬価】66.1円/1個
【薬価収載日】1992/08/28
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】小児用抗けいれん剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】小児 熱性痙攣, てんかんの痙攣発作の改善
【用法用量】小児　1回0. 4～0. 5mg／kg　1日1～2回　直腸内挿入。
適宜増減, 1日1mg／kgまで。

■禁忌
【禁忌】1. 急性閉塞隅角緑内障。
2. 重症筋無力症。
3. 低出生体重児・新生児。
4. リトナビル(HIVプロテアーゼ阻害剤), ニルマトレルビル・リトナビルの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 依存性(頻度不明)(薬物依存), 離脱症状(痙攣発作, せん妄, 振戦, 不眠, 不安, 幻覚, 妄想等)。
2. 刺激興奮, 錯乱等(頻度不明)。
3. 呼吸抑制(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
精神神経系 眠気, ふらつき 歩行失調, 頭痛, 言語障害, 興奮, 振戦 眩暈, 失禁, 霧視, 複視, 多幸症
肝臓　黄疸
呼吸器　喘鳴, 気道分泌過多
血液　白血球減少症 顆粒球減少症
循環器　頻脈, 血圧低下
消化器　悪心, 嘔吐, 食欲不振, 下痢, 流涎 便秘, 口渇
過敏症　発疹
その他　脱力感, 四肢冷感, 頻尿 倦怠感, 浮腫, 低体温
(表終了)

ダイアップ坐剤6(6mg1個)

両　外用　流通
精3　ハイリスク

【YJコード】1124701J2029
【薬効分類】1. 1. 2　催眠鎮静剤, 抗不安剤
【一般名】ジアゼパム
【メーカー】製)高田製薬　販)アサヒグループ食品
【薬価】57.3円/1個
【薬価収載日】1992/08/28
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】小児用抗けいれん剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】小児 熱性痙攣, てんかんの痙攣発作の改善
【用法用量】小児　1回0. 4～0. 5mg／kg　1日1～2回　直腸内挿入。
適宜増減, 1日1mg／kgまで。

■禁忌
【禁忌】1. 急性閉塞隅角緑内障。
2. 重症筋無力症。
3. 低出生体重児・新生児。
4. リトナビル(HIVプロテアーゼ阻害剤), ニルマトレルビル・リトナビルの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 依存性(頻度不明)(薬物依存), 離脱症状(痙攣発作, せん妄, 振戦, 不眠, 不安, 幻覚, 妄想等)。
2. 刺激興奮, 錯乱等(頻度不明)。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

3. 呼吸抑制(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
精神神経系 眠気, ふらつき 歩行失調, 頭痛, 言語障害, 興奮, 振戦 眩暈, 失禁, 霧視, 複視, 多幸症
肝臓 黄疸
呼吸器 喘鳴, 気道分泌過多
血液 白血球減少症 顆粒球減少症
循環器 頻脈, 血圧低下
消化器 悪心, 嘔吐, 食欲不振, 下痢, 流涎 便秘, 口渇
過敏症 発疹
その他 脱力感, 四肢冷感, 頻尿 倦怠感, 浮腫, 低体温
(表終了)

デクスメデトミジン静注液200μg／50mLシリンジ「ニプロ」(200μg50mL1筒)

内 注射 後発 流通
劇

【YJコード】1129400G1049
【薬効分類】1. 1. 2 催眠鎮静剤, 抗不安剤
【一般名】デクスメデトミジン塩酸塩
【先発品】プレセデックス静注液200μg／50mLシリンジ「ファイザー」
【メーカー】製)ニプロ
【薬価】1943円/1筒
【薬価収載日】2018/12/14
【標榜薬効】α2作動性鎮静剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】集中治療の人工呼吸中・離脱後の鎮静
局所麻酔下の非挿管での手術・処置時の鎮静
注意
局所麻酔下の非挿管での手術・処置時の鎮静
全身麻酔に移行する意識下気管支ファイバー挿管に対する有効性・安全性は未確立。
【用法用量】集中治療の人工呼吸中・離脱後の鎮静
成人 6μg／kg／時 10分間 持続静注(初期負荷投与)。続いて至適鎮静レベルが得られる様, 維持量 0. 2～0. 7μg／kg／時で持続静注(維持投与)。維持投与から開始もできる。
6歳以上の小児 0. 2μg／kg／時 持続静注, 至適鎮静レベルが得られる様, 0. 2～1μg／kg／時で持続静注。
修正在胎(在胎週数＋出生後週数)45週以上6歳未満の小児 0. 2μg／kg／時 持続静注, 至適鎮静レベルが得られる様, 0. 2～1. 4μg／kg／時で持続静注。
投与速度を適宜減速。
局所麻酔下の非挿管での手術・処置時の鎮静
成人 6μg／kg／時 10分間 持続静注(初期負荷投与)。続いて至適鎮静レベルが得られる様, 維持量 0. 2～0. 7μg／kg／時で持続静注(維持投与)。投与速度を適宜減速。
注意
効能共通
1. 循環動態が安定し, 循環動態, 呼吸等に継続的な監視体制が整った状況で投与開始。
2. 成人には初期負荷投与中に一過性の血圧上昇の発現時, 減速等を考慮。末梢血管収縮作用により一過性血圧上昇の可能性。
3. 成人には鎮静の維持開始速度は0. 4μg／kg／時を目安とし, 初期負荷から維持への移行を慎重に行う。維持速度は0. 7μg／kg／時まで。臨床試験で, 0. 7μg／kg／時を超えて投与時に呼吸器系, 精神神経系, 心血管系の有害事象の発現率増加の報告あり(外国)。
集中治療の人工呼吸中・離脱後の鎮静
4. 小児に投与速度を上げる時, 上昇幅0. 1μg／kg／時あたり3～4分又はそれ以上の時間で緩徐に調節。
5. 小児に初期負荷投与を行わない。臨床試験で, 初期負荷投与時に, 高血圧の発現率増加の報告あり(外国)。
6. 人工呼吸中, 離脱過程及び離脱後を通じて投与可能だが, 持続投与期間が成人は120時間(5日間), 小児は24時間(1日間)を超える使用経験は少ないので, それを超えて鎮静の必要時は, 全身状態を慎重に観察。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 低血圧(22. 9%)。
2. 高血圧(10. 2%)。
3. 徐脈(13. 5%)。
4. 心室細動(0. 1%)。
5. 心停止(0. 3%), 洞停止(頻度不明)。
6. 低酸素症(2. 6%), 一過性の無呼吸(0. 5%), 呼吸困難(0. 2%), 呼吸抑制(5. 9%), 舌根沈下(0. 4%)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0. 1～1%未満 0. 1%未満 頻度不明
精神神経系 激越 不安, 錯乱, 幻覚, 眩暈, 頭痛, 不全麻痺, せん妄, 傾眠, 落ち着きのなさ うつ病, 錯覚, 神経過敏, 意識低下, 神経痛, 神経炎, ニューロパシー, 知覚脱失, ジストニア, 言語障害, 昏迷, 痙攣
消化器 嘔吐, 嘔気(4. 4%), 口内乾燥 腹痛, 下痢 おくび
循環器 心房細動, 頻脈 末梢性虚血, 血管障害, 血圧変動, 心不全, 心電図異常, 特異的心電図異常, 高血圧悪化, 心筋梗塞, 不整脈, 心室性不整脈, 期外収縮, 上室性頻脈, 心室性頻脈 脳出血, 血管拡張, 脳血管障害, 血管痙攣, 循環不全, チアノーゼ, 心疾患, 狭心症, 心筋虚血, 心房性不整脈, AVブロック, 脚ブロック, 心ブロック, T波逆転, 上室性不整脈, 心電図QT延長, 洞性不整脈
呼吸器 徐呼吸(3. 6%) 無気肺, 気管支痙攣, 高炭酸ガス血症, 低換気症, 胸水, 気胸, 肺水腫, 呼吸不全 咳, 喀血, 肺炎, 肺うっ血, 呼吸障害
感覚器 視覚異常 複視, 光視症, 耳不快感
血液 出血, 血小板減少症, 貧血, 白血球増加症 凝固障害, DIC, 好酸球増多症
肝臓 AG比異常, 血清AST上昇, 血清ALT上昇 γ－GTP上昇, 黄疸, 肝機能異常
皮膚 多汗 紅斑性皮疹
泌尿器 乏尿 腎機能異常, 尿閉, 急性腎障害 多尿
代謝栄養 口渇 アシドーシス, 呼吸性アシドーシス, 高血糖, 高カリウム血症, 血液量過多, 血液量減少, 低蛋白血症, NPN上昇 AI－P上昇, 低カリウム血症 高ナトリウム血症
その他 背部痛, 異常高熱, 浮腫, 悪寒, 失神, 発熱, 疼痛 胸痛, 筋肉痛, 感染, 敗血症, 異常感 薬剤離脱症候群
(表終了)

トフィソパム錠50mg「トーワ」(50mg1錠)

両 内服 後発 流通

【YJコード】1124026F1340
【薬効分類】1. 1. 2 催眠鎮静剤, 抗不安剤
【一般名】トフィソパム
【先発品】グランダキシン錠50
【メーカー】製)東和薬品
【薬価】6.1円/1T
【薬価収載日】2017/12/08
【標榜薬効】自律神経調整剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の心悸亢進, 発汗, 頭痛・頭重, 倦怠感等の自律神経症状
更年期障害・卵巣欠落症状, 自律神経失調症, 頭部・頸部損傷
【用法用量】成人 1回1錠 1日3回 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】ロミタピドメシル酸塩の投与患者。

■副作用

【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 頻度不明
依存性(注) 薬物依存
精神神経系 眠気, 眩暈・ふらつき, 不眠, 頭痛 不安, 焦燥, 抑うつ症状, 手足のふるえ, しびれ等
消化器 口渇, 腹痛, 悪心・嘔吐, 便秘 食欲不振, 下痢等
過敏症 発疹 掻痒感, 発熱, 顔面浮腫等
肝臓 AST・ALTの上昇等
その他 脱力感, 動悸 倦怠感, 血圧上昇, ほてり, 乳房痛, 乳汁分泌, 月経異常
(表終了)
(注)他のベンゾジアゼピン系薬剤。

トリクロリールシロップ10%(10%1mL)

両 内服 流通
劇

【YJコード】1129004Q1031
【薬効分類】1. 1. 2 催眠鎮静剤, 抗不安剤
【一般名】トリクロホスナトリウム
【メーカー】製)アルフレッサファーマ
【薬価】10.5円/1mL
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】催眠剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇脳波・心電図検査等の睡眠
〇不眠症
【用法用量】成人 1回1～2g 就寝前又は検査前 内服。
幼・小児 適宜減量。20～80mg／kg。総量2gまで。
注意
年齢, 状態, 目的等を考慮した体重あたりの1回量は下記の通り。
体重25kg未満は, 総量として体重に80mg／kgを乗じた量まで。
(表開始)
体重(kg) トリクロホスナトリウム(mg) トリクロリールシロップ10%(mL)

1 神経系及び感覚器官用医薬品

5 100～400 1～4
10 200～800 2～8
15 300～1200 3～12
20 400～1600 4～16
25 500～2000 5～20※
30 600～2000 6～20※
（表終了）
※総量は20mLまで。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分・抱水クロラールに過敏症の既往。
2. 急性間欠性ポルフィリン症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 無呼吸，呼吸抑制（各頻度不明），心肺停止。
2. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（掻痒感，浮腫，呼吸困難，血圧低下，チアノーゼ等）。
3. 依存性（頻度不明）（薬物依存），離脱症状（痙攣発作，せん妄，振戦，不安等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，紅斑，水疱，固定薬疹，掻痒感，発熱
循環器 徐脈
肝臓 AST，ALTの上昇
血液 好酸球増多，白血球減少
消化器 悪心・嘔吐，鼓腸，胃痛
精神神経系 頭痛，眩暈，ふらつき，運動失調，興奮，抑うつ，構音障害，覚醒遅延
その他 浮腫，尿量減少，ケトン尿症
（表終了）

フェノバール注射液100mg（10%1mL1管）

内 注射 流通
劇 精3 ハイリスク

【YJコード】1125402A1054
【薬効分類】1．1．2 催眠鎮静剤，抗不安剤
【一般名】フェノバルビタール
【メーカー】製)藤永製薬 販)第一三共
【薬価】70円/1A
【薬価収載日】2006/06/09
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】鎮静・抗けいれん剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】不安緊張状態の鎮静（緊急時），てんかんの痙攣発作［強直間代発作（全般痙攣発作，大発作），焦点発作（ジャクソン型発作含む）］，自律神経発作，精神運動発作
【用法用量】成人 1回50～200mg 1日1～2回 皮下注・筋注。適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分・バルビツール酸系化合物に過敏症。
2. 急性間欠性ポルフィリン症。
3. ボリコナゾール，タダラフィル（肺高血圧症），マシテンタン，チカグレロル，アルテメテル・ルメファントリン，ダルナビル・コビシスタット，ドラビリン，イサブコナゾニウム，ミフェプリストン・ミソプロストール，リルピビリン，ニルマトレルビル・リトナビル，リルピビリン・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタビン，ビクテグラビル・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド，ダルナビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド，エルビテグラビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド，ソホスブビル・ベルパタスビル，ドルテグラビル・リルピビリン，カボテグラビルの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），皮膚粘膜眼症候群（頻度不明），紅皮症（剥脱性皮膚炎）（頻度不明）（発熱，紅斑，水疱・糜爛，掻痒感，咽頭痛，眼充血，口内炎等）。
2. 過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，リンパ節腫脹，肝機能障害等の臓器障害，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
3. 依存性（頻度不明）（薬物依存），離脱症状（不安，不眠，痙攣，悪心，幻覚，妄想，興奮，錯乱，抑うつ状態等）。
4. 局所壊死（頻度不明）。
5. 顆粒球減少（頻度不明），血小板減少（頻度不明）。
6. 肝機能障害（頻度不明）（AST，ALT，γ－GTPの上昇等）。
7. 呼吸抑制（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 猩紅熱様発疹，麻疹様発疹，中毒疹様発疹
血液 血小板減少，巨赤芽球性貧血
肝臓 AST・ALT・γ－GTPの上昇等の肝機能障害，黄疸
腎臓 蛋白尿等の腎障害
精神神経系 眠気，アステリキシス，眩暈，頭痛，せん妄，昏迷，鈍重，構音障害，知覚異常，運動失調，精神機能低下，興奮，多動
消化器 食欲不振
骨・歯 クル病，骨軟化症，歯牙の形成不全，低カルシウム血症
内分泌系 甲状腺機能検査値（血清T4値等）の異常
その他 血清葉酸値の低下，ヘマトポルフィリン尿，発熱
（表終了）

フェノバルビタール散10%「ホエイ」（10%1g）

両 内服 流通
劇 精3 ハイリスク

【YJコード】1125003B2120
【薬効分類】1．1．2 催眠鎮静剤，抗不安剤
【一般名】フェノバルビタール
【メーカー】製)ヴィアトリス・ヘルスケア 販)ヴィアトリス製薬 販)ファイザー 販)マイラン製薬
【薬価】7.5円/1g
【薬価収載日】2002/10/01
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】催眠・鎮静・抗てんかん剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇不眠症
〇不安緊張状態の鎮静
〇てんかんの痙攣発作
強直間代発作（全般痙攣発作，大発作），焦点発作（ジャクソン型発作含む）
〇自律神経発作
〇精神運動発作
【用法用量】不眠症
成人 1回フェノバルビタール30～200mg 就寝前 内服。
適宜増減。
不安緊張状態の鎮静，てんかんの痙攣発作，自律神経発作，精神運動発作
成人 1日フェノバルビタール30～200mg 1日1～4回 分割 内服。
適宜増減。
注意
不眠症
就寝直前に服用。就寝後，途中で起床して仕事等をする時は服用しない。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分・バルビツール酸系化合物に過敏症。
2. 急性間欠性ポルフィリン症。
3. ボリコナゾール，タダラフィル（肺高血圧症），マシテンタン，チカグレロル，アルテメテル・ルメファントリン，ダルナビル・コビシスタット，ドラビリン，イサブコナゾニウム，ミフェプリストン・ミソプロストール，リルピビリン，ニルマトレルビル・リトナビル，リルピビリン・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタビン，ビクテグラビル・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド，ダルナビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド，エルビテグラビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド，ソホスブビル・ベルパタスビル，ドルテグラビル・リルピビリン，カボテグラビルの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），皮膚粘膜眼症候群（頻度不明），紅皮症（剥脱性皮膚炎）（頻度不明）（発熱，紅斑，水疱・糜爛，掻痒感，咽頭痛，眼充血，口内炎等）。
2. 過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，リンパ節腫脹，肝機能障害等の臓器障害，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
3. 依存性（頻度不明）（薬物依存），離脱症状（不安，不眠，痙攣，悪心，幻覚，妄想，興奮，錯乱，抑うつ状態等）。
4. 顆粒球減少（頻度不明），血小板減少（頻度不明）。
5. 肝機能障害（頻度不明）（AST，ALT，γ－GTPの上昇等）。
6. 呼吸抑制（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 猩紅熱様発疹，麻疹様発疹，中毒疹様発疹
血液 血小板減少，巨赤芽球性貧血
肝臓 AST・ALT・γ－GTPの上昇等の肝機能障害，黄疸
腎臓 蛋白尿等の腎障害
精神神経系 眠気，アステリキシス，眩暈，頭痛，せん妄，昏迷，鈍重，構音障害，知覚異常，運動失調，精神機能低下，興奮，多動
消化器 食欲不振
骨・歯 クル病，骨軟化症，歯牙の形成不全，低カルシウム血症
内分泌系 甲状腺機能検査値（血清T4値等）の異常
その他 血清葉酸値の低下，ヘマトポルフィリン尿，発熱
（表終了）

1 神経系及び感覚器官用医薬品

フルニトラゼパム錠1mg「JG」（1mg1錠）

両 内服 後発 流通
精2

【YJコード】1124008F1075
【薬効分類】1．1．2 催眠鎮静剤，抗不安剤
【一般名】フルニトラゼパム
【先発品】サイレース錠1mg
【メーカー】製)日本ジェネリック
【薬価】5.9円/1T
【薬価収載日】2011/11/28
【標榜薬効】不眠症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．不眠症
2．麻酔前投薬
【用法用量】成人 1回0．5～2mg 就寝前又は術前 内服。
適宜増減，高齢者 1回1mgまで。
注意
不眠症 就寝直前に服用。就寝後，途中で起床して仕事等をする時は服用しない。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．急性閉塞隅角緑内障。
3．重症筋無力症。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．依存性（頻度不明）（薬物依存），離脱症状（痙攣発作，せん妄，振戦，不眠，不安，幻覚，妄想等）。
2．刺激興奮，錯乱（各頻度不明）。
3．呼吸抑制（0．1%未満），炭酸ガスナルコーシス（頻度不明）。
4．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
5．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇），急性腎障害。
6．悪性症候群（頻度不明）（高熱，意識障害，高度の筋硬直，不随意運動，発汗，頻脈等）（他の抗精神病薬等併用）。
7．意識障害（頻度不明）（うとうと状態，昏睡等）。
8．一過性前向性健忘，もうろう状態（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 0．1～1%未満 0．1%未満
精神神経系 ふらつき，眠気 頭痛，眩暈，頭がボーッとする，運動失調，頭重 失調性歩行，不快感，焦燥感，不安感，しびれ感，耳鳴り，動作緩慢，酩酊感，振戦，構音障害，記憶力の低下
肝臓 AST，ALTの上昇 AI－P，LDHの上昇
腎臓 BUNの上昇
血液 白血球減少，血小板減少，貧血
循環器 動悸，血圧低下
消化器 口渇 食欲不振，胃不快感，下痢，便秘，腹痛，嘔吐，舌のあれ，胸やけ，流涎，口の苦味
過敏症 発疹
その他 倦怠感 脱力感，尿失禁 発汗，いびき，顔面潮紅，顔面浮腫，頻尿，排尿困難
（表終了）

ブロチゾラムOD錠0．25mg「サワイ」（0．25mg1錠）

両 内服 後発 流通
精3

【YJコード】1124009F2076
【薬効分類】1．1．2 催眠鎮静剤，抗不安剤
【一般名】ブロチゾラム
【先発品】レンドルミンD錠0．25mg
【メーカー】製)メディサ新薬 販)沢井製薬
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2012/12/14
【標榜薬効】睡眠導入剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】不眠症，麻酔前投薬
【用法用量】適宜増減。成人 下記のように投与。
不眠症
1回0．25mg 就寝前 内服。
麻酔前投薬
手術前夜 1回0．25mg 就寝前 内服。
麻酔前 1回0．5mg 内服。
注意
不眠症 就寝直前に服用。就寝後，途中で起床して仕事等をする時は服用しない。

■禁忌

【禁忌】1．急性閉塞隅角緑内障。
2．重症筋無力症。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．肝機能障害（0．1%）（AST，ALT，γ－GTP上昇等），黄疸（頻度不明）。
2．一過性前向性健忘，もうろう状態（頻度不明）。
3．依存性（頻度不明）（薬物依存），離脱症状（不眠，不安等）。
4．呼吸抑制（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 残眠感・眠気，ふらつき，頭重感，眩暈，頭痛 不穏，興奮，気分不快，立ちくらみ，いらいら感 せん妄，振戦，幻覚，悪夢
肝臓 AST，ALT，γ－GTP，AI－P，LDHの上昇
循環器 軽度の脈拍数増加
消化器 嘔気，悪心，口渇，食欲不振 下痢
過敏症 発疹 紅斑
骨格筋 だるさ，倦怠感 下肢痙攣
その他 発熱，貧血 尿失禁，味覚異常
（表終了）

ホリゾン注射液10mg（10mg1管）

内 注射 流通
精3

【YJコード】1124402A2045
【薬効分類】1．1．2 催眠鎮静剤，抗不安剤
【一般名】ジアゼパム
【メーカー】製)丸石製薬 販)アステラス製薬
【薬価】83円/1A
【標榜薬効】マイナートランキライザー

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．神経症の不安・緊張・抑うつ
2．下記の不安・興奮・抑うつの軽減
麻酔前，麻酔導入時，麻酔中，術後，アルコール依存症の禁断（離脱）症状，分娩時
3．下記の痙攣の抑制
てんかん様重積状態，有機リン中毒，カーバメート中毒
【用法用量】成人 初回 2mL（ジアゼパム 10mg） 緩徐に 静注・筋注。以後必要時，3～4時間ごとに注射。太い静脈を選び，緩徐に（2分以上かけて）注射。
注意
1．低出生体重児，新生児，乳・幼・小児は，筋注しない。
2．痙攣の抑制 特に追加を繰り返す際には，呼吸器・循環器系の抑制に注意。
3．有機リン中毒，カーバメート中毒では，下記に注意。
・痙攣には，必ず呼吸状態の把握及び気道確保を行う。
・解毒作用を有さないため，アトロピン及びプラリドキシムを投与した上で本剤を投与。

■禁忌

【禁忌】1．急性閉塞隅角緑内障。
2．重症筋無力症。
3．ショック，昏睡，バイタルサインの悪い急性アルコール中毒。
4．リトナビル（HIVプロテアーゼ阻害剤），ニルマトレルビル・リトナビルの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．依存性（頻度不明）（薬物依存），離脱症状（痙攣発作，せん妄，振戦，不眠，不安，幻覚，妄想等）。
2．舌根沈下による気道閉塞，呼吸抑制（各頻度不明）。
3．刺激興奮，錯乱（各頻度不明）。
4．循環性ショック（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
精神神経系 眠気 ふらつき，眩暈，頭痛 失禁，言語障害，歩行失調，振戦，複視，霧視，眼振，失神，多幸症
肝臓 黄疸
血液 顆粒球減少，白血球減少
循環器 血圧低下 頻脈，徐脈
消化器 悪心，嘔吐，便秘，口渇 食欲不振
過敏症 発疹
その他 倦怠感，脱力感 浮腫
（表終了）

1 神経系及び感覚器官用医薬品

ミダゾラム注射液10mg「NIG」（10mg2mL1管）

内 注射 流通
精3

【YJコード】1124401A1095
【薬効分類】1．1．2 催眠鎮静剤，抗不安剤
【一般名】ミダゾラム
【メーカー】製)日医工岐阜工場 販)武田薬品工業
【薬価】115円/1A
【薬価収載日】2022/12/08
【標榜薬効】催眠鎮静剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇麻酔前投薬
〇全身麻酔の導入・維持
〇集中治療の人工呼吸中の鎮静
〇歯科・口腔外科の手術・処置時の鎮静
注意
歯科・口腔外科の手術・処置時の鎮静
目標とする鎮静レベルは，呼びかけに応答できる程度。
【用法用量】麻酔前投薬
成人 0．08～0．1mg／kg 術前30分～1時間 筋注。
修正在胎45週以上（在胎週数＋出生後週数）の小児 0．08～0．15mg／kg 術前30分～1時間 筋注。
全身麻酔の導入・維持
成人 0．15～0．3mg／kg 静注。
必要時，初回の半量ないし同量を追加。
太い静脈を選び，緩徐に（1分以上かけ）静注。
集中治療の人工呼吸中の鎮静
導入
成人 初回 0．03mg／kg 1分以上かけ 静注。
確実な鎮静導入の必要時 初回量 0．06mg／kgまで。
必要時 0．03mg／kgを5分以上あけて追加。
初回及び追加総量は0．3mg／kgまで。
修正在胎45週以上（在胎週数＋出生後週数）の小児 初回 0．05～0．2mg／kg 2～3分以上かけ 静注。
必要時 初回と同量を5分以上あけて追加。
維持
成人 0．03～0．06mg／kg／時より持続静注を開始。適宜増減。（0．03～0．18mg／kg／時の範囲推奨）。
修正在胎45週以上（在胎週数＋出生後週数）の小児 0．06～0．12mg／kg／時より持続静注を開始。適宜増減。（投与速度の増減は25%の範囲内）。
修正在胎45週未満（在胎週数＋出生後週数）の小児
修正在胎32週未満0．03mg／kg／時，修正在胎32週以上0．06mg／kg／時より持続静注を開始。適宜増減。
歯科・口腔外科の手術・処置時の鎮静
成人 初回 1～2mg 緩徐に（1～2mg／分）静注，必要時 0．5～1mg 2分以上あけて 緩徐に（1～2mg／分）追加投与。初回の目標鎮静レベルまでの，初回及び追加総量は5mgまで。いずれも適宜増減。
注意
効能共通
1．年齢，感受性，全身状態，目標鎮静レベル，併用薬等を考慮し，過度の鎮静を避けて投与量を決定。高齢者，衰弱患者，心不全患者，麻酔薬，鎮痛薬（麻薬性，非麻薬性鎮痛薬），局所麻酔薬，中枢神経系抑制薬等の併用時は減量。作用が強くあらわれやすい。
2．より高用量の必要時は過度の鎮静，呼吸器・循環器系の抑制に注意。
3．ゆっくりと用量調節しながら投与。より緩徐な静注のため，適宜希釈して使用。
集中治療の人工呼吸中の鎮静
4．導入 過度の鎮静，呼吸器・循環器系の抑制に注意。
5．導入 導入時の用法・用量が設定されている修正在胎45週以上（在胎週数＋出生後週数）の小児の初回及び追加総量は0．6mg／kgまで。
6．維持 鎮静維持には，目的鎮静度が得られる最低の速度で持続投与。
7．全身麻酔後等，状態により持続静注から開始できる。
8．長期間（100時間を超える）の投与では，状態をみながら投与量の増加，鎮痛剤併用を検討。効果減弱の報告あり。
歯科・口腔外科の手術・処置時の鎮静
9．目標鎮静レベル（呼びかけに応答できる程度）まで，鎮静状態を観察し緩徐に投与。低体重では，過度の鎮静（呼びかけに応答がなくなる程度）にならないよう投与量に注意。
10．目標鎮静レベル後の追加投与は，更なる鎮静の必要時，最少量を投与。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．急性閉塞隅角緑内障。
3．重症筋無力症。
4．HIVプロテアーゼ阻害剤（リトナビル含有薬剤，ネルフィナビル，アタザナビル，ホスアンプレナビル，ダルナビル含有薬剤），エファビレンツ，コビシスタット含有薬剤，ニルマトレルビル・リトナビルの投与患者。
5．ショック，昏睡，バイタルサインの抑制がある急性アルコール中毒。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．依存性（頻度不明）（薬物依存），離脱症状（痙攣発作，せん妄，振戦，不眠，不安，幻覚，妄想，不随意運動等）。
2．無呼吸，呼吸抑制（各頻度不明），舌根沈下（0．1～5%未満）。
3．アナフィラキシーショック（頻度不明）。
4．心停止（頻度不明）。
5．心室頻拍，心室性頻脈（各頻度不明）。
6．悪性症候群（頻度不明）（無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下），高熱の持続，意識障害，呼吸困難，循環虚脱，脱水症状，急性腎障害。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
呼吸器 しゃっくり，咳 喀痰
循環器 不整脈，血圧低下，血圧上昇，頻脈 徐脈，血圧変動，心房細動
精神神経系 覚醒遅延，悪夢，眩暈，頭痛 不穏，興奮，ふるえ，視覚異常 せん妄，不随意運動
消化器 悪心，嘔吐 嘔気
肝臓 AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇，総ビリルビン上昇 ALT低下，LDH上昇，Al－P上昇
過敏症 紅斑，蕁麻疹，発疹 掻痒感
その他 体動，発汗 顔面浮腫，体温低下，白血球数上昇 CK上昇
（表終了）

メイラックス錠2mg（2mg1錠）

両 内服 流通
精3

【YJコード】1124029F2022
【薬効分類】1．1．2 催眠鎮静剤，抗不安剤
【一般名】ロフラゼプ酸エチル
【メーカー】製)MeijiSeikaファルマ
【薬価】15.1円/1T
【標榜薬効】持続性心身安定剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．神経症の不安・緊張・抑うつ・睡眠障害
2．心身症（胃・十二指腸潰瘍，慢性胃炎，過敏性腸症候群，自律神経失調症）の不安・緊張・抑うつ・睡眠障害
【用法用量】成人 1日2mg 1日1～2回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．ベンゾジアゼピン系薬剤に過敏症の既往。
2．急性閉塞隅角緑内障。
3．重症筋無力症。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．依存性（0．1%未満）（薬物依存），離脱症状（5%未満）（痙攣発作（0．1%未満），せん妄，振戦，不眠，不安，幻覚，妄想（各0．1～5%未満）等）。
2．刺激興奮，錯乱（各頻度不明）。
3．幻覚（頻度不明）。
4．呼吸抑制（0．1%未満）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 眠気 ふらつき，眩暈，頭がボーッとする，頭痛，舌のもつれ，しびれ感，霧視 言語障害（構音障害等），味覚倒錯，いらいら感，複視，耳鳴，不眠 健忘
消化器 口渇，嘔気，便秘，食欲不振，腹痛 下痢，胃痛，口内炎，胸やけ，心窩部痛
肝臓 ALT，AST上昇 肝機能障害，γ－GTP，LDH上昇
血液 好酸球増多，白血球減少 貧血
泌尿器 頻尿，残尿感
過敏症 発疹，皮膚掻痒感
骨格筋 倦怠感，脱力感，易疲労感，筋弛緩
その他 発赤，性欲減退，ウロビリノーゲン陽性，冷感，いびき
（表終了）

ユーロジン2mg錠（2mg1錠）

両 内服 流通
精3

【YJコード】1124001F2029
【薬効分類】1．1．2 催眠鎮静剤，抗不安剤
【一般名】エスタゾラム
【メーカー】製)武田テバ薬品 販)武田薬品工業
【薬価】8.4円/1T
【標榜薬効】睡眠剤

1 神経系及び感覚器官用医薬品

■効能効果・用法用量
【効能効果】不眠症，麻酔前投薬
【用法用量】適宜増減。成人　下記のように投与。
不眠症
1回1～4mg　就寝前　内服。
麻酔前投薬
麻酔前
1回2～4mg　内服。
手術前夜
1回1～2mg　就寝前　内服。
注意
不眠症
就寝直前に服用。就寝後，途中で起床して仕事等をする時は服用しない。

■禁忌
【禁忌】1．重症筋無力症。
2．リトナビル（HIVプロテアーゼ阻害剤），ニルマトレルビル・リトナビルの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．依存性（薬物依存），離脱症状（各頻度不明）（せん妄，痙攣等）。
2．呼吸抑制（頻度不明），炭酸ガスナルコーシス。
3．奇異反応（刺激興奮，錯乱（各頻度不明））。
4．無顆粒球症（頻度不明）。
5．一過性前向性健忘，もうろう状態（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 眠気，ふらつき 眩暈感，歩行失調，頭痛，頭重，不快感，構音障害　発揚状態
肝臓　AST，ALTの上昇
腎臓　　BUNの上昇
血液　　貧血，白血球減少
循環器　動悸 血圧低下
消化器　悪心，口渇　口内苦味感
過敏症　掻痒感 発疹
骨格筋　倦怠感，脱力感等の筋緊張低下症状
その他　浮腫 覚醒遅延傾向
（表終了）

1．1．3　抗てんかん剤

アレビアチン散10%（10%1g）

両　内服　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】1132002B1060
【薬効分類】1．1．3　抗てんかん剤
【一般名】フェニトイン
【メーカー】製)住友ファーマ
【薬価】12.1円/1g
【薬価収載日】2001/11/06
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】抗てんかん剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇てんかんの痙攣発作
強直間代発作（全般痙攣発作，大発作）
焦点発作（ジャクソン型発作含む）
〇自律神経発作
〇精神運動発作
【用法用量】成人　1日フェニトイン200～300mg　1日3回　分割　毎食後　内服。小児　下記量　1日3回　分割　毎食後　内服。
適宜増減。
学童　100～300mg。
幼児　50～200mg。
乳児　20～100mg。
注意
眼振，構音障害，運動失調，眼筋麻痺等の発現時，至適有効量まで漸減。用量調整には，血中濃度の測定。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分・ヒダントイン系化合物に過敏症。
2．タダラフィル（肺高血圧症），マシテンタン，チカグレロル，アルテメテル・ルメファントリン，ダルナビル・コビシスタット，ドラビリン，ルラシドン，イサブコナゾニウム，エンシトレルビル，ニルマトレルビル・リトナビル，ミフェプリストン・ミソプロストール，リルピビリン，リルピビリン・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタビン，ビクテグラビル・エムトリシタビン・テノホビル　アラフェナミド，ダルナビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル　アラフェナミド，エルビテグラビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル　アラフェナミド，ソホスブビル・ベルパタスビル，ソホスブビル，レジパスビル・ソホスブビル，ドルテグラビル・リルピビリン，カボテグラビル，レナカパビルの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）（発熱，紅斑，水疱・糜爛，掻痒感，咽頭痛，眼充血，口内炎等）。
2．過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，リンパ節腫脹，肝機能障害等の臓器障害，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
3．SLE様症状（頻度不明）（発熱，紅斑，関節痛，肺炎，白血球減少，血小板減少，抗核抗体陽性等）。
4．再生不良性貧血，汎血球減少，無顆粒球症，単球性白血病，血小板減少，溶血性貧血，赤芽球癆（各頻度不明）。
5．劇症肝炎，重篤な肝機能障害（著しいAST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
6．間質性肺炎（頻度不明）（肺臓炎）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等）。
7．悪性リンパ腫，リンパ節腫脹（各頻度不明）。
8．小脳萎縮（頻度不明）。
9．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等），急性腎障害。
10．急性腎障害，間質性腎炎（各頻度不明）。
11．悪性症候群（頻度不明）（発熱，意識障害，筋強剛，不随意運動，発汗，頻脈等，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 猩紅熱様・麻疹様・中毒疹様発疹
血液 巨赤芽球性貧血
肝臓 AST・ALT・γ－GTPの上昇等の肝機能障害，黄疸
腎臓 蛋白尿等の腎障害
精神神経系 不随意運動（ジスキネジア，舞踏病アテトーゼ，アステリキシス等），ニューロパシー，眩暈，運動失調，注意力・集中力・反射運動能力等の低下，頭痛，神経過敏，不眠，痙攣・てんかん増悪
眼 複視，視覚障害，眼振，白内障
消化器 歯肉増殖，悪心・嘔吐，便秘
骨・歯 クル病，骨軟化症，歯牙の形成不全
内分泌系 甲状腺機能検査値（血清T3，T4値等）の異常，高血糖
その他 発熱，多毛，血清葉酸値の低下，CK上昇，免疫グロブリン低下（IgA，IgG等）
（表終了）

アレビアチン錠100mg（100mg1錠）

両　内服　流通
ハイリスク

【YJコード】1132002F2041
【薬効分類】1．1．3　抗てんかん剤
【一般名】フェニトイン
【メーカー】製)住友ファーマ　販)大日本住友製薬
【薬価】12.9円/1T
【薬価収載日】2001/11/06
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】抗てんかん剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇てんかんの痙攣発作
強直間代発作（全般痙攣発作，大発作）
焦点発作（ジャクソン型発作含む）
〇自律神経発作
〇精神運動発作
【用法用量】成人　1日200～300mg　1日3回　分割　毎食後　内服。
小児　下記量　1日3回　分割　毎食後　内服。
適宜増減。
学童　100～300mg。
幼児　50～200mg。
乳児　20～100mg。
注意
眼振，構音障害，運動失調，眼筋麻痺等の発現時，至適有効量まで漸減。用量調整には，血中濃度の測定。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分・ヒダントイン系化合物に過敏症。
2．タダラフィル（肺高血圧症），マシテンタン，チカグレロル，アルテメテル・ルメファントリン，ダルナビル・コビシスタット，ドラビリン，ルラシドン，イサブコナゾニウム，エンシトレルビル，ニルマトレルビル・リトナビル，ミフェプリストン・ミソプロストール，リルピビリン，リルピビリン・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタビン，ビクテグラビル・エムトリシタビン・テノホビル　アラフェナミド，ダルナビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル　アラフェナミド，エルビテグラビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル　アラフェナミド，ソホスブビル・ベルパタスビル，ソホスブビル，レジパスビル・ソホスブビル，ドルテグラビル・リルピビリン，カボテグラビル，レナカパビルの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用

1 神経系及び感覚器官用医薬品

1. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）（発熱，紅斑，水疱・糜爛，掻痒感，咽頭痛，眼充血，口内炎等）。
2. 過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，リンパ節腫脹，肝機能障害等の臓器障害，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
3. SLE様症状（頻度不明）（発熱，紅斑，関節痛，肺炎，白血球減少，血小板減少，抗核抗体陽性等）。
4. 再生不良性貧血，汎血球減少，無顆粒球症，単球性白血病，血小板減少，溶血性貧血，赤芽球癆（各頻度不明）。
5. 劇症肝炎，重篤な肝機能障害（著しいAST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
6. 間質性肺炎（頻度不明）（肺臓炎）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等）。
7. 悪性リンパ腫，リンパ節腫脹（各頻度不明）。
8. 小脳萎縮（頻度不明）。
9. 横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等），急性腎障害。
10. 急性腎障害，間質性腎炎（各頻度不明）。
11. 悪性症候群（頻度不明）（発熱，意識障害，筋強剛，不随意運動，発汗，頻脈等，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 猩紅熱様・麻疹様・中毒疹様発疹
血液 巨赤芽球性貧血
肝臓 AST・ALT・γ－GTPの上昇等の肝機能障害，黄疸
腎臓 蛋白尿等の腎障害
精神神経系 不随意運動（ジスキネジア，舞踏病アテトーゼ，アステリキシス等），ニューロパシー，眩暈，運動失調，注意力・集中力・反射運動能力等の低下，頭痛，神経過敏，不眠，痙攣・てんかん増悪
眼 複視，視覚障害，眼振，白内障
消化器 歯肉増殖，悪心・嘔吐，便秘
骨・歯 クル病，骨軟化症，歯牙の形成不全
内分泌系 甲状腺機能検査値（血清T3，T4値等）の異常，高血糖
その他 発熱，多毛，血清葉酸値の低下，CK上昇，免疫グロブリン低下（IgA，IgG等）
（表終了）

エクセグラン錠100mg（100mg1錠）

両 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】1139005F1023
【薬効分類】1．1．3 抗てんかん剤
【一般名】ゾニサミド
【メーカー】製)住友ファーマ
【薬価】15円/1T
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】抗てんかん剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】部分てんかん・全般てんかんの下記発作型
部分発作
単純部分発作（焦点発作（ジャクソン型含む），自律神経発作，精神運動発作）
複雑部分発作（精神運動発作，焦点発作）
二次性全般化強直間代痙攣（強直間代発作（大発作））
全般発作
強直間代発作（強直間代発作（全般痙攣発作，大発作））
強直発作（全般痙攣発作）
非定型欠神発作（異型小発作）
混合発作（混合発作）
【用法用量】成人 最初 1日100～200mg 1日1～3回 分割 内服。
以後1～2週ごと増量，1日200～400mgまで漸増 1日1～3回 分割 内服。
1日最高600mg。
小児 最初 1日2～4mg／kg 1日1～3回 分割 内服。
以後1～2週ごと増量，1日4～8mg／kgまで漸増 1日1～3回 分割 内服。
1日最高12mg／kg。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，紅皮症（剥脱性皮膚炎）（各頻度不明）（発熱，紅斑，水疱・糜爛，掻痒感，咽頭痛，眼充血，口内炎等）。
2. 過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，リンパ節腫脹，肝機能障害等の臓器障害，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
3. 再生不良性貧血，無顆粒球症，赤芽球癆（各頻度不明），血小板減少（1%未満）。
4. 急性腎障害（頻度不明）。
5. 間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等）。
6. 重篤な肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
7. 横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等），急性腎障害。
8. 腎・尿路結石（頻度不明）（腎仙痛，排尿痛，血尿，結晶尿，頻尿，残尿感，乏尿等）。
9. 発汗減少に伴う熱中症（頻度不明）（体温上昇，顔面潮紅，意識障害等）。
10. 悪性症候群（頻度不明）（発熱，意識障害，無動無言，高度の筋硬直，不随意運動，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗，血清CKの上昇等，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下）。
11. 幻覚，妄想，錯乱，せん妄等の精神症状（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹・掻痒感
皮膚 多形紅斑，脱毛
精神神経系 眠気（24．3%），運動失調（12．7%），無気力・自発性低下，精神活動緩慢化 記銘・判断力低下，易刺激性・焦燥，抑うつ・不安・心気，頭痛・頭重，不随意運動・振戦，感覚異常，眩暈，構音障害 精神病様症状，幻覚・妄想状態，幻視・幻聴，被害念慮，離人症，意識障害，平衡障害 行動異常，不機嫌，睡眠障害，しびれ感
眼 複視・視覚異常，眼振 眼痛
消化器 食欲不振（11．0%），悪心・嘔吐 胃痛・腹痛，流涎，下痢 口渇，便秘 口内炎，しゃっくり
血液 白血球減少 貧血，血小板減少 好酸球増多，顆粒球減少
腎・泌尿器 排尿障害・失禁，蛋白尿 頻尿，血尿，結晶尿，BUN上昇，クレアチニン上昇
その他 倦怠・脱力感，体重減少，ALT上昇，AST上昇，γ－GTP上昇 発熱，発汗減少，胸部圧迫感，浮腫 動悸，味覚異常，喘鳴，乳腺腫脹，代謝性アシドーシス・尿細管性アシドーシス，高アンモニア血症，CK上昇，免疫グロブリン低下（IgA，IgG等），抗核抗体の陽性例，血清カルシウム低下
（表終了）

セレニカR顆粒40%（40%1g）

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】1139004D1052
【薬効分類】1．1．3 抗てんかん剤
【一般名】バルプロ酸ナトリウム
【メーカー】製)興和 販)田辺三菱製薬 販)日研化学 販)三菱ウェルファーマ
【薬価】36.7円/1g
【薬価収載日】2005/12/16
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】抗てんかん，躁病・躁状態，片頭痛治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇各種てんかん（小発作・焦点発作・精神運動発作，混合発作），てんかんに伴う性格行動障害（不機嫌・易怒性等）の治療
〇躁病・躁うつ病の躁状態の治療
〇片頭痛発作の発症抑制
注意
片頭痛発作の発症抑制
1．片頭痛発作の急性期治療のみでは日常生活に支障をきたしている患者にのみ投与。
2．発現した頭痛発作を緩解する薬剤ではない。投与中に頭痛発作が発現時は，必要時頭痛発作治療薬を頓服。投与前に患者に説明。
【用法用量】各種てんかん，てんかんに伴う性格行動障害の治療，躁病・躁うつ病の躁状態の治療
1回バルプロ酸ナトリウム400～1200mg 1日1回 内服。適宜増減。
片頭痛発作の発症抑制
1回バルプロ酸ナトリウム400～800mg 1日1回 内服。適宜増減，1日1000mgまで。
注意
躁病・躁うつ病の躁状態の治療
バルプロ酸の躁病・躁うつ病の躁状態への，3週間以上の長期使用は，国内外の臨床試験で明確なエビデンスはない。

■禁忌

【禁忌】効能共通
1．重篤な肝障害。
2．カルバペネム系抗生剤の投与患者。
3．尿素サイクル異常症。
片頭痛発作の発症抑制
4．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用

1 神経系及び感覚器官用医薬品

1. 劇症肝炎等の重篤な肝障害，黄疸，脂肪肝等（各頻度不明），急激な意識障害。
2. 高アンモニア血症を伴う意識障害（頻度不明）。
3. 溶血性貧血，赤芽球癆，汎血球減少，重篤な血小板減少，顆粒球減少（各頻度不明）。
4. 急性膵炎（頻度不明）（激しい腹痛，発熱，嘔気，嘔吐等，膵酵素値の上昇）。
5. 間質性腎炎，ファンコニー症候群（各頻度不明）。
6. 中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），皮膚粘膜眼症候群（0．1%未満）。
7. 過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，リンパ節腫脹，肝機能障害，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等）。
8. 脳の萎縮，認知症様症状（健忘，見当識障害，言語障害，寡動，知能低下，感情鈍麻等），パーキンソン様症状（各頻度不明）（静止時振戦，硬直，姿勢・歩行異常等）。
9. 横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビンの上昇等）。
10. 抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（頻度不明）（低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム量の増加，高張尿等）。
11. 間質性肺炎，好酸球性肺炎（各頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚 脱毛
精神神経系 眩暈，傾眠 頭痛，不眠，振戦 失調，不穏，視覚異常，感覚変化，抑うつ
消化器 悪心・嘔吐，胃部不快感 口内炎，食欲不振，腹痛，下痢 便秘，食欲亢進
肝臓 AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇
血液 貧血，白血球減少 低フィブリノーゲン血症，好酸球増多 血小板凝集能低下
過敏症 発疹
泌尿器 夜尿・頻尿 血尿，尿失禁
生殖器 月経異常（月経不順，無月経），多嚢胞性卵巣，精子数減少，精子運動性低下
その他 高アンモニア血症，体重増加 倦怠感，浮腫 鼻血，口渇，歯肉肥厚，発熱，カルニチン減少
（表終了）

テグレトール錠200mg（200mg1錠）

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】1139002F1062
【薬効分類】1．1．3 抗てんかん剤
【一般名】カルバマゼピン
【メーカー】製）サンファーマ 販）田辺三菱製薬 販）ノバルティスファーマ
【薬価】7.7円/1T
【薬価収載日】1992/07/10
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】向精神作用性てんかん・躁状態治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○精神運動発作，てんかん性格，てんかんに伴う精神障害，てんかんの痙攣発作［強直間代発作（全般痙攣発作，大発作）］
○躁病，躁うつ病の躁状態，統合失調症の興奮状態
○三叉神経痛
【用法用量】精神運動発作，てんかん性格，てんかんに伴う精神障害，てんかんの痙攣発作 強直間代発作（全般痙攣発作，大発作）
成人 最初 1日200～400mg 1日1～2回 分割 内服。至適効果が得られるまで漸増（1日600mg）。症状により 1日1200mgまで。
小児 1日100～600mg 分割 内服。
躁病，躁うつ病の躁状態，統合失調症の興奮状態
成人 最初 1日200～400mg 1日1～2回 分割 内服。至適効果が得られるまで漸増（1日600mg）。症状により 1日1200mgまで。
三叉神経痛
成人 最初 1日200～400mgから開始（1日600mgまで） 分割 内服。症状により 1日800mgまで。小児 適宜減量。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分・三環系抗うつ剤に過敏症の既往。
2．重篤な血液障害。
3．第II度以上の房室ブロック，高度の徐脈（50拍／分未満）。
4．ボリコナゾール，タダラフィル（アドシルカ），リルピビリン，マシテンタン，チカグレロル，グラゾプレビル，エルバスビル，ドルテグラビル・リルピビリン，ダルナビル・コビシスタット，アルテメテル・ルメファントリン，ドラビリン，イサブコナゾニウム，カボテグラビル，ソホスブビル・ベルパタスビル，レジパスビル・ソホスブビル，ニルマトレルビル・リトナビル，エンシトレルビル，ミフェプリストン・ミソプロストール，リルピビリン・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタビン，ビクテグラビル・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド，ダルナビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド，エルビテグラビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミドの投与患者。
5．ポルフィリン症。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．再生不良性貧血，汎血球減少，白血球減少，無顆粒球症，貧血，溶血性貧血，赤芽球癆，血小板減少（各頻度不明）。
2．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑，急性汎発性発疹性膿疱症，紅皮症（剥脱性皮膚炎）（各頻度不明）（発熱，眼充血，顔面の腫脹，口唇・口腔粘膜・陰部の糜爛，皮膚・粘膜の水疱，多数の小膿疱，紅斑，咽頭痛，掻痒，全身倦怠感等）。
3．SLE様症状（頻度不明）（皮膚症状（蝶形紅斑等），発熱，関節痛，白血球減少，血小板減少，抗核抗体陽性等）。
4．過敏症症候群（頻度不明）（発熱，発疹，リンパ節腫脹，関節痛，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現，肝脾腫，肝機能障害等の臓器障害を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルス再活性化。
5．肝機能障害（胆汁うっ滞性，肝細胞性，混合型，肉芽腫性），黄疸（各頻度不明），劇症肝炎等。
6．重篤な腎障害（急性腎障害（間質性腎炎等）（頻度不明））。
7．PIE症候群，間質性肺炎（各頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，喀痰，好酸球増多，肺野の浸潤影）。
8．血栓塞栓症（頻度不明）（肺塞栓症，深部静脈血栓症，血栓性静脈炎等）。
9．アナフィラキシー（頻度不明）（蕁麻疹，血管浮腫，循環不全，低血圧，呼吸困難等）。
10．うっ血性心不全，房室ブロック，洞機能不全，徐脈（各頻度不明）。
11．抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（頻度不明）（低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等）。
12．無菌性髄膜炎（頻度不明）（項部硬直，発熱，頭痛，悪心・嘔吐，意識混濁等）。
13．悪性症候群（頻度不明）（発熱，意識障害，無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，白血球の増加，血清CK（CPK）の上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 － 猩紅熱様・麻疹様・中毒疹様発疹，掻痒症 光線過敏症，蕁麻疹，潮紅 血管炎，血管浮腫，呼吸困難
皮膚 － － － 色素沈着，ざ瘡，丘疹，多形結節性紅斑，紫斑，多毛，苔癬様角化症，爪の障害（爪甲脱落症，爪の変形，爪の変色等）
筋骨格系 － 筋脱力 筋痙攣，関節痛，筋痛 －
血液 － リンパ節腫脹 － ポルフィリン症，巨赤芽球性貧血，白血球増多，好酸球増多症，網状赤血球増加症
肝臓 ALT，AI－P，γ－GTPの上昇 AST上昇 － －
腎臓 － 蛋白尿，BUN，クレアチニンの上昇 頻尿 乏尿，尿閉，血尿
精神神経系 ふらつき，眠気，眩暈 注意力・集中力・反射運動能力等の低下，立ちくらみ，抑うつ，頭痛・頭重，脱力，倦怠感，興奮，連想失調，不随意運動（振戦，アステリキシス等），言語障害 錯乱 幻覚（視覚，聴覚），せん妄，知覚異常，インポテンス，末梢神経炎，口顔面ジスキネジー，舞踏病アテトーゼ，麻痺症状，攻撃的行動，激越，意識障害，鎮静，記憶障害
眼 － 複視，霧視 調節障害，眼振 異常眼球運動（眼球回転発作），水晶体混濁，結膜炎，眼圧上昇
心血管系 － 血圧低下 血圧上昇 不整脈，刺激伝導障害
消化器 － 食欲不振，悪心・嘔吐，便秘，下痢，口渇 － 膵炎，口内炎，舌炎，腹痛，大腸炎
内分泌，代謝系 － － － ビタミンD・カルシウム代謝異常（血清カルシウムの低下等），甲状腺機能検査値の異常（T4値の低下等），血清葉酸値低下，女性化乳房，乳汁漏出，プロラクチン上昇，低ナトリウム血症，骨軟化症，骨粗鬆症，高血糖
その他 － 発熱，味覚異常，浮腫，発汗，体重増加 感冒様症状（鼻咽頭炎，咳嗽等） 聴覚異常（耳鳴，聴覚過敏，聴力低下，音程の変化等），脱毛，コレステロール上昇，トリグリセリド上昇，CK（CPK）上昇，体液貯留，免疫グロブリン低下（IgA，IgG等），CRP上昇
（表終了）

バルプロ酸ナトリウム徐放錠A200mg「トーワ」（200mg1錠）

両 内服 後発 流通
ハイリスク

【YJコード】1139004G2080
【薬効分類】1．1．3 抗てんかん剤
【一般名】バルプロ酸ナトリウム
【先発品】セレニカR錠200mg，デパケンR錠200mg，バルプロ酸ナトリウムSR錠200mg「アメル」
【メーカー】製）東和薬品
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2019/12/13
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】抗てんかん，躁病・躁状態，片頭痛治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．各種てんかん（小発作・焦点発作・精神運動発作，混合発作），てんかんに伴う性格行動障害（不機嫌・易怒性等）の治療
2．躁病・躁うつ病の躁状態の治療
3．片頭痛発作の発症抑制
注意

1 神経系及び感覚器官用医薬品

片頭痛発作の発症抑制
1. 片頭痛発作の急性期治療のみでは日常生活に支障をきたしている患者にのみ投与。
2. 発現した頭痛発作を緩解する薬剤ではない。投与中に頭痛発作が発現時は，必要時頭痛発作治療薬を頓服。投与前に患者に説明。
【用法用量】各種てんかん，てんかんに伴う性格行動障害の治療，躁病・躁うつ病の躁状態の治療
1日400～1200mg 1日1～2回 分割 内服。
適宜増減。
片頭痛発作の発症抑制
1日400～800mg 1日1～2回 分割 内服。
適宜増減，1日1000mgまで。
注意
躁病・躁うつ病の躁状態の治療
バルプロ酸の躁病・躁うつ病の躁状態への，3週間以上の長期使用は，国内外の臨床試験で明確なエビデンスはない。

■禁忌
【禁忌】効能共通
1. 重篤な肝障害。
2. カルバペネム系抗生剤の投与患者。
3. 尿素サイクル異常症。
片頭痛発作の発症抑制
4. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 劇症肝炎等の重篤な肝障害，黄疸，脂肪肝等（各頻度不明），急激な意識障害。
2. 高アンモニア血症を伴う意識障害（頻度不明）。
3. 溶血性貧血，赤芽球癆，汎血球減少，重篤な血小板減少，顆粒球減少（各頻度不明）。
4. 急性膵炎（頻度不明）（激しい腹痛，発熱，嘔気，嘔吐等，膵酵素値の上昇）。
5. 間質性腎炎，ファンコニー症候群（各頻度不明）。
6. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）。
7. 過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，リンパ節腫脹，肝機能障害，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等）。
8. 脳の萎縮，認知症様症状（健忘，見当識障害，言語障害，寡動，知能低下，感情鈍麻等），パーキンソン様症状（各頻度不明）（静止時振戦，硬直，姿勢・歩行異常等）。
9. 横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビンの上昇等）。
10. 抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（頻度不明）（低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム量の増加，高張尿等）。
11. 間質性肺炎，好酸球性肺炎（各頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
血液 貧血，白血球減少，好酸球増多 低フィブリノーゲン血症 血小板凝集能低下
精神神経系 傾眠，失調，眩暈，頭痛 不眠，不穏，感覚変化，振戦 視覚異常，抑うつ
消化器 悪心・嘔吐，食欲不振 胃部不快感，腹痛，下痢，食欲亢進 口内炎，便秘
肝臓 AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇
皮膚 脱毛
過敏症 発疹
泌尿器 血尿，夜尿・頻尿 尿失禁
生殖器 月経異常（月経不順，無月経），多嚢胞性卵巣，精子数減少，精子運動性低下
その他 倦怠感，高アンモニア血症，体重増加 鼻血，口渇，浮腫 歯肉肥厚，発熱，カルニチン減少
（表終了）

バルプロ酸ナトリウムシロップ5%「DSP」（5%1mL）

両 内服 後発 流通
ハイリスク

【YJコード】1139004Q1135
【薬効分類】1．1．3 抗てんかん剤
【一般名】バルプロ酸ナトリウム
【先発品】デパケンシロップ5%，バルプロ酸ナトリウムシロップ5%「日医工」
【メーカー】製)住友ファーマ
【薬価】7円/1mL
【薬価収載日】2020/06/19
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】抗てんかん，躁病・躁状態，片頭痛治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．各種てんかん（小発作・焦点発作・精神運動発作，混合発作），てんかんに伴う性格行動障害（不機嫌・易怒性等）の治療
2．躁病・躁うつ病の躁状態の治療
3．片頭痛発作の発症抑制
注意
片頭痛発作の発症抑制
1．片頭痛発作の急性期治療のみでは日常生活に支障をきたしている患者にのみ投与。
2．発現した頭痛発作を緩解する薬剤ではない。投与中に頭痛発作が発現時は，必要時頭痛発作治療薬を頓服。投与前に患者に説明。
【用法用量】各種てんかん，てんかんに伴う性格行動障害の治療，躁病・躁うつ病の躁状態の治療
1日8～24mL（バルプロ酸ナトリウム 400～1200mg） 1日2～3回 分割 内服。
適宜増減。
片頭痛発作の発症抑制
1日8～16mL（バルプロ酸ナトリウム 400～800mg） 1日2～3回 分割 内服。
適宜増減，1日20mL（バルプロ酸ナトリウム 1000mg）まで。
注意
躁病・躁うつ病の躁状態の治療
バルプロ酸の躁病・躁うつ病の躁状態への，3週間以上の長期使用は，国内外の臨床試験で明確なエビデンスはない。

■禁忌
【禁忌】効能共通
1．重篤な肝障害。
2．カルバペネム系抗生剤の投与患者。
3．尿素サイクル異常症。
片頭痛発作の発症抑制
4．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．劇症肝炎等の重篤な肝障害，黄疸，脂肪肝等（各頻度不明），急激な意識障害。
2．高アンモニア血症を伴う意識障害（頻度不明）。
3．溶血性貧血，赤芽球癆，汎血球減少，重篤な血小板減少，顆粒球減少（各頻度不明）。
4．急性膵炎（頻度不明）（激しい腹痛，発熱，嘔気，嘔吐等，膵酵素値の上昇）。
5．間質性腎炎，ファンコニー症候群（各頻度不明）。
6．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）。
7．過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，リンパ節腫脹，肝機能障害，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等）。
8．脳の萎縮，認知症様症状（健忘，見当識障害，言語障害，寡動，知能低下，感情鈍麻等），パーキンソン様症状（各頻度不明）（静止時振戦，硬直，姿勢・歩行異常等）。
9．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビンの上昇等）。
10．抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（頻度不明）（低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム量の増加，高張尿等）。
11．間質性肺炎，好酸球性肺炎（各頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
血液 白血球減少 貧血，好酸球増多，血小板凝集能低下，低フィブリノーゲン血症
精神神経系 傾眠 失調，頭痛，不眠，不穏，視覚異常 感覚変化 振戦，眩暈，抑うつ
消化器 悪心・嘔吐，食欲不振，胃部不快感，便秘 口内炎，下痢 食欲亢進，腹痛
肝臓 AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇
皮膚 脱毛
過敏症 発疹
泌尿器 夜尿・頻尿 血尿，尿失禁
生殖器 月経異常（月経不順，無月経） 多嚢胞性卵巣，精子数減少，精子運動性低下
その他 倦怠感，鼻血 口渇，浮腫，発熱 高アンモニア血症，歯肉肥厚，体重増加，カルニチン減少
（表終了）

ビムパット錠100mg（100mg1錠）

両 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】1139015F2023
【薬効分類】1．1．3 抗てんかん剤
【一般名】ラコサミド
【メーカー】製)ユーシービージャパン 販)第一三共
【薬価】355.5円/1T
【薬価収載日】2016/08/31
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】抗てんかん剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】てんかん患者の部分発作（二次性全般化発作含む）他の抗てんかん薬で効果不十分のてんかん患者の強直間代発作に対する抗てんかん薬との併用療法
【用法用量】成人

1 神経系及び感覚器官用医薬品

1日100mgから開始 以後1週間以上あけて増量。維持量 1日200mg 1日2回 分割 内服。適宜増減，1日400mgまで。
増量は1週間以上あけて 1日100mg以下ずつ。
小児
4歳以上 1日2mg／kgより開始，以後1週間以上あけて 1日2mg／kgずつ増量。維持量 体重30kg未満 1日6mg／kg，体重30～50kg未満 1日4mg／kg。いずれも1日2回 分割 内服。
体重30kg未満 1日12mg／kgまで，体重30～50kg未満 1日8mg／kgまで，適宜増減。
増量は1週間以上あけて 1日2mg／kg以下ずつ。
体重50kg以上 成人と同量。
注意
効能共通
1. クレアチニンクリアランスが30mL／分以下の重度・末期腎機能障害 成人 1日最高300mg，小児 1日最高量を25%減量。血液透析患者 1日量に加え，血液透析後に最大1回量の半量の追加投与。
2. 軽度・中等度の肝機能障害（Child－Pugh分類A及びB）成人 1日最高300mg，小児 1日最高量を25%減量。
3. 1日最高量 体重30kg未満の小児 1日12mg／kg，体重30～50kg未満の小児 1日8mg／kg。1日8mg／kgを超えた体重30kg未満の小児が，成長に伴い安定的に体重が30kg以上となった時は，効果・副作用の発現を考慮し，適量を検討。急激な減量は避ける。
強直間代発作
4. 他の抗てんかん薬と併用。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 重度の肝機能障害。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 房室ブロック，徐脈，失神（各1%未満），PR間隔の延長。
2. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）（発熱，紅斑，水疱・糜爛，掻痒，咽頭痛，眼充血，口内炎等）。
3. 薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
4. 無顆粒球症（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 3%以上 1～3%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 浮動性眩暈（17．8%），頭痛，傾眠 記憶障害，振戦，運動失調 うつ病，幻覚，攻撃性，激越，感覚鈍麻，錯感覚，認知障害，異常行動，錯乱状態，注意力障害，平衡障害，不眠症，眼振，構語障害，嗜眠，協調運動異常，ミオクローヌス性てんかん 精神病性障害，多幸気分
眼 複視，霧視
血液 白血球数減少
消化器 悪心，嘔吐 下痢 消化不良，口内乾燥，鼓腸，便秘
循環器 心房細動 心房粗動
肝臓 肝機能異常
代謝・栄養 食欲減退
皮膚 発疹，蕁麻疹，掻痒症 血管浮腫
免疫系 薬物過敏症
筋骨格系 筋痙縮
感覚器 回転性眩暈 耳鳴
その他 疲労 歩行障害，易刺激性 転倒，挫傷，裂傷，鼻咽頭炎，発熱，無力症，酩酊感 咽頭炎
（表終了）

ビムパット点滴静注100mg（100mg10mL1瓶）

両 注射 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】1139404A2020
【薬効分類】1．1．3 抗てんかん剤
【一般名】ラコサミド
【メーカー】製)ユーシービージャパン 販)第一三共
【薬価】2450円/1V
【薬価収載日】2020/05/27
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】抗てんかん剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】一時的に内服ができない患者における，下記治療へのラコサミド経口剤の代替療法
〇てんかん患者の部分発作（二次性全般化発作含む）
〇他の抗てんかん薬で効果不十分のてんかん患者の強直間代発作に対する抗てんかん薬との併用療法
【用法用量】内服から切りかえ時
内服と同じ1日量・投与回数で 1回30～60分かけ 点滴静注。
内服前に投与時
成人
1日100mgから開始 以後1週間以上あけて増量。維持量 1日200mg 1日2回 分割 1回30～60分かけ 点滴静注。
小児
4歳以上 1日2mg／kgより開始，以後1週間以上あけて 1日2mg／kgずつ増量。維持量 体重30kg未満 1日6mg／kg，体重30～50kg未満 1日4mg／kg。いずれも1日2回 分割 1回30～60分かけ 点滴静注。
体重50kg以上 成人と同量。
いずれも適宜増減，1日最高量・増量方法は下記の通り。
成人
1日最高400mg。増量は1週間以上あけて 1日100mg以下ずつ。
小児
4歳以上 体重30kg未満 1日12mg／kgまで，体重30～50kg未満 1日8mg／kgまで。
増量は1週間以上あけて 1日2mg／kg以下ずつ。
体重50kg以上 成人と同量。
注意
効能共通
1. クレアチニンクリアランスが30mL／分以下の重度・末期腎機能障害 成人 1日最高300mg，小児 1日最高量を25%減量。血液透析患者 1日量に加え，血液透析後に最大1回量の半量の追加投与。
2. 軽度・中等度の肝機能障害（Child－Pugh分類A及びB）成人 1日最高300mg，小児 1日最高量を25%減量。
3. 1日最高量 体重30kg未満の小児 1日12mg／kg，体重30～50kg未満の小児 1日8mg／kg。1日8mg／kgを超えた体重30kg未満の小児が，成長に伴い安定的に体重が30kg以上となった時は，効果・副作用の発現を考慮し，適量を検討。急激な減量は避ける。
4. 点滴静注から内服に切りかえ時は，点滴静注と同じ1日量・投与回数。
5. 内服可能になれば，速やかに切りかえる（国内外の臨床試験で，5日間を超えた使用経験なし）。
強直間代発作
6. 他の抗てんかん薬と併用。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 重度の肝機能障害。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 房室ブロック，徐脈，失神（各1%未満），PR間隔の延長。
2. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）（発熱，紅斑，水疱・糜爛，掻痒，咽頭痛，眼充血，口内炎等）。
3. 薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
4. 無顆粒球症（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 3%以上 1～3%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 浮動性眩暈（17．8%），頭痛，傾眠 記憶障害，振戦，運動失調 うつ病，幻覚，攻撃性，激越，感覚鈍麻，錯感覚，認知障害，異常行動，錯乱状態，注意力障害，平衡障害，不眠症，眼振，構語障害，嗜眠，協調運動異常，ミオクローヌス性てんかん 精神病性障害，多幸気分
眼 複視，霧視
血液 白血球数減少
消化器 悪心，嘔吐 下痢 消化不良，口内乾燥，鼓腸，便秘
循環器 心房細動 心房粗動
肝臓 肝機能異常
代謝・栄養 食欲減退
皮膚 発疹，蕁麻疹，掻痒症 血管浮腫
免疫系 薬物過敏症
筋骨格系 筋痙縮
感覚器 回転性眩暈 耳鳴
その他 疲労，注射部位紅斑 歩行障害，易刺激性 転倒，挫傷，裂傷，鼻咽頭炎，発熱，無力症，酩酊感 咽頭炎，注射部位疼痛，注射部位不快感，注射部位刺激感
（表終了）

フィコンパ錠2mg（2mg1錠）

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】1139014F1022
【薬効分類】1．1．3 抗てんかん剤
【一般名】ペランパネル水和物
【メーカー】製)エーザイ
【薬価】195.7円/1T
【薬価収載日】2016/05/25
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】抗てんかん剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】てんかん患者の部分発作（二次性全般化発作含む）
他の抗てんかん薬で効果不十分のてんかん患者の強直間代発作に対する抗てんかん薬との併用療法
【用法用量】部分発作（二次性全般化発作含む）

1 神経系及び感覚器官用医薬品

単剤療法
成人・4歳以上の小児 ペランパネル 1回2mgから開始 1日1回 就寝前 内服。以後，2週間以上あけて 2mgずつ漸増。維持量 1日1回4～8mg。
2週間以上あけて 2mg以下ずつ適宜増減，1日最高8mg。
併用療法
成人・12歳以上の小児 ペランパネル 1回2mgから開始 1日1回 就寝前 内服。以後，1週間以上あけて 2mgずつ漸増。
本剤の代謝を促進する抗てんかん薬を併用しない時 維持量 1日1回4～8mg，併用時 維持量 1日1回8～12mg。
1週間以上あけて 2mg以下ずつ適宜増減，1日最高12mg。
4歳以上12歳未満の小児 ペランパネル 1回2mgから開始 1日1回 就寝前 内服。以後，2週間以上あけて 2mgずつ漸増。
本剤の代謝を促進する抗てんかん薬を併用しない時 維持量 1日1回4～8mg，併用時 維持量 1日1回8～12mg。
2週間以上あけて 2mg以下ずつ適宜増減，1日最高12mg。
強直間代発作
併用療法
成人・12歳以上の小児 ペランパネル 1回2mgから開始 1日1回 就寝前 内服。以後，1週間以上あけて 2mgずつ漸増。
本剤の代謝を促進する抗てんかん薬を併用しない時 維持量 1日1回8mg，併用時 維持量 1日1回8～12mg。
1週間以上あけて 2mg以下ずつ適宜増減，1日最高12mg。
注意
1. 強直間代発作 他の抗てんかん薬と併用して使用。
2. 本剤の代謝を促進する抗てんかん薬(カルバマゼピン，フェニトイン，ホスフェニトイン)との併用で本剤の血中濃度低下の可能性，投与中にカルバマゼピン，フェニトイン，ホスフェニトインを投与開始又は中止時は，慎重に症状を観察し，必要に応じ1日最高12mgを超えない範囲で用量の変更を行う。
3. 軽度・中等度の肝機能障害 1回2mgから開始 1日1回 就寝前内服，以後2週間以上あけて 2mgずつ漸増。2週間以上あけて 2mg以下ずつ適宜増減，軽度の肝機能障害には1日最高8mg，中等度の肝機能障害には1日最高4mg。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 重度の肝機能障害。

■副作用
【副作用】重大な副作用
精神症状(易刺激性(6. 8%)，攻撃性(3. 5%)，不安(1. 5%)，怒り(1. 1%)，幻覚(幻視，幻聴等)(0. 6%)，妄想(0. 3%)，せん妄(頻度不明)等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 掻痒症
精神神経系 浮動性眩暈(35. 4%)，傾眠(19. 8%) 頭痛，運動失調，平衡障害，構語障害，痙攣 振戦，気分動揺，感覚鈍麻，嗜眠，過眠症，感情不安定，気分変化，神経過敏，健忘，記憶障害，異常行動，錯乱状態，睡眠障害，錯感覚，自殺企図，注意力障害，精神運動亢進，協調運動異常，てんかん増悪，自殺念慮，多幸気分
消化器 悪心，嘔吐 腹部不快感，腹痛，下痢，口内炎，便秘，流涎過多
肝臓 肝機能異常，γ－GTP増加，AST増加，ALT増加
血液 貧血，低ナトリウム血症，好中球減少症
眼 複視 眼振，霧視
筋骨格 筋力低下，筋肉痛 関節痛
その他 疲労，体重増加，回転性眩暈，歩行障害，食欲減退，食欲亢進
心電図QT延長，異常感，倦怠感，尿中蛋白陽性，体重減少，不規則月経，鼻出血，転倒，酩酊感，挫傷，無力症，発熱，血中クレアチンホスホキナーゼ増加，尿失禁 上気道感染
(表終了)

フィコンパ点滴静注用2mg（2mg1瓶）

内 注射 流通
ハイリスク

【YJコード】1139405D1025
【薬効分類】1. 1. 3 抗てんかん剤
【一般名】ペランパネル水和物
【メーカー】製)エーザイ
【薬価】1962円/1V
【薬価収載日】2024/04/17
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】抗てんかん剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】一時的に内服ができない患者における，下記治療へのペランパネル経口剤の代替療法
○てんかん患者の部分発作(二次性全般化発作含む)
○他の抗てんかん薬で効果不十分のてんかん患者の強直間代発作への抗てんかん薬との併用療法
【用法用量】ペランパネルの内服から本剤に切りかえ時
部分発作(二次性全般化発作含む)
単剤療法，併用療法
成人・4歳以上の小児 ペランパネルと同じ1日量 1日1回 30分以上かけ 点滴静注。
4～12歳未満の小児 投与時間は90分。
強直間代発作
併用療法
成人・12歳以上の小児 ペランパネルと同じ1日量 1日1回 30分以上かけ 点滴静注。
ペランパネルの内服に先立ち本剤を投与時
部分発作(二次性全般化発作含む)
単剤療法
成人・4歳以上の小児 ペランパネル 1回2mgから開始 1日1回，以後2週間以上あけて 2mgずつ漸増，維持量 1回4～8mg 1日1回30分以上かけ 点滴静注。
4～12歳未満の小児 投与時間は90分。
併用療法
成人・12歳以上の小児 ペランパネル 1回2mgから開始 1日1回，以後1週間以上あけて 2mgずつ漸増，本剤の代謝を促進する抗てんかん薬を併用しない時の維持量 1回4～8mg，併用時の維持量 1回8～12mg 1日1回 30分以上かけ 点滴静注。
4～12歳未満の小児 ペランパネル 1回2mgから開始 1日1回，以後2週間以上あけて 2mgずつ漸増，本剤の代謝を促進する抗てんかん薬を併用しない時の維持量 1回4～8mg，併用時の維持量 1回8～12mg 1日1回 90分以上かけ 点滴静注。
強直間代発作
併用療法
成人・12歳以上の小児 ペランパネル 1回2mgから開始 1日1回，以後1週間以上あけて 2mgずつ漸増，本剤の代謝を促進する抗てんかん薬を併用しない時の維持量 1回8～12mg 1日1回 30分以上かけ 点滴静注。
ペランパネルの内服から本剤に切りかえ時，及びペランパネルの内服に先立ち本剤を投与時のいずれも，適宜増減，1日最高量及び増減法は下記の通り。
部分発作(二次性全般化発作含む)
単剤療法
成人・4歳以上の小児 2週間以上あけて 2mg以下ずつ適宜増減，1日最高8mg。
併用療法
成人・12歳以上の小児 1週間以上あけて 2mg以下ずつ適宜増減，1日最高12mg。
4～12歳未満の小児 2週間以上あけて 2mg以下ずつ適宜増減，1日最高12mg。
強直間代発作
併用療法
成人・12歳以上の小児 1週間以上あけて 2mg以下ずつ適宜増減，1日最高12mg。
参考 成人・12歳以上の小児の部分発作(二次性全般化発作含む)
(表開始)
単剤療法 併用療法 併用療法
本剤の代謝を促進する抗てんかん薬(注1)の併用 － なし あり
投与法 1日1回 30分以上かけ 点滴静注。1日1回 30分以上かけ 点滴静注。1日1回 30分以上かけ 点滴静注。
開始量(注2) 2mg／日 2mg／日 2mg／日
漸増間隔 2週間以上 1週間以上 1週間以上
漸増量 2mg／日 2mg／日 2mg／日
維持量 4～8mg／日 4～8mg／日 8～12mg／日
最高量 8mg／日 12mg／日 12mg／日
(表終了)
用量はペランパネルの量。
(注1)本剤の代謝を促進する抗てんかん薬 フェニトイン，ホスフェニトイン，カルバマゼピン。
(注2)ペランパネルの内服から本剤に切りかえ時は，ペランパネル内服と同量。
参考 4～12歳未満の小児の部分発作(二次性全般化発作含む)
(表開始)
単剤療法 併用療法 併用療法
本剤の代謝を促進する抗てんかん薬(注1)の併用 － なし あり
投与法 1日1回 90分かけ 点滴静注。1日1回 90分かけ 点滴静注。1日1回 90分かけ 点滴静注。
開始量(注2) 2mg／日 2mg／日 2mg／日
漸増間隔 2週間以上 2週間以上 2週間以上
漸増量 2mg／日 2mg／日 2mg／日
維持量 4～8mg／日 4～8mg／日 8～12mg／日
最高量 8mg／日 12mg／日 12mg／日
(表終了)
用量はペランパネルの量。
(注1)本剤の代謝を促進する抗てんかん薬 フェニトイン，ホスフェニトイン，カルバマゼピン。
(注2)ペランパネルの内服から本剤に切りかえ時は，ペランパネル内服と同量。
参考 成人・12歳以上の小児の強直間代発作
(表開始)
併用療法 併用療法
本剤の代謝を促進する抗てんかん薬(注1)の併用 なし あり
投与法 1日1回 30分以上かけ 点滴静注。1日1回 30分以上かけ 点滴静注。
開始量(注2) 2mg／日 2mg／日
漸増間隔 1週間以上 1週間以上
漸増量 2mg／日 2mg／日
維持量 8mg／日 8～12mg／日
最高量 12mg／日 12mg／日

1 神経系及び感覚器官用医薬品

（表終了）
用量はペランパネルの量。
（注1）本剤の代謝を促進する抗てんかん薬 フェニトイン，ホスフェニトイン，カルバマゼピン
（注2）ペランパネルの内服から本剤に切りかえ時は，ペランパネル内服と同量。
注意
全効能共通
1．本剤の代謝を促進する抗てんかん薬（カルバマゼピン，フェニトイン，ホスフェニトイン）との併用で本剤の血中濃度が低下の可能性，投与開始時，投与中又は本剤からペランパネル経口製剤に切りかえ時，カルバマゼピン，フェニトイン，ホスフェニトインを投与開始又は中止時は，慎重に症状を観察し，必要に応じ1日最高12mgを超えない範囲で用量の変更を行う。
2．軽度・中等度の肝機能障害 1回2mgから開始 1日1回，以後2週間以上あけて 2mgずつ漸増。2週間以上あけて 2mg以下ずつ適宜増減，軽度の肝機能障害には1日最高8mg，中等度の肝機能障害には1日最高4mg。
3．内服可能になれば速やかにペランパネル経口製剤に切りかえる。
4．点滴静注から内服に切りかえ時の内服の1日量は，点滴静注と同じ1日量。
強直間代発作への併用療法
5．強直間代発作 他の抗てんかん薬と併用。臨床試験では，本剤単独投与での使用経験はない。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．重度の肝機能障害。

■副作用
【副作用】重大な副作用
精神症状（易刺激性（6．8%），攻撃性（3．5%），不安（1．5%），怒り（1．1%），幻覚（幻視，幻聴等）（0．6%），妄想（0．3%），せん妄（頻度不明）等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 掻痒症
精神神経系 浮動性眩暈（35．4%），傾眠（19．8%） 頭痛，運動失調，平衡障害，構語障害，痙攣 振戦，気分動揺，感覚鈍麻，嗜眠，過眠症，感情不安定，気分変化，神経過敏，健忘，記憶障害，異常行動，錯乱状態，睡眠障害，錯感覚，自殺企図，注意力障害，精神運動亢進，協調運動異常，てんかん増悪，自殺念慮，多幸気分
消化器 悪心，嘔吐 腹部不快感，腹痛，下痢，口内炎，便秘，流涎過多
肝臓 肝機能異常，γ－GTP増加，AST増加，ALT増加
血液 貧血，低ナトリウム血症，好中球減少症
眼 複視 眼振，霧視
筋骨格 筋力低下，筋肉痛 関節痛
その他 疲労，体重増加，回転性眩暈，歩行障害，食欲減退，食欲亢進，注射部位疼痛，注射部位発疹，注射部位小水疱 心電図QT延長，異常感，倦怠感，尿中蛋白陽性，体重減少，不規則月経，鼻出血，転倒，酩酊感，挫傷，無力症，発熱，血中クレアチンホスホキナーゼ増加，尿失禁 上気道感染
（表終了）

ブコラム口腔用液2．5mg（2．5mg0．5mL1筒）

両 外用 流通
精3 ハイリスク

【YJコード】1139700Q1029
【薬効分類】1．1．3 抗てんかん剤
【一般名】ミダゾラム
【メーカー】製)武田薬品工業
【薬価】1688.7円/1筒
【薬価収載日】2020/11/18
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】抗けいれん剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】てんかん重積状態
注意
1．18歳以上の有効性・安全性は未確立。
2．非痙攣性てんかん重積状態に，保護者・代諾者が本剤投与時は，重症度や患者の包括的な医療環境を考慮し，投与可能と医師が判断した患者のみ。
【用法用量】修正在胎52週（在胎週数＋出生後週数）～1歳未満 1回2．5mg，1～5歳未満 1回5mg，5～10歳未満 1回7．5mg，10～18歳未満 1回10mg 頬粘膜投与。
注意
1．シリンジ液剤の全量を片側の頬粘膜に緩徐に投与。必要時両側の頬粘膜に半量ずつ投与。
2．保護者又は代諾者が投与時は，1回分（シリンジ1本）のみ投与するよう指導。
3．頬粘膜より吸収されるため，飲み込まないよう注意。

■禁忌
【禁忌】1．重症筋無力症。
2．本剤の成分に過敏症の既往。
3．HIVプロテアーゼ阻害剤（リトナビル含有製剤，ネルフィナビルメシル酸塩，アタザナビル硫酸塩，ホスアンプレナビルカルシウム水和物，ダルナビル含有製剤）・エファビレンツ・コビシスタット含有製剤の投与患者。
4．急性閉塞隅角緑内障。
5．ショック，昏睡，バイタルサインの抑制がある急性アルコール中毒。

■副作用
【副作用】重大な副作用
呼吸抑制（4．0%）（無呼吸，呼吸困難，呼吸停止等）。

ホストイン静注750mg（750mg10mL1瓶）

内 注射 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】1132401A1020
【薬効分類】1．1．3 抗てんかん剤
【一般名】ホスフェニトインナトリウム水和物
【メーカー】製)ノーベルファーマ 販)エーザイ
【薬価】6419円/1V
【薬価収載日】2011/11/25
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】抗けいれん剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．てんかん重積状態
2．脳外科手術・意識障害（頭部外傷等）時のてんかん発作の発現抑制
3．フェニトインを内服しているてんかん患者の一時的な代替療法
注意
フェニトインを内服しているてんかん患者の一時的な代替療法に用いる場合，フェニトインの内服により発作がコントロールされているてんかん患者で，一時的にフェニトインの内服が不可能となった場合にのみ投与。
【用法用量】成人又は2歳以上の小児
てんかん重積状態
初回量 ホスフェニトインナトリウム 22．5mg／kg 静注 投与速度3mg／kg／分又は150mg／分のいずれか低い方を超えないこと。
維持量 ホスフェニトインナトリウム 1日5～7．5mg／kg 1日1回又は分割 静注 投与速度1mg／kg／分又は75mg／分のいずれか低い方を超えないこと。
脳外科手術又は意識障害（頭部外傷等）時のてんかん発作の発現抑制
初回量 ホスフェニトインナトリウム 15～18mg／kg 静注 投与速度1mg／kg／分又は75mg／分のいずれか低い方を超えないこと。
維持量 ホスフェニトインナトリウム 1日5～7．5mg／kg 1日1回又は分割 静注 投与速度1mg／kg／分又は75mg／分のいずれか低い方を超えないこと。
フェニトインを内服しているてんかんの一時的な代替療法
ホスフェニトインナトリウム 経口フェニトインの1日量の1．5倍量 1日1回又は分割 静注 投与速度1mg／kg／分又は75mg／分のいずれか低い方を超えないこと。
注意
1．急速静注は，心停止，一過性の血圧低下，呼吸抑制等の循環・呼吸障害の可能性，用法・用量を遵守。衰弱の著しい患者，高齢者，心疾患，肝障害又は腎障害では，より緩徐に投与。
2．維持投与は，初回投与から12～24時間あけて行う。本剤を投与しても発作が止まらない時，他の抗てんかん薬を考慮し，本剤の追加投与はしない（血漿蛋白との結合部位でホスフェニトインとフェニトインの置換が生じ，血中非結合型フェニトイン濃度が上昇するおそれ）。
3．初回投与，維持投与前には，血中フェニトイン濃度を測定し，過量投与に注意。初回投与時に神経症状等の発現時，血中フェニトイン濃度の測定を行うとともに，維持投与速度の減速を考慮。
4．内服可能になれば，速やかに切りかえる。国内では，3日間を超える連用経験なし。
5．本剤（ホスフェニトインナトリウムとして）の分子量はフェニトインナトリウムの約1．5倍。
6．フェニトインを内服しているてんかんの一時的な代替療法の用法は，フェニトイン内服時と同じ用法とする。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分・ヒダントイン系化合物に過敏症。
2．洞性徐脈，高度の刺激伝導障害。
3．タダラフィル（肺高血圧症），マシテンタン，エルバスビル，グラゾプレビル，チカグレロル，アルテメテル・ルメファントリン，ダルナビル・コビシスタット，ドラビリン，ルラシドン，リルピビリン，イサブコナゾニウム硫酸塩，ミフェプリストン・ミソプロストール，ニルマトレルビル・リトナビル，リルピビリン・テノホビル アラフェナミド・エムトリシタビン，ビクテグラビル・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド，エルビテグラビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド，ダルナビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル アラフェナミド，ソホスブビル・ベルパタスビル，ソホスブビル，レジパスビル・ソホスブビル，ドルテグラビル・リルピビリン，カボテグラビル，レナカパビルナトリウムの投与患者。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）（発熱，紅斑，水疱・糜爛，掻痒感，咽頭痛，眼充血，口内炎等）。
2. 過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，リンパ節腫脹，肝機能障害等の臓器障害，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
3. SLE様症状（頻度不明）（発熱，紅斑，関節痛，肺炎，白血球減少，血小板減少，抗核抗体陽性等）。
4. 再生不良性貧血，汎血球減少，無顆粒球症，単球性白血病，血小板減少，溶血性貧血，赤芽球癆（各頻度不明）。
5. 劇症肝炎，肝機能障害，黄疸（各頻度不明）（著しいAST，ALT，γ－GTPの上昇）。
6. 間質性肺炎（頻度不明）（肺臓炎）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等）。
7. 心停止，心室細動，呼吸停止（各頻度不明）。
8. 強直発作（頻度不明）。
9. 悪性リンパ腫，リンパ節腫脹（各頻度不明）。
10. 小脳萎縮（頻度不明）。
11. 横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等），急性腎障害。
12. 急性腎障害，間質性腎炎（各頻度不明）。
13. 悪性症候群（頻度不明）（発熱，意識障害，筋強剛，不随意運動，発汗，頻脈等，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 頻度不明
過敏症 アレルギー反応 蕁麻疹，中毒性皮疹
感染症 敗血症
血液・リンパ系 白血球増加症 貧血，白血球減少症
内分泌系 尿崩症
代謝・栄養 血糖値上昇 低カルシウム血症，アシドーシス
精神神経系 眼振，眩暈，ふらつき，傾眠，失調性歩行 頭痛，片頭痛，昏睡，落ち着きのなさ，気分不良，浮遊感，倦怠感，睡眠障害，意識レベル低下，振戦，錯乱状態，失神，協調運動異常，反射亢進，頭蓋内圧上昇，動作緩慢，歩行障害，構語障害，反射減弱，多幸感，感覚鈍麻，神経過敏，うつ病，感情不安定，人格障害，運動過多，ニューロパシー，ミオクローヌス，錯感覚，不安，嗅覚錯誤，錐体外路障害，伸展性足底反応 脳症，せん妄
眼 複視，弱視
耳 耳鳴，難聴 聴覚過敏
心・血管系 血圧低下 心拍数増加，血圧上昇，頻脈，動悸，徐脈，チアノーゼ，不整脈，血管炎 心不全，ショック，心房細動，房室ブロック，播種性血管内凝固，心筋梗塞，血栓症
呼吸器 呼吸数増加，呼吸数減少，過換気，咳嗽，しゃっくり 呼吸不全，無呼吸，肺炎，慢性閉塞性肺疾患
胃腸 悪心，嘔吐，下痢，腹痛，便秘，味覚異常 嚥下障害
肝胆道系 肝機能異常 ALT上昇 AST上昇，γ－GTP上昇，胆汁うっ滞
皮膚・皮下組織 掻痒症 水疱，発疹，斑状丘疹状皮疹，皮膚変色，斑状出血，多汗症，口唇炎 紅斑性皮疹，紅斑，血管浮腫
筋骨格系 筋痛，関節痛，背部痛，筋力低下，筋痙攣 CK上昇
腎・尿路 尿蛋白陽性 乏尿，血尿
全身・投与局所 発熱 疼痛，浮腫，無力症，胸痛，口渇，注射部位腫脹，注射部位紅斑，注射部位疼痛，注射部位硬結，注射部位内出血，擦過部位腫脹 多臓器不全，溢血
（表終了）

リボトリール細粒0．1%（0．1%1g）

両 内服 流通
精3 ハイリスク

【YJコード】1139003C1044
【薬効分類】1．1．3 抗てんかん剤
【一般名】クロナゼパム
【メーカー】(製)太陽ファルマ (販)中外製薬
【薬価】8.3円/1g
【薬価収載日】2006/06/09
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】抗てんかん剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．小型（運動）発作[ミオクロニー発作，失立（無動）発作，点頭てんかん（幼児痙縮発作，BNS痙攣等）]
2．精神運動発作
3．自律神経発作
【用法用量】成人・小児
初回量 1日0．5～1mg 1日1～3回 分割 内服。至適効果が得られるまで漸増。
維持量 1日2～6mg 1日1～3回 分割 内服。
乳・幼児
初回量 1日0．025mg／kg 1日1～3回 分割 内服。至適効果が得られるまで漸増。
維持量 1日0．1mg／kg 1日1～3回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．急性閉塞隅角緑内障。
3．重症筋無力症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．依存性（頻度不明），離脱症状（痙攣発作，せん妄，振戦，不眠，不安，幻覚，妄想等）。
2．呼吸抑制（0．1%未満），睡眠中の多呼吸発作（0．1～5%未満）。
3．刺激興奮，錯乱等（各頻度不明）。
4．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 眠気（24．7%），ふらつき（15．6%） 眩暈，運動失調，神経過敏（不機嫌，興奮等），無気力，情動不安定，筋緊張低下，頭痛，構音障害，不眠，もうろう感，振戦 頭重，行動異常，筋緊張亢進，知覚異常，寡動（活動低下，運動抑制等） 意識障害，運動過多，注意力低下，眩暈，しびれ，歩行異常，不安，幻覚，うつ状態，攻撃的反応
呼吸器 喘鳴 咳 呼吸困難，気道分泌過多，喀痰増加
眼 複視 目がかすむ，羞明
消化器 唾液増加（流涎等），食欲不振，悪心，嘔吐，嚥下障害，便秘 口内炎，下痢，吃逆，食欲亢進，口渇 腹痛
泌尿器 尿失禁，排尿困難
血液 血小板減少，好酸球増多，白血球減少，貧血
肝臓 AST，ALTの上昇，LDH，γ－GTP，AlーPの上昇
過敏症 発疹 過敏症状
その他 脱力，倦怠感，体重減少 ほてり（熱感，顔面潮紅），発熱，いびき，月経不順 性欲減退，疲労，体重増加
（表終了）

リボトリール錠1mg（1mg1錠）

両 内服 流通
精3 ハイリスク

【YJコード】1139003F2047
【薬効分類】1．1．3 抗てんかん剤
【一般名】クロナゼパム
【メーカー】(製)太陽ファルマ (販)中外製薬
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2006/06/09
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】抗てんかん剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．小型（運動）発作[ミオクロニー発作，失立（無動）発作，点頭てんかん（幼児痙縮発作，BNS痙攣等）]
2．精神運動発作
3．自律神経発作
【用法用量】成人・小児
初回量 1日0．5～1mg 1日1～3回 分割 内服。至適効果が得られるまで漸増。
維持量 1日2～6mg 1日1～3回 分割 内服。
乳・幼児
初回量 1日0．025mg／kg 1日1～3回 分割 内服。至適効果が得られるまで漸増。
維持量 1日0．1mg／kg 1日1～3回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．急性閉塞隅角緑内障。
3．重症筋無力症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．依存性（頻度不明），離脱症状（痙攣発作，せん妄，振戦，不眠，不安，幻覚，妄想等）。
2．呼吸抑制（0．1%未満），睡眠中の多呼吸発作（0．1～5%未満）。
3．刺激興奮，錯乱等（各頻度不明）。
4．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 眠気（24．7%），ふらつき（15．6%） 眩暈，運動失調，神経過敏（不機嫌，興奮等），無気力，情動不安定，筋緊張低下，頭痛，構音障害，不眠，もうろう感，振戦 頭重，行動異常，筋緊張亢進，知覚異常，寡動（活動低下，運動抑制等） 意識障害，運動過多，注意力低下，眩暈，しびれ，歩行異常，不安，幻覚，うつ状態，攻撃的反応
呼吸器 喘鳴 咳 呼吸困難，気道分泌過多，喀痰増加
眼 複視 目がかすむ，羞明
消化器 唾液増加（流涎等），食欲不振，悪心，嘔吐，嚥下障害，便秘 口内炎，下痢，吃逆，食欲亢進，口渇 腹痛

1 神経系及び感覚器官用医薬品

泌尿器 尿失禁，排尿困難
血液 血小板減少，好酸球増多，白血球減少，貧血
肝臓 AST，ALTの上昇，LDH，γ－GTP，AI－Pの上昇
過敏症 発疹 過敏症状
その他 脱力，倦怠感，体重減少 ほてり(熱感，顔面潮紅)，発熱，いびき，月経不順 性欲減退，疲労，体重増加
(表終了)

レベチラセタム錠500mg「トーワ」(500mg1錠)

両 内服 後発 流通
ハイリスク

【YJコード】1139010F2098
【薬効分類】1．1．3 抗てんかん剤
【一般名】レベチラセタム
【先発品】イーケプラ錠500mg
【メーカー】製)東和薬品 販)共創未来ファーマ 販)三和化学研究所
【薬価】41.6円/1T
【薬価収載日】2021/12/10
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】抗てんかん剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】てんかん患者の部分発作(二次性全般化発作含む)
他の抗てんかん薬で効果不十分のてんかん患者の強直間代発作に対する抗てんかん薬との併用療法
【用法用量】成人
1日1000mg 1日2回 分割 内服。適宜増減，1日3000mgまで。増量は2週間以上あけて 1日1000mg以下ずつ。
小児
4歳以上 1日20mg／kg 1日2回 分割 内服。適宜増減，1日60mg／kgまで。増量は2週間以上あけて 1日20mg／kg以下ずつ。体重50kg以上 成人と同量。
注意
1．強直間代発作 他の抗てんかん薬と併用。単独投与での臨床試験は未実施。
2．成人腎機能障害 下表に示すクレアチニンクリアランス値を参考に投与量・投与間隔を調節。成人血液透析患者 クレアチニンクリアランス値に応じた1日量に加え，血液透析を実施後に本剤の追加投与を行う。この用法・用量はシミュレーション結果によることから，患者ごとに用法・用量を調節。小児腎機能障害 程度により，投与量・投与間隔を調節。
(表開始)
クレアチニンクリアランス (mL／分) ≧80 ≧50－＜80 ≧30－＜50 ＜30 透析中の腎不全 血液透析後の補充量
1日量(mg) 1000～3000 1000～2000 500～1500 500～1000 500～1000
通常量 1回500mg1日2回 1回500mg1日2回 1回250mg1日2回 1回250mg1日2回 1回500mg1日1回 250mg
最高量 1回1500mg1日2回 1回1000mg1日2回 1回750mg1日2回 1回500mg1日2回 1回1000mg1日1回 500mg
(表終了)
3．重度の肝機能障害 肝臓でのクレアチン産生が低下しており，クレアチニンクリアランス値からでは腎機能障害の程度を過小評価する可能性，より低用量から開始，慎重に観察しながら用法・用量を調節。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分・ピロリドン誘導体に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群(各頻度不明)(発熱，紅斑，水疱・糜爛，掻痒，咽頭痛，眼充血，口内炎等)。
2．薬剤性過敏症症候群(頻度不明)(発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状)，ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
3．重篤な血液障害(頻度不明)(汎血球減少，無顆粒球症，白血球減少，好中球減少，血小板減少)。
4．重篤な肝障害(肝不全，肝炎(各頻度不明)等)。
5．膵炎(頻度不明)(激しい腹痛，発熱，嘔気，嘔吐等，膵酵素値の上昇)。
6．精神症状(易刺激性，錯乱，焦燥，興奮，攻撃性等)，自殺企図(各1%未満)。
7．横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等)。
8．急性腎障害(頻度不明)。
9．悪性症候群(頻度不明)(発熱，筋強剛，血清CK上昇，頻脈，血圧の変動，意識障害，発汗過多，白血球の増加等，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 3%以上 1～3%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 浮動性眩暈(10．4%)，頭痛(11．8%)，不眠症，傾眠(27．9%) 感覚鈍麻，気分変動，振戦，易刺激性，痙攣，抑うつ 激越，健忘，注意力障害，幻覚，運動過多，記憶障害，錯感覚，思考異常，平衡障害，感情不安定，異常行動，協調運動異常，怒り，ジスキネジー，不安，体位性眩暈，睡眠障害，緊張性頭痛，精神病性障害，パニック発作，せん妄 錯乱状態，敵意，気分動揺，神経過敏，人格障害，精神運動亢進，舞踏アテトーゼ運動，嗜眠，てんかん増悪，強迫性障害
眼 複視，結膜炎 霧視，眼精疲労，眼掻痒症，麦粒腫
血液 好中球数減少 貧血，血中鉄減少，鉄欠乏性貧血，血小板数減少，白血球数増加，白血球数減少
循環器 心電図QT延長，高血圧
消化器 腹痛，便秘，下痢，胃腸炎，悪心，口内炎，嘔吐，齲歯 歯肉炎，痔核，胃不快感，歯痛 消化不良，口唇炎，歯肉腫脹，歯周炎
肝臓 AI－P増加 肝機能異常
泌尿・生殖器 膀胱炎，尿中ブドウ糖陽性，尿中血陽性，尿中蛋白陽性，月経困難症 頻尿
呼吸器 鼻咽頭炎(30．2%)，咽喉頭疼痛，上気道の炎症 気管支炎，咳嗽，鼻漏，咽頭炎，インフルエンザ，鼻炎 鼻出血，肺炎
代謝・栄養 食欲不振
皮膚 湿疹 皮膚炎，掻痒症，発疹，ざ瘡 脱毛症，単純ヘルペス，帯状疱疹，白癬感染 多形紅斑，血管性浮腫
筋骨格系 背部痛 肩痛，筋肉痛，筋骨格硬直，関節痛 頸部痛，四肢痛，筋力低下
感覚器 耳鳴 回転性眩暈
その他 倦怠感，発熱，体重減少 血中トリグリセリド増加，胸痛，体重増加 無力症，疲労，末梢性浮腫，抗痙攣剤濃度増加 事故による外傷(皮膚裂傷等)
(表終了)

レベチラセタム点滴静注500mg「日新」(500mg5mL1管)

内 注射 後発 流通
ハイリスク

【YJコード】1139402A2030
【薬効分類】1．1．3 抗てんかん剤
【一般名】レベチラセタム
【メーカー】製)日新製薬
【薬価】669円/1A
【薬価収載日】2021/12/10
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】抗てんかん剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇一時的に内服ができない患者における，下記治療へのレベチラセタム経口剤の代替療法
・てんかん患者の部分発作(二次性全般化発作含む)
・他の抗てんかん薬で効果不十分のてんかん患者の強直間代発作への抗てんかん薬との併用療法
〇てんかん重積状態
注意
てんかん重積状態
診療ガイドラインを参考とし，適切な患者に投与。
【用法用量】一時的に内服できない患者のレベチラセタム経口剤の代替療法
内服から切りかえ時
内服と同じ1日量・投与回数で 1回15分かけ 点滴静注。
内服前に投与時
成人 1日1000mg 1日2回 分割 1回15分かけ 点滴静注。
小児 4歳以上 1日20mg／kg 1日2回 分割 1回15分かけ 点滴静注。体重50kg以上 成人と同量。
いずれも適宜増減，1日最高量・増量方法は下記の通り。
成人 1日最高3000mg。増量は2週間以上あけて 1日1000mg以下ずつ。
小児 4歳以上 1日最高60mg／kg。増量は2週間以上あけて 1日20mg／kg以下ずつ。体重50kg以上 成人と同量。
てんかん重積状態
成人 1回1000～3000mg 静注(投与速度2～5mg／kg／分)，1日最大3000mg。
注意
効能共通
1．希釈して投与。
2．成人腎機能障害 下表に示すクレアチニンクリアランス値を参考に投与量・投与間隔を調節。成人血液透析患者 クレアチニンクリアランス値に応じた1日量に加え，血液透析を実施後に本剤の追加投与を行う。この用法・用量はシミュレーション結果によることから，患者ごとに用法・用量を調節。小児腎機能障害 程度により，投与量・投与間隔を調節。
(表開始)
クレアチニンクリアランス (mL／分) ≧80 ≧50－＜80 ≧30－＜50 ＜30 透析中の腎不全 血液透析後の補充量
1日量(mg) 1000～3000 1000～2000 500～1500 500～1000 500～1000
通常量(a) 1回500mg 1日2回 1回500mg 1日2回 1回250mg 1日2回 1回250mg 1日2回 1回500mg 1日1回 250mg
最高量(a) 1回1500mg 1日2回 1回1000mg 1日2回 1回750mg 1日2回 1回500mg 1日2回 1回1000mg 1日1回 500mg
(表終了)
(a)てんかん重積状態除く。
3．重度の肝機能障害 肝臓でのクレアチン産生が低下しており，クレアチニンクリアランス値からでは腎機能障害の程度を過小評価する可能性，より低用量から開始，慎重に観察しながら用法・用量を調節。
一時的に内服できない患者のレベチラセタム経口剤の代替療法

1 神経系及び感覚器官用医薬品

4. 強直間代発作 他の抗てんかん薬と併用。単独投与での臨床試験は未実施。
5. 点滴静注から内服に切りかえ時は，点滴静注と同じ1日量・投与回数。
6. 内服可能になれば，速やかに切りかえる。国内外の臨床試験で，5日間以上の投与は未実施。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・ピロリドン誘導体に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）（発熱，紅斑，水疱・糜爛，掻痒，咽頭痛，眼充血，口内炎等）。
2. 薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
3. 重篤な血液障害（頻度不明）（汎血球減少，無顆粒球症，白血球減少，好中球減少，血小板減少）。
4. 重篤な肝障害（肝不全，肝炎（各頻度不明）等）。
5. 膵炎（頻度不明）（激しい腹痛，発熱，嘔気，嘔吐等，膵酵素値の上昇）。
6. 精神症状（易刺激性，錯乱，焦燥，興奮，攻撃性等），自殺企図（各1%未満）。
7. 横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等）。
8. 急性腎障害（頻度不明）。
9. 悪性症候群（頻度不明）（発熱，筋強剛，血清CK上昇，頻脈，血圧の変動，意識障害，発汗過多，白血球の増加等，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 3%以上 1～3%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 浮動性眩暈（10．4%），頭痛（11．8%），不眠症，傾眠（27．9%） 感覚鈍麻，気分変動，振戦，易刺激性，痙攣，抑うつ 激越，健忘，注意力障害，幻覚，運動過多，記憶障害，錯感覚，思考異常，平衡障害，感情不安定，異常行動，協調運動異常，怒り，ジスキネジー，不安，体位性眩暈，睡眠障害，緊張性頭痛，精神病性障害，パニック発作，せん妄 錯乱状態，敵意，気分動揺，神経過敏，人格障害，精神運動亢進，舞踏アテトーゼ運動，嗜眠，てんかん増悪，強迫性障害
眼 複視，結膜炎 霧視，眼精疲労，眼掻痒症，麦粒腫
血液 好中球数減少 貧血，血中鉄減少，鉄欠乏性貧血，血小板数減少，白血球数増加，白血球数減少
循環器 心電図QT延長，高血圧
消化器 腹痛，便秘，下痢，胃腸炎，悪心，口内炎，嘔吐，齲歯 歯肉炎，痔核，胃不快感，歯痛 消化不良，口唇炎，歯肉腫脹，歯周炎
肝臓 AlーP増加 肝機能異常
泌尿・生殖器 膀胱炎，尿中ブドウ糖陽性，尿中血陽性，尿中蛋白陽性，月経困難症 頻尿
呼吸器 鼻咽頭炎（30．2%），咽喉頭疼痛，上気道の炎症 気管支炎，咳嗽，鼻漏，咽頭炎，インフルエンザ，鼻炎 鼻出血，肺炎
代謝・栄養 食欲不振
皮膚 湿疹 皮膚炎，掻痒症，発疹，ざ瘡 脱毛症，単純ヘルペス，帯状疱疹，白癬感染 多形紅斑，血管性浮腫
筋骨格系 背部痛 肩痛，筋肉痛，筋骨格硬直，関節痛 頸部痛，四肢痛，筋力低下
感覚器 耳鳴 回転性眩暈
その他 倦怠感，発熱，体重減少，注射部位炎症，注射部位疼痛，注射部位腫脹 血中トリグリセリド増加，胸痛，体重増加 無力症，疲労，末梢性浮腫，抗痙攣剤濃度増加 事故による外傷（皮膚裂傷等）
（表終了）

1．1．4 解熱鎮痛消炎剤

アスピリン原末「マルイシ」（10g）

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】1143001X1236
【薬効分類】1．1．4 解熱鎮痛消炎剤
【一般名】アスピリン
【メーカー】製)丸石製薬
【薬価】49.1円/10g
【薬価収載日】2008/12/19
【ハイリスク分類】血液凝固阻止剤
【標榜薬効】解熱鎮痛消炎剤・川崎病用剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇関節リウマチ，リウマチ熱，変形性関節症，強直性脊椎炎，関節周囲炎，結合織炎，術後疼痛，歯痛，症候性神経痛，関節痛，腰痛症，筋肉痛，捻挫痛，打撲痛，痛風による痛み，頭痛，月経痛
〇下記の解熱・鎮痛
急性上気道炎（急性気管支炎を伴う急性上気道炎含む）
〇川崎病（川崎病による心血管後遺症含む）
【用法用量】関節リウマチ，リウマチ熱，変形性関節症，強直性脊椎炎，関節周囲炎，結合織炎，術後疼痛，歯痛，症候性神経痛，関節痛，腰痛症，筋肉痛，捻挫痛，打撲痛，痛風による痛み，頭痛，月経痛
成人 1回0．5～1．5g 1日1～4．5g 内服。
適宜増減。
上記の最高量まで。
急性上気道炎（急性気管支炎を伴う急性上気道炎含む）の解熱・鎮痛
成人 1回0．5～1．5g 頓服。
適宜増減。
1日最大4．5g 1日2回まで。空腹時は避ける。
川崎病（川崎病による心血管後遺症含む）
急性期有熱期間 1日30～50mg／kg 1日3回 分割 内服。解熱後の回復期から慢性期 1日3～5mg／kg 1日1回 内服。
適宜増減。
注意
効能共通
1. 他の消炎鎮痛剤との併用を避ける。
川崎病（川崎病による心血管後遺症含む）
2. 川崎病の診断後，投与を開始。
3. 川崎病の回復期 発症後数ヵ月間，血小板凝集能が亢進しているので，本剤を発症後2～3ヵ月間投与し，その後断層心エコー図等の冠動脈検査で冠動脈障害が認められない時は，投与中止。冠動脈瘤を形成した症例では，退縮が確認される時期まで投与を継続。
4. 川崎病 低用量では血小板機能の抑制が認められない時もあるため，適宜，血小板凝集能の測定等を考慮。

■禁忌
【禁忌】効能共通
1. 本剤・サリチル酸系製剤に過敏症の既往。
2. 消化性潰瘍。
3. アスピリン喘息・その既往。
4. 出産予定日12週以内の妊婦。
川崎病以外の効能・効果
5. 重篤な血液異常。
6. 重篤な肝機能障害。
7. 重篤な腎機能障害。
8. 重篤な心機能不全。
川崎病（川崎病による心血管後遺症含む）
9. 出血傾向。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等）。
2. 出血（頻度不明）（脳出血等の頭蓋内出血（頭痛，悪心・嘔吐，意識障害，片麻痺等），肺出血，消化管出血，鼻出血，眼底出血等）。
3. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，剥脱性皮膚炎（各頻度不明）。
4. 再生不良性貧血，血小板減少，白血球減少（各頻度不明）。
5. 喘息発作の誘発（頻度不明）。
6. 肝機能障害（AST，ALT，γ－GTP等の著しい上昇），黄疸（各頻度不明）。
7. 消化性潰瘍（下血（メレナ）を伴う胃潰瘍・十二指腸潰瘍等），小腸・大腸潰瘍（各頻度不明）（消化管出血，腸管穿孔，狭窄・閉塞）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
消化器 食欲不振，胸やけ，悪心・嘔吐，胃痛，腹痛，胃腸障害，便秘，下痢，食道炎，口唇腫脹，吐血，胃部不快感
過敏症 蕁麻疹，発疹，浮腫，鼻炎様症状
血液 貧血，血小板機能低下（出血時間の延長）
皮膚 掻痒，発汗
精神神経系 眩暈，頭痛，興奮
肝臓 AST上昇，ALT上昇
腎臓 腎機能障害
循環器 血圧低下，血管炎，心窩部痛
呼吸器 気管支炎
感覚器 耳鳴，難聴，角膜炎，結膜炎
その他 過呼吸，代謝性アシドーシス，倦怠感，低血糖
（表終了）

アセトアミノフェンDS40%「三和」（40%1g）

両 内服 後発 流通
劇

【YJコード】1141007R2031
【薬効分類】1．1．4 解熱鎮痛消炎剤
【一般名】アセトアミノフェン
【メーカー】製)三和化学研究所
【薬価】14.8円/1g
【薬価収載日】2019/06/14
【標榜薬効】解熱鎮痛剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇各種疾患・症状の鎮痛
〇下記の解熱・鎮痛
急性上気道炎（急性気管支炎を伴う急性上気道炎含む）

1 神経系及び感覚器官用医薬品

○小児の解熱・鎮痛
【用法用量】製剤共通
各種疾患・症状の鎮痛
成人 1回アセトアミノフェン300～1000mg 内服。投与間隔は4～6時間以上。
適宜増減，1日総量4000mgまで。空腹時は避ける。
急性上気道炎（急性気管支炎を伴う急性上気道炎含む）
成人 1回アセトアミノフェン300～500mg 頓服。
適宜増減。
1日最大1500mg 1日2回まで。空腹時は避ける。
小児の解熱・鎮痛
乳・幼・小児 1回アセトアミノフェン10～15mg／kg 内服。投与間隔は4～6時間以上，1日総量60mg／kgまで。
適宜増減，成人量まで。空腹時は避ける。
注意
1．乳・幼・小児 1回量の目安
（表開始）
体重（kg） アセトアミノフェン（mg） 錠200 DS40%（g）
5 50－75 － 0．125－0．1875
10 100－150 0．5錠 0．25－0．375
20 200－300 1－1．5錠 （200－300mg） 0．5－0．75
30 300－450 1．5－2錠 （300－400mg） 0．75－1．125
（表終了）
2．「小児の解熱・鎮痛」の効能・効果は1回最大500mg，1日最大1500mg。
3．他の消炎鎮痛剤との併用は避ける。
4．アセトアミノフェン含む他剤（一般用医薬品含む）との併用で，アセトアミノフェン過量投与による重篤な肝障害のおそれ，総合感冒剤や解熱鎮痛剤等の配合剤を併用時，アセトアミノフェンが含まれている場合は，併用を避ける。
5．アスピリン喘息・その既往 1回最大300mg以下。

■禁忌
【禁忌】1．重篤な肝障害。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等）。
2．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，急性汎発性発疹性膿疱症（各頻度不明）。
3．喘息発作の誘発（頻度不明）。
4．劇症肝炎，肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
5．顆粒球減少症（頻度不明）。
6．間質性肺炎（頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常等）。
7．間質性腎炎，急性腎障害（各頻度不明）。
8．薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
血液 チアノーゼ，血小板減少，血小板機能低下（出血時間の延長）
消化器 悪心・嘔吐，食欲不振
その他 過敏症
（表終了）

アセリオ静注液1000mgバッグ（1000mg100mL1袋）

内 注射 流通
劇

【YJコード】1141400A2020
【薬効分類】1．1．4 解熱鎮痛消炎剤
【一般名】アセトアミノフェン
【メーカー】製）テルモ
【薬価】298円／1袋
【薬価収載日】2016/11/18
【標榜薬効】解熱鎮痛剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】経口製剤・坐剤の投与困難時の疼痛，発熱
注意
経口製剤・坐剤の投与困難で，静注の緊急治療が必要時等，静注投与が臨床的に妥当である時に使用を考慮。経口製剤・坐剤の投与可能になれば速やかに投与中止，経口製剤・坐剤の投与に切りかえ。
【用法用量】下記 15分かけ 静注。
成人の疼痛
成人 アセトアミノフェン 1回300～1000mg 15分かけ 静注，投与間隔は4～6時間以上。適宜増減，1日総量4000mgまで。
体重50kg未満の成人 アセトアミノフェン 1回15mg／kgまで 静注，投与間隔は4～6時間以上。1日総量60mg／kgまで。
成人の発熱
成人 アセトアミノフェン 1回300～500mg 15分かけ 静注，投与間隔は4～6時間以上。適宜増減，1日最大1500mg 1日2回まで。
2歳以上の幼・小児の疼痛・発熱
アセトアミノフェン 1回10～15mg／kg 15分かけ 静注，投与間隔は4～6時間以上。適宜増減，1日総量60mg／kgまで。成人量を超えない。
乳児・2歳未満の幼児の疼痛・発熱
アセトアミノフェン 1回7．5mg／kg 15分かけ 静注，投与間隔は4～6時間以上。適宜増減，1日総量30mg／kgまで。
注意
1．投与速度を厳守（有効性・安全性は15分かけて静注した臨床試験で確認）。
2．乳・幼・小児 1回量の目安
（表開始）
体重（kg） 1回量の目安（mL）
5 3．75
10 7．5～15
20 20～30
30 30～45
（表終了）
3．乳・幼・小児には1回最大 アセトアミノフェン 500mg，1日最大 アセトアミノフェン 1500mg。
4．他の消炎鎮痛剤との併用は避ける。
5．アセトアミノフェン含む他剤（一般用医薬品含む）との併用で，アセトアミノフェン過量投与による重篤な肝障害のおそれ，総合感冒剤や解熱鎮痛剤等の配合剤を併用時，アセトアミノフェンが含まれている場合は，併用を避ける。
6．アスピリン喘息・その既往 1回最大アセトアミノフェン300mg以下。

■禁忌
【禁忌】1．重篤な肝障害。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，全身紅潮，血管浮腫，蕁麻疹等）。
2．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，急性汎発性発疹性膿疱症（各頻度不明）。
3．喘息発作の誘発（頻度不明）。
4．劇症肝炎，肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
5．顆粒球減少症（頻度不明）。
6．間質性肺炎（頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常等）。
7．間質性腎炎，急性腎障害（各頻度不明）。
8．薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
血液 チアノーゼ，血小板減少，血小板機能低下（出血時間の延長）
消化器 悪心・嘔吐，食欲不振
循環器 血圧低下
その他 過敏症，発汗
（表終了）

アルピニー坐剤100（100mg1個）

両 外用 流通

【YJコード】1141700J2092
【薬効分類】1．1．4 解熱鎮痛消炎剤
【一般名】アセトアミノフェン
【メーカー】製）久光製薬 販）エスエス製薬 販）三和化学研究所
【薬価】20.9円／1個
【薬価収載日】2001/09/07
【標榜薬効】小児用解熱鎮痛剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】小児の解熱・鎮痛
【用法用量】乳・幼・小児 1回10～15mg／kg 直腸内挿入。投与間隔は4～6時間以上，1日総量60mg／kgまで。適宜増減，成人量まで。
注意
1．1回量の目安
（表開始）
体重（kg） アセトアミノフェン（mg） 50mg製剤（個） 100mg製剤（個） 200mg製剤（個）
5 50－75 1－1．5 0．5 －
10 100－150 2－3 1－1．5 0．5
20 200－300 － 2－3 1－1．5
30 300－450 － － 1．5－2
（表終了）
2．「小児の解熱・鎮痛」の効能・効果は1回最大500mg，1日最大1500mg。
（注）本剤は小児用解熱鎮痛剤。
3．急性疾患に本剤を使用時は，長期投与を避ける（5日以内）。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

4. 他の消炎鎮痛剤との併用は避ける。
5. 総合感冒剤や解熱鎮痛剤等の配合剤を併用時，アセトアミノフェンが含まれている場合は，併用を避ける。
6. アスピリン喘息・その既往 1回最大300mg以下。

■禁忌
【禁忌】1. 重篤な肝機能障害。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等）。
2. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，急性汎発性発疹性膿疱症（各頻度不明）。
3. 劇症肝炎，肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
4. 喘息発作の誘発（頻度不明）。
5. 顆粒球減少症（頻度不明）。
6. 間質性肺炎（頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常等）。
7. 間質性腎炎，急性腎障害（各頻度不明）。
8. 薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1%未満 頻度不明
血液 血小板減少
過敏症 発疹 チアノーゼ
消化器 悪心・嘔吐，食欲不振，下痢，軟便，便意
（表終了）

アルピニー坐剤200（200mg1個）
両 外用 流通

【YJコード】1141700J3021
【薬効分類】1．1．4 解熱鎮痛消炎剤
【一般名】アセトアミノフェン
【メーカー】製)久光製薬 販)エスエス製薬
【薬価】20.9円/1個
【標榜薬効】小児用解熱鎮痛剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】小児の解熱・鎮痛
【用法用量】乳・幼・小児 1回10～15mg／kg 直腸内挿入。投与間隔は4～6時間以上，1日総量60mg／kgまで。適宜増減，成人量まで。
注意
1．1回量の目安
（表開始）
体重（kg） アセトアミノフェン（mg） 50mg製剤（個） 100mg製剤（個） 200mg製剤（個）
5 50－75 1－1．5 0．5 －
10 100－150 2－3 1－1．5 0．5
20 200－300 － 2－3 1－1．5
30 300－450 － － 1．5－2
（表終了）
2．「小児の解熱・鎮痛」の効能・効果は1回最大500mg，1日最大1500mg。
（注）本剤は小児用解熱鎮痛剤。
3．急性疾患に本剤を使用時は，長期投与を避ける（5日以内）。
4．他の消炎鎮痛剤との併用は避ける。
5．総合感冒剤や解熱鎮痛剤等の配合剤を併用時，アセトアミノフェンが含まれている場合は，併用を避ける。
6．アスピリン喘息・その既往 1回最大300mg以下。

■禁忌
【禁忌】1．重篤な肝機能障害。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等）。
2．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，急性汎発性発疹性膿疱症（各頻度不明）。
3．劇症肝炎，肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
4．喘息発作の誘発（頻度不明）。
5．顆粒球減少症（頻度不明）。
6．間質性肺炎（頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常等）。
7．間質性腎炎，急性腎障害（各頻度不明）。
8．薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1%未満 頻度不明
血液 血小板減少
過敏症 発疹 チアノーゼ
消化器 悪心・嘔吐，食欲不振，下痢，軟便，便意
（表終了）

エトドラク錠200mg「SW」（200mg1錠）
両 内服 後発 流通 劇

【YJコード】1149032F2171
【薬効分類】1．1．4 解熱鎮痛消炎剤
【一般名】エトドラク
【先発品】オステラック錠200，ハイペン錠200mg
【メーカー】製)沢井製薬 販)旭化成ファーマ
【薬価】11.5円/1T
【薬価収載日】2014/06/20
【標榜薬効】非ステロイド性鎮痛・抗炎症剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○下記の消炎・鎮痛
関節リウマチ，変形性関節症，腰痛症，肩関節周囲炎，頸腕症候群，腱鞘炎
○術後・外傷後の消炎・鎮痛
【用法用量】成人 1日400mg 1日2回 分割 朝・夕食後 内服。適宜増減。
注意
1．他の消炎鎮痛剤との併用は避ける。
2．高齢者 少量（200mg／日）から開始する等慎重投与。

■禁忌
【禁忌】1．消化性潰瘍。
2．重篤な血液異常。
3．重篤な肝障害。
4．重篤な腎障害。
5．重篤な心機能不全。
6．重篤な高血圧症。
7．本剤の成分に過敏症の既往。
8．アスピリン喘息・その既往。
9．妊娠後期。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック（頻度不明）。
2．アナフィラキシー（頻度不明）（呼吸困難，蕁麻疹，全身潮紅，血管浮腫，喘鳴等）。
3．消化性潰瘍（穿孔を伴うことあり）（0．1%未満）（胃痛，嘔吐，吐血・下血等を伴う胃腸出血）。
4．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）。
5．汎血球減少，溶血性貧血，無顆粒球症，血小板減少（各頻度不明）。
6．腎不全（頻度不明）（急性腎障害（間質性腎炎，腎乳頭壊死等），慢性腎不全の急性増悪）。
7．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
8．うっ血性心不全（頻度不明）。
9．好酸球性肺炎，間質性肺炎（各頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線上の異常陰影等）。
10．心筋梗塞，脳血管障害（各頻度不明）等の心血管系血栓塞栓性事象。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚 発疹，掻痒感 蕁麻疹 紅斑，光線過敏症，紫斑，斑状出血，皮膚血管炎（白血球破砕性血管炎含む）
消化器 腹痛，悪心・嘔吐，食欲不振，下痢，口内炎，消化不良，腹部膨満感，舌炎，口渇 胃炎，便秘 しゃっくり
精神神経系 眩暈 しびれ，眠気，頭痛 振戦
肝臓 肝機能異常（AST，ALT，AlーPの上昇等）
腎臓 腎機能異常（蛋白尿，BUNの上昇等），顕微鏡的血尿
血液 貧血 好酸球増多 白血球減少
その他 発熱，胸痛 浮腫，倦怠感，ほてり 発赤，排尿困難，動悸，喘息，味覚異常，視覚異常（かすみ目等）
（表終了）

カロナール錠200（200mg1錠）
両 内服 後発 流通

【YJコード】1141007F1063
【薬効分類】1．1．4 解熱鎮痛消炎剤
【一般名】アセトアミノフェン
【メーカー】製)あゆみ製薬 販)ジーシー昭和薬品
【薬価】6.7円/1T

1 神経系及び感覚器官用医薬品

【薬価収載日】2004/07/09
【標榜薬効】解熱鎮痛剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○各種疾患・症状の鎮痛
○下記の解熱・鎮痛
急性上気道炎(急性気管支炎を伴う急性上気道炎含む)
○小児の解熱・鎮痛
【用法用量】各種疾患・症状の鎮痛
成人　1回300～1000mg　内服。投与間隔は4～6時間以上。適宜増減，1日総量4000mgまで。空腹時は避ける。
急性上気道炎(急性気管支炎を伴う急性上気道炎含む)
成人　1回300～500mg　頓服。適宜増減。1日最大1500mg　1日2回まで。空腹時は避ける。
小児の解熱・鎮痛
幼・小児　1回10～15mg／kg　内服。適宜増減。投与間隔は4～6時間以上，1日総量60mg／kgまで。成人量を超えない。空腹時は避ける。
注意
1. 幼・小児　1回量の目安
(表開始)
体重(kg) アセトアミノフェン(mg) 錠200(錠) 錠300(錠) 錠500(錠)
10 100－150 0．5 － －
20 200－300 1－1．5 (アセトアミノフェン　200－300mg) 1 (アセトアミノフェン　300mg) 0．5(アセトアミノフェン　250mg)
30 300－450 1．5－2 (アセトアミノフェン　300－400mg) 1 (アセトアミノフェン　300mg) －
(表終了)
2.「小児の解熱・鎮痛」の効能・効果は1回最大500mg，1日最大1500mg。
3. 他の消炎鎮痛剤との併用は避ける。
4. 本剤とアセトアミノフェン含む他剤(一般用医薬品含む)との併用で，アセトアミノフェンの過量投与による重篤な肝障害のおそれ，総合感冒剤や解熱鎮痛剤等の配合剤を併用時は，アセトアミノフェン含有か確認し，併用を避ける。
5. アスピリン喘息・その既往 1回最大300mg以下。

■禁忌
【禁忌】1. 重篤な肝障害。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等)。
2. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，急性汎発性発疹性膿疱症(各頻度不明)。
3. 喘息発作の誘発(頻度不明)。
4. 劇症肝炎，肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
5. 顆粒球減少症(頻度不明)。
6. 間質性肺炎(頻度不明)(咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常等)。
7. 間質性腎炎，急性腎障害(各頻度不明)。
8. 薬剤性過敏症症候群(頻度不明)(発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状)，ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
血液 チアノーゼ，血小板減少，血小板機能低下(出血時間の延長)
消化器 悪心・嘔吐，食欲不振
その他 過敏症
(表終了)

ジクトルテープ75mg（75mg1枚）
両　外用　流通

【YJコード】1147700S1028
【薬効分類】1．1．4　解熱鎮痛消炎剤
【一般名】ジクロフェナクナトリウム
【メーカー】製)久光製薬
【薬価】154.5円/1枚
【薬価収載日】2021/05/19
【標榜薬効】経皮吸収型持続性疼痛治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 各種癌の鎮痛
2. 腰痛症，肩関節周囲炎，頸肩腕症候群，腱鞘炎の鎮痛・消炎
【用法用量】各種癌の鎮痛
成人　1回2枚(ジクロフェナクナトリウム　150mg)　1日1回　胸部，腹部，上腕部，背部，腰部，大腿部に貼付し，1日(約24時間)ごと　貼りかえ。1日3枚(ジクロフェナクナトリウム　225mg)まで。
腰痛症，肩関節周囲炎，頸肩腕症候群，腱鞘炎の鎮痛・消炎
成人　1回1又は2枚(ジクロフェナクナトリウム　75又は150mg)　胸部，腹部，上腕部，背部，腰部，大腿部に貼付　1日(約24時間)ごと貼りかえ。
注意
効能共通
1. 本剤投与時は他の全身作用を期待する消炎鎮痛剤との併用は避け，やむを得ず併用時は，必要最小限の使用。
各種癌の鎮痛
2. 本剤3枚貼付時の全身曝露量がジクロフェナクナトリウム経口剤の通常量投与時と同程度に達することから，1日貼付枚数は3枚まで。

■禁忌
【禁忌】1. 消化性潰瘍。
2. 重篤な血液異常。
3. 重篤な腎機能障害。
4. 重篤な肝機能障害。
5. 重篤な高血圧症。
6. 重篤な心機能不全。
7. 本剤の成分に過敏症の既往。
8. アスピリン喘息・その既往。
9. 妊婦・妊娠の可能性。
10. トリアムテレンの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック(胸内苦悶，冷汗，呼吸困難，四肢冷却，血圧低下，意識障害等)，アナフィラキシー(各頻度不明)(蕁麻疹，血管浮腫，呼吸困難等)。
2. 出血性ショック・穿孔を伴う消化管潰瘍(各頻度不明)。
3. 消化管の狭窄・閉塞(頻度不明)。
4. 再生不良性貧血，溶血性貧血，無顆粒球症，血小板減少症(各頻度不明)。
5. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，紅皮症(剥脱性皮膚炎)(各頻度不明)。
6. 急性腎障害(間質性腎炎，腎乳頭壊死等)，ネフローゼ症候群(各頻度不明)(乏尿，血尿，尿蛋白，BUN・血中クレアチニン上昇，高カリウム血症，低アルブミン血症等)。
7. 重症喘息発作(アスピリン喘息)(頻度不明)。
8. 間質性肺炎(頻度不明)。
9. うっ血性心不全(頻度不明)。
10. 無菌性髄膜炎(頻度不明)(項部硬直，発熱，頭痛，悪心・嘔吐，意識混濁等)。
11. 重篤な肝機能障害(頻度不明)(劇症肝炎，広範な肝壊死等，急激な意識障害)。
12. 急性脳症(頻度不明)(かぜ様症状，激しい嘔吐，意識障害，痙攣等，ライ症候群)。
13. 横紋筋融解症(頻度不明)(急激な腎機能悪化を伴うことあり)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等)。
14. 心筋梗塞，脳血管障害(各頻度不明)等の心血管系血栓塞栓性事象。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
皮膚 適用部位掻痒感 適用部位紅斑 適用部位発疹，適用部位丘疹，適用部位皮膚炎，適用部位皮膚剥脱，掻痒症，紫斑 光線過敏症，多形紅斑
消化器　上腹部痛，口内炎，腹部不快感，悪心，便秘，下痢，嘔吐，腹部膨満，胃食道逆流性疾患，食欲減退 胃痛，腹痛，消化性潰瘍，口角炎，軟便，口渇，胃腸出血，胃炎，小腸・大腸の潰瘍，出血性大腸炎，クローン病・潰瘍性大腸炎の悪化，膵炎，食道障害，吐血，下血
肝臓　ALT上昇，AST上昇 肝機能異常，γ－GTP上昇，AI－P上昇 肝障害，黄疸
腎臓　クレアチニン上昇，尿蛋白陽性，尿中血陽性，BUN上昇
血液　貧血，好酸球増加，血小板減少，リンパ球減少，白血球減少 出血傾向，血小板機能低下(出血時間の延長)
精神神経系　傾眠 頭痛，不眠，眩暈，神経過敏，しびれ，振戦，錯乱，幻覚，痙攣，抑うつ，不安，記憶障害
感覚器　視覚異常(霧視等)，耳鳴，味覚障害，聴覚障害
循環器　血圧上昇 血圧低下，動悸，頻脈
過敏症　顔面浮腫，薬疹，潮紅，蕁麻疹 発疹，喘息発作，アレルギー性紫斑，血管浮腫
その他　倦怠感，末梢性浮腫，浮腫，発熱，CK上昇，LDH上昇，血中カリウム増加，CK減少 夜間頻尿，発汗，脱毛，胸痛，血管炎
(表終了)

ジクロフェナクNa坐剤25mg「日新」（25mg1個）
両　外用　後発　流通
劇

【YJコード】1147700J2258
【薬効分類】1．1．4　解熱鎮痛消炎剤
【一般名】ジクロフェナクナトリウム
【先発品】ボルタレンサポ25mg
【メーカー】製)日新製薬　販)久光製薬
【薬価】20.9円/1個
【薬価収載日】2015/06/19
【標榜薬効】鎮痛・解熱・抗炎症剤

1 神経系及び感覚器官用医薬品

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇下記の鎮痛・消炎
関節リウマチ，変形性関節症，腰痛症，後陣痛
〇術後の鎮痛・消炎
〇他の解熱剤では効果が期待できないか，投与不可能な時の急性上気道炎（急性気管支炎を伴う急性上気道炎含む）の緊急解熱
【用法用量】成人　1回25～50mg　1日1～2回　直腸内挿入。年齢，症状に応じ低用量投与。
低体温によるショックの可能性，高齢者は少量から開始。
小児　1回0．5～1mg／kg　1日1～2回　直腸内挿入。年齢，症状に応じ低用量投与。
低体温によるショックの可能性，少量から開始。
年齢別投与量の目安は下記の通り（1回量）。
1～3歳未満　6．25mg。
3～6歳未満　6．25～12．5mg。
6～9歳未満　12．5mg。
9～12歳未満　12．5～25mg。
注意
他の消炎鎮痛剤との併用は避ける。

■禁忌

【禁忌】1．消化性潰瘍。
2．重篤な血液異常。
3．重篤な腎機能障害。
4．重篤な肝機能障害。
5．重篤な高血圧症。
6．重篤な心機能不全。
7．本剤の成分に過敏症の既往。
8．直腸炎，直腸出血，痔疾。
9．アスピリン喘息・その既往。
10．インフルエンザの臨床経過中の脳炎・脳症。
11．妊婦・妊娠の可能性。
12．トリアムテレンの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック（胸内苦悶，冷汗，呼吸困難，四肢冷却，血圧低下，意識障害等），アナフィラキシー（各頻度不明）（蕁麻疹，血管浮腫，呼吸困難等）。
2．出血性ショック・穿孔を伴う消化管潰瘍（各頻度不明）。
3．消化管の狭窄・閉塞（頻度不明）。
4．再生不良性貧血，溶血性貧血，無顆粒球症，血小板減少（各頻度不明）。
5．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，紅皮症（剥脱性皮膚炎）（各頻度不明）。
6．急性腎障害（間質性腎炎，腎乳頭壊死等），ネフローゼ症候群（各頻度不明）（乏尿，血尿，尿蛋白，BUN・血中クレアチニン上昇，高カリウム血症，低アルブミン血症等）。
7．重症喘息発作（アスピリン喘息）（頻度不明）。
8．間質性肺炎（頻度不明）。
9．うっ血性心不全（頻度不明）。
10．無菌性髄膜炎（頻度不明）（項部硬直，発熱，頭痛，悪心・嘔吐，意識混濁等）。
11．重篤な肝機能障害（頻度不明）（劇症肝炎，広範な肝壊死等，急激な意識障害）。
12．急性脳症（頻度不明）（かぜ様症状，激しい嘔吐，意識障害，痙攣等，ライ症候群）。
13．横紋筋融解症（頻度不明）（急激な腎機能悪化を伴うことあり）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等）。
14．心筋梗塞，脳血管障害（各頻度不明）等の心血管系血栓塞栓性事象。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
消化器 腹痛，下痢 悪心・嘔吐，便秘，口内炎 軟便・直腸粘膜の刺激，消化性潰瘍，胃腸出血，食欲不振，胃炎，吐血，下血，胃痛，小腸・大腸の潰瘍，出血性大腸炎，クローン病・潰瘍性大腸炎の悪化，膵炎，食道障害
血液 ― ― 貧血，出血傾向，血小板機能低下（出血時間の延長）
肝臓 ― ― AST・ALT上昇，肝機能障害，黄疸
皮膚 ― 掻痒症 光線過敏症，紫斑，多形紅斑
過敏症 ― 発疹，顔面浮腫 蕁麻疹，喘息発作，アレルギー性紫斑，血管浮腫
精神神経系 ― 眩暈，頭痛 眠気，不眠，神経過敏，しびれ，振戦，錯乱，幻覚，痙攣，抑うつ，不安，記憶障害
感覚器 ― ― 耳鳴，視覚異常（霧視等），味覚障害，聴覚障害
循環器 ― 血圧低下 血圧上昇，動悸，頻脈
その他 ― 浮腫，全身倦怠感 発熱，胸痛，発汗，脱毛，血管炎
（表終了）

ジクロフェナクNa坐剤50mg「日新」（50mg1個）

両 外用 後発 流通 劇

【YJコード】1147700J3270

【薬効分類】1．1．4　解熱鎮痛消炎剤
【一般名】ジクロフェナクナトリウム
【先発品】ボルタレンサポ50mg
【メーカー】製）日新製薬　販）久光製薬
【薬価】20.9円/1個
【薬価収載日】2015/05/25
【標榜薬効】鎮痛・解熱・抗炎症剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇下記の鎮痛・消炎
関節リウマチ，変形性関節症，腰痛症，後陣痛
〇術後の鎮痛・消炎
〇他の解熱剤では効果が期待できないか，投与不可能な時の急性上気道炎（急性気管支炎を伴う急性上気道炎含む）の緊急解熱
【用法用量】成人　1回25～50mg　1日1～2回　直腸内挿入。年齢，症状に応じ低用量投与。
低体温によるショックの可能性，高齢者は少量から開始。
小児　1回0．5～1mg／kg　1日1～2回　直腸内挿入。年齢，症状に応じ低用量投与。
低体温によるショックの可能性，少量から開始。
年齢別投与量の目安は下記の通り（1回量）。
1～3歳未満　6．25mg。
3～6歳未満　6．25～12．5mg。
6～9歳未満　12．5mg。
9～12歳未満　12．5～25mg。
注意
他の消炎鎮痛剤との併用は避ける。

■禁忌

【禁忌】1．消化性潰瘍。
2．重篤な血液異常。
3．重篤な腎機能障害。
4．重篤な肝機能障害。
5．重篤な高血圧症。
6．重篤な心機能不全。
7．本剤の成分に過敏症の既往。
8．直腸炎，直腸出血，痔疾。
9．アスピリン喘息・その既往。
10．インフルエンザの臨床経過中の脳炎・脳症。
11．妊婦・妊娠の可能性。
12．トリアムテレンの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック（胸内苦悶，冷汗，呼吸困難，四肢冷却，血圧低下，意識障害等），アナフィラキシー（各頻度不明）（蕁麻疹，血管浮腫，呼吸困難等）。
2．出血性ショック・穿孔を伴う消化管潰瘍（各頻度不明）。
3．消化管の狭窄・閉塞（頻度不明）。
4．再生不良性貧血，溶血性貧血，無顆粒球症，血小板減少（各頻度不明）。
5．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，紅皮症（剥脱性皮膚炎）（各頻度不明）。
6．急性腎障害（間質性腎炎，腎乳頭壊死等），ネフローゼ症候群（各頻度不明）（乏尿，血尿，尿蛋白，BUN・血中クレアチニン上昇，高カリウム血症，低アルブミン血症等）。
7．重症喘息発作（アスピリン喘息）（頻度不明）。
8．間質性肺炎（頻度不明）。
9．うっ血性心不全（頻度不明）。
10．無菌性髄膜炎（頻度不明）（項部硬直，発熱，頭痛，悪心・嘔吐，意識混濁等）。
11．重篤な肝機能障害（頻度不明）（劇症肝炎，広範な肝壊死等，急激な意識障害）。
12．急性脳症（頻度不明）（かぜ様症状，激しい嘔吐，意識障害，痙攣等，ライ症候群）。
13．横紋筋融解症（頻度不明）（急激な腎機能悪化を伴うことあり）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等）。
14．心筋梗塞，脳血管障害（各頻度不明）等の心血管系血栓塞栓性事象。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
消化器 腹痛，下痢 悪心・嘔吐，便秘，口内炎 軟便・直腸粘膜の刺激，消化性潰瘍，胃腸出血，食欲不振，胃炎，吐血，下血，胃痛，小腸・大腸の潰瘍，出血性大腸炎，クローン病・潰瘍性大腸炎の悪化，膵炎，食道障害
血液 ― ― 貧血，出血傾向，血小板機能低下（出血時間の延長）
肝臓 ― ― AST・ALT上昇，肝機能障害，黄疸
皮膚 ― 掻痒症 光線過敏症，紫斑，多形紅斑
過敏症 ― 発疹，顔面浮腫 蕁麻疹，喘息発作，アレルギー性紫斑，血管浮腫
精神神経系 ― 眩暈，頭痛 眠気，不眠，神経過敏，しびれ，振戦，錯乱，幻覚，痙攣，抑うつ，不安，記憶障害
感覚器 ― ― 耳鳴，視覚異常（霧視等），味覚障害，聴覚障害
循環器 ― 血圧低下 血圧上昇，動悸，頻脈
その他 ― 浮腫，全身倦怠感 発熱，胸痛，発汗，脱毛，血管炎
（表終了）

1 神経系及び感覚器官用医薬品

ジクロフェナクNa錠25mg「トーワ」（25mg1錠）

両 内服 後発 流通
劇

【YJコード】1147002F1625
【薬効分類】1．1．4 解熱鎮痛消炎剤
【一般名】ジクロフェナクナトリウム
【先発品】ボルタレン錠25mg
【メーカー】製)東和薬品 販)日医工
【薬価】5.9円/1T
【薬価収載日】2013/06/21
【標榜薬効】鎮痛・抗炎症剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．下記の鎮痛・消炎
関節リウマチ，変形性関節症，変形性脊椎症，腰痛症，腱鞘炎，頸肩腕症候群，神経痛，後陣痛，骨盤内炎症，月経困難症，膀胱炎，前眼部炎症，歯痛
2．手術・抜歯後の鎮痛・消炎
3．下記の解熱・鎮痛
急性上気道炎(急性気管支炎を伴う急性上気道炎含む)
【用法用量】関節リウマチ，変形性関節症，変形性脊椎症，腰痛症，腱鞘炎，頸肩腕症候群，神経痛，後陣痛，骨盤内炎症，月経困難症，膀胱炎，前眼部炎症，歯痛の鎮痛・消炎，手術・抜歯後の鎮痛・消炎
成人 1日75～100mg 1日3回 分割 内服。1回25～50mg 頓服。空腹時は避ける。
急性上気道炎の解熱・鎮痛
成人 1回25～50mg 頓服。適宜増減。1日最大100mg 1日2回まで。空腹時は避ける。
注意
他の消炎鎮痛剤との併用は避ける。

■禁忌

【禁忌】1．消化性潰瘍。
2．重篤な血液異常。
3．重篤な腎機能障害。
4．重篤な肝機能障害。
5．重篤な高血圧症。
6．重篤な心機能不全。
7．本剤の成分に過敏症の既往。
8．アスピリン喘息・その既往。
9．インフルエンザの臨床経過中の脳炎・脳症。
10．妊婦・妊娠の可能性。
11．トリアムテレンの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック(胸内苦悶，冷汗，呼吸困難，四肢冷却，血圧低下，意識障害等)，アナフィラキシー(各頻度不明)(蕁麻疹，血管浮腫，呼吸困難等)。
2．出血性ショック・穿孔を伴う消化管潰瘍(各頻度不明)。
3．消化管の狭窄・閉塞(頻度不明)。
4．再生不良性貧血，溶血性貧血，無顆粒球症，血小板減少(各頻度不明)。
5．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，紅皮症(剥脱性皮膚炎)(各頻度不明)。
6．急性腎障害(間質性腎炎，腎乳頭壊死等)，ネフローゼ症候群(各頻度不明)(乏尿，血尿，尿蛋白，BUN・血中クレアチニン上昇，高カリウム血症，低アルブミン血症等)。
7．重症喘息発作(アスピリン喘息)(頻度不明)。
8．間質性肺炎(頻度不明)。
9．うっ血性心不全(頻度不明)。
10．無菌性髄膜炎(頻度不明)(項部硬直，発熱，頭痛，悪心・嘔吐，意識混濁等)。
11．重篤な肝機能障害(頻度不明)(劇症肝炎，広範な肝壊死等，急激な意識障害)。
12．急性脳症(頻度不明)(かぜ様症状，激しい嘔吐，意識障害，痙攣等，ライ症候群)。
13．横紋筋融解症(頻度不明)(急激な腎機能悪化を伴うことあり)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等)。
14．心筋梗塞，脳血管障害(各頻度不明)等の心血管系血栓塞栓性事象。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
消化器 食欲不振，悪心・嘔吐，胃痛 腹痛，下痢，口内炎，口渇，便秘 消化性潰瘍，胃腸出血，吐血，下血，小腸・大腸の潰瘍，出血性大腸炎，クローン病・潰瘍性大腸炎の悪化，膵炎，食道障害，胃炎
血液 ― 出血傾向 貧血，血小板機能低下(出血時間の延長)
肝臓 ― ― 黄疸，肝機能障害，AST・ALT上昇
皮膚 ― 掻痒症 光線過敏症，多形紅斑，紫斑
過敏症 ― 発疹，顔面浮腫 蕁麻疹，喘息発作，アレルギー性紫斑，血管浮腫
精神神経系 ― 頭痛，眠気，眩暈 不眠，しびれ，神経過敏，振戦，錯乱，幻覚，痙攣，抑うつ，不安，記憶障害
感覚器 ― ― 視覚異常(霧視等)，耳鳴，味覚障害，聴覚障害
循環器 ― 動悸 血圧上昇，血圧低下，頻脈
その他 ― 浮腫，全身倦怠感 発汗，脱毛，発熱，胸痛，血管炎
(表終了)

セレコキシブ錠100mg「VTRS」（100mg1錠）

両 内服 後発 流通
劇

【YJコード】1149037F1224
【薬効分類】1．1．4 解熱鎮痛消炎剤
【一般名】セレコキシブ
【先発品】セレコックス錠100mg
【メーカー】製)ヴィアトリス・ヘルスケア 販)ヴィアトリス製薬
【薬価】9.3円/1T
【薬価収載日】2023/11/22
【標榜薬効】非ステロイド性消炎・鎮痛剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○下記の消炎・鎮痛
関節リウマチ，変形性関節症，腰痛症，肩関節周囲炎，頸肩腕症候群，腱・腱鞘炎
○術後・外傷後・抜歯後の消炎・鎮痛
【用法用量】関節リウマチ
成人 1回100～200mg 1日2回 朝・夕食後 内服。
変形性関節症，腰痛症，肩関節周囲炎，頸肩腕症候群，腱・腱鞘炎
成人 1回100mg 1日2回 朝・夕食後 内服。
術後・外傷後・抜歯後の消炎・鎮痛
成人 初回のみ400mg，2回目以降 1回200mg 1日2回 内服。投与間隔 6時間以上あける。初回のみ400mg，必要時 200mg 6時間以上あけ 1日2回まで 頓服。
注意
1．慢性疾患(関節リウマチ，変形性関節症等) 投与開始後2～4週間を経過しても治療効果なければ，他の治療法の選択を考慮。
2．1年を超える長期投与時の安全性は未確立，長期投与により，心筋梗塞，脳卒中等の重篤で場合により致命的な心血管系血栓塞栓性事象の増加の報告あり(外国)。
3．他の消炎・鎮痛剤(心血管系疾患予防で使用するアスピリン除く)との併用は避ける。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分・スルホンアミドに過敏症の既往。
2．アスピリン喘息・その既往。
3．消化性潰瘍。
4．重篤な肝障害。
5．重篤な腎障害。
6．重篤な心機能不全。
7．冠動脈バイパス再建術の周術期。
8．妊娠末期。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)，呼吸困難，血管浮腫，血管炎，気管支痙攣等の重篤な過敏症。
2．消化性潰瘍(0．2%)，消化管出血(0．1%未満)，消化管穿孔(頻度不明)(吐血，下血(メレナ)等)。
3．心筋梗塞，脳卒中(各頻度不明)，致命的な心血管系血栓塞栓性事象。
4．心不全，うっ血性心不全(各頻度不明)。
5．肝不全，肝炎(各頻度不明)，肝機能障害(0．1%未満)，黄疸(頻度不明)，AST，ALT，ビリルビン等の上昇。
6．再生不良性貧血，汎血球減少症，無顆粒球症(各頻度不明)，白血球減少症，血小板減少症。
7．急性腎障害，間質性腎炎(各頻度不明)等の重篤な腎障害。
8．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑，急性汎発性発疹性膿疱症，剥脱性皮膚炎(各頻度不明)(発疹，粘膜障害，他の過敏症)。
9．間質性肺炎(頻度不明)(咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常(捻髪音)等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
全身 倦怠感，口渇，末梢性浮腫 悪寒，全身浮腫，疲労，ほてり，体重増加 インフルエンザ様疾患
精神神経系 傾眠 頭痛，浮動性眩暈，味覚異常 酩酊感，体位性眩暈，感覚鈍麻，意識レベルの低下 不眠症，睡眠障害，錯乱状態，不安，幻覚，筋緊張亢進，無嗅覚
肝胆道系 ALT増加 AST増加，γ－GTP増加，AI－P増加，血中ビリルビン増加，尿ウロビリノーゲン陽性
代謝・栄養 BUN増加 CK増加，食欲不振，LDH増加，尿糖陽性 糖尿病 血中カリウム増加，血中ナトリウム増加
消化器 腹痛，口内炎，下痢，便潜血陽性 悪心，鼓腸，消化不良，便秘，胃炎，口内乾燥，舌障害，嘔吐，口角糜爛，腹部膨満，上腹部痛，胃不快感 胃腸障害，舌炎，口腔内痛，食道炎，口の感覚鈍麻，アフタ性口内炎，口腔粘膜水疱形成，心窩部不快感，胃腸炎 歯の脱落，口

1　神経系及び感覚器官用医薬品

腔内潰瘍，嚥下障害，胃食道逆流性疾患，膵炎，憩室，過敏性腸症候群，痔出血，排便回数増加
泌尿器　β２－マイクログロブリン増加 NAG増加，尿潜血陽性 尿蛋白陽性 多尿，尿閉，頻尿，腎機能障害 腎結石症，良性前立腺肥大症，前立腺炎，PSA増加，血中クレアチニン増加
循環器　高血圧，潮紅，動悸 高血圧増悪，循環虚脱 不整脈，頻脈，洞性徐脈，狭心症，不安定狭心症，大動脈弁閉鎖不全症，冠動脈硬化症，心室肥大，深部静脈血栓症，血腫
呼吸器　咽頭炎，鼻出血，鼻咽頭炎 気管支炎，咳嗽，鼻炎，副鼻腔炎，呼吸困難，発声障害
皮膚　発疹 掻痒症，顔面浮腫，紅斑性皮疹，湿疹，蕁麻疹，薬疹 点状出血，斑状丘疹状皮疹，皮膚乾燥，頭部粃糠疹，多汗，皮膚炎，紅斑 斑状出血，光線過敏性反応，脱毛症，水疱性皮膚炎
感覚器　耳鳴，回転性眩暈 耳痛，霧視，眼掻痒症 硝子体浮遊物，結膜出血，聴力低下
その他　背部痛，筋硬直，関節痛，四肢痛，不正子宮出血，月経障害，ウイルス感染，細菌性腸炎，頚部痛 貧血，ヘマトクリット減少，ヘモグロビン増加，真菌感染，細菌感染，ヘリコバクター感染，尿路感染，上気道感染，耳感染，帯状疱疹，丹毒，創傷感染，歯肉感染，迷路炎，アレルギー増悪，無菌性髄膜炎，筋痙縮，脂肪腫，ガングリオン，膣出血，乳房圧痛，卵巣嚢胞，閉経期症状，血中テストステロン減少，上顆炎，腱断裂，骨折，損傷
（表終了）

ソセゴン注射液15mg（15mg1管）

内　注射　流通
劇　精2

【YJコード】1149401A1027
【薬効分類】1．1．4　解熱鎮痛消炎剤
【一般名】ペンタゾシン
【メーカー】製)丸石製薬　販)アステラス製薬
【薬価】87円/1A
【標榜薬効】鎮痛剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇下記の鎮痛
各種癌，術後，心筋梗塞，胃・十二指腸潰瘍，腎・尿路結石，閉塞性動脈炎，胃・尿管・膀胱検査器具使用時
〇麻酔前投薬，麻酔補助
【用法用量】鎮痛
成人　1回15mg　筋注・皮下注。必要時　3～4時間ごと　反復注射。適宜増減。
麻酔前投薬・麻酔補助
30～60mg　筋注・皮下注・静注。適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．頭部傷害，頭蓋内圧の上昇。
3．重篤な呼吸抑制状態，全身状態の著しい悪化。
4．ナルメフェン塩酸塩水和物の投与中・中止後1週間以内。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（顔面蒼白，呼吸困難，チアノーゼ，血圧下降，頻脈，全身発赤，血管浮腫，蕁麻疹等）。
2．呼吸抑制（0．42%）。
3．依存性（頻度不明）（薬物依存），禁断症状（振戦，不安，興奮，悪心，動悸，冷感，不眠等）。
4．中毒性表皮壊死融解症（頻度不明）。
5．無顆粒球症（頻度不明）。
6．神経原性筋障害（頻度不明）（四肢の筋萎縮，脱力，歩行困難）。
7．痙攣（頻度不明）（強直性痙攣，間代性痙攣）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 傾眠，眩暈，ふらつき，発汗 幻覚，しびれ感，多幸感，不安，頭痛，頭重，複視，振戦 錯乱，鎮静，意識障害，浮遊感，興奮，痙攣
循環器　血圧上昇，血圧低下，皮膚潮紅，熱感
消化器 悪心 嘔吐，口渇 便秘
過敏症　顔面浮腫，発赤，発疹，多形紅斑
血液　白血球減少，貧血
肝臓　肝機能異常
泌尿器　排尿障害，尿閉
その他　胸内苦悶，疲労感，不快感，悪寒 発熱，脱力感，倦怠感
（表終了）

ソランタール錠100mg（100mg1錠）

両　内服　流通

【YJコード】1148001F2101
【薬効分類】1．1．4　解熱鎮痛消炎剤
【一般名】チアラミド塩酸塩
【メーカー】製)LTLファーマ　販)アステラス製薬　販)藤沢薬品工業
【薬価】10.4円/1T
【標榜薬効】鎮痛・抗炎症剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇各科の術後・外傷後の鎮痛・消炎
〇下記の鎮痛・消炎
関節炎，腰痛症，頸肩腕症候群，骨盤内炎症，軟産道損傷，乳房うっ積，帯状疱疹，多形滲出性紅斑，膀胱炎，副睾丸炎，前眼部炎症，智歯周囲炎
〇抜歯後の鎮痛・消炎
〇下記の鎮痛
急性上気道炎
【用法用量】各科術後・外傷後の鎮痛・消炎，関節炎，腰痛症，頸肩腕症候群，骨盤内炎症，軟産道損傷，乳房うっ積，帯状疱疹，多形滲出性紅斑，膀胱炎，副睾丸炎，前眼部炎症，智歯周囲炎の鎮痛・消炎，抜歯後の鎮痛・消炎
成人　1回チアラミド100mg　1日3回　内服。適宜増減。
急性上気道炎の鎮痛
成人　1回チアラミド100mg　頓服。適宜増減。1日最大チアラミド300mg　1日2回まで。
注意
他の消炎鎮痛剤との併用は避ける。

■禁忌

【禁忌】1．消化性潰瘍。
2．重篤な血液異常。
3．重篤な肝障害。
4．重篤な腎障害。
5．本剤の成分に過敏症の既往。
6．アスピリン喘息・その既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック（0．1%未満）。
2．アナフィラキシー（0．1%未満）（呼吸困難，蕁麻疹，血管浮腫等）。
3．心筋梗塞，脳血管障害（各頻度不明）等の心血管系血栓塞栓性事象。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
過敏症 発疹
消化器 食欲不振，悪心，胸やけ，腹部膨満感，腹痛 下痢，便秘，嘔吐，口渇
精神神経系　頭痛，眩暈・ふらつき，不眠，眠気
その他　浮腫，倦怠感
（表終了）

トアラセット配合錠「ケミファ」（1錠）

両　内服　後発　流通
劇

【YJコード】1149117F1152
【薬効分類】1．1．4　解熱鎮痛消炎剤
【一般名】トラマドール塩酸塩・アセトアミノフェン配合剤
【先発品】トラムセット配合錠
【メーカー】製)日本薬品工業　販)日本ケミファ
【薬価】14.3円/1T
【薬価収載日】2018/12/14
【標榜薬効】慢性疼痛／抜歯後疼痛治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】非オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記の鎮痛
非癌性慢性疼痛
抜歯後の疼痛
注意
非癌性慢性疼痛
原因となる器質的病変，心理的・社会的要因，依存リスクを含めた包括的な診断を行い，投与の適否を慎重に判断。
【用法用量】非癌性慢性疼痛
成人　1回1錠　1日4回　内服。投与間隔4時間以上あける。
適宜増減，1回2錠，1日8錠まで。空腹時は避ける。
抜歯後の疼痛
成人　1回2錠　内服。
追加投与時　投与間隔4時間以上あけ　1回2錠　1日8錠まで。空腹時は避ける。
注意
非癌性慢性疼痛
1．投与の継続
投与開始後4週間を経過しても効果が期待できない時，他の治療への変更を検討。定期的に症状・効果を確認し，投与の継続の必要性を検討。
2．投与の中止
退薬症候を防ぐために漸減。
3．アスピリン喘息・その既往　1回1錠。

■禁忌

【禁忌】効能共通
1．12歳未満の小児。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

2. アルコール，睡眠剤，鎮痛剤，オピオイド鎮痛剤，向精神薬による急性中毒。
3. MAO阻害剤（セレギリン塩酸塩，ラサギリンメシル酸塩，サフィナミドメシル酸塩）の投与中・中止後14日以内。
4. ナルメフェン塩酸塩の投与中・中止後1週間以内。
5. 治療による管理が不十分なてんかん。
6. 重篤な肝障害。
7. 本剤の成分に過敏症の既往。
抜歯後の疼痛
8. アスピリン喘息・その既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（頻度不明）（呼吸困難，喘鳴，血管浮腫，蕁麻疹等）。
2. 痙攣（0．2%）。
3. 意識消失（0．2%）。
4. 依存性（頻度不明）（耐性，精神的依存，身体的依存），退薬症候（激越，不安，神経過敏，不眠症，運動過多，振戦，胃腸症状，パニック発作，幻覚，錯感覚，耳鳴等）。
5. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，急性汎発性発疹性膿疱症（頻度不明）。
6. 間質性肺炎（頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常等）。
7. 間質性腎炎，急性腎障害（頻度不明）。
8. 喘息発作の誘発（頻度不明）。
9. 劇症肝炎，肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（頻度不明）。
10. 顆粒球減少症（頻度不明）。
11. 呼吸抑制（頻度不明）。
12. 薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
感染症・寄生虫症　腎盂腎炎
血液・リンパ系障害　貧血
代謝・栄養障害　食欲不振 高脂血症，低血糖症
精神障害　不眠症 不安，幻覚 錯乱，多幸症，神経過敏，健忘，離人症，うつ病，薬物乱用，インポテンス，悪夢，異常思考，せん妄
神経系障害 傾眠（25．9%），浮動性眩暈（18．9%），頭痛 味覚異常 筋緊張亢進，感覚鈍麻，錯感覚，注意力障害，振戦，筋不随意運動，第4脳神経麻痺，片頭痛 運動失調，昏迷，会話障害，運動障害
眼障害　視覚異常 縮瞳，散瞳
耳・迷路障害　耳不快感，耳鳴，回転性眩暈
心臓障害　動悸 不整脈，頻脈
血管障害　高血圧，ほてり 低血圧，起立性低血圧
呼吸器，胸郭・縦隔障害　呼吸困難，嗄声
胃腸障害 悪心（41．4%），嘔吐（26．2%），便秘（21．2%），胃不快感 腹痛，下痢，口内炎，口内乾燥，消化不良，胃炎 逆流性食道炎，口唇炎，胃腸障害，腹部膨満，胃潰瘍，鼓腸，メレナ，上部消化管出血 嚥下障害，舌浮腫
肝胆道系障害 肝機能検査異常
皮膚・皮下組織障害 掻痒症 発疹，多汗症，冷汗
腎・尿路障害　排尿困難 アルブミン尿，尿閉 乏尿
全身障害・投与局所様態 異常感 口渇，倦怠感，発熱，浮腫 胸部不快感，無力症，悪寒 疲労，胸痛，失神，離脱症候群
臨床検査　体重減少，血中CPK増加，血中尿素増加，血中トリグリセリド増加，血中ビリルビン増加，尿中血陽性，尿中ブドウ糖陽性 好酸球数増加，白血球数増加，ヘモグロビン減少，尿中蛋白陽性，血中クレアチニン増加，血中ブドウ糖増加，血小板数増加，血中クレアチニン減少，血中尿酸増加，好中球百分率増加
傷害，中毒，処置合併症　転倒・転落
（表終了）

トラマールOD錠25mg（25mg1錠）

両　内服　流通
劇

【YJコード】1149038F1024
【薬効分類】1．1．4　解熱鎮痛消炎剤
【一般名】トラマドール塩酸塩
【メーカー】製）日本新薬
【薬価】17円/1T
【薬価収載日】2014/11/28
【標榜薬効】がん疼痛・慢性疼痛治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】非オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記の鎮痛
〇疼痛を伴う各種癌
〇慢性疼痛
注意
慢性疼痛の原因となる器質的病変，心理的・社会的要因，依存リスクを含めた包括的な診断を行い，投与の適否を慎重に判断。
【用法用量】成人　トラマドール塩酸塩　1日100～300mg　1日4回分割　内服。適宜増減。1回100mg　1日400mgまで。
注意
1. 初回量
1回25mgから開始。
2. 投与間隔
4～6時間ごとの定時に内服。生活時間帯に合わせて投与間隔の調整も可能。
3. 増量・減量
投与開始後，鎮痛効果が適切で副作用が最小の用量に調整。増量・減量の目安は，1回25mg（1日100mg）ずつ行う。
4. 癌疼痛増強時の臨時追加投与
服用中の疼痛増強時や鎮痛効果がある患者で突出痛の発現時は，直ちに臨時追加投与を行い鎮痛を図る。臨時追加投与の1回量は，定時投与中の1日量の1／8～1／4を内服。
5. 投与の継続
慢性疼痛で，投与開始後4週間を経過しても効果が期待できない時は，他の適切な治療への変更を検討。定期的に症状・効果を確認し，投与の継続の必要性を検討。
6. 投与の中止
（1）．退薬症候を防ぐために漸減。
（2）．癌疼痛で，1日の定時投与量が300mgで鎮痛効果が不十分となった時，投与中止し，モルヒネ等の強オピオイド鎮痛剤への変更を考慮。その場合，定時投与量の1／5の経口モルヒネを初回量の目安とする。また，経口モルヒネ以外の強オピオイド鎮痛剤に変更時は，経口モルヒネとの換算で投与量を求める。
7. 高齢者
75歳以上では，血中濃度が高い状態で持続し，作用・副作用が増強するおそれ，1日300mgを超えない。
8. 服用時の注意
口腔内で崩壊するが，口腔粘膜から吸収されないため，唾液又は水で飲み込む。

■禁忌
【禁忌】1．12歳未満の小児。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。
3. アルコール，睡眠剤，鎮痛剤，オピオイド鎮痛剤，向精神薬による急性中毒。
4. MAO阻害剤（セレギリン塩酸塩，ラサギリンメシル酸塩，サフィナミドメシル酸塩）の投与中・中止後14日以内。
5. ナルメフェン塩酸塩水和物の投与中・中止後1週間以内。
6. 治療による管理が不十分なてんかん。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（頻度不明）（呼吸困難，気管支痙攣，喘鳴，血管神経性浮腫等）。
2. 呼吸抑制（頻度不明）。
3. 痙攣（頻度不明）。
4. 依存性（頻度不明）（耐性，精神的依存，身体的依存），退薬症候（激越，不安，神経過敏，不眠症，運動過多，振戦，胃腸症状，パニック発作，幻覚，錯感覚，耳鳴等）。
5. 意識消失（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
呼吸器　呼吸困難，口腔咽頭痛，咽喉乾燥 口腔咽頭不快感，発声障害
循環器　血圧上昇，ほてり，血圧低下，動悸 起立性低血圧，不整脈，顔面蒼白，胸内苦悶，頻脈，徐脈，高血圧
血液凝固系　好中球増加，好酸球増加・減少，リンパ球減少，ヘマトクリット減少，ヘモグロビン減少，赤血球減少，白血球増加，血小板減少
精神神経系 傾眠，浮動性眩暈，頭痛 振戦，不眠症 せん妄，幻覚，鎮静，体位性眩暈，睡眠障害，不随意性筋収縮，感覚鈍麻，味覚異常，記憶障害，健忘，ジスキネジー，眼振，回転性眩暈，疲労，耳鳴，悪夢，気分変動，うつ病，落ち着きのなさ，不安 頭重感，興奮，虚脱感，両手のしびれ感，ふらつき感，不快感，錯感覚，協調運動異常，失神，錯乱，活動低下・亢進，行動障害，知覚障害，言語障害，無感情，不快気分
消化器 悪心，嘔吐，便秘，食欲減退 下痢，腹部不快感，上腹部痛 口内乾燥，口内炎，消化不良，腹痛，胃炎，口唇炎，胃食道逆流性疾患，口の錯感覚，腹部膨満感 腹鳴，おくび，イレウス
肝臓　AST増加，ALT増加 AlーP増加，LDH増加 肝機能異常，ビリルビン増加
皮膚　多汗症，掻痒症，湿疹 発疹，全身性掻痒症，蕁麻疹，薬疹，冷汗 寝汗
腎臓・尿路系　排尿困難 尿糖陽性，尿蛋白陽性，尿潜血陽性，クレアチニン増加，BUN増加，頻尿，尿量減少，尿閉 夜間頻尿，膀胱炎
代謝異常　尿酸増加，トリグリセリド増加
その他 口渇，倦怠感 無力症，異常感 CK増加，熱感，脱水，視力障害，背部痛，関節痛，四肢痛，筋骨格硬直，浮腫，末梢性浮腫，疼痛，胸部不快感，転倒，易刺激性，悪寒，発熱，霧視 冷感，散瞳，視調節障害，心電図QT延長，体重減少
（表終了）

ナイキサン錠100mg（100mg1錠）

両　内服　流通

【YJコード】1149007F1142
【薬効分類】1．1．4　解熱鎮痛消炎剤

1 神経系及び感覚器官用医薬品

【一般名】ナプロキセン
【メーカー】製)ニプロESファーマ 販)田辺三菱製薬 販)ニプロ
【薬価】6.1円/1T
【薬価収載日】2005/06/10
【標榜薬効】鎮痛・抗炎症剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 下記の消炎・鎮痛・解熱
関節リウマチ，変形性関節症，痛風発作，強直性脊椎炎，腰痛症，肩関節周囲炎，頸肩腕症候群，腱・腱鞘炎，月経困難症，帯状疱疹
2. 外傷後・術後の消炎・鎮痛
3. 歯科・口腔外科の抜歯・小手術後の消炎・鎮痛
【用法用量】成人 1日300～600mg(本剤 3～6錠) 1日2～3回分割 内服。空腹時は避ける。痛風発作 初回 400～600mg(本剤 4～6錠) 内服。頓服・外傷後・術後初回 300mg(本剤 3錠) 内服。適宜増減。
注意
他の消炎鎮痛剤との併用は避ける。

■禁忌
【禁忌】1. 消化性潰瘍。
2. 重篤な血液異常。
3. 重篤な肝機能障害。
4. 重篤な腎機能障害。
5. 重篤な心機能不全。
6. 重篤な高血圧症。
7. 本剤の成分・他の非ステロイド性消炎鎮痛剤に過敏症の既往。
8. アスピリン喘息・その既往。
9. 妊娠後期。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック(頻度不明)。
2. PIE症候群(頻度不明)(好酸球増多を伴う肺浸潤)(発熱，咳嗽，喀痰)。
3. 皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)。
4. 胃腸出血，潰瘍(各頻度不明)。
5. 再生不良性貧血，溶血性貧血，無顆粒球症，血小板減少(各頻度不明)。
6. 糸球体腎炎，間質性腎炎，腎乳頭壊死，ネフローゼ症候群，腎不全(各頻度不明)。
7. 表皮水疱症，表皮壊死，多形性紅斑，胃腸穿孔，大腸炎，劇症肝炎，聴力障害，視力障害，無菌性髄膜炎，血管炎(各頻度不明)。
8. 心筋梗塞，脳血管障害(各頻度不明)等の心血管系血栓塞栓性事象。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒 蕁麻疹
皮膚 光線過敏症
消化器 胃部不快感，胃痛，悪心・嘔吐，食欲不振，下痢，便秘，口内炎 腹部膨満感，口渇
血液 血小板機能低下(出血時間の延長)
肝臓 黄疸，AST，ALTの上昇
精神神経系 眠気 眩暈，頭痛，手足のしびれ感，耳鳴，聴力減退 痙攣，集中力低下，見当識障害，不眠症，脱毛
その他 浮腫 心悸亢進，脱力感，血尿
(表終了)

ノイロトロピン錠4単位（4単位1錠）
両 内服 流通

【YJコード】1149023F1036
【薬効分類】1．1．4 解熱鎮痛消炎剤
【一般名】ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液
【メーカー】製)日本臓器製薬
【薬価】28.5円/1T
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】下行性疼痛抑制系賦活型疼痛治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇帯状疱疹後神経痛
〇腰痛症
〇頸肩腕症候群
〇肩関節周囲炎
〇変形性関節症
【用法用量】成人 1日4錠 1日2回 分割 朝・夕 内服。適宜増減。
注意
帯状疱疹後神経痛
4週間で効果なければ漫然投与しない。

■禁忌
【禁忌】本剤に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
2. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
過敏症 発疹 蕁麻疹，掻痒
消化器 胃部不快感，悪心・嘔気，食欲不振 下痢・軟便，胃痛，口渇，腹部膨満感，便秘，口内炎，胃重感，胃部膨満感，腹痛，放屁過多，消化不良，胸やけ，胃のもたれ感，胃腸障害，嘔吐
精神神経系 一 眠気，眩暈・ふらつき，頭痛・頭重感
その他 一 全身倦怠感，浮腫，熱感，動悸，皮膚感覚の異常
(表終了)

レペタン坐剤0．4mg（0．4mg1個）
両 外用 流通
劇 精2

【YJコード】1149703J2027
【薬効分類】1．1．4 解熱鎮痛消炎剤
【一般名】ブプレノルフィン塩酸塩
【メーカー】製)大塚製薬
【薬価】141.5円/1個
【標榜薬効】鎮痛剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の鎮痛
術後，各種癌
【用法用量】術後
成人 1回0．4mg 直腸内投与。必要時 約8～12時間ごと 反復投与。
術直後の激痛 注射剤を投与。必要時，坐剤を投与。
各種癌
成人 1回0．2mg又は0．4mg 直腸内投与。必要時 約8～12時間ごと 反復投与。低用量から開始。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 重篤な呼吸抑制状態・肺機能障害。
3. 重篤な肝機能障害。
4. 頭部傷害・脳の病変で意識混濁が危惧される患者。
5. 頭蓋内圧上昇。
6. 妊婦・妊娠の可能性。
7. 直腸炎，直腸出血，著明な痔疾。
8. ナルメフェン塩酸塩水和物の投与中・中止後1週間以内。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 呼吸抑制(1%未満)，呼吸困難(1～5%未満)，呼吸不全，呼吸停止。
2. 舌根沈下(頻度不明)，気道閉塞。
3. ショック(頻度不明)(顔面蒼白，呼吸困難，チアノーゼ，血圧降下，頻脈，全身発赤等)。
4. せん妄(頻度不明)，妄想(1%未満)。
5. 依存性(頻度不明)(薬物依存)，禁断症状(不安，不眠，興奮，胸内苦悶，嘔気，振戦，発汗等)。
6. 急性肺水腫(頻度不明)。
7. 血圧低下から失神(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 眩暈・ふらつき，眠気，頭痛・頭重感，発汗 幻覚，不安感，意識障害，しびれ，健忘，悪夢 抑うつ，顔面蒼白，見当識障害，痙攣，鎮静，軽度の多幸感，興奮
循環器 血圧低下，血圧上昇，動悸，徐脈，皮膚潮紅 不整脈，胸内苦悶，熱感
消化器 嘔気，嘔吐 口渇 食欲不振，便秘，下痢，腹痛，肛門部痛 腸管運動障害
過敏症 掻痒感，発疹
肝臓 総ビリルビン，AST，ALT，AlーPの上昇
眼 羞明感 縮瞳，視力異常
その他 倦怠感 不快感，尿閉，尿失禁，発熱 脱力感，悪寒，耳鳴
(表終了)

レペタン注0．2mg（0．2mg1管）
両 注射 流通
劇 精2

【YJコード】1149403A1050
【薬効分類】1．1．4 解熱鎮痛消炎剤
【一般名】ブプレノルフィン塩酸塩
【メーカー】製)大塚製薬
【薬価】174円/1A
【薬価収載日】2005/12/16

1 神経系及び感覚器官用医薬品

【標榜薬効】鎮痛剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1. 下記の鎮痛
術後，各種癌，心筋梗塞症
2. 麻酔補助
【用法用量】1. 鎮痛
術後，各種癌
成人 ブプレノルフィン 1回0. 2～0. 3mg(4～6μg／kg) 筋注。
初回量 0. 2mg。必要時 約6～8時間ごと 反復注射。適宜増減。
心筋梗塞症
成人 ブプレノルフィン 1回0. 2mg 徐々に静注。適宜増減。
2. 麻酔補助
成人 ブプレノルフィン 0. 2～0. 4mg(4～8μg／kg) 麻酔導入時に 徐々に静注。適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 重篤な呼吸抑制状態・肺機能障害。
3. 重篤な肝機能障害。
4. 頭部傷害・脳の病変で意識混濁が危惧される患者。
5. 頭蓋内圧上昇。
6. 妊婦・妊娠の可能性。
7. ナルメフェン塩酸塩水和物の投与中・中止後1週間以内。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 呼吸抑制(1～5%未満)，呼吸困難(頻度不明)，呼吸不全，呼吸停止。
2. 舌根沈下(頻度不明)，気道閉塞。
3. ショック(頻度不明)(顔面蒼白，呼吸困難，チアノーゼ，血圧降下，頻脈，全身発赤等)。
4. せん妄，妄想(各頻度不明)。
5. 依存性(頻度不明)(薬物依存)，禁断症状(不安，不眠，興奮，胸内苦悶，嘔気，振戦，発汗等)。
6. 急性肺水腫(頻度不明)。
7. 血圧低下から失神(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 発汗 眩暈，頭痛・頭重感 眠気，軽度の多幸感，興奮，幻覚，抑うつ 見当識障害，不安感，痙攣，しびれ，悪夢，健忘，意識障害，顔面蒼白，鎮静
循環器 顔面潮紅，血圧低下，動悸，熱感，不整脈，胸内苦悶 徐脈，血圧上昇
消化器 嘔気，口渇，嘔吐 腹痛 食欲不振，便秘，下痢，腸管運動障害
過敏症 発疹，掻痒感
肝臓 総ビリルビン上昇，AST，ALT，AI－Pの上昇
眼 縮瞳，羞明感，視力異常
その他 不快感，尿閉，発熱，倦怠感，悪寒，耳鳴 脱力感，尿失禁
(表終了)

ロキソプロフェンNa錠60mg「トーワ」(60mg1錠)

両 内服 後発 流通

【YJコード】1149019F1625
【薬効分類】1. 1. 4 解熱鎮痛消炎剤
【一般名】ロキソプロフェンナトリウム水和物
【先発品】ロキソニン錠60mg
【メーカー】(製)東和薬品 (販)共創未来ファーマ
【薬価】10.1円/1T
【薬価収載日】2013/06/21
【標榜薬効】鎮痛・抗炎症・解熱剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1. 下記の消炎・鎮痛
関節リウマチ，変形性関節症，腰痛症，肩関節周囲炎，頸肩腕症候群，歯痛
2. 術後・外傷後・抜歯後の鎮痛・消炎
3. 下記の解熱・鎮痛
急性上気道炎(急性気管支炎を伴う急性上気道炎含む)
【用法用量】(表開始)
効能・効果 用法・用量
1. 下記の消炎・鎮痛 関節リウマチ，変形性関節症，腰痛症，肩関節周囲炎，頸肩腕症候群，歯痛 2. 術後・外傷後・抜歯後の鎮痛・消炎 成人 1回60mg 1日3回 内服。1回60～120mg 頓服。適宜増減。空腹時は避ける。
3. 下記の解熱・鎮痛 急性上気道炎(急性気管支炎を伴う急性上気道炎含む) 成人 1回60mg 頓服。適宜増減。1日最大180mg 1日2回まで。空腹時は避ける。
(表終了)
注意
他の消炎鎮痛剤との併用は避ける。

■禁忌

【禁忌】1. 消化性潰瘍。
2. 重篤な血液異常。
3. 重篤な肝機能障害。
4. 重篤な腎機能障害。
5. 重篤な心機能不全。
6. 本剤の成分に過敏症の既往。
7. アスピリン喘息・その既往。
8. 妊娠後期。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. ショック(頻度不明)，アナフィラキシー(頻度不明)(血圧低下，蕁麻疹，喉頭浮腫，呼吸困難等)。
2. 無顆粒球症(頻度不明)，白血球減少(頻度不明)，溶血性貧血(頻度不明)，再生不良性貧血(頻度不明)，血小板減少(頻度不明)。
3. 中毒性表皮壊死融解症(頻度不明)，皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)，多形紅斑(頻度不明)，急性汎発性発疹性膿疱症(頻度不明)。
4. 急性腎障害(頻度不明)，ネフローゼ症候群(頻度不明)，間質性腎炎(頻度不明)，高カリウム血症。
5. うっ血性心不全(頻度不明)。
6. 心筋梗塞(頻度不明)，脳血管障害(頻度不明)等の心血管系血栓塞栓性事象。
7. 間質性肺炎(頻度不明)(発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等)。
8. 重篤な消化性潰瘍(頻度不明)，消化管出血(頻度不明)(小腸，大腸からの吐血，下血，血便等)，ショック。
9. 消化管穿孔(頻度不明)(心窩部痛，腹痛等)。
10. 小腸・大腸の狭窄・閉塞(頻度不明)(悪心・嘔吐，腹痛，腹部膨満等)。
11. 劇症肝炎(頻度不明)，肝機能障害(頻度不明)(黄疸(頻度不明)，AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇等)。
12. 喘息発作(頻度不明)等の急性呼吸障害。
13. 無菌性髄膜炎(頻度不明)(発熱，頭痛，悪心・嘔吐，項部硬直，意識混濁等)。
14. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等)，急性腎障害。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～2%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感 発熱，蕁麻疹
消化器 腹痛，胃部不快感，食欲不振，悪心，下痢，便秘，胸やけ，口内炎，腹部膨満，口渇 嘔吐 消化性潰瘍，小腸・大腸の潰瘍，消化不良
循環器 動悸，血圧上昇
精神神経系 眠気 頭痛，眩暈，しびれ
血液 好酸球増多 貧血，白血球減少，血小板減少
肝臓 AST上昇，ALT上昇 AI－P上昇
泌尿器 蛋白尿 血尿，排尿困難，尿量減少
その他 浮腫，顔面熱感 胸痛，倦怠感，発汗
(表終了)

ロピオン静注50mg (50mg5mL1管)

両 注射 流通
劇

【YJコード】1149407A1040
【薬効分類】1. 1. 4 解熱鎮痛消炎剤
【一般名】フルルビプロフェン アキセチル
【メーカー】(製)科研製薬
【薬価】278円/1A
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】非ステロイド性鎮痛剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の鎮痛
術後，各種癌
注意
発熱患者の解熱，腰痛症の鎮痛に使用しない。
【用法用量】成人 1回50mg ゆっくり静注。
必要時，反復投与。適宜増減。
内服不可能な時や効果不十分時に使用。
注意
1. 状態に注意し，1分以上かけて投与。
2. 内服不可能に投与時は，内服可能になれば，速やかに投与中止し，内服に切りかえる。
3. 他の非ステロイド性消炎鎮痛剤との併用は避ける。

■禁忌

【禁忌】1. 消化性潰瘍。
2. 重篤な血液異常。
3. 重篤な肝障害。
4. 重篤な腎障害。
5. 重篤な心機能不全。
6. 重篤な高血圧症。
7. 本剤の成分に過敏症の既往。
8. アスピリン喘息・その既往。
9. エノキサシン水和物・ロメフロキサシン・ノルフロキサシン・プルリフロ

1　神経系及び感覚器官用医薬品

キサシンの投与患者。
10. 妊娠後期。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（胸内苦悶，悪寒，冷汗，呼吸困難，四肢しびれ感，血圧低下，血管浮腫，蕁麻疹等）。
2. 急性腎障害，ネフローゼ症候群（各頻度不明）等の重篤な腎障害（乏尿，血尿，尿蛋白，BUN・血中クレアチニン上昇，高カリウム血症，低アルブミン血症等）。
3. 胃腸出血（頻度不明）。
4. 痙攣（頻度不明）（意識障害，意識喪失等）。
5. 喘息発作（頻度不明）（喘鳴，呼吸困難感等）。
6. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，剥脱性皮膚炎（各頻度不明）。
7. 再生不良性貧血（頻度不明）。
8. 心筋梗塞，脳血管障害（各頻度不明）等の心血管系血栓塞栓性事象。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
過敏症　掻痒感，発疹
消化器 嘔気 嘔吐 下痢
肝臓　AST上昇，ALT上昇 AlーP上昇等
精神神経系　熱感，倦怠感，悪寒 頭痛，眠気
循環器　血圧上昇，動悸
血液　血小板減少，血小板機能低下（出血時間の延長）
適用部位　注射部位の疼痛，皮下出血
（表終了）

ワントラム錠100mg（100mg1錠）

両　内服　流通
劇

【YJコード】1149038G1020
【薬効分類】1．1．4　解熱鎮痛消炎剤
【一般名】トラマドール塩酸塩
【メーカー】製）日本新薬
【薬価】68.2円/1T
【薬価収載日】2015/05/20
【標榜薬効】持続性がん疼痛・慢性疼痛治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】非オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記の鎮痛
〇疼痛を伴う各種癌
〇慢性疼痛
注意
慢性疼痛の原因となる器質的病変，心理的・社会的要因，依存リスクを含めた包括的な診断を行い，投与の適否を慎重に判断。
【用法用量】成人　1回100～300mg　1日1回　内服。適宜増減。1日400mgまで。
注意
1. 初回量
1日100mgから開始。他のトラマドール塩酸塩経口剤から切りかえ時は，その経口剤の1日量，鎮痛効果・副作用を考慮して，本剤の初回量を設定。
2. 投与間隔
定時投与（1日1回）は定刻に服用。
3. 増量・減量
投与開始後，鎮痛効果が適切で副作用が最小の用量に調整。増量・減量の目安は，1日100mgずつ行う。
4. 癌疼痛増強時の臨時追加投与
服用中の疼痛増強時や鎮痛効果がある患者で突出痛の発現時は，直ちにトラマドール塩酸塩即放性製剤の臨時追加投与を行い鎮痛を図る。臨時追加投与の1回量は，定時投与中の1日量の1／8～1／4。トラマドール塩酸塩の1日総量は400mgまで。
5. 投与の継続
慢性疼痛で，投与開始後4週間を経過しても効果が期待できない時は，他の適切な治療への変更を検討。定期的に症状・効果を確認し，投与の継続の必要性を検討。
6. 投与の中止
（1）．退薬症候を防ぐために漸減。
（2）．癌疼痛で，1日の定時投与量が300mgで鎮痛効果が不十分となった時，投与中止し，モルヒネ等の強オピオイド鎮痛剤への変更を考慮。その場合，定時投与量の1／5の経口モルヒネを初回量の目安とする。また，経口モルヒネ以外の強オピオイド鎮痛剤に変更時は，経口モルヒネとの換算で投与量を求める。
7. 高齢者
75歳以上では，血中濃度が高い状態で持続し，作用・副作用が増強するおそれ，1日300mgまで。

■禁忌
【禁忌】1．12歳未満の小児。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。
3. アルコール，睡眠剤，鎮痛剤，オピオイド鎮痛剤，向精神薬による急性中毒。
4. MAO阻害剤（セレギリン塩酸塩，ラサギリンメシル酸塩，サフィナミドメシル酸塩）の投与中・中止後14日以内。
5. ナルメフェン塩酸塩水和物の投与中・中止後1週間以内。
6. 治療による管理が不十分なてんかん。
7. 高度な腎機能障害，高度な肝機能障害。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（頻度不明）（呼吸困難，気管支痙攣，喘鳴，血管神経性浮腫等）。
2. 呼吸抑制（0．1%）。
3. 痙攣（頻度不明）。
4. 依存性（頻度不明）（耐性，精神的依存，身体的依存），退薬症候（激越，不安，神経過敏，不眠症，運動過多，振戦，胃腸症状，パニック発作，幻覚，錯感覚，耳鳴等）。
5. 意識消失（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
呼吸器　口腔咽頭不快感，発声障害 呼吸困難，口腔咽頭痛，咽喉乾燥
循環器　血圧上昇，ほてり，血圧低下，動悸，起立性低血圧，高血圧 不整脈，蒼白，胸内苦悶，頻脈，徐脈
血液凝固系　好中球増加，好酸球増加，リンパ球減少，ヘモグロビン減少，赤血球減少，白血球増加 好酸球減少，ヘマトクリット減少，血小板減少
精神神経系 傾眠，浮動性眩暈 頭痛，振戦，不眠症 せん妄，睡眠障害，感覚鈍麻，味覚異常，健忘，回転性眩暈，耳鳴，悪夢，落ち着きのなさ，不安，活動性低下，異常行動，無感情，不快気分 幻覚，鎮静，体位性眩暈，不随意性筋収縮，記憶障害，ジスキネジー，眼振，疲労，気分動揺，うつ病，頭重感，激越，抑うつ気分，両手のしびれ感，ふらつき感，不快感，錯感覚，協調運動異常，失神，錯乱，精神運動亢進，錯覚，言語障害
消化器 悪心，嘔吐，便秘，食欲減退 腹部不快感 下痢，上腹部痛，口内乾燥，口内炎，消化不良，腹痛，胃炎，口唇炎，胃食道逆流性疾患，腹部膨満感，おくび 口の錯感覚，胃腸音異常，イレウス
肝臓　AST増加，ALT増加，LDH増加，肝機能異常，ビリルビン増加 AlーP増加
皮膚　多汗症，掻痒症 湿疹，発疹，全身性掻痒症，蕁麻疹，薬疹，冷汗，寝汗
腎臓・尿路系　排尿困難，尿糖陽性，尿蛋白陽性，尿潜血陽性，クレアチニン増加，BUN増加，頻尿・夜間頻尿，尿量減少，膀胱炎 尿閉
代謝異常　尿酸増加 トリグリセリド増加
その他 口渇 倦怠感，異常感，浮腫 無力症，CK増加，脱水，関節痛，四肢痛，筋骨格硬直，易刺激性，末梢性浮腫，胸部不快感，転倒，悪寒，発熱，冷感，視調節障害，心電図QT延長，体重減少 熱感，視力障害，背部痛，疼痛，霧視，散瞳
（表終了）

1．1．6　抗パーキンソン剤

アキネトン注射液5mg（0．5%1mL1管）

内　注射　流通
劇

【YJコード】1162400A1059
【薬効分類】1．1．6　抗パーキンソン剤
【一般名】乳酸ビペリデン
【メーカー】製）住友ファーマ
【薬価】61円/1A
【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】パーキンソン症候群治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇特発性パーキンソニズム
〇その他のパーキンソニズム（脳炎後，動脈硬化性，中毒性）
〇向精神薬投与によるパーキンソニズム・ジスキネジア（遅発性除く）・アカシジア
注意
抗パーキンソン剤はフェノチアジン系薬剤，ブチロフェノン系薬剤，レセルピン誘導体等による口周部等の不随意運動（遅発性ジスキネジア）の軽減なし。場合により，症状の増悪顕性化あり。
【用法用量】成人　5～10mg　筋注。
特殊時のみ　5～10mg　5mg／約3分かけ　徐々に静注。
適宜増減。
注意
少量から開始し，慎重に維持量まで増量。他剤から本剤に切りかえ時は，他剤を漸減しながら本剤を増量。

■禁忌
【禁忌】1．閉塞隅角緑内障。
2. 本剤の成分に過敏症。
3. 重症筋無力症。

■副作用
【副作用】重大な副作用

1 神経系及び感覚器官用医薬品

1. 悪性症候群(頻度不明)(発熱, 無動緘黙, 意識障害, 強度の筋強剛, 不随意運動, 嚥下困難, 頻脈, 血圧の変動, 発汗等, 白血球の増加, 血清CKの上昇, ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下)。
2. 依存性(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
精神神経系 幻覚, せん妄, 精神錯乱, 不安, 嗜眠, 記憶障害
消化器 口渇, 悪心, 嘔吐, 食欲不振, 胃部不快感, 下痢, 便秘, 口内炎
泌尿器 排尿困難, 尿閉
過敏症 発疹
循環器 血圧低下, 血圧上昇
眼 視調節障害
肝臓 肝障害
(表終了)

アマンタジン塩酸塩錠50mg「杏林」(50mg1錠)

両 内服 後発 流通

【YJコード】1161001F1140
【薬効分類】1. 1. 6 抗パーキンソン剤
【一般名】アマンタジン塩酸塩
【先発品】シンメトレル錠50mg
【メーカー】製)キョーリンリメディオ 販)杏林製薬 販)共和薬品工業
【薬価】6.1円/1T
【薬価収載日】2013/12/13
【標榜薬効】精神活動改善・パーキンソン症候群治療・抗A型インフルエンザウイルス剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇パーキンソン症候群
〇脳梗塞後遺症に伴う意欲・自発性低下の改善
〇A型インフルエンザウイルス感染症
注意
A型インフルエンザウイルス感染症
1. 医師が特に必要と判断した時のみ投与。
症状も重く死亡率が高いと考えられる者(高齢者, 免疫不全状態等)・その患者に接する医療従事者等。
2. 抗ウイルス薬は全てのA型インフルエンザウイルス感染症に必須ではない。本剤の必要性を検討。
3. 予防時は, ワクチンによる補完を考慮し, 下記にのみ使用。
・ワクチン入手が困難
・ワクチン接種が禁忌
・ワクチン接種後抗体を獲得するまでの期間
4. A型以外のインフルエンザウイルス感染症には効果なし。
【用法用量】パーキンソン症候群
成人 初期量 アマンタジン塩酸塩 1日100mg 1日1～2回 分割 内服。
1週間後, 維持量 1日200mg 1日2回 分割 内服。
適宜増減, 1日300mg 1日3回まで。
脳梗塞後遺症に伴う意欲・自発性低下の改善
成人 アマンタジン塩酸塩 1日100～150mg 1日2～3回 分割 内服。
適宜増減。
A型インフルエンザウイルス感染症
成人 アマンタジン塩酸塩 1日100mg 1日1～2回 分割 内服。
適宜増減。高齢者・腎障害 1日100mgまで。
注意
効能共通
1. 腎機能低下 血漿中濃度が高くなり, 意識障害, 精神症状, 痙攣, ミオクロヌス等の副作用の可能性, 投与間隔を延長する等慎重投与。
<参考>クレアチニンクリアランスと投与間隔の目安
(表開始)
クレアチニンクリアランス (mL/分/1. 73m2) 投与間隔 (100mg/回)
>75 12時間
35～75 1日
25～35 2日
15～25 3日
(表終了)
(注)上記は外国人における試験に基づく目安, 国内で承認されている用法及び用量とは異なる。
脳梗塞後遺症に伴う意欲・自発性低下の改善
2. 投与期間は, 臨床効果・副作用を考慮しながら慎重に決定し, 投与12週で効果なければ中止。
A型インフルエンザウイルス感染症
3. 発症後
速やかに投与を開始(発症後48時間以降に開始しても十分な効果なし)。耐性ウイルスの発現を防ぐため, 必要最小限の期間(最長でも1週間)の投与にとどめる。
4. ワクチンの入手が困難, ワクチン接種が禁忌 地域又は施設で流行の徴候が出現後, 速やかに投与を開始。流行の終息後は速やかに投与中止。
5. ワクチン接種後抗体を獲得するまでの期間 10日以上とされるが, 抗体獲得後は速やかに投与中止。

■禁忌

【禁忌】1. 透析を要する重篤な腎障害。
2. 妊婦・妊娠の可能性, 授乳婦。
3. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 悪性症候群(0. 1%未満)(高熱, 意識障害, 高度の筋硬直, 不随意運動, ショック症状等, 白血球の増加, 血清CK(CPK)の上昇, ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下)。
2. 中毒性表皮壊死融解症(頻度不明), 皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)。
3. 視力低下を伴うびまん性表在性角膜炎(頻度不明), 角膜浮腫様症状(頻度不明)。
4. 心不全(頻度不明)。
5. 肝機能障害(頻度不明)(AST, ALT, γ-GTP上昇等)。
6. 腎障害(頻度不明)。
7. 意識障害(昏睡含む)(頻度不明), 精神症状(幻覚(5%未満), 妄想(5%未満), せん妄(5%未満), 錯乱(0. 1%未満)等), 痙攣(0. 1%未満), ミオクロヌス(頻度不明), 異常行動(頻度不明)(急に走り出す, 徘徊する等)。
8. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇等), 急性腎障害。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
精神神経系 睡眠障害, 眠気, 不安, 気分高揚, 激越, 失調, 興奮, 眩暈, 頭痛・頭重, 神経過敏, 集中力障害, 不随意運動(振戦, ジスキネジー等) 欲動亢進, 言語障害, 歩行障害の悪化, 抑うつ, 失見当識, 躁状態, 悪夢 -
眼 視調節障害(霧視等) - -
消化器 便秘, 下痢, 食欲不振, 悪心・嘔吐 腹痛 -
自律神経系 口渇, 立ちくらみ(起立性低血圧) 排尿障害 -
循環器 血圧低下 動悸 -
過敏症 発疹 - 多形滲出性紅斑
皮膚 - 光線過敏症 -
肝臓 AST, ALT, AI-Pの上昇 - -
腎臓 - BUN, クレアチニンの上昇 -
その他 脱力感・倦怠感, 発汗, 網状皮斑 下肢浮腫, 胸痛, 白血球減少 低体温, 尿失禁
(表終了)

エフピーOD錠2. 5 (2. 5mg1錠)

両 内服 流通
劇

【YJコード】1169010F2020
【薬効分類】1. 1. 6 抗パーキンソン剤
【一般名】セレギリン塩酸塩
【メーカー】製)エフピー
【薬価】260.9円/1T
【薬価収載日】2007/07/06
【標榜薬効】パーキンソン病治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】パーキンソン病(レボドパ含有製剤を併用時 Yahr重症度ステージI～IV, レボドパ含有製剤を併用しない時 Yahr重症度ステージI～III)
【用法用量】レボドパ含有製剤と併用
成人 1回2. 5mgから開始 1日1回 朝食後 内服。
2週ごと 1日2. 5mgずつ増量し 維持量 1日7. 5mg。
1日5mg以上の時 朝・昼食後, 1日7. 5mgの時 朝食後5mg, 昼食後2. 5mg 分割 内服。
適宜増減, 1日10mgまで。
レボドパ含有製剤を非併用
成人 1回2. 5mgから開始 1日1回 朝食後 内服。
2週ごと 1日2. 5mgずつ増量し 1日10mg。
1日5mg以上の時 朝・昼食後, 1日7. 5mgの時 朝食後5mg, 昼食後2. 5mg 分割 内服。
適宜増減, 1日10mgまで。
注意
レボドパ含有製剤投与患者に本剤を投与開始時, 本剤投与中の患者にレボドパ含有製剤を投与開始時 レボドパ含有製剤との併用によりレボドパの副作用が増強されるので, 慎重に維持量を決定。維持量投与後, レボドパとの併用効果と思われる不随意運動, 幻覚, 妄想等の発現時には, 本剤又はレボドパの減量等の処置。本剤又はレボドパの減量時は, 本剤のMAO-B阻害作用が長期間持続して効果の減弱に時間を要することも考慮。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. ペチジン塩酸塩含有製剤, トラマドール塩酸塩, タペンタドール塩酸塩の投与患者。
3. 他の選択的MAO-B阻害剤(ラサギリンメシル酸塩, サフィナミドメシル酸塩)の投与患者。
4. 統合失調症・その既往。
5. 覚醒剤, コカイン等の中枢興奮薬の依存・その既往。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

6. 三環系抗うつ剤(アミトリプチリン塩酸塩等), 四環系抗うつ剤(マプロチリン塩酸塩等)の投与患者。
7. 選択的セロトニン再取り込み阻害剤(フルボキサミンマレイン酸塩等), セロトニン再取り込み阻害・セロトニン受容体調節剤(ボルチオキセチン臭化水素酸塩), ノルアドレナリン・セロトニン作動性抗うつ剤(ミルタザピン), セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤(ミルナシプラン塩酸塩等), 選択的ノルアドレナリン再取り込み阻害剤(アトモキセチン塩酸塩), マジンドール, メタンフェタミン塩酸塩, リスデキサンフェタミンメシル酸塩の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 幻覚(4. 5%), 妄想(1. 3%), 錯乱(0. 5%), せん妄(0. 1%)。
2. 狭心症(頻度不明)(発現・増悪)。
3. 悪性症候群(頻度不明)(高熱, 意識障害, 高度の筋硬直, 不随意運動, 血清CK上昇等)。
4. 低血糖(頻度不明), 低血糖症状(意識障害, 昏睡等)。
5. 胃潰瘍(0. 4%)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満
精神神経系 不随意運動, 眩暈・ふらつき, 頭痛・頭重感, 不眠, 眠気 興奮, 精神症状, ジストニア(筋緊張異常), 構音障害, 歩行異常, 不安, 体のこわばり, しびれ, 多夢, うつ症状, 意識レベルの低下, 緊張低下
消化器 悪心, 嘔吐, 食欲不振, 口渇, 胃痛・腹痛, 便秘 下痢, 消化不良
循環器 起立性低血圧, 高血圧 動悸, 低血圧, 不整脈, 心電図異常
肝臓 肝機能障害(AST, ALTの上昇)
過敏症 発疹
泌尿器 排尿困難
血液 白血球減少
眼 視野狭窄
その他 血清CK上昇 浮腫, 胸痛(胸部不快感), 倦怠感, ほてり・のぼせ, 味覚異常, 多汗, 気分不良, 疲労感, 筋骨格硬直, 腰痛, 発熱, 悪寒, 体重減少, 味覚低下, 舌の違和感, 意欲低下, 筋攣縮, 四肢痛, 状態悪化
(表終了)

エンタカポン錠100mg「サンド」(100mg1錠)

両 内服 後発 流通

【YJコード】1169014F1072
【薬効分類】1. 1. 6 抗パーキンソン剤
【一般名】エンタカポン
【先発品】コムタン錠100mg
【メーカー】製)サンド
【薬価】26.3円/1T
【薬価収載日】2021/12/09
【標榜薬効】末梢COMT阻害剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】レボドパ・カルビドパ又はレボドパ・ベンセラジド塩酸塩との併用によるパーキンソン病における症状の日内変動(wearing－off現象)の改善
注意
1. 症状の日内変動(wearing－off現象)が認められるパーキンソン病に使用。
2. レボドパ・カルビドパ又はレボドパ・ベンセラジド塩酸塩の治療で, 効果不十分時に使用。
【用法用量】必ずレボドパ・カルビドパ又はレボドパ・ベンセラジド塩酸塩と併用。
成人 1回100mg 内服。症状により 1回200mg 内服。1日8回まで。
注意
1. レボドパ・カルビドパ又はレボドパ・ベンセラジド塩酸塩との併用により効果が認められる薬剤で, 単剤では効果なし。
2. レボドパの生物学的利用率を高めるため, レボドパによるドパミン作動性の副作用(ジスキネジー等)の可能性。投与開始時又は増量時は状態を観察し, ドパミン作動性の副作用の発現時は, 本剤又はレボドパ・カルビドパ又はレボドパ・ベンセラジド塩酸塩を調節。
3. 本剤の1回200mgへの増量時はジスキネジー等の可能性, 慎重に検討。増量時, これらの症状が発現した時には1回量を減量等の処置。
4. 本剤の増量は慎重に行い, 1回200mg, 1日1600mgまで。
5. 肝障害 1回200mgへの増量は必要最小限にとどめる。やむを得ず1回200mgに増量時, 慎重投与。
6. 体重40kg未満の低体重 1回200mgへの増量は慎重に検討。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 悪性症候群・横紋筋融解症・その既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 悪性症候群(1%未満)(高熱, 意識障害(昏睡), 高度の筋硬直, 不随意運動, ショック状態, 激越, 頻脈, 不安定血圧等), CK上昇を伴う横紋筋融解症, 急性腎障害。
2. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇等), 急性腎障害。
3. 前兆のない突発的睡眠(1%未満), 傾眠(5%以上)。
4. 幻覚(5%以上), 幻視(1～5%未満), 幻聴(1～5%未満), 錯乱(頻度不明)。
5. 肝機能障害(頻度不明)(胆汁うっ滞性肝炎等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
皮膚障害 － － 多汗症 紅斑性・斑状丘疹状の皮疹, 蕁麻疹, 紫斑, 皮膚・毛髪・髭・爪の変色
精神障害 不眠症 悪夢, 妄想 不安, 病的性欲亢進 激越
神経系障害 ジスキネジー(37. 5%), ジストニー 頭痛, 浮動性眩暈, 体位性眩暈, パーキンソニズム悪化(アップダウン現象等) 味覚異常, 運動過多, 振戦 失神, 回転性眩暈, 運動低下
胃腸障害 便秘(20. 2%), 悪心 上腹部痛, 下痢, 胃不快感, 食欲不振, 嘔吐, レッチング, 消化不良, 胃炎 腹痛 鼓腸, 大腸炎
肝胆道系障害 － AST増加, ALT増加 γ－GTP増加 －
腎・尿路障害 着色尿(14. 4%) 尿潜血陽性, 頻尿, BUN上昇 － －
血液・リンパ系障害 貧血 ヘモグロビン減少, 白血球数減少, 赤血球数減少, 白血球数増加 ヘマトクリット減少, 鉄欠乏性貧血 －
全身障害 － 倦怠感, 末梢性浮腫, 口渇 － 疲労, 無力症
筋骨格系障害 － 関節痛, 筋痛 背部痛, 筋痙攣 －
その他 － CK増加, LDH増加, AI－P増加, 血圧低下, 起立性低血圧, 高血圧, 体重減少, 転倒 呼吸困難 細菌感染, 血清鉄減少
(表終了)

オンジェンティス錠25mg(25mg1錠)

両 内服 流通 劇

【YJコード】1169019F1024
【薬効分類】1. 1. 6 抗パーキンソン剤
【一般名】オピカポン
【メーカー】製)小野薬品工業
【薬価】946.6円/1T
【薬価収載日】2020/08/26
【標榜薬効】末梢COMT阻害剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】レボドパ・カルビドパ又はレボドパ・ベンセラジド塩酸塩との併用によるパーキンソン病における症状の日内変動(wearing－off現象)の改善
注意
1. 症状の日内変動(wearing－off現象)が認められるパーキンソン病に使用。
2. レボドパ・カルビドパ又はレボドパ・ベンセラジド塩酸塩の治療で, 効果不十分時に使用。
【用法用量】レボドパ・カルビドパ又はレボドパ・ベンセラジド塩酸塩と併用。
成人 1回25mg 1日1回 レボドパ・カルビドパ又はレボドパ・ベンセラジド塩酸塩の投与前後・食前後1時間以上あけ 内服。
注意
1. レボドパ含有製剤と併用で効果あり, 単剤使用しても効果なし。
2. レボドパの生物学的利用率を高めるため, レボドパによるドパミン作動性の副作用(ジスキネジア, 幻覚, 悪心, 嘔吐, 起立性低血圧)の可能性。投与開始時, ドパミン作動性の副作用があれば, レボドパ含有製剤を調節。
3. 生活習慣, レボドパ含有製剤の投与時間帯等を考慮し適切な投与時間(就寝前等)を定め, 毎日一定の時間帯に投与。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 褐色細胞腫, パラガングリオーマ, その他のカテコールアミン分泌腫瘍。
3. 悪性症候群, 非外傷性横紋筋融解症の既往。
4. 重度肝機能障害(Child－Pugh分類C)。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. ジスキネジア(17. 3%)。
2. 幻覚(4. 4%), 幻視(2. 8%), 幻聴(0. 7%), せん妄(0. 5%)。
3. 傾眠(2. 1%), 前兆のない突発的睡眠(1. 2%)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系障害 浮動性眩暈, 睡眠障害 不眠症, 体位性眩暈, ジストニア, 頭痛, 感覚鈍麻, うつ病, 落ち着きのなさ, 失神, パーキンソン病, 味覚異常, 悪夢, 不安 異常な夢, 運動過多
胃腸障害 便秘 悪心, 口渇 腹部不快感, 腹部膨満, 腹痛, 嘔吐, 胃炎, 大腸ポリープ, 消化不良
心臓障害 動悸, 頻脈
代謝・栄養障害 食欲減退 脱水, 血中トリグリセリド増加, 高AI－P血症
全身障害 発熱, 異常感, 浮腫
筋骨格系障害 関節痛, 筋肉痛, 四肢痛, 筋痙縮, 変形性脊椎症, 筋骨格硬直 筋攣縮

1 神経系及び感覚器官用医薬品

血液障害　貧血，白血球減少
肝胆道系障害　肝機能障害，ALT増加
腎・尿路障害　腎機能障害，着色尿，排尿困難，頻尿，血尿，膀胱炎
皮膚障害　発疹，湿疹，接触皮膚炎
血管障害　起立性低血圧，高血圧 低血圧，血圧変動
その他　体重減少，CK増加，転倒，挫傷 裂傷，呼吸困難，咽頭炎，肺炎，回転性眩暈，創傷，足部白癬 耳閉，ドライアイ
（表終了）

カバサール錠0．25mg（0．25mg1錠）

両　内服　流通
劇

【YJコード】1169011F1028
【薬効分類】1．1．6　抗パーキンソン剤
【一般名】カベルゴリン
【メーカー】製)ファイザー　販)キッセイ薬品工業
【薬価】36.6円/1T
【薬価収載日】1999/08/13
【標榜薬効】ドパミン作動薬
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇パーキンソン病
〇乳汁漏出症
〇高プロラクチン血性排卵障害
〇高プロラクチン血性下垂体腺腫（外科的処置が必要ない時のみ）
〇産褥性乳汁分泌抑制
〇生殖補助医療に伴う卵巣過剰刺激症候群の発症抑制
注意
パーキンソン病
1．非麦角製剤の治療効果不十分・忍容性に問題があると考えられる時のみ投与。
生殖補助医療に伴う卵巣過剰刺激症候群の発症抑制
2．多嚢胞性卵巣症候群の有無，血清抗ミュラー管ホルモン濃度，血清エストラジオール濃度，卵胞数等で，生殖補助医療に伴う卵巣過剰刺激症候群の発症リスクが高いと判断される患者にのみ投与。
【用法用量】パーキンソン病
成人　カベルゴリン　1日0．25mgから開始。2週目　1日0．5mg，以後1週間ごと　1日0．5mgずつ増量し　維持量　1日最高3mg。1日1回　朝食後　内服。
乳汁漏出症，高プロラクチン血性排卵障害，高プロラクチン血性下垂体腺腫（外科的処置の不要時のみ）
成人　カベルゴリン　1回0．25mgから開始　週1回（同一曜日）　就寝前　内服。2週間以上の間隔で　1回0．25mgずつ増量し　維持量（標準1回量0．25～0．75mg）を定める。適宜増減，1回1mgまで。
産褥性乳汁分泌抑制
成人　カベルゴリン　1回1mg　食後　内服（胎児娩出後1回のみ）。
生殖補助医療に伴う卵巣過剰刺激症候群の発症抑制
カベルゴリン　1回0．5mg　1日1回　最終的な卵胞成熟の誘発日又は採卵日から7～8日間　就寝前　内服。
注意
パーキンソン病，乳汁漏出症，高プロラクチン血性排卵障害，高プロラクチン血性下垂体腺腫（外科的処置の不要時のみ）
1．少量から開始し，消化器症状（悪心，嘔吐等），血圧等を観察し，慎重に維持量まで増量。
産褥性乳汁分泌抑制
2．胎児娩出後4時間以内は投与しない。呼吸，脈拍，血圧等の安定後，投与。胎児娩出後2日以内に投与。投与後（特に投与当日）は観察を行う。類薬で血圧上昇，頭痛，中枢神経症状等の報告あり。

■禁忌

【禁忌】1．麦角製剤に過敏症の既往。
2．心臓弁尖肥厚，心臓弁可動制限，これらに伴う狭窄等の心臓弁膜の病変・その既往。
3．妊娠高血圧症候群。
4．産褥期高血圧。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．幻覚（5．5%），妄想（1．8%），失神（頻度不明），せん妄（頻度不明），錯乱（頻度不明）。
2．悪性症候群（頻度不明）（高熱，意識障害，高度の筋硬直，不随意運動，血清CK上昇等）。
3．間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，肺音の異常（捻髪音）等）。
4．胸膜炎（頻度不明），胸水（頻度不明），胸膜線維症（頻度不明），肺線維症（頻度不明），心膜炎（頻度不明），心嚢液貯留（頻度不明）（胸痛，浮腫，呼吸器症状等）。
5．心臓弁膜症（頻度不明）（心雑音の発現・増悪等），心臓弁尖肥厚，心臓弁可動制限，心臓弁膜の病変（狭窄等）。
6．後腹膜線維症（頻度不明）（背部痛，下肢浮腫，腎機能障害等）。
7．前兆のない突発的睡眠（頻度不明）。
8．肝機能障害（頻度不明）（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（頻度不明）。
9．狭心症（頻度不明），肢端紅痛症（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）（パーキンソン病）
（表開始）
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
消化器 嘔気・悪心，胃部不快感，食欲不振 口渇，嘔吐，便秘，下痢，胃のもたれ感，口内炎，腹痛，胃痛，胸やけ 胃炎
精神神経系　興奮，不眠，不安，抑うつ，徘徊等の精神症状，ふらつき，眩暈，頭重感，頭痛，ジスキネジア，睡眠時ミオクローヌス等の神経症状 傾眠，病的性欲亢進，病的賭博，薬剤離脱症候群（無感情，不安，うつ，疲労感，発汗，疼痛等），攻撃性
循環器　起立性低血圧，血圧低下，立ちくらみ，動悸，浮腫，高血圧 胸部不快感，胸痛，指の血管攣縮
呼吸器　息苦しさ
血液 赤血球数減少，血色素量減少，ヘマトクリット値減少 血小板数減少，白血球数減少，白血球数増加
過敏症　発疹，顔のほてり，掻痒 紅斑，顔面浮腫，蕁麻疹
泌尿器　排尿障害，尿失禁
その他 CK上昇 倦怠感，総コレステロール上昇，筋肉痛，発汗，脱毛 下肢の痙攣，無力症
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（乳汁漏出症，高プロラクチン血性排卵障害，高プロラクチン血性下垂体腺腫（外科的処置の不要時のみ），生殖補助医療に伴う卵巣過剰刺激症候群の発症抑制）
（表開始）
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
消化器 嘔気・悪心 嘔吐，便秘，むかつき，腹痛，下痢，胃部不快感，胃痛，胸やけ，胃炎
精神神経系 頭痛 眩暈，ふらつき，眠気，いらいら感 うつ病，異常感覚，攻撃性，病的性欲亢進，病的賭博
循環器　立ちくらみ，動悸，血圧低下 浮腫，指の血管攣縮，起立性低血圧
呼吸器　息苦しさ
血液　血小板数減少，白血球数減少 血色素量減少
過敏症　ほてり 発疹，紅斑，顔面浮腫，蕁麻疹，掻痒
その他　ざ瘡，倦怠感，トリグリセライド上昇 脱毛，乳房痛，下肢の痙攣，無力症，CK上昇
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（産褥性乳汁分泌抑制）
（表開始）
発現部位等 5%未満 頻度不明
消化器 嘔気・悪心，胃部不快感，胃痛 嘔吐，腹痛
精神神経系 頭痛，ふらつき，頭重感 傾眠，一過性半盲，攻撃性，病的性欲亢進，病的賭博
循環器 立ちくらみ ほてり，浮腫，指の血管攣縮，動悸
呼吸器　息苦しさ
血液 血小板数増加，白血球数減少
過敏症　蕁麻疹，掻痒，発疹，紅斑，顔面浮腫
その他 トリグリセライド上昇，総コレステロール上昇 倦怠感，鼻血，下肢の痙攣，脱毛，無力症，CK上昇
（表終了）

ゾニサミドOD錠25mgTRE「SMPP」（25mg1錠）

両　内服　後発　流通
劇

【YJコード】1169015F2030
【薬効分類】1．1．6　抗パーキンソン剤
【一般名】ゾニサミド
【先発品】トレリーフOD錠25mg
【メーカー】製)住友ファーマプロモ　販)住友ファーマ
【薬価】275円/1T
【薬価収載日】2023/12/08
【標榜薬効】パーキンソン病・レビー小体型認知症に伴うパーキンソニズム治療薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇パーキンソン病
（レボドパ含有製剤に他の抗パーキンソン病薬を使用しても効果不十分時）
〇レビー小体型認知症に伴うパーキンソニズム
（レボドパ含有製剤を使用してもパーキンソニズムが残存する時）
【用法用量】レボドパ含有製剤と併用。
パーキンソン病
成人　1回25mg　1日1回　内服。
パーキンソン病における症状の日内変動（wearing－off現象）の改善
1回50mg　1日1回　内服。
レビー小体型認知症に伴うパーキンソニズム
成人　1回25mg　1日1回　内服。
注意
パーキンソン病
1日50mg投与で，1日25mg投与時を上回るon時の運動機能の改善効果は未確認。

■禁忌

【禁忌】1．妊婦・妊娠の可能性。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

1 神経系及び感覚器官用医薬品

【副作用】重大な副作用
1. 悪性症候群(1%未満)(発熱, 意識障害, 無動無言, 高度の筋硬直, 不随意運動, 嚥下困難, 頻脈, 血圧の変動, 発汗, 血清CKの上昇等, ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下)。
2. 中毒性表皮壊死融解症, 皮膚粘膜眼症候群, 紅皮症(剥脱性皮膚炎)(各頻度不明)(発熱, 紅斑, 水疱・糜爛, 掻痒感, 咽頭痛, 眼充血, 口内炎等)。
3. 過敏症症候群(頻度不明)(発疹, 発熱, リンパ節腫脹, 肝機能障害等の臓器障害, 白血球増加, 好酸球増多, 異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状), ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
4. 再生不良性貧血, 無顆粒球症, 赤芽球癆(各頻度不明), 血小板減少(1%未満)。
5. 急性腎障害(頻度不明)。
6. 間質性肺炎(頻度不明)(発熱, 咳嗽, 呼吸困難, 胸部X線異常, 好酸球増多等)。
7. 重篤な肝機能障害(AST, ALT, γ-GTPの上昇等), 黄疸(各頻度不明)。
8. 横紋筋融解症(1%未満)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇等), 急性腎障害。
9. 腎・尿路結石(1%未満)(腎仙痛, 排尿痛, 血尿, 結晶尿, 頻尿, 残尿感, 乏尿等)。
10. 発汗減少に伴う熱中症(頻度不明)(体温上昇, 顔面潮紅, 意識障害等)。
11. 幻覚(1%以上), 妄想, 錯乱, せん妄(各1%未満)等の精神症状。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹, 湿疹, 掻痒感
精神神経系 眠気(6. 7%), ジスキネジア, 気力低下, 抑うつ, 眩暈・ふらつき, 睡眠障害, 頭痛・頭重, 幻視・幻聴 精神活動緩慢化, 不安・不穏, 精神症状の悪化, 感覚異常, 無気力・自発性低下, 異常感, 激越, 行動異常, 興奮, 認知症の悪化, 意識消失, 異常な夢, 自殺企図, ジストニア, しびれ感, 認知障害 運動失調
循環器 血圧低下, 動悸, 起立性低血圧, 血圧上昇, 上室性期外収縮, 心室性期外収縮
消化器 食欲不振(5. 2%), 悪心, 口渇, 胃不快感, 便秘 嘔吐, 下痢, 味覚異常, 胸やけ, 腹部膨満感, 流涎, 胃炎, 嚥下障害, 胃痛, 歯周炎, 腹部不快感, 胃潰瘍, 口内炎, 歯肉炎
血液 白血球減少, 赤血球減少, ヘモグロビン減少, 白血球増加, ヘマトクリット減少, 貧血, 顆粒球減少, 血小板減少, 好酸球増多
肝臓 ALT, AI-P, AST, LDH上昇 γ-GTP上昇, 肝機能異常
腎・泌尿器 BUN上昇 排尿障害, 頻尿, クレアチニン上昇, 尿失禁, 尿中蛋白陽性, 膀胱炎
その他 体重減少, CK上昇, 立ちくらみ, 浮腫, 倦怠感 脱力感, 転倒, 発熱, 血中カリウム減少, トリグリセリド上昇, 腰痛, 視覚障害, 四肢痛, 脱水, 気管支炎, 筋肉痛, 血中尿酸上昇, 血糖上昇, 呼吸困難, 前立腺癌, 打撲, 汗疹, 関節痛, 顔面潮紅, 血中コレステロール上昇, 骨折, 体重増加, 脱毛, 白内障, 副鼻腔炎 発汗減少
(表終了)

ドパコール配合錠L100 (1錠)

両 内服 後発 流通

【YJコード】1169101F1170
【薬効分類】1. 1. 6 抗パーキンソン剤
【一般名】レボドパ・カルビドパ水和物
【先発品】ネオドパストン配合錠L100, メネシット配合錠100
【メーカー】製)ダイト 販)日医工 販)扶桑薬品工業
【薬価】8.1円/1T
【薬価収載日】2013/06/21
【標榜薬効】パーキンソニズム治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】パーキンソン病, パーキンソン症候群
【用法用量】レボドパ未服用
成人 レボドパ量 1回100～125mg 1日100～300mgから開始 内服。毎日又は隔日 レボドパ量 100～125mgずつ増量。標準維持量 レボドパ量 1回200～250mg 1日3回。
適宜増減, レボドパ量 1日1500mgまで。
レボドパ既服用
成人 レボドパ単剤を服用後, 最低8時間あけて 1日維持量の約1／5量相当を初回量とし 1日3回 分割 内服。以後, 適宜増減。標準維持量 レボドパ量 1回200～250mg 1日3回。レボドパ量 1日1500mgまで。
注意
1. レボドパ未服用
少量から開始し, 慎重に維持量まで増量。
(表開始)
レボドパ100mg・カルビドパ水和物10. 8mg 1回1錠, 1日1～3錠から開始, 毎日又は隔日 1錠ずつ増量。維持量(標準;1回2錠, 1日3回)。適宜増減, 1日15錠まで。
(表終了)
2. レボドパ既服用
レボドパ単剤を服用後, 最低8時間あけて投与。他の抗パーキンソン剤の投与中止は不要。
(表開始)
レボドパ100mg・カルビドパ水和物10. 8mg レボドパ単剤を服用後, 最低8時間あけて 1日維持量の約1／5量相当を初回量とし 1日3回 分割 内服。以後, 適宜増減。維持量(標準;1回2錠, 1日3回)。1日15錠まで。
(表終了)

■禁忌

【禁忌】1. 閉塞隅角緑内障。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 悪性症候群(頻度不明)(高熱, 意識障害, 高度の筋硬直, 不随意運動, ショック状態等)。
2. 錯乱(頻度不明), 幻覚(頻度不明), 抑うつ(頻度不明)。
3. 溶血性貧血(頻度不明), 血小板減少(頻度不明)。
4. 前兆のない突発的睡眠(頻度不明)。
5. 閉塞隅角緑内障(頻度不明)(急激な眼圧上昇, 霧視, 眼痛, 充血, 頭痛, 嘔気等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
精神神経系 不随意運動(31. 8%), 不眠, 不安・焦燥感, 眩暈, 頭痛, 味覚異常, 妄想 傾眠, 倦怠感・脱力感, 見当識喪失 病的賭博, 病的性欲亢進, ドパミン調節障害症候群, 歩行障害, 興奮, 振戦の増強, しびれ感
消化器 悪心(11. 9%), 嘔吐, 食欲不振, 口渇, 便秘, 腹痛, 下痢 腹部膨満感, 腹部不快感, 嚥下障害 胸やけ, 唾液分泌過多, 口内炎
泌尿器 排尿異常, 尿路感染
血液 顆粒球減少, 貧血
過敏症 発疹
循環器 不整脈 血圧上昇, 起立性低血圧, 心悸亢進, 血圧低下
眼 視覚異常
肝臓 AST上昇, ALT上昇, LDH上昇, AI-P上昇
腎臓 浮腫, BUN上昇
その他 のぼせ感, 発汗 筋肉痛, 体重減少, 痰・口腔内粘膜・汗・尿・便・唾液等の変色(黒色等), 抗DNA抗体の陽性例, クームス試験の陽性例, 脱毛, 嗄声
(表終了)

ドパストン静注50mg (0. 25%20mL1管)

両 注射 流通

【YJコード】1164400A2041
【薬効分類】1. 1. 6 抗パーキンソン剤
【一般名】レボドパ
【メーカー】製)大原薬品工業
【薬価】339円/1A
【薬価収載日】2008/12/19
【標榜薬効】パーキンソニズム治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○パーキンソン病
○パーキンソン症候群
【用法用量】成人 1日25～50mg 1日1～2回 分割 そのままゆっくり静注, 点滴静注(生食又はブドウ糖液等で希釈)。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1. 閉塞隅角緑内障。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 悪性症候群(頻度不明)(高熱, 意識障害, 高度の筋硬直, 不随意運動, ショック状態等)。
2. 錯乱(頻度不明), 抑うつ(頻度不明), 幻覚(0. 3%)。
3. 溶血性貧血, 血小板減少(各頻度不明)。
4. 前兆のない突発的睡眠(頻度不明)。
5. 閉塞隅角緑内障(頻度不明)(急激な眼圧上昇, 霧視, 眼痛, 充血, 頭痛, 嘔気等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 5～5%未満 0. 5%未満 頻度不明
精神神経系 不随意運動, 頭痛・頭重感, 不眠 妄想, 興奮, 傾眠, 眩暈, 倦怠感 見当識障害, 味覚異常, 病的賭博, 病的性欲亢進, ドパミン調節障害症候群
消化器 嘔気・嘔吐, 食欲不振 口渇, 下痢 便秘, 唾液分泌過多, 胸やけ
泌尿器 排尿異常
血液 白血球減少, 貧血
過敏症 発疹
循環器 血圧低下, 血圧上昇, 心悸亢進 不整脈
眼 視覚異常
肝臓 AST上昇, ALT上昇

1 神経系及び感覚器官用医薬品

腎臓　浮腫
その他　耳鳴，熱感，汗の変色（黒色等）嗄声，発汗，筋肉痛，脱毛，唾液・痰・口腔内粘膜・尿・便等の変色（黒色等）
（表終了）

ドプスOD錠100mg（100mg1錠）

両　内服　流通

【YJコード】1169006F1027
【薬効分類】1．1．6　抗パーキンソン剤
【一般名】ドロキシドパ
【メーカー】製)住友ファーマ
【薬価】32.7円/1T
【薬価収載日】2011/06/24
【標榜薬効】ノルアドレナリン作動性神経機能改善剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．パーキンソン病（Yahr重症度ステージIII）のすくみ足，たちくらみの改善
2．下記の起立性低血圧，失神，たちくらみの改善
シャイドレーガー症候群，家族性アミロイドポリニューロパチー
3．起立性低血圧を伴う血液透析の下記の改善
眩暈・ふらつき・たちくらみ，倦怠感，脱力感
注意
パーキンソン病
1．Yahr重症度分類でステージIIIの判定。
2．他剤の治療効果が不十分で，すくみ足・たちくらみに投与。
血液透析
3．透析終了後の起立時に収縮期血圧が15mmHg以上低下する患者。治療後の血圧低下の減少度は個体内変動を超えない。
【用法用量】パーキンソン病
成人　1日100mgから開始　1日1回　内服。隔日に100mgずつ増量し　維持量　1日600mg　1日3回　分割　内服。適宜増減，1日900mgまで。
シャイドレーガー症候群，家族性アミロイドポリニューロパチー
成人　1日200～300mgから開始　1日2～3回　分割　内服。数日～1週間ごと　1日100mgずつ増量し　維持量　1日300～600mg　1日3回　分割　内服。適宜増減，1日900mgまで。
血液透析
成人　1回200～400mg　透析開始30分～1時間前　内服。適宜減量，1回400mgまで。
注意
血液透析
1ヵ月間投与して効果なければ中止。

■禁忌

【禁忌】1．本剤に過敏症。
2．閉塞隅角緑内障。
3．ハロタン等のハロゲン含有吸入麻酔剤を投与しない。
4．イソプレナリン等のカテコールアミン製剤の投与患者。
5．妊婦・妊娠の可能性。
6．重篤な末梢血管病変（糖尿病性壊疽等）のある血液透析。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．悪性症候群（頻度不明）（高熱，意識障害，高度の筋硬直，不随意運動，血清CKの上昇等）。
2．白血球減少，無顆粒球症，好中球減少，血小板減少（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 0．3～1%未満 0．3%未満 頻度不明
精神神経系 幻覚，頭痛・頭重感（3．4%），眩暈 妄想，神経過敏（いらいら感，焦燥感，興奮等），不安，抑うつ，不眠，不随意運動，頭がボーッとする 精神症状の増悪，悪夢，感情失禁，パーキンソン症状の増悪，知覚異常，振戦，固縮，すくみ，言語障害の悪化，眠気 夜間せん妄，健忘
消化器 悪心，食欲不振，胃痛（胃部不快感等）嘔吐，口渇，腹痛，消化不良（胸やけ等），便秘，下痢，流涎 腹部膨満感，舌のあれ
循環器 血圧上昇（2．2%），動悸 胸痛（胸部不快感，胸部絞扼感等）不整脈，チアノーゼ，四肢冷感 狭心症
肝臓　AST，ALTの上昇 AI－P，LDHの上昇
過敏症　発疹 掻痒
眼　羞明
泌尿器　頻尿，尿失禁，尿閉
その他　倦怠感，ほてり（顔面潮紅等）浮腫，眼瞼浮腫，脱力感，発熱，両手の痛み，肩こり のぼせ，発汗，CK上昇
（表終了）

ニュープロパッチ4．5mg（4．5mg1枚）

両　外用　流通
劇

【YJコード】1169700S2021
【薬効分類】1．1．6　抗パーキンソン剤
【一般名】ロチゴチン
【メーカー】製)大塚製薬
【薬価】296.1円/1枚
【薬価収載日】2013/02/22
【標榜薬効】ドパミン作動性パーキンソン病治療剤／レストレスレッグス症候群治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．パーキンソン病
2．中等度から高度の特発性レストレスレッグス症候群（下肢静止不能症候群）
注意
中等度から高度の特発性レストレスレッグス症候群（下肢静止不能症候群）
診断は，国際レストレスレッグス症候群研究グループの診断基準・重症度スケールにより実施し，基準を満たす時にのみ投与。
【用法用量】パーキンソン病
成人　1日4．5mgから開始　1日1回　貼付。以後1週間ごと　1日4．5mgずつ増量し　維持量　1日9～36mg。
適宜増減，1日36mgまで。
肩，上腕部，腹部，側腹部，臀部，大腿部のいずれかの正常な皮膚に貼付し　24時間ごと　貼りかえ。
中等度から高度の特発性レストレスレッグス症候群（下肢静止不能症候群）
成人　1日2．25mgから開始　1日1回　貼付。以後1週間以上あけて1日2．25mgずつ増量し　維持量　1日4．5～6．75mg。
適宜増減，1日6．75mgまで。
肩，上腕部，腹部，側腹部，臀部，大腿部のいずれかの正常な皮膚に貼付し　24時間ごと　貼りかえ。
注意
パーキンソン病
1．用法・用量に従い少量から開始し，幻覚，妄想等の精神症状，消化器症状，血圧等の観察を行い，慎重に維持量（1日9～36mg）まで増量。
2．投与中止時は，漸減。目安は，1日おきに1日4．5mgずつ減量。
中等度から高度の特発性レストレスレッグス症候群（下肢静止不能症候群）
3．投与中止時は，漸減。目安は，1日おきに1日2．25mgずつ減量。

■禁忌

【禁忌】1．妊婦・妊娠の可能性。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．前兆のない突発的睡眠（1%未満）。
2．幻覚（7．6%）（幻視），妄想（1%未満），せん妄（1%未満），錯乱（頻度不明）。
3．悪性症候群（1%未満）（発熱，意識障害，無動無言，高度の筋硬直，不随意運動，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗，血清CKの上昇等）。
4．肝機能障害（頻度不明）（AST，ALT，AI－P，γ－GTP上昇等）。
5．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇），急性腎不全。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 傾眠，ジスキネジア 頭痛，浮動性眩暈，体位性眩暈，不眠 浮遊感，ジストニア，回転性眩暈，幻聴，パーキンソン症状（すくみ足，パーキンソン歩行等），振戦，意識障害（意識消失，意識レベルの低下等），悪夢，うつ病，睡眠障害，失神，焦燥，レストレスレッグス症候群，不安，衝動制御障害（病的賭博，強迫性購買，暴食等），多汗，味覚異常，感覚鈍麻，錯覚，病的性欲亢進，精神症状，強迫性障害，ドパミン調節障害症候群 嗜眠，異常な夢，痙攣，失見当識，激越，薬剤離脱症候群（無感情，不安，うつ，疲労感，発汗，疼痛等）
消化器 悪心（22．5%），嘔吐 便秘，食欲不振，腹部不快感，口渇 腹痛，下痢，消化不良，胃潰瘍，胃炎，胃腸炎，口内炎，口腔内不快感，口内乾燥，逆流性食道炎
循環器 起立性低血圧 動悸，心房細動，上室性頻脈，高血圧，低血圧
呼吸器 呼吸困難，咽喉頭障害（疼痛，不快感等），咳，しゃっくり
血液 貧血，白血球数減少，白血球数増多，赤血球数減少
泌尿器 尿潜血，排尿困難
過敏症 発疹 掻痒，蕁麻疹，紅斑 血管浮腫（顔面浮腫，眼瞼浮腫等）
眼 視覚異常，眼のチカチカ 霧視
腎臓 BUN上昇，尿糖
代謝 血糖上昇，低カリウム血症，低ナトリウム血症
筋・骨格系 CK上昇 姿勢異常，斜頸，筋骨格硬直，筋骨格痛，背部痛，四肢痛，頚部痛，筋痙縮，関節痛
適用部位 適用部位反応（49．4%）適用部位掻痒，適用部位紅斑 適用部位変色，適用部位水疱，適用部位刺激感，適用部位糜爛，適用部位発疹，適用部位浮腫
その他 倦怠感，末梢性浮腫，体重減少 疲労，無力症，発熱，熱感，ほてり，冷汗，転倒，耳鳴，耳痛，不正出血，不規則月経，勃起障害，鼻炎，皮膚色素脱失 体重増加
（表終了）

1 神経系及び感覚器官用医薬品

ニュープロパッチ9mg（9mg1枚）

両 外用 流通
劇

【YJコード】1169700S3028
【薬効分類】1．1．6 抗パーキンソン剤
【一般名】ロチゴチン
【メーカー】製)大塚製薬
【薬価】454.7円/1枚
【薬価収載日】2013/02/22
【標榜薬効】ドパミン作動性パーキンソン病治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】パーキンソン病
【用法用量】パーキンソン病
成人 1日4．5mgから開始 1日1回 貼付。以後1週間ごと 1日4．5mgずつ増量し 維持量 1日9～36mg。
適宜増減，1日36mgまで。
肩，上腕部，腹部，側腹部，臀部，大腿部のいずれかの正常な皮膚に貼付し 24時間ごと 貼りかえ。
注意
パーキンソン病
1．用法・用量に従い少量から開始し，幻覚，妄想等の精神症状，消化器症状，血圧等の観察を行い，慎重に維持量（1日9～36mg）まで増量。
2．投与中止時は，漸減。目安は，1日おきに1日4．5mgずつ減量。

■禁忌
【禁忌】1．妊婦・妊娠の可能性。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．前兆のない突発的睡眠（1%未満）。
2．幻覚（7．6%）（幻視），妄想（1%未満），せん妄（1%未満），錯乱（頻度不明）。
3．悪性症候群（1%未満）（発熱，意識障害，無動無言，高度の筋硬直，不随意運動，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗，血清CKの上昇等）。
4．肝機能障害（頻度不明）（AST，ALT，AI－P，γ－GTP上昇等）。
5．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇），急性腎不全。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 傾眠，ジスキネジア 頭痛，浮動性眩暈，体位性眩暈，不眠 浮遊感，ジストニア，回転性眩暈，幻聴，パーキンソン症状（すくみ足，パーキンソン歩行等），振戦，意識障害（意識消失，意識レベルの低下等），悪夢，うつ病，睡眠障害，失神，焦燥，レストレスレッグス症候群，不安，衝動制御障害（病的賭博，強迫性購買，暴食等），多汗，味覚異常，感覚鈍麻，錯覚，病的性欲亢進，精神症状，強迫性障害，ドパミン調節障害症候群 嗜眠，異常な夢，痙攣，失見当識，激越，薬剤離脱症候群（無感情，不安，うつ，疲労感，発汗，疼痛等）
消化器 悪心（22．5%），嘔吐 便秘，食欲不振，腹部不快感，口渇 腹痛，下痢，消化不良，胃潰瘍，胃炎，胃腸炎，口内炎，口腔内不快感，口内乾燥，逆流性食道炎
循環器 起立性低血圧 動悸，心房細動，上室性頻脈，高血圧，低血圧
呼吸器 呼吸困難，咽喉頭障害（疼痛，不快感等），咳，しゃっくり
血液 貧血，白血球数減少，白血球数増多，赤血球数減少
泌尿器 尿潜血，排尿困難
過敏症 発疹 掻痒，蕁麻疹，紅斑 血管浮腫（顔面浮腫，眼瞼浮腫等）
眼 視覚異常，眼のチカチカ 霧視
腎臓 BUN上昇，尿糖
代謝 血糖上昇，低カリウム血症，低ナトリウム血症
筋・骨格系 CK上昇 姿勢異常，斜頚，筋骨格硬直，筋骨格痛，背部痛，四肢痛，頚部痛，筋痙縮，関節痛
適用部位 適用部位反応（49．4%） 適用部位掻痒，適用部位紅斑 適用部位変色，適用部位水疱，適用部位刺激感，適用部位糜爛，適用部位発疹，適用部位浮腫
その他 倦怠感，末梢性浮腫，体重減少 疲労，無力症，発熱，熱感，ほてり，冷汗，転倒，耳鳴，耳痛，不正出血，不規則月経，勃起障害，鼻炎，皮膚色素脱失 体重増加
（表終了）

ノウリアスト錠20mg（20mg1錠）

両 内服 流通

【YJコード】1169016F1020
【薬効分類】1．1．6 抗パーキンソン剤
【一般名】イストラデフィリン
【メーカー】製)協和キリン
【薬価】770.6円/1T
【薬価収載日】2013/05/24
【標榜薬効】アデノシンA2A受容体拮抗薬
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】レボドパ含有製剤で治療中のパーキンソン病におけるウェアリングオフ現象の改善
注意
レボドパ含有製剤の投与量・投与回数の調節を行ってもウェアリングオフ現象がある患者に使用。
【用法用量】レボドパ含有製剤と併用。
成人 1回20mg 1日1回 内服。症状により 1回40mg 1日1回 内服。
注意
1．オン時の運動機能の改善では，40mgを1日1回内服できる。40mgでは，20mgを上回るオフ時間の短縮効果はない。
2．下記は，血中濃度上昇のおそれ，1日1回20mgまで。
（1）．中等度の肝障害。
（2）．CYP3Aを強く阻害する薬剤の投与患者。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性。
3．重度の肝障害。

■副作用
【副作用】重大な副作用
精神障害（幻視（4．5%），幻覚（3．2%），妄想（0．8%），せん妄（0．6%），不安障害（0．5%），うつの悪化・抑うつ（0．5%），被害妄想（0．3%），幻聴（0．2%），体感幻覚（0．2%），躁病（0．2%），激越（0．2%），衝動制御障害（0．2%）等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 0．5～1%未満 0．5%未満
心臓障害 上室性期外収縮，心房細動，動悸 心筋梗塞，心室性期外収縮
胃腸障害 便秘（5．1%） 悪心，胃食道逆流性疾患 胃炎，胃潰瘍，消化不良 腹部膨満，嘔吐，上腹部痛
一般・全身障害・投与部位の状態 胸部不快感 倦怠感，末梢性浮腫，口渇，歩行障害
肝胆道系障害 肝機能異常
感染症・寄生虫症 気管支炎
傷害，中毒・処置合併症 挫傷
臨床検査 体重減少，血中CK増加，血中トリプシン増加，リパーゼ増加，尿中血陽性，尿中蛋白陽性 血中ブドウ糖増加，尿中ブドウ糖陽性，血中尿素増加，血中AI－P増加，血中アミラーゼ増加，AST増加，ALT増加，γ－GTP増加 LDH増加，血中ビリルビン増加，血圧上昇，心電図T波逆転，白血球数減少
代謝・栄養障害 食欲減退
筋骨格系・結合組織障害 四肢痛 背部痛，変形性脊椎症，姿勢異常
神経系障害 ジスキネジー（16．9%）傾眠，パーキンソン病増悪 体位性眩暈，浮動性眩暈，頭痛，失神 ジストニー，振戦
精神障害 不眠症 睡眠障害 不安
腎・尿路障害 頻尿，神経因性膀胱
呼吸器，胸郭・縦隔障害 咳嗽
皮膚・皮下組織障害 蕁麻疹 湿疹，発疹
血管障害 起立性低血圧 高血圧
（表終了）

ビ・シフロール錠0．125mg（0．125mg1錠）

両 内服 流通
劇

【YJコード】1169012F1022
【薬効分類】1．1．6 抗パーキンソン剤
【一般名】プラミペキソール塩酸塩水和物
【メーカー】製)日本ベーリンガーインゲルハイム
【薬価】16.6円/1T
【薬価収載日】2003/12/12
【標榜薬効】ドパミン作動性パーキンソン病・レストレスレッグス症候群治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．パーキンソン病
2．中等度から高度の特発性レストレスレッグス症候群（下肢静止不能症候群）
注意
レストレスレッグス症候群の診断は，国際レストレスレッグス症候群研究グループの診断基準・重症度スケールにより実施し，基準を満たす時にのみ投与。
【用法用量】パーキンソン病
成人 プラミペキソール塩酸塩水和物 1日0．25mgから開始。2週目1日0．5mg。以後1週間ごと 1日0．5mgずつ増量し 維持量（標準1日量1．5～4．5mg）を定める。プラミペキソール塩酸塩水和物 1日1．5mg未満の時 1日2回 分割 朝・夕食後，1日1．5mg以上の時 1日3回 分割 毎食後 内服。適宜増減，1日4．5mgまで。
中等度から高度の特発性レストレスレッグス症候群（下肢静止不能症候群）

1 神経系及び感覚器官用医薬品

成人 プラミペキソール塩酸塩水和物 1回0．25mg 1日1回 就寝2～3時間前 内服。1日0．125mgから開始。適宜増減，増量は1週間以上あけて 1日0．75mgまで。
注意
パーキンソン病
1．少量から開始し，幻覚等の精神症状，消化器症状，血圧等を観察し，慎重に維持量（標準1日量1．5～4．5mg）まで増量。
2．腎機能障害
下記投与法を目安に投与回数を調節し慎重に漸増。1日最大量・1回最大量は下表の通り。
（表開始）
クレアチニンクリアランス（mL／分） 投与法 初回1日量 1日最大量
クレアチニンクリアランス≧50 1日1．5mg未満；1日2回 1日1．5mg以上；1日3回 0．125mg×2回 4．5mg（1．5mg×3回）
50＞クレアチニンクリアランス≧20 1日2回 0．125mg×2回 2．25mg（1．125mg×2回）
20＞クレアチニンクリアランス 1日1回 0．125mg×1回 1．5mg（1．5mg×1回）
（表終了）
中等度から高度の特発性レストレスレッグス症候群（下肢静止不能症候群）
3．1日最大量（0．75mg）は，パーキンソン病患者よりも低いため，クレアチニンクリアランスが20mL／分以上の腎機能障害では減量の必要はないが，透析中又はクレアチニンクリアランスが20mL／分未満の高度な腎機能障害での有効性・安全性は未確立，これらに投与時は，有益性・危険性を考慮して慎重に判断。

■禁忌
【禁忌】1．妊婦・妊娠の可能性。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．前兆のない突発的睡眠（0．1～5%未満）。
2．幻覚（15．4%）（幻視），妄想（0．1～5%未満），せん妄（0．1～5%未満），激越（0．1～5%未満），錯乱（頻度不明）。
3．抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（頻度不明）（低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等）。
4．悪性症候群（頻度不明）（発熱，意識障害，無動無言，高度の筋硬直，不随意運動，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗，血清CKの上昇等）。
5．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇），急性腎障害。
6．肝機能障害（頻度不明）（AST，ALT，LDH，γ－GTP，総ビリルビン上昇等）。
その他の副作用（発現時中止等）（効能共通）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 過敏症状
皮膚 多汗，蕁麻疹，網状皮斑 発疹，掻痒症
筋・骨格系 CK上昇（7．5%） 背部痛，腰痛
中枢・末梢神経系 ジスキネジア（17．5%），傾眠（16．8%），眩暈（12．5%），頭痛（5．5%） ジストニア，緊張亢進，舌麻痺，運動過多，ミオクローヌス，声が出にくい，異常感覚，知覚減退，パーキンソニズムの増悪 失神
自律神経系 口内乾燥（8．3%） 起立性低血圧，高血圧，唾液増加
感覚器 苦味，眼のちらつき，複視，羞明 霧視，視力低下
精神神経系 食欲不振（12．2%），不眠（6．5%） 不安，神経過敏，気分高揚感，悪夢，早朝覚醒，ねぼけ様症状，異夢，徘徊 薬剤離脱症候群（無感情，不安，うつ，疲労感，発汗，疼痛等），病的性欲亢進，性欲減退，暴食，病的賭博，不穏，過食（体重増加），健忘，強迫性購買
消化管 悪心（29．9%），消化不良（11．9%），便秘（9．0%），胃不快感（6．9%），嘔吐（5．9%） 腹痛，胃潰瘍，胃炎，上腹部痛，口内炎，鼓腸放屁，イレウス 体重減少
肝臓 肝機能異常（AST上昇，ALT上昇，LDH上昇等） γ－GTP上昇
内分泌 プロラクチン低下，成長ホルモン上昇
代謝 血糖値上昇
循環器 低血圧，動悸
泌尿器系 排尿頻回，尿蛋白陽性 尿閉
一般的全身障害 末梢性浮腫，胸痛，倦怠感，疲労感，脱力感，手がピリピリする，転倒，口渇
呼吸器 呼吸困難 肺炎，しゃっくり
生殖系 自発陰茎勃起
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（中等度から高度の特発性レストレスレッグス症候群（下肢静止不能症候群））
（表開始）
発現部位等 5%未満
中枢・末梢神経系 レストレスレッグス症候群のaugmentation（2．3%）
（表終了）

マドパー配合錠L100（1錠）

両 内服 流通

【YJコード】1169100F1087
【薬効分類】1．1．6 抗パーキンソン剤
【一般名】レボドパ・ベンセラジド塩酸塩
【メーカー】製）太陽ファルマ
【薬価】17円／1T
【薬価収載日】2024/06/14
【標榜薬効】パーキンソニズム治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】パーキンソン病，パーキンソン症候群
【用法用量】レボドパ未服用
成人 初回 1日1～3錠 1日1～3回 分割 食後 内服。2～3日ごと1日1～2錠ずつ漸増し 維持量 1日3～6錠。
レボドパ既服用
成人 初回 1日既投与量の約1／5相当（1錠中レボドパ100mg含有）に切りかえ 1日1～3回 分割 食後 内服。漸増又は漸減し 維持量 1日3～6錠。
適宜増減。
注意
1．レボドパ単味製剤既投与 レボドパ服用後，最低8時間あけて投与。他の抗パーキンソン剤の投与中止は不要。
2．レボドパ単味製剤未投与 少量から開始し，慎重に維持量まで増量。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．閉塞隅角緑内障。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．悪性症候群（頻度不明）（高熱，意識障害，高度の筋硬直，不随意運動，ショック状態等）。
2．幻覚，抑うつ（各0．1～5%未満），錯乱（0．1%未満）。
3．溶血性貧血，血小板減少（各頻度不明）。
4．前兆のない突発的睡眠（頻度不明）。
5．閉塞隅角緑内障（頻度不明）（急激な眼圧上昇，霧視，眼痛，充血，頭痛，嘔気等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
精神神経系 不眠，頭痛・頭重 焦燥感，精神高揚，せん妄，不安，眩暈，眠気，筋緊張低下，突発性硬直，構音障害 不随意運動（顔面，頸部，口，四肢等），傾眠，病的賭博，病的性欲亢進，ドパミン調節障害症候群
消化器 嘔気，食欲不振 口渇，嘔吐，便秘，腹痛，下痢，胸やけ，口内炎，腹部膨満感 胃部不快感，唾液分泌過多
泌尿器 排尿異常
血液 白血球減少
皮膚 発疹，蕁麻疹様湿疹，四肢色素沈着，口唇の水ぶくれ 脱毛
循環器 動悸，たちくらみ，不整脈 血圧低下
眼 視覚異常
肝臓 AST・ALT・AI－Pの上昇
その他 発汗，胸痛，脱力・倦怠感，浮腫，のぼせ感 唾液・痰・口腔内粘膜・汗・尿・便等の変色（黒色等）
（表終了）

ロピニロール徐放錠2mg「トーワ」（2mg1錠）

両 内服 後発 流通 劇

【YJコード】1169013G1049
【薬効分類】1．1．6 抗パーキンソン剤
【一般名】ロピニロール塩酸塩
【先発品】レキップCR錠2mg
【メーカー】製）東和薬品
【薬価】47.8円／1T
【薬価収載日】2017/12/08
【標榜薬効】徐放性ドパミンD2受容体系作動薬
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】パーキンソン病
【用法用量】成人 ロピニロール 1回2mgから開始 1日1回 内服。2週目に1日4mg。以後必要時 1日2mgずつ1週間以上の間隔で増量いずれも1日1回 内服。
適宜増減，1日16mgまで。
注意
1．少量から開始し，消化器症状（悪心，嘔吐等），血圧等を観察して，慎重に維持量まで増量。投与中止後再投与する時は少量から開始を考慮。
2．空腹時は，悪心，嘔吐等の消化器症状が多く発現する可能性，食後投与。
3．同じ時間帯に服用するよう指導。
4．有効成分は速放錠であるロピニロール塩酸塩錠0．25mg，1mg，2mgと同一であるが，用法・用量が異なることに注意。ロピニロール塩酸塩錠（速放錠）から本剤へ切りかえ時は，翌日から切りかえ可能。臨床成績の項を参考に用量を選択。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 前兆のない突発的睡眠(1. 8%), 極度の傾眠(頻度不明)。
2. 幻覚(13. 7%), 妄想, 興奮, 錯乱(各頻度不明), せん妄(0. 6%)等の精神症状。
3. 悪性症候群(0. 3%)(高熱, 意識障害, 高度の筋硬直, 不随意運動, ショック症状等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
過敏症 発疹, 掻痒 蕁麻疹, 血管性浮腫等
精神系 リビドー亢進 病的賭博, 強迫性購買, 暴食, 攻撃性, 躁状態
神経系 傾眠, ジスキネジア 眩暈 失神
血管障害 起立性低血圧 低血圧
胃腸障害 悪心, 便秘 腹痛, 嘔吐, 消化不良
その他 末梢性浮腫 薬剤離脱症候群(無感情, 不安, うつ, 疲労感, 発汗, 疼痛等)
(表終了)

1. 1. 7 精神神経用剤

アタラックスーPカプセル25mg(25mg1カプセル)

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】1179019M1046
【薬効分類】1. 1. 7 精神神経用剤
【一般名】ヒドロキシジンパモ酸塩
【メーカー】製)ファイザー
【薬価】6.1円/1C
【薬価収載日】2006/06/09
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】抗アレルギー性緩和精神安定剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】蕁麻疹, 皮膚疾患に伴う掻痒(湿疹・皮膚炎, 皮膚掻痒症)
神経症の不安・緊張・抑うつ
【用法用量】皮膚科
成人 1日ヒドロキシジン塩酸塩50～75mg 1日2～3回 分割 内服。
神経症の不安・緊張・抑うつ
成人 1日ヒドロキシジン塩酸塩75～150mg 1日3～4回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分・セチリジン・ピペラジン誘導体・アミノフィリン・エチレンジアミンに過敏症の既往。
2. ポルフィリン症。
3. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック(頻度不明), アナフィラキシー(頻度不明)(蕁麻疹, 胸部不快感, 喉頭浮腫, 呼吸困難, 顔面蒼白, 血圧低下等)。
2. QT延長(頻度不明), 心室頻拍(Torsades de pointes含む)(頻度不明)。
3. 肝機能障害(頻度不明)(AST, ALT, γ-GTPの上昇等), 黄疸(頻度不明)。
4. 急性汎発性発疹性膿疱症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
精神神経系 眠気, 倦怠感 眩暈 不安, 不随意運動, 振戦, 痙攣, 頭痛, 幻覚, 興奮, 錯乱, 不眠, 傾眠
消化器 口渇, 食欲不振, 胃部不快感, 嘔気・嘔吐 便秘
循環器 血圧降下
過敏症 発疹 紅斑, 多形滲出性紅斑, 浮腫性紅斑, 紅皮症, 掻痒, 蕁麻疹
その他 霧視, 尿閉, 発熱
(表終了)

アタラックスーP注射液(25mg/ml)(2. 5%1mL1管)

内 注射 流通
ハイリスク

【YJコード】1179401A1026
【薬効分類】1. 1. 7 精神神経用剤
【一般名】ヒドロキシジン塩酸塩
【メーカー】製)ファイザー
【薬価】59円/1A
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】抗アレルギー性緩和精神安定剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】神経症の不安・緊張・抑うつ
麻酔前投薬
術前・術後の悪心・嘔吐の防止
【用法用量】静注
成人 1回25～50mg 必要時4～6時間ごと 静注・点滴静注。
1回100mgまで, 25mg/分以上で注入しない。
適宜増減。
筋注
成人 1回50～100mg 必要時4～6時間ごと 筋注。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分・セチリジン・ピペラジン誘導体・アミノフィリン・エチレンジアミンに過敏症の既往。
2. ポルフィリン症。
3. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック(頻度不明), アナフィラキシー(頻度不明)(蕁麻疹, 胸部不快感, 喉頭浮腫, 呼吸困難, 顔面蒼白, 血圧低下等)。
2. QT延長(頻度不明), 心室頻拍(Torsades de pointes含む)(頻度不明)。
3. 肝機能障害(頻度不明)(AST, ALT, γ-GTPの上昇等), 黄疸(頻度不明)。
4. 注射部位の壊死(頻度不明), 皮膚潰瘍(頻度不明)(注射部位の疼痛, 腫脹, 硬結等)。
5. 急性汎発性発疹性膿疱症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
精神神経系 眠気 不安, 眩暈 倦怠感, 不随意運動, 振戦, 痙攣, 頭痛, 幻覚, 興奮, 錯乱, 不眠, 傾眠
消化器 口渇 嘔気・嘔吐 食欲不振(注), 胃部不快感(注), 便秘
循環器 血圧降下, 頻脈
過敏症 発疹, 紅斑, 多形滲出性紅斑, 浮腫性紅斑, 紅皮症, 掻痒, 蕁麻疹
注射部位 疼痛 腫脹, 硬結, 静脈炎, しびれ, 知覚異常, 筋萎縮, 筋拘縮
その他 霧視, 尿閉, 発熱
(表終了)
(注)内用剤。

アリピプラゾール錠3mg「サワイ」(3mg1錠)

両 内服 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】1179045F1074
【薬効分類】1. 1. 7 精神神経用剤
【一般名】アリピプラゾール
【先発品】エビリファイ錠3mg
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】6.4円/1T
【薬価収載日】2017/06/16
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】抗精神病剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 統合失調症
2. 双極性障害の躁症状の改善
3. うつ病・うつ状態(既存治療で効果不十分時のみ)
4. 小児期の自閉スペクトラム症に伴う易刺激性
注意
うつ病・うつ状態(既存治療で効果不十分時のみ)
1. 選択的セロトニン再取り込み阻害剤・セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤等による治療を行っても, 効果不十分時のみ併用して投与。
2. 24歳以下では, 自殺念慮, 自殺企図のリスクが増加するとの報告あり, リスクとベネフィットを考慮。
小児期の自閉スペクトラム症に伴う易刺激性
3. 6～18歳未満に使用。
【用法用量】統合失調症
成人 開始量 1日6～12mg 維持量 1日6～24mg 1日1～2回分割 内服。適宜増減, 1日30mgまで。
双極性障害の躁症状の改善

1 神経系及び感覚器官用医薬品

成人 1回12～24mg 1日1回 内服。開始量 24mg 適宜増減，1日30mgまで。
うつ病・うつ状態（既存治療で効果不十分時のみ）
成人 1回3mg 1日1回 内服。適宜増減，増量幅は1日3mg，1日15mgまで。
小児期の自閉スペクトラム症に伴う易刺激性
開始量 1日1mg 維持量 1日1～15mg 1日1回 内服。適宜増減，増量幅は1日最大3mg，1日15mgまで。
注意
効能共通
1．定常状態までに約2週間を要するため，2週間以内に増量しない。
統合失調症
2．投与量は必要最小限に調節（増量による効果の増強は未検証）。
3．他の抗精神病薬から変更する患者よりも，新たに統合失調症の治療を開始する患者で副作用が発現しやすいため，より慎重に症状を観察しながら用量を調節。
うつ病・うつ状態（既存治療で効果不十分時のみ）
4．選択的セロトニン再取り込み阻害剤又はセロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤等と併用（本剤単独投与での有効性は未確認）。

■禁忌

【禁忌】1．昏睡状態。
2．バルビツール酸誘導体・麻酔剤等の中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者。
3．アドレナリンの投与患者（アナフィラキシー救急治療，歯科の浸潤麻酔・伝達麻酔時除く）。
4．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．悪性症候群（0．1%）（無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能低下），高熱の持続，意識障害，呼吸困難，循環虚脱，脱水症状，急性腎障害，死亡。
2．遅発性ジスキネジア（0．1%）（口周部等の不随意運動）。
3．麻痺性イレウス（0．1%），腸管麻痺（食欲不振，悪心・嘔吐，著しい便秘，腹部の膨満，弛緩，腸内容物のうっ滞等）。
4．アナフィラキシー（頻度不明）。
5．横紋筋融解症（0．1%）（CK上昇，血中・尿中ミオグロビンの上昇等）。
6．糖尿病性ケトアシドーシス，糖尿病性昏睡（頻度不明）（口渇，多飲，多尿，頻尿，多食，脱力感等），死亡。
7．低血糖（頻度不明）（脱力感，倦怠感，冷汗，振戦，傾眠，意識障害等の低血糖症状）。
8．痙攣（0．4%）。
9．無顆粒球症（頻度不明），白血球減少（0．1%）。
10．肺塞栓症，深部静脈血栓症（頻度不明）等の血栓塞栓症（息切れ，胸痛，四肢の疼痛，浮腫等）。
11．肝機能障害（頻度不明）（AST，ALT，γ－GTP，AI－Pの上昇等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 不眠，神経過敏，不安，傾眠 眩暈，頭痛，うつ病，幻覚 リビドー亢進，リビドー減退，昏迷，自殺企図，攻撃的反応，異常思考，拒食，独語，知覚減退，注意力障害，もやもや感，末梢神経障害，持続勃起，射精障害，勃起不全，失神，感情不安定，錯乱，神経症，妄想，せん妄，躁病反応，精神症状，双極性障害，認知症，健忘，嗜眠，睡眠障害，鎮静，舌麻痺，気力低下，激越（不安，焦燥，興奮），パニック反応，片頭痛，顔面痙攣，錯感覚 記憶障害，びくびく感，夢遊症，悪夢，衝動制御障害（病的賭博，病的性欲亢進，強迫性購買，暴食等），性機能不全，吃音，運動過多，精神的機能障害，感覚障害，眉間反射異常，広場恐怖症，無感情，気分動揺，異常行動，下肢静止不能症候群
錐体外路症状 アカシジア，振戦，流涎 寡動，歩行異常，ジストニア（筋緊張異常），ジスキネジア，構音障害，筋強剛 嚥下障害，からだのこわばり，筋緊張，口のもつれ，眼瞼下垂，パーキンソン症候群，眼球挙上，眼球回転発作 錐体外路障害，反射亢進
循環器 頻脈，高血圧 心悸亢進，徐脈，低血圧，起立性低血圧，心電図異常（期外収縮，QT延長，第一度房室ブロック等） 起立血圧異常，狭心症
消化器 便秘，悪心，嘔吐，腹痛，下痢，食欲不振，食欲亢進 胃炎，糜爛性胃炎，胃腸炎，腸炎，十二指腸炎，消化不良，口内炎，口唇炎，口唇腫脹，腹部膨満，胃食道逆流性疾患，歯周病 膵炎，歯肉痛，舌障害，歯の知覚過敏
血液 赤血球減少，白血球減少，白血球増多，好中球減少，好中球増多，好酸球減少，単球増多，リンパ球減少，リンパ球増多，ヘモグロビン低下，ヘマトクリット値低下 貧血，赤血球増多，好塩基球減少，好塩基球増多，好酸球増多，単球減少，血小板減少，血小板増多，ヘモグロビン上昇，ヘマトクリット値上昇
内分泌 プロラクチン低下，月経異常 プロラクチン上昇 血中甲状腺刺激ホルモン増加，卵巣障害
肝臓 ALT上昇 AST上昇，LDH上昇，γ－GTP上昇，AI－P上昇 脂肪肝，AI－P低下，LDH低下，総ビリルビン上昇，総ビリルビン低下 肝炎，黄疸
腎臓 BUN上昇，BUN低下，蛋白尿，尿沈渣異常 クレアチニン上昇，尿糖，尿ウロビリノーゲン上昇，尿ビリルビン上昇，尿中NAG上昇，尿比重上昇，尿比重低下，血中尿素減少，血中尿酸減少，尿量減少 ケトン尿
泌尿器 尿潜血 排尿障害，血尿，膀胱炎，尿閉，頻尿，多尿 尿失禁
過敏症 発疹，光線過敏性反応，湿疹，紅斑，掻痒症，酒さ 血管浮腫，蕁麻疹，薬物過敏症
皮膚 ざ瘡，皮膚炎，皮膚乾燥，皮膚剥脱，乾皮症，色素沈着障害，脂漏，男性型多毛症 真菌感染，脱毛
代謝異常 CK上昇 口渇，コレステロール低下，HDL－コレステロール上昇，トリグリセライド上昇，リン脂質低下 多飲症，高血糖，水中毒，高尿酸血症，高脂血症，脂質代謝障害，コレステロール上昇，HDL－コレステロール低下，トリグリセライド低下，CK低下 血中ブドウ糖変動，血中インスリン増加
呼吸器 鼻炎，咽頭炎，気管支炎，気管支痙攣，咽喉頭症状，しゃっくり，鼻乾燥 嚥下性肺炎，上気道感染，呼吸困難
眼 霧視，眼乾燥，視力障害，調節障害，羞明，眼の異常感，眼痛 眼のチカチカ，糖尿病性白内障，瞬目過多
その他 体重増加 体重減少，倦怠感，脱力感，発熱，多汗，総蛋白減少，グロブリン分画異常，ナトリウム低下，カリウム低下，クロール低下 疲労，ほてり，熱感，灼熱感，背部痛，四肢痛，関節痛，筋痛，頚部痛，肩こり，筋痙縮，悪寒，末梢冷感，性器出血，流産，胸痛，膿瘍，歯ぎしり，睡眠時驚愕，鼻出血，末梢性浮腫，挫傷，気分不良，味覚異常，耳鳴，寝汗，四肢不快感，薬剤離脱症候群，顔面浮腫，握力低下，転倒，総蛋白上昇，A／G上昇，A／G低下，アルブミン上昇，アルブミン低下，ナトリウム上昇，カリウム上昇，クロール上昇 低体温，疼痛，顎痛，乳頭痛，乳腺炎，外陰膣乾燥，無オルガズム症，死亡，関節脱臼，歯牙破折，筋攣縮，尿路感染，花粉症，関節炎，関節硬直，筋萎縮，脂肪腫，坐骨神経痛，大脳動脈狭窄
（表終了）

エスシタロプラムOD錠10mg「トーワ」（10mg1錠）

両 内服 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】1179054F3041
【薬効分類】1．1．7 精神神経用剤
【一般名】エスシタロプラムシュウ酸塩
【メーカー】製）東和薬品 販）共創未来ファーマ
【薬価】51.9円/1T
【薬価収載日】2022/12/09
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】選択的セロトニン再取り込み阻害剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】うつ病・うつ状態，社会不安障害
注意
効能共通
1．24歳以下では，自殺念慮，自殺企図のリスクが増加するとの報告あり，リスクとベネフィットを考慮。
うつ病・うつ状態
2．12歳未満の大うつ病性障害に投与時は適応を検討。
社会不安障害
3．社会不安障害の診断は，DSM等の適切な診断基準により実施し，基準を満たす時にのみ投与。
【用法用量】成人 エスシタロプラム 1回10mg 1日1回 夕食後 内服。
適宜増減，増量は1週間以上あけて 1日最高20mgまで。
注意
1．投与量は必要最小限に調節。
2．肝機能障害患者，高齢者，遺伝的にCYP2C19の活性が欠損していることが判明している患者 本剤の血中濃度が上昇し，QT延長等の副作用発現のおそれ，10mgまで。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．MAO阻害剤（セレギリン塩酸塩，ラサギリンメシル酸塩，サフィナミドメシル酸塩）の投与中・中止後14日間以内。
3．ピモジドの投与患者。
4．QT延長（先天性QT延長症候群等）。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．痙攣（0．1%）。
2．抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（頻度不明）（低ナトリウム血症，頭痛，集中力の欠如，記憶障害，錯乱，幻覚，痙攣，失神等）。
3．セロトニン症候群（頻度不明）（不安，焦燥，興奮，振戦，ミオクローヌス，高熱等）。
4．QT延長（頻度不明），心室頻拍（Torsades de pointes含む）（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
全身症状 倦怠感 異常感 無力症，浮腫，熱感，発熱，悪寒，疲労，体重増加，体重減少
過敏症 発疹，湿疹，蕁麻疹，掻痒 アナフィラキシー反応，血管浮腫
精神神経系 傾眠（22．6%），浮動性眩暈，頭痛 あくび，不眠症，体位性眩暈，感覚鈍麻，易刺激性（いらいら感，焦燥）アカシジア，睡眠障害，異常夢（悪夢含む），激越，不安，錯乱状態，躁病，落ち着きのなさ，錯感覚（ピリピリ感等），振戦，リビドー減退，歯ぎしり パニック発作，精神運動不穏，失神，幻覚，神経過敏，離人症，ジスキネジー，運動障

1 神経系及び感覚器官用医薬品

害，無オルガズム症
消化器 悪心（20．7%），口渇 腹部不快感，下痢，食欲減退，腹痛，嘔吐，便秘 腹部膨満，胃炎，食欲亢進，消化不良
循環器 動悸 起立性低血圧，QT延長 頻脈，徐脈
血液 赤血球減少，ヘマトクリット減少，ヘモグロビン減少，白血球増加，血小板増加，血小板減少，鼻出血 出血傾向（斑状出血，消化管出血等）
肝臓 AST・ALT・AI－P・γ－GTP・ビリルビンの上昇等の肝機能検査値異常 肝炎
筋骨格系 関節痛，筋肉痛，肩こり，こわばり
泌尿器・生殖器 排尿困難，尿蛋白陽性，射精障害 頻尿，尿閉，不正出血，勃起不全，射精遅延 持続勃起症，月経過多
その他 回転性眩暈，耳鳴，多汗症 副鼻腔炎，味覚異常，脱毛，コレステロール上昇，血中ナトリウム低下，乳汁漏出，胸部不快感，寝汗，羞明，霧視，過換気，尿糖陽性 視覚異常，散瞳，高プロラクチン血症
（表終了）

エチゾラム錠0．5mg「トーワ」（0．5mg1錠）

両 内服 後発 流通
精3 ハイリスク

【YJコード】1179025F1301
【薬効分類】1．1．7 精神神経用剤
【一般名】エチゾラム
【先発品】デパス錠0．5mg
【メーカー】製）東和薬品
【薬価】6.6円/1T
【薬価収載日】2013/06/21
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】精神安定剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇神経症の不安・緊張・抑うつ・神経衰弱症状・睡眠障害
〇うつ病の不安・緊張・睡眠障害
〇心身症（高血圧症，胃・十二指腸潰瘍）の身体症候・不安・緊張・抑うつ・睡眠障害
〇統合失調症の睡眠障害
〇下記の不安・緊張・抑うつ・筋緊張
頸椎症，腰痛症，筋収縮性頭痛
【用法用量】神経症，うつ病
成人 1日3mg 1日3回 分割 内服。
心身症，頸椎症，腰痛症，筋収縮性頭痛
成人 1日1．5mg 1日3回 分割 内服。
睡眠障害
成人 1日1～3mg 1日1回 就寝前 内服。
いずれも適宜増減，高齢者 1日1．5mgまで。

■禁忌

【禁忌】1．急性閉塞隅角緑内障。
2．重症筋無力症。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．依存性（頻度不明）（薬物依存），離脱症状（痙攣発作，せん妄，振戦，不眠，不安，幻覚，妄想等）。
2．呼吸抑制，炭酸ガスナルコーシス（各頻度不明）。
3．悪性症候群（頻度不明）（発熱，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗，白血球の増加，血清CKの上昇等，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下）。
4．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，血清CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇）。
5．間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，肺音の異常（捻髪音）等）。
6．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTP，LDH，AI－P，ビリルビン上昇等），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 眠気（13．2%），ふらつき 眩暈，歩行失調，頭痛・頭重，言語障害，不眠，酩酊感，焦燥 興奮，振戦，眼症状（霧視，調節障害）健忘，刺激興奮，錯乱
呼吸器 呼吸困難感
循環器 動悸，立ちくらみ
消化器 口渇，悪心・嘔気，食欲不振，胃・腹部不快感，腹痛，便秘，下痢 嘔吐
過敏症 発疹 蕁麻疹 紅斑，掻痒感
骨格筋 倦怠感，脱力感，易疲労感，筋弛緩等の筋緊張低下症状
その他 発汗，排尿障害 浮腫，鼻閉 乳汁分泌，女性化乳房，高プロラクチン血症，眼瞼痙攣（瞬目過多，羞明感，眼乾燥感等）
（表終了）

オランザピンOD錠2．5mg「明治」（2．5mg1錠）

両 内服 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】1179044F6128
【薬効分類】1．1．7 精神神経用剤
【一般名】オランザピン
【先発品】ジプレキサザイディス錠2．5mg
【メーカー】製）MeijiSeikaファルマ
【薬価】15.6円/1T
【薬価収載日】2016/06/17
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】抗精神病剤・双極性障害治療剤・制吐剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．統合失調症
2．双極性障害の躁症状・うつ症状の改善
3．抗悪性腫瘍剤（シスプラチン等）投与に伴う消化器症状（悪心，嘔吐）
注意
抗悪性腫瘍剤（シスプラチン等）投与に伴う消化器症状（悪心，嘔吐）強い悪心，嘔吐が生じる抗悪性腫瘍剤（シスプラチン等）の投与時のみ使用。
【用法用量】統合失調症
成人 1回5～10mgから開始 1日1回 内服。維持量 1回10mg 1日1回 内服。適宜増減，1日20mgまで。
双極性障害の躁症状の改善
成人 1回10mgから開始 1日1回 内服。適宜増減，1日20mgまで。
双極性障害のうつ症状の改善
成人 1回5mgから開始 1日1回 就寝前 内服，以後1回10mgに増量 1日1回 就寝前 内服。適宜増減，1日20mgまで。
抗悪性腫瘍剤（シスプラチン等）投与に伴う消化器症状（悪心，嘔吐）
他の制吐剤との併用 成人 1回5mg 1日1回 内服。適宜増量，1日10mgまで。
注意
抗悪性腫瘍剤（シスプラチン等）投与に伴う消化器症状（悪心，嘔吐）
1．コルチコステロイド，5－HT3受容体拮抗薬，NK1受容体拮抗薬等と併用して使用。用法・用量は，各薬剤の電子添文等，最新の情報を参考。
2．抗悪性腫瘍剤の投与前に本剤を投与し，癌化学療法の各サイクルの本剤の投与期間は6日間までを目安。

■禁忌

【禁忌】1．昏睡状態。
2．バルビツール酸誘導体等の中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者。
3．本剤の成分に過敏症の既往。
4．アドレナリンの投与患者（アナフィラキシー救急治療，歯科の浸潤麻酔・伝達麻酔時除く）。
5．糖尿病・その既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．高血糖（0．9%），糖尿病性ケトアシドーシス（頻度不明），糖尿病性昏睡（頻度不明）（口渇，多飲，多尿，頻尿等），死亡。
2．低血糖（頻度不明）（脱力感，倦怠感，冷汗，振戦，傾眠，意識障害等の低血糖症状）。
3．悪性症候群（0．1%未満）（無動緘黙，強度の筋強剛，脈拍・血圧の変動，発汗等，発熱，血清CKの上昇，白血球の増加，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下），高熱の持続，意識障害，呼吸困難，循環虚脱，脱水症状，急性腎障害，死亡。
4．肝機能障害（AST（1．5%），ALT（2．5%），γ－GTP（0．7%），AI－P（頻度不明）の上昇等），黄疸（頻度不明）。
5．痙攣（0．3%）（強直間代性，部分発作，ミオクロヌス発作等）。
6．遅発性ジスキネジア（0．6%）（口周部の不随意運動）。
7．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等），急性腎障害。
8．麻痺性イレウス（頻度不明），腸管麻痺（食欲不振，悪心・嘔吐，著しい便秘，腹部の膨満，弛緩，腸内容物のうっ滞等）。
9．無顆粒球症（頻度不明），白血球減少（0．6%）。
10．肺塞栓症（頻度不明），深部静脈血栓症（頻度不明）等の血栓塞栓症（息切れ，胸痛，四肢の疼痛，浮腫等）。
11．薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 興奮，傾眠（22．3%），不眠（10．3%），不安，眩暈・ふらつき，頭痛・頭重，抑うつ状態，構音障害，立ちくらみ 易刺激性，自殺企図，幻覚，妄想，脱抑制，性欲亢進，躁状態，感覚鈍麻，下肢静止不能症候群，記憶障害，知覚過敏，違和感，意識喪失，焦燥 独語，空笑，会話障害，もうろう状態 しびれ感，吃音，健忘

1 神経系及び感覚器官用医薬品

錐体外路症状 アカシジア(静坐不能), 振戦, 筋強剛, ジストニア, ジスキネジア, 歩行異常, ブラジキネジア(動作緩慢) 嚥下障害, 眼球挙上舌の運動障害, 運動減少, パーキンソン病徴候
循環器 血圧低下, 動悸, 頻脈 起立性低血圧, 血圧上昇, 徐脈, 心室性期外収縮, 心電図QT延長 心房細動 血栓
消化器 便秘, 食欲亢進, 口渇, 嘔気, 胃不快感, 食欲不振, 嘔吐, 流涎過多 下痢, 腹痛, 口角炎 胃潰瘍, 黒色便, 痔出血, 腹部膨満, 胃炎 膵炎
血液 白血球減少, 貧血, 好中球減少 リンパ球減少 白血球増多, 好酸球増多, 赤血球減少, 好中球増多, 血小板減少, ヘモグロビン減少, 血小板増多, 好酸球減少, 赤血球増多, 単球減少, 単球増多, ヘマトクリット値減少
内分泌 月経異常 プロラクチン上昇 乳汁分泌, 乳房肥大, 甲状腺機能亢進症 プロラクチン低下
肝臓 ALT上昇, AST上昇 γ－GTP上昇 LDH上昇 AI－P上昇, 総ビリルビン上昇, ウロビリノーゲン陽性, 総ビリルビン低下, 肝炎
腎臓 蛋白尿 腎盂炎 BUN低下, 尿沈渣異常, クレアチニン低下, BUN上昇
泌尿器 排尿障害 尿失禁 頻尿, 尿閉
過敏症 発疹, 顔面浮腫 蕁麻疹, 小丘疹 光線過敏症, 血管浮腫, 掻痒症
代謝異常 トリグリセリド上昇, コレステロール上昇, 糖尿病 尿糖, 高尿酸血症, 水中毒, 高脂血症 トリグリセリド低下, 脱水症, カリウム低下, カリウム上昇, ナトリウム低下 総蛋白低下, ナトリウム上昇, クロール上昇, クロール低下
呼吸器 鼻閉 鼻出血, 嚥下性肺炎
その他 体重増加(20. 1%), 倦怠感, 脱力感, 体重減少, 発熱, 浮腫 発汗, CK上昇, 転倒, 胸痛, 骨折, 低体温, 肩こり, 脱毛症 腰痛, 死亡, 眼のチカチカ, 霧視感, ほてり 持続勃起, 離脱反応(発汗, 嘔気, 嘔吐), アルブミン低下, A／G比異常, グロブリン上昇, 関節痛
(表終了)

クエチアピン錠25mg「アメル」(25mg1錠)

両 内服 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】1179042F1100
【薬効分類】1. 1. 7 精神神経用剤
【一般名】クエチアピンフマル酸塩
【先発品】セロクエル25mg錠
【メーカー】製)共和薬品工業
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2012/12/14
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】抗精神病剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】統合失調症
【用法用量】成人 1回25mgから開始 1日2～3回 内服。適宜漸増し, 1日150～600mg 1日2～3回 分割 内服。
適宜増減, 1日750mgまで。
注意
1. 肝機能障害 少量(例 1回25mg 1日1回)から開始し, 1日増量幅25～50mg。
2. 高齢者 少量(例 1回25mg 1日1回)から開始し, 1日増量幅25～50mg。

■禁忌

【禁忌】1. 昏睡状態。
2. バルビツール酸誘導体等の中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者。
3. アドレナリンの投与患者(アナフィラキシー救急治療, 歯科の浸潤麻酔・伝達麻酔時除く)。
4. 本剤の成分に過敏症の既往。
5. 糖尿病・その既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 高血糖, 糖尿病性ケトアシドーシス, 糖尿病性昏睡(各頻度不明)(口渇, 多飲, 多尿, 頻尿等), 死亡。
2. 低血糖(頻度不明)(脱力感, 倦怠感, 冷汗, 振戦, 傾眠, 意識障害等の低血糖症状)。
3. 悪性症候群(0. 2%)(無動緘黙, 強度の筋強剛, 嚥下困難, 頻脈, 血圧の変動, 発汗等, 発熱, 白血球の増加, CKの上昇, ミオグロビン尿を伴う腎機能低下), 高熱の持続, 意識障害, 呼吸困難, 循環虚脱, 脱水症状, 急性腎障害, 死亡。
4. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇等), 急性腎障害。
5. 痙攣(頻度不明)。
6. 無顆粒球症, 白血球減少(各頻度不明)。
7. 肝機能障害(AST, ALT, γ－GTP, AI－Pの上昇等), 黄疸(各頻度不明)。
8. 麻痺性イレウス(頻度不明), 腸管麻痺(食欲不振, 悪心・嘔吐, 著しい便秘, 腹部の膨満, 弛緩, 腸内容物のうっ滞等)。
9. 遅発性ジスキネジア(0. 9%)(口周部等の不随意運動)。
10. 肺塞栓症, 深部静脈血栓症(各頻度不明)等の血栓塞栓症(息切れ, 胸痛, 四肢の疼痛, 浮腫等)。
11. 中毒性表皮壊死融解症, 皮膚粘膜眼症候群, 多形紅斑(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 不眠(19. 3%), 易刺激性, 傾眠(14. 2%), 不安, 頭痛, 眩暈 幻覚の顕在化, 健忘, 攻撃的反応, 昏迷, 神経症, 妄想の顕在化, リビド一亢進, 感情不安定, 激越, 錯乱, 思考異常, 自殺企図, 人格障害, 躁病反応, 多幸症, 舞踏病様アテトーシス, 片頭痛, 悪夢, うつ病, 独語, 衝動行為, 自動症 統合失調性反応, 協調不能, レストレスレッグス症候群, 軽躁, 注意力障害, 過眠症, 自殺念慮, 自傷行動, 焦燥感, 鎮静, 意識レベルの低下, せん妄, 敵意
錐体外路症状 アカシジア, 振戦, 構音障害 筋強剛, 流涎過多, 運動緩慢, 歩行障害, ジスキネジア, 嚥下障害 ジストニア, 眼球回転発作 構語障害, 錐体外路障害, パーキンソン症候群
血液 顆粒球減少 白血球数増加, 好酸球増加症, 貧血, 血小板減少
循環器系 頻脈 起立性低血圧, 心悸亢進, 心電図異常 低血圧, 高血圧, 徐脈, 不整脈, 失神 血管拡張, 動悸, 心電図QT延長
肝臓 AST上昇, ALT上昇, LDH上昇 AI－P上昇, γ－GTP上昇 ビリルビン血症 肝機能検査異常
呼吸器系 去痰困難, 鼻炎 咳増加, 鼻閉
消化器系 便秘, 食欲減退 悪心 食欲亢進, 嘔吐, 腹痛, 下痢, 消化不良 鼓腸放屁, 消化管障害, 吐血, 直腸障害, 過食, 腹部膨満, 胃食道逆流性疾患, 膵炎, 胃炎, 胃不快感
眼 瞳孔反射障害 弱視, 結膜炎
代謝・内分泌 高プロラクチン血症, T4減少 高コレステロール血症 月経異常, 甲状腺疾患, 高脂血症, 高カリウム血症, 肥満症 T3減少, 痛風, 低ナトリウム血症, 水中毒, 多飲症, TSH減少, TSH上昇, 高トリグリセリド血症, 高尿酸血症, 尿糖陽性, FT4減少, 乳汁漏出症
過敏症 発疹 血管浮腫, 掻痒, 湿疹
泌尿器系 排尿障害, 排尿困難, 尿失禁, 尿閉, BUN上昇 持続勃起, 射精異常, インポテンス, 頻尿, 膀胱炎, 尿蛋白陽性
その他 倦怠感, 無力症, CK上昇 口内乾燥, 体重増加 多汗, 発熱, 体重減少, 胸痛, 筋肉痛, 舌麻痺, しびれ感, 背部痛, 浮腫, ほてり, 歯痛 顔面浮腫, 頸部硬直, 腫瘤, 過量投与, 骨盤痛, 歯牙障害, 関節症, 滑液包炎, 筋無力症, 痙縮, 悪化反応, 偶発外傷, 耳の障害, 味覚倒錯, ざ瘡, 脱毛症, 薬剤離脱症候群(不眠, 悪心, 頭痛, 下痢, 嘔吐), 口渇, 回転性眩暈, 悪寒, 靭帯捻挫, 意欲低下, 末梢性浮腫, 関節痛
(表終了)

コントミン筋注25mg (0. 5%5mL1管)

内 注射 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】1171400A2054
【薬効分類】1. 1. 7 精神神経用剤
【一般名】クロルプロマジン塩酸塩
【メーカー】製)田辺三菱製薬 販)三菱ウェルファーマ
【薬価】97円/1A
【薬価収載日】2002/07/05
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】精神神経安定剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○統合失調症
○躁病
○神経症の不安・緊張・抑うつ
○悪心・嘔吐
○吃逆
○破傷風に伴う痙攣
○麻酔前投薬
○人工冬眠
○催眠・鎮静・鎮痛剤の効力増強
注意
内服が困難な時, 緊急時, 内服が不十分と考えられる時のみ使用。内服可能で効果が十分な時, 速やかに内服に切りかえる。
【用法用量】成人 1回10～50mg 緩徐に筋注。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1. 昏睡状態, 循環虚脱状態。
2. バルビツール酸誘導体・麻酔剤等の中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者。
3. アドレナリンの投与患者(アナフィラキシー救急治療, 歯科の浸潤麻酔・伝達麻酔時除く)。
4. フェノチアジン系化合物・その類似化合物に過敏症。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 悪性症候群(頻度不明)(無動緘黙, 強度の筋強剛, 嚥下困難, 頻脈, 血圧の変動, 発汗等, 発熱, 白血球の増加, 血清CKの上昇, ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下), 高熱の持続, 意識障害, 呼吸困難, 循環虚脱, 脱水症状, 急性腎障害, 死亡。
2. 突然死, 心室頻拍(各頻度不明)(Torsades de pointes含む), 血圧低下, 心電図異常(QT間隔の延長, T波の平低化・逆転, 二峰性T波・U波の出現等)。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

3. 再生不良性貧血，溶血性貧血，無顆粒球症，白血球減少（各頻度不明）。
4. 麻痺性イレウス（0．1%未満），腸管麻痺（食欲不振，悪心・嘔吐，著しい便秘，腹部の膨満，弛緩，腸内容物のうっ滞等）。
5. 遅発性ジスキネジア（0．1～5%未満），遅発性ジストニア（頻度不明）等の不随意運動。
6. 抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（0．1%未満）（低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等）。
7. 眼障害（頻度不明）（角膜・水晶体の混濁，網膜・角膜の色素沈着）。
8. SLE様症状（頻度不明）。
9. 肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
10. 横紋筋融解症（頻度不明）（CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等）。
11. 肺塞栓症，深部静脈血栓症（各頻度不明）等の血栓塞栓症（息切れ，胸痛，四肢の疼痛，浮腫等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
循環器 血圧降下，頻脈，不整脈，心疾患悪化
血液 白血球減少症，顆粒球減少症，血小板減少性紫斑病
消化器 食欲亢進，食欲不振，舌苔，悪心・嘔吐，下痢，便秘
錐体外路症状 パーキンソン症候群（手指振戦，筋強剛，流涎等），ジスキネジア（口周部，四肢等の不随意運動等），ジストニア（眼球上転，眼瞼痙攣，舌突出，痙性斜頸，頸後屈，体幹側屈，後弓反張等），アカシジア（静坐不能）
眼 縮瞳，眼内圧亢進，視覚障害
内分泌 体重増加，女性化乳房，乳汁分泌，射精不能，月経異常，糖尿
精神神経系 錯乱，不眠，眩暈，頭痛，不安，興奮，易刺激，痙攣
過敏症 過敏症状，光線過敏症
その他 口渇，鼻閉，倦怠感，発熱，浮腫，尿閉，無尿，頻尿，尿失禁，皮膚の色素沈着
（表終了）

セルトラリン錠25mg「アメル」（25mg1錠）

両 内服 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】1179046F1079
【薬効分類】1．1．7 精神神経用剤
【一般名】セルトラリン塩酸塩
【先発品】ジェイゾロフト錠25mg
【メーカー】製）共和薬品工業
【薬価】9.5円/1T
【薬価収載日】2015/12/11
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】選択的セロトニン再取り込み阻害剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇うつ病・うつ状態
〇パニック障害
〇外傷後ストレス障害
注意
効能共通
1．24歳以下では，自殺念慮，自殺企図のリスクが増加するとの報告あり，リスクとベネフィットを考慮。
うつ病・うつ状態
2．18歳未満の大うつ病性障害に投与時は適応を検討。
外傷後ストレス障害
3．18歳未満の外傷後ストレス障害に投与時は適応を検討。
4．外傷後ストレス障害の診断は，DSM等の診断基準により実施し，基準を満たす時にのみ投与。
【用法用量】成人 初期量 1日25mg 1日1回 内服。1日100mgまで漸増。
適宜増減，1日100mgまで。
注意
投与量は必要最小限に調節。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．MAO阻害剤の投与中・中止後14日間以内。
3．ピモジドの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．セロトニン症候群（頻度不明）（不安，焦燥，興奮，錯乱，発汗，下痢，発熱，高血圧，固縮，頻脈，ミオクロヌス，自律神経不安定等）。
2．悪性症候群（頻度不明）（無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下）。
3．痙攣（頻度不明），昏睡（頻度不明）。
4．肝機能障害（頻度不明）（肝不全，肝炎，黄疸）。
5．抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（頻度不明）（低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等）。
6．中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），皮膚粘膜眼症候群（頻度不明）。
7．アナフィラキシー（頻度不明）（呼吸困難，喘鳴，血管浮腫等）。
8．QT延長（頻度不明），心室頻拍（Torsades de pointes含む）（頻度不明）。
9．血小板減少（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
精神系 睡眠障害（不眠等），錯乱状態 悪夢，易刺激性，易興奮性，うつ病，躁病，精神症，多幸症，リビドー減退，記憶障害，注意力障害 攻撃的反応，不安，焦燥，興奮，幻覚
神経系 傾眠（15．2%），頭痛，浮動性眩暈，振戦，感覚減退 起立性眩暈，味覚異常，頭部不快感，運動障害（アカシジア，錐体外路症状，運動過多，歯ぎしり，歩行異常等），錯感覚 不随意性筋収縮，ジスキネジー，ジストニー，片頭痛，失神
感覚器 調節障害，視覚異常（霧視，羞明，視力低下等），耳鳴，耳閉感，回転性眩暈 散瞳
循環器 動悸 起立性低血圧，血圧低下，血圧上昇，頻脈
肝臓 ALT増加，AST増加，γ－GTP増加 LDH増加，AI－P増加，総ビリルビン増加，直接ビリルビン増加
血液 白血球数増加・減少，単球増加，出血傾向（鼻出血，胃腸出血，血尿等）血小板機能異常，紫斑，斑状出血，皮下出血
消化器系 悪心・嘔吐（20．3%），口内乾燥，下痢・軟便，便秘，腹部不快感，腹痛，腹部膨満，消化不良，食欲不振 胃腸障害，食欲亢進 膵炎
過敏症 発疹 蕁麻疹，掻痒症，顔面浮腫，眼窩周囲浮腫 光線過敏性反応
泌尿器・生殖器 排尿困難，尿閉，頻尿，性機能障害（射精遅延，持続勃起症等），月経障害 尿失禁・夜尿，乳汁漏出症，女性化乳房
筋・骨格系 背部痛，関節痛，筋緊張異常（筋硬直，筋緊張亢進，筋痙攣等）開口障害
代謝・内分泌 総蛋白減少，総コレステロール増加，尿糖，尿蛋白 甲状腺機能低下症，低ナトリウム血症，高プロラクチン血症，血糖異常
その他 倦怠感，多汗（発汗，寝汗等）無力症，熱感，異常感，胸痛，胸部圧迫感，疲労，発熱，ほてり，悪寒，体重減少，体重増加，末梢性浮腫，あくび，脱毛症 気管支痙攣，好酸球性肺炎
（表終了）

セレネース錠0．75mg（0．75mg1錠）

両 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】1179020F1210
【薬効分類】1．1．7 精神神経用剤
【一般名】ハロペリドール
【メーカー】製）住友ファーマ
【薬価】8.2円/1T
【薬価収載日】2001/07/06
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】抗精神病剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】統合失調症，躁病
【用法用量】成人 1日0．75～2．25mgから開始 内服。
漸増し 維持量 1日3～6mg。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．昏睡状態。
2．バルビツール酸誘導体等の中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者。
3．重症の心不全。
4．パーキンソン病・レビー小体型認知症。
5．本剤の成分・ブチロフェノン系化合物に過敏症。
6．アドレナリンの投与患者（アナフィラキシー救急治療，歯科の浸潤麻酔・伝達麻酔時除く）。
7．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．悪性症候群（頻度不明）（無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下，筋強剛を伴う嚥下困難から嚥下性肺炎），高熱の持続，意識障害，呼吸困難，循環虚脱，脱水症状，急性腎障害，死亡。
2．心室細動，心室頻拍（各頻度不明）（Torsades de pointes含む），QT延長。
3．麻痺性イレウス（頻度不明），腸管麻痺（食欲不振，悪心・嘔吐，著しい便秘，腹部の膨満，弛緩，腸内容物のうっ滞等）。
4．遅発性ジスキネジア（頻度不明）（口周部の不随意運動，四肢の不随意運動等）。
5．抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（頻度不明）（低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等）。
6．無顆粒球症，白血球減少，血小板減少（各頻度不明）。
7．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミ

1 神経系及び感覚器官用医薬品

オグロビン上昇等)，急性腎障害。
8. 肺塞栓症，深部静脈血栓症(各頻度不明)等の血栓塞栓症(息切れ，胸痛，四肢の疼痛，浮腫等)。
9. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTP，AI－P，ビリルビン等の上昇)，黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
循環器　血圧降下，起立性低血圧 心電図異常(QT間隔の延長，T波の変化等)，頻脈
肝臓　肝機能異常
錐体外路症状 パーキンソン症候群(振戦(11．9%)，筋強剛，流涎，寡動，歩行障害，仮面様顔貌，嚥下障害等)，アカシジア(静坐不能) ジスキネジア(口周部，四肢等の不随意運動等)，ジストニア(痙攣性斜頸，顔面・喉頭・頸部の攣縮，後弓反張，眼球上転発作等)
眼　視調節障害 角膜・水晶体の混濁，角膜等の色素沈着
過敏症　発疹，蕁麻疹，掻痒感，光線過敏症
血液　貧血，白血球減少
消化器　食欲不振，悪心・嘔吐，便秘，下痢，口渇
内分泌　月経異常，体重増加 女性型乳房，乳汁分泌，高プロラクチン血症，インポテンス，持続勃起
呼吸器　呼吸困難 喉頭攣縮
精神神経系 不眠(16．1%)，焦燥感，神経過敏 眠気，眩暈，頭痛・頭重，不安，幻覚，興奮，痙攣，性欲異常 過鎮静，抑うつ，知覚変容発作
その他　脱力感・倦怠感・疲労感，発熱，発汗，潮紅，鼻閉 浮腫，排尿困難，体温調節障害
(表終了)

セレネース注5mg（0．5%1mL1管）

内　注射　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】1179404A1070
【薬効分類】1．1．7　精神神経用剤
【一般名】ハロペリドール
【メーカー】製)住友ファーマ
【薬価】100円/1A
【薬価収載日】2003/07/04
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】抗精神病剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】統合失調症，躁病
【用法用量】急激な精神運動興奮等の緊急時
成人　1回5mg　1日1～2回　筋注・静注。適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．昏睡状態。
2．バルビツール酸誘導体等の中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者。
3．重症の心不全。
4．パーキンソン病・レビー小体型認知症。
5．本剤の成分・ブチロフェノン系化合物に過敏症。
6．アドレナリンの投与患者(アナフィラキシー救急治療，歯科の浸潤麻酔・伝達麻酔時除く)。
7．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．悪性症候群(頻度不明)(無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下，筋強剛を伴う嚥下困難から嚥下性肺炎)，高熱の持続，意識障害，呼吸困難，循環虚脱，脱水症状，急性腎障害，死亡。
2．心室細動，心室頻拍(各頻度不明)(Torsades de pointes含む)，QT延長等，心停止。
3．麻痺性イレウス(頻度不明)，腸管麻痺(食欲不振，悪心・嘔吐，著しい便秘，腹部の膨満，弛緩，腸内容物のうっ滞等)。
4．遅発性ジスキネジア(頻度不明)(口周部の不随意運動，四肢の不随意運動等)。
5．抗利尿ホルモン不適合分泌症候群(頻度不明)(低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等)。
6．無顆粒球症，白血球減少，血小板減少(各頻度不明)。
7．横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等)，急性腎障害。
8．肺塞栓症，深部静脈血栓症(各頻度不明)等の血栓塞栓症(息切れ，胸痛，四肢の疼痛，浮腫等)。
9．肝機能障害(AST，ALT，γ－GTP，AI－P，ビリルビン等の上昇)，黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
循環器　血圧降下 心電図異常(QT間隔の延長，T波の変化等)，頻脈，起立性低血圧
肝臓　肝機能異常
錐体外路症状 パーキンソン症候群(振戦，筋強剛，流涎，寡動，歩行障害，仮面様顔貌，嚥下障害等)(12．9%)　ジスキネジア(口周部，四肢等の不随意運動等)，ジストニア(痙攣性斜頸，顔面・喉頭・頸部の攣縮，後弓反張，眼球上転発作等)，アカシジア(静坐不能)
眼　視調節障害，角膜・水晶体の混濁，角膜等の色素沈着
過敏症　発疹，蕁麻疹，掻痒感，光線過敏症
血液　貧血，白血球減少
消化器　食欲不振，悪心・嘔吐，便秘，口渇 下痢
内分泌　女性型乳房，乳汁分泌，月経異常，体重増加，高プロラクチン血症，インポテンス，持続勃起
呼吸器　喉頭攣縮，呼吸困難
精神神経系 不眠，焦燥感 神経過敏，眠気，頭痛・頭重 過鎮静，眩暈，不安，抑うつ，幻覚，興奮，知覚変容発作，痙攣，性欲異常
その他　脱力感・倦怠感・疲労感，鼻閉 発熱，発汗，潮紅，浮腫，排尿困難，体温調節障害
(表終了)

炭酸リチウム錠100mg「大正」（100mg1錠）

両　内服　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】1179017F1080
【薬効分類】1．1．7　精神神経用剤
【一般名】炭酸リチウム
【メーカー】製)トクホン　販)大正製薬
【薬価】8.9円/1T
【薬価収載日】2022/06/16
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】躁病・躁状態治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】躁病，躁うつ病の躁状態
【用法用量】成人　1日400～600mgから開始　1日2～3回　分割　内服。以後3日～1週間ごと　1日1200mgまで漸増。
改善あれば　維持量　1日200～800mgに漸減　1日1～3回　分割　内服。
適宜増減。
注意
投与初期や増量時は維持量が決まるまでは1週間に1回，維持量の投与中には2～3ヵ月に1回，血清リチウム濃度の測定結果に基づきトラフ値(注)を評価しながら使用。血清リチウム濃度を上昇させる要因(食事・水分摂取量不足，脱水をおこしやすい状態，非ステロイド性消炎鎮痛剤等の血中濃度上昇をおこす可能性がある薬剤の併用等)や中毒の初期症状があれば，血清リチウム濃度を測定。
1．血清リチウム濃度が1．5mEq／Lを超えた時，必要時，減量・休薬等の処置。
2．血清リチウム濃度が2mEq／Lを超えた時，過量投与による中毒の可能性，減量・休薬。
(注)薬物反復投与時の定常状態での最低血中薬物濃度。血中濃度の経時的推移で，変動の小さい時点であり，血中濃度のモニタリングに適する。一般的に反復投与時の次回投与直前値となる。

■禁忌

【禁忌】1．てんかん等の脳波異常。
2．重篤な心疾患。
3．リチウムの体内貯留をおこしやすい患者。
(1)．腎障害。
(2)．衰弱・脱水状態。
(3)．発熱・発汗・下痢を伴う疾患。
(4)．食塩制限。
4．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．リチウム中毒(頻度不明)(消化器症状(食欲低下，嘔気，嘔吐，下痢等)，中枢神経症状(振戦，傾眠，錯乱等)，運動機能症状(運動障害，運動失調等)，全身症状(発熱，発汗等))，急性腎障害，電解質異常，全身痙攣，ミオクローヌス等。
2．悪性症候群(頻度不明)(無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等)，発熱，筋肉障害(CK上昇)，横紋筋融解症，急性腎障害(向精神薬(抗精神病薬等)併用)。
3．洞不全症候群，高度徐脈(頻度不明)。
4．腎性尿崩症(頻度不明)(多飲，多尿等)。
5．急性腎障害，間質性腎炎，ネフローゼ症候群(頻度不明)。
6．甲状腺機能低下症，甲状腺炎(頻度不明)。
7．副甲状腺機能亢進症(頻度不明)。
8．可逆性の認知症様症状，昏睡に至る意識障害(頻度不明)(脳波所見上，周期性同期性放電等を伴う)。
9．薬剤性過敏症症候群(頻度不明)(発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状)，ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．5～5%未満 0．5%未満 頻度不明
精神神経系 眩暈 眠気 言語障害 頭痛 発熱 不眠 脳波異常(基礎波の

1 神経系及び感覚器官用医薬品

徐波化等）知覚異常 記憶障害 焦燥感 失禁 悪寒 耳鳴 一過性暗点 ブラックアウト発作 情動不安 せん妄
消化器 口渇 嘔気・嘔吐 下痢 食欲不振 胃部不快感 腹痛 便秘 唾液分泌過多 胃腸障害
循環器 心電図異常 血圧低下 頻脈 不整脈 末梢循環障害
血液 白血球増多
泌尿器 多尿 排尿困難 乏尿 頻尿 腎機能異常 蛋白尿
内分泌系 甲状腺機能異常（血中TSH，血中遊離T3，血中遊離T4の上昇・低下，甲状腺131I摂取率の増加・TRH負荷後のTSH分泌反応の増大）非中毒性甲状腺腫 粘液水腫 甲状腺中毒症
中枢神経系 振戦 運動障害 緊張亢進・低下 腱反射亢進 筋攣縮 運動過少 舞踏病様アテトーシス 頭蓋内圧亢進
皮膚 皮疹 掻痒感 毛嚢炎 下肢潰瘍 毛髪の乾燥・粗毛化 脱毛 乾癬・その悪化
肝臓 肝機能異常
その他 脱力・倦怠感 浮腫 体重増加・減少 性欲減退 血糖上昇 脱水 味覚異常（苦味等）
（表終了）

デュロキセチン錠20mg「ケミファ」（20mg1錠）

両 内服 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】1179052F1023
【薬効分類】1．1．7 精神神経用剤
【一般名】デュロキセチン塩酸塩
【メーカー】製)富士化学工業 販)日本ケミファ
【薬価】25.7円/1T
【薬価収載日】2021/06/18
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．うつ病・うつ状態
2．下記に伴う疼痛
糖尿病性神経障害
線維筋痛症
慢性腰痛症
変形性関節症
注意
効能共通
1．24歳以下では，自殺念慮，自殺企図のリスクが増加するとの報告あり，リスクとベネフィットを考慮。
うつ病・うつ状態
2．18歳未満の大うつ病性障害に投与時は適応を検討。
疼痛の効能共通
3．疼痛への投与時は，自殺念慮，自殺企図，敵意，攻撃性等の精神症状の発現リスクを考慮，投与の適否を慎重に判断。
線維筋痛症に伴う疼痛
4．線維筋痛症の診断は，米国リウマチ学会の分類（診断）基準等の国際的な基準により実施し，確定診断された場合にのみ投与。
慢性腰痛症に伴う疼痛
5．最新の診断基準を参考に慢性腰痛症と診断された患者のみ，投与を考慮。
変形性関節症に伴う疼痛
6．3ヵ月以上疼痛を有し，最新の診断基準を参考に変形性関節症と診断された患者のみ，投与を考慮。
【用法用量】1．うつ病・うつ状態，糖尿病性神経障害に伴う疼痛
成人 1回40mg 1日1回 朝食後 内服。
1日20mgから開始。1週間以上あけて 1日量 20mgずつ増量。
効果不十分時 1日60mgまで。
2．線維筋痛症に伴う疼痛，慢性腰痛症に伴う疼痛，変形性関節症に伴う疼痛
成人 1回60mg 1日1回 朝食後 内服。
1日20mgから開始。1週間以上あけて 1日量 20mgずつ増量。
注意
うつ病・うつ状態，糖尿病性神経障害に伴う疼痛
投与量は必要最小限に調節。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．MAO阻害剤（セレギリン塩酸塩，ラサギリンメシル酸塩，サフィナミドメシル酸塩）の投与中・中止後2週間以内。
3．高度の肝機能障害。
4．高度の腎機能障害。
5．コントロール不良の閉塞隅角緑内障。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．セロトニン症候群（頻度不明）（不安，焦燥，興奮，錯乱，発汗，下痢，発熱，高血圧，固縮，頻脈，ミオクローヌス，自律神経不安定等）。
2．悪性症候群（頻度不明）（発熱，無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗，白血球数増加，血清CK（CPK）上昇），ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下，急性腎障害。
3．抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（頻度不明）（低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等）。
4．痙攣（0．1%未満），幻覚（頻度不明）。
5．肝機能障害（0．1%未満）（AST，ALT，γ－GTP，総ビリルビン等の上昇），肝炎（頻度不明），黄疸（頻度不明）。
6．皮膚粘膜眼症候群（頻度不明）。
7．アナフィラキシー反応（頻度不明）（呼吸困難，痙攣，血管浮腫，蕁麻疹等）。
8．高血圧クリーゼ（頻度不明）。
9．尿閉（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒，蕁麻疹 接触性皮膚炎，光線過敏反応，血管浮腫，皮膚血管炎
全身症状 倦怠感 ほてり，発熱，悪寒，脱水，脱力感
精神神経系 傾眠（24．3%），頭痛，眩暈 不眠，立ちくらみ，しびれ感，振戦，浮遊感 あくび，焦燥感，気分高揚，注意力障害，錐体外路症状，不安，異常夢（悪夢含む），頭がボーッとする，性欲減退，躁病反応，錯感覚，無感情，味覚異常 激越，オーガズム異常，嗜眠，睡眠障害，歯軋り，失見当識，攻撃性，怒り，歩行障害，開口障害，下肢静止不能症候群，異常感
消化器 悪心（22．4%），食欲減退，口渇（12．8%），便秘（12．4%），下痢 腹部痛，嘔吐，腹部膨満感，腹部不快感，消化不良，胃炎 口内炎，歯痛，胃腸炎，咽頭不快感 咽頭炎，咽喉緊張，口臭，嚥下障害，顕微鏡的大腸炎
感覚器 耳鳴 視調節障害，眼乾燥，霧視，耳痛 散瞳，緑内障
循環器 動悸，頻脈，血圧上昇 起立性低血圧，上室性不整脈，失神
肝臓 AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇，総ビリルビン上昇，AI－P上昇，LDH上昇
血液 ヘモグロビン減少，赤血球減少，ヘマトクリット減少，鼻出血 異常出血（斑状出血，胃腸出血等），白血球減少
筋・骨格系 背部痛，関節痛，筋痛，肩こり，筋痙攣 筋緊張
泌尿器・生殖器 排尿困難 性機能異常（月経異常，射精障害，勃起障害等），排尿障害，血中クレアチニン上昇，BUN上昇，頻尿，尿中アルブミン／クレアチニン比上昇，尿流量減少 多尿，閉経期症状，精巣痛
代謝・内分泌 高血糖，トリグリセリド上昇，総コレステロール上昇，尿中蛋白陽性 血中カリウム減少 甲状腺機能低下，低ナトリウム血症，乳汁漏出症，高プロラクチン血症，血中カリウム上昇
その他 発汗，体重減少，体重増加，CK（CPK）上昇 浮腫，冷感，熱感，呼吸苦，胸痛，冷汗，咳嗽
（表終了）

トラゾドン塩酸塩錠25mg「アメル」（25mg1錠）

両 内服 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】1179037F1053
【薬効分類】1．1．7 精神神経用剤
【一般名】トラゾドン塩酸塩
【先発品】レスリン錠25
【メーカー】製)共和薬品工業 販)日本ジェネリック
【薬価】6.1円/1T
【薬価収載日】2014/06/20
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】抗うつ剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】うつ病・うつ状態
注意
24歳以下では，自殺念慮，自殺企図のリスクが増加するとの報告あり，リスクとベネフィットを考慮。
【用法用量】成人 初期量 1日75～100mg 1日200mgまで増量
1日1～数回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．QT延長，心室頻拍（Torsades de pointes含む），心室細動，心室性期外収縮（各頻度不明）。
2．悪性症候群（頻度不明）（無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下），高熱の持続，意識障害，呼吸困難，循環虚脱，脱水症状，急性腎障害，死亡。
3．セロトニン症候群（頻度不明）（錯乱，発汗，反射亢進，ミオクロヌス，戦慄，頻脈，振戦，発熱，協調異常等）。
4．錯乱（頻度不明），せん妄（0．07%）。
5．麻痺性イレウス（0．03%），腸管麻痺（食欲不振，悪心・嘔吐，著しい便秘，腹部の膨満，弛緩，腸内容物のうっ滞等）。
6．持続性勃起（頻度不明）（陰茎・陰核）。
7．無顆粒球症（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）

1 神経系及び感覚器官用医薬品

発現部位等 0.1～5%未満 0.1%未満 頻度不明
循環器 低血圧，動悸・頻脈 失神，徐脈，不整脈 高血圧，起立性低血圧
精神神経系 眠気，眩暈・ふらつき，頭痛・頭重，構音障害，振戦等のパーキンソン症状，頭がボーッとする，視調節障害（霧視，複視等），不眠，運動失調，躁転 痙攣，焦燥感，流涎，健忘，知覚障害，幻覚，運動過多，不安，見当識障害，口周囲不随意運動，集中力低下 興奮，妄想，性欲亢進，性欲減退，悪夢，怒り・敵意（攻撃的反応），異常感覚，インポテンス，協調運動障害，激越
過敏症 浮腫，発疹 掻痒感 眼瞼掻痒感
血液 白血球減少，貧血 白血球増多 溶血性貧血，血小板減少
消化器 口渇，便秘，悪心・嘔吐，食欲不振，腹痛 下痢，胃重感，嚥下障害，腹部膨満感，味覚異常 食欲亢進，胸やけ
肝臓 肝機能障害（AST，ALT，Al－P，γ－GTP上昇等）
その他 倦怠感，ほてり，脱力感，排尿障害 鼻閉，関節痛，筋肉痛，発汗，眼精疲労，耳鳴，尿失禁，頻尿，射精障害，月経異常，乳房痛，胸痛，体重減少，体重増加，疲労，悪寒，血清脂質増加 息切れ，血尿，乳汁分泌，眼球充血，低ナトリウム血症，発熱
（表終了）

トリプタノール錠10（10mg1錠）

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】1179002F1068
【薬効分類】1．1．7 精神神経用剤
【一般名】アミトリプチリン塩酸塩
【メーカー】製)日医工 販)MSD
【薬価】10.1円/1T
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】三環系抗うつ剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】精神科のうつ病・うつ状態，夜尿症，末梢性神経障害性疼痛
注意
効能共通
1．24歳以下では，自殺念慮，自殺企図のリスクが増加するとの報告あり，リスクとベネフィットを考慮。
末梢性神経障害性疼痛
2．自殺念慮，自殺企図，敵意，攻撃性等の精神症状の発現リスクを考慮，投与の適否を慎重に判断。
【用法用量】うつ病・うつ状態
成人 初期量 1日30～75mg 1日150mgまで漸増 分割 内服。
まれに300mgまで。
適宜減量。
夜尿症
1日10～30mg 就寝前 内服。
適宜減量。
末梢性神経障害性疼痛
成人 初期量 1日10mg 1日150mgまで。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．閉塞隅角緑内障。
2．三環系抗うつ剤に過敏症。
3．心筋梗塞の回復初期。
4．尿閉（前立腺疾患等）。
5．MAO阻害剤（セレギリン塩酸塩，ラサギリンメシル酸塩，サフィナミドメシル酸塩）の投与中・中止後2週間以内。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．悪性症候群（頻度不明）（無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下），高熱の持続，意識障害，呼吸困難，循環虚脱，脱水症状，急性腎障害，死亡。
2．セロトニン症候群（頻度不明）（不安，焦燥，せん妄，興奮，発熱，発汗，頻脈，振戦，ミオクロヌス，反射亢進，下痢等）。
3．心筋梗塞（頻度不明）。
4．幻覚，せん妄，精神錯乱，痙攣（各頻度不明）。
5．顔・舌部の浮腫（0.1%未満）。
6．無顆粒球症，骨髄抑制（各頻度不明）。
7．麻痺性イレウス（頻度不明），腸管麻痺（食欲不振，悪心・嘔吐，著しい便秘，腹部の膨満，弛緩，腸内容物のうっ滞等）。
8．抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（頻度不明）（低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0.1～5%未満 0.1%未満 頻度不明
循環器 血圧低下，頻脈 血圧上昇，動悸，不整脈，心発作，心ブロック
精神神経系 眠気 振戦等のパーキンソン症状，運動失調，四肢の知覚異常，焦燥 構音障害 不眠，不安，口周部等の不随意運動
過敏症 発疹 蕁麻疹
血液 白血球減少
肝臓 黄疸 肝機能障害，AST上昇，ALT上昇
消化器 口渇 悪心・嘔吐，食欲不振，下痢，便秘 味覚異常
泌尿器 排尿困難 尿閉
その他 ふらつき，頭痛，眩暈，倦怠感，発汗，視調節障害 眼内圧亢進 体重増加
（表終了）

ノバミン錠5mg（5mg1錠）

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】1172010F1037
【薬効分類】1．1．7 精神神経用剤
【一般名】プロクロルペラジンマレイン酸塩
【メーカー】製)共和薬品工業 販)塩野義製薬
【薬価】10.1円/1T
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】精神神経用剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○統合失調症
○術前・術後等の悪心・嘔吐
【用法用量】成人 1日5～20mg 分割 内服。
精神科 成人 1日15～45mg 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．昏睡状態，循環虚脱状態。
2．バルビツール酸誘導体・麻酔剤等の中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者。
3．アドレナリンの投与患者（アナフィラキシー救急治療，歯科の浸潤麻酔・伝達麻酔時除く）。
4．フェノチアジン系化合物・その類似化合物に過敏症。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．悪性症候群（頻度不明）（無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下），高熱の持続，意識障害，呼吸困難，循環虚脱，脱水症状，急性腎障害，死亡。
2．突然死（頻度不明），血圧低下，心電図異常（QT間隔の延長，T波の平低化・逆転，二峰性T波・U波の出現等）。
3．再生不良性貧血，無顆粒球症，白血球減少（頻度不明）。
4．麻痺性イレウス（0.1%未満），腸管麻痺（食欲不振，悪心・嘔吐，著しい便秘，腹部の膨満，弛緩，腸内容物のうっ滞等）。
5．遅発性ジスキネジア（0.1～5%未満）（口周部等の不随意運動）。
6．抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（0.1%未満）（低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等）。
7．眼障害（頻度不明）（角膜・水晶体の混濁，網膜・角膜の色素沈着）。
8．SLE様症状（頻度不明）。
9．肺塞栓症，深部静脈血栓症（頻度不明）等の血栓塞栓症（息切れ，胸痛，四肢の疼痛，浮腫等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0.1～5%未満 0.1%未満 頻度不明
過敏症 過敏症状，光線過敏症
錐体外路症状 パーキンソン症候群（手指振戦，筋強剛，流涎等），ジスキネジア（口周部，四肢等の不随意運動等），ジストニア（眼球上転，眼瞼痙攣，舌突出，痙性斜頸，頸後屈，体幹側屈，後弓反張，強迫開口等），アカシジア（静坐不能）
血液 白血球減少症，顆粒球減少症，血小板減少性紫斑病
肝臓 肝障害
循環器 血圧低下，頻脈，不整脈，心疾患の悪化
消化器 食欲亢進，食欲不振，舌苔，悪心・嘔吐，下痢，便秘
眼 縮瞳，眼圧亢進，視覚障害
内分泌系 体重増加，女性化乳房，乳汁分泌，射精不能，月経異常，糖尿
精神神経系 錯乱，不眠，眩暈，頭痛，不安，興奮，易刺激
その他 口渇，鼻閉，倦怠感，発熱，浮腫，尿閉，無尿，頻尿，尿失禁，皮膚の色素沈着
（表終了）

パロキセチンOD錠10mg「トーワ」（10mg1錠）

両 内服 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】1179041F4024
【薬効分類】1．1．7 精神神経用剤
【一般名】パロキセチン塩酸塩水和物
【メーカー】製)東和薬品 販)和薬
【薬価】14.6円/1T
【薬価収載日】2012/06/22
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】選択的セロトニン再取り込み阻害剤

1 神経系及び感覚器官用医薬品

■効能効果・用法用量
【効能効果】うつ病・うつ状態，パニック障害，強迫性障害，社会不安障害，外傷後ストレス障害
注意
効能共通
1．24歳以下では，自殺念慮，自殺企図のリスクが増加するとの報告あり，リスクとベネフィットを考慮。
社会不安障害・外傷後ストレス障害
2．社会不安障害・外傷後ストレス障害の診断は，DSM等の診断基準により実施し，基準を満たす時にのみ投与。
【用法用量】うつ病・うつ状態
成人 1回20～40mg 1日1回 夕食後 内服。1回10～20mgから開始 1週ごと 1日10mgずつ増量。
適宜増減，1日40mgまで。
パニック障害
成人 1回30mg 1日1回 夕食後 内服。1回10mgから開始 1週ごと 1日10mgずつ増量。
適宜増減，1日30mgまで。
強迫性障害
成人 1回40mg 1日1回 夕食後 内服。1回20mgから開始 1週ごと 1日10mgずつ増量。
適宜増減，1日50mgまで。
社会不安障害
成人 1回20mg 1日1回 夕食後 内服。1回10mgから開始 1週ごと 1日10mgずつ増量。
適宜増減，1日40mgまで。
外傷後ストレス障害
成人 1回20mg 1日1回 夕食後 内服。1回10～20mgから開始 1週ごと 1日10mgずつ増量。
適宜増減，1日40mgまで。
注意
1．投与量は必要最小限に調節。
2．5mg錠は減量・中止時に使用。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．MAO阻害剤の投与中・中止後2週間以内。
3．ピモジドの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．セロトニン症候群（頻度不明）（不安，焦燥，興奮，錯乱，幻覚，反射亢進，ミオクローヌス，発汗，戦慄，頻脈，振戦等）。
2．悪性症候群（頻度不明）（無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下）。
3．痙攣（0．1%未満），錯乱，幻覚，せん妄（各頻度不明）。
4．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑（各頻度不明）。
5．抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（頻度不明）（低ナトリウム血症，痙攣等）。
6．重篤な肝機能障害（頻度不明）（肝不全，肝壊死，肝炎，黄疸等）。
7．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等），急性腎障害。
8．白血球減少（2．4%），血小板減少（0．1%），汎血球減少，無顆粒球症（各頻度不明）。
9．アナフィラキシー（頻度不明）（発疹，血管性浮腫，呼吸困難等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 10%未満 頻度不明
全身症状 倦怠（感），ほてり，無力症，疲労，発熱，悪寒
精神神経系 傾眠（23．6%），眩暈 頭痛，不眠，振戦，神経過敏，知覚減退，躁病反応，感情鈍麻，錐体外路障害，あくび，アカシジア，味覚異常，異常な夢（悪夢含む），健忘，失神，離人症 激越，緊張亢進，レストレスレッグス症候群
消化器 嘔気 便秘，食欲不振，腹痛，口渇，嘔吐，下痢，消化不良
循環器 心悸亢進，一過性の血圧上昇・低下，起立性低血圧，頻脈
過敏症 発疹，掻痒，蕁麻疹，血管性浮腫，紅斑性発疹 光線過敏症
血液 白血球増多，ヘモグロビン減少，ヘマトクリット値増加・減少，赤血球減少，異常出血（皮下溢血，紫斑，胃腸出血等）
肝臓 肝機能検査値異常（ALT，AST，γ－GTP，LDH，AI－P，総ビリルビンの上昇，ウロビリノーゲン陽性等）
腎臓・泌尿器 BUN上昇，尿沈渣（赤血球，白血球），尿蛋白，排尿困難，尿閉，尿失禁
眼 霧視，視力異常，散瞳 急性緑内障
その他 性機能異常（射精遅延，勃起障害等），発汗，総コレステロール上昇，体重増加，血清カリウム上昇，総蛋白減少，乳汁漏出，末梢性浮腫，月経障害（不正子宮出血，無月経等） 高プロラクチン血症
（表終了）

ヒルナミン錠（25mg）（25mg1錠）

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】1172014F2139
【薬効分類】1．1．7 精神神経用剤
【一般名】レボメプロマジンマレイン酸塩
【メーカー】製）共和薬品工業 販）塩野義製薬
【薬価】5.9円/1T
【薬価収載日】2001/07/06
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】精神神経用剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】統合失調症，躁病，うつ病の不安・緊張
【用法用量】成人 1日25～200mg 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．昏睡状態，循環虚脱状態。
2．バルビツール酸誘導体・麻酔剤等の中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者。
3．アドレナリンの投与患者（アナフィラキシー救急治療，歯科の浸潤麻酔・伝達麻酔時除く）。
4．フェノチアジン系化合物・その類似化合物に過敏症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．悪性症候群（頻度不明）（無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下），高熱の持続，意識障害，呼吸困難，循環虚脱，脱水症状，急性腎障害，死亡。
2．突然死（頻度不明），血圧低下，心電図異常（QT間隔の延長，T波の平低化・逆転，二峰性T波・U波の出現等）。
3．再生不良性貧血，無顆粒球症，白血球減少（頻度不明）。
4．麻痺性イレウス（0．1%未満），腸管麻痺（食欲不振，悪心・嘔吐，著しい便秘，腹部の膨満，弛緩，腸内容物のうっ滞等）。
5．遅発性ジスキネジア（0．1～5%未満），遅発性ジストニア（頻度不明）等の不随意運動。
6．抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（0．1%未満）（低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等）。
7．眼障害（頻度不明）（角膜・水晶体の混濁，網膜・角膜の色素沈着）。
8．SLE様症状（頻度不明）。
9．横紋筋融解症（頻度不明）（CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等）。
10．肺塞栓症，深部静脈血栓症（頻度不明）等の血栓塞栓症（息切れ，胸痛，四肢の疼痛，浮腫等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
循環器 血圧低下，頻脈，不整脈，心疾患悪化
血液 白血球減少症，顆粒球減少症，血小板減少性紫斑病
消化器 食欲亢進，食欲不振，舌苔，悪心・嘔吐，下痢，便秘
肝臓 肝障害
錐体外路症状 パーキンソン症候群（手指振戦，筋強剛，流涎等），ジスキネジア（口周部，四肢等の不随意運動等），ジストニア（眼球上転，眼瞼痙攣，舌突出，痙性斜頸，頸後屈，体幹側屈，後弓反張等），アカシジア（静坐不能）
眼 縮瞳，眼内圧亢進，視覚障害
内分泌 体重増加，女性化乳房，乳汁分泌，射精不能，月経異常，糖尿
精神神経系 錯乱，不眠，眩暈，頭痛，不安，興奮，易刺激，痙攣
過敏症 過敏症状，光線過敏症
その他 口渇，鼻閉，倦怠感，発熱，浮腫，尿閉，無尿，頻尿，尿失禁，皮膚の色素沈着
（表終了）

ペロスピロン塩酸塩錠4mg「アメル」（4mg1錠）

両 内服 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】1179043F1040
【薬効分類】1．1．7 精神神経用剤
【一般名】ペロスピロン塩酸塩水和物
【先発品】ルーラン錠4mg
【メーカー】製）共和薬品工業
【薬価】6.1円/1T
【薬価収載日】2011/11/28
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】抗精神病剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】統合失調症
【用法用量】成人 1回4mgから開始 1日3回 内服。漸増し 維持量 1日12～48mg 1日3回 分割 食後 内服。
適宜増減，1日48mgまで。

■禁忌
【禁忌】1．昏睡状態。
2．バルビツール酸誘導体等の中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者。
3．本剤の成分に過敏症の既往。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

4. アドレナリンの投与患者(アナフィラキシー救急治療，歯科の浸潤麻酔・伝達麻酔時除く)。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 悪性症候群(1%未満)(無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下)，高熱の持続，意識障害，呼吸困難，循環虚脱，脱水症状，急性腎障害，死亡。
2. 遅発性ジスキネジア(0．1～1%未満)(口周部等の不随意運動)。
3. 麻痺性イレウス(1%未満)，腸管麻痺(食欲不振，悪心・嘔吐，著しい便秘，腹部の膨満，弛緩，腸内容物のうっ滞等)。
4. 抗利尿ホルモン不適合分泌症候群(1%未満)(低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等)。
5. 痙攣(頻度不明)。
6. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等)，急性腎障害。
7. 無顆粒球症，白血球減少(各頻度不明)。
8. 高血糖，糖尿病の悪化，糖尿病性ケトアシドーシス，糖尿病性昏睡(各頻度不明)(口渇，多飲，多尿，頻尿等)。
9. 肺塞栓症，深部静脈血栓症(各頻度不明)等の血栓塞栓症(息切れ，胸痛，四肢の疼痛，浮腫等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
循環器 心悸亢進，胸内苦悶感，血圧低下 頻脈，心室性期外収縮，徐脈，血圧上昇
錐体外路症状 パーキンソン症候群(振戦，筋強剛，流涎，仮面様顔貌，寡黙寡動，歩行障害等)(25．6%)，アカシジア(静坐不能)(25．4%)，ジスキネジア(口周部・四肢等の不随意運動，構音障害，嚥下障害等)(13．1%) ジストニア(斜頚，眼球上転発作等)
肝臓 AST，ALT上昇 AI－P，γ－GTP上昇 LDH上昇
眼 視力障害，眼のかすみ，角膜糜爛
過敏症 発疹，紅斑
消化器 便秘，悪心・嘔吐，食欲減退 食欲亢進 腹部不快感，下痢，腹痛
内分泌 プロラクチン上昇 月経異常 乳汁分泌
泌尿器 排尿障害 頻尿
血液 白血球増加，白血球減少，白血球分類異常，赤血球増加，赤血球減少，ヘモグロビン増加，ヘモグロビン減少，ヘマトクリット増加，ヘマトクリット減少，血小板減少
精神神経系 不眠(22．8%)，眠気(14．5%)，焦燥・不安，眩暈・ふらつき，過度鎮静 興奮・易刺激性，頭重・頭痛，うつ状態 頭部異常感，しびれ感，眼瞼下垂，頭鳴 痙攣発作，躁状態，自殺企図，精神病症状の増悪，妄想，幻覚，衝動行為，思考異常
その他 脱力倦怠感，口渇，CK上昇 無力感，発汗，尿蛋白 発熱，ほてり(顔面紅潮)，射精障害，鼻閉，体重増加，水中毒，多飲症，気分不快感，喀痰，総コレステロール上昇，総コレステロール低下，総蛋白低下，尿糖，尿ウロビリノーゲン，血清ナトリウム低下，血清クロール低下 血糖上昇
(表終了)

ミルタザピン錠15mg「ニプロ」(15mg1錠)

両 内服 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】1179051F1177
【薬効分類】1．1．7 精神神経用剤
【一般名】ミルタザピン
【先発品】リフレックス錠15mg，レメロン錠15mg
【メーカー】製)ニプロ
【薬価】13.3円/1T
【薬価収載日】2018/12/14
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】ノルアドレナリン・セロトニン作動性抗うつ剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】うつ病・うつ状態
注意
1．24歳以下では，自殺念慮，自殺企図のリスクが増加するとの報告あり，リスクとベネフィットを考慮。
2．18歳未満の大うつ病性障害に投与時は適応を検討。
【用法用量】成人 初期量 1日15mg 1日1回 就寝前 内服。
1日15～30mg 1日1回 就寝前 内服。
適宜増減，増量は1週間以上あけて 1日15mgずつ 1日45mgまで。
注意
投与量は必要最小限に調節。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．MAO阻害剤(セレギリン塩酸塩，ラサギリンメシル酸塩，サフィナミドメシル酸塩)の投与中・中止後2週間以内。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．セロトニン症候群(頻度不明)(不安，焦燥，興奮，錯乱，発汗，下痢，発熱，高血圧，固縮，頻脈，ミオクローヌス，自律神経不安定等)。
2．無顆粒球症，好中球減少症(各頻度不明)。
3．痙攣(頻度不明)。
4．肝機能障害(AST，ALTの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
5．抗利尿ホルモン不適合分泌症候群(頻度不明)(低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等)。
6．皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑(各頻度不明)。
7．QT延長，心室頻拍(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
全身症状 体重増加，倦怠感(15．2%) 異常感，末梢性浮腫 胸痛，易刺激性，浮腫，末梢冷感，体重減少 疲労
内分泌 高プロラクチン血症，乳汁漏出症，女性化乳房
精神神経系 傾眠(50．0%)，浮動性眩暈，頭痛 体位性眩暈，感覚鈍麻，振戦，不眠症，構語障害 注意力障害，アカシジア，痙攣，悪夢，鎮静，錯感覚，下肢静止不能症候群，異常な夢，不安，軽躁，躁病 激越，錯乱，運動過多，ミオクローヌス，失神，幻覚，精神運動の不穏(運動過剰症)，嗜眠，口の錯感覚，せん妄，攻撃性，健忘
消化器 便秘(12．7%)，口渇(20．6%) 上腹部痛，下痢，悪心，胃不快感，嘔吐，腹部膨満 腹痛，口内乾燥，おくび，口の感覚鈍麻 口腔浮腫，唾液分泌亢進
循環器 動悸，血圧上昇 心拍数増加 起立性低血圧，低血圧
呼吸器 しゃっくり
血液 ヘモグロビン減少，白血球減少，白血球増多，好酸球増多，好中球増多，リンパ球減少 再生不良性貧血，顆粒球減少，血小板減少症
皮膚 紅斑，多汗症，掻痒症，発疹 水疱
感覚器 視調節障害，眼瞼浮腫，視覚障害
肝臓 AST上昇，ALT上昇(12．4%)，γ－GTP上昇 AI－P上昇 LDH上昇，ビリルビン上昇
泌尿器 頻尿 尿糖陽性，尿蛋白陽性 尿閉，排尿困難
生殖器 不正子宮出血 持続勃起症
骨格筋・結合組織 関節痛 筋肉痛，筋力低下，背部痛，四肢不快感 CK上昇
その他 過食，食欲亢進，コレステロール上昇 食欲不振
(表終了)

リスペリドンOD錠1mg「トーワ」(1mg1錠)

両 内服 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】1179038F5061
【薬効分類】1．1．7 精神神経用剤
【一般名】リスペリドン
【先発品】リスパダールOD錠1mg
【メーカー】製)東和薬品 販)和薬
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2009/11/13
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】抗精神病剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○統合失調症
○小児期の自閉スペクトラム症に伴う易刺激性
注意
小児期の自閉スペクトラム症に伴う易刺激性
5～18歳未満に使用。
【用法用量】1．統合失調症
成人 1回1mgから開始 1日2回 内服。漸増し 維持量 1日2～6mg 1日2回 分割 内服。
適宜増減，1日12mgまで。
2．小児期の自閉スペクトラム症に伴う易刺激性
(1)．体重15～20kg未満
1回0．25mgから開始 1日1回 内服。4日目より 1日0．5mg 1日2回 分割 内服。
適宜増減，増量時 1週間以上あけて 1日0．25mgずつ 1日1mgまで。
(2)．体重20kg以上
1回0．5mgから開始 1日1回 内服。4日目より 1日1mg 1日2回分割 内服。
適宜増減，増量時 1週間以上あけて 1日0．5mgずつ 20～45kg未満 1日2．5mgまで 45kg以上 1日3mgまで。
注意
1．本剤の活性代謝物パリペリドンとの併用で作用増強のおそれ，パリペリドン含有経口剤との併用は避ける。
2．0．25mg単位での調節が必要な時は，内用液又は細粒を使用。

■禁忌

【禁忌】1．昏睡状態。
2．バルビツール酸誘導体等の中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

3. アドレナリンの投与患者(アナフィラキシー救急治療，歯科の浸潤麻酔・伝達麻酔時除く)。
4. 本剤の成分・パリペリドンに過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 悪性症候群(頻度不明)(無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下)，高熱の持続，意識障害，呼吸困難，循環虚脱，脱水症状，急性腎障害，死亡。
2. 遅発性ジスキネジア(0．55%)(口周部等の不随意運動)。
3. 麻痺性イレウス(頻度不明)，腸管麻痺(食欲不振，悪心・嘔吐，著しい便秘，腹部の膨満，弛緩，腸内容物のうっ滞等)。
4. 抗利尿ホルモン不適合分泌症候群(頻度不明)(低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等)。
5. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(頻度不明)。
6. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)，急性腎障害。
7. 不整脈(頻度不明)(心房細動，心室性期外収縮等)。
8. 脳血管障害(頻度不明)。
9. 高血糖，糖尿病の悪化，糖尿病性ケトアシドーシス，糖尿病性昏睡(頻度不明)(口渇，多飲，多尿，頻尿等)。
10. 低血糖(頻度不明)(脱力感，倦怠感，冷汗，振戦，傾眠，意識障害等の低血糖症状)。
11. 無顆粒球症，白血球減少(頻度不明)。
12. 肺塞栓症，深部静脈血栓症(頻度不明)等の血栓塞栓症(息切れ，胸痛，四肢の疼痛，浮腫等)。
13. 持続勃起症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
感染症・寄生虫症　気管支炎，鼻咽頭炎，咽頭炎，肺炎，胃腸炎，感染，膀胱炎，耳感染，インフルエンザ，限局性感染，気道感染，鼻炎，副鼻腔炎，皮下組織膿瘍，尿路感染，ウイルス感染，蜂巣炎，扁桃炎，眼感染，中耳炎，爪真菌症，ダニ皮膚炎
血液・リンパ系障害　貧血 血小板減少症，好中球減少症
免疫系障害　アナフィラキシー反応，過敏症
内分泌障害　高プロラクチン血症
代謝・栄養障害 食欲不振 食欲亢進 高脂血症，多飲症，食欲減退，高尿酸血症，水中毒
精神障害 不眠症，不安 激越，うつ病，幻覚，躁病，妄想，緊張，錯乱状態，リビドー亢進 抑うつ症状，被害妄想，精神症状，睡眠障害，自殺企図，徘徊，リビドー減退，神経過敏，気力低下，情動鈍麻，無オルガズム症，悪夢，睡眠時遊行症
神経系障害 アカシジア，振戦，構音障害，傾眠，眩暈・ふらつき 頭痛，ジストニー，鎮静，運動低下，立ちくらみ，ジスキネジア，無動，しびれ感，痙攣，仮面状顔貌，頭部不快感，錯感覚 パーキンソニズム，錐体外路障害，精神運動亢進，注意力障害，構語障害，よだれ，嗜眠，意識レベルの低下，会話障害(舌のもつれ等)，味覚異常，記憶障害，てんかん，末梢性ニューロパチー，協調運動異常，過眠症，弓なり緊張，失神，平衡障害，刺激無反応，運動障害，意識消失
眼障害　調節障害，視力低下 眼球回転発作，眼瞼痙攣，眼脂，結膜炎，網膜動脈閉塞，霧視，眼充血，眼瞼縁痂皮，眼乾燥，流涙増加，羞明，緑内障，術中虹彩緊張低下症候群
耳・迷路障害　耳痛，回転性眩暈，耳鳴
心臓障害　頻脈，動悸，心室性期外収縮，上室性期外収縮 洞性頻脈，房室ブロック，右脚ブロック，徐脈，左脚ブロック，洞性徐脈
血管障害　潮紅 起立性低血圧，低血圧，高血圧，末梢冷感，末梢循環不全
呼吸器，胸郭・縦隔障害　鼻閉 呼吸困難，咳嗽，鼻漏，副鼻腔うっ血，睡眠時無呼吸症候群，口腔咽頭痛，鼻出血，肺うっ血，喘鳴，嚥下性肺炎，発声障害，気道うっ血，ラ音，呼吸障害，過換気
胃腸障害 流涎過多，便秘，悪心，嘔吐 嚥下障害，腹部膨満，胃不快感，下痢，腹痛，消化不良，上腹部痛 口内乾燥，胃炎，唾液欠乏，腸閉塞，膵炎，歯痛，糞塊充塞，便失禁，口唇炎，舌腫脹
肝胆道系障害　肝機能異常
皮膚・皮下組織障害　多汗症，発疹 掻痒症，湿疹，過角化，紅斑，ざ瘡，脱毛症，血管浮腫，皮膚乾燥，頭部粃糠疹，脂漏性皮膚炎，皮膚変色，皮膚病変，蕁麻疹，水疱
筋骨格系・結合組織障害 筋固縮 斜頸，筋攣縮，関節硬直 筋肉痛，筋力低下，背部痛，四肢痛，関節痛，姿勢異常，筋骨格痛，頚部痛，筋骨格系胸痛，筋痙縮
腎・尿路障害　排尿困難，頻尿 尿閉，尿失禁
生殖系・乳房障害 月経障害 乳汁漏出症，射精障害 無月経，不規則月経，女性化乳房，性機能不全，乳房不快感，勃起不全，月経遅延，希発月経，腟分泌物異常，乳房腫大，乳房分泌
全身障害・投与局所様態 易刺激性，倦怠感，口渇 無力症，疲労，歩行障害，胸部不快感，発熱 気分不良，胸痛，顔面浮腫，末梢性浮腫，疼痛，不活発，浮腫，低体温，インフルエンザ様疾患，悪寒，薬剤離脱症候群
臨床検査　ALT増加，CK増加，血圧低下，血中トリグリセリド増加，γ－GTP増加，体重増加，体重減少 AST増加，血中クレアチニン増加，血中ブドウ糖増加，LDH増加，血中プロラクチン増加，血中ナトリウム減少，血中尿素増加，心電図異常，心電図QT延長，好酸球数増加，グリコヘモグロビン増加，血小板数減少，総蛋白減少，白血球数減少，白血球数増加，尿中蛋白陽性，AI－P増加，ヘマトクリット減少，心電図T波逆転，血中尿酸増加，尿中血陽性，肝酵素上昇，尿糖陽性
傷害，中毒，処置合併症　転倒・転落，引っかき傷，処置による疼痛
(表終了)

リスペリドン内用液1mg／mL「トーワ」(0．1%1mL)

両 内服 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】1179038S1072
【薬効分類】1．1．7 精神神経用剤
【一般名】リスペリドン
【先発品】リスパダール内用液1mg／mL，リスペリドン内用液1mg／mL「アメル」
【メーカー】製)東和薬品
【薬価】30円/1mL
【薬価収載日】2008/07/04
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】抗精神病剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】統合失調症
小児期の自閉スペクトラム症に伴う易刺激性
注意
小児期の自閉スペクトラム症に伴う易刺激性
5～18歳未満に使用。
【用法用量】1．統合失調症
成人　1回1mg(本剤　1mL)から開始　1日2回　内服。漸増し　維持量　1日2～6mg(本剤　2～6mL)　1日2回　分割　内服。
適宜増減，1日12mg(本剤　12mL)まで。
2．小児期の自閉スペクトラム症に伴う易刺激性
(1)．体重15～20kg未満
1回0．25mg(本剤　0．25mL)から開始　1日1回　内服。4日目より1日0．5mg(本剤　0．5mL)　1日2回　分割　内服。
適宜増減，増量時　1週間以上あけて　1日0．25mg(本剤　0．25mL)ずつ　1日1mg(本剤　1mL)まで。
(2)．体重20kg以上
1回0．5mg(本剤　0．5mL)から開始　1日1回　内服。4日目より　1日1mg(本剤　1mL)　1日2回　分割　内服。
適宜増減，増量時　1週間以上あけて　1日0．5mg(本剤　0．5mL)ずつ　20～45kg未満　1日2．5mg(本剤　2．5mL)まで　45kg以上　1日3mg(本剤　3mL)まで。
注意
本剤の活性代謝物パリペリドンとの併用で作用増強のおそれ，パリペリドン含有経口剤との併用は避ける。

■禁忌
【禁忌】1．昏睡状態。
2．バルビツール酸誘導体等の中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者。
3．アドレナリンの投与患者(アナフィラキシー救急治療，歯科の浸潤麻酔・伝達麻酔時除く)。
4．本剤の成分・パリペリドンに過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．悪性症候群(頻度不明)(無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下)，高熱の持続，意識障害，呼吸困難，循環虚脱，脱水症状，急性腎障害，死亡。
2．遅発性ジスキネジア(0．55%)(口周部等の不随意運動)。
3．麻痺性イレウス(頻度不明)，腸管麻痺(食欲不振，悪心・嘔吐，著しい便秘，腹部の膨満，弛緩，腸内容物のうっ滞等)。
4．抗利尿ホルモン不適合分泌症候群(頻度不明)(低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等)。
5．肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(頻度不明)。
6．横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)，急性腎障害。
7．不整脈(頻度不明)(心房細動，心室性期外収縮等)。
8．脳血管障害(頻度不明)。
9．高血糖，糖尿病の悪化，糖尿病性ケトアシドーシス，糖尿病性昏睡(頻度不明)(口渇，多飲，多尿，頻尿等)。
10．低血糖(頻度不明)(脱力感，倦怠感，冷汗，振戦，傾眠，意識障害等の低血糖症状)。
11．無顆粒球症，白血球減少(頻度不明)。
12．肺塞栓症，深部静脈血栓症(頻度不明)等の血栓塞栓症(息切れ，胸痛，四肢の疼痛，浮腫等)。
13．持続勃起症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
感染症・寄生虫症　気管支炎，鼻咽頭炎，咽頭炎，肺炎，胃腸炎，感染，膀胱炎，耳感染，インフルエンザ，限局性感染，気道感染，鼻炎，副鼻腔炎，皮下組織膿瘍，尿路感染，ウイルス感染，蜂巣炎，扁桃炎，眼感染，中耳炎，爪真菌症，ダニ皮膚炎
血液・リンパ系障害　貧血 血小板減少症，好中球減少症
免疫系障害　アナフィラキシー反応，過敏症
内分泌障害　高プロラクチン血症
代謝・栄養障害 食欲不振 食欲亢進 高脂血症，多飲症，食欲減退，高

1 神経系及び感覚器官用医薬品

尿酸血症，水中毒
精神障害 不眠症，不安 激越，うつ病，幻覚，躁病，妄想，緊張，錯乱状態，リビドー亢進 抑うつ症状，被害妄想，精神症状，睡眠障害，自殺企図，徘徊，リビドー減退，神経過敏，気力低下，情動鈍麻，無オルガズム症，悪夢，睡眠時遊行症
神経系障害 アカシジア，振戦，構音障害，傾眠，眩暈・ふらつき 頭痛，ジストニー，鎮静，運動低下，立ちくらみ，ジスキネジア，無動，しびれ感，痙攣，仮面状顔貌，頭部不快感，錯感覚 パーキンソニズム，錐体外路障害，精神運動亢進，注意力障害，構語障害，よだれ，嗜眠，意識レベルの低下，会話障害（舌のもつれ等），味覚異常，記憶障害，てんかん，末梢性ニューロパチー，協調運動異常，過眠症，弓なり緊張，失神，平衡障害，刺激無反応，運動障害，意識消失
眼障害 調節障害，視力低下 眼球回転発作，眼瞼痙攣，眼脂，結膜炎，網膜動脈閉塞，霧視，眼充血，眼瞼縁痂皮，眼乾燥，流涙増加，羞明，緑内障，術中虹彩緊張低下症候群
耳・迷路障害 耳痛，回転性眩暈，耳鳴
心臓障害 頻脈，動悸，心室性期外収縮，上室性期外収縮 洞性頻脈，房室ブロック，右脚ブロック，徐脈，左脚ブロック，洞性徐脈
血管障害 潮紅 起立性低血圧，低血圧，高血圧，末梢冷感，末梢循環不全
呼吸器，胸郭・縦隔障害 鼻閉 呼吸困難，咳嗽，鼻漏，副鼻腔うっ血，睡眠時無呼吸症候群，口腔咽頭痛，鼻出血，肺うっ血，喘鳴，嚥下性肺炎，発声障害，気道うっ血，ラ音，呼吸障害，過換気
胃腸障害 流涎過多，便秘，悪心，嘔吐 嚥下障害，腹部膨満，胃不快感，下痢，腹痛，消化不良，上腹部痛 口内乾燥，胃炎，唾液欠乏，腸閉塞，膵炎，歯痛，糞塊充塞，便失禁，口唇炎，舌腫脹
肝胆道系障害 肝機能異常
皮膚・皮下組織障害 多汗症，発疹 掻痒症，湿疹，過角化，紅斑，ざ瘡，脱毛症，血管浮腫，皮膚乾燥，頭部粃糠疹，脂漏性皮膚炎，皮膚変色，皮膚病変，蕁麻疹，水疱
筋骨格系・結合組織障害 筋固縮 斜頚，筋攣縮，関節硬直 筋肉痛，筋力低下，背部痛，四肢痛，関節痛，姿勢異常，筋骨格痛，頚部痛，筋骨格系胸痛，筋痙縮
腎・尿路障害 排尿困難，頻尿 尿閉，尿失禁
生殖系・乳房障害 月経障害 乳汁漏出症，射精障害 無月経，不規則月経，女性化乳房，性機能不全，乳房不快感，勃起不全，月経遅延，希発月経，膣分泌物異常，乳房腫大，乳房分泌
全身障害・投与局所様態 易刺激性，倦怠感，口渇 無力症，疲労，歩行障害，胸部不快感，発熱 気分不良，胸痛，顔面浮腫，末梢性浮腫，疼痛，不活発，浮腫，低体温，インフルエンザ様疾患，悪寒，薬剤離脱症候群
臨床検査 ALT増加，CK増加，血圧低下，血中トリグリセリド増加，γ－GTP増加，体重増加，体重減少 AST増加，血中クレアチニン増加，血中ブドウ糖増加，LDH増加，血中プロラクチン増加，血中ナトリウム減少，血中尿素増加，心電図異常，心電図QT延長，好酸球数増加，グリコヘモグロビン増加，血小板数減少，総蛋白減少，白血球数減少，白血球数増加，尿中蛋白陽性，AI－P増加，ヘマトクリット減少，心電図T波逆転，血中尿酸増加，尿中血陽性，肝酵素上昇，尿糖陽性
傷害，中毒，処置合併症 転倒・転落，引っかき傷，処置による疼痛
（表終了）

リーゼ錠5mg（5mg1錠）

両 内服 流通
精3 ハイリスク

【YJコード】1179012F1118
【薬効分類】1．1．7 精神神経用剤
【一般名】クロチアゼパム
【メーカー】製)田辺三菱製薬 販)三菱ウェルファーマ
【薬価】6.6円/1T
【薬価収載日】1998/07/10
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】心身安定剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○心身症（消化器疾患，循環器疾患）の身体症候・不安・緊張・心気・抑うつ・睡眠障害
○麻酔前投薬
○下記の眩暈・肩こり・食欲不振
自律神経失調症
【用法用量】成人 1日15～30mg 1日3回 分割 内服。
麻酔前投薬 10～15mg 就寝前又は術前 内服。

■禁忌
【禁忌】1．急性閉塞隅角緑内障。
2．重症筋無力症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．依存性（頻度不明）（薬物依存），離脱症状（痙攣発作，せん妄，振戦，不眠，不安，幻覚，妄想等）。
2．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTP，LDH，AI－P，ビリルビン上昇等），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 眩暈，歩行失調，霧視，頭痛・頭重，振戦，手足のしびれ
舌のもつれ 眠気，ふらつき
循環器 耳鳴，血圧低下，たちくらみ，頻脈
消化器 悪心・嘔吐，食欲不振，胃痛，便秘，口渇
皮膚 発疹，かゆみ
骨格筋 易疲労・倦怠感，脱力感等の筋緊張低下症状，筋痛，関節痛
その他 浮腫
（表終了）

1．1．8 総合感冒剤

PL配合顆粒（1g）

両 内服 流通
劇

【YJコード】1180107D1131
【薬効分類】1．1．8 総合感冒剤
【一般名】非ピリン系感冒剤
【メーカー】製)シオノギファーマ 販)塩野義製薬
【薬価】6.7円/1g
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】総合感冒剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】感冒・上気道炎に伴う下記の改善・緩和
鼻汁，鼻閉，咽・喉頭痛，頭痛，関節痛，筋肉痛，発熱
【用法用量】成人 1回1g 1日4回 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分・サリチル酸製剤（アスピリン等）・フェノチアジン系化合物・その類似化合物に過敏症の既往。
2．消化性潰瘍。
3．アスピリン喘息・その既往。
4．昏睡状態，バルビツール酸誘導体・麻酔剤等の中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者。
5．閉塞隅角緑内障。
6．前立腺肥大等下部尿路に閉塞性疾患。
7．2歳未満の乳・幼児。
8．重篤な肝障害。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等）。
2．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，急性汎発性発疹性膿疱症，剥脱性皮膚炎（各頻度不明）。
3．薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
4．再生不良性貧血，汎血球減少，無顆粒球症，溶血性貧血，血小板減少（各頻度不明）。
5．喘息発作の誘発（頻度不明）。
6．間質性肺炎，好酸球性肺炎（各頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常等）。
7．劇症肝炎，肝機能障害，黄疸（各頻度不明）。
8．乳児突然死症候群，乳児睡眠時無呼吸発作（各頻度不明）。
9．間質性腎炎，急性腎障害（各頻度不明）。
10．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇）。
11．緑内障（頻度不明）（視力低下，眼痛等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹 浮腫，鼻炎様症状，結膜炎
血液 チアノーゼ，顆粒球減少，血小板減少，貧血
消化器 食欲不振，悪心，口渇 胸やけ，胃痛，嘔吐，消化管出血
精神神経系 眠気 眩暈，倦怠感，頭痛，耳鳴，難聴，視覚障害，不安感，興奮，神経過敏，不眠，痙攣，せん妄
肝臓 肝機能障害
腎臓 腎障害
循環器 血圧上昇，低血圧，頻脈
その他 過呼吸，代謝性アシドーシス，尿閉，発汗，咳嗽，振戦
（表終了）

1．1．9 その他の中枢神経系用薬

エダラボン点滴静注液30mgバッグ「NP」（30mg100mL1キット）

内 注射 後発 流通

【YJコード】1190401G1069
【薬効分類】1．1．9 その他の中枢神経系用薬

1 神経系及び感覚器官用医薬品

【一般名】エダラボン
【先発品】ラジカット点滴静注バッグ30mg
【メーカー】製)ニプロ
【薬価】1174円/1kit
【薬価収載日】2011/06/24
【標榜薬効】脳保護剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】脳梗塞急性期に伴う神経症候，日常生活動作障害，機能障害の改善
【用法用量】成人　1回1袋(エダラボン　30mg)　1日2回　朝・夕　30分かけ　点滴静注。
発症後24時間以内に投与開始。投与期間　14日以内。

■禁忌
【禁忌】1. 重篤な腎機能障害。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 急性腎障害(0. 26%)，ネフローゼ症候群(0. 02%)(腎機能低下，乏尿等)。
2. 劇症肝炎(頻度不明)等の重篤な肝炎，肝機能障害(0. 24%)(AST，ALT，Al－P，γ－GTP，LDH，ビリルビン等の著しい上昇)，黄疸(頻度不明)。
3. 血小板減少(0. 08%)，顆粒球減少(頻度不明)。
4. DIC(0. 08%)。
5. 急性肺障害(頻度不明)(発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常)。
6. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)。
7. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(蕁麻疹，血圧低下，呼吸困難等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 頻度不明
過敏症　発疹，腫脹，紅斑(多形滲出性紅斑等) 発赤，膨疹，掻痒感
血液　赤血球減少，白血球増多，白血球減少，ヘマトクリット値減少，ヘモグロビン減少，血小板増加，血小板減少
注射部位　注射部発疹，注射部発赤腫脹
肝臓 ALT上昇 総ビリルビン値上昇，AST上昇，LDH上昇，Al－P上昇，γ－GTP上昇，ビリルビン尿 ウロビリノーゲン陽性
腎臓　BUN上昇，血清尿酸上昇，血清尿酸低下，蛋白尿，血尿 多尿，クレアチニン上昇
消化器　嘔気 嘔吐
その他　発熱，血清コレステロール上昇，血清コレステロール低下，トリグリセライド上昇，血清総蛋白減少，CK上昇，CK低下，血清カリウム低下，尿中ブドウ糖陽性，熱感，血圧上昇，血清カルシウム低下 血清カリウム上昇，頭痛
(表終了)

ガランタミンOD錠8mg「日医工」(8mg1錠)

両　内服　後発　流通
劇

【YJコード】1190019F5104
【薬効分類】1. 1. 9　その他の中枢神経系用薬
【一般名】ガランタミン臭化水素酸塩
【先発品】レミニールOD錠8mg
【メーカー】製)エルメッド　販)日医工
【薬価】24.1円/1T
【薬価収載日】2020/06/19
【標榜薬効】アルツハイマー型認知症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】軽度・中等度アルツハイマー型認知症の認知症症状の進行抑制
注意
1. アルツハイマー型認知症のみ使用。
2. アルツハイマー型認知症の進行を抑制する成績はない。
3. アルツハイマー型認知症以外の認知症性疾患での有効性は未確認。
4. 他の認知症性疾患との鑑別診断に注意。
【用法用量】成人　1回4mg　1日8mg　1日2回から開始　内服。
4週間後　1回8mg　1日16mg　1日2回に増量。
1回12mg　1日24mg　1日2回まで。増量時は変更前の用量で4週間以上投与後。
注意
1. 1日8mgは，消化器系副作用を抑える目的なので，4週間を超えない。
2. 中等度の肝障害(Child－Pugh分類を肝機能の指標とした中等度(B))では，1回4mg　1日1回から開始し最低1週間投与後，1回4mg　1日8mg　1日2回を4週間以上投与し，増量。1日16mgまで。
3. 副作用軽減のため，食後に投与。
4. 医療従事者，家族等の管理のもと投与。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 失神(0. 1%)，徐脈(1. 1%)，心ブロック(1. 3%)，QT延長(0. 9%)。
2. 急性汎発性発疹性膿疱症(頻度不明)(発熱，紅斑，多数の小膿疱等)。
3. 肝炎(頻度不明)。
4. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
感染症・寄生虫症　鼻咽頭炎 膀胱炎，尿路感染
血液・リンパ系障害　貧血
過敏症　発疹，掻痒症，顔面浮腫 薬疹，全身性皮疹，蕁麻疹
代謝・栄養障害 食欲不振，食欲減退　脱水
精神障害　不眠症 激越，怒り，攻撃性，不安，せん妄，落ち着きのなさ，幻覚 うつ病，幻視，幻聴
神経系障害　頭痛，浮動性眩暈 意識消失，傾眠，痙攣，体位性眩暈，振戦，アルツハイマー型認知症の悪化，パーキンソニズム 嗜眠，味覚異常，過眠症，錯感覚，錐体外路障害
眼障害　霧視
耳・迷路障害　耳鳴
心臓障害　心室性期外収縮 上室性期外収縮，心房細動，動悸
血管障害　高血圧 低血圧 潮紅
呼吸器，胸郭・縦隔障害　咳嗽
胃腸障害 悪心(14. 9%)，嘔吐(12. 4%)，下痢 腹痛，便秘，上腹部痛，胃不快感 胃炎，腹部膨満，消化不良，胃潰瘍，腸炎，萎縮性胃炎，腹部不快感，レッチング
肝胆道系障害　肝機能異常
皮膚・皮下組織障害　湿疹，皮下出血，多汗症，紅斑
筋骨格系・結合組織障害　背部痛，筋力低下 筋痙縮
腎・尿路障害　頻尿，尿失禁，血尿
全身障害・投与局所様態　倦怠感，異常感 無力症，発熱，胸痛，疲労，歩行障害
臨床検査　体重減少，肝機能検査値異常，CK増加，尿中白血球陽性，血圧上昇，血中ブドウ糖増加 尿中血陽性，血中トリグリセリド増加，尿中赤血球陽性，白血球数増加，血中コレステロール増加，LDH増加，血中カリウム減少，血圧低下，血中尿酸増加，心電図異常，総蛋白減少
傷害，中毒，処置合併症　転倒・転落
(表終了)

タリージェOD錠5mg（5mg1錠）

両　内服　流通

【YJコード】1190026F6020
【薬効分類】1. 1. 9　その他の中枢神経系用薬
【一般名】ミロガバリンベシル酸塩
【メーカー】製)第一三共
【薬価】92.5円/1T
【薬価収載日】2023/05/24
【標榜薬効】神経障害性疼痛治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】神経障害性疼痛
【用法用量】成人　初期量　1回5mg　1日2回　内服。以後，1回5mgずつ　1週間以上あけて漸増し，1回15mg　1日2回　内服。1回10～15mgで適宜増減，1日2回。
注意
腎機能障害 下表に示すクレアチニンクリアランス値を参考に投与量・投与間隔を調節。低用量から開始し，忍容性が確認され，効果不十分時に増量。
(表開始)
腎機能障害の程度(CLcr；mL／分) 腎機能障害の程度(CLcr；mL／分) 腎機能障害の程度(CLcr；mL／分)
軽度（90＞CLcr≧60）中等度（60＞CLcr≧30）重度（血液透析患者含む）（30＞CLcr）
1日量 1日量 10～30mg 5～15mg 2. 5～7. 5mg
初期量 初期量 1回5mg 1日2回 1回2. 5mg 1日2回 1回2. 5mg 1日1回
有効量 最低量 1回10mg 1日2回 1回5mg 1日2回 1回5mg 1日1回
有効量 推奨量 1回15mg 1日2回 1回7. 5mg 1日2回 1回7. 5mg 1日1回
(表終了)

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 眩暈(頻度不明)，傾眠(頻度不明)，意識消失(0. 1%未満)。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

2. 肝機能障害(頻度不明)(AST, ALT上昇等, 全身倦怠感, 食欲不振等)。
3. 腎機能障害(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
精神神経系 傾眠, 浮動性眩暈 体位性眩暈, 不眠症, 意識消失, 頭痛, 振戦, 感覚鈍麻 記憶障害, 健忘, 構語障害, 幻覚, せん妄, 味覚障害, 味覚不全, 頭部不快感, ジスキネジア, ミオクローヌス
眼 霧視 複視, 視力障害, 視力低下
血液 好酸球数増加
循環器 起立性低血圧, 高血圧 動悸, ほてり, 血圧低下
消化器 便秘, 腹部膨満, 口内乾燥, 胃炎, 嘔吐, 食欲亢進, 食欲減退, 上腹部痛, 胃食道逆流性疾患 下痢, 腹部不快感
肝臓 肝酵素上昇
泌尿器 尿失禁, 頻尿, 排尿困難, 尿閉
皮膚 発疹 蕁麻疹, 紅斑, 掻痒症
その他 浮腫 体重増加, 歩行障害, 異常感, 回転性眩暈, 口渇, 顔面浮腫, 転倒, 糖尿病(HbA1c上昇, 血糖値上昇), 倦怠感, 血中CK上昇, 眼瞼浮腫, 筋力低下, 離脱症候群 無力症, 疼痛
(表終了)

タルチレリンOD錠5mg「サワイ」(5mg1錠)

両 内服 後発 流通

【YJコード】1190014F2064
【薬効分類】1. 1. 9 その他の中枢神経系用薬
【一般名】タルチレリン水和物
【先発品】セレジストOD錠5mg
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】200.4円/1T
【薬価収載日】2016/06/17
【標榜薬効】脊髄小脳変性症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】脊髄小脳変性症の運動失調の改善
注意
運動失調を呈する類似疾患の判別のため, 病歴の聴取, 全身の理学的所見による確定診断の上投与。
【用法用量】成人 1回5mg 1日2回 朝・夕食後 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 痙攣(1%未満)。
2. 悪性症候群(1%未満)(発熱, 無動緘黙, 筋強剛, 脱力, 頻脈, 血圧の変動等, 白血球の増加, 血清CKの上昇, ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下)。
3. 肝機能障害(AST, ALT, Al-P, LDH, γ-GTPの上昇等), 黄疸(各1%未満)。
4. ショック様症状(頻度不明)(一過性の血圧低下, 意識喪失等)。
5. 血小板減少(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1~5%未満 0. 1%未満
血液 赤血球減少, ヘモグロビン減少
循環器 血圧・脈拍数の変動, 動悸
消化器 悪心, 嘔吐, 下痢, 食欲不振, 胃部不快感, 胃炎, 腹痛, 口渇, 便秘 舌炎
肝臓 AST, ALT, γ-GTP, Al-P, LDH, トリグリセリド, 総コレステロールの上昇
腎臓 BUNの上昇
精神神経系 頭痛, 眩暈, ふらつき, 振戦 しびれ, 眠気, 頭がボーッとする, 不眠
過敏症 発疹, 掻痒
内分泌 TSHの変動, 甲状腺ホルモン(T3, T4), プロラクチンの上昇 女性化乳房
その他 CKの上昇, 血糖上昇, 熱感, 倦怠感, 頻尿 脱毛
(表終了)

チアプリド錠25mg「サワイ」(25mg1錠)

両 内服 後発 流通

【YJコード】1190004F1145
【薬効分類】1. 1. 9 その他の中枢神経系用薬
【一般名】チアプリド塩酸塩
【先発品】グラマリール錠25mg
【メーカー】製)沢井製薬 販)日本ジェネリック
【薬価】8.2円/1T
【薬価収載日】2013/06/21
【標榜薬効】チアプリド製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1. 脳梗塞後遺症に伴う攻撃的行為, 精神興奮, 徘徊, せん妄の改善
2. 特発性ジスキネジア, パーキンソニズムに伴うジスキネジア
【用法用量】成人 1日75~150mg 1日3回 分割 内服。
適宜増減。
パーキンソニズムに伴うジスキネジア
1回25mgから開始 1日1回 内服。
注意
効能共通
1. 高齢者 低用量(例 1回25mg, 1日1~2回)から開始する等慎重投与。
脳梗塞後遺症に伴う攻撃的行為, 精神興奮, 徘徊, せん妄の改善
2. 投与期間は, 臨床効果・副作用を考慮しながら慎重に決定し, 投与6週で効果なければ中止。

■禁忌

【禁忌】プロラクチン分泌性の下垂体腫瘍(プロラクチノーマ)。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 悪性症候群(0. 1%未満)(無動緘黙, 強度の筋強剛, 嚥下困難, 頻脈, 血圧の変動, 発汗等, 発熱, 白血球の増加, 血清CKの上昇, ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下), 高熱の持続, 意識障害, 呼吸困難, 循環虚脱, 脱水症状, 急性腎障害, 死亡。
2. 昏睡(0. 1~5%未満)。
3. 痙攣(0. 1~5%未満)。
4. QT延長, 心室頻拍(Torsades de pointes含む)(各0. 1%未満)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1~5%未満 0. 1%未満
循環器 不整脈, 頻脈, 胸内苦悶, 血圧上昇, 血圧低下
錐体外路症状 パーキンソン症候群(振戦, 筋強剛, 運動減少, 流涎, 姿勢・歩行障害等), ジスキネジア, 言語障害, 咬痙, アカシジア ジストニア, 嚥下障害
内分泌 乳汁分泌, 女性化乳房, 月経異常
精神神経系 眠気, 不眠, 不安・焦燥, 抑うつ, ぼんやり, 性欲亢進
自律神経系 眩暈・ふらつき, 口渇, 頭痛・頭重, 脱力・倦怠感, しびれ, 排尿障害, 尿失禁, 耳鳴
消化器 悪心・嘔吐, 腹痛・胃部不快感, 食欲不振, 便秘, 口内炎, 下痢 食欲亢進, 腹部膨満感
肝臓 AST上昇, ALT上昇, Al-P上昇 黄疸
過敏症 発疹, 掻痒感
その他 発熱, 眼調節障害, ほてり, 貧血
(表終了)

デエビゴ錠2. 5mg (2. 5mg1錠)

両 内服 流通

【YJコード】1190027F1022
【薬効分類】1. 1. 9 その他の中枢神経系用薬
【一般名】レンボレキサント
【メーカー】製)エーザイ
【薬価】44.9円/1T
【薬価収載日】2020/04/22
【標榜薬効】不眠症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】不眠症
【用法用量】成人 1回5mg 1日1回 就寝直前 内服。適宜増減, 1回10mg 1日1回まで。
注意
1. 効果不十分で, 増量時は, 1日1回10mgまで。増量時は, 傾眠等の副作用が増加する可能性, 慎重投与, 症状の改善に伴い減量。
2. 就寝の直前に服用。睡眠途中で起床して活動する時は服用しない。
3. 入眠効果の発現が遅れるおそれ, 食事と同時又は食直後の服用は避ける(食後投与で, 投与直後のレンボレキサントの血漿中濃度低下の可能性)。
4. CYP3Aを阻害する薬剤との併用により, レンボレキサントの血漿中濃度が上昇し, 傾眠等の副作用増強のおそれ。CYP3Aを中程度・強力に阻害する薬剤(フルコナゾール, エリスロマイシン, ベラパミル, イトラコナゾール, クラリスロマイシン等)との併用は, 状態を慎重に観察し, 投与可否を判断。併用時は1日1回2. 5mg。
5. 中等度肝機能障害 レンボレキサントの血漿中濃度が上昇するため, 1日1回5mgまで。
6. 他の不眠症治療薬と併用時の有効性・安全性は未確立。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 重度の肝機能障害。

■副作用

【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 3%以上 1~3%未満 1%未満 頻度不明
神経系障害 傾眠(10. 7%), 頭痛(4. 2%) 浮動性眩暈, 睡眠時麻痺 注意力障害

1 神経系及び感覚器官用医薬品

精神障害 異常な夢，悪夢 幻覚，錯乱状態 睡眠時随伴症
循環器 動悸
消化器 悪心 口内乾燥，腹痛
肝臓 ALT上昇
感覚器 回転性眩暈，耳鳴 眼痛
その他 倦怠感（3．1%） 体重増加 食欲亢進，多汗症，血中トリグリセリド上昇，異常感，転倒，筋肉痛
（表終了）

ドネペジル塩酸塩OD錠3mg「NP」（3mg1錠）

両 内服 後発 流通
劇

【YJコード】1190012F3070
【薬効分類】1．1．9 その他の中枢神経系用薬
【一般名】ドネペジル塩酸塩
【先発品】アリセプトD錠3mg
【メーカー】製)ニプロ 販)サンド
【薬価】13円/1T
【薬価収載日】2011/11/28
【標榜薬効】アルツハイマー型，レビー小体型認知症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】アルツハイマー型認知症・レビー小体型認知症の認知症症状の進行抑制
注意
効能共通
1．アルツハイマー型認知症・レビー小体型認知症の進行を抑制する成績はない。
2．アルツハイマー型認知症・レビー小体型認知症以外の認知症性疾患での有効性は未確認。
3．他の認知症性疾患との鑑別診断に注意。
アルツハイマー型認知症の認知症症状の進行抑制
4．アルツハイマー型認知症のみ使用。
レビー小体型認知症の認知症症状の進行抑制
5．認知症治療に精通し，臨床成績の項を熟知した医師の指導のもとで，臨床診断基準に基づき，症状観察や検査等でレビー小体型認知症のみ使用。
6．精神症状・行動障害，全般臨床症状への有効性は未確認。
【用法用量】アルツハイマー型認知症の認知症症状の進行抑制
成人 1回3mgから開始 1日1回 内服。1～2週間後 5mgに増量。高度のアルツハイマー型認知症 1回5mg 4週間以上経過後 10mgに増量。適宜減量。
レビー小体型認知症の認知症症状の進行抑制
成人 1回3mgから開始 1日1回 内服。1～2週間後 5mgに増量。1回5mg 4週間以上経過後 10mgに増量。5mgまで減量できる。
投与開始12週間後までを目安に，認知機能検査，患者・家族・介護者から自他覚症状の聴取等で有効性評価を行い，認知機能，精神症状・行動障害，日常生活動作等を総合的に評価してベネフィットがリスクを上回ると判断できない場合は，投与中止。投与開始12週間後までの有効性評価の結果に基づき投与継続を判断時でも，定期的に有効性評価を行い，投与継続可否を判断。
注意
1．3mg／日投与は，消化器系副作用を抑える目的なので，1～2週間を超えて使用しない。
2．10mg／日に増量時は，消化器系副作用に注意しながら投与。
3．医療従事者，家族等の管理のもと投与。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分・ピペリジン誘導体に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．QT延長（0．1～1%未満），心室頻拍（Torsades de pointes含む），心室細動，洞不全症候群，洞停止，高度徐脈（各頻度不明），心ブロック（洞房ブロック，房室ブロック），失神（各0．1～1%未満），心停止。
2．心筋梗塞，心不全（各0．1%未満）。
3．消化性潰瘍（胃・十二指腸潰瘍）（0．1%未満），十二指腸潰瘍穿孔（頻度不明），消化管出血（0．1%未満）。
4．肝炎（頻度不明），肝機能障害（0．1～1%未満），黄疸（頻度不明）。
5．脳性発作（てんかん，痙攣等）（0．1～1%未満），脳出血，脳血管障害（各0．1%未満）。
6．錐体外路障害（アルツハイマー型認知症 0．1～1%未満，レビー小体型認知症 9．5%）（寡動，運動失調，ジスキネジア，ジストニア，振戦，不随意運動，歩行異常，姿勢異常，言語障害等）。
7．悪性症候群（0．1%未満）（無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下）。
8．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等），急性腎障害。
9．呼吸困難（0．1%未満）。
10．急性膵炎（0．1%未満）。
11．急性腎障害（0．1%未満）。
12．原因不明の突然死（0．1%未満）。
13．血小板減少（0．1%未満）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～3%未満 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感
消化器 食欲不振，嘔気，嘔吐，下痢 腹痛，便秘，流涎 嚥下障害，便失禁
精神神経系 興奮，不穏，不眠，眠気，易怒性，幻覚，攻撃性，せん妄，妄想，多動，抑うつ，無感情 リビドー亢進，多弁，躁状態，錯乱 悪夢
中枢・末梢神経系 徘徊，振戦，頭痛，眩暈 昏迷
肝臓 LDH，AST，ALT，γ－GTP，AI－Pの上昇
循環器 動悸，血圧上昇，血圧低下，上室性期外収縮，心室性期外収縮 心房細動
泌尿器 BUNの上昇，尿失禁，頻尿 尿閉
血液 白血球減少，ヘマトクリット値減少，貧血
その他 CK，総コレステロール，トリグリセライド，アミラーゼ，尿アミラーゼの上昇，倦怠感，むくみ，転倒，筋痛，体重減少 顔面紅潮，脱力感，胸痛 発汗，顔面浮腫，発熱，縮瞳
（表終了）

ドネペジル塩酸塩OD錠5mg「NP」（5mg1錠）

両 内服 後発 流通
劇

【YJコード】1190012F4076
【薬効分類】1．1．9 その他の中枢神経系用薬
【一般名】ドネペジル塩酸塩
【先発品】アリセプトD錠5mg
【メーカー】製)ニプロ 販)サンド
【薬価】23.5円/1T
【薬価収載日】2011/11/28
【標榜薬効】アルツハイマー型，レビー小体型認知症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】アルツハイマー型認知症・レビー小体型認知症の認知症症状の進行抑制
注意
効能共通
1．アルツハイマー型認知症・レビー小体型認知症の進行を抑制する成績はない。
2．アルツハイマー型認知症・レビー小体型認知症以外の認知症性疾患での有効性は未確認。
3．他の認知症性疾患との鑑別診断に注意。
アルツハイマー型認知症の認知症症状の進行抑制
4．アルツハイマー型認知症のみ使用。
レビー小体型認知症の認知症症状の進行抑制
5．認知症治療に精通し，臨床成績の項を熟知した医師の指導のもとで，臨床診断基準に基づき，症状観察や検査等でレビー小体型認知症のみ使用。
6．精神症状・行動障害，全般臨床症状への有効性は未確認。
【用法用量】アルツハイマー型認知症の認知症症状の進行抑制
成人 1回3mgから開始 1日1回 内服。1～2週間後 5mgに増量。高度のアルツハイマー型認知症 1回5mg 4週間以上経過後 10mgに増量。適宜減量。
レビー小体型認知症の認知症症状の進行抑制
成人 1回3mgから開始 1日1回 内服。1～2週間後 5mgに増量。1回5mg 4週間以上経過後 10mgに増量。5mgまで減量できる。
投与開始12週間後までを目安に，認知機能検査，患者・家族・介護者から自他覚症状の聴取等で有効性評価を行い，認知機能，精神症状・行動障害，日常生活動作等を総合的に評価してベネフィットがリスクを上回ると判断できない場合は，投与中止。投与開始12週間後までの有効性評価の結果に基づき投与継続を判断時でも，定期的に有効性評価を行い，投与継続可否を判断。
注意
1．3mg／日投与は，消化器系副作用を抑える目的なので，1～2週間を超えて使用しない。
2．10mg／日に増量時は，消化器系副作用に注意しながら投与。
3．医療従事者，家族等の管理のもと投与。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分・ピペリジン誘導体に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．QT延長（0．1～1%未満），心室頻拍（Torsades de pointes含む），心室細動，洞不全症候群，洞停止，高度徐脈（各頻度不明），心ブロック（洞房ブロック，房室ブロック），失神（各0．1～1%未満），心停止。
2．心筋梗塞，心不全（各0．1%未満）。
3．消化性潰瘍（胃・十二指腸潰瘍）（0．1%未満），十二指腸潰瘍穿孔（頻度不明），消化管出血（0．1%未満）。
4．肝炎（頻度不明），肝機能障害（0．1～1%未満），黄疸（頻度不明）。
5．脳性発作（てんかん，痙攣等）（0．1～1%未満），脳出血，脳血管障害（各0．1%未満）。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

6. 錐体外路障害(アルツハイマー型認知症 0. 1～1%未満, レビー小体型認知症 9. 5%)(寡動, 運動失調, ジスキネジア, ジストニア, 振戦, 不随意運動, 歩行異常, 姿勢異常, 言語障害等)。
7. 悪性症候群(0. 1%未満)(無動緘黙, 強度の筋強剛, 嚥下困難, 頻脈, 血圧の変動, 発汗等, 発熱, 白血球の増加, 血清CKの上昇, ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下)。
8. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇等), 急性腎障害。
9. 呼吸困難(0. 1%未満)。
10. 急性膵炎(0. 1%未満)。
11. 急性腎障害(0. 1%未満)。
12. 原因不明の突然死(0. 1%未満)。
13. 血小板減少(0. 1%未満)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～3%未満 0. 1～1%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹, 掻痒感
消化器 食欲不振, 嘔気, 嘔吐, 下痢 腹痛, 便秘, 流涎 嚥下障害, 便失禁
精神神経系 興奮, 不穏, 不眠, 眠気, 易怒性, 幻覚, 攻撃性, せん妄, 妄想, 多動, 抑うつ, 無感情 リビドー亢進, 多弁, 躁状態, 錯乱 悪夢
中枢・末梢神経系 徘徊, 振戦, 頭痛, 眩暈 昏迷
肝臓 LDH, AST, ALT, γ－GTP, AI－Pの上昇
循環器 動悸, 血圧上昇, 血圧低下, 上室性期外収縮, 心室性期外収縮 心房細動
泌尿器 BUNの上昇, 尿失禁, 頻尿 尿閉
血液 白血球減少, ヘマトクリット値減少, 貧血
その他 CK, 総コレステロール, トリグリセライド, アミラーゼ, 尿アミラーゼの上昇, 倦怠感, むくみ, 転倒, 筋痛, 体重減少 顔面紅潮, 脱力感, 胸痛 発汗, 顔面浮腫, 発熱, 縮瞳
(表終了)

ナルフラフィン塩酸塩OD錠2. 5μg「サワイ」(2. 5μg1錠)

両 内服 後発 流通
劇

【YJコード】1190015F1038
【薬効分類】1. 1. 9 その他の中枢神経系用薬
【一般名】ナルフラフィン塩酸塩
【先発品】レミッチOD錠2. 5μg
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】234.2円/1T
【薬価収載日】2018/06/15
【標榜薬効】そう痒症改善剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の掻痒症の改善(既存治療で効果不十分時のみ)
透析, 慢性肝疾患
【用法用量】成人 1回2. 5μg 1日1回 夕食後又は就寝前 内服。1回5μg 1日1回まで。
注意
効能共通
1. 口腔内で崩壊するが, 口腔粘膜から吸収されないため, 唾液又は水で飲み込む。
血液透析患者の掻痒症の改善
2. 本剤の投与から血液透析開始までは十分な間隔をあける。本剤は血液透析により除去される, 本剤服用から血液透析までの時間が短い場合, 本剤の血中濃度低下の可能性。
腹膜透析患者の掻痒症の改善
3. 本剤の投与から透析液交換までは十分な間隔をあける。本剤服用から透析液交換までの時間が短い場合, 本剤の血中濃度低下の可能性。
慢性肝疾患患者の掻痒症の改善
4. 1日1回2. 5μgから開始し, 効果不十分時に1日1回5μgへの増量を検討。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
肝機能障害(AST, ALT, AI－P, γ－GTPの著しい上昇等), 黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 不眠 眠気, 浮動性眩暈, 頭痛 いらいら感, 幻覚, 構語障害, レストレスレッグス症候群, 振戦, しびれ 不穏, せん妄, 易怒性
消化器系 便秘 口渇, 悪心, 下痢 嘔吐, 食欲不振, 腹部不快感, 胃炎, 口内炎
皮膚 掻痒の悪化, 湿疹, 発疹 蕁麻疹, 紅斑, 丘疹 色素沈着
肝臓 総胆汁酸上昇 AST上昇, ALT上昇, AI－P上昇, γ－GTP上昇, ビリルビン上昇 LDH上昇
腎臓 頻尿・夜間頻尿 多尿
循環器系 動悸, ほてり, 血圧上昇
内分泌系 プロラクチン上昇 テストステロン低下, 甲状腺刺激ホルモン低下, 甲状腺刺激ホルモン上昇, 抗利尿ホルモン上昇 女性化乳房
血液 好酸球増多, 貧血
尿 尿中血陽性, 尿中蛋白陽性
その他 倦怠感 胸部不快感, 脱力感, 回転性眩暈, 異常感, 浮腫, 血中リン低下
(表終了)

プレガバリンOD錠25mg「VTRS」(25mg1錠)

両 内服 後発 流通

【YJコード】1190017F1266
【薬効分類】1. 1. 9 その他の中枢神経系用薬
【一般名】プレガバリン
【先発品】リリカOD錠25mg
【メーカー】製)ヴィアトリス・ヘルスケア 販)ヴィアトリス製薬
【薬価】11.4円/1T
【薬価収載日】2023/11/22
【標榜薬効】神経障害性疼痛・線維筋痛症疼痛治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇神経障害性疼痛
〇線維筋痛症に伴う疼痛
注意
線維筋痛症に伴う疼痛
線維筋痛症の診断は, 米国リウマチ学会の分類(診断)基準等の国際的な基準により実施し, 確定診断された場合にのみ投与。
【用法用量】神経障害性疼痛
成人 初期量 1日150mg 1日2回 分割 内服。以後1週間以上かけ 1日300mgまで漸増。適宜増減, 1日最高600mg 1日2回 分割 内服。
線維筋痛症に伴う疼痛
成人 初期量 1日150mg 1日2回 分割 内服。以後1週間以上かけ 1日300mgまで漸増 300～450mgで維持。適宜増減, 1日最高450mg 1日2回 分割 内服。
注意
1. 投与中止時, 1週間以上かけて漸減。
2. 腎機能障害 下表に示すクレアチニンクリアランス値を参考に投与量・投与間隔を調節。血液透析患者 クレアチニンクリアランス値に応じた1日量に加え, 血液透析を実施後に本剤の追加投与を行う。複数の用量が設定されている時は, 低用量から開始し, 忍容性が確認され, 効果不十分時に増量。この用法・用量はシミュレーション結果によることから, 各患者ごとに用法・用量を調節。
神経障害性疼痛
(表開始)
クレアチニンクリアランス(mL/分) ≧60 ≧30－＜60 ≧15－＜30 ＜15 血液透析後の補充量(注)
1日量(mg) 150～600 75～300 25～150 25～75
初期量 1回75mg1日2回 1回25mg1日3回 又は1回75mg1日1回 1回25mg1日1回もしくは2回 又は1回50mg1日1回 1回25mg1日1回 25又は50mg
維持量 1回150mg1日2回 1回50mg1日3回 又は1回75mg1日2回 1回75mg1日1回 1回25又は50mg1日1回 50又は75mg
最高量 1回300mg1日2回 1回100mg1日3回 又は1回150mg1日2回 1回75mg1日2回 又は1回150mg1日1回 1回75mg1日1回 100又は150mg
(表終了)
線維筋痛症に伴う疼痛
(表開始)
クレアチニンクリアランス(mL/分) ≧60 ≧30－＜60 ≧15－＜30 ＜15 血液透析後の補充量(注)
1日量(mg) 150～450 75～225 25～150 25～75
初期量 1回75mg1日2回 1回25mg1日3回 又は1回75mg1日1回 1回25mg1日1回もしくは2回 又は1回50mg1日1回 1回25mg1日1回 25又は50mg
維持量 1回150mg1日2回 1回50mg1日3回 又は1回75mg1日2回 1回75mg1日1回 1回25又は50mg1日1回 50又は75mg
維持量(最高量) 1回225mg1日2回 1回75mg1日3回 1回100もしくは125mg1日1回 又は1回75mg1日2回 1回50又は75mg1日1回 75又は100mg
(表終了)
(注) 2日に1回, 投与6時間後から4時間血液透析を実施時のシミュレーション結果による。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 眩暈(20%以上), 傾眠(20%以上), 意識消失(0. 3%未満)。
2. 心不全(0. 3%未満), 肺水腫(頻度不明)。
3. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇等), 急性腎障害。
4. 腎不全(0. 1%未満)。
5. 血管浮腫(頻度不明)等の過敏症。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

6. 低血糖(0. 3%未満)(脱力感, 倦怠感, 冷汗, 振戦, 意識障害等の低血糖症状)。
7. 間質性肺炎(頻度不明)(咳嗽, 呼吸困難, 発熱等)。
8. ショック(頻度不明), アナフィラキシー(0. 1%未満)。
9. 皮膚粘膜眼症候群(頻度不明), 多形紅斑(頻度不明)。
10. 劇症肝炎(頻度不明), 肝機能障害(0. 4%)(AST, ALT上昇等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0. 3～1%未満 0. 3%未満 頻度不明
血液・リンパ系障害 好中球減少症, 白血球減少症 血小板減少症
代謝・栄養障害 食欲不振, 食欲亢進, 高脂血症 高血糖
精神障害 不眠症 錯乱, 失見当識, 多幸気分, 異常な夢, 幻覚 うつ病, 落ち着きのなさ, 気分動揺, 抑うつ気分, 無感情, 不安, リビドー消失, 睡眠障害, 思考異常 離人症, 無オルガズム症, 激越, 喚語困難, リビドー亢進, パニック発作, 脱抑制
神経系障害 浮動性眩暈, 頭痛, 平衡障害, 運動失調 振戦, 注意力障害, 感覚鈍麻, 嗜眠, 構語障害, 記憶障害, 健忘, 錯感覚, 協調運動異常 鎮静, 認知障害, ミオクローヌス, 反射消失, ジスキネジー, 精神運動亢進, 体位性眩暈, 知覚過敏, 味覚異常, 灼熱感, 失神, 精神的機能障害, 会話障害 昏迷, 嗅覚錯誤, 書字障害
眼障害 霧視, 複視, 視力低下 視覚障害, 網膜出血 視野欠損, 眼部腫脹, 眼痛, 眼精疲労, 流涙増加, 光視症, 斜視, 眼乾燥, 眼振 眼刺激, 散瞳, 動揺視, 深径覚の変化, 視覚の明るさ, 角膜炎
耳・迷路障害 回転性眩暈 耳鳴 聴覚過敏
心臓障害 動悸 第一度房室ブロック, 頻脈, 洞性不整脈, 洞性徐脈, 心室性期外収縮 洞性頻脈
血管障害 高血圧, 低血圧, ほてり
呼吸器, 胸郭・縦隔障害 呼吸困難 鼻咽頭炎, 咳嗽, いびき, 鼻出血, 鼻炎 鼻乾燥, 鼻閉, 咽喉絞扼感
胃腸障害 便秘, 悪心, 下痢, 腹痛, 嘔吐 腹部膨満, 消化不良, 鼓腸, 胃炎, 胃不快感, 口内炎 流涎過多, 胃食道逆流性疾患, 膵炎, 舌腫脹 腹水, 嚥下障害
皮膚・皮下組織障害 発疹 掻痒症, 湿疹, 眼窩周囲浮腫 多汗症, 冷汗, 蕁麻疹, 脱毛 丘疹
筋骨格系・結合組織障害 筋力低下, 筋痙縮, 関節腫脹, 四肢痛, 背部痛 筋肉痛, 重感, 関節痛, 筋骨格硬直
腎・尿路障害 尿失禁, 排尿困難 尿閉 乏尿
生殖系・乳房障害 乳房痛, 勃起不全, 女性化乳房 射精遅延, 性機能不全, 無月経, 乳房分泌, 月経困難症, 乳房肥大
全身障害・投与局所様態 浮腫, 口渇, 疲労, 異常感, 歩行障害, 顔面浮腫 無力症, 疼痛, 圧痕浮腫, 倦怠感, 胸痛 発熱, 冷感, 悪寒, 易刺激性, 酩酊感 胸部絞扼感
傷害, 中毒, 処置合併症 転倒・転落
臨床検査 体重増加 血中CK増加, ALT増加, AST増加, 血中アミラーゼ増加, 血中クレアチニン増加 体重減少, 血中尿酸増加 血中カリウム減少
(表終了)

プレガバリンOD錠75mg「VTRS」(75mg1錠)

両 内服 後発 流通

【YJコード】1190017F2262
【薬効分類】1. 1. 9 その他の中枢神経系用薬
【一般名】プレガバリン
【先発品】リリカOD錠75mg
【メーカー】製)ヴィアトリス・ヘルスケア 販)ヴィアトリス製薬
【薬価】18.3円/1T
【薬価収載日】2023/11/22
【標榜薬効】神経障害性疼痛・線維筋痛症疼痛治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇神経障害性疼痛
〇線維筋痛症に伴う疼痛
注意
線維筋痛症に伴う疼痛
線維筋痛症の診断は, 米国リウマチ学会の分類(診断)基準等の国際的な基準により実施し, 確定診断された場合にのみ投与。
【用法用量】神経障害性疼痛
成人 初期量 1日150mg 1日2回 分割 内服。以後1週間以上かけ 1日300mgまで漸増。適宜増減, 1日最高600mg 1日2回 分割 内服。
線維筋痛症に伴う疼痛
成人 初期量 1日150mg 1日2回 分割 内服。以後1週間以上かけ 1日300mgまで漸増 300～450mgで維持。適宜増減, 1日最高450mg 1日2回 分割 内服。
注意
1. 投与中止時, 1週間以上かけて漸減。
2. 腎機能障害 下表に示すクレアチニンクリアランス値を参考に投与量・投与間隔を調節。血液透析患者 クレアチニンクリアランス値に応じた1日量に加え, 血液透析を実施後に本剤の追加投与を行う。複数の用量が設定されている時は, 低用量から開始し, 忍容性が確認され, 効果不十分時に増量。この用法・用量はシミュレーション結果によることから, 各患者ごとに用法・用量を調節。
神経障害性疼痛
(表開始)
クレアチニンクリアランス(mL/分) ≧60 ≧30－＜60 ≧15－＜30 ＜15 血液透析後の補充量(注)
1日量(mg) 150～600 75～300 25～150 25～75
初期量 1回75mg1日2回 1回25mg1日3回 又は1回75mg1日1回 1回25mg1日1回もしくは2回 又は1回50mg1日1回 1回25mg1日1回 25又は50mg
維持量 1回150mg1日2回 1回50mg1日3回 又は1回75mg1日2回 1回75mg1日1回 1回25又は50mg1日1回 50又は75mg
最高量 1回300mg1日2回 1回100mg1日3回 又は1回150mg1日2回 1回75mg1日2回 又は1回150mg1日1回 1回75mg1日1回 100又は150mg
(表終了)
線維筋痛症に伴う疼痛
(表開始)
クレアチニンクリアランス(mL/分) ≧60 ≧30－＜60 ≧15－＜30 ＜15 血液透析後の補充量(注)
1日量(mg) 150～450 75～225 25～150 25～75
初期量 1回75mg1日2回 1回25mg1日3回 又は1回75mg1日1回 1回25mg1日1回もしくは2回 又は1回50mg1日1回 1回25mg1日1回 25又は50mg
維持量 1回150mg1日2回 1回50mg1日3回 又は1回75mg1日2回 1回75mg1日1回 1回25又は50mg1日1回 50又は75mg
維持量(最高量) 1回225mg1日2回 1回75mg1日3回 1回100もしくは125mg1日1回 又は1回75mg1日2回 1回50又は75mg1日1回 75又は100mg
(表終了)
(注) 2日に1回, 投与6時間後から4時間血液透析を実施時のシミュレーション結果による。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 眩暈(20%以上), 傾眠(20%以上), 意識消失(0. 3%未満)。
2. 心不全(0. 3%未満), 肺水腫(頻度不明)。
3. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇等), 急性腎障害。
4. 腎不全(0. 1%未満)。
5. 血管浮腫(頻度不明)等の過敏症。
6. 低血糖(0. 3%未満)(脱力感, 倦怠感, 冷汗, 振戦, 意識障害等の低血糖症状)。
7. 間質性肺炎(頻度不明)(咳嗽, 呼吸困難, 発熱等)。
8. ショック(頻度不明), アナフィラキシー(0. 1%未満)。
9. 皮膚粘膜眼症候群(頻度不明), 多形紅斑(頻度不明)。
10. 劇症肝炎(頻度不明), 肝機能障害(0. 4%)(AST, ALT上昇等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0. 3～1%未満 0. 3%未満 頻度不明
血液・リンパ系障害 好中球減少症, 白血球減少症 血小板減少症
代謝・栄養障害 食欲不振, 食欲亢進, 高脂血症 高血糖
精神障害 不眠症 錯乱, 失見当識, 多幸気分, 異常な夢, 幻覚 うつ病, 落ち着きのなさ, 気分動揺, 抑うつ気分, 無感情, 不安, リビドー消失, 睡眠障害, 思考異常 離人症, 無オルガズム症, 激越, 喚語困難, リビドー亢進, パニック発作, 脱抑制
神経系障害 浮動性眩暈, 頭痛, 平衡障害, 運動失調 振戦, 注意力障害, 感覚鈍麻, 嗜眠, 構語障害, 記憶障害, 健忘, 錯感覚, 協調運動異常 鎮静, 認知障害, ミオクローヌス, 反射消失, ジスキネジー, 精神運動亢進, 体位性眩暈, 知覚過敏, 味覚異常, 灼熱感, 失神, 精神的機能障害, 会話障害 昏迷, 嗅覚錯誤, 書字障害
眼障害 霧視, 複視, 視力低下 視覚障害, 網膜出血 視野欠損, 眼部腫脹, 眼痛, 眼精疲労, 流涙増加, 光視症, 斜視, 眼乾燥, 眼振 眼刺激, 散瞳, 動揺視, 深径覚の変化, 視覚の明るさ, 角膜炎
耳・迷路障害 回転性眩暈 耳鳴 聴覚過敏
心臓障害 動悸 第一度房室ブロック, 頻脈, 洞性不整脈, 洞性徐脈, 心室性期外収縮 洞性頻脈
血管障害 高血圧, 低血圧, ほてり
呼吸器, 胸郭・縦隔障害 呼吸困難 鼻咽頭炎, 咳嗽, いびき, 鼻出血, 鼻炎 鼻乾燥, 鼻閉, 咽喉絞扼感
胃腸障害 便秘, 悪心, 下痢, 腹痛, 嘔吐 腹部膨満, 消化不良, 鼓腸, 胃炎, 胃不快感, 口内炎 流涎過多, 胃食道逆流性疾患, 膵炎, 舌腫脹 腹水, 嚥下障害
皮膚・皮下組織障害 発疹 掻痒症, 湿疹, 眼窩周囲浮腫 多汗症, 冷汗, 蕁麻疹, 脱毛 丘疹
筋骨格系・結合組織障害 筋力低下, 筋痙縮, 関節腫脹, 四肢痛, 背部痛 筋肉痛, 重感, 関節痛, 筋骨格硬直
腎・尿路障害 尿失禁, 排尿困難 尿閉 乏尿
生殖系・乳房障害 乳房痛, 勃起不全, 女性化乳房 射精遅延, 性機能不全, 無月経, 乳房分泌, 月経困難症, 乳房肥大
全身障害・投与局所様態 浮腫, 口渇, 疲労, 異常感, 歩行障害, 顔面浮腫 無力症, 疼痛, 圧痕浮腫, 倦怠感, 胸痛 発熱, 冷感, 悪寒, 易刺激性, 酩酊感 胸部絞扼感
傷害, 中毒, 処置合併症 転倒・転落
臨床検査 体重増加 血中CK増加, ALT増加, AST増加, 血中アミラーゼ増加, 血中クレアチニン増加 体重減少, 血中尿酸増加 血中カリウム減少
(表終了)

1 神経系及び感覚器官用医薬品

ベルソムラ錠15mg（15mg1錠）

両 内服 流通

【YJコード】1190023F1024
【薬効分類】1．1．9 その他の中枢神経系用薬
【一般名】スボレキサント
【メーカー】製)MSD 販)第一三共
【薬価】90.8円/1T
【薬価収載日】2014/11/25
【標榜薬効】不眠症治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】不眠症
注意
二次性不眠症への有効性・安全性は未確立。
【用法用量】成人 1回20mg 1日1回 就寝直前 内服。高齢者 1回15mg 1日1回 就寝直前 内服。
注意
1．就寝直前に服用。睡眠途中で起床して活動する時は服用しない。
2．入眠効果の発現が遅れるおそれ，食事と同時又は食直後の服用は避ける(食後投与で，投与直後のスボレキサントの血漿中濃度低下の可能性)。
3．他の不眠症治療薬と併用時の有効性・安全性は未確立。
4．CYP3Aを中等度に阻害する薬剤(ジルチアゼム，ベラパミル，フルコナゾール等)との併用で，スボレキサントの血漿中濃度が上昇し，傾眠，疲労，入眠時麻痺，睡眠時随伴症，夢遊症等の副作用増強のおそれ，併用時は1日1回10mgへの減量を考慮。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．イトラコナゾール，ポサコナゾール，ボリコナゾール，クラリスロマイシン，ボノプラザン・アモキシシリン・クラリスロマイシン，ラベプラゾール・アモキシシリン・クラリスロマイシン，リトナビル，ニルマトレルビル・リトナビル，エンシトレルビルの投与患者。

■副作用

【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
心臓障害 動悸
胃腸障害 悪心，嘔吐
一般・全身障害・投与部位の状態 疲労
神経系障害 傾眠，頭痛，浮動性眩暈 睡眠時麻痺
精神障害 悪夢 異常な夢，入眠時幻覚 睡眠時随伴症(注)，夢遊症(注)，傾眠時幻覚(注)，不安，激越
皮膚・皮下組織障害 掻痒症
(表終了)
(注)外国。

メマンチン塩酸塩錠20mg「DSEP」（20mg1錠）

両 内服 後発 流通 劇

【YJコード】1190018F3034
【薬効分類】1．1．9 その他の中枢神経系用薬
【一般名】メマンチン塩酸塩
【先発品】メマリー錠20mg
【メーカー】製)第一三共エスファ 販)第一三共
【薬価】66円/1T
【薬価収載日】2020/06/19
【標榜薬効】アルツハイマー型認知症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】中等度・高度アルツハイマー型認知症の認知症症状の進行抑制
注意
1．アルツハイマー型認知症のみ使用。
2．アルツハイマー型認知症の進行を抑制する成績はない。
3．アルツハイマー型認知症以外の認知症性疾患での有効性は未確認。
4．他の認知症性疾患との鑑別診断に注意。
【用法用量】成人 1回5mgから開始 1日1回 内服。1週間に5mgずつ増量し 維持量 1回20mg 1日1回 内服。
注意
1．1日1回5mgからの漸増は，副作用を抑える目的であり，維持量まで増量。
2．高度の腎機能障害(クレアチニンクリアランス値 30mL／分未満) 維持量 1回10mg 1日1回。
3．医療従事者，家族等の管理下で投与。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．痙攣(0．3%)。
2．失神(頻度不明)，意識消失(頻度不明)。
3．精神症状(激越(0．2%)，攻撃性(0．1%)，妄想(0．1%)，幻覚(頻度不明)，錯乱(頻度不明)，せん妄(頻度不明)等)。
4．肝機能障害(頻度不明)(AST，ALT，Al－P，ビリルビン等の上昇)，黄疸(頻度不明)。
5．横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等)，急性腎障害。
6．完全房室ブロック，高度な洞徐脈等の徐脈性不整脈(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 顔面浮腫，眼瞼浮腫
精神神経系 眩暈，頭痛 傾眠，不眠，徘徊，不穏，易怒性，不安 歩行障害，不随意運動(振戦，チック，ジスキネジー等)，活動性低下，鎮静
腎臓 頻尿，尿失禁，尿潜血，BUN上昇
肝臓 肝機能異常
消化器 便秘，食欲不振 消化管潰瘍，悪心，嘔吐，下痢，便失禁
循環器 血圧上昇 血圧低下，上室性期外収縮
その他 血糖値上昇，転倒，浮腫，体重減少，CK上昇 貧血，倦怠感，発熱，コレステロール上昇，トリグリセリド上昇 脱力感
(表終了)

メマンチン塩酸塩錠5mg「DSEP」（5mg1錠）

両 内服 後発 流通 劇

【YJコード】1190018F1031
【薬効分類】1．1．9 その他の中枢神経系用薬
【一般名】メマンチン塩酸塩
【先発品】メマリー錠5mg
【メーカー】製)第一三共エスファ 販)第一三共
【薬価】21.5円/1T
【薬価収載日】2020/06/19
【標榜薬効】アルツハイマー型認知症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】中等度・高度アルツハイマー型認知症の認知症症状の進行抑制
注意
1．アルツハイマー型認知症のみ使用。
2．アルツハイマー型認知症の進行を抑制する成績はない。
3．アルツハイマー型認知症以外の認知症性疾患での有効性は未確認。
4．他の認知症性疾患との鑑別診断に注意。
【用法用量】成人 1回5mgから開始 1日1回 内服。1週間に5mgずつ増量し 維持量 1回20mg 1日1回 内服。
注意
1．1日1回5mgからの漸増は，副作用を抑える目的であり，維持量まで増量。
2．高度の腎機能障害(クレアチニンクリアランス値 30mL／分未満) 維持量 1回10mg 1日1回。
3．医療従事者，家族等の管理下で投与。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．痙攣(0．3%)。
2．失神(頻度不明)，意識消失(頻度不明)。
3．精神症状(激越(0．2%)，攻撃性(0．1%)，妄想(0．1%)，幻覚(頻度不明)，錯乱(頻度不明)，せん妄(頻度不明)等)。
4．肝機能障害(頻度不明)(AST，ALT，Al－P，ビリルビン等の上昇)，黄疸(頻度不明)。
5．横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等)，急性腎障害。
6．完全房室ブロック，高度な洞徐脈等の徐脈性不整脈(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 顔面浮腫，眼瞼浮腫
精神神経系 眩暈，頭痛 傾眠，不眠，徘徊，不穏，易怒性，不安 歩行障害，不随意運動(振戦，チック，ジスキネジー等)，活動性低下，鎮静
腎臓 頻尿，尿失禁，尿潜血，BUN上昇
肝臓 肝機能異常
消化器 便秘，食欲不振 消化管潰瘍，悪心，嘔吐，下痢，便失禁
循環器 血圧上昇 血圧低下，上室性期外収縮
その他 血糖値上昇，転倒，浮腫，体重減少，CK上昇 貧血，倦怠感，発熱，コレステロール上昇，トリグリセリド上昇 脱力感
(表終了)

1 神経系及び感覚器官用医薬品

ラメルテオン錠8mg「トーワ」（8mg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】1190016F1075
【薬効分類】1．1．9 その他の中枢神経系用薬
【一般名】ラメルテオン
【先発品】ロゼレム錠8mg
【メーカー】製)東和薬品
【薬価】18.9円/1T
【薬価収載日】2022/12/09
【標榜薬効】メラトニン受容体アゴニスト

■効能効果・用法用量

【効能効果】不眠症の入眠困難の改善
注意
ベンゾジアゼピン系薬剤等他の不眠症治療薬による前治療歴がある患者への有効性，精神疾患（統合失調症，うつ病等）の既往・合併への有効性・安全性は未確立，投与時は有益性と危険性を考慮し，必要性を勘案した上で行う。
【用法用量】成人 1回8mg 就寝前 内服。
注意
1．就寝直前に服用。就寝後，途中で起床して仕事等をする時は服用しない。
2．食後投与では，血中濃度低下の可能性，食事と同時又は食直後の服用は避ける。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．高度な肝機能障害。
3．フルボキサミンマレイン酸塩の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
アナフィラキシー（蕁麻疹，血管浮腫等）（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
精神神経系 眩暈，頭痛，眠気 悪夢
皮膚 発疹
消化器 便秘，悪心
内分泌 プロラクチン上昇
その他 倦怠感 自殺企図
（表終了）

リバスチグミンテープ18mg「久光」（18mg1枚）

両 外用 後発 流通
劇

【YJコード】1190700S4133
【薬効分類】1．1．9 その他の中枢神経系用薬
【一般名】リバスチグミン
【先発品】イクセロンパッチ18mg，リバスタッチパッチ18mg
【メーカー】製)久光製薬
【薬価】89.5円/1枚
【薬価収載日】2020/12/11
【標榜薬効】アルツハイマー型認知症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】軽度・中等度アルツハイマー型認知症の認知症症状の進行抑制
注意
1．アルツハイマー型認知症のみ使用。
2．アルツハイマー型認知症の進行を抑制する成績はない。
3．アルツハイマー型認知症以外の認知症性疾患での有効性は未確認。
4．他の認知症性疾患との鑑別診断に注意。
5．使用が適切か，下記を理解した上で慎重に判断。
（1）．国内臨床試験では，貼付により高頻度に適用部位の皮膚症状が認められている。
（2）．維持量に到達するまで12週間以上を要する。
【用法用量】成人 リバスチグミン 1回4．5mgから開始 1日1回 4週ごとに4．5mgずつ増量 維持量 1回18mg 1日1回 貼付。状態に応じ 1日1回9mgを開始量とし，4週後に18mgに増量することもできる。背部，上腕部，胸部のいずれかの正常で健康な皮膚に貼付し 24時間ごと 貼りかえ。
注意
1．リバスチグミン 1日1回9mgより投与を開始し，4週後に1日1回18mgまで増量する方法では，副作用（消化器系障害（悪心，嘔吐等））の発現を考慮し，本剤の忍容性が良好な時に当該漸増法での投与の可否を判断。
2．本剤の慎重投与が推奨される患者は，リバスチグミン 1日1回4．5mgより投与開始し，4週ごとに4．5mgずつ1日1回18mgまで増量。
3．1日18mg未満は漸増又は一時的な減量を目的とした用量なので，維持量である18mgまで増量。
4．維持量に到達するまでは，1日量として18mgまでの範囲で適宜増減が可能。消化器系障害（悪心，嘔吐等）発現時，減量か症状が消失するまで休薬。休薬期間が4日程度の場合，休薬前と同じ用量又は休薬前に忍容であった用量で投与再開。それ以外の場合は本剤の開始量（4．5mg又は9mg）で投与再開。再開後は，再開時の用量を2週間以上投与し，忍容性が良好であることを確認後，減量前の用量までは2週間以上の間隔で増量。
5．1日1回につき1枚のみ貼付。
6．他のコリンエステラーゼ阻害作用を有する同効薬（ドネペジル等）と併用しない。
7．医療従事者又は介護者等の管理のもと投与。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分・カルバメート系誘導体に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．狭心症（0．3%），心筋梗塞（0．3%），徐脈（0．8%），房室ブロック（0．2%），洞不全症候群（頻度不明），QT延長（0．6%）。
2．脳卒中（0．3%）（一過性脳虚血発作，脳出血，脳梗塞含む），痙攣発作（0．2%）。
3．食道破裂を伴う重度の嘔吐，胃潰瘍（各頻度不明），十二指腸潰瘍，胃腸出血（各0．1%）。
4．肝炎（頻度不明）。
5．失神（0．1%）。
6．幻覚（0．2%），激越（0．1%），せん妄，錯乱（各頻度不明）。
7．脱水（0．4%）（嘔吐，下痢の持続）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
感染症 ― ― 尿路感染 ―
血液・リンパ系障害 ― ― 貧血，好酸球増加症 ―
代謝・栄養障害 食欲減退 ― 糖尿病 ―
精神障害 ― ― 不眠症，うつ病，落ち着きのなさ 不安，攻撃性，悪夢
神経系障害 ― 浮動性眩暈，頭痛 傾眠，振戦 ―
心臓障害 ― ― 上室性期外収縮，頻脈，心房細動 ―
血管障害 ― 高血圧 ― ―
胃腸障害 嘔吐，悪心 下痢，腹痛，胃炎 消化不良 膵炎
皮膚・皮下組織障害 接触性皮膚炎 ― 発疹，湿疹，紅斑，掻痒症，多汗症，アレルギー性皮膚炎 蕁麻疹，水疱
腎・尿路障害 ― 血尿 頻尿，蛋白尿，尿失禁 ―
全身障害 ― ― 疲労，無力症，倦怠感 ―
適用部位障害 適用部位紅斑，適用部位掻痒感，適用部位浮腫 適用部位皮膚剥脱，適用部位疼痛，適用部位亀裂，適用部位皮膚炎 適用部位反応，適用部位腫脹，適用部位刺激感 適用部位過敏反応
臨床検査 ― 体重減少，血中アミラーゼ増加 肝機能検査異常，コリンエステラーゼ減少 ―
その他 ― ― 転倒・転落，末梢性浮腫 縮瞳
（表終了）

リバスチグミンテープ4．5mg「久光」（4．5mg1枚）

両 外用 後発 流通
劇

【YJコード】1190700S1134
【薬効分類】1．1．9 その他の中枢神経系用薬
【一般名】リバスチグミン
【先発品】イクセロンパッチ4．5mg，リバスタッチパッチ4．5mg
【メーカー】製)久光製薬
【薬価】71.2円/1枚
【薬価収載日】2020/12/11
【標榜薬効】アルツハイマー型認知症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】軽度・中等度アルツハイマー型認知症の認知症症状の進行抑制
注意
1．アルツハイマー型認知症のみ使用。
2．アルツハイマー型認知症の進行を抑制する成績はない。
3．アルツハイマー型認知症以外の認知症性疾患での有効性は未確認。
4．他の認知症性疾患との鑑別診断に注意。
5．使用が適切か，下記を理解した上で慎重に判断。
（1）．国内臨床試験では，貼付により高頻度に適用部位の皮膚症状が認められている。
（2）．維持量に到達するまで12週間以上を要する。
【用法用量】成人 リバスチグミン 1回4．5mgから開始 1日1回 4週ごとに4．5mgずつ増量 維持量 1回18mg 1日1回 貼付。状態に応じ 1日1回9mgを開始量とし，4週後に18mgに増量することもできる。背部，上腕部，胸部のいずれかの正常で健康な皮膚に貼付し 24時間ごと 貼りかえ。
注意
1．リバスチグミン 1日1回9mgより投与を開始し，4週後に1日1回18mgまで増量する方法では，副作用（消化器系障害（悪心，嘔吐等））の発現を考慮し，本剤の忍容性が良好な時に当該漸増法での投与の可

1 神経系及び感覚器官用医薬品

否を判断。
2. 本剤の慎重投与が推奨される患者は，リバスチグミン 1日1回4．5mgより投与開始し，4週ごとに4．5mgずつ1日1回18mgまで増量。
3. 1日18mg未満は漸増又は一時的な減量を目的とした用量なので，維持量である18mgまで増量。
4. 維持量に到達するまでは，1日量として18mgまでの範囲で適宜増減が可能。消化器系障害（悪心，嘔吐等）発現時，減量か症状が消失するまで休薬。休薬期間が4日程度の場合，休薬前と同じ用量又は休薬前に忍容であった用量で投与再開。それ以外の場合は本剤の開始量（4．5mg又は9mg）で投与再開。再開後は，再開時の用量を2週間以上投与し，忍容性が良好であることを確認後，減量前の用量までは2週間以上の間隔で増量。
5. 1日1回につき1枚のみ貼付。
6. 他のコリンエステラーゼ阻害作用を有する同効薬（ドネペジル等）と併用しない。
7. 医療従事者又は介護者等の管理のもと投与。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分・カルバメート系誘導体に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 狭心症（0．3%），心筋梗塞（0．3%），徐脈（0．8%），房室ブロック（0．2%），洞不全症候群（頻度不明），QT延長（0．6%）。
2. 脳卒中（0．3%）（一過性脳虚血発作，脳出血，脳梗塞含む），痙攣発作（0．2%）。
3. 食道破裂を伴う重度の嘔吐，胃潰瘍（各頻度不明），十二指腸潰瘍，胃腸出血（各0．1%）。
4. 肝炎（頻度不明）。
5. 失神（0．1%）。
6. 幻覚（0．2%），激越（0．1%），せん妄，錯乱（各頻度不明）。
7. 脱水（0．4%）（嘔吐，下痢の持続）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
感染症 － － 尿路感染 －
血液・リンパ系障害 － － 貧血，好酸球増加症 －
代謝・栄養障害 食欲減退 － 糖尿病 －
精神障害 － － 不眠症，うつ病，落ち着きのなさ 不安，攻撃性，悪夢
神経系障害 － 浮動性眩暈，頭痛 傾眠，振戦 －
心臓障害 － － 上室性期外収縮，頻脈，心房細動 －
血管障害 － 高血圧 － －
胃腸障害 嘔吐，悪心 下痢，腹痛，胃炎 消化不良 膵炎
皮膚・皮下組織障害 接触性皮膚炎 － 発疹，湿疹，紅斑，掻痒症，多汗症，アレルギー性皮膚炎 蕁麻疹，水疱
腎・尿路障害 － 血尿 頻尿，蛋白尿，尿失禁 －
全身障害 － － 疲労，無力症，倦怠感 －
適用部位障害 適用部位紅斑，適用部位掻痒感，適用部位浮腫 適用部位皮膚剥脱，適用部位疼痛，適用部位亀裂，適用部位皮膚炎 適用部位反応，適用部位腫脹，適用部位刺激感 適用部位過敏反応
臨床検査 － 体重減少，血中アミラーゼ増加 肝機能検査異常，コリンエステラーゼ減少 －
その他 － － 転倒・転落，末梢性浮腫 縮瞳
（表終了）

リバスチグミンテープ9mg「久光」（9mg1枚）

両 外用 後発 流通
劇

【YJコード】1190700S2130
【薬効分類】1．1．9 その他の中枢神経系用薬
【一般名】リバスチグミン
【先発品】イクセロンパッチ9mg，リバスタッチパッチ9mg
【メーカー】製)久光製薬
【薬価】80.4円/1枚
【薬価収載日】2020/12/11
【標榜薬効】アルツハイマー型認知症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】軽度・中等度アルツハイマー型認知症の認知症症状の進行抑制
注意
1. アルツハイマー型認知症のみ使用。
2. アルツハイマー型認知症の進行を抑制する成績はない。
3. アルツハイマー型認知症以外の認知症性疾患での有効性は未確認。
4. 他の認知症性疾患との鑑別診断に注意。
5. 使用が適切か，下記を理解した上で慎重に判断。
（1）．国内臨床試験では，貼付により高頻度に適用部位の皮膚症状が認められている。
（2）．維持量に到達するまで12週間以上を要する。
【用法用量】成人 リバスチグミン 1回4．5mgから開始 1日1回 4週ごとに4．5mgずつ増量 維持量 1回18mg 1日1回 貼付。状態に応じ 1日1回9mgを開始量とし，4週後に18mgに増量することもできる。背部，上腕部，胸部のいずれかの正常で健康な皮膚に貼付し 24時間ごと 貼りかえ。

注意
1. リバスチグミン 1日1回9mgより投与を開始し，4週後に1日1回18mgまで増量する方法では，副作用（消化器系障害（悪心，嘔吐等））の発現を考慮し，本剤の忍容性が良好な時に当該漸増法での投与の可否を判断。
2. 本剤の慎重投与が推奨される患者は，リバスチグミン 1日1回4．5mgより投与開始し，4週ごとに4．5mgずつ1日1回18mgまで増量。
3. 1日18mg未満は漸増又は一時的な減量を目的とした用量なので，維持量である18mgまで増量。
4. 維持量に到達するまでは，1日量として18mgまでの範囲で適宜増減が可能。消化器系障害（悪心，嘔吐等）発現時，減量か症状が消失するまで休薬。休薬期間が4日程度の場合，休薬前と同じ用量又は休薬前に忍容であった用量で投与再開。それ以外の場合は本剤の開始量（4．5mg又は9mg）で投与再開。再開後は，再開時の用量を2週間以上投与し，忍容性が良好であることを確認後，減量前の用量までは2週間以上の間隔で増量。
5. 1日1回につき1枚のみ貼付。
6. 他のコリンエステラーゼ阻害作用を有する同効薬（ドネペジル等）と併用しない。
7. 医療従事者又は介護者等の管理のもと投与。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分・カルバメート系誘導体に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 狭心症（0．3%），心筋梗塞（0．3%），徐脈（0．8%），房室ブロック（0．2%），洞不全症候群（頻度不明），QT延長（0．6%）。
2. 脳卒中（0．3%）（一過性脳虚血発作，脳出血，脳梗塞含む），痙攣発作（0．2%）。
3. 食道破裂を伴う重度の嘔吐，胃潰瘍（各頻度不明），十二指腸潰瘍，胃腸出血（各0．1%）。
4. 肝炎（頻度不明）。
5. 失神（0．1%）。
6. 幻覚（0．2%），激越（0．1%），せん妄，錯乱（各頻度不明）。
7. 脱水（0．4%）（嘔吐，下痢の持続）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
感染症 － － 尿路感染 －
血液・リンパ系障害 － － 貧血，好酸球増加症 －
代謝・栄養障害 食欲減退 － 糖尿病 －
精神障害 － － 不眠症，うつ病，落ち着きのなさ 不安，攻撃性，悪夢
神経系障害 － 浮動性眩暈，頭痛 傾眠，振戦 －
心臓障害 － － 上室性期外収縮，頻脈，心房細動 －
血管障害 － 高血圧 － －
胃腸障害 嘔吐，悪心 下痢，腹痛，胃炎 消化不良 膵炎
皮膚・皮下組織障害 接触性皮膚炎 － 発疹，湿疹，紅斑，掻痒症，多汗症，アレルギー性皮膚炎 蕁麻疹，水疱
腎・尿路障害 － 血尿 頻尿，蛋白尿，尿失禁 －
全身障害 － － 疲労，無力症，倦怠感 －
適用部位障害 適用部位紅斑，適用部位掻痒感，適用部位浮腫 適用部位皮膚剥脱，適用部位疼痛，適用部位亀裂，適用部位皮膚炎 適用部位反応，適用部位腫脹，適用部位刺激感 適用部位過敏反応
臨床検査 － 体重減少，血中アミラーゼ増加 肝機能検査異常，コリンエステラーゼ減少 －
その他 － － 転倒・転落，末梢性浮腫 縮瞳
（表終了）

ロゼバラミン筋注用25mg（25mg1瓶）

両 注射 自注 流通

【YJコード】1190410E1024
【薬効分類】1．1．9 その他の中枢神経系用薬
【一般名】メコバラミン
【メーカー】製)エーザイ
【薬価】10425円/1V
【薬価収載日】2024/11/20
【標榜薬効】筋萎縮性側索硬化症用剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】筋萎縮性側索硬化症（ALS）の機能障害の進行抑制
注意
臨床試験に組み入れられた罹病期間，ALS重症度，呼吸機能等の背景，試験結果を熟知し，有効性・安全性を理解した上で，適応患者の選択を行う。
【用法用量】成人 メコバラミン 1回50mg 1日1回 週2回 筋注。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
アナフィラキシー（頻度不明）（血圧降下，呼吸困難等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）

1 神経系及び感覚器官用医薬品

発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹
血液 白血球数増加
その他 注射部位反応 頭痛 発熱感，発汗
（表終了）

1．2 末梢神経系用薬

1．2．1 局所麻酔剤

キシロカイン液「4%」（4%1mL）

両 外用 流通

【YJコード】1214700Q1033
【薬効分類】1．2．1 局所麻酔剤
【一般名】リドカイン塩酸塩
【メーカー】製)サンドファーマ 販)アストラゼネカ 販)サンド
【薬価】17円/1mL
【標榜薬効】表面麻酔剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】表面麻酔
【用法用量】成人 80～200mg 使用。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・アミド型局所麻酔薬に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック(頻度不明)(徐脈，不整脈，血圧低下，呼吸抑制，チアノーゼ，意識障害等)，心停止(0．1%未満)，アナフィラキシーショック(0．1%未満)。
2．意識障害，振戦，痙攣(各頻度不明)等の中毒症状。
その他の副作用(発現時中止等)
（表開始）
発現部位等 頻度不明
中枢神経 眠気，不安，興奮，霧視，眩暈等
消化器 悪心・嘔吐等
過敏症 蕁麻疹等の皮膚症状，浮腫等
（表終了）

キシロカインゼリー2%（2%1mL）

両 外用 流通

【YJコード】1214700P1054
【薬効分類】1．2．1 局所麻酔剤
【一般名】リドカイン塩酸塩
【メーカー】製)サンドファーマ 販)アストラゼネカ 販)サンド
【薬価】6.3円/1mL
【薬価収載日】2006/06/09
【標榜薬効】粘滑・表面麻酔剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】表面麻酔
【用法用量】尿道麻酔
成人 男子 200～300mg。女子 60～100mg。
気管内挿管 適当量を使用。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・アミド型局所麻酔薬に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック(頻度不明)(徐脈，不整脈，血圧低下，呼吸抑制，チアノーゼ，意識障害等)，心停止(0．1%未満)，アナフィラキシーショック(0．1%未満)。
2．意識障害，振戦，痙攣(各頻度不明)等の中毒症状。
その他の副作用(発現時中止等)
（表開始）
発現部位等 頻度不明
中枢神経 眠気，不安，興奮，霧視，眩暈等
消化器 悪心・嘔吐等
過敏症 蕁麻疹等の皮膚症状，浮腫等
（表終了）

キシロカイン注射液「0．5%」エピレナミン（1：100000）含有（0．5%10mLバイアル）

内 注射 流通
劇

【YJコード】1214400A1022
【薬効分類】1．2．1 局所麻酔剤
【一般名】リドカイン塩酸塩・アドレナリン
【メーカー】製)サンドファーマ 販)アストラゼネカ 販)サンド
【薬価】118円/10mLバイアル
【標榜薬効】局所麻酔剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】硬膜外麻酔，伝達麻酔，浸潤麻酔
【用法用量】硬膜外麻酔［1回最高100mL］成人 1回5～30mL 使用。交感神経遮断 1回5～20mL 使用。
伝達麻酔［1回最高100mL］成人 1回3～40mL 使用。肋間神経遮断 1回5mLまで 使用。
浸潤麻酔［1回最高100mL］成人 1回2～40mL 使用。
いずれも適宜増減。
注意
各麻酔量は下表の通り。( )内はリドカイン塩酸塩として，＜ ＞内はアドレナリンとしての用量。
（表開始）
麻酔法 本剤
硬膜外麻酔 5～30mL（25～150mg）＜0．05～0．3mg＞
硬膜外麻酔 交感神経遮断 5～20mL（25～100mg）＜0．05～0．2mg＞
伝達麻酔 3～40mL（15～200mg）＜0．03～0．4mg＞
伝達麻酔 肋間神経遮断 5mLまで（25mgまで）＜0．05mg＞
浸潤麻酔 2～40mL（10～200mg）＜0．02～0．4mg＞
浸潤麻酔［眼科麻酔］－
表面麻酔 －
（表終了）

■禁忌
【禁忌】効能共通
1．本剤の成分・アミド型局所麻酔薬に過敏症の既往。
2．高血圧，動脈硬化，心不全，甲状腺機能亢進，糖尿病。
血管攣縮の既往。
3．狭隅角や前房が浅い等の眼圧上昇の素因。
4．ブチロフェノン系・フェノチアジン系等の抗精神病薬，α遮断薬の投与患者。
5．イソプロテレノール等のカテコールアミン製剤，アドレナリン作動薬の投与患者。
硬膜外麻酔
6．大量出血，ショック状態。
7．注射部位・その周辺に炎症。
8．敗血症。
伝達麻酔・浸潤麻酔
9．陰茎の麻酔。

■副作用
【副作用】重大な副作用
効能共通
1．ショック(頻度不明)(徐脈，不整脈，血圧低下，呼吸抑制，チアノーゼ，意識障害等)，心停止(0．1%未満)，アナフィラキシーショック(0．1%未満)。
2．意識障害，振戦，痙攣(各頻度不明)等の中毒症状。
3．肺水腫(頻度不明)(血圧異常上昇)。
4．呼吸困難(頻度不明)。
5．心停止(頻度不明)(頻脈，不整脈，心悸亢進，胸内苦悶)。
硬膜外麻酔・伝達麻酔・浸潤麻酔
6．異常感覚，知覚・運動障害(各頻度不明)(一過性の異常感覚，神経学的疾患(0．1%未満)(持続的な異常感覚，疼痛，知覚障害，運動障害，膀胱直腸障害(硬膜外麻酔)等))。
7．重篤な悪性高熱(頻度不明)(原因不明の頻脈・不整脈・血圧変動，急激な体温上昇，筋強直，血液の暗赤色化(チアノーゼ)，過呼吸，発汗，アシドーシス，高カリウム血症，ミオグロビン尿(ポートワイン色尿)等)，腎不全。
その他の副作用(発現時中止等)
（表開始）
発現部位等 頻度不明
循環器 頻脈，期外収縮，血圧変動等
中枢神経 眠気，不安，興奮，霧視，眩暈，頭痛等
消化器 悪心・嘔吐等
過敏症 蕁麻疹等の皮膚症状，浮腫等
その他 結膜充血，眼痛，熱感，発汗，胸内苦悶，顔面潮紅・蒼白等
（表終了）

1 神経系及び感覚器官用医薬品

キシロカイン注射液「1%」エピレナミン（1：100000）含有（1%10mLバイアル）

内 注射 流通
劇

【YJコード】1214400A2029
【薬効分類】1．2．1 局所麻酔剤
【一般名】リドカイン塩酸塩・アドレナリン
【メーカー】製)サンドファーマ 販)アストラゼネカ 販)サンド
【薬価】119円/10mLバイアル
【標榜薬効】局所麻酔剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】硬膜外麻酔，伝達麻酔，浸潤麻酔，表面麻酔
【用法用量】硬膜外麻酔［1回最高50mL］成人 1回10～30mL 使用。
伝達麻酔［1回最高50mL］成人 1回3～20mL 使用。肋間神経遮断 1回5mLまで 使用。
浸潤麻酔［1回最高50mL］成人 1回2～40mL 使用。
表面麻酔 塗布又は噴霧。
いずれも適宜増減。
注意
各麻酔量は下表の通り。（ ）内はリドカイン塩酸塩として，＜ ＞内はアドレナリンとしての用量。
（表開始）
麻酔法 本剤
硬膜外麻酔 10～30mL（100～300mg）＜0．1～0．3mg＞
硬膜外麻酔 交感神経遮断 －
伝達麻酔 3～20mL（30～200mg）＜0．03～0．2mg＞
伝達麻酔 肋間神経遮断 5mLまで（50mgまで）＜0．05mg＞
浸潤麻酔 2～40mL（20～400mg）＜0．02～0．4mg＞
浸潤麻酔 眼科麻酔 －
表面麻酔 塗布又は噴霧
（表終了）

■禁忌

【禁忌】効能共通
1．本剤の成分・アミド型局所麻酔薬に過敏症の既往。
2．高血圧，動脈硬化，心不全，甲状腺機能亢進，糖尿病。
血管攣縮の既往。
3．狭隅角や前房が浅い等の眼圧上昇の素因。
4．ブチロフェノン系・フェノチアジン系等の抗精神病薬，α遮断薬の投与患者。
5．イソプロテレノール等のカテコールアミン製剤，アドレナリン作動薬の投与患者。
硬膜外麻酔
6．大量出血，ショック状態。
7．注射部位・その周辺に炎症。
8．敗血症。
伝達麻酔・浸潤麻酔
9．陰茎の麻酔。

■副作用

【副作用】重大な副作用
効能共通
1．ショック（頻度不明）（徐脈，不整脈，血圧低下，呼吸抑制，チアノーゼ，意識障害等），心停止（0．1%未満），アナフィラキシーショック（0．1%未満）。
2．意識障害，振戦，痙攣（各頻度不明）等の中毒症状。
3．肺水腫（頻度不明）（血圧異常上昇）。
4．呼吸困難（頻度不明）。
5．心停止（頻度不明）（頻脈，不整脈，心悸亢進，胸内苦悶）。
硬膜外麻酔・伝達麻酔・浸潤麻酔
6．異常感覚，知覚・運動障害（各頻度不明）（一過性の異常感覚，神経学的疾患（0．1%未満）（持続的な異常感覚，疼痛，知覚障害，運動障害，膀胱直腸障害（硬膜外麻酔）等））。
7．重篤な悪性高熱（頻度不明）（原因不明の頻脈・不整脈・血圧変動，急激な体温上昇，筋強直，血液の暗赤色化（チアノーゼ），過呼吸，発汗，アシドーシス，高カリウム血症，ミオグロビン尿（ポートワイン色尿）等），腎不全。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
循環器 頻脈，期外収縮，血圧変動等
中枢神経 眠気，不安，興奮，霧視，眩暈，頭痛等
消化器 悪心・嘔吐等
過敏症 蕁麻疹等の皮膚症状，浮腫等
その他 結膜充血，眼痛，熱感，発汗，胸内苦悶，顔面潮紅・蒼白等
（表終了）

キシロカイン注射液「2%」エピレナミン（1：80000）含有（2%10mLバイアル）

内 注射 流通
劇

【YJコード】1214400A3025
【薬効分類】1．2．1 局所麻酔剤
【一般名】リドカイン塩酸塩・アドレナリン
【メーカー】製)サンドファーマ 販)アストラゼネカ 販)サンド
【薬価】153円/10mLバイアル
【標榜薬効】局所麻酔剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】硬膜外麻酔，伝達麻酔，浸潤麻酔，表面麻酔
【用法用量】硬膜外麻酔［1回最高25mL］成人 1回10～20mL 使用。
伝達麻酔［1回最高25mL］成人 1回2～20mL 使用。
浸潤麻酔［1回最高25mL］成人 1回2～25mL 使用。眼科麻酔 1回0．5～2mL 使用。
表面麻酔 塗布又は噴霧。
いずれも適宜増減。
注意
各麻酔量は下表の通り。（ ）内はリドカイン塩酸塩として，＜ ＞内はアドレナリンとしての用量。
（表開始）
麻酔法 本剤
硬膜外麻酔 10～20mL（200～400mg）＜0．125～0．25mg＞
硬膜外麻酔 交感神経遮断 －
伝達麻酔 2～20mL（40～400mg）＜0．025～0．25mg＞
伝達麻酔 肋間神経遮断 －
浸潤麻酔 2～25mL（40～500mg）＜0．025～0．3125mg＞
浸潤麻酔 眼科麻酔 0．5～2mL（10～40mg）＜0．00625～0．025mg＞
表面麻酔 塗布又は噴霧
（表終了）

■禁忌

【禁忌】効能共通
1．本剤の成分・アミド型局所麻酔薬に過敏症の既往。
2．高血圧，動脈硬化，心不全，甲状腺機能亢進，糖尿病。
血管攣縮の既往。
3．狭隅角や前房が浅い等の眼圧上昇の素因。
4．ブチロフェノン系・フェノチアジン系等の抗精神病薬，α遮断薬の投与患者。
5．イソプロテレノール等のカテコールアミン製剤，アドレナリン作動薬の投与患者。
硬膜外麻酔
6．大量出血，ショック状態。
7．注射部位・その周辺に炎症。
8．敗血症。
伝達麻酔・浸潤麻酔
9．陰茎の麻酔。

■副作用

【副作用】重大な副作用
効能共通
1．ショック（頻度不明）（徐脈，不整脈，血圧低下，呼吸抑制，チアノーゼ，意識障害等），心停止（0．1%未満），アナフィラキシーショック（0．1%未満）。
2．意識障害，振戦，痙攣（各頻度不明）等の中毒症状。
3．肺水腫（頻度不明）（血圧異常上昇）。
4．呼吸困難（頻度不明）。
5．心停止（頻度不明）（頻脈，不整脈，心悸亢進，胸内苦悶）。
硬膜外麻酔・伝達麻酔・浸潤麻酔
6．異常感覚，知覚・運動障害（各頻度不明）（一過性の異常感覚，神経学的疾患（0．1%未満）（持続的な異常感覚，疼痛，知覚障害，運動障害，膀胱直腸障害（硬膜外麻酔）等））。
7．重篤な悪性高熱（頻度不明）（原因不明の頻脈・不整脈・血圧変動，急激な体温上昇，筋強直，血液の暗赤色化（チアノーゼ），過呼吸，発汗，アシドーシス，高カリウム血症，ミオグロビン尿（ポートワイン色尿）等），腎不全。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
循環器 頻脈，期外収縮，血圧変動等
中枢神経 眠気，不安，興奮，霧視，眩暈，頭痛等
消化器 悪心・嘔吐等
過敏症 蕁麻疹等の皮膚症状，浮腫等
その他 結膜充血，眼痛，熱感，発汗，胸内苦悶，顔面潮紅・蒼白等
（表終了）

ポプスカイン0．25%注バッグ250mg／100mL（250mg100mL1袋）

内 注射 流通
劇

【YJコード】1214407G3020
【薬効分類】1．2．1 局所麻酔剤
【一般名】レボブピバカイン塩酸塩
【メーカー】製)丸石製薬

1 神経系及び感覚器官用医薬品

【薬価】930円/1袋
【薬価収載日】2008/06/13
【標榜薬効】長時間作用性局所麻酔剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】術後鎮痛
【用法用量】手術終了時 成人 6mL／時(レボブピバカイン 15mg／時) 硬膜外腔 持続投与。
4～8mL／時の範囲で適宜増減。
注意
1. 血圧低下，運動障害等の副作用増加のおそれ，6mL／時を超える速度で硬膜外に投与時は，注意。
2. 血管収縮剤(アドレナリン)を添加しても，作用持続時間は延長しない。
3. 持続投与開始時に手術部位に痛覚遮断域が到達しない時，レボブピバカイン塩酸塩等の局所麻酔剤を硬膜外腔に単回投与し，適切な痛覚遮断域を確保。
4. 痛覚遮断域を確保するため，術前・術中からレボブピバカイン塩酸塩等の局所麻酔剤を投与。
5. 術後に局所麻酔剤を単回投与時は，血圧低下に注意。

■禁忌

【禁忌】1. 大量出血，ショック状態。
2. 注射部位・その周辺に炎症。
3. 敗血症。
4. 本剤の成分・アミド型局所麻酔剤に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. ショック(頻度不明)(徐脈，不整脈，血圧低下，呼吸抑制，チアノーゼ，意識障害等)，心停止(0. 1%未満)，アナフィラキシーショック(0. 1%未満)。
2. 意識障害，振戦，痙攣(各頻度不明)等の中毒症状。
3. 異常感覚，知覚・運動障害(各頻度不明)(一過性の異常感覚，神経学的疾患(0. 1%未満)(持続的な異常感覚，疼痛，知覚障害，運動障害，膀胱直腸障害(硬膜外麻酔・術後鎮痛)等))。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
循環器系 血圧低下(45. 3%) 徐脈，心室性期外収縮 洞性徐脈，上室性頻脈，ST低下 狭心症，期外収縮，頻脈，高血圧，固有心室調律
呼吸器系 鼻閉，呼吸抑制 喘息，呼吸困難，低換気，低酸素症，呼吸障害，肺出血
中枢・末梢系 感覚鈍麻 頭痛，頭部不快感，運動機能障害，運動障害 浮動性眩暈，錯感覚，麻痺，感覚障害，傾眠，昏迷，失神，振戦，運動低下，脳浮腫，脳症
消化器系 悪心，嘔吐 腹痛 便秘，下痢，便失禁，吐血
血管系 出血 潮紅，静脈炎，末梢性虚血，総蛋白減少
泌尿器系 排尿困難，膀胱膨満 乏尿，尿失禁，尿閉，尿流量減少，アルブミン尿，血尿，無尿
皮膚 掻痒症，多汗症，発疹，紅斑性皮疹，水疱性皮膚炎
血液・リンパ系 白血球数減少，低カリウム血症，血液量減少
精神神経系 悪寒 発熱，激越，不安，無感情，錯乱状態，幻覚
筋骨格筋系 背部痛，筋痙縮，筋力低下，四肢痛
肝臓 AST／ALT／γ－GTPの増加 AI－Pの増加 高ビリルビン血症
腎臓 尿検査異常
その他 処置疼痛，胸痛，注射部位疼痛，疼痛，創部分泌，偶発的針穿刺
(表終了)

リドカイン塩酸塩注0. 5%「日新」(0. 5% 5mL1管)

内 注射 後発 流通
劇

【YJコード】1214400A5060
【薬効分類】1. 2. 1 局所麻酔剤
【一般名】リドカイン塩酸塩
【先発品】キシロカイン注ポリアンプ0. 5%
【メーカー】製)日新製薬 販)富士フイルムファーマ
【薬価】100円/1A
【薬価収載日】2014/06/20
【標榜薬効】局所麻酔剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】硬膜外麻酔，伝達麻酔，浸潤麻酔，上肢手術の静脈内区域麻酔
【用法用量】成人 1回基準最高用量200mg(本剤 40mL)。適宜増減。
各麻酔量は下記の通り。( )は注射液の量。
硬膜外麻酔 25～150mg(5～30mL)
硬膜外麻酔(交感神経遮断) 25～100mg(5～20mL)
伝達麻酔 15～200mg(3～40mL)
伝達麻酔(指趾神経遮断) 15～50mg(3～10mL)
伝達麻酔(肋間神経遮断) 25mgまで(5mLまで)
浸潤麻酔 10～200mg(2～40mL)
静脈内区域麻酔(上肢手術) 200mgまで(40mLまで)
注意
効能共通
1. 各麻酔量は下表の通り。( )は注射液の量。
(表開始)
麻酔法 本剤
硬膜外麻酔 25～150mg (5～30mL)
硬膜外麻酔 交感神経遮断 25～100mg (5～20mL)
伝達麻酔 15～200mg (3～40mL)
伝達麻酔 指趾神経遮断 15～50mg (3～10mL)
伝達麻酔 肋間神経遮断 25mgまで (5mLまで)
浸潤麻酔 10～200mg (2～40mL)
表面麻酔 －
静脈内区域麻酔 上肢手術 200mgまで (40mLまで)
(表終了)
上肢手術の静脈内区域麻酔
2. 注入後20分以内は駆血帯を解除しない。
3. 静脈内区域麻酔は，血管収縮剤(アドレナリン等)を添加しない。

■禁忌

【禁忌】効能共通
1. 本剤の成分・アミド型局所麻酔薬に過敏症の既往。
硬膜外麻酔
2. 大量出血，ショック状態。
3. 注射部位・その周辺に炎症。
4. 敗血症。

■副作用

【副作用】重大な副作用
効能共通
1. ショック(頻度不明)(徐脈，不整脈，血圧低下，呼吸抑制，チアノーゼ，意識障害等)，心停止(0. 1%未満)，アナフィラキシーショック(0. 1%未満)。
2. 意識障害，振戦，痙攣(各頻度不明)等の中毒症状。
硬膜外麻酔・伝達麻酔・浸潤麻酔
3. 異常感覚，知覚・運動障害(各頻度不明)(一過性の異常感覚，神経学的疾患(0. 1%未満)(持続的な異常感覚，疼痛，知覚障害，運動障害，膀胱直腸障害(硬膜外麻酔)等))。
4. 重篤な悪性高熱(頻度不明)(原因不明の頻脈・不整脈・血圧変動，急激な体温上昇，筋強直，血液の暗赤色化(チアノーゼ)，過呼吸，発汗，アシドーシス，高カリウム血症，ミオグロビン尿(ポートワイン色尿)等)，腎不全。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
中枢神経 眠気，不安，興奮，霧視，眩暈等
消化器 悪心・嘔吐等
過敏症 蕁麻疹等の皮膚症状，浮腫等
(表終了)

リドカイン塩酸塩注1%「日新」(1%10mL 1管)

内 注射 後発 流通
劇

【YJコード】1214400A8060
【薬効分類】1. 2. 1 局所麻酔剤
【一般名】リドカイン塩酸塩
【先発品】キシロカイン注ポリアンプ1%
【メーカー】製)日新製薬 販)富士フイルムファーマ
【薬価】100円/1A
【薬価収載日】2014/06/20
【標榜薬効】局所麻酔剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】硬膜外麻酔，伝達麻酔，浸潤麻酔，表面麻酔
【用法用量】硬膜外麻酔 (1回基準最高用量200mg)成人 1回100～200mg 使用。
伝達麻酔 (1回基準最高用量200mg)成人 1回30～200mg 使用。指趾神経遮断 1回30～100mg，肋間神経遮断 1回50mgまで使用。
浸潤麻酔 (1回基準最高用量200mg)成人 1回20～200mg 使用。
表面麻酔 塗布又は噴霧。
適宜増減。
注意
効能共通
各麻酔量は下表の通り。( )は注射液の量。
(表開始)
麻酔法 本剤
硬膜外麻酔 100～200mg (10～20mL)
硬膜外麻酔 交感神経遮断 －
伝達麻酔 30～200mg (3～20mL)
伝達麻酔 指趾神経遮断 30～100mg (3～10mL)
伝達麻酔 肋間神経遮断 50mgまで (5mLまで)
浸潤麻酔 20～200mg (2～20mL)
表面麻酔 塗布又は噴霧

1 神経系及び感覚器官用医薬品

静脈内区域麻酔 上肢手術 ー
（表終了）

■禁忌
【禁忌】効能共通
1. 本剤の成分・アミド型局所麻酔薬に過敏症の既往。
硬膜外麻酔
2. 大量出血，ショック状態。
3. 注射部位・その周辺に炎症。
4. 敗血症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
効能共通
1. ショック（頻度不明）（徐脈，不整脈，血圧低下，呼吸抑制，チアノーゼ，意識障害等），心停止（0.1%未満），アナフィラキシーショック（0.1%未満）。
2. 意識障害，振戦，痙攣（各頻度不明）等の中毒症状。
硬膜外麻酔・伝達麻酔・浸潤麻酔
3. 異常感覚，知覚・運動障害（各頻度不明）（一過性の異常感覚，神経学的疾患（0.1%未満）（持続的な異常感覚，疼痛，知覚障害，運動障害，膀胱直腸障害（硬膜外麻酔）等））。
4. 重篤な悪性高熱（頻度不明）（原因不明の頻脈・不整脈・血圧変動，急激な体温上昇，筋強直，血液の暗赤色化（チアノーゼ），過呼吸，発汗，アシドーシス，高カリウム血症，ミオグロビン尿（ポートワイン色尿）等），腎不全。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
中枢神経 眠気，不安，興奮，霧視，眩暈等
消化器 悪心・嘔吐等
過敏症 蕁麻疹等の皮膚症状，浮腫等
（表終了）

リドカイン塩酸塩ビスカス2%「日新」（2% 1mL）

両 内服 後発 流通
劇

【YJコード】1214001S1062
【薬効分類】1．2．1 局所麻酔剤
【一般名】リドカイン塩酸塩
【先発品】キシロカインビスカス2%
【メーカー】製）日新製薬
【薬価】6.2円/1mL
【薬価収載日】2014/12/12
【標榜薬効】表面麻酔剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】表面麻酔
【用法用量】成人 リドカイン塩酸塩 1回100～300mg 1日1～3回内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・アミド型局所麻酔薬に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック（頻度不明）（徐脈，不整脈，血圧低下，呼吸抑制，チアノーゼ，意識障害等），心停止（0.1%未満），アナフィラキシーショック（0.1%未満）。
2. 意識障害，振戦，痙攣（各頻度不明）等の中毒症状。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
中枢神経 眠気，不安，興奮，霧視，眩暈等
消化器 悪心・嘔吐等
過敏症 蕁麻疹等の皮膚症状，浮腫等
（表終了）

リドカインテープ18mg「YP」（（18mg）30.5mm×50.0mm1枚）

内 外用 後発 流通
劇

【YJコード】1214701S1086
【薬効分類】1．2．1 局所麻酔剤
【一般名】リドカイン
【先発品】ペンレステープ18mg，リドカインテープ18mg「NP」，リドカインテープ18mg「ニプロ」
【メーカー】製）祐徳薬品工業 販）メディキット
【薬価】31.6円/1枚
【薬価収載日】2017/06/16
【標榜薬効】貼付用局所麻酔剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．静脈留置針穿刺時の疼痛緩和
2．伝染性軟属腫摘除時の疼痛緩和
3．皮膚レーザー照射療法時の疼痛緩和
【用法用量】静脈留置針穿刺時の疼痛緩和
1回1枚 静脈留置針穿刺予定部位に 約30分間 貼付。
伝染性軟属腫摘除時の疼痛緩和
小児 1回2枚まで 伝染性軟属腫摘除予定部位に 約1時間 貼付。
皮膚レーザー照射療法時の疼痛緩和
成人 1回6枚まで 小児 下記枚数まで，レーザー照射予定部位に約1時間貼付。
（表開始）
年齢（歳） 1回最大貼付枚数（枚）
3以下 2
4～5 3
6～7 4
8～9 5
10以上 6
（表終了）
注意
効能共通
1．除去後直ちに処置等を行う。
伝染性軟属腫摘除時の疼痛緩和
2．患部に応じた大きさに切って貼付。
皮膚レーザー照射療法時の疼痛緩和
3．小児の貼付枚数は，体重，患部の大きさを考慮して，必要最小限にとどめる。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・アミド型局所麻酔薬に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（不快感，口内異常感，喘鳴，眩暈，便意，耳鳴，発汗，全身潮紅，呼吸困難，血管浮腫（顔面浮腫，喉頭浮腫等），血圧低下，顔面蒼白，脈拍の異常，意識障害等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0.1～5%未満 0.1%未満 頻度不明
過敏症 発赤，掻痒 蕁麻疹 接触皮膚炎，刺激感，熱感
皮膚 色素沈着，適用部位疼痛，皮膚剥離
（表終了）

リドカイン点滴静注液1%「タカタ」（1%200mL1袋）

内 注射 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】1214404A2035
【薬効分類】1．2．1 局所麻酔剤
【一般名】リドカイン
【メーカー】製）高田製薬
【薬価】689円/1袋
【薬価収載日】2018/12/14
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】抗不整脈剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇期外収縮（心室性），発作性頻拍（心室性），急性心筋梗塞時，手術に伴う心室性不整脈の予防
〇期外収縮（上室性），発作性頻拍（上室性）
【用法用量】点滴静注
静脈内1回投与が有効で効果持続を期待する時に，心電図の連続監視下で点滴静注。
速度 1～2mg／分で 静注。必要時 4mg／分まで。
24時間以上連続投与できるが，心電図の連続監視と頻回の血圧測定が必要。

■禁忌
【禁忌】1．重篤な刺激伝導障害（完全房室ブロック等）。
2．本剤の成分・アミド型局所麻酔薬に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．刺激伝導系抑制（PQ間隔の延長，QRS幅増大等），ショック（各頻度不明），徐脈，血圧低下，意識障害等，心停止，アナフィラキシーショック。
2．意識障害，振戦，痙攣（各頻度不明）等の中毒症状。
3．重篤な悪性高熱（頻度不明）（原因不明の頻脈・不整脈・血圧変動，急激な体温上昇，筋強直，血液の暗赤色化（チアノーゼ），過呼吸，発汗，アシドーシス，高カリウム血症，ミオグロビン尿（ポートワイン色尿）等），腎不全。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
中枢神経 せん妄，眩暈，眠気，不安，多幸感，しびれ感等
消化器 嘔吐等
過敏症 蕁麻疹等の皮膚症状，浮腫等
(表終了)

リドカインポンプスプレー8%「日新」(1g)

内 外用 後発 流通
劇

【YJコード】1214701R1068
【薬効分類】1．2．1 局所麻酔剤
【一般名】リドカイン
【メーカー】製)日新製薬
【薬価】21.2円/1g
【薬価収載日】2014/12/12
【標榜薬効】表面麻酔剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】表面麻酔
【用法用量】成人 8～40mg(1～5回の噴霧) 使用。
適宜増減。
注意
ノズルを1回押すごとに溶液0．1mL(リドカイン 8mg含有)が噴霧。1～5回の噴霧(溶液0．1～0．5mL リドカイン 8～40mg)で十分。広範な部位を麻酔時・麻酔効果をさらに長時間持続時は，噴霧回数を適宜調節。一時に25回(リドカイン 200mg)以上の噴霧は避ける。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分・アミド型局所麻酔薬に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック(頻度不明)(徐脈，不整脈，血圧低下，呼吸抑制，チアノーゼ，意識障害等)，心停止(0．1%未満)，アナフィラキシーショック(0．1%未満)。
2．意識障害，振戦，痙攣(各頻度不明)等の中毒症状。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
中枢神経 眠気，不安，興奮，霧視，眩暈等
消化器 悪心・嘔吐等
過敏症 蕁麻疹等の皮膚症状，浮腫等
(表終了)

1．2．2 骨格筋弛緩剤

ダントリウムカプセル25mg（25mg1カプセル）

両 内服 流通

【YJコード】1229002M1036
【薬効分類】1．2．2 骨格筋弛緩剤
【一般名】ダントロレンナトリウム水和物
【メーカー】製)オーファンパシフィック 販)アステラス製薬
【薬価】17.6円/1C
【薬価収載日】2006/06/09
【標榜薬効】痙性麻痺緩解・悪性症候群治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○下記に伴う痙性麻痺
脳血管障害後遺症，脳性麻痺，外傷後遺症(頭部外傷，脊髄損傷)，頸部脊椎症，後縦靭帯骨化症，脊髄小脳変性症，痙性脊髄麻痺，脊髄炎，脊髄症，筋萎縮性側索硬化症，多発性硬化症，スモン，潜水病
○全身こむら返り病
○悪性症候群
【用法用量】痙性麻痺，全身こむら返り病
成人 1回25mgから開始 1日1回 内服。1週ごとに25mgずつ増量(1日2～3回 分割 内服)し 維持量を決定。1日最高150mg 1日3回 分割 内服。
悪性症候群
ダントロレンナトリウム水和物注射剤の静注後，継続投与が必要で内服可能な時 成人 1回25mg又は50mg 1日3回 内服。適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．閉塞性肺疾患・心疾患で，著しい心肺機能低下。
2．筋無力症状。
3．肝疾患。
4．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．黄疸(0．1%未満)，肝障害(頻度不明)。
2．PIE症候群(頻度不明)(発熱，咳嗽，呼吸困難，胸痛，胸水貯留，好酸球増多等)。
3．胸膜炎(頻度不明)(胸痛，胸水貯留等)。
4．イレウス(0．1%未満)。
5．呼吸不全(0．1～5%未満)。
6．ショック，アナフィラキシー(0．1%未満)(顔面蒼白，血圧低下，呼吸困難等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 眠気，眩暈，頭痛，頭がボーッとする，言語障害，痙攣 疲労感，不眠，精神錯乱，酩酊感，多幸感 抑うつ，神経過敏，てんかん発作
消化器 食欲不振，便秘，悪心・嘔吐，下痢，腹部膨満感，腹痛，胃痛，嚥下困難 流涎，消化管出血 腹部痙攣
肝臓 肝機能異常(AST上昇，ALT上昇)
泌尿器 頻尿，尿失禁 排尿困難 夜尿症，勃起困難，結晶尿
循環器 静脈炎 心悸亢進 頻脈，血圧変動
外皮系 発汗，毛髪異常成長
感覚器 しびれ感，視力障害 複視，味覚異常 流涙
呼吸器 咳嗽，呼吸困難，胸痛，胸水貯留
血液 血小板減少 赤血球減少 好酸球増多
過敏症 発疹，掻痒感 光線過敏症
その他 脱力感 倦怠感，ふらふら感，熱感 窒息感，浮腫，悪寒，発熱 背痛
(表終了)

ダントリウム静注用20mg（20mg1瓶）

内 注射 流通

【YJコード】1229402D1039
【薬効分類】1．2．2 骨格筋弛緩剤
【一般名】ダントロレンナトリウム水和物
【メーカー】製)オーファンパシフィック 販)アステラス製薬
【薬価】9039円/1V
【薬価収載日】2006/06/09
【標榜薬効】悪性高熱症・悪性症候群治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○麻酔時の悪性高熱症
○悪性症候群
【用法用量】麻酔時の悪性高熱症
初回量 1mg／kg 静注。症状の改善なければ 1mg／kgずつ追加。
適宜増減，総量7mg／kgまで。
悪性症候群
成人 初回量 40mg 静注。症状の改善なければ 20mgずつ追加。
適宜増減，1日総量200mgまで。7日以内の投与。
調製法
1バイアルに注射用水60mLを加え，振盪，溶液の澄明を確認後使用。
注意
悪性症候群
静注後，継続投与が必要でかつ内服可能な時は，ダントロレンナトリウム水和物カプセル剤を投与。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．呼吸不全(0．1～5%未満)。
2．ショック，アナフィラキシー(0．1～5%未満)(顔面蒼白，血圧低下，呼吸困難等)。
3．イレウス(0．1～5%未満)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹
肝臓 肝機能障害(AST上昇，ALT上昇，LDH上昇)
血液 血小板減少
精神神経系 強直性痙攣，眠気，頭痛
消化器 食欲不振，悪心，嘔吐，消化管出血
循環器 静脈炎 血圧低下
呼吸器 胸水貯留
その他 発熱，脱力感 悪寒
(表終了)

ロクロニウム臭化物静注液50mg／5．0mL「マルイシ」(50mg5mL1瓶)

内 注射 後発 流通
毒

【YJコード】1229405A2040
【薬効分類】1．2．2 骨格筋弛緩剤
【一般名】ロクロニウム臭化物
【先発品】エスラックス静注50mg／5．0mL

1　神経系及び感覚器官用医薬品

【メーカー】製)丸石製薬
【薬価】415円/1V
【薬価収載日】2017/06/16
【標榜薬効】非脱分極性麻酔用筋弛緩剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】麻酔時の筋弛緩，気管挿管時の筋弛緩
【用法用量】挿管用量　成人　0．6mg／kg　静注，術中の必要時　0．1～0．2mg／kgを追加。持続注入　7μg／kg／分の速度で開始。適宜増減，0．9mg／kgまで。
注意
1．作用持続時間は用量に依存して長くなるため，0．9mg／kgを挿管用量として投与時は注意。
2．持続注入により投与時は，筋弛緩モニタリング装置を用いて注入速度を調節。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分・臭化物に過敏症の既往。
2．重症筋無力症，筋無力症候群で，スガマデクスナトリウムに過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー(頻度不明)(気道内圧上昇，血圧低下，頻脈，全身発赤等)。
2．遷延性呼吸抑制(頻度不明)。
3．横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)。
4．気管支痙攣(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%未満 頻度不明
神経系障害 浮動性眩暈
心臓障害 徐脈，洞性徐脈，心室性期外収縮
血管障害 低血圧，潮紅
胃腸障害 上腹部痛
皮膚・皮下組織障害 接触性皮膚炎，発疹 発赤
全身障害・投与局所様態 注射部位紅斑 疼痛＊
臨床検査 心拍数増加，血圧上昇，血圧低下，アラニン・アミノトランスフェラーゼ増加，アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ増加，血中ビリルビン増加，白血球数減少，白血球数増加，血小板数減少，血小板数増加，血中AI－P増加，血中AI－P減少，血中コレステロール増加
(表終了)
＊外国。

1．2．3　自律神経剤

ウブレチド錠5mg（5mg1錠）

両　内服　流通
毒

【YJコード】1231014F1054
【薬効分類】1．2．3　自律神経剤
【一般名】ジスチグミン臭化物
【メーカー】製)鳥居薬品
【薬価】12.9円/1T
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】コリンエステラーゼ阻害薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇術後，神経因性膀胱等の低緊張性膀胱による排尿困難
〇重症筋無力症
【用法用量】術後・神経因性膀胱等の低緊張性膀胱による排尿困難
成人　1日5mg　内服。
重症筋無力症
成人　1日5～20mg　1日1～4回　分割　内服。適宜増減。
注意
重症筋無力症
医師の厳重な監督下で，成人1日5mgから開始，適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．消化管・尿路の器質的閉塞。
2．迷走神経緊張症。
3．脱分極性筋弛緩剤(スキサメトニウム)の投与患者。
4．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．意識障害を伴うコリン作動性クリーゼ(頻度不明)(悪心・嘔吐，腹痛，下痢，唾液分泌過多，気道分泌過多，発汗，徐脈，縮瞳，呼吸困難等，血清コリンエステラーゼ低下)，呼吸不全。
2．狭心症，不整脈(各頻度不明)(心室頻拍，心房細動，房室ブロック，洞停止等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 0．5～1%未満 0．5%未満 頻度不明
骨格筋　筋力低下，線維性ちく搦(クローヌス)，筋痙攣 線維束攣縮
消化器 下痢 腹痛，悪心・不快感 嘔気・嘔吐，腹鳴，胃腸症状 便失禁，心窩部不快感，流唾，テネスムス(しぶり腹)，口渇
精神神経系　眩暈，頭痛 睡眠障害
泌尿器 尿失禁 頻尿，尿道痛
肝臓　AST・ALTの上昇
その他 発汗 流涙，全身倦怠感，神経痛悪化，動悸，舌のしびれ，発熱，自律神経失調，ざ瘡，胸部圧迫感，耳鳴 血清コリンエステラーゼ値低下
(表終了)

オビソート注射用0．1g（100mg1管(溶解液付)）

内　注射　流通
劇

【YJコード】1232400X1031
【薬効分類】1．2．3　自律神経剤
【一般名】アセチルコリン塩化物
【メーカー】製)第一三共
【薬価】371円/1A
【薬価収載日】2008/06/23
【標榜薬効】副交感神経興奮剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇麻酔後の腸管麻痺，消化管機能低下のある急性胃拡張
〇円形脱毛症
〇冠動脈造影検査時の冠攣縮薬物誘発試験の冠攣縮の誘発
注意
冠動脈造影検査時の冠攣縮薬物誘発試験の冠攣縮の誘発
最新の関連するガイドラインを参考に投与の適否を検討。特に左冠動脈主幹部病変例，閉塞病変含む多枝冠動脈病変例，高度心機能低下例及び未治療のうっ血性心不全例等では，誘発された冠攣縮により致死的となりうる重症の合併症の発現が強く予測されるため，冠攣縮誘発試験の適応の可否を慎重に判断。
【用法用量】麻酔後の腸管麻痺，消化管機能低下のある急性胃拡張
成人　1回0．1g　1日1～2回　皮下注・筋注(1～2mLの注射用水に用時溶解)。
円形脱毛症
成人　1回0．1g　週1回　局所皮内の数ヵ所　注射(5mLの注射用水に用時溶解)。
冠動脈造影検査時の冠攣縮薬物誘発試験の冠攣縮誘発
アセチルコリン塩化物を生食で溶解・希釈し，1回5mL　冠動脈内　注入。左冠動脈注入から開始，20，50，100μgを冠攣縮の誘発まで5分間隔で段階的に各20秒間かけ　注入。右冠動脈　20，50μgを冠攣縮の誘発まで5分間隔で段階的に各20秒間かけ　注入。
注意
冠動脈造影検査時の冠攣縮薬物誘発試験の冠攣縮誘発
希釈は下記を参考に，投与液1から3を使用。
(表開始)
希釈液 操作 アセチルコリン塩化物濃度
A 0．1g(1アンプル)に生食1mLを加え，溶解。アンプル中の溶解液をとり，生食100mLに希釈。1000μg／mL
B 希釈液A　2mLをとり，生食100mLに希釈。20μg／mL
投与液 操作 アセチルコリン塩化物濃度
1 注射器で生食4mLをとり，希釈液B　1mLを加え，20μg投与用として使用。20μg／5mL
2 注射器で生食2．5mLをとり，希釈液B　2．5mLを加え，50μg投与用として使用。50μg／5mL
3 注射器で希釈液B　5mLをとり，100μg投与用として使用。100μg／5mL
(表終了)

■禁忌
【禁忌】効能共通
1．気管支喘息。
2．甲状腺機能亢進症。
3．消化性潰瘍。
4．本剤の成分に過敏症の既往。
5．アジソン病。
6．消化管・膀胱頸部の閉塞。
7．てんかん。
8．パーキンソニズム。
9．妊婦・妊娠の可能性。
麻酔後の腸管麻痺，消化管機能低下のある急性胃拡張，円形脱毛症
10．重篤な心疾患。

■副作用
【副作用】重大な副作用
効能共通
1．ショック(頻度不明)，アナフィラキシー(頻度不明)(蕁麻疹，チアノーゼ，不快感，口内異常感，喘鳴，眩暈，便意，耳鳴，発汗等)。
冠動脈造影検査時の冠攣縮薬物誘発試験における冠攣縮の誘発
2．血圧低下(頻度不明)，心原性ショック(頻度不明)，重症不整脈(心室頻拍，心室細動，心房細動，房室ブロック，徐脈等)(頻度不明)，心

1 神経系及び感覚器官用医薬品

筋梗塞(頻度不明)，心停止(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
消化器 悪心，嘔吐，唾液分泌過多，便失禁，腸痙攣
過敏症 蕁麻疹
その他 痙攣，流涙，尿失禁
(表終了)

ベサコリン散5%（5%1g）

両 内服 流通
劇

【YJコード】1231004B1067
【薬効分類】1．2．3 自律神経剤
【一般名】ベタネコール塩化物
【メーカー】製)アルフレッサファーマ 販)エーザイ
【薬価】8.8円/1g
【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】副交感神経亢進剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】消化管機能低下のある下記
慢性胃炎
迷走神経切断後
術後・分娩後の腸管麻痺
麻痺性イレウス
術後・分娩後，神経因性膀胱等の低緊張性膀胱による排尿困難(尿閉)
【用法用量】成人 1日30～50mg 1日3～4回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．甲状腺機能亢進症。
2．気管支喘息。
3．消化管・膀胱頸部の閉塞。
4．消化性潰瘍。
5．妊婦・妊娠の可能性。
6．冠動脈閉塞。
7．強度の徐脈。
8．てんかん。
9．パーキンソニズム。

■副作用

【副作用】重大な副作用
コリン作動性クリーゼ(頻度不明)(悪心，嘔吐，腹痛，下痢，唾液分泌過多，発汗，徐脈，血圧低下，縮瞳等)，呼吸不全。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
循環器 心悸亢進 胸内苦悶
消化器 胸やけ，悪心，嘔吐，唾液分泌過多，腹痛，下痢 胃部不快感
精神神経系 頭痛
過敏症 発熱，発汗，顔面潮紅
(表終了)

ワゴスチグミン注0．5mg（0．05%1mL1管）

内 注射 流通
劇

【YJコード】1233400A2024
【薬効分類】1．2．3 自律神経剤
【一般名】ネオスチグミンメチル硫酸塩
【メーカー】製)共和薬品工業 販)塩野義製薬
【薬価】100円/1A
【標榜薬効】副交感神経興奮剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．重症筋無力症，クラーレ剤(ツボクラリン)による遷延性呼吸抑制，消化管機能低下のある術後・分娩後の腸管麻痺，術後・分娩後の排尿困難
2．非脱分極性筋弛緩剤の作用の拮抗
【用法用量】重症筋無力症，クラーレ剤(ツボクラリン)による遷延性呼吸抑制，消化管機能低下のある術後・分娩後の腸管麻痺，術後・分娩後の排尿困難
成人 1回0．25～1mg 1日1～3回 皮下注・筋注。
適宜増減。
非脱分極性筋弛緩剤の作用の拮抗
成人 1回0．5～2mg 緩徐に静注。適宜増減。アトロピン硫酸塩水和物を静注により併用。
注意
非脱分極性筋弛緩剤(ツボクラリン塩化物塩酸塩水和物，パンクロニウム臭化物，ベクロニウム臭化物等)の作用の拮抗に静注の場合は，下記に注意。
(1)．筋弛緩モニターによる回復，自発呼吸の発現を確認後に投与。
(2)．5mgまで。
(3)．徐脈時 本剤投与前にアトロピン硫酸塩水和物を投与し脈拍を適度に増加。
(4)．静注時 過度のコリン作動性反応を防止するため，アトロピン硫酸塩水和物を成人1回0．25～1mgを静注により併用。アトロピン硫酸塩水和物は適宜増減。
(5)．血圧低下，徐脈，房室ブロック，心停止等の可能性，アトロピン硫酸塩水和物0．5～1mgを入れた注射器を用意。副作用の発現時は，アトロピン硫酸塩水和物等を追加。

■禁忌

【禁忌】1．消化管・尿路の器質的閉塞。
2．本剤の成分に過敏症の既往。
3．迷走神経緊張症。
4．脱分極性筋弛緩剤(スキサメトニウム)の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
効能共通
1．コリン作動性クリーゼ(頻度不明)。
非脱分極性筋弛緩剤の作用の拮抗
2．不整脈(頻度不明)(心室性期外収縮，心室頻拍，心房細動等)(アトロピン硫酸塩水和物併用)，心停止，徐脈，房室ブロック。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 過敏症状
循環器 血圧降下，徐脈，頻脈
呼吸器 気管支痙攣，気道分泌の亢進
消化器 唾液の分泌過多，悪心・嘔吐，下痢 腹痛
精神神経系 発汗，眩暈，不安・興奮・虚脱・脱力・筋攣縮・骨格筋の線維束攣縮等
その他 縮瞳
(表終了)

1．2．4 鎮けい剤

アトロピン注0．05%シリンジ「テルモ」（0．05%1mL1筒）

内 注射 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】1242406G1035
【薬効分類】1．2．4 鎮けい剤
【一般名】アトロピン硫酸塩水和物
【メーカー】製)テルモ
【薬価】300円/1筒
【薬価収載日】2005/06/10
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】鎮痙剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】胃・十二指腸潰瘍の分泌・運動亢進，胃腸の痙攣性疼痛，痙攣性便秘，胆管・尿管の疝痛，有機リン系殺虫剤・副交感神経興奮剤の中毒，迷走神経性徐脈，迷走神経性房室伝導障害，麻酔前投薬，その他の徐脈，房室伝導障害，ECTの前投与
【用法用量】胃・十二指腸潰瘍の分泌並びに運動亢進，胃腸の痙攣性疼痛，痙攣性便秘，胆管・尿管の疝痛，副交感神経興奮剤の中毒，迷走神経性徐脈・迷走神経性房室伝導障害，麻酔前投薬，その他の徐脈・房室伝導障害
成人 0．5mg 皮下注・筋注・静注。適宜増減。
有機リン系殺虫剤中毒
軽症 0．5～1mg 皮下注，又は0．5～1mg 内服。
中等症 1～2mg 皮下注・筋注・静注。必要時，以後20～30分ごとに繰り返し注射。
重症 初回 2～4mg 静注。アトロピン飽和の徴候があるまで繰り返し注射。
ECTの前投与
成人 1回0．5mg 皮下注・筋注・静注。適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．閉塞隅角緑内障。
2．前立腺肥大による排尿障害。
3．麻痺性イレウス。
4．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー(頻度不明)(頻脈，全身潮紅，発汗，顔面浮腫等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
眼 散瞳，視調節障害，緑内障

1 神経系及び感覚器官用医薬品

消化器 口渇，悪心，嘔吐，嚥下障害，便秘
泌尿器 排尿障害
精神神経系 頭痛，頭重感，記銘障害
呼吸・循環器 心悸亢進，呼吸障害
過敏症 発疹
その他 顔面潮紅
（表終了）

アロフト錠20mg（20mg1錠）

両 内服 流通

【YJコード】1249008F1215
【薬効分類】1．2．4 鎮けい剤
【一般名】アフロクアロン
【メーカー】製)ニプロESファーマ 販)田辺三菱製薬 販)ニプロ
【薬価】10.2円/1T
【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】筋緊張性疾患治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．下記の筋緊張状態の改善
頸肩腕症候群，腰痛症
2．下記による痙性麻痺
脳血管障害，脳性麻痺，痙性脊髄麻痺，脊髄血管障害，頸部脊椎症，後縦靱帯骨化症，多発性硬化症，筋萎縮性側索硬化症，脊髄小脳変性症，外傷後遺症（脊髄損傷，頭部外傷），術後後遺症（脳・脊髄腫瘍含む），その他の脳脊髄疾患
【用法用量】成人 1日60mg（本剤 3錠） 1日3回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
精神神経系 ふらつき，眩暈，眠気 頭痛
消化器 悪心，食欲不振，腹痛，胃部不快感 嘔吐，下痢，口渇，便秘，腹部膨満感，胃炎
皮膚 光線過敏症
過敏症 発疹，掻痒
その他 脱力感，倦怠感 浮腫，耳鳴，頻尿，口内炎
（表終了）

チザニジン錠1mg「日医工」（1mg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】1249010F1263
【薬効分類】1．2．4 鎮けい剤
【一般名】チザニジン塩酸塩
【先発品】チザニジン錠1mg「JG」，テルネリン錠1mg
【メーカー】製)日医工
【薬価】6.1円/1T
【薬価収載日】2013/06/21
【標榜薬効】筋緊張緩和剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇下記による筋緊張状態の改善
頸肩腕症候群，腰痛症
〇下記による痙性麻痺
脳血管障害，痙性脊髄麻痺，頸部脊椎症，脳性（小児）麻痺，外傷後遺症（脊髄損傷，頭部外傷），脊髄小脳変性症，多発性硬化症，筋萎縮性側索硬化症
【用法用量】筋緊張状態の改善
成人 1日3mg 1日3回 分割 食後 内服。
適宜増減。
痙性麻痺
成人 1日3mgから開始 効果により 1日6～9mgまで漸増 1日3回 分割 食後 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．フルボキサミン・シプロフロキサシンの投与患者。
3．重篤な肝障害。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック（頻度不明）（血圧低下，徐脈，顔面蒼白，冷汗，呼吸困難，意識消失等）。
2．急激な血圧低下（頻度不明）。
3．心不全（頻度不明）（心拡大，肺水腫等）。
4．呼吸障害（頻度不明）（喘鳴，喘息発作，呼吸困難等）。
5．肝炎（AST，ALT等の著しい上昇，悪心・嘔吐，食欲不振，全身倦怠感等），肝機能障害，黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
循環器 血圧低下 徐脈，動悸 失神
精神神経系 眠気，頭痛・頭重感，眩暈（回転性眩暈，浮動性眩暈）・ふらつき 知覚異常（しびれ感等），構音障害（ろれつがまわらない等），不眠 幻覚，錯乱
消化器 口渇，悪心，食欲不振，胃部不快感，腹痛，下痢 胃もたれ，便秘，口内炎，舌のあれ，口中苦味感，流涎 －
肝臓 AST，ALTの上昇 Al－Pの上昇 －
過敏症 発疹，皮膚掻痒感 蕁麻疹，紅斑 血管性浮腫
その他 脱力・倦怠感 浮腫，尿閉，霧視 眼瞼下垂
（表終了）

パパベリン塩酸塩注40mg「日医工」（4% 1mL1管）

内 注射 流通

【YJコード】1243400A1059
【薬効分類】1．2．4 鎮けい剤
【一般名】パパベリン塩酸塩
【メーカー】製)日医工
【薬価】100円/1A
【薬価収載日】2009/01/20
【標榜薬効】血管拡張・鎮痙剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇下記に伴う内臓平滑筋の痙攣症状
胃炎，胆道（胆管・胆嚢）系疾患
〇急性動脈塞栓，急性肺塞栓，末梢循環障害，冠循環障害の血管拡張と症状の改善
【用法用量】成人 1回30～50mg 1日100～200mg 皮下注・筋注。
急性動脈塞栓 1回50mg 動注。
急性肺塞栓 1回50mg 静注。
適宜増減。
注意
効能共通
1．通常量は下記。
（表開始）
1回量 1日量
0．75～1．25mL 2．5～5mL
（表終了）
急性動脈塞栓，急性肺塞栓
2．急性動脈塞栓，急性肺塞栓の投与量は下記。
（表開始）
1回量
急性動脈塞栓 1．25mL
急性肺塞栓 1．25mL
（表終了）

■禁忌

【禁忌】1．房室ブロック。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
呼吸抑制（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
肝臓 アレルギー性の肝障害
過敏症 発疹
循環器 心悸亢進，不整脈，血圧上昇
精神神経系 眩暈，眠気，脱力感，頭痛
消化器 嘔気，便秘，口渇，食欲不振，心窩部痛
その他 顔面潮紅，発汗，持続勃起
（表終了）

ブスコパン錠10mg（10mg1錠）

両 内服 流通

【YJコード】1242002F1330
【薬効分類】1．2．4 鎮けい剤
【一般名】ブチルスコポラミン臭化物
【メーカー】製)サノフィ 販)日本ベーリンガーインゲルハイム
【薬価】6.1円/1T
【薬価収載日】2008/12/19
【標榜薬効】鎮痙剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の痙攣，運動機能亢進
胃・十二指腸潰瘍，食道痙攣，幽門痙攣，胃炎，腸炎，腸疝痛，痙攣性

1 神経系及び感覚器官用医薬品

便秘，機能性下痢，胆嚢・胆管炎，胆石症，胆道ジスキネジー，胆嚢切除後の後遺症，尿路結石症，膀胱炎，月経困難症
【用法用量】成人　1回1～2錠(ブチルスコポラミン臭化物　10～20mg)　1日3～5回　内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 出血性大腸炎。
2. 閉塞隅角緑内障。
3. 前立腺肥大による排尿障害。
4. 重篤な心疾患。
5. 麻痺性イレウス。
6. 本剤に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(悪心・嘔吐，悪寒，皮膚蒼白，血圧低下，呼吸困難，気管支攣縮，浮腫，血管浮腫等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 頻度不明
眼　調節障害 散瞳，閉塞隅角緑内障
消化器 口渇 腹部膨満感，鼓腸，便秘
泌尿器　排尿障害
精神神経系　頭痛，頭重感
循環器　心悸亢進
過敏症　発疹 蕁麻疹，紅斑，掻痒症
(表終了)

ブスコパン注20mg（2%1mL1管）

両　注射　流通
劇

【YJコード】1242401A1315
【薬効分類】1. 2. 4　鎮けい剤
【一般名】ブチルスコポラミン臭化物
【メーカー】製)サノフィ　販)日本ベーリンガーインゲルハイム
【薬価】61円/1A
【薬価収載日】2008/12/19
【標榜薬効】鎮痙剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○下記の痙攣，運動機能亢進
胃・十二指腸潰瘍，食道痙攣，幽門痙攣，胃炎，腸炎，腸疝痛，痙攣性便秘，機能性下痢，胆嚢・胆管炎，胆石症，胆道ジスキネジー，胃・胆嚢切除後の後遺症，尿路結石症，膀胱炎，器具挿入による尿道・膀胱痙攣，月経困難症，分娩時の子宮下部痙攣
○消化管のX線・内視鏡検査の前処置
【用法用量】成人　1回1／2～1管(ブチルスコポラミン臭化物　10～20mg)　静注・皮下注・筋注。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 出血性大腸炎。
2. 閉塞隅角緑内障。
3. 前立腺肥大による排尿障害。
4. 重篤な心疾患。
5. 麻痺性イレウス。
6. 本剤に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(悪心・嘔吐，悪寒，皮膚蒼白，血圧低下，呼吸困難，気管支攣縮，浮腫，血管浮腫等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
眼　調節障害　散瞳，閉塞隅角緑内障
消化器 口渇 悪心・嘔吐
泌尿器　排尿障害
精神神経系　頭痛，頭重感，眠気，眩暈
循環器　心悸亢進
過敏症　発疹 蕁麻疹，紅斑，掻痒症
その他　顔面紅潮
(表終了)

硫酸Mg補正液1mEq／mL（0. 5モル20mL1管）

両　注射　流通

【YJコード】1244401A1069
【薬効分類】1. 2. 4　鎮けい剤
【一般名】硫酸マグネシウム水和物
【メーカー】製)大塚製薬工場　販)大塚製薬
【薬価】129円/1A
【薬価収載日】2008/06/23
【標榜薬効】補正用電解質液

■効能効果・用法用量
【効能効果】電解質補液の補正
【用法用量】電解質補液の補正 体内の水分，電解質の不足に応じて電解質補液に添加。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
消化器 悪心
投与部位 血管痛
その他 潮紅，ほてり，熱感
(表終了)

1. 3　感覚器官用薬

1. 3. 1　眼科用剤

オフサロン点眼液（5mL1瓶）

両　外用　流通

【YJコード】1319802Q2020
【薬効分類】1. 3. 1　眼科用剤
【一般名】クロラムフェニコール・コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム
【メーカー】製)わかもと製薬
【薬価】127.8円/1V
【薬価収載日】1992/04/01
【標榜薬効】眼科用抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種
緑膿菌を主とするグラム陰性桿菌
適応症
眼瞼炎，結膜炎，角膜炎(角膜潰瘍含む)，眼科周術期の無菌化療法
【用法用量】1回2～3滴　1日4～5回　点眼。

■禁忌
【禁忌】本剤・本剤配合成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
骨髄形成不全(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 接触性皮膚炎
菌交代症 菌交代症
長期連用 全身的使用と同症状
(表終了)

オフロキサシン点眼液0. 3%「杏林」（0. 3%1mL）

両　外用　流通

【YJコード】1319722Q1252
【薬効分類】1. 3. 1　眼科用剤
【一般名】オフロキサシン
【メーカー】製)キョーリンリメディオ　販)共創未来ファーマ　販)杏林製薬　販)富士フイルムファーマ
【薬価】30.5円/1mL
【薬価収載日】2017/12/07
【標榜薬効】広範囲抗菌点眼剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種
ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，腸球菌属，ミクロコッカス属，モラクセラ属，コリネバクテリウム属，クレブシエラ属，セラチア属，プロテウス属，モルガネラ・モルガニー，プロビデンシア属，インフルエンザ菌，ヘモフィルス・エジプチウス(コッホ・ウィークス菌)，シュードモナス属，緑膿菌，バークホルデリア・セパシア，ステノトロホモナス(ザントモナス)・マルトフィリア，アシネトバクター属，アクネ菌
適応症
眼瞼炎，涙嚢炎，麦粒腫，結膜炎，瞼板腺炎，角膜炎(角膜潰瘍含む)，眼科周術期の無菌化療法
【用法用量】1回1滴　1日3回　点眼。
適宜増減。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・キノロン系抗菌剤に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（紅斑，発疹，呼吸困難，血圧低下，眼瞼浮腫等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%未満 頻度不明
眼 眼刺激，眼痛 びまん性表層角膜炎等の角膜障害，眼瞼炎，結膜炎，眼の掻痒感
皮膚 掻痒，発疹，蕁麻疹
（表終了）

オロパタジン点眼液0．1%「サンド」（0．1%1mL）

両 外用 後発 流通

【YJコード】1319752Q1067
【薬効分類】1．3．1 眼科用剤
【一般名】オロパタジン塩酸塩
【先発品】パタノール点眼液0．1%
【メーカー】製)サンド
【薬価】34.9円/1mL
【薬価収載日】2021/12/10
【標榜薬効】抗アレルギー点眼剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】アレルギー性結膜炎
【用法用量】1回1～2滴 1日4回 朝・昼・夕・就寝前 点眼。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．5～5%未満 0．5%未満 頻度不明
眼 眼痛 角膜炎，掻痒症，眼刺激，眼瞼浮腫，眼の異常感，充血，眼瞼炎，眼脂，結膜濾胞，結膜出血，眼瞼湿疹，眼瞼紅斑，流涙増加，眼の異物感，眼部不快感，眼瞼障害 眼乾燥，眼瞼縁痂皮，霧視，眼瞼痛
精神神経系 頭痛 味覚異常，眩暈
肝臓 ALT上昇，AST上昇
その他 ヘマトクリット減少，尿中ブドウ糖陽性 接触性皮膚炎，口内乾燥，悪心，過敏症，咽喉乾燥
（表終了）

カルテオロール塩酸塩LA点眼液2%「わかもと」（2%1mL）

両 外用 後発 流通

【YJコード】1319701Q4039
【薬効分類】1．3．1 眼科用剤
【一般名】カルテオロール塩酸塩
【先発品】ミケランLA点眼液2%
【メーカー】製)わかもと製薬 販)日東メディック
【薬価】148.6円/1mL
【薬価収載日】2013/12/13
【標榜薬効】緑内障・高眼圧症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】緑内障，高眼圧症
【用法用量】1%製剤 1回1滴 1日1回 点眼。
効果不十分時 2%製剤 1回1滴 1日1回 点眼。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．気管支喘息・気管支痙攣・それらの既往，重篤な慢性閉塞性肺疾患。
3．コントロール不十分な心不全，洞性徐脈，房室ブロック（II・III度），心原性ショック。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．喘息発作（頻度不明）の誘発（咳・呼吸困難等）。
2．高度な徐脈に伴う失神（頻度不明）。
3．房室ブロック，洞不全症候群，洞停止等の徐脈性不整脈，うっ血性心不全，冠攣縮性狭心症（各頻度不明）。
4．眼類天疱瘡（頻度不明）（結膜充血，角膜上皮障害，乾性角結膜炎，結膜萎縮，睫毛内反，眼瞼眼球癒着等）。
5．脳虚血，脳血管障害（各頻度不明）。
6．全身性エリテマトーデス（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
眼 眼刺激症状（しみる感じ，疼痛，灼熱感，かゆみ，乾燥感等）霧視，異物感，眼脂，結膜炎，眼瞼炎，眼瞼腫脹，羞明感，角膜障害（角膜炎，角膜びまん性混濁，角膜糜爛等），視力異常，眼瞼発赤 眼底黄斑部の浮腫・混濁
循環器 徐脈 低血圧，不整脈，動悸，胸痛
呼吸器 呼吸困難 鼻症状（くしゃみ，鼻水，鼻づまり），咳，咽喉頭症状（違和感等）
その他 頭痛，不快感，倦怠感，眩暈，悪心，味覚異常（苦味等），皮膚炎，発疹 血糖値の低下，筋肉痛，こわばり（四肢等），脱力感，抑うつ，重症筋無力症の増悪
（表終了）

眼・耳科用リンデロンA軟膏（1g）

両 外用 流通

【YJコード】1319812M1026
【薬効分類】1．3．1 眼科用剤
【一般名】ベタメタゾンリン酸エステルナトリウム・フラジオマイシン硫酸塩
【メーカー】製)シオノギファーマ 販)塩野義製薬
【薬価】67.7円/1g
【標榜薬効】合成副腎皮質ホルモン・抗生物質配合剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種
フラジオマイシン感性菌
適応症
（眼科）
外・前眼部の細菌感染を伴う炎症性疾患
（耳鼻科）
外耳の湿疹・皮膚炎，進行性壊疽性鼻炎，耳鼻咽喉科の術後処置
注意
適応症，起炎菌の感受性等を考慮。
【用法用量】眼科
1日1～数回 点眼・塗布。
適宜増減。
耳鼻科
1日1～数回 塗布。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．ストレプトマイシン，カナマイシン，ゲンタマイシン，フラジオマイシン等のアミノグリコシド系抗生剤・バシトラシンに過敏症の既往。
3．鼓膜に穿孔のある患者への耳内使用。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．非可逆性の難聴（0．1%未満）。
2．緑内障（0．1%未満），眼圧亢進。
3．角膜ヘルペス，角膜真菌症，眼部の緑膿菌感染症の誘発（各頻度不明）。
4．眼部の穿孔（頻度不明）。
5．後嚢白内障（0．1%未満）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 眼瞼炎，結膜炎 刺激感 接触性皮膚炎
耳・鼻 フラジオマイシンの耐性菌・非感性菌による化膿性の感染症
下垂体・副腎皮質系 下垂体・副腎皮質系機能の抑制
その他 全身使用と同症状 創傷治癒の遅延
（表終了）

グラナテック点眼液0．4%（0．4%1mL）

両 外用 流通

【YJコード】1319763Q1022
【薬効分類】1．3．1 眼科用剤
【一般名】リパスジル塩酸塩水和物
【メーカー】製)興和
【薬価】449.4円/1mL
【薬価収載日】2014/11/25
【標榜薬効】緑内障・高眼圧症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記で他の緑内障治療薬が効果不十分か，使用できない時
緑内障，高眼圧症
注意
1．プロスタグランジン関連薬やβ遮断薬等の他の緑内障治療薬で効果不十分か，副作用等で使用できない時に使用を検討。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

2. 急性閉塞隅角緑内障には，薬物療法以外に手術療法等を考慮。
【用法用量】1回1滴 1日2回 点眼。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
眼 結膜充血（69．0%），結膜炎（アレルギー性結膜炎含む），眼瞼炎（アレルギー性眼瞼炎含む），眼刺激 角膜上皮障害（角膜糜爛，点状角膜炎等），眼掻痒，眼の異常感，眼脂，眼痛，結膜濾胞，眼圧上昇 眼瞼浮腫，霧視
過敏症 発疹，紅斑 接触性皮膚炎
（表終了）

サイプレジン1%点眼液（1%1mL）
両 外用 流通

【YJコード】1311701Q1031
【薬効分類】1．3．1 眼科用剤
【一般名】シクロペントラート塩酸塩
【メーカー】製)参天製薬
【薬価】67.5円/1mL
【標榜薬効】屈折能検査点眼剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】診断・治療目的の散瞳，調節麻痺
【用法用量】1回1滴 1日1回 点眼。又は，1滴点眼後5～10分して，さらに1滴点眼。

■禁忌
【禁忌】緑内障，狭隅角や前房が浅い等の眼圧上昇の素因。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 過敏症状
眼 眼圧上昇，点眼直後の熱感，一過性の結膜充血
循環器 頻脈
精神神経系 一過性の幻覚，運動失調，情動錯乱，痙攣
消化器 口渇
その他 顔面潮紅
（表終了）

サンピロ点眼液2%（2%5mL1瓶）
両 外用 流通
劇

【YJコード】1312701Q3082
【薬効分類】1．3．1 眼科用剤
【一般名】ピロカルピン塩酸塩
【メーカー】製)参天製薬
【薬価】114.5円/1V
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】緑内障治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】緑内障，診断・治療目的の縮瞳
【用法用量】0．5～4%液 1回1～2滴 1日3～5回 点眼。

■禁忌
【禁忌】虹彩炎。

■副作用
【副作用】重大な副作用
眼類天疱瘡（頻度不明）（結膜充血，角膜上皮障害，乾性角結膜炎，結膜萎縮，睫毛内反，眼瞼眼球癒着等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
眼 眼瞼炎，白内障，結膜充血，眼の掻痒感，眼刺激，眼痛，霧視，暗黒感
消化器 下痢，悪心・嘔吐
その他 頭痛，発汗，流涎
（表終了）

人工涙液マイティア点眼液（5mL1瓶）
両 外用 流通

【YJコード】1319808Q2036
【薬効分類】1．3．1 眼科用剤
【一般名】ホウ酸・無機塩類配合剤
【メーカー】製)千寿製薬 販)武田薬品工業
【薬価】89.9円/1V
【薬価収載日】2006/12/08
【標榜薬効】点眼液

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の涙液の補充
涙液減少症，乾性角結膜炎，コンタクトレンズ装着時
注意
ソフトコンタクトレンズ装着時は使用しない（レンズの中に薬剤が吸着され，眼刺激やレンズ物性に影響あり）。
【用法用量】1回1～2滴 1日5～6回 点眼。
適宜増減。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
眼 過敏症状
（表終了）

ゾビラックス眼軟膏3%（3%1g）
両 外用 流通

【YJコード】1319719M1046
【薬効分類】1．3．1 眼科用剤
【一般名】アシクロビル
【メーカー】製)日東メディック 販)グラクソ・スミスクライン 販)参天製薬
【薬価】551.5円/1g
【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】ヘルペス性角膜炎化学療法剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】単純ヘルペスウイルスによる角膜炎
【用法用量】1日5回 塗布。適宜回数減。
注意
7日間使用し，改善がないか悪化時は，他の治療に切りかえる。投与継続時は副作用に注意し，長期投与は避ける。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・バラシクロビル塩酸塩に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
眼 びまん性表在性角膜炎（27．5%） 眼瞼炎，一過性刺激 結膜炎，角膜潰瘍，結膜糜爛
皮膚 接触皮膚炎
過敏症 血管浮腫，蕁麻疹
（表終了）

タリビッド眼軟膏0．3%（0．3%1g）
両 外用 流通

【YJコード】1319722M1056
【薬効分類】1．3．1 眼科用剤
【一般名】オフロキサシン
【メーカー】製)参天製薬
【薬価】113.5円/1g
【薬価収載日】2006/12/08
【標榜薬効】広範囲抗菌点眼剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種 ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，腸球菌属，ミクロコッカス属，モラクセラ属，コリネバクテリウム属，クレブシエラ属，セラチア属，プロテウス属，モルガネラ・モルガニー，プロビデンシア属，インフルエンザ菌，ヘモフィルス・エジプチウス（コッホ・ウィークス菌），シュードモナス属，緑膿菌，バークホルデリア・セパシア，ステノトロホモナス（ザントモナス）・マルトフィリア，アシネトバクター属，アクネ菌，トラコーマクラミジア（クラミジア・トラコマティス）
適応症 眼瞼炎，涙嚢炎，麦粒腫，結膜炎，瞼板腺炎，角膜炎（角膜潰瘍含む），眼科周術期の無菌化療法
【用法用量】1日3回 塗布。適宜増減。
注意
結膜炎
トラコーマクラミジアによる結膜炎は，8週間を目安とし，継続投与は慎重に行う。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・キノロン系抗菌剤に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（紅斑，発疹，呼吸困難，血圧低下，眼瞼浮腫等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%未満 頻度不明
眼 びまん性表層角膜炎等の角膜障害，眼瞼炎，結膜炎，眼の掻痒感，眼痛
皮膚 発疹 掻痒，蕁麻疹
（表終了）

ディスコビスク1．0眼粘弾剤（1mL1筒）
両 外用 流通

【YJコード】1319818Q1025
【薬効分類】1．3．1 眼科用剤
【一般名】精製ヒアルロン酸ナトリウム・コンドロイチン硫酸エステルナトリウム
【メーカー】製)日本アルコン
【薬価】8379.9円/1筒
【薬価収載日】2010/04/23
【標榜薬効】眼科手術補助剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】水晶体再建術の手術補助
【用法用量】白内障摘出 0．1～0．4mL 前房内注入。
眼内レンズ挿入 0．1～0．4mL 前房内注入。
眼内レンズコーティング 0．1mL 使用。

点眼・点鼻用リンデロンA液（1mL）
両 外用 流通

【YJコード】1319813Q1049
【薬効分類】1．3．1 眼科用剤
【一般名】ベタメタゾンリン酸エステルナトリウム・フラジオマイシン硫酸塩
【メーカー】製)シオノギファーマ 販)塩野義製薬
【薬価】78.2円/1mL
【薬価収載日】2005/06/10
【標榜薬効】合成副腎皮質ホルモン・抗生物質配合剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種
フラジオマイシン感性菌
適応症
（点眼）
外・前眼部の細菌感染を伴う炎症性疾患
（点鼻等）
アレルギー性鼻炎，進行性壊疽性鼻炎，鼻・咽喉頭部の術後処置
注意
適応症，起炎菌の感受性等を考慮。
【用法用量】点眼
1回1～2滴 1日1～数回 点眼。
適宜増減。
点鼻等
1日1～数回 点鼻，ネブライザー，タンポンで使用。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．ストレプトマイシン，カナマイシン，ゲンタマイシン，フラジオマイシン等のアミノグリコシド系抗生剤・バシトラシンに過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．緑内障（0．1%未満），眼圧亢進。
2．角膜ヘルペス，角膜真菌症，眼部の緑膿菌感染症の誘発（各頻度不明）。
3．眼部の穿孔（頻度不明）。
4．後嚢白内障（0．1%未満）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 眼瞼炎，結膜炎 刺激感 接触性皮膚炎
鼻 フラジオマイシンの耐性菌・非感性菌による化膿性の感染症
下垂体・副腎皮質系 下垂体・副腎皮質系機能の抑制，クッシング症候群
その他 全身使用と同症状 創傷治癒の遅延
（表終了）

日点アトロピン点眼液1%（1%5mL1瓶）
両 外用 流通
劇

【YJコード】1311706Q2022
【薬効分類】1．3．1 眼科用剤
【一般名】アトロピン硫酸塩水和物
【メーカー】製)ロートニッテン
【薬価】296.6円/1V
【薬価収載日】1992/04/01
【標榜薬効】散瞳・調節麻痺剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】診断・治療目的の散瞳，調節麻痺
【用法用量】1回1～2滴 1日1～3回 点眼。

■禁忌
【禁忌】緑内障，狭隅角や前房が浅い等の眼圧上昇の素因。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 アレルギー性結膜炎，眼瞼結膜炎
眼 続発性緑内障，眼圧上昇
循環器 血圧上昇，心悸亢進
精神神経系 幻覚，痙攣，興奮
消化器 悪心・嘔吐，口渇，便秘
その他 顔面潮紅，頭痛，発熱
（表終了）

ネオシネジンコーワ5%点眼液（5%1mL）
両 外用 流通

【YJコード】1311702Q1036
【薬効分類】1．3．1 眼科用剤
【一般名】フェニレフリン塩酸塩
【メーカー】製)興和 販)興和新薬
【薬価】38.2円/1mL
【標榜薬効】散瞳剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】診断・治療目的の散瞳
注意
隅角の診断が未確定のまま投与しない。
【用法用量】1回1～2滴 点眼。

■禁忌
【禁忌】1．狭隅角や前房が浅い等の眼圧上昇の素因。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 眼瞼の発赤・腫脹・掻痒感，接触皮膚炎
眼 結膜炎，充血，角膜上皮障害（角膜糜爛，点状角膜炎等），眼圧上昇
循環器 血圧上昇
（表終了）

ヒアルロン酸Na点眼液0．1%「センジュ」（0．1%5mL1瓶）
両 外用 後発 流通

【YJコード】1319720Q3230
【薬効分類】1．3．1 眼科用剤
【一般名】精製ヒアルロン酸ナトリウム
【先発品】ヒアレイン点眼液0．1%
【メーカー】製)千寿製薬 販)武田薬品工業
【薬価】144.1円/1V
【薬価収載日】2020/12/11
【標榜薬効】角結膜上皮障害治療用点眼剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記に伴う角結膜上皮障害
○シェーグレン症候群，スティーブンス・ジョンソン症候群，眼球乾燥症候群等の内因性疾患
○術後，薬剤性，外傷，コンタクトレンズ装用等による外因性疾患
【用法用量】1回1滴 1日5～6回 点眼。適宜増減。
0．1%製剤を投与し，効果不十分時 0．3%製剤を投与。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
眼 眼の掻痒感 眼刺激, 眼脂, 結膜充血, 眼の異物感, 眼瞼炎, 結膜炎 びまん性表層角膜炎等の角膜障害, 眼痛
(表終了)

ビーエスエスプラス500眼灌流液0. 018 4% (0. 46%20mL1瓶(希釈液付))

両 外用 流通

【YJコード】1319731Q2045
【薬効分類】1. 3. 1 眼科用剤
【一般名】オキシグルタチオン
【メーカー】製)日本アルコン 販)参天製薬
【薬価】2819.6円/1V
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】オキシグルタチオン眼灌流・洗浄液

■効能効果・用法用量
【効能効果】眼科手術(白内障, 硝子体, 緑内障)時の眼灌流・洗浄
【用法用量】眼科手術時に眼内・眼外の灌流・洗浄 下記量 使用(オキシグルタチオン溶液を希釈液で用時希釈)。適宜増減。
白内障手術 60～240mL。
硝子体手術 90～400mL。
緑内障手術 30～260mL。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
眼 角膜浮腫, 角膜混濁
(表終了)

ピレノキシン懸濁性点眼液0. 005%「参天」(0. 005%5mL1瓶)

両 外用 後発 流通

【YJコード】1319706Q3043
【薬効分類】1. 3. 1 眼科用剤
【一般名】ピレノキシン
【メーカー】製)参天製薬
【薬価】67円/1V
【薬価収載日】2020/12/11
【標榜薬効】老人性白内障治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】初期老人性白内障
【用法用量】用時振盪 1回1～2滴 1日3～5回 点眼。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 眼瞼炎, 接触皮膚炎
眼 びまん性表層角膜炎, 結膜充血, 結膜炎, 刺激感, 掻痒感, 霧視, 眼脂, 流涙, 眼痛, 眼の異常感, 眼の異物感
(表終了)

プリビナ点眼液0. 5mg／mL (0. 05%1 mL)

両 外用 流通

【YJコード】1316700Q1050
【薬効分類】1. 3. 1 眼科用剤
【一般名】ナファゾリン硝酸塩
【メーカー】製)日新製薬 販)ノバルティスファーマ
【薬価】10.6円/1mL
【薬価収載日】2006/12/08
【標榜薬効】眼科用局所血管収縮剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】表在性充血(原因療法と併用)
【用法用量】成人 1回1～2滴 1日2～3回 点眼。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 閉塞隅角緑内障。
2. MAO阻害剤の投与患者。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 頻度不明
過敏症 ― 過敏症状
眼 散瞳, 調節近点延長, 乾燥感 眼圧変動, 刺激痛, 反応性充血
(表終了)

ブリモニジン酒石酸塩点眼液0. 1%「SEC」(0. 1%1mL)

両 外用 後発 流通

【YJコード】1319761Q1040
【薬効分類】1. 3. 1 眼科用剤
【一般名】ブリモニジン酒石酸塩
【先発品】アイファガン点眼液0. 1%
【メーカー】製)参天アイケア 販)参天製薬
【薬価】91.4円/1mL
【薬価収載日】2021/06/18
【標榜薬効】緑内障・高眼圧症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記で他の緑内障治療薬が効果不十分か, 使用できない時
緑内障, 高眼圧症
注意
プロスタグランジン関連薬やβ遮断剤等の他の緑内障治療で効果不十分か, 副作用等で使用できない時に使用を検討。
【用法用量】1回1滴 1日2回 点眼。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 低出生体重児, 新生児, 乳児, 2歳未満の幼児。

■副作用
【副作用】重大な副作用
角膜混濁(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 0. 1～1%未満 頻度不明
過敏症 接触皮膚炎 丘疹 発疹, 紅斑, 蕁麻疹
眼 点状角膜炎, 眼瞼炎(アレルギー性眼瞼炎含む), 結膜炎(アレルギー性結膜炎含む) 結膜充血, 眼掻痒症, 眼の異常感 眼瞼紅斑, 眼瞼浮腫, マイボーム腺梗塞, 結膜浮腫, 結膜濾胞, 結膜蒼白, 結膜出血, 乾性角結膜炎, 眼脂, 眼刺激, 眼痛, 眼の異物感, 霧視, 視覚障害, 眼精疲労, 眼乾燥, 流涙増加 眼瞼下垂, 眼瞼障害, 麦粒腫, 角膜炎, 角膜糜爛, 虹彩炎, 白内障, 硝子体剥離, 硝子体浮遊物, 視野欠損, 視力低下, 縮瞳, 灼熱感, 羞明
循環器 徐脈, 頻脈, 低血圧, 高血圧, 動悸
呼吸器 鼻刺激感 咳嗽, 呼吸困難, 気管支炎, 咽頭炎, 鼻炎, 副鼻腔炎, 鼻乾燥
精神神経系 浮動性眩暈, 回転性眩暈, 頭痛, 耳鳴, 傾眠 不眠症, うつ病, 失神
消化器 口内乾燥, 口渇 胃腸障害, 悪心, 味覚異常
感染症 インフルエンザ症候群, 感冒, 呼吸器感染
その他 疲労, 貧血, 血中ビリルビン増加, 血中ブドウ糖増加, 血中トリグリセリド増加, 血中尿酸増加 無力症, 疲労, 高コレステロール血症, 気分不良
(表終了)

ブリンゾラミド懸濁性点眼液1%「サンド」(1%1mL)

両 外用 後発 流通

【YJコード】1319748Q1060
【薬効分類】1. 3. 1 眼科用剤
【一般名】ブリンゾラミド
【先発品】エイゾプト懸濁性点眼液1%
【メーカー】製)サンド
【薬価】89.7円/1mL
【薬価収載日】2020/12/11
【標榜薬効】眼圧下降剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記で他の緑内障治療薬が効果不十分か, 使用できない時
緑内障, 高眼圧症
【用法用量】1回1滴 1日2回 点眼。
効果不十分時 1回1滴 1日3回 点眼。

1 神経系及び感覚器官用医薬品

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 重篤な腎障害。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
眼 ― 霧視, 眼瞼炎, 乾燥感, 異物感, 充血, 眼脂, 不快感, 眼痛, 眼刺激, 掻痒感, 結膜炎(アレルギー性結膜炎含む), 疲れ目, 眼瞼辺縁痂皮, 角膜炎, 角膜上皮障害(点状角膜炎, 角膜糜爛等), べとつき感, 流涙 角結膜炎, 複視 角膜浮腫
消化器 ― 下痢, 口内乾燥, 消化不良, 嘔気 ― ―
皮膚 ― 脱毛, 皮膚炎 蕁麻疹 発疹
その他 味覚異常(苦味, 味覚倒錯等) 頭痛, 鼻炎, 胸部痛, 眩暈, 呼吸困難, 咽頭炎, うつ病, 鼻出血, 咳嗽 緊張亢進, 腎疼痛, 疲労, 赤血球数の減少, 耳鳴 感覚鈍麻
(表終了)

フルオロメトロン点眼液0. 1%「センジュ」(0. 1%1mL)
両 外用 後発 流通

【YJコード】1315704Q3177
【薬効分類】1. 3. 1 眼科用剤
【一般名】フルオロメトロン
【先発品】フルメトロン点眼液0. 1%
【メーカー】製)千寿製薬 販)武田薬品工業
【薬価】18.5円/1mL
【薬価収載日】2020/12/10
【標榜薬効】抗炎症ステロイド水性懸濁点眼剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】外・前眼部の炎症性疾患(眼瞼炎, 結膜炎, 角膜炎, 強膜炎, 上強膜炎, 虹彩炎, 虹彩毛様体炎, ブドウ膜炎, 術後炎症等)
【用法用量】用時振盪 1回1～2滴 1日2～4回 点眼。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 緑内障(頻度不明), 眼内圧亢進。
2. 角膜ヘルペス, 角膜真菌症, 緑膿菌感染症(各頻度不明)。
3. 角膜穿孔(頻度不明)。
4. 後嚢下白内障(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
眼 眼刺激, 結膜充血, 角膜沈着物, 眼瞼炎, 眼瞼皮膚炎
下垂体・副腎皮質系機能 下垂体・副腎皮質系機能の抑制
皮膚 発疹
その他 創傷治癒の遅延
(表終了)

プレドニン眼軟膏(0. 25%1g)
両 外用 流通

【YJコード】1315705M1037
【薬効分類】1. 3. 1 眼科用剤
【一般名】プレドニゾロン酢酸エステル
【メーカー】製)シオノギファーマ 販)塩野義製薬
【薬価】83.9円/1g
【標榜薬効】眼科用合成副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】外・前眼部の炎症性疾患の対症療法(眼瞼炎, 結膜炎, 角膜炎, 強膜炎, 上強膜炎, 前眼部ブドウ膜炎, 術後炎症)
【用法用量】1日数回 塗布。適宜増減。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 緑内障(0. 1%未満), 眼圧亢進。
2. 角膜ヘルペス, 角膜真菌症, 眼部の緑膿菌感染症の誘発(各頻度不明)。
3. 眼部の穿孔(頻度不明)。
4. 後嚢白内障(0. 1%未満)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 刺激感
下垂体・副腎皮質系 下垂体・副腎皮質系機能の抑制
その他 全身使用と同症状 創傷治癒の遅延
(表終了)

ブロムフェナクNa点眼液0. 1%「日新」(0. 1%1mL)
両 外用 後発 流通

【YJコード】1319743Q1041
【薬効分類】1. 3. 1 眼科用剤
【一般名】ブロムフェナクナトリウム水和物
【先発品】ブロナック点眼液0. 1%
【メーカー】製)日新製薬 販)テイカ製薬 販)日本ジェネリック
【薬価】30.8円/1mL
【薬価収載日】2013/12/13
【標榜薬効】非ステロイド抗炎症点眼剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】外・前眼部の炎症性疾患の対症療法〔眼瞼炎, 結膜炎, 強膜炎(上強膜炎含む), 術後炎症〕
【用法用量】1回1～2滴 1日2回 点眼。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
角膜潰瘍, 角膜穿孔(各頻度不明), 角膜上皮障害等。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 頻度不明
過敏症 接触皮膚炎
眼 結膜炎, 眼瞼炎, 刺激感, 眼痛(一過性) 角膜糜爛, 熱感(眼瞼), 点状表層角膜炎, 角膜上皮剥離, 掻痒感
(表終了)

ベノキシール点眼液0. 4%(0. 4%1mL)
両 外用 流通

【YJコード】1313700Q2070
【薬効分類】1. 3. 1 眼科用剤
【一般名】オキシブプロカイン塩酸塩
【メーカー】製)参天製薬
【薬価】41.8円/1mL
【薬価収載日】2003/07/04
【標榜薬効】眼科用表面麻酔剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】眼科の表面麻酔
注意
鎮痛のみに使用しない。
【用法用量】成人 1～4滴 点眼。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・安息香酸エステル(コカイン除く)系局所麻酔剤に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック, アナフィラキシー(各頻度不明)(悪心, 顔面蒼白, 紅斑, 発疹, 呼吸困難, 血圧低下, 眼瞼浮腫等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 過敏症状
眼 角膜糜爛
(表終了)

マキュエイド眼注用40mg(40mg1瓶)
内 注射 流通

【YJコード】1319404D1037
【薬効分類】1. 3. 1 眼科用剤
【一般名】トリアムシノロンアセトニド
【メーカー】製)わかもと製薬
【薬価】8056円/1V
【薬価収載日】2017/05/31
【標榜薬効】眼科手術補助剤, 眼科用副腎皮質ホルモン剤

1 神経系及び感覚器官用医薬品

■効能効果・用法用量
【効能効果】硝子体内投与
〇硝子体手術時の硝子体可視化
〇糖尿病黄斑浮腫
テノン嚢下投与
下記に伴う黄斑浮腫の軽減
〇糖尿病黄斑浮腫
〇網膜静脈閉塞症
〇非感染性ぶどう膜炎
【用法用量】硝子体内投与 硝子体手術時の硝子体可視化
0．5～4mg（懸濁液 0．05～0．4mL） 硝子体内投与（1バイアルに4mLの生食又は眼灌流液を注入し10mg／mLになるよう用時懸濁）。懸濁液の濃度は，適宜増減，40mg／mLまで。
硝子体内投与 糖尿病黄斑浮腫
4mg（懸濁液 0．1mL） 硝子体内投与（1バイアルに1mLの生食又は眼灌流液を注入し40mg／mLになるよう用時懸濁）。
テノン嚢下投与
20mg（懸濁液 0．5mL） テノン嚢下に投与（1バイアルに1mLの生食又は眼灌流液を注入し40mg／mLになるように用時懸濁）。
注意
硝子体内投与 糖尿病黄斑浮腫，テノン嚢下投与
1．長期投与時の有効性・安全性は未確立。長期投与により，白内障のリスクが高くなるおそれ，継続的な長期投与は避ける。
再投与は，有益性が危険性を上回る時のみ，3ヵ月以上あけて実施。
糖尿病黄斑浮腫への硝子体内投与は，トリアムシノロンアセトニド粒子の消失を細隙灯顕微鏡等で確認後に再投与。
2．臨床試験で，両眼治療は行われていない。両眼に治療対象がある時は，有益性・危険性を慎重に評価。
初回治療の両眼同日投与は避け，片眼での安全性を評価した上で対側眼の治療を行う。

■禁忌
【禁忌】効能共通
1．本剤の成分に過敏症の既往。
硝子体内投与（糖尿病黄斑浮腫）
2．眼・眼周囲の感染・その疑い。
硝子体内投与（糖尿病黄斑浮腫），テノン嚢下投与
3．コントロール不良の緑内障。

■副作用
【副作用】重大な副作用
硝子体内投与（硝子体手術時の硝子体可視化）
1．眼障害（眼内炎（頻度不明））。
硝子体内投与（糖尿病黄斑浮腫）
2．眼障害（白内障（17．8%），眼圧上昇（20．0%），眼内炎（頻度不明），緑内障（頻度不明））。
テノン嚢下投与
3．眼障害（白内障（5．7%），眼圧上昇（14．8%），緑内障（頻度不明），感染性強膜炎（頻度不明））。

ミドリンM点眼液0．4%（0．4%1mL）
両 外用 流通

【YJコード】1311705Q1048
【薬効分類】1．3．1 眼科用剤
【一般名】トロピカミド
【メーカー】製)参天製薬
【薬価】18.5円/1mL
【薬価収載日】2006/06/09
【標榜薬効】調節麻痺・散瞳点眼剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】診断・治療目的の散瞳，調節麻痺
【用法用量】診断・治療目的の散瞳
1回1～2滴 1日1回 点眼。
調節麻痺
1回1滴 3～5分おきに2～3回 点眼。

■禁忌
【禁忌】緑内障，狭隅角や前房が浅い等の眼圧上昇の素因。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
眼 眼圧上昇，結膜炎，眼刺激，眼瞼炎，眼の掻痒感
皮膚 掻痒，発疹，蕁麻疹
（表終了）

ミドリンP点眼液（1mL）
両 外用 流通

【YJコード】1319810Q1053
【薬効分類】1．3．1 眼科用剤
【一般名】トロピカミド・フェニレフリン塩酸塩
【メーカー】製)参天製薬
【薬価】27.6円/1mL
【薬価収載日】2006/06/09
【標榜薬効】検査用散瞳点眼剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】診断・治療目的の散瞳，調節麻痺
【用法用量】散瞳 1回1～2滴 点眼，又は1回1滴 3～5分おき2回点眼。
適宜増減。
調節麻痺 1回1滴 3～5分おき2～3回 点眼。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．緑内障，狭隅角や前房が浅い等の眼圧上昇の素因。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（紅斑，発疹，呼吸困難，血圧低下，眼瞼浮腫等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
眼 結膜炎（結膜充血・浮腫，眼脂等），角膜上皮障害，眼圧上昇，眼瞼炎，眼の掻痒感
皮膚 掻痒，発疹，蕁麻疹
消化器 口渇，悪心・嘔吐
その他 顔面潮紅，頻脈，血圧上昇，頭痛
（表終了）

ラタノプロスト点眼液0．005%「ニットー」（0．005%1mL）
両 外用 後発 流通

【YJコード】1319739Q1223
【薬効分類】1．3．1 眼科用剤
【一般名】ラタノプロスト
【先発品】キサラタン点眼液0．005%
【メーカー】製)日東メディック
【薬価】151円/1mL
【薬価収載日】2010/05/28
【標榜薬効】緑内障・高眼圧症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】緑内障，高眼圧症
【用法用量】1回1滴 1日1回 点眼。
注意
頻回投与で眼圧下降作用が減弱する可能性，1日1回まで。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
虹彩色素沈着（2．37%）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
眼 結膜 結膜充血 結膜炎，眼脂，結膜濾胞 偽眼類天疱瘡
眼 ぶどう膜 ぶどう膜炎，虹彩炎 虹彩嚢腫
眼 角膜 角膜上皮障害，点状表層角膜炎，糸状角膜炎，角膜糜爛，角膜浮腫 ヘルペス性角膜炎，角膜沈着物，角膜混濁，潰瘍性角膜炎
眼 眼瞼 眼瞼色素沈着，眼瞼炎，眼瞼部多毛，眼瞼浮腫，眼瞼発赤 眼瞼溝深化
眼 その他 しみる等の眼刺激症状，掻痒感，眼痛，霧視，前房細胞析出，流涙，睫毛の異常（睫毛が濃く，太く，長くなる），異物感等の眼の異常感 嚢胞様黄斑浮腫含む黄斑浮腫・それに伴う視力低下，接触性皮膚炎，羞明
循環器 動悸，狭心症
その他 頭痛，掻痒感，咽頭違和感，嘔気，眩暈，胸痛 喘息，筋肉痛，関節痛，発疹
（表終了）

リンデロン点眼・点耳・点鼻液0．1%（0．1%1mL）
両 外用 流通

【YJコード】1315706Q2102
【薬効分類】1．3．1 眼科用剤
【一般名】ベタメタゾンリン酸エステルナトリウム
【メーカー】製)シオノギファーマ 販)塩野義製薬

1 神経系及び感覚器官用医薬品

【薬価】49.1円/1mL
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】合成副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】眼科
外・前眼部の炎症性疾患の対症療法(眼瞼炎，結膜炎，角膜炎，強膜炎，上強膜炎，前眼部ブドウ膜炎，術後炎症)
耳鼻科
外耳・中耳(耳管含む)・上気道の炎症性・アレルギー性疾患(外耳炎，中耳炎，アレルギー性鼻炎等)，術後処置
【用法用量】眼科
1回1～2滴　1日3～4回　点眼。
適宜増減。
耳鼻科
1日1～数回　点耳，点鼻，耳浴，ネブライザー，タンポンで使用，又は患部に注入。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 緑内障(0. 1%未満)，眼圧亢進。
2. 角膜ヘルペス，角膜真菌症，眼部の緑膿菌感染症の誘発(各頻度不明)。
3. 眼部の穿孔(頻度不明)。
4. 後嚢白内障(0. 1%未満)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 刺激感
眼　角膜沈着物
耳・鼻　化膿性の感染症
下垂体・副腎皮質系　下垂体・副腎皮質系機能の抑制，クッシング症候群
その他 全身使用と同症状 創傷治癒の遅延
(表終了)

レボフロキサシン点眼液1. 5%「日点」(1. 5%1mL)
両　外用　後発　流通

【YJコード】1319742Q2183
【薬効分類】1. 3. 1　眼科用剤
【一般名】レボフロキサシン水和物
【先発品】クラビット点眼液1. 5%
【メーカー】製)ロートニッテン
【薬価】18.5円/1mL
【薬価収載日】2014/06/20
【標榜薬効】広範囲抗菌点眼剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種 ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，腸球菌属，ミクロコッカス属，モラクセラ属，コリネバクテリウム属，クレブシエラ属，エンテロバクター属，セラチア属，プロテウス属，モルガネラ・モルガニー，インフルエンザ菌，ヘモフィルス・エジプチウス(コッホ・ウィークス菌)，シュードモナス属，緑膿菌，ステノトロホモナス(ザントモナス)・マルトフィリア，アシネトバクター属，アクネ菌
適応症 眼瞼炎，涙嚢炎，麦粒腫，結膜炎，瞼板腺炎，角膜炎(角膜潰瘍含む)，眼科周術期の無菌化療法
注意
MRSAによる感染症には，速やかに抗MRSA作用の強い薬剤を投与。
【用法用量】1回1滴　1日3回　点眼。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・オフロキサシン・キノロン系抗菌剤に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(紅斑，発疹，呼吸困難，血圧低下，眼瞼浮腫等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
眼 眼刺激 眼の掻痒感 びまん性表層角膜炎等の角膜障害，結膜炎，眼痛，角膜沈着物，眼瞼炎
皮膚　蕁麻疹 発疹，掻痒
その他　味覚異常(苦味等)
(表終了)

1. 3. 2　耳鼻科用剤

ジオクチルソジウムスルホサクシネート耳科用液5%「CEO」(5%1mL)
両　外用　後発　流通

【YJコード】1329701Q1036
【薬効分類】1. 3. 2　耳鼻科用剤
【一般名】ジオクチルソジウムスルホサクシネート
【メーカー】製)セオリアファーマ　販)武田薬品工業
【薬価】39.7円/1mL
【薬価収載日】2015/06/19
【標榜薬効】耳垢除去剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】耳垢の除去
【用法用量】綿棒等で外耳へ塗布。除去困難時　数滴点耳後5分～20分後に微温湯(37℃)にて洗浄。高度の耳垢栓塞　1日3回，1～2日連続点耳後，微温湯(37℃)洗浄。

■禁忌
【禁忌】鼓膜穿孔。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
投与部位 掻痒感，外耳道発赤，疼痛，皮膚炎，かぶれ
(表終了)

タリビッド耳科用液0. 3%(3mg1mL)
両　外用　流通

【YJコード】1329706Q1039
【薬効分類】1. 3. 2　耳鼻科用剤
【一般名】オフロキサシン
【メーカー】製)アルフレッサファーマ　販)第一三共
【薬価】111.2円/1mL
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】ニューキノロン系抗菌耳科用製剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種 ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，プロテウス属，モルガネラ・モルガニー，プロビデンシア属，インフルエンザ菌，緑膿菌
適応症 外耳炎，中耳炎
注意
中耳炎
1.「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
2. 炎症が中耳粘膜に限局している時に局所的治療を適用。炎症が鼓室周辺に及ぶ時は，局所的治療以外，経口剤等による全身的治療を検討。
【用法用量】成人　1回6～10滴　1日2回　点耳。点耳後，約10分間耳浴。
適宜回数増減。小児　適宜滴数減。
注意
4週間を目安とし，継続投与は長期投与に伴う真菌の発現や菌の耐性化等に注意し，漫然と投与しない。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・レボフロキサシン水和物に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%未満 頻度不明
過敏症 ― 過敏症状
耳 耳痛 外耳道発赤
その他 ― 頭痛，菌交代症
(表終了)

プリビナ液0. 05%(0. 05%1mL)
両　外用　流通

【YJコード】1324704Q1033
【薬効分類】1. 3. 2　耳鼻科用剤
【一般名】ナファゾリン硝酸塩
【メーカー】製)日新製薬　販)ノバルティスファーマ
【薬価】4円/1mL

1 神経系及び感覚器官用医薬品

【薬価収載日】2006/12/08
【標榜薬効】点鼻用局所血管収縮剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○上気道の諸疾患の充血・うっ血
○上気道粘膜の表面麻酔時における局所麻酔剤の効力持続時間の延長
【用法用量】鼻腔内 成人 1回2～4滴 1日数回 塗布・噴霧。
咽頭・喉頭 成人 1回1～2mL 1日数回 塗布・噴霧。
適宜増減。
局所麻酔剤への添加は，2～4滴／mLの割合で添加。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．乳児，2歳未満の幼児。
3．MAO阻害剤の投与患者。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 過敏症状
精神神経系 眠気等の鎮静作用（特に小児），神経過敏，頭痛，眩暈，不眠症
循環器 血圧上昇
呼吸器 くしゃみ
胃腸 悪心・嘔吐
鼻 熱感，刺激痛，乾燥感，嗅覚消失，反応性充血，鼻漏
長期使用 顆粒球減少，反応性の低下
（表終了）

フルチカゾンフランカルボン酸エステル点鼻液27．5μg「武田テバ」56噴霧用（3mg6g1キット）

両 外用 後発 流通

【YJコード】1329711Q1030
【薬効分類】1．3．2 耳鼻科用剤
【一般名】フルチカゾンフランカルボン酸エステル
【先発品】アラミスト点鼻液27．5μg56噴霧用
【メーカー】製)武田テバファーマ 販)武田薬品工業
【薬価】559.4円/1kit
【薬価収載日】2023/06/16
【標榜薬効】定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】アレルギー性鼻炎
【用法用量】成人 1回各鼻腔に2噴霧（1噴霧あたりフルチカゾンフランカルボン酸エステル 27．5μg） 1日1回 投与。
小児 1回各鼻腔に1噴霧（1噴霧あたりフルチカゾンフランカルボン酸エステル 27．5μg） 1日1回 投与。
注意
効果を得るためには継続的に使用。

■禁忌
【禁忌】1．有効な抗菌剤のない感染症，深在性真菌症。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
アナフィラキシー反応（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，血管性浮腫，蕁麻疹
鼻腔 鼻出血，鼻症状（刺激感，疼痛，乾燥感） 鼻潰瘍，鼻中隔穿孔
精神神経系 頭痛，睡眠障害
その他 血中コルチゾール減少，白血球数増加 眼圧上昇
（表終了）

1．3．3 鎮暈剤

ジフェニドール塩酸塩錠25mg「トーワ」（25mg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】1339002F1527
【薬効分類】1．3．3 鎮暈剤
【一般名】ジフェニドール塩酸塩
【先発品】セファドール錠25mg
【メーカー】製)東和薬品
【薬価】5.9円/1T
【薬価収載日】2017/06/16
【標榜薬効】抗めまい剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】内耳障害による眩暈
【用法用量】成人 1回1～2錠 1日3回 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．重篤な腎機能障害。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 浮動感・不安定感，頭痛・頭重感 幻覚 錯乱
皮膚 発疹・蕁麻疹
眼 調節障害 散瞳
肝臓 肝機能異常（AST，ALT，AlーPの上昇等）
消化器 口渇，食欲不振，胃・腹部不快感，胸やけ，悪心・嘔吐，胃痛
その他 傾眠，動悸，顔面熱感，口内違和感 排尿困難
（表終了）

トラベルミン配合錠（1錠）

両 内服 流通

【YJコード】1339100F1038
【薬効分類】1．3．3 鎮暈剤
【一般名】ジフェンヒドラミンサリチル酸塩・ジプロフィリン
【メーカー】製)アルフレッサファーマ 販)エーザイ
【薬価】6.1円/1T
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】鎮暈剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記に伴う悪心・嘔吐・眩暈
動揺病，メニエール症候群
【用法用量】成人 1回1錠 内服。
必要時 1日3～4回 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．閉塞隅角緑内障。
2．前立腺肥大等下部尿路に閉塞性疾患。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹
循環器 動悸
精神神経系 眠気，倦怠感，頭重感，眩暈 頭痛，神経過敏
消化器 口渇 悪心・嘔吐，下痢
（表終了）

ベタヒスチンメシル酸塩錠6mg「トーワ」（6mg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】1339005F1490
【薬効分類】1．3．3 鎮暈剤
【一般名】ベタヒスチンメシル酸塩
【先発品】メリスロン錠6mg
【メーカー】製)東和薬品
【薬価】6.3円/1T
【薬価収載日】2022/06/16
【標榜薬効】めまい・平衡障害治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記に伴う眩暈・眩暈感
メニエール病，メニエール症候群，眩暈症
【用法用量】成人 1回1～2錠（ベタヒスチンメシル酸塩 6～12mg）
1日3回 食後 内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満
消化器 悪心・嘔吐
過敏症 発疹

（表終了）

2 個々の器官系用医薬品

2 個々の器官系用医薬品

2．1 循環器官用薬

2．1．1 強心剤

イノバン注0．3%シリンジ（0．3%50mL1筒）

内 注射 流通
劇

【YJコード】2119402P4037
【薬効分類】2．1．1 強心剤
【一般名】ドパミン塩酸塩
【メーカー】製)テルモ 販)協和キリン
【薬価】729円/1筒
【薬価収載日】2005/12/16
【標榜薬効】急性循環不全改善剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．急性循環不全（心原性ショック，出血性ショック）
2．下記の急性循環不全状態
（1）．無尿，乏尿や利尿剤で利尿がない時
（2）．脈拍数の増加した状態
（3）．他の強心・昇圧剤で副作用があったり，好ましい反応がない時
【用法用量】1～5μg／kg／分 持続静注。病態により 20μg／kg／分まで。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】褐色細胞腫・パラガングリオーマ。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．麻痺性イレウス（0．1%未満）。
2．末梢の虚血（四肢冷感（0．5%）等），壊疽。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
循環器 不整脈（心室性期外収縮，心房細動，心室性頻拍等）動悸 頻脈
消化器 嘔気，嘔吐，腹部膨満，腹痛
その他 静脈炎，注射部位の変性壊死，起毛
（表終了）

エホチール注10mg（1%1mL1管）

内 注射 流通
劇

【YJコード】2119401A1057
【薬効分類】2．1．1 強心剤
【一般名】エチレフリン塩酸塩
【メーカー】製)サノフィ 販)日本ベーリンガーインゲルハイム
【薬価】61円/1A
【薬価収載日】2008/12/19
【標榜薬効】昇圧剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】起立性低血圧，各種疾患・状態に伴う急性低血圧・ショック時の補助治療
【用法用量】成人 1回0．2～1mL（エチレフリン塩酸塩 2～10mg）皮下注・筋注・静注。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
循環器 心悸亢進，胸内苦悶，徐脈，血圧異常上昇，呼吸困難
精神神経系 頭痛 不眠，振戦
過敏症 発疹
（表終了）

ジギラノゲン注0．4mg（0．02%2mL1管）

内 注射 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2113401A1053
【薬効分類】2．1．1 強心剤
【一般名】デスラノシド
【メーカー】製)ネオクリティケア製薬 販)日本ジェネリック
【薬価】139円/1A
【薬価収載日】2007/12/25
【ハイリスク分類】ジギタリス製剤
【標榜薬効】強心利尿剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．下記によるうっ血性心不全（肺水腫，心臓喘息等含む）先天性心疾患，弁膜疾患，高血圧症，虚血性心疾患（心筋梗塞，狭心症等），肺性心（肺血栓・塞栓症，肺気腫，肺線維症等によるもの），その他の心疾患（心膜炎・心筋疾患等），腎疾患，甲状腺機能亢進症・低下症等
2．心房細動・粗動による頻脈，発作性上室性頻拍
3．下記の心不全・各種頻脈の予防と治療
手術，急性熱性疾患，出産，ショック，急性中毒
【用法用量】成人
1．急速飽和療法（飽和量 0．8～1．6mg）
初回 0．4～0．6mg 静注・筋注。以後0．2～0．4mg 2～4時間ごと 静注・筋注。効果があるまで続ける。筋注は疼痛を伴う。
2．比較的急速飽和療法
1日0．4～0．6mg 静注・筋注。効果があるまで，2～4日間続ける。筋注は疼痛を伴う。
3．維持療法
1日0．2～0．3mg 静注・筋注。筋注は疼痛を伴う。
小児
1．急速飽和療法
下記量 1日3～4回 分割 静注・筋注。2日で飽和し 維持量。筋注は疼痛を伴う。
新生児・低出生体重児 1日0．03～0．05mg／kg。
2歳以下 1日0．04～0．06mg／kg。
2歳以上 1日0．02～0．04mg／kg。
2．維持療法
飽和量の1／4 静注・筋注。筋注は疼痛を伴う。
注意
飽和療法は過量になりやすいので，緊急でなければ初期から維持療法も考慮。

■禁忌
【禁忌】1．房室ブロック，洞房ブロック。
2．ジギタリス中毒。
3．閉塞性心筋疾患（特発性肥大性大動脈弁下狭窄等）。
4．ジスルフィラム・シアナミドの投与患者。
5．本剤の成分・ジギタリス剤に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．中毒症状（ジギタリス中毒）（頻度不明）
（1）．消化器（食欲不振，悪心・嘔吐，下痢等）。
（2）．循環器（不整脈，頻脈，高度の徐脈等）。
（3）．眼（視覚異常（光がないのにちらちら見える，黄視，緑視，複視等））。
（4）．精神神経系（眩暈，頭痛，失見当識，錯乱等）。
2．非閉塞性腸間膜虚血（頻度不明）（激しい腹痛，血便等），腸管壊死。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹，紫斑，浮腫等
その他 女性型乳房，筋力低下
（表終了）

タナドーパ顆粒75%（75%1g）

両 内服 流通
劇

【YJコード】2119007D1031
【薬効分類】2．1．1 強心剤
【一般名】ドカルパミン
【メーカー】製)田辺三菱製薬
【薬価】249円/1g
【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】ドパミンプロドラッグ

■効能効果・用法用量

2 個々の器官系用医薬品

【効能効果】ドパミン塩酸塩注射液，ドブタミン塩酸塩注射液等の少量静脈内持続点滴療法（5μg／kg／分未満）からの離脱が困難な循環不全で，少量静脈内持続点滴療法から経口剤への早期離脱の必要時
注意
1．ドパミン塩酸塩注射液，ドブタミン塩酸塩注射液等の少量静脈内持続点滴療法（5μg／kg／分未満）の実施時期（発症後約1週間）に，点滴剤から早期離脱を必要時に切りかえる。
2．切りかえ投与は，血圧低下，尿量減少，呼吸困難，倦怠感，脈拍変動等に注意し，切りかえ困難時はもとの点滴療法にもどす。
【用法用量】成人　1日2250mg（本剤　3g）　1日3回　分割　内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】褐色細胞腫・パラガングリオーマ。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．心室頻拍（1%未満）等の不整脈。
2．肝機能障害（1%未満）（AST，ALT，AI－P，LDH，γ－GTPの上昇等），黄疸（0．1%未満）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹
循環器 頻脈，心室性期外収縮，心房細動等の不整脈，動悸
精神神経系　眩暈
消化器 悪心，嘔吐，食欲不振，胃不快感
血液　血小板減少
（表終了）

ドブタミン持続静注150mgシリンジ「テルモ」（0．3%50mL1筒）

内　注射　後発　流通
劇

【YJコード】2119404G6055
【薬効分類】2．1．1　強心剤
【一般名】ドブタミン塩酸塩
【メーカー】製)テルモ
【薬価】470円/1筒
【薬価収載日】2024/12/06
【標榜薬効】急性循環不全改善剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】急性循環不全の心収縮力増強
【用法用量】1～5μg／kg／分　持続静注。適宜増減，必要時　20μg／kg／分まで。
注意
参考 体重あたりの投与量。
（表開始）
体重（kg）ドブタミン投与量（μg／kg／分）ドブタミン投与量（μg／kg／分）ドブタミン投与量（μg／kg／分）ドブタミン投与量（μg／kg／分）ドブタミン投与量（μg／kg／分）
体重（kg）3 5 10 15 20
5 0．3 0．5 1 1．5 2
10 0．6 1 2 3 4
15 0．9 1．5 3 4．5 6
20 1．2 2 4 6 8
30 1．8 3 6 9 12
40 2．4 4 8 12 16
50 3 5 10 15 20
60 3．6 6 12 18 24
70 4．2 7 14 21 28
80 4．8 8 16 24 32
（表終了）
表内の数値は，1時間単位あたりの投与薬液量（mL／時）。

■禁忌
【禁忌】1．肥大型閉塞性心筋症（特発性肥厚性大動脈弁下狭窄）。
2．ドブタミン塩酸塩に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
循環器 不整脈（頻脈・期外収縮）等 過度の血圧上昇，動悸，胸部不快感，狭心痛，前胸部熱感，息切れ 血圧低下
消化器　悪心，腹部痛等
投与部位　注射部位の発赤，腫脹等
その他　頭痛，発疹，好酸球増多 血清カリウムの低下
（表終了）

ネオフィリン注250mg（2．5%10mL1管）

内　注射　流通
ハイリスク

【YJコード】2115400A1193
【薬効分類】2．1．1　強心剤
【一般名】アミノフィリン水和物
【メーカー】製)エーザイ
【薬価】100円/1A
【薬価収載日】2007/06/15
【ハイリスク分類】テオフィリン製剤
【標榜薬効】強心・喘息治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】気管支喘息，喘息性（様）気管支炎，肺性心，うっ血性心不全，肺水腫，心臓喘息，チェーン・ストークス呼吸，閉塞性肺疾患（肺気腫，慢性気管支炎等）の呼吸困難，狭心症（発作予防），脳卒中発作急性期
【用法用量】成人　アミノフィリン水和物　1回250mg　1日1～2回　5～10分かけ　緩徐に静注（生食又は糖液に希釈）。必要時，点滴静注。
小児　1回3～4mg／kg　静注。投与間隔　8時間以上，1日最高12mg／kg。必要時，点滴静注。
適宜増減。
注意
気管支喘息
小児の投与量，投与法等は，学会のガイドライン等，最新の情報を参考に投与。
喘息の急性増悪（発作）時のアミノフィリン投与量の目安
（表開始）
初期量（mg／kg）維持量（mg／kg／時）
事前に内服されていない時 4～5mg／kg　30分以上かけ　点滴静注
0．6～0．8mg／kg／時
事前に内服されている時 3～4mg／kg　30分以上かけ　点滴静注
0．6～0．8mg／kg／時
（表終了）
初期量　250mgまで。肥満の投与量　標準体重で計算。

■禁忌
【禁忌】1．本剤・他のキサンチン系薬剤に重篤な副作用の既往。
2．12時間以内にアデノシン（アデノスキャン）を使用する患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシーショック（各頻度不明）（蕁麻疹，蒼白，発汗，血圧低下，呼吸困難等）。
2．痙攣，意識障害（各頻度不明）（せん妄，昏睡等）。
3．急性脳症（頻度不明）。
4．横紋筋融解症（頻度不明）（脱力感，筋肉痛，CK上昇等），急性腎障害。
5．潰瘍等による消化管出血（頻度不明）（吐血，下血等）。
6．赤芽球癆（頻度不明），貧血。
7．肝機能障害（AST，ALTの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
8．頻呼吸，高血糖症（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感，蕁麻疹，紅斑（多形滲出性紅斑等），固定薬疹
精神神経系 頭痛，不眠，神経過敏（興奮，不機嫌，いらいら感），不安，眩暈，耳鳴，振戦，しびれ，不随意運動，筋緊張亢進
循環器 顔面潮紅，動悸，頻脈，顔面蒼白，不整脈（心室性期外収縮等）
消化器 悪心，嘔吐，食欲不振，腹痛，下痢，腹部膨満感，消化不良（胸やけ等），しゃっくり
泌尿器 蛋白尿，頻尿
代謝異常 血清尿酸値，CKの上昇等
肝臓 AST，ALT，AI－P，LDH，γ－GTPの上昇等
血液 貧血，好酸球増多
その他 むくみ，倦怠感，関節痛，四肢痛，発汗，胸痛，低カリウム血症，鼻出血，しびれ（口，舌周囲）
（表終了）

ハーフジゴキシンKY錠0．125（0．125mg1錠）

両　内服　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】2113003F2029
【薬効分類】2．1．1　強心剤
【一般名】ジゴキシン
【メーカー】製)京都薬品工業　販)アステラス製薬　販)トーアエイヨー
【薬価】10.1円/1T
【薬価収載日】2002/07/05
【ハイリスク分類】ジギタリス製剤

2 個々の器官系用医薬品

【標榜薬効】ジギタリス配糖体製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○下記によるうっ血性心不全(肺水腫，心臓喘息等含む)
先天性心疾患，弁膜疾患，高血圧症，虚血性心疾患(心筋梗塞，狭心症等)，肺性心(肺血栓・塞栓症，肺気腫，肺線維症等によるもの)，その他の心疾患(心膜炎，心筋疾患等)，腎疾患，甲状腺機能亢進症・低下症等
○心房細動・粗動による頻脈
○発作性上室性頻拍
○下記の心不全・各種頻脈の予防と治療
手術，急性熱性疾患，出産，ショック，急性中毒
【用法用量】成人
(1)．急速飽和療法(飽和量　1～4mg)
初回　0．5～1mg　内服。以後0．5mg　6～8時間ごと　内服。効果があるまで続ける。
(2)．比較的急速飽和療法ができる。
(3)．緩徐飽和療法ができる。
(4)．維持療法
1日0．25～0．5mg　内服。
小児
(1)．急速飽和療法
2歳以下　1日0．06～0．08mg／kg　1日3～4回　分割　内服。
2歳以上　1日0．04～0．06mg／kg　1日3～4回　分割　内服。
(2)．維持療法
飽和量の1／5～1／3　内服。
注意
飽和療法は過量になりやすいので，緊急でなければ初期から維持療法も考慮。

■禁忌

【禁忌】1．房室ブロック，洞房ブロック。
2．ジギタリス中毒。
3．閉塞性心筋疾患(特発性肥大性大動脈弁下狭窄等)。
4．本剤の成分・ジギタリス剤に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ジギタリス中毒(頻度不明)(高度の徐脈，二段脈，多源性心室性期外収縮，発作性心房性頻拍等の不整脈)，重篤な房室ブロック，心室性頻拍症，心室細動，消化器・眼・精神神経系症状。
2．非閉塞性腸間膜虚血(頻度不明)(激しい腹痛，血便等)，腸管壊死。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
消化器 食欲不振，悪心・嘔吐，下痢等
眼 視覚異常(光がないのにちらちら見える，黄視，緑視，複視等)
精神神経系 眩暈，頭痛，失見当識，錯乱，せん妄等
肝臓 AST，ALT，γ－GTP，AI－Pの上昇
血液 血小板数減少
過敏症 発疹，蕁麻疹，紫斑，浮腫等
その他 女性型乳房，筋力低下
(表終了)

ピモベンダン錠1．25mg「TE」(1．25mg1錠)

両　内服　後発　流通

【YJコード】2119006F1020
【薬効分類】2．1．1　強心剤
【一般名】ピモベンダン
【メーカー】製)トーアエイヨー　販)アステラス製薬
【薬価】31.9円/1T
【薬価収載日】2008/11/07
【標榜薬効】心不全治療薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】○下記で利尿剤等投与しても心機能改善がない時
急性心不全
○下記でジギタリス製剤，利尿剤等の基礎治療剤が効果不十分時
慢性心不全(軽症～中等症)
注意
急性心不全
1．心原性ショック状態には，必要時最初に輸液，輸血，呼吸管理，ステロイド投与等の処置を考慮。
2．上記に準じた処置を施し，内服可能時に投与。必要時，ジギタリス製剤等と併用。
慢性心不全(軽症～中等症)
3．開発時に軽症～中等症で臨床試験を行い，重症の試験は未実施，重症の慢性心不全に対する有用性は未確立。
4．ジギタリス製剤，利尿剤等の基礎治療剤で効果不十分時のみ投与。単独投与での有用性は未確立。
【用法用量】急性心不全
成人　1回2．5mg　内服。病態により　1日2回　内服。必要時，ジギタリス製剤等と併用。
慢性心不全(軽症～中等症)
成人　1回2．5mg　1日2回　食後　内服。適宜増減。ジギタリス製剤，利尿剤等と併用。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．心室細動(頻度不明)。
2．心室頻拍(頻度不明)(Torsades　de　pointes含む)，心室性期外収縮(頻度不明)等の不整脈。
3．肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
循環器 動悸，低血圧 上室性頻拍，房室ブロック，心房細動，心房粗動，頻脈
消化器 腹痛，悪心・嘔吐，胸やけ 食欲不振
精神神経系 頭痛，眩暈，頭重感
呼吸器 咳，喀痰，息苦しさ
過敏症 皮疹
腎臓 尿酸値の上昇 クレアチニンの上昇，BUNの上昇
血液 貧血 白血球減少，血小板減少
その他 手のむくみ，好酸球の上昇 顔面潮紅，浮腫，倦怠感
(表終了)

プロタノールL注0．2mg(0．02%1mL1管)

内　注射　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】2119400A1036
【薬効分類】2．1．1　強心剤
【一般名】l－イソプレナリン塩酸塩
【メーカー】製)興和
【薬価】188円/1A
【薬価収載日】2008/12/19
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】心機能・組織循環促進剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】アダムス・ストークス症候群(徐脈型)の発作時(高度の徐脈，心停止含む)，発作反復時
心筋梗塞や細菌内毒素等による急性心不全
術後の低心拍出量症候群
気管支喘息の重症発作時
【用法用量】点滴静注
0．2～1mg(等張溶液200～500mLで溶解)　心拍数，心電図をモニターしながら注入。
徐脈型アダムス・ストークス症候群 心拍数　50～60／分　保持。
ショック，低拍出量症候群 心拍数　110前後／分　保持。
緊急時
2～20mL(0．2mgを等張溶液20mLで溶解)　筋注・皮下注・徐々に静注。心停止直前　0．02～0．2mg　心内投与できる。
適宜増量。

■禁忌

【禁忌】1．特発性肥大性大動脈弁下狭窄症。
2．ジギタリス中毒。
3．カテコールアミン(アドレナリン等)・エフェドリン・メチルエフェドリン・メチルエフェドリンサッカリネート・フェノテロール・ドロキシドパの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ST上昇・低下を伴う心筋虚血(異型狭心症，非Q波梗塞等)(頻度不明)，胸痛。
2．心室性期外収縮，心室性頻拍，致死的不整脈(各頻度不明)。
3．重篤な血清カリウム値の低下(頻度不明)(β2刺激剤)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
精神神経系　頭痛，振戦，発汗，神経過敏
消化器　悪心・嘔吐，胃痛，下痢，鼓腸
循環器 心悸亢進，頻脈 顔面潮紅・蒼白，血圧変動
過敏症　発疹
(表終了)

ミルリノン注10mg「タカタ」(10mg10mL1管)

内　注射　後発　流通
劇

【YJコード】2119408A1040
【薬効分類】2．1．1　強心剤
【一般名】ミルリノン

2 個々の器官系用医薬品

【先発品】ミルリーラ注射液10mg
【メーカー】製)高田製薬
【薬価】1356円/1A
【薬価収載日】2006/07/07
【標榜薬効】急性心不全治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記で他剤が効果不十分時
急性心不全
注意
他剤が効果不十分時に適用を考慮。
【用法用量】注射液そのまま，又は，必要時生食，ブドウ糖液，乳酸リンゲル液，総合アミノ酸注射液等で希釈。
50μg/kg 10分かけ 静注。続いて 0.5μg/kg/分 点滴静注。
適宜増減(0.25～0.75μg/kg/分の範囲)。点滴静注から開始できる。
注意
1. 臨床症状が改善・安定した時(急性期を脱した時)は，漫然投与せず他の治療法に変更。48時間を超える投与は，血行動態・全身状態等を管理し慎重投与。1日総量1.13mg/kgまで。
2. 腎機能低下(慢性腎不全，糖尿病性腎症，高齢者等)では血漿中濃度が高くなるおそれ，点滴静注では0.25μg/kg/分から開始等，過量投与に注意。血清クレアチニン値3mg/dLを超える患者は特に注意。

■禁忌
【禁忌】1. 肥大型閉塞性心筋症。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 心室頻拍(Torsades de pointes含む)，心室細動，血圧低下(各0.1～5%未満)。
2. 腎機能の悪化(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0.1～5%未満 頻度不明
循環器 心房細動，心室性期外収縮，上室性期外収縮等の不整脈，頻脈，動悸
血液 血小板減少
消化器 嘔吐，嘔気
その他 肝機能障害，LDH上昇，ほてり感，頭痛 気管支攣縮
(表終了)

2.1.2 不整脈用剤

アミオダロン塩酸塩静注150mg「TE」(150mg3mL1管)

内 注射 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2129410A1036
【薬効分類】2.1.2 不整脈用剤
【一般名】アミオダロン塩酸塩
【先発品】アンカロン注150
【メーカー】製)トーアエイヨー 販)アステラス製薬
【薬価】800円/1A
【薬価収載日】2018/06/15
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】不整脈治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○生命に危険のある下記の不整脈で難治性かつ緊急時
心室細動，血行動態不安定な心室頻拍
○電気的除細動抵抗性の心室細動，無脈性心室頻拍による心停止
注意
Brugada症候群・カテコラミン誘発性多形性心室頻拍への効果は未確認。
【用法用量】心室細動，血行動態不安定な心室頻拍で難治性かつ緊急時
成人 下記の通り 点滴静注。
症状により 適宜増減又は追加投与。1日最大1250mg。投与濃度2.5mg/mLまで。
(1). 投与法(48時間まで)
[1]. 初期急速投与 容量型の持続注入ポンプで 600mL/時(10mL/分) 10分間 投与(125mg(2.5mL)を5%ブドウ糖液100mLに加える)。
[2]. 負荷投与 容量型の持続注入ポンプで 33mL/時 6時間 投与(750mg(15mL)を5%ブドウ糖液500mLに加える)。
[3]. 維持投与 17mL/時 合計42時間 投与。
<1>. 6時間の負荷投与後，残液を33mL/時から17mL/時に変更し，18時間投与。
<2>. 750mg(15mL)を5%ブドウ糖液500mLに加え，容量型の持続注入ポンプを用い17mL/時で24時間投与(アミオダロン塩酸塩600mg)。
(2). 追加投与
血行動態不安定な心室頻拍又は心室細動が再発し，本剤が必要な時は追加投与できる。1回の追加投与は本剤125mg(2.5mL)を5%ブドウ糖液100mLに加え，容量型の持続注入ポンプを用い，600mL/時(10mL/分)で10分間投与。
(3). 継続投与(3日以降)
48時間の投与終了後，継続投与の必要時は，継続投与ができる。750mg(15mL)を5%ブドウ糖液500mLに加え，容量型の持続注入ポンプを用い17mL/時で投与(アミオダロン塩酸塩 600mg/24時間)。
電気的除細動抵抗性の心室細動又は無脈性心室頻拍による心停止
300mg(6mL)又は5mg/kgを5%ブドウ糖液20mLに加え，静脈内ヘボーラス投与。心室性不整脈の持続時は，150mg(3mL)又は2.5mg/kgを5%ブドウ糖液10mLに加え，追加できる。
注意
心室細動，血行動態不安定な心室頻拍で難治性かつ緊急時
1. 点滴静注は容量型の持続注入ポンプを使用。本剤溶液の表面特性の変化により，液滴サイズが縮小することあり，滴下型の注入セット使用時，過少投与のおそれ。注射部位反応を避けるため，中心静脈より投与。
2. 初期急速投与及び追加投与時は，1アンプル(3mL)から本剤2.5mLを注射筒で抜き取り調製。
3. 国内では最長7日間までの投与経験のみ，継続投与の期間に注意。
4. 国内では3回までの投与経験のみ，追加投与に注意。

■禁忌
【禁忌】1. 洞性徐脈，洞房ブロック，重度伝導障害(高度な房室ブロック，二束ブロック，三束ブロック)，洞不全症候群があり，ペースメーカー未使用。
2. 循環虚脱，重篤な低血圧(血行動態不安定な心室細動，心室頻拍発作発現中除く)。
3. 本剤の成分・ヨウ素に過敏症の既往。
4. リトナビル，ニルマトレルビル・リトナビル，ネルフィナビルメシル酸塩，クラスIa及びクラスIII(ソタロール，ニフェカラント)の抗不整脈薬，ベプリジル塩酸塩水和物，モキシフロキサシン塩酸塩，ラスクフロキサシン塩酸塩(注射剤)，エリスロマイシン(注射剤)，ペンタミジンイセチオン酸塩，トレミフェンクエン酸塩，フィンゴリモド塩酸塩，シポニモド フマル酸，エリグルスタット酒石酸塩の投与患者。
5. 重篤な呼吸不全(心停止時以外)。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 間質性肺炎(頻度不明)(咳，呼吸困難，捻髪音等)。
2. 肝炎(AST，ALTの著しい上昇等)等の重篤な肝機能障害，黄疸，肝不全(各頻度不明)，死亡。
3. 既存の不整脈の重度の悪化，Torsades de pointes，徐脈からの心停止(各頻度不明)，血圧低下(14.9%)，徐脈(6.4%)，心不全(6.4%)，完全房室ブロック。
4. 甲状腺機能亢進症(頻度不明)。
5. 無顆粒球症，白血球減少(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 10%以上 5～10%未満 5%未満 頻度不明
精神神経系 不眠症
消化器 嘔吐，悪心
全身障害・投与局所障害 発熱，投与部位反応
循環器 血圧低下，心電図QT延長 心房粗動，心室性頻脈，血管障害，低血圧，ほてり
呼吸器 鼻出血
血液 白血球減少
肝臓 血中ビリルビン増加 AST上昇，LDH上昇
腎臓 尿蛋白
神経障害 頭痛
内分泌系(甲状腺) 甲状腺機能検査値異常(rT3の上昇，TSHの上昇・低下，T3の低下，T4の上昇・低下)
皮膚 発疹，蕁麻疹，紅斑
(表終了)

アミオダロン塩酸塩速崩錠100mg「TE」(100mg1錠)

両 内服 後発 流通
毒 ハイリスク

【YJコード】2129010F1065
【薬効分類】2.1.2 不整脈用剤
【一般名】アミオダロン塩酸塩
【先発品】アンカロン錠100
【メーカー】製)トーアエイヨー 販)アステラス製薬
【薬価】72円/1T
【薬価収載日】2010/05/28
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】不整脈治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】生命に危険のある下記の再発性不整脈で他の抗不整脈薬

2 個々の器官系用医薬品

が無効か，使用できない時
心室細動，心室性頻拍
心不全(低心機能)又は肥大型心筋症に伴う心房細動
【用法用量】導入期 成人 1日400mg 1日1～2回 分割 1～2週間 内服。
維持期 成人 1日200mg 1日1～2回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 重篤な洞不全症候群。
2. 2度以上の房室ブロック。
3. 本剤の成分・ヨウ素に過敏症の既往。
4. リトナビル，ニルマトレルビル・リトナビル，ネルフィナビルメシル酸塩，モキシフロキサシン塩酸塩，ラスクフロキサシン塩酸塩(注射剤)，バルデナフィル塩酸塩水和物，シルデナフィルクエン酸塩(勃起不全)，トレミフェンクエン酸塩，フィンゴリモド塩酸塩，シポニモド フマル酸，エリグルスタット酒石酸塩の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 間質性肺炎(1. 0%)，肺線維症(1. 0%)，肺胞炎(頻度不明)(咳，呼吸困難，捻髪音等)。
2. 既存の不整脈の重度の悪化(3. 9%)，Torsades de pointes(頻度不明)，心不全(1. 9%)，徐脈(2. 9%)，徐脈からの心停止(頻度不明)，完全房室ブロック(頻度不明)，血圧低下(1. 0%)。
3. 劇症肝炎(頻度不明)，肝硬変(頻度不明)，肝障害(頻度不明)。
4. 甲状腺機能亢進症(頻度不明)，甲状腺炎(頻度不明)，甲状腺機能低下症(1. 0%)。
5. 抗利尿ホルモン不適合分泌症候群(頻度不明)(低浸透圧血症を伴う低ナトリウム血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，痙攣，意識障害等)。
6. 肺胞出血(頻度不明)。
7. 急性呼吸窮迫症候群(頻度不明)。
8. 無顆粒球症(頻度不明)，白血球減少(1. 0%)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
精神神経系 性欲減退，睡眠障害，不眠症，幻覚
感覚器 味覚異常 臭覚異常
消化器 悪心・嘔気(5. 8%)，嘔吐，食欲不振 胃部不快感，舌アフタ形成 便秘
循環器 QT延長，房室ブロック 洞機能不全 脚ブロック，本剤投与中の患者の開胸術中，心肺バイパス中止後に血圧低下
呼吸器 肺機能障害，胸部X線異常 喘息
血液 白血球減少，好酸球増加，好中球減少 ヘモグロビン，ヘマトクリット値の上昇・低下，白血球増多，血小板減少，血液凝固異常
内分泌系 (甲状腺) 甲状腺機能検査値異常(rT3の上昇，TSHの上昇・低下，T3の低下，T4の上昇・低下)(30. 8%)
自律神経系 潮紅，流涎
中枢・末梢神経系 振戦 頭痛，不随意運動，協調運動低下，歩行障害，運動失調，眩暈，知覚異常，頭蓋内圧亢進，末梢性感覚運動ニューロパチー
皮膚 皮疹，手指爪変色 光線過敏症，脱毛，日光皮膚炎，皮膚青色化，紫斑，皮膚血管炎，血管神経性浮腫，蕁麻疹
眼 角膜色素沈着 (21. 2%) 羞明 視覚暈輪，眼がかすむ，視神経炎
肝臓 肝機能検査値異常(AST，ALT，Al－P，LDH，LAP，γ－GTP，の上昇) 総ビリルビンの上昇
腎臓 BUN上昇，血中クレアチニン上昇，血清Na低下，尿酸の上昇・低下，血清Na上昇，血清電解質(K，Cl，Ca，P)の上昇・低下，尿蛋白，尿糖，尿ウロビリノーゲン，尿pH異常
その他 手指の浮腫，全身倦怠，女性化乳房 CK上昇，コリンエステラーゼの上昇・低下，疲労，副睾丸炎，骨髄肉芽腫
(表終了)

アミサリン注200mg（10%2mL1管）

内 注射 流通
ハイリスク

【YJコード】2121400A2030
【薬効分類】2. 1. 2 不整脈用剤
【一般名】プロカインアミド塩酸塩
【メーカー】製)アルフレッサファーマ 販)第一三共
【薬価】100円/1A
【薬価収載日】2008/06/23
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】不整脈治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 期外収縮(上室性，心室性)
2. 発作性頻拍(上室性，心室性)
3. 手術・麻酔に伴う不整脈
4. 新鮮心房細動
5. 心房粗動(静注のみ)
6. 陳旧性心房細動
【用法用量】静注 緊急時に使用。
成人 0. 2～1g 50～100mg／分で 静注。
正常洞調律にかえった時，中毒症状の発現時，総量1000mgに達した時，投与中止。
適宜増減。
筋注 緊急時に使用。
成人 1回0. 5g 4～6時間ごと 筋注。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 刺激伝導障害(房室ブロック，洞房ブロック，脚ブロック等)。
2. 重篤なうっ血性心不全。
3. モキシフロキサシン塩酸塩(経口剤)・バルデナフィル塩酸塩水和物・アミオダロン塩酸塩(注射剤)・トレミフェンクエン酸塩の投与患者。
4. 重症筋無力症。
5. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 心室頻拍，心室粗動，心室細動，心不全(各頻度不明)，心電図上QRS幅の増大，血圧下降。
2. SLE様症状(頻度不明)(発熱，紅斑，筋肉痛，関節炎，多発性関節痛，胸部痛，心膜炎，胸水等)。
3. 無顆粒球症(頻度不明)(発熱，咽頭痛，倦怠感等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上又は頻度不明 0. 1%未満
過敏症 － 発熱，悪寒，発疹，好酸球増多等
精神神経系 頭痛，不眠，幻視，幻聴 －
血液 － 白血球減少，血小板減少，貧血等
(表終了)

アロチノロール塩酸塩錠10mg「JG」（10mg1錠）

両 内服 後発 流通
ハイリスク

【YJコード】2123014F2210
【薬効分類】2. 1. 2 不整脈用剤
【一般名】アロチノロール塩酸塩
【先発品】アロチノロール塩酸塩錠10mg「DSP」
【メーカー】製)日本ジェネリック
【薬価】7.6円/1T
【薬価収載日】2012/12/14
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】高血圧症・狭心症・不整脈・本態性振戦治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○本態性高血圧症(軽症～中等症)
○狭心症
○頻脈性不整脈
○本態性振戦
注意
本態性振戦
類似の振戦を生ずる他疾患と区別し，本態性振戦のみに投与。
【用法用量】本態性高血圧症(軽症～中等症)，狭心症，頻脈性不整脈
成人 1日20mg 1日2回 分割 内服。適宜増減，効果不十分時 1日30mgまで。
本態性振戦
成人 1日10mgから開始 効果不十分時 維持量 1日20mg 1日2回 分割 内服。適宜増減，1日30mgまで。
注意
褐色細胞腫・パラガングリオーマ 単独投与しない。α遮断剤で初期治療後に投与し，常にα遮断剤を併用。

■禁忌
【禁忌】1. 高度の徐脈(著しい洞性徐脈)，房室ブロック(II，III度)，洞房ブロック，洞不全症候群。
2. 糖尿病性ケトアシドーシス，代謝性アシドーシス。
3. 気管支喘息，気管支痙攣のおそれ。
4. 心原性ショック。
5. 肺高血圧による右心不全。
6. うっ血性心不全。
7. 未治療の褐色細胞腫・パラガングリオーマ。
8. 妊婦・妊娠の可能性。
9. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
心不全，房室ブロック，洞房ブロック，洞不全症候群(各0. 1%未満)，徐脈(0. 1～5%未満)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
循環器 胸痛・胸部不快感，眩暈・ふらつき，立ちくらみ，低血圧 心房細動，末梢循環障害(レイノー症状，冷感等)，動悸・息切れ
精神神経系 脱力・倦怠感，頭痛・頭重，眠気 抑うつ，不眠
消化器 軟便・下痢，腹部不快感，腹痛，悪心・嘔吐 食欲不振，消化不良，腹部膨満感，便秘

2 個々の器官系用医薬品

肝臓 AST，ALTの上昇 AI－P，LDH，γ－GTPの上昇
呼吸器 気管支痙攣，喘鳴，咳嗽
泌尿・生殖器 BUN，クレアチニンの上昇 インポテンス
眼 霧視，眼精疲労
過敏症 発疹，蕁麻疹，掻痒，灼熱感
その他 中性脂肪値，尿酸値の上昇 総コレステロール，空腹時血糖値，CKの上昇，白血球増多，浮腫，しびれ，心胸郭比の増大，筋肉痛，口渇 脱毛
（表終了）

インデラル錠10mg（10mg1錠）

両 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2123008F1048
【薬効分類】2．1．2 不整脈用剤
【一般名】プロプラノロール塩酸塩
【メーカー】製)太陽ファルマ 販)アストラゼネカ
【薬価】10.4円/1T
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】高血圧・狭心症・不整脈・片頭痛治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇本態性高血圧症（軽症～中等症）
〇狭心症
〇褐色細胞腫手術時
〇期外収縮（上室性，心室性），発作性頻拍の予防，頻拍性心房細動（徐脈効果），洞性頻脈，新鮮心房細動，発作性心房細動の予防
〇片頭痛発作の発症抑制
〇右心室流出路狭窄の低酸素発作の発症抑制
注意
期外収縮（上室性，心室性），発作性頻拍の予防，頻拍性心房細動（徐脈効果），洞性頻脈，新鮮心房細動，発作性心房細動の予防
1．小児等に期外収縮（上室性，心室性），発作性頻拍の予防，頻拍性心房細動（徐脈効果），洞性頻脈，新鮮心房細動，発作性心房細動の予防に使用時，小児等の不整脈治療に熟練した医師が監督。基礎心疾患のある時は，有益性がリスクを上回る時のみ投与。
片頭痛発作の発症抑制
2．片頭痛発作の急性期治療のみでは日常生活に支障をきたしている患者にのみ投与。
右心室流出路狭窄の低酸素発作の発症抑制
3．ファロー四徴症等を原疾患とする右心室流出路狭窄の低酸素発作に投与。
【用法用量】1．本態性高血圧症（軽症～中等症）
成人 1日30～60mgから開始 効果不十分時 120mgまで漸増 1日3回 分割 内服。
適宜増減。
2．狭心症，褐色細胞腫手術時
成人 1日30mgから開始 効果不十分時 60mg，90mgと漸増 1日3回 分割 内服。
適宜増減。
3．期外収縮（上室性，心室性），発作性頻拍の予防，頻拍性心房細動（徐脈効果），洞性頻脈，新鮮心房細動，発作性心房細動の予防
成人 1日30mgから開始 効果不十分時 60mg，90mgと漸増 1日3回 分割 内服。
適宜増減。
小児 1日0．5～2mg／kg 低用量から開始 1日3～4回 分割 内服。
適宜増減。
効果不十分時 1日4mg／kg 1日90mgまで。
4．片頭痛発作の発症抑制
成人 1日20～30mgから開始 効果不十分時 60mgまで漸増 1日2～3回 分割 内服。
5．右心室流出路狭窄の低酸素発作の発症抑制
乳・幼児 1日0．5～2mg／kg 低用量から開始 1日3～4回 分割 内服。
適宜増減。
効果不十分時 1日4mg／kgまで。
注意
褐色細胞腫・パラガングリオーマ αβ遮断剤で初期治療後に投与し，常にα遮断剤を併用。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．気管支喘息，気管支痙攣のおそれ。
3．糖尿病性ケトアシドーシス，代謝性アシドーシス。
4．高度・症状を呈する徐脈，房室ブロック（II，III度），洞房ブロック，洞不全症候群。
5．心原性ショック。
6．肺高血圧による右心不全。
7．うっ血性心不全。
8．低血圧症。
9．長期間絶食状態。
10．重度の末梢循環障害（壊疽等）。
11．未治療の褐色細胞腫・パラガングリオーマ。
12．異型狭心症。
13．リザトリプタン安息香酸塩の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．うっ血性心不全（又はその悪化）（各頻度不明），徐脈（1．6%），末梢性虚血（レイノー様症状等），房室ブロック，失神を伴う起立性低血圧（各頻度不明）。
2．無顆粒球症，血小板減少症，紫斑病（各頻度不明）。
3．気管支痙攣（1．0%），呼吸困難（0．2%），喘鳴（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹等
循環器 労作時息切れ 低血圧，胸内苦悶，胸部不快・不安感
精神神経系 頭痛，眩暈，不眠，しびれ等 ふらふら感，眠気，幻覚，悪夢，錯乱，抑うつ，気分の変化，精神変調
眼 視力異常，霧視，涙液分泌減少
消化器 口渇，食欲不振，下痢等 悪心，嘔吐，上腹部不快感，腹部痙攣，便秘
肝臓 肝機能異常（AST，ALT，AI－Pの上昇等）
その他 脱力感，疲労感 筋肉痛，可逆的脱毛，LDH上昇，血中尿素上昇，血糖値低下，乾癬様皮疹，乾癬悪化，抗核抗体陽性化，重症筋無力様症状，重症筋無力症悪化
（表終了）

オノアクト点滴静注用50mg（50mg1瓶）

内 注射 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2123404D1033
【薬効分類】2．1．2 不整脈用剤
【一般名】ランジオロール塩酸塩
【メーカー】製)小野薬品工業
【薬価】3786円/1V
【薬価収載日】2014/11/28
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】短時間作用型β1選択的遮断剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】成人
1．手術時の下記頻脈性不整脈への緊急処置
心房細動，心房粗動，洞性頻脈
2．術後の循環動態監視下の下記頻脈性不整脈への緊急処置
心房細動，心房粗動，洞性頻脈
3．心機能低下例の下記頻脈性不整脈
心房細動，心房粗動
4．生命に危険のある下記の不整脈で難治性かつ緊急時
心室細動，血行動態不安定な心室頻拍
5．敗血症に伴う下記の頻脈性不整脈
心房細動，心房粗動，洞性頻脈
小児
6．心機能低下例の下記頻脈性不整脈
上室頻拍，心房細動，心房粗動
注意
手術時・術後の頻脈性不整脈への緊急処置，成人・小児の心機能低下例の頻脈性不整脈，敗血症に伴う頻脈性不整脈
1．予防的には使用しない。
手術時・術後の頻脈性不整脈への緊急処置
2．洞性頻脈では，原因検索・除去が重要。効果が心拍数減少であることを踏まえ，緊急処置で必要時使用。
術後の頻脈性不整脈への緊急処置
3．ICU，CCU及びそれに準じた全身管理が可能な施設で，循環動態の評価，不整脈診断，呼吸・循環等の全身管理に熟知した医師のもと，心電図モニターを用い，心拍数の監視，血圧測定を5分間隔で，必要時頻回に行う。
成人の心機能低下例の頻脈性不整脈，生命に危険のある不整脈で難治性かつ緊急時
4．ICU，CCU及びそれに準じた全身管理が可能な施設で，心不全・生命に危険のある不整脈治療に熟知した医師のもと，心電図モニターを用い，心拍数の監視，血圧測定を行う。心不全悪化のおそれ，経皮的酸素飽和度のモニター等，心不全の増悪に注意。心不全の悪化時は，投与中止と，ホスホジエステラーゼ阻害薬の投与や大動脈バルーンパンピング，経皮的心肺補助装置を施行等の処置。
小児の心機能低下例の頻脈性不整脈
5．ICU及びそれに準じた全身管理が可能な施設で，小児の心不全・不整脈治療に熟知した医師のもと，適切な対象患者を選択し，心電図モニターを用い，心拍数の監視，血圧測定を行う。心不全悪化のおそれ，経皮的酸素飽和度のモニター等，心不全の増悪に注意。心不全の悪化時は，投与中止。
生命に危険のある不整脈で難治性かつ緊急時
6．難治性の心室細動，血行動態不安定な心室頻拍の再発抑制に使用。
7．臨床試験に組み入れられた前治療歴等，臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で，適応患者を選択。
敗血症に伴う頻脈性不整脈
8．感染症管理，呼吸・循環管理（血管内容量評価に基づく輸液負荷，カテコラミン等の循環作動薬の投与）等の敗血症に対する治療下で，目安として平均血圧65mmHg以上を維持しても頻脈性不整脈が持続している時に適用を考慮。

2 個々の器官系用医薬品

9. ICU, CCU及びそれに準じた全身管理が可能な施設で, 敗血症の治療に熟知した医師のもとで, 心電図モニターを用い, 心拍数の監視, 血圧測定を行う。心拍数, 血圧をモニターする等, 循環不全の増悪に注意。循環不全がの悪化時は, 投与中止し, 輸液負荷や循環作動薬の投与等, 循環管理を行う。
10. 敗血症では心機能低下を生じる可能性がある, 投与開始前の心機能を観察し, 投与可否を慎重に判断。
11. 洞性頻脈では, 原因検索・除去が優先であることに注意し, 洞性頻脈の原疾患の治療を行った上で適用を考慮。
【用法用量】1. 手術時の頻脈性不整脈の緊急処置
1分間0. 125mg／kg／分で 持続静注後, 0. 04mg／kg／分で 持続静注。心拍数, 血圧を測定し 0. 01～0. 04mg／kg／分で 適宜調節。
2. 術後の循環動態監視下の頻脈性不整脈の緊急処置
1分間0. 06mg／kg／分で 持続静注後, 0. 02mg／kg／分で 持続静注を開始。
5～10分で徐拍作用が得られない時 1分間0. 125mg／kg／分で 持続静注後, 0. 04mg／kg／分で 持続静注。心拍数, 血圧を測定し 0. 01～0. 04mg／kg／分で 適宜調節。
3. 成人・小児の心機能低下例の頻脈性不整脈
1μg／kg／分で 持続静注を開始。心拍数, 血圧を測定し 1～10μg／kg／分で 適宜調節。
4. 生命に危険のあるの不整脈で難治性かつ緊急時
1μg／kg／分で 持続静注を開始。心拍数, 血圧を測定し 1～10μg／kg／分で 適宜調節。心室細動, 血行動態不安定な心室頻拍が再発し投与が必要時は, 心拍数, 血圧を測定し 最大40μg／kg／分まで。
5. 敗血症に伴う頻脈性不整脈
1μg／kg／分で 持続静注を開始。心拍数, 血圧を測定し 維持量は適宜増減。最大20μg／kg／分まで。
注意
効能共通
1. 目標心拍数に調節後, 循環動態, 特に血圧低下に注意, 心拍数維持に必要最低の速度で持続投与。
2. 褐色細胞腫・パラガングリオーマ α遮断剤を投与後に本剤を投与し, 常にα遮断剤を併用。
3. 手術時, 術後, 心機能低下例・生命に危険のある不整脈, 敗血症に伴う頻脈性不整脈の用法・用量がそれぞれ異なることに注意。
4. 下記の体重別静脈内持続投与速度表を参考。
精密持続点滴装置(シリンジポンプ又は輸液ポンプ)使用 下記の単位は投与速度を表示。
(1). 手術時の頻脈性不整脈の緊急処置
[1]. 本剤50mgを5mLに溶解時
(表開始)
投与時期 投与開始から1分間 投与開始1分後以降 適宜調整
体重＼投与量 0. 125mg／kg／分 0. 04mg／kg／分 0. 01～0. 04mg／kg／分
30kg 22. 5mL／時 7. 2mL／時 1. 8～7. 2mL／時
40kg 30mL／時 9. 6mL／時 2. 4～9. 6mL／時
50kg 37. 5mL／時 12mL／時 3～12mL／時
60kg 45mL／時 14. 4mL／時 3. 6～14. 4mL／時
70kg 52. 5mL／時 16. 8mL／時 4. 2～16. 8mL／時
(表終了)
[2]. 本剤50mgを20mLに溶解時
(表開始)
投与時期 投与開始から1分間 投与開始1分後以降 適宜調整
体重＼投与量 0. 125mg／kg／分 0. 04mg／kg／分 0. 01～0. 04mg／kg／分
30kg 90mL／時 28. 8mL／時 7. 2～28. 8mL／時
40kg 120mL／時 38. 4mL／時 9. 6～38. 4mL／時
50kg 150mL／時 48mL／時 12～48mL／時
60kg 180mL／時 57. 6mL／時 14. 4～57. 6mL／時
70kg 210mL／時 67. 2mL／時 16. 8～67. 2mL／時
(表終了)
(2). 術後の頻脈性不整脈の緊急処置
[1]. 本剤50mgを5mLに溶解時
(表開始)
投与時期 開始量 開始量 最大量 最大量
投与時期 投与開始から1分間 投与開始1分後以降 投与開始から1分間 投与開始1分後以降
体重＼投与量 0. 06mg／kg／分 0. 02mg／kg／分 0. 125mg／kg／分 0. 04mg／kg／分
30kg 10. 8mL／時 3. 6mL／時 22. 5mL／時 7. 2mL／時
40kg 14. 4mL／時 4. 8mL／時 30mL／時 9. 6mL／時
50kg 18mL／時 6mL／時 37. 5mL／時 12mL／時
60kg 21. 6mL／時 7. 2mL／時 45mL／時 14. 4mL／時
70kg 25. 2mL／時 8. 4mL／時 52. 5mL／時 16. 8mL／時
(表終了)
[2]. 本剤50mgを20mLに溶解時
(表開始)
投与時期 開始量 開始量 最大量 最大量
投与時期 投与開始から1分間 投与開始1分後以降 投与開始から1分間 投与開始1分後以降
体重＼投与量 0. 06mg／kg／分 0. 02mg／kg／分 0. 125mg／kg／分 0. 04mg／kg／分
30kg 43. 2mL／時 14. 4mL／時 90mL／時 28. 8mL／時
40kg 57. 6mL／時 19. 2mL／時 120mL／時 38. 4mL／時
50kg 72mL／時 24mL／時 150mL／時 48mL／時
60kg 86. 4mL／時 28. 8mL／時 180mL／時 57. 6mL／時
70kg 100. 8mL／時 33. 6mL／時 210mL／時 67. 2mL／時
(表終了)
(3). 成人の心機能低下例の頻脈性不整脈
本剤50mgを50mLに溶解時
(表開始)
体重＼投与量 投与開始時 適宜調整
体重＼投与量 1μg／kg／分 1～10μg／kg／分
30kg 1. 8mL／時 1. 8～18mL／時
40kg 2. 4mL／時 2. 4～24mL／時
50kg 3mL／時 3～30mL／時
60kg 3. 6mL／時 3. 6～36mL／時
70kg 4. 2mL／時 4. 2～42mL／時
(表終了)
(4). 生命に危険のある不整脈で難治性かつ緊急時
本剤50mgを50mLに溶解時
(表開始)
体重＼投与量 投与開始時 適宜調整 最大量
体重＼投与量 1μg／kg／分 1～10μg／kg／分 40μg／kg／分
30kg 1. 8mL／時 1. 8～18mL／時 72mL／時
40kg 2. 4mL／時 2. 4～24mL／時 96mL／時
50kg 3mL／時 3～30mL／時 120mL／時
60kg 3. 6mL／時 3. 6～36mL／時 144mL／時
70kg 4. 2mL／時 4. 2～42mL／時 168mL／時
(表終了)
(5). 敗血症に伴う頻脈性不整脈
本剤50mgを50mLに溶解時
(表開始)
体重＼投与量 投与開始時 最大量
体重＼投与量 1μg／kg／分 20μg／kg／分
30kg 1. 8mL／時 36mL／時
40kg 2. 4mL／時 48mL／時
50kg 3mL／時 60mL／時
60kg 3. 6mL／時 72mL／時
70kg 4. 2mL／時 84mL／時
(表終了)
(6). 小児の心機能低下例の頻脈性不整脈
体重で薬液濃度を調整。
[1]. 本剤投与速度0. 5～5mL／時
(表開始)
体重＼投与量 投与開始時 適宜調整 薬液濃度(mg／mL)
体重＼投与量 1μg／kg／分 1～10μg／kg／分 薬液濃度(mg／mL)
2. 5kg 0. 5mL／時 0. 5～5mL／時 0. 3
5kg 0. 5mL／時 0. 5～5mL／時 0. 6
10kg 0. 5mL／時 0. 5～5mL／時 1. 2
20kg 0. 5mL／時 0. 5～5mL／時 2. 4
30kg 0. 5mL／時 0. 5～5mL／時 3. 6
40kg 0. 5mL／時 0. 5～5mL／時 4. 8
50kg 0. 5mL／時 0. 5～5mL／時 6
60kg 0. 5mL／時 0. 5～5mL／時 7. 2
70kg 0. 5mL／時 0. 5～5mL／時 8. 4
(表終了)
[2]. 本剤投与速度1～10mL／時
(表開始)
体重＼投与量 投与開始時 適宜調整 薬液濃度(mg／mL)
体重＼投与量 1μg／kg／分 1～10μg／kg／分 薬液濃度(mg／mL)
2. 5kg 1mLmL／時 1～10mL／時 0. 15
5kg 1mLmL／時 1～10mL／時 0. 3
10kg 1mLmL／時 1～10mL／時 0. 6
20kg 1mLmL／時 1～10mL／時 1. 2
30kg 1mLmL／時 1～10mL／時 1. 8
40kg 1mLmL／時 1～10mL／時 2. 4
50kg 1mLmL／時 1～10mL／時 3
60kg 1mLmL／時 1～10mL／時 3. 6
70kg 1mLmL／時 1～10mL／時 4. 2
(表終了)
術後の頻脈性不整脈の緊急処置, 成人・小児の心機能低下例の頻脈性不整脈, 生命に危険のある不整脈で難治性かつ緊急時, 敗血症に伴う頻脈性不整脈
5. 血圧低下(成人 収縮期血圧90mmHg, 小児 収縮期血圧が投与直前値から20%以上の低下を目安)又は過度の心拍数減少(成人 心拍数60回／分, 小児 生後3ヵ月～2歳未満 心拍数75回／分, 2歳以上 心拍数60回／分を目安)が発現時は, 減量・投与中止。
手術時・術後の頻脈性不整脈の緊急処置
6. 再投与時の投与間隔は5～15分間を目安とする。
成人・小児の心機能低下例の頻脈性不整脈, 生命に危険のある不整脈で難治性かつ緊急時, 敗血症に伴う頻脈性不整脈
7. 心拍数, 血圧等に注意し, 慎重に, 狭い用量幅で用量を調節。
敗血症に伴う頻脈性不整脈
8. 開始時・増量時は, 慎重・頻回に心拍数・血圧をモニタリング。

■禁忌

【禁忌】効能共通
1. 心原性ショック。
2. 糖尿病性ケトアシドーシス, 代謝性アシドーシス(敗血症に起因する代謝性アシドーシス除く)。
3. 房室ブロック(II度以上), 洞不全症候群等徐脈性不整脈。
4. 肺高血圧症による右心不全。
5. 未治療の褐色細胞腫・パラガングリオーマ。
6. 本剤の成分に過敏症の既往。

オノアクト点滴静注用50mg

2 個々の器官系用医薬品

手術時・術後の頻脈性不整脈への緊急処置，敗血症に伴う頻脈性不整脈
7. うっ血性心不全。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック(0. 1%)(過度の血圧低下)。
2. 心停止(0. 2%)，完全房室ブロック(頻度不明)，洞停止(頻度不明)，高度徐脈(頻度不明)。
3. 心不全(0. 1%)の急激な増悪。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 10%以上 1～10%未満 1%未満
循環器 血圧低下 徐脈，ST低下，肺動脈圧上昇
呼吸器 喘息，低酸素血症
肝臓 AST上昇，ALT上昇，総ビリルビン上昇 γ－GTP上昇
その他 白血球増多，血小板減少，AI－P上昇，LDH上昇，BUN上昇，クレアチニン上昇，尿酸上昇
(表終了)

コアベータ静注用12. 5mg（12. 5mg1瓶）

内 注射 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2123404D2021
【薬効分類】2. 1. 2 不整脈用剤
【一般名】ランジオロール塩酸塩
【メーカー】製)小野薬品工業
【薬価】2616円/1V
【薬価収載日】2011/09/12
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】短時間作用型β1選択的遮断剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】コンピューター断層撮影による冠動脈造影における高心拍数時の冠動脈描出能の改善
注意
1. CT検査室の入室後に患者の心拍数を確認し，心拍数の減少が必要時使用。
2. 心拍数90回／分を超える患者への有効性・安全性は未確認。
3. 心房細動の有効性・安全性は未確認。
【用法用量】1回0. 125mg／kg 1分間で 静注。
注意
1. 静注終了の4～7分後に冠動脈CTを開始。
2. 褐色細胞腫・パラガングリオーマ α遮断剤の治療を確認し投与。
3. 下表の体重別投与量表を参考。
12. 5mgを10mLに溶解時
(表開始)
体重(kg) 投与量(mL) 体重(kg) 投与量(mL)
30 3 70 7
40 4 80 8
50 5 90 9
60 6 100 10
(表終了)

■禁忌
【禁忌】1. 心原性ショック。
2. 糖尿病性ケトアシドーシス，代謝性アシドーシス。
3. 房室ブロック(II度以上)，洞不全症候群等徐脈性不整脈。
4. 肺高血圧症による右心不全。
5. うっ血性心不全。
6. 未治療の褐色細胞腫・パラガングリオーマ。
7. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満
皮膚 発疹，蕁麻疹
循環器 血圧低下
消化器 悪心
呼吸器 鼻閉，くしゃみ
肝臓 ALT上昇，AST上昇，ビリルビン上昇，γ－GTP上昇，AI－P上昇
腎臓 クレアチニン上昇
その他 白血球増加，血小板減少，総蛋白減少，カリウム上昇
(表終了)

サンリズム注射液50（50mg5mL1管）

内 注射 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2129408A1020
【薬効分類】2. 1. 2 不整脈用剤
【一般名】ピルシカイニド塩酸塩水和物
【メーカー】製)第一三共 販)第一製薬
【薬価】490円/1A
【薬価収載日】2000/04/14
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】不整脈治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】緊急治療を要する頻脈性不整脈(上室性，心室性)
【用法用量】期外収縮
成人 1回0. 075mL／kg(ピルシカイニド塩酸塩水和物 0. 75mg／kg) 血圧，心電図監視下に 10分間で 徐々に静注(必要時生食又は5%ブドウ糖液等で希釈)。適宜減量。
頻拍
成人 1回0. 1mL／kg(ピルシカイニド塩酸塩水和物 1mg／kg) 血圧，心電図監視下に 10分間で 徐々に静注(必要時生食又は5%ブドウ糖液等で希釈)。適宜減量。
注意
1. 急速に静注時，血中濃度が急激に上昇，投与時間を厳守。
2. 効果発現後に再発した時，初回量がピルシカイニド塩酸塩水和物の最大0. 75mg／kg(期外収縮) 又は1mg／kg(頻拍)の半量以下の場合を除き，再投与しない。再投与は，1日総量でピルシカイニド塩酸塩水和物1回最大量まで。

■禁忌
【禁忌】1. うっ血性心不全。
2. 高度の房室ブロック，高度の洞房ブロック。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 心室細動(頻度不明)，心室頻拍(Torsades de pointes含む)(頻度不明)，洞停止(頻度不明)，完全房室ブロック(頻度不明)，失神(頻度不明)，心不全(頻度不明)，ショック，心停止。
2. ショック等による急性腎障害(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 頻度不明
循環器 QRS幅の増大，徐脈，心室性期外収縮，胸部不快感，胸痛，血圧低下 上室性期外収縮，QT延長，上室性頻拍，房室ブロック，心房粗動
消化器 口渇，悪心 嘔吐
精神神経系 ふわふわ感
血液 白血球数減少，白血球数増加，好酸球増加，リンパ球減少，リンパ球増加
肝臓 AST上昇，ALT上昇，LDH上昇
過敏症 発疹
腎臓 BUN上昇，尿蛋白陽性 クレアチニン上昇
その他 全身倦怠感，CK上昇
(表終了)

ジソピラミド徐放錠150mg「SW」（150mg1錠）

両 内服 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2129005F1200
【薬効分類】2. 1. 2 不整脈用剤
【一般名】ジソピラミドリン酸塩
【先発品】リスモダンR錠150mg
【メーカー】製)沢井製薬 販)武田薬品工業 販)日本ケミファ
【薬価】11.8円/1T
【薬価収載日】2013/06/21
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】徐放性不整脈治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記で他の抗不整脈薬が使用できないか，無効時
頻脈性不整脈
【用法用量】成人 1回1錠 1日2回 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 高度の房室ブロック，高度の洞房ブロック。
2. うっ血性心不全。
3. 透析患者を含む重篤な腎機能障害。
4. 高度な肝機能障害。
5. スパルフロキサシン・モキシフロキサシン塩酸塩・ラスクフロキサシン塩酸塩(注射剤)・トレミフェンクエン酸塩・バルデナフィル塩酸塩水和物・アミオダロン塩酸塩(注射剤)・エリグルスタット酒石酸塩・フィンゴリモド塩酸塩・シポニモドフマル酸塩の投与患者。
6. 閉塞隅角緑内障。
7. 尿貯留傾向。
8. 本剤の成分に過敏症の既往。

2 個々の器官系用医薬品

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 心停止(頻度不明), 心室細動(頻度不明), 心室頻拍(Torsades de pointes含む)(頻度不明), 心室粗動(頻度不明), 心房粗動(頻度不明), 房室ブロック(頻度不明), 洞停止(頻度不明), 失神(頻度不明), 心不全悪化等(頻度不明)。
2. 低血糖(頻度不明)(脱力感, 倦怠感, 高度の空腹感, 冷汗, 嘔気, 不安, 意識障害(意識混濁, 昏睡)等)。
3. 無顆粒球症(頻度不明)。
4. 肝機能障害(0. 9%)(AST, ALT, γ－GTPの上昇等), 黄疸(頻度不明)。
5. 麻痺性イレウス(頻度不明)。
6. 緑内障悪化(頻度不明)。
7. 痙攣(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
循環器 QT延長 徐脈, 動悸 QRS幅増大, 心胸比増大, 血圧低下
血液　貧血, 血小板減少
消化器 口渇, 便秘, 胃部不快感 嘔気, 胸やけ, 胃のもたれ, 腹痛, 食欲不振, 下痢, 腹部膨満感, 口内異常感 嘔吐
肝臓 AST, ALT, AI－P, ビリルビンの上昇等
腎臓　腎機能障害
泌尿器 尿閉, 排尿障害, 排尿困難 頻尿, 乏尿, 排尿時間延長 夜尿, 多尿, 尿の停滞感
視覚器　複視 霧視, 黄視, 光に対する過敏症, 視力障害
精神神経系 頭痛 眩暈, しびれ 眠気, 不眠, しびれ感, 感覚障害, 振戦 過敏症 発疹等
その他　全身倦怠感, 胸部不快感, 顔のほてり, 鼻乾燥, 呼吸困難, インポテンス 胸部圧迫感, 胸痛, 顔面灼熱感, 浮腫, ほてり, 嗄声, 月経異常, 女性型乳房
(表終了)

シベノール静注70mg（70mg5mL1管）

内　注射　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】2129405A1035
【薬効分類】2. 1. 2　不整脈用剤
【一般名】シベンゾリンコハク酸塩
【メーカー】製)トーアエイヨー　販)アステラス製薬
【薬価】778円/1A
【薬価収載日】2009/09/25
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】不整脈治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】頻脈性不整脈
【用法用量】成人　1回0. 1mL／kg(シベンゾリンコハク酸塩　1. 4mg／kg)　血圧, 心電図監視下で　2～5分かけ　静注(必要時生食又はブドウ糖液で希釈)。
適宜減量。

■禁忌
【禁忌】1. 高度の房室ブロック, 高度の洞房ブロック。
2. うっ血性心不全。
3. 透析中。
4. 閉塞隅角緑内障。
5. 尿貯留傾向。
6. 本剤の成分に過敏症の既往。
7. バルデナフィル塩酸塩水和物・モキシフロキサシン塩酸塩・ラスクフロキサシン塩酸塩(注射剤)・トレミフェンクエン酸塩・フィンゴリモド塩酸塩・シポニモド　フマル酸・エリグルスタット酒石酸塩の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 催不整脈作用(心室細動, 心室頻拍(Torsades　de　pointes含む)(各頻度不明), 上室性不整脈(1%未満), 心停止)。
2. ショック, アナフィラキシー(各頻度不明)(胸内苦悶, 冷汗, 呼吸困難, 血圧低下, 発疹, 浮腫等)。
3. 心不全, 心原性ショック(各頻度不明)。
4. 循環不全による重篤な肝障害(頻度不明)(ショック肝(トランスアミナーゼ, LDHの急激な上昇)), 腎障害。
5. 肝機能障害(AST, ALT, γ－GTP等の上昇), 黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～3%未満 1%未満 頻度不明
循環器　QRS幅延長, 脚ブロック, 動悸 QTc延長, 徐脈, 血圧低下, PQ延長, 房室ブロック
代謝　低血糖
肝臓　AST上昇, ALT上昇
血液　白血球減少, 血小板減少
泌尿器　尿閉, 排尿困難等の排尿障害
腎臓　BUN上昇, クレアチニン上昇
眼　霧視等の視調節障害
消化器 口渇 悪心, 腹痛
精神神経系　しびれ 頭痛, 眩暈, 発汗
その他 ほてり 胸痛 下肢冷感, 血管痛
(表終了)

シベンゾリンコハク酸塩錠100mg「サワイ」（100mg1錠）

両　内服　後発　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】2129007F2043
【薬効分類】2. 1. 2　不整脈用剤
【一般名】シベンゾリンコハク酸塩
【先発品】シベノール錠100mg
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】15.9円/1T
【薬価収載日】2007/07/06
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】不整脈治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記で他の抗不整脈薬が使用できないか, 無効時
頻脈性不整脈
【用法用量】成人　1日300mgから開始　効果不十分時　450mgまで増量　1日3回　分割　内服。
適宜増減。
注意
腎機能障害 血清クレアチニン値(Scr)を指標に減量等用法・用量の調整。
・軽度～中等度障害例(Scr 1. 3～2. 9mg／dL)
消失半減期が腎機能正常例に比し約1. 5倍に延長。
・高度障害例(Scr 3mg／dL以上)
消失半減期が腎機能正常例に比し約3倍に延長。

■禁忌
【禁忌】1. 高度の房室ブロック, 高度の洞房ブロック。
2. うっ血性心不全。
3. 透析中。
4. 閉塞隅角緑内障。
5. 尿貯留傾向。
6. 本剤の成分に過敏症の既往。
7. バルデナフィル塩酸塩水和物・モキシフロキサシン塩酸塩・ラスクフロキサシン塩酸塩(注射剤)・トレミフェンクエン酸塩・フィンゴリモド塩酸塩・シポニモド　フマル酸・エリグルスタット酒石酸塩の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 催不整脈作用(心室細動, 心室頻拍(Torsades　de　pointes含む)(各頻度不明), 上室性不整脈(1%未満), 心停止)。
2. ショック, アナフィラキシー(各頻度不明)(胸内苦悶, 冷汗, 呼吸困難, 血圧低下, 発疹, 浮腫等)。
3. 心不全, 心原性ショック(各頻度不明)。
4. 低血糖(1%未満)(脱力・倦怠感, 発汗, 冷感, 意識障害, 錯乱等)。
5. 循環不全による重篤な肝障害(頻度不明)(ショック肝(トランスアミナーゼ, LDHの急激な上昇)), 腎障害。
6. 肝機能障害(AST, ALT, γ－GTP等の上昇), 黄疸(各頻度不明)。
7. 顆粒球減少, 白血球減少(各1%未満), 貧血, 血小板減少(各頻度不明)。
8. 間質性肺炎(頻度不明)(発熱, 咳嗽, 呼吸困難, 胸部X線異常等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～2%未満 1%未満 頻度不明
循環器　PQ延長, QRS幅延長, QTc延長, 房室ブロック, 動悸 脚ブロック, 洞結節機能低下, 徐脈, 血圧低下
肝臓　AST上昇, ALT上昇, AI－P上昇
泌尿器　尿閉, 排尿困難等の排尿障害
腎臓　BUN上昇, クレアチニン上昇
眼　光視症, 霧視等の視調節障害
過敏症　発疹, 紅斑, 掻痒感
精神神経系 ふらつき 頭痛, 頭重, 眩暈, 眠気, 振戦, 立ちくらみ, 幻覚
消化器 口渇, 悪心 食欲不振, 便秘, 嘔吐, 口内炎 腹痛, 腹部不快感
その他　脱力感, 倦怠感, 冷汗, 胸部圧迫感, 息切れ, 関節痛, 鼻乾燥, インポテンス
(表終了)

シンビット静注用50mg（50mg1瓶）

内　注射　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】2129407D1030
【薬効分類】2. 1. 2　不整脈用剤
【一般名】ニフェカラント塩酸塩
【メーカー】製)トーアエイヨー　販)アステラス製薬　販)日本シエーリング
販)バイエル薬品　販)ホスピーラ・ジャパン
【薬価】4030円/1V

2 個々の器官系用医薬品

【薬価収載日】2005/06/10
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】不整脈治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】生命に危険のある下記の不整脈で他の抗不整脈薬が無効か，使用できない時
心室頻拍，心室細動
【用法用量】単回静注法
成人　1回0．3mg／kg　5分かけ　心電図の連続監視下で　静注。
維持静注法
単回静注が有効で効果維持を期待する時は，成人　0．4mg／kg／時　心電図の連続監視下で　静注。
用法共通
適宜増減。
生食又は5%ブドウ糖液で溶解。
注意
1．単回静注を繰り返す時，血中濃度の過剰な上昇の回避のため，直前の投与後2時間以上あけて投与。
2．配合変化を生じる可能性，薬剤の選択及び調製条件等に注意。

■禁忌
【禁忌】1．QT延長症候群。
2．アミオダロン注射剤・フィンゴリモド塩酸塩・エリグルスタット酒石酸塩の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
催不整脈（3%以上）（心室頻拍（Torsades　de　pointes含む），心室細動，心室性期外収縮，心房細動，心房粗動等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～3%未満 0．1～1%未満 頻度不明
循環器 QT時間延長 洞停止，QRS拡大 洞性徐脈，徐脈，房室ブロック
皮膚　発疹 皮膚潰瘍形成，皮下組織膿瘍
肝臓 ALT上昇，LDH上昇 γ－GTP上昇，AI－P上昇，総ビリルビン上昇 AST上昇
腎臓　BUN上昇，血中クレアチニン上昇
血液　血小板減少，白血球増加，リンパ球減少，好中球増多 貧血（赤血球減少，ヘモグロビン減少，ヘマトクリット値減少）
代謝異常　総蛋白低下，アルブミン低下，Cl低下，K上昇，Na低下，K低下，尿酸上昇
消化器　下痢，口渇
その他 ほてり 胸部不快感，胸内熱感，注射部疼痛，あくび，頭重感 CK上昇，静脈炎，注射部炎症，注射部発赤腫脹，注射部硬結，注射部膿瘍
（表終了）

タンボコール錠50mg（50mg1錠）

両　内服　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】2129009F1020
【薬効分類】2．1．2　不整脈用剤
【一般名】フレカイニド酢酸塩
【メーカー】製)エーザイ
【薬価】40.5円/1T
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】頻脈性不整脈治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記で他の抗不整脈薬が使用できないか，無効時
成人 頻脈性不整脈（発作性心房細動・粗動，心室性）
小児 頻脈性不整脈（発作性心房細動・粗動，発作性上室性，心室性）
注意
1．他の抗不整脈薬が使用できないか，無効時のみ適用を考慮。
2．基礎心疾患のある心房粗動・心室頻拍では，有益性がリスクを上回る時のみ投与。
3．小児等に使用時，小児等の不整脈治療に熟練した医師が監督。
【用法用量】1．成人
（1）．頻脈性不整脈（発作性心房細動・粗動）
1日100mgから開始　効果不十分時　200mgまで増量　1日2回　分割　内服。適宜減量。
（2）．頻脈性不整脈（心室性）
1日100mgから開始　効果不十分時　200mgまで増量　1日2回　分割　内服。適宜増減。
2．小児
頻脈性不整脈（発作性心房細動・粗動，発作性上室性，心室性）
6ヵ月以上の乳・幼・小児　1日50～100mg／m2　1日2～3回　分割　内服。適宜増減。1日最高200mg／m2。
6ヵ月未満の乳児　1日50mg／m2　1日2～3回　分割　内服。適宜増減。1日最高200mg／m2。
注意
重篤な腎障害（クレアチニンクリアランス20mL／分以下）では，血漿中濃度が予測以上に上昇する可能性，1日100mg（1回50mg，1日2回）まで。

■禁忌
【禁忌】1．うっ血性心不全。
2．高度の房室ブロック，高度の洞房ブロック。
3．心筋梗塞後の無症候性心室性期外収縮・非持続型心室頻拍。
4．妊婦・妊娠の可能性。
5．リトナビルの投与患者。
6．ミラベグロンの投与患者。
7．テラプレビルの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．心室頻拍（Torsades　de　pointes含む）（0．1～5%未満），心室細動（0．1%未満），心房粗動（0．1～5%未満），高度房室ブロック（0．1～5%未満），一過性心停止（0．1%未満），洞停止（又は洞房ブロック）（0．1～5%未満），心不全の悪化（0．1～5%未満），Adams－Stokes発作（0．1%未満）。
2．肝機能障害（頻度不明）（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（頻度不明）。

ビソプロロールフマル酸塩錠0．625mg「トーワ」（0．625mg1錠）

両　内服　流通
ハイリスク

【YJコード】2123016F3100
【薬効分類】2．1．2　不整脈用剤
【一般名】ビソプロロールフマル酸塩
【メーカー】製)東和薬品
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2014/06/20
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】選択的β1アンタゴニスト

■効能効果・用法用量
【効能効果】○下記でアンジオテンシン変換酵素阻害薬又はアンジオテンシンII受容体拮抗薬，利尿薬，ジギタリス製剤等の基礎治療中
虚血性心疾患・拡張型心筋症による慢性心不全
【用法用量】虚血性心疾患・拡張型心筋症による慢性心不全
成人　1回0．625mgから開始　1日1回　内服。2週間以上内服し，忍容性がある時，1回1．25mg　1日1回に増量。その後忍容性がある時，4週間以上の間隔で忍容性をみながら漸増し，忍容性がない時は減量。用量の増減は1回量を0．625，1．25，2．5，3．75，5mgとして必ず段階的に行い，いずれも1日1回　内服。維持量として，1回1．25～5mg　1日1回　内服。
開始量はさらに低用量，増量幅はさらに小さくしてよい。維持量は適宜増減，1日最高5mg　1日1回まで。
注意
効能共通
1．褐色細胞腫・パラガングリオーマ　α遮断剤で初期治療後に投与し，常にα遮断剤を併用。
慢性心不全
4．必ず1日1回0．625mg又はさらに低用量から開始し，忍容性をもとに患者ごとに維持量を設定。
5．2週間以上休薬後の再開時は，用法・用量に従って低用量から開始し，漸増。

■禁忌
【禁忌】1．高度の徐脈（著しい洞性徐脈），房室ブロック（II，III度），洞房ブロック，洞不全症候群。
2．糖尿病性ケトアシドーシス，代謝性アシドーシス。
3．心原性ショック。
4．肺高血圧による右心不全。
5．強心薬・血管拡張薬の静注を要する心不全。
6．非代償性の心不全。
7．重度の末梢循環障害（壊疽等）。
8．未治療の褐色細胞腫・パラガングリオーマ。
9．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
心不全（高血圧症等 頻度不明，慢性心不全 7．0%），完全房室ブロック，高度徐脈，洞不全症候群（高血圧症等 各頻度不明，慢性心不全 各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）（本態性高血圧症，狭心症，心室性期外収縮，頻脈性心房細動）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
循環器 徐脈，心胸比増大，低血圧，動悸，心室性期外収縮 房室ブロック，心房細動，胸痛
精神神経系 頭痛・頭重感，眩暈，ふらつき，立ちくらみ，眠気，不眠 悪夢
消化器 悪心，嘔吐，胃部不快感，腹部不快感，食欲不振 下痢
肝臓 AST，ALT，ビリルビン，LDH，AI－P，γ－GTPの上昇 肝腫大
腎臓・泌尿器 尿酸，クレアチニン，BUNの上昇，尿糖，頻尿
呼吸器 呼吸困難 気管支痙攣

2 個々の器官系用医薬品

過敏症 発疹 皮膚掻痒感
眼 霧視，涙液分泌減少
その他 倦怠感，浮腫，脱力感，気分不快感，疲労感，四肢冷感，悪寒，しびれ感，CKの上昇 糖尿病増悪，血清脂質の上昇
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（慢性心不全）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
循環器 徐脈 心胸比増大，房室ブロック，低血圧，動悸，胸痛 心房細動，心室性期外収縮
精神神経系 眩暈（16．0%），立ちくらみ 頭痛・頭重感，ふらつき，眠気，不眠 悪夢
消化器 悪心，腹部不快感，食欲不振 嘔吐，胃部不快感，下痢
肝臓 AST，ALTの上昇 肝腫大，ビリルビン，LDH，AI－P，γ－GTPの上昇
腎臓・泌尿器 尿酸，クレアチニンの上昇 BUNの上昇，尿糖，頻尿
呼吸器 呼吸困難（11．0%） 気管支痙攣
過敏症 発疹 皮膚掻痒感
眼 霧視 涙液分泌減少
その他 倦怠感（10．0%），浮腫（11．0%），血清脂質の上昇 脱力感，気分不快感，疲労感，四肢冷感，しびれ感，CKの上昇，糖尿病増悪 悪寒
（表終了）

ビソプロロールフマル酸塩錠5mg「日医工」（5mg1錠）

両 内服 後発 流通
ハイリスク

【YJコード】2123016F2219
【薬効分類】2．1．2 不整脈用剤
【一般名】ビソプロロールフマル酸塩
【先発品】メインテート錠5mg
【メーカー】製）日医工 販）東和薬品
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2013/12/13
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】選択的β1アンタゴニスト

■効能効果・用法用量

【効能効果】○本態性高血圧症（軽症～中等症）
○狭心症
○心室性期外収縮
○下記でアンジオテンシン変換酵素阻害薬又はアンジオテンシンII受容体拮抗薬，利尿薬，ジギタリス製剤等の基礎治療中
虚血性心疾患・拡張型心筋症による慢性心不全
○頻脈性心房細動
【用法用量】本態性高血圧症（軽症～中等症），狭心症，心室性期外収縮
成人 1回5mg 1日1回 内服。
適宜増減。
虚血性心疾患・拡張型心筋症による慢性心不全
成人 1回0．625mgから開始 1日1回 内服。2週間以上内服し，忍容性がある時，1回1．25mg 1日1回に増量。その後忍容性がある時，4週間以上の間隔で忍容性をみながら漸増し，忍容性がない時は減量。用量の増減は1回量を0．625，1．25，2．5，3．75，5mgとして必ず段階的に行い，いずれも1日1回 内服。維持量として，1回1．25～5mg 1日1回 内服。開始量はさらに低用量，増量幅はさらに小さくしてよい。維持量は適宜増減，1日最高5mg 1日1回まで。
頻脈性心房細動
成人 1回2．5mgから開始 1日1回 内服。効果不十分時 1回5mg 1日1回に増量。適宜増減，1日最高5mg 1日1回まで。
注意
効能共通
1．褐色細胞腫・パラガングリオーマ αβ遮断剤で初期治療後に投与し，常にα遮断剤を併用。
本態性高血圧症，狭心症，心室性期外収縮，頻脈性心房細動
2．慢性心不全を合併 慢性心不全の用法・用量に従う。
本態性高血圧症，狭心症，心室性期外収縮
3．頻脈性心房細動を合併する本態性高血圧症，狭心症，心室性期外収縮 頻脈性心房細動の用法・用量は1日1回2．5mgから開始，血圧や心拍数，症状等に応じ，開始量を設定。
慢性心不全
4．必ず1日1回0．625mg又はさらに低用量から開始し，忍容性をもとに患者ごとに維持量を設定。
5．2週間以上休薬後の再開時は，用法・用量に従って低用量から開始し，漸増。

■禁忌

【禁忌】1．高度の徐脈（著しい洞性徐脈），房室ブロック（II，III度），洞房ブロック，洞不全症候群。
2．糖尿病性ケトアシドーシス，代謝性アシドーシス。
3．心原性ショック。
4．肺高血圧による右心不全。
5．強心薬・血管拡張薬の静注を要する心不全。
6．非代償性の心不全。
7．重度の末梢循環障害（壊疽等）。
8．未治療の褐色細胞腫・パラガングリオーマ。
9．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
心不全（高血圧症等 頻度不明，慢性心不全 7．0%），完全房室ブロック，高度徐脈，洞不全症候群（高血圧症等 各頻度不明，慢性心不全 各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）（本態性高血圧症，狭心症，心室性期外収縮，頻脈性心房細動）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
循環器 徐脈，心胸比増大，低血圧，動悸，心室性期外収縮 房室ブロック，心房細動，胸痛
精神神経系 頭痛・頭重感，眩暈，ふらつき，立ちくらみ，眠気，不眠 悪夢
消化器 悪心，嘔吐，胃部不快感，腹部不快感，食欲不振 下痢
肝臓 AST，ALT，ビリルビン，LDH，AI－P，γ－GTPの上昇 肝腫大
腎臓・泌尿器 尿酸，クレアチニン，BUNの上昇，尿糖，頻尿
呼吸器 呼吸困難 気管支痙攣
過敏症 発疹 皮膚掻痒感
眼 霧視，涙液分泌減少
その他 倦怠感，浮腫，脱力感，気分不快感，疲労感，四肢冷感，悪寒，しびれ感，CKの上昇 糖尿病増悪，血清脂質の上昇
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（慢性心不全）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
循環器 徐脈 心胸比増大，房室ブロック，低血圧，動悸，胸痛 心房細動，心室性期外収縮
精神神経系 眩暈（16．0%），立ちくらみ 頭痛・頭重感，ふらつき，眠気，不眠 悪夢
消化器 悪心，腹部不快感，食欲不振 嘔吐，胃部不快感，下痢
肝臓 AST，ALTの上昇 肝腫大，ビリルビン，LDH，AI－P，γ－GTPの上昇
腎臓・泌尿器 尿酸，クレアチニンの上昇 BUNの上昇，尿糖，頻尿
呼吸器 呼吸困難（11．0%） 気管支痙攣
過敏症 発疹 皮膚掻痒感
眼 霧視 涙液分泌減少
その他 倦怠感（10．0%），浮腫（11．0%），血清脂質の上昇 脱力感，気分不快感，疲労感，四肢冷感，しびれ感，CKの上昇，糖尿病増悪 悪寒
（表終了）

ピルシカイニド塩酸塩カプセル25mg「DSEP」（25mg1カプセル）

両 内服 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2129008M1172
【薬効分類】2．1．2 不整脈用剤
【一般名】ピルシカイニド塩酸塩水和物
【先発品】サンリズムカプセル25mg
【メーカー】製）第一三共エスファ 販）第一三共
【薬価】11.9円/1C
【薬価収載日】2021/12/09
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】不整脈治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記で他の抗不整脈薬が使用できないか，無効時
頻脈性不整脈
【用法用量】成人 1日150mg 1日3回 分割 内服。
適宜増減。
重症・効果不十分時 1日225mgまで。
注意
1．透析を要する腎不全 1日25mgから開始等慎重投与。
2．高齢者 1回25mgから開始等慎重投与。

■禁忌

【禁忌】1．うっ血性心不全。
2．高度の房室ブロック，高度の洞房ブロック。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．心室細動（頻度不明），心室頻拍（Torsades de pointes含む）（頻度不明），洞停止（頻度不明），完全房室ブロック（頻度不明），失神（頻度不明），心不全（頻度不明），ショック，心停止。
2．ショック等による急性腎障害（頻度不明）。
3．肝機能障害（頻度不明）（AST，ALT，γ－GTPの上昇等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
循環器 QRS幅の増大，QT延長，房室ブロック，洞房ブロック，胸部不快感，動悸，心室性期外収縮，上室性期外収縮，心房細動，上室性頻拍 胸痛，徐脈，心房粗動，血圧低下

2 個々の器官系用医薬品

消化器 胃痛，悪心，嘔吐，口渇，下痢，腹部不快感 便秘，食欲不振
精神神経系 眩暈，頭痛，眠気 振戦，不眠，しびれ
血液 好酸球増加，リンパ球減少 白血球数減少，血小板数減少
肝臓 AST上昇，ALT上昇，LDH上昇
過敏症 発疹，蕁麻疹 掻痒感
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇，尿蛋白陽性
泌尿器 排尿困難
その他 全身倦怠感，CK上昇，脱力感 熱感
（表終了）

メキシチールカプセル50mg（50mg1カプセル）

両 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2129003M1021
【薬効分類】2．1．2 不整脈用剤
【一般名】メキシレチン塩酸塩
【メーカー】製)太陽ファルマ 販)日本ベーリンガーインゲルハイム
【薬価】8.8円/1C
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】不整脈・糖尿病性神経障害治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．頻脈性不整脈(心室性)
2．糖尿病性神経障害に伴う自覚症状(自発痛，しびれ感)の改善
【用法用量】頻脈性不整脈(心室性)
成人 1日300mgから開始 効果不十分時 450mgまで増量 1日3回 分割 食後 内服。
適宜増減。
糖尿病性神経障害に伴う自覚症状(自発痛，しびれ感)の改善
成人 1日300mg 1日3回 分割 食後 内服。
注意
頻脈性不整脈(心室性)
1．1日450mgを超える投与は，副作用の可能性増大。
糖尿病性神経障害に伴う自覚症状(自発痛，しびれ感)の改善
2．2週間投与して効果なければ中止。
3．1日300mgまで。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．重篤な刺激伝導障害(ペースメーカー未使用のII～III度房室ブロック等)。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．中毒性表皮壊死症，皮膚粘膜眼症候群(各頻度不明)，紅皮症(0.3%未満)。
2．過敏症症候群(頻度不明)(発疹，発熱，リンパ節腫脹，肝機能障害，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状)，1型糖尿病，ケトアシドーシス。
3．心室頻拍(Torsades de pointes含む)，房室ブロック(各頻度不明)。
4．腎不全(頻度不明)。
5．幻覚，錯乱(各頻度不明)。
6．肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
7．間質性肺炎，好酸球性肺炎(各頻度不明)。
8．心停止，心室細動，失神，洞房ブロック(各頻度不明)，徐脈(0.1%)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
循環器 動悸，徐脈 起立時眩暈，QRS延長，血圧上昇，浮腫，胸部圧迫感，心房細動，低血圧
消化器 食欲不振，消化不良，腹痛 胃・腹部不快感，便秘，下痢，腹部膨満感 悪心・嘔吐，胸やけ，口渇
精神神経系 振戦，眩暈 頭痛，不眠，耳鳴，眼振，複視 しびれ感，眠気，いらいら感，発汗，意識障害，痙攣，せん妄，構音障害
過敏症 掻痒感，発熱多形(滲出性)紅斑 全身発疹，蕁麻疹，紅斑
肝臓 尿ウロビリノゲンの上昇
腎臓 BUN，クレアチニンの上昇 腎機能障害
血液 赤血球減少，ヘマトクリット減少，好酸球増加症，リンパ球減少 白血球数異常，血色素量減少，血小板数異常，好中球増多，顆粒球減少
泌尿器 排尿困難，尿失禁 尿閉
その他 咳，血清カリウム，総コレステロールの上昇，ほてり 咽頭異和感，にがみ，倦怠感，足のこわばり，脱力感，味覚異常
(表終了)

メキシレチン塩酸塩錠100mg「杏林」（100mg1錠）

両 内服 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2129003F2045
【薬効分類】2．1．2 不整脈用剤
【一般名】メキシレチン塩酸塩
【先発品】メキシレチン塩酸塩錠100mg「KCC」
【メーカー】製)キョーリンリメディオ 販)杏林製薬
【薬価】6.6円/1T
【薬価収載日】2012/12/14
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】不整脈・糖尿病性神経障害治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○頻脈性不整脈(心室性)
○糖尿病性神経障害に伴う自覚症状(自発痛，しびれ感)の改善
【用法用量】頻脈性不整脈(心室性)
成人 1日300mgから開始 効果不十分時 450mgまで増量 1日3回 分割 食後 内服。
適宜増減。
糖尿病性神経障害に伴う自覚症状(自発痛，しびれ感)の改善
成人 1日300mg 1日3回 分割 食後 内服。
注意
頻脈性不整脈(心室性)
1．1日450mgを超える投与は，副作用の可能性増大。
糖尿病性神経障害に伴う自覚症状(自発痛，しびれ感)の改善
2．2週間投与して効果なければ中止。
3．1日300mgまで。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．重篤な刺激伝導障害(ペースメーカー未使用のII～III度房室ブロック等)。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．中毒性表皮壊死症，皮膚粘膜眼症候群(各頻度不明)，紅皮症(0.3%未満)。
2．過敏症症候群(頻度不明)(発疹，発熱，リンパ節腫脹，肝機能障害，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状)，1型糖尿病，ケトアシドーシス。
3．心室頻拍(Torsades de pointes含む)，房室ブロック(各頻度不明)。
4．腎不全(頻度不明)。
5．幻覚，錯乱(各頻度不明)。
6．肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
7．間質性肺炎，好酸球性肺炎(各頻度不明)。
8．心停止，心室細動，失神，洞房ブロック(各頻度不明)，徐脈(0.1%)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
循環器 動悸，徐脈 起立時眩暈，QRS延長，血圧上昇，浮腫，胸部圧迫感，心房細動，低血圧
消化器 食欲不振，消化不良，腹痛 胃・腹部不快感，便秘，下痢，腹部膨満感 悪心・嘔吐，胸やけ，口渇
精神神経系 振戦，眩暈 頭痛，不眠，耳鳴，眼振，複視 しびれ感，眠気，いらいら感，発汗，意識障害，痙攣，せん妄，構音障害
過敏症 掻痒感，発熱多形(滲出性)紅斑 全身発疹，蕁麻疹，紅斑
肝臓 尿ウロビリノゲンの上昇
腎臓 BUN，クレアチニンの上昇 腎機能障害
血液 赤血球減少，ヘマトクリット減少，好酸球増加症，リンパ球減少 白血球数異常，血色素量減少，血小板数異常，好中球増多，顆粒球減少
泌尿器 排尿困難，尿失禁 尿閉
その他 咳，血清カリウム，総コレステロールの上昇，ほてり 咽頭異和感，にがみ，倦怠感，足のこわばり，脱力感，味覚異常
(表終了)

リドカイン静注用2%シリンジ「テルモ」（2%5mL1筒）

内 注射 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2129409G1036
【薬効分類】2．1．2 不整脈用剤
【一般名】リドカイン塩酸塩
【メーカー】製)テルモ
【薬価】176円/1筒
【薬価収載日】2005/06/10
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】リドカイン注射液

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．期外収縮(心室性)，発作性頻拍(心室性)，急性心筋梗塞時，手術に伴う心室性不整脈の予防
2．期外収縮(上室性)，発作性頻拍(上室性)

2 個々の器官系用医薬品

【用法用量】静脈内1回投与法
成人 1回50～100mg（1～2mg／kg） 1～2分間で 緩徐に静注。
効果なければ 5分後に同量を投与。
効果の持続を期待する時 10～20分間隔で同量を追加，1時間内の最高量300mg。
静注の効果 10～20分で消失。

■禁忌
【禁忌】1．重篤な刺激伝導障害（完全房室ブロック等）。
2．本剤の成分・アミド型局所麻酔薬に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．刺激伝導系抑制（PQ間隔の延長，QRS幅増大等），ショック（各頻度不明），徐脈，血圧低下，意識障害等，心停止（0．1%未満），アナフィラキシーショック（0．1%未満）。
2．意識障害，振戦，痙攣（各頻度不明）等の中毒症状。
3．重篤な悪性高熱（頻度不明）（原因不明の頻脈・不整脈・血圧変動，急激な体温上昇，筋強直，血液の暗赤色化（チアノーゼ），過呼吸，発汗，アシドーシス，高カリウム血症，ミオグロビン尿（ポートワイン色尿）等），腎不全。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
中枢神経 せん妄，眩暈，眠気，不安，多幸感，しびれ感等
消化器 嘔吐等
過敏症 蕁麻疹等の皮膚症状，浮腫等
（表終了）

ワソラン静注5mg（0．25%2mL1管）
内 注射 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2129402A1040
【薬効分類】2．1．2 不整脈用剤
【一般名】ベラパミル塩酸塩
【メーカー】製)エーザイ
【薬価】206円/1A
【薬価収載日】2007/06/15
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】Ca拮抗性不整脈治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】頻脈性不整脈（発作性上室性頻拍，発作性心房細動，発作性心房粗動）
【用法用量】成人 1回1管（ベラパミル塩酸塩 5mg） 5分以上かけ徐々に静注（必要時生食又はブドウ糖液で希釈）。
適宜増減。
小児 1回0．1～0．2mg／kg（5mgまで） 5分以上かけ 徐々に静注（必要時生食又はブドウ糖液で希釈）。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．重篤な低血圧，心原性ショック。
2．高度の徐脈，洞房ブロック，房室ブロック（第II，III度）。
3．重篤なうっ血性心不全。
4．急性心筋梗塞。
5．重篤な心筋症。
6．静注用β遮断剤の投与患者。
7．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
循環器 血圧低下，心室性期外収縮，洞停止，房室ブロック，徐脈，上室性期外収縮，心室性頻拍 脚ブロック，洞房ブロック，一過性心停止
消化器 悪心，嘔吐 口渇
内分泌 血中プロラクチンの上昇，男性における血中黄体形成ホルモン・血中テストステロンの低下
肝臓 AST，ALTの上昇等
その他 胸痛 頭痛，顔面のほてり，臭気感
（表終了）

2．1．3 利尿剤

アゾセミド錠30mg「JG」（30mg1錠）
両 内服 後発 流通

【YJコード】2139008F2044
【薬効分類】2．1．3 利尿剤
【一般名】アゾセミド
【先発品】ダイアート錠30mg
【メーカー】製)長生堂製薬 販)日本ジェネリック
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2015/06/19
【標榜薬効】持続型ループ利尿剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】心性浮腫（うっ血性心不全），腎性浮腫，肝性浮腫
【用法用量】成人 1回2錠（アゾセミド 60mg） 1日1回 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．無尿。
2．肝性昏睡。
3．体液中のナトリウム・カリウムの減少。
4．デスモプレシン酢酸塩水和物（男性の夜間多尿による夜間頻尿）の投与患者。
5．スルフォンアミド誘導体に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．電解質異常（頻度不明）（低カリウム血症，低ナトリウム血症等）。
2．無顆粒球症，白血球減少（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
代謝異常 低クロール性アルカローシス，高尿酸血症 高血糖症，高コレステロール血症，高トリグリセライド血症
過敏症 発疹
消化器 嘔気，嘔吐，食欲不振，胃部不快感，下痢，腹痛，口渇 膵炎（血清アミラーゼ値上昇）
血液 血小板減少
肝臓 AST上昇，ALT上昇 AI－P上昇，ビリルビン値上昇
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇
泌尿器 頻尿
精神神経系 眩暈，耳鳴，頭痛
その他 脱力感，倦怠感，筋痙攣，関節痛
（表終了）

イソバイドシロップ70%分包30mL（70%30mL1包）
両 内服 流通

【YJコード】2139001S2032
【薬効分類】2．1．3 利尿剤
【一般名】イソソルビド
【メーカー】製)興和 販)日本新薬
【薬価】74.2円/1包
【薬価収載日】2011/06/24
【標榜薬効】浸透圧利尿・メニエル病改善剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】脳腫瘍時の脳圧降下，頭部外傷による脳圧亢進時の脳圧降下，腎・尿管結石時の利尿，緑内障の眼圧降下，メニエール病
【用法用量】脳腫瘍時の脳圧降下，頭部外傷による脳圧亢進時の脳圧降下，腎・尿管結石時の利尿，緑内障の眼圧降下
脳圧降下，眼圧降下，利尿 成人 1日70～140mL 1日2～3回 分割 内服。
適宜増量。
必要時，冷水で2倍程度に希釈し内服。
メニエール病
1日1．5～2mL／kgを標準量。
成人 1日90～120mL 1日3回 分割 毎食後 内服。
適宜増減。
必要時，冷水で2倍程度に希釈し内服。

■禁忌
【禁忌】1．本剤・本剤の成分に過敏症の既往。
2．急性頭蓋内血腫。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（発疹，呼吸困難，血圧低下，動悸等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
消化器 嘔気，悪心，下痢，嘔吐，食欲不振
精神神経系 不眠，頭痛
過敏症 発疹，紅斑
電解質 電解質異常
（表終了）

2 個々の器官系用医薬品

サムタス点滴静注用8mg（8mg1瓶）

内 注射 流通
劇

【YJコード】2139403D1020
【薬効分類】2．1．3 利尿剤
【一般名】トルバプタンリン酸エステルナトリウム
【メーカー】製)大塚製薬
【薬価】1155円/1V
【薬価収載日】2022/05/25
【標榜薬効】V2－受容体拮抗剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】ループ利尿薬等の他の利尿薬で効果不十分な心不全の体液貯留
【用法用量】成人 1回16mg 1日1回 1時間かけ 点滴静注。
注意
1．水排泄を増加させるが，ナトリウム排泄を増加させないことから，他の利尿薬(ループ利尿薬，サイアザイド系利尿薬，抗アルドステロン薬等)と併用。
2．経口水分摂取が困難な患者に投与時は，半量(8mg)から開始し，効果不十分時は翌日以降に16mgに増量できる。本剤投与後24時間以内に血清ナトリウム濃度が10mEq／Lを超えた翌日には増量しない。
3．血清ナトリウム濃度が125mEq／L未満，急激な循環血漿量の減少が好ましくないと判断される患者，高齢者，血清ナトリウム濃度が正常域内で高値の患者に投与時は，半量(8mg)から開始。
4．CYP3A4阻害剤(イトラコナゾール，フルコナゾール，クラリスロマイシン等)との併用は避ける。やむを得ず併用時は，本剤の減量又は低用量からの開始等を考慮。
5．体液貯留所見が消失時は投与中止。症状消失後の維持の有効性は未確認。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分・類似化合物(トルバプタン等)に過敏症の既往。
2．無尿。
3．高ナトリウム血症。
4．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．腎不全(頻度不明)，重度の腎障害。
2．血栓症・血栓塞栓症(頻度不明)。
3．高ナトリウム血症(1～5%未満)(意識障害，口渇感の持続，脱水等，正常域を超える血清ナトリウム濃度の上昇)。
4．急激な血清ナトリウム濃度上昇(1%未満)，浸透圧性脱髄症候群(麻痺，発作，昏睡等)。
5．急性肝不全(頻度不明)，肝機能障害(1～5%未満)(AST，ALT，γ－GTP，AI－P，ビリルビン等の上昇)。
6．ショック，アナフィラキシー(頻度不明)(全身発赤，血圧低下，呼吸困難等)。
7．過度の血圧低下(頻度不明)，心室細動(頻度不明)，心室頻拍(1～5%未満)。
8．汎血球減少，血小板減少(頻度不明)。
9．高カリウム血症(1～5%未満)。
10．肝性脳症(頻度不明)(意識障害)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 頭痛，眩暈，不眠症，失神，意識消失，睡眠障害，嗜眠，傾眠，ナルコレプシー，注意力障害，感覚鈍麻，不随意性筋収縮，錯感覚，不安，うつ病，リビドー減退，神経過敏，パニック発作
消化器 口渇 便秘，悪心 食欲不振，嘔吐，下痢，味覚異常，消化不良，腹痛，腹部膨満，胃食道逆流性疾患，食道炎，裂孔ヘルニア，腹部不快感，心窩部不快感，口唇乾燥，鼓腸，胃腸炎，胃炎，胃腸障害，憩室炎，結腸ポリープ，嚥下障害，消化管運動障害，舌痛，舌苔，舌変色，口唇炎，口内炎，口の感覚鈍麻，臍ヘルニア，食欲亢進，呼気臭，痔核，過敏性腸症候群
循環器 頻脈，血圧低下 起立性低血圧 血圧上昇，動悸，期外収縮，不整脈，不安定血圧
血液 貧血 ヘモグロビン低下，平均赤血球容積増加，血小板減少，白血球増多，好酸球増多
代謝 脱水 高カルシウム血症，血中尿酸上昇 糖尿病，高血糖，脂質異常症，痛風，血液浸透圧上昇，血液量減少症，低カリウム血症，低ナトリウム血症，低血糖，低リン酸血症，CK上昇，血中抗利尿ホルモン増加
腎臓・泌尿器 腎機能障害 頻尿，多尿，血中クレアチニン上昇，腎臓痛，BUN上昇，血尿，尿浸透圧低下，尿失禁，尿意切迫，排尿困難，尿閉，乏尿，尿路感染，膀胱痛，腎結石，シスタチンC上昇
過敏症 発疹，掻痒，蕁麻疹
皮膚 皮膚乾燥，脱毛，ざ瘡，皮膚炎，色素沈着障害，爪の障害，多汗，乏汗，寝汗
呼吸器 咳嗽，呼吸困難，鼻咽頭炎，上気道感染，扁桃炎，副鼻腔炎，喘息，気管支炎，口腔咽頭痛，咽喉乾燥，鼻乾燥，鼻出血，発声障害
眼 眼乾燥，緑内障，霧視，結膜出血
その他 筋痙縮，倦怠感 疲労，多飲症，体重変動(増加，減少)，無力症，浮腫，筋骨格痛，胸痛，背部痛，関節痛，四肢痛，疼痛，側腹部痛，冷感，発熱，ほてり，熱感，粘膜乾燥，ウイルス感染，カンジダ症，真菌感染，筋硬直，関節腫脹，勃起不全，月経過多，不規則月経，乳房嚢胞，易刺激性，LDH上昇，耳鳴，不正子宮出血
(表終了)

スピロノラクトン錠25mg「トーワ」（25mg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】2133001F1476
【薬効分類】2．1．3 利尿剤
【一般名】スピロノラクトン
【先発品】アルダクトンA錠25mg
【メーカー】製)東和薬品 販)和薬
【薬価】5.9円/1T
【薬価収載日】2006/06/09
【標榜薬効】抗アルドステロン性利尿・降圧剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．高血圧症(本態性，腎性等)
2．心性浮腫(うっ血性心不全)，腎性浮腫，肝性浮腫，特発性浮腫，悪性腫瘍に伴う浮腫・腹水，栄養失調性浮腫
3．原発性アルドステロン症の診断・症状の改善
【用法用量】成人 1日50～100mg 分割 内服。
適宜増減。
「原発性アルドステロン症の診断・症状の改善」の他は，他剤と併用が多い。

■禁忌

【禁忌】1．無尿・急性腎不全。
2．高カリウム血症。
3．アジソン病。
4．タクロリムス・エプレレノン・エサキセレノン・ミトタンの投与患者。
5．本剤に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．電解質異常(高カリウム血症，低ナトリウム血症，代謝性アシドーシス等)(頻度不明)，不整脈，全身倦怠感，脱力等。
2．急性腎不全(頻度不明)(電解質異常を伴うことあり)。
3．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
内分泌 女性型乳房，乳房腫脹，性欲減退，陰萎，多毛，月経不順，無月経，閉経後の出血，音声低音化 乳房腫瘤，乳房痛
過敏症 発疹，蕁麻疹 掻痒
精神神経系 眩暈，頭痛，四肢しびれ感，神経過敏，うつ状態，不安感，精神錯乱，運動失調，傾眠
肝臓 AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇，AI－P上昇，LDH上昇，ビリルビン上昇
腎臓 BUN上昇
消化器 食欲不振，悪心・嘔吐，口渇，下痢，便秘
血液 白血球減少，血小板減少
その他 倦怠感，心悸亢進，発熱，肝斑 筋痙攣，脱毛
(表終了)

ソルダクトン静注用200mg（200mg1管）

内 注射 流通
劇

【YJコード】2133400D2097
【薬効分類】2．1．3 利尿剤
【一般名】カンレノ酸カリウム
【メーカー】製)ファイザー
【薬価】339円/1A
【薬価収載日】2008/12/19
【標榜薬効】水分・電解質代謝改善剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】経口抗アルドステロン薬の服用困難な下記(高アルドステロン症によると考えられる)の改善
原発性アルドステロン症
心性浮腫(うっ血性心不全)，肝性浮腫
開心術・開腹術時の水分・電解質代謝異常
注意
1．対象は，経口抗アルドステロン薬の服用が困難で，高アルドステロン症によると考えられる症状。他の治療法で効果が期待できない時のみ投与を考慮。
2．経口抗アルドステロン薬の服用可能時・効果不十分時は速やかに投与中止。
【用法用量】成人 1回100～200mg 1日1～2回 ゆっくり静注(ブドウ糖液，生食又は注射用水10～20mLに溶解)。
適宜増減，1日600mgまで。投与期間 2週間まで。

2 個々の器官系用医薬品

注意
投与期間 2週間まで。漫然と長期投与しない。

■禁忌
【禁忌】1. 無尿・腎不全。
2. 腎機能の進行性悪化状態。
3. 高カリウム血症。
4. エプレレノン・エサキセレノン・タクロリムスの投与患者。
5. アジソン病。
6. 本剤に過敏症の既往。
7. てんかん等の痙攣性素因。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック(頻度不明)(悪心，悪寒・冷汗，発疹，呼吸困難，チアノーゼ，血圧低下等)。
2. 電解質異常(高カリウム血症(4．8%)，低ナトリウム血症(1．3%)，高ナトリウム血症(0．1%)，低クロール血症(0．3%)，高クロール血症(0．1%未満)等)，不整脈等。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹等
血液 白血球増加 白血球減少，貧血
腎臓 BUN上昇，血清クレアチニン値上昇
肝臓 AST，ALT，AI－Pの上昇
消化器 嘔気，嘔吐，下痢 口渇，食欲不振
精神神経系 頭痛 妄想等
内分泌 女性型乳房 男性で性欲減退，女性で多毛，声の低音化，月経異常，乳房痛等
投与部位 注射部位の疼痛
その他 発熱 全身倦怠感，心悸亢進，胸部不快感，顔面潮紅
(表終了)

ダイアモックス錠250mg（250mg1錠）

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】2134002F1109
【薬効分類】2．1．3 利尿剤
【一般名】アセタゾラミド
【メーカー】製)三和化学研究所
【薬価】18円/1T
【薬価収載日】2006/12/08
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】炭酸脱水酵素抑制剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】緑内障，てんかん(他の抗てんかん薬で効果不十分時に付加)，肺気腫の呼吸性アシドーシスの改善，心性浮腫，肝性浮腫，月経前緊張症，メニエル病・メニエル症候群，睡眠時無呼吸症候群
【用法用量】緑内障
成人 1日250～1000mg 分割 内服。
てんかん(他剤で効果不十分時に付加)
成人 1日250～750mg 分割 内服。
肺気腫の呼吸性アシドーシスの改善，心性浮腫，肝性浮腫
成人 1日250～500mg 1日1回 内服。
月経前緊張症
成人 1日125～375mg 1日1回 月経前5～10日間，又は症状発現日から 内服。
メニエル病・メニエル症候群
成人 1日250～750mg 1日1回 内服。
睡眠時無呼吸症候群
成人 1日250～500mg 分割 内服。
いずれも適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分・スルホンアミド系薬剤に過敏症の既往。
2. 無尿。
3. 急性腎不全。
4. 肝硬変等の進行した肝疾患，高度の肝機能障害。
5. 高クロール血症性アシドーシス，体液中のナトリウム・カリウムの減少，副腎機能不全・アジソン病。
6. 慢性閉塞隅角緑内障には長期投与しない。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 代謝性アシドーシス，電解質異常(各頻度不明)(低カリウム血症，低ナトリウム血症等)。
2. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(不快感，口内異常感，喘鳴，眩暈，便意，耳鳴，発汗，血圧低下，呼吸困難，蕁麻疹等)。
3. 急性呼吸窮迫症候群，肺水腫(各頻度不明)(急速に進行する呼吸困難，低酸素血症，両側性びまん性肺浸潤影等の胸部X線異常等)。
4. 再生不良性貧血，溶血性貧血，無顆粒球症(発熱，咽頭痛，インフルエンザ様症状等)の重篤な血液障害，骨髄機能低下，白血球減少，血小板減少，血小板減少性紫斑病(各頻度不明)等。
5. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群(各頻度不明)(発熱，紅斑，掻痒感，眼充血，口内炎等)。
6. 急性腎障害，腎・尿路結石(各頻度不明)(血尿，結晶尿，乏尿等)。
7. 精神錯乱，痙攣(各頻度不明)等の中枢神経症状。
8. 肝機能障害(AST，ALT，AI－P等の上昇)，黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)(睡眠時無呼吸症候群)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
代謝異常 高尿酸血症，血糖値上昇，血糖値低下
皮膚 光線過敏症
過敏症 発疹 発熱
消化器 下痢，食欲不振，腹痛，味覚異常，悪心・嘔吐 便秘
精神神経系 知覚異常(しびれ等) 頭痛，眩暈 興奮，いらいら感，うつ状態，傾眠，見当識障害，麻痺，振戦
感覚器 一過性近視，聴覚障害
腎・尿路系 多尿 尿糖
その他 倦怠感 潮紅
(表終了)
その他の副作用(発現時中止等)(睡眠時無呼吸症候群以外)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
代謝異常 高尿酸血症，血糖値上昇，血糖値低下
皮膚 光線過敏症
過敏症 発熱，発疹
消化器 食欲不振，悪心，嘔吐，下痢，腹痛，便秘，味覚異常
精神神経系 知覚異常(しびれ等)，麻痺，眩暈，頭痛，興奮，いらいら感，うつ状態，傾眠，見当識障害，振戦
感覚器 一過性近視，聴覚障害
腎・尿路系 多尿，尿糖
その他 倦怠感，潮紅
(表終了)

ダイアモックス注射用500mg（500mg1瓶）

内 注射 流通
ハイリスク

【YJコード】2134400D1039
【薬効分類】2．1．3 利尿剤
【一般名】アセタゾラミドナトリウム
【メーカー】製)三和化学研究所
【薬価】462円/1V
【薬価収載日】2006/12/08
【ハイリスク分類】抗てんかん剤
【標榜薬効】炭酸脱水酵素抑制剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】緑内障，てんかん(他の抗てんかん薬で効果不十分時に付加)，肺気腫の呼吸性アシドーシスの改善，メニエル病・メニエル症候群
【用法用量】緑内障
成人 1日250mg～1g 分割 静注・筋注。
てんかん(他剤で効果不十分時に付加)
成人 1日250～750mg 分割 静注・筋注。
肺気腫の呼吸性アシドーシスの改善
成人 1日250～500mg 1日1回 静注・筋注。
メニエル病，メニエル症候群
成人 1日250～750mg 1日1回 静注・筋注。
いずれも適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分・スルホンアミド系薬剤に過敏症の既往。
2. 無尿。
3. 急性腎不全。
4. 肝硬変等の進行した肝疾患，高度の肝機能障害。
5. 高クロール血症性アシドーシス，体液中のナトリウム・カリウムの減少，副腎機能不全・アジソン病。
6. 慢性閉塞隅角緑内障には長期投与しない。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 代謝性アシドーシス，電解質異常(各頻度不明)(低カリウム血症，低ナトリウム血症等)。
2. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(不快感，口内異常感，喘鳴，眩暈，便意，耳鳴，発汗，血圧低下，呼吸困難，蕁麻疹等)。
3. 急性呼吸窮迫症候群，肺水腫(各頻度不明)(急速に進行する呼吸困難，低酸素血症，両側性びまん性肺浸潤影等の胸部X線異常等)。
4. 再生不良性貧血，溶血性貧血，無顆粒球症(発熱，咽頭痛，インフルエンザ様症状等)の重篤な血液障害，骨髄機能低下，白血球減少，血小板減少，血小板減少性紫斑病(各頻度不明)等。
5. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群(各頻度不明)(発熱，紅斑，掻痒感，眼充血，口内炎等)。
6. 急性腎障害，腎・尿路結石(各頻度不明)(血尿，結晶尿，乏尿等)。
7. 精神錯乱，痙攣(各頻度不明)等の中枢神経症状。
8. 肝機能障害(AST，ALT，AI－P等の上昇)，黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明

2 個々の器官系用医薬品

代謝異常 高尿酸血症，血糖値上昇，血糖値低下
皮膚 光線過敏症
過敏症 発熱，発疹
消化器 食欲不振，悪心，嘔吐，下痢，腹痛，便秘，味覚異常
精神神経系 知覚異常(しびれ等)，麻痺，眩暈，頭痛，興奮，いらいら感，うつ状態，傾眠，見当識障害，振戦
感覚器 一過性近視，聴覚障害
腎・尿路系 多尿，尿糖
その他 倦怠感，潮紅
(表終了)

トラセミドOD錠8mg「TE」(8mg1錠)

両 内服 後発 流通

【YJコード】2139009F4025
【薬効分類】2．1．3 利尿剤
【一般名】トラセミド
【メーカー】製)トーアエイヨー 販)アステラス製薬
【薬価】7.3円/1T
【薬価収載日】2018/06/15
【標榜薬効】ループ利尿剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．心性浮腫
2．腎性浮腫
3．肝性浮腫
【用法用量】成人 1回4～8mg 1日1回 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．無尿。
2．肝性昏睡。
3．体液中のナトリウム・カリウムの減少。
4．デスモプレシン酢酸塩水和物(男性の夜間多尿による夜間頻尿)の投与患者。
5．本剤の成分・スルフォンアミド誘導体に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．肝機能障害(0．03%)(AST，ALT，AI－Pの上昇等)，黄疸(頻度不明)。
2．血小板減少(頻度不明)。
3．低カリウム血症，高カリウム血症(各頻度不明)(不整脈，全身倦怠感，脱力等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
血液 血液障害(血小板数減少，白血球数減少，赤血球数減少，ヘマトクリット値減少等)
代謝異常 電解質失調(低ナトリウム血症，低カリウム血症，低クロール性アルカローシス)，血清尿酸値上昇，高カリウム血症 血清脂質増加，高血糖症
過敏症 発疹，掻痒
消化器 口渇 食欲不振，下痢，腹痛，嘔気・嘔吐，胸やけ
肝臓 AST，ALTの上昇 γ－GTP，AI－Pの上昇
腎臓 BUN，クレアチニンの上昇，頻尿
精神神経系 頭痛，眩暈 手足のしびれ，聴覚障害
その他 倦怠感 動悸，痛風様発作，関節痛，筋痙攣，CK上昇，LDH上昇 女性化乳房
(表終了)

トリクロルメチアジド錠1mg「トーワ」(1mg1錠)

両 内服 後発 流通

【YJコード】2132003F3055
【薬効分類】2．1．3 利尿剤
【一般名】トリクロルメチアジド
【先発品】フルイトラン錠1mg
【メーカー】製)東和薬品
【薬価】6.4円/1T
【薬価収載日】2016/12/09
【標榜薬効】降圧利尿剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】高血圧症(本態性，腎性等)，悪性高血圧，心性浮腫(うっ血性心不全)，腎性浮腫，肝性浮腫，月経前緊張症
【用法用量】成人 1日2～8mg 1日1～2回 分割 内服。
適宜増減。
高血圧症 少量から開始し漸増。
悪性高血圧 他の降圧剤と併用。

■禁忌

【禁忌】1．無尿。
2．急性腎不全。
3．体液中のナトリウム・カリウムの減少。
4．チアジド系薬剤・その類似化合物(例 クロルタリドン等のスルホンアミド誘導体)に過敏症の既往。
5．デスモプレシン酢酸塩水和物(男性の夜間多尿による夜間頻尿)の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．再生不良性貧血(0．1%未満)。
2．低ナトリウム血症(頻度不明)(倦怠感，食欲不振，嘔気，嘔吐，痙攣，意識障害等)。
3．低カリウム血症(頻度不明)(倦怠感，脱力感，不整脈等)。
4．間質性肺炎(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上又は頻度不明 0．1～5%未満 0．1%未満
過敏症 発疹，顔面潮紅，光線過敏症
血液 白血球減少，血小板減少，紫斑
代謝異常 電解質失調(低クロール性アルカローシス，血中カルシウムの上昇等)，血清脂質増加，高尿酸血症，高血糖症
肝臓 肝炎
消化器 食欲不振，悪心・嘔吐，口渇，腹部不快感，便秘 胃痛，膵炎，下痢，唾液腺炎
精神神経系 眩暈，頭痛 知覚異常
眼 視力異常(霧視等)，黄視症
その他 倦怠感，動悸 鼻閉，全身性紅斑性狼瘡の悪化，筋痙攣
(表終了)

トルバプタンOD錠7．5mg「オーツカ」(7．5mg1錠)

両 内服 後発 流通
劇

【YJコード】2139011F3050
【薬効分類】2．1．3 利尿剤
【一般名】トルバプタン
【先発品】サムスカOD錠7．5mg
【メーカー】製)大塚製薬工場 販)大塚製薬
【薬価】309円/1T
【薬価収載日】2022/06/17
【標榜薬効】V2－受容体拮抗剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○ループ利尿薬等の他の利尿薬で効果不十分な心不全の体液貯留
○ループ利尿薬等の他の利尿薬で効果不十分な肝硬変の体液貯留
【用法用量】心不全の体液貯留
成人 1回15mg 1日1回 内服。
肝硬変の体液貯留
成人 1回7．5mg 1日1回 内服。
注意
効能共通
1．CYP3A4阻害剤(イトラコナゾール，フルコナゾール，クラリスロマイシン等)との併用は避ける。やむを得ず併用時は，本剤の減量又は低用量からの開始等を考慮。
2．夜間の排尿を避けるため，午前中に投与。
3．水排泄を増加させるが，ナトリウム排泄を増加させない，他の利尿薬(ループ利尿薬，サイアザイド系利尿薬，抗アルドステロン薬等)と併用。ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチドとの併用経験はない。
4．体液貯留所見が消失時は投与中止。症状消失後の維持の有効性は未確認。
心不全の体液貯留
5．血清ナトリウム濃度が125mEq／L未満，急激な循環血漿量の減少が好ましくないと判断される患者，高齢者，血清ナトリウム濃度が正常域内で高値に投与時は，半量(7．5mg)から開始。
肝硬変の体液貯留
6．血清ナトリウム濃度が125mEq／L未満，急激な循環血漿量の減少が好ましくないと判断される患者に投与時は，半量(3．75mg)から開始。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分・類似化合物(トルバプタンリン酸エステルナトリウム等)に過敏症の既往。
2．口渇を感じない・水分摂取が困難な患者。
3．妊婦・妊娠の可能性。
4．無尿。
5．水分補給が困難な肝性脳症。
6．高ナトリウム血症。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．腎不全(1%未満)，重度の腎障害。
2．血栓症・血栓塞栓症(1%未満)。
3．高ナトリウム血症(1～5%未満)(意識障害，口渇感の持続，脱水等，正常域を超える血清ナトリウム濃度の上昇)。

2 個々の器官系用医薬品

4. 急激な血清ナトリウム濃度上昇(1%未満), 浸透圧性脱髄症候群(麻痺, 発作, 昏睡等)。
5. 急性肝不全(頻度不明), 肝機能障害(5%以上)(AST, ALT, γ－GTP, AI－P, ビリルビン等の上昇)。
6. ショック, アナフィラキシー(頻度不明)(全身発赤, 血圧低下, 呼吸困難等)。
7. 過度の血圧低下(頻度不明), 心室細動(頻度不明), 心室頻拍(1%未満)。
8. 肝性脳症(1%未満)(意識障害)。
9. 汎血球減少, 血小板減少(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 頭痛, 眩暈 不眠症 失神, 意識消失, 睡眠障害, 嗜眠, 傾眠, ナルコレプシー, 注意力障害, 感覚鈍麻, 不随意性筋収縮, 錯感覚, 不安, うつ病, リビドー減退, 神経過敏, パニック発作
消化器 口渇(56. 9%), 便秘 食欲不振, 悪心, 嘔吐, 下痢, 味覚異常, 消化不良, 腹痛, 腹部膨満 胃食道逆流性疾患, 食道炎, 裂孔ヘルニア, 腹部不快感, 心窩部不快感, 口唇乾燥, 鼓腸, 胃腸炎, 胃炎, 胃腸障害, 憩室炎, 結腸ポリープ, 嚥下障害, 消化管運動障害, 舌痛, 舌苔, 舌変色, 口唇炎, 口内炎, 口の感覚鈍麻, 臍ヘルニア, 食欲亢進, 呼気臭, 痔核 過敏性腸症候群
循環器 血圧上昇, 血圧低下, 動悸 頻脈, 期外収縮, 不整脈, 起立性低血圧, 不安定血圧
血液 貧血, ヘモグロビン低下, 平均赤血球容積増加, 血小板減少, 白血球増多, 好酸球増多
代謝 血中尿酸上昇 脱水, 高カリウム血症, 糖尿病, 高血糖, 脂質異常症, 痛風 血液浸透圧上昇, 血液量減少症, 低カリウム血症, 高カルシウム血症, 低ナトリウム血症, 低血糖, 低リン酸血症, CK上昇 血中抗利尿ホルモン増加
腎臓・泌尿器 頻尿(38. 8%), 多尿(26. 2%), 血中クレアチニン上昇 腎臓痛, BUN上昇, 腎機能障害, 血尿 尿浸透圧低下, 尿失禁, 尿意切迫, 排尿困難, 尿閉, 乏尿, 尿路感染, 膀胱痛, 腎結石, シスタチンC上昇
過敏症 発疹, 掻痒 蕁麻疹
皮膚 皮膚乾燥 脱毛, ざ瘡, 皮膚炎, 色素沈着障害, 爪の障害, 多汗, 乏汗, 寝汗
呼吸器 咳嗽, 呼吸困難 鼻咽頭炎, 上気道感染, 扁桃炎, 副鼻腔炎, 喘息, 気管支炎, 口腔咽頭痛, 咽喉乾燥, 鼻乾燥, 鼻出血, 発声障害
眼 眼乾燥, 緑内障, 霧視, 結膜出血
その他 疲労, 多飲症 体重変動(増加, 減少), 無力症, 倦怠感, 浮腫, 筋骨格痛, 筋痙縮, 胸痛 背部痛, 関節痛, 四肢痛, 疼痛, 側腹部痛, 冷感, 発熱, ほてり, 熱感, 粘膜乾燥, ウイルス感染, カンジダ症, 真菌感染, 筋硬直, 関節腫脹, 勃起不全, 月経過多, 不規則月経, 乳房嚢胞, 易刺激性, LDH上昇, 耳鳴 不正子宮出血
(表終了)

フロセミド錠20mg「JG」(20mg1錠)

両 内服 後発 流通

【YJコード】2139005F1079
【薬効分類】2. 1. 3 利尿剤
【一般名】フロセミド
【先発品】ラシックス錠20mg
【メーカー】製)日本ジェネリック
【薬価】6.3円/1T
【薬価収載日】2007/07/06
【標榜薬効】利尿降圧剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】高血圧症(本態性, 腎性等), 悪性高血圧, 心性浮腫(うっ血性心不全), 腎性浮腫, 肝性浮腫, 月経前緊張症, 末梢血管障害による浮腫, 尿路結石排出促進
【用法用量】成人 1回40～80mg 1日1回 連日又は隔日 内服。適宜増減。腎機能不全等 さらに大量使用もあり。
悪性高血圧 他の降圧剤と併用。

■禁忌

【禁忌】1. 無尿。
2. 肝性昏睡。
3. 体液中のナトリウム・カリウムの減少。
4. スルフォンアミド誘導体に過敏症の既往。
5. デスモプレシン酢酸塩水和物(男性の夜間多尿による夜間頻尿)の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. ショック, アナフィラキシー(各頻度不明)。
2. 再生不良性貧血, 汎血球減少症, 無顆粒球症, 血小板減少, 赤芽球癆(各頻度不明)。
3. 水疱性類天疱瘡(頻度不明)。
4. 難聴(頻度不明)。
5. 中毒性表皮壊死融解症, 皮膚粘膜眼症候群, 多形紅斑, 急性汎発性発疹性膿疱症(各頻度不明)。
6. 心室性不整脈(Torsades de pointes)(頻度不明)(低カリウム血症を伴う)。
7. 間質性腎炎(頻度不明)。
8. 間質性肺炎(頻度不明)(咳嗽, 呼吸困難, 発熱, 肺音の異常(捻髪音)等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
血液 貧血, 白血球減少, 好酸球増加, 溶血性貧血
代謝異常 低ナトリウム血症, 低カリウム血症, 低カルシウム血症, 代謝性アルカローシス, 高尿酸血症, 高血糖症, 高トリグリセリド血症, 高コレステロール血症, 偽性バーター症候群
皮膚 発疹, 蕁麻疹, 発赤, 光線過敏症, 掻痒症, 水疱性皮膚炎, 紫斑, 苔癬様皮疹
消化器 食欲不振, 下痢, 悪心・嘔吐, 口渇, 膵炎(血清アミラーゼ値上昇)
肝臓 黄疸, 肝機能異常, 胆汁うっ滞
腎臓 BUN上昇, クレアチニン上昇
精神神経系 眩暈, 頭痛, 知覚異常, 聴覚障害
その他 脱力感, 倦怠感, 起立性低血圧, 筋痙攣, 味覚異常, 血管炎, 発熱
(表終了)

ラシックス注20mg(20mg1管)

内 注射 流通

【YJコード】2139401A2137
【薬効分類】2. 1. 3 利尿剤
【一般名】フロセミド
【メーカー】製)サノフィ 販)日医工
【薬価】64円/1A
【薬価収載日】2003/07/04
【標榜薬効】利尿降圧剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】高血圧症(本態性, 腎性等), 悪性高血圧, 心性浮腫(うっ血性心不全), 腎性浮腫, 肝性浮腫, 脳浮腫, 尿路結石排出促進
【用法用量】成人 1回20mg 1日1回 静注・筋注。
適宜増減。
腎機能不全等 さらに大量使用もあり。
悪性高血圧 他の降圧剤と併用。
注意
静注時は, 緩徐に投与。大量静注の必要時は, 4mg／分以下となるよう速度調節。大量を急速に静注時難聴があらわれやすい。

■禁忌

【禁忌】1. 無尿。
2. 肝性昏睡。
3. 体液中のナトリウム・カリウムの減少。
4. スルフォンアミド誘導体に過敏症の既往。
5. デスモプレシン酢酸塩水和物(男性の夜間多尿による夜間頻尿)の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. ショック, アナフィラキシー(各頻度不明)。
2. 再生不良性貧血, 汎血球減少症, 無顆粒球症, 血小板減少, 赤芽球癆(各頻度不明)。
3. 水疱性類天疱瘡(頻度不明)。
4. 難聴(頻度不明)。
5. 中毒性表皮壊死融解症, 皮膚粘膜眼症候群, 多形紅斑, 急性汎発性発疹性膿疱症(各頻度不明)。
6. 心室性不整脈(Torsades de pointes)(頻度不明)(低カリウム血症を伴う)。
7. 間質性腎炎(頻度不明)。
8. 間質性肺炎(頻度不明)(咳嗽, 呼吸困難, 発熱, 肺音の異常(捻髪音)等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
血液 貧血, 白血球減少, 好酸球増加, 溶血性貧血
代謝異常 低ナトリウム血症, 低カリウム血症, 低カルシウム血症, 代謝性アルカローシス, 高尿酸血症, 高血糖症, 高トリグリセリド血症, 高コレステロール血症, 偽性バーター症候群
皮膚 発疹, 蕁麻疹, 発赤, 光線過敏症, 掻痒症, 水疱性皮膚炎, 紫斑, 苔癬様皮疹
消化器 食欲不振, 下痢, 悪心・嘔吐, 口渇, 膵炎(血清アミラーゼ値上昇)
肝臓 黄疸, 肝機能異常, 胆汁うっ滞
腎臓 BUN上昇, クレアチニン上昇
精神神経系 眩暈, 頭痛, 知覚異常, 聴覚障害
その他 脱力感, 倦怠感, 起立性低血圧, 筋痙攣, 味覚異常, 血管炎, 発熱
(表終了)

2 個々の器官系用医薬品

2．1．4 血圧降下剤

アジルサルタンOD錠20mg「サワイ」（20mg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】2149048F5052
【薬効分類】2．1．4 血圧降下剤
【一般名】アジルサルタン
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】27.4円/1T
【薬価収載日】2023/06/16
【標榜薬効】持続性AT1レセプターブロッカー

■効能効果・用法用量

【効能効果】高血圧症
【用法用量】成人 1回20mg 1日1回 内服。適宜増減，1日最大40mg。
注意
降圧効果を考慮し，適用の可否を慎重に判断，20mgより低用量からの開始も考慮。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性。
3．アリスキレンフマル酸塩を投与中の糖尿病（他の降圧治療でも血圧のコントロールが著しく不良除く）。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．血管浮腫（頻度不明）（顔面，口唇，舌，咽・喉頭等の腫脹）。
2．ショック，失神，意識消失（頻度不明）（冷感，嘔吐等）。
3．急性腎障害（頻度不明）。
4．高カリウム血症（頻度不明）。
5．肝機能障害（頻度不明）（AST，ALT，γ－GTPの上昇等）。
6．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等），急性腎障害。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹，湿疹，掻痒
循環器 眩暈
精神神経系 頭痛
代謝異常 血中カリウム上昇，血中尿酸上昇
消化器 下痢
肝臓 ALT，ASTの上昇
腎臓 BUN，クレアチニンの上昇
その他 血中CK上昇 咳嗽
（表終了）

イミダプリル塩酸塩錠5mg「DSEP」（5mg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】2144008F2184
【薬効分類】2．1．4 血圧降下剤
【一般名】イミダプリル塩酸塩
【先発品】タナトリル錠5
【メーカー】製)第一三共エスファ 販)エッセンシャルファーマ 販)第一三共
【薬価】15.1円/1T
【薬価収載日】2010/09/17
【標榜薬効】アンジオテンシン変換選択性阻害剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○高血圧症
○腎実質性高血圧症
○1型糖尿病に伴う糖尿病性腎症
【用法用量】高血圧症，腎実質性高血圧症
成人 1回5～10mg 1日1回 内服。適宜増減。重症高血圧症，腎障害を伴う高血圧症，腎実質性高血圧症 2．5mgから開始。
1型糖尿病に伴う糖尿病性腎症
成人 1回5mg 1日1回 内服。重篤な腎障害 2．5mgから開始。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．血管浮腫の既往（アンジオテンシン変換酵素阻害剤等による血管浮腫，遺伝性血管浮腫，後天性血管浮腫，特発性血管浮腫等）。
3．デキストラン硫酸固定化セルロース・トリプトファン固定化ポリビニルアルコール・ポリエチレンテレフタレートを用いた吸着器でアフェレーシスを施行中。
4．アクリロニトリルメタリルスルホン酸ナトリウム膜（AN69）を用いた血液透析施行中。
5．妊婦・妊娠の可能性。
6．アリスキレンフマル酸塩を投与中の糖尿病（他の降圧治療でも血圧のコントロールが著しく不良除く）。
7．サクビトリルバルサルタンナトリウム水和物を投与中・中止後36時間以内。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．血管浮腫（頻度不明）（呼吸困難を伴う顔面，舌，声門，喉頭の腫脹）。
2．血小板減少（0．1%未満），汎血球減少（頻度不明）。
3．急性腎障害（頻度不明），腎機能障害の増悪（0．1%未満）。
4．高カリウム血症（0．1%未満）。
5．紅皮症（剥脱性皮膚炎），皮膚粘膜眼症候群，天疱瘡様症状（各頻度不明）（紅斑，水疱，掻痒，発熱，粘膜疹等）。
6．膵炎（頻度不明）（血中のアミラーゼ，リパーゼの上昇等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
血液 赤血球，ヘモグロビン，ヘマトクリット，血小板，白血球の減少，好酸球増多
腎臓 血清クレアチニン，BUNの上昇，蛋白尿
精神神経系 頭痛，ふらつき，眩暈，立ちくらみ，不眠 眠気
循環器 動悸 低血圧
呼吸器 咳，咽頭部異和感・不快感，痰 嗄声
消化器 悪心，嘔吐，胃部不快感，腹痛，下痢 嘔気，食欲不振
肝臓 AST，ALT，AI－P，LDHの上昇 γ－GTPの上昇，黄疸
過敏症 発疹，掻痒 光線過敏症，蕁麻疹
その他 血清カリウムの上昇，口渇，CKの上昇，倦怠感，顔面潮紅 脱毛，しびれ，脱力感，低血糖，耳鳴，味覚異常，胸部不快感，疲労，浮腫
（表終了）

エナラプリルマレイン酸塩錠5mg「トーワ」（5mg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】2144002F2349
【薬効分類】2．1．4 血圧降下剤
【一般名】エナラプリルマレイン酸塩
【先発品】レニベース錠5
【メーカー】製)東和薬品 販)日医工
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2013/06/21
【標榜薬効】持続性ACE阻害剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．本態性高血圧症，腎性高血圧症，腎血管性高血圧症，悪性高血圧
2．下記でジギタリス製剤，利尿剤等の基礎治療剤が効果不十分時
慢性心不全（軽症～中等症）
注意
慢性心不全（軽症～中等症）
1．ジギタリス製剤，利尿剤等の基礎治療剤で効果不十分時のみ，追加投与。単独投与での有用性は未確立。
2．重症の慢性心不全の有用性は未確立。
【用法用量】1．高血圧症
成人 1回5～10mg 1日1回 内服。
適宜増減。
腎性・腎血管性高血圧症，悪性高血圧
2．5mgから開始。
生後1ヵ月以上の小児 1回0．08mg／kg 1日1回 内服。
適宜増減。
2．慢性心不全（軽症～中等症）
ジギタリス製剤，利尿剤等と併用。
成人 1回5～10mg 1日1回 内服。
適宜増減。
腎障害，又は利尿剤投与中
初回量 2．5mgから開始。
注意
小児等には，1日10mgまで。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．血管浮腫の既往（アンジオテンシン変換酵素阻害剤等による血管浮腫，遺伝性血管浮腫，後天性血管浮腫，特発性血管浮腫等）。
3．デキストラン硫酸固定化セルロース・トリプトファン固定化ポリビニルアルコール・ポリエチレンテレフタレートを用いた吸着器でアフェレーシスを施行中。
4．アクリロニトリルメタリルスルホン酸ナトリウム膜（AN69）を用いた血液透析施行中。
5．妊婦・妊娠の可能性。
6．アリスキレンを投与中の糖尿病（他の降圧治療でも血圧のコントロールが著しく不良除く）。
7．アンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害薬（サクビトリルバルサルタンナトリウム水和物）の投与中・中止後36時間以内。

2 個々の器官系用医薬品

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 血管浮腫(頻度不明)(呼吸困難を伴う顔面，舌，声門，喉頭の腫脹)，腸管の血管浮腫(腹痛，嘔気，嘔吐，下痢等)。
2. ショック(頻度不明)。
3. 心筋梗塞，狭心症(各頻度不明)。
4. 急性腎障害(頻度不明)。
5. 汎血球減少症，無顆粒球症，血小板減少(各頻度不明)。
6. 膵炎(頻度不明)(血中のアミラーゼ，リパーゼの上昇等)。
7. 間質性肺炎(頻度不明)(発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等)。
8. 剥脱性皮膚炎，中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，天疱瘡(各頻度不明)。
9. 錯乱(頻度不明)。
10. 肝機能障害，肝不全(各頻度不明)。
11. 高カリウム血症(0. 8%)。
12. 抗利尿ホルモン不適合分泌症候群(頻度不明)(低ナトリウム血症，低浸透圧血症，尿中ナトリウム排泄量の増加，高張尿，痙攣，意識障害等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
腎臓 クレアチニン上昇 BUN上昇
血液 貧血，白血球減少 ヘモグロビン低下，ヘマトクリット低下，好酸球増多
皮膚 発疹，掻痒 蕁麻疹 光線過敏症，多汗，脱毛
精神神経系 眩暈，頭痛，眠気 不眠 いらいら感，抑うつ
循環器 低血圧，動悸，胸痛 起立性低血圧，調律障害(頻脈，徐脈)
消化器 腹痛，食欲不振，嘔気，下痢，消化不良，口内炎 嘔吐 舌炎，便秘
肝臓 AST上昇，ALT上昇 黄疸
呼吸器 咳嗽，咽(喉)頭炎 喘息，嗄声
その他 倦怠感，ほてり，口渇，味覚異常，脱力感，しびれ 発熱，血清ナトリウム値低下 潮紅，疲労，インポテンス，耳鳴，筋肉痛，低血糖
(表終了)

エブランチルカプセル15mg（15mg1カプセル）

両 内服 流通

【YJコード】2149020N1031
【薬効分類】2. 1. 4 血圧降下剤
【一般名】ウラピジル
【メーカー】製)科研製薬 販)三和化学研究所
【薬価】15.8円/1C
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】排尿障害改善・降圧剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 本態性高血圧症，腎性高血圧症，褐色細胞腫による高血圧症
2. 前立腺肥大症に伴う排尿障害
3. 神経因性膀胱に伴う排尿困難
注意
前立腺肥大症に伴う排尿障害
原因療法ではなく対症療法。効果不十分時は手術療法等他の処置を考慮。
【用法用量】1. 本態性高血圧症，腎性高血圧症，褐色細胞腫による高血圧症
成人 1回15mg 1日30mgから開始 1日2回 効果不十分時 1～2週間あけて 1日120mgまで漸増 1日2回 分割 朝・夕食後 内服。
適宜増減。
2. 前立腺肥大症に伴う排尿障害
成人 1回15mg 1日30mgから開始 1日2回 効果不十分時 1～2週間あけて 1日60～90mgまで漸増 1日2回 分割 朝・夕食後 内服。
適宜増減，1日最高90mg。
3. 神経因性膀胱に伴う排尿困難
成人 1回15mg 1日30mgから開始 1日2回 1～2週間あけて 1日60mgに漸増 1日2回 分割 朝・夕食後 内服。
適宜増減，1日最高90mg。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
肝機能障害(頻度不明)(AST，ALT，γ－GTP，AI－P等の著しい上昇)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満
精神神経系 頭痛・頭重，眩暈，ふらつき，不眠 しびれ感，眠気，肩こり，意識喪失
循環器 立ちくらみ，動悸，ほてり，のぼせ，胸部不快感，低血圧 頻脈
消化器 嘔気・嘔吐，口渇，胃部不快感，下痢，腹痛 腹部膨満感，便秘，食欲不振
肝臓 AST上昇，ALT上昇，LDH上昇等 AI－P上昇等
泌尿器 尿蛋白増加，頻尿，尿失禁
血液 好中球減少，血小板減少
過敏症 発疹 掻痒
その他 倦怠感，浮腫，鼻閉，CK上昇 耳鳴，息切れ，かすみ目
(表終了)

エプレレノン錠50mg「杏林」（50mg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】2149045F2033
【薬効分類】2. 1. 4 血圧降下剤
【一般名】エプレレノン
【先発品】セララ錠50mg
【メーカー】製)キョーリンリメディオ 販)杏林製薬
【薬価】21.2円/1T
【薬価収載日】2023/06/16
【標榜薬効】選択的ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 高血圧症
2. 下記でアンジオテンシン変換酵素阻害薬又はアンジオテンシンII受容体拮抗薬，β遮断薬，利尿薬等の基礎治療中
慢性心不全
【用法用量】高血圧症
成人 エプレレノン 1回50mgから開始 1日1回 投与。効果不十分時 100mgまで。
慢性心不全
成人 エプレレノン 1回25mgから開始 1日1回 投与。血清カリウム値，患者の状態に応じ 開始から4週間以降を目安 1日1回50mgへ増量。
中等度の腎機能障害 1日1回 隔日 25mgから開始，最大量は1日1回25mg。血清カリウム値，患者の状態に応じ 適宜減量・中断。
注意
効能共通
1. CYP3A4阻害薬と併用時 1日1回25mgまで。
高血圧症
2. 血清カリウム値が5mEq／Lを超えた時は減量を考慮し，5. 5mEq／Lを超えた時は減量・中止し，6mEq／L以上の時は直ちに中止。
慢性心不全
3. 中等度の腎機能障害(クレアチニンクリアランス30mL／分以上50mL／分未満)
1日1回隔日25mgから開始し，血清カリウム値，患者の状態に応じ，開始から4週間以降を目安に1日1回25mgへ増量。最大量は1日1回25mg。
4. 定期的に血清カリウム測定を実施，表に従って用法・用量を調節。
表 血清カリウム値による用法・用量調節
(表開始)
血清カリウム値 mEq／L 用法・用量調節
5未満 50mg1日1回；維持 25mg1日1回；50mg1日1回に増量 25mg隔日；25mg1日1回に増量
5～5. 4 維持
5. 5～5. 9 50mg1日1回；25mg1日1回に減量 25mg1日1回；25mg隔日に減量 25mg隔日；中断
6以上 中断
(表終了)
中断後，血清カリウム値が5未満に下がった時は，25mg隔日にて再開できる。

■禁忌
【禁忌】効能共通
1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 高カリウム血症，血清カリウム値が5. 0mEq／Lを超えている患者。
3. 重度の腎機能障害(クレアチニンクリアランス30mL／分未満)。
4. 重度の肝機能障害(Child－Pugh分類クラスCの肝硬変に相当)。
5. カリウム保持性利尿薬・ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬の投与患者。
6. イトラコナゾール，リトナビル含有製剤，エンシトレルビル フマル酸の投与患者。
高血圧症
7. 微量アルブミン尿・蛋白尿を伴う糖尿病。
8. 中等度以上の腎機能障害(クレアチニンクリアランス50mL／分未満)。
9. カリウム製剤(放射性ヨウ素による甲状腺の内部被曝の予防・低減時のヨウ化カリウム除く)の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
高カリウム血症(高血圧症(1. 7%)，慢性心不全(7. 3%))。
その他の副作用(発現時中止等)(高血圧症)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0. 5～1%未満 0. 5%未満
血液・リンパ系障害 貧血，溢血斑
代謝・栄養障害 高尿酸血症 高トリグリセリド血症 高血糖，口渇，痛風，

2 個々の器官系用医薬品

高カルシウム血症，脱水，糖尿病悪化，低ナトリウム血症，食欲亢進
精神障害　不眠症，うつ病，神経過敏，不安
神経系障害 頭痛，眩暈　異常感覚，起立性低血圧，傾眠，知覚減退，眩暈，片頭痛，失神，健忘
心臓障害　心悸亢進 頻脈，期外収縮，不整脈，狭心症
血管障害　低血圧，脳血管障害
呼吸器，胸郭・縦隔障害　咳，感冒症状・上気道感染 呼吸困難，咽頭炎，鼻炎，副鼻腔炎，鼻出血，喘息・喘鳴
胃腸障害 嘔気，消化不良 下痢，腹痛，便秘 嘔吐，口内乾燥，胃食道逆流，鼓腸放屁，味覚倒錯
肝胆道系障害　脂肪肝，肝機能異常
皮膚・皮下組織障害　発疹，多汗 掻痒症，皮膚疾患，蕁麻疹，皮膚乾燥，血管神経性浮腫
筋骨格系・結合組織障害 筋痙攣　関節痛，筋痛，四肢疼痛，背部痛，筋脱力，攣縮
腎・尿路障害　頻尿 多尿，蛋白尿，夜間頻尿，血尿，尿路感染
一般・全身障害・投与部位の状態 疲労 末梢性浮腫，無力症，胸痛 潮紅，ほてり，疼痛，倦怠感
臨床検査 ALT上昇，γ－GTP上昇，AST上昇 CK上昇，BUN上昇 ECG異常，血中クレアチニン上昇，単球増多，コレステロール増加，尿比重減少，AI－P上昇，好酸球増多，プロトロンビン減少，尿比重増加，リンパ球増多，好塩基球増多，LDH上昇，白血球増多，尿糖，ビリルビン増加，ヘモグロビン増加
眼障害　眼痛，視覚異常，眼球乾燥，霧視
耳・迷路障害　耳鳴
生殖系・乳房障害　勃起障害 女性化乳房，リビドー減退，月経異常
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（慢性心不全）
（表開始）
発現部位等 1%以上 0．5～1%未満 0．5%未満 頻度不明
感染症・寄生虫症　限局性感染，ウイルス感染，耳感染，上気道感染 咽頭炎
血液・リンパ系障害　貧血 好酸球増加症
内分泌障害　甲状腺機能低下症
代謝・栄養障害　脱水，痛風，高尿酸血症，食欲減退，高カルシウム血症，糖尿病，高トリグリセリド血症，低ナトリウム血症 高コレステロール血症
精神障害　不眠症，うつ病
神経系障害 眩暈 頭痛 失神，感覚鈍麻，末梢性ニューロパチー，記憶障害
心臓障害　心不全増悪 動悸，徐脈，心室細動，心房細動，頻脈 左室不全
血管障害 低血圧　起立性低血圧，静脈障害
呼吸器，胸郭・縦隔障害　呼吸困難，咳嗽
胃腸障害　腹痛，嘔気 下痢，腹部不快感，嘔吐，胃炎，口内炎，便秘，口内乾燥，放屁
肝胆道系障害　肝機能異常 胆嚢炎
皮膚・皮下組織障害　掻痒症 多汗症，発疹 血管浮腫
筋骨格系・結合組織障害　筋骨格痛，筋痙縮 背部痛
腎・尿路障害 腎機能障害 腎不全 頻尿，慢性腎臓病
一般・全身障害・投与部位の状態　疲労 疼痛，倦怠感，胸痛，発熱 無力症
臨床検査　血中クレアチニン増加，BUN上昇 上皮成長因子受容体減少，糸球体濾過率減少，体重増加 血中ブドウ糖増加
耳・迷路障害　耳鳴
生殖系・乳房障害　女性化乳房
良性，悪性，詳細不明の新生物（嚢胞・ポリープ含む）　膀胱新生物
（表終了）

オルメサルタンOD錠20mg「DSEP」（20mg1錠）

両　内服　後発　流通

【YJコード】2149044F6034
【薬効分類】2．1．4　血圧降下剤
【一般名】オルメサルタン　メドキソミル
【先発品】オルメテックOD錠20mg
【メーカー】製)第一三共エスファ　販)第一三共
【薬価】18円/1T
【薬価収載日】2017/06/16
【標榜薬効】高親和性AT1レセプターブロッカー

■効能効果・用法用量

【効能効果】高血圧症
【用法用量】成人　1日10～20mg　1日1回　内服。1日5～10mgから開始。
適宜増減，1日最大40mg。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性。
3．アリスキレンフマル酸塩を投与中の糖尿病（他の降圧治療でも血圧のコントロールが著しく不良除く）。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．血管浮腫（頻度不明）（顔面，口唇，咽頭，舌の腫脹等）。
2．腎不全（頻度不明）。
3．高カリウム血症（頻度不明）。
4．ショック（頻度不明），失神（頻度不明），意識消失（頻度不明）（冷感，嘔吐等）。
5．肝機能障害（頻度不明）（AST，ALT，γ－GTP上昇等），黄疸（頻度不明）。
6．血小板減少（頻度不明）。
7．低血糖（頻度不明）（脱力感，空腹感，冷汗，手の震え，集中力低下，痙攣，意識障害等）。
8．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇）。
9．アナフィラキシー（頻度不明）（掻痒感，全身発赤，血圧低下，呼吸困難等），アナフィラキシーショック。
10．重度の下痢（頻度不明）（体重減少），腸絨毛萎縮等。
11．間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
過敏症　発疹 掻痒
血液 赤血球数減少，ヘモグロビン減少，ヘマトクリット減少 白血球数増加，血小板数減少 貧血
精神神経系 眩暈，立ちくらみ，ふらつき感 頭痛，頭重感，眠気
消化器　軟便 下痢，嘔気・嘔吐，口渇，口内炎，胃部不快感，便秘，腹痛
循環器　心房細動，動悸，ほてり，胸痛
肝臓 ALT上昇，AST上昇，γ－GTP上昇，LDH上昇 AI－P上昇
泌尿器 BUN上昇 血清クレアチニン上昇，尿蛋白陽性，尿沈渣陽性 頻尿
その他 CK上昇，CRP上昇，トリグリセリド上昇，血清カリウム上昇，尿酸上昇 全身倦怠感，咳嗽 浮腫，異常感（浮遊感，気分不良等），胸部不快感，筋肉痛，脱力感，疲労，しびれ，味覚異常，脱毛
（表終了）

カルベジロール錠1．25mg「サワイ」（1．25mg1錠）

両　内服　流通

【YJコード】2149032F3032
【薬効分類】2．1．4　血圧降下剤
【一般名】カルベジロール
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2014/06/20
【標榜薬効】慢性心不全治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記でアンジオテンシン変換酵素阻害薬，利尿薬，ジギタリス製剤等の基礎治療中
虚血性心疾患・拡張型心筋症による慢性心不全
注意
虚血性心疾患・拡張型心筋症による慢性心不全
左室収縮機能障害の原因解明に努める。可逆的な左室収縮機能障害は，原因除去・他の治療も考慮。
【用法用量】虚血性心疾患・拡張型心筋症による慢性心不全
成人　1回1．25mgから開始　1日2回　食後　内服。用量に忍容性がある時，1週間以上の間隔で忍容性をみながら漸増し，忍容性がない時は減量。用量の増減は必ず段階的に行い，1回量は1．25mg，2．5mg，5mg，10mgのいずれかとし，いずれも1日2回　食後　内服。維持量　1回2．5～10mg　1日2回　食後　内服。
開始量はさらに低用量としてよい。維持量は適宜増減。
注意
効能共通
1．褐色細胞腫・パラガングリオーマ α遮断薬で初期治療後に投与し，常にα遮断薬を併用。
虚血性心疾患・拡張型心筋症による慢性心不全
4．本剤の中止は，段階的に半量ずつ，2．5mg又は1．25mg，1日2回まで1～2週間かけて減量し中止。
5．2週間以上休薬後の再開時は，用法・用量に従って低用量から開始し，漸増。

■禁忌

【禁忌】1．気管支喘息，気管支痙攣のおそれ。
2．糖尿病性ケトアシドーシス，代謝性アシドーシス。
3．高度の徐脈（著しい洞性徐脈），房室ブロック（II，III度），洞房ブロック。
4．心原性ショック。
5．強心薬・血管拡張薬の静注を要する心不全。
6．非代償性の心不全。
7．肺高血圧による右心不全。
8．未治療の褐色細胞腫・パラガングリオーマ。
9．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．高度な徐脈（頻度不明），ショック（頻度不明），完全房室ブロック（頻度不明），心不全（頻度不明），心停止（頻度不明）。

2 個々の器官系用医薬品

2. 肝機能障害(頻度不明)(AST, ALT, γ－GTPの上昇等), 黄疸(頻度不明)。
3. 急性腎障害(頻度不明)。
4. 中毒性表皮壊死融解症(頻度不明), 皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)。
5. アナフィラキシー(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)(本態性高血圧症(軽症～中等症), 腎実質性高血圧症, 狭心症, 頻脈性心房細動)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹, 掻痒感
循環器 徐脈, 顔面潮紅 低血圧, 動悸, 頻脈, 心房細動, 期外収縮, 脚ブロック, 血圧上昇, 心胸比増大, 四肢冷感, 房室ブロック, 狭心症
呼吸器 喘息様症状 咳嗽, 呼吸困難, 息切れ, 鼻閉
精神神経系 眩暈, 眠気, 頭痛 失神, 不眠, 抑うつ, 注意力低下, 異常感覚(四肢のしびれ感等), 幻覚
消化器 胃部不快感, 嘔吐 悪心 便秘, 下痢, 食欲不振, 腹痛
代謝 CK上昇 血糖値上昇, 尿酸上昇, 総コレステロール上昇, AI－P上昇, LDH上昇, 低血糖, 尿糖, トリグリセリド上昇, カリウム上昇, 糖尿病悪化, カリウム低下, ナトリウム低下
肝臓 AST上昇, ALT上昇
腎臓・泌尿器 腎機能障害(BUN上昇, クレアチニン上昇等), 尿失禁, 頻尿, 蛋白尿
血液 貧血, 白血球減少, 血小板減少
眼 霧視, 涙液分泌減少
その他 倦怠感 浮腫, 脱力感, 勃起不全, 耳鳴, 疲労感, 胸痛, 疼痛, 発汗, 口渇
(表終了)
その他の副作用(発現時中止等)(虚血性心疾患・拡張型心筋症による慢性心不全)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
過敏症 発疹, 掻痒感
循環器 徐脈, 動悸, 頻脈, 心房細動, 期外収縮, 房室ブロック, 脚ブロック, 低血圧, 血圧上昇, 四肢冷感, 顔面潮紅 心胸比増大, 狭心症
呼吸器 呼吸困難, 息切れ 喘息様症状, 咳嗽, 鼻閉
精神神経系 眩暈 不眠, 頭痛 眠気, 注意力低下, 失神, 抑うつ, 異常感覚(四肢のしびれ感等), 幻覚
消化器 悪心, 胃部不快感, 便秘, 下痢, 食欲不振 腹痛, 嘔吐
代謝 血糖値上昇, 尿糖, LDH上昇, 総コレステロール上昇, CK上昇 糖尿病悪化, AI－P上昇, 尿酸上昇, カリウム上昇, ナトリウム低下, カリウム低下 低血糖, トリグリセリド上昇
肝臓 AST上昇, ALT上昇
腎臓・泌尿器 腎機能障害(BUN上昇, クレアチニン上昇等) 蛋白尿 尿失禁, 頻尿
血液 貧血, 血小板減少, 白血球減少
眼 霧視, 涙液分泌減少
その他 浮腫, 倦怠感, 疲労感, 胸痛 耳鳴, 脱力感, 勃起不全, 疼痛, 発汗, 口渇
(表終了)

カルベジロール錠10mg「サワイ」(10mg1錠)

両 内服 後発 流通
ハイリスク

【YJコード】2149032F1099
【薬効分類】2. 1. 4 血圧降下剤
【一般名】カルベジロール
【先発品】アーチスト錠10mg
【メーカー】(製)沢井製薬
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2011/11/28
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】持続性高血圧・狭心症, 慢性心不全・頻脈性心房細動治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1. 本態性高血圧症(軽症～中等症)
2. 腎実質性高血圧症
3. 狭心症
4. 下記でアンジオテンシン変換酵素阻害薬, 利尿薬, ジギタリス製剤等の基礎治療中
虚血性心疾患・拡張型心筋症による慢性心不全
5. 頻脈性心房細動
注意
虚血性心疾患・拡張型心筋症による慢性心不全
左室収縮機能障害の原因解明に努める。可逆的な左室収縮機能障害は, 原因除去・他の治療も考慮。
【用法用量】本態性高血圧症(軽症～中等症), 腎実質性高血圧症
成人 1回10～20mg 1日1回 内服。適宜増減。
狭心症
成人 1回20mg 1日1回 内服。適宜増減。
虚血性心疾患・拡張型心筋症による慢性心不全
成人 1回1. 25mgから開始 1日2回 食後 内服。用量に忍容性がある時, 1週間以上の間隔で忍容性をみながら漸増し, 忍容性がない時は減量。用量の増減は必ず段階的に行い, 1回量は1. 25mg, 2. 5mg, 5mg, 10mgのいずれかとし, いずれも1日2回 食後 内服。維持量 1回2. 5～10mg 1日2回 食後 内服。
開始量はさらに低用量としてよい。維持量は適宜増減。
頻脈性心房細動
成人 1回5mg 1日1回 内服。効果不十分時 1回10mg 1日1回, 1回20mg 1日1回 漸増。適宜増減。1日最大20mg 1日1回まで。
注意
効能共通
1. 褐色細胞腫・パラガングリオーマ α遮断薬で初期治療後に投与し, 常にα遮断薬を併用。
本態性高血圧症(軽症～中等症), 腎実質性高血圧症, 狭心症
2. 頻脈性心房細動を合併 頻脈性心房細動の用法・用量は1日1回5mgから開始, 血圧や心拍数, 症状等に応じ, 開始量を設定。
本態性高血圧症(軽症～中等症), 腎実質性高血圧症, 狭心症, 頻脈性心房細動
3. 慢性心不全を合併 慢性心不全の用法・用量に従う。
虚血性心疾患・拡張型心筋症による慢性心不全
4. 本剤の中止は, 段階的に半量ずつ, 2. 5mg又は1. 25mg, 1日2回まで1～2週間かけて減量し中止。
5. 2週間以上休薬後の再開時は, 用法・用量に従って低用量から開始し, 漸増。

■禁忌

【禁忌】1. 気管支喘息, 気管支痙攣のおそれ。
2. 糖尿病性ケトアシドーシス, 代謝性アシドーシス。
3. 高度の徐脈(著しい洞性徐脈), 房室ブロック(II, III度), 洞房ブロック。
4. 心原性ショック。
5. 強心薬・血管拡張薬の静注を要する心不全。
6. 非代償性の心不全。
7. 肺高血圧による右心不全。
8. 未治療の褐色細胞腫・パラガングリオーマ。
9. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 高度な徐脈(頻度不明), ショック(頻度不明), 完全房室ブロック(頻度不明), 心不全(頻度不明), 心停止(頻度不明)。
2. 肝機能障害(頻度不明)(AST, ALT, γ－GTPの上昇等), 黄疸(頻度不明)。
3. 急性腎障害(頻度不明)。
4. 中毒性表皮壊死融解症(頻度不明), 皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)。
5. アナフィラキシー(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)(本態性高血圧症(軽症～中等症), 腎実質性高血圧症, 狭心症, 頻脈性心房細動)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹, 掻痒感
循環器 徐脈, 顔面潮紅 低血圧, 動悸, 頻脈, 心房細動, 期外収縮, 脚ブロック, 血圧上昇, 心胸比増大, 四肢冷感, 房室ブロック, 狭心症
呼吸器 喘息様症状 咳嗽, 呼吸困難, 息切れ, 鼻閉
精神神経系 眩暈, 眠気, 頭痛 失神, 不眠, 抑うつ, 注意力低下, 異常感覚(四肢のしびれ感等), 幻覚
消化器 胃部不快感, 嘔吐 悪心 便秘, 下痢, 食欲不振, 腹痛
代謝 CK上昇 血糖値上昇, 尿酸上昇, 総コレステロール上昇, AI－P上昇, LDH上昇, 低血糖, 尿糖, トリグリセリド上昇, カリウム上昇, 糖尿病悪化, カリウム低下, ナトリウム低下
肝臓 AST上昇, ALT上昇
腎臓・泌尿器 腎機能障害(BUN上昇, クレアチニン上昇等), 尿失禁, 頻尿, 蛋白尿
血液 貧血, 白血球減少, 血小板減少
眼 霧視, 涙液分泌減少
その他 倦怠感 浮腫, 脱力感, 勃起不全, 耳鳴, 疲労感, 胸痛, 疼痛, 発汗, 口渇
(表終了)
その他の副作用(発現時中止等)(虚血性心疾患・拡張型心筋症による慢性心不全)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
過敏症 発疹, 掻痒感
循環器 徐脈, 動悸, 頻脈, 心房細動, 期外収縮, 房室ブロック, 脚ブロック, 低血圧, 血圧上昇, 四肢冷感, 顔面潮紅 心胸比増大, 狭心症
呼吸器 呼吸困難, 息切れ 喘息様症状, 咳嗽, 鼻閉
精神神経系 眩暈 不眠, 頭痛 眠気, 注意力低下, 失神, 抑うつ, 異常感覚(四肢のしびれ感等), 幻覚
消化器 悪心, 胃部不快感, 便秘, 下痢, 食欲不振 腹痛, 嘔吐
代謝 血糖値上昇, 尿糖, LDH上昇, 総コレステロール上昇, CK上昇 糖尿病悪化, AI－P上昇, 尿酸上昇, カリウム上昇, ナトリウム低下, カリウム低下 低血糖, トリグリセリド上昇
肝臓 AST上昇, ALT上昇
腎臓・泌尿器 腎機能障害(BUN上昇, クレアチニン上昇等) 蛋白尿 尿失禁, 頻尿
血液 貧血, 血小板減少, 白血球減少
眼 霧視, 涙液分泌減少
その他 浮腫, 倦怠感, 疲労感, 胸痛 耳鳴, 脱力感, 勃起不全, 疼痛, 発汗, 口渇
(表終了)

2 個々の器官系用医薬品

カルベジロール錠2．5mg「サワイ」（2．5mg1錠）

両 内服 後発 流通
ハイリスク

【YJコード】2149032F4039
【薬効分類】2．1．4 血圧降下剤
【一般名】カルベジロール
【先発品】アーチスト錠2．5mg
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2014/06/20
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】慢性心不全・頻脈性心房細動治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．下記でアンジオテンシン変換酵素阻害薬，利尿薬，ジギタリス製剤等の基礎治療中
虚血性心疾患・拡張型心筋症による慢性心不全
2．頻脈性心房細動
注意
虚血性心疾患・拡張型心筋症による慢性心不全
左室収縮機能障害の原因解明に努める。可逆的な左室収縮機能障害は，原因除去・他の治療も考慮。
【用法用量】虚血性心疾患・拡張型心筋症による慢性心不全
成人 1回1．25mgから開始 1日2回 食後 内服。用量に忍容性がある時，1週間以上の間隔で忍容性をみながら漸増し，忍容性がない時は減量。用量の増減は必ず段階的に行い，1回量は1．25mg，2．5mg，5mg，10mgのいずれかとし，いずれも1日2回 食後 内服。維持量 1回2．5～10mg 1日2回 食後 内服。
開始量はさらに低用量としてよい。維持量は適宜増減。
頻脈性心房細動
成人 1回5mgから開始 1日1回 内服。効果不十分時 1回10mg 1日1回，1回20mg 1日1回 漸増。適宜増減。1日最大20mg 1日1回まで。
注意
効能共通
1．褐色細胞腫・パラガングリオーマ α遮断薬で初期治療後に投与し，常にα遮断薬を併用。
本態性高血圧症（軽症～中等症），腎実質性高血圧症，狭心症，頻脈性心房細動
3．慢性心不全を合併 慢性心不全の用法・用量に従う。
虚血性心疾患・拡張型心筋症による慢性心不全
4．本剤の中止は，段階的に半量ずつ，2．5mg又は1．25mg，1日2回まで1～2週間かけて減量し中止。
5．2週間以上休薬後の再開時は，用法・用量に従って低用量から開始し，漸増。

■禁忌

【禁忌】1．気管支喘息，気管支痙攣のおそれ。
2．糖尿病性ケトアシドーシス，代謝性アシドーシス。
3．高度の徐脈（著しい洞性徐脈），房室ブロック（II，III度），洞房ブロック。
4．心原性ショック。
5．強心薬・血管拡張薬の静注を要する心不全。
6．非代償性の心不全。
7．肺高血圧による右心不全。
8．未治療の褐色細胞腫・パラガングリオーマ。
9．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．高度な徐脈（頻度不明），ショック（頻度不明），完全房室ブロック（頻度不明），心不全（頻度不明），心停止（頻度不明）。
2．肝機能障害（頻度不明）（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（頻度不明）。
3．急性腎障害（頻度不明）。
4．中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），皮膚粘膜眼症候群（頻度不明）。
5．アナフィラキシー（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）（本態性高血圧症（軽症～中等症），腎実質性高血圧症，狭心症，頻脈性心房細動）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感
循環器 徐脈，顔面潮紅 低血圧，動悸，頻脈，心房細動，期外収縮，脚ブロック，血圧上昇，心胸比増大，四肢冷感，房室ブロック，狭心症
呼吸器 喘息様症状 咳嗽，呼吸困難，息切れ，鼻閉
精神神経系 眩暈，眠気，頭痛 失神，不眠，抑うつ，注意力低下，異常感覚（四肢のしびれ感等），幻覚
消化器 胃部不快感，嘔吐 悪心 便秘，下痢，食欲不振，腹痛
代謝 CK上昇 血糖値上昇，尿酸上昇，総コレステロール上昇，AI－P上昇，LDH上昇，低血糖，尿糖，トリグリセリド上昇，カリウム上昇，糖尿病悪化，カリウム低下，ナトリウム低下
肝臓 AST上昇，ALT上昇
腎臓・泌尿器 腎機能障害（BUN上昇，クレアチニン上昇等），尿失禁，頻尿，蛋白尿
血液 貧血，白血球減少，血小板減少
眼 霧視，涙液分泌減少
その他 倦怠感 浮腫，脱力感，勃起不全，耳鳴，疲労感，胸痛，疼痛，発汗，口渇
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（虚血性心疾患・拡張型心筋症による慢性心不全）
（表開始）
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感
循環器 徐脈，動悸，頻脈，心房細動，期外収縮，房室ブロック，脚ブロック，低血圧，血圧上昇，四肢冷感，顔面潮紅 心胸比増大，狭心症
呼吸器 呼吸困難，息切れ 喘息様症状，咳嗽，鼻閉
精神神経系 眩暈 不眠，頭痛 眠気，注意力低下，失神，抑うつ，異常感覚（四肢のしびれ感等），幻覚
消化器 悪心，胃部不快感，便秘，下痢，食欲不振 腹痛，嘔吐
代謝 血糖値上昇，尿糖，LDH上昇，総コレステロール上昇，CK上昇
糖尿病悪化，AI－P上昇，尿酸上昇，カリウム上昇，ナトリウム低下，カリウム低下 低血糖，トリグリセリド上昇
肝臓 AST上昇，ALT上昇
腎臓・泌尿器 腎機能障害（BUN上昇，クレアチニン上昇等） 蛋白尿 尿失禁，頻尿
血液 貧血，血小板減少，白血球減少
眼 霧視，涙液分泌減少
その他 浮腫，倦怠感，疲労感，胸痛 耳鳴，脱力感，勃起不全，疼痛，発汗，口渇
（表終了）

カンデサルタン錠4mg「あすか」（4mg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】2149040F2030
【薬効分類】2．1．4 血圧降下剤
【一般名】カンデサルタン シレキセチル
【先発品】ブロプレス錠4
【メーカー】製)あすか製薬 販)武田薬品工業
【薬価】15.3円/1T
【薬価収載日】2014/06/20
【標榜薬効】持続性アンジオテンシンII受容体拮抗剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○高血圧症
○腎実質性高血圧症
下記でアンジオテンシン変換酵素阻害剤の投与が不適切な時
○慢性心不全（軽症～中等症）
注意
慢性心不全
1．アンジオテンシン変換酵素阻害剤投与による前治療が行われていない患者への有効性は未確認，アンジオテンシン変換酵素阻害剤から切りかえて投与。
2．アンジオテンシン変換酵素阻害剤の効果不十分な患者への有効性・安全性，アンジオテンシン変換酵素阻害剤を併用時の有効性・安全性は未確認。
3．NYHA心機能分類IVの慢性心不全への有用性は未確立。
【用法用量】高血圧症
成人
1回4～8mg 1日1回 内服。必要時 12mgまで増量。腎障害を伴う時 1回2mgから開始 1日1回 内服。必要時 8mgまで増量。
小児
1～6歳未満 1回0．05～0．3mg／kg 1日1回 内服。
6歳以上 1回2～8mg 1日1回 内服，必要時 12mgまで増量。
腎障害を伴う時 低用量から開始，必要時 8mgまで増量。
腎実質性高血圧症
成人 1回2mgから開始 1日1回 内服。必要時 8mgまで増量。
慢性心不全
成人 1回4mgから開始 1日1回 内服。必要時 8mgまで。アンジオテンシン変換酵素阻害剤以外による基礎治療は継続。
注意
高血圧症
小児に投与時は，成人量まで。
慢性心不全
投与開始時の収縮期血圧が120mmHg未満，腎障害，利尿剤の併用，心不全の重症者には，2mg／日から開始。2mg／日投与は，4週間まで。
一過性の急激な血圧低下の可能性，初回，4mg／日，8mg／日への増量時には，血圧等の観察を行う。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性。
3．アリスキレンフマル酸塩を投与中の糖尿病（他の降圧治療でも血圧のコントロールが著しく不良除く）。

■副作用

【副作用】重大な副作用

2 個々の器官系用医薬品

1. 血管浮腫(頻度不明)(顔面, 口唇, 舌, 咽・喉頭等の腫脹)。
2. ショック(頻度不明), 失神, 意識消失(頻度不明, 慢性心不全は0. 1～5%未満)(冷感, 嘔吐等)。
3. 急性腎障害(頻度不明, 慢性心不全は0. 1～5%未満)。
4. 高カリウム血症(頻度不明)。
5. 肝機能障害(AST, ALT, γ－GTPの上昇等), 黄疸(頻度不明)。
6. 無顆粒球症(頻度不明)。
7. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇)。
8. 間質性肺炎(頻度不明)(発熱, 咳嗽, 呼吸困難, 胸部X線異常等)。
9. 低血糖(頻度不明)(脱力感, 空腹感, 冷汗, 手の震え, 集中力低下, 痙攣, 意識障害等)。
その他の副作用(発現時中止等)(高血圧症)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹, 湿疹, 蕁麻疹, 掻痒, 光線過敏症
循環器 眩暈, ふらつき, 立ちくらみ, 動悸, ほてり 期外収縮, 心房細動
精神神経系 頭痛, 頭重感, 不眠, 眠気, 舌のしびれ感 四肢のしびれ感
消化器 悪心, 嘔吐, 食欲不振, 胃部不快感, 心窩部痛, 下痢, 口内炎 味覚異常
肝臓 AST, ALT, AI－P, LDH, γ－GTPの上昇
血液 貧血, 白血球減少, 白血球増多, 好酸球増多, 血小板減少
腎臓 BUN, クレアチニンの上昇, 蛋白尿
その他 倦怠感, 脱力感, 鼻出血, 頻尿, 浮腫, 咳, 血中カリウム上昇, 総コレステロール上昇, 血中CK上昇, CRP上昇, 血中尿酸上昇, 血清総蛋白減少 低ナトリウム血症, 腰背部痛, 筋肉痛 耳鳴, 関節痛
(表終了)
その他の副作用(発現時中止等)(慢性心不全)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹, 掻痒
循環器 立ちくらみ, 低血圧, ふらつき 眩暈, 徐脈, 動悸, 期外収縮, ほてり
精神神経系 頭痛, 眠気, 不眠, 頭重感, しびれ感
消化器 悪心, 心窩部痛, 便秘, 胃潰瘍, 口渇, 味覚異常, 嘔吐, 食欲不振, 胃部不快感
肝臓 γ－GTP上昇 ALT, AST, LDH, AI－Pの上昇
血液 貧血 白血球減少, 好酸球増多, 白血球増多, 血小板減少
腎臓 BUN, クレアチニンの上昇 蛋白尿
その他 血中カリウム上昇, 血中尿酸上昇, 血中CK上昇 倦怠感, 脱力感, 咳, 浮腫, 視覚異常, 総コレステロール上昇, 低ナトリウム血症, 血清総蛋白減少 関節痛
(表終了)

コバシル錠4mg（4mg1錠）

両 内服 流通

【YJコード】2144012F2024
【薬効分類】2. 1. 4 血圧降下剤
【一般名】ペリンドプリルエルブミン
【メーカー】製)協和キリン 販)第一三共 販)第一製薬
【薬価】51.1円/1T
【薬価収載日】1998/04/17
【標榜薬効】持続性組織ACE阻害剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】高血圧症
【用法用量】成人 1回2～4mg 1日1回 内服。
適宜増減, 1日最大8mg。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. アンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害薬(サクビトリルバルサルタンナトリウム水和物)の投与中・中止後36時間以内。
3. 血管浮腫の既往(アンジオテンシン変換酵素阻害剤等による血管浮腫, 遺伝性血管浮腫, 後天性血管浮腫, 特発性血管浮腫等)。
4. デキストラン硫酸固定化セルロース・トリプトファン固定化ポリビニルアルコール・ポリエチレンテレフタレートを用いた吸着器でアフェレーシスを施行中。
5. アクリロニトリルメタリルスルホン酸ナトリウム膜(AN69)を用いた血液透析施行中。
6. 妊婦・妊娠の可能性。
7. アリスキレンフマル酸塩を投与中の糖尿病(他の降圧治療でも血圧のコントロールが著しく不良除く)。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 血管浮腫(頻度不明)(呼吸困難を伴う顔面, 舌, 声門, 喉頭の腫脹)。
2. 急性腎障害(0. 1%未満)。
3. 高カリウム血症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹, 掻痒感
腎臓 BUN上昇, 血清クレアチニン上昇
血液 赤血球減少, ヘモグロビン減少, ヘマトクリット低下 白血球減少, 血小板減少
精神神経系 眩暈・ふらつき, 頭痛・頭重感 眠気, 感覚減退(四肢のしびれ感等), 耳鳴, いらいら感
循環器 低血圧 動悸, 期外収縮, 頻脈
消化器 悪心, 胃部不快感 便秘, 食欲不振, 腹痛, 下痢
代謝 総コレステロール上昇, トリグリセリド上昇, 尿酸上昇, 血清カリウム上昇 血清ナトリウム低下 低血糖
肝臓 AST上昇, ALT上昇, AI－P上昇, LDH上昇等
呼吸器 咳嗽 喉頭異和感, 喀痰増加
その他 ほてり, CK上昇 倦怠感, 胸痛・胸部不快感, 四肢冷感, 浮腫, 口渇, 味覚異常(苦味等), 悪寒, 熱感
(表終了)

シルニジピン錠10mg「サワイ」（10mg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】2149037F2055
【薬効分類】2. 1. 4 血圧降下剤
【一般名】シルニジピン
【先発品】アテレック錠10
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】13.8円/1T
【薬価収載日】2009/05/15
【標榜薬効】持続性Ca拮抗降圧剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】高血圧症
【用法用量】成人 1回5～10mg 1日1回 朝食後 内服。
適宜増減, 効果不十分時 1回20mg 1日1回まで。
重症高血圧症 1回10～20mg 1日1回 朝食後 内服。

■禁忌

【禁忌】妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 肝機能障害(AST, ALT, γ－GTPの上昇等), 黄疸(頻度不明)。
2. 血小板減少(0. 1%未満)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
肝臓 AST, ALT, LDH等の上昇 AI－Pの上昇
腎臓 クレアチニン上昇, 尿素窒素上昇, 尿蛋白陽性 尿沈渣陽性
精神神経系 頭痛, 頭重感, 眩暈, 立ちくらみ, 肩こり 眠気, 不眠, 手指振戦, もの忘れ しびれ
循環器 顔面潮紅, 動悸, 熱感, 心電図異常(ST低下, T波逆転), 血圧低下 胸痛, 心胸郭比の上昇, 頻脈, 房室ブロック, 冷感 期外収縮, 徐脈
消化器 嘔気・嘔吐, 腹痛 便秘, 腹部膨満感, 口渇, 歯肉肥厚, 胸やけ, 下痢
過敏症 発疹 発赤, 掻痒感 光線過敏症
血液 白血球数の変動, 好中球の変動, ヘモグロビンの変動 赤血球数の変動, ヘマトクリットの変動, 好酸球の変動, リンパ球の変動
その他 浮腫(顔, 下肢等), 全身倦怠感, 頻尿, 血清コレステロールの上昇, CKの変動, 尿酸の変動, 血清Kの変動, 血清Pの変動 脱力感, 腓腸筋痙直, 眼周囲の乾燥, 目の充血刺激感, 味覚異常, 尿糖陽性, 空腹時血糖の変動, 総蛋白の変動, 血清Caの変動, CRPの変動, 咳嗽 耳鳴
(表終了)

テラムロ配合錠AP「DSEP」（1錠）

両 内服 後発 流通
劇

【YJコード】2149117F1033
【薬効分類】2. 1. 4 血圧降下剤
【一般名】テルミサルタン・アムロジピンベシル酸塩配合剤
【先発品】ミカムロ配合錠AP
【メーカー】製)第一三共エスファ 販)第一三共
【薬価】21.4円/1T
【薬価収載日】2017/06/16
【標榜薬効】胆汁排泄型持続性AT1受容体ブロッカー／持続性Ca拮抗薬合剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】高血圧症
注意
1. 過度な血圧低下のおそれ等があり, 高血圧治療の第一選択薬にしない。
2. テルミサルタン40mg・アムロジピン5mgを併用時, いずれか一方を使用し血圧コントロールが不十分時に, テルミサルタン／アムロジピン40mg／5mgへの切りかえを検討。
3. テルミサルタン80mg・アムロジピン5mgを併用時, 下記のいずれかを使用し血圧コントロールが不十分時に, テルミサルタン／アムロジ

2 個々の器官系用医薬品

ピン80mg／5mgへの切りかえを検討。
・テルミサルタン80mg。
・テルミサルタン40mg・アムロジピン5mgの併用。
・テルミサルタン／アムロジピン40mg／5mg配合錠。
【用法用量】成人　1回1錠(テルミサルタン／アムロジピン　40mg／5mg又は80mg／5mg)　1日1回　内服。高血圧治療の第一選択薬で使用しない。
注意
1. 下記の用法・用量を踏まえ，患者ごとに適応を考慮。
テルミサルタン
成人　1回40mg　1日1回　内服。1日20mgから開始し漸増。適宜増減，1日最大80mg。
アムロジピンベシル酸塩
高血圧症 成人　1回2．5～5mg　1日1回　内服。適宜増減，効果不十分時　1回10mg　1日1回まで。
2. 肝障害 テルミサルタン／アムロジピン40mg／5mgまで。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分・ジヒドロピリジン系化合物に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。
3. 胆汁の分泌不良・重篤な肝障害。
4. アリスキレンフマル酸塩を投与中の糖尿病(他の降圧治療でも血圧のコントロールが著しく不良除く)。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 血管浮腫(頻度不明)(顔面，口唇，咽頭・喉頭，舌等の腫脹)，喉頭浮腫等，呼吸困難。
2. 高カリウム血症(頻度不明)。
3. 腎機能障害(頻度不明)，急性腎障害。
4. ショック，失神，意識消失(各頻度不明)(冷感，嘔吐等)。
5. 劇症肝炎，肝機能障害(AST，ALT，AI－P，LDH，γ－GTPの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
6. 低血糖(頻度不明)(脱力感，空腹感，冷汗，手の震え，集中力低下，痙攣，意識障害等)。
7. アナフィラキシー(頻度不明)(呼吸困難，血圧低下，喉頭浮腫等)。
8. 間質性肺炎(頻度不明)(発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等)。
9. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)，急性腎障害。
10. 無顆粒球症，白血球減少，血小板減少(各頻度不明)。
11. 房室ブロック(頻度不明)(徐脈，眩暈等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．5～5%未満 0．5%未満 頻度不明
過敏症　湿疹，発疹 掻痒，蕁麻疹，紅斑，多形紅斑，光線過敏症，血管炎
精神神経系 浮動性眩暈 体位性眩暈，頭痛 片頭痛，眠気，不眠，頭のぼんやり感，頭重，不安感，抑うつ状態，気分動揺，振戦，末梢神経障害，錐体外路症状
血液　貧血，好酸球上昇 白血球増加，赤血球減少，ヘモグロビン減少，紫斑
循環器　低血圧 心悸亢進，動悸，上室性頻脈，上室性期外収縮，期外収縮，心房細動，徐脈，洞房ブロック，洞停止，ほてり，ふらつき，起立性低血圧，頻脈
消化器　口渇，口内炎，逆流性食道炎，腹部膨満，心窩部不快感，腹痛 歯肉肥厚，食欲不振，消化不良，心窩部痛，嘔気，嘔吐，胃炎，胃腸炎，鼓腸，排便回数増加，軟便，下痢，便秘，膵炎
肝臓　AST，ALT，AI－P，LDH，γ－GTP上昇等の肝機能異常 腹水
呼吸器　喘息，咳 鼻出血，喀痰増加，咽頭炎，呼吸困難
泌尿・生殖器　血清クレアチニン上昇，BUN上昇，血中尿酸値上昇，尿管結石，排尿障害，尿潜血陽性，尿中蛋白陽性，勃起障害，頻尿，女性化乳房
代謝異常　血清コレステロール上昇，糖尿病，高血糖，尿中ブドウ糖陽性
骨格筋　背部痛 関節痛，筋肉痛，下肢痛，腱炎，筋痙攣，下肢痙攣，筋緊張亢進
電解質　血清カリウム上昇 血清カリウム減少，低ナトリウム血症
一般的全身障害　疲労 倦怠感，脱力感，発熱，胸痛，疼痛，しびれ，体重増加，体重減少，浮腫
その他　耳鳴，眼痛，CK上昇 結膜炎，目のチカチカ感，羞明，視覚異常，視力異常，鼻炎，上気道感染，インフルエンザ様症状，尿路感染，膀胱炎，敗血症，多汗，脱毛，皮膚変色，味覚異常，異常感覚，CRP陽性
(表終了)

テルミサルタン錠40mg「サワイ」(40mg1錠)

両　内服　後発　流通

【YJコード】2149042F2145
【薬効分類】2．1．4　血圧降下剤
【一般名】テルミサルタン
【先発品】ミカルディス錠40mg
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2017/06/16
【標榜薬効】胆汁排泄型持続性AT1受容体ブロッカー

■効能効果・用法用量
【効能効果】高血圧症
【用法用量】成人　1回40mg　1日1回　内服。1日20mgから開始　漸増。
適宜増減，1日最大80mg。
注意
肝障害 1日最大40mg，1日1回。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。
3. 胆汁の分泌不良・重篤な肝障害。
4. アリスキレンフマル酸塩を投与中の糖尿病(他の降圧治療でも血圧のコントロールが著しく不良除く)。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 血管浮腫(0．1%未満)(顔面，口唇，咽頭・喉頭，舌等の腫脹)，喉頭浮腫等，呼吸困難。
2. 高カリウム血症(頻度不明)。
3. 腎機能障害(頻度不明)，急性腎障害。
4. ショック(頻度不明)，失神，意識消失(0．1%)(冷感，嘔吐等)。
5. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTP上昇等)，黄疸(頻度不明)。
6. 低血糖(頻度不明)(脱力感，空腹感，冷汗，手の震え，集中力低下，痙攣，意識障害等)。
7. アナフィラキシー(頻度不明)(呼吸困難，血圧低下，喉頭浮腫等)。
8. 間質性肺炎(頻度不明)(発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等)。
9. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．5～5%未満 0．5%未満 頻度不明
過敏症　掻痒，発疹 紅斑，蕁麻疹
精神神経系 眩暈，頭痛，眠気，頭のぼんやり感 不安感 不眠，抑うつ状態
血液 白血球減少　好酸球上昇，血小板減少，ヘモグロビン減少，貧血
循環器 ほてり，心悸亢進 ふらつき，上室性期外収縮，心房細動，上室性頻脈 低血圧，起立性低血圧，徐脈
消化器 腹痛，下痢，嘔気 食欲不振，消化不良，胃炎，口渇，口内炎 鼓腸，嘔吐
肝臓 AST，ALT，AI－P，LDH上昇等の肝機能異常
呼吸器 咳 喀痰増加，咽頭炎
腎臓 血清クレアチニン上昇，血中尿酸値上昇
骨格筋　関節痛，下肢痙攣，下肢痛，筋肉痛，背部痛，腱炎
電解質 血清カリウム上昇　低ナトリウム血症
その他 耳鳴，倦怠感，CRP陽性，CK上昇 浮腫，脱力感，発熱，頻尿，結膜炎，目のチカチカ感，羞明 視覚異常，多汗，胸痛，上気道感染，インフルエンザ様症状，尿路感染，膀胱炎，敗血症，しびれ，味覚異常
(表終了)

ドキサゾシン錠2mg「トーワ」(2mg1錠)

両　内服　後発　流通

【YJコード】2149026F3231
【薬効分類】2．1．4　血圧降下剤
【一般名】ドキサゾシンメシル酸塩
【先発品】カルデナリン錠2mg
【メーカー】製)東和薬品
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2013/12/13
【標榜薬効】血圧降下剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○高血圧症
○褐色細胞腫による高血圧症
【用法用量】成人　1回0．5mgから開始　1日1回　内服。効果不十分時　1～2週間あけて　1～4mgに漸増　1日1回　内服。
適宜増減，1日最高8mg。
褐色細胞腫による高血圧症 1日最高16mg。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 失神・意識喪失(0．01%)。
2. 不整脈(頻度不明)。
3. 脳血管障害(頻度不明)。
4. 狭心症(頻度不明)。
5. 心筋梗塞(頻度不明)。
6. 無顆粒球症，白血球減少，血小板減少(各頻度不明)。
7. 肝炎，肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの著しい上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)

2 個々の器官系用医薬品

（表開始）
発現部位等 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
肝臓 AST，ALT，AI－Pの上昇 LDHの上昇 胆汁うっ滞
循環器 起立性眩暈，起立性低血圧，低血圧，動悸・心悸亢進，頻脈，ほてり(顔面潮紅等) 胸痛・胸部圧迫感 徐脈
精神神経系 頭痛・頭重，眩暈 眠気，不眠，しびれ感 耳鳴，興奮，振戦，知覚鈍麻，不安，うつ病，神経過敏
消化器 悪心・嘔吐 腹痛，口渇，食欲不振，下痢，便秘 消化不良，鼓腸放屁
筋・骨格系　関節痛，筋力低下，筋痙直，筋肉痛，背部痛
呼吸器　息苦しさ，鼻出血，鼻炎，咳 気管支痙攣悪化，呼吸困難
泌尿・生殖器　頻尿・夜間頻尿，尿失禁 持続勃起，勃起障害，射精障害(逆行性射精等)，血尿，排尿障害，多尿
過敏症　発疹，掻痒感 蕁麻疹，血管浮腫，光線過敏症
血液 白血球減少 血小板減少 紫斑
眼　かすみ目，術中虹彩緊張低下症候群
その他 倦怠感 浮腫，脱力感，異常感覚，発熱 発汗，疼痛，体重増加，女性化乳房，脱毛
（表終了）

ナトリックス錠1（1mg1錠）

両　内服　流通

【YJコード】2149012F1059
【薬効分類】2．1．4　血圧降下剤
【一般名】インダパミド
【メーカー】製)京都薬品工業　販)住友製薬　販)住友ファーマ　販)大日本住友製薬
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2002/07/05
【標榜薬効】持続型非チアジド系降圧剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】本態性高血圧症
【用法用量】成人　1回2mg　1日1回　朝食後　内服。
適宜増減。
少量から開始し漸増。

■禁忌

【禁忌】1．無尿。
2．急性腎不全。
3．体液中のナトリウム・カリウムの減少。
4．チアジド系薬剤・その類似化合物(スルフォンアミド誘導体)に過敏症の既往。
5．デスモプレシン酢酸塩水和物(男性の夜間多尿による夜間頻尿)の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形滲出性紅斑(各頻度不明)(紅斑，掻痒，粘膜疹等)。
2．低ナトリウム血症(頻度不明)(倦怠感，食欲不振，嘔気，嘔吐，痙攣，意識障害等)。
3．低カリウム血症(頻度不明)(倦怠感，脱力感，不整脈等)。
その他の副作用(発現時中止等)
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
代謝異常 低クロール性アルカローシス，総コレステロールの上昇，高尿酸血症，高血糖症 中性脂肪の上昇，高カルシウム血症
肝臓　AST，ALT，AI－Pの上昇
腎臓 BUN，クレアチニンの上昇
過敏症 発疹 掻痒，湿疹，紅斑，光線過敏症，顔面潮紅
血液　白血球減少，血小板減少
消化器 食欲不振，悪心・嘔吐，口渇 便秘，胃部不快感，胃重感
精神神経系 眩暈，頭痛・頭重 眠気，いらいら感
その他 立ちくらみ，脱力・倦怠感 動悸，ふらつき感，疼痛，耳鳴，胸部不快感，顔のほてり，頻尿，夜間尿，下肢しびれ感，肩こり
（表終了）

ニカルジピン塩酸塩注射液25mg「日医工」（25mg25mL1管）

内　注射　後発　流通
劇

【YJコード】2149400A3038
【薬効分類】2．1．4　血圧降下剤
【一般名】ニカルジピン塩酸塩
【先発品】ペルジピン注射液25mg
【メーカー】製)日医工
【薬価】187円/1A
【薬価収載日】2010/11/19
【標榜薬効】Ca拮抗剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．手術時の異常高血圧の救急処置
2．高血圧性緊急症
3．急性心不全(慢性心不全の急性増悪含む)
【用法用量】手術時の異常高血圧の救急処置
0．01～0．02%(0．1～0．2mg／mL)溶液　点滴静注(生食又は5%ブドウ糖液で希釈)。2～10μg／kg／分から開始，目的値まで血圧を下げ，血圧をモニターし点滴速度を調節。急速に血圧を下げる時本剤をそのまま　10～30μg／kg　静注。
高血圧性緊急症
0．01～0．02%(0．1～0．2mg／mL)溶液　0．5～6μg／kg／分で　点滴静注(生食又は5%ブドウ糖液で希釈)。0．5μg／kg／分から開始，目的値まで血圧を下げ，血圧をモニターし点滴速度を調節。
急性心不全(慢性心不全の急性増悪含む)
0．01～0．02%(0．1～0．2mg／mL)溶液　1μg／kg／分で，点滴静注(生食又は5%ブドウ糖液で希釈)。0．5～2μg／kg／分で点滴速度を調節。
注意
高血圧性緊急症
1．目的の血圧が得られ，引き続き降圧治療が必要で内服可能な時は内服に切りかえる。
2．投与終了後に血圧が再上昇する可能性，投与終了時は漸減し，終了後も血圧管理。内服に変更後にも血圧再上昇等に注意。
急性心不全
3．期待した改善なければ投与中止。他の治療法(利尿薬，陽性変力作用を持つ強心薬，血管拡張薬等の静注・機械的補助循環等)に切りかえる等の措置を講じる。

■禁忌

【禁忌】効能共通
1．本剤の成分に過敏症の既往。
急性心不全
2．高度な大動脈弁狭窄・僧帽弁狭窄，肥大型閉塞性心筋症，低血圧(収縮期血圧90mmHg未満)，心原性ショック。
3．発症直後で病態が不安定の重篤な急性心筋梗塞。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．麻痺性イレウス(頻度不明)。
2．低酸素血症(0．1～5%未満)。
3．肺水腫，呼吸困難(各0．1%未満)。
4．狭心痛(頻度不明)(外国)。
5．血小板減少(0．1%未満)。
6．肝機能障害(0．1～5%未満)(AST・ALT・γ－GTPの上昇等)，黄疸(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
循環器 頻脈，心電図変化，血圧低下，肺動脈圧の上昇(急性心不全時)，心係数の低下(急性心不全時)，心室頻拍(急性心不全時)，チアノーゼ(急性心不全時) 動悸，顔面潮紅，全身倦怠感，心室性期外収縮 房室ブロック
肝臓 肝機能異常(AST・ALT等の上昇)
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇
消化器　嘔気，嘔吐，むかつき
過敏症　皮疹
その他　頭痛，体温の上昇，尿量減少，血中総コレステロールの低下，悪寒，背部痛，血清カリウムの上昇 静脈炎
（表終了）

ニカルジピン塩酸塩注射液2mg「サワイ」（2mg2mL1管）

内　注射　後発　流通
劇

【YJコード】2149400A1132
【薬効分類】2．1．4　血圧降下剤
【一般名】ニカルジピン塩酸塩
【先発品】ペルジピン注射液2mg
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】100円/1A
【薬価収載日】2012/12/14
【標榜薬効】Ca拮抗剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．手術時の異常高血圧の救急処置
2．高血圧性緊急症
3．急性心不全(慢性心不全の急性増悪含む)
【用法用量】手術時の異常高血圧の救急処置
0．01～0．02%(0．1～0．2mg／mL)溶液　点滴静注(生食又は5%ブドウ糖液で希釈)。2～10μg／kg／分から開始，目的値まで血圧を下げ，血圧をモニターし点滴速度を調節。急速に血圧を下げる時本剤をそのまま　10～30μg／kg　静注。
高血圧性緊急症
0．01～0．02%(0．1～0．2mg／mL)溶液　0．5～6μg／kg／分で　点滴静注(生食又は5%ブドウ糖液で希釈)。0．5μg／kg／分から開始，目的値まで血圧を下げ，血圧をモニターし点滴速度を調節。
急性心不全(慢性心不全の急性増悪含む)
0．01～0．02%(0．1～0．2mg／mL)溶液　1μg／kg／分で，点

2 個々の器官系用医薬品

滴静注(生食又は5%ブドウ糖液で希釈)。0．5～2μg／kg／分で点滴速度を調節。
注意
高血圧性緊急症
1．目的の血圧が得られ，引き続き降圧治療が必要で内服可能な時は内服に切りかえる。
2．投与終了後に血圧が再上昇する可能性，投与終了時は漸減し，終了後も血圧管理。内服に変更後にも血圧再上昇等に注意。
急性心不全
3．期待した改善なければ投与中止。他の治療法(利尿薬，陽性変力作用を持つ強心薬，血管拡張薬等の静注・機械的補助循環等)に切りかえる等の措置を講じる。

■禁忌
【禁忌】効能共通
1．本剤の成分に過敏症の既往。
急性心不全
2．高度な大動脈弁狭窄・僧帽弁狭窄，肥大型閉塞性心筋症，低血圧(収縮期血圧90mmHg未満)，心原性ショック。
3．発症直後で病態が不安定の重篤な急性心筋梗塞。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．麻痺性イレウス(頻度不明)。
2．低酸素血症(0．1～5%未満)。
3．肺水腫，呼吸困難(各0．1%未満)。
4．狭心痛(頻度不明)(外国)。
5．血小板減少(0．1%未満)。
6．肝機能障害(0．1～5%未満)(AST・ALT・γ－GTPの上昇等)，黄疸(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
循環器 頻脈，心電図変化，血圧低下，肺動脈圧の上昇(急性心不全時)，心係数の低下(急性心不全時)，心室頻拍(急性心不全時)，チアノーゼ(急性心不全時) 動悸，顔面潮紅，全身倦怠感，心室性期外収縮 房室ブロック
肝臓 肝機能異常(AST・ALT等の上昇)
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇
消化器 嘔気，嘔吐，むかつき
過敏症 皮疹
その他 頭痛，体温の上昇，尿量減少，血中総コレステロールの低下，悪寒，背部痛，血清カリウムの上昇 静脈炎
(表終了)

ニトプロ持続静注液6mg（6mg2mL1管）

内 注射 流通
毒

【YJコード】2149401A1030
【薬効分類】2．1．4 血圧降下剤
【一般名】ニトロプルシドナトリウム水和物
【メーカー】製)丸石製薬
【薬価】616円/1A
【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】血圧降下剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．手術時の低血圧維持
2．手術時の異常高血圧の救急処置
3．急性心不全(慢性心不全の急性増悪期含む)
4．高血圧性緊急症
【用法用量】ニトロプルシドナトリウム水和物 0．06～0．1%(0．6～1mg／mL)溶液 持続静注(5%ブドウ糖液で希釈)。
1．手術時の低血圧維持
成人 ニトロプルシドナトリウム水和物 0．5μg／kg／分から開始，過度の血圧低下に注意し漸増，目的値まで血圧を下げ，血圧をモニターし速度を調節。2．5μg／kg／分以下で目的の血圧が得られ，それを維持できる。
最高投与速度 3μg／kg／分。開始速度 適宜減量。
2．手術時の異常高血圧の救急処置
成人 ニトロプルシドナトリウム水和物 0．5μg／kg／分から開始，過度の血圧低下に注意し漸増，目的値まで血圧を下げ，血圧をモニターし速度を調節。2μg／kg／分以下で目的の血圧が得られ，それを維持できる。
最高投与速度 3μg／kg／分。開始速度 適宜減量。
3．急性心不全(慢性心不全の急性増悪期含む)，高血圧性緊急症
小児 ニトロプルシドナトリウム水和物 0．5μg／kg／分から開始，過度の血圧低下に注意し漸増，目的の血行動態を得るまで循環動態をモニターし速度を調節。3μg／kg／分以下で目的の血行動態が得られ，それを維持できる。
最高投与速度 10μg／kg／分。開始速度 適宜減量。
注意
効能共通
1．高齢者は，過度の降圧作用の可能性，低用量から開始等慎重投与。
2．ニトロプルシドナトリウム水和物の代謝物として生成されたシアンはチオシアンの代謝により解毒されるが，500μg／kg以上のニトロプルシドナトリウム水和物を2μg／kg／分より速く投与すると，解毒処理能力を超えてシアンが生成されるため，投与速度2μg／kg／分以上は総量が500μg／kg以上とならないように注意。
急性心不全(慢性心不全の急性増悪期含む)，高血圧性緊急症
3．3μg／kg／分以上の投与速度は重篤な副作用の発生リスクが上昇，必要最小限で長時間維持しない。最高投与速度(10μg／kg／分)は10分を超えない。

■禁忌
【禁忌】1．脳に高度な循環障害。
2．甲状腺機能不全。
3．レーベル病(遺伝性視神経萎縮症)，たばこ弱視・ビタミンB12欠乏症。
4．重篤な肝機能障害。
5．重篤な腎機能障害。
6．高度な貧血。
7．ホスホジエステラーゼ5阻害作用を有する薬剤(シルデナフィルクエン酸塩，バルデナフィル塩酸塩水和物，タダラフィル)・グアニル酸シクラーゼ刺激作用を有する薬剤(リオシグアト)の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．過度の低血圧(0．1～5%未満)。
2．リバウンド現象(0．1～5%未満)。
3．シアン中毒(頻度不明)(耐薬性の出現，代謝性アシドーシスの進行，静脈血酸素含量の上昇，心電図ST－T波変化等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
循環器 頻脈，不整脈，心電図異常
呼吸器 PaO2低下
肝臓 肝機能検査値異常(ビリルビン上昇，AST上昇，ALT上昇等)
血液 一酸化炭素ヘモグロビン増加
その他 代謝性アシドーシス
(表終了)

ビソノテープ4mg（4mg1枚）

両 外用 流通
ハイリスク

【YJコード】2149700S1027
【薬効分類】2．1．4 血圧降下剤
【一般名】ビソプロロール
【メーカー】製)トーアエイヨー 販)アステラス製薬
【薬価】57円/1枚
【薬価収載日】2013/08/27
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】経皮吸収型・β1遮断剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○本態性高血圧症(軽症～中等症)
○頻脈性心房細動
【用法用量】本態性高血圧症(軽症～中等症)
成人 1回8mg 1日1回 胸部，上腕部，背部のいずれかに貼付，貼付後24時間ごと貼りかえ。
1回4mgから開始 1日1回 1日最大8mg。
頻脈性心房細動
成人 1回4mgから開始 1日1回，効果不十分時 1回8mg 1日1回に増量。胸部，上腕部，背部のいずれかに貼付，貼付後24時間ごと貼りかえ。
適宜増減，1日最大8mg。
注意
1．褐色細胞腫・パラガングリオーマ αα遮断剤で初期治療後に投与し，常にα遮断剤を併用。
2．頻脈性心房細動を合併する本態性高血圧症 頻脈性心房細動の用法・用量は1日1回4mgから開始，血圧や心拍数，症状等に応じ，開始量を設定。

■禁忌
【禁忌】1．高度の徐脈(著しい洞性徐脈)，房室ブロック(II，III度)，洞房ブロック，洞不全症候群。
2．糖尿病性ケトアシドーシス，代謝性アシドーシス。
3．心原性ショック。
4．肺高血圧による右心不全。
5．強心薬・血管拡張薬の静注を要する心不全。
6．非代償性の心不全。
7．重度の末梢循環障害(壊疽等)。
8．未治療の褐色細胞腫・パラガングリオーマ。
9．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
心不全(0．6%)，完全房室ブロック，高度徐脈，洞不全症候群(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)

2 個々の器官系用医薬品

（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
循環器 徐脈 房室ブロック，血圧低下，心室性期外収縮，動悸，胸痛 心房細動，心胸郭比増加
精神神経系 頭痛，傾眠，浮動性眩暈，体位性眩暈 頭重感，不眠，悪夢
消化器 悪心，嘔吐，胃部不快感，腹部不快感，食欲不振，下痢
肝臓 ALTの上昇 AST，LDH，AI－P，ビリルビンの上昇 γ－GTPの上昇，肝腫大
腎臓・泌尿器 尿中蛋白陽性 クレアチニン，BUNの上昇 尿中ブドウ糖陽性，頻尿
呼吸器 呼吸困難 気管支痙攣
過敏症 皮膚掻痒感 発疹
眼 霧視，涙液分泌減少
適用部位障害 皮膚炎，紅斑，掻痒感 疼痛，熱感，乾燥，湿疹，変色，糜爛
その他 好酸球百分率増加，血中トリグリセリド増加，血中尿酸増加，CRP増加 無力症，疲労，倦怠感，CKの上昇，血中コレステロール増加，HDLコレステロール増加，LDLコレステロール増加，血中ブドウ糖増加 浮腫，気分不快感，四肢冷感，悪寒，しびれ感，糖尿病増悪
（表終了）

ミネブロ錠2．5mg（2．5mg1錠）

両 内服 流通

【YJコード】2149049F2023
【薬効分類】2．1．4 血圧降下剤
【一般名】エサキセレノン
【メーカー】製)第一三共
【薬価】91.6円/1T
【薬価収載日】2019/02/26
【標榜薬効】選択的ミネラルコルチコイド受容体ブロッカー

■効能効果・用法用量

【効能効果】高血圧症
【用法用量】成人 1回2．5mg 1日1回 内服。効果不十分時 5mgまで。
注意
1．投与中に血清カリウム値が5mEq／Lを超えた時は減量を考慮し，5．5mEq／L以上の時は減量・中止し，6mEq／L以上の時は直ちに中止。
2．中等度の腎機能障害（eGFR30～60mL／分／1．73m2未満），アルブミン尿・蛋白尿を伴う糖尿病は，1．25mgを1日1回から開始し，血清カリウム値に応じ，開始から4週間以降を目安に1日1回2．5mgへ増量。効果不十分時は，5mgまで増量できる。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．高カリウム血症，血清カリウム値が5．0mEq／Lを超えている患者。
3．重度の腎機能障害（eGFR30mL／分／1．73m2未満）。
4．カリウム保持性利尿剤（スピロノラクトン，トリアムテレン，カンレノ酸カリウム），アルドステロン拮抗剤（エプレレノン），カリウム製剤（塩化カリウム，グルコン酸カリウム，アスパラギン酸カリウム，ヨウ化カリウム（放射性ヨウ素による甲状腺の内部被曝の予防・低減時除く），酢酸カリウム）の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
高カリウム血症（1．7%）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
血液 貧血，血小板数減少，白血球数減少
代謝 血清カリウム値上昇，血中尿酸増加，高尿酸血症 痛風 低ナトリウム血症
精神神経系 眩暈，頭痛
消化器 下痢，悪心
過敏症 発疹
肝臓 肝機能異常，γ－GTP上昇
泌尿器 腎機能障害，GFR減少，血中クレアチニン増加，BUN上昇
その他 異常感，低血圧
（表終了）

メトプロロール酒石酸塩錠40mg「トーワ」（40mg1錠）

両 内服 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2149010F2242
【薬効分類】2．1．4 血圧降下剤
【一般名】メトプロロール酒石酸塩
【先発品】ロプレソール錠40mg
【メーカー】製)東和薬品
【薬価】7.7円/1T
【薬価収載日】2013/12/13
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】高血圧・狭心症・不整脈治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○本態性高血圧症（軽症～中等症）
○狭心症
○頻脈性不整脈
【用法用量】本態性高血圧症（軽症～中等症）
成人 1日60～120mg 1日3回 分割 内服。効果不十分時 240mgまで。
適宜増減。
狭心症，頻脈性不整脈
成人 1日60～120mg 1日2～3回 分割 内服。
適宜増減。
注意
褐色細胞腫・パラガングリオーマ αβ遮断剤で初期治療後に投与し，常にα遮断剤を併用。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分・他のβ遮断剤に過敏症の既往。
2．糖尿病性ケトアシドーシス，代謝性アシドーシス。
3．高度の徐脈（著しい洞性徐脈），房室ブロック（II，III度），洞房ブロック，洞不全症候群。
4．心原性ショック，肺高血圧による右心不全，うっ血性心不全。
5．低血圧症。
6．重症の末梢循環障害（壊疽等）。
7．未治療の褐色細胞腫・パラガングリオーマ。
8．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．心原性ショック（頻度不明）。
2．うっ血性心不全（0．2%），房室ブロック（頻度不明），徐脈（2．4%），洞機能不全（頻度不明）。
3．喘息症状の誘発・悪化（0．3%）。
4．肝機能障害，黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
眼 視覚障害（霧視等） 涙液分泌減少，結膜炎
過敏症 発疹（乾癬型等） 掻痒 光線過敏症
血液 血小板減少
循環器 動悸 末梢循環障害（四肢の冷え・しびれ等） 心室性期外収縮，起立性低血圧（失神），低血圧
呼吸器 息切れ 鼻閉，鼻炎，気管支痙攣
精神神経系 眩暈・ふらつき，頭痛，不眠，眠気，抑うつ 悪夢，不安 幻覚，感覚異常，注意力障害，神経過敏，健忘，錯乱
消化器 腹痛，食欲不振，便秘，下痢，胸やけ，口渇 悪心・嘔吐，腹部膨満感
肝臓 AST上昇，ALT上昇
その他 胸部圧迫感，浮腫，疲労感，耳鳴 性欲減退 倦怠感，トリグリセライドの上昇，発汗，CK（CPK）の上昇，筋痙直，勃起障害，味覚異常，脱毛，難聴，関節痛，体重増加，乾癬悪化
（表終了）

ロサルタンK錠50mg「日新」（50mg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】2149039F2119
【薬効分類】2．1．4 血圧降下剤
【一般名】ロサルタンカリウム
【先発品】ニューロタン錠50mg
【メーカー】製)日新製薬
【薬価】14.7円/1T
【薬価収載日】2012/06/22
【標榜薬効】A－IIアンタゴニスト

■効能効果・用法用量

【効能効果】○高血圧症
○高血圧・蛋白尿を伴う2型糖尿病の糖尿病性腎症
注意
高血圧・蛋白尿を伴う2型糖尿病の糖尿病性腎症
高血圧・蛋白尿（尿中アルブミン／クレアチニン比300mg／g以上）を合併しない患者の有効性・安全性は未確認。
【用法用量】高血圧症
成人 1回25～50mg 1日1回 内服。適宜増減，1日100mgまで。
高血圧・蛋白尿を伴う2型糖尿病の糖尿病性腎症
成人 1回50mg 1日1回 内服。血圧値をみながら1日100mgまで。
過度の血圧低下のおそれ等 25mgから開始。
注意
高血圧・蛋白尿を伴う2型糖尿病の糖尿病性腎症
投与後，血清クレアチニン値が前回の検査値と比較して30%（又は1mg／dL）以上増加時，及び糸球体ろ過値，1／血清クレアチニン値の勾配等で評価した腎機能障害が加速された時は，減量・投与中止を考慮。

2 個々の器官系用医薬品

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。
3. 重篤な肝障害。
4. アリスキレンを投与中の糖尿病(他の降圧治療でも血圧のコントロールが著しく不良除く)。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. アナフィラキシー(頻度不明)(不快感, 口内異常感, 発汗, 蕁麻疹, 呼吸困難, 全身潮紅, 浮腫等)。
2. 血管浮腫(頻度不明)(顔面, 口唇, 咽頭, 舌等の腫脹)。
3. 急性肝炎, 劇症肝炎(各頻度不明)。
4. 腎不全(頻度不明)。
5. ショック, 失神, 意識消失(各頻度不明)(冷感, 嘔吐等)。
6. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇), 急性腎障害。
7. 高カリウム血症(頻度不明)。
8. 不整脈(頻度不明)(心室性期外収縮, 心房細動等)。
9. 汎血球減少, 白血球減少, 血小板減少(各頻度不明)。
10. 低血糖(頻度不明)(脱力感, 空腹感, 冷汗, 手の震え, 集中力低下, 痙攣, 意識障害等)。
11. 低ナトリウム血症(頻度不明)(倦怠感, 食欲不振, 嘔気, 嘔吐, 痙攣, 意識障害等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 頻度不明
精神神経系 頭痛, 眩暈, 不眠, 浮遊感 耳鳴, 眠気
循環器系 低血圧, 起立性低血圧, 胸痛 調律障害(頻脈等), 動悸
消化器 口角炎, 嘔吐・嘔気, 胃不快感, 胃潰瘍 口内炎, 下痢, 口渇
肝臓 肝機能障害(AST上昇, ALT上昇, LDH上昇等) 黄疸
腎臓 BUN上昇, クレアチニン上昇
皮膚 発疹, 掻痒 蕁麻疹, 多形紅斑, 光線過敏, 紅皮症, 紅斑
血液 赤血球減少, ヘマトクリット低下, 好酸球増多 貧血
その他 ほてり, 倦怠感, 無力症／疲労, 浮腫, 筋肉痛, 総コレステロール上昇, CK上昇, 血中尿酸値上昇 咳嗽, 発熱, 味覚障害, しびれ感, 眼症状(かすみ, 異和感等), 関節痛, 筋痙攣, 女性化乳房, 勃起不全
(表終了)

2. 1. 6 血管収縮剤

スマトリプタン錠50mg「SPKK」(50mg1錠)

両 内服 後発 流通
劇

【YJコード】2160003F1162
【薬効分類】2. 1. 6 血管収縮剤
【一般名】スマトリプタンコハク酸塩
【先発品】イミグラン錠50
【メーカー】製)サンドファーマ 販)サンド
【薬価】124.8円/1T
【薬価収載日】2021/12/10
【標榜薬効】片頭痛治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】片頭痛
注意
1. 国際頭痛学会の片頭痛診断基準で「前兆のない片頭痛」, 「前兆のある片頭痛」と確定診断後投与。特に下記は, くも膜下出血等の脳血管障害や他の原因による頭痛の可能性。投与前に問診, 診察, 検査を実施し, 頭痛の原因を確認後投与。
(1). 今まで片頭痛の診断がない。
(2). 片頭痛の診断後, 症状や経過が異なった頭痛, 随伴症状。
2. 家族性片麻痺性片頭痛, 孤発性片麻痺性片頭痛, 脳底型片頭痛, 眼筋麻痺性片頭痛には投与しない。
【用法用量】成人 1回50mg 片頭痛発現時 内服。
効果不十分時 2時間以上あけて追加。
50mgで効果不十分時 次回片頭痛発現時から 100mgを内服できる。
1日総量200mg以内。
注意
1. 頭痛発現時のみ使用し, 予防的に使用しない。
2. 全く効果なければ, 追加しない。再検査し, 原因を確認。
3. スマトリプタン製剤を組み合わせる時は最低下記の間隔をあけて投与。
・経口剤投与後に注射液又は点鼻液の追加 2時間以上。
・注射液投与後に経口剤の追加 1時間以上。
・点鼻液投与後に経口剤の追加 2時間以上。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 心筋梗塞の既往, 虚血性心疾患・その症状・兆候, 異型狭心症(冠動脈攣縮)。
3. 脳血管障害・一過性脳虚血性発作の既往。
4. 末梢血管障害。
5. コントロールされてない高血圧症。
6. 重篤な肝機能障害。
7. エルゴタミン・エルゴタミン誘導体含有製剤・他の5－HT1B／1D受容体作動薬の投与患者。
8. MAO阻害剤を投与中・中止2週間以内。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. アナフィラキシーショック, アナフィラキシー(各頻度不明)。
2. 虚血性心疾患様症状(1%未満)(不整脈, 狭心症, 心筋梗塞含む)(胸痛, 胸部圧迫感等)。
3. てんかん様発作(頻度不明)。
4. 頭痛(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
過敏症 蕁麻疹, 発疹等の皮膚症状
呼吸器 呼吸困難
循環器 動悸 徐脈, 低血圧, 一過性の血圧上昇, 頻脈, レイノー現象
消化器 悪心, 嘔吐 虚血性大腸炎
眼 複視, 眼振, 視野狭窄, 一過性の視力低下, 暗点, ちらつき
精神神経系 眠気, 眩暈, 感覚障害(錯感覚, しびれ等の感覚鈍麻等) ジストニア, 振戦
肝臓 肝機能障害
その他 痛み(胸痛, 咽喉頭痛, 頭痛, 筋肉痛, 関節痛, 背部痛, 頚部痛等), 倦怠感, 脱力感 熱感, 潮紅 圧迫感, ひっ迫感, 重感, 冷感
(表終了)

ネオシネジンコーワ注1mg (0. 1%1mL1管)

内 注射 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2160400A1032
【薬効分類】2. 1. 6 血管収縮剤
【一般名】フェニレフリン塩酸塩
【メーカー】製)興和
【薬価】96円/1A
【薬価収載日】2005/06/10
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】血管収縮・血圧上昇剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇各種疾患・状態に伴う急性低血圧・ショック時の補助治療
〇発作性上室頻拍
〇局所麻酔時の作用延長
注意
各種疾患・状態に伴う急性低血圧・ショック時の補助治療
ショックの緊急治療は換気の確保, 輸液・心拍出量の増加と昇圧。
ショック時の循環動態はショック時の原因・病期によって異なるので, 昇圧剤の選択・使用時期に注意。本剤は血圧下降等の応急処置剤の薬剤で, 輸血・輸液にかわるものではない。
【用法用量】皮下注・筋注
成人 1回2～5mg 皮下注・筋注。
適宜増減, 1～10mgの範囲, 初回量 5mgまで。反復投与 10～15分おき。
静注
成人 1回0. 2mg 静注(注射液そのまま, 又は約10mLの生食, リンゲル液, 5%ブドウ糖液等に混入)。
適宜増減, 0. 1～0. 5mgの範囲。反復投与 10～15分おき。
点滴静注
血圧を測定しながら滴数を加減(100mLの血液, リンゲル液又は5%ブドウ糖液等に対し 0. 5～1mgの割合で混入)。
局所麻酔時の作用延長
20mLの局所麻酔剤に1mgの割合で混入し使用。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹
循環器 胸内苦悶, 呼吸困難等 心悸亢進, 徐脈, 血圧異常上昇
精神神経系 頭痛等
消化器 悪心・嘔吐等
その他 手足のしびれ感, 手足のふるえ感, 紅疹等 発汗
(表終了)

2 個々の器官系用医薬品

メトリジン錠2mg（2mg1錠）

両 内服 流通

【YJコード】2160002F1028
【薬効分類】2．1．6 血管収縮剤
【一般名】ミドドリン塩酸塩
【メーカー】製)大正製薬 販)大正富山医薬品
【薬価】13.9円/1T
【標榜薬効】低血圧治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】本態性低血圧，起立性低血圧
【用法用量】成人 1日4mg 1日2回 分割 内服。
適宜増減，重症時 1日8mgまで。
小児 1日4mg 1日2回 分割 内服。
適宜増減，1日最高6mg。

■禁忌

【禁忌】1．甲状腺機能亢進症。
2．褐色細胞腫・パラガングリオーマ。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 眠気 いらいら感
消化器 悪心 腹痛 嘔吐 口内炎 腹部膨満感 便秘 下痢
循環器 高血圧 動悸 心室性期外収縮
中枢神経系 頭痛 眩暈
皮膚 発疹 立毛感 掻痒感 蕁麻疹 発赤
肝臓 肝機能障害 ALT上昇 AST上昇 AI－P上昇
その他 ほてり感 悪寒 倦怠感 頻尿 発汗亢進 肩こり 異常感覚 排尿困難
（表終了）

2．1．7 血管拡張剤

アイトロール錠20mg（20mg1錠）

両 内服 流通

【YJコード】2171023F2020
【薬効分類】2．1．7 血管拡張剤
【一般名】一硝酸イソソルビド
【メーカー】製)トーアエイヨー 販)アステラス製薬
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】1994/09/12
【標榜薬効】狭心症治療用ISMN製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】狭心症
注意
狭心症の発作寛解には不適，速効性の硝酸・亜硝酸エステル系薬剤を使用。
【用法用量】成人 1回20mg 1日2回 内服。
適宜増減，効果不十分時 1回40mg 1日2回まで。
労作狭心症又は労作兼安静狭心症で発作回数，運動耐容能の面で重症
1回40mg 1日2回 内服。

■禁忌

【禁忌】1．重篤な低血圧，心原性ショック。
2．閉塞隅角緑内障。
3．頭部外傷，脳出血。
4．高度な貧血。
5．硝酸・亜硝酸エステル系薬剤に過敏症の既往。
6．ホスホジエステラーゼ5阻害作用を有する薬剤（シルデナフィルクエン酸塩，バルデナフィル塩酸塩水和物，タダラフィル）・グアニル酸シクラーゼ刺激作用を有する薬剤（リオシグアト）の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 2%以上 2%未満 頻度不明
循環器 眩暈・ふらつき，動悸 血圧低下，浮腫，熱感
精神神経系 頭痛（13．4%） 不眠，全身倦怠感 頭重感，しびれ
過敏症 発疹，掻痒感
消化器 胃もたれ，腹部膨満感，鼓腸，口内乾燥，嘔気 食欲不振，腹痛，下痢，嘔吐
肝臓 ALT上昇，AST上昇，LDH上昇
その他 BUN上昇 CK上昇，クレアチニン上昇，筋肉痛
（表終了）

アムロジピンOD錠5mg「NP」（5mg1錠）

両 内服 後発 流通
劇

【YJコード】2171022F4079
【薬効分類】2．1．7 血管拡張剤
【一般名】アムロジピンベシル酸塩
【先発品】アムロジンOD錠5mg，ノルバスクOD錠5mg
【メーカー】製)ニプロ
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2009/11/13
【標榜薬効】高血圧症・狭心症治療剤／持続性Ca拮抗剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇高血圧症
〇狭心症
注意
効果発現が緩徐のため，緊急治療を要する不安定狭心症は効果が期待できない。
【用法用量】高血圧症
成人 1回2．5～5mg 1日1回 内服。
適宜増減，効果不十分時 1回10mg 1日1回まで。
6歳以上の小児 1回2．5mg 1日1回 内服。
適宜増減。
狭心症
成人 1回5mg 1日1回 内服。
適宜増減。
注意
6歳以上の小児には，1日5mgまで。

■禁忌

【禁忌】ジヒドロピリジン系化合物に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．劇症肝炎（頻度不明），肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（0．1%未満）。
2．無顆粒球症（頻度不明），白血球減少（0．1%未満），血小板減少（頻度不明）。
3．房室ブロック（0．1%未満）（徐脈，眩暈等）。
4．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等），急性腎障害。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
肝臓 ALT，ASTの上昇，肝機能障害，AI－P，LDHの上昇 γ－GTP上昇，黄疸 腹水
循環器 浮腫，ほてり（熱感，顔面潮紅等），動悸，血圧低下 胸痛，期外収縮，洞房・房室ブロック，洞停止，心房細動，失神，頻脈 徐脈
精神神経系 眩暈・ふらつき，頭痛・頭重 眠気，振戦，末梢神経障害 気分動揺，不眠，錐体外路症状
消化器 心窩部痛，便秘，嘔気・嘔吐 口渇，消化不良，下痢・軟便，排便回数増加，口内炎，腹部膨満，胃腸炎 膵炎
筋・骨格系 筋緊張亢進，筋痙攣，背痛 関節痛，筋肉痛
泌尿・生殖器 BUN上昇 クレアチニン上昇，頻尿・夜間頻尿，尿管結石，尿潜血陽性，尿中蛋白陽性 勃起障害，排尿障害
代謝異常 血清コレステロール上昇，CK上昇，高血糖，糖尿病，尿中ブドウ糖陽性
血液 赤血球，ヘモグロビン，白血球の減少，白血球増加，紫斑 血小板減少
過敏症 発疹 掻痒，蕁麻疹，光線過敏症 多形紅斑，血管炎，血管浮腫 口腔 歯肉肥厚
その他 全身倦怠感 しびれ，脱力感，耳鳴，鼻出血，味覚異常，疲労，咳，発熱，視力異常，呼吸困難，異常感覚，多汗，血中カリウム減少 女性化乳房，脱毛，鼻炎，体重増加，体重減少，疼痛，皮膚変色
（表終了）

アムロジピン錠2．5mg「サワイ」（2．5mg1錠）

両 内服 後発 流通
劇

【YJコード】2171022F1282
【薬効分類】2．1．7 血管拡張剤
【一般名】アムロジピンベシル酸塩
【先発品】アムロジン錠2．5mg，ノルバスク錠2．5mg
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2008/07/04
【標榜薬効】高血圧症・狭心症治療剤／持続性Ca拮抗剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．高血圧症
2．狭心症

2 個々の器官系用医薬品

注意
効果発現が緩徐のため，緊急治療を要する不安定狭心症は効果が期待できない。
【用法用量】高血圧症
成人 1回2．5～5mg 1日1回 内服。
適宜増減，効果不十分時 1回10mg 1日1回まで。
6歳以上の小児 1回2．5mg 1日1回 内服。
適宜増減。
狭心症
成人 1回5mg 1日1回 内服。
適宜増減。
注意
6歳以上の小児には，1日5mgまで。

■禁忌
【禁忌】ジヒドロピリジン系化合物に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．劇症肝炎（頻度不明），肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（0．1%未満）。
2．無顆粒球症（頻度不明），白血球減少（0．1%未満），血小板減少（頻度不明）。
3．房室ブロック（0．1%未満）（徐脈，眩暈等）。
4．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等），急性腎障害。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
肝臓 ALT，ASTの上昇，肝機能障害，AI－P，LDHの上昇 γ－GTP上昇，黄疸 腹水
循環器 浮腫，ほてり（熱感，顔面潮紅等），動悸，血圧低下 胸痛，期外収縮，洞房・房室ブロック，洞停止，心房細動，失神，頻脈 徐脈
精神神経系 眩暈・ふらつき，頭痛・頭重 眠気，振戦，末梢神経障害 気分動揺，不眠，錐体外路症状
消化器 心窩部痛，便秘，嘔気・嘔吐 口渇，消化不良，下痢・軟便，排便回数増加，口内炎，腹部膨満，胃腸炎 膵炎
筋・骨格系 筋緊張亢進，筋痙攣，背痛 関節痛，筋肉痛
泌尿・生殖器 BUN上昇 クレアチニン上昇，頻尿・夜間頻尿，尿管結石，尿潜血陽性，尿中蛋白陽性 勃起障害，排尿障害
代謝異常 血清コレステロール上昇，CK上昇，高血糖，糖尿病，尿中ブドウ糖陽性
血液 赤血球，ヘモグロビン，白血球の減少，白血球増加，紫斑 血小板減少
過敏症 発疹 掻痒，蕁麻疹，光線過敏症 多形紅斑，血管炎，血管浮腫
口腔 歯肉肥厚
その他 全身倦怠感 しびれ，脱力感，耳鳴，鼻出血，味覚異常，疲労，咳，発熱，視力異常，呼吸困難，異常感覚，多汗，血中カリウム減少 女性化乳房，脱毛，鼻炎，体重増加，体重減少，疼痛，皮膚変色
（表終了）

ジピリダモール錠25mg「トーワ」（25mg1錠）

両 内服 後発 流通
ハイリスク

【YJコード】2171010F2626
【薬効分類】2．1．7 血管拡張剤
【一般名】ジピリダモール
【先発品】ペルサンチン錠25mg
【メーカー】製）東和薬品
【薬価】6円/1T
【薬価収載日】2013/06/21
【ハイリスク分類】血液凝固阻止剤
【標榜薬効】冠血管拡張剤，抗血小板剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇狭心症，心筋梗塞（急性期除く），その他の虚血性心疾患，うっ血性心不全
〇ワーファリンとの併用による心臓弁置換術後の血栓・塞栓の抑制
〇下記の尿蛋白減少
ステロイドに抵抗性を示すネフローゼ症候群
【用法用量】狭心症，心筋梗塞，その他の虚血性心疾患，うっ血性心不全
成人 1回25mg 1日3回 内服。適宜増減。
血栓・塞栓の抑制
成人 1日300～400mg 1日3～4回 分割 内服。適宜増減。
尿蛋白減少
成人 1日300mg 1日3回 分割 内服。適宜増減。投薬開始後，4週間を目標に，尿蛋白量を測定し，以後の投薬継続の可否を検討。
尿蛋白量の減少なければ，投薬中止等の処置。
尿蛋白量の減少があり投薬継続の必要時，以後定期的に尿蛋白量を測定。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．アデノシン（アデノスキャン）の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．狭心症状の悪化（0．1%未満）。
2．出血傾向（頻度不明）（眼底出血，消化管出血，脳出血等）。
3．血小板減少（頻度不明）。
4．過敏症（頻度不明）（気管支痙攣，血管浮腫等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 蕁麻疹
精神神経系 頭痛，眩暈，熱感，のぼせ感，ほてり，倦怠感，脱力感 しびれ感，肩こり
循環器 心悸亢進 頻脈，血圧低下，潮紅
消化器 悪心，嘔気，嘔吐，食欲不振，口渇，便秘，腹痛，下痢 腹部膨満感
肝臓 肝機能検査値異常（AST上昇，ALT上昇等）
その他 違和感，胸痛 発汗，耳鳴，筋肉痛，鼻出血，皮下出血
（表終了）

硝酸イソソルビドテープ40mg「サワイ」（40mg1枚）

両 外用 後発 流通

【YJコード】2171700S1150
【薬効分類】2．1．7 血管拡張剤
【一般名】硝酸イソソルビド
【先発品】フランドルテープ40mg
【メーカー】製）沢井製薬
【薬価】32.2円/1枚
【薬価収載日】2012/12/14
【標榜薬効】経皮吸収型・虚血性心疾患治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】狭心症，心筋梗塞（急性期除く），その他の虚血性心疾患
注意
狭心症の発作寛解には不適，速効性の硝酸・亜硝酸エステル系薬剤を使用。
【用法用量】成人 1回1枚（硝酸イソソルビド 40mg） 胸部，上腹部，背部のいずれかに貼付。貼付後24時間又は48時間ごと貼りかえ。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．重篤な低血圧，心原性ショック。
2．閉塞隅角緑内障。
3．頭部外傷，脳出血。
4．高度な貧血。
5．硝酸・亜硝酸エステル系薬剤に過敏症の既往。
6．ホスホジエステラーゼ5阻害作用を有する薬剤（シルデナフィルクエン酸塩，バルデナフィル塩酸塩水和物，タダラフィル）・グアニル酸シクラーゼ刺激作用を有する薬剤（リオシグアト）の投与患者。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
循環器 血圧低下 眩暈・ふらつき，熱感，潮紅，動悸
精神神経系 頭痛 脱力感，不快感
過敏症 皮膚の刺激感 発疹
皮膚 一次刺激性の接触皮膚炎（刺激症状，発赤，掻痒等），アレルギー性接触皮膚炎 接触性皮膚炎の後の色素沈着（軽度）
消化器 悪心 胃部不快感，食欲不振，嘔吐
（表終了）

ジルチアゼム塩酸塩徐放カプセル100mg「日医工」（100mg1カプセル）

両 内服 後発 流通

【YJコード】2171006N1156
【薬効分類】2．1．7 血管拡張剤
【一般名】ジルチアゼム塩酸塩
【先発品】ヘルベッサーRカプセル100mg
【メーカー】製）日医工
【薬価】11.4円/1C
【薬価収載日】2012/12/14
【標榜薬効】持続性Ca拮抗剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇狭心症，異型狭心症
〇本態性高血圧症（軽症～中等症）
【用法用量】狭心症，異型狭心症

2 個々の器官系用医薬品

成人 1回100mg 1日1回 内服。
効果不十分時 1回200mg 1日1回まで。
本態性高血圧症(軽症～中等症)
成人 1回100～200mg 1日1回 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 重篤なうっ血性心不全。
2. 2度以上の房室ブロック, 洞不全症候群(持続性の洞性徐脈(50拍／分未満), 洞停止, 洞房ブロック等)。
3. 本剤の成分に過敏症の既往。
4. 妊婦・妊娠の可能性。
5. アスナプレビル含有製剤・イバブラジン塩酸塩・ロミタピドメシル酸塩の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 完全房室ブロック, 高度徐脈等(各頻度不明)(徐脈, 眩暈, ふらつき等)。
2. うっ血性心不全(頻度不明)。
3. 皮膚粘膜眼症候群, 中毒性表皮壊死融解症, 紅皮症(剥脱性皮膚炎), 急性汎発性発疹性膿疱症(各頻度不明)(紅斑, 水疱, 膿疱, 掻痒, 発熱, 粘膜疹等)。
4. 肝機能障害(AST, ALT, γ－GTPの上昇等), 黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
循環器 徐脈, 房室ブロック, 顔面潮紅, 眩暈, 動悸, 浮腫 洞停止, 血圧低下, 胸痛 洞房ブロック
精神神経系 倦怠感, 頭痛, 頭重感, 脱力感, 眠気, 不眠 パーキンソン様症状, こむらがえり
肝臓 AST上昇, ALT上昇 黄疸 AI－P上昇, LDH上昇, γ－GTP上昇, 肝腫大
過敏症 発疹, 掻痒, 多形性紅斑様皮疹 蕁麻疹 光線過敏症, 膿疱
消化器 胃部不快感, 便秘, 腹痛, 胸やけ, 嘔気, 軟便, 下痢, 口渇 食欲不振
血液 血小板減少, 白血球減少
その他 歯肉肥厚, 女性化乳房, しびれ
(表終了)

ジルチアゼム塩酸塩注射用50mg「サワイ」(50mg1瓶)
内 注射 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2171405D5065
【薬効分類】2. 1. 7 血管拡張剤
【一般名】ジルチアゼム塩酸塩
【先発品】ヘルベッサー注射用50
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】282円/1V
【薬価収載日】2010/05/28
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】Ca拮抗剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 頻脈性不整脈(上室性)
2. 手術時の異常高血圧の救急処置
3. 高血圧性緊急症
4. 不安定狭心症
【用法用量】5mL以上の生食又はブドウ糖液に用時溶解。
頻脈性不整脈(上室性)
成人 1回10mg 約3分間で 緩徐に静注。適宜増減。
手術時の異常高血圧の救急処置
1回静注 成人 1回10mg 約1分間で 緩徐に静注。適宜増減。
点滴静注 成人 5～15μg／kg／分 点滴静注。目標値まで血圧を下げ, 血圧モニターしながら速度調節。
高血圧性緊急症
成人 5～15μg／kg／分 点滴静注。目標値まで血圧を下げ, 血圧モニターしながら速度調節。
不安定狭心症
成人 1～5μg／kg／分 点滴静注。低用量から開始。適宜増減, 最高5μg／kg／分。

■禁忌
【禁忌】1. 重篤な低血圧, 心原性ショック。
2. 2度以上の房室ブロック, 洞不全症候群(持続性の洞性徐脈(50拍／分未満), 洞停止, 洞房ブロック等)。
3. 重篤なうっ血性心不全。
4. 重篤な心筋症。
5. 本剤の成分に過敏症の既往。
6. 妊婦・妊娠の可能性。
7. アスナプレビル含有製剤・イバブラジン塩酸塩・ロミタピドメシル酸塩の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 完全房室ブロック(0. 16%), 高度徐脈等(頻度不明)(徐脈, 眩暈, ふらつき等), 心停止。
2. うっ血性心不全(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
循環器 徐脈, 房室ブロック, 血圧低下, 房室接合部調律, 期外収縮, 洞停止, 顔面潮紅, 脚ブロック, 動悸 洞房ブロック, 眩暈, 一過性の頻脈
精神神経系 頭痛, 嘔気 嘔吐
肝臓 AST, ALT, LDHの上昇 AI－Pの上昇
腎臓 血清クレアチニン, BUNの上昇 尿量減少
過敏症 発疹, 掻痒, 光線過敏症
その他 注射部位の局所発赤 静脈炎
(表終了)

ニコランジル錠5mg「トーワ」(5mg1錠)
両 内服 後発 流通

【YJコード】2171017F2172
【薬効分類】2. 1. 7 血管拡張剤
【一般名】ニコランジル
【先発品】シグマート錠5mg
【メーカー】製)東和薬品 販)ニプロESファーマ
【薬価】6.1円/1T
【薬価収載日】2017/06/16
【標榜薬効】狭心症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】狭心症
【用法用量】成人 1日15mg 1日3回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】ホスホジエステラーゼ5阻害作用を有する薬剤(シルデナフィルクエン酸塩, バルデナフィル塩酸塩水和物, タダラフィル)・グアニル酸シクラーゼ刺激作用を有する薬剤(リオシグアト)の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 肝機能障害(AST, ALT, γ－GTPの上昇等), 黄疸(各頻度不明)。
2. 血小板減少(頻度不明)。
3. 口内潰瘍, 舌潰瘍, 肛門潰瘍, 消化管潰瘍(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 3%以上 0. 1～3%未満 0. 1%未満 頻度不明
循環器 動悸, 顔面紅潮 全身倦怠感, 気分不良, 胸痛, 下肢のむくみ, のぼせ感等
精神神経系 頭痛 眩暈 耳鳴, 不眠, 眠気, 舌のしびれ, 肩こり等 第3脳神経麻痺, 第6脳神経麻痺
過敏症 発疹等
消化器 悪心, 嘔吐, 食欲不振 下痢, 便秘, 胃もたれ, 胃部不快感, 胃痛, 腹痛, 腹部膨満感, 口角炎, 口渇等 口内炎
肝臓 ビリルビンの上昇, ASTの上昇, ALTの上昇, AI－Pの上昇等
血液 血小板減少
眼 複視 角膜潰瘍, 眼筋麻痺
生殖器 性器潰瘍
皮膚 皮膚潰瘍
その他 頸部痛 血中カリウム増加
(表終了)

ニコランジル点滴静注用48mg「サワイ」(48mg1瓶)
内 注射 後発 流通

【YJコード】2171406D3032
【薬効分類】2. 1. 7 血管拡張剤
【一般名】ニコランジル
【先発品】シグマート注48mg
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】1096円/1V
【薬価収載日】2007/07/06
【標榜薬効】不安定狭心症・急性心不全治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 不安定狭心症
2. 急性心不全(慢性心不全の急性増悪期含む)
【用法用量】1. 不安定狭心症
生食又は5%ブドウ糖液で溶解し0. 01～0. 03%溶液とする。
成人 2mg／時から開始 点滴静注。
適宜増減, 最高6mg／時。

2 個々の器官系用医薬品

2. 急性心不全(慢性心不全の急性増悪期含む)
生食又は5%ブドウ糖液で溶解し0. 04～0. 25%溶液とする。
成人 0. 2mg／kg 5分間程度かけ 静注, 引き続き0. 2mg／kg／時 持続静注。0. 05～0. 2mg／kg／時の範囲で調整。

■禁忌
【禁忌】1. 重篤な肝・腎機能障害。
2. 重篤な脳機能障害。
3. 重篤な低血圧, 心原性ショック。
4. Eisenmenger症候群, 原発性肺高血圧症。
5. 右室梗塞。
6. 脱水症状。
7. 神経循環無力症。
8. 閉塞隅角緑内障。
9. 本剤・硝酸・亜硝酸エステル系薬剤に過敏症の既往。
10. ホスホジエステラーゼ5阻害作用を有する薬剤(シルデナフィルクエン酸塩, バルデナフィル塩酸塩水和物, タダラフィル)・グアニル酸シクラーゼ刺激作用を有する薬剤(リオシグアト)の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 肝機能障害(AST, ALT, γ－GTPの上昇等), 黄疸(各頻度不明)。
2. 血小板減少(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満
循環器 血圧低下(2. 2%) 心拍数増加, 心室性頻脈
精神神経系 頭痛(1. 9%) 眩暈, 四肢のしびれ感
消化器 悪心, 嘔吐, 腹部不快感
肝臓 AST, ALT, γ－GTP, AI－P, LDHの上昇, 血中ビリルビン増加
血液 貧血, 血小板減少, 白血球数増加
過敏症 発疹
腎臓 血中クレアチニン増加, 尿中蛋白陽性
その他 総蛋白減少, CK増加, 血中カリウム増加, HDLコレステロール減少
(表終了)

ニコランマート錠5mg（5mg1錠）

両 内服 後発

【YJコード】2171017F2148
【薬効分類】2. 1. 7 血管拡張剤
【一般名】ニコランジル
【メーカー】製)東和薬品
【薬価収載日】2007/06/15 【経過措置期限】2018/03/31
【標榜薬効】狭心症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】狭心症
【用法用量】成人 1日15mg 1日3回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】ホスホジエステラーゼ5阻害作用を有する薬剤(シルデナフィルクエン酸塩, バルデナフィル塩酸塩水和物, タダラフィル)・グアニル酸シクラーゼ刺激作用を有する薬剤(リオシグアト)の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 肝機能障害(AST(GOT), ALT(GPT), γ－GTPの上昇等), 黄疸(各頻度不明)。
2. 血小板減少(頻度不明)。
3. 口内潰瘍, 舌潰瘍, 肛門潰瘍, 消化管潰瘍(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
循環器 動悸, 顔面紅潮, 全身倦怠感, 気分不良, 胸痛, 下肢のむくみ, のぼせ感等
精神神経系 頭痛, 眩暈, 耳鳴, 不眠, 眠気, 舌のしびれ, 肩こり等
過敏症 発疹等
消化器 口内炎, 悪心, 嘔吐, 食欲不振, 下痢, 便秘, 胃もたれ, 胃部不快感, 胃痛, 腹痛, 腹部膨満感, 口角炎, 口渇等
肝臓 ビリルビン, AST(GOT), ALT(GPT), AI－Pの上昇等
血液 血小板減少
眼 角膜潰瘍(注), 複視
生殖器 性器潰瘍(注)
皮膚 皮膚潰瘍(注)
その他 血中カリウム増加, 頸部痛
(表終了)
(注)外国。

ニトログリセリン静注5mg／10mL「TE」（5mg10mL1管）

内 注射 後発 流通
劇

【YJコード】2171403A2087
【薬効分類】2. 1. 7 血管拡張剤
【一般名】ニトログリセリン
【先発品】ミリスロール注5mg／10mL
【メーカー】製)トーアエイヨー 販)アステラス製薬
【薬価】251円/1A
【薬価収載日】2018/12/14
【標榜薬効】血圧降下剤／血管拡張剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 手術時の低血圧維持
2. 手術時の異常高血圧の救急処置
3. 急性心不全(慢性心不全の急性増悪期含む)
4. 不安定狭心症
【用法用量】0. 005～0. 05%(50～500μg／mL)溶液 点滴静注(注射液そのまま, 又は生食, 5%ブドウ糖液, 乳酸リンゲル液等で希釈)。
下表に基づき投与。
(表開始)
効能・効果 用法・用量
手術時の低血圧維持 1～5μg／kg／分から開始し, 目的値まで血圧を下げ, 血圧をモニターし点滴速度を調節。
手術時の異常高血圧の救急処置 0. 5～5μg／kg／分から開始し, 目的値まで血圧を下げ, 血圧をモニターし点滴速度を調節。
急性心不全(慢性心不全の急性増悪期含む) 0. 05～0. 1μg／kg／分から開始し, 目的の血行動態を得るまで血圧, 左心室充満圧等の循環動態をモニターしながら 5～15分ごと 0. 1～0. 2μg／kg／分ずつ増量 最適点滴速度で維持。
不安定狭心症 0. 1～0. 2μg／kg／分から開始し, 発作の経過, 血圧モニターしながら 約5分ごと 0. 1～0. 2μg／kg／分ずつ増量 1～2μg／kg／分で維持。効果なければ 20～40μg／kgの静注を1時間ごとに併用。静注 1～3分かけ 緩徐に投与。
(表終了)
注意
1. 本剤は塩化ビニル製の輸液容器・輸液セットに吸着されるので, 点滴時にはガラス製, ポリエチレン製, ポリプロピレン製の輸液容器を使用。輸液セットへの吸着は点滴速度が遅い程及び輸液セットの長さが長くなる程吸着率が大きくなる。
2. 急性心不全・不安定狭心症は吸着のない輸液セット使用時の用法・用量であり, 塩化ビニル製の輸液セット使用時は多量を要することあり。

■禁忌
【禁忌】1. 硝酸・亜硝酸エステル系薬剤に過敏症の既往。
2. 閉塞隅角緑内障。
3. 高度な貧血。
4. ホスホジエステラーゼ5阻害作用を有する薬剤(シルデナフィルクエン酸塩, バルデナフィル塩酸塩水和物, タダラフィル)・グアニル酸シクラーゼ刺激作用を有する薬剤(リオシグアト)の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
急激な血圧低下(3. 3%), 心拍出量低下(0. 2%)等, 心拍数増加, 投与終了後の遷延性血圧低下, リバウンド現象等。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 2～5%未満 0. 2%未満 頻度不明
循環器 頻脈, 不整脈
血液 メトヘモグロビン血症
呼吸器 PaO2(動脈血酸素分圧)低下
精神神経系 頭痛・頭重感
消化器 悪心・嘔吐
その他 代謝性アシドーシス, 脳浮腫, 胸部不快感, 倦怠感, 口内乾燥感, あくび 乏尿
(表終了)

ニトログリセリンテープ27mg「トーワ」（(27mg)9. 6平方cm1枚）

両 外用 流通
劇

【YJコード】2171701S6040
【薬効分類】2. 1. 7 血管拡張剤
【一般名】ニトログリセリン
【メーカー】製)東和薬品 販)ニプロESファーマ
【薬価】52.7円/1枚
【薬価収載日】2017/12/08
【標榜薬効】経皮吸収型・心疾患治療剤

2 個々の器官系用医薬品

■効能効果・用法用量
【効能効果】狭心症
注意
狭心症の発作緩解には不適，速効性の硝酸・亜硝酸エステル系薬剤を使用。
【用法用量】成人　1回1枚（ニトログリセリン　27mg含有）　1日1回
胸部，腰部，上腕部のいずれかに貼付。
効果不十分時　2枚に増量。

■禁忌
【禁忌】1．重篤な低血圧，心原性ショック。
2．閉塞隅角緑内障。
3．頭部外傷，脳出血。
4．高度な貧血。
5．硝酸・亜硝酸エステル系薬剤に過敏症の既往。
6．ホスホジエステラーゼ5阻害作用を有する薬剤（シルデナフィルクエン酸塩，バルデナフィル塩酸塩水和物，タダラフィル）・グアニル酸シクラーゼ刺激作用を有する薬剤（リオシグアト）の投与患者。

ニトログリセリン点滴静注50mg／100mL「TE」（50mg100mL1袋）

内　注射　後発　流通
劇

【YJコード】2171403A7062
【薬効分類】2．1．7　血管拡張剤
【一般名】ニトログリセリン
【メーカー】製)トーアエイヨー　販)アステラス製薬
【薬価】2048円/1袋
【薬価収載日】2018/12/14
【標榜薬効】血圧降下剤／血管拡張剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．手術時の低血圧維持
2．手術時の異常高血圧の救急処置
3．急性心不全（慢性心不全の急性増悪期含む）
4．不安定狭心症
【用法用量】0．005～0．05%（50～500μg／mL）溶液　点滴静注（注射液そのまま，又は生食，5%ブドウ糖液，乳酸リンゲル液等で希釈）。
下表に基づき投与。
（表開始）
効能・効果 用法・用量
手術時の低血圧維持 1～5μg／kg／分から開始し，目的値まで血圧を下げ，血圧をモニターし点滴速度を調節。
手術時の異常高血圧の救急処置 0．5～5μg／kg／分から開始し，目的値まで血圧を下げ，血圧をモニターし点滴速度を調節。
急性心不全（慢性心不全の急性増悪期含む）0．05～0．1μg／kg／分から開始し，目的の血行動態を得るまで血圧，左心室充満圧等の循環動態をモニターしながら　5～15分ごと　0．1～0．2μg／kg／分ずつ増量　最適点滴速度で維持。
不安定狭心症 0．1～0．2μg／kg／分から開始し，発作の経過，血圧モニターしながら　約5分ごと　0．1～0．2μg／kg／分ずつ増量　1～2μg／kg／分で維持。効果なければ　20～40μg／kgの静注を1時間ごとに併用。静注　1～3分かけ　緩徐に投与。
（表終了）
注意
1．本剤は塩化ビニル製の輸液容器・輸液セットに吸着されるので，点滴時にはガラス製，ポリエチレン製，ポリプロピレン製の輸液容器を使用。輸液セットへの吸着は点滴速度が遅い程及び輸液セットの長さが長くなる程吸着率が大きくなる。
2．急性心不全・不安定狭心症は吸着のない輸液セット使用時の用法・用量であり，塩化ビニル製の輸液セット使用時は多量を要することあり。

■禁忌
【禁忌】1．硝酸・亜硝酸エステル系薬剤に過敏症の既往。
2．閉塞隅角緑内障。
3．高度な貧血。
4．ホスホジエステラーゼ5阻害作用を有する薬剤（シルデナフィルクエン酸塩，バルデナフィル塩酸塩水和物，タダラフィル）・グアニル酸シクラーゼ刺激作用を有する薬剤（リオシグアト）の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
急激な血圧低下（3．3%），心拍出量低下（0．2%）等，心拍数増加，投与終了後の遷延性血圧低下，リバウンド現象等。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．2～5%未満 0．2%未満 頻度不明
循環器 頻脈，不整脈
血液　メトヘモグロビン血症
呼吸器 PaO2（動脈血酸素分圧）低下
精神神経系 頭痛・頭重感
消化器 悪心・嘔吐
その他　代謝性アシドーシス，脳浮腫，胸部不快感，倦怠感，口内乾燥感，あくび 乏尿
（表終了）

ニトロペン舌下錠0．3mg（0．3mg1錠）

両　内服　後発　流通
劇

【YJコード】2171018K1039
【薬効分類】2．1．7　血管拡張剤
【一般名】ニトログリセリン
【メーカー】製)日本化薬
【薬価】10円/1T
【薬価収載日】2006/12/08
【標榜薬効】狭心症用舌下錠

■効能効果・用法用量
【効能効果】狭心症，心筋梗塞，心臓喘息，アカラジアの一時的緩解
【用法用量】成人　0．3～0．6mg（本剤　1～2錠）　舌下投与。
狭心症に投与後，数分間で効果なければ　さらに0．3～0．6mg（本剤1～2錠）　追加。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．重篤な低血圧，心原性ショック。
2．閉塞隅角緑内障。
3．頭部外傷，脳出血。
4．高度な貧血。
5．硝酸・亜硝酸エステル系薬剤に過敏症の既往。
6．ホスホジエステラーゼ5阻害作用を有する薬剤（シルデナフィルクエン酸塩，バルデナフィル塩酸塩水和物，タダラフィル）・グアニル酸シクラーゼ刺激作用を有する薬剤（リオシグアト）の投与患者。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上又は頻度不明 0．1%未満
循環器 脳貧血，血圧低下，熱感，潮紅，動悸 眩暈
精神神経系 頭痛 失神
消化器 悪心・嘔吐
その他　発汗，尿失禁，便失禁
（表終了）

ニフェジピンCR錠20mg「日医工」（20mg1錠）

両　内服　後発　流通
劇

【YJコード】2171014G4100
【薬効分類】2．1．7　血管拡張剤
【一般名】ニフェジピン
【先発品】アダラートCR錠20mg
【メーカー】製)日医工
【薬価】9.1円/1T
【薬価収載日】2012/12/14
【標榜薬効】持続性Ca拮抗剤／高血圧・狭心症治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．高血圧症，腎実質性高血圧症，腎血管性高血圧症
2．狭心症，異型狭心症
【用法用量】高血圧症
成人　1回20～40mg　1日1回　内服。1日10～20mgから開始　必要時，漸増。1日40mgで効果不十分時　1回40mg　1日2回まで。
腎実質性高血圧症，腎血管性高血圧症
成人　1回20～40mg　1日1回　内服。1日10～20mgから開始　必要時，漸増。
狭心症，異型狭心症
成人　1回40mg　1日1回　内服。適宜増減，1日最高60mg　1日1回。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．心原性ショック。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．紅皮症（剥脱性皮膚炎）（頻度不明）。
2．無顆粒球症，血小板減少（各頻度不明）。
3．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
4．血圧低下に伴う一過性の意識障害（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明

2 個々の器官系用医薬品

肝臓 AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇，AI－P上昇，LDH上昇 黄疸
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇
循環器 顔面潮紅，熱感，潮紅，動悸，浮腫（下肢，顔面等），頻脈，頻尿 のぼせ，血圧低下，起立性低血圧 胸部痛，発汗，悪寒
精神神経系 頭痛，眩暈，倦怠感，不眠，異常感覚 振戦 眠気，脱力感，筋痙攣，四肢しびれ感
消化器 悪心・嘔吐，便秘，下痢，腹部不快感，胸やけ 口渇 上腹部痛，食欲不振，鼓腸
過敏症 発疹，掻痒 光線過敏症，紫斑，血管浮腫
口腔 歯肉肥厚
代謝異常 高血糖
血液 貧血 白血球減少 血小板減少
呼吸器 呼吸困難，咳嗽，鼻出血，鼻閉
その他 視力異常（霧視等），関節痛 女性化乳房，眼痛，筋肉痛，関節腫脹，勃起不全
（表終了）

ニフェジピンL錠20mg「トーワ」（20mg1錠）

両 内服 後発 流通
劇

【YJコード】2171014G2298
【薬効分類】2．1．7 血管拡張剤
【一般名】ニフェジピン
【メーカー】製)東和薬品
【薬価】6.1円/1T
【薬価収載日】2012/10/22
【標榜薬効】持続性Ca拮抗剤／高血圧・狭心症治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】本態性高血圧症，腎性高血圧症，狭心症
【用法用量】本態性高血圧症，腎性高血圧症
成人 1回10～20mg 1日2回 内服。適宜増減。
狭心症
成人 1回20mg 1日2回 内服。適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．心原性ショック。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．紅皮症（剥脱性皮膚炎）（頻度不明）。
2．無顆粒球症，血小板減少（各頻度不明）。
3．ショック（頻度不明）。
4．血圧低下に伴う一過性の意識障害（頻度不明）。
5．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．5%以上 0．5%未満 頻度不明
肝臓 ALT上昇，AI－P上昇 AST上昇 黄疸
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇
循環器 顔面潮紅，熱感，のぼせ，動悸 潮紅，血圧低下，頻脈 起立性低血圧，浮腫（下肢，顔面等），胸部痛，頻尿，発汗，悪寒
精神神経系 頭痛，眩暈，倦怠感，眠気 不眠，振戦 脱力感，筋痙攣，四肢しびれ感，異常感覚
消化器 悪心・嘔吐 便秘，下痢，口渇，胸やけ，食欲不振 上腹部痛，腹部不快感，鼓腸
過敏症 掻痒 発疹，光線過敏症，紫斑，血管浮腫
口腔 歯肉肥厚
代謝異常 高血糖
血液 血小板減少，貧血，白血球減少
呼吸器 呼吸困難，咳嗽，鼻出血，鼻閉
その他 女性化乳房，視力異常（霧視等），眼痛，筋肉痛，関節痛，関節腫脹，勃起不全
（表終了）

ハンプ注射用1000（1000μg1瓶）

内 注射 流通
劇

【YJコード】2179400D1022
【薬効分類】2．1．7 血管拡張剤
【一般名】カルペリチド（遺伝子組換え）
【メーカー】製)第一三共 販)ゼリア新薬工業 販)第一製薬
【薬価】1208円/1V
【薬価収載日】1995/03/17
【標榜薬効】α型ヒト心房性ナトリウム利尿ポリペプチド製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】急性心不全（慢性心不全の急性増悪期含む）
【用法用量】0．1μg／kg／分 持続静注（注射用水5mLに溶解し，必要時生食又は5%ブドウ糖液で希釈）。
投与量 血行動態をモニターしながら適宜調節，0．2μg／kg／分まで。

■禁忌

【禁忌】1．重篤な低血圧，心原性ショック。
2．右室梗塞。
3．脱水症状。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．血圧低下（8．6%），低血圧性ショック（0．2%），徐脈（0．2%）等。
2．過剰利尿（脱水）に伴う電解質異常（1．8%），心室性不整脈（心室頻拍（0．2%），心室細動（0．1%）等），赤血球増加（0．1%），血小板増加（0．1%）。
3．肝機能障害（頻度不明）。
4．血小板減少（0．1%）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
循環器 不整脈（心房細動，上室性頻脈） 顔のほてり
消化器 嘔気，嘔吐
精神神経系 眩暈
血液 血小板減少，赤血球減少，白血球増加，白血球減少，白血球分画の異常，ヘマトクリット値・ヘモグロビン値の変動
肝臓 AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇，γ－GTP上昇，LDH上昇，総ビリルビン上昇
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇 尿酸の上昇
過敏症 蕁麻疹 発疹，掻痒
その他 血清蛋白の低下，血清電解質の変動，尿蛋白の増加 胸部不快感，呼吸困難 注射部位静脈炎
（表終了）

ベニジピン塩酸塩錠4mg「トーワ」（4mg1錠）

両 内服 後発 流通
劇

【YJコード】2171021F2276
【薬効分類】2．1．7 血管拡張剤
【一般名】ベニジピン塩酸塩
【先発品】コニール錠4
【メーカー】製)東和薬品
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2013/06/21
【標榜薬効】高血圧症・狭心症治療剤（持続性Ca拮抗剤）

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．高血圧症，腎実質性高血圧症
2．狭心症
【用法用量】1．高血圧症，腎実質性高血圧症
成人 1回2～4mg 1日1回 朝食後 内服。
適宜増減，効果不十分時 1回8mg 1日1回まで。
重症高血圧症 1回4～8mg 1日1回 朝食後 内服。
2．狭心症
成人 1回4mg 1日2回 朝・夕食後 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．心原性ショック。
2．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
肝機能障害（0．1%未満）（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
肝臓 肝機能異常（AST，ALT，γ－GTP，ビリルビン，AI－P，LDH上昇等）
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇
血液 白血球減少，好酸球増加 血小板減少
循環器 動悸，顔面紅潮，ほてり，血圧低下 胸部重圧感，徐脈，頻脈 期外収縮
精神神経系 頭痛，頭重，眩暈，ふらつき，立ちくらみ 眠気，しびれ感
消化器 便秘 腹部不快感，嘔気，胸やけ，口渇 下痢，嘔吐
過敏症 発疹 掻痒感 光線過敏症
口腔 歯肉肥厚
その他 浮腫（顔・下腿・手），CK上昇 耳鳴，手指の発赤・熱感，肩こり，咳嗽，頻尿，倦怠感，カリウム上昇 女性化乳房，結膜充血，霧視，発汗
（表終了）

2 個々の器官系用医薬品

ヘルベッサー錠30（30mg1錠）

両 内服 流通

【YJコード】2171006F1224
【薬効分類】2．1．7 血管拡張剤
【一般名】ジルチアゼム塩酸塩
【メーカー】製)田辺三菱製薬
【薬価】7.3円/1T
【薬価収載日】2005/06/10
【標榜薬効】Ca拮抗剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇狭心症，異型狭心症
〇本態性高血圧症（軽症～中等症）
【用法用量】狭心症，異型狭心症
成人 1回30mg 1日3回 内服。効果不十分時 1回60mg 1日3回まで。
本態性高血圧症（軽症～中等症）
成人 1回30～60mg 1日3回 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．重篤なうっ血性心不全。
2．2度以上の房室ブロック，洞不全症候群（持続性の洞性徐脈（50拍／分未満），洞停止，洞房ブロック等）。
3．本剤の成分に過敏症の既往。
4．妊婦・妊娠の可能性。
5．アスナプレビル含有製剤・イバブラジン塩酸塩・ロミタピドメシル酸塩の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．完全房室ブロック，高度徐脈等（各頻度不明）（徐脈，眩暈，ふらつき等）。
2．うっ血性心不全（頻度不明）。
3．皮膚粘膜眼症候群，中毒性表皮壊死融解症，紅皮症（剥脱性皮膚炎），急性汎発性発疹性膿疱症（各頻度不明）（紅斑，水疱，膿疱，掻痒，発熱，粘膜疹等）。
4．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
循環器 徐脈，房室ブロック，顔面潮紅，眩暈，動悸，浮腫 洞停止，血圧低下，胸痛 洞房ブロック
精神神経系 倦怠感，頭痛，頭重感，脱力感，眠気，不眠 パーキンソン様症状，こむらがえり
肝臓 AST上昇，ALT上昇 黄疸 AI－P上昇，LDH上昇，γ－GTP上昇，肝腫大
過敏症 発疹，掻痒，多形紅斑様皮疹 蕁麻疹 光線過敏症，膿疱
消化器 胃部不快感，便秘，腹痛，胸やけ，嘔気，軟便，下痢，口渇 食欲不振
血液 血小板減少，白血球減少
その他 歯肉肥厚，女性化乳房，しびれ
（表終了）

ミオコールスプレー0．3mg（0．65%7．2g1缶）

両 外用 流通
劇

【YJコード】2171701R4038
【薬効分類】2．1．7 血管拡張剤
【一般名】ニトログリセリン
【メーカー】製)トーアエイヨー 販)アステラス製薬
【薬価】1053.2円/1缶
【薬価収載日】2006/12/08
【標榜薬効】定量噴霧式・ニトログリセリン舌下スプレー剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】狭心症発作の寛解
【用法用量】成人 1回1噴霧（ニトログリセリン 0．3mg） 舌下投与。効果不十分時 1噴霧を追加。

■禁忌

【禁忌】1．重篤な低血圧，心原性ショック。
2．閉塞隅角緑内障。
3．頭部外傷，脳出血。
4．高度な貧血。
5．硝酸・亜硝酸エステル系薬剤に過敏症の既往。
6．ホスホジエステラーゼ5阻害作用を有する薬剤（シルデナフィルクエン酸塩，バルデナフィル塩酸塩水和物，タダラフィル）・グアニル酸シクラーゼ刺激作用を有する薬剤（リオシグアト）の投与患者。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
循環器 血圧低下，ほてり，動悸，眩暈，脳貧血，熱感，潮紅
精神神経系 頭痛，頭重感，失神
過敏症 発疹
消化器 アフタ性口内炎，悪心・嘔吐
肝臓 AST上昇，ALT上昇 AI－P上昇，LDH上昇
適用部位 舌の刺激感，舌痛，本剤自体による舌のしびれ
その他 気分不良，発汗，尿失禁，便失禁
（表終了）

ワソラン錠40mg（40mg1錠）

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】2171008F1070
【薬効分類】2．1．7 血管拡張剤
【一般名】ベラパミル塩酸塩
【メーカー】製)エーザイ 販)アボットジャパン 販)ヴィアトリス・ヘルスケア 販)ヴィアトリス製薬
【薬価】7.4円/1T
【薬価収載日】2006/12/08
【ハイリスク分類】不整脈用剤
【標榜薬効】Ca拮抗性不整脈・虚血性心疾患治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】成人 頻脈性不整脈（心房細動・粗動，発作性上室性頻拍），狭心症，心筋梗塞（急性期除く），その他の虚血性心疾患
小児 頻脈性不整脈（心房細動・粗動，発作性上室性頻拍）
注意
小児等に使用時，小児等の不整脈治療に熟練した医師が監督。基礎心疾患のある時は，有益性がリスクを上回る時のみ投与。
【用法用量】成人
頻脈性不整脈（心房細動・粗動，発作性上室性頻拍）
1回1～2錠（ベラパミル塩酸塩 40～80mg） 1日3回 内服。適宜減量。
狭心症，心筋梗塞（急性期除く），その他の虚血性心疾患
1回1～2錠（ベラパミル塩酸塩 40～80mg） 1日3回 内服。適宜増減。
小児
頻脈性不整脈（心房細動・粗動，発作性上室性頻拍）
ベラパミル塩酸塩 1日3～6mg／kg（240mgまで） 1日3回 分割内服。適宜減量。

■禁忌

【禁忌】1．重篤なうっ血性心不全。
2．第II度以上の房室ブロック，洞房ブロック。
3．妊婦・妊娠の可能性。
4．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．循環器障害（頻度不明）（心不全，洞停止，房室ブロック，徐脈，意識消失）。
2．皮膚粘膜眼症候群，多形滲出性紅斑，乾癬型皮疹等の重篤な皮膚障害（頻度不明）（発熱，紅斑，掻痒感，眼充血，口内炎等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
循環器 房室伝導時間の延長，頭痛，眩暈，血圧低下
過敏症 発疹
消化器 便秘，悪心・嘔吐 食欲不振
口腔 歯肉肥厚
肝臓 AST，ALTの上昇等
内分泌 血中プロラクチンの上昇，男性における血中黄体形成ホルモン・血中テストステロンの低下，女性型乳房
その他 浮腫
（表終了）

2．1．8 高脂血症用剤

EPLカプセル250mg（250mg1カプセル）

両 内服 後発 流通

【YJコード】2189006M1058
【薬効分類】2．1．8 高脂血症用剤
【一般名】ポリエンホスファチジルコリン
【メーカー】製)アルフレッサファーマ
【薬価】6.1円/1C

2 個々の器官系用医薬品

【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】肝臓疾患・高脂質血症用剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性肝疾患の肝機能の改善，脂肪肝，高脂血症
【用法用量】成人　1回500mg　1日3回　内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
過敏症 － 発疹等
消化器 下痢，胃部不快感，腹部膨満感，悪心等 －
（表終了）

アトルバスタチンOD錠10mg「トーワ」（10mg1錠）
両　内服　後発　流通

【YJコード】2189015F4022
【薬効分類】2．1．8　高脂血症用剤
【一般名】アトルバスタチンカルシウム水和物
【メーカー】製)東和薬品
【薬価】13.9円/1T
【薬価収載日】2013/12/13
【標榜薬効】HMG－CoA還元酵素阻害剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】高コレステロール血症，家族性高コレステロール血症
注意
1．十分な検査を実施し，高コレステロール血症，家族性高コレステロール血症を確認後適用を考慮。
2．家族性高コレステロール血症ホモ接合体は，LDL－アフェレーシス等の非薬物療法の補助として，又はそれらが実施不能時に適用を考慮。
【用法用量】高コレステロール血症
成人　1回10mg　1日1回　内服。
適宜増減，重症時　1日20mgまで。
家族性高コレステロール血症
成人　1回10mg　1日1回　内服。
適宜増減，重症時　1日40mgまで。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．下記の肝代謝能の低下
急性肝炎，慢性肝炎の急性増悪，肝硬変，肝癌，黄疸。
3．妊婦・妊娠の可能性，授乳婦。
4．グレカプレビル・ピブレンタスビルの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．横紋筋融解症（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇），急性腎障害等の重篤な腎障害，ミオパシー（各頻度不明）（広範な筋肉痛，筋肉圧痛，著明なCKの上昇）。
2．免疫介在性壊死性ミオパシー（頻度不明）（近位筋脱力，CK高値，炎症を伴わない筋線維の壊死，抗HMG－CoA還元酵素抗体陽性等）。
3．劇症肝炎，肝炎，肝機能障害，黄疸（各頻度不明）。
4．過敏症（頻度不明）（血管神経性浮腫，アナフィラキシー反応，蕁麻疹含む）。
5．無顆粒球症，汎血球減少症，血小板減少症（各頻度不明）。
6．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑（各頻度不明）（水疱性発疹）。
7．高血糖，糖尿病（各頻度不明）。
8．間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等）。
9．重症筋無力症（頻度不明）（眼筋型，全身型）の発症・悪化。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
皮膚　掻痒感，発疹，皮疹，発赤 脱毛症，光線過敏，皮膚乾燥，皮膚亀裂，爪の障害
血液　血小板減少，白血球減少，貧血
肝臓 AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇 AI－P上昇，LDH上昇，肝障害
消化器　アミラーゼ上昇，嘔吐，下痢，胃炎，軟便，嘔気，口内炎，胸やけ，便秘，胃不快感，腹痛，心窩部痛（心窩部の疼痛），腹部膨満感 膵炎，胆汁うっ滞性黄疸，食欲不振，消化不良，悪心，口渇，舌痛，舌炎，舌のしびれ，口のしびれ，口唇炎，咽頭不快感
呼吸器　咳
筋骨格系 CK上昇　痙攣，筋炎，筋肉痛，血中ミオグロビン上昇，無力症，関節痛，頸・肩のこり，胸痛，背部痛，こわばり感，腱炎，腱痛
感覚器　異常感覚，末梢神経障害，耳鳴，霧視
精神神経系　眩暈，不眠（症）勃起障害，四肢しびれ（感），眠気，健忘症，抑うつ，悪夢
内分泌 テストステロン低下 コリンエステラーゼ上昇，TSH上昇，ACTH上昇，アルドステロン低下 女性化乳房
代謝異常 グルコース上昇，HbA1c上昇，血清鉄低下 低血糖症
腎臓 K上昇 BUN上昇，血中クレアチニン増加，血尿
その他 脳梗塞，肺炎，頭痛，全身倦怠（感），帯状疱疹 浮腫（顔面・四肢等），動悸，頻脈，味覚異常，頻尿，排尿困難，着色尿，熱感，発熱
（表終了）

エゼチミブ錠10mg「DSEP」（10mg1錠）
両　内服　後発　流通

【YJコード】2189018F1035
【薬効分類】2．1．8　高脂血症用剤
【一般名】エゼチミブ
【先発品】ゼチーア錠10mg
【メーカー】製)第一三共エスファ　販)第一三共
【薬価】30.7円/1T
【薬価収載日】2020/06/19
【標榜薬効】高脂血症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】高コレステロール血症，家族性高コレステロール血症，ホモ接合体性シトステロール血症
注意
1．十分な検査を実施し，高コレステロール血症，家族性高コレステロール血症，ホモ接合体性シトステロール血症を確認後適用を考慮。
2．ホモ接合体性家族性高コレステロール血症は，HMG－CoA還元酵素阻害剤，LDLアフェレーシス等の非薬物療法の補助として，又はそれらが実施不能時に適用を考慮。
【用法用量】成人　1回10mg　1日1回　食後　内服。
適宜減量。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．重篤な肝機能障害（HMG－CoA還元酵素阻害剤の併用時）。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．過敏症（頻度不明）（アナフィラキシー，血管神経性浮腫，発疹含む）。
2．横紋筋融解症（頻度不明），ミオパシー（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等）。
3．肝機能障害（頻度不明）（AST上昇，ALT上昇等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
精神神経系　頭痛，しびれ，眩暈，坐骨神経痛 抑うつ，錯感覚
消化器 便秘，下痢，腹痛，腹部膨満，悪心・嘔吐 アミラーゼ上昇，食欲不振，消化不良，逆流性食道炎，鼓腸放屁，口内炎，胃炎 膵炎，胆石症，胆嚢炎，口内乾燥
肝臓 ALT上昇，γ－GTP上昇 AST上昇，ビリルビン上昇 肝炎
腎臓 蛋白尿 BUN上昇
循環器　期外収縮，動悸，血圧上昇，胸痛 ほてり
筋肉 CK上昇 関節痛，背部痛，四肢痛 筋肉痛，筋力低下，筋痙縮
血液　白血球減少 血小板減少
皮膚 発疹 掻痒 蕁麻疹，多形紅斑
その他 コルチゾール上昇 テストステロン低下，TSH上昇，尿酸上昇，リン値上昇，疲労，浮腫（顔面・四肢），帯状疱疹，単純疱疹，結膜炎，咳嗽 無力症，疼痛
（表終了）

パルモディアXR錠0．2mg（0．2mg1錠）
両　内服　流通

【YJコード】2183007G1020
【薬効分類】2．1．8　高脂血症用剤
【一般名】ペマフィブラート
【メーカー】製)興和
【薬価】60円/1T
【薬価収載日】2023/11/22
【標榜薬効】高脂血症治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】高脂血症（家族性含む）
注意
1．LDL－コレステロールのみが高い高脂血症への第一選択薬にしない。
2．十分な検査を実施し，高脂血症の診断が確立した患者のみ適用を考慮。
【用法用量】成人　1回0．2mg　1日1回　内服。1回0．4mg　1日1回

2 個々の器官系用医薬品

まで。
注意
急激な腎機能の悪化を伴う横紋筋融解症の可能性，腎機能検査で，eGFRが30mL／分／1．73m2未満は1回0．2mgを1日1回。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．重篤な肝障害，Child－Pugh分類B・Cの肝硬変，胆道閉塞。
3．胆石。
4．妊婦・妊娠の可能性。
5．シクロスポリン，リファンピシンの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇），急性腎障害等の重篤な腎障害。
2．肝機能障害，黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．5%以上 0．1～0．5%未満 頻度不明
肝臓 ALT上昇　胆石症，肝機能異常，AST上昇
筋肉 CK上昇，筋肉痛　血中ミオグロビン増加
皮膚 発疹　掻痒
その他　糖尿病（悪化含む）グリコヘモグロビン増加，低比重リポ蛋白増加，血中尿酸増加
（表終了）

ピタバスタチンCa・OD錠2mg「サワイ」（2mg1錠）

両　内服　後発　流通

【YJコード】2189016F5066
【薬効分類】2．1．8　高脂血症用剤
【一般名】ピタバスタチンカルシウム水和物
【先発品】リバロOD錠2mg
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】15.9円/1T
【薬価収載日】2015/12/11
【標榜薬効】HMG－CoA還元酵素阻害剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】高コレステロール血症，家族性高コレステロール血症
注意
1．十分な検査を実施し，高コレステロール血症，家族性高コレステロール血症を確認後適用を考慮。
2．家族性高コレステロール血症ホモ接合体は，治療上やむを得ない時のみ，LDL－アフェレーシス等の非薬物療法の補助として適用を考慮。
3．小児には，小児の家族性高コレステロール血症の治療に熟知した医師のもとで，適切な患者にのみ適用を考慮。
4．女性では冠動脈疾患の発症は男性と比べて遅いと報告あり，女児への投与の要否は，リスク・ベネフィットを考慮し慎重に判断。国内臨床試験で女児への使用経験なし。
【用法用量】高コレステロール血症
成人　1回1～2mg　1日1回　内服。
適宜増減。LDL－コレステロール値の低下が不十分時　1日最大4mg。
家族性高コレステロール血症
成人
1回1～2mg　1日1回　内服。
適宜増減。LDL－コレステロール値の低下が不十分時　1日最大4mg。
小児
10歳以上　1回1mg　1日1回　内服。
適宜増減。LDL－コレステロール値の低下が不十分時　1日最大2mg。
（参考）
成人
（表開始）
 OD錠1mg OD錠2mg OD錠4mg
高コレステロール血症 ○ ○ ○
家族性高コレステロール血症 ○ ○ ○
（表終了）
小児
（表開始）
 OD錠1mg OD錠2mg OD錠4mg
高コレステロール血症 － － －
家族性高コレステロール血症 ○ ○ －
（表終了）
○ 承認用法・用量あり　－ 承認なし
注意
1．肝障害の成人 開始量1日1mg，1日最大2mg。
肝障害の小児 1日1mg。
2．投与量（全身曝露量）の増加に伴い，横紋筋融解症関連有害事象が発現。4mgに増量時，横紋筋融解症前駆症状に注意。成人臨床試験で8mg以上の投与は横紋筋融解症・関連有害事象の発現により中止（外国）。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．重篤な肝障害，胆道閉塞。
3．シクロスポリンの投与患者。
4．妊婦・妊娠の可能性，授乳婦。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇），急性腎障害等の重篤な腎障害。
2．ミオパシー（頻度不明）（広範な筋肉痛，筋肉圧痛，著明なCKの上昇）。
3．免疫介在性壊死性ミオパシー（頻度不明）（近位筋脱力，CK高値，炎症を伴わない筋線維の壊死，抗HMG－CoA還元酵素抗体陽性等）。
4．肝機能障害（AST，ALTの著しい上昇等），黄疸（各0．1%未満）。
5．血小板減少（頻度不明）。
6．間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等）。
7．重症筋無力症（頻度不明）（眼筋型，全身型）の発症・悪化。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～2．0% 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒 蕁麻疹 紅斑，血管性浮腫
消化器 嘔気・悪心，胃不快感 口渇，消化不良，腹痛，腹部膨満感，便秘，口内炎，嘔吐，食欲不振，舌炎，下痢
肝臓 AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇，LDH上昇 ビリルビン上昇，コリンエステラーゼ上昇，AI－P上昇
腎臓　頻尿，BUN上昇，血清クレアチニン上昇
筋肉 CK上昇，筋肉痛，脱力感 筋痙攣，ミオグロビン上昇
精神神経系 頭痛・頭重感，しびれ，眩暈 こわばり感，眠気，不眠
血液 貧血 血小板減少，顆粒球減少，白血球減少，好酸球増多，白血球増多，グロブリン上昇，クームス試験の陽性化
内分泌 テストステロン低下 アルドステロン低下，アルドステロン上昇，ACTH上昇，コルチゾール上昇
その他 倦怠感，抗核抗体の陽性化 動悸，疲労感，皮膚疼痛，ほてり，関節痛，浮腫，霧視，眼のちらつき，耳閉感，尿潜血，尿酸値上昇，血清K上昇，血清P上昇，味覚異常，着色尿 脱毛
（表終了）

プラバスタチンNa錠10mg「サワイ」（10mg1錠）

両　内服　後発　流通

【YJコード】2189010F2353
【薬効分類】2．1．8　高脂血症用剤
【一般名】プラバスタチンナトリウム
【先発品】プラバスタチンナトリウム錠10mg「ツルハラ」，メバロチン錠10
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】14.1円/1T
【薬価収載日】2011/11/28
【標榜薬効】高脂血症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】高脂血症，家族性高コレステロール血症
注意
十分な検査を実施し，高脂血症，家族性高コレステロール血症を確認後適用を考慮。高コレステロール血症が主な異常の高脂血症によく反応する。
【用法用量】成人　1日10mg　1日1～2回　分割　内服。
適宜増減，重症時　1日20mgまで。
注意
メバロン酸の生合成は夜間亢進の報告あり，1日1回投与時，夕食後投与。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性，授乳婦。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇），急性腎障害等の重篤な腎機能障害。
2．肝機能障害（頻度不明）（黄疸，著しいAST・ALTの上昇等）。
3．血小板減少（頻度不明）（紫斑，皮下出血等）。
4．間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等）。
5．ミオパシー（頻度不明）。
6．免疫介在性壊死性ミオパシー（頻度不明）（近位筋脱力，CK高値，炎症を伴わない筋線維の壊死，抗HMG－CoA還元酵素抗体陽性等）。
7．末梢神経障害（頻度不明）。
8．過敏症状（頻度不明）（ループス様症候群，血管炎等）。
9．重症筋無力症（頻度不明）（眼筋型，全身型）の発症・悪化。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
皮膚　発疹，掻痒，蕁麻疹 紅斑，脱毛，光線過敏，湿疹

2 個々の器官系用医薬品

消化器 胃不快感，下痢，腹痛 嘔気・嘔吐，便秘，口内炎，消化不良，腹部膨満感，食欲不振，舌炎
肝臓 AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇 LDH上昇，AI－P上昇 肝機能異常，ビリルビン上昇
腎臓 BUN上昇，血清クレアチニン上昇
筋肉 CK上昇 筋脱力，筋肉痛，筋痙攣
精神神経系 眩暈，頭痛，不眠
血液 血小板減少，貧血，白血球減少
その他 尿酸値上昇，尿潜血 耳鳴，関節痛，味覚異常，倦怠感，浮腫，しびれ，顔面潮紅
（表終了）

リバゼブ配合錠HD（1錠）

両 内服 流通

【YJコード】2189103F2025
【薬効分類】2．1．8 高脂血症用剤
【一般名】ピタバスタチンカルシウム水和物・エゼチミブ配合剤
【メーカー】製)興和
【薬価】65.7円/1T
【薬価収載日】2022/11/16
【標榜薬効】HMG－CoA還元酵素阻害剤／小腸コレステロールトランスポーター阻害剤配合剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】高コレステロール血症，家族性高コレステロール血症
注意
1．本剤を高コレステロール血症，家族性高コレステロール血症治療の第一選択薬にしない。
2．十分な検査を実施し，高コレステロール血症，家族性高コレステロール血症を確認後適用を考慮。
3．ホモ接合体性家族性高コレステロール血症は，LDLアフェレーシス等の非薬物療法の補助として，又はそれらが実施不能時に適用を考慮。
【用法用量】成人 1回1錠(ピタバスタチンカルシウム／エゼチミブ 4mg／10mg) 1日1回 食後 内服。
注意
1．下記のピタバスタチンカルシウム水和物とエゼチミブの成人への用法・用量，患者ごとに適用を考慮。
ピタバスタチンカルシウム水和物
成人 1回1～2mg 1日1回 内服。
適宜増減，LDL－コレステロール値の低下が不十分時は増量できるが，1日最大4mg。
エゼチミブ
成人 1回10mg 1日1回 食後 内服。適宜減量。
3．ピタバスタチンカルシウム4mg及びエゼチミブ10mgを併用時，あるいはピタバスタチンカルシウム4mg又はピタバスタチンカルシウム／エゼチミブ 2mg／10mgで効果不十分時に，本剤HD(ピタバスタチンカルシウム／エゼチミブ 4mg／10mg)の適用を検討。
4．肝障害 ピタバスタチンカルシウムとして1日最大2mg。
5．ピタバスタチンは投与量(全身曝露量)の増加に伴い，横紋筋融解症関連有害事象が発現するので，ピタバスタチンカルシウムとして4mgに増量時は，CK上昇，ミオグロビン尿，筋肉痛及び脱力感等の横紋筋融解症前駆症状に注意。ピタバスタチンの成人臨床試験でピタバスタチンカルシウムとして8mg以上の投与は横紋筋融解症及び関連有害事象の発現により中止されている(外国)。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．重篤な肝機能障害，胆道閉塞。
3．シクロスポリンの投与患者。
4．妊婦・妊娠の可能性，授乳婦。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．過敏症(頻度不明)(アナフィラキシー，血管神経性浮腫，発疹含む)(エゼチミブ)。
2．横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)，急性腎障害等の重篤な腎障害。
3．ミオパシー(頻度不明)(広範な筋肉痛，筋肉圧痛，著明なCKの上昇)。
4．免疫介在性壊死性ミオパシー(頻度不明)(近位筋脱力，CK高値，炎症を伴わない筋線維の壊死，抗HMG－CoA還元酵素抗体陽性等)(HMG－CoA還元酵素阻害剤)。
5．肝機能障害(AST，ALTの著しい上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
6．血小板減少(頻度不明)。
7．間質性肺炎(頻度不明)(発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等)。
8．重症筋無力症(頻度不明)(眼筋型，全身型)の発症・悪化。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
皮膚 発疹，掻痒，蕁麻疹，紅斑，多形紅斑，血管性浮腫，脱毛，皮膚疼痛
消化器 口渇，口内乾燥，口内炎，舌炎，嘔気・悪心，嘔吐，逆流性食道炎，胃炎，胃不快感，消化不良，腹痛，腹部膨満感，アミラーゼ上昇，膵炎，胆石症，胆嚢炎，鼓腸放屁，便秘，下痢，食欲不振
肝臓 ALT上昇 γ－GTP上昇 AST上昇，LDH上昇，ビリルビン上昇，コリンエステラーゼ上昇，AI－P上昇，肝炎
腎臓 蛋白尿 頻尿，BUN上昇，血清クレアチニン上昇
循環器 期外収縮，動悸，血圧上昇，胸痛，ほてり
筋肉 CK上昇 筋肉痛，背部痛，四肢痛，脱力感，筋痙縮，筋力低下，ミオグロビン上昇
精神神経系 頭痛・頭重感，しびれ，眩暈，こわばり感，眠気，不眠，坐骨神経痛，抑うつ，錯感覚
血液 白血球増多 貧血，血小板減少，顆粒球減少，白血球減少，好酸球増多，グロブリン上昇，クームス試験の陽性化
内分泌 テストステロン低下，アルドステロン低下，アルドステロン上昇，ACTH上昇，コルチゾール上昇，TSH上昇
その他 倦怠感，疲労感，無力症，関節痛，浮腫，霧視，眼のちらつき，耳閉感，味覚異常，帯状疱疹，単純疱疹，結膜炎，咳嗽，疼痛，抗核抗体の陽性化，尿潜血，着色尿，尿酸値上昇，血清K上昇，血清P上昇
（表終了）

レパーサ皮下注140mgペン（140mg1mL1キット）

両 注射 自注 流通

【YJコード】2189401G2026
【薬効分類】2．1．8 高脂血症用剤
【一般名】エボロクマブ(遺伝子組換え)
【メーカー】製)アムジェン 販)アステラス製薬
【薬価】24302円/1kit
【薬価収載日】2016/04/20
【標榜薬効】ヒト抗PCSK9モノクローナル抗体製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】家族性高コレステロール血症，高コレステロール血症で下記のいずれも満たす時のみ
・心血管イベントの発現リスクが高い
・HMG－CoA還元酵素阻害剤で効果不十分時，又はHMG－CoA還元酵素阻害剤による治療が不適
注意
効能共通
1．適用の前に十分な診察・検査を実施し，家族性高コレステロール血症・高コレステロール血症であることを確認後適用を考慮。
2．家族性高コレステロール血症以外では，冠動脈疾患，非心原性脳梗塞，末梢動脈疾患，糖尿病，慢性腎臓病等の罹患・既往等から，心血管イベントの発現リスクが高いことを確認し，投与の要否を判断。
HMG－CoA還元酵素阻害剤の治療不適
3．下記に使用。
・副作用の既往等でHMG－CoA還元酵素阻害剤の使用が困難。
・HMG－CoA還元酵素阻害剤の使用が禁忌。
【用法用量】家族性高コレステロール血症ヘテロ接合体・高コレステロール血症
成人 1回140mg 2週に1回，又は1回420mg 4週に1回 皮下注。
家族性高コレステロール血症ホモ接合体
成人 1回420mg 4週に1回 皮下注。効果不十分時 1回420mg 2週に1回 皮下注。LDLアフェレーシスの補助 開始量 1回420mg 2週に1回 皮下注。
注意
HMG－CoA還元酵素阻害剤による治療が不適な時を除き，HMG－CoA還元酵素阻害剤と併用。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．5%以上 0．5%未満 頻度不明
血液・リンパ系障害 貧血
心臓障害 心筋虚血，動悸
胃腸障害 下痢，鼓腸，胃粘膜病変，食道静脈瘤 悪心
一般・全身障害・投与部位の状態 注射部位反応(疼痛，紅斑，内出血，腫脹等) 無力症，倦怠感，末梢腫脹 インフルエンザ様疾患
肝胆道系障害 肝機能異常
傷害，中毒，処置合併症 肉離れ，腱断裂
臨床検査 CK上昇，頚動脈内膜中膜肥厚度増加 低比重リポ蛋白減少，血小板凝集亢進，尿中蛋白陽性，尿中ビリルビン増加
代謝・栄養障害 糖尿病
筋骨格系・結合組織障害 筋肉痛，筋痙縮 関節痛，背部痛，四肢不快感，四肢痛，筋力低下
神経系障害 感覚鈍麻，頭痛
精神障害 不眠症
生殖系・乳房障害 女性化乳房
呼吸器，胸郭・縦隔障害 慢性気管支炎，咳嗽 上咽頭炎，上気道感染
皮膚・皮下組織障害 発疹，掻痒性皮疹，皮膚炎，皮膚しわ，蕁麻疹 血管浮腫
血管障害 潮紅
感染症・寄生虫症 インフルエンザ
（表終了）

2 個々の器官系用医薬品

ロスバスタチン錠2．5mg「DSEP」（2．5mg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】2189017F1030
【薬効分類】2．1．8 高脂血症用剤
【一般名】ロスバスタチンカルシウム
【先発品】クレストール錠2．5mg
【メーカー】製)第一三共エスファ 販)第一三共
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2017/06/16
【標榜薬効】HMG－CoA還元酵素阻害剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】高コレステロール血症，家族性高コレステロール血症
注意
1．十分な検査を実施し，高コレステロール血症，家族性高コレステロール血症を確認後適用を考慮。
2．家族性高コレステロール血症ホモ接合体は，LDL－アフェレーシス等の非薬物療法の補助として，又はそれらが実施不能時に適用を考慮。
【用法用量】成人 ロスバスタチン 1日1回2．5mgより開始 内服。早期のLDL－コレステロール値低下の必要時 5mgより開始してもよい。
適宜増減し，投与開始後又は増量後，4週以降にLDL－コレステロール値の低下が不十分時 漸次10mgまで。
10mgを投与してもLDL－コレステロール値の低下が不十分な家族性高コレステロール血症等の重症時のみ 1日最大20mg。
注意
1．クレアチニンクリアランスが30mL／分／1．73m2未満に投与時は2．5mgから開始，1日最大5mg。
2．特に20mg投与では腎機能に影響があらわれるおそれ。20mg投与開始後12週までの間は，月1回，以降は定期的（半年に1回等）に腎機能検査等を実施。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．下記の肝機能の低下
急性肝炎，慢性肝炎の急性増悪，肝硬変，肝癌，黄疸。
3．妊婦・妊娠の可能性，授乳婦。
4．シクロスポリンの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．横紋筋融解症（0．1%未満）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇），急性腎障害等の重篤な腎障害。
2．ミオパシー（頻度不明）（広範な筋肉痛，高度な脱力感，著明なCKの上昇）。
3．免疫介在性壊死性ミオパシー（頻度不明）（近位筋脱力，CK高値，炎症を伴わない筋線維の壊死，抗HMG－CoA還元酵素抗体陽性等）。
4．重症筋無力症（頻度不明）（眼筋型，全身型）の発症・悪化。
5．肝炎（0．1%未満），肝機能障害（1%未満）（AST，ALTの上昇等），黄疸（頻度不明）。
6．血小板減少（0．1%未満）。
7．過敏症状（0．1%未満）（血管浮腫含む）。
8．間質性肺炎（0．1%未満）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等）。
9．末梢神経障害（0．1%未満）（四肢の感覚鈍麻，しびれ感等の感覚障害，疼痛，筋力低下等）。
10．多形紅斑（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 2～5%未満 0．1～2%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚 掻痒症，発疹，蕁麻疹 苔癬様皮疹
消化器 腹痛，便秘，嘔気，下痢 膵炎，口内炎
筋・骨格系 CK上昇 無力症，筋肉痛，関節痛 筋痙攣
精神神経系 頭痛，浮動性眩暈 健忘，睡眠障害（不眠，悪夢等），抑うつ
内分泌 女性化乳房
代謝異常 HbA1c上昇，血糖値上昇
肝臓 肝機能異常（AST上昇，ALT上昇）
腎臓 蛋白尿，腎機能異常（BUN上昇，血清クレアチニン上昇）
（表終了）

2．1．9 その他の循環器官用薬

アマルエット配合錠4番「ニプロ」（1錠）

両 内服 後発 流通
劇

【YJコード】2190104F1121
【薬効分類】2．1．9 その他の循環器官用薬
【一般名】アムロジピンベシル酸塩・アトルバスタチンカルシウム水和物
【先発品】カデュエット配合錠4番
【メーカー】製)ニプロ
【薬価】20.4円/1T
【薬価収載日】2015/12/11
【標榜薬効】持続性Ca拮抗薬／HMG－CoA還元酵素阻害剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】アムロジピン・アトルバスタチンによる治療が適切な下記に使用
高血圧症又は狭心症と，高コレステロール血症又は家族性高コレステロール血症を併発している患者
アムロジピンとアトルバスタチンの効能・効果は下記
アムロジピン
〇高血圧症
〇狭心症
アトルバスタチン
〇高コレステロール血症
〇家族性高コレステロール血症
注意
1．アムロジピン・アトルバスタチンの併用，いずれか一方を服用時に使用を検討。いずれか一方の服用時は，患者の状態を十分に考慮し，各単剤の併用より本剤の投与が適切か慎重に判断。
2．アムロジピンは効果発現が緩徐のため，緊急治療を要する不安定狭心症は効果が期待できない。
3．十分な検査を実施し，高コレステロール血症，家族性高コレステロール血症を確認後適用を考慮。
4．家族性高コレステロール血症ホモ接合体は，LDL－アフェレーシス等の非薬物療法の補助として，又はそれらが実施不能時に適用を考慮。
【用法用量】1日1回 内服。下記のアムロジピンとアトルバスタチンの用法・用量に基づき，患者ごとに用量を決める。
・アムロジピン
高血圧症
成人 1回2．5～5mg 1日1回 内服。適宜増減，効果不十分時 1回10mg 1日1回まで。
狭心症
成人 1回5mg 1日1回 内服。適宜増減。
・アトルバスタチン
高コレステロール血症
成人 1回10mg 1日1回 内服。
適宜増減，重症時 1日20mgまで。
家族性高コレステロール血症
成人 1回10mg 1日1回 内服。
適宜増減，重症時 1日40mgまで。
注意
本剤には下記の4製剤あり。
1番 アムロジピン2．5mg／アトルバスタチン5mg
2番 アムロジピン2．5mg／アトルバスタチン10mg
3番 アムロジピン5mg／アトルバスタチン5mg
4番 アムロジピン5mg／アトルバスタチン10mg
上記配合用量以外の用量を投与時は，個別のアムロジピン製剤又はアトルバスタチン製剤を使用できるが，それぞれの成分の用法・用量の範囲内で投与。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分・ジヒドロピリジン系化合物に過敏症の既往。
2．下記の肝代謝能の低下
急性肝炎，慢性肝炎の急性増悪，肝硬変，肝癌，黄疸。
3．妊婦・妊娠の可能性，授乳婦。
4．グレカプレビル・ピブレンタスビルの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用（アムロジピン）
1．劇症肝炎（頻度不明），肝機能障害（0．1%未満）（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（0．1%未満）。
2．無顆粒球症（頻度不明），白血球減少（0．1%未満），血小板減少（頻度不明）。
3．房室ブロック（0．1%未満）（徐脈，眩暈等）。
4．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等），急性腎障害。
重大な副作用（アトルバスタチン）
5．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇），急性腎障害等の重篤な腎障害，ミオパシー（頻度不明）（広範な筋肉痛，筋肉圧痛や著明なCKの上昇）。
6．免疫介在性壊死性ミオパシー（頻度不明）（近位筋脱力，CK高値，炎症を伴わない筋線維の壊死，抗HMG－CoA還元酵素抗体陽性等）。
7．劇症肝炎（頻度不明），肝炎（頻度不明），肝機能障害（0．1%未満），黄疸（頻度不明）。
8．過敏症（頻度不明）（血管神経性浮腫，アナフィラキシー反応，蕁麻疹含む）。
9．無顆粒球症（頻度不明），汎血球減少症（頻度不明），血小板減少症（頻度不明）。
10．中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），皮膚粘膜眼症候群（頻度不明），多形紅斑（頻度不明）（水疱性発疹）。
11．高血糖（0．1%未満），糖尿病（頻度不明）。
12．間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等）。

2 個々の器官系用医薬品

13. 重症筋無力症(頻度不明)(眼筋型, 全身型)の発症・悪化。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～2%未満 1%未満 頻度不明
過敏症 掻痒 光線過敏, 発疹, 多形紅斑, 蕁麻疹, 血管炎, 血管浮腫
皮膚 脱毛, 帯状疱疹, 発赤, 皮膚変色, 皮膚乾燥, 皮膚亀裂, 多汗, 爪の障害
血液 好酸球増加 血小板減少, 白血球減少, 白血球増加, 貧血, 紫斑
肝臓 肝機能障害 AI－P上昇, ALT上昇 AST上昇, γ－GTP上昇, LDH上昇, 黄疸, 腹水
消化器 歯肉障害, 膵炎, 胃炎, 胃食道逆流性疾患, 胃不快感, 腹部膨満, 過敏性腸症候群, 嘔気・嘔吐, 便秘 口内炎, 舌痛, 舌炎, 舌のしびれ, 口のしびれ, 口唇炎, 口渇, 歯肉肥厚, 消化不良, アミラーゼ上昇, 食欲不振, 腹痛, 下痢・軟便, 排便回数増加, 胃腸炎
呼吸器 咳, 呼吸困難, 咽頭不快感, 肺炎, 鼻炎, 鼻出血
筋骨格系 筋肉痛 CK上昇, 血中ミオグロビン上昇, 無力症, 筋痙攣, 筋緊張亢進, 筋炎, 関節痛, 背部痛, 腱炎, 腱痛
感覚器 視力異常, 霧視, 耳鳴, 味覚異常
精神神経系 頭痛, 眩暈・ふらつき 片頭痛, 不眠症 振戦, 眠気, 気分動揺, 末梢神経障害, 健忘症, 抑うつ, 悪夢, 錐体外路症状
内分泌 甲状腺腫 テストステロン低下, コリンエステラーゼ上昇, TSH上昇, ACTH上昇, アルドステロン低下, 女性化乳房
代謝異常 血清コレステロール上昇, HbA1c上昇, 高血糖, 糖尿病, 尿中ブドウ糖陽性, 低血糖症, 血清鉄低下
循環器 動悸 浮腫, ほてり(熱感, 顔面潮紅等), 期外収縮, 血圧上昇 洞房・房室ブロック, 洞停止, 心房細動, 頻脈, 徐脈, 血圧低下, 失神
腎臓・泌尿器 BUN上昇, クレアチニン上昇, 血中カリウム増加, 血中カリウム減少, 頻尿・夜間頻尿, 排尿困難, 勃起障害, 尿管結石, 尿潜血陽性, 尿中蛋白陽性
その他 脳梗塞, 全身倦怠感, 脱力感, 疲労, しびれ, 発熱, 体重増加, 体重減少, 疼痛, 異常感覚, 胸痛, 着色尿
(表終了)

アメジニウムメチル硫酸塩錠10mg「日医工」(10mg1錠)

両 内服 後発 流通

【YJコード】2190022F1202
【薬効分類】2. 1. 9 その他の循環器官用薬
【一般名】アメジニウムメチル硫酸塩
【先発品】リズミック錠10mg
【メーカー】製)日医工
【薬価】6.4円/1T
【薬価収載日】2013/12/13
【標榜薬効】本態性・起立性・透析時低血圧治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】本態性低血圧, 起立性低血圧, 透析施行時の血圧低下の改善
注意
透析施行時の血圧低下の改善
透析中に血圧低下で透析の継続が困難と確認された慢性腎不全のみ対象。
【用法用量】本態性低血圧, 起立性低血圧
成人 1日20mg 1日2回 分割 内服。
適宜増減。
透析施行時の血圧低下の改善
成人 1回10mg 透析開始時 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1. 高血圧症。
2. 甲状腺機能亢進症。
3. 褐色細胞腫・パラガングリオーマ。
4. 閉塞隅角緑内障。
5. 残尿を伴う前立腺肥大。

■副作用

【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹, 湿疹, 蕁麻疹
循環器 動悸, 頻脈, 血圧変動, 不整脈(期外収縮, 心房細動等), ほてり感, のぼせた感じ 胸部不快感, 息苦しさ, 浮腫, 胸内苦悶感 四肢冷感
精神神経系 眩暈, 立ちくらみ, 頭痛, 頭重, 気分不良 ふらつき, 全身倦怠感, 焦燥感, 情緒不安定, 不眠, 眠気, 全身のしびれ, 耳鳴
消化器 嘔気・嘔吐, 腹痛 胸やけ, 食欲不振, 腹部膨満, 下痢, 便秘, 口渇感
肝臓 AST, ALTの上昇等の肝機能異常
その他 排尿障害 白血球減少, 発熱, 全身熱感, 頸部痛, 下肢痛, 視力障害, 歩行障害の悪化, 構語障害の悪化
(表終了)

アルガトロバン注射液10mg「サワイ」(10mg20mL1管)

内 注射 後発 流通

【YJコード】2190408A1089
【薬効分類】2. 1. 9 その他の循環器官用薬
【一般名】アルガトロバン水和物
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】685円/1A
【薬価収載日】2010/05/28
【標榜薬効】抗トロンビン剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1. 下記に伴う神経症候(運動麻痺), 日常生活動作(歩行, 起立, 坐位保持, 食事)の改善
発症後48時間以内の脳血栓症急性期(ラクネ除く)
2. 慢性動脈閉塞症(バージャー病, 閉塞性動脈硬化症)の四肢潰瘍, 安静時疼痛・冷感の改善
3. 下記の血液体外循環時の灌流血液の凝固防止(血液透析)
(1). 先天性アンチトロンビンIII欠乏
(2). アンチトロンビンIII低下(アンチトロンビンIIIが正常の70%以下に低下し, ヘパリンナトリウム, ヘパリンカルシウムの使用では体外循環路内の凝血(残血)が改善しない時)
(3). ヘパリン起因性血小板減少症(HIT)II型患者
4. ヘパリン起因性血小板減少症II型(発症リスク含む)の経皮的冠インターベンション施行時の血液の凝固防止
5. ヘパリン起因性血小板減少症II型の血栓症の発症抑制
注意
血液体外循環
1. DICに伴うアンチトロンビンIII低下患者には, 血液体外循環時の投与経験がないので, 投与しない。
HIT II型の血栓症の発症抑制
2. ヘパリン起因性血小板減少症II型で, 脳塞栓, 脳塞栓のおそれのある患者には, 有益性と出血性脳梗塞等の危険性を考慮し, 適応を検討。
3. DICへの有用性は未確認, 基礎疾患, 合併症等を確認し, 鑑別を行う。
【用法用量】脳血栓症急性期(ラクネ除く)
成人 開始2日間 1日6管(アルガトロバン水和物 60mg) 24時間持続点滴静注(適当量の輸液で希釈)。以後5日間 1回1管(アルガトロバン水和物 10mg) 1日2回 朝・夕 1回3時間かけ 点滴静注(適当量の輸液で希釈)。
適宜増減。
慢性動脈閉塞症(バージャー病・閉塞性動脈硬化症)
成人 1回1管(アルガトロバン水和物 10mg) 1日2回 1回2～3時間かけ 点滴静注(輸液で希釈)。
適宜増減。
血液体外循環
成人 体外循環開始時 1管(アルガトロバン水和物 10mg) 回路内投与。体外循環開始後は2. 5管(アルガトロバン水和物 25mg)／時から開始。凝固時間延長, 回路内凝血(残血), 透析効率, 透析終了時の止血状況等を指標に投与量を増減し, 投与量を決定。0. 5～4管(アルガトロバン水和物 5～40mg)／時を目安。
HIT II型(発症リスク含む)の経皮的冠インターベンション施行時の血液の凝固防止
成人 アルガトロバン水和物0. 1mg／kg 3～5分かけ 静注(そのまま, 又は適当量の輸液で希釈)。術後4時間まで アルガトロバン水和物6μg／kg／分を目安に持続静注。抗凝固療法の継続が必要時 0. 7μg／kg／分に減量し 持続静注。適切な凝固能のモニタリングにより適宜調節。
HIT II型の血栓症の発症抑制
成人 アルガトロバン水和物0. 7μg／kg／分から開始 持続点滴静注(そのまま, 又は適当量の輸液で希釈)。
肝機能障害, 出血のリスクのある患者 低用量から開始。活性化部分トロンボプラスチン時間(aPTT)を指標に投与量を増減し, 投与量を決定。
注意
慢性動脈閉塞症(バージャー病・閉塞性動脈硬化症)
1. 4週間を超える投与は経験が少ないので, 4週間以内をめどとする。
HIT II型(発症リスク含む)の経皮的冠インターベンション施行時の血液の凝固防止
2. 投与開始から10分程度で活性化全血凝固時間(ACT)を測定し, 術後4時間まではACTが250～450秒となるように持続投与量を調節。状態により術後4時間以降の抗凝固療法の継続の要否を判断, 以後も抗凝固療法の継続必要時, 0. 7μg／kg／分に減量後, 適宜aPTTを測定し, aPTTが投与前値の1. 5～3倍程度となるよう持続投与量を適宜調節, 目標範囲に達した後は1日1回aPTTを測定。
3. 本剤のクリアランスが低下している肝機能障害 術後4時間以降も抗凝固療法が必要時, 0. 2μg／kg／分に減量。aPTTが目標とする範囲に達するまでは, 適宜aPTTを測定し, 目標範囲に達した後は1日1回aPTTを測定。
4. 本剤による治療開始及び投与量変更時には, 下表を参考に投与。希釈せず, 6μg／kg／分の投与速度
(表開始)
体重 6μg／kg／分 6μg／kg／分
体重(kg) アルガトロバン水和物(mg／時) 本剤(mL／時)
40 14. 4 28. 8

2 個々の器官系用医薬品

50 18 36
60 21. 6 43. 2
70 25. 2 50. 4
(表終了)
希釈せず，0. 7μg／kg／分又は0. 2μg／kg／分の投与速度
(表開始)
体重 0. 7μg／kg／分 0. 7μg／kg／分 0. 2μg／kg／分 0. 2μg／kg／分
体重(kg) アルガトロバン水和物(mg／時) 本剤(mL／時) アルガトロバン水和物(mg／時) 本剤(mL／時)
40 1. 7 3. 4 0. 5 1
50 2. 1 4. 2 0. 6 1. 2
60 2. 5 5 0. 7 1. 4
70 2. 9 5. 8 0. 8 1. 6
(表終了)
5. 術後4時間以降も抗凝固療法を継続する必要があり，本剤を0. 7μg／kg／分に減量後，aPTTが投与前値の3倍を超えた時は，投与中止。投与再開時，aPTTが治療域(投与前値の1. 5～3倍以下)に回復したことを確認し，再開時の投与量は中止前の1／2の用量を目安にする。
HIT II型の血栓症の発症抑制
6. 本剤のクリアランスが低下している肝機能障害，出血のリスクのある患者 低用量(0. 2μg／kg／分)から開始。
7. 治療開始時は，下表を参考に開始。
希釈せず，0. 7μg／kg／分又は0. 2μg／kg／分の投与速度
(表開始)
体重 0. 7μg／kg／分 0. 7μg／kg／分 0. 2μg／kg／分 0. 2μg／kg／分
体重(kg) アルガトロバン水和物(mg／時) 本剤(mL／時) アルガトロバン水和物(mg／時) 本剤(mL／時)
40 1. 7 3. 4 0. 5 1
50 2. 1 4. 2 0. 6 1. 2
60 2. 5 5 0. 7 1. 4
70 2. 9 5. 8 0. 8 1. 6
(表終了)
8. 投与開始後は，aPTTを投与前値の1. 5～3倍の範囲かつ100秒以下に用量を調節。出血のリスクのある患者は，1. 5～2倍に調節。
9. 投与開始2時間後及び投与量変更2時間後にaPTTを測定し，投与量を調節。肝機能障害，出血のリスクがある患者 投与開始又は投与量変更6時間後にもaPTTを測定。aPTTが目標範囲に達するまでは，適宜aPTTを測定し，到達後は1日1回aPTTを測定。
10. aPTTが投与前値の3倍又は100秒を超えた時は，投与中止。投与再開時は，aPTTが治療域(投与前値の1. 5～3倍かつ100秒以下)に回復したことを確認し，中止前の1／2の用量を目安に開始。
11. 血小板数が回復し，安定した時は，経口抗凝固薬(ワルファリン等)の治療開始を考慮。ワルファリンに切りかえる時は，本剤とワルファリンを5日間程度併用。
併用時は，aPTT及びプロトロンビン時間－国際標準比(PT－INR)をモニタリング。相互作用によりPT－INRが延長するので，本剤中止後にPT－INRの短縮に注意。
12. 経口抗凝固療法への移行が困難な患者を除き，漫然と使用しない(国内外の臨床試験では投与期間は7～14日間。国内の臨床試験では，ワルファリンへの切りかえができなかった患者1例で最長35日)。

■禁忌

【禁忌】1. 出血(頭蓋内出血，出血性脳梗塞，血小板減少性紫斑病，血管障害による出血傾向，血友病その他の凝固障害，月経期間中，手術時，消化管出血，尿路出血，喀血，流早産・分娩直後等性器出血を伴う妊産婦等)。
2. 脳塞栓・そのおそれ(ヘパリン起因性血小板減少症II型除く)。
3. 重篤な意識障害を伴う大梗塞。
4. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 出血性脳梗塞(0. 5%)。
2. 脳出血，消化管出血(各頻度不明)。
3. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(蕁麻疹，血圧低下，呼吸困難等)。
4. 劇症肝炎，肝機能障害，黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 頻度不明
血液 血尿，貧血(赤血球，ヘモグロビン，ヘマトクリット値の減少)，白血球増多，白血球減少，血小板減少 凝固時間の延長，出血
過敏症 皮疹(紅斑性発疹等) 掻痒，蕁麻疹
血管 血管痛，血管炎
肝臓 AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇，LDH上昇，総ビリルビン上昇 γ－GTP上昇
腎臓 BUN上昇 クレアチニン上昇
消化器 下痢，食欲不振，腹痛 嘔吐
その他 頭痛，不整脈，熱感，過換気症候群，呼吸困難，血圧上昇 四肢の疼痛，四肢のしびれ，ふらつき，心悸亢進，潮紅，悪寒，発熱，発汗，胸痛，血圧低下，浮腫，腫脹，倦怠感，血清総蛋白減少
(表終了)

アルプロスタジルアルファデクス注射用20μg「タカタ」(20μg1瓶)

内 注射 後発 流通
劇

【YJコード】2190402D3080
【薬効分類】2. 1. 9 その他の循環器官用薬
【一般名】アルプロスタジル アルファデクス
【先発品】プロスタンディン注射用20μg
【メーカー】(製)高田製薬
【薬価】298円/1V
【薬価収載日】2018/06/15
【標榜薬効】PGE1製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】動注
○慢性動脈閉塞症(バージャー病，閉塞性動脈硬化症)の四肢潰瘍，安静時疼痛の改善
静注
○振動病の末梢血行障害に伴う自覚症状の改善，末梢循環・神経・運動機能障害の回復
○血行再建術後の血流維持
○動注が不適と判断される慢性動脈閉塞症(バージャー病，閉塞性動脈硬化症)の四肢潰瘍，安静時疼痛の改善
○動脈管依存性先天性心疾患の動脈管の開存
陰茎海綿体内投与
○勃起障害の診断
【用法用量】動注
慢性動脈閉塞症(バージャー病，閉塞性動脈硬化症)の四肢潰瘍，安静時疼痛の改善
1. 成人 1日10～15μg(約0. 1～0. 15ng／kg／分) シリンジポンプで 持続動注(1バイアルを生食5mLに溶解)。
2. 0. 05～0. 2ng／kg／分の間で 適宜増減。
静注
振動病の末梢血行障害に伴う自覚症状の改善，末梢循環・神経・運動機能障害の回復，血行再建術後の血流維持，動注が不適と判断される慢性動脈閉塞症(バージャー病，閉塞性動脈硬化症)の四肢潰瘍，安静時疼痛の改善
1. 成人 1回2～3バイアル(アルプロスタジル 40～60μg) 2時間かけ(5～10ng／kg／分) 点滴静注(輸液500mLに溶解)。
速度 2時間あたり1. 2μg／kgまで。
2. 投与回数 1日1～2回。
3. 適宜増減。
動脈管依存性先天性心疾患の動脈管の開存
50～100ng／kg／分から開始 静注。適宜増減，有効最少量で持続投与。
陰茎海綿体内投与
勃起障害の診断
成人 1回20μg 陰茎海綿体注射(1バイアルを生食1mLに溶解)。
注意
動脈管依存性先天性心疾患
慎重に投与量を調整。効果あれば減量し，有効最少量で投与を持続。
動脈管開存の維持 10ng／kg／分でも有効な場合あり。

■禁忌

【禁忌】1. 重篤な心不全，肺水腫(動脈管依存性先天性心疾患除く)。
2. 出血(頭蓋内出血，出血性眼疾患，消化管出血，喀血等)。
3. 妊婦・妊娠の可能性。
4. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
効能共通
1. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(血圧低下，意識障害，呼吸困難，発疹等)。
2. 心不全，肺水腫，胸水(各頻度不明)(動悸，胸苦しさ，呼吸困難，浮腫等)。
3. 脳出血(頻度不明)，消化管出血(0. 13%)。
4. 心筋梗塞(頻度不明)(胸痛，胸部圧迫感，心電図異常等)。
5. 無顆粒球症，白血球減少(各頻度不明)。
6. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
7. 間質性肺炎(頻度不明)(発熱，咳嗽，呼吸困難等)。
動脈管依存性先天性心疾患
8. 無呼吸発作(頻度不明)。
勃起障害の診断
9. 持続勃起症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)(動注)(慢性動脈閉塞症)
(表開始)
発現部位等 10～35%未満 10%未満 頻度不明
注射部 疼痛，腫脹 発赤，発熱，脱力感，掻痒
その他 頭痛 発熱，動悸，血漿蛋白分画の変動
(表終了)
その他の副作用(発現時中止等)(静注)(振動病，血行再建術後の血流維持，動注が不適な慢性動脈閉塞症)
(表開始)

2 個々の器官系用医薬品

発現部位等 0．5～10%未満 0．5%未満 頻度不明
過敏症　掻痒，発疹，蕁麻疹
循環器 胸部絞扼感 顔面潮紅 血圧降下，動悸，発赤
出血傾向　眼底出血，皮下出血
注射部 血管痛，発赤 腫脹，掻痒 静脈炎，疼痛
呼吸器　咳嗽，喘息
消化器 悪心・嘔吐 下痢 胃部不快感，食欲不振，腹痛
精神神経系　眩暈 発熱，悪寒
肝臓　AST・ALTの上昇等
腎臓　腎不全の増悪
血液　血小板減少，貧血
その他 熱感，四肢疼痛（増強含む） 頭痛・頭重，乳房硬結 浮腫，関節痛，しびれ，CRP上昇，低ナトリウム血症
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（静注）（動脈管依存性先天性心疾患）
（表開始）
発現部位等 5～15%未満 5%未満 頻度不明
循環器　頻脈，低血圧 肺動脈中膜の菲薄化，浮腫，発赤，徐脈
中枢神経系 発熱　痙攣，振戦，多呼吸
注射部　血管痛，静脈炎，疼痛，発赤，腫脹，掻痒
その他　下痢，口腔内・気道分泌液の増加，アシドーシス，低ナトリウム血症 胃粘膜肥厚，低クロール血症，CRP上昇，脱毛，多毛，腹水，骨膜肥厚，低カリウム血症，出血傾向
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（陰茎海綿体内投与）（勃起障害の診断）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒
泌尿，生殖器 勃起の延長，陰茎痛，陰茎腫脹
注射部 疼痛，血腫，出血，腫脹，灼熱感，発赤，掻痒
循環器 低血圧，胸部絞扼感，発赤
消化器 悪心，嘔吐，腹痛
その他 眩暈，発熱，頭痛，悪寒
（表終了）

アルプロスタジル注10μgシリンジ「サワイ」（10μg2mL1筒）

内　注射　後発　流通
劇

【YJコード】2190406G2062
【薬効分類】2．1．9　その他の循環器官用薬
【一般名】アルプロスタジル
【先発品】パルクス注ディスポ10μg，リプルキット注10μg
【メーカー】製）沢井製薬
【薬価】986円/1筒
【薬価収載日】2009/05/15
【標榜薬効】PGE1製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇慢性動脈閉塞症（バージャー病，閉塞性動脈硬化症）の四肢潰瘍，安静時疼痛の改善
〇下記の皮膚潰瘍の改善
進行性全身性硬化症
全身性エリテマトーデス
〇糖尿病の皮膚潰瘍の改善
〇振動病の末梢血行障害に伴う自覚症状の改善，末梢循環・神経・運動機能障害の回復
〇動脈管依存性先天性心疾患の動脈管の開存
【用法用量】（表開始）
効能・効果 用法・用量
慢性動脈閉塞症（バージャー病，閉塞性動脈硬化症） 成人　1回1～2mL（アルプロスタジル　5～10μg）　1日1回　緩徐に静注，点滴静注（そのまま，又は輸液に混和）。適宜増減。
進行性全身性硬化症 全身性エリテマトーデス 成人　1回1～2mL（アルプロスタジル　5～10μg）　1日1回　緩徐に静注，点滴静注（そのまま，又は輸液に混和）。適宜増減。
糖尿病の皮膚潰瘍 成人　1回1～2mL（アルプロスタジル　5～10μg）　1日1回　緩徐に静注，点滴静注（そのまま，又は輸液に混和）。適宜増減。
振動病 成人　1回1～2mL（アルプロスタジル　5～10μg）　1日1回　緩徐に静注，点滴静注（そのまま，又は輸液に混和）。適宜増減。
動脈管依存性先天性心疾患 開始時　アルプロスタジル5ng／kg／分　持続静注（輸液に混和）。その後は適宜増減，有効最少量。
（表終了）

■禁忌

【禁忌】1．重篤な心不全。
2．出血（頭蓋内出血，消化管出血，喀血等）。
3．妊婦・妊娠の可能性。
4．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（蕁麻疹，喉頭浮腫，呼吸困難，チアノーゼ，血圧低下等）。
2．血圧低下に伴う一過性の意識消失（頻度不明）。
3．心不全（増強含む），肺水腫（各頻度不明），胸水（動悸，胸苦しさ，呼吸困難，浮腫等）。
4．間質性肺炎（頻度不明）（増悪含む）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等）。
5．心筋梗塞（頻度不明）（胸痛，胸部圧迫感，心電図異常等）。
6．脳出血，消化管出血（各頻度不明）。
7．無顆粒球症，白血球減少，血小板減少（各頻度不明）。
8．肝機能障害（AST，ALT，AI－P，γ－GTP等の上昇），黄疸（各頻度不明）。
9．無呼吸発作（12．2%）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
消化器 嘔気 腹痛 嘔吐 下痢 腹部膨満感・不快感 食欲不振 便秘 口腔腫脹感 口内炎（アフタ含む）
循環器 血圧降下 血管炎 顔面潮紅 胸部絞扼感 発赤 胸痛 動悸 頻脈 血圧上昇
呼吸器　咳嗽 呼吸困難 喘息
血液　好酸球増多
中枢神経系 発熱 頭痛 眩暈 倦怠感 しびれ（感） 悪寒 振戦 痙攣
皮膚 発疹 掻痒感 蕁麻疹 発汗
腎臓　腎不全の増悪
注射部位 血管痛 発赤 こわばり 掻痒感
出血傾向　出血（鼻出血，眼底出血，結膜出血，皮下出血，血尿等）
その他 熱感 四肢疼痛（増強含む） 気分不良 浮腫 視力低下 脱毛 低ナトリウム血症 四肢腫脹
（表終了）

エンレスト錠100mg（100mg1錠）

両　内服　流通

【YJコード】2190041F2023
【薬効分類】2．1．9　その他の循環器官用薬
【一般名】サクビトリルバルサルタンナトリウム水和物
【メーカー】製）ノバルティスファーマ
【薬価】106.9円/1T
【薬価収載日】2020/08/26
【標榜薬効】アンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】成人
慢性心不全（治療中のみ）
小児
慢性心不全
高血圧症
注意
成人の慢性心不全
1．アンジオテンシン変換酵素阻害薬・アンジオテンシンII受容体拮抗薬から切りかえて投与。
2．臨床成績の項を熟知し，臨床試験に組み入れられた背景（前治療，左室駆出率，収縮期血圧等）を理解し，適応患者を選択。
小児の慢性心不全
3．アンジオテンシン変換酵素阻害薬・アンジオテンシンII受容体拮抗薬から切りかえて投与。
4．小児の慢性心不全の治療を熟知し，臨床成績の項・臨床試験に組み入れられた背景（基礎疾患，心不全の病態，前治療，収縮期血圧等）を理解した医師のもとで，適切な患者に適用を考慮。
高血圧症
5．過度な血圧低下のおそれ等があり，高血圧治療の第一選択薬にしない。
【用法用量】慢性心不全
成人　開始量　1回50mg　1日2回　内服。忍容性があれば，2～4週間隔で段階的に1回200mgまで増量。1回量は50mg，100mg，200mgとし，いずれも1日2回　内服。適宜減量。
1歳以上の小児　下表の通り体重に応じた開始量を1日2回　内服。忍容性があれば，2～4週間の間隔で段階的に目標量まで増量。忍容性に応じて適宜減量。
小児の用量表（1回量）
（表開始）
体重（kg） 開始量 第1漸増量 第2漸増量 目標量
40未満 0．8mg／kg 1．6mg／kg 2．3mg／kg 3．1mg／kg
40～50未満 0．8mg／kg 50mg 100mg 150mg
50以上 50mg 100mg 150mg 200mg
（表終了）
高血圧症
成人　1回200mg　1日1回　内服。適宜増減，1回最大400mg　1日1回。
（参考）
（表開始）
錠50mg 錠100mg 錠200mg 粒状錠小児用12．5mg 粒状錠小児用31．25mg
慢性心不全（成人） 〇 〇 〇 － －
慢性心不全（小児） 〇 〇 〇 〇 〇
高血圧症 － 〇 〇 － －
（表終了）
〇 承認用法・用量あり，－ 承認なし

2 個々の器官系用医薬品

注意
慢性心不全
1. 下記では，増量可否を慎重に判断。
・腎機能障害（eGFR90mL／分／1．73m2未満）。
・中等度の肝機能障害（Child－Pugh分類B）。
・低血圧。
2. 増量は，臨床試験での血圧，血清カリウム値，腎機能に関する下記基準を目安に検討。
臨床試験の増量時※の基準
（表開始）
血圧 症候性低血圧がみられず，収縮期血圧が95mmHg以上
血清カリウム値 5．4mEq／L以下
腎機能 eGFR30mL／分／1．73m2以上かつeGFRの低下率が35%以下
（表終了）
※1回50mgから1回100mgへの増量時の基準であり，臨床試験ではいずれの項目も満たす患者が増量可能とされた。
小児の臨床試験の増量時※の基準
（表開始）
血圧 収縮期血圧が以下の値超 ・1～10歳未満；70mmHg＋2×年齢 ・10歳以上；90mmHg
血清カリウム値 5．4mEq／L以下
腎機能 eGFRが下記の値以上かつeGFRの低下率が35%未満 ・12ヵ月～19ヵ月未満；31mL／分／1．73m2 ・19ヵ月～18歳未満；38mL／分／1．73m2
（表終了）
※目標量に到達するまでの各段階の増量時の基準であり，臨床試験ではいずれの項目も満たす患者が増量可能とされた。
3. 小児のうち，アンジオテンシン変換酵素阻害薬又はアンジオテンシンII受容体拮抗薬の投与患者では，これらの用量や忍容性，及び患者の状態を踏まえ，医師が適切と判断した時は，第1漸増量から投与開始できる。
高血圧症
5. サクビトリル・バルサルタンに解離して作用するため，バルサルタンの承認用法・用量での降圧効果，本剤の降圧効果を理解し，他の降圧薬の治療状況等を考慮し，本剤適用の可否を判断，既存治療有無によらず1回100mgを1日1回から開始も考慮。
6. 慢性心不全を合併する高血圧症では，慢性心不全の用法・用量とするが，慢性心不全の発症に先んじて高血圧症の治療目的で本剤を使用時等は，適切に用法・用量を選択。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2. アンジオテンシン変換酵素阻害薬（アラセプリル，イミダプリル塩酸塩，エナラプリルマレイン酸塩，カプトプリル，キナプリル塩酸塩，シラザプリル水和物，テモカプリル塩酸塩，デラプリル塩酸塩，トランドラプリル，ベナゼプリル塩酸塩，ペリンドプリルエルブミン，リシノプリル水和物）の投与中・中止後36時間以内。
3. 血管浮腫の既往（アンジオテンシンII受容体拮抗薬・アンジオテンシン変換酵素阻害薬による血管浮腫，遺伝性血管性浮腫，後天性血管浮腫，特発性血管浮腫等）。
4. アリスキレンフマル酸塩を投与中の糖尿病（他の降圧治療でも血圧のコントロールが著しく不良除く）。
5. 重度の肝機能障害（Child－Pugh分類C）。
6. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 血管浮腫（0．2%）（舌，声門，喉頭の腫脹等，気道閉塞）。
2. 腎機能障害（2．4%），腎不全（0．6%）。
3. 低血圧（8．8%）。
4. 高カリウム血症（3．9%）。
5. ショック（0．1%未満），失神（0．2%），意識消失（0．1%未満）（冷感，嘔吐等）。
6. 無顆粒球症（頻度不明），白血球減少（0．1%未満），血小板減少（頻度不明）。
7. 間質性肺炎（0．1%未満）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等）。
8. 低血糖（頻度不明）（脱力感，空腹感，冷汗，手の震え，集中力低下，痙攣，意識障害等）。
9. 横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇）。
10. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑（各頻度不明）。
11. 天疱瘡，類天疱瘡（各頻度不明）（水疱，糜爛等）。
12. 肝炎（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．3%以上 0．3%未満 頻度不明
感染症・寄生虫症 － － 咽頭炎
血液・リンパ系障害 － 貧血，好酸球増多 －
代謝・栄養障害 － 低カリウム血症，食欲減退，低ナトリウム血症 －
神経系障害 浮動性眩暈 体位性眩暈，回転性眩暈，頭痛，不眠，味覚異常，眠気，しびれ －
耳・迷路障害 － － 耳鳴
心臓障害 － 動悸，心房細動 頻脈
血管障害 起立性低血圧 － ほてり
呼吸器，胸郭・縦隔障害 咳嗽 － －
胃腸障害 － 下痢，悪心，腹痛，便秘，嘔吐 －
皮膚・皮下組織障害 － 蕁麻疹 紅斑，光線過敏症
筋骨格系・結合組織障害 － 関節痛，腰背部痛 筋肉痛
一般・全身障害・投与部位の状態 疲労 無力症，倦怠感，口渇，胸痛 浮腫，発熱
免疫系障害 － 過敏症（発疹，掻痒症，アナフィラキシー反応含む） －
臨床検査 － AST上昇，ALT上昇，血中尿酸値上昇，BUN上昇，血清クレアチニン上昇，血清カリウム値上昇，血糖値上昇，CK上昇 ビリルビン値の上昇，LDH上昇，血清コレステロール上昇，血清総蛋白減少，AI－P上昇
（表終了）

カリメート経口液20%（20%25g1包）

両 内服 流通

【YJコード】2190016S1027
【薬効分類】2．1．9 その他の循環器官用薬
【一般名】ポリスチレンスルホン酸カルシウム
【メーカー】製)興和
【薬価】77.8円/1包
【薬価収載日】2012/06/22
【標榜薬効】血清カリウム抑制剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】急性・慢性腎不全に伴う高カリウム血症
【用法用量】成人 1日75～150g（ポリスチレンスルホン酸カルシウム15～30g） 1日2～3回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】腸閉塞。

■副作用
【副作用】重大な副作用
腸管穿孔，腸閉塞，大腸潰瘍（各頻度不明）（高度の便秘，持続する腹痛，嘔吐，下血等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹
消化器 便秘 悪心，嘔気，食欲不振，胃部不快感
電解質 低カリウム血症
（表終了）

グリセオール注（200mL1袋）

内 注射 流通

【YJコード】2190501A4084
【薬効分類】2．1．9 その他の循環器官用薬
【一般名】濃グリセリン・果糖
【メーカー】製)太陽ファルマ 販)中外製薬
【薬価】302円/1袋
【薬価収載日】2004/07/09
【標榜薬効】頭蓋内圧亢進・頭蓋内浮腫治療剤，眼圧降下剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○頭蓋内圧亢進，頭蓋内浮腫の治療
○頭蓋内圧亢進，頭蓋内浮腫の改善による下記に伴う意識障害，神経障害，自覚症状の改善
脳梗塞（脳血栓，脳塞栓），脳内出血，くも膜下出血，頭部外傷，脳腫瘍，脳髄膜炎
○脳外科術後の後療法
○脳外科手術時の脳容積縮小
○眼内圧下降の必要時
○眼科手術時の眼容積縮小
【用法用量】成人 1回200～500mL 1日1～2回 500mLあたり2～3時間かけ 点滴静注。
投与期間 1～2週。
適宜増減。
脳外科手術時の脳容積縮小 1回500mL 30分かけ 点滴静注。
眼内圧下降，眼科手術時の眼容積縮小 1回300～500mL 45～90分かけ 点滴静注。

■禁忌
【禁忌】1．先天性のグリセリン，果糖代謝異常症。
2．成人発症II型シトルリン血症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
アシドーシス（頻度不明）（乳酸アシドーシス）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
泌尿器 尿潜血反応陽性 血色素尿，血尿，尿意
消化器 悪心 嘔吐

2 個々の器官系用医薬品

代謝異常 低カリウム血症，高ナトリウム血症，非ケトン性高浸透圧性高血糖
その他 倦怠感 頭痛，口渇，腕痛，血圧上昇
（表終了）

ケレンディア錠10mg（10mg1錠）

両 内服 流通

【YJコード】2190044F1020
【薬効分類】2．1．9 その他の循環器官用薬
【一般名】フィネレノン
【メーカー】製)バイエル薬品
【薬価】143.9円/1T
【薬価収載日】2022/05/25
【標榜薬効】非ステロイド型選択的ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】2型糖尿病を合併する慢性腎臓病（末期腎不全・透析施行中除く）
注意
1．アンジオテンシン変換酵素阻害薬・アンジオテンシンII受容体拮抗薬の治療不適時を除き，これらの投与患者に投与。
2．eGFR低下の可能性，eGFRが25mL／分／1．73m2未満では，リスクとベネフィットを考慮し，投与の適否を慎重に判断。
3．日本人部分集団では，国際共同第III相試験（試験16244）の主要評価項目の腎複合エンドポイントで，プラセボに対するハザード比は0．911，国際共同第III相試験（試験16244）の主要評価項目の構成要素の腎不全，国際共同第III相試験（試験17530）の副次評価項目の腎複合エンドポイントで，プラセボに対するハザード比が1を上回った。試験対象の全体集団と比べ日本人では腎不全への進展抑制効果が弱い可能性。
4．臨床成績の項を熟知し，臨床試験に組み入れられた背景（原疾患，併用薬，腎機能，アルブミン尿等）を理解し，適応患者を選択。
【用法用量】成人 下記量 1日1回 内服。
eGFRが60mL／分／1．73m2以上 20mg。
eGFRが60mL／分／1．73m2未満 10mgから開始，血清カリウム値，eGFRにより，投与開始から4週間後を目安に20mgへ増量。
注意
1．投与開始・再開，増量から4週間後，以後定期的に血清カリウム値，eGFRを測定し，表に従い用量調節。
（表開始）
血清カリウム値（mEq／L）用量調節
4．8以下 20mg1日1回；維持 10mg1日1回；20mg1日1回に増量（eGFRが前回の測定から30%を超えて低下していない時のみ。）
4．8超5．5以下 維持
5．5超 中止
（表終了）
投与中止後，血清カリウム値が5mEq／L以下に下がった時は，1回10mg 1日1回から投与再開できる。
2．10mg錠と20mg錠の生物学的同等性は示されていないため，20mgを投与時は10mg錠を使用しない。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．イトラコナゾール，ポサコナゾール，ボリコナゾール，リトナビル含有製剤，アタザナビル，ダルナビル，ホスアンプレナビル，コビシスタット含有製剤，クラリスロマイシン，エンシトレルビルの投与患者。
3．血清カリウム値が5．5mEq／Lを超えている患者。
4．重度の肝機能障害（Child－Pugh分類C）。
5．アジソン病。

■副作用

【副作用】重大な副作用
高カリウム血症（8．8%）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満
代謝・栄養障害 低ナトリウム血症，高尿酸血症
血管障害 低血圧
臨床検査 糸球体ろ過率減少
（表終了）

ケレンディア錠20mg（20mg1錠）

両 内服 流通

【YJコード】2190044F2027
【薬効分類】2．1．9 その他の循環器官用薬
【一般名】フィネレノン
【メーカー】製)バイエル薬品
【薬価】205.8円/1T
【薬価収載日】2022/05/25
【標榜薬効】非ステロイド型選択的ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】2型糖尿病を合併する慢性腎臓病（末期腎不全・透析施行中除く）
注意
1．アンジオテンシン変換酵素阻害薬・アンジオテンシンII受容体拮抗薬の治療不適時を除き，これらの投与患者に投与。
2．eGFR低下の可能性，eGFRが25mL／分／1．73m2未満では，リスクとベネフィットを考慮し，投与の適否を慎重に判断。
3．日本人部分集団では，国際共同第III相試験（試験16244）の主要評価項目の腎複合エンドポイントで，プラセボに対するハザード比は0．911，国際共同第III相試験（試験16244）の主要評価項目の構成要素の腎不全，国際共同第III相試験（試験17530）の副次評価項目の腎複合エンドポイントで，プラセボに対するハザード比が1を上回った。試験対象の全体集団と比べ日本人では腎不全への進展抑制効果が弱い可能性。
4．臨床成績の項を熟知し，臨床試験に組み入れられた背景（原疾患，併用薬，腎機能，アルブミン尿等）を理解し，適応患者を選択。
【用法用量】成人 下記量 1日1回 内服。
eGFRが60mL／分／1．73m2以上 20mg。
eGFRが60mL／分／1．73m2未満 10mgから開始，血清カリウム値，eGFRにより，投与開始から4週間後を目安に20mgへ増量。
注意
1．投与開始・再開，増量から4週間後，以後定期的に血清カリウム値，eGFRを測定し，表に従い用量調節。
（表開始）
血清カリウム値（mEq／L）用量調節
4．8以下 20mg1日1回；維持 10mg1日1回；20mg1日1回に増量（eGFRが前回の測定から30%を超えて低下していない時のみ。）
4．8超5．5以下 維持
5．5超 中止
（表終了）
投与中止後，血清カリウム値が5mEq／L以下に下がった時は，1回10mg 1日1回から投与再開できる。
2．10mg錠と20mg錠の生物学的同等性は示されていないため，20mgを投与時は10mg錠を使用しない。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．イトラコナゾール，ポサコナゾール，ボリコナゾール，リトナビル含有製剤，アタザナビル，ダルナビル，ホスアンプレナビル，コビシスタット含有製剤，クラリスロマイシン，エンシトレルビルの投与患者。
3．血清カリウム値が5．5mEq／Lを超えている患者。
4．重度の肝機能障害（Child－Pugh分類C）。
5．アジソン病。

■副作用

【副作用】重大な副作用
高カリウム血症（8．8%）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満
代謝・栄養障害 低ナトリウム血症，高尿酸血症
血管障害 低血圧
臨床検査 糸球体ろ過率減少
（表終了）

コララン錠2．5mg（2．5mg1錠）

両 内服 流通
劇

【YJコード】2190039F1020
【薬効分類】2．1．9 その他の循環器官用薬
【一般名】イバブラジン塩酸塩
【メーカー】製)小野薬品工業
【薬価】82.9円/1T
【薬価収載日】2019/11/19
【標榜薬効】HCNチャネル遮断薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】洞調律かつ投与開始時の安静時心拍数が75回／分以上の慢性心不全
β遮断薬含む慢性心不全の治療中のみ。
注意
1．β遮断薬の最大忍容量が投与中でも安静時心拍数が75回／分以上の患者に投与。β遮断薬に忍容性なし，禁忌等，β遮断薬が使用できない患者にも投与可。
2．臨床成績の項を熟知し，臨床試験に組み入れられた背景（左室駆出率等）を理解し，適応患者を選択。
【用法用量】成人 1回2．5mgから開始 1日2回 食後 内服。開始後は忍容性をみながら，目標の安静時心拍数が維持できるよう，必要時，2週間以上の間隔で段階的に増減。1回量は2．5，5，7．5mgのいずれかとし，いずれも，1日2回 食後 内服。適宜減量。
注意
1．維持量は，安静時心拍数及び忍容性を基に設定。目標の安静時心拍数は50～60回／分とし，安静時心拍数が60回／分を超えたら漸増，安静時心拍数が50回／分を下回る又は徐脈の症状（眩暈，倦怠感，低血圧等）があれば漸減。
2．1回2．5mg 1日2回 食後 内服で継続して安静時心拍数が50回／分を下回る又は徐脈の症状があれば，中止。

2 個々の器官系用医薬品

3. 本剤を休薬後，再開時には休薬前を超えない量で再開。安静時心拍数が投与開始前値付近の時は，低用量から開始し，漸増。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 不安定・急性心不全。
3. 心原性ショック。
4. 高度の低血圧患者（収縮期血圧が90mmHg未満・拡張期血圧が50mmHg未満）。
5. 洞不全症候群，洞房ブロック，第三度房室ブロック（ペースメーカー未使用）。
6. 重度の肝機能障害（Child－Pugh C）。
7. 下記の投与患者
リトナビル含有製剤，ジョサマイシン，イトラコナゾール，クラリスロマイシン，コビシスタット含有製剤，ボリコナゾール，エンシトレルビル フマル酸。
8. 妊婦・妊娠の可能性。
9. ベラパミル・ジルチアゼムの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 徐脈（心拍数減少含む）（8. 0%）（眩暈，倦怠感，低血圧等）。
2. 光視症（2. 8%），霧視（0. 4%）。
3. 房室ブロック（0. 6%）。
4. 心房細動（0. 3%）。
5. 心電図QT延長（0. 2%），心室性不整脈（0. 1%未満），心室性頻脈（0. 2%），心室性期外収縮（0. 4%），心室細動（頻度不明），トルサード・ド・ポアン（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
心臓障害 心不全 動悸，洞不全症候群
血管障害 高血圧，血圧変動，起立性低血圧，低血圧
眼障害 羞明，視力障害，複視
胃腸障害 便秘，悪心，下痢，腹痛，胃炎，消化不良
一般・全身障害 倦怠感，疲労，無力症
肝胆道系障害 肝機能障害
腎・尿路障害 腎不全，血中クレアチニン増加
代謝・栄養障害 糖尿病，高尿酸血症
精神神経系障害 浮動性眩暈，頭痛，失神
皮膚・皮下組織障害 掻痒症，発疹 紅斑，蕁麻疹，血管浮腫
その他 呼吸困難，筋痙攣，回転性眩暈 好酸球増加症
（表終了）

炭酸ランタンOD錠250mg「フソー」（250mg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】2190029F3061
【薬効分類】2. 1. 9 その他の循環器官用薬
【一般名】炭酸ランタン水和物
【先発品】ホスレノールOD錠250mg
【メーカー】製)扶桑薬品工業
【薬価】37.9円/1T
【薬価収載日】2019/12/13
【標榜薬効】高リン血症治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性腎臓病の高リン血症の改善
注意
血中リンの排泄を促進する薬剤ではない，食事療法等のリン摂取制限を考慮。
【用法用量】成人 開始量 ランタン 1日750mg 1日3回 分割 食直後 内服。適宜増減，1日最高2250mg。
注意
1. 投与開始時又は用量変更時は，1週間後に血清リン濃度を確認。
2. 増量時は増量幅を ランタン 1日750mgまで，1週間以上あける。
3. 2週間で効果なければ，他の治療法に切りかえる。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 腸管穿孔，イレウス（各頻度不明）（持続する腹痛，嘔吐等）。
2. 消化管出血（吐血，下血），消化管潰瘍（各頻度不明）（胃，十二指腸，結腸等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
消化器 嘔吐，悪心，便秘 胃不快感，腹痛，下痢，逆流性食道炎，腹部膨満感，食欲不振，消化不良 腹部不快感，放屁増加，胃潰瘍，胃炎
過敏症 発疹，掻痒
肝臓 AST上昇，ALT上昇
血液 貧血 好酸球増多
内分泌 副甲状腺機能亢進症
その他 AI－P上昇 胸痛，背部痛，倦怠感，眩暈，高カルシウム血症，低リン血症 低カルシウム血症，末梢性浮腫
（表終了）

トコフェロールニコチン酸エステルカプセル100mg「トーワ」（100mg1カプセル）

両 内服 後発 流通

【YJコード】2190006M1210
【薬効分類】2. 1. 9 その他の循環器官用薬
【一般名】トコフェロールニコチン酸エステル
【先発品】ユベラNカプセル100mg
【メーカー】製)東和薬品 販)日医工
【薬価】5.7円/1C
【薬価収載日】2017/06/16
【標榜薬効】微小循環系賦活剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1. 下記に伴う随伴症状
高血圧症
2. 高脂血症
3. 下記に伴う末梢循環障害
閉塞性動脈硬化症
【用法用量】成人 1日300～600mg 1日3回 分割 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
消化器 食欲不振，胃部不快感，胃痛，悪心，下痢，便秘
過敏症 発疹
肝臓 肝機能障害（AST，ALTの上昇等）
その他 温感，潮紅 顔面浮腫，浮腫
（表終了）

ニセルゴリン錠5mg「トーワ」（5mg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】2190021F1364
【薬効分類】2. 1. 9 その他の循環器官用薬
【一般名】ニセルゴリン
【先発品】サアミオン錠5mg
【メーカー】製)東和薬品 販)和薬
【薬価】10.1円/1T
【薬価収載日】2006/12/08
【標榜薬効】脳循環・代謝改善剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】脳梗塞後遺症に伴う慢性脳循環障害による意欲低下の改善
【用法用量】成人 1日15mg 1日3回 分割 内服。
適宜増減。
注意
投与期間は，臨床効果・副作用を考慮しながら慎重に決定し，投与12週で効果なければ中止。

■禁忌

【禁忌】止血が未完成の頭蓋内出血。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0. 1～1%未満 頻度不明
消化器 食欲不振，下痢，便秘，悪心，腹痛，口渇
肝臓 肝機能障害
循環器 眩暈，立ちくらみ 動悸，ほてり
精神神経系 眠気，倦怠感，頭痛，耳鳴 不眠
過敏症 発疹，掻痒 蕁麻疹
（表終了）

ピヴラッツ点滴静注液150mg（150mg6mL1瓶）

内 注射 流通
劇

【YJコード】2190418A1023
【薬効分類】2. 1. 9 その他の循環器官用薬
【一般名】クラゾセンタンナトリウム
【メーカー】製)ネクセラファーマジャパン
【薬価】80596円/1V

2 個々の器官系用医薬品

【薬価収載日】2022/04/20
【標榜薬効】エンドセリン受容体拮抗薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】脳動脈瘤によるくも膜下出血術後の脳血管攣縮，これに伴う脳梗塞・脳虚血症状の発症抑制
注意
1．くも膜下出血の重症度，血腫量，脳梗塞の範囲等を考慮し，投与の要否を判断。下記の有効性・安全性は未確立。
（1）．World Federation of Neurosurgical Surgeons分類V。
（2）．脳梗塞が広範囲。
（3）．Fisher分類3以外。
2．破裂脳動脈瘤に対し，外科的治療・血管内治療等により適切に止血された患者に投与。
【用法用量】成人 容量型の持続注入ポンプで 17mL／時（クラゾセンタン 10mg／時） 持続静注（300mg（本剤 12mL）を生食500mLに加える）。くも膜下出血術後早期に投与開始し，くも膜下出血発症15日目まで投与。肝機能，併用薬により適宜減量。
注意
1．くも膜下出血発症から48時間以内に投与開始。
2．中等度の肝機能障害（Child－Pugh分類クラスB）への投与可否は慎重に判断し，投与時は，用量の半量（クラゾセンタン5mg／時）に減量。クラゾセンタン150mg（6mL）を生食500mLに加え，容量型の持続注入ポンプで，17mL／時でくも膜下出血発症15日目まで静注。
3．治療上やむを得ない時を除きリファンピシンとの併用を避け，併用時は，用量の4分の1（クラゾセンタン2．5mg／時）に減量し，副作用発現に注意。クラゾセンタン150mg（6mL）を生食500mLに加え，容量型の持続注入ポンプで，8．5mL／時でくも膜下出血発症15日目まで静注。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性。
3．重度の肝機能障害（Child－Pugh分類クラスC）。
4．継続している頭蓋内出血。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．体液貯留（胸水（13．3%），肺水腫（11．0%），脳浮腫（0．5%））。
2．頭蓋内出血（0．5%），硬膜外血腫（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 3%以上 1～3%未満 頻度不明
感染症 肺炎
血液 貧血 出血（硝子体出血，網膜出血等）
代謝 低ナトリウム血症
循環器 低血圧 心不全
呼吸器 鼻閉 肺うっ血
肝臓 肝機能異常
全身障害 顔面浮腫，浮腫
胃腸 腹水
（表終了）

ファスジル塩酸塩点滴静注液30mg「KCC」（30．8mg2mL1管）

内 注射 後発 流通 劇

【YJコード】2190414A1041
【薬効分類】2．1．9 その他の循環器官用薬
【一般名】ファスジル塩酸塩水和物
【先発品】エリル点滴静注液30mg
【メーカー】製)ネオクリティケア製薬
【薬価】712円/1A
【薬価収載日】2020/06/19
【標榜薬効】蛋白リン酸化酵素阻害剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】くも膜下出血術後の脳血管攣縮，これに伴う脳虚血症状の改善
【用法用量】成人 塩酸ファスジル 1回30mg 1日2～3回 約30分かけ 点滴静注（50～100mLの電解質液又は糖液で希釈）。
くも膜下出血術後早期に開始。2週間投与。
注意
2週間を目安とし，漫然と投与しない。

■禁忌
【禁忌】1．出血（頭蓋内出血）。
2．頭蓋内出血の可能性（出血した動脈瘤に止血処置を術中に施せなかった患者）。
3．低血圧。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．頭蓋内出血（1．72%）。
2．消化管出血，肺出血，鼻出血，皮下出血（各0．27%）。
3．ショック（0．02%）。
4．麻痺性イレウス（0．04%）（著しい便秘，腹部膨満感等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満
循環器 低血圧 顔面潮紅
血液 貧血，白血球減少，血小板減少
肝臓 肝機能異常（AST，ALT，Al－P，LDHの上昇等） 黄疸
泌尿器 腎機能異常（BUN，クレアチニンの上昇等），多尿 排尿困難
過敏症 発疹等の過敏症状
消化器 膨満感，嘔気，嘔吐
その他 発熱 頭痛，意識レベル低下，呼吸抑制
（表終了）

フォゼベル錠20mg（20mg1錠）

両 内服 流通

【YJコード】2190045F3028
【薬効分類】2．1．9 その他の循環器官用薬
【一般名】テナパノル塩酸塩
【メーカー】製)協和キリン
【薬価】510.9円/1T
【薬価収載日】2023/11/22
【標榜薬効】高リン血症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】透析中の慢性腎臓病の高リン血症の改善
注意
血中リンの排泄を促進する薬剤ではない，食事療法等のリン摂取制限を考慮。
【用法用量】成人 開始量 1回5mg 1日2回 朝・夕食直前 内服。適宜増減，1回最高30mg。
注意
1．投与開始時又は用量変更時は，1～2週間後に血清リン濃度を確認。
2．増量時は，1回5，10，20，30mgの順に1段階ずつとし，1週間以上あける。
3．休薬した場合，再開時の投与量は，休薬前の投与量と同量又は1段階減量した投与量とする。
4．血液透析中に排便を催すことが懸念される患者には，透析直前での投与を控え，朝夕以外の食直前に投与してもよい。

■禁忌
【禁忌】1．2歳未満。
2．本剤の成分に過敏症の既往。
3．機械的消化管閉塞・その疑い。

■副作用
【副作用】重大な副作用
重度の下痢（0．5%），脱水。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満
消化器 下痢（61．3%） 軟便 悪心，排便回数増加，腹部膨満，嘔吐，腹痛
代謝 低リン血症
（表終了）

フォゼベル錠5mg（5mg1錠）

両 内服 流通

【YJコード】2190045F1025
【薬効分類】2．1．9 その他の循環器官用薬
【一般名】テナパノル塩酸塩
【メーカー】製)協和キリン
【薬価】234.1円/1T
【薬価収載日】2023/11/22
【標榜薬効】高リン血症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】透析中の慢性腎臓病の高リン血症の改善
注意
血中リンの排泄を促進する薬剤ではない，食事療法等のリン摂取制限を考慮。
【用法用量】成人 開始量 1回5mg 1日2回 朝・夕食直前 内服。適宜増減，1回最高30mg。
注意
1．投与開始時又は用量変更時は，1～2週間後に血清リン濃度を確認。
2．増量時は，1回5，10，20，30mgの順に1段階ずつとし，1週間以上あける。
3．休薬した場合，再開時の投与量は，休薬前の投与量と同量又は1段階減量した投与量とする。
4．血液透析中に排便を催すことが懸念される患者には，透析直前での

2 個々の器官系用医薬品

投与を控え，朝夕以外の食直前に投与してもよい。

■禁忌
【禁忌】1．2歳未満。
2．本剤の成分に過敏症の既往。
3．機械的消化管閉塞・その疑い。

■副作用
【副作用】重大な副作用
重度の下痢（0．5%），脱水。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満
消化器 下痢（61．3%） 軟便 悪心，排便回数増加，腹部膨満，嘔吐，腹痛
代謝　低リン血症
（表終了）

ベリキューボ錠2．5mg（2．5mg1錠）
両　内服　流通

【YJコード】2190042F1021
【薬効分類】2．1．9　その他の循環器官用薬
【一般名】ベルイシグアト
【メーカー】製)バイエル薬品
【薬価】130.5円/1T
【薬価収載日】2021/08/12
【標榜薬効】慢性心不全治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性心不全（治療中のみ）
注意
1．左室駆出率の保たれた慢性心不全の有効性・安全性は未確立，左室駆出率の低下した慢性心不全に投与。
2．臨床成績の項を熟知し，臨床試験に組み入れられた背景（前治療，左室駆出率，収縮期血圧等）を理解し，適応患者を選択。
【用法用量】成人　1回2．5mgから開始　1日1回　食後　内服。2週間隔で1回量を5，10mgに漸増。適宜減量。
注意
定期的に血圧測定を行い，臨床試験の基準を参考に用量を調節。
臨床試験の用量調節基準
（表開始）
収縮期血圧（mmHg）・低血圧症状 1回量の調節
100以上 ・2．5又は5mg；1段階増量。・10mg；用量を維持。
90～100未満 用量を維持。
90未満で低血圧症状がない時 ・2．5mg；投与を中断。・5又は10mg；1段階減量。
90未満で低血圧症状がある時 投与を中断。
（表終了）

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．可溶性グアニル酸シクラーゼ刺激薬（リオシグアト）の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
低血圧（7．4%）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～10%未満 1%未満 頻度不明
血液・リンパ系障害　貧血
神経系障害 浮動性眩暈 頭痛
胃腸障害　消化不良，胃食道逆流性疾患，悪心，嘔吐
（表終了）

ポリスチレンスルホン酸Ca経口ゼリー20%分包25g「三和」（20%25g1個）
両　内服　後発　流通

【YJコード】2190016Q2034
【薬効分類】2．1．9　その他の循環器官用薬
【一般名】ポリスチレンスルホン酸カルシウム
【メーカー】製)三和化学研究所　販)アステラス製薬
【薬価】77.8円/1個
【薬価収載日】2020/12/11
【標榜薬効】高カリウム血症改善剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】急性・慢性腎不全に伴う高カリウム血症
【用法用量】成人　1日75～150g（ポリスチレンスルホン酸カルシウム15～30g）　1日2～3回　分割　内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】腸閉塞。

■副作用
【副作用】重大な副作用
腸管穿孔，腸閉塞，大腸潰瘍（各頻度不明）（高度の便秘，持続する腹痛，嘔吐，下血等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症　発疹
消化器 便秘 悪心，嘔気，食欲不振，胃部不快感
電解質　低カリウム血症
（表終了）

リオナ錠250mg（250mg1錠）
両　内服　流通

【YJコード】2190033F1022
【薬効分類】2．1．9　その他の循環器官用薬
【一般名】クエン酸第二鉄水和物
【メーカー】製)日本たばこ産業　販)鳥居薬品
【薬価】70.4円/1T
【薬価収載日】2014/04/17
【標榜薬効】高リン血症・鉄欠乏性貧血治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．慢性腎臓病の高リン血症の改善
2．鉄欠乏性貧血
注意
慢性腎臓病の高リン血症の改善
血中リンの排泄を促進する薬剤ではない，食事療法等のリン摂取制限を考慮。
【用法用量】慢性腎臓病の高リン血症の改善
成人　開始量　1回500mg　1日3回　食直後　内服。
適宜増減，1日最高6000mg。
鉄欠乏性貧血
成人　1回500mg　1日1回　食直後　内服。
適宜増減，1回最高500mg　1日2回まで。
注意
慢性腎臓病の高リン血症の改善
1．投与開始時又は用量変更時は，1～2週間後に血清リン濃度を確認。
2．増量時は1日1500mgまで，1週間以上あける。

■禁忌
【禁忌】効能共通
1．本剤の成分に過敏症の既往。
鉄欠乏性貧血
2．鉄欠乏状態にない患者。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 2%以上 2%未満
胃腸障害 下痢（12．4%），悪心，便秘 腹部不快感，嘔吐，腹部膨満，腹痛，上腹部痛，排便回数増加，胃腸障害，下腹部痛，十二指腸潰瘍，便通不規則
臨床検査　血清フェリチン増加，ヘモグロビン増加，血中アルミニウム増加，γ－グルタミルトランスフェラーゼ増加，ヘマトクリット増加
その他　赤血球増加症，食欲減退，頭痛，高血圧，肝機能異常，湿疹，掻痒症，月経過多，倦怠感
（表終了）

レナジェル錠250mg（250mg1錠）
両　内服　流通

【YJコード】2190025F1036
【薬効分類】2．1．9　その他の循環器官用薬
【一般名】セベラマー塩酸塩
【メーカー】製)中外製薬
【薬価】12.4円/1T
【薬価収載日】2003/04/01
【標榜薬効】高リン血症治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の高リン血症の改善
透析中の慢性腎不全
注意
血中リンの排泄を促進する薬剤ではない，食事療法等のリン摂取制限を考慮。
【用法用量】成人　1回1～2g　1日3回　食直前　内服。
適宜増減，1日最高9g。

2 個々の器官系用医薬品

注意
1. 沈降炭酸カルシウムを使用していない場合 血清リン濃度が8mg／dL未満の時は1回1gから，8mg／dL以上の時は1回2gから開始。その後血清リン濃度の程度により適宜増減。
2. 沈降炭酸カルシウムから切りかえる場合 沈降炭酸カルシウム1日3g未満の時は1回1gから，1日3g以上の時は1回2gから開始。その後血清リン濃度の程度により適宜増減。
3. 投与量の増減方法 血清リン濃度が6mg／dL未満となるよう，下記を目安に適宜増減。
（表開始）
血清リン濃度（mg／dL） 投与量増減方法
6以上 1回0．25～0．5g（本剤 1～2錠）増量。
4～6 投与量を維持。
4未満 1回0．25～0．5g（本剤 1～2錠）減量。
（表終了）

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．腸閉塞。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．腸管穿孔（0．1%），腸閉塞（0．2%）（高度の便秘，持続する腹痛，嘔吐等）。
2．憩室炎，虚血性腸炎（各頻度不明）。
3．消化管出血（0．4%）（吐血，下血），消化管潰瘍（0．2%）（胃，十二指腸，結腸，直腸等）。
4．肝機能障害（頻度不明）（AST，ALT，γ－GTPの著しい上昇）。
5．便秘・便秘増悪（25．0%），腹痛（3．4%），腹部膨満（9．6%）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 0．5～1%未満 0．5%未満 頻度不明
消化器 悪心，腹部不快感，下痢・軟便，消化不良，嘔吐 食欲不振 胃炎・胃炎増悪，おくび，嚥下障害，痔核
肝臓 肝機能異常（ALT，LDH，総胆汁酸の上昇）
代謝 AI－Pの上昇 血中重炭酸塩減少，ビタミンK上昇，ビタミンK減少，血中亜鉛減少，血中銅減少，血中カルシウム減少，ビタミンA上昇，低比重リポ蛋白減少，トリグリセリド上昇，血液pH低下，PO2上昇，鉄代謝障害 低カルシウム血症，水分過負荷
血液 貧血
皮膚 掻痒症，発疹
内分泌 上皮小体ホルモン上昇
骨格・筋 関節痛
（表終了）

2．2 呼吸器官用薬

2．2．1 呼吸促進剤

ドプラム注射液400mg（20mg1mLバイアル）

内 注射 流通
劇

【YJコード】2219400A1031
【薬効分類】2．2．1 呼吸促進剤
【一般名】ドキサプラム塩酸塩水和物
【メーカー】製)キッセイ薬品工業
【薬価】166円/1mLバイアル
【薬価収載日】2006/06/09
【標榜薬効】呼吸促進剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇下記の呼吸抑制，覚醒遅延
・麻酔時
・中枢神経系抑制剤による中毒時
〇遷延性無呼吸の鑑別診断
〇急性ハイパーカプニアを伴う慢性肺疾患
〇早産・低出生体重児の原発性無呼吸（未熟児無呼吸発作）
キサンチン製剤の治療で効果不十分時のみ。
注意
中枢神経系抑制剤による中毒時の呼吸抑制，覚醒遅延
1．重篤な中毒患者に，本剤のみでは，呼吸促進，意識レベルの改善が不十分な可能性があるので，維持療法や蘇生術の補助として使用。
急性ハイパーカプニアを伴う慢性肺疾患
2．慢性肺疾患の症状が感染等の誘因により急性増悪，高度の低酸素血症，高炭酸ガス血症（急性ハイパーカプニア）をきたす。急性増悪時は低酸素血症の改善のため酸素投与を行うが，酸素吸入による低酸素刺激の消失により低換気を生じPaCO2が上昇する。酸素治療下の低換気を防ぎ，PaCO2の上昇の予防に使用。
早産・低出生体重児の原発性無呼吸（未熟児無呼吸発作）
3．原発性無呼吸の治療薬なので，投与前に二次性無呼吸の除外診断を行い，二次性無呼吸を呈する患児には，原疾患に応じ処置を行う。
【用法用量】下記の状態の呼吸抑制・覚醒遅延
・麻酔時
ドキサプラム塩酸塩水和物 0．5～1mg／kg 徐々に静注。
必要時 5分間隔で通常量を投与 総量2mg／kgまで。
点滴静注時 開始 約5mg／分で投与 注入速度を適宜調節。
総量5mg／kgまで。
・中枢神経系抑制剤による中毒時
ドキサプラム塩酸塩水和物 0．5～2mg／kg 徐々に静注。初回に反応があった時 維持量 必要時通常量を5～10分間隔で投与 1～2時間間隔 繰り返す。
点滴静注時 症状に応じ1～3mg／kg／時で投与。
遷延性無呼吸の鑑別診断
ドキサプラム塩酸塩水和物 1～2mg／kg 静注。
投与で呼吸興奮が生じない時 呼吸抑制の原因が筋弛緩剤の残存効果によることを考慮。
急性ハイパーカプニアを伴う慢性肺疾患
ドキサプラム塩酸塩水和物 1～2mg／kg／時 点滴静注。
投与開始後1～2時間は，動脈血液ガスを30分ごとに測定。血液ガスの改善がないか，悪化時 レスピレータの使用を考慮。血液ガスの改善があり，重篤な副作用がなければ投与継続できる。動脈血液ガス分圧の測定は適宜行い，血液ガスが適当レベルに達すれば投与中断し，酸素吸入は適宜継続。本剤中断後，PaCO2が上昇時，再投与を考慮。
1日最大2400mg。
早産・低出生体重児の原発性無呼吸（未熟児無呼吸発作）
初回 ドキサプラム塩酸塩水和物 1．5mg／kg 1時間かけ 点滴静注。以後，維持投与 0．2mg／kg／時で点滴静注。効果不十分時 0．4mg／kg／時まで適宜増量。
注意
麻酔時の呼吸抑制・覚醒遅延
1．カテコラミンへの心筋の感受性を高める麻酔剤の使用時は，本剤投与は麻酔剤投与中止後最低10分間あける。
急性ハイパーカプニアを伴う慢性肺疾患
2．本剤とレスピレータを同時に使用しない。
3．例 PaO2が50Torr以上に維持できない，PaCO2の低下が認められずpHが7．25以下の時，意識レベルが悪化時にはレスピレータの使用を考慮。

■禁忌
【禁忌】効能共通
1．てんかん，他の痙攣状態。
2．呼吸筋・胸郭・胸膜等の異常で換気能力の低下。
3．重症の高血圧症，脳血管障害。
4．冠動脈疾患，明瞭な代償不全性心不全。
5．新生児，低出生体重児（早産・低出生体重児の原発性無呼吸（未熟児無呼吸発作）除く）。
6．本剤の成分に過敏症の既往。
早産・低出生体重児の原発性無呼吸（未熟児無呼吸発作）
7．壊死性腸炎・その疑い。

■副作用
【副作用】重大な副作用
効能共通
1．興奮状態（6．1%），振戦（1．1%），間代性痙攣，筋攣縮，テタニー，声門痙攣（各頻度不明）。
早産・低出生体重児の原発性無呼吸（未熟児無呼吸発作）
2．壊死性腸炎，胃穿孔，胃腸出血（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）（麻酔時，中枢神経系抑制剤による中毒時の呼吸抑制・覚醒遅延，遷延性無呼吸の鑑別診断，急性ハイパーカプニアを伴う慢性肺疾患）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
循環器 頻脈，不整脈，血圧上昇
血液 赤血球数減少，ヘマトクリット値減少
消化器 嘔気・嘔吐 下痢
肝臓 AST上昇，ALT上昇
泌尿器 尿意，尿蛋白，BUN上昇
過敏症 熱感・ほてり 発汗，紅斑・発赤
その他 体動，バッキング，唾液・気管の分泌亢進 嚥下運動，まばたき，息苦しさ，不安感，頭痛，胸部苦悶感，口渇感，不穏，顔をしかめる咳嗽，流涎，流涙
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（早産・低出生体重児の原発性無呼吸（未熟児無呼吸発作））
（表開始）
発現部位等 頻度不明
循環器 高血圧，頻脈，QT延長，心室性期外収縮
血液 貧血，溶血性貧血，メトヘモグロビン血症
消化器 早期歯牙萌出，嘔気，嘔吐，吐き戻し，栄養不耐症，胃酸増加，（血性）胃内残渣，腹部膨満，イレウス，腸管拡張症，血便
その他 痙攣，振戦，易刺激性，びくびく感，頻発啼泣，無気肺，頻呼吸，呼吸不全，代謝性アシドーシス，高血糖，尿中ブドウ糖陽性，未熟児網膜症，腎機能障害，発熱，敗血症，CRP上昇
（表終了）

2 個々の器官系用医薬品

ナロキソン塩酸塩静注0．2mg「AFP」（0．2mg1mL1管）

内 注射 流通
劇

【YJコード】2219402A1049
【薬効分類】2．2．1 呼吸促進剤
【一般名】ナロキソン塩酸塩
【メーカー】製)アルフレッサファーマ
【薬価】899円/1A
【薬価収載日】2021/12/10
【標榜薬効】麻薬拮抗剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】麻薬による呼吸抑制，覚醒遅延の改善
【用法用量】成人 1回0．2mg 静注。
効果不十分時 さらに2～3分間隔で 1回0．2mg 1～2回追加。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．バルビツール系薬剤等の非麻薬性中枢神経抑制剤・病的原因による呼吸抑制。

■副作用

【副作用】重大な副作用
肺水腫(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
循環器 血圧上昇(8．1%)，頻脈 胸部苦悶感 －
精神神経系 振戦，術後疼痛 － －
消化器 悪心・嘔吐 － 腹痛
肝臓 － － AST上昇，ALT上昇，肝機能障害
(表終了)

フルマゼニル静注0．5mgシリンジ「テルモ」（0．5mg5mL1筒）

内 注射 後発 流通
劇

【YJコード】2219403G1020
【薬効分類】2．2．1 呼吸促進剤
【一般名】フルマゼニル
【メーカー】製)テルモ
【薬価】1138円/1筒
【薬価収載日】2021/05/26
【標榜薬効】ベンゾジアゼピン受容体拮抗剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】ベンゾジアゼピン系薬剤による鎮静の解除，呼吸抑制の改善
注意
対象は，手術・検査時にベンゾジアゼピン系薬剤で鎮静された患者の覚醒遅延・呼吸抑制時，ベンゾジアゼピン系薬剤の高用量，長期投与で過度の鎮静状態・必要以上の鎮静状態持続時，ベンゾジアゼピン系薬剤中毒。状態を考慮し，覚醒必要時にのみ投与。
【用法用量】初回 0．2mg 緩徐に静注。投与後4分以内に覚醒しない時 さらに0．1mg 追加。
以後必要時，1分間隔で0．1mgずつを総量1mgまで，ICUでは2mgまで投与を繰り返す。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．本剤・ベンゾジアゼピン系薬剤に過敏症の既往。
2．長期間ベンゾジアゼピン系薬剤投与のてんかん。

■副作用

【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(蕁麻疹，顔面蒼白，血圧低下，呼吸困難，嘔気等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 頭痛，興奮 不穏，幻覚，体動 不安感，痙攣
血液 白血球減少
循環器 血圧上昇 頻脈，徐脈
呼吸器 咳，咽頭異和感
消化器 嘔気，嘔吐，胸部不快感
肝臓 AST上昇，ALT上昇，血清ビリルビン上昇，AI－P上昇
腎臓 クレアチニン上昇
その他 羞明 過換気
(表終了)

ロルファン注射液1mg（0．1%1mL1管）

内 注射 流通

【YJコード】2213401A1032
【薬効分類】2．2．1 呼吸促進剤
【一般名】レバロルファン酒石酸塩
【メーカー】製)武田テバ薬品 販)武田薬品工業
【薬価】272円/1A
【薬価収載日】2006/12/08
【標榜薬効】麻薬拮抗剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】麻薬による呼吸抑制への拮抗
【用法用量】麻薬投与前後又は投与と同時に 皮下注・筋注・静注。
下記の投与法が適当。
投与量比率
レボルファノール／レバロルファン酒石酸塩 10 1
皮下注・静注 例 レボルファノール3mg，レバロルファン酒石酸塩0．3mg
モルヒネ／レバロルファン酒石酸塩 50 1
皮下注・静注 例 モルヒネ15mg，レバロルファン酒石酸塩0．3mg
アルファプロジン塩酸塩／レバロルファン酒石酸塩 50 1
皮下注・静注 例 アルファプロジン塩酸塩60mg，レバロルファン酒石酸塩1．2mg
ペチジン塩酸塩／レバロルファン酒石酸塩 100 1
筋注・静注 例 ペチジン塩酸塩100mg，レバロルファン酒石酸塩1mg
1．産科的応用
(1)．麻薬投与による母体・胎児の呼吸抑制の予防
適当な比率で麻薬と同時に皮下注又は筋注し，以後は必要時30分以上の間隔で各1／2量を投与。
(2)．分娩時麻薬によりおこる新生児の呼吸抑制の予防(麻薬との非併用時)
分娩前5～10分 1～2mg 静注。
(3)．新生児の麻薬による呼吸抑制の治療
分娩後直ちに臍帯静脈 0．05～0．1mg 注射。
(4)．産婦の麻薬による呼吸抑制の治療 下記4．の用法・用量に準ずる。
2．補助薬として麻薬を用いた麻酔
(1)．麻薬による呼吸抑制の治療
0．5～1．5mg 静注。
(2)．麻薬による呼吸抑制の予防
適当な比率で麻薬とともに，又は麻薬投与の4～6分前に静注。投与後の呼吸機能が十分な時はさらに投与する必要はないが，長時間にわたる手術又は麻酔終了時患者の呼吸機能が不十分な時はさらに0．4～0．6mgを1～数回投与。
3．術前，術後又は内科での麻薬投与時
術前，術後の疼痛緩解のため及び内科患者に麻薬の投与時におこる呼吸抑制の予防には必要時，適当な比率で麻薬と同時に皮下注・筋注。
4．成人の麻薬過量投与による呼吸抑制の治療
(1)．過剰量が不明の時
1mg 静注。効果あればさらに必要時3分間隔で0．5mgを1～2回投与。
(2)．麻薬及びその過剰量がわかっている時
適当な比率で静注。必要あれば次いで3分間隔でその1／2量ずつ1～2回投与。

■禁忌

【禁忌】1．呼吸抑制が緩徐。
2．バルビツール系薬剤等の非麻薬性中枢神経抑制剤・病的原因による呼吸抑制。
3．麻薬依存。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．呼吸抑制(頻度不明)。
2．幻視，もうろう状態，見当識障害(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
眼 縮瞳，眼瞼偽下垂症
精神神経系 眩暈，傾眠，発汗
胃腸 悪心，嘔吐，胃部不快感
過敏症 過敏症状
その他 不快感，蒼白，四肢重圧感
(表終了)

2 個々の器官系用医薬品

2．2．2 鎮咳剤

エフェドリン「ナガキ」注射液40mg（4%1mL1管）

内 注射 流通
劇

【YJコード】2221400A2060
【薬効分類】2．2．2 鎮咳剤
【一般名】エフェドリン塩酸塩
【メーカー】製)日医工 販)大日本住友製薬
【薬価】97円/1A
【薬価収載日】2002/10/01
【標榜薬効】気管支拡張・鎮咳剤，昇圧剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．下記に伴う咳嗽
気管支喘息，喘息性(様)気管支炎，感冒，急性気管支炎，慢性気管支炎，肺結核，上気道炎(咽喉頭炎，鼻カタル)
2．鼻粘膜の充血・腫脹
3．麻酔時の血圧降下
注意
麻酔時の血圧降下への予防目的としての投与は行わない(帝王切開時の予防投与により，母体の高血圧，頻脈，胎児アシドーシスの報告あり)。
【用法用量】成人 1回25～40mg 皮下注。
麻酔時の血圧降下 成人 1回4～8mg 静注。
適宜増減。
注意
静注
1．緩徐に静注。
参考
日本麻酔科学会で下記投与法を推奨。
静注時は，本剤1管(40mg／1mL)を9mLの生食と混合して計10mL(4mg／1mL)とし，1回1～2mL(4～8mg)を投与。
適宜増減。
2．血圧の異常上昇をきたさないよう慎重に投与。

■禁忌
【禁忌】カテコールアミン(アドレナリン，イソプレナリン，ドパミン等)の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．重篤な心室細動，心室頻拍，冠攣縮等(各頻度不明)，心停止(静注)。
2．重篤な血清カリウム値の低下(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
循環器 心悸亢進，血圧上昇，心電図異常(QT間隔の延長，ST上昇・低下等)
精神神経系 頭痛・頭重，振戦，不眠，眩暈，発汗，神経過敏，脱力感
消化器 悪心・嘔吐，食欲不振
泌尿器 排尿困難
過敏症 発疹
長期連用 不安，幻覚，妄想を伴う精神症状
その他 口渇
(表終了)

デキストロメトルファン臭化水素酸塩錠15mg「トーワ」（15mg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】2223001F2145
【薬効分類】2．2．2 鎮咳剤
【一般名】デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物
【先発品】メジコン錠15mg
【メーカー】製)東和薬品
【薬価】5.9円/1T
【薬価収載日】2017/12/08
【標榜薬効】鎮咳剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○下記に伴う咳嗽
感冒，急性気管支炎，慢性気管支炎，気管支拡張症，肺炎，肺結核，上気道炎(咽喉頭炎，鼻カタル)
○気管支造影術，気管支鏡検査時の咳嗽
【用法用量】成人 1回15～30mg 1日1～4回 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．呼吸抑制(0．1%未満)。
2．ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(呼吸困難，蕁麻疹，血管浮腫等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹
精神神経系 眠気，頭痛，眩暈 不眠 不快
消化器 悪心・嘔吐，便秘 食欲不振，口渇，おくび 腹痛
(表終了)

フスタゾール糖衣錠10mg（10mg1錠）

両 内服 流通

【YJコード】2229004F1030
【薬効分類】2．2．2 鎮咳剤
【一般名】クロペラスチン塩酸塩
【メーカー】製)ニプロESファーマ 販)田辺三菱製薬 販)ニプロ
【薬価】6.1円/1T
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】鎮咳剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記に伴う咳嗽
感冒，急性気管支炎，慢性気管支炎，気管支拡張症，肺結核，肺癌
【用法用量】成人 1日30～60mg 1日3回 分割 内服。
小児 下記1日量 1日3回 分割 内服。
2歳未満 7．5mg。2～4歳未満 7．5～15mg。4～7歳未満 15～30mg。
適宜増減。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
精神神経系 眠気
消化器 悪心，食欲不振，口渇
(表終了)

2．2．3 去たん剤

アンブロキソール塩酸塩徐放OD錠45mg「サワイ」（45mg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】2239001G1039
【薬効分類】2．2．3 去たん剤
【一般名】アンブロキソール塩酸塩
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】16.1円/1T
【薬価収載日】2014/06/20
【標榜薬効】徐放性気道潤滑去たん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の去痰
急性気管支炎，気管支喘息，慢性気管支炎，気管支拡張症，肺結核，塵肺症，術後の喀痰喀出困難
【用法用量】成人 1回1錠(アンブロキソール塩酸塩 45mg) 1日1回 内服。
注意
早朝覚醒時に喀痰喀出困難を訴える患者には，夕食後投与が有用。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(発疹，顔面浮腫，呼吸困難，血圧低下等)。
2．皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
消化器 胃不快感 胃痛，腹部膨満感，腹痛，下痢，嘔気，嘔吐，便秘，食思不振，消化不良(胃部膨満感，胸やけ等)
過敏症 発疹，蕁麻疹，蕁麻疹様紅斑，掻痒 血管浮腫(顔面浮腫，眼

2 個々の器官系用医薬品

瞼浮腫，口唇浮腫等）
肝臓 肝機能障害（AST上昇，ALT上昇等）
その他 口内しびれ感，上肢のしびれ感 眩暈
（表終了）

カルボシステインDS50%「タカタ」（50%1g）

両 内服 後発 流通

【YJコード】2233002R2037
【薬効分類】2．2．3 去たん剤
【一般名】L－カルボシステイン
【先発品】ムコダインDS50%
【メーカー】製)高田製薬
【薬価】12.5円/1g
【薬価収載日】2010/11/19
【標榜薬効】気道粘液調整・粘膜正常化剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】成人
〇下記の去痰
上気道炎（咽頭炎，喉頭炎），急性気管支炎，気管支喘息，慢性気管支炎，気管支拡張症，肺結核
〇慢性副鼻腔炎の排膿
小児
〇下記の去痰
上気道炎（咽頭炎，喉頭炎），急性気管支炎，気管支喘息，慢性気管支炎，気管支拡張症，肺結核
〇慢性副鼻腔炎の排膿
〇滲出性中耳炎の排液
【用法用量】成人 カルボシステイン 1回500mg（本剤 1g） 1日3回 内服（用時懸濁）。
適宜増減。
幼・小児 カルボシステイン 1回10mg／kg（本剤 0．02g／kg） 1日3回 内服（用時懸濁）。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）。
2．肝機能障害（AST，ALT，AI－P，LDHの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
3．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，浮腫，蕁麻疹等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
消化器 食欲不振，下痢，腹痛 悪心，嘔吐，腹部膨満感，口渇
過敏症 発疹 湿疹，紅斑 浮腫，発熱，呼吸困難
その他 掻痒感
（表終了）

カルボシステイン錠250mg「JG」（250mg1錠）

両 内服 流通

【YJコード】2233002F1328
【薬効分類】2．2．3 去たん剤
【一般名】L－カルボシステイン
【メーカー】製)日本ジェネリック 販)共創未来ファーマ
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2016/06/17
【標榜薬効】気道粘液調整・粘膜正常化剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇下記の去痰
上気道炎（咽頭炎，喉頭炎），急性気管支炎，気管支喘息，慢性気管支炎，気管支拡張症，肺結核
〇慢性副鼻腔炎の排膿
【用法用量】成人 1回500mg（本剤 2錠） 1日3回 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）。
2．肝機能障害（AST，ALT，AI－P，LDHの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
3．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，浮腫，蕁麻疹等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
消化器 食欲不振，下痢，腹痛 悪心，嘔吐，腹部膨満感，口渇
過敏症 発疹 湿疹，紅斑 浮腫，発熱，呼吸困難
その他 掻痒感
（表終了）

カルボシステインシロップ5%「タカタ」（5%1mL）

両 内服 後発 流通

【YJコード】2233002Q1108
【薬効分類】2．2．3 去たん剤
【一般名】L－カルボシステイン
【先発品】ムコダインシロップ5%
【メーカー】製)高田製薬
【薬価】2.7円/1mL
【薬価収載日】2010/11/19
【標榜薬効】気道粘液調整・粘膜正常化剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇下記の去痰
上気道炎（咽頭炎，喉頭炎），急性気管支炎，気管支喘息，慢性気管支炎，気管支拡張症，肺結核
〇慢性副鼻腔炎の排膿
〇滲出性中耳炎の排液
【用法用量】幼・小児 L－カルボシステイン 1日30mg／kg 1日3回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）。
2．肝機能障害（AST，ALT，AI－P，LDHの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
3．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，浮腫，蕁麻疹等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
消化器 食欲不振，下痢，腹痛 悪心，嘔吐，腹部膨満感，口渇
過敏症 発疹 湿疹，紅斑 浮腫，発熱，呼吸困難
その他 掻痒感
（表終了）

小児用ムコソルバンシロップ0．3%（0．3%1mL）

両 内服 流通

【YJコード】2239001Q1166
【薬効分類】2．2．3 去たん剤
【一般名】アンブロキソール塩酸塩
【メーカー】製)帝人ファーマ
【薬価】6.9円/1mL
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】気道潤滑去たん剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の去痰
急性気管支炎，気管支喘息
【用法用量】幼・小児 1日0．3mL／kg（アンブロキソール塩酸塩 0．9mg／kg） 1日3回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（発疹，顔面浮腫，呼吸困難，血圧低下等）。
2．皮膚粘膜眼症候群（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
消化器 胃不快感 胃痛，腹部膨満感，腹痛，下痢，嘔気，嘔吐，便秘，食思不振，消化不良（胃部膨満感，胸やけ等）

2 個々の器官系用医薬品

過敏症 発疹，蕁麻疹，蕁麻疹様紅斑，掻痒 血管浮腫（顔面浮腫，眼瞼浮腫，口唇浮腫等）
肝臓 肝機能障害（AST上昇，ALT上昇等）
その他 口内しびれ感，上肢のしびれ感 眩暈
（表終了）

ブロムヘキシン塩酸塩吸入液0．2%「タイヨー」（0．2%1mL）

両 外用 後発 流通

【YJコード】2234700G1043
【薬効分類】2．2．3 去たん剤
【一般名】ブロムヘキシン塩酸塩
【メーカー】製)武田テバファーマ 販)武田薬品工業 販)和薬
【薬価】5.6円/1mL
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】気道粘液溶解剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の去痰
急性気管支炎，慢性気管支炎，肺結核，塵肺症，術後
【用法用量】成人 1回2mL（ブロムヘキシン塩酸塩 4mg） 1日3回 ネブライザーで吸入（生食等で約2．5倍に希釈）。適宜増減。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（発疹，血管浮腫，気管支痙攣，呼吸困難，掻痒感等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
呼吸器系 咽頭痛，呼吸困難，咽頭刺激感，咽頭異和感 咳嗽，喘息発作，喘鳴
消化器 嘔気，胃部不快感 下痢，嘔吐
精神神経系 頭痛
過敏症 発疹，蕁麻疹
その他 血痰
（表終了）

ブロムヘキシン塩酸塩錠4mg「サワイ」（4mg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】2234001F1363
【薬効分類】2．2．3 去たん剤
【一般名】ブロムヘキシン塩酸塩
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】5.3円/1T
【薬価収載日】2015/06/19
【標榜薬効】気道粘液溶解剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の去痰
急性気管支炎，慢性気管支炎，肺結核，塵肺症，術後
【用法用量】成人 1回1錠（ブロムヘキシン塩酸塩 4mg） 1日3回 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（発疹，血管浮腫，気管支痙攣，呼吸困難，掻痒感等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
消化器 悪心，食欲不振，胃部不快感，腹痛 下痢，嘔気，嘔吐
精神神経系 頭痛
過敏症 発疹，蕁麻疹
その他 血痰
（表終了）

ムコサールドライシロップ1．5%（1．5%1g）

両 内服 後発 流通

【YJコード】2239001R1110
【薬効分類】2．2．3 去たん剤
【一般名】アンブロキソール塩酸塩
【先発品】小児用ムコソルバンDS1．5%
【メーカー】製)サノフィ 販)日本ベーリンガーインゲルハイム
【薬価】19.4円/1g
【薬価収載日】2008/12/19
【標榜薬効】気道潤滑去たん剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の去痰
急性気管支炎，気管支喘息
【用法用量】幼・小児 1日0．06g／kg（アンブロキソール塩酸塩 0．9mg／kg） 1日3回 分割 内服（用時溶解）。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（発疹，顔面浮腫，呼吸困難，血圧低下等）。
2．皮膚粘膜眼症候群（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
消化器 胃不快感 胃痛，腹部膨満感，腹痛，下痢，嘔気，嘔吐，便秘，食思不振，消化不良（胃部膨満感，胸やけ等）
過敏症 発疹，蕁麻疹，蕁麻疹様紅斑，掻痒 血管浮腫（顔面浮腫，眼瞼浮腫，口唇浮腫等）
肝臓 肝機能障害（AST上昇，ALT上昇等）
その他 口内しびれ感，上肢のしびれ感 眩暈
（表終了）

ムコフィリン吸入液20%（17．62%2mL1包）

両 外用 流通

【YJコード】2233700G2034
【薬効分類】2．2．3 去たん剤
【一般名】アセチルシステイン
【メーカー】製)アルフレッサファーマ 販)エーザイ
【薬価】40.7円/1包
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】気道粘液溶解剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．下記の去痰
慢性気管支炎，肺気腫，肺化膿症，肺炎，気管支拡張症，肺結核，嚢胞性線維症，気管支喘息，上気道炎（咽頭炎，喉頭炎），術後肺合併症
2．下記の前後処置
気管支造影，気管支鏡検査，肺癌細胞診，気管切開術
【用法用量】1回1／2～2包（アセチルシステインナトリウム塩20w／v%液 1～4mL） 単独又は他剤を混じ 気管内に直接注入，又は噴霧吸入。
適宜増減。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．気管支閉塞（0．1～5%未満）。
2．気管支痙攣（0．1～5%未満）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹
消化器 軽い臭気（硫黄臭） 悪心・嘔吐，食欲不振
その他 口内炎，鼻漏，血痰 悪寒，発熱
（表終了）

2．2．4 鎮咳去たん剤

コデインリン酸塩散1%「メタル」（1%1g）

両 内服 流通
劇

【YJコード】2242001B2343
【薬効分類】2．2．4 鎮咳去たん剤
【一般名】コデインリン酸塩水和物
【メーカー】製)中北薬品 販)日興製薬販売 販)吉田製薬
【薬価】10.5円/1g
【薬価収載日】2020/12/11

2 個々の器官系用医薬品

【標榜薬効】鎮咳剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】各種呼吸器疾患の鎮咳・鎮静
疼痛時の鎮痛
激しい下痢症状の改善
【用法用量】成人 1回2g 1日6g 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 重篤な呼吸抑制。
2. 12歳未満の小児。
3. 18歳未満で扁桃摘除術後・アデノイド切除術後の鎮痛。
4. 気管支喘息発作中。
5. 重篤な肝機能障害。
6. 慢性肺疾患に続発する心不全。
7. 痙攣状態(てんかん重積症, 破傷風, ストリキニーネ中毒)。
8. 急性アルコール中毒。
9. アヘンアルカロイドに過敏症。
10. 出血性大腸炎。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 依存性(頻度不明), 退薬症候(あくび, くしゃみ, 流涙, 発汗, 悪心, 嘔吐, 下痢, 腹痛, 散瞳, 頭痛, 不眠, 不安, せん妄, 振戦, 全身の筋肉・関節痛, 呼吸促迫等)。
2. 呼吸抑制(頻度不明)(息切れ, 呼吸緩慢, 不規則な呼吸, 呼吸異常等)。
3. 錯乱(頻度不明), せん妄(頻度不明)。
4. 無気肺(頻度不明), 気管支痙攣(頻度不明), 喉頭浮腫(頻度不明)。
5. 麻痺性イレウス(頻度不明), 中毒性巨大結腸(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
循環器 不整脈, 血圧変動, 顔面潮紅
精神神経系 眠気, 眩暈, 視調節障害, 発汗
消化器 悪心, 嘔吐, 便秘
過敏症 発疹, 掻痒感
その他 排尿障害
(表終了)

メジコン配合シロップ(10mL)
両 内服 流通

【YJコード】2249106Q1066
【薬効分類】2. 2. 4 鎮咳去たん剤
【一般名】デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物・クレゾールスルホン酸カリウム
【メーカー】製)シオノギファーマ 販)塩野義製薬
【薬価】16円/10mL
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】鎮咳去たん剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記に伴う咳嗽, 喀痰喀出困難
急性気管支炎, 慢性気管支炎, 感冒・上気道炎, 肺結核, 百日咳
【用法用量】下記1日量 1日3～4回 分割 内服。
適宜増減。
(表開始)
年齢 本剤(mL)
成人 18～24
8～14歳 9～16
3ヵ月～7歳 3～8
(表終了)

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 呼吸抑制(頻度不明)。
2. ショック, アナフィラキシー(各頻度不明)(呼吸困難, 蕁麻疹, 血管浮腫等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹
精神神経系 眠気, 頭痛, 眩暈, 不快, 不眠
消化器 悪心・嘔吐, 食欲不振, 軟便, 下痢 便秘, 腹痛, 口渇, おくび
(表終了)

2. 2. 5 気管支拡張剤

インタール吸入液1%(1%2mL1管)
両 外用 流通

【YJコード】2259701G1063
【薬効分類】2. 2. 5 気管支拡張剤
【一般名】クロモグリク酸ナトリウム
【メーカー】製)サノフィ 販)アステラス製薬
【薬価】25.9円/1A
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】喘息治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】気管支喘息
【用法用量】1回1アンプル(クロモグリク酸ナトリウム 20mg) 1日3～4アンプル 朝・昼・就寝前, 又は朝・昼・夕・就寝前 電動式ネブライザーで吸入。症状の緩解あれば, 1日2～3アンプルに減量。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 重篤な気管支痙攣(0. 1%未満)。
2. PIE症候群(0. 1%未満)(好酸球増多を伴う肺浸潤)(発熱, 咳嗽, 喀痰)。
3. アナフィラキシー(0. 1%未満)(呼吸困難, 血管浮腫, 蕁麻疹等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満
過敏症 発疹
咽喉頭 刺激感
その他 悪心
(表終了)

オンブレス吸入用カプセル150μg(150μg1カプセル)
両 外用 流通

【YJコード】2259710G1020
【薬効分類】2. 2. 5 気管支拡張剤
【一般名】インダカテロールマレイン酸塩
【メーカー】製)ノバルティスファーマ
【薬価】125.4円/1C
【薬価収載日】2011/09/12
【標榜薬効】長時間作用性吸入気管支拡張剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎, 肺気腫)の気道閉塞性障害による諸症状の緩解
注意
1. 慢性閉塞性肺疾患の長期管理に使用。増悪時の急性期治療に使用する薬剤ではない。
2. 気管支喘息治療に使用しない。
【用法用量】成人 1回1カプセル(インダカテロール 150μg) 1日1回 専用の吸入用器具で吸入。
注意
1. 吸入用カプセルであり, 必ず専用の吸入用器具(ブリーズヘラー)で吸入し, 内服しない。
2. 本剤は1日1回, 定刻に吸入。吸入できなかった時は, 翌日, 定刻に1回分を吸入。
3. 他の長時間作用性β2刺激剤, 長時間作用性β2刺激剤含む配合剤と同時使用しない。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
重篤な血清カリウム値の低下(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
感染症 ― 鼻咽頭炎 上気道感染, 副鼻腔炎
代謝・栄養障害 ― ― 糖尿病・高血糖
神経系障害 ― 頭痛 眩暈, 錯感覚
心血管障害 ― 心房細動, 動悸 虚血性心疾患, 頻脈
呼吸器障害 咳嗽 口腔咽頭痛 鼻漏, 気管支痙攣
過敏症 ― 蕁麻疹 血管浮腫, 掻痒症, 発疹
筋骨格系障害 ― 筋痙縮 筋肉痛, 筋骨格痛
その他 ― 末梢性浮腫 胸痛, 胸部不快感, 口渇
(表終了)

2 個々の器官系用医薬品

キュバール100エアゾール（15mg8．7g1瓶）

両 外用 流通

【YJコード】2259703Y1025
【薬効分類】2．2．5 気管支拡張剤
【一般名】ベクロメタゾンプロピオン酸エステル
【メーカー】製)住友ファーマ 販)MSD 販)シェリング・プラウ
【薬価】1732.2円/1V
【薬価収載日】2002/06/07
【標榜薬効】吸入ステロイド喘息治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】気管支喘息
注意
投与開始前に，喘息症状の安定を確認。喘息発作重積状態・喘息の急激な悪化時に使用しない。
【用法用量】成人 1回100μg 1日2回 口腔内 噴霧吸入。
小児 1回50μg 1日2回 口腔内 噴霧吸入。
適宜増減，1日最大成人 800μg，小児 200μg。

■禁忌

【禁忌】1．有効な抗菌剤のない感染症，全身の真菌症。
2．本剤の成分に過敏症の既往。
3．デスモプレシン酢酸塩水和物（男性の夜間多尿による夜間頻尿）の投与患者。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
過敏症 蕁麻疹等の発疹，掻痒，浮腫，紅斑
口腔・呼吸器 咳，咽喉頭症状（疼痛，異和感），口渇，嗄声，気管支喘息の増悪，口内炎 咽喉頭症状（刺激感，異物感，発赤），感染，口腔カンジダ症，味覚障害，呼吸器カンジダ症，口腔・咽頭アスペルギルス症，肺好酸球増多症
消化器 悪心 食欲不振，嘔吐，下痢，腹痛
肝臓 AST，ALT，γ－GTP，AI－Pの上昇
循環器 高血圧，動悸
筋肉・骨格 関節痛，筋肉痛，脱力感
精神神経系 気分不良，頭痛 倦怠感，憂うつ感
その他 コルチゾール減少，鼻出血 尿糖，白血球増多，リンパ球減少，尿潜血 鼻炎，嗅覚障害
（表終了）

スピオルトレスピマット60吸入（60吸入1キット）

両 外用 流通

【YJコード】2259807G2022
【薬効分類】2．2．5 気管支拡張剤
【一般名】チオトロピウム臭化物水和物・オロダテロール塩酸塩
【メーカー】製)日本ベーリンガーインゲルハイム
【薬価】5353.8円/1kit
【薬価収載日】2016/11/18
【標榜薬効】COPD治療配合剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎，肺気腫）の気道閉塞性障害による諸症状の緩解（長時間作用性吸入抗コリン剤，長時間作用性吸入β2刺激剤の併用の必要時）
注意
1．慢性閉塞性肺疾患（COPD 慢性気管支炎，肺気腫）の維持療法に使用。急性症状の軽減目的の薬剤ではない。
2．気管支喘息治療に使用しない。
【用法用量】成人 1回2吸入（チオトロピウム 5μg，オロダテロール5μg） 1日1回 吸入。
注意
他の長時間作用性抗コリン薬，長時間作用性β2刺激薬・含有配合剤と同時使用しない。

■禁忌

【禁忌】1．閉塞隅角緑内障。
2．前立腺肥大等による排尿障害。
3．アトロピン・その類縁物質・本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．心不全（頻度不明），心房細動（1%未満），期外収縮（1%未満）。
2．イレウス（頻度不明）。
3．閉塞隅角緑内障（頻度不明）（視力低下，眼痛，頭痛，眼の充血等）。
4．アナフィラキシー（頻度不明）（蕁麻疹，血管浮腫，呼吸困難等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
眼 霧視 眼圧上昇
皮膚 掻痒，蕁麻疹，脱毛 発疹，皮膚感染，皮膚潰瘍，皮膚乾燥
中枢神経系 浮動性眩暈，不眠
感覚器 味覚倒錯 嗅覚錯誤
消化器 口渇（1．3%） 便秘 消化不良，口内炎，舌炎，嚥下障害，胃食道逆流性疾患，歯肉炎
代謝 高尿酸血症 脱水
循環器 動悸，頻脈，上室性頻脈，高血圧
血液 好酸球増多，白血球減少
呼吸器 発声障害，咳嗽，鼻出血，咽頭炎，鼻咽頭炎，喉頭炎，中咽頭カンジダ症，咽喉刺激感，呼吸困難 喘鳴，副鼻腔炎，気管支痙攣
泌尿器 排尿障害，尿閉 血尿，夜間頻尿，クレアチニン上昇，腎機能異常，尿路感染
筋骨格系 関節痛，背部痛 関節腫脹
一般的全身障害 過敏症（血管浮腫含む）
（表終了）

スピリーバ2．5μgレスピマット60吸入（150μg1キット）

両 外用 流通

【YJコード】2259709G2023
【薬効分類】2．2．5 気管支拡張剤
【一般名】チオトロピウム臭化物水和物
【メーカー】製)日本ベーリンガーインゲルハイム
【薬価】3100.9円/1kit
【薬価収載日】2010/04/23
【標榜薬効】長時間作用性吸入気管支拡張剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の気道閉塞性障害による諸症状の緩解
慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎，肺気腫），気管支喘息
注意
効能共通
慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎，肺気腫），気管支喘息の維持療法に使用。急性症状の軽減目的の薬剤ではない。
気管支喘息
吸入ステロイド剤等で改善がない時・重症度から吸入ステロイド剤等との併用治療が適切な時のみ，吸入ステロイド剤等を併用して使用。
【用法用量】慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎，肺気腫）の気道閉塞性障害による諸症状の緩解
成人 本剤 1回2吸入（チオトロピウム 5μg） 1日1回 吸入。
気管支喘息の気道閉塞性障害による諸症状の緩解
成人 スピリーバ1．25μgレスピマット 1回2吸入（チオトロピウム 2．5μg） 1日1回 吸入。
症状・重症度に応じ 本剤 1回2吸入（チオトロピウム 5μg） 1日1回 吸入。
注意
効能共通
1．1回2吸入で投与する製剤。1回1吸入では1日の投与量を担保できない。チオトロピウムとして2．5μgを投与時は，スピリーバ1．25μgレスピマットを使用。チオトロピウムとして5μgを投与時は，本剤を使用。
気管支喘息
2．重症度の高い喘息 本剤1回2吸入（チオトロピウム 5μg）を1日1回吸入。

■禁忌

【禁忌】1．閉塞隅角緑内障。
2．前立腺肥大等による排尿障害。
3．アトロピン・その類縁物質・本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．心不全（頻度不明），心房細動（頻度不明），期外収縮（1%未満）。
2．イレウス（頻度不明）。
3．閉塞隅角緑内障（頻度不明）（視力低下，眼痛，頭痛，眼の充血等）。
4．アナフィラキシー（頻度不明）（蕁麻疹，血管浮腫，呼吸困難等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
眼 霧視，眼圧上昇
皮膚 発疹，掻痒，蕁麻疹 脱毛
中枢神経系 浮動性眩暈 不眠
感覚器 味覚倒錯，嗅覚錯誤
消化器 口渇（1．9%） 便秘，消化不良，口内炎，舌炎
代謝 高尿酸血症
循環器 動悸，上室性頻脈 頻脈
血液 好酸球増多，白血球減少
呼吸器 咽喉刺激感，嗄声 咳嗽，呼吸困難，喘鳴，鼻出血，咽頭炎
泌尿器 血尿，排尿障害，夜間頻尿，クレアチニン上昇，腎機能異常，尿閉
一般的全身障害 過敏症（血管浮腫含む）

2 個々の器官系用医薬品

（表終了）

スピロペント錠10μg（10μg1錠）

両 内服 流通

【YJコード】2259006F1080
【薬効分類】2．2．5 気管支拡張剤
【一般名】クレンブテロール塩酸塩
【メーカー】製)帝人ファーマ
【薬価】7.3円/1T
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】持続性気管支拡張・腹圧性尿失禁治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇下記の気道閉塞性障害による呼吸困難等諸症状の緩解
気管支喘息，慢性気管支炎，肺気腫，急性気管支炎
〇下記に伴う尿失禁
腹圧性尿失禁
注意
気管支喘息
1．気管支喘息治療の長期管理は，吸入ステロイド剤等の抗炎症剤の使用で，吸入ステロイド剤等で改善がない時・重症度から吸入ステロイド剤等との併用治療が適切な時のみ，吸入ステロイド剤等を併用して使用。
腹圧性尿失禁
2．腹圧性以外の原因による尿失禁には使用しない。
【用法用量】1．気管支喘息，慢性気管支炎，肺気腫，急性気管支炎
成人 1回20μg 1日2回 朝・就寝前 内服。
成人 1回20μg 頓服。
適宜増減。
5歳以上の小児 1回0．3μg／kg 1日2回 朝・就寝前 内服。
5歳以上の小児 1回0．3μg／kg 頓服。
適宜増減。
頓用反復の必要時 早急に医師の指示を受ける。
2．腹圧性尿失禁
成人 1回20μg 1日2回 朝・夕 内服。
適宜増減，1日60μgまで。
注意
高齢者 低用量（例 1回10μg 1日2回）から投与。

■禁忌

【禁忌】1．下部尿路の閉塞。
2．本剤に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
重篤な血清カリウム値の低下（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満
過敏症 発疹 掻痒
精神神経系 振戦 筋痙直，頭痛 四肢しびれ感，興奮，不眠，眩暈，眠気
循環器 動悸 頻脈，不整脈，血圧上昇
消化器 嘔気 食欲不振，腹痛，下痢，便秘，口渇，胸やけ
肝臓 AST上昇，ALT上昇
泌尿器 排尿障害
その他 全身倦怠感，浮腫，ほてり
（表終了）

ツロブテロールテープ2mg「サワイ」（2mg1枚）

両 外用 後発 流通

【YJコード】2259707S3074
【薬効分類】2．2．5 気管支拡張剤
【一般名】ツロブテロール
【先発品】ホクナリンテープ2mg
【メーカー】製)沢井製薬 販)テイコクメディックス
【薬価】31.9円/1枚
【薬価収載日】2006/07/07
【標榜薬効】経皮吸収型・気管支拡張剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の気道閉塞性障害による呼吸困難等諸症状の緩解
気管支喘息，急性気管支炎，慢性気管支炎，肺気腫
注意
気管支喘息
気管支喘息治療の長期管理は，吸入ステロイド剤等の抗炎症剤の使用で，吸入ステロイド剤等で改善がない時・重症度から吸入ステロイド剤等との併用治療が適切な時のみ，吸入ステロイド剤等を併用して使用。
【用法用量】下記1回量 1日1回 胸部，背部，上腕部のいずれかに貼付。
成人 2mg。
0．5～3歳未満 0．5mg。
3～9歳未満 1mg。
9歳以上 2mg。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．アナフィラキシー（頻度不明）（呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等）。
2．重篤な血清カリウム値の低下（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒症 蕁麻疹
循環器 心悸亢進 顔面紅潮，不整脈，頻脈
精神神経系 振戦，頭痛，不眠 全身倦怠感，眩暈，興奮，しびれ感，筋痙縮 熱感，こわばり感
消化器 悪心・嘔吐 食欲不振，下痢 胃部不快感
肝臓 AST上昇，ALT上昇
血液 好酸球数増加
皮膚 適用部位掻痒感，適用部位紅斑，接触性皮膚炎 適用部位疼痛，適用部位変色
その他 CK上昇 血清カリウム値の低下 胸痛，浮腫 口渇，筋肉痛
（表終了）

テオフィリンドライシロップ20%「タカタ」（20%1g）

両 内服 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2251001R1107
【薬効分類】2．2．5 気管支拡張剤
【一般名】テオフィリン
【メーカー】製)高田製薬
【薬価】50.1円/1g
【薬価収載日】2006/04/03
【ハイリスク分類】テオフィリン製剤
【標榜薬効】キサンチン系気管支拡張剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇気管支喘息
〇喘息性（様）気管支炎
注意
喘息性（様）気管支炎
発熱を伴うことが多く，他の治療薬による治療の優先を考慮。テオフィリン投与中に発現した痙攣の報告は，発熱した乳・幼児に多い。
【用法用量】小児 1回4～8mg／kg（本剤 20～40mg／kg） 1日2回 朝・就寝前 内服（水に用時懸濁又はそのまま）。
適宜増減。
注意
効能共通
1．臨床症状等の観察，血中濃度のモニタリングを行う。
気管支喘息
2．小児の投与量，投与法等は，学会のガイドライン等，最新の情報を参考に投与。
6～15歳 8～10mg／kg／日（1回4～5mg／kg 1日2回）より開始，臨床効果と血中濃度を確認し調節。

■禁忌

【禁忌】1．本剤・他のキサンチン系薬剤に重篤な副作用の既往。
2．12時間以内にアデノシン（アデノスキャン）を使用する患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．痙攣，意識障害（各頻度不明）（せん妄，昏睡等）。
2．急性脳症（頻度不明）。
3．横紋筋融解症（頻度不明）（脱力感，筋肉痛，CK上昇等），急性腎障害。
4．潰瘍等による消化管出血（頻度不明）（吐血，下血等）。
5．赤芽球癆（頻度不明），貧血。
6．アナフィラキシーショック（頻度不明）（蕁麻疹，蒼白，発汗，血圧低下，呼吸困難等）。
7．肝機能障害（AST，ALTの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
8．頻呼吸，高血糖症（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 掻痒感，固定薬疹，紅斑（多形滲出性紅斑等），発疹，蕁麻疹
精神神経系 頭痛，不眠 不安，眩暈，しびれ，耳鳴，不随意運動，筋緊張亢進，神経過敏（興奮，不機嫌，いらいら感），振戦
循環器 動悸，顔面潮紅，頻脈，顔面蒼白，不整脈（心室性期外収縮等）
消化器 悪心，嘔吐，食欲不振，腹痛 腹部膨満感，消化不良（胸やけ等），しゃっくり，下痢
泌尿器 蛋白尿，頻尿

2 個々の器官系用医薬品

代謝異常 血清尿酸値上昇 CK上昇
肝臓 AI－P，LDH，γ－GTPの上昇，AST，ALTの上昇
血液 貧血，好酸球増多
その他 鼻出血 むくみ，倦怠感，関節痛，四肢痛，胸痛，低カリウム血症，しびれ(口，舌周囲)，発汗
(表終了)

テオロング錠100mg（100mg1錠）

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】2251001F2050
【薬効分類】2．2．5 気管支拡張剤
【一般名】テオフィリン
【メーカー】製)エーザイ
【薬価】7.5円/1T
【ハイリスク分類】テオフィリン製剤
【標榜薬効】テオフィリン徐放製剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】○気管支喘息
○喘息性(様)気管支炎
○慢性気管支炎
○肺気腫
注意
喘息性(様)気管支炎
発熱を伴うことが多く，他の治療薬による治療の優先を考慮。テオフィリン投与中に発現した痙攣の報告は，発熱した乳・幼児に多い。
【用法用量】成人 1回200mg(本剤 2錠) 1日2回 朝・就寝前 内服。小児 1回100～200mg(本剤 1～2錠) 1日2回 朝・就寝前 内服。
適宜増減。
注意
効能共通
1．臨床症状等の観察，血中濃度のモニタリングを行う。
気管支喘息
2．小児の投与量，投与法等は，学会のガイドライン等，最新の情報を参考に投与。
6～15歳 8～10mg／kg／日(1回4～5mg／kg 1日2回)より開始，臨床効果と血中濃度を確認し調節。

■禁忌

【禁忌】1．本剤・他のキサンチン系薬剤に重篤な副作用の既往。
2．12時間以内にアデノシン(アデノスキャン)を使用する患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．痙攣，意識障害(各頻度不明)(せん妄，昏睡等)。
2．急性脳症(頻度不明)。
3．横紋筋融解症(頻度不明)(脱力感，筋肉痛，CK上昇等)，急性腎障害。
4．潰瘍等による消化管出血(頻度不明)(吐血，下血等)。
5．赤芽球癆(頻度不明)，貧血。
6．アナフィラキシーショック(頻度不明)(蕁麻疹，蒼白，発汗，血圧低下，呼吸困難等)。
7．肝機能障害(AST，ALTの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
8．頻呼吸，高血糖症(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感 蕁麻疹，紅斑(多形滲出性紅斑等)，固定薬疹
精神神経系 頭痛，不眠，眩暈，耳鳴，振戦，しびれ 神経過敏(興奮，不機嫌，いらいら感)，不安，不随意運動，筋緊張亢進
循環器 動悸，顔面蒼白 顔面潮紅，頻脈，不整脈(心室性期外収縮等)
消化器 悪心，嘔吐，食欲不振 下痢，腹痛，腹部膨満感，消化不良(胸やけ等) しゃっくり
泌尿器 蛋白尿，頻尿
代謝異常 血清尿酸値上昇，CK上昇
肝臓 AST，ALT，AI－P，LDH，γ－GTPの上昇
血液 貧血，好酸球増多
その他 倦怠感 むくみ，関節痛，四肢痛，発汗，胸痛，低カリウム血症，鼻出血，しびれ(口，舌周囲)
(表終了)

ホクナリンテープ0．5mg（0．5mg1枚）

両 外用 流通

【YJコード】2259707S1020
【薬効分類】2．2．5 気管支拡張剤
【一般名】ツロブテロール
【メーカー】製)ヴィアトリス製薬 販)アボットジャパン 販)ヴィアトリス・ヘルスケア 販)北陸製薬 販)マルホ
【薬価】19.3円/1枚
【薬価収載日】1998/11/27
【標榜薬効】経皮吸収型・気管支拡張剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の気道閉塞性障害による呼吸困難等諸症状の緩解
気管支喘息，急性気管支炎，慢性気管支炎，肺気腫
注意
気管支喘息
気管支喘息治療の長期管理は，吸入ステロイド剤等の抗炎症剤の使用で，吸入ステロイド剤等で改善がない時・重症度から吸入ステロイド剤等との併用治療が適切な時のみ，吸入ステロイド剤等を併用して使用。
【用法用量】下記1回量 1日1回 胸部，背部，上腕部のいずれかに貼付。
成人 2mg。
0．5～3歳未満 0．5mg。
3～9歳未満 1mg。
9歳以上 2mg。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．アナフィラキシー(頻度不明)(呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等)。
2．重篤な血清カリウム値の低下(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒症 蕁麻疹
循環器 心悸亢進 顔面紅潮，不整脈，頻脈
精神神経系 振戦，頭痛，不眠 全身倦怠感，眩暈，興奮，しびれ感，筋痙縮 熱感，こわばり感
消化器 悪心・嘔吐 食欲不振，下痢 胃部不快感
肝臓 AST上昇，ALT上昇
血液 好酸球数増加
皮膚 適用部位掻痒感，適用部位紅斑，接触性皮膚炎 適用部位疼痛，適用部位変色
その他 CK上昇 血清カリウム値の低下 胸痛，浮腫 口渇，筋肉痛
(表終了)

ホクナリンテープ1mg（1mg1枚）

両 外用 流通

【YJコード】2259707S2027
【薬効分類】2．2．5 気管支拡張剤
【一般名】ツロブテロール
【メーカー】製)ヴィアトリス製薬 販)アボットジャパン 販)ヴィアトリス・ヘルスケア 販)北陸製薬 販)マルホ
【薬価】26円/1枚
【薬価収載日】1998/11/27
【標榜薬効】経皮吸収型・気管支拡張剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の気道閉塞性障害による呼吸困難等諸症状の緩解
気管支喘息，急性気管支炎，慢性気管支炎，肺気腫
注意
気管支喘息
気管支喘息治療の長期管理は，吸入ステロイド剤等の抗炎症剤の使用で，吸入ステロイド剤等で改善がない時・重症度から吸入ステロイド剤等との併用治療が適切な時のみ，吸入ステロイド剤等を併用して使用。
【用法用量】下記1回量 1日1回 胸部，背部，上腕部のいずれかに貼付。
成人 2mg。
0．5～3歳未満 0．5mg。
3～9歳未満 1mg。
9歳以上 2mg。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．アナフィラキシー(頻度不明)(呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等)。
2．重篤な血清カリウム値の低下(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒症 蕁麻疹
循環器 心悸亢進 顔面紅潮，不整脈，頻脈
精神神経系 振戦，頭痛，不眠 全身倦怠感，眩暈，興奮，しびれ感，筋痙縮 熱感，こわばり感
消化器 悪心・嘔吐 食欲不振，下痢 胃部不快感
肝臓 AST上昇，ALT上昇
血液 好酸球数増加
皮膚 適用部位掻痒感，適用部位紅斑，接触性皮膚炎 適用部位疼

2 個々の器官系用医薬品

痛，適用部位変色
その他 CK上昇 血清カリウム値の低下 胸痛，浮腫 口渇，筋肉痛
（表終了）

メプチンエアー10μg吸入100回（0．0143%5mL1キット）

両 外用 流通

【YJコード】2259704G9033
【薬効分類】2．2．5 気管支拡張剤
【一般名】プロカテロール塩酸塩水和物
【メーカー】製)大塚製薬
【薬価】1060.9円/1kit
【薬価収載日】2010/11/19
【標榜薬効】定量噴霧式気管支拡張剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の気道閉塞性障害による諸症状の緩解
気管支喘息，慢性気管支炎，肺気腫
注意
喘息発作の対症療法剤として，発作発現時のみ使用。
【用法用量】成人 1回20μg(本剤 2吸入) 吸入。
小児 1回10μg(本剤 1吸入) 吸入。
適宜増減。
注意
成人1回2吸入，小児1回1吸入を守り，1日4回(成人8吸入，小児4吸入)まで。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー(頻度不明)。
2．重篤な血清カリウム値の低下(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
循環器 動悸，頻脈，心電図異常，血圧上昇，ほてり等 上室性期外収縮・上室性頻拍・心室性期外収縮等，顔面蒼白，血圧低下
精神神経系 振戦，頭痛・頭重感，手のしびれ感，眩暈 冷汗，眠気等 筋痙直，神経過敏
消化器 嘔気・嘔吐等
呼吸器 気管・咽喉頭部異常感 鼻閉，呼吸困難等
過敏症 発疹，掻痒感等
その他 脱力感，聴覚異常，血小板減少等 全身倦怠感，一過性(吸入後1～2時間)の血清カリウム値の低下
(表終了)

メプチン吸入液ユニット0．3mL（0．01% 0．3mL1個）

両 外用 流通

【YJコード】2259704G5020
【薬効分類】2．2．5 気管支拡張剤
【一般名】プロカテロール塩酸塩水和物
【メーカー】製)大塚製薬
【薬価】25円/1個
【薬価収載日】2002/07/05
【標榜薬効】気管支拡張剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の気道閉塞性障害による諸症状の緩解
気管支喘息，慢性気管支炎，肺気腫
【用法用量】成人 1回30～50μg(本剤 0．3～0．5mL) 深呼吸しながらネブライザーで吸入。
小児 1回10～30μg(本剤 0．1～0．3mL) 深呼吸しながらネブライザーで吸入。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー(頻度不明)。
2．重篤な血清カリウム値の低下(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
循環器 動悸，頻脈，心電図異常，血圧上昇，ほてり等 上室性期外収縮・上室性頻拍・心室性期外収縮等，顔面蒼白，血圧低下
精神神経系 振戦，頭痛・頭重感，手のしびれ感，眩暈 冷汗，眠気等 筋痙直，神経過敏
消化器 嘔気・嘔吐等
呼吸器 気管・咽喉頭部異常感 鼻閉，呼吸困難等
過敏症 発疹，掻痒感等
その他 脱力感，聴覚異常，血小板減少等 全身倦怠感，一過性(吸入後1～2時間)の血清カリウム値の低下
(表終了)

メプチンシロップ5μg／mL（0．0005%1mL）

両 内服 流通

【YJコード】2259004Q1111
【薬効分類】2．2．5 気管支拡張剤
【一般名】プロカテロール塩酸塩水和物
【メーカー】製)大塚製薬
【薬価】6.9円/1mL
【薬価収載日】2006/06/09
【標榜薬効】気管支拡張剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の気道閉塞性障害による呼吸困難等諸症状の緩解
気管支喘息，慢性気管支炎，肺気腫，急性気管支炎，喘息様気管支炎
注意
気管支喘息
気管支喘息治療の長期管理は，吸入ステロイド剤等の抗炎症剤の使用で，吸入ステロイド剤等で改善がない時・重症度から吸入ステロイド剤等との併用治療が適切な時のみ，吸入ステロイド剤等を併用して使用。
【用法用量】成人 1回50μg(本剤 10mL) 1日1回 就寝前，又は1日2回 朝・就寝前 内服。
6歳以上の小児 1回25μg(本剤 5mL) 1日1回 就寝前，又は1日2回 朝・就寝前 内服。
6歳未満の乳・幼児 1回1．25μg／kg(本剤 0．25mL／kg) 1日2回 朝・就寝前，又は1日3回 朝・昼・就寝前 内服。
適宜増減。
注意
6歳未満の乳・幼児の体重あたりの1回量は下記。
(表開始)
体重(kg) 1回量(mL) 体重(kg) 1回量(mL) 体重(kg) 1回量(mL)
4 1 10 2．5 16 4
6 1．5 12 3 18 4．5
8 2 14 3．5 20 5
(表終了)

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー(頻度不明)。
2．重篤な血清カリウム値の低下(頻度不明)。

メプチンドライシロップ0．005%（0．005%1g）

両 内服 流通

【YJコード】2259004R2024
【薬効分類】2．2．5 気管支拡張剤
【一般名】プロカテロール塩酸塩水和物
【メーカー】製)大塚製薬
【薬価】32.3円/1g
【薬価収載日】2004/07/09
【標榜薬効】気管支拡張剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の気道閉塞性障害による呼吸困難等諸症状の緩解
気管支喘息，慢性気管支炎，肺気腫，急性気管支炎，喘息様気管支炎
注意
気管支喘息
気管支喘息治療の長期管理は，吸入ステロイド剤等の抗炎症剤の使用で，吸入ステロイド剤等で改善がない時・重症度から吸入ステロイド剤等との併用治療が適切な時のみ，吸入ステロイド剤等を併用して使用。
【用法用量】成人 1回50μg(本剤 1g) 1日1回 就寝前，又は1日2回 朝・就寝前 内服(用時溶解)。
6歳以上の小児 1回25μg(本剤 0．5g) 1日1回 就寝前，又は1日2回 朝・就寝前 内服(用時溶解)。
6歳未満の乳・幼児 1回1．25μg／kg(本剤 0．025g／kg) 1日2回 朝・就寝前，又は1日3回 朝・昼・就寝前 内服(用時溶解)。
適宜増減。
注意
6歳未満の乳・幼児の体重あたりの1回量は下記。
(表開始)
体重(kg) 1回量(g) 体重(kg) 1回量(g) 体重(kg) 1回量(g)
4 0．1 10 0．25 16 0．4

2 個々の器官系用医薬品

6 0. 15 12 0. 3 18 0. 45
8 0. 2 14 0. 35 20 0. 5
（表終了）

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（頻度不明）。
2. 重篤な血清カリウム値の低下（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
循環器 動悸，頻脈 ほてり等 上室性期外収縮・上室性頻拍・心室性期外収縮・心房細動等
精神神経系 振戦，頭痛，眩暈 不眠，手足のしびれ感等 手指の痙縮，筋痙直，筋痙攣，神経過敏
消化器 嘔気，胃部不快感等 嘔吐，口渇
過敏症 発疹等 掻痒感
肝臓 AST，ALT，LDHの上昇等の肝機能障害
その他 脱力感，鼻閉，耳鳴 全身倦怠感，血清カリウム値の低下，血糖上昇
（表終了）

2．2．6 含嗽剤

アズノールうがい液4%（4%1mL）

両 外用 後発 流通

【YJコード】2260700F1021
【薬効分類】2．2．6 含嗽剤
【一般名】アズレンスルホン酸ナトリウム水和物
【メーカー】製)ロートニッテン 販)日本新薬
【薬価】24.3円/1mL
【薬価収載日】2002/07/05
【標榜薬効】アズレン含嗽液

■効能効果・用法用量
【効能効果】咽頭炎，扁桃炎，口内炎，急性歯肉炎，舌炎，口腔創傷
【用法用量】1回4～6mg（本剤 1回押し切り分，又は5～7滴） 1日数回 含嗽（適量（約100mL）の水又は微温湯に溶解）。
適宜増減。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
口腔 口中のあれ，口腔・咽頭の刺激感
（表終了）

ポビドンヨードガーグル液7%「明治」（7% 1mL）

両 外用 流通

【YJコード】2260701F1409
【薬効分類】2．2．6 含嗽剤
【一般名】ポビドンヨード
【メーカー】製)MeijiSeikaファルマ
【薬価】3.2円/1mL
【薬価収載日】2016/06/17
【標榜薬効】含嗽剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】咽頭炎，扁桃炎，口内炎，抜歯創含む口腔創傷の感染予防，口腔内消毒
【用法用量】用時15～30倍（本剤 2～4mLを約60mLの水）に希釈 1日数回 含嗽。

■禁忌
【禁忌】本剤・ヨウ素に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック（0. 1%未満），アナフィラキシー（0. 1%未満）（呼吸困難，不快感，浮腫，潮紅，蕁麻疹等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満
過敏症 ― 発疹
口腔 口腔，咽頭の刺激感 口腔粘膜糜爛，口中のあれ
消化器 悪心 ―
その他 ― 不快感
（表終了）

2．2．9 その他の呼吸器官用薬

テリルジー100エリプタ30吸入用（30吸入1キット）

両 外用 流通

【YJコード】2290804G2029
【薬効分類】2．2．9 その他の呼吸器官用薬
【一般名】フルチカゾンフランカルボン酸エステル・ウメクリジニウム臭化物・ビランテロールトリフェニル酢酸塩
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】8502.3円/1kit
【薬価収載日】2019/05/22
【標榜薬効】喘息・COPD治療配合剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】気管支喘息（吸入ステロイド剤，長時間作用性吸入抗コリン剤，長時間作用性吸入β2刺激剤の併用の必要時）
慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎，肺気腫）の諸症状の緩解（吸入ステロイド剤，長時間作用性吸入抗コリン剤，長時間作用性吸入β2刺激剤の併用の必要時）
注意
気管支喘息
1. 下記の注意を与える。
発作を速やかに軽減する薬剤ではない，急性症状に使用しない。
慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎・肺気腫）の諸症状の緩解
2. 増悪時の急性期治療に使用する薬剤ではない。
【用法用量】気管支喘息
成人 テリルジー100エリプタ1吸入（フルチカゾンフランカルボン酸エステル 100μg，ウメクリジニウム 62. 5μg，ビランテロール 25μg） 1日1回 吸入。
症状により テリルジー200エリプタ1吸入（フルチカゾンフランカルボン酸エステル 200μg，ウメクリジニウム 62. 5μg，ビランテロール 25μg） 1日1回 吸入。
慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎・肺気腫）の諸症状の緩解
成人 テリルジー100エリプタ1吸入（フルチカゾンフランカルボン酸エステル 100μg，ウメクリジニウム 62. 5μg，ビランテロール 25μg） 1日1回 吸入。

■禁忌
【禁忌】1. 有効な抗菌剤のない感染症，深在性真菌症。
2. 閉塞隅角緑内障。
3. 前立腺肥大等による排尿障害。
4. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. アナフィラキシー反応（0. 1%未満）（咽頭浮腫，気管支痙攣等）。
2. 肺炎（0. 9%）。
3. 心房細動（0. 1%）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹，血管性浮腫
感染症 口腔咽頭カンジダ症 ウイルス性気道感染，上気道感染，副鼻腔炎，インフルエンザ，鼻炎，咽頭炎，鼻咽頭炎，気管支炎，尿路感染
精神神経系 頭痛，味覚異常，振戦，不安
循環器 上室性頻脈性不整脈，頻脈，動悸
呼吸器 発声障害，咳嗽，口腔咽頭痛
消化器 口内乾燥，便秘
筋骨格系 関節痛，背部痛，骨折，筋痙縮
腎臓・泌尿器 尿閉，排尿困難
眼 霧視，眼痛 眼圧上昇
その他 高血糖
（表終了）

テリルジー200エリプタ30吸入用（30吸入1キット）

両 外用 流通

【YJコード】2290804G4021
【薬効分類】2．2．9 その他の呼吸器官用薬
【一般名】フルチカゾンフランカルボン酸エステル・ウメクリジニウム臭化物・ビランテロールトリフェニル酢酸塩
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】9673.8円/1kit
【薬価収載日】2021/02/18
【標榜薬効】喘息治療配合剤

2 個々の器官系用医薬品

■効能効果・用法用量
【効能効果】気管支喘息（吸入ステロイド剤，長時間作用性吸入抗コリン剤，長時間作用性吸入β2刺激剤の併用の必要時）
注意
気管支喘息
下記の注意を与える。
発作を速やかに軽減する薬剤ではない，急性症状に使用しない。
【用法用量】気管支喘息
成人　テリルジー100エリプタ1吸入（フルチカゾンフランカルボン酸エステル　100μg，ウメクリジニウム　62．5μg，ビランテロール　25μg）　1日1回　吸入。
症状により　テリルジー200エリプタ1吸入（フルチカゾンフランカルボン酸エステル　200μg，ウメクリジニウム　62．5μg，ビランテロール　25μg）　1日1回　吸入。

■禁忌
【禁忌】1．有効な抗菌剤のない感染症，深在性真菌症。
2．閉塞隅角緑内障。
3．前立腺肥大等による排尿障害。
4．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．アナフィラキシー反応（0．1%未満）（咽頭浮腫，気管支痙攣等）。
2．肺炎（0．9%）。
3．心房細動（0．1%）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
過敏症　発疹，蕁麻疹，血管性浮腫
感染症 口腔咽頭カンジダ症 ウイルス性気道感染，上気道感染，副鼻腔炎，インフルエンザ，鼻炎，咽頭炎，鼻咽頭炎，気管支炎，尿路感染
精神神経系　頭痛，味覚異常，振戦，不安
循環器　上室性頻脈性不整脈，頻脈，動悸
呼吸器　発声障害，咳嗽，口腔咽頭痛
消化器　口内乾燥，便秘
筋骨格系　関節痛，背部痛，骨折，筋痙縮
腎臓・泌尿器　尿閉，排尿困難
眼　霧視，眼痛 眼圧上昇
その他　高血糖
（表終了）

パルミコート吸入液0．5mg（0．5mg2mL1管）

両　外用　流通

【YJコード】2290701G5026
【薬効分類】2．2．9　その他の呼吸器官用薬
【一般名】ブデソニド
【メーカー】製)アストラゼネカ
【薬価】142.5円/1A
【薬価収載日】2006/09/15
【標榜薬効】吸入ステロイド喘息治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】気管支喘息
注意
投与開始前に，喘息症状の安定を確認。喘息発作重積状態・喘息の急激な悪化時に使用しない。
【用法用量】成人　1回0．5mg　1日2回　又は1回1mg　1日1回　ネブライザーで吸入。
適宜増減，1日最高2mg。
小児　1回0．25mg　1日2回　又は1回0．5mg　1日1回　ネブライザーで吸入。
適宜増減，1日最高1mg。
注意
1．症状の緩解あれば，必要最小限の用量を投与。
2．吸入時は，ジェット式ネブライザーを使用。

■禁忌
【禁忌】1．有効な抗菌剤のない感染症，深在性真菌症。
2．本剤の成分に過敏症（接触性皮膚炎含む）の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
過敏症　発疹，蕁麻疹，接触性皮膚炎，血管浮腫等の過敏症状
口腔・呼吸器 咽喉頭症状（刺激感，疼痛），口腔カンジダ症 咳嗽，嗄声，感染，鼻出血 味覚異常，気管支痙攣
消化器　悪心
精神神経系 落ち着きのなさ 行動障害，神経過敏，うつ病，不眠
その他　皮膚挫傷
（表終了）

ビレーズトリエアロスフィア56吸入（56吸入1キット）

両　外用　流通

【YJコード】2290805G1027
【薬効分類】2．2．9　その他の呼吸器官用薬
【一般名】ブデソニド・グリコピロニウム臭化物・ホルモテロールフマル酸塩水和物
【メーカー】製)アストラゼネカ
【薬価】4127.6円/1kit
【薬価収載日】2019/09/04
【標榜薬効】COPD治療配合剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎，肺気腫）の諸症状の緩解（吸入ステロイド剤，長時間作用性吸入抗コリン剤，長時間作用性吸入β2刺激剤の併用の必要時）
注意
1．慢性閉塞性肺疾患の長期管理に使用。増悪時の急性期治療に使用する薬剤ではない。
2．気管支喘息治療に使用しない。
【用法用量】成人　1回2吸入（ブデソニド　320μg，グリコピロニウム　14．4μg，ホルモテロールフマル酸塩　9．6μg）　1日2回　吸入。
注意
1日2回，定刻に吸入。

■禁忌
【禁忌】1．閉塞隅角緑内障。
2．前立腺肥大等による排尿障害。
3．有効な抗菌剤のない感染症，深在性真菌症。
4．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．心房細動（0．2%）。
2．重篤な血清カリウム値の低下（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
口腔・呼吸器 口腔カンジダ，発声障害 肺炎，咳嗽，咽喉刺激感 気管支痙攣
消化器 － 悪心，口内乾燥 －
精神神経系 － 不眠症，うつ病，神経過敏，頭痛，振戦，浮動性眩暈 不安，激越，落ち着きのなさ，異常行動
循環器 － 狭心症，頻脈 動悸，上室性頻脈，期外収縮
筋・骨格系 筋痙縮 胸痛 －
内分泌 － 高血糖 －
泌尿器 － － 尿閉，尿路感染
一般的全身障害 － － 過敏症，挫傷
（表終了）

ブデホル吸入粉末剤60吸入「JG」（60吸入1キット）

両　外用　後発　流通

【YJコード】2290801G2033
【薬効分類】2．2．9　その他の呼吸器官用薬
【一般名】ブデソニド・ホルモテロールフマル酸塩水和物
【先発品】シムビコートタービュヘイラー60吸入
【メーカー】製)日本ジェネリック
【薬価】1223円/1kit
【薬価収載日】2019/12/13
【標榜薬効】ドライパウダー吸入式喘息・COPD治療配合剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇気管支喘息（吸入ステロイド剤，長時間作動型吸入β2刺激剤の併用の必要時）
〇慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎・肺気腫）の諸症状の緩解（吸入ステロイド剤，長時間作動型吸入β2刺激剤の併用の必要時）
注意
気管支喘息
1．投与開始前に，喘息症状の安定を確認。喘息発作重積状態・喘息の急激な悪化時に使用しない。
慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎・肺気腫）の諸症状の緩解
2．増悪時の急性期治療に使用する薬剤ではない。
【用法用量】気管支喘息
成人　維持療法　1回1吸入（ブデソニド　160μg，ホルモテロールフマル酸塩水和物　4．5μg）　1日2回　吸入。適宜増減，1日最高1回4吸入　1日2回（合計8吸入 ブデソニド　1280μg，ホルモテロールフマル酸塩水和物　36μg）。
維持療法として1回1吸入又は2吸入を1日2回投与患者は，発作発現時に頓用吸入を追加できる。維持療法に加えて頓用吸入する時は，発作発現時に1吸入する。数分経過しても発作が持続する時は，さらに追

2 個々の器官系用医薬品

加で1吸入する。必要時これを繰り返すが，1回最大6吸入。
維持療法と頓用吸入の合計　1日最高8吸入　一時的に1日合計12吸入（ブデソニド　1920μg，ホルモテロールフマル酸塩水和物　54μg）まで増量可能。
（参考）
（表開始）
維持療法 維持療法に加えて頓用吸入（維持療法として1回1吸入又は2吸入を1日2回投与患者で可能）維持療法に加えて頓用吸入（維持療法として1回1吸入又は2吸入を1日2回投与患者で可能）維持療法に加えて頓用吸入（維持療法として1回1吸入又は2吸入を1日2回投与患者で可能）
用法・用量 発作発現時の頓用吸入としての用法・用量 1回の発作発現における吸入可能回数 1日最高量
1回1吸入1日2回，症状に応じ1回4吸入1日2回まで。1吸入行い，数分経過しても発作が持続時，さらに1吸入する。必要時これを繰り返す。6吸入まで。合計8吸入まで，一時的に合計12吸入まで（注）。
（表終了）
（注）維持療法・頓用吸入としての使用合計
慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎・肺気腫）の諸症状の緩解
成人　1回2吸入（ブデソニド　320μg，ホルモテロールフマル酸塩水和物　9μg）　1日2回　吸入。
注意
気管支喘息
1．症状の緩解あれば，必要最小限の用量を投与し，必要時吸入ステロイド剤への切りかえも考慮。
2．β刺激剤の薬理学的作用による症状（動悸，頻脈，不整脈，振戦，頭痛及び筋痙攣等）により治療上必要な用量まで増量できない時は，他の治療法を考慮。
維持療法
3．喘息を対象とした臨床試験の1日最高量（1回4吸入　1日2回（1280／36μg／日））の使用経験は少ないため，最高量（1回4吸入　1日2回）の投与は慎重に行う。
維持療法に加えて頓用吸入
4．頓用吸入は維持療法としての使用に追加して行う。頓用吸入のみに使用しない。
5．維持療法としての吸入に引き続き頓用吸入を行う時は，合計で最大6吸入まで。
6．維持療法として1回2吸入1日2回を超える用量を投与している時は，発作発現時に頓用吸入で使用しない（臨床経験なし）。
7．喘息を対象とした臨床試験（日本人含む）で，1日最高量である合計8吸入超の使用経験，発作発現時に1回6吸入した使用経験は少ないため，1日最高量の投与は慎重に行う。

■禁忌
【禁忌】1．有効な抗菌剤のない感染症，深在性真菌症。
2．本剤の成分に過敏症（接触性皮膚炎含む）の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．アナフィラキシー（頻度不明）（呼吸困難，気管支攣縮，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等）。
2．重篤な血清カリウム値の低下（0．1～1%未満）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症　発疹，蕁麻疹，接触性皮膚炎，血管浮腫等の過敏症状
口腔・呼吸器 嗄声 咽喉頭の刺激感，口腔カンジダ症，咳嗽，感染，肺炎　味覚異常，気管支痙攣
消化器　悪心
精神神経系　頭痛，振戦，神経過敏 情緒不安，眩暈，睡眠障害 激越，抑うつ，行動障害
循環器　動悸，不整脈（心房細動，上室性頻脈，期外収縮等），頻脈，血圧上昇　狭心症
筋・骨格系　筋痙攣
内分泌　高血糖
その他　皮膚挫傷
（表終了）

フルティフォーム125エアゾール120吸入用（120吸入1瓶）

両　外用　流通

【YJコード】2290802G4022
【薬効分類】2．2．9　その他の呼吸器官用薬
【一般名】フルチカゾンプロピオン酸エステル・ホルモテロールフマル酸塩水和物
【メーカー】製）杏林製薬
【薬価】4340.4円/1V
【薬価収載日】2014/11/28
【標榜薬効】喘息治療配合剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】気管支喘息（吸入ステロイド剤，長時間作動型吸入β2刺激剤の併用の必要時）
注意
1．患者，保護者・代諾者に下記の注意を与える。
発作を速やかに軽減する薬剤ではない，急性発作に使用しない。
2．投与開始前に，喘息症状の安定を確認。喘息発作重積状態・喘息の急激な悪化時に使用しない。
【用法用量】成人
フルティフォーム50エアゾール（フルチカゾンプロピオン酸エステル　50μg，ホルモテロールフマル酸塩水和物　5μg）　1回2吸入　1日2回投与。
症状により　フルティフォーム125エアゾール（フルチカゾンプロピオン酸エステル　125μg，ホルモテロールフマル酸塩水和物　5μg）　1回2～4吸入　1日2回　投与。
注意
症状の緩解あれば，必要最小限の用量を投与し，必要時吸入ステロイド剤への切りかえも考慮。

■禁忌
【禁忌】1．有効な抗菌剤のない感染症，深在性真菌症。
2．本剤の成分に過敏症の既往。
3．デスモプレシン酢酸塩水和物（男性の夜間多尿による夜間頻尿）の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，気管支攣縮，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等）。
2．重篤な血清カリウム値低下（頻度不明）。
3．肺炎（0．42%）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
口腔・呼吸器 嗄声 口腔・呼吸器感染症，口腔・咽喉頭症状（疼痛，不快感），喘息，口内炎 口腔内乾燥 咳嗽，味覚異常
消化器　悪心，嘔吐
循環器　不整脈，動悸 心電図異常，高血圧
肝臓　γ－GTP増加，ALT増加，血中ビリルビン増加
精神神経系　振戦，眩暈
過敏症　発疹・蕁麻疹
その他　CK増加 血中コルチゾール減少，白血球数増加，倦怠感，筋痙縮，胸部不快感
（表終了）

レルベア100エリプタ30吸入用（30吸入1キット）

両　外用　流通

【YJコード】2290803G3020
【薬効分類】2．2．9　その他の呼吸器官用薬
【一般名】ビランテロールトリフェニル酢酸塩・フルチカゾンフランカルボン酸エステル
【メーカー】製）グラクソ・スミスクライン
【薬価】4829.9円/1kit
【薬価収載日】2014/11/28
【標榜薬効】喘息・COPD治療配合剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇気管支喘息（吸入ステロイド剤，長時間作動型吸入β2刺激剤の併用の必要時）
〇慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎・肺気腫）の諸症状の緩解（吸入ステロイド剤，長時間作動型吸入β2刺激剤の併用の必要時）
注意
気管支喘息
1．患者，保護者・代諾者に下記の注意を与える。
発作を速やかに軽減する薬剤ではない，急性発作に使用しない。
2．慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎・肺気腫）の諸症状の緩解増悪時の急性期治療に使用する薬剤ではない。
【用法用量】気管支喘息
成人
本剤　1回1吸入（ビランテロール　25μg，フルチカゾンフランカルボン酸エステル　100μg）　1日1回　吸入。
症状により　レルベア200エリプタ　1回1吸入（ビランテロール　25μg，フルチカゾンフランカルボン酸エステル　200μg）　1日1回　吸入。
小児
12歳以上　本剤　1回1吸入（ビランテロール　25μg，フルチカゾンフランカルボン酸エステル　100μg）　1日1回　吸入。
慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎・肺気腫）の諸症状の緩解
成人　本剤　1回1吸入（ビランテロール　25μg，フルチカゾンフランカルボン酸エステル　100μg）　1日1回　吸入。

■禁忌
【禁忌】1．有効な抗菌剤のない感染症，深在性真菌症。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．アナフィラキシー反応（頻度不明）（咽頭浮腫，気管支痙攣等）。
2．肺炎（0．5%）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）

2 個々の器官系用医薬品

発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，血管性浮腫 蕁麻疹
感染症 口腔咽頭カンジダ症 インフルエンザ，気管支炎，上気道感染
食道カンジダ症
精神神経系 頭痛，振戦，不安
循環器 期外収縮，動悸，頻脈
呼吸器 発声障害 口腔咽頭痛，鼻咽頭炎，咽頭炎，副鼻腔炎，咳嗽，
鼻炎 気管支痙攣
消化器 腹痛
筋骨格系 関節痛，背部痛，筋痙縮，骨折
その他 高血糖 発熱
（表終了）

レルベア200エリプタ30吸入用（30吸入1キット）

両 外用 流通

【YJコード】2290803G4027
【薬効分類】2．2．9 その他の呼吸器官用薬
【一般名】ビランテロールトリフェニル酢酸塩・フルチカゾンフランカルボン酸エステル
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】5220.8円/1kit
【薬価収載日】2014/11/28
【標榜薬効】喘息治療配合剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】気管支喘息（吸入ステロイド剤，長時間作動型吸入β2刺激剤の併用の必要時）
注意
気管支喘息
患者，保護者・代諾者に下記の注意を与える。
発作を速やかに軽減する薬剤ではない，急性発作に使用しない。
【用法用量】気管支喘息
成人
レルベア100エリプタ 1回1吸入（ビランテロール 25μg，フルチカゾンフランカルボン酸エステル 100μg） 1日1回 吸入。
症状により 本剤 1回1吸入（ビランテロール 25μg，フルチカゾンフランカルボン酸エステル 200μg） 1日1回 吸入。

■禁忌

【禁忌】1．有効な抗菌剤のない感染症，深在性真菌症。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．アナフィラキシー反応（頻度不明）（咽頭浮腫，気管支痙攣等）。
2．肺炎（0．5%）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，血管性浮腫 蕁麻疹
感染症 口腔咽頭カンジダ症 インフルエンザ，気管支炎，上気道感染
食道カンジダ症
精神神経系 頭痛，振戦，不安
循環器 期外収縮，動悸，頻脈
呼吸器 発声障害 口腔咽頭痛，鼻咽頭炎，咽頭炎，副鼻腔炎，咳嗽，
鼻炎 気管支痙攣
消化器 腹痛
筋骨格系 関節痛，背部痛，筋痙縮，骨折
その他 高血糖 発熱
（表終了）

2．3 消化器官用薬

2．3．1 止しゃ剤，整腸剤

ガスコンドロップ内用液2%（2%1mL）

両 内服 流通

【YJコード】2318001Q1080
【薬効分類】2．3．1 止しゃ剤，整腸剤
【一般名】ジメチコン
【メーカー】製)キッセイ薬品工業
【薬価】3.4円/1mL
【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】胃内有泡性粘液除去剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．胃腸管内のガスによる腹部症状の改善
2．胃内視鏡検査時の胃内有泡性粘液の除去
3．腹部X線検査時の腸内ガスの駆除
【用法用量】1．胃腸管内のガスによる腹部症状の改善
成人 1日120～240mg 1日3回 分割 食後又は食間 内服。
適宜増減。
2．胃内視鏡検査時の胃内有泡性粘液の除去
検査15～40分前 成人 40～80mg 約10mLの水とともに 内服。
適宜増減。
3．腹部X線検査時の腸内ガスの駆除
検査3～4日前より 成人 1日120～240mg 1日3回 分割 食後又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
消化器 軟便，胃部不快感，下痢，腹痛 嘔吐，嘔気，食欲不振，胃部重圧感
その他 頭痛
（表終了）

ガスサール錠40mg（40mg1錠）

両 内服 流通

【YJコード】2318001F1187
【薬効分類】2．3．1 止しゃ剤，整腸剤
【一般名】ジメチコン
【メーカー】製)東和薬品 販)日医工 販)和薬
【薬価】5.9円/1T
【薬価収載日】2006/06/09
【標榜薬効】消化管内ガス駆除剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇胃内視鏡検査時の胃内有泡性粘液の除去
〇胃腸管内のガスによる腹部症状の改善
〇腹部X線検査時の腸内ガスの駆除
【用法用量】胃腸管内のガスによる腹部症状の改善
成人 1日120～240mg 1日3回 分割 食後又は食間 内服。
適宜増減。
胃内視鏡検査時の胃内有泡性粘液の除去
検査15～40分前 成人 40～80mg 約10mLの水とともに 内服。
適宜増減。
腹部X線検査時の腸内ガスの駆除
検査3～4日前より 成人 1日120～240mg 1日3回 分割 食後又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
消化器 軟便，胃部不快感，下痢，腹痛 嘔吐，嘔気，食欲不振，胃部重圧感
その他 頭痛
（表終了）

タンニン酸アルブミン「ニッコー」（1g）

両 内服 流通

【YJコード】2312001X1219
【薬効分類】2．3．1 止しゃ剤，整腸剤
【一般名】タンニン酸アルブミン
【メーカー】製)日興製薬 販)中北薬品 販)日興製薬販売 販)丸石製薬 販)吉田製薬
【薬価】9.6円/1g
【標榜薬効】止瀉剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下痢症
【用法用量】成人 1日3～4g 1日3～4回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．出血性大腸炎。
2．牛乳アレルギー。
3．本剤に過敏症の既往。
4．経口鉄剤の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー（各頻度不明），過敏症状（呼吸困難，蕁麻疹，顔面浮腫等），気管支喘息発作等。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明

2 個々の器官系用医薬品

長期・大量投与 肝障害
消化器 便秘，食欲不振
（表終了）

ビオフェルミンR散（1g）

両 内服 後発 流通

【YJコード】2316004B1036
【薬効分類】2．3．1 止しゃ剤，整腸剤
【一般名】耐性乳酸菌製剤
【メーカー】製)ビオフェルミン製薬 販)大正製薬 販)武田薬品工業
【薬価】6.5円/1g
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】耐性乳酸菌整腸剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記抗生剤，化学療法剤投与時の腸内菌叢の異常による諸症状の改善
ペニシリン系，セファロスポリン系，アミノグリコシド系，マクロライド系，テトラサイクリン系，ナリジクス酸
【用法用量】成人 1日3g 1日3回 分割 内服。
適宜増減。

ビオフェルミン錠剤（1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】2316020F1029
【薬効分類】2．3．1 止しゃ剤，整腸剤
【一般名】ビフィズス菌製剤
【メーカー】製)ビオフェルミン製薬 販)大正製薬 販)武田薬品工業
【薬価】5.9円/1T
【薬価収載日】2003/07/04
【標榜薬効】ビフィズス菌整腸剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】腸内菌叢の異常による諸症状の改善
【用法用量】成人 1日3～6錠 1日3回 分割 内服。適宜増減。

フェロベリン配合錠（1錠）

両 内服 流通

【YJコード】2319100F1064
【薬効分類】2．3．1 止しゃ剤，整腸剤
【一般名】ベルベリン塩化物水和物・ゲンノショウコエキス
【メーカー】製)日本ジェネリック 販)MSD 販)シェリング・プラウ
【薬価】8.9円/1T
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】止瀉剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下痢症
【用法用量】成人 1回2錠 1日3回 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】出血性大腸炎。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
消化器 便秘
皮膚 発疹
（表終了）

ミヤBM細粒（1g）

両 内服 流通

【YJコード】2316009C1026
【薬効分類】2．3．1 止しゃ剤，整腸剤
【一般名】酪酸菌製剤
【メーカー】製)ミヤリサン製薬
【薬価】6.5円/1g
【標榜薬効】生菌製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】腸内菌叢の異常による諸症状の改善
【用法用量】成人 1日1．5～3g 1日3回 分割 内服。
適宜増減。

薬用炭「日医工」（1g）

両 内服 流通

【YJコード】2319003X1049
【薬効分類】2．3．1 止しゃ剤，整腸剤
【一般名】薬用炭
【メーカー】製)日医工
【薬価】8.5円/1g
【薬価収載日】2012/06/01
【標榜薬効】止瀉・整腸剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下痢症，消化管内の異常発酵による生成ガスの吸着，自家中毒・薬物中毒の吸着，解毒
【用法用量】成人 1日2～20g 1日数回 分割 内服。適宜増減。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
消化器 消化不良
長期連用 ビタミン類・鉱物質等の吸着による栄養障害
（表終了）

ラックビー微粒N（1%1g）

両 内服 流通

【YJコード】2316014B1030
【薬効分類】2．3．1 止しゃ剤，整腸剤
【一般名】ビフィズス菌製剤
【メーカー】製)興和 販)日研化学
【薬価】6.5円/1g
【薬価収載日】2005/12/16
【標榜薬効】整腸剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】腸内菌叢の異常による諸症状の改善
【用法用量】成人 1日3～6g 1日3回 分割 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹
消化器 腹部膨満感
（表終了）

ロペミンカプセル1mg（1mg1カプセル）

両 内服 流通

【YJコード】2319001M1213
【薬効分類】2．3．1 止しゃ剤，整腸剤
【一般名】ロペラミド塩酸塩
【メーカー】製)ヤンセンファーマ
【薬価】9.8円/1C
【薬価収載日】2006/06/09
【標榜薬効】止瀉剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下痢症
【用法用量】成人 1日1～2mg 1日1～2回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．出血性大腸炎。
2．抗生剤の投与に伴う偽膜性大腸炎。
3．低出生体重児，新生児，6ヵ月未満の乳児。
4．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．イレウス（0．1%未満），巨大結腸（頻度不明），消化器症状。
2．ショック（頻度不明），アナフィラキシー（0．1%未満）。
3．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 血管浮腫
中枢神経系 頭痛，傾眠傾向，鎮静，筋緊張低下，意識レベルの低下，筋緊張亢進，意識消失，昏迷，協調運動異常
肝臓 AST，ALT，γ－GTPの上昇

2 個々の器官系用医薬品

消化器 腹部膨満 腹部不快感，悪心，腹痛，嘔吐，食欲不振 消化不良，口内不快感，味覚の変調，便秘，鼓腸
皮膚 発疹 蕁麻疹，掻痒感 多形紅斑，水疱性皮膚炎
泌尿器　尿閉
その他　口渇，眠気，眩暈，発汗，倦怠感 疲労，体温低下，発熱，散瞳，縮瞳
（表終了）

ロペミン小児用細粒0．05%（0．05%1g）

両　内服　流通

【YJコード】2319001C1080
【薬効分類】2．3．1　止しゃ剤，整腸剤
【一般名】ロペラミド塩酸塩
【メーカー】製)ヤンセンファーマ
【薬価】14.3円/1g
【薬価収載日】2006/06/09
【標榜薬効】止瀉剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】急性下痢症
【用法用量】小児　1日0．02～0．04mg／kg（本剤　0．04～0．08g／kg）　1日2～3回　分割　内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．出血性大腸炎。
2．抗生剤の投与に伴う偽膜性大腸炎。
3．低出生体重児，新生児，6ヵ月未満の乳児。
4．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．イレウス（0．1%未満），巨大結腸（頻度不明），消化器症状。
2．ショック（頻度不明），アナフィラキシー（0．1%未満）。
3．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症　血管浮腫
中枢神経系　傾眠傾向，鎮静，筋緊張低下 頭痛，意識レベルの低下，筋緊張亢進，意識消失，昏迷，協調運動異常
肝臓 AST，ALTの上昇　γ－GTPの上昇
消化器 腹部膨満 嘔吐，食欲不振，腹痛，口内不快感，味覚の変調 腹部不快感，悪心，消化不良，便秘，鼓腸
皮膚 発疹 蕁麻疹，多形紅斑 掻痒感，水疱性皮膚炎
泌尿器　尿閉
その他　眩暈，体温低下，発熱，発汗，倦怠感，散瞳 口渇，眠気，疲労，縮瞳
（表終了）

2．3．2　消化性潰瘍用剤

アルロイドG内用液5%（10mL）

両　内服　流通

【YJコード】2329116S1094
【薬効分類】2．3．2　消化性潰瘍用剤
【一般名】アルギン酸ナトリウム
【メーカー】製)カイゲンファーマ
【薬価】10.4円/10mL
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】消化性潰瘍用剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．下記の止血・自覚症状の改善
胃・十二指腸潰瘍，糜爛性胃炎
2．逆流性食道炎の自覚症状の改善
3．胃生検の出血時の止血
【用法用量】（表開始）
効能・効果 用法・用量
胃・十二指腸潰瘍・糜爛性胃炎の止血及び自覚症状の改善，逆流性食道炎の自覚症状の改善 1回1～3g　1日3～4回　空腹時　内服。内服不可能な時　ゾンデで経鼻的に投与。適宜増減。
胃生検の出血時の止血 1回0．5～1．5g　経内視鏡的に投与，又は1回1．5g　内服。適宜増減。
（表終了）

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満
消化器 下痢，便秘
（表終了）

エソメプラゾールカプセル20mg「ニプロ」（20mg1カプセル）

両　内服　後発　流通

【YJコード】2329029M2104
【薬効分類】2．3．2　消化性潰瘍用剤
【一般名】エソメプラゾールマグネシウム水和物
【先発品】ネキシウムカプセル20mg
【メーカー】製)ニプロ
【薬価】37.8円/1C
【薬価収載日】2022/12/09
【標榜薬効】プロトンポンプ・インヒビター
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】○胃潰瘍，十二指腸潰瘍，吻合部潰瘍，逆流性食道炎，Zollinger－Ellison症候群，非ステロイド性抗炎症薬投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制，低用量アスピリン投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制
○下記のヘリコバクター・ピロリの除菌の補助
胃潰瘍，十二指腸潰瘍，胃MALTリンパ腫，特発性血小板減少性紫斑病，早期胃癌の内視鏡的治療後胃，ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎
注意
非ステロイド性抗炎症薬投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制
1．関節リウマチ，変形性関節症等の疼痛管理等で非ステロイド性抗炎症薬を長期継続投与している患者が対象，投与開始時に，胃潰瘍，十二指腸潰瘍の既往を確認。
低用量アスピリン投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制
2．血栓・塞栓の形成抑制に低用量アスピリンを継続投与している患者が対象，投与開始時に，胃潰瘍，十二指腸潰瘍の既往を確認。
ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助
3．進行期胃MALTリンパ腫へのヘリコバクター・ピロリ除菌治療の有効性は未確立。
4．特発性血小板減少性紫斑病では，ガイドライン等を参照し，ヘリコバクター・ピロリ除菌治療が適切な症例にのみ行う。
5．早期胃癌の内視鏡的治療後胃以外には，ヘリコバクター・ピロリ除菌治療による胃癌の発症抑制への有効性は未確立。
6．ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎は，ヘリコバクター・ピロリの陽性と内視鏡検査で確認。
【用法用量】胃潰瘍，十二指腸潰瘍，吻合部潰瘍，Zollinger－Ellison症候群
成人　1回20mg　1日1回　内服。胃潰瘍，吻合部潰瘍　8週間まで，十二指腸潰瘍　6週間まで。
体重20kg以上の幼・小児　1回10～20mg　1日1回　内服。胃潰瘍，吻合部潰瘍　8週間まで，十二指腸潰瘍　6週間まで。
逆流性食道炎
成人　1回20mg　1日1回　内服。8週間まで。
再発・再燃を繰り返す逆流性食道炎の維持療法 1回10～20mg　1日1回　内服。
体重20kg以上の幼・小児　1回10～20mg　1日1回　内服。8週間まで。
非ステロイド性抗炎症薬投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制
成人　1回20mg　1日1回　内服。
低用量アスピリン投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制
成人　1回20mg　1日1回　内服。
ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助
成人　1回エソメプラゾール20mg，1回アモキシシリン水和物750mg，1回クラリスロマイシン200mg　3剤を同時に　1日2回　7日間　内服。クラリスロマイシンは適宜増量，1回400mg　1日2回まで。
プロトンポンプインヒビター，アモキシシリン水和物，クラリスロマイシンの3剤投与によるヘリコバクター・ピロリの除菌治療が不成功時 成人　1回エソメプラゾール20mg，1回アモキシシリン水和物750mg，1回メトロニダゾール250mg　3剤を同時に　1日2回　7日間　内服。
注意
逆流性食道炎
1日10mgの維持療法で再発があれば1日20mgで再治療を実施。1日20mgの維持療法で再発，あるいは予期せぬ体重減少，吐血，嚥下障害等があれば，内視鏡検査等を実施，結果により他の治療法に切りかえを考慮。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．アタザナビル硫酸塩・リルピビリン塩酸塩の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（血管浮腫，気管支痙攣等）。
2．汎血球減少症，無顆粒球症，溶血性貧血（各頻度不明），血小板減少（1%未満）。
3．劇症肝炎，肝機能障害，黄疸，肝不全（各頻度不明）。
4．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）。
5．間質性肺炎（頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常（捻髪音）等）。

2 個々の器官系用医薬品

6. 間質性腎炎，急性腎障害(各頻度不明)。
7. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等)。
8. 低ナトリウム血症(頻度不明)。
9. 錯乱状態(頻度不明)(錯乱，激越，攻撃性，幻覚等)。
10. 視力障害(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)(胃潰瘍，十二指腸潰瘍，吻合部潰瘍，逆流性食道炎，非糜爛性胃食道逆流症，Zollinger－Ellison症候群，非ステロイド性抗炎症薬投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制，低用量アスピリン投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，皮膚炎，掻痒症，蕁麻疹 光線過敏，多形紅斑
消化器 腹痛，下痢，嘔吐，便秘，口内炎，カンジダ症，口渇 鼓腸，悪心，顕微鏡的大腸炎
肝臓 肝酵素上昇
血液 白血球数減少
精神神経系 頭痛，錯感覚，傾眠，浮動性眩暈 不眠症，うつ病
その他 CK上昇，回転性眩暈，女性化乳房，味覚障害 脱毛症，関節痛，筋痛，霧視，倦怠感，多汗症，筋力低下，低マグネシウム血症(低カルシウム血症，低カリウム血症)，末梢性浮腫
(表終了)
その他の副作用(発現時中止等)(ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満(注)
過敏症 発疹
消化器 下痢・軟便(33．4%)，味覚異常(10．5%) 口内炎，腹痛，食道炎，悪心，腹部膨満感，便秘 舌炎，口渇，十二指腸炎
肝臓 AST上昇 肝機能異常，ALT上昇，Al－P上昇，ビリルビン上昇，LDH上昇
血液 好酸球数増多，血小板数減少，貧血，白血球数増多，白血球分画異常
精神神経系 頭痛，しびれ感，眩暈，睡眠障害
その他 尿糖陽性 尿蛋白陽性，尿酸上昇，総コレステロール上昇，QT延長，発熱，倦怠感，カンジダ症，動悸，霧視
(表終了)
(注)頻度不明含む。

オメプラゾール注射用20mg「日医工」(20mg1瓶)

内 注射 流通

【YJコード】2329403D1068
【薬効分類】2．3．2 消化性潰瘍用剤
【一般名】オメプラゾールナトリウム
【メーカー】製)日医工
【薬価】339円/1V
【薬価収載日】2010/11/19
【標榜薬効】プロトンポンプ・インヒビター

■効能効果・用法用量

【効能効果】○内服不可能な下記
出血を伴う胃潰瘍，十二指腸潰瘍，急性ストレス潰瘍・急性胃粘膜病変
○内服不可能なZollinger－Ellison症候群
【用法用量】成人 1回20mg 1日2回 点滴静注(生食又は5%ブドウ糖液に混合)，又は1日2回 緩徐に静注(生食又は5%ブドウ糖液20mLに溶解)。
注意
1. 内服不可能な，出血を伴う胃潰瘍，十二指腸潰瘍，急性ストレス潰瘍及び急性胃粘膜病変 3日間までの成績で高い止血効果あり，内服可能になれば内服に切りかえる。
2. 国内臨床試験で，7日間を超える使用経験なし。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. アタザナビル硫酸塩・リルピビリン塩酸塩の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(血管浮腫，気管支痙攣等)。
2. 汎血球減少症，無顆粒球症，溶血性貧血，血小板減少(各頻度不明)。
3. 劇症肝炎，肝機能障害，黄疸，肝不全(各頻度不明)。
4. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群(各頻度不明)。
5. 視力障害(頻度不明)。
6. 間質性腎炎，急性腎障害(各頻度不明)。
7. 低ナトリウム血症(頻度不明)。
8. 間質性肺炎(頻度不明)(咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常(捻髪音)等)。
9. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等)。
10. 錯乱状態(頻度不明)(せん妄，異常行動，失見当識，幻覚，不安，焦燥，攻撃性等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%未満 頻度不明
過敏症 発疹 蕁麻疹，掻痒感，多形紅斑，光線過敏症
消化器 下痢・軟便，悪心，腹部膨満感，便秘，嘔吐，鼓腸放屁，カンジダ症，口渇，腹痛，口内炎，舌炎，顕微鏡的大腸炎
肝臓 AST，ALT，Al－P，γ－GTP，LDHの上昇
血液 白血球数減少，血小板数減少，貧血
精神神経系 頭痛 眩暈，不眠(症)，眠気，しびれ感，振戦，傾眠，異常感覚，うつ状態
その他 血管痛 発熱，味覚異常，霧視，浮腫，女性化乳房，脱毛，倦怠感，関節痛，頻尿，動悸，月経異常，筋肉痛，発汗，筋力低下，BUN，クレアチニン，尿酸，トリグリセライド，血清カリウム，総コレステロールの上昇，低マグネシウム血症
(表終了)

タケキャブ錠10mg(10mg1錠)

両 内服 流通

【YJコード】2329030F1020
【薬効分類】2．3．2 消化性潰瘍用剤
【一般名】ボノプラザンフマル酸塩
【メーカー】製)武田薬品工業
【薬価】94.3円/1T
【薬価収載日】2015/02/24
【標榜薬効】プロトンポンプ・インヒビター

■効能効果・用法用量

【効能効果】○胃潰瘍，十二指腸潰瘍，逆流性食道炎，低用量アスピリン投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制，非ステロイド性抗炎症薬投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制
○下記のヘリコバクター・ピロリの除菌の補助
胃潰瘍，十二指腸潰瘍，胃MALTリンパ腫，特発性血小板減少性紫斑病，早期胃癌の内視鏡的治療後胃，ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎
注意
低用量アスピリン投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制
1. 血栓・塞栓の形成抑制に低用量アスピリンを継続投与している患者が対象，投与開始時に，胃潰瘍，十二指腸潰瘍の既往を確認。
非ステロイド性抗炎症薬投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制
2. 関節リウマチ，変形性関節症等の疼痛管理等で非ステロイド性抗炎症薬を長期継続投与している患者が対象，投与開始時に，胃潰瘍，十二指腸潰瘍の既往を確認。
ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助
3. 進行期胃MALTリンパ腫へのヘリコバクター・ピロリ除菌治療の有効性は未確立。
4. 特発性血小板減少性紫斑病では，ガイドライン等を参照し，ヘリコバクター・ピロリ除菌治療が適切な症例にのみ行う。
5. 早期胃癌の内視鏡的治療後胃以外には，ヘリコバクター・ピロリ除菌治療による胃癌の発症抑制への有効性は未確立。
6. ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎は，ヘリコバクター・ピロリの陽性と内視鏡検査で確認。
【用法用量】胃潰瘍，十二指腸潰瘍
成人 1回20mg 1日1回 内服。胃潰瘍 8週間まで，十二指腸潰瘍 6週間まで。
逆流性食道炎
成人 1回20mg 1日1回 内服。4週間まで，効果不十分時 8週間まで。
再発・再燃を繰り返す逆流性食道炎の維持療法 1回10mg 1日1回 内服。効果不十分時 1回20mg 1日1回 内服。
低用量アスピリン投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制
成人 1回10mg 1日1回 内服。
非ステロイド性抗炎症薬投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制
成人 1回10mg 1日1回 内服。
ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助
成人 1回ボノプラザン20mg，1回アモキシシリン水和物750mg，1回クラリスロマイシン200mg 3剤を同時に 1日2回 7日間 内服。クラリスロマイシンは適宜増量，1回400mg 1日2回まで。
プロトンポンプインヒビター，アモキシシリン水和物，クラリスロマイシンの3剤投与によるヘリコバクター・ピロリの除菌治療が不成功時 成人 1回ボノプラザン20mg，1回アモキシシリン水和物750mg，1回メトロニダゾール250mg 3剤を同時に 1日2回 7日間 内服。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. アタザナビル硫酸塩・リルピビリン塩酸塩の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
効能共通
1. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)。
2. 汎血球減少，無顆粒球症，白血球減少，血小板減少(各頻度不明)。
3. 肝機能障害(頻度不明)。
4. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑(各頻度不明)。
ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助
5. 偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎(頻度不明)(腹痛，頻回の下痢)(アモキシシリン水和物，クラリスロマイシン)。
その他の副作用(発現時中止等)(胃潰瘍，十二指腸潰瘍，逆流性食道

2 個々の器官系用医薬品

炎，低用量アスピリン投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制，非ステロイド性抗炎症薬投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満
消化器 便秘，下痢，腹部膨満感，悪心
過敏症 発疹
肝臓 AST，ALT，AI－P，LDH，γ－GTPの上昇
その他 浮腫，好酸球増多
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満
消化器 下痢（10．6%） 味覚異常，口内炎，腹部不快感，腹部膨満感
過敏症 発疹
肝臓 AST，ALTの上昇
（表終了）

ドグマチール錠50mg（50mg1錠）

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】2329009F1110
【薬効分類】2．3．2 消化性潰瘍用剤
【一般名】スルピリド
【メーカー】製)日医工 販)アステラス製薬 販)藤沢薬品工業
【薬価】10.4円/1T
【ハイリスク分類】精神神経用剤
【標榜薬効】精神安定・抗潰瘍剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】胃・十二指腸潰瘍，統合失調症，うつ病・うつ状態
【用法用量】胃・十二指腸潰瘍
成人 1日150mg 1日3回 分割 内服。
適宜増減。
統合失調症
成人 1日300～600mg 分割 内服。適宜増減，1日1200mgまで。
うつ病・うつ状態
成人 1日150～300mg 分割 内服。適宜増減，1日600mgまで。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．プロラクチン分泌性の下垂体腫瘍（プロラクチノーマ）。
3．褐色細胞腫・パラガングリオーマの疑い。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．悪性症候群（0．1%未満）（無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下），高熱の持続，意識障害，呼吸困難，循環虚脱，脱水症状，急性腎障害，死亡。
2．痙攣（0．1%未満）。
3．QT延長，心室頻拍（Torsades de pointes含む）（各0．1%未満）。
4．無顆粒球症，白血球減少（各0．1%未満）。
5．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTP，AI－Pの上昇），黄疸（各0．1%未満）。
6．遅発性ジスキネジア（0．1%未満）（口周部等の不随意運動）。
7．肺塞栓症，深部静脈血栓症（各0．1%未満）等の血栓塞栓症（息切れ，胸痛，四肢の疼痛，浮腫等）。
その他の副作用（発現時中止等）（胃・十二指腸潰瘍）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
内分泌 月経異常，乳汁分泌，女性化乳房 乳房腫脹，勃起不全
錐体外路症状 パーキンソン症候群（振戦，筋強剛，流涎等），舌のもつれ，焦燥感
精神神経系 不眠，眠気，眩暈，ふらつき
消化器 口渇，胸やけ，悪心，嘔吐，便秘
その他 熱感，倦怠感 発疹，浮腫，性欲減退
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（統合失調症，うつ病・うつ状態）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
心・血管系 血圧下降 心電図異常，血圧上昇，胸内苦悶，頻脈
錐体外路症状 パーキンソン症候群（振戦，筋強剛，流涎等），ジスキネジア（舌のもつれ，言語障害，頸筋捻転，眼球回転，注視痙攣，嚥下困難等），アカシジア（静坐不能）
内分泌 乳汁分泌，女性化乳房，月経異常，射精不能 乳房腫脹，勃起不全
精神神経系 睡眠障害，不穏，焦燥感，眠気，頭痛，頭重，眩暈，浮遊感，興奮，躁転，躁状態，しびれ，運動失調 物忘れ，ぼんやり，徘徊，多動，抑制欠如，無欲状態
消化器 悪心，嘔吐，口渇，便秘，食欲不振，腹部不快感 下痢，胸やけ，腹痛，食欲亢進
肝臓 AST，ALT，AI－P等の上昇
皮膚 発疹 掻痒感
眼 視力障害，眼球冷感・重感，眼のちらつき
その他 体重増加，浮腫，脱力感，倦怠感，排尿困難，性欲減退 頻尿，腰痛，肩こり，熱感，発熱，発汗，鼻閉
（表終了）

ファモチジンOD錠20mg「トーワ」（20mg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】2325003F4252
【薬効分類】2．3．2 消化性潰瘍用剤
【一般名】ファモチジン
【先発品】ガスターD錠20mg
【メーカー】製)東和薬品
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2013/06/21
【標榜薬効】H2受容体拮抗剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇胃潰瘍，十二指腸潰瘍，吻合部潰瘍，上部消化管出血（消化性潰瘍，急性ストレス潰瘍，出血性胃炎による），逆流性食道炎，Zollinger－Ellison症候群
〇下記の胃粘膜病変（糜爛，出血，発赤，浮腫）の改善
急性胃炎，慢性胃炎の急性増悪期
【用法用量】胃潰瘍，十二指腸潰瘍，吻合部潰瘍，上部消化管出血（消化性潰瘍，急性ストレス潰瘍，出血性胃炎による），逆流性食道炎，Zollinger－Ellison症候群
成人 1回20mg 1日2回 朝食後，夕食後又は就寝前 内服，又は1回40mg 1日1回 就寝前 内服。
適宜増減。上部消化管出血 注射剤で治療を開始し，内服可能になれば内服に切りかえる。
下記の胃粘膜病変（糜爛，出血，発赤，浮腫）の改善
急性胃炎，慢性胃炎の急性増悪期
成人 1回10mg 1日2回 朝食後，夕食後又は就寝前 内服，又は1回20mg 1日1回 就寝前 内服。
適宜増減。
注意
腎機能低下
血中未変化体濃度が上昇し，尿中排泄が減少するので，下記投与法を目安。
1回20mg1日2回投与を基準
（表開始）
クレアチニンクリアランス（mL／分）投与法
Ccr≧60 1回20mg 1日2回
60＞Ccr＞30 1回20mg 1日1回 1回10mg 1日2回
30≧Ccr 1回20mg 2～3日に1回 1回10mg 1日1回
透析患者 1回20mg 透析後1回 1回10mg 1日1回
（表終了）

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各0．1%未満）（呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫（顔面浮腫，咽頭浮腫等），蕁麻疹等）。
2．再生不良性貧血，汎血球減少，無顆粒球症，溶血性貧血（各頻度不明），血小板減少（0．1%未満）（全身倦怠感，脱力，皮下・粘膜下出血，発熱等）。
3．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）。
4．肝機能障害（AST・ALT等の上昇），黄疸（各頻度不明）。
5．横紋筋融解症（頻度不明）（高カリウム血症，ミオグロビン尿，血清逸脱酵素の著明な上昇，筋肉痛等）。
6．QT延長（頻度不明）。
7．意識障害，全身痙攣（各頻度不明）（痙直性，間代性，ミオクローヌス性）。
8．間質性腎炎，急性腎障害（各頻度不明）（発熱，皮疹，腎機能検査値異常（BUN・クレアチニン上昇等）等）。
9．間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等）。
10．不全収縮。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹・皮疹，蕁麻疹（紅斑），顔面浮腫
血液 白血球減少 好酸球増多
消化器 便秘 下痢・軟便，口渇，悪心・嘔吐，腹部膨満感，食欲不振，口内炎
循環器 血圧上昇，顔面潮紅，耳鳴 徐脈，頻脈，房室ブロック
肝臓 AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇 総ビリルビン上昇，LDH上昇 肝機能異常，黄疸
精神神経系 全身倦怠感，無気力感，頭痛，眠気，不眠 可逆性の錯乱状態，うつ状態，痙攣，意識障害，眩暈
内分泌系 月経不順，女性化乳房 乳汁漏出症
その他 CK上昇，味覚異常，筋肉痛，背部痛
（表終了）

2 個々の器官系用医薬品

ファモチジン静注20mg「日新」（20mg20mL1管）

両 注射 後発 流通

【YJコード】2325401A3031
【薬効分類】2．3．2 消化性潰瘍用剤
【一般名】ファモチジン
【メーカー】製)日新製薬
【薬価】100円/1A
【薬価収載日】2011/06/24
【標榜薬効】H2受容体拮抗剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇上部消化管出血（消化性潰瘍，急性ストレス潰瘍，出血性胃炎による）
〇Zollinger－Ellison症候群
〇侵襲ストレス（術後に集中管理を要する大手術，集中治療を要する脳血管障害・頭部外傷・多臓器不全・広範囲熱傷）による上部消化管出血の抑制
〇麻酔前投薬
注意
侵襲ストレスによる上部消化管出血の抑制
術後に集中管理を要する大手術，集中治療を要する脳血管障害・頭部外傷・多臓器不全・広範囲熱傷のストレス潰瘍の可能性がある時のみ使用。広範囲熱傷はBurn Index10以上を目安。
【用法用量】上部消化管出血（消化性潰瘍，急性ストレス潰瘍，出血性胃炎による），Zollinger－Ellison症候群，侵襲ストレス（術後に集中管理を要する大手術，集中治療を要する脳血管障害・頭部外傷・多臓器不全・広範囲熱傷）による上部消化管出血の抑制
成人 1回20mg 1日2回 12時間ごと 緩徐に静注，点滴静注（輸液に混合）。適宜増減。
上部消化管出血，Zollinger－Ellison症候群 1週間以内に効果の発現をみるが，内服可能になれば内服に切りかえる。
侵襲ストレス（術後に集中管理を要する大手術，集中治療を要する脳血管障害・頭部外傷・多臓器不全・広範囲熱傷）による上部消化管出血の抑制 術後集中管理又は集中治療を要する期間（手術侵襲ストレスは3日間程度，その他の侵襲ストレスは7日間程度）の投与。
麻酔前投薬
成人 1回20mg 麻酔導入1時間前 緩徐に静注。
注意
腎機能低下
血中未変化体濃度が上昇し，尿中排泄が減少するので，下記投与法を目安。
1回20mg1日2回投与を基準
（表開始）
クレアチニンクリアランス（mL／分）投与法
Ccr≧60 1回20mg 1日2回
60＞Ccr＞30 1回20mg 1日1回 1回10mg 1日2回
30≧Ccr 1回10mg 2日に1回 1回5mg 1日1回
透析患者 1回10mg 透析後1回 1回5mg 1日1回
（表終了）

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各0．1%未満）（呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫（顔面浮腫，咽頭浮腫等），蕁麻疹等）。
2．再生不良性貧血，汎血球減少，無顆粒球症，溶血性貧血（各頻度不明），血小板減少（0．1%未満）（全身倦怠感，脱力，皮下・粘膜下出血，発熱等）。
3．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）。
4．肝機能障害（AST・ALT等の上昇），黄疸（各頻度不明）。
5．横紋筋融解症（頻度不明）（高カリウム血症，ミオグロビン尿，血清逸脱酵素の著明な上昇，筋肉痛等）。
6．QT延長，心室頻拍（Torsades de pointes含む），心室細動（各頻度不明）。
7．意識障害，全身痙攣（各頻度不明）（痙直性，間代性，ミオクローヌス性）。
8．間質性腎炎，急性腎障害（各頻度不明）（発熱，皮疹，腎機能検査値異常（BUN・クレアチニン上昇等）等）。
9．間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等）。
10．不全収縮。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹・皮疹，蕁麻疹（紅斑），顔面浮腫
血液 白血球減少 好酸球増多
消化器 便秘 下痢・軟便，口渇，悪心・嘔吐，腹部膨満感，食欲不振，口内炎
循環器 血圧上昇，顔面潮紅，耳鳴 徐脈，頻脈，房室ブロック
肝臓 AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇 総ビリルビン上昇，LDH上昇 肝機能異常，黄疸
精神神経系 全身倦怠感，無気力感，頭痛，眠気，不眠 可逆性の錯乱状態，うつ状態，痙攣，意識障害
内分泌系 月経不順，女性化乳房
（表終了）

ポラプレジンクOD錠75mg「サワイ」（75mg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】2329027F1037
【薬効分類】2．3．2 消化性潰瘍用剤
【一般名】ポラプレジンク
【先発品】プロマックD錠75
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】14.3円/1T
【薬価収載日】2010/11/19
【標榜薬効】亜鉛含有胃潰瘍治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】胃潰瘍
【用法用量】成人 1回75mg 1日2回 朝食後・就寝前 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTP，AI－Pの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
2．銅欠乏症（頻度不明）（汎血球減少，貧血）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感 蕁麻疹
血液 好酸球増多，白血球減少，血小板減少
肝臓 AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇，LDH上昇，γ－GTP上昇
消化器 便秘，嘔気，腹部膨満感 嘔吐，胸やけ，下痢
（表終了）

ランソプラゾールOD錠15mg「ケミファ」（15mg1錠）

両 内服 流通

【YJコード】2329023F1110
【薬効分類】2．3．2 消化性潰瘍用剤
【一般名】ランソプラゾール
【メーカー】製)シオノケミカル 販)日本ケミファ 販)日本薬品工業
【薬価】21.1円/1T
【薬価収載日】2012/12/14
【標榜薬効】プロトンポンプ・インヒビター
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇胃潰瘍，十二指腸潰瘍，吻合部潰瘍，逆流性食道炎，Zollinger－Ellison症候群，非糜爛性胃食道逆流症，低用量アスピリン投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制，非ステロイド性抗炎症薬投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制
〇下記のヘリコバクター・ピロリの除菌の補助
胃潰瘍，十二指腸潰瘍，胃MALTリンパ腫，特発性血小板減少性紫斑病，早期胃癌の内視鏡的治療後胃，ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎
注意
低用量アスピリン投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制
1．血栓・塞栓の形成抑制に低用量アスピリンを継続投与している患者が対象，投与開始時に，胃潰瘍，十二指腸潰瘍の既往を確認。
非ステロイド性抗炎症薬投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制
2．関節リウマチ，変形性関節症等の疼痛管理等で非ステロイド性抗炎症薬を長期継続投与している患者が対象，投与開始時に，胃潰瘍，十二指腸潰瘍の既往を確認。
ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助
3．進行期胃MALTリンパ腫へのヘリコバクター・ピロリ除菌治療の有効性は未確立。
4．特発性血小板減少性紫斑病では，ガイドライン等を参照し，ヘリコバクター・ピロリ除菌治療が適切な症例にのみ行う。
5．早期胃癌の内視鏡的治療後胃以外には，ヘリコバクター・ピロリ除菌治療による胃癌の発症抑制への有効性は未確立。
6．ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎は，ヘリコバクター・ピロリの陽性と内視鏡検査で確認。
【用法用量】胃潰瘍，十二指腸潰瘍，吻合部潰瘍，Zollinger－Ellison症候群
成人 1回30mg 1日1回 内服。胃潰瘍，吻合部潰瘍 8週間まで，十二指腸潰瘍 6週間まで。
逆流性食道炎
成人 1回30mg 1日1回 内服。8週間まで。
再発・再燃を繰り返す逆流性食道炎の維持療法 1回15mg 1日1回 内服。効果不十分時 1回30mg 1日1回 内服。
非糜爛性胃食道逆流症
成人 1回15mg 1日1回 内服。4週間まで。
低用量アスピリン投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制

2 個々の器官系用医薬品

成人 1回15mg 1日1回 内服。
非ステロイド性抗炎症薬投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制
成人 1回15mg 1日1回 内服。
ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助
成人 1回ランソプラゾール30mg，1回アモキシシリン水和物750mg，1回クラリスロマイシン200mg 3剤を同時に 1日2回 7日間 内服。
クラリスロマイシンは適宜増量，1回400mg 1日2回まで。
プロトンポンプインヒビター，アモキシシリン水和物，クラリスロマイシンの3剤投与によるヘリコバクター・ピロリの除菌治療が不成功時 成人 1回ランソプラゾール30mg，1回アモキシシリン水和物750mg，1回メトロニダゾール250mg 3剤を同時に 1日2回 7日間 内服。
注意
逆流性食道炎
1. 維持療法 1日1回30mgの投与は，1日1回15mgで効果不十分時のみ。
非糜爛性胃食道逆流症
2. 投与開始2週後を目安として効果を確認し，改善傾向がなければ，酸逆流以外が考えられるため他の治療への変更を考慮。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. アタザナビル硫酸塩・リルピビリン塩酸塩の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
効能共通
1. アナフィラキシー（全身発疹，顔面浮腫，呼吸困難等）（0. 1%未満），ショック（0. 1%未満）。
2. 汎血球減少，無顆粒球症，溶血性貧血（0. 1%未満），顆粒球減少（0. 14%），血小板減少（0. 15%），貧血（0. 14%）。
3. 重篤な肝機能障害（0. 1%未満）（黄疸，AST，ALTの上昇等）。
4. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（0. 1%未満）。
5. 間質性肺炎（0. 1%未満）（発熱，咳嗽，呼吸困難，肺音の異常（捻髪音）等）。
6. 尿細管間質性腎炎（頻度不明），急性腎障害（BUN，クレアチニン上昇等）。
7. 視力障害（頻度不明）。
ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助
8. 偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎（0. 1%未満）（腹痛，頻回の下痢）（アモキシシリン水和物，クラリスロマイシン）。
その他の副作用（発現時中止等）（胃潰瘍，十二指腸潰瘍，吻合部潰瘍，逆流性食道炎，Zollinger－Ellison症候群，非糜爛性胃食道逆流症，低用量アスピリン投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制，非ステロイド性抗炎症薬投与時の胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発抑制）
（表開始）
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒 多形紅斑
皮膚 亜急性皮膚エリテマトーデス
肝臓 AST，ALT，Al－P，LDH，γ－GTPの上昇
血液 好酸球増多
消化器 便秘，下痢，口渇，腹部膨満感，大腸炎（collagenous colitis等含む）悪心，嘔吐，食欲不振，腹痛，カンジダ症，味覚異常，口内炎 舌炎
精神神経系 頭痛，眠気 うつ状態，不眠，眩暈，振戦
その他 発熱，総コレステロール，尿酸の上昇 女性化乳房，浮腫，倦怠感，舌・口唇のしびれ感，四肢のしびれ感，筋肉痛，脱毛 かすみ目，脱力感，関節痛，低ナトリウム血症，低マグネシウム血症，低カリウム血症，低カルシウム血症
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満
消化器 軟便（13. 7%），下痢（9. 1%） 味覚異常，腹部膨満感 悪心，嘔吐，腹痛，便秘，口内炎，舌炎，口渇，胸やけ，胃食道逆流，食欲不振
肝臓 AST，ALT，Al－P，LDH，γ－GTP，ビリルビンの上昇
血液 好中球減少，好酸球増多，白血球増多，貧血 血小板減少
過敏症 発疹 掻痒
精神神経系 頭痛，眠気，眩暈，不眠，しびれ感，うつ状態
その他 トリグリセライド，尿酸の上昇，総コレステロールの上昇・低下，尿蛋白陽性，尿糖陽性 倦怠感
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（ヘリコバクター・ピロリの除菌の補助）（外国）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満
消化器 下痢（13. 2%），味覚異常（8. 7%） 悪心，嘔吐，口内炎，腹痛，排便回数増加
肝臓 AST，ALTの上昇
過敏症 発疹
精神神経系 頭痛，眩暈
（表終了）

レバミピド錠100mg「オーツカ」（100mg1錠）

両 内服 流通

【YJコード】2329021F1331
【薬効分類】2. 3. 2 消化性潰瘍用剤
【一般名】レバミピド
【メーカー】(製)大塚製薬工場 (販)大塚製薬
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2017/06/16
【標榜薬効】胃炎・胃潰瘍治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 胃潰瘍
2. 下記の胃粘膜病変（糜爛，出血，発赤，浮腫）の改善
急性胃炎，慢性胃炎の急性増悪期
【用法用量】1. 胃潰瘍
成人 1回1錠（レバミピド 100mg） 1日3回 朝・夕・就寝前 内服。
2. 下記の胃粘膜病変（糜爛，出血，発赤，浮腫）の改善
急性胃炎，慢性胃炎の急性増悪期
成人 1回1錠（レバミピド 100mg） 1日3回 内服。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）。
2. 白血球減少，血小板減少（各頻度不明）。
3. 肝機能障害（AST，ALT，γ－GTP，Al－Pの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0. 1～0. 5%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 掻痒感，薬疹様湿疹等の過敏症状 蕁麻疹
精神神経系 しびれ，眩暈，眠気
消化器 便秘，腹部膨満感，下痢，味覚異常 嘔気，胸やけ，腹痛，げっぷ 口渇，嘔吐
肝臓 AST，ALTの上昇 γ－GTP，Al－Pの上昇
血液 血小板減少，白血球減少，顆粒球減少
その他 浮腫，咽頭部異物感 乳腺腫脹，乳房痛，女性化乳房，乳汁分泌誘発，動悸，発熱，顔面潮紅，舌のしびれ，咳，息苦しい，脱毛，月経異常，BUN上昇
（表終了）

2. 3. 3 健胃消化剤

ベリチーム配合顆粒（1g）

両 内服 流通

【YJコード】2339163D1037
【薬効分類】2. 3. 3 健胃消化剤
【一般名】膵臓性消化酵素配合剤
【メーカー】(製)共和薬品工業 (販)塩野義製薬
【薬価】26.2円/1g
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】消化酵素剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】消化異常症状の改善
【用法用量】成人 1回0. 4～1g 1日3回 食後 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. ウシ・ブタ蛋白質に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 くしゃみ，流涙，皮膚発赤等
（表終了）

リパクレオン顆粒300mg分包（300mg1包）

両 内服 流通

【YJコード】2331007D1029

2 個々の器官系用医薬品

【薬効分類】2．3．3 健胃消化剤
【一般名】パンクレリパーゼ
【メーカー】製)ヴィアトリス製薬 販)EAファーマ 販)ヴィアトリス・ヘルスケア 販)エーザイ
【薬価】56.4円/1包
【薬価収載日】2011/07/19
【標榜薬効】膵消化酵素補充剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】膵外分泌機能不全の膵消化酵素の補充
注意
非代償期の慢性膵炎，膵切除，膵嚢胞線維症等を原疾患とする膵外分泌機能不全により，脂肪便等の症状を呈する患者に投与。
【用法用量】1回パンクレリパーゼ600mg 1日3回 食直後 内服。
適宜増減。
注意
用法・用量の調整には，患者の年齢，体重，食事量，食事内容，食事回数等を考慮。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．ブタ蛋白質に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 頻度不明
過敏症 掻痒感 発疹，蕁麻疹
血液 白血球数増加
肝臓 AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇，LDH上昇，AI－P上昇，肝機能異常
消化器 悪心，嘔吐，腹部膨満，鼓腸，下痢，便秘，食欲不振，腹痛
臨床検査 BUN上昇，血中カリウム増加，血中コレステロール減少，血中トリグリセリド増加，血中ブドウ糖増加，尿中ブドウ糖陽性，血中アミラーゼ増加
その他 倦怠感，高血糖，低血糖，糖尿病，体重減少，背部痛，発熱，鼻咽頭炎，高血圧
(表終了)

2．3．4 制酸剤

酸化マグネシウム細粒83%「ヨシダ」(83%1g)
両 内服 後発 流通

【YJコード】2344009C1063
【薬効分類】2．3．4 制酸剤
【一般名】酸化マグネシウム
【メーカー】製)吉田製薬
【薬価】8.9円/1g
【薬価収載日】2015/12/11
【標榜薬効】制酸・緩下剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○下記の制酸作用と症状の改善
胃・十二指腸潰瘍，胃炎(急・慢性胃炎，薬剤性胃炎含む)，上部消化管機能異常(神経性食思不振，胃下垂症，胃酸過多症含む)
○便秘症
○尿路シュウ酸カルシウム結石の発生予防
【用法用量】制酸剤
成人 1日0．5～1g 1日数回 分割 内服。
緩下剤
成人 1日2g 1日3回 分割 食前又は食後 内服，又は1日1回 就寝前 内服。
尿路シュウ酸カルシウム結石の発生予防
成人 1日0．2～0．6g 多量の水とともに 内服。
いずれも適宜増減。

■副作用
【副作用】重大な副作用
高マグネシウム血症(頻度不明)(悪心・嘔吐，口渇，血圧低下，徐脈，皮膚潮紅，筋力低下，傾眠等)，呼吸抑制，意識障害，不整脈，心停止。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
消化器 下痢等
電解質 血清マグネシウム値の上昇
(表終了)

酸化マグネシウム錠250mg「ケンエー」(250mg1錠)
両 内服 後発 流通

【YJコード】2344009F1086
【薬効分類】2．3．4 制酸剤
【一般名】酸化マグネシウム
【メーカー】製)健栄製薬 販)日本ジェネリック
【薬価】5.9円/1T
【薬価収載日】2014/06/20
【標榜薬効】制酸・緩下剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○下記の制酸作用と症状の改善
胃・十二指腸潰瘍，胃炎(急・慢性胃炎，薬剤性胃炎含む)，上部消化管機能異常(神経性食思不振，胃下垂症，胃酸過多症含む)
○便秘症
○尿路シュウ酸カルシウム結石の発生予防
【用法用量】制酸剤
成人 1日0．5～1g 1日数回 分割 内服。
緩下剤
成人 1日2g 1日3回 分割 食前又は食後 内服，又は1日1回 就寝前 内服。
尿路シュウ酸カルシウム結石の発生予防
成人 1日0．2～0．6g 多量の水とともに 内服。
いずれも適宜増減。

■副作用
【副作用】重大な副作用
高マグネシウム血症(頻度不明)(悪心・嘔吐，口渇，血圧低下，徐脈，皮膚潮紅，筋力低下，傾眠等)，呼吸抑制，意識障害，不整脈，心停止。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
消化器 下痢等
電解質 血清マグネシウム値の上昇
(表終了)

酸化マグネシウム錠330mg「ケンエー」(330mg1錠)
両 内服 後発 流通

【YJコード】2344009F2082
【薬効分類】2．3．4 制酸剤
【一般名】酸化マグネシウム
【メーカー】製)健栄製薬 販)日本ジェネリック
【薬価】5.9円/1T
【薬価収載日】2014/06/20
【標榜薬効】制酸・緩下剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○下記の制酸作用と症状の改善
胃・十二指腸潰瘍，胃炎(急・慢性胃炎，薬剤性胃炎含む)，上部消化管機能異常(神経性食思不振，胃下垂症，胃酸過多症含む)
○便秘症
○尿路シュウ酸カルシウム結石の発生予防
【用法用量】制酸剤
成人 1日0．5～1g 1日数回 分割 内服。
緩下剤
成人 1日2g 1日3回 分割 食前又は食後 内服，又は1日1回 就寝前 内服。
尿路シュウ酸カルシウム結石の発生予防
成人 1日0．2～0．6g 多量の水とともに 内服。
いずれも適宜増減。

■副作用
【副作用】重大な副作用
高マグネシウム血症(頻度不明)(悪心・嘔吐，口渇，血圧低下，徐脈，皮膚潮紅，筋力低下，傾眠等)，呼吸抑制，意識障害，不整脈，心停止。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
消化器 下痢等
電解質 血清マグネシウム値の上昇
(表終了)

炭カル錠500mg「旭化成」(500mg1錠)
両 内服 後発 流通

【YJコード】2344008F1081

2 個々の器官系用医薬品

【薬効分類】2．3．4 制酸剤
【一般名】沈降炭酸カルシウム
【メーカー】製)旭化成ファーマ
【薬価】6.1円/1T
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】制酸剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の制酸作用と症状の改善
胃・十二指腸潰瘍，胃炎(急・慢性胃炎，薬剤性胃炎含む)，上部消化管機能異常(神経性食思不振，胃下垂症，胃酸過多症含む)
【用法用量】成人 1日1～3g 1日3～4回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】甲状腺機能低下症，副甲状腺機能亢進症。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
代謝異常 高カルシウム血症，アルカローシス等の電解質失調
長期・大量投与 腎結石，尿路結石
消化器 悪心，嘔吐，便秘，下痢，胃酸の反動性分泌
過敏症 掻痒感
(表終了)

炭酸水素ナトリウム錠500mg「VTRS」(500mg1錠)
両 内服 後発 流通

【YJコード】2344005F1061
【薬効分類】2．3．4 制酸剤
【一般名】炭酸水素ナトリウム
【メーカー】製)ヴィアトリス・ヘルスケア 販)ヴィアトリス製薬
【薬価】5.9円/1T
【薬価収載日】2022/04/20
【標榜薬効】制酸剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．経口
(1)．下記の制酸作用と症状の改善
胃・十二指腸潰瘍，胃炎(急・慢性胃炎，薬剤性胃炎含む)，上部消化管機能異常(神経性食思不振，胃下垂症，胃酸過多症含む)
(2)．アシドーシスの改善，尿酸排泄の促進と痛風発作の予防
2．含嗽・吸入
上気道炎の補助療法(粘液溶解)
【用法用量】成人 1日3～5g 1日数回 分割 内服。
含嗽，吸入 1回1～2%液100mL 1日数回 使用。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．ナトリウム摂取制限を要する患者(高ナトリウム血症，浮腫，妊娠高血圧症候群等)。
2．ヘキサミンの投与患者。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
代謝異常 アルカローシス，ナトリウム蓄積による浮腫等
消化器 胃部膨満，胃酸の二次的分泌(リバウンド現象)
(表終了)

2．3．5 下剤，浣腸剤

アミティーザカプセル12μg(12μg1カプセル)
両 内服 流通

【YJコード】2359006M2021
【薬効分類】2．3．5 下剤，浣腸剤
【一般名】ルビプロストン
【メーカー】製)ヴィアトリス製薬 販)ヴィアトリス・ヘルスケア
【薬価】48.2円/1C
【薬価収載日】2018/11/28
【標榜薬効】クロライドチャネルアクチベーター
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性便秘症(器質的疾患の便秘除く)
注意
症候性の慢性便秘症の有効性・安全性を評価する臨床試験は未実施。
【用法用量】成人 1回24μg 1日2回 朝・夕食後 内服。
適宜減量。
注意
1．中等度・重度の肝機能障害(Child－Pugh分類クラスB又はC) 1回24μgを1日1回から開始等。
2．重度の腎機能障害 1回24μgを1日1回から開始等。

■禁忌
【禁忌】1．腫瘍，ヘルニア等による腸閉塞・その疑い。
2．本剤の成分に過敏症の既往。
3．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
血液・リンパ系障害 貧血
免疫系障害 気道過敏症
代謝・栄養障害 食欲減退
神経系障害 頭痛 浮動性眩暈，体位性眩暈，感覚鈍麻，傾眠，失神
耳・迷路障害 回転性眩暈
心臓障害 動悸 頻脈
血管障害 ほてり 低血圧
呼吸器，胸郭・縦隔障害 呼吸困難 咳嗽
胃腸障害 下痢(30%)，悪心(23%)，腹痛(6%) 腹部不快感，腹部膨満，嘔吐 消化不良，排便回数増加，出血性胃炎，痔核，逆流性食道炎，心窩部不快感，痔出血
皮膚・皮下組織障害 湿疹，紅斑 発疹
筋骨格系・結合組織障害 背部痛，筋骨格硬直，四肢不快感
全身障害・局所様態 胸部不快感(5%) 胸痛，不快感，異常感(気分不良)，倦怠感，浮腫，口渇
臨床検査 血中ビリルビン増加，血中クレアチンホスホキナーゼ増加，血中ブドウ糖増加，血中トリグリセリド増加，血中尿素増加，血中γ－グルタミルトランスフェラーゼ増加，尿中ブドウ糖陽性，ヘモグロビン減少，体重増加，白血球数増加，血中リン増加 血圧低下
(表終了)

グーフィス錠5mg(5mg1錠)
両 内服 流通

【YJコード】2359008F1025
【薬効分類】2．3．5 下剤，浣腸剤
【一般名】エロビキシバット水和物
【メーカー】製)EAファーマ 販)持田製薬
【薬価】80.2円/1T
【薬価収載日】2018/04/18
【標榜薬効】胆汁酸トランスポーター阻害剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性便秘症(器質的疾患の便秘除く)
注意
薬剤性・症候性の慢性便秘症の有効性・安全性を評価する臨床試験は未実施。
【用法用量】成人 1回10mg 1日1回 食前 内服。
適宜増減，1日最高15mg。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．腫瘍，ヘルニア等による腸閉塞・その疑い。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
肝臓 肝機能異常(ALT増加，AST増加，γ－GTP増加，Al－P増加，LAP増加) LDH増加
精神神経系 浮動性眩暈 頭痛
循環器 ほてり
消化器 腹痛(23．2%)，下痢(14．4%) 下腹部痛，腹部膨満，悪心，上腹部痛，腹部不快感，軟便 口内炎，口渇 鼓腸，便意切迫，嘔吐，胃腸音異常，便秘，虚血性大腸炎，下血，排便回数増加，変色便，肛門失禁，食欲減退
過敏症 蕁麻疹 発疹
血液 貧血 ビタミンE増加 好酸球数増加
その他 CK増加 月経困難症
(表終了)

グリセリン浣腸「オヲタ」120(50%120mL1個)
両 外用 流通

【YJコード】2357701K8045
【薬効分類】2．3．5 下剤，浣腸剤

2 個々の器官系用医薬品

【一般名】グリセリン
【メーカー】製)帝國製薬　販)テイコクメディックス　販)日医工
【薬価】156.8円/1個
【標榜薬効】便秘治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】便秘，腸疾患時の排便
【用法用量】1回1個　直腸内注入。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．腸管内出血，腹腔内炎症，腸管に穿孔・そのおそれ。
2．全身衰弱。
3．下部消化管術直後。
4．吐気・嘔吐・激しい腹痛等，急性腹症の疑い。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹等
消化器 腹痛，腹鳴，腹部膨満感，直腸不快感，肛門部違和感・熱感，残便感等
循環器 血圧変動
(表終了)

グリセリン浣腸「オヲタ」60（50%60mL1個）

両　外用　流通

【YJコード】2357701K6050
【薬効分類】2．3．5　下剤，浣腸剤
【一般名】グリセリン
【メーカー】製)帝國製薬　販)テイコクメディックス　販)日医工
【薬価】124.2円/1個
【標榜薬効】便秘治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】便秘，腸疾患時の排便
【用法用量】1回1個　直腸内注入。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．腸管内出血，腹腔内炎症，腸管に穿孔・そのおそれ。
2．全身衰弱。
3．下部消化管術直後。
4．吐気・嘔吐・激しい腹痛等，急性腹症の疑い。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹等
消化器 腹痛，腹鳴，腹部膨満感，直腸不快感，肛門部違和感・熱感，残便感等
循環器 血圧変動
(表終了)

グリセリン浣腸「オヲタ」小児用30（50%30mL1個）

両　外用　流通

【YJコード】2357701K3043
【薬効分類】2．3．5　下剤，浣腸剤
【一般名】グリセリン
【メーカー】製)帝國製薬　販)テイコクメディックス　販)日医工
【薬価】102.8円/1個
【標榜薬効】便秘治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】便秘，腸疾患時の排便
【用法用量】1回1個　直腸内注入。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．腸管内出血，腹腔内炎症，腸管に穿孔・そのおそれ。
2．全身衰弱。
3．下部消化管術直後。
4．吐気・嘔吐・激しい腹痛等，急性腹症の疑い。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹等
消化器 腹痛，腹鳴，腹部膨満感，直腸不快感，肛門部違和感・熱感，残便感等
循環器 血圧変動
(表終了)

グリセリン「ケンエー」（10mL）

両　外用　流通

【YJコード】2357700X1078
【薬効分類】2．3．5　下剤，浣腸剤
【一般名】グリセリン
【メーカー】製)健栄製薬
【薬価】13.1円/10mL
【標榜薬効】調剤用基剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．浣腸液の調剤
2．溶剤，軟膏基剤，湿潤・粘滑剤の調剤
【用法用量】浣腸液の調剤。
溶剤，軟膏基剤，湿潤・粘滑剤として調剤。

スインプロイク錠0．2mg（0．2mg1錠）

両　内服　流通

【YJコード】2359007F1020
【薬効分類】2．3．5　下剤，浣腸剤
【一般名】ナルデメジントシル酸塩
【メーカー】製)塩野義製薬
【薬価】277.1円/1T
【薬価収載日】2017/05/24
【標榜薬効】経口末梢性μオピオイド受容体拮抗薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】オピオイド誘発性便秘症
【用法用量】成人　1回0．2mg　1日1回　内服。
注意
オピオイドの投与中止時は本剤も投与中止。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．消化管閉塞・その疑い，又はその既往があり再発のおそれの高い患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
重度の下痢(0．7%)，脱水症状。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
消化器 下痢(21．3%) 腹痛，嘔吐，悪心，食欲減退
その他　ALT増加，AST増加 倦怠感 オピオイド離脱症候群
(表終了)

センノシド錠12mg「トーワ」（12mg1錠）

両　内服　後発　流通

【YJコード】2354003F2375
【薬効分類】2．3．5　下剤，浣腸剤
【一般名】センノシド
【先発品】プルゼニド錠12mg
【メーカー】製)東和薬品　販)共創未来ファーマ　販)ジェイドルフ製薬
【薬価】5.3円/1T
【薬価収載日】2013/12/13
【標榜薬効】緩下剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】便秘症
【用法用量】成人　1回12～24mg　1日1回　就寝前　内服。
高度の便秘 1回48mgまで。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分・センノシド製剤に過敏症の既往。
2．急性腹症の疑い，痙攣性便秘。
3．重症の硬結便。
4．電解質失調(特に低カリウム血症)。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)

2 個々の器官系用医薬品

（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 － － 発疹等
代謝・栄養 － － 低カリウム血症，低ナトリウム血症，脱水
心血管系 － － 血圧低下
消化器 腹痛 下痢，悪心・嘔吐，腹鳴 腹部不快感，大腸メラノーシス
肝臓 － － ALT上昇，AST上昇，γ－GTP上昇，血中ビリルビン上昇
腎臓・泌尿器 － － 腎障害，着色尿
全身症状 － － 疲労
（表終了）

テレミンソフト坐薬10mg（10mg1個）

両 外用 流通

【YJコード】2359700J2106
【薬効分類】2．3．5 下剤，浣腸剤
【一般名】ビサコジル
【メーカー】製)EAファーマ 販)サンド 販)ジェイドルフ製薬
【薬価】20.9円/1個
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】排便機能促進剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．便秘症
2．消化管検査時・術前後の腸管内容物の排除
【用法用量】成人 1回10mg 1日1～2回 肛門内挿入。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．急性腹症の疑い。
2．痙攣性便秘。
3．重症の硬結便。
4．肛門裂創，潰瘍性痔核。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 過敏症状
消化器 直腸刺激感，直腸炎，腹部不快感，腹痛，肛門部痛，肛門部不快感等
循環器 一過性の血圧低下，チアノーゼ，蒼白，発汗，冷感等のショック様症状
（表終了）

ピコスルファートナトリウム内用液0．75%「JG」（0．75%1mL）

両 内服 後発 流通

【YJコード】2359005S1291
【薬効分類】2．3．5 下剤，浣腸剤
【一般名】ピコスルファートナトリウム水和物
【先発品】ラキソベロン内用液0．75%
【メーカー】製)長生堂製薬 販)コーアイセイ 販)日本ジェネリック 販)堀井薬品工業
【薬価】8.5円/1mL
【薬価収載日】2013/12/13
【標榜薬効】滴剤型緩下剤・大腸検査前処置用下剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．各種便秘症
2．術後排便補助
3．造影剤（硫酸バリウム）投与後の排便促進
4．術前の腸管内容物の排除
5．大腸検査（X線・内視鏡）前処置の腸管内容物の排除
【用法用量】各種便秘症
成人 1回10～15滴（0．67～1mL） 1日1回 内服。
小児 下記量 1日1回 内服。
（表開始）
6ヵ月以下 7～12ヵ月 1～3歳 4～6歳 7～15歳
滴数（mL） 2（0．13） 3（0．2） 6（0．4） 7（0．46） 10（0．67）
（表終了）
適宜増減。
術後排便補助
成人 1回10～15滴（0．67～1mL） 1日1回 内服。
適宜増減。
造影剤（硫酸バリウム）投与後の排便促進
成人 6～15滴（0．4～1mL） 内服。
適宜増減。
術前の腸管内容物の排除
成人 14滴（0．93mL） 内服。
適宜増減。
大腸検査（X線・内視鏡）前処置の腸管内容物の排除
成人 検査予定時間の10～15時間前 20mL 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】効能共通
1．急性腹症の疑い。
2．本剤の成分に過敏症の既往。
大腸検査（X線・内視鏡）前処置の腸管内容物の排除
3．腸管閉塞・その疑い。

■副作用

【副作用】重大な副作用
大腸検査（X線・内視鏡）前処置における腸管内容物の排除
1．腸閉塞，腸管穿孔（各頻度不明）（腹痛等）。
2．虚血性大腸炎（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
消化器 腹痛，悪心，嘔吐，腹鳴，腹部膨満感，下痢等 腹部不快感
皮膚 蕁麻疹，発疹等
肝臓 AST上昇，ALT上昇等
精神神経系 眩暈，一過性の意識消失
（表終了）

ラキソベロン錠2．5mg（2．5mg1錠）

両 内服 流通

【YJコード】2359005F1218
【薬効分類】2．3．5 下剤，浣腸剤
【一般名】ピコスルファートナトリウム水和物
【メーカー】製)帝人ファーマ
【薬価】6.1円/1T
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】緩下剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．各種便秘症
2．術後排便補助
3．造影剤（硫酸バリウム）投与後の排便促進
【用法用量】1．各種便秘症
成人 1回2～3錠 1日1回 内服。
7～15歳の小児 1回2錠 1日1回 内服。
適宜増減。
2．術後排便補助，造影剤（硫酸バリウム）投与後の排便促進
成人 1回2～3錠 1日1回 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．急性腹症の疑い。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
消化器 腹痛，悪心，嘔吐，腹鳴，腹部膨満感，下痢等 腹部不快感
皮膚 蕁麻疹，発疹等
肝臓 AST上昇，ALT上昇等
（表終了）

2．3．6 利胆剤

ウルソデオキシコール酸錠100mg「トーワ」（100mg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】2362001F2220
【薬効分類】2．3．6 利胆剤
【一般名】ウルソデオキシコール酸
【先発品】ウルソ錠100mg
【メーカー】製)東和薬品
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2013/06/21
【標榜薬効】肝・胆・消化機能改善剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○下記の利胆
胆道（胆管・胆嚢）系疾患・胆汁うっ滞を伴う肝疾患
○慢性肝疾患の肝機能の改善
○下記の消化不良
小腸切除後遺症，炎症性小腸疾患
○外殻石灰化を認めないコレステロール系胆石の溶解
○原発性胆汁性肝硬変の肝機能の改善
○C型慢性肝疾患の肝機能の改善
注意

2 個々の器官系用医薬品

C型慢性肝疾患の肝機能の改善
1. C型慢性肝疾患では，ウイルス排除療法を考慮。本薬にはウイルス排除作用はなく，C型慢性肝疾患の長期予後に対する肝機能改善の影響は不明。ウイルス排除のためのインターフェロン治療無効例又はインターフェロン治療が適用できない患者に投与を考慮。
2. 非代償性肝硬変への有効性・安全性は未確立。
【用法用量】(表開始)
効能・効果 用法・用量
・下記の利胆 胆道(胆管・胆嚢)系疾患，胆汁うっ滞を伴う肝疾患 ・慢性肝疾患の肝機能の改善 ・下記の消化不良 小腸切除後遺症，炎症性小腸疾患 成人 1回50mg 1日3回 内服。適宜増減。
・外殻石灰化を認めないコレステロール系胆石の溶解 成人 1日600mg 1日3回 分割 内服。適宜増減。
・原発性胆汁性肝硬変の肝機能の改善 成人 1日600mg 1日3回 分割 内服。適宜増減，1日最大900mg。
・C型慢性肝疾患の肝機能の改善 成人 1日600mg 1日3回 分割 内服。適宜増減，1日最大900mg。
(表終了)

■禁忌
【禁忌】1. 完全胆道閉塞。
2. 劇症肝炎。

■副作用
【副作用】重大な副作用
間質性肺炎(頻度不明)(発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 0. 1～1%未満 0. 1%未満 頻度不明
消化器 下痢 悪心，食欲不振，便秘，胸やけ，胃不快感，腹痛，腹部膨満 嘔吐
過敏症 掻痒，発疹 蕁麻疹等 紅斑(多形滲出性紅斑等)
肝臓 AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇 ビリルビン上昇，γ－GTP上昇
その他 全身倦怠感，眩暈 白血球数減少
(表終了)

2. 3. 9 その他の消化器官用薬

SPトローチ0. 25mg「明治」(0. 25mg1錠)

両 外用 後発 流通

【YJコード】2399710E1046
【薬効分類】2. 3. 9 その他の消化器官用薬
【一般名】デカリニウム塩化物
【メーカー】製)MeijiSeikaファルマ
【薬価】5.9円/1T
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】口腔用剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】咽頭炎，扁桃炎，口内炎，抜歯創含む口腔創傷の感染予防
【用法用量】1回0. 25mg 1日6回 口中で徐々に溶解。
適宜増減。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 過敏症状
(表終了)

アコファイド錠100mg (100mg1錠)

両 内服 流通

【YJコード】2399015F1020
【薬効分類】2. 3. 9 その他の消化器官用薬
【一般名】アコチアミド塩酸塩水和物
【メーカー】製)ゼリア新薬工業 販)アステラス製薬
【薬価】30.7円/1T
【薬価収載日】2013/05/24
【標榜薬効】機能性ディスペプシア(FD)治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】機能性ディスペプシアの食後膨満感，上腹部膨満感，早期満腹感
注意
1. 機能性ディスペプシアの心窩部の疼痛や灼熱感への有効性は未確認。
2. 上部消化管内視鏡検査等で，胃癌等の悪性疾患を含む器質的疾患を除外する。
【用法用量】成人 1回100mg 1日3回 食前 内服。
注意
1. 1ヵ月間投与しても改善なければ中止を考慮。
2. 症状が持続する時は器質的疾患も考慮し，上部消化管内視鏡検査に加え，必要時他の検査の実施を検討。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0. 5～1%未満 0. 5%未満 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹
血液 白血球数増加
精神神経系 眩暈
消化器 下痢，便秘 悪心，嘔吐 腹痛 口内炎
肝臓 ALT増加，AST増加，γ－GTP増加 血中ビリルビン増加，血中AI－P増加
代謝・内分泌 血中プロラクチン増加，血中トリグリセリド増加
(表終了)

アプレピタントカプセル125mg「サワイ」(125mg1カプセル)

内 内服 後発 流通

【YJコード】2391008M2044
【薬効分類】2. 3. 9 その他の消化器官用薬
【一般名】アプレピタント
【先発品】イメンドカプセル125mg
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】1032.1円/1C
【薬価収載日】2019/12/13
【標榜薬効】選択的NK1受容体拮抗型制吐剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】抗悪性腫瘍剤(シスプラチン等)投与に伴う消化器症状(悪心，嘔吐)(遅発期含む)
注意
強い悪心，嘔吐が生じる抗悪性腫瘍剤(シスプラチン等)の投与時のみ使用。
【用法用量】他の制吐剤との併用 成人・12歳以上の小児 抗悪性腫瘍剤投与1日目 125mg，2日目以降 80mg 1日1回 内服。
注意
1. 癌化学療法の各コースで，本剤の投与期間は3日間を目安。成人では5日間，12歳以上の小児では3日間を超え投与した時の有効性・安全性は未確立。
2. コルチコステロイド及び5－HT3受容体拮抗型制吐剤と併用して使用。コルチコステロイドの用量は，本剤とコルチコステロイドの薬物相互作用を考慮して適宜減量。
3. 抗悪性腫瘍剤投与の1時間～1時間30分前に投与，2日目以降は午前中に投与。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分・ホスアプレピタントメグルミンに過敏症の既往。
2. ピモジドの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)(発熱，紅斑，掻痒感，眼充血，口内炎等)。
2. 穿孔性十二指腸潰瘍(頻度不明)。
3. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(全身発疹，潮紅，血管浮腫，紅斑，呼吸困難，意識消失，血圧低下等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5～15%未満 5%未満 頻度不明
皮膚 発疹，掻痒 光線過敏症，多汗症，脂性肌，皮膚病変，蕁麻疹，ざ瘡
精神神経系 頭痛，眠気，不眠症，眩暈 失見当識，多幸症，不安，異常な夢，認知障害
循環器 不整脈，動悸，潮紅，ほてり 徐脈，頻脈
消化器 便秘，食欲不振 下痢，悪心，嘔吐，消化不良，腹痛，腹部不快感，胃食道逆流性疾患，口内炎，腹部膨満 おくび，鼓腸，胃炎，腸炎，口内乾燥
呼吸器 しゃっくり くしゃみ，咽喉刺激感 咽頭炎，後鼻漏，咳嗽
肝臓 AST，ALTの上昇 AI－P，γ－GTP，ビリルビンの上昇
腎臓 蛋白尿，BUN上昇 尿糖，クレアチニン上昇 排尿困難，頻尿，多尿，血尿
血液 貧血，好中球数減少，白血球数減少，血小板数減少，リンパ球数減少，単球数減少
筋骨格系 四肢痛 筋痙攣，筋痛
その他 疲労，倦怠感，味覚異常，発熱，浮腫，高血糖，体重増加，体重減少，口渇，アルブミン減少，低カリウム血症，低ナトリウム血症，低クロール血症 無力症，胸部不快感，嗜眠，耳鳴，疼痛，粘膜の炎症，脱水，多飲症，カンジダ症，ブドウ球菌感染症，結膜炎

2 個々の器官系用医薬品

（表終了）

アプレピタントカプセル80mg「サワイ」（80mg1カプセル）

両 内服 後発 流通

【YJコード】2391008M1048
【薬効分類】2．3．9 その他の消化器官用薬
【一般名】アプレピタント
【先発品】イメンドカプセル80mg
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】636円/1C
【薬価収載日】2019/12/13
【標榜薬効】選択的NK1受容体拮抗型制吐剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】抗悪性腫瘍剤(シスプラチン等)投与に伴う消化器症状(悪心，嘔吐)(遅発期含む)
注意
強い悪心，嘔吐が生じる抗悪性腫瘍剤(シスプラチン等)の投与時のみ使用。
【用法用量】他の制吐剤との併用 成人・12歳以上の小児 抗悪性腫瘍剤投与1日目 125mg，2日目以降 80mg 1日1回 内服。
注意
1．癌化学療法の各コースで，本剤の投与期間は3日間を目安。成人では5日間，12歳以上の小児では3日間を超え投与した時の有効性・安全性は未確立。
2．コルチコステロイド及び5－HT3受容体拮抗型制吐剤と併用して使用。コルチコステロイドの用量は，本剤とコルチコステロイドの薬物相互作用を考慮して適宜減量。
3．抗悪性腫瘍剤投与の1時間～1時間30分前に投与，2日目以降は午前中に投与。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分・ホスアプレピタントメグルミンに過敏症の既往。
2．ピモジドの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)(発熱，紅斑，掻痒感，眼充血，口内炎等)。
2．穿孔性十二指腸潰瘍(頻度不明)。
3．ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(全身発疹，潮紅，血管浮腫，紅斑，呼吸困難，意識消失，血圧低下等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5～15%未満 5%未満 頻度不明
皮膚 発疹，掻痒 光線過敏症，多汗症，脂性肌，皮膚病変，蕁麻疹，ざ瘡
精神神経系 頭痛，眠気，不眠症，眩暈 失見当識，多幸症，不安，異常な夢，認知障害
循環器 不整脈，動悸，潮紅，ほてり 徐脈，頻脈
消化器 便秘，食欲不振 下痢，悪心，嘔吐，消化不良，腹痛，腹部不快感，胃食道逆流性疾患，口内炎，腹部膨満 おくび，鼓腸，胃炎，腸炎，口内乾燥
呼吸器 しゃっくり くしゃみ，咽喉刺激感 咽頭炎，後鼻漏，咳嗽
肝臓 AST，ALTの上昇 AI－P，γ－GTP，ビリルビンの上昇
腎臓 蛋白尿，BUN上昇 尿糖，クレアチニン上昇 排尿困難，頻尿，多尿，血尿
血液 貧血，好中球数減少，白血球数減少，血小板数減少，リンパ球数減少，単球数減少
筋骨格系 四肢痛 筋痙攣，筋痛
その他 疲労，倦怠感，味覚異常，発熱，浮腫，高血糖，体重増加，体重減少，口渇，アルブミン減少，低カリウム血症，低ナトリウム血症，低クロール血症 無力症，胸部不快感，嗜眠，耳鳴，疼痛，粘膜の炎症，脱水，多飲症，カンジダ症，ブドウ球菌感染症，結膜炎
(表終了)

アロカリス点滴静注235mg（235mg10mL1瓶）

内 注射 流通
劇

【YJコード】2391406A1029
【薬効分類】2．3．9 その他の消化器官用薬
【一般名】ホスネツピタント塩化物塩酸塩
【メーカー】製)大鵬薬品工業
【薬価】11276円/1V
【薬価収載日】2022/05/25
【標榜薬効】選択的NK1受容体拮抗型制吐剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】抗悪性腫瘍剤(シスプラチン等)投与に伴う消化器症状(悪心，嘔吐)(遅発期含む)
注意
強い悪心，嘔吐が生じる抗悪性腫瘍剤(シスプラチン等)の投与時のみ使用。
【用法用量】他の制吐剤との併用 成人 1回235mg 抗悪性腫瘍剤投与1日目に1回 点滴静注。
注意
1．抗悪性腫瘍剤投与前に投与終了。
2．コルチコステロイド・5－HT3受容体拮抗型制吐剤と併用して使用。
3．コルチコステロイドの用量は，活性本体ネツピタントとコルチコステロイドの薬物相互作用を考慮して適宜減量。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満
消化器 便秘 下痢 腹部膨満，腹痛，口内乾燥
肝臓 ALT上昇 肝機能異常，AST上昇，AI－P上昇，ビリルビン上昇
精神神経系 頭痛，眩暈
呼吸器 しゃっくり
循環器 QT延長，心室性期外収縮，高血圧，潮紅
過敏症 蕁麻疹，湿疹
その他 倦怠感，食欲不振 低ナトリウム血症，低カリウム血症，耳鳴，味覚障害
(表終了)

インフリキシマブBS点滴静注用100mg「NK」（100mg1瓶）

内 注射 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2399403F1039
【薬効分類】2．3．9 その他の消化器官用薬
【一般名】インフリキシマブ(遺伝子組換え)
【メーカー】製)日本化薬
【薬価】17099円/1V
【薬価収載日】2014/11/28
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】抗ヒトTNFαモノクローナル抗体製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】既存治療で効果不十分な下記
○関節リウマチ(関節の構造的損傷の防止含む)
○ベーチェット病による難治性網膜ぶどう膜炎
○尋常性乾癬，乾癬性関節炎，膿疱性乾癬，乾癬性紅皮症
○強直性脊椎炎
○下記のいずれかのクローン病の治療・維持療法(既存治療で効果不十分時のみ)
中等度から重度の活動期
外瘻
○中等症から重症の潰瘍性大腸炎の治療(既存治療で効果不十分な時のみ)
注意
関節リウマチ
1．過去，非ステロイド性抗炎症剤・他の抗リウマチ薬(メトトレキサート製剤含む)等による治療を行っても，疾患による臨床症状が残る時に投与。メトトレキサート製剤に本剤を上乗せすることのリスク・ベネフィットを判断した上で使用。
ベーチェット病による難治性網膜ぶどう膜炎
2．過去，他の薬物療法(シクロスポリン等)等の治療を行っても，疾患による臨床症状が残る時に投与。
乾癬
3．過去，既存の全身療法(紫外線療法含む)等の治療を行っても，皮疹が体表面積の10%以上に存在する時又は難治性の皮疹，関節症状，膿疱を有する時に投与を行う。
強直性脊椎炎
4．過去，他の薬物療法(非ステロイド性抗炎症剤等)等の治療を行っても，疾患による臨床症状が残る時に投与。
クローン病
5．過去，栄養療法，他の薬物療法(5－アミノサリチル酸製剤，ステロイド，アザチオプリン等)等の治療を行っても，疾患による臨床症状が残る時に投与。寛解維持投与は漫然と行わず経過観察しながら行う。
潰瘍性大腸炎
6．過去，他の薬物療法(5－アミノサリチル酸製剤，ステロイド，アザチオプリン等)等の治療を行っても，疾患による臨床症状が残る時に投与。寛解維持効果は未確認のため，寛解導入後には本剤の継続投与の必要性を検討し，他の治療法への切りかえを考慮。
【用法用量】関節リウマチ
1回3mg／kg 点滴静注。初回投与後，2週，6週に投与し，以後8週間隔で投与。6週投与以後，効果不十分又は効果減弱時は，投与量の増量や投与間隔の短縮可能。これらは段階的に行う。8週間隔時 1回10mg／kgまで，投与間隔短縮時 1回6mg／kgまで。最短投与間隔

4週間。メトトレキサート製剤による治療と併用。
ベーチェット病による難治性網膜ぶどう膜炎
1回5mg／kg 点滴静注。初回投与後，2週，6週に投与し，以後8週間隔で投与。
乾癬
1回5mg／kg 点滴静注。初回投与後，2週，6週に投与し，以後8週間隔で投与。6週投与以後，効果不十分又は効果減弱時は，投与量の増量や投与間隔の短縮可能。これらは段階的に行う。8週間隔時 1回10mg／kgまで，投与間隔短縮時 1回6mg／kgまで。最短投与間隔4週間。
強直性脊椎炎
1回5mg／kg 点滴静注。初回投与後，2週，6週に投与し，以後6～8週間隔で投与。
クローン病
1回5mg／kg 点滴静注。初回投与後，2週，6週に投与し，以後8週間隔で投与。6週投与以後，効果減弱時は，投与量の増量又は投与間隔の短縮可能。増量時，1回10mg／kg。投与間隔を短縮時は，1回5mg／kg，最短4週間の間隔で投与できる。
潰瘍性大腸炎
1回5mg／kg 点滴静注。初回投与後，2週，6週に投与し，以後8週間隔で投与。
注意
効能共通
1. 他の生物製剤の併用について安全性・有効性は未確立なので併用を避ける。
関節リウマチ
2. 国内・外国の臨床試験により，メトトレキサート製剤併用での有効性・安全性を確認。国内臨床試験でメトトレキサート製剤の併用量は，6mg／週以上で，メトトレキサート併用時の本剤への抗体の産生率は，メトトレキサート非併用時より低い。他の抗リウマチ薬併用の有用性は未確立。
3. 初回，2週，6週投与までは10mg／kg等の増量投与はしない。増量により感染症の発現頻度が高まるおそれ，感染症に注意。10mg／kg等の高用量を初回投与から行い，重篤な感染症の発現頻度が高まったとの報告あり。
4. 効果は，投与開始から14週以内にあり。14週以内に効果がない場合や，増量・投与間隔の短縮を行っても効果がない場合，治療計画の継続を再考。
5. アバタセプト（遺伝子組換え）と併用しない。プラセボを対照とした臨床試験（外国）で，抗TNF製剤とアバタセプト（遺伝子組換え）の併用療法は併用による効果の増強はなく，感染症・重篤な感染症の発現率が抗TNF製剤のみの治療での発現率と比べて高かった。
乾癬
6. 初回，2週，6週投与までは10mg／kg等の増量投与はしない。増量により感染症の発現頻度が高まるおそれ，感染症に注意。効果がない場合や，増量・投与間隔の短縮を行っても症状の改善がない場合，治療計画の継続を再考。
クローン病
7. 初回投与後，2週，6週と投与した後，臨床症状や内視鏡所見等で効果を評価。効果なければ，さらに継続投与を行っても効果がない可能性，他の治療法を考慮。10mg／kgへの増量や投与間隔の短縮は，5mg／kg 8週間隔投与による治療効果は認められたが，維持療法中に効果が減弱し，症状の再燃が認められた患者に行う。増量又は投与間隔の短縮を行っても効果なければ，他の治療法を考慮。
潰瘍性大腸炎
8. 初回投与後，2週，6週と投与した後，8週時点で臨床症状や内視鏡所見等で効果を評価。効果なければ，さらに継続投与を行っても効果がない可能性，他の治療法を考慮。

■禁忌

【禁忌】1. 重篤な感染症（敗血症等）。
2. 活動性結核。
3. 本剤の成分・マウス由来の蛋白質に過敏症の既往。
4. 脱髄疾患（多発性硬化症等）・その既往。
5. うっ血性心不全。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 重篤な感染症（3．5%）（日和見感染症含む）（敗血症，肺炎（ニューモシスティス肺炎含む），真菌感染症，脳炎，髄膜炎（リステリア菌性髄膜炎含む），骨髄炎等），死亡。
2. 結核（0．3%），肺外結核（髄膜，胸膜，リンパ節等）。
3. 重篤なinfusion reaction（0．6%）（ショック，アナフィラキシー（呼吸困難，気管支痙攣，血圧上昇，血圧低下，血管浮腫，チアノーゼ，低酸素症，発熱，蕁麻疹等），痙攣），脳出血，脳梗塞。
4. 脱髄疾患（0．1%）（多発性硬化症，視神経炎，横断性脊髄炎，ギラン・バレー症候群等）。
5. 間質性肺炎（0．5%）（発熱，咳嗽，呼吸困難等）。
6. 重篤な肝機能障害（0．1%）（AST，ALT，γ－GTP，LDH等の著しい上昇）。
7. 遅発性過敏症（0．6%）（筋肉痛，発疹，発熱，多関節痛，掻痒，手・顔面浮腫，嚥下障害，蕁麻疹，咽頭痛，頭痛等）。
8. 抗dsDNA抗体の陽性化を伴うループス様症候群（0．4%）（関節痛，筋肉痛，皮疹等）。
9. 重篤な血液障害（0．1%）（汎血球減少，血小板減少，白血球減少，顆粒球減少，血球貪食症候群，血小板減少性紫斑病）。
10. 横紋筋融解症（頻度不明）（脱力感，筋肉痛，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 頭痛 浮動性眩暈，感覚鈍麻，異常感覚 頭部不快感，体位性眩暈，知覚過敏，失神，嗅覚錯誤，味覚異常，神経痛，不随意性筋収縮，片頭痛，振戦，運動過多，ジスキネジー，脳梗塞，協調運動異常，不眠症，不安，神経過敏，うつ病，感情不安定，多幸気分，錯乱，傾眠（眠気） 多発性神経障害，ニューロパシー，てんかん発作
血液 貧血（鉄欠乏性貧血，溶血性貧血），カリウム減少，血小板数増加 リンパ節炎，脾腫，単球減少症，リンパ球減少症，リンパ球増加症，単球増加症，白血球増加症，好中球増加症，好酸球増加症，赤血球異常，低カリウム血症，好酸球数減少，骨髄球数増加，アミラーゼ増加，総蛋白減少，総蛋白増加，アルブミン減少，クロール減少，ナトリウム減少，血沈亢進，リンパ球形態異常（異形リンパ球），リンパ節症，後骨髄球数増加，尿酸増加，カリウム増加，CRP増加，ヘマトクリット減少 血栓性血小板減少性紫斑病
循環器 ほてり，潮紅，高血圧，低血圧，動悸，血圧低下，血圧上昇 血腫，蒼白，末梢性虚血，徐脈，不整脈，頻脈，心室性期外収縮，狭心症，心不全，心拍数増加 血管炎（IgA血管炎）
呼吸器 気道感染，咽喉頭炎 呼吸困難，気管支炎，咳嗽，鼻炎，副鼻腔炎 発声障害，咽喉絞扼感，鼻出血，胸膜炎，胸水，喘息，気管支痙攣，胸部X線（CT）異常，PaO2低下，KL－6増加，扁桃炎 間質性肺線維症
肝臓 AlーP増加 脂肪肝，肝炎，胆嚢炎，肝腫大，高ビリルビン血症
泌尿器 血尿（尿潜血） 尿路感染，尿中ブドウ糖陽性，尿中蛋白陽性，BUN増加，尿沈渣 腎盂腎炎，排尿困難，尿中白血球陽性，頻尿，クレアチニン増加，尿中ウロビリノーゲン増加，膀胱炎
消化器 悪心 嘔吐，下痢，腹痛，便秘，胃腸炎 上腹部痛，嚥下障害，逆流性食道炎，腸閉塞，腸管狭窄，消化不良，血便，腸管穿孔，胃炎，痔核，肛門周囲痛，憩室炎，腹部膨満，胃ポリープ，胃潰瘍，腹膜炎，腹部不快感，腸炎，胃不快感，軟便，放屁
消化器 口内炎，歯周病 口腔内潰瘍形成，歯痛，口唇炎，口腔内痛，齲歯，唾液腺炎，口渇，舌炎
皮膚 発疹（膿疱性皮疹，斑状皮疹，斑状丘疹状皮疹，小水疱性皮疹，掻痒性皮疹，湿疹，紅斑性皮疹，頭部粃糠疹，丘疹，血管炎性皮疹）白癬，皮膚炎（脂漏性皮膚炎，水疱性皮膚炎，乾癬様皮膚炎，ざ瘡様皮膚炎），毛包炎，掻痒症，蕁麻疹，紅斑（発赤），多汗症 麦粒腫，せつ，皮膚真菌感染，皮膚裂傷，皮膚嚢腫，ざ瘡，皮膚乾燥，皮膚変色，皮膚剥脱，脱毛症，乾癬，斑状出血，点状出血，皮膚潰瘍，脂漏，過角化，光線過敏性反応，皮膚腫瘤，多毛症，アトピー性皮膚炎
投与部位 注射部位反応（注射部位疼痛，注射部位炎症，注射部位腫脹，注射部位出血，注射部位掻痒感）
眼 眼内炎，涙器障害，角膜炎，眼瞼炎，視覚障害，眼痛，眼球乾燥，羞明，強膜炎，緑内障，眼圧上昇，眼脂，結膜炎，結膜充血，視野欠損，網膜静脈閉塞
耳 耳痛，回転性眩暈，耳鳴，耳不快感（耳閉感），耳感染（外耳炎，中耳炎，迷路炎）
筋・骨格系 関節痛，筋痛 関節腫脹，背部痛，筋骨格硬直，頚部痛，関節炎，骨痛，腱炎，筋力低下，滑液包炎，CK増加，筋骨格痛 皮膚筋炎，多発性筋炎
抵抗機構 自己抗体陽性（抗DNA抗体陽性，抗カルジオリピン抗体陽性，抗核抗体陽性），ウイルス感染（帯状疱疹，単純ヘルペス，インフルエンザ様疾患，インフルエンザ） 膿瘍 免疫グロブリン増加，爪周囲炎，限局性感染，サイトメガロウイルス抗原陽性，食道カンジダ症，蜂巣炎 ニューモシスティス症，サルモネラ症，サルコイドーシス，非結核性マイコバクテリア感染（非結核性抗酸菌症），クリプトコッカス症
代謝 高コレステロール血症 糖尿病，高血糖，抗利尿ホルモン不適合分泌，コレステロール減少，トリグリセリド増加
その他 発熱 悪寒，熱感，倦怠感，疲労，胸痛，疼痛，浮腫（末梢性浮腫，顔面浮腫，全身性浮腫，眼窩周囲浮腫，血管浮腫，咽頭浮腫，喉頭浮腫） 膣感染，勃起不全，乳房肥大，亀頭包皮炎，不規則月経，膣出血，性器分泌物（白帯下），無力症，不快感，胸部不快感，嚢胞，食欲不振，食欲亢進，過敏症，体重増加，体重減少，子宮平滑筋腫，リビドー減退，末梢腫脹
（表終了）

グラニセトロン点滴静注バッグ3mg／100mL「HK」（3mg100mL1袋）

内 注射 後発 流通
劇

【YJコード】2391400G1156
【薬効分類】2．3．9 その他の消化器官用薬
【一般名】グラニセトロン塩酸塩
【先発品】カイトリル点滴静注バッグ3mg／100mL，グラニセトロン点滴静注バッグ3mg／100mL「NIG」
【メーカー】製）光製薬
【薬価】1265円/1袋
【薬価収載日】2010/11/19
【標榜薬効】5－HT3受容体拮抗型制吐剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1. 抗悪性腫瘍剤（シスプラチン等）投与・放射線照射に伴う消化器症状（悪心，嘔吐）
2. 術後の消化器症状（悪心，嘔吐）
注意
1. 抗悪性腫瘍剤の投与に伴う消化器症状に使用時，強い悪心，嘔吐が生じる抗悪性腫瘍剤（シスプラチン等）の投与にのみ使用。
2. 放射線照射に伴う消化器症状に使用時，強い悪心，嘔吐が生じる全

2 個々の器官系用医薬品

身照射や上腹部照射等にのみ使用。
【用法用量】抗悪性腫瘍剤(シスプラチン等)投与に伴う消化器症状(悪心，嘔吐)
成人　1回40μg／kg　1日1回　点滴静注。
適宜増減，症状の改善なければ　40μg／kgを1回追加。
小児　1回40μg／kg　1日1回　点滴静注。
適宜増減，症状の改善なければ　40μg／kgを1回追加。
放射線照射に伴う消化器症状(悪心，嘔吐)
成人　1回40μg／kg　点滴静注。
適宜増減，1日2回まで。
術後の消化器症状(悪心，嘔吐)
成人　1回1mg　点滴静注。
適宜増減，1日3mgまで。
注意
1. 放射線照射に伴う消化器症状 放射線照射前に点滴静注。
造血幹細胞移植前処置時の放射線全身照射に伴う消化器症状 投与期間は4日間が目安。
2. 術後の消化器症状 患者背景や術式等を考慮し，術前から術後の適切なタイミングで投与。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(掻痒感，発赤，胸部苦悶感，呼吸困難，血圧低下等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～2%未満 頻度不明
過敏症 発疹 発赤
精神神経系 不眠 眩暈，頭痛
循環器 頻脈
消化器 便秘，胃もたれ感 下痢，腹痛
肝臓 AST(GOT)，ALT(GPT)上昇等の肝機能検査値異常
その他 発熱，全身倦怠感 顔面潮紅
(表終了)

グラニセトロン内服ゼリー2mg「ケミファ」(2mg1包)
両　内服　後発　流通
劇

【YJコード】2391002Q2022
【薬効分類】2．3．9　その他の消化器官用薬
【一般名】グラニセトロン塩酸塩
【メーカー】製)日医工　販)日本ケミファ
【薬価】588.2円/1包
【薬価収載日】2008/07/04
【標榜薬効】5－HT3受容体拮抗型制吐剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】抗悪性腫瘍剤(シスプラチン等)投与・放射線照射に伴う消化器症状(悪心，嘔吐)
注意
1. 抗悪性腫瘍剤の投与に伴う消化器症状に使用時，強い悪心，嘔吐が生じる抗悪性腫瘍剤(シスプラチン等)の投与にのみ使用。
2. 放射線照射に伴う消化器症状に使用時，強い悪心，嘔吐が生じる全身照射や上腹部照射等にのみ使用。
3. 抗悪性腫瘍剤投与後，効果不十分で悪心，嘔吐が発現時，他の制吐療法(注射剤の投与等)を考慮。
【用法用量】成人　1回2mg　1日1回　内服。
適宜増減。
注意
1. 抗悪性腫瘍剤の投与に伴う消化器症状(悪心，嘔吐) 抗悪性腫瘍剤の投与1時間前に投与し，癌化学療法の各クールの投与期間は6日間を目安。
2. 放射線照射に伴う消化器症状(悪心，嘔吐) 放射線照射の1時間前に投与。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(掻痒感，発赤，胸部苦悶感，呼吸困難，血圧低下等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%未満 頻度不明
過敏症　発疹
精神神経系 頭痛
消化器 便秘
肝臓　AST(GOT)，ALT(GPT)上昇等の肝機能検査値異常
その他　発熱
(表終了)

デキサメタゾン口腔用軟膏0．1%「NK」(0．1%1g)
両　外用　後発　流通

【YJコード】2399706M1125
【薬効分類】2．3．9　その他の消化器官用薬
【一般名】デキサメタゾン
【先発品】アフタゾロン口腔用軟膏0．1%
【メーカー】製)日本化薬
【薬価】37円/1g
【薬価収載日】2019/12/13
【標榜薬効】口腔粘膜疾患治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】糜爛・潰瘍を伴う難治性口内炎・舌炎
【用法用量】1日1～数回　塗布。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】本剤に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
口腔の感染症 口腔の真菌性・細菌性感染症
過敏症 過敏症
下垂体・副腎皮質系機能 下垂体・副腎皮質系機能の抑制
(表終了)

トリメブチンマレイン酸塩錠100mg「トーワ」(100mg1錠)
両　内服　後発　流通

【YJコード】2399006F1552
【薬効分類】2．3．9　その他の消化器官用薬
【一般名】トリメブチンマレイン酸塩
【メーカー】製)東和薬品
【薬価】6.1円/1T
【薬価収載日】2013/12/13
【標榜薬効】消化管運動調律剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇慢性胃炎の消化器症状(腹部膨満感，腹部疼痛，悪心，あい気)
〇過敏性腸症候群
【用法用量】慢性胃炎の消化器症状
成人　1日300mg(本剤　3錠)　1日3回　分割　内服。
適宜増減。
過敏性腸症候群
成人　1日300～600mg(本剤　3～6錠)　1日3回　分割　内服。

■副作用
【副作用】重大な副作用
肝機能障害(0．1%未満)(AST，ALT，AlーP，LDH，γーGTPの上昇等)，黄疸(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1%未満
消化器 便秘，下痢，腹鳴，口渇，口内しびれ感，悪心，嘔吐
循環器 心悸亢進
精神神経系 眠気，眩暈，倦怠感，頭痛
過敏症 発疹，蕁麻疹，掻痒感
泌尿器 排尿障害，尿閉
(表終了)

ドンペリドン錠10mg「サワイ」(10mg1錠)
両　内服　後発　流通

【YJコード】2399005F2350
【薬効分類】2．3．9　その他の消化器官用薬
【一般名】ドンペリドン
【先発品】ドンペリドン錠10mg「EMEC」，ナウゼリン錠10
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】6.1円/1T
【薬価収載日】2014/06/20
【標榜薬効】消化管運動改善剤

2 個々の器官系用医薬品

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の消化器症状(悪心，嘔吐，食欲不振，腹部膨満，上腹部不快感，腹痛，胸やけ，曖気)
成人
〇慢性胃炎，胃下垂症，胃切除後症候群
〇抗悪性腫瘍剤・レボドパ製剤投与時
小児
〇周期性嘔吐症，上気道感染症
〇抗悪性腫瘍剤投与時
【用法用量】成人　1回10mg　1日3回　食前　内服。
レボドパ製剤投与時　1回5～10mg　1日3回　食前　内服。
適宜増減。
小児　1日1～2mg／kg　1日3回　分割　食前　内服。
適宜増減，1日30mgまで。
6歳以上　1日最高1mg／kg。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。
3. 消化管出血，機械的イレウス，消化管穿孔。
4. プロラクチン分泌性の下垂体腫瘍(プロラクチノーマ)。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(発疹，発赤，呼吸困難，顔面浮腫，口唇浮腫等)。
2. 錐体外路症状(0. 1%未満)(後屈頸，眼球側方発作，上肢の伸展，振戦，筋硬直等)。
3. 意識障害，痙攣(各頻度不明)。
4. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
肝臓　肝機能異常(AST，ALT，γ－GTP，ビリルビン，AI－P，LDH上昇等)
内分泌　女性化乳房，プロラクチン上昇，乳汁分泌，乳房膨満感，月経異常
消化器 下痢 便秘，腹痛，腹部圧迫感，口渇，胸やけ，悪心，嘔吐，腹部膨満感 腹部不快感，腹鳴，腸痙攣
循環器　心悸亢進 QT延長
皮膚　蕁麻疹，発疹，掻痒
その他　口内のあれ，発汗，眠気，動揺感，眩暈・ふらつき
(表終了)

ナウゼリン坐剤10（10mg1個）
両　外用　流通

【YJコード】2399714J1026
【薬効分類】2. 3. 9　その他の消化器官用薬
【一般名】ドンペリドン
【メーカー】製)協和キリン
【薬価】33.4円/1個
【標榜薬効】消化管運動改善剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】小児 下記の消化器症状(悪心，嘔吐，食欲不振，腹部膨満，腹痛)
(1). 周期性嘔吐症，乳幼児下痢症，上気道感染症
(2). 抗悪性腫瘍剤投与時
【用法用量】小児
3歳未満　1回10mg　1日2～3回　直腸内投与。
3歳以上　1回30mg　1日2～3回　直腸内投与。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。
3. 消化管出血，機械的イレウス，消化管穿孔。
4. プロラクチン分泌性の下垂体腫瘍(プロラクチノーマ)。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(発疹，発赤，呼吸困難，顔面浮腫，口唇浮腫等)。
2. 錐体外路症状(0. 1%未満)(後屈頸，眼球側方発作，上肢の伸展，振戦，筋硬直等)。
3. 意識障害，痙攣(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
肝臓 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTP，ビリルビン，AI－P，LDH上昇等)
内分泌　女性化乳房，プロラクチン上昇，乳汁分泌，乳房膨満感，月経異常
消化器 下痢，腹痛，肛門部不快感，悪心 腹部不快感，しぶり腹，腹鳴
便秘，腹部圧迫感，口渇，胸やけ，嘔吐，腹部膨満感，腸痙攣
循環器　心悸亢進 QT延長
皮膚　発疹 蕁麻疹，掻痒
その他　発汗，眠気，動揺感，眩暈・ふらつき，口内のあれ
(表終了)

ナウゼリン坐剤30（30mg1個）
両　外用　流通

【YJコード】2399714J2022
【薬効分類】2. 3. 9　その他の消化器官用薬
【一般名】ドンペリドン
【メーカー】製)協和キリン
【薬価】52.8円/1個
【標榜薬効】消化管運動改善剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】小児 下記の消化器症状(悪心，嘔吐，食欲不振，腹部膨満，腹痛)
(1). 周期性嘔吐症，乳幼児下痢症，上気道感染症
(2). 抗悪性腫瘍剤投与時
【用法用量】小児
3歳未満　1回10mg　1日2～3回　直腸内投与。
3歳以上　1回30mg　1日2～3回　直腸内投与。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。
3. 消化管出血，機械的イレウス，消化管穿孔。
4. プロラクチン分泌性の下垂体腫瘍(プロラクチノーマ)。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(発疹，発赤，呼吸困難，顔面浮腫，口唇浮腫等)。
2. 錐体外路症状(0. 1%未満)(後屈頸，眼球側方発作，上肢の伸展，振戦，筋硬直等)。
3. 意識障害，痙攣(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
肝臓 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTP，ビリルビン，AI－P，LDH上昇等)
内分泌　女性化乳房，プロラクチン上昇，乳汁分泌，乳房膨満感，月経異常
消化器 下痢，腹痛，肛門部不快感，悪心 腹部不快感，しぶり腹，腹鳴
便秘，腹部圧迫感，口渇，胸やけ，嘔吐，腹部膨満感，腸痙攣
循環器　心悸亢進 QT延長
皮膚　発疹 蕁麻疹，掻痒
その他　発汗，眠気，動揺感，眩暈・ふらつき，口内のあれ
(表終了)

ナウゼリンドライシロップ1%（1%1g）
両　内服　流通

【YJコード】2399005R1163
【薬効分類】2. 3. 9　その他の消化器官用薬
【一般名】ドンペリドン
【メーカー】製)協和キリン
【薬価】10円/1g
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】消化管運動改善剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の消化器症状(悪心，嘔吐，食欲不振，腹部膨満，腹痛)
小児
[1]. 周期性嘔吐症，乳幼児下痢症，上気道感染症
[2]. 抗悪性腫瘍剤投与時
【用法用量】小児　1日1～2mg／kg　1日3回　分割　食前　内服(用時水で懸濁)。
適宜増減，1日30mgまで。
6歳以上　1日最高1mg／kg。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。
3. 消化管出血，機械的イレウス，消化管穿孔。
4. プロラクチン分泌性の下垂体腫瘍(プロラクチノーマ)。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(発疹，発赤，呼吸困難，顔

2 個々の器官系用医薬品

面浮腫，口唇浮腫等）。
2．錐体外路症状（0．1%未満）（後屈頸，眼球側方発作，上肢の伸展，振戦，筋硬直等）。
3．意識障害，痙攣（各頻度不明）。
4．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
肝臓 肝機能異常（AST，ALT，γ－GTP，ビリルビン，AI－P，LDH上昇等）
内分泌 女性化乳房，プロラクチン上昇，乳汁分泌，乳房膨満感，月経異常
消化器 下痢 便秘，腹痛，腹部圧迫感，口渇，胸やけ，悪心，嘔吐，腹部膨満感 腹部不快感，腹鳴，腸痙攣
循環器 心悸亢進 QT延長
皮膚 蕁麻疹，発疹，掻痒
その他 口内のあれ，発汗，眠気，動揺感，眩暈・ふらつき
（表終了）

パロノセトロン静注0．75mg／5mL「タイホウ」（0．75mg5mL1瓶）

内 注射 後発 流通
劇

【YJコード】2391404A1038
【薬効分類】2．3．9 その他の消化器官用薬
【一般名】パロノセトロン塩酸塩
【先発品】アロキシ静注0．75mg
【メーカー】製)岡山大鵬薬品 販)大鵬薬品工業
【薬価】4317円/1V
【薬価収載日】2021/06/18
【標榜薬効】5－HT3受容体拮抗型制吐剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】抗悪性腫瘍剤（シスプラチン等）投与に伴う消化器症状（悪心，嘔吐）（遅発期含む）
注意
強い悪心，嘔吐が生じる抗悪性腫瘍剤（シスプラチン等）の投与時のみ使用。
【用法用量】成人 1回0．75mg 1日1回 静注・点滴静注。
注意
製剤共通
1．抗悪性腫瘍剤投与前に終了。
2．本剤の消失半減期は約40時間であり，短期間に反復投与を行うと過度に血中濃度が上昇するおそれ。
1週間未満の間隔で癌患者へ反復投与は未経験のため，短期間での反復投与は避ける。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（掻痒感，発赤，胸部苦悶感，呼吸困難，血圧低下等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 1～10%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 頭痛 眩暈 不安，多幸感，傾眠，不眠症，過眠症，末梢感覚性ニューロパシー，異常感覚
代謝 糖尿 食欲不振，食欲減退，高血糖，高カリウム血症，低カリウム血症，電解質変動，低カルシウム血症
心臓・循環器 QT延長 低血圧 上室性期外収縮，頻脈，徐脈，心筋虚血，洞性頻脈，洞性不整脈，静脈退色，静脈拡張，高血圧
消化器 便秘（19．0%） 下痢，口内乾燥，上腹部痛 腹痛，腹部膨満，消化不良
腎臓・泌尿器 尿閉
肝臓 高ビリルビン血症 肝機能検査値異常
皮膚 発疹 アレルギー性皮膚炎
呼吸器 しゃっくり
耳 耳鳴 乗り物酔い
眼 眼刺激，弱視
臨床検査 AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇，LDH上昇，AI－P上昇
その他 血管痛 倦怠感，潮紅，静脈炎 注射部位反応（疼痛，紅斑），発熱，熱感，悪寒，関節痛，インフルエンザ様症状，無力症，疲労
（表終了）

プリンペラン錠5（5mg1錠）

両 内服 流通

【YJコード】2399004F1200
【薬効分類】2．3．9 その他の消化器官用薬
【一般名】メトクロプラミド
【メーカー】製)日医工 販)アステラス製薬
【薬価】6.7円/1T
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】消化器機能異常治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇下記の消化器機能異常（悪心・嘔吐・食欲不振・腹部膨満感）
胃炎，胃・十二指腸潰瘍，胆嚢・胆道疾患，腎炎，尿毒症，乳幼児嘔吐，薬剤（制癌剤・抗生剤・抗結核剤・麻酔剤）投与時，胃内・気管内挿管時，放射線照射時，開腹術後
〇X線検査時のバリウムの通過促進
【用法用量】成人 1日7．67～23．04mg 1日2～3回 分割 食前 内服。
適宜増減。
注意
1日量は下記。
塩酸メトクロプラミド 10～30mg，2～6錠。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．褐色細胞腫・パラガングリオーマの疑い。
3．消化管に出血，穿孔，器質的閉塞。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，喉頭浮腫，蕁麻疹等）。
2．悪性症候群（頻度不明）（無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下），高熱の持続，意識障害，呼吸困難，循環虚脱，脱水症状，急性腎障害，死亡。
3．意識障害（頻度不明）。
4．痙攣（頻度不明）。
5．遅発性ジスキネジア（頻度不明）（口周部等の不随意運動）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
錐体外路症状 手指振戦，筋硬直，頸・顔部の攣縮，眼球回転発作，焦燥感
内分泌 無月経，乳汁分泌，女性型乳房
消化器 胃の緊張増加，腹痛，下痢，便秘
循環器 血圧降下，頻脈，不整脈
精神神経系 眠気，頭痛，頭重，興奮，不安
過敏症 発疹，浮腫
その他 眩暈，倦怠感
（表終了）

ペンタサ錠250mg（250mg1錠）

両 内服 流通

【YJコード】2399009F1149
【薬効分類】2．3．9 その他の消化器官用薬
【一般名】メサラジン
【メーカー】製)杏林製薬
【薬価】27.6円/1T
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】潰瘍性大腸炎（重症除く），クローン病
【用法用量】潰瘍性大腸炎
成人 1日1500mg 1日3回 分割 食後 内服。寛解期 1日1回にできる。
適宜増減，1日2250mgまで。
活動期 必要により 1日4000mg 1日2回 分割 内服。
小児 1日30～60mg／kg 1日3回 分割 食後 内服。適宜増減，1日2250mgまで。
クローン病
成人 1日1500～3000mg 1日3回 分割 食後 内服。適宜減量。
小児 1日40～60mg／kg 1日3回 分割 食後 内服。適宜増減。
注意
1．1日4000mgへの増量は，再燃寛解型で中等症の潰瘍性大腸炎（直腸炎型除く）に行うよう考慮。
2．1日4000mgを，8週間を超え投与した時の有効性は未確立，漫然と1日4000mgの投与を継続しない。
3．メサラジン注腸剤・坐剤と併用時は，メサラジンの総量増加を考慮し，肝・腎機能低下，高齢者等には適宜減量。併用時に異常があれば，減量・中止等の処置。

■禁忌

【禁忌】1．重篤な腎障害。
2．重篤な肝障害。
3．本剤の成分に過敏症の既往。
4．サリチル酸エステル類・サリチル酸塩類に過敏症の既往。

2 個々の器官系用医薬品

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 間質性肺疾患(頻度不明)(好酸球性肺炎, 肺胞炎, 肺臓炎, 間質性肺炎等)(発熱, 咳, 呼吸困難, 胸部X線異常等)。
2. 心筋炎(0. 1%未満), 心膜炎(頻度不明), 胸膜炎(頻度不明)(胸水, 胸部痛, 心電図異常等)。
3. 間質性腎炎, ネフローゼ症候群, 腎機能低下, 急性腎障害(各頻度不明)。
4. 再生不良性貧血, 汎血球減少, 無顆粒球症(各頻度不明), 血小板減少症(0. 1%未満)。
5. 肝炎(0. 1%未満), 肝機能障害(頻度不明)(AST, ALT, γ－GTPの上昇等), 黄疸(0. 1%未満)。
6. 膵炎(0. 1%未満)。
7. 中毒性表皮壊死融解症(頻度不明), 皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)。
8. 薬剤性過敏症症候群(頻度不明)(発疹, 発熱, 肝機能障害, リンパ節腫脹, 白血球増加, 好酸球増多, 異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状), ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0. 1～1%未満 0. 1%未満 頻度不明
皮膚 発疹, 掻痒感, 丘疹 紅斑, 蕁麻疹 脱毛
消化器 下痢 腹痛, 血便, 下血, アミラーゼ上昇, 嘔気, 腹部膨満感, 食欲不振, 便秘, 口内炎 粘液便, 嘔吐 舌・口腔内・胃内容物・便等の変色(黒色等)
肝臓 AST・ALT・γ－GTP・AI－P・ビリルビンの上昇等の肝機能異常
腎臓 クレアチニン・尿中NAG・尿中ミクログロブリンの上昇・尿蛋白等の腎機能異常 尿着色
血液 白血球減少, 好酸球増多, 貧血
その他 発熱, 頭痛, 関節痛, 全身倦怠感 浮腫, 筋肉痛, CK上昇 むくみ, 末梢神経障害, 眩暈, 胸部痛, 頚部痛, ループス様症候群, CRP上昇
(表終了)

ホスアプレピタント点滴静注用150mg「NK」(150mg1瓶)

内 注射 後発 流通

【YJコード】2391405D1039
【薬効分類】2. 3. 9 その他の消化器官用薬
【一般名】ホスアプレピタントメグルミン
【先発品】プロイメンド点滴静注用150mg
【メーカー】製)日本化薬
【薬価】5054円/1V
【薬価収載日】2021/12/10
【標榜薬効】選択的NK1受容体拮抗型制吐剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】抗悪性腫瘍剤(シスプラチン等)投与に伴う消化器症状(悪心, 嘔吐)(遅発期含む)
注意
強い悪心, 嘔吐が生じる抗悪性腫瘍剤(シスプラチン等)の投与時のみ使用。
【用法用量】1. 成人・12歳以上の小児
他の制吐剤との併用 1回150mg 抗悪性腫瘍剤投与1日目に1回点滴静注。
2. 生後6ヵ月以上の乳幼児・12歳未満の小児
他の制吐剤との併用 1回3mg／kg 抗悪性腫瘍剤投与1日目に1回点滴静注。150mgまで。
注意
1. コルチコステロイド・5－HT3受容体拮抗型制吐剤と併用して使用。コルチコステロイドの用量は, 本剤又は活性本体アプレピタントとコルチコステロイドの薬物相互作用を考慮して適宜減量。
2. 投与速度の増加・投与濃度の上昇により, 注射部位障害の可能性, 本剤1バイアル(ホスアプレピタントとして150mg)を5mLの生食で溶解し, 下記の通り点滴静注。
成人・12歳以上の小児
100～250mL(最終濃度が0. 6～1. 5mg／mL)となるように生食で希釈し, 抗悪性腫瘍剤の投与1時間前に30分間かけて点滴静注。
生後6ヵ月以上の乳幼児・12歳未満の小児
3mg／kgに相当する量を最終濃度が0. 6～1. 5mg／mLとなるように生食で希釈し, 抗悪性腫瘍剤の投与1時間30分前に60分間かけて点滴静注。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分・アプレピタントに過敏症の既往。
2. ピモジドの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)(発熱, 紅斑, 掻痒感, 眼充血, 口内炎等)。
2. 穿孔性十二指腸潰瘍(頻度不明)。
3. ショック, アナフィラキシー(各頻度不明)(全身発疹, 潮紅, 血管浮腫, 紅斑, 呼吸困難, 意識消失, 血圧低下等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5～10%未満 5%未満 頻度不明
皮膚 発疹 掻痒, 紅斑, 皮膚病変, 光線過敏症, ざ瘡, 多汗症, 脂性肌, 蕁麻疹
精神神経系 頭痛 眩暈, 眠気, 不眠症, 不安, 多幸症, 異常な夢, 認知障害, 失見当識
循環器 潮紅 徐脈, 動悸, 頻脈, 不整脈, ほてり, 血圧上昇
消化器 便秘 下痢, 腹痛, 腹部不快感, 口内炎 悪心, 嘔吐, 鼓腸, 消化不良, おくび, 胃炎, 腸炎, 胃食道逆流性疾患, 口内乾燥, 食欲不振, 腹部膨満
呼吸器 しゃっくり 咳嗽 咽頭炎, 後鼻漏, くしゃみ, 咽喉刺激感
肝臓 ALTの上昇 AST, AI－P, γ－GTP, ビリルビンの上昇
腎臓 蛋白尿, 尿糖 BUN上昇, クレアチニン上昇, 頻尿, 多尿, 排尿困難, 血尿
血液 リンパ球数減少 貧血, 好中球数減少, 白血球数減少, 血小板数減少, 単球数減少
筋骨格系 筋痙攣, 筋痛, 四肢痛
注射部 疼痛, 掻痒感, 紅斑, 硬結, 腫脹 血栓性静脈炎
その他 倦怠感, 浮腫, 味覚異常, 低ナトリウム血症 胸部不快感, 疲労, 無力症, 嗜眠, 発熱, 耳鳴, 疼痛, 粘膜の炎症, 体重増加, 体重減少, 多飲症, 高血糖, 口渇, 脱水, アルブミン減少, 低カリウム血症, 低クロール血症, 結膜炎, ブドウ球菌感染症, カンジダ症
(表終了)

ポリフル細粒83. 3%(83. 3%1g)

両 内服 流通

【YJコード】2399011C1050
【薬効分類】2. 3. 9 その他の消化器官用薬
【一般名】ポリカルボフィルカルシウム
【メーカー】製)ヴィアトリス製薬 販)アボットジャパン 販)ヴィアトリス・ヘルスケア
【薬価】14.9円/1g
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】過敏性腸症候群治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】過敏性腸症候群の便通異常(下痢, 便秘), 消化器症状
注意
対症療法。
【用法用量】成人 1日1. 5～3g 1日3回 分割 食後 水とともに 内服。
注意
1. 1日量は下記。
(表開始)
1日量
本剤 1. 8～3. 6g
(表終了)
2. 下痢状態 1日1. 5gから開始。
3. 症状の改善なければ, 長期に漫然と使用しない(2週間)。

■禁忌
【禁忌】1. 急性腹部疾患(虫垂炎, 腸出血, 潰瘍性結腸炎等)。
2. 術後イレウス等の胃腸閉塞を引きおこすおそれ。
3. 高カルシウム血症。
4. 腎結石。
5. 腎不全(軽度・透析中除く)。
6. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～2%未満 頻度不明
過敏症 発疹, 掻痒感
血液 白血球減少
消化器 嘔気・嘔吐, 口渇, 腹部膨満感, 下痢, 便秘, 腹痛, 腹鳴
肝臓 AST上昇, ALT上昇 γ－GTP上昇, AI－P上昇, 総ビリルビン上昇, LDH上昇
その他 浮腫, 頭痛, 尿潜血陽性, 尿蛋白陽性
(表終了)

メトクロプラミド注10mg「NIG」(0. 5%2mL1管)

両 注射 後発 流通

【YJコード】2399401A1156
【薬効分類】2. 3. 9 その他の消化器官用薬
【一般名】塩酸メトクロプラミド
【先発品】プリンペラン注射液10mg
【メーカー】製)日医工岐阜工場 販)武田薬品工業
【薬価】61円/1A
【薬価収載日】2022/08/17
【標榜薬効】消化器機能異常治療剤

2 個々の器官系用医薬品

■効能効果・用法用量
【効能効果】○下記の消化器機能異常（悪心・嘔吐・食欲不振・腹部膨満感）
胃炎，胃・十二指腸潰瘍，胆嚢・胆道疾患，腎炎，尿毒症，乳幼児嘔吐，薬剤（制癌剤・抗生剤・抗結核剤・麻酔剤）投与時，胃内・気管内挿管時，放射線照射時，開腹術後
○X線検査時のバリウムの通過促進
【用法用量】成人　1回メトクロプラミド7．67mg　1日1～2回　筋注・静注。
適宜増減。
注意
1回量は下記。
塩酸メトクロプラミド　10mg，注射液1管。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．褐色細胞腫・パラガングリオーマの疑い。
3．消化管に出血，穿孔，器質的閉塞。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，喉頭浮腫，蕁麻疹等）。
2．悪性症候群（頻度不明）（無動緘黙，強度の筋強剛，嚥下困難，頻脈，血圧の変動，発汗等，発熱，白血球の増加，血清CKの上昇，ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下），高熱の持続，意識障害，呼吸困難，循環虚脱，脱水症状，急性腎障害，死亡。
3．意識障害（頻度不明）。
4．痙攣（頻度不明）。
5．遅発性ジスキネジア（頻度不明）（口周部等の不随意運動）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
錐体外路症状 手指振戦，筋硬直，頸・顔部の攣縮，眼球回転発作，焦燥感
内分泌 無月経，乳汁分泌，女性型乳房
消化器 胃の緊張増加，腹痛，下痢，便秘
循環器 血圧降下，頻脈，不整脈
精神神経系 眠気，頭痛，頭重，興奮，不安
過敏症 発疹，浮腫
その他 眩暈，倦怠感
（表終了）

モサプリドクエン酸塩錠5mg「日医工」（5mg1錠）
両　内服　流通

【YJコード】2399010F2245
【薬効分類】2．3．9　その他の消化器官用薬
【一般名】モサプリドクエン酸塩水和物
【メーカー】製）日医工
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2012/12/14
【標榜薬効】消化管運動機能改善剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．慢性胃炎に伴う消化器症状（胸やけ，悪心・嘔吐）
2．経口腸管洗浄剤によるバリウム注腸X線造影検査前処置の補助
注意
経口腸管洗浄剤によるバリウム注腸X線造影検査前処置の補助
塩化ナトリウム，塩化カリウム，炭酸水素ナトリウム，無水硫酸ナトリウム含有経口腸管洗浄剤（ニフレック配合内用剤）以外の経口腸管洗浄剤との併用による臨床試験は未実施。
【用法用量】慢性胃炎に伴う消化器症状（胸やけ，悪心・嘔吐）
成人　1日15mg　1日3回　分割　食前又は食後　内服。
経口腸管洗浄剤によるバリウム注腸X線造影検査前処置の補助
成人　開始時　20mg　経口腸管洗浄剤（約180mL）で　内服。終了後20mg　少量の水で　内服。
注意
慢性胃炎に伴う消化器症状（胸やけ，悪心・嘔吐）
一定期間（2週間）投与後，消化器症状の改善を評価し，投与継続の必要性を検討。

■副作用
【副作用】重大な副作用
劇症肝炎，重篤な肝機能障害（著しいAST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明），死亡。
その他の副作用（発現時中止等）（慢性胃炎に伴う消化器症状（胸やけ，悪心・嘔吐））
（表開始）
発現部位等 1～2%未満 1%未満 頻度不明
過敏症　浮腫 発疹，蕁麻疹
血液 好酸球増多 白血球減少
消化器 下痢・軟便 口渇，味覚異常，腹痛，嘔吐 嘔気，腹部膨満感，口内しびれ感（舌，口唇等含む）
肝臓　AST，ALT，AI－P，γ－GTP，ビリルビンの上昇
循環器　心悸亢進
精神神経系　眩暈・ふらつき，頭痛
その他 中性脂肪の上昇 倦怠感 振戦
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（経口腸管洗浄剤によるバリウム注腸X線造影検査前処置の補助）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 1%未満
消化器 腹部膨満感，嘔気，腹痛 胃部不快感，おくび
肝臓　ビリルビンの上昇
精神神経系 頭痛 眠気
その他 尿潜血，尿蛋白 胸部不快感，寒気，倦怠感，顔面腫脹，LDHの上昇
（表終了）

リアルダ錠1200mg（1200mg1錠）
両　内服　流通

【YJコード】2399009F4024
【薬効分類】2．3．9　その他の消化器官用薬
【一般名】メサラジン
【メーカー】製）持田製薬
【薬価】154.5円/1T
【薬価収載日】2016/11/18
【標榜薬効】潰瘍性大腸炎治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】潰瘍性大腸炎（重症除く）
【用法用量】成人　メサラジン　1日2400mg　1日1回　食後　内服。
活動期　メサラジン　1日4800mg　1日1回　食後　内服。
適宜減量。
注意
1．1日4800mgを投与時は，投与開始8週間を目安に有効性を評価し，漫然と継続しない。
2．メサラジン注腸剤・坐剤と併用時は，メサラジンの総量増加を考慮し，肝・腎機能低下・高齢者等には適宜減量。併用時に異常あれば，減量・中止等の処置。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．サリチル酸塩類に過敏症の既往。
3．重篤な腎障害。
4．重篤な肝障害。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．再生不良性貧血，汎血球減少症，無顆粒球症，白血球減少症，好中球減少症，血小板減少症（各頻度不明）。
2．心膜炎（0．1～1%未満），心筋炎（頻度不明），胸膜炎（頻度不明）（胸部痛，心電図異常，胸水等）。
3．間質性肺疾患（間質性肺炎，器質化肺炎，胞隔炎，好酸球性肺炎等）（0．1～1%未満）（呼吸困難，胸痛，咳嗽）。
4．膵炎（頻度不明）。
5．間質性腎炎，ネフローゼ症候群，腎不全（各頻度不明）。
6．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），肝炎，黄疸（各頻度不明）。
7．中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），皮膚粘膜眼症候群（頻度不明）。
8．薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 0．1～1%未満 頻度不明
過敏症　掻痒症，発疹，アレルギー反応 蕁麻疹，顔面浮腫，血管浮腫
血液　貧血，好酸球数増加
消化器 潰瘍性大腸炎の悪化，アミラーゼ増加 腹部膨満，腹痛，下痢，血便排泄 大腸炎，消化不良，鼓腸，悪心，嘔吐
肝臓 ビリルビン増加 AI－P増加，ALT増加，AST増加，γ－GTP増加
腎臓・泌尿器 尿中N－アセチル－β－D－グルコサミニダーゼ（NAG）増加 尿中蛋白陽性，尿中血陽性 クレアチニン増加
その他　頭痛，発熱，脱毛症，浮動性眩暈，傾眠，筋肉痛，CRP増加 無力症，疲労，関節痛，背部痛，頻脈，ざ瘡，ループス様症候群
（表終了）

2 個々の器官系用医薬品

2．4 ホルモン剤（抗ホルモン剤を含む）

2．4．1 脳下垂体ホルモン剤

HMG注射用150単位「F」（150単位1管（溶解液付））

内 注射 自注 流通

【YJコード】2413400D4123
【薬効分類】2．4．1 脳下垂体ホルモン剤
【一般名】ヒト下垂体性性腺刺激ホルモン
【メーカー】製)富士製薬工業
【薬価】1754円/1A
【薬価収載日】2022/04/01
【標榜薬効】ヒト下垂体性性腺刺激ホルモン剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇間脳性（視床下部性）無月経・下垂体性無月経の排卵誘発
〇生殖補助医療の調節卵巣刺激
注意
間脳性（視床下部性）無月経・下垂体性無月経の排卵誘発
1．患者の選択
一般不妊治療の対象は不妊症のうち，間脳・下垂体前葉の機能・器質的障害に由来する性腺刺激ホルモン低分泌無月経，下記に注意。
（1）．対象患者
エストロゲン・プロゲステロンテストで初めて反応する第2度無月経・抗エストロゲン療法（クロミフェンクエン酸塩，シクロフェニル等）が奏効しない第1度無月経に投与。
（2）．対象外患者
[1]．子宮性無月経は除外のため，患者の状態（例 性腺刺激ホルモン・エストロゲン・プロゲステロン分泌，頸管粘液，基礎体温，超音波所見等）を詳細に検査。
[2]．原発性卵巣不全による尿中性腺刺激ホルモン分泌が高い，副腎・甲状腺機能の異常による無月経，頭蓋内に病変（下垂体腫瘍等），無排卵症以外の不妊症は除外。
生殖補助医療の調節卵巣刺激
2．投与の適否は，患者・パートナーの検査を実施後判断。原発性卵巣不全，妊娠不能な性器奇形，妊娠に不適切な子宮筋腫の合併等の妊娠に不適当な時は投与しない。甲状腺機能低下，副腎機能低下，高プロラクチン血症，下垂体・視床下部腫瘍等があれば，当該疾患の治療を優先。
【用法用量】間脳性（視床下部性）無月経・下垂体性無月経の排卵誘発
1日75～150単位　連続筋注（添付溶解液で溶解）。
頸管粘液量が約300mm3以上，羊歯状形成（結晶化）で第3度を指標に（4～20日，通常5～10日間），ヒト絨毛性性腺刺激ホルモンに切りかえる。
厳密な経過観察が必要。
生殖補助医療の調節卵巣刺激
150又は225単位　1日1回　皮下注・筋注。1日450単位まで適宜用量調節，卵胞が十分に発育するまで継続。
注意
生殖補助医療の調節卵巣刺激
1．投与開始時期は，組み合わせる薬剤により適切に判断。
2．患者により卵巣の反応性は異なるので，開始量は患者特性を考慮して決定（減量・増量）。用量調節は，超音波検査や血清エストラジオール濃度の測定で確認した卵巣反応で行う。用量調節は投与開始5日後から可能，増量幅は150単位以下とする。
3．超音波検査，血清エストラジオール濃度の測定で卵胞発育が確認されるまで投与継続。最終投与後，最終的な卵胞成熟を誘起し，採卵。

■禁忌

【禁忌】1．エストロゲン依存性悪性腫瘍（例 乳癌，子宮内膜癌）・その疑い。
2．卵巣腫瘍，多嚢胞性卵巣症候群が原因でない卵巣腫大。
3．妊婦・妊娠の可能性。
4．活動性の血栓塞栓性疾患。
5．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
卵巣過剰刺激症候群（頻度不明）（卵巣腫大，下腹部痛，下腹部緊迫感，腹水，胸水，呼吸困難），卵巣破裂，卵巣茎捻転，脳梗塞，肺塞栓含む血栓塞栓症，肺水腫，腎不全等。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発赤，発疹，ほてり
投与部位 疼痛
その他 悪心，頻尿，しびれ感，頭痛，浮腫，尿量増加
（表終了）

アトニンーO注5単位（5単位1管）

内 注射 流通

【YJコード】2414400A2075
【薬効分類】2．4．1 脳下垂体ホルモン剤
【一般名】オキシトシン
【メーカー】製)あすか製薬　販)住友製薬　販)武田薬品工業　販)大日本住友製薬
【薬価】151円/1A
【薬価収載日】2005/09/21
【標榜薬効】脳下垂体後葉ホルモン剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】子宮収縮の誘発，促進，子宮出血の治療で，下記に使用
分娩誘発，微弱陣痛，弛緩出血，胎盤娩出前後，子宮復古不全，帝王切開術（胎児の娩出後），流産，人工妊娠中絶
【用法用量】1．分娩誘発，微弱陣痛
点滴静注法 5～10単位　速度を1～2ミリ単位／分から開始（5%ブドウ糖液（500mL）等に混和）。陣痛発来状況及び胎児心拍等を観察しながら適宜増減。点滴速度は20ミリ単位／分まで。
2．弛緩出血，胎盤娩出前後，子宮復古不全，流産，人工妊娠中絶
（1）．点滴静注法 5～10単位（5%ブドウ糖液（500mL）等に混和）子宮収縮状況等を観察しながら適宜増減。
（2）．静注法（弛緩出血，胎盤娩出前後） 5～10単位　緩徐に静注。
（3）．筋注法 5～10単位　緩徐に筋注。
3．帝王切開術（胎児の娩出後）
（1）．点滴静注法 5～10単位（5%ブドウ糖液（500mL）等に混和）子宮収縮状況等を観察しながら適宜増減。
（2）．筋注法 5～10単位　緩徐に筋注。
（3）．子宮筋注法 5～10単位　子宮筋層内へ直接投与。
注意
弛緩出血，胎盤娩出前後，子宮復古不全，流産，人工妊娠中絶，帝王切開術（胎児の娩出後）
1．筋注法，静注法は，弛緩出血時や，必要時のみ使用を考慮。
分娩誘発，微弱陣痛
2．子宮筋の感受性は個人差が大きく，少量でも過強陣痛になること等を考慮し，少量（2ミリ単位／分以下）から開始し，陣痛発来状況，胎児心音を観察し適宜増減。過強陣痛等は，点滴開始初期におこることが多い。
3．点滴速度をあげる時は，一度に1～2ミリ単位／分の範囲で，30分以上経過観察し徐々に行う。点滴速度を20ミリ単位／分に上げても有効陣痛に至らない時は，増量しない。
4．精密持続点滴装置を用いて投与。

■禁忌

【禁忌】効能共通
1．本剤の成分・オキシトシン類似化合物に過敏症の既往。
分娩誘発，微弱陣痛
2．プロスタグランジン製剤の投与患者。
3．プラステロン硫酸（レボスパ）を投与中・投与後で十分な時間が経過していない患者。
4．吸湿性頸管拡張材（ラミナリア等）を挿入中又はメトロイリンテル挿入後1時間以上経過していない患者。
5．ジノプロストン製剤の投与終了後1時間以上経過していない患者。
6．骨盤狭窄，児頭骨盤不均衡，横位。
7．前置胎盤。
8．常位胎盤早期剥離（胎児生存時）。
9．重度胎児機能不全。
10．過強陣痛。
11．切迫子宮破裂。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（血圧低下，発疹，発赤，掻痒感，血管性浮腫，呼吸困難，チアノーゼ等）。
2．過強陣痛，子宮破裂，頸管裂傷，羊水塞栓症，微弱陣痛，弛緩出血（各頻度不明）等。
3．胎児機能不全（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 過敏症状
新生児 新生児黄疸
循環器 不整脈，ST低下，静注後一過性の血圧下降，血圧上昇等
消化器 悪心，嘔吐等
投与部位 疼痛，硬結
その他 水中毒症状
（表終了）

コートロシン注射用0．25mg（0．25mg1管）

内 注射

【YJコード】2411400D1022

2 個々の器官系用医薬品

【薬効分類】2．4．1 脳下垂体ホルモン剤
【一般名】テトラコサクチド酢酸塩
【メーカー】製)第一三共
【薬価収載日】2009/09/25 【経過措置期限】2021/09/30
【標榜薬効】合成ACTH製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】副腎皮質機能検査
【用法用量】下記量 1日1回 添付溶解液に溶解。必要時 連続2～3日。
筋注・静注(ラピッド・テスト) 0．25mg(本剤 1アンプル)。
点滴静注 0．25～0．5mg(本剤 1～2アンプル) 4～8時間 点滴静注(5%ブドウ糖液，生食，注射用水等に加える)。

■副作用
【副作用】重大な副作用
(頻度不明)
ショック様症状(過敏症状(呼吸困難，血圧低下，チアノーゼ等)，重篤な気管支喘息発作)。

注射用HCG5000単位「F」(5000単位1管)
内 注射 自注 流通

【YJコード】2413402X4099
【薬効分類】2．4．1 脳下垂体ホルモン剤
【一般名】ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン
【メーカー】製)富士製薬工業
【薬価】2709円/1A
【薬価収載日】2001/09/07
【標榜薬効】ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】無排卵症(無月経，無排卵周期症，不妊症)，機能性子宮出血，黄体機能不全症・生殖補助医療の黄体補充，停留睾丸，造精機能不全による男子不妊症，下垂体性男子性腺機能不全症(類宦官症)，思春期遅発症，睾丸・卵巣の機能検査，妊娠初期の切迫流産，妊娠初期に繰り返される習慣性流産，生殖補助医療の卵胞成熟・黄体化，一般不妊治療(体内受精)の排卵誘発・黄体化
注意
無排卵症(不妊症)，生殖補助医療の卵胞成熟・黄体化，一般不妊治療(体内受精)の排卵誘発・黄体化
患者・パートナーの検査を実施し，投与の適否を判断。甲状腺機能低下，副腎機能低下，高プロラクチン血症，下垂体・視床下部腫瘍等があれば，当該疾患の治療を優先。
【用法用量】無排卵症(無月経，無排卵周期症，不妊症)
1日3000～5000単位 筋注。
機能性子宮出血，黄体機能不全症，生殖補助医療の黄体補充
1日1000～3000単位 筋注。
停留睾丸
1回300～1000単位 週1～3回 4～10週まで 筋注，又は1回3000～5000単位 3日間連続 筋注。
造精機能不全による男子不妊症，下垂体性男子性腺機能不全症(類宦官症)，思春期遅発症
1日500～5000単位 週2～3回 筋注。
睾丸機能検査
10000単位 1回 筋注，又は3000～5000単位 3～5日間 筋注。1～2時間後の血中テストステロン値を投与前値と比較。
卵巣機能検査
1000～5000単位 単独又はFSH製剤と併用投与。卵巣の反応性みる。
黄体機能検査
3000～5000単位 高温期に3～5回 隔日投与。尿中ステロイド排泄量の変化みる。
妊娠初期の切迫流産，妊娠初期に繰り返される習慣性流産
1日1000～5000単位 筋注。
厳密な経過観察が必要。
生殖補助医療の卵胞成熟・黄体化，一般不妊治療(体内受精)の排卵誘発・黄体化
5000単位 単回 筋注・皮下注，投与量を10000単位にできる。
注意
生殖補助医療の卵胞成熟・黄体化，一般不妊治療(体内受精)の排卵誘発・黄体化
1．超音波検査や必要により血清エストラジオール濃度の測定で十分な卵胞の発育を確認し投与。
2．卵巣過剰刺激症候群の発現リスクが低く，5000単位では効果不十分と判断された時のみ，10000単位の投与を考慮。
生殖補助医療の卵胞成熟・黄体化
3．生殖補助医療の使用では，採卵の34～36時間前を目安に投与。

■禁忌
【禁忌】効能共通
1．アンドロゲン依存性悪性腫瘍(例 前立腺癌)・その疑い。
2．性腺刺激ホルモン製剤に過敏症の既往。
3．性早熟症。
無排卵症(不妊症)，生殖補助医療の黄体補充，生殖補助医療の卵胞成熟・黄体化，一般不妊治療(体内受精)の排卵誘発・黄体化
4．活動性の血栓塞栓性疾患。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック(頻度不明)(顔面潮紅，胸内苦悶，呼吸困難等)。
2．卵巣過剰刺激症候群(頻度不明)(卵巣腫大，下腹部痛，下腹部緊迫感，腹水，胸水，呼吸困難)，卵巣破裂，卵巣茎捻転，脳梗塞，肺塞栓含む血栓塞栓症，肺水腫，腎不全等。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹等
精神神経系 眩暈，頭痛，興奮，不眠，抑うつ，疲労感
内分泌 性早熟症 女性(嗄声，多毛，陰核肥大，ざ瘡等の男性化症状)
男性(性欲亢進，陰茎持続勃起，ざ瘡，女性型乳房)
投与部位 疼痛，発赤，硬結
(表終了)

デスモプレシン点鼻スプレー2．5μg「フェリング」(125μg1瓶)
両 外用 流通
劇

【YJコード】2419700R1030
【薬効分類】2．4．1 脳下垂体ホルモン剤
【一般名】デスモプレシン酢酸塩水和物
【メーカー】製)フェリング・ファーマ 販)キッセイ薬品工業
【薬価】2257.5円/1V
【薬価収載日】2021/12/10
【標榜薬効】中枢性尿崩症用剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】中枢性尿崩症
注意
多飲・多尿・低比重尿を示す疾患として中枢性尿崩症(バソプレシン感受性尿崩症)・心因性多飲症・腎性尿崩症・高カルシウム血症による多尿症がある。多尿を鑑別し，バソプレシン欠乏による尿崩症のみに使用。
【用法用量】小児 1回2．5～5μg(本剤 1～2噴霧) 1日1～2回 鼻腔内投与。
成人 1回5～10μg(本剤 2～4噴霧) 1日1～2回 鼻腔内投与。
適宜増減。

■副作用
【副作用】重大な副作用
重篤な水中毒(頻度不明)(脳浮腫，昏睡，痙攣等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．5～5%未満 0．5%未満
代謝 浮腫，低ナトリウム血症
精神神経系 頭痛 強直性痙攣，眠気，眩暈，不眠
過敏症 全身掻痒感，発疹，顔面浮腫，蕁麻疹
消化器 嘔気・嘔吐 食欲不振，腹痛
循環器 顔面蒼白，のぼせ
その他 鼻粘膜刺激 鼻炎，発汗，全身倦怠感，鼻出血，発熱
(表終了)

ピトレシン注射液20 (20単位1管)
内 注射 流通

【YJコード】2414402A1035
【薬効分類】2．4．1 脳下垂体ホルモン剤
【一般名】バソプレシン
【メーカー】製)ファイザー 販)第一三共
【薬価】528円/1A
【薬価収載日】2008/10/20
【標榜薬効】脳下垂体後葉ホルモン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下垂体性尿崩症，下垂体性・腎性尿崩症の鑑別診断，腸内ガスの除去(鼓腸，胆嚢撮影の前処置，腎盂撮影の前処置)，食道静脈瘤出血の緊急処置
【用法用量】下垂体性尿崩症
成人 1回2～10単位 1日2～3回 皮下注・筋注。
適宜増減。
下垂体性・腎性尿崩症の鑑別診断
成人 5～10単位 皮下注・筋注，又は0．1単位 静注。その後尿量の減少が著しく，かつ尿比重が1．010以上に上昇すれば，バソプレシン反応性尿崩症の可能性。
適宜増減。
腸内ガスの除去(鼓腸，胆嚢撮影の前処置，腎盂撮影の前処置)
成人 5～10単位 皮下注・筋注。
適宜増減。
食道静脈瘤出血の緊急処置

2 個々の器官系用医薬品

成人 20単位 0.1～0.4単位／分で 持続静注(5%ブドウ糖液等100～200mLに混和)。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分にアナフィラキシー・過敏症の既往。
2. 冠動脈硬化症(心筋梗塞症, 狭心症等)。
3. 急速な細胞外水分の増加が危険な病態(心不全, 喘息, 妊娠高血圧症候群, 片頭痛, てんかん等)。
4. 血中窒素貯留のある慢性腎炎。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック(頻度不明)。
2. 横紋筋融解症(頻度不明)(急激な腎機能悪化を伴う)(筋肉痛, 脱力感, CKの上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇)。
3. 心不全(頻度不明), 心拍動停止(頻度不明)。
4. 精神錯乱(頻度不明), 昏睡(頻度不明)。
5. 水中毒(頻度不明)。
6. 中枢性神経障害(頻度不明)(中心性橋脱髄症(不可逆性の中枢性神経障害))。
7. 無尿(頻度不明)。
8. 心室頻拍(Torsades de pointes含む)(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹, 蕁麻疹, 潮紅
循環器 心筋虚血, 心室性期外収縮, 冠動脈攣縮, 血管攣縮, 胸痛, 徐脈, 不整脈, 動悸, 体温下降, 血圧上昇
呼吸器 気管支攣縮, 呼吸困難, 喘鳴
精神神経系 頭痛, 眩暈, 失神, 不安, 嗜眠, 振戦
消化器 悪心・嘔吐, 下痢, 腹痛, 排便切迫, おくび, 鼓腸, 腹鳴, 腸管痙攣
子宮 子宮収縮, 月経過多
その他 乏尿, 衰弱, 脱力感, 体重増加, 皮膚蒼白, 皮膚壊死, 悪寒, 発熱, 発汗
(表終了)

2.4.3 甲状腺, 副甲状腺ホルモン剤

オスタバロ皮下注カートリッジ1.5mg(1.5mg0.75mL1筒)
両 注射 自注 流通

【YJコード】2439403A1020
【薬効分類】2.4.3 甲状腺, 副甲状腺ホルモン剤
【一般名】アバロパラチド酢酸塩
【メーカー】製)帝人ファーマ
【薬価】16090円/1筒
【薬価収載日】2022/11/16
【標榜薬効】骨粗鬆症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】骨折の危険性の高い骨粗鬆症
注意
低骨密度, 既存骨折, 加齢, 大腿骨頚部骨折の家族歴等の骨折の危険因子を有する患者が対象。
【用法用量】成人 1回80μg 1日1回 皮下注。
投与は18ヵ月間まで。
注意
1. 投与期間の上限を超えた時の安全性・有効性は未確立, 投与期間の上限を守る。
2. 本剤の投与をやむを得ず一時中断後に再投与する場合, 投与日数の合計は18ヵ月まで。18ヵ月の投与終了後, 再度18ヵ月を繰り返さない。
3. テリパラチド製剤の投与経験者に投与した臨床試験は未実施, 安全性は未確立。

■禁忌
【禁忌】1. 高カルシウム血症。
2. 下記の骨肉腫発生のリスクが高い患者
(1). 骨ページェット病。
(2). 原因不明のAlーP高値。
(3). 小児等・若年者で骨端線が閉じていない。
(4). 骨への影響が考えられる放射線治療の既往。
3. 原発性の悪性骨腫瘍, 転移性骨腫瘍。
4. 骨粗鬆症以外の代謝性骨疾患(副甲状腺機能亢進症等)。
5. 妊婦・妊娠の可能性。
6. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
アナフィラキシー(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
心臓 動悸 頻脈
胃腸 悪心 上腹部痛, 嘔吐 腹部膨満
全身・投与部位 注射部位反応(紅斑, 発赤, 内出血, 疼痛, 掻痒感, 出血, 腫脹, 浮腫, 変色), 無力症 疲労, 倦怠感
代謝・栄養障害 高カルシウム血症
筋骨格 筋痙縮 四肢痛, 背部痛
神経系 浮動性眩暈 頭痛
腎・尿路 高カルシウム尿症 尿路結石症
皮膚 掻痒症, 発疹
その他 尿中カルシウム／クレアチニン比増加 血清尿酸増加, 起立性低血圧, 心拍数増加, 回転性眩暈
(表終了)

チウラジール錠50mg(50mg1錠)
両 内服 流通

【YJコード】2432002F1054
【薬効分類】2.4.3 甲状腺, 副甲状腺ホルモン剤
【一般名】プロピルチオウラシル
【メーカー】製)ニプロESファーマ 販)田辺三菱製薬 販)ニプロ
【薬価】10.1円/1T
【薬価収載日】2008/12/22
【標榜薬効】抗甲状腺剤
【区分】甲状腺薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】甲状腺機能亢進症
【用法用量】成人 初期量 1日300mg 1日3～4回 分割 内服。重症時 1日400～600mg。機能亢進症状が消失時 1～4週間ごと漸減 維持量 1日50～100mg 1日1～2回 分割 内服。
小児 下記初期量 1日2～4回 分割 内服。
5～10歳未満 1日100～200mg。10～15歳未満 1日200～300mg。
機能亢進症状の消失時 1～4週間ごと漸減 維持量 1日50～100mg 1日1～2回 分割 内服。
妊婦 初期量 1日150～300mg 1日3～4回 分割 内服。機能亢進症状の消失時 1～4週間ごと漸減 維持量 1日50～100mg 1日1～2回 分割 内服。正常妊娠時の甲状腺機能検査値を低下しないよう2週間ごと検査, 必要最低限量を投与。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 本剤使用後肝機能の悪化。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 無顆粒球症, 白血球減少(各頻度不明)(発熱, 全身倦怠, 咽頭痛等)。
2. 再生不良性貧血, 低プロトロンビン血症, 第Ⅶ因子欠乏症, 血小板減少, 血小板減少性紫斑病(各頻度不明)。
3. 劇症肝炎, 黄疸(各頻度不明)等の重篤な肝障害。
4. SLE様症状(頻度不明)(発熱, 紅斑, 筋肉痛, 関節痛, リンパ節腫脹, 脾腫等)。
5. 間質性肺炎(頻度不明)(発熱, 咳嗽, 呼吸困難, 胸部X線異常等)。
6. 抗好中球細胞質抗体関連血管炎症候群(頻度不明)(急性進行性腎炎症候群(血尿, 蛋白尿等), 肺出血(感冒様症状等), 肘・膝等の関節痛, 紫斑, 上強膜炎等)。
7. アナフィラキシー(頻度不明)(掻痒, 発疹, 顔面浮腫, 呼吸困難等)。
8. 薬剤性過敏症症候群(頻度不明)(発疹, 発熱, 肝機能障害, リンパ節腫脹, 白血球増加, 好酸球増多, 異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症症状), ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
肝臓 AST上昇, ALT上昇
皮膚 脱毛, 色素沈着, 掻痒感, 紅斑
消化器 悪心・嘔吐, 下痢, 食欲不振
精神神経系 頭痛, 眩暈, 末梢神経異常
過敏症 発疹, 蕁麻疹, 発熱
その他 CK上昇, こむらがえり, 筋肉痛, 倦怠感, リンパ節腫脹, 関節痛, 唾液腺肥大, 浮腫, 味覚異常(苦味, 味覚減退)
(表終了)

チラーヂンS散0.01%(0.01%1g)
両 内服 流通
劇

【YJコード】2431004B1038
【薬効分類】2.4.3 甲状腺, 副甲状腺ホルモン剤
【一般名】レボチロキシンナトリウム水和物
【メーカー】製)あすか製薬 販)武田薬品工業

2 個々の器官系用医薬品

【薬価】59.1円/1g
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】甲状腺ホルモン剤
【区分】甲状腺薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】乳幼児甲状腺機能低下症
【用法用量】乳・幼児　1回10μg／kg(本剤　100mg／kg)　1日1回　内服。
未熟児　1回5μg／kg(本剤　50mg／kg)から開始　8日目から　1回　10μg／kg(本剤　100mg／kg)　1日1回　内服。
適宜増減。
注意
少量から開始し，漸増して維持量とする。

■禁忌
【禁忌】新鮮な心筋梗塞。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 狭心症(頻度不明)。
2. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTP等の著しい上昇，発熱，倦怠感等)，黄疸(各頻度不明)。
3. 副腎クリーゼ(頻度不明)(全身倦怠感，血圧低下，尿量低下，呼吸困難等)。
4. 晩期循環不全(頻度不明)(血圧低下，尿量低下，血清ナトリウム低下等)。
5. ショック(頻度不明)。
6. うっ血性心不全(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 過敏症状
肝臓 肝機能検査値異常(AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇等)
循環器 心悸亢進，脈拍増加，不整脈
精神神経系 頭痛，眩暈，不眠，振戦，神経過敏・興奮・不安感・躁うつ等の精神症状
消化器 嘔吐，下痢，食欲不振
その他 筋肉痛，体重減少，脱力感，皮膚の潮紅，発汗，発熱，倦怠感
(表終了)

チラーヂンS錠25μg（25μg1錠）
両　内服　流通
劇

【YJコード】2431004F2052
【薬効分類】2．4．3　甲状腺，副甲状腺ホルモン剤
【一般名】レボチロキシンナトリウム水和物
【メーカー】製)あすか製薬　販)武田薬品工業
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2012/06/22
【標榜薬効】甲状腺ホルモン剤
【区分】甲状腺薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】粘液水腫，クレチン病，甲状腺機能低下症(原発性・下垂体性)，甲状腺腫
【用法用量】成人　1回25～400μg　1日1回　内服。
開始量　25～100μg，維持量　100～400μg。
適宜増減。
注意
甲状腺機能低下症，粘液水腫
少量から開始し，漸増して維持量とする。

■禁忌
【禁忌】新鮮な心筋梗塞。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 狭心症(頻度不明)。
2. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTP等の著しい上昇，発熱，倦怠感等)，黄疸(各頻度不明)。
3. 副腎クリーゼ(頻度不明)(全身倦怠感，血圧低下，尿量低下，呼吸困難等)。
4. 晩期循環不全(頻度不明)(血圧低下，尿量低下，血清ナトリウム低下等)。
5. ショック(頻度不明)。
6. うっ血性心不全(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 過敏症状
肝臓 肝機能検査値異常(AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇等)
循環器 心悸亢進，脈拍増加，不整脈
精神神経系 頭痛，眩暈，不眠，振戦，神経過敏・興奮・不安感・躁うつ等の精神症状
消化器 嘔吐，下痢，食欲不振
その他 筋肉痛，月経障害，体重減少，脱力感，皮膚の潮紅，発汗，発熱，倦怠感
(表終了)

チラーヂンS錠50μg（50μg1錠）
両　内服　流通
劇

【YJコード】2431004F1056
【薬効分類】2．4．3　甲状腺，副甲状腺ホルモン剤
【一般名】レボチロキシンナトリウム水和物
【メーカー】製)あすか製薬　販)武田薬品工業
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2012/06/22
【標榜薬効】甲状腺ホルモン剤
【区分】甲状腺薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】粘液水腫，クレチン病，甲状腺機能低下症(原発性・下垂体性)，甲状腺腫
【用法用量】成人　1回25～400μg　1日1回　内服。
開始量　25～100μg，維持量　100～400μg。
適宜増減。
注意
甲状腺機能低下症，粘液水腫
少量から開始し，漸増して維持量とする。

■禁忌
【禁忌】新鮮な心筋梗塞。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 狭心症(頻度不明)。
2. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTP等の著しい上昇，発熱，倦怠感等)，黄疸(各頻度不明)。
3. 副腎クリーゼ(頻度不明)(全身倦怠感，血圧低下，尿量低下，呼吸困難等)。
4. 晩期循環不全(頻度不明)(血圧低下，尿量低下，血清ナトリウム低下等)。
5. ショック(頻度不明)。
6. うっ血性心不全(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 過敏症状
肝臓 肝機能検査値異常(AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇等)
循環器 心悸亢進，脈拍増加，不整脈
精神神経系 頭痛，眩暈，不眠，振戦，神経過敏・興奮・不安感・躁うつ等の精神症状
消化器 嘔吐，下痢，食欲不振
その他 筋肉痛，月経障害，体重減少，脱力感，皮膚の潮紅，発汗，発熱，倦怠感
(表終了)

テリパラチドBS皮下注キット600μg「モチダ」（600μg1キット）
両　注射　自注　後発　流通

【YJコード】2439402G1029
【薬効分類】2．4．3　甲状腺，副甲状腺ホルモン剤
【一般名】テリパラチド(遺伝子組換え)
【メーカー】製)持田製薬
【薬価】16206円/1kit
【薬価収載日】2019/11/27
【標榜薬効】骨粗鬆症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】骨折の危険性の高い骨粗鬆症
注意
低骨密度，既存骨折，加齢，大腿骨頸部骨折の家族歴等の骨折の危険因子を有する患者が対象。
【用法用量】成人　1回20μg　1日1回　皮下注。
投与は24ヵ月間まで。
注意
1. 投与期間の上限を超えた時の安全性は未確立，投与期間の上限を守る。
2. 一時中断後の再投与でも，投与日数の合計が24ヵ月を超えない。投与終了後，再度24ヵ月の投与を繰り返さない。
3. テリパラチド酢酸塩製剤から本剤に切りかえた臨床試験は未実施，安全性は未確立，投与期間の上限は未検討。
4. アバロパラチド製剤から本剤に切りかえた臨床試験は未実施，安全性は未確立。

2 個々の器官系用医薬品

■禁忌
【禁忌】1. 高カルシウム血症。
2. 下記の骨肉腫発生のリスクが高い患者
(1). 骨ページェット病。
(2). 原因不明のAlーP高値。
(3). 小児等・若年者で骨端線が閉じていない。
(4). 骨への影響が考えられる放射線治療の既往。
3. 原発性の悪性骨腫瘍，転移性骨腫瘍。
4. 骨粗鬆症以外の代謝性骨疾患(副甲状腺機能亢進症等)。
5. 妊婦・妊娠の可能性，授乳婦。
6. 本剤の成分・テリパラチド酢酸塩に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. アナフィラキシー(頻度不明)(呼吸困難，血圧低下，発疹等)。
2. ショック(頻度不明)，一過性の急激な血圧低下に伴う意識消失(頻度不明)，心停止，呼吸停止。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
消化器 悪心，上腹部痛 腹部不快感，嘔吐，口渇 食欲不振，胃炎
精神神経系 頭痛 浮動性眩暈，体位性眩暈，傾眠 痙攣，神経過敏
筋・骨格系 筋痙縮 関節痛，関節炎，筋肉痛，四肢痛
内分泌・代謝系 血中尿酸上昇，高尿酸血症，AlーP上昇 血中カリウム上昇 高カルシウム血症
循環器 血圧低下，動悸 心電図ST部分下降，心電図T波振幅減少
皮膚 発疹 掻痒症，紅斑
腎臓 血中クレアチニン上昇，血中尿素上昇 腎結石症 頻尿
呼吸器 呼吸困難
眼 結膜出血
肝臓 肝機能異常(AST上昇，ALT上昇，γーGTP上昇)
血液 白血球数増加
注射部位 注射部位反応(紅斑，血腫，疼痛，硬結，掻痒感，変色，腫脹等)
過敏症 口腔粘膜浮腫，顔面浮腫，全身性蕁麻疹
その他 脱力感 胸痛，背部痛，胸部不快感，ほてり，倦怠感，熱感
(表終了)

メルカゾール錠5mg（5mg1錠）
両 内服 流通

【YJコード】2432001F1033
【薬効分類】2．4．3 甲状腺，副甲状腺ホルモン剤
【一般名】チアマゾール
【メーカー】製)あすか製薬 販)武田薬品工業 販)中外製薬
【薬価】10.1円/1T
【薬価収載日】2006/12/08
【標榜薬効】抗甲状腺剤
【区分】甲状腺薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】甲状腺機能亢進症
【用法用量】成人 初期量 1日30mg 1日3～4回 分割 内服。
重症時 1日40～60mg。
機能亢進症状が消失時 1～4週間ごと漸減 維持量 1日5～10mg 1日1～2回 分割 内服。
小児 下記初期量 1日2～4回 分割 内服。
5～10歳未満 1日10～20mg。
10～15歳未満 1日20～30mg。
機能亢進症状の消失時 1～4週間ごと漸減 維持量 1日5～10mg 1日1～2回 分割 内服。
妊婦 初期量 1日15～30mg 1日3～4回 分割 内服。
機能亢進症状の消失時 1～4週間ごと漸減 維持量 1日5～10mg 1日1～2回 分割 内服。正常妊娠時の甲状腺機能検査値を低下しないよう2週間ごと検査，必要最低限量を投与。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 汎血球減少，再生不良性貧血，無顆粒球症，白血球減少(各頻度不明)(発熱，全身倦怠，咽頭痛等)。
2. 低プロトロンビン血症，第Ⅶ因子欠乏症，血小板減少，血小板減少性紫斑病(各頻度不明)。
3. 肝機能障害，黄疸(各頻度不明)。
4. 多発性関節炎(頻度不明)，移動性関節炎。
5. SLE様症状(頻度不明)(発熱，紅斑，筋肉痛，関節痛，リンパ節腫脹，脾腫等)。
6. インスリン自己免疫症候群(頻度不明)(低血糖等)。
7. 間質性肺炎(頻度不明)(発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等)。
8. 抗好中球細胞質抗体関連血管炎症候群(頻度不明)(急速進行性腎炎症候群(血尿，蛋白尿等)や肺出血(初発症状 咳嗽，喀血，呼吸困難等)，発熱，関節痛，関節腫脹，皮膚潰瘍，紫斑等のANCA関連血管炎症候群による障害)。
9. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)，急性腎障害。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
肝臓 AST上昇，ALT上昇等
皮膚 脱毛，色素沈着，掻痒感，紅斑，多形紅斑等
消化器 悪心・嘔吐，下痢，食欲不振等
精神神経系 頭痛，眩暈，末梢神経異常等
過敏症 発疹，蕁麻疹，発熱等
筋・骨格 こむらがえり，筋肉痛，関節痛
血液 好酸球増多
その他 CK上昇，倦怠感，リンパ節腫脹，唾液腺肥大，浮腫，味覚異常(味覚減退含む)
(表終了)

2．4．4 たん白同化ステロイド剤

プリモボラン錠5mg（5mg1錠）
両 内服 流通

【YJコード】2449003F1021
【薬効分類】2．4．4 たん白同化ステロイド剤
【一般名】メテノロン酢酸エステル
【メーカー】製)バイエル薬品 販)日本シエーリング
【薬価】12.1円/1T
【標榜薬効】蛋白同化ステロイド剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○骨粗鬆症
○下記による著しい消耗状態
慢性腎疾患，悪性腫瘍，外傷，熱傷
○下記による骨髄の消耗状態
再生不良性貧血
【用法用量】成人 1日10～20mg 1日2～3回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. アンドロゲン依存性悪性腫瘍(例 前立腺癌)・その疑い。
2. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
肝機能障害(AST，ALT，γーGTP等の著しい上昇)，黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 過敏症状
肝臓 AST上昇，ALT上昇
胃腸 悪心，嘔吐
その他(女性) 嗄声，多毛，ざ瘡，色素沈着，月経異常，陰核肥大，性欲亢進
その他(男性) ざ瘡，陰茎肥大，陰萎，持続性勃起，大量継続投与による精子減少・精液減少等の睾丸機能抑制
(表終了)

2．4．5 副腎ホルモン剤

アドレナリン注0．1%シリンジ「テルモ」（0．1%1mL1筒）
内 注射 流通
劇

【YJコード】2451402G1040
【薬効分類】2．4．5 副腎ホルモン剤
【一般名】アドレナリン
【メーカー】製)テルモ
【薬価】353円/1筒
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】アドレナリン注射液

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記による気管支痙攣の緩解
1. 気管支喘息，百日咳
2. 各種疾患・状態に伴う急性低血圧・ショック時の補助治療
3. 心停止の補助治療
注意
効能共通
1. アドレナリン注射液をシリンジに充填した製剤なので，上記以外に使用しない。
各種疾患・状態に伴う急性低血圧・ショック時の補助治療

2 個々の器官系用医薬品

2. 本剤は心筋酸素需要を増加させるため，心原性・出血性・外傷性ショック時で使用しない。
【用法用量】気管支喘息・百日咳による気管支痙攣の緩解，各種疾患又は状態に伴う急性低血圧・ショック時の補助治療，心停止の補助治療
成人　1回0．2～1mg（本剤　0．2～1mL）　皮下注・筋注。
適宜増減。
蘇生等の緊急時　成人　1回0．25mg（本剤　0．25mL）まで　ゆっくり静注（生食等で希釈）。必要時　5～15分ごとに繰り返す。

■禁忌
【禁忌】1．ブチロフェノン系・フェノチアジン系等の抗精神病薬，α遮断薬（アナフィラキシーショックの救急治療時以外）の投与患者。
2．イソプレナリン塩酸塩，ノルアドレナリン等のカテコールアミン製剤，アドレナリン作動薬（蘇生等の緊急時以外）の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．肺水腫（頻度不明）（血圧異常上昇）。
2．呼吸困難（頻度不明）。
3．心停止（頻度不明）（頻脈，不整脈，心悸亢進，胸内苦悶）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
循環器 心悸亢進，胸内苦悶，不整脈，顔面潮紅・蒼白，血圧異常上昇
精神神経系 頭痛，眩暈，不安，振戦
過敏症 過敏症状等
消化器 悪心・嘔吐
その他 熱感，発汗
（表終了）

ケナコルトーA皮内用関節腔内用水懸注50mg／5mL（10mg1mLバイアル）

内　注射　流通
ハイリスク

【YJコード】2454402A2037
【薬効分類】2．4．5　副腎ホルモン剤
【一般名】トリアムシノロンアセトニド
【メーカー】製）ブリストル・マイヤーズスクイブ
【薬価】200円/1mLバイアル
【薬価収載日】2006/12/08
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】合成副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】関節腔内注射
○関節リウマチ，若年性関節リウマチ（スチル病含む）
○強直性脊椎炎（リウマチ性脊椎炎）に伴う四肢関節炎，変形性関節症（炎症症状がある時），外傷後関節炎，非感染性慢性関節炎
軟組織内注射
○関節周囲炎（非感染性のみ），腱炎（非感染性のみ），腱周囲炎（非感染性のみ）
○耳鼻咽喉科の術後の後療法
○難治性口内炎・舌炎（局所療法で治癒しない）
腱鞘内注射
○関節周囲炎（非感染性のみ），腱炎（非感染性のみ），腱鞘炎（非感染性のみ），腱周囲炎（非感染性のみ）
滑液嚢内注入
○関節周囲炎（非感染性のみ），腱周囲炎（非感染性のみ），滑液包炎（非感染性のみ）
局所皮内注射
○★湿疹・皮膚炎群（急性湿疹，亜急性湿疹，慢性湿疹，接触皮膚炎，貨幣状湿疹，自家感作性皮膚炎，アトピー皮膚炎，乳・幼・小児湿疹，ビダール苔癬，その他の神経皮膚炎，脂漏性皮膚炎，進行性指掌角皮症，その他の手指の皮膚炎，陰部・肛門湿疹，耳介・外耳道の湿疹・皮膚炎，鼻前庭・鼻翼周辺の湿疹・皮膚炎等）（重症例以外は極力投与しない。局注は浸潤，苔癬化の著しい時のみ），★痒疹群（小児ストロフルス，蕁麻疹様苔癬，固定蕁麻疹含む）（重症例のみ），★乾癬・類症〔尋常性乾癬（重症例），乾癬性関節炎，乾癬性紅皮症，膿疱性乾癬，稽留性肢端皮膚炎，疱疹状膿痂疹，ライター症候群〕のうち尋常性乾癬，★扁平苔癬（重症例のみ），限局性強皮症，★円形脱毛症（悪性型のみ），★早期ケロイド・ケロイド防止
○耳鼻咽喉科の術後の後療法
ネブライザー
○気管支喘息
○びまん性間質性肺炎（肺線維症）（放射線肺臓炎含む）
○アレルギー性鼻炎，花粉症（枯草熱），副鼻腔炎・鼻茸，喉頭炎・喉頭浮腫，喉頭ポリープ・結節，食道の炎症（腐蝕性食道炎，直達鏡使用後）・食道拡張術後，耳鼻咽喉科の術後の後療法
鼻腔内注入
○アレルギー性鼻炎，花粉症（枯草熱），副鼻腔炎・鼻茸，耳鼻咽喉科の術後の後療法
副鼻腔内注入
○副鼻腔炎・鼻茸，耳鼻咽喉科の術後の後療法
鼻甲介内注射
○アレルギー性鼻炎，花粉症（枯草熱），耳鼻咽喉科の術後の後療法
鼻茸内注射
○副鼻腔炎・鼻茸
喉頭・気管注入
○喉頭炎・喉頭浮腫，喉頭ポリープ・結節，耳鼻咽喉科の術後の後療法
中耳腔内注入
○急性・慢性中耳炎，滲出性中耳炎・耳管狭窄症，耳鼻咽喉科の術後の後療法
耳管内注入
○滲出性中耳炎・耳管狭窄症
食道注入
○食道の炎症（腐蝕性食道炎，直達鏡使用後）・食道拡張術後，耳鼻咽喉科の術後の後療法
★ 外用剤で効果不十分時のみ使用
【用法用量】関節腔内注射，軟組織内注射，腱鞘内注射，滑液嚢内注入
成人　1回2～40mg。投与間隔　2週間以上。
適宜増減。
局所皮内注
成人　1回0．2～1mgずつ10mgまで　週1回。
適宜増減。
ネブライザー
成人　1回2～10mg　1日1～3回。
適宜増減。
鼻腔内注入，副鼻腔内注入，喉頭・気管注入，中耳腔内注入，耳管内注入
成人　1回2～10mg　1日1～3回。
適宜増減。
鼻甲介内注射，鼻茸内注射
成人　1回2～40mg。
適宜増減。
食道注入
成人　1回2mg。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．感染症のある関節腔内，滑液嚢内，腱鞘内・腱周囲。
3．動揺関節の関節腔内。
4．デスモプレシン酢酸塩水和物（男性の夜間多尿による夜間頻尿）の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．誘発感染症，感染症の増悪（頻度不明）。
2．続発性副腎皮質機能不全，糖尿病（頻度不明）。
3．消化性潰瘍，膵炎（頻度不明）。
4．精神変調，うつ状態，痙攣（頻度不明）。
5．骨粗鬆症，大腿骨・上腕骨等の骨頭無菌性壊死，ミオパシー（頻度不明）。
6．緑内障，後嚢白内障（頻度不明）。
7．血栓症（頻度不明）。
8．ショック，アナフィラキシー（頻度不明）（呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等）。
9．喘息発作の増悪（頻度不明）。
10．失明，視力障害（頻度不明），網膜動脈閉塞。
11．腱断裂（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
内分泌 月経異常
消化器 下痢，悪心・嘔吐，胃痛，胸やけ，腹部膨満感，口渇，食欲不振，食欲亢進
精神神経系 多幸症，不眠，頭痛，眩暈
筋・骨格 筋肉痛，関節痛
投与部位 関節腔内投与時 関節の不安定化，疼痛・腫脹・圧痛の増悪，結晶誘発性滑膜炎
投与部位 皮内注時 局所組織の萎縮による陥没
脂質・蛋白質代謝 満月様顔貌，野牛肩，窒素負平衡，脂肪肝
体液・電解質 浮腫，血圧上昇，低カリウム性アルカローシス
眼 中心性漿液性網脈絡膜症等による網膜障害，眼球突出
血液 白血球増多
皮膚 ざ瘡，多毛，脱毛，色素沈着，皮下溢血，紫斑，線条，掻痒，発汗異常，顔面紅斑，創傷治癒障害，皮膚菲薄化・脆弱化，色素脱失，脂肪織炎
その他 発熱，疲労感，ステロイド腎症，体重増加，精子数・その運動性の増減
（表終了）

コートリル錠10mg（10mg1錠）

両　内服　流通
ハイリスク

【YJコード】2452002F1030
【薬効分類】2．4．5　副腎ホルモン剤
【一般名】ヒドロコルチゾン
【メーカー】製）ファイザー
【薬価】7.4円/1T

2 個々の器官系用医薬品

【薬価収載日】2008/06/20
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○慢性副腎皮質機能不全(原発性，続発性，下垂体性，医原性)，急性副腎皮質機能不全(副腎クリーゼ)，副腎性器症候群，亜急性甲状腺炎，甲状腺疾患に伴う悪性眼球突出症，ACTH単独欠損症
○関節リウマチ，若年性関節リウマチ(スチル病含む)，リウマチ熱(リウマチ性心炎含む)
○エリテマトーデス(全身性・慢性円板状)，全身性血管炎(高安動脈炎，結節性多発動脈炎，顕微鏡的多発血管炎，多発血管炎性肉芽腫症含む)，多発性筋炎(皮膚筋炎)，強皮症
○ネフローゼ，ネフローゼ症候群
○気管支喘息，薬剤その他の化学物質によるアレルギー・中毒(薬疹，中毒疹含む)，血清病
○重症感染症(化学療法と併用)
○溶血性貧血(免疫性，免疫性機序の疑い)，白血病(急性白血病，慢性骨髄性白血病の急性転化，慢性リンパ性白血病)(皮膚白血病含む)，顆粒球減少症(本態性，続発性)，紫斑病(血小板減少性・血小板非減少性)，再生不良性貧血
○限局性腸炎，潰瘍性大腸炎
○重症消耗性疾患の全身状態の改善(癌末期，スプルー含む)
○慢性肝炎(活動型，急性再燃型，胆汁うっ滞型)(一般的治療に反応せず肝機能の著しい異常が持続する難治性のみ)，肝硬変(活動型，難治性腹水を伴うもの，胆汁うっ滞を伴うもの)
○サルコイドーシス(両側肺門リンパ節腫脹のみの時を除く)
○肺結核(粟粒結核，重症結核のみ)(抗結核剤と併用)，結核性胸膜炎(抗結核剤と併用)，結核性腹膜炎(抗結核剤と併用)，結核性心嚢炎(抗結核剤と併用)
○脳脊髄炎(脳炎，脊髄炎含む)(一次性脳炎では頭蓋内圧亢進症状があり，他剤が効果不十分時に短期使用)，末梢神経炎(ギランバレー症候群含む)，筋強直症，多発性硬化症(視束脊髄炎含む)，小舞踏病，顔面神経麻痺，脊髄蜘網膜炎
○悪性リンパ腫(リンパ肉腫症，細網肉腫症，ホジキン病，皮膚細網症，菌状息肉症)，類似疾患(近縁疾患)，好酸性肉芽腫，乳癌の再発転移
○特発性低血糖症
○原因不明の発熱
○副腎摘除，副腎皮質機能不全への外科的侵襲
○蛇毒・昆虫毒(重症の虫さされ含む)
○卵管整形術後の癒着防止
○★湿疹・皮膚炎群(急性湿疹，亜急性湿疹，慢性湿疹，接触皮膚炎，貨幣状湿疹，自家感作性皮膚炎，アトピー皮膚炎，乳・幼・小児湿疹，ビダール苔癬，その他の神経皮膚炎，脂漏性皮膚炎，進行性指掌角皮症，その他の手指の皮膚炎，陰部・肛門湿疹，耳介・外耳道の湿疹・皮膚炎，鼻前庭・鼻翼周辺の湿疹・皮膚炎等)(重症例以外は極力投与しない)，★痒疹群(小児ストロフルス，蕁麻疹様苔癬，固定蕁麻疹含む)(重症例のみ)，蕁麻疹(慢性例除く)(重症例のみ)，★乾癬・類症[尋常性乾癬(重症例)，乾癬性関節炎，乾癬性紅皮症，膿疱性乾癬，稽留性肢端皮膚炎，疱疹状膿痂疹，ライター症候群]，★掌蹠膿疱症(重症例のみ)，成年性浮腫性硬化症，紅斑症(★多形滲出性紅斑(重症例のみ)，結節性紅斑)，ウェーバークリスチャン病，粘膜皮膚眼症候群[開口部糜爛性外皮症，スチブンス・ジョンソン病，皮膚口内炎，フックス症候群，ベーチェット病(眼症状のない時)，リップシュッツ急性陰門潰瘍]，★円形脱毛症(悪性型のみ)，天疱瘡群(尋常性天疱瘡，落葉状天疱瘡，Senear－Usher症候群，増殖性天疱瘡)，デューリング疱疹状皮膚炎(類天疱瘡，妊娠性疱疹含む)，★紅皮症(ヘブラ紅色粃糠疹含む)，顔面播種状粟粒狼瘡(重症例のみ)，アレルギー性血管炎・その類症(急性痘瘡様苔癬状粃糠疹含む)
○内眼・視神経・眼窩・眼筋の炎症性疾患の対症療法(ブドウ膜炎，網脈絡膜炎，網膜血管炎，視神経炎，眼窩炎性偽腫瘍，眼窩漏斗尖端部症候群，眼筋麻痺)，外・前眼部の炎症性疾患の対症療法で点眼が不適当・不十分な時(眼瞼炎，結膜炎，角膜炎，強膜炎，虹彩毛様体炎)
○急性・慢性中耳炎，滲出性中耳炎・耳管狭窄症，メニエル病，メニエル症候群，急性感音性難聴，アレルギー性鼻炎，花粉症(枯草熱)，進行性壊疽性鼻炎，食道の炎症(腐蝕性食道炎，直達鏡使用後)・食道拡張術後，耳鼻咽喉科の術後の後療法
○難治性口内炎・舌炎(局所療法で治癒しないもの)
★印 外用剤で効果不十分時のみ使用
【用法用量】成人　1日10～120mg　1日1～4回　分割　内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. デスモプレシン酢酸塩水和物(男性の夜間多尿による夜間頻尿)の投与患者。
3. 免疫抑制が生じる量の本剤投与患者に生ワクチン・弱毒生ワクチンを接種しない。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 感染症(頻度不明)(誘発感染症，感染症の増悪等)。
2. 続発性副腎皮質機能不全(頻度不明)，糖尿病(頻度不明)。
3. 消化性潰瘍(頻度不明)。
4. 骨粗鬆症(頻度不明)，大腿骨・上腕骨等の骨頭無菌性壊死(頻度不明)，ミオパシー(頻度不明)。
5. 緑内障(頻度不明)，後嚢白内障(頻度不明)，眼圧亢進。
6. 血栓症(頻度不明)。
7. 腫瘍崩壊症候群(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
内分泌系 月経異常
消化器 膵炎，下痢，悪心・嘔吐，胃痛，胸やけ，腹部膨満感，口渇，食欲亢進
精神神経系 精神変調，うつ状態，多幸症，不眠，頭痛，眩暈，痙攣
筋・骨格系 筋肉痛，関節痛
脂肪・蛋白質代謝 満月様顔貌，野牛肩，窒素負平衡，脂肪肝
体液・電解質 浮腫，血圧上昇，低カリウム性アルカローシス
眼 中心性漿液性網脈絡膜症等による網膜障害，眼球突出
血液 白血球増多
皮膚 ざ瘡，多毛，色素沈着，皮下溢血，紫斑，線条，掻痒，発汗異常，顔面紅斑，創傷治癒障害，皮膚菲薄化・脆弱化，脂肪織炎
過敏症 過敏症状
その他 発熱，疲労感，ステロイド腎症，体重増加，精子数・その運動性の増減
(表終了)

水溶性ハイドロコートン注射液100mg（100mg2mL1瓶）

内　注射　流通
ハイリスク

【YJコード】2452402A2040
【薬効分類】2．4．5　副腎ホルモン剤
【一般名】ヒドロコルチゾンリン酸エステルナトリウム
【メーカー】製)日医工　販)MSD
【薬価】495円/1V
【薬価収載日】2004/07/09
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】副腎皮質ホルモン製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】外科的ショック，ショック様状態の救急，術中・術後のショック
【用法用量】1回2～20mL(ヒドロコルチゾン　100～1000mg)　1日1～数回　静注・点滴静注。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. デスモプレシン酢酸塩水和物(男性の夜間多尿による夜間頻尿)の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 誘発感染症，感染症の増悪(各頻度不明)，B型肝炎ウイルスの増殖による肝炎。
2. 続発性副腎皮質機能不全，糖尿病(各頻度不明)。
3. 消化性潰瘍(頻度不明)。
4. 精神変調，うつ状態(各頻度不明)。
5. 骨粗鬆症，大腿骨・上腕骨等の骨頭無菌性壊死，ミオパシー(各頻度不明)。
6. 緑内障，後嚢白内障(各頻度不明)。
7. ショック(頻度不明)(アナフィラキシー様反応)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
内分泌 月経異常
消化器 悪心・嘔吐
精神神経系 多幸症，不眠，頭痛
筋・骨格 筋肉痛，関節痛
脂質・蛋白質代謝 満月様顔貌，窒素負平衡
体液・電解質 浮腫，血圧上昇，低カリウム性アルカローシス
眼 中心性漿液性網脈絡膜症等による網膜障害，眼球突出
血液 白血球増多
皮膚 創傷治癒障害，ざ瘡，掻痒，刺激感，脂肪織炎
その他 発熱，疲労感
(表終了)

水溶性プレドニン20mg（20mg1管）

内　注射　流通
ハイリスク

【YJコード】2456405D2023
【薬効分類】2．4．5　副腎ホルモン剤
【一般名】プレドニゾロンコハク酸エステルナトリウム
【メーカー】製)シオノギファーマ　販)塩野義製薬
【薬価】281円/1A
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】合成副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】☆印は，下記でのみ使用(事由消失時，他の投与法に切り

2 個々の器官系用医薬品

かえる)
静注・点滴静注 内服不能時，緊急時，筋注不適時
筋注 内服不能時
1. 内科・小児科
(1)内分泌疾患
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
慢性副腎皮質機能不全(原発性，続発性，下垂体性，医原性) ○
急性副腎皮質機能不全(副腎クリーゼ) ○ ○ ○
副腎性器症候群，亜急性甲状腺炎，甲状腺疾患に伴う悪性眼球突出症，ACTH単独欠損症 ○☆
甲状腺中毒症(甲状腺(中毒性)クリーゼ) ○ ○ ○☆
(表終了)
(2)リウマチ疾患
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
関節リウマチ，若年性関節リウマチ(スチル病含む) ○ 関節腔内注射
リウマチ熱(リウマチ性心炎含む) ○☆ ○☆ ○
リウマチ性多発筋痛 ○
(表終了)
(3)膠原病
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
エリテマトーデス(全身性・慢性円板状)，全身性血管炎(高安動脈炎，結節性多発動脈炎，顕微鏡的多発血管炎，多発血管炎性肉芽腫症含む)，多発性筋炎(皮膚筋炎) ○☆ ○☆ ○
強皮症 ○☆
(表終了)
(4)川崎病の急性期(重症で，冠動脈障害の発生の危険がある時)
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
(4)川崎病の急性期(重症で，冠動脈障害の発生の危険がある時) ○
(表終了)
(5)腎疾患
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
ネフローゼ，ネフローゼ症候群 ○☆ ○☆ ○☆
(表終了)
(6)心疾患
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
うっ血性心不全 ○☆ ○☆ ○☆
(表終了)
(7)アレルギー性疾患
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
気管支喘息(筋注は他の投与法では不適当な時のみ) ○ ○ ○ ネブライザー
喘息性気管支炎(小児喘息性気管支炎含む) ○☆ ネブライザー
喘息発作重積状態，アナフィラキシーショック ○ ○
薬剤その他の化学物質によるアレルギー・中毒(薬疹，中毒疹含む) ○☆ ○☆ ○☆
血清病 ○ ○ ○☆
(表終了)
(8)重症感染症
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
重症感染症(化学療法と併用) ○ ○ ○☆
(表終了)
(9)血液疾患
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
溶血性貧血(免疫性，免疫性機序の疑い)，白血病(急性白血病，慢性骨髄性白血病の急性転化，慢性リンパ性白血病)(皮膚白血病含む)，顆粒球減少症(本態性，続発性)，紫斑病(血小板減少性・血小板非減少性)，再生不良性貧血，凝固因子の障害による出血性素因 ○ ○ ○☆
白血病(急性白血病，慢性骨髄性白血病の急性転化，慢性リンパ性白血病)(皮膚白血病含む)のうち髄膜白血病 脊髄腔内注入
(表終了)
(10)消化器疾患
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
限局性腸炎，潰瘍性大腸炎 ○☆ ○☆ ○☆ 注腸
(表終了)
(11)重症消耗性疾患
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
重症消耗性疾患の全身状態の改善(癌末期，スプルー含む) ○☆ ○☆ ○☆
(表終了)
(12)肝疾患
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
劇症肝炎(重症含む) ○ ○ ○☆
胆汁うっ滞型急性肝炎 ○☆ ○☆
肝硬変(活動型，難治性腹水を伴うもの，胆汁うっ滞を伴うもの) ○☆
(表終了)
(13)肺疾患
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
びまん性間質性肺炎(肺線維症)(放射線肺臓炎含む) ○☆ ○☆ ネブライザー
(表終了)
(14)結核性疾患(抗結核剤と併用)
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
結核性髄膜炎 脊髄腔内注入
結核性胸膜炎 胸腔内注入
(表終了)
(15)神経疾患
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
脳脊髄炎(脳炎，脊髄炎含む)(一次性脳炎では頭蓋内圧亢進症状があり，他剤が効果不十分時に短期使用)，重症筋無力症 ○ ○ ○☆ 脊髄腔内注入
多発性硬化症(視束脊髄炎含む) ○ ○ ○ 脊髄腔内注入
末梢神経炎(ギランバレー症候群含む) ○☆ ○☆ ○☆ 脊髄腔内注入
小舞踏病，顔面神経麻痺，脊髄蜘網膜炎 ○☆
(表終了)
(16)悪性腫瘍
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
悪性リンパ腫(リンパ肉腫症，細網肉腫症，ホジキン病，皮膚細網症，菌状息肉症)，類似疾患(近縁疾患) ○ ○ ○☆ 脊髄腔内注入
好酸性肉芽腫 ○ ○ ○☆
乳癌の再発転移 ○☆
(表終了)
(17)その他の内科的疾患
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
特発性低血糖症 ○ ○ ○☆
原因不明の発熱 ○☆
(表終了)
2. 外科
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
副腎摘除 ○ ○ ○
臓器・組織移植，副腎皮質機能不全への外科的侵襲，蛇毒・昆虫毒(重症の虫さされ含む) ○☆
侵襲後肺水腫 ○ ネブライザー
外科的ショック，外科的ショック様状態，脳浮腫，輸血による副作用，気管支痙攣(術中) ○
(表終了)
3. 整形外科
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
強直性脊椎炎(リウマチ性脊椎炎) ○
強直性脊椎炎(リウマチ性脊椎炎)に伴う四肢関節炎，変形性関節症(炎症症状がある時)，非感染性慢性関節炎，痛風性関節炎 関節腔内注射
関節周囲炎(非感染性のみ)，腱周囲炎(非感染性のみ) 軟組織内注射 腱鞘内注射 滑液嚢内注入
腱炎(非感染性のみ) 軟組織内注射 腱鞘内注射
腱鞘炎(非感染性のみ) 腱鞘内注射
滑液包炎(非感染性のみ) 滑液嚢内注入
脊髄浮腫 ○
(表終了)
4. 産婦人科
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
卵管閉塞症(不妊症)への通水療法 卵管腔内注入
卵管整形術後の癒着防止 ○☆ 卵管腔内注入
副腎皮質機能障害による排卵障害 ○☆
(表終了)
5. 泌尿器科
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
前立腺癌(他の療法無効時) ○☆
陰茎硬結 ○☆ 局所皮内注
(表終了)
6. 皮膚科
△印；外用剤で効果不十分時のみ使用
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
△湿疹・皮膚炎群(急性湿疹，亜急性湿疹，慢性湿疹，接触皮膚炎，貨幣状湿疹，自家感作性皮膚炎，アトピー皮膚炎，乳・幼・小児湿疹，ビダール苔癬，その他の神経皮膚炎，脂漏性皮膚炎，進行性指掌角皮症，その他の手指の皮膚炎，陰部・肛門湿疹，耳介・外耳道の湿疹・皮膚炎，鼻前庭・鼻翼周辺の湿疹・皮膚炎等)(重症例以外は極力投与しない。局注は浸潤，苔癬化の著しい時のみ)△痒疹群(小児ストロフルス，蕁麻疹様苔癬，固定蕁麻疹含む)(重症例のみ。固定蕁麻疹は局注) ○☆ 局所皮内注
蕁麻疹(慢性例除く)(重症例のみ)，△乾癬・類症(乾癬性関節炎，乾癬性紅皮症，膿疱性乾癬，稽留性肢端皮膚炎，疱疹状膿痂疹，ライター症候群)，粘膜皮膚眼症候群(開口部糜爛性外皮症，スチブンス・ジョンソン病，皮膚口内炎，フックス症候群，ベーチェット病(眼症状のない時)，リップシュッツ急性陰門潰瘍)，天疱瘡群(尋常性天疱瘡，落葉状天疱瘡，Senear－Usher症候群，増殖性天疱瘡)，デューリング疱疹状皮膚炎(類天疱瘡，妊娠性疱疹含む)，△紅皮症(ヘブラ紅色粃糠

水溶性プレドニン20mg

2 個々の器官系用医薬品

疹含む） ○☆ ○☆
△尋常性乾癬（重症例） ○☆ ○☆ 局所皮内注
△毛孔性紅色粃糠疹（重症例のみ），成年性浮腫性硬化症，紅斑症（△多形滲出性紅斑（重症例のみ），結節性紅斑），レイノー病，帯状疱疹（重症例のみ），潰瘍性慢性膿皮症，新生児スクレレーマ ○☆
△円形脱毛症（悪性型のみ），△早期ケロイド・ケロイド防止 局所皮内注
（表終了）
7. 眼科
（表開始）
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
内眼・視神経・眼窩・眼筋の炎症性疾患の対症療法（ブドウ膜炎，網脈絡膜炎，網膜血管炎，視神経炎，眼窩炎性偽腫瘍，眼窩漏斗尖端部症候群，眼筋麻痺） ○☆ ○☆ 結膜下注射 球後注射 点眼
外・前眼部の炎症性疾患の対症療法で点眼が不適当・不十分な時（眼瞼炎，結膜炎，角膜炎，強膜炎，虹彩毛様体炎） ○☆ ○☆ 結膜下注射 球後注射
眼科の術後炎症 ○☆ ○☆ 結膜下注射 点眼
（表終了）
8. 耳鼻咽喉科
（表開始）
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
急性・慢性中耳炎 ○☆ ○☆ ○☆ 中耳腔内注入
滲出性中耳炎・耳管狭窄症 ○☆ ○☆ ○☆ 中耳腔内注入 耳管内注入
急性感音性難聴，口腔外科術後の後療法 ○ ○ ○
血管運動（神経）性鼻炎，アレルギー性鼻炎，花粉症（枯草熱） ○ ネブライザー 鼻腔内注入 鼻甲介内注射
副鼻腔炎・鼻茸 ○ ネブライザー 鼻腔内注入 副鼻腔内注入 鼻茸内注射
進行性壊疽性鼻炎 ○ ○ ○ ネブライザー 鼻腔内注入 副鼻腔内注入 喉頭・気管注入
喉頭炎・喉頭浮腫 ○ ○ ○ ネブライザー 喉頭・気管注入
喉頭ポリープ・結節 ○☆ ○☆ ○☆ ネブライザー 喉頭・気管注入
食道の炎症（腐蝕性食道炎，直達鏡使用後）・食道拡張術後 ○ ○ ○ ネブライザー 食道注入
耳鼻咽喉科の術後の後療法 ○ ○ ○ 軟組織内注射 局所皮内注 ネブライザー 鼻腔内注入 副鼻腔内注入 鼻甲介内注射 喉頭・気管注入 中耳腔内注入 食道注入
難治性口内炎・舌炎（局所療法で治癒しないもの） 軟組織内注射
嗅覚障害 ○☆ ○☆ ○☆ ネブライザー 鼻腔内注入
急性・慢性（反復性）唾液腺炎 ○☆ ○☆ ○☆ 唾液腺管内注入
（表終了）
注意
川崎病の急性期
1. 静注用免疫グロブリン不応例又は静注用免疫グロブリン不応予測例に投与。
2. 発病後7日以内に投与開始。
【用法用量】成人 下記1回量。
適宜増減（川崎病の急性期除く）。
（表開始）
投与法 プレドニゾロン（mg） 投与間隔
静注※ 10～50 3～6時間ごと
点滴静注 20～100 1日1～2回
筋注 10～50 3～6時間ごと
関節腔内注射 4～30 2週間以上
軟組織内注射 4～30 2週間以上
腱鞘内注射 4～30 2週間以上
滑液嚢内注入 4～30 2週間以上
脊髄腔内注入 5 週2～3回
胸腔内注入 5～25 週1～2回
局所皮内注 0. 1～0. 4ずつ 4まで 週1回
卵管腔内注入 2～5
注腸 2～30
結膜下注射 2. 5～10（液量 0. 2～0. 5mL）
球後注射 5～20（液量 0. 5～1mL）
点眼 1. 2～5mg／mL溶液1～2滴 1日3～8回
ネブライザー 2～10 1日1～3回
鼻腔内注入 2～10 1日1～3回
副鼻腔内注入 2～10 1日1～3回
鼻甲介内注射 4～30
鼻茸内注射 4～30
喉頭・気管注入 2～10 1日1～3回
中耳腔内注入 2～10 1日1～3回
耳管内注入 2～10 1日1～3回
食道注入 2. 5～5
唾液腺管内注入 1～2
（表終了）
※川崎病の急性期 1日2mg／kg（最大60mg） 1日3回 分割 静注。
注意
効能共通
1. 投与量，投与スケジュール，漸減中止方法等は，学会のガイドライン等，最新の情報を参考に投与。
眼科
2. 重篤な副作用の可能性，2週間以上の長期投与は避ける。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 感染症のある関節腔内，滑液嚢内，腱鞘内・腱周囲。
3. 動揺関節の関節腔内。
4. デスモプレシン酢酸塩水和物（男性の夜間多尿による夜間頻尿）の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（頻度不明）（呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等）。
2. 誘発感染症，感染症の増悪（頻度不明），B型肝炎ウイルスの増殖による肝炎。
3. 続発性副腎皮質機能不全，糖尿病（頻度不明）。
4. 消化管潰瘍，消化管穿孔，消化管出血（頻度不明）。
5. 膵炎（頻度不明）。
6. 精神変調，うつ状態，痙攣（頻度不明）。
7. 骨粗鬆症，大腿骨・上腕骨等の骨頭無菌性壊死，ミオパシー（頻度不明）。
8. 緑内障，後嚢白内障（眼のかすみ），中心性漿液性網脈絡膜症・多発性後極部網膜色素上皮症（頻度不明）（視力の低下，ものがゆがんで見えたり小さく見えたり，視野の中心がゆがんで見えにくくなる，限局性の網膜剥離，広範な網膜剥離），眼圧上昇。
9. 血栓症（頻度不明）。
10. 心筋梗塞，脳梗塞，動脈瘤（頻度不明）。
11. 喘息発作の増悪（頻度不明）。
12. 腫瘍崩壊症候群（頻度不明）。

セレスタミン配合錠（1錠）

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】2459100F1162
【薬効分類】2. 4. 5 副腎ホルモン剤
【一般名】ベタメタゾン・d－クロルフェニラミンマレイン酸塩
【メーカー】製）高田製薬 販）MSD 販）シェリング・プラウ
【薬価】8円/1T
【薬価収載日】2009/09/25
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】副腎皮質ホルモン・抗ヒスタミン配合剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○蕁麻疹（慢性例除く）
○湿疹・皮膚炎群の急性期・急性増悪期
○薬疹
○アレルギー性鼻炎
【用法用量】成人 1回1～2錠 1日1～4回 内服。
適宜増減。
漫然使用しない。
注意
副腎皮質ホルモンをプレドニゾロン換算で，1錠中2. 5mg相当を含有，改善後は漫然使用しない。

■禁忌
【禁忌】1. 他の治療法で効果が期待できる場合は，投与しない。局所的投与で十分な場合，局所療法を行う。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。
3. 閉塞隅角緑内障。
4. 前立腺肥大等下部尿路に閉塞性疾患。
5. デスモプレシン酢酸塩水和物（男性の夜間多尿による夜間頻尿）の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 誘発感染症，感染症の増悪（0. 1～5%未満），B型肝炎ウイルスの増殖による肝炎。
2. 続発性副腎皮質機能不全，糖尿病（頻度不明），急性副腎不全（0. 1～5%未満）。
3. 消化性潰瘍（0. 1～5%未満）（胃潰瘍等），膵炎（頻度不明）。
4. 精神変調（0. 1～5%未満），うつ状態，痙攣，錯乱（頻度不明）。
5. 骨粗鬆症，ミオパシー（0. 1～5%未満），大腿骨・上腕骨等の骨頭無菌性壊死（頻度不明）。
6. 緑内障，後嚢白内障（頻度不明）。
7. 血栓症（0. 1%未満）。
8. 再生不良性貧血，無顆粒球症（0. 1%未満）。
9. 幼・小児の発育抑制（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上又は頻度不明 0. 1～5%未満 0. 1%未満
過敏症 発疹，光線過敏症等
精神神経系 鎮静，神経過敏，焦燥感，多幸症，複視，頭痛，眩暈，耳鳴，前庭障害，情緒不安，振戦，感覚異常，ヒステリー，神経炎，協調異常 不眠，眠気，頭重感
消化器 口渇，胸やけ，腹部膨満感，食欲不振，便秘 腹痛，悪心・嘔吐，食欲亢進，下痢等
泌尿器 頻尿，排尿困難，尿閉，ステロイド腎症等
循環器 低血圧，心悸亢進，頻脈，期外収縮
呼吸器 鼻・気道の乾燥，気管分泌液の粘性化，喘鳴，鼻閉
血液 溶血性貧血，白血球増多 血小板減少
肝臓 肝機能障害（ASTの上昇，ALTの上昇，AI－Pの上昇等）

2 個々の器官系用医薬品

内分泌 月経異常，糖尿等
筋・骨格 筋肉痛，関節痛等
脂質・蛋白質代謝 満月様顔貌，野牛肩，窒素負平衡，脂肪肝等
体液・電解質 浮腫，低カリウム性アルカローシス 血圧上昇等
眼 中心性漿液性網脈絡膜症等による網膜障害，眼球突出等
皮膚 多毛，脱毛，ざ瘡，色素沈着，皮下溢血，紫斑，線条，掻痒感，発汗異常，顔面紅斑，創傷治癒障害，皮膚菲薄化・脆弱化，脂肪織炎
その他 発熱，疲労感，精子数・その運動性の増減，胸痛 倦怠感，体重増加
（表終了）

ソル・コーテフ注射用100mg（100mg1瓶（溶解液付））

内 注射 自注 流通
ハイリスク

【YJコード】2452400D1084
【薬効分類】2．4．5 副腎ホルモン剤
【一般名】ヒドロコルチゾンコハク酸エステルナトリウム
【メーカー】製)ファイザー
【薬価】264円/1V
【薬価収載日】2008/06/20
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】[ ]内数字は投与法（注I参照）
△印 ★印 注II参照
内科・小児科
○内分泌疾患 急性副腎皮質機能不全（副腎クリーゼ）([1][2][3])，甲状腺中毒症（甲状腺（中毒性）クリーゼ）([1][2]△[3])，慢性副腎皮質機能不全（原発性，続発性，下垂体性，医原性）([3])，ACTH単独欠損症（△[3]）
○膠原病 リウマチ熱（リウマチ性心炎含む），エリテマトーデス（全身性・慢性円板状）（△[1]△[2][3]）
○アレルギー性疾患 気管支喘息（[10][14]），アナフィラキシーショック([1][2])，喘息性気管支炎（小児喘息性気管支炎含む）（△[3][10])，薬剤その他の化学的物質のアレルギー・中毒（薬疹，中毒疹含む）（△[1]△[2]△[3])，蕁麻疹（慢性例除く）（重症例のみ）（△[2]△[3]）
○神経疾患 脳脊髄炎（脳炎，脊髄炎含む）（一次性脳炎では頭蓋内圧亢進症状があり，他剤が効果不十分時に短期使用），重症筋無力症，多発性硬化症（視束脊髄炎含む）([1][2]△[3])，末梢神経炎（ギランバレー症候群含む）（△[1]△[2]△[3])，小舞踏病，顔面神経麻痺，脊髄蜘網膜炎（△[3])，脊髄浮腫([1][6])
○消化器疾患 限局性腸炎，潰瘍性大腸炎（△[1]△[2]△[3][8])
○呼吸器疾患 びまん性間質性肺炎（肺線維症）（放射線肺臓炎含む）（△[1]△[2][10]）
○重症感染症 重症感染症（化学療法と併用）([1][2]△[3])
○新陳代謝疾患 特発性低血糖症([1][2]△[3])
○その他の内科的疾患 重症消耗性疾患の全身状態の改善（癌末期，スプルー含む）（△[1]△[2]△[3])，悪性リンパ腫（リンパ肉腫症，細網肉腫症，ホジキン病，皮膚細網症，菌状息肉症），類似疾患（近縁疾患），好酸性肉芽腫([1][2]△[3])，乳癌の再発転移（△[3]）
外科
副腎摘除([1][2][3])，臓器・組織移植，副腎皮質機能不全への外科的侵襲（△[3])，侵襲後肺水腫([1][10])，外科的ショック，外科的ショック様状態，脳浮腫，輸血による副作用，気管支痙攣（術中）([1])，術後の腹膜癒着防止([7])，蛇毒・昆虫毒（重症の虫さされ含む）（△[3]）
整形外科
関節リウマチ，若年性関節リウマチ（スチル病含む）([3][4])，リウマチ性多発筋痛([3])，強直性脊椎炎（リウマチ性脊椎炎）([3])，強直性脊椎炎（リウマチ性脊椎炎）に伴う四肢関節炎([4])
泌尿器科
前立腺癌（他の療法無効時），陰茎硬結（△[3]）
眼科
眼科の術後炎症（△[1]△[3][9]）
皮膚科
湿疹・皮膚炎群（急性湿疹，亜急性湿疹，慢性湿疹，接触皮膚炎，貨幣状湿疹，自家感作性皮膚炎，アトピー皮膚炎，乳・幼・小児湿疹，ビダール苔癬，その他の神経皮膚炎，脂漏性皮膚炎，進行性指掌角皮症，その他の手指の皮膚炎，陰部・肛門湿疹，耳介・外耳道の湿疹・皮膚炎，鼻前庭・鼻翼周辺の湿疹・皮膚炎等）（重症例以外は極力投与しない）[★△[3]]，乾癬・類症[尋常性乾癬（重症例），乾癬性関節炎，乾癬性紅皮症，膿疱性乾癬，稽留性肢端皮膚炎，疱疹状膿痂疹，ライター症候群][★△[2]★△[3]]，紅斑症（★多形滲出性紅斑（重症例のみ），結節性紅斑）[△[3]]，ウェーバークリスチャン病，粘膜皮膚眼症候群[開口部糜爛性外皮症，スチブンス・ジョンソン病，皮膚口内炎，フックス症候群，ベーチェット病（眼症状のない時），リップシュッツ急性陰門潰瘍]，天疱瘡群（尋常性天疱瘡，落葉状天疱瘡，Senear－Usher症候群，増殖性天疱瘡），デューリング疱疹状皮膚炎（類天疱瘡，妊娠性疱疹含む）[△[2]△[3]]，帯状疱疹（重症例のみ）[△[3]]，潰瘍性慢性膿皮症[△[3]]，紅皮症（ヘブラ紅色粃糠疹含む）[★△[2]★△[3]]
耳鼻咽喉科
メニエル病，メニエル症候群，急性感音性難聴([1][2][3])，喉頭炎・喉頭浮腫([1][2][3][10][12])，食道の炎症（腐蝕性食道炎，直達鏡使用後）・食道拡張術後([1][2][3][10][13])，アレルギー性鼻炎，花粉症（枯草熱）([3][10][11])，嗅覚障害（△[1]△[2]△[3][10][11])，難治性口内炎・舌炎（局所療法で治癒しないもの）([5])
口腔外科
口腔外科術後の後療法([1][2][3])
注I 投与法
[1]静注
[2]点滴静注
[3]筋注
[4]関節腔内注射
[5]軟組織内注射
[6]硬膜外注射
[7]腹腔内注入
[8]注腸
[9]結膜下注射
[10]ネブライザー
[11]鼻腔内注入
[12]喉頭・気管注入
[13]食道注入
[14]静注，点滴静注
注II
△印－下記のみ使用
[1]．静注，点滴静注
内服不能時，緊急時，筋注不適時のみ使用
[2]．筋注
内服不能時のみ使用
★印－外用剤で効果不十分時のみ使用
【用法用量】成人 下記1回量。適宜増減。
（表開始）
用法 注射・注入部位 ヒドロコルチゾン（mg） 1日投与回数 緊急時（mg）
[1]静注 50～100 1～4 100～200
[2]点滴静注 50～100 1～4 100～200
[3]筋注 50～100 1～4 100～200
[4]関節腔内注射 5～25 投与間隔2週以上 －
[5]軟組織内注射 12．5～25 投与間隔2週以上 －
[6]硬膜外注射 12．5～50 投与間隔2週以上 －
[7]腹腔内注入 40 － －
[8]注腸 50～100 － －
[9]結膜下注射 20～50mg／mL溶液 0．2～0．5mL － －
[10]ネブライザー 10～15 1～3 －
[11]鼻腔内注入 10～15 1～3 －
[12]喉頭・気管注入 10～15 1～3 －
[13]食道注入 25 － －
（表終了）
気管支喘息（[14]）の静注，点滴静注
（1）．成人 初回量100～500mg 緩徐に静注，点滴静注。症状の改善なければ 1回50～200mg 4～6時間ごと 緩徐に追加。適宜増減。
（2）．2歳以上の小児 初回量5～7mg／kg 緩徐に静注，点滴静注。症状の改善なければ 1回5～7mg／kg 6時間ごと 緩徐に追加。適宜増減。
（3）．2歳未満の小児 初回量5mg／kg 緩徐に静注，点滴静注。症状の改善なければ 1回5mg／kg 6～8時間ごと 緩徐に追加。適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．デスモプレシン酢酸塩水和物（男性の夜間多尿による夜間頻尿）の投与患者。
3．感染症のある関節腔内・腱周囲。
4．動揺関節の関節腔内。
5．免疫抑制が生じる量の本剤投与患者に生ワクチン・弱毒生ワクチンを接種しない。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック（頻度不明），アナフィラキシー（呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等）。
2．感染症（頻度不明）（ウイルス，細菌，真菌，原虫，寄生虫等による感染症の誘発・徴候の隠蔽，感染症の悪化等）。
3．続発性副腎皮質機能不全（頻度不明）。
4．骨粗鬆症（頻度不明）（脊椎圧迫骨折，病的骨折），骨頭無菌性壊死（頻度不明）（大腿骨，上腕骨等）（疼痛等）。
5．胃腸穿孔（頻度不明），消化管出血（頻度不明），消化性潰瘍（頻度不明）。
6．ミオパシー（頻度不明），四肢麻痺，筋力低下，CKの上昇等。
7．血栓症（頻度不明）。
8．頭蓋内圧亢進（頻度不明），痙攣（頻度不明）。
9．精神変調（頻度不明），うつ状態（頻度不明）。
10．糖尿病（頻度不明）。
11．緑内障（頻度不明），後嚢白内障（頻度不明），眼圧亢進。
12．気管支喘息（頻度不明），喘息発作の誘発・悪化。
13．心破裂（頻度不明）。
14．うっ血性心不全（頻度不明）。
15．食道炎（頻度不明）。
16．カポジ肉腫（頻度不明）。
17．アキレス腱等の腱断裂（頻度不明）。
18．腫瘍崩壊症候群（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）

2 個々の器官系用医薬品

（表開始）
発現部位等 頻度不明
内分泌 月経異常，クッシング様症状
消化器 膵炎，下痢，悪心・嘔吐，胃痛，胸やけ，腹部膨満感，口渇，食欲不振，食欲亢進
循環器 徐脈，血圧降下，血圧上昇
精神神経系 多幸症，不眠，頭痛，眩暈
筋・骨格 筋力低下，筋肉痛，関節痛
投与部位 関節腔内投与：関節の不安定化，疼痛・腫脹・圧痛の悪化 筋注・皮内注：組織の萎縮，陥没
脂質・蛋白質代謝 満月様顔貌，野牛肩，窒素負平衡
体液・電解質 浮腫，低カリウム性アルカローシス，カリウム低下，ナトリウム貯留
肝臓 AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇，脂肪肝
眼 中心性漿液性網脈絡膜症等による網膜障害，眼球突出
血液 白血球増多
皮膚 創傷治癒障害，紫斑，皮下溢血，ざ瘡，多毛，脱毛，色素沈着，色素脱失，線条，発汗異常，皮膚菲薄化・脆弱化，脂肪織炎
過敏症 発疹，紅斑，掻痒
その他 発熱，疲労感，ステロイド腎症，体重増加，精子数・その運動性の増減，無菌膿瘍，仮性脳腫瘍
（表終了）

ソル・メドロール静注用125mg（125mg1瓶（溶解液付））

内　注射　流通
ハイリスク

【YJコード】2456400D2098
【薬効分類】2．4．5　副腎ホルモン剤
【一般名】メチルプレドニゾロンコハク酸エステルナトリウム
【メーカー】製)ファイザー
【薬価】605円/1V
【薬価収載日】2008/06/20
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇急性循環不全（出血性ショック，感染性ショック）
〇腎臓移植に伴う免疫反応の抑制
〇受傷後8時間以内の急性脊髄損傷（運動・感覚機能障害）における神経機能障害の改善
〇ネフローゼ症候群
〇多発性硬化症の急性増悪
〇治療抵抗性の下記リウマチ性疾患
全身性血管炎（顕微鏡的多発血管炎，多発血管炎性肉芽腫症，結節性多発動脈炎，好酸球性多発血管炎性肉芽腫症，高安動脈炎等），全身性エリテマトーデス，多発性筋炎，皮膚筋炎，強皮症，混合性結合組織病，難治性リウマチ性疾患
〇川崎病の急性期（重症で，冠動脈障害の発生の危険がある時）
〇気管支喘息
〇下記の悪性腫瘍への他の抗悪性腫瘍剤との併用療法
再発・難治性の悪性リンパ腫
注意
ネフローゼ症候群，治療抵抗性のリウマチ性疾患
経口副腎皮質ホルモン剤（プレドニゾロン等）の治療で効果不十分時に使用。
川崎病の急性期（重症で，冠動脈障害の発生の危険がある時）
静注用免疫グロブリン不応例又は静注用免疫グロブリン不応予測例に投与。
気管支喘息
最新のガイドラインを参考に，適切な患者に使用。
【用法用量】急性循環不全
出血性ショック
1回125～2000mg　緩徐に静注，点滴静注。症状の改善なければ適宜追加。
感染性ショック
成人　1回1000mg　緩徐に静注，点滴静注。症状の改善なければ　1000mgを追加。適宜増減。
腎臓移植に伴う免疫反応の抑制
成人　1日40～1000mg　緩徐に静注，点滴静注。適宜増減。
受傷後8時間以内の急性脊髄損傷（運動・感覚機能障害）における神経機能障害の改善
受傷後8時間以内に　30mg／kgを15分かけ　点滴静注。以後45分間休薬し　5．4mg／kg／時を23時間　点滴静注。
ネフローゼ症候群
成人　1日500～1000mg　緩徐に静注，点滴静注。
小児　1日30mg／kg（最大1000mg）　緩徐に静注，点滴静注。
多発性硬化症の急性増悪
成人　1日500～1000mg　緩徐に静注，点滴静注。
治療抵抗性のリウマチ性疾患
成人　1日500～1000mg　緩徐に静注，点滴静注。
小児　1日30mg／kg　緩徐に静注，点滴静注。
適宜増減，1日1000mgまで。
川崎病の急性期（重症，冠動脈障害発生の危険あり）
1回30mg／kg（最大1000mg）　1日1回　1～3日間　点滴静注。
気管支喘息
成人　初回量　40～125mg　緩徐に静注，点滴静注。以後40～80mgを4～6時間ごと　緩徐に追加。
小児　1～1．5mg／kg　緩徐に静注，点滴静注。以後1～1．5mg／kgを4～6時間ごと　緩徐に追加。
再発・難治性の悪性リンパ腫への他の抗悪性腫瘍剤との併用療法
1日250～500mg　1日1回　5日間　緩徐に静注，点滴静注。これを1コースとし，3～4週ごとに繰り返す。
注意
急性循環不全（出血性・感染性ショック），腎臓移植に伴う免疫反応の抑制
1．投与量が250mgを超える時は，最低30分以上かけ投与。
受傷後8時間以内の急性脊髄損傷（運動・感覚機能障害）における神経機能障害の改善
2．受傷後8時間以内に投与開始。用法・用量の体重換算用量を厳守。
ネフローゼ症候群
3．投与回数や投与スケジュールは，国内外のガイドライン等の最新の情報を参考。
多発性硬化症の急性増悪
4．投与回数等は，国内外のガイドライン等の最新の情報を参考。
川崎病の急性期（重症，冠動脈障害発生の危険あり）
5．投与日数や投与時間等は，ガイドライン等の最新の情報を参考。
再発・難治性の悪性リンパ腫への他の抗悪性腫瘍剤との併用療法
6．関連文献，併用薬剤の電子添文を熟読。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．デスモプレシン酢酸塩水和物（男性の夜間多尿による夜間頻尿）の投与患者。
3．免疫抑制が生じる量の本剤投与患者に生ワクチン・弱毒生ワクチンを接種しない。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック（0．08%），アナフィラキシー（呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等）。
2．心停止（頻度不明），循環性虚脱（頻度不明），不整脈（頻度不明）等。
3．感染症（2．54%）（ウイルス，細菌，真菌，原虫，寄生虫等による感染症の誘発，徴候の隠蔽，感染症の悪化等）。
4．続発性副腎皮質機能不全（頻度不明）。
5．骨粗鬆症（頻度不明）（脊椎圧迫骨折，病的骨折），骨頭無菌性壊死（0．36%）（大腿骨，上腕骨等）（疼痛等）。
6．胃腸穿孔（0．02%），消化管出血（0．80%），消化性潰瘍（0．02%）。
7．ミオパシー（頻度不明），四肢麻痺，筋力低下，CKの上昇等。
8．血栓症（頻度不明）（心筋梗塞，腸間膜動脈血栓症等），血小板減少。
9．頭蓋内圧亢進（頻度不明），痙攣（頻度不明）。
10．精神変調（0．06%），うつ状態（0．02%）。
11．糖尿病（3．95%）。
12．緑内障（頻度不明），後嚢白内障（0．09%）（眼のかすみ），中心性漿液性脈絡網膜症（頻度不明）・多発性後極部網膜色素上皮症（頻度不明）（視力の低下，ものがゆがんで見えたり小さく見えたり，視野の中心がゆがんで見えにくくなる，限局性の網膜剥離，広範な網膜剥離），眼圧上昇。
13．気管支喘息（頻度不明），喘息発作の誘発・悪化。
14．心破裂（頻度不明）。
15．膵炎（0．03%）（出血性膵炎等）。
16．うっ血性心不全（0．02%）。
17．食道炎（頻度不明）。
18．カポジ肉腫（頻度不明）。
19．アキレス腱等の腱断裂（頻度不明）。
20．肝機能障害（1．21%）（AST，ALT，AI－Pの上昇等），黄疸（頻度不明）。
21．腫瘍崩壊症候群（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
内分泌　月経異常，クッシング様症状
消化器　嘔吐，悪心 下痢，腹痛，胸やけ，腹部膨満感，食欲不振，食欲亢進
循環器 血圧降下，血圧上昇 徐脈
精神神経系　多幸症，不眠，頭痛，眩暈
筋・骨格　関節痛 筋力低下，筋肉痛
脂質・蛋白質代謝　満月様顔貌 窒素負平衡，体重増加
肝臓　脂肪肝
体液・電解質　浮腫，低カリウム性アルカローシス，カリウム低下，ナトリウム貯留
眼　網膜障害，眼球突出
血液 白血球増多
皮膚 創傷治癒障害　紫斑，ざ瘡，発汗異常，脂肪織炎，皮膚菲薄化・脆弱化，多毛症，皮膚線条
過敏症　掻痒，発疹，紅斑
その他　発熱 疲労感，仮性脳腫瘍，しゃっくり，易刺激性，低体温
（表終了）

2 個々の器官系用医薬品

ソル・メドロール静注用500mg（500mg1瓶（溶解液付））

内 注射 流通
ハイリスク

【YJコード】2456400D3094
【薬効分類】2．4．5 副腎ホルモン剤
【一般名】メチルプレドニゾロンコハク酸エステルナトリウム
【メーカー】製)ファイザー
【薬価】1668円/1V
【薬価収載日】2008/06/20
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇急性循環不全（出血性ショック，感染性ショック）
〇腎臓移植に伴う免疫反応の抑制
〇受傷後8時間以内の急性脊髄損傷（運動・感覚機能障害）における神経機能障害の改善
〇ネフローゼ症候群
〇多発性硬化症の急性増悪
〇治療抵抗性の下記リウマチ性疾患
全身性血管炎（顕微鏡的多発血管炎，多発血管炎性肉芽腫症，結節性多発動脈炎，好酸球性多発血管炎性肉芽腫症，高安動脈炎等），全身性エリテマトーデス，多発性筋炎，皮膚筋炎，強皮症，混合性結合組織病，難治性リウマチ性疾患
〇川崎病の急性期（重症で，冠動脈障害の発生の危険がある時）
〇下記の悪性腫瘍への他の抗悪性腫瘍剤との併用療法
再発・難治性の悪性リンパ腫
注意
ネフローゼ症候群，治療抵抗性のリウマチ性疾患
経口副腎皮質ホルモン剤（プレドニゾロン等）の治療で効果不十分時に使用。
川崎病の急性期（重症で，冠動脈障害の発生の危険がある時）
静注用免疫グロブリン不応例又は静注用免疫グロブリン不応予測例に投与。
【用法用量】急性循環不全
出血性ショック
1回125～2000mg 緩徐に静注，点滴静注。症状の改善なければ適宜追加。
感染性ショック
成人 1回1000mg 緩徐に静注，点滴静注。症状の改善なければ 1000mgを追加。
適宜増減。
腎臓移植に伴う免疫反応の抑制
成人 1日40～1000mg 緩徐に静注，点滴静注。
適宜増減。
受傷後8時間以内の急性脊髄損傷（運動・感覚機能障害）における神経機能障害の改善
受傷後8時間以内に 30mg／kgを15分かけ 点滴静注。以後45分間休薬し 5．4mg／kg／時を23時間 点滴静注。
ネフローゼ症候群
成人 1日500～1000mg 緩徐に静注，点滴静注。
小児 1日30mg／kg（最大1000mg） 緩徐に静注，点滴静注。
多発性硬化症の急性増悪
成人 1日500～1000mg 緩徐に静注，点滴静注。
治療抵抗性のリウマチ性疾患
成人 1日500～1000mg 緩徐に静注，点滴静注。
小児 1日30mg／kg 緩徐に静注，点滴静注。
適宜増減，1日1000mgまで。
川崎病の急性期（重症，冠動脈障害発生の危険あり）
1回30mg／kg（最大1000mg） 1日1回 1～3日間 点滴静注。
再発・難治性の悪性リンパ腫への他の抗悪性腫瘍剤との併用療法
1日250～500mg 1日1回 5日間 緩徐に静注，点滴静注。これを1コースとし，3～4週ごとに繰り返す。
注意
急性循環不全（出血性・感染性ショック），腎臓移植に伴う免疫反応の抑制
1．投与量が250mgを超える時は，最低30分以上かけ投与。
受傷後8時間以内の急性脊髄損傷（運動・感覚機能障害）における神経機能障害の改善
2．受傷後8時間以内に投与開始。用法・用量の体重換算用量を厳守。
ネフローゼ症候群
3．投与回数や投与スケジュールは，国内外のガイドライン等の最新の情報を参考。
多発性硬化症の急性増悪
4．投与回数等は，国内外のガイドライン等の最新の情報を参考。
川崎病の急性期（重症，冠動脈障害発生の危険あり）
5．投与日数や投与時間等は，ガイドライン等の最新の情報を参考。
再発・難治性の悪性リンパ腫への他の抗悪性腫瘍剤との併用療法
6．関連文献，併用薬剤の電子添文を熟読。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．デスモプレシン酢酸塩水和物（男性の夜間多尿による夜間頻尿）の投与患者。
3．免疫抑制が生じる量の本剤投与患者に生ワクチン・弱毒生ワクチンを接種しない。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック（0．08%），アナフィラキシー（呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等）。
2．心停止（頻度不明），循環性虚脱（頻度不明），不整脈（頻度不明）等。
3．感染症（2．54%）（ウイルス，細菌，真菌，原虫，寄生虫等による感染症の誘発，徴候の隠蔽，感染症の悪化等）。
4．続発性副腎皮質機能不全（頻度不明）。
5．骨粗鬆症（頻度不明）（脊椎圧迫骨折，病的骨折），骨頭無菌性壊死（0．36%）（大腿骨，上腕骨等）（疼痛等）。
6．胃腸穿孔（0．02%），消化管出血（0．80%），消化性潰瘍（0．02%）。
7．ミオパシー（頻度不明），四肢麻痺，筋力低下，CKの上昇等。
8．血栓症（頻度不明）（心筋梗塞，腸間膜動脈血栓症等），血小板減少。
9．頭蓋内圧亢進（頻度不明），痙攣（頻度不明）。
10．精神変調（0．06%），うつ状態（0．02%）。
11．糖尿病（3．95%）。
12．緑内障（頻度不明），後嚢白内障（0．09%）（眼のかすみ），中心性漿液性脈絡網膜症（頻度不明）・多発性後極部網膜色素上皮症（頻度不明）（視力の低下，ものがゆがんで見えたり小さく見えたり，視野の中心がゆがんで見えにくくなる，限局性の網膜剥離，広範な網膜剥離），眼圧上昇。
13．気管支喘息（頻度不明），喘息発作の誘発・悪化。
14．心破裂（頻度不明）。
15．膵炎（0．03%）（出血性膵炎等）。
16．うっ血性心不全（0．02%）。
17．食道炎（頻度不明）。
18．カポジ肉腫（頻度不明）。
19．アキレス腱等の腱断裂（頻度不明）。
20．肝機能障害（1．21%）（AST，ALT，AI－Pの上昇等），黄疸（頻度不明）。
21．腫瘍崩壊症候群（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
内分泌 月経異常，クッシング様症状
消化器 嘔吐，悪心 下痢，腹痛，胸やけ，腹部膨満感，食欲不振，食欲亢進
循環器 血圧降下，血圧上昇 徐脈
精神神経系 多幸症，不眠，頭痛，眩暈
筋・骨格 関節痛 筋力低下，筋肉痛
脂質・蛋白質代謝 満月様顔貌 窒素負平衡，体重増加
肝臓 脂肪肝
体液・電解質 浮腫，低カリウム性アルカローシス，カリウム低下，ナトリウム貯留
眼 網膜障害，眼球突出
血液 白血球増多
皮膚 創傷治癒障害 紫斑，ざ瘡，発汗異常，脂肪織炎，皮膚菲薄化・脆弱化，多毛症，皮膚線条
過敏症 掻痒，発疹，紅斑
その他 発熱 疲労感，仮性脳腫瘍，しゃっくり，易刺激性，低体温
（表終了）

デカドロン錠0．5mg（0．5mg1錠）

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】2454002F1183
【薬効分類】2．4．5 副腎ホルモン剤
【一般名】デキサメタゾン
【メーカー】製)日医工 販)MSD
【薬価】6.1円/1T
【薬価収載日】2008/06/20
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇慢性副腎皮質機能不全（原発性，続発性，下垂体性，医原性），急性副腎皮質機能不全（副腎クリーゼ），副腎性器症候群，亜急性甲状腺炎，甲状腺中毒症〔甲状腺（中毒性）クリーゼ〕，甲状腺疾患に伴う悪性眼球突出症，ACTH単独欠損症，下垂体抑制試験
〇関節リウマチ，若年性関節リウマチ（スチル病含む），リウマチ熱（リウマチ性心炎含む），リウマチ性多発筋痛
〇エリテマトーデス（全身性・慢性円板状），全身性血管炎（高安動脈炎，結節性多発動脈炎，顕微鏡的多発血管炎，多発血管炎性肉芽腫症含む），多発性筋炎（皮膚筋炎），強皮症
〇ネフローゼ，ネフローゼ症候群
〇うっ血性心不全
〇気管支喘息，喘息性気管支炎（小児喘息性気管支炎含む），薬剤その他の化学物質によるアレルギー・中毒（薬疹，中毒疹含む），血清病
〇重症感染症（化学療法と併用）
〇溶血性貧血（免疫性，免疫性機序の疑い），白血病（急性白血病，慢性骨髄性白血病の急性転化，慢性リンパ性白血病）（皮膚白血病含

2 個々の器官系用医薬品

む)，顆粒球減少症(本態性，続発性)，紫斑病(血小板減少性・血小板非減少性)，再生不良性貧血
〇限局性腸炎，潰瘍性大腸炎
〇重症消耗性疾患の全身状態の改善(癌末期，スプルー含む)
〇劇症肝炎(重症含む)，胆汁うっ滞型急性肝炎，慢性肝炎(活動型，急性再燃型，胆汁うっ滞型)(一般的治療に反応せず肝機能の著しい異常が持続する難治性のみ)，肝硬変(活動型，難治性腹水を伴うもの，胆汁うっ滞を伴うもの)
〇サルコイドーシス(両側肺門リンパ節腫脹のみの時を除く)，びまん性間質性肺炎(肺線維症)(放射線肺臓炎含む)
〇肺結核(粟粒結核，重症結核のみ)(抗結核剤と併用)，結核性髄膜炎(抗結核剤と併用)，結核性胸膜炎(抗結核剤と併用)，結核性腹膜炎(抗結核剤と併用)，結核性心嚢炎(抗結核剤と併用)
〇脳脊髄炎(脳炎，脊髄炎含む)(一次性脳炎では頭蓋内圧亢進症状があり，他剤が効果不十分時に短期使用)，末梢神経炎(ギランバレー症候群含む)，筋強直症，重症筋無力症，多発性硬化症(視束脊髄炎含む)，小舞踏病，顔面神経麻痺，脊髄蜘網膜炎
〇悪性リンパ腫(リンパ肉腫症，細網肉腫症，ホジキン病，皮膚細網症，菌状息肉症)，類似疾患(近縁疾患)，好酸性肉芽腫，乳癌の再発転移
〇抗悪性腫瘍剤(シスプラチン等)投与に伴う消化器症状(悪心・嘔吐)
〇特発性低血糖症
〇原因不明の発熱
〇副腎摘除，臓器・組織移植，侵襲後肺水腫，副腎皮質機能不全への外科的侵襲
〇蛇毒・昆虫毒(重症の虫ささされ含む)
〇強直性脊椎炎(リウマチ性脊椎炎)
〇卵管整形術後の癒着防止
〇前立腺癌(他の療法無効時)，陰茎硬結
〇★湿疹・皮膚炎群(急性湿疹，亜急性湿疹，慢性湿疹，接触皮膚炎，貨幣状湿疹，自家感作性皮膚炎，アトピー皮膚炎，乳・幼・小児湿疹，ビダール苔癬，その他の神経皮膚炎，脂漏性皮膚炎，進行性指掌角皮症，その他の手指の皮膚炎，陰部・肛門湿疹，耳介・外耳道の湿疹・皮膚炎，鼻前庭・鼻翼周辺の湿疹・皮膚炎等)(重症例以外は極力投与しない)，★痒疹群(小児ストロフルス，蕁麻疹様苔癬，固定蕁麻疹含む)(重症例のみ。固定蕁麻疹は局注)，蕁麻疹(慢性例除く)(重症例のみ)，★乾癬・類症[尋常性乾癬(重症例)，乾癬性関節炎，乾癬性紅皮症，膿疱性乾癬，稽留性肢端皮膚炎，疱疹状膿痂疹，ライター症候群]，★掌蹠膿疱症(重症例のみ)，★扁平苔癬(重症例のみ)，成年性浮腫性硬化症，紅斑症(★多形滲出性紅斑(重症例のみ)，結節性紅斑)，IgA血管炎(重症例のみ)，ウェーバークリスチャン病，粘膜皮膚眼症候群[開口部糜爛性外皮症，スチブンス・ジョンソン病，皮膚口内炎，フックス症候群，ベーチェット病(眼症状のない時)，リップシュッツ急性陰門潰瘍]，レイノー病，★円形脱毛症(悪性型のみ)，天疱瘡群(尋常性天疱瘡，落葉状天疱瘡，Senear－Usher症候群，増殖性天疱瘡)，デューリング疱疹状皮膚炎(類天疱瘡，妊娠性疱疹含む)，先天性表皮水疱症，帯状疱疹(重症例のみ)，★紅皮症(ヘブラ紅色粃糠疹含む)，顔面播種状粟粒性狼瘡(重症例のみ)，アレルギー性血管炎・その類症(急性痘瘡様苔癬状粃糠疹含む)，潰瘍性慢性膿皮症，新生児スクレレーマ
〇内眼・視神経・眼窩・眼筋の炎症性疾患の対症療法(ブドウ膜炎，網脈絡膜炎，網膜血管炎，視神経炎，眼窩炎性偽腫瘍，眼窩漏斗尖端部症候群，眼筋麻痺)，外・前眼部の炎症性疾患の対症療法で点眼が不適当・不十分な時(眼瞼炎，結膜炎，角膜炎，強膜炎，虹彩毛様体炎)，眼科の術後炎症症
〇急性・慢性中耳炎，滲出性中耳炎・耳管狭窄症，メニエル病・メニエル症候群，急性感音性難聴，血管運動(神経)性鼻炎，アレルギー性鼻炎，花粉症(枯草熱)，進行性壊疽性鼻炎，喉頭炎・喉頭浮腫，耳鼻咽喉科の術後の後療法
〇難治性口内炎・舌炎(局所療法で治癒しないもの)
〇嗅覚障害，急性・慢性(反復性)唾液腺炎
〇全身性ALアミロイドーシス
★ 外用剤で効果不十分時のみ使用
注意
下垂体抑制試験
デキサメタゾン抑制試験の実施前に褐色細胞腫・パラガングリオーマの合併の有無を確認。合併があれば，褐色細胞腫・パラガングリオーマの治療を優先。
【用法用量】抗悪性腫瘍剤(シスプラチン等)投与に伴う消化器症状(悪心・嘔吐)
成人　1日4～20mg　1日1～2回　分割　内服。
1日最大20mg。
全身性ALアミロイドーシス
他剤との併用 成人　1日40mg　1，8，15，22日目　内服。28日を1サイクルとし最大6サイクルまで繰り返す。
上記以外
成人　1日0．5～8mg　1日1～4回　分割　内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．下記の使用患者
デスモプレシン酢酸塩水和物(男性の夜間多尿による夜間頻尿)，リルピビリン，リルピビリン塩酸塩・テノホビル　アラフェナミドフマル酸塩・エムトリシタビン，リルピビリン塩酸塩・ドルテグラビルナトリウム。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．誘発感染症，感染症の増悪(各頻度不明)，B型肝炎ウイルスの増殖による肝炎。
2．続発性副腎皮質機能不全，糖尿病(各頻度不明)。
3．消化性潰瘍，消化管穿孔，膵炎(各頻度不明)。
4．精神変調，うつ状態，痙攣(各頻度不明)。
5．骨粗鬆症，大腿骨・上腕骨等の骨頭無菌性壊死，ミオパシー，脊椎圧迫骨折，長骨の病的骨折(各頻度不明)。
6．緑内障，後嚢白内障(各頻度不明)。
7．血栓塞栓症(頻度不明)。
8．腫瘍崩壊症候群(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
内分泌 月経異常
消化器 下痢，悪心・嘔吐，胃痛，胸やけ，腹部膨満感，口渇，食欲不振，食欲亢進，便秘
精神神経系 多幸症，不眠，頭痛，眩暈，振戦，末梢性感覚ニューロパチー，激越，傾眠
筋・骨格 筋肉痛，関節痛，関節腫脹
脂質・蛋白質代謝 満月様顔貌，野牛肩，窒素負平衡，脂肪肝
体液・電解質 浮腫，血圧上昇，低カリウム性アルカローシス，低ナトリウム血症，高カリウム血症
眼 中心性漿液性網脈絡膜症等による網膜障害，眼球突出
血液 白血球増多，好中球減少症，血小板減少症，白血球減少症
皮膚 ざ瘡，多毛，脱毛，色素沈着，皮下溢血，紫斑，線条，掻痒，発汗異常，顔面紅斑，紅斑，創傷治癒障害，皮膚菲薄化・脆弱化，脂肪織炎，皮膚乾燥
過敏症 発疹
その他 発熱，疲労感，ステロイド腎症，頻尿，体重増加，精子数・その運動性の増減，しゃっくり，発声障害，咳嗽，動悸，耳鳴
(表終了)

デキサート注射液1．65mg（1．65mg0．5mL1管）

両　注射　後発　流通
ハイリスク

【YJコード】2454405H1032
【薬効分類】2．4．5　副腎ホルモン剤
【一般名】デキサメタゾンリン酸エステルナトリウム
【先発品】デカドロン注射液1．65mg
【メーカー】製)富士製薬工業
【薬価】108円/1A
【薬価収載日】2009/09/25
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】副腎皮質ホルモン製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇内分泌疾患
慢性副腎皮質機能不全(原発性，続発性，下垂体性，医原性)[筋注]
急性副腎皮質機能不全(副腎クリーゼ)[静注，点滴静注，筋注]
副腎性器症候群[※筋注]
亜急性甲状腺炎[※筋注]
甲状腺中毒症〔甲状腺(中毒性)クリーゼ〕[静注，点滴静注，※筋注]
甲状腺疾患に伴う悪性眼球突出症[※筋注]
特発性低血糖症[静注，点滴静注，※筋注]
〇リウマチ性疾患，結合織炎・関節炎
関節リウマチ[筋注，関節腔内注射]
若年性関節リウマチ(スチル病含む)[筋注，関節腔内注射]
リウマチ熱(リウマチ性心炎含む)[※静注，※点滴静注，筋注]
リウマチ性多発筋痛[筋注]
強直性脊椎炎(リウマチ性脊椎炎)[筋注]
強直性脊椎炎(リウマチ性脊椎炎)に伴う四肢関節炎[関節腔内注射]
関節周囲炎(非感染性のみ)[軟組織内注射，腱鞘内注射，滑液嚢内注入]
腱炎(非感染性のみ)[軟組織内注射，腱鞘内注射]
腱鞘炎(非感染性のみ)[腱鞘内注射]
腱周囲炎(非感染性のみ)[軟組織内注射，腱鞘内注射，滑液嚢内注入]
滑液包炎(非感染性のみ)[滑液嚢内注入]
変形性関節症(炎症症状がある時)[関節腔内注射]
非感染性慢性関節炎[関節腔内注射]
痛風性関節炎[関節腔内注射]
〇膠原病
エリテマトーデス(全身性・慢性円板状)[※静注，※点滴静注，筋注]
全身性血管炎(高安動脈炎，結節性多発動脈炎，顕微鏡的多発血管炎，多発血管炎性肉芽腫症含む)[※静注，※点滴静注，筋注]
多発性筋炎(皮膚筋炎)[※静注，※点滴静注，筋注]
強皮症[※筋注]
〇腎疾患
ネフローゼ，ネフローゼ症候群[※静注，※点滴静注，※筋注]
〇心疾患
うっ血性心不全[※静注，※点滴静注，※筋注]
〇アレルギー性疾患
気管支喘息[静注，点滴静注，筋注(筋注以外の投与法では不適当な時のみ)，ネブライザー]
喘息性気管支炎(小児喘息性気管支炎含む)[※筋注，ネブライザー]
喘息発作重積状態[静注，点滴静注]
薬剤その他の化学物質によるアレルギー・中毒(薬疹，中毒疹含む)

2 個々の器官系用医薬品

[※静注, ※点滴静注, ※筋注]
血清病[静注, 点滴静注, ※筋注]
アナフィラキシーショック[静注, 点滴静注]
〇血液疾患
紫斑病(血小板減少性・血小板非減少性)[静注, 点滴静注, ※筋注]
溶血性貧血(免疫性, 免疫性機序の疑い)[静注, 点滴静注, ※筋注]
白血病(急性白血病, 慢性骨髄性白血病の急性転化, 慢性リンパ性白血病)(皮膚白血病含む)[静注, 点滴静注, ※筋注]
上記のうち髄膜白血病[脊髄腔内注入]
再生不良性貧血[静注, 点滴静注, ※筋注]
凝固因子の障害による出血性素因[静注, 点滴静注, ※筋注]
顆粒球減少症(本態性, 続発性)[静注, 点滴静注, ※筋注]
〇消化器疾患
潰瘍性大腸炎[※静注, ※点滴静注, ※筋注, 注腸]
限局性腸炎[※静注, ※点滴静注, ※筋注, 注腸]
重症消耗性疾患の全身状態の改善(癌末期, スプルー含む)[※静注, ※点滴静注, ※筋注]
〇肝疾患
劇症肝炎(重症含む)[静注, ※点滴静注, ※筋注]
肝硬変(活動型, 難治性腹水を伴うもの, 胆汁うっ滞を伴うもの)[※筋注]
〇肺疾患
びまん性間質性肺炎(肺線維症)(放射線肺臓炎含む)[※静注, 点滴静注, ネブライザー]
〇重症感染症
重症感染症(化学療法と併用)[静注, 点滴静注, ※筋注]
〇結核性疾患
結核性髄膜炎(抗結核剤と併用)[脊髄腔内注入]
結核性胸膜炎(抗結核剤と併用)[胸腔内注入]
〇神経疾患
脳脊髄炎(脳炎, 脊髄炎含む)(一次性脳炎では頭蓋内圧亢進症状があり, 他剤が効果不十分時に短期使用)[静注, 点滴静注, ※筋注, 脊髄腔内注入]
末梢神経炎(ギランバレー症候群含む)[※静注, ※点滴静注, ※筋注, 脊髄腔内注入]
重症筋無力症[静注, 点滴静注, ※筋注, 脊髄腔内注入]
多発性硬化症(視束脊髄炎含む)[静注, 点滴静注, ※筋注, 脊髄腔内注入]
小舞踏病[※筋注]
顔面神経麻痺[※筋注]
脊髄蜘網膜炎[※筋注]
〇悪性腫瘍
悪性リンパ腫(リンパ肉腫症, 細網肉腫症, ホジキン病, 皮膚細網症, 菌状息肉症), 類似疾患(近縁疾患)[静注, 点滴静注, ※筋注, 脊髄腔内注入]
好酸性肉芽腫[静注, 点滴静注, ※筋注]
乳癌の再発転移[※筋注]
〇下記の悪性腫瘍への他の抗悪性腫瘍剤との併用療法
多発性骨髄腫[点滴静注]
〇抗悪性腫瘍剤(シスプラチン等)投与に伴う消化器症状(悪心・嘔吐)[静注, 点滴静注]
〇外科疾患
副腎摘除[静注, 点滴静注, 筋注]
臓器・組織移植[※筋注]
侵襲後肺水腫[静注, ネブライザー]
副腎皮質機能不全への外科的侵襲[※筋注]
外科的ショック・外科的ショック様状態[静注]
脳浮腫[静注]
輸血による副作用[静注]
気管支痙攣(術中)[静注]
蛇毒・昆虫毒(重症の虫さされ含む)[※筋注]
術後の腹膜癒着防止[腹腔内注入]
〇整形外科疾患
椎間板ヘルニアの神経根炎(根性坐骨神経痛含む)[硬膜外注射]
脊髄浮腫[静注, 硬膜外注射]
〇産婦人科疾患
卵管整形術後の癒着防止[※筋注, 卵管腔内注入]
〇泌尿器科疾患
前立腺癌(他の療法無効時)[※筋注]
陰茎硬結[※筋注, 局所皮内注]
〇皮膚科疾患
★湿疹・皮膚炎群(急性湿疹, 亜急性湿疹, 慢性湿疹, 接触皮膚炎, 貨幣状湿疹, 自家感作性皮膚炎, アトピー皮膚炎, 乳・幼・小児湿疹, ビダール苔癬, その他の神経皮膚炎, 脂漏性皮膚炎, 進行性指掌角皮症, その他の手指の皮膚炎, 陰部・肛門湿疹, 耳介・外耳道の湿疹・皮膚炎, 鼻前庭・鼻翼周辺の湿疹・皮膚炎等)(重症例以外は極力投与しない。局注は浸潤, 苔癬化の著しい時のみ)[※筋注, 局所皮内注]
★痒疹群(小児ストロフルス, 蕁麻疹様苔癬, 固定蕁麻疹含む)(重症例のみ。固定蕁麻疹は局注)[※筋注, 局所皮内注]
蕁麻疹(慢性例除く)(重症例のみ)[※点滴静注, ※筋注]
★乾癬・類症〔尋常性乾癬(重症例), 乾癬性関節炎, 乾癬性紅皮症, 膿疱性乾癬, 稽留性肢端皮膚炎, 疱疹状膿痂疹, ライター症候群〕[※点滴静注, ※筋注]
上記のうち★尋常性乾癬[局所皮内注]
★掌蹠膿疱症(重症例のみ)[※筋注]
★扁平苔癬(重症例のみ)[※筋注, 局所皮内注]
成年性浮腫性硬化症[※筋注]
紅斑症(★多形滲出性紅斑(重症例のみ), 結節性紅斑)[※筋注]
粘膜皮膚眼症候群〔開口部糜爛性外皮症, スチブンス・ジョンソン病, 皮膚口内炎, フックス症候群, ベーチェット病(眼症状のない時), リップシュッツ急性陰門潰瘍〕[※点滴静注, ※筋注]
★円形脱毛症(悪性型のみ)[局所皮内注]
天疱瘡群(尋常性天疱瘡, 落葉状天疱瘡, Senear－Usher症候群, 増殖性天疱瘡)[※点滴静注, ※筋注]
デューリング疱疹状皮膚炎(類天疱瘡, 妊娠性疱疹含む)[※点滴静注, ※筋注]
帯状疱疹(重症例のみ)[※筋注]
★紅皮症(ヘブラ紅色粃糠疹含む)[※点滴静注, ※筋注]
★早期ケロイド・ケロイド防止[局所皮内注]
新生児スクレーマ[※筋注]
〇眼科疾患
内眼・視神経・眼窩・眼筋の炎症性疾患の対症療法(ブドウ膜炎, 網脈絡膜炎, 網膜血管炎, 視神経炎, 眼窩炎性偽腫瘍, 眼窩漏斗尖端部症候群, 眼筋麻痺)[※静注, ※筋注, 結膜下注射, 球後注射, 点眼]
外・前眼部の炎症性疾患の対症療法で点眼が不適当・不十分な時(眼瞼炎, 結膜炎, 角膜炎, 強膜炎, 虹彩毛様体炎)[※静注, ※筋注, 結膜下注射, 球後注射]
眼科の術後炎症[※静注, ※筋注, 結膜下注射, 点眼]
〇耳鼻咽喉科疾患
急性・慢性中耳炎[※静注, ※点滴静注, ※筋注, 中耳腔内注入]
滲出性中耳炎・耳管狭窄症[※静注, ※点滴静注, ※筋注, 中耳腔内注入, 耳管内注入]
メニエル病・メニエル症候群[静注, 点滴静注, 筋注]
急性感音性難聴[静注, 点滴静注, 筋注]
血管運動(神経)性鼻炎[筋注, ネブライザー, 鼻腔内注入, 鼻甲介内注射]
アレルギー性鼻炎[筋注, ネブライザー, 鼻腔内注入, 鼻甲介内注射]
花粉症(枯草熱)[筋注, ネブライザー, 鼻腔内注入, 鼻甲介内注射]
副鼻腔炎・鼻茸[筋注, ネブライザー, 鼻腔内注入, 副鼻腔内注入, 鼻茸内注射]
進行性壊疽性鼻炎[静注, 点滴静注, 筋注, ネブライザー, 鼻腔内注入, 副鼻腔内注入, 喉頭・気管注入]
喉頭炎・喉頭浮腫[静注, 点滴静注, 筋注, ネブライザー, 喉頭・気管注入]
喉頭ポリープ・結節[※静注, ※点滴静注, ※筋注, ネブライザー, 喉頭・気管注入]
食道の炎症(腐蝕性食道炎, 直達鏡使用後)・食道拡張術後[静注, 点滴静注, 筋注, ネブライザー, 食道注入]
耳鼻咽喉科の術後の後療法[静注, 点滴静注, 筋注, 軟組織内注射, 局所皮内注, ネブライザー, 鼻腔内注入, 副鼻腔内注入, 鼻甲介内注射, 喉頭・気管注入, 中耳腔内注入, 食道注入]
〇歯科・口腔外科疾患
難治性口内炎・舌炎(局所療法で治癒しないもの)[軟組織内注射]
※印 下記でのみ使用。
(1)静注・点滴静注
内服不能時, 緊急時, 筋注不適時
(2)筋注
内服不能時
★印 外用剤で効果不十分時のみ使用。
【用法用量】成人　下記1回量。
適宜増減。
(表開始)
投与法 投与量・投与回数 (デキサメタゾン)
静注 1回1. 65～6. 6mg　3～6時間ごと
点滴静注 1回1. 65～8. 3mg　1日1～2回
筋注 1回1. 65～6. 6mg　3～6時間ごと
関節腔内注射 1回0. 66～4. 1mg, 投与間隔　2週間以上
軟組織内注射 1回1. 65～5mg, 投与間隔　2週間以上
腱鞘内注射 1回0. 66～2. 1mg, 投与間隔　2週間以上
滑液嚢内注入 1回0. 66～4. 1mg, 投与間隔　2週間以上
硬膜外注射 1回1. 65～8. 3mg, 投与間隔　2週間以上
脊髄腔内注入 1回0. 83～4. 1mg　週1～3回
胸腔内注入 1回0. 83～4. 1mg　週1～3回
腹腔内注入 1回1. 65mg
局所皮内注 1回0. 04～0. 08mgずつ　0. 83mgまで週1回
卵管腔内注入 1回0. 33～0. 83mg
注腸 1回0. 33～5mg
結膜下注射 1回0. 33～2. 1mg　液量は0. 2～0. 5mL
球後注射 1回0. 83～4. 1mg　液量は0. 5～1mL
点眼 1回0. 21～0. 83mg／mL溶液1～2滴　1日3～8回
ネブライザー 1回0. 08～1. 65mg　1日1～3回
鼻腔内注入 1回0. 08～1. 65mg　1日1～3回
副鼻腔内注入 1回0. 08～1. 65mg　1日1～3回
鼻甲介内注射 1回0. 66～4. 1mg
鼻茸内注射 1回0. 66～4. 1mg
喉頭・気管注入 1回0. 08～1. 65mg　1日1～3回
中耳腔内注入 1回0. 08～1. 65mg　1日1～3回
耳管内注入 1回0. 08～1. 65mg　1日1～3回
食道注入 1回0. 83～1. 65mg
(表終了)
多発性骨髄腫への他の抗悪性腫瘍剤との併用療法
(表開始)
投与法 投与量・投与回数 (デキサメタゾン)
点滴静注 ビンクリスチン硫酸塩, ドキソルビシン塩酸塩との併用;1日33mg, 21日から28日を1クール, 第1日目から第4日目, 第9日目から第12日目, 第17日目から第20日目に, 投与。適宜減量。
(表終了)
抗悪性腫瘍剤(シスプラチン等)投与に伴う消化器症状(悪心・嘔吐)
(表開始)
投与法 投与量・投与回数 (デキサメタゾン)

デキサート注射液1. 65mg

2 個々の器官系用医薬品

静注 点滴静注 成人 1日3．3～16．5mg 1日1～2回 分割 投与。1日最大16．5mgまで。
（表終了）
注意
悪性リンパ腫への他の抗腫瘍剤との併用療法は，併用薬剤の添付文書も参照。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．感染症のある関節腔内，滑液嚢内，腱鞘内・腱周囲。
3．動揺関節の関節腔内。
4．下記の投与患者
デスモプレシン酢酸塩水和物（男性の夜間多尿による夜間頻尿）。
本剤全身投与
ダクラタスビル塩酸塩，アスナプレビル。
本剤全身投与（単回投与除く）
リルピビリン塩酸塩，リルピビリン塩酸塩・テノホビル アラフェナミドフマル酸塩・エムトリシタビン，ドルテグラビルナトリウム・リルピビリン塩酸塩。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック（頻度不明），アナフィラキシー（頻度不明）（失神，意識喪失，呼吸困難，顔面蒼白，血圧低下等）。
2．誘発感染症（頻度不明），感染症の増悪（頻度不明），B型肝炎ウイルスの増殖による肝炎。
3．続発性副腎皮質機能不全（頻度不明），糖尿病（頻度不明）。
4．消化性潰瘍（頻度不明），消化管穿孔（頻度不明），膵炎（頻度不明）。
5．精神変調（頻度不明），うつ状態（頻度不明），痙攣（頻度不明）。
6．骨粗鬆症（頻度不明），大腿骨・上腕骨等の骨頭無菌性壊死（頻度不明），ミオパシー（頻度不明），脊椎圧迫骨折（頻度不明），長骨の病的骨折（頻度不明）。
7．緑内障（頻度不明），後嚢白内障（頻度不明）。
8．血栓塞栓症（頻度不明）。
9．喘息発作（頻度不明）。
10．腫瘍崩壊症候群（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
内分泌 月経異常
消化器 下痢，悪心・嘔吐，胃痛，胸やけ，腹部膨満感，口渇，食欲不振，食欲亢進
精神神経系 多幸症，不眠，頭痛，眩暈
筋・骨格 筋肉痛，関節痛
投与部位 関節腔内投与：関節の不安定化，疼痛・腫脹・圧痛の増悪 筋注・皮内注：組織の萎縮による陥没（局所）
脂質・蛋白質代謝 満月様顔貌，野牛肩，窒素負平衡，脂肪肝
体液・電解質 浮腫，血圧上昇，低カリウム性アルカローシス
眼 中心性漿液性網脈絡膜症等による網膜障害，眼球突出
血液 白血球増多
皮膚 ざ瘡，多毛，脱毛，色素沈着，皮下溢血，紫斑，線条，掻痒，発汗異常，顔面紅斑，紅斑，創傷治癒障害，皮膚菲薄化・脆弱化，脂肪織炎
その他 発熱，疲労感，ステロイド腎症，体重増加，精子数・その運動性の増減，しゃっくり，刺激感（ピリピリした痛み，しびれ，ひきつり感等）
（表終了）

デキサート注射液3．3mg（3．3mg1mL1管）

両 注射 後発 流通
ハイリスク

【YJコード】2454405H3035
【薬効分類】2．4．5 副腎ホルモン剤
【一般名】デキサメタゾンリン酸エステルナトリウム
【先発品】デカドロン注射液3．3mg
【メーカー】製）富士製薬工業
【薬価】173円/1A
【薬価収載日】2009/09/25
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】副腎皮質ホルモン製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○内分泌疾患
慢性副腎皮質機能不全（原発性，続発性，下垂体性，医原性）［筋注］
急性副腎皮質機能不全（副腎クリーゼ）［静注，点滴静注，筋注］
副腎性器症候群［※筋注］
亜急性甲状腺炎［※筋注］
甲状腺中毒症［甲状腺（中毒性）クリーゼ］［静注，点滴静注，※筋注］
甲状腺疾患に伴う悪性眼球突出症［※筋注］
特発性低血糖症［静注，点滴静注，※筋注］
○リウマチ性疾患，結合織炎・関節炎
関節リウマチ［筋注，関節腔内注射］
若年性関節リウマチ（スチル病含む）［筋注，関節腔内注射］
リウマチ熱（リウマチ性心炎含む）［※静注，※点滴静注，筋注］
リウマチ性多発筋痛［筋注］
強直性脊椎炎（リウマチ性脊椎炎）［筋注］
強直性脊椎炎（リウマチ性脊椎炎）に伴う四肢関節炎［関節腔内注射］
関節周囲炎（非感染性のみ）［軟組織内注射，腱鞘内注射，滑液嚢内注入］
腱炎（非感染性のみ）［軟組織内注射，腱鞘内注射］
腱鞘炎（非感染性のみ）［腱鞘内注射］
腱周囲炎（非感染性のみ）［軟組織内注射，腱鞘内注射，滑液嚢内注入］
滑液包炎（非感染性のみ）［滑液嚢内注入］
変形性関節症（炎症症状がある時）［関節腔内注射］
非感染性慢性関節炎［関節腔内注射］
痛風性関節炎［関節腔内注射］
○膠原病
エリテマトーデス（全身性・慢性円板状）［※静注，※点滴静注，筋注］
全身性血管炎（高安動脈炎，結節性多発動脈炎，顕微鏡的多発血管炎，多発血管炎性肉芽腫症含む）［※静注，※点滴静注，筋注］
多発性筋炎（皮膚筋炎）［※静注，※点滴静注，筋注］
強皮症［※筋注］
○腎疾患
ネフローゼ，ネフローゼ症候群［※静注，※点滴静注，※筋注］
○心疾患
うっ血性心不全［※静注，※点滴静注，※筋注］
○アレルギー性疾患
気管支喘息［静注，点滴静注，筋注（筋注以外の投与法では不適当な時のみ），ネブライザー］
喘息性気管支炎（小児喘息性気管支炎含む）［※筋注，ネブライザー］
喘息発作重積状態［静注，点滴静注］
薬剤その他の化学物質によるアレルギー・中毒（薬疹，中毒疹含む）［※静注，※点滴静注，※筋注］
血清病［静注，点滴静注，※筋注］
アナフィラキシーショック［静注，点滴静注］
○血液疾患
紫斑病（血小板減少性・血小板非減少性）［静注，点滴静注，※筋注］
溶血性貧血（免疫性，免疫性機序の疑い）［静注，点滴静注，※筋注］
白血病（急性白血病，慢性骨髄性白血病の急性転化，慢性リンパ性白血病）（皮膚白血病含む）［静注，点滴静注，※筋注］
上記のうち髄膜白血病［脊髄腔内注入］
再生不良性貧血［静注，点滴静注，※筋注］
凝固因子の障害による出血性素因［静注，点滴静注，※筋注］
顆粒球減少症（本態性，続発性）［静注，点滴静注，※筋注］
○消化器疾患
潰瘍性大腸炎［※静注，※点滴静注，※筋注，注腸］
限局性腸炎［※静注，※点滴静注，※筋注，注腸］
重症消耗性疾患の全身状態の改善（癌末期，スプルー含む）［※静注，※点滴静注，※筋注］
○肝疾患
劇症肝炎（重症含む）［静注，※点滴静注，※筋注］
肝硬変（活動型，難治性腹水を伴うもの，胆汁うっ滞を伴うもの）［※筋注］
○肺疾患
びまん性間質性肺炎（肺線維症）（放射線肺臓炎含む）［※静注，点滴静注，ネブライザー］
○重症感染症
重症感染症（化学療法と併用）［静注，点滴静注，※筋注］
○結核性疾患
結核性髄膜炎（抗結核剤と併用）［脊髄腔内注入］
結核性胸膜炎（抗結核剤と併用）［胸腔内注入］
○神経疾患
脳脊髄炎（脳炎，脊髄炎含む）（一次性脳炎では頭蓋内圧亢進症状があり，他剤が効果不十分時に短期使用）［静注，点滴静注，※筋注，脊髄腔内注入］
末梢神経炎（ギランバレー症候群含む）［※静注，※点滴静注，※筋注，脊髄腔内注入］
重症筋無力症［静注，点滴静注，※筋注，脊髄腔内注入］
多発性硬化症（視束脊髄炎含む）［静注，点滴静注，※筋注，脊髄腔内注入］
小舞踏病［※筋注］
顔面神経麻痺［※筋注］
脊髄蜘網膜炎［※筋注］
○悪性腫瘍
悪性リンパ腫（リンパ肉腫症，細網肉腫症，ホジキン病，皮膚細網症，菌状息肉症），類似疾患（近縁疾患）［静注，点滴静注，※筋注，脊髄腔内注入］
好酸性肉芽腫［静注，点滴静注，※筋注］
乳癌の再発転移［※筋注］
○下記の悪性腫瘍への他の抗悪性腫瘍剤との併用療法
多発性骨髄腫［点滴静注］
○抗悪性腫瘍剤（シスプラチン等）投与に伴う消化器症状（悪心・嘔吐）［静注，点滴静注］
○外科疾患
副腎摘除［静注，点滴静注，筋注］
臓器・組織移植［※筋注］
侵襲後肺水腫［静注，ネブライザー］
副腎皮質機能不全への外科的侵襲［※筋注］
外科的ショック・外科的ショック様状態［静注］
脳浮腫［静注］
輸血による副作用［静注］
気管支痙攣（術中）［静注］
蛇毒・昆虫毒（重症の虫ささされ含む）［※筋注］
術後の腹膜癒着防止［腹腔内注入］
○整形外科疾患

2 個々の器官系用医薬品

椎間板ヘルニアの神経根炎(根性坐骨神経痛含む)[硬膜外注射]
脊髄浮腫[静注, 硬膜外注射]
〇産婦人科疾患
卵管整形術後の癒着防止[※筋注, 卵管腔内注入]
〇泌尿器科疾患
前立腺癌(他の療法無効時)[※筋注]
陰茎硬結[※筋注, 局所皮内注]
〇皮膚科疾患
★湿疹・皮膚炎群(急性湿疹, 亜急性湿疹, 慢性湿疹, 接触皮膚炎, 貨幣状湿疹, 自家感作性皮膚炎, アトピー皮膚炎, 乳・幼・小児湿疹, ビダール苔癬, その他の神経皮膚炎, 脂漏性皮膚炎, 進行性指掌角皮症, その他の手指の皮膚炎, 陰部・肛門湿疹, 耳介・外耳道の湿疹・皮膚炎, 鼻前庭・鼻翼周辺の湿疹・皮膚炎等)(重症例以外は極力投与しない。局注は浸潤, 苔癬化の著しい時のみ)[※筋注, 局所皮内注]
★痒疹群(小児ストロフルス, 蕁麻疹様苔癬, 固定蕁麻疹含む)(重症例のみ。固定蕁麻疹は局注)[※筋注, 局所皮内注]
蕁麻疹(慢性例除く)(重症例のみ)[※点滴静注, ※筋注]
★乾癬・類症〔尋常性乾癬(重症例), 乾癬性関節炎, 乾癬性紅皮症, 膿疱性乾癬, 稽留性肢端皮膚炎, 疱疹状膿痂疹, ライター症候群][※点滴静注, ※筋注]
上記のうち★尋常性乾癬[局所皮内注]
★掌蹠膿疱症(重症例のみ)[※筋注]
★扁平苔癬(重症例のみ)[※筋注, 局所皮内注]
成年性浮腫性硬化症[※筋注]
紅斑症(★多形滲出性紅斑(重症例のみ), 結節性紅斑)[※筋注]
粘膜皮膚眼症候群[開口部糜爛性外皮症, スチブンス・ジョンソン病, 皮膚口内炎, フックス症候群, ベーチェット病(眼症状のない時), リップシュッツ急性陰門潰瘍][※点滴静注, ※筋注]
★円形脱毛症(悪性型のみ)[局所皮内注]
天疱瘡群(尋常性天疱瘡, 落葉状天疱瘡, Senear－Usher症候群, 増殖性天疱瘡)[※点滴静注, ※筋注]
デューリング疱疹状皮膚炎(類天疱瘡, 妊娠性疱疹含む)[※点滴静注, ※筋注]
帯状疱疹(重症例のみ)[※筋注]
★紅皮症(ヘブラ紅色粃糠疹含む)[※点滴静注, ※筋注]
★早期ケロイド・ケロイド防止[局所皮内注]
新生児スクレレーマ[※筋注]
〇眼科疾患
内眼・視神経・眼窩・眼筋の炎症性疾患の対症療法(ブドウ膜炎, 網脈絡膜炎, 網膜血管炎, 視神経炎, 眼窩炎性偽腫瘍, 眼窩漏斗尖端部症候群, 眼筋麻痺)[※静注, ※筋注, 結膜下注射, 球後注射, 点眼]
外・前眼部の炎症性疾患の対症療法で点眼が不適当・不十分な時(眼瞼炎, 結膜炎, 角膜炎, 強膜炎, 虹彩毛様体炎)[※静注, ※筋注, 結膜下注射, 球後注射]
眼科の術後炎症[※静注, ※筋注, 結膜下注射, 点眼]
〇耳鼻咽喉科疾患
急性・慢性中耳炎[※静注, ※点滴静注, ※筋注, 中耳腔内注入]
滲出性中耳炎・耳管狭窄症[※静注, ※点滴静注, ※筋注, 中耳腔内注入, 耳管内注入]
メニエル病・メニエル症候群[静注, 点滴静注, 筋注]
急性感音性難聴[静注, 点滴静注, 筋注]
血管運動(神経)性鼻炎[筋注, ネブライザー, 鼻腔内注入, 鼻甲介内注射]
アレルギー性鼻炎[筋注, ネブライザー, 鼻腔内注入, 鼻甲介内注射]
花粉症(枯草熱)[筋注, ネブライザー, 鼻腔内注入, 鼻甲介内注射]
副鼻腔炎・鼻茸[筋注, ネブライザー, 鼻腔内注入, 副鼻腔内注入, 鼻茸内注射]
進行性壊疽性鼻炎[静注, 点滴静注, 筋注, ネブライザー, 鼻腔内注入, 副鼻腔内注入, 喉頭・気管注入]
喉頭炎・喉頭浮腫[静注, 点滴静注, 筋注, ネブライザー, 喉頭・気管注入]
喉頭ポリープ・結節[※静注, ※点滴静注, ※筋注, ネブライザー, 喉頭・気管注入]
食道の炎症(腐蝕性食道炎, 直達鏡使用後)・食道拡張術後[静注, 点滴静注, 筋注, ネブライザー, 食道注入]
耳鼻咽喉科の術後の後療法[静注, 点滴静注, 筋注, 軟組織内注射, 局所皮内注, ネブライザー, 鼻腔内注入, 副鼻腔内注入, 鼻甲介内注射, 喉頭・気管注入, 中耳腔内注入, 食道注入]
〇歯科・口腔外科疾患
難治性口内炎・舌炎(局所療法で治癒しないもの)[軟組織内注射]
※印 下記でのみ使用。
(1)静注・点滴静注
内服不能時, 緊急時, 筋注不適時
(2)筋注
内服不能時
★印 外用剤で効果不十分時のみ使用。
【用法用量】成人　下記1回量。
適宜増減。
(表開始)
投与法 投与量・投与回数 (デキサメタゾン)
静注 1回1. 65～6. 6mg　3～6時間ごと
点滴静注 1回1. 65～8. 3mg　1日1～2回
筋注 1回1. 65～6. 6mg　3～6時間ごと
関節腔内注射 1回0. 66～4. 1mg, 投与間隔　2週間以上
軟組織内注射 1回1. 65～5mg, 投与間隔　2週間以上
腱鞘内注射 1回0. 66～2. 1mg, 投与間隔　2週間以上
滑液嚢内注入 1回0. 66～4. 1mg, 投与間隔　2週間以上
硬膜外注射 1回1. 65～8. 3mg, 投与間隔　2週間以上
脊髄腔内注入 1回0. 83～4. 1mg　週1～3回
胸腔内注入 1回0. 83～4. 1mg　週1～3回
腹腔内注入 1回1. 65mg
局所皮内注 1回0. 04～0. 08mgずつ　0. 83mgまで週1回
卵管腔内注入 1回0. 33～0. 83mg
注腸 1回0. 33～5mg
結膜下注射 1回0. 33～2. 1mg　液量は0. 2～0. 5mL
球後注射 1回0. 83～4. 1mg　液量は0. 5～1mL
点眼 1回0. 21～0. 83mg／mL溶液1～2滴　1日3～8回
ネブライザー 1回0. 08～1. 65mg　1日1～3回
鼻腔内注入 1回0. 08～1. 65mg　1日1～3回
副鼻腔内注入 1回0. 08～1. 65mg　1日1～3回
鼻甲介内注射 1回0. 66～4. 1mg
鼻茸内注射 1回0. 66～4. 1mg
喉頭・気管注入 1回0. 08～1. 65mg　1日1～3回
中耳腔内注入 1回0. 08～1. 65mg　1日1～3回
耳管内注入 1回0. 08～1. 65mg　1日1～3回
食道注入 1回0. 83～1. 65mg
(表終了)
多発性骨髄腫への他の抗悪性腫瘍剤との併用療法
(表開始)
投与法 投与量・投与回数 (デキサメタゾン)
点滴静注 ビンクリスチン硫酸塩, ドキソルビシン塩酸塩との併用;1日33mg, 21日から28日を1クール, 第1日目から第4日目, 第9日目から第12日目, 第17日目から第20日目に, 投与。適宜減量。
(表終了)
抗悪性腫瘍剤(シスプラチン等)投与に伴う消化器症状(悪心・嘔吐)
(表開始)
投与法 投与量・投与回数 (デキサメタゾン)
静注 点滴静注 成人　1日3. 3～16. 5mg　1日1～2回　分割　投与。1日最大16. 5mgまで。
(表終了)
注意
悪性リンパ腫への他の抗腫瘍剤との併用療法は, 併用薬剤の添付文書も参照。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 感染症のある関節腔内, 滑液嚢内, 腱鞘内・腱周囲。
3. 動揺関節の関節腔内。
4. 下記の投与患者
デスモプレシン酢酸塩水和物(男性の夜間多尿による夜間頻尿)。
本剤全身投与
ダクラタスビル塩酸塩, アスナプレビル。
本剤全身投与(単回投与除く)
リルピビリン塩酸塩, リルピビリン塩酸塩・テノホビル　アラフェナミドフマル酸塩・エムトリシタビン, ドルテグラビルナトリウム・リルピビリン塩酸塩。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. ショック(頻度不明), アナフィラキシー(頻度不明)(失神, 意識喪失, 呼吸困難, 顔面蒼白, 血圧低下等)。
2. 誘発感染症(頻度不明), 感染症の増悪(頻度不明), B型肝炎ウイルスの増殖による肝炎。
3. 続発性副腎皮質機能不全(頻度不明), 糖尿病(頻度不明)。
4. 消化性潰瘍(頻度不明), 消化管穿孔(頻度不明), 膵炎(頻度不明)。
5. 精神変調(頻度不明), うつ状態(頻度不明), 痙攣(頻度不明)。
6. 骨粗鬆症(頻度不明), 大腿骨・上腕骨等の骨頭無菌性壊死(頻度不明), ミオパシー(頻度不明), 脊椎圧迫骨折(頻度不明), 長骨の病的骨折(頻度不明)。
7. 緑内障(頻度不明), 後嚢白内障(頻度不明)。
8. 血栓塞栓症(頻度不明)。
9. 喘息発作(頻度不明)。
10. 腫瘍崩壊症候群(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
内分泌 月経異常
消化器 下痢, 悪心・嘔吐, 胃痛, 胸やけ, 腹部膨満感, 口渇, 食欲不振, 食欲亢進
精神神経系 多幸症, 不眠, 頭痛, 眩暈
筋・骨格 筋肉痛, 関節痛
投与部位 関節腔内投与;関節の不安定化, 疼痛・腫脹・圧痛の増悪 筋注・皮内注;組織の萎縮による陥没(局所)
脂質・蛋白質代謝 満月様顔貌, 野牛肩, 窒素負平衡, 脂肪肝
体液・電解質 浮腫, 血圧上昇, 低カリウム性アルカローシス
眼 中心性漿液性網脈絡膜症等による網膜障害, 眼球突出
血液 白血球増多
皮膚 ざ瘡, 多毛, 脱毛, 色素沈着, 皮下溢血, 紫斑, 線条, 掻痒, 発汗異常, 顔面紅斑, 紅斑, 創傷治癒障害, 皮膚菲薄化・脆弱化, 脂肪織炎
その他 発熱, 疲労感, ステロイド腎症, 体重増加, 精子数・その運動性の増減, しゃっくり, 刺激感(ピリピリした痛み, しびれ, ひきつり感等)
(表終了)

デキサート注射液3. 3mg

2 個々の器官系用医薬品

デポ・メドロール水懸注20mg（20mg1mL1瓶）

内 注射 流通
ハイリスク

【YJコード】2456402C1044
【薬効分類】2．4．5 副腎ホルモン剤
【一般名】メチルプレドニゾロン酢酸エステル
【メーカー】製)ファイザー
【薬価】196円/1V
【薬価収載日】2008/06/20
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】持続性合成副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】[ ]内数字は投与法（注I参照）
△印 ★印 注II参照
内科・小児科
○内分泌疾患
副腎性器症候群〔△[1]〕
○膠原病
リウマチ熱（リウマチ性心炎含む），エリテマトーデス（全身性・慢性円板状），全身性血管炎（高安動脈炎，結節性多発動脈炎，顕微鏡的多発血管炎，多発血管炎性肉芽腫症含む），多発性筋炎（皮膚筋炎）〔[1]〕
○アレルギー性疾患
気管支喘息（筋注以外の投与法では不適当な時のみ）〔[1][8]〕，喘息性気管支炎（小児喘息性気管支炎含む）〔△[1][8]〕，薬剤その他の化学物質によるアレルギー・中毒（薬疹，中毒疹含む），蕁麻疹（慢性例除く）（重症例のみ），血清病〔△[1]〕
○血液疾患
溶血性貧血（免疫性，免疫性機序の疑い），白血病（急性白血病，慢性骨髄性白血病の急性転化，慢性リンパ性白血病）（皮膚白血病含む），顆粒球減少症（本態性，続発性），紫斑病（血小板減少性・血小板非減少性），再生不良性貧血〔△[1]〕
○神経疾患
脳脊髄炎（脳炎，脊髄炎含む）（一次性脳炎では頭蓋内圧亢進症状があり，他剤が効果不十分時に短期使用），多発性硬化症（視束脊髄炎含む），顔面神経麻痺，脊髄蜘網膜炎，小舞踏病〔△[1]〕
○消化器疾患
胆汁うっ滞型急性肝炎，肝硬変（活動型，難治性腹水を伴うもの，胆汁うっ滞を伴うもの），劇症肝炎（重症含む）〔△[1]〕，限局性腸炎，潰瘍性大腸炎〔△[1][7]〕
○呼吸器疾患
びまん性間質性肺炎（肺線維症）（放射線肺臓炎含む）〔[8]〕
○循環器疾患
ネフローゼ，ネフローゼ症候群，うっ血性心不全〔△[1]〕
○重症感染症
重症感染症（化学療法と併用）〔△[1]〕
○新陳代謝疾患
特発性低血糖症〔△[1]〕
○その他内科的疾患
悪性リンパ腫（リンパ肉腫症，細網肉腫症，ホジキン病，皮膚細網症，菌状息肉症），類似疾患（近縁疾患），重症消耗性疾患の全身状態の改善（癌末期，スプルー含む）〔△[1]〕
外科
○副腎皮質機能不全への外科的侵襲，蛇毒・昆虫毒（重症の虫ささされ含む）〔△[1]〕，侵襲後肺水腫〔[8]〕
整形外科
○強直性脊椎炎（リウマチ性脊椎炎）〔[1]〕，強直性脊椎炎（リウマチ性脊椎炎）に伴う四肢関節炎〔[2]〕，関節リウマチ，若年性関節リウマチ（スチル病含む）〔[1][2]〕，リウマチ性多発筋痛〔[1]〕，変形性関節症（炎症症状がある時），外傷後関節炎，非感染性慢性関節炎〔[2]〕，関節周囲炎（非感染性のみ），腱周囲炎（非感染性のみ）〔[3][4][5]〕，腱炎（非感染性のみ）〔[3][4]〕，腱鞘炎（非感染性のみ）〔[4]〕，滑液包炎（非感染性のみ）〔[5]〕
泌尿器科
○前立腺癌（他の療法無効時）〔△[1]〕，陰茎硬結〔△[1][6]〕
眼科
○内眼・視神経・眼窩・眼筋の炎症性疾患の対症療法（ブドウ膜炎，網脈絡膜炎，網膜血管炎，視神経炎，眼窩炎性偽腫瘍，眼窩漏斗尖端部症候群，眼筋麻痺），外・前眼部の炎症性疾患の対症療法で点眼が不適当・不十分な時（眼瞼炎，結膜炎，角膜炎，強膜炎，虹彩毛様体炎），眼科の術後炎症〔△[1]〕
皮膚科
○湿疹・皮膚炎群（急性湿疹，亜急性湿疹，慢性湿疹，接触皮膚炎，貨幣状湿疹，自家感作性皮膚炎，アトピー皮膚炎，乳・幼・小児湿疹，ビダール苔癬，その他の神経皮膚炎，脂漏性皮膚炎，進行性指掌角皮症，その他の手指の皮膚炎，陰部・肛門湿疹，耳介・外耳道の湿疹・皮膚炎，鼻前庭・鼻翼周辺の湿疹・皮膚炎等）（重症例以外は極力投与しない）（局注は浸潤，苔癬化の著しい時のみ），痒疹群（小児ストロフルス，蕁麻疹様苔癬，固定蕁麻疹含む）（重症例のみ。固定蕁麻疹は局注），乾癬・類症〔尋常性乾癬（重症例），乾癬性関節炎，乾癬性紅皮症，膿疱性乾癬，稽留性肢端皮膚炎，疱疹状膿痂疹，ライター症候群（局所皮内は尋常性乾癬のみ）〕〔★△[1]★[6]〕，扁平苔癬（重症例のみ）〔★△[1]★[6]〕，成年性浮腫性硬化症，紅斑症（★多形滲出性紅斑（重症例のみ），結節性紅斑），IgA血管炎（重症例のみ），ウェーバークリスチャン病，粘膜皮膚眼症候群〔開口部糜爛性外皮症，スチブンス・ジョンソン病，皮膚口内炎，フックス症候群，ベーチェット病（眼症状のない時），リップシュッツ急性陰門潰瘍〕，天疱瘡群（尋常性天疱瘡，落葉状天疱瘡，Senear－Usher症候群，増殖性天疱瘡），デューリング疱疹状皮膚炎（類天疱瘡，妊娠性疱疹含む），帯状疱疹（重症例のみ），潰瘍性慢性膿皮症，新生児スクレレーマ，レイノー病〔△[1]〕，紅皮症（ヘブラ紅色粃糠疹含む）〔★△[1]〕，限局性強皮症〔[6]〕，強皮症〔△[1]〕，円形脱毛症（悪性型のみ），早期ケロイド・ケロイド防止〔★[6]〕
耳鼻咽喉科
○耳鼻咽喉科の術後の後療法〔[1][3][6][8][9][10][11][13][14]〕，副鼻腔炎・鼻茸〔[1][8][9][10][12]〕，進行性壊疽性鼻炎〔[1][8][9][10][13]〕，血管運動（神経）性鼻炎，アレルギー性鼻炎，花粉症（枯草熱）〔[1][8][9][11]〕，喉頭ポリープ・結節〔△[1][8][13]〕，難治性口内炎・舌炎（局所療法で治癒しないもの）〔[3]〕
口腔外科
○口腔外科術後の後療法〔[1]〕
注I 投与法
[1]筋注
[2]関節腔内注射
[3]軟組織内注射
[4]腱鞘内注射
[5]滑液嚢内注入
[6]局所皮内注
[7]注腸
[8]ネブライザー
[9]鼻腔内注入
[10]副鼻腔内注入
[11]鼻甲介内注射
[12]鼻茸内注射
[13]喉頭・気管注入
[14]中耳腔内注入
注II
△印－筋注 内服不能時のみ使用。
★印－外用剤で効果不十分時のみ使用。
【用法用量】成人 下記1回量。適宜増減。
（表開始）
用法 注射・注入部位 メチルプレドニゾロン酢酸エステル（mg） 投与回数
[1]筋注 40～120 1～2週間隔1回
[2]関節腔内注射 4～40 間隔2週以上1回
[3]軟組織内注射 4～40 間隔2週以上1回
[4]腱鞘内注射 4～40 間隔2週以上1回
[5]滑液嚢内注入 4～40 間隔2週以上1回
[6]局所皮内注 2～8ずつ 40まで 週1回
[7]注腸 40～120 －
[8]ネブライザー 2～10 1日1～3回
[9]鼻腔内注入 2～10 1日1～3回
[10]副鼻腔内注入 2～10 1日1～3回
[11]鼻甲介内注射 4～40 －
[12]鼻茸内注射 4～40 －
[13]喉頭・気管注入 2～10 1日1～3回
[14]中耳腔内注入 2～10 1日1～3回
（表終了）

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．デスモプレシン酢酸塩水和物（男性の夜間多尿による夜間頻尿）の投与患者。
3．感染症のある関節腔内，滑液嚢内，腱鞘内・腱周囲。
4．動揺関節の関節腔内。
5．免疫抑制が生じる量の本剤投与患者に生ワクチン・弱毒生ワクチンを接種しない。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．アナフィラキシー（頻度不明）（呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等）。
2．感染症（頻度不明）（ウイルス，細菌，真菌，原虫，寄生虫等による感染症の誘発，徴候の隠蔽，感染症の悪化等）。
3．続発性副腎皮質機能不全（頻度不明）。
4．骨粗鬆症（頻度不明）（脊椎圧迫骨折，病的骨折），骨頭無菌性壊死（頻度不明）（大腿骨，上腕骨等）（疼痛等）。
5．胃腸穿孔（頻度不明），消化管出血（頻度不明），消化性潰瘍（頻度不明）。
6．ミオパシー（頻度不明），筋力低下等。
7．血栓症（頻度不明）。
8．頭蓋内圧亢進（頻度不明），痙攣（頻度不明）。
9．精神変調（頻度不明），うつ状態（頻度不明）。
10．糖尿病（頻度不明）。
11．緑内障（頻度不明），後嚢白内障（頻度不明）（眼のかすみ），中心性漿液性脈絡網膜症（頻度不明）・多発性後極部網膜色素上皮症（頻度不明）（視力の低下，ものがゆがんで見えたり小さく見えたり，視野の中心がゆがんで見えにくくなる，限局性の網膜剥離，広範な網膜剥離），眼圧上昇。
12．心破裂（頻度不明）。
13．うっ血性心不全（頻度不明）。
14．食道炎（頻度不明）。
15．カポジ肉腫（頻度不明）。
16．アキレス腱等の腱断裂（頻度不明）。

デポ・メドロール水懸注20mg

2 個々の器官系用医薬品

17. 失明(頻度不明), 視力障害(頻度不明)。
18. 気管支喘息発作の悪化。
19. 腫瘍崩壊症候群(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
内分泌 月経異常, クッシング様症状
消化器 膵炎, 下痢, 悪心・嘔吐, 胃痛, 胸やけ, 腹部膨満感, 口渇, 食欲不振, 食欲亢進
循環器 血圧上昇
精神神経系 多幸症, 不眠, 頭痛, 眩暈
筋・骨格 筋力低下, 筋肉痛, 関節痛
投与部位 関節腔内投与;関節の不安定化, 疼痛・腫脹・圧痛の悪化 筋注・皮内注;局所に組織の萎縮による陥没
脂質・蛋白質代謝 満月様顔貌, 野牛肩, 窒素負平衡
肝臓 AST, ALT, AlーPの上昇, 脂肪肝
体液・電解質 浮腫, 低カリウム性アルカローシス, カリウム低下, ナトリウム貯留
眼 網膜障害, 眼球突出
血液 白血球増多
皮膚 創傷治癒障害, 紫斑, 皮下溢血, ざ瘡, 多毛症, 脱毛, 色素沈着, 色素脱失, 皮膚線条, 発汗異常, 皮膚菲薄化・脆弱化, 脂肪織炎
過敏症 発疹, 紅斑, 掻痒
その他 発熱, 疲労感, ステロイド腎症, 体重増加, 精子数・その運動性の増減, 鼻内投与による鼻炎, 無菌膿瘍, 仮性脳腫瘍, 易刺激性
(表終了)

ノルアドリナリン注1mg(0.1%1mL1管)

内 注射 流通
劇

【YJコード】2451401A1034
【薬効分類】2.4.5 副腎ホルモン剤
【一般名】ノルアドレナリン
【メーカー】製)アルフレッサファーマ 販)第一三共
【薬価】100円/1A
【薬価収載日】2008/06/23
【標榜薬効】血圧上昇剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】各種疾患・状態に伴う急性低血圧・ショック時の補助治療(心筋梗塞によるショック, 敗血症によるショック, アナフィラキシー性ショック, 循環血液量低下を伴う急性低血圧・ショック, 全身麻酔時の急性低血圧等)
注意
ショックの緊急治療は換気の確保, 輸液・心拍出量の増加と昇圧。ショック時の循環動態はショック時の原因・病期によって異なるので, 昇圧剤の選択・使用時期に注意。本剤は血圧下降等の応急処置剤の薬剤で, 輸血・輸液にかわるものではない。
【用法用量】点滴静注
成人 1回1mg 点滴静注(250mLの生食, 5%ブドウ糖液, 血漿又は全血等に溶解)。速度 0.5～1mL/分 血圧を絶えず観察し適宜調節。
皮下注
成人 1回0.1～1mg 皮下注。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】アドレナリン, イソプレナリン等のカテコールアミン製剤の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
徐脈(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
循環器 心悸亢進, 胸内苦悶, 血圧異常上昇, 呼吸困難
精神神経系 頭痛, 眩暈, 不安, 振戦
消化器 悪心・嘔吐
その他 羞明, 悪寒, 鳥肌
(表終了)

プレドニゾロン錠1mg(旭化成)(1mg1錠)

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】2456001F2023
【薬効分類】2.4.5 副腎ホルモン剤
【一般名】プレドニゾロン
【メーカー】製)旭化成ファーマ
【薬価】8.6円/1T
【薬価収載日】1998/07/10
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】合成副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○内科・小児科
1. 内分泌疾患
慢性副腎皮質機能不全(原発性, 続発性, 下垂体性, 医原性), 急性副腎皮質機能不全(副腎クリーゼ), 副腎性器症候群, 亜急性甲状腺炎, 甲状腺中毒症〔甲状腺(中毒性)クリーゼ〕, 甲状腺疾患に伴う悪性眼球突出症, ACTH単独欠損症
2. リウマチ疾患
関節リウマチ, 若年性関節リウマチ(スチル病含む), リウマチ熱(リウマチ性心炎含む), リウマチ性多発筋痛
3. 膠原病
エリテマトーデス(全身性・慢性円板状), 全身性血管炎(高安動脈炎, 結節性多発動脈炎, 顕微鏡的多発血管炎, 多発血管炎性肉芽腫症含む), 多発性筋炎(皮膚筋炎), 強皮症
4. 川崎病の急性期(重症で, 冠動脈障害の発生の危険がある時)
5. 腎疾患
ネフローゼ, ネフローゼ症候群
6. 心疾患
うっ血性心不全
7. アレルギー性疾患
気管支喘息, 喘息性気管支炎(小児喘息性気管支炎含む), 薬剤その他の化学物質によるアレルギー・中毒(薬疹, 中毒疹含む), 血清病
8. 重症感染症
重症感染症(化学療法と併用)
9. 血液疾患
溶血性貧血(免疫性, 免疫性機序の疑い), 白血病(急性白血病, 慢性骨髄性白血病の急性転化, 慢性リンパ性白血病)(皮膚白血病含む), 顆粒球減少症(本態性, 続発性), 紫斑病(血小板減少性・血小板非減少性), 再生不良性貧血, 凝固因子の障害による出血性素因
10. 消化器疾患
限局性腸炎, 潰瘍性大腸炎
11. 重症消耗性疾患
重症消耗性疾患の全身状態の改善(癌末期, スプルー含む)
12. 肝疾患
劇症肝炎(重症含む), 胆汁うっ滞型急性肝炎, 慢性肝炎(活動型, 急性再燃型, 胆汁うっ滞型)(一般的治療に反応せず肝機能の著しい異常が持続する難治性のみ), 肝硬変(活動型, 難治性腹水を伴うもの, 胆汁うっ滞を伴うもの)
13. 肺疾患
サルコイドーシス(両側肺門リンパ節腫脹のみの時を除く), びまん性間質性肺炎(肺線維症)(放射線肺臓炎含む)
14. 結核性疾患(抗結核剤と併用)
肺結核(粟粒結核, 重症結核のみ), 結核性髄膜炎, 結核性胸膜炎, 結核性腹膜炎, 結核性心嚢炎
15. 神経疾患
脳脊髄炎(脳炎, 脊髄炎含む)(一次性脳炎では頭蓋内圧亢進症状があり, 他剤が効果不十分時に短期使用), 末梢神経炎(ギランバレー症候群含む), 筋強直症, 重症筋無力症, 多発性硬化症(視束脊髄炎含む), 小舞踏病, 顔面神経麻痺, 脊髄蜘網膜炎, デュシェンヌ型筋ジストロフィー
16. 悪性腫瘍
悪性リンパ腫, 類似疾患(近縁疾患), 多発性骨髄腫, 好酸性肉芽腫, 乳癌の再発転移
17. その他の内科的疾患
特発性低血糖症, 原因不明の発熱
○外科
副腎摘除, 臓器・組織移植, 侵襲後肺水腫, 副腎皮質機能不全への外科的侵襲, 蛇毒・昆虫毒(重症の虫さされ含む)
○整形外科
強直性脊椎炎(リウマチ性脊椎炎)
○産婦人科
卵管整形術後の癒着防止, 副腎皮質機能障害による排卵障害
○泌尿器科
前立腺癌(他の療法無効時), 陰茎硬結
○皮膚科
△印 外用剤で効果不十分時のみ使用
△湿疹・皮膚炎群(急性湿疹, 亜急性湿疹, 慢性湿疹, 接触皮膚炎, 貨幣状湿疹, 自家感作性皮膚炎, アトピー皮膚炎, 乳・幼・小児湿疹, ビダール苔癬, その他の神経皮膚炎, 脂漏性皮膚炎, 進行性指掌角皮症, その他の手指の皮膚炎, 陰部・肛門湿疹, 耳介・外耳道の湿疹・皮膚炎, 鼻前庭・鼻翼周辺の湿疹・皮膚炎等)(重症例以外は極力投与しない), △痒疹群(小児ストロフルス, 蕁麻疹様苔癬, 固定蕁麻疹含む)(重症例のみ。固定蕁麻疹は局注), 蕁麻疹(慢性例除く)(重症例のみ), △乾癬・類症〔尋常性乾癬(重症例), 乾癬性関節炎, 乾癬性紅皮症, 膿疱性乾癬, 稽留性肢端皮膚炎, 疱疹状膿痂疹, ライター症候群〕, △掌蹠膿疱症(重症例のみ), △毛孔性紅色粃糠疹(重症例のみ), △扁平苔癬(重症例のみ), 成年性浮腫性硬化症, 紅斑症(△多形滲出性紅斑(重症例のみ), 結節性紅斑), IgA血管炎(重症例のみ), ウェーバークリスチャン病, 粘膜皮膚眼症候群〔開口部糜爛性外皮症, スチブンス・ジョンソン病, 皮膚口内炎, フックス症候群, ベーチェット病(眼症状のない時), リップシュッツ急性陰門潰瘍〕, レイノー病, △円形脱毛症(悪性型のみ), 天疱瘡群(尋常性天疱瘡, 落葉状天疱瘡, Senear－Usher症候群, 増殖性天疱瘡), デューリング疱疹状皮膚炎(類天疱瘡, 妊娠性疱疹含む), 先天性表皮水疱症, 帯状疱疹(重症例のみ), △紅皮症(ヘブラ紅色粃糠疹含む), 顔面播種状粟粒性狼瘡(重症例のみ), アレルギー性血管炎・その類症(急性痘瘡様苔癬状粃糠疹含む), 潰瘍性慢性膿皮症, 新生児スクレレーマ
○眼科

2 個々の器官系用医薬品

内眼・視神経・眼窩・眼筋の炎症性疾患の対症療法(ブドウ膜炎，網脈絡膜炎，網膜血管炎，視神経炎，眼窩炎性偽腫瘍，眼窩漏斗尖端部症候群，眼筋麻痺)，外・前眼部の炎症性疾患の対症療法で点眼が不適当・不十分な時(眼瞼炎，結膜炎，角膜炎，強膜炎，虹彩毛様体炎)，眼科の術後炎症
〇耳鼻咽喉科
急性・慢性中耳炎，滲出性中耳炎・耳管狭窄症，メニエル病・メニエル症候群，急性感音性難聴，血管運動(神経)性鼻炎，アレルギー性鼻炎，花粉症(枯草熱)，副鼻腔炎・鼻茸，進行性壊疽性鼻炎，喉頭炎・喉頭浮腫，食道の炎症(腐蝕性食道炎，直達鏡使用後)・食道拡張術後，耳鼻咽喉科の術後の後療法，難治性口内炎・舌炎(局所療法で治癒しないもの)，嗅覚障害，急性・慢性(反復性)唾液腺炎
【用法用量】成人　1日5～60mg　1日1～4回　分割　内服。適宜増減。悪性リンパ腫 抗悪性腫瘍剤との併用で，1日100mg／m2まで。
川崎病の急性期 1日2mg／kg(最大60mg)　1日3回　分割　内服。
注意
効能共通
1. 投与量，投与スケジュール，漸減中止方法等は，学会のガイドライン等，最新の情報を参考に投与。
川崎病の急性期
2. 有熱期間は注射剤で治療し，解熱後本剤に切りかえる。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. デスモプレシン酢酸塩水和物(男性の夜間多尿による夜間頻尿)の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 誘発感染症，感染症の増悪(頻度不明)，B型肝炎ウイルスの増殖による肝炎。
2. 続発性副腎皮質機能不全，糖尿病(頻度不明)。
3. 消化管潰瘍，消化管穿孔，消化管出血(頻度不明)。
4. 膵炎(頻度不明)。
5. 精神変調，うつ状態，痙攣(頻度不明)。
6. 骨粗鬆症，大腿骨・上腕骨等の骨頭無菌性壊死，ミオパシー(頻度不明)。
7. 緑内障，後嚢白内障(眼のかすみ)，中心性漿液性網脈絡膜症・多発性後極部網膜色素上皮症(頻度不明)(視力の低下，ものがゆがんで見えたり小さく見えたり，視野の中心がゆがんで見えにくくなる，限局性の網膜剥離，広範な網膜剥離)，眼圧上昇。
8. 血栓症(頻度不明)。
9. 心筋梗塞，脳梗塞，動脈瘤(頻度不明)。
10. 硬膜外脂肪腫(頻度不明)。
11. アキレス腱等の腱断裂(頻度不明)。
12. 腫瘍崩壊症候群(頻度不明)。

プレドニン錠5mg（5mg1錠）

両　内服　流通
ハイリスク

【YJコード】2456001F1310
【薬効分類】2．4．5　副腎ホルモン剤
【一般名】プレドニゾロン
【メーカー】製)シオノギファーマ　販)塩野義製薬
【薬価】10.1円/1T
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】合成副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇内科・小児科
(1)．内分泌疾患
慢性副腎皮質機能不全(原発性，続発性，下垂体性，医原性)，急性副腎皮質機能不全(副腎クリーゼ)，副腎性器症候群，亜急性甲状腺炎，甲状腺中毒症〔甲状腺(中毒性)クリーゼ〕，甲状腺疾患に伴う悪性眼球突出症，ACTH単独欠損症
(2)．リウマチ疾患
関節リウマチ，若年性関節リウマチ(スチル病含む)，リウマチ熱(リウマチ性心炎含む)，リウマチ性多発筋痛
(3)．膠原病
エリテマトーデス(全身性・慢性円板状)，全身性血管炎(高安動脈炎，結節性多発動脈炎，顕微鏡的多発血管炎，多発血管炎性肉芽腫症含む)，多発性筋炎(皮膚筋炎)，強皮症
(4)．川崎病の急性期(重症で，冠動脈障害の発生の危険がある時)
(5)．腎疾患
ネフローゼ，ネフローゼ症候群
(6)．心疾患
うっ血性心不全
(7)．アレルギー性疾患 気管支喘息，喘息性気管支炎(小児喘息性気管支炎含む)，薬剤その他の化学物質によるアレルギー・中毒(薬疹，中毒疹含む)，血清病
(8)．重症感染症
重症感染症(化学療法と併用)
(9)．血液疾患
溶血性貧血(免疫性，免疫性機序の疑い)，白血病(急性白血病，慢性骨髄性白血病の急性転化，慢性リンパ性白血病)(皮膚白血病含む)，顆粒球減少症(本態性，続発性)，紫斑病(血小板減少性・血小板非減少性)，再生不良性貧血，凝固因子の障害による出血性素因
(10)．消化器疾患
限局性腸炎，潰瘍性大腸炎
(11)．重症消耗性疾患
重症消耗性疾患の全身状態の改善(癌末期，スプルー含む)
(12)．肝疾患
劇症肝炎(重症含む)，胆汁うっ滞型急性肝炎，慢性肝炎(活動型，急性再燃型，胆汁うっ滞型)(一般的治療に反応せず肝機能の著しい異常が持続する難治性のみ)，肝硬変(活動型，難治性腹水を伴うもの，胆汁うっ滞を伴うもの)
(13)．肺疾患
サルコイドーシス(両側肺門リンパ節腫脹のみの時を除く)，びまん性間質性肺炎(肺線維症)(放射線肺臓炎含む)
(14)．結核性疾患(抗結核剤と併用)
肺結核(粟粒結核，重症結核のみ)，結核性髄膜炎，結核性胸膜炎，結核性腹膜炎，結核性心嚢炎
(15)．神経疾患
脳脊髄炎(脳炎，脊髄炎含む)(一次性脳炎では頭蓋内圧亢進症状があり，他剤が効果不十分時に短期使用)，末梢神経炎(ギランバレー症候群含む)，筋強直症，重症筋無力症，多発性硬化症(視束脊髄炎含む)，小舞踏病，顔面神経麻痺，脊髄蜘網膜炎，デュシェンヌ型筋ジストロフィー
(16)．悪性腫瘍
悪性リンパ腫，類似疾患(近縁疾患)，多発性骨髄腫，好酸性肉芽腫，乳癌の再発転移
(17)．その他の内科的疾患
特発性低血糖症，原因不明の発熱
〇外科
副腎摘除，臓器・組織移植，侵襲後肺水腫，副腎皮質機能不全への外科的侵襲，蛇毒・昆虫毒(重症の虫さされ含む)
〇整形外科
強直性脊椎炎(リウマチ性脊椎炎)
〇産婦人科
卵管整形術後の癒着防止，副腎皮質機能障害による排卵障害
〇泌尿器科
前立腺癌(他の療法無効時)，陰茎硬結
〇皮膚科
△印　外用剤で効果不十分時のみ使用
△湿疹・皮膚炎群(急性湿疹，亜急性湿疹，慢性湿疹，接触皮膚炎，貨幣状湿疹，自家感作性皮膚炎，アトピー皮膚炎，乳・幼・小児湿疹，ビダール苔癬，その他の神経皮膚炎，脂漏性皮膚炎，進行性指掌角皮症，その他の手指の皮膚炎，陰部・肛門湿疹，耳介・外耳道の湿疹・皮膚炎，鼻前庭・鼻翼周辺の湿疹・皮膚炎等)(重症例以外は極力投与しない)，△痒疹群(小児ストロフルス，蕁麻疹様苔癬，固定蕁麻疹含む)(重症例のみ。固定蕁麻疹は局注)，蕁麻疹(慢性例除く)(重症例のみ)，△乾癬・類症〔尋常性乾癬(重症例)，乾癬性関節炎，乾癬性紅皮症，膿疱性乾癬，稽留性肢端皮膚炎，疱疹状膿痂疹，ライター症候群〕，△掌蹠膿疱症(重症例のみ)，△毛孔性紅色粃糠疹(重症例のみ)，△扁平苔癬(重症例のみ)，成年性浮腫性硬化症，紅斑症(△多形滲出性紅斑(重症例のみ)，結節性紅斑)，IgA血管炎(重症例のみ)，ウェーバークリスチャン病，粘膜皮膚眼症候群〔開口部糜爛性外皮症，スチブンス・ジョンソン病，皮膚口内炎，フックス症候群，ベーチェット病(眼症状のない時)，リップシュッツ急性陰門潰瘍〕，レイノー病，△円形脱毛症(悪性型のみ)，天疱瘡群(尋常性天疱瘡，落葉状天疱瘡，Senear－Usher症候群，増殖性天疱瘡)，デューリング疱疹状皮膚炎(類天疱瘡，妊娠性疱疹含む)，先天性表皮水疱症，帯状疱疹(重症例のみ)，△紅皮症(ヘブラ紅色粃糠疹含む)，顔面播種状粟粒性狼瘡(重症例のみ)，アレルギー性血管炎・その類症(急性痘瘡様苔癬状粃糠疹含む)，潰瘍性慢性膿皮症，新生児スクレレーマ
〇眼科
内眼・視神経・眼窩・眼筋の炎症性疾患の対症療法(ブドウ膜炎，網脈絡膜炎，網膜血管炎，視神経炎，眼窩炎性偽腫瘍，眼窩漏斗尖端部症候群，眼筋麻痺)，外・前眼部の炎症性疾患の対症療法で点眼が不適当・不十分な時(眼瞼炎，結膜炎，角膜炎，強膜炎，虹彩毛様体炎)，眼科の術後炎症
〇耳鼻咽喉科
急性・慢性中耳炎，滲出性中耳炎・耳管狭窄症，メニエル病・メニエル症候群，急性感音性難聴，血管運動(神経)性鼻炎，アレルギー性鼻炎，花粉症(枯草熱)，副鼻腔炎・鼻茸，進行性壊疽性鼻炎，喉頭炎・喉頭浮腫，食道の炎症(腐蝕性食道炎，直達鏡使用後)・食道拡張術後，耳鼻咽喉科の術後の後療法，難治性口内炎・舌炎(局所療法で治癒しないもの)，嗅覚障害，急性・慢性(反復性)唾液腺炎
【用法用量】成人　1日5～60mg　1日1～4回　分割　内服。
適宜増減。
悪性リンパ腫 抗悪性腫瘍剤との併用で，1日100mg／m2まで。
川崎病の急性期 1日2mg／kg(最大60mg)　1日3回　分割　内服。
注意
効能共通
1. 投与量，投与スケジュール，漸減中止方法等は，学会のガイドライン等，最新の情報を参考に投与。
川崎病の急性期
2. 有熱期間は注射剤で治療し，解熱後本剤に切りかえる。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. デスモプレシン酢酸塩水和物(男性の夜間多尿による夜間頻尿)の投与患者。

2 個々の器官系用医薬品

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 誘発感染症，感染症の増悪（頻度不明），B型肝炎ウイルスの増殖による肝炎。
2. 続発性副腎皮質機能不全，糖尿病（頻度不明）。
3. 消化管潰瘍，消化管穿孔，消化管出血（頻度不明）。
4. 膵炎（頻度不明）。
5. 精神変調，うつ状態，痙攣（頻度不明）。
6. 骨粗鬆症，大腿骨・上腕骨等の骨頭無菌性壊死，ミオパシー（頻度不明）。
7. 緑内障，後嚢白内障（眼のかすみ），中心性漿液性網脈絡膜症・多発性後極部網膜色素上皮症（頻度不明）（視力の低下，ものがゆがんで見えたり小さく見えたり，視野の中心がゆがんで見えにくくなる，限局性の網膜剥離，広範な網膜剥離），眼圧上昇。
8. 血栓症（頻度不明）。
9. 心筋梗塞，脳梗塞，動脈瘤（頻度不明）。
10. 硬膜外脂肪腫（頻度不明）。
11. アキレス腱等の腱断裂（頻度不明）。
12. 腫瘍崩壊症候群（頻度不明）。

ベタメタゾン錠0．5mg「サワイ」（0．5mg 1錠）

両　内服　後発　流通
ハイリスク

【YJコード】2454004F2081
【薬効分類】2．4．5　副腎ホルモン剤
【一般名】ベタメタゾン
【先発品】リンデロン錠0．5mg
【メーカー】製）沢井製薬
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2006/12/08
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】合成副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇慢性副腎皮質機能不全（原発性，続発性，下垂体性，医原性），急性副腎皮質機能不全（副腎クリーゼ），副腎性器症候群，亜急性甲状腺炎，甲状腺中毒症〔甲状腺（中毒性）クリーゼ〕，甲状腺疾患に伴う悪性眼球突出症，ACTH単独欠損症，下垂体抑制試験
〇関節リウマチ，若年性関節リウマチ（スチル病含む），リウマチ熱（リウマチ性心炎含む），リウマチ性多発筋痛
〇エリテマトーデス（全身性・慢性円板状），全身性血管炎（高安動脈炎，結節性多発動脈炎，顕微鏡的多発血管炎，多発血管炎性肉芽腫症含む），多発性筋炎（皮膚筋炎），強皮症
〇ネフローゼ，ネフローゼ症候群
〇うっ血性心不全
〇気管支喘息，喘息性気管支炎（小児喘息性気管支炎含む），薬剤その他の化学物質によるアレルギー・中毒（薬疹，中毒疹含む），血清病
〇重症感染症（化学療法と併用）
〇溶血性貧血（免疫性，免疫性機序の疑い），白血病（急性白血病，慢性骨髄性白血病の急性転化，慢性リンパ性白血病）（皮膚白血病含む），顆粒球減少症（本態性，続発性），紫斑病（血小板減少性・血小板非減少性），再生不良性貧血，凝固因子の障害による出血性素因
〇限局性腸炎，潰瘍性大腸炎
〇重症消耗性疾患の全身状態の改善（癌末期，スプルー含む）
〇劇症肝炎（重症含む），胆汁うっ滞型急性肝炎，慢性肝炎（活動型，急性再燃型，胆汁うっ滞型）（一般的治療に反応せず肝機能の著しい異常が持続する難治性のみ），肝硬変（活動型，難治性腹水を伴うもの，胆汁うっ滞を伴うもの）
〇サルコイドーシス（両側肺門リンパ節腫脹のみの時を除く），びまん性間質性肺炎（肺線維症）（放射線肺臓炎含む）
〇肺結核（粟粒結核，重症結核のみ）（抗結核剤と併用），結核性髄膜炎（抗結核剤と併用），結核性胸膜炎（抗結核剤と併用），結核性腹膜炎（抗結核剤と併用），結核性心嚢炎（抗結核剤と併用）
〇脳脊髄炎（脳炎，脊髄炎含む）（一次性脳炎では頭蓋内圧亢進症状があり，他剤が効果不十分時に短期使用），末梢神経炎（ギランバレー症候群含む），筋強直症，重症筋無力症，多発性硬化症（視束脊髄炎含む），小舞踏病，顔面神経麻痺，脊髄蜘網膜炎
〇悪性リンパ腫（リンパ肉腫症，細網肉腫症，ホジキン病，皮膚細網症，菌状息肉症），類似疾患（近縁疾患），好酸性肉芽腫，乳癌の再発転移
〇特発性低血糖症
〇原因不明の発熱
〇副腎摘除，臓器・組織移植，侵襲後肺水腫，副腎皮質機能不全への外科的侵襲
〇蛇毒・昆虫毒（重症の虫ささされ含む）
〇強直性脊椎炎（リウマチ性脊椎炎）
〇卵管整形術後の癒着防止，副腎皮質機能障害による排卵障害
〇前立腺癌（他の療法無効時），陰茎硬結
〇●湿疹・皮膚炎群（急性湿疹，亜急性湿疹，慢性湿疹，接触皮膚炎，貨幣状湿疹，自家感作性皮膚炎，アトピー皮膚炎，乳・幼・小児湿疹，ビダール苔癬，その他の神経皮膚炎，脂漏性皮膚炎，進行性指掌角皮症，その他の手指の皮膚炎，陰部・肛門湿疹，耳介・外耳道の湿疹・皮膚炎，鼻前庭・鼻翼周辺の湿疹・皮膚炎等）（重症例以外は極力投与しない），●痒疹群（小児ストロフルス，蕁麻疹様苔癬，固定蕁麻疹含む）（重症例のみ。固定蕁麻疹は局注），蕁麻疹（慢性例除く）（重症例のみ），●乾癬・類症〔尋常性乾癬（重症例），乾癬性関節炎，乾癬性紅皮症，膿疱性乾癬，稽留性肢端皮膚炎，疱疹状膿痂疹，ライター症候群〕，●類乾癬（重症例のみ），●掌蹠膿疱症（重症例のみ），●毛孔性紅色粃糠疹（重症例のみ），●扁平苔癬（重症例のみ），成年性浮腫性硬化症，紅斑症（●多形滲出性紅斑（重症例のみ），結節性紅斑），IgA血管炎（重症例のみ），ウェーバークリスチャン病，粘膜皮膚眼症候群〔開口部糜爛性外皮症，スチブンス・ジョンソン病，皮膚口内炎，フックス症候群，ベーチェット病（眼症状のない時），リップシュッツ急性陰門潰瘍〕，レイノー病，●円形脱毛症（悪性型のみ），天疱瘡群（尋常性天疱瘡，落葉状天疱瘡，Senear－Usher症候群，増殖性天疱瘡），デューリング疱疹状皮膚炎（類天疱瘡，妊娠性疱疹含む），先天性表皮水疱症，帯状疱疹（重症例のみ），●紅皮症（ヘブラ紅色粃糠疹含む），顔面播種状粟粒性狼瘡（重症例のみ），アレルギー性血管炎・その類症（急性痘瘡様苔癬状粃糠疹含む），潰瘍性慢性膿皮症，新生児スクレレーマ
〇内眼・視神経・眼窩・眼筋の炎症性疾患の対症療法（ブドウ膜炎，網脈絡膜炎，網膜血管炎，視神経炎，眼窩炎性偽腫瘍，眼窩漏斗尖端部症候群，眼筋麻痺），外・前眼部の炎症性疾患の対症療法で点眼が不適当・不十分な時（眼瞼炎，結膜炎，角膜炎，強膜炎，虹彩毛様体炎），眼科の術後炎症
〇急性・慢性中耳炎，滲出性中耳炎・耳管狭窄症，メニエル病・メニエル症候群，急性感音性難聴，血管運動（神経）性鼻炎，アレルギー性鼻炎，花粉症（枯草熱），副鼻腔炎・鼻茸，進行性壊疽性鼻炎，喉頭炎・喉頭浮腫，喉頭ポリープ・結節，食道の炎症（腐蝕性食道炎，直達鏡使用後）・食道拡張術後，耳鼻咽喉科の術後の後療法
〇難治性口内炎・舌炎（局所療法で治癒しないもの）
〇嗅覚障害，急性・慢性（反復性）唾液腺炎
●印 外用剤で効果不十分時のみ使用
注意
下垂体抑制試験
実施前に褐色細胞腫・パラガングリオーマの合併の有無を確認。合併があれば，褐色細胞腫・パラガングリオーマの治療を優先。
【用法用量】成人　1日0．5～8mg　1日1～4回　分割　内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．デスモプレシン酢酸塩水和物（男性の夜間多尿による夜間頻尿）の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．誘発感染症，感染症の増悪（頻度不明），B型肝炎ウイルスの増殖による肝炎。
2．続発性副腎皮質機能不全，糖尿病（頻度不明）。
3．消化管潰瘍，消化管穿孔（頻度不明）。
4．膵炎（頻度不明）。
5．精神変調，うつ状態，痙攣（頻度不明）。
6．骨粗鬆症，大腿骨・上腕骨等の骨頭無菌性壊死，ミオパシー（頻度不明）。
7．緑内障，後嚢白内障（頻度不明），眼圧亢進。
8．血栓症（頻度不明）。

ボスミン外用液0．1%（0．1%1mL）

両　外用　流通

【YJコード】2451700Q1032
【薬効分類】2．4．5　副腎ホルモン剤
【一般名】アドレナリン
【メーカー】製）第一三共
【薬価】12円/1mL
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】アドレナリン液

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．下記による気管支痙攣の緩解
気管支喘息，百日咳
2．局所麻酔薬の作用延長（粘膜面の表面麻酔のみ）
3．手術時の局所出血の予防と治療
4．耳鼻咽喉科の局所出血
5．耳鼻咽喉科の粘膜の充血・腫脹
6．外創の局所出血
【用法用量】気管支喘息・百日咳による気管支痙攣の緩解
5～10倍に希釈して吸入。1回0．3mg以内。2～5分間後，効果不十分時でも　前記の投与をもう一度行うのを限度。続けて必要な時　最低4～6時間あける。
局所麻酔薬の作用延長
血管収縮薬未添加の局所麻酔薬10mLに1～2滴（アドレナリン濃度1/10～20万）の割合に添加して使用。
手術時の局所出血の予防と治療，耳鼻咽喉科の局所出血，耳鼻咽喉科の粘膜の充血・腫脹，外創の局所出血
本剤（アドレナリン0．1%溶液）をそのまま，又は5～10倍希釈液　直接塗布，点鼻，噴霧，又はタンポンとして使用。
注意
吸入時
過度の使用による不整脈，心停止等の重篤な副作用のおそれ，1回0．3mg以内の用法・用量を守る。

2 個々の器官系用医薬品

■禁忌
【禁忌】用法共通
1. ブチロフェノン系・フェノチアジン系等の抗精神病薬，α遮断薬の投与患者。
2. イソプレナリン塩酸塩，ノルアドレナリン等のカテコールアミン製剤，アドレナリン作動薬の投与患者（緊急時以外）。
眼周囲部等
3. 狭隅角や前房が浅い等眼圧上昇の素因。

■副作用
【副作用】重大な副作用
用法共通
1. 全身性症状（頻度不明）（肺水腫等）。
吸入時
2. 重篤な血清カリウム値の低下（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
循環器 心悸亢進，血圧変動，顔面潮紅・蒼白
精神神経系 頭痛，振戦，発汗，神経過敏
消化器 悪心
過敏症 発疹等
呼吸器 気道刺激症状（吸入時）
眼 結膜・眼瞼・目のまわり等の過敏症状，結膜充血，眼痛
（表終了）

ボスミン注1mg（0．1%1mL1管）

内　注射　流通
劇

【YJコード】2451400A1030
【薬効分類】2．4．5　副腎ホルモン剤
【一般名】アドレナリン
【メーカー】製)第一三共
【薬価】188円/1A
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】アドレナリン注射液

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．下記による気管支痙攣の緩解
気管支喘息，百日咳
2．各種疾患・状態に伴う急性低血圧・ショック時の補助治療
3．局所麻酔薬の作用延長
4．手術時の局所出血の予防と治療
5．心停止の補助治療
6．虹彩毛様体炎時の虹彩癒着の防止
注意
各種疾患・状態に伴う急性低血圧・ショック時の補助治療
本剤は心筋酸素需要を増加させるため，心原性・出血性・外傷性ショック時で使用しない。
【用法用量】気管支喘息・百日咳による気管支痙攣の緩解，各種疾患又は状態に伴う急性低血圧・ショック時の補助治療，心停止の補助治療
成人　1回0．2～1mg（本剤　0．2～1mL）　皮下注・筋注。
適宜増減。
蘇生等の緊急時　成人　1回0．25mg（本剤　0．25mL）まで　ゆっくり静注（生食等で希釈）。必要時　5～15分ごとに繰り返す。
局所麻酔薬の作用延長
アドレナリンの0．1%溶液として　血管収縮薬未添加の局所麻酔薬10mLに1～2滴（アドレナリン濃度1 10～20万）の割合に添加して使用。
適宜増減。
手術時の局所出血の予防と治療
アドレナリンの0．1%溶液として　単独又は局所麻酔薬に添加し　局所注入。
適宜増減。
虹彩毛様体炎時の虹彩癒着防止
アドレナリンの0．1%溶液として　点眼，又は結膜下に0．1mg（本剤0．1mL）まで　注射。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】用法共通
1．ブチロフェノン系・フェノチアジン系等の抗精神病薬，α遮断薬の投与患者（アナフィラキシーショックの救急治療時以外）。
2．イソプレナリン塩酸塩，ノルアドレナリン等のカテコールアミン製剤，アドレナリン作動薬の投与患者（蘇生等の緊急時以外）。
点眼・結膜下注射（眼）
3．狭隅角や前房が浅い等の眼圧上昇の素因。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．肺水腫（頻度不明）（血圧異常上昇）。
2．呼吸困難（頻度不明）。
3．心停止（頻度不明）（頻脈，不整脈，心悸亢進，胸内苦悶）。
その他の副作用（発現時中止等）（用法共通）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
循環器 心悸亢進，胸内苦悶，不整脈，顔面潮紅・蒼白，血圧異常上昇
精神神経系 頭痛，眩暈，不安，振戦
過敏症 過敏症状等
消化器 悪心・嘔吐
その他 熱感，発汗
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（点眼・結膜下注射（眼科）使用時）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
その他 全身症状，結膜・眼瞼・目のまわり等の過敏症状，結膜充血，眼痛，眼瞼・結膜の色素沈着，鼻涙管の色素沈着による閉鎖，角膜の色素沈着，黄斑部の浮腫，微少出血，血管痙攣
（表終了）

リンデロンシロップ0．01%（0．01%1mL）

両　内服　流通
ハイリスク

【YJコード】2454004Q1078
【薬効分類】2．4．5　副腎ホルモン剤
【一般名】ベタメタゾン
【メーカー】製)シオノギファーマ　販)塩野義製薬
【薬価】6.9円/1mL
【薬価収載日】2006/12/08
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】合成副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇内科・小児科
（1）．内分泌疾患 慢性副腎皮質機能不全（原発性，続発性，下垂体性，医原性），急性副腎皮質機能不全（副腎クリーゼ），副腎性器症候群，亜急性甲状腺炎，甲状腺中毒症［甲状腺（中毒性）クリーゼ］，甲状腺疾患に伴う悪性眼球突出症，ACTH単独欠損症，下垂体抑制試験
（2）．リウマチ疾患 関節リウマチ，若年性関節リウマチ（スチル病含む），リウマチ熱（リウマチ性心炎含む），リウマチ性多発筋痛
（3）．膠原病 エリテマトーデス（全身性・慢性円板状），全身性血管炎（高安動脈炎，結節性多発動脈炎，顕微鏡的多発血管炎，多発血管炎性肉芽腫症含む），多発性筋炎（皮膚筋炎），強皮症
（4）．腎疾患 ネフローゼ，ネフローゼ症候群
（5）．心疾患 うっ血性心不全
（6）．アレルギー性疾患 気管支喘息，喘息性気管支炎（小児喘息性気管支炎含む），薬剤その他の化学物質によるアレルギー・中毒（薬疹，中毒疹含む），血清病
（7）．重症感染症 重症感染症（化学療法と併用）
（8）．血液疾患 溶血性貧血（免疫性，免疫性機序の疑い），白血病（急性白血病，慢性骨髄性白血病の急性転化，慢性リンパ性白血病）（皮膚白血病含む），顆粒球減少症（本態性，続発性），紫斑病（血小板減少性・血小板非減少性），再生不良性貧血，凝固因子の障害による出血性素因
（9）．消化器疾患 限局性腸炎，潰瘍性大腸炎
（10）．重症消耗性疾患 重症消耗性疾患の全身状態の改善（癌末期，スプルー含む）
（11）．肝疾患 劇症肝炎（重症含む），胆汁うっ滞型急性肝炎，慢性肝炎（活動型，急性再燃型，胆汁うっ滞型）（一般的治療に反応せず肝機能の著しい異常が持続する難治性のみ），肝硬変（活動型，難治性腹水を伴うもの，胆汁うっ滞を伴うもの）
（12）．肺疾患 サルコイドーシス（両側肺門リンパ節腫脹のみの時を除く），びまん性間質性肺炎（肺線維症）（放射線肺臓炎含む）
（13）．結核性疾患（抗結核剤と併用）肺結核（粟粒結核，重症結核のみ），結核性髄膜炎，結核性胸膜炎，結核性腹膜炎，結核性心嚢炎
（14）．神経疾患 脳脊髄炎（脳炎，脊髄炎含む）（一次性脳炎では頭蓋内圧亢進症状があり，他剤が効果不十分時に短期使用），末梢神経炎（ギランバレー症候群含む），筋強直症，重症筋無力症，多発性硬化症（視束脊髄炎含む），小舞踏病，顔面神経麻痺，脊髄蜘網膜炎
（15）．悪性腫瘍 悪性リンパ腫（リンパ肉腫症，細網肉腫症，ホジキン病，皮膚細網症，菌状息肉症），類似疾患（近縁疾患），好酸性肉芽腫，乳癌の再発転移
（16）．その他の内科的疾患 特発性低血糖症，原因不明の発熱
〇外科
副腎摘除，臓器・組織移植，侵襲後肺水腫，副腎皮質機能不全への外科的侵襲，蛇毒・昆虫毒（重症の虫さされ含む）
〇整形外科
強直性脊椎炎（リウマチ性脊椎炎）
〇産婦人科
卵管整形術後の癒着防止，副腎皮質機能障害による排卵障害
〇泌尿器科
前立腺癌（他の療法無効時），陰茎硬結
〇皮膚科
△印 外用剤で効果不十分時のみ使用
△湿疹・皮膚炎群（急性湿疹，亜急性湿疹，慢性湿疹，接触皮膚炎，貨幣状湿疹，自家感作性皮膚炎，アトピー皮膚炎，乳・幼・小児湿疹，ビダール苔癬，その他の神経皮膚炎，脂漏性皮膚炎，進行性指掌角皮症，その他の手指の皮膚炎，陰部・肛門湿疹，耳介・外耳道の湿疹・皮膚炎，鼻前庭・鼻翼周辺の湿疹・皮膚炎等）（重症例以外は極力投与しない），△痒疹群（小児ストロフルス，蕁麻疹様苔癬，固定蕁麻疹含む）

2 個々の器官系用医薬品

(重症例のみ。固定蕁麻疹は局注), 蕁麻疹(慢性例除く)(重症例のみ), △乾癬・類症〔尋常性乾癬(重症例), 乾癬性関節炎, 乾癬性紅皮症, 膿疱性乾癬, 稽留性肢端皮膚炎, 疱疹状膿痂疹, ライター症候群〕, △類乾癬(重症例のみ), △掌蹠膿疱症(重症例のみ), △毛孔性紅色粃糠疹(重症例のみ), △扁平苔癬(重症例のみ), 成年性浮腫性硬化症, 紅斑症〔△多形滲出性紅斑(重症例のみ), 結節性紅斑〕, IgA血管炎(重症例のみ), ウェーバークリスチャン病, 粘膜皮膚眼症候群〔開口部糜爛性外皮症, スチブンス・ジョンソン病, 皮膚口内炎, フックス症候群, ベーチェット病(眼症状のない時), リップシュッツ急性陰門潰瘍〕, レイノー病, △円形脱毛症(悪性型のみ), 天疱瘡群(尋常性天疱瘡, 落葉状天疱瘡, Senear－Usher症候群, 増殖性天疱瘡), デューリング疱疹状皮膚炎(類天疱瘡, 妊娠性疱疹含む), 先天性表皮水疱症, 帯状疱疹(重症例のみ), △紅皮症(ヘブラ紅色粃糠疹含む), 顔面播種状粟粒性狼瘡(重症例のみ), アレルギー性血管炎・その類症(急性痘瘡様苔癬状粃糠疹含む), 潰瘍性慢性膿皮症, 新生児スクレレーマ
〇眼科
内眼・視神経・眼窩・眼筋の炎症性疾患の対症療法(ブドウ膜炎, 網脈絡膜炎, 網膜血管炎, 視神経炎, 眼窩炎性偽腫瘍, 眼窩漏斗尖端部症候群, 眼筋麻痺), 外・前眼部の炎症性疾患の対症療法で点眼が不適当・不十分な時(眼瞼炎, 結膜炎, 角膜炎, 強膜炎, 虹彩毛様体炎), 眼科の術後炎症
〇耳鼻咽喉科
急性・慢性中耳炎, 滲出性中耳炎・耳管狭窄症, メニエル病, メニエル症候群, 急性感音性難聴, 血管運動(神経)性鼻炎, アレルギー性鼻炎, 花粉症(枯草熱), 副鼻腔炎・鼻茸, 進行性壊疽性鼻炎, 喉頭炎・喉頭浮腫, 喉頭ポリープ・結節, 食道の炎症(腐蝕性食道炎, 直達鏡使用後)・食道拡張術後, 耳鼻咽喉科の術後の後療法, 難治性口内炎・舌炎(局所療法で治癒しないもの), 嗅覚障害, 急性・慢性(反復性)唾液腺炎
注意
下垂体抑制試験
実施前に褐色細胞腫・パラガングリオーマの合併の有無を確認。合併があれば, 褐色細胞腫・パラガングリオーマの治療を優先。
【用法用量】成人　1日0．5～8mg　1日1～4回　分割　内服。小児　1日0．15～4mg　1日1～4回　分割　内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. デスモプレシン酢酸塩水和物(男性の夜間多尿による夜間頻尿)の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 誘発感染症, 感染症の増悪(頻度不明), B型肝炎ウイルスの増殖による肝炎。
2. 続発性副腎皮質機能不全, 糖尿病(頻度不明)。
3. 消化管潰瘍, 消化管穿孔(頻度不明)。
4. 膵炎(頻度不明)。
5. 精神変調, うつ状態, 痙攣(頻度不明)。
6. 骨粗鬆症, 大腿骨・上腕骨等の骨頭無菌性壊死, ミオパシー(頻度不明)。
7. 緑内障, 後嚢白内障(頻度不明), 眼圧亢進。
8. 血栓症(頻度不明)。

リンデロン注2mg(0．4%)(2mg1管)
両　注射　流通
ハイリスク

【YJコード】2454404A1064
【薬効分類】2．4．5　副腎ホルモン剤
【一般名】ベタメタゾンリン酸エステルナトリウム
【メーカー】製)シオノギファーマ　販)塩野義製薬
【薬価】169円/1A
【薬価収載日】2005/06/10
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】合成副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】☆印は, 下記でのみ使用(事由消失時, 他の投与法に切りかえる)
静注・点滴静注 内服不能時, 緊急時, 筋注不適時
筋注 内服不能時
1. 内科・小児科
(1)内分泌疾患
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
慢性副腎皮質機能不全(原発性, 続発性, 下垂体性, 医原性)　〇
急性副腎皮質機能不全(副腎クリーゼ) 〇 〇 〇
副腎性器症候群, 亜急性甲状腺炎, 甲状腺疾患に伴う悪性眼球突出症　〇☆
甲状腺中毒症(甲状腺(中毒性)クリーゼ) 〇 〇 〇☆
(表終了)
(2)リウマチ疾患
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
関節リウマチ, 若年性関節リウマチ(スチル病含む)　〇 関節腔内注射
リウマチ熱(リウマチ性心炎含む) 〇☆ 〇☆ 〇
リウマチ性多発筋痛　〇
(表終了)
(3)膠原病
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
エリテマトーデス(全身性・慢性円板状), 全身性血管炎(高安動脈炎, 結節性多発動脈炎, 顕微鏡的多発血管炎, 多発血管炎性肉芽腫症含む), 多発性筋炎(皮膚筋炎) 〇☆ 〇☆ 〇
強皮症　〇☆
(表終了)
(4)腎疾患
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
ネフローゼ, ネフローゼ症候群 〇☆ 〇☆ 〇☆
(表終了)
(5)心疾患
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
うっ血性心不全 〇☆ 〇☆ 〇☆
(表終了)
(6)アレルギー性疾患
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
気管支喘息(筋注は他の投与法では不適当な時のみ) 〇 〇 〇 ネブライザー
喘息性気管支炎(小児喘息性気管支炎含む)　〇☆ ネブライザー
喘息発作重積状態, アナフィラキシーショック 〇 〇
薬剤その他の化学物質によるアレルギー・中毒(薬疹, 中毒疹含む) 〇☆ 〇☆ 〇☆
血清病 〇 〇 〇☆
(表終了)
(7)重症感染症
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
重症感染症(化学療法と併用) 〇 〇 〇☆
(表終了)
(8)血液疾患
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
溶血性貧血(免疫性, 免疫性機序の疑い), 白血病(急性白血病, 慢性骨髄性白血病の急性転化, 慢性リンパ性白血病)(皮膚白血病含む), 顆粒球減少症(本態性, 続発性), 紫斑病(血小板減少性・血小板非減少性), 再生不良性貧血, 凝固因子の障害による出血性素因 〇 〇 〇☆
髄膜白血病　脊髄腔内注入
(表終了)
(9)消化器疾患
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
限局性腸炎, 潰瘍性大腸炎 〇☆ 〇☆ 〇☆ 注腸
(表終了)
(10)重症消耗性疾患
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
重症消耗性疾患の全身状態の改善(癌末期, スプルー含む) 〇☆ 〇☆ 〇☆
(表終了)
(11)肝疾患
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
劇症肝炎(重症含む) 〇 〇 〇☆
胆汁うっ滞型急性肝炎　〇☆ 〇☆
肝硬変(活動型, 難治性腹水を伴うもの, 胆汁うっ滞を伴うもの)　〇☆
(表終了)
(12)肺疾患
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
びまん性間質性肺炎(肺線維症)(放射線肺臓炎含む) 〇☆ 〇☆　ネブライザー
(表終了)
(13)結核性疾患(抗結核剤と併用)
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
結核性髄膜炎　脊髄腔内注入
結核性胸膜炎　胸腔内注入
(表終了)
(14)神経疾患
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
脳脊髄炎(脳炎, 脊髄炎含む)(一次性脳炎では頭蓋内圧亢進症状があり, 他剤が効果不十分時に短期使用), 重症筋無力症, 多発性硬化症(視束脊髄炎含む) 〇 〇 〇☆ 脊髄腔内注入
末梢神経炎(ギランバレー症候群含む) 〇☆ 〇☆ 〇☆ 脊髄腔内注入
小舞踏病, 顔面神経麻痺, 脊髄蜘網膜炎　〇☆
(表終了)
(15)悪性腫瘍
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法

2 個々の器官系用医薬品

悪性リンパ腫(リンパ肉腫症，細網肉腫症，ホジキン病，皮膚細網症，菌状息肉症)，類似疾患(近縁疾患) ○ ○ ○☆ 脊髄腔内注入
好酸性肉芽腫 ○ ○ ○☆
乳癌の再発転移　○☆
(表終了)
(16)その他の内科的疾患
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
特発性低血糖症 ○ ○ ○☆
原因不明の発熱　○☆
(表終了)
2. 外科
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
副腎摘除 ○ ○ ○
臓器・組織移植，副腎皮質機能不全への外科的侵襲，蛇毒・昆虫毒(重症の虫さされ含む)　○☆
侵襲後肺水腫 ○　ネブライザー
外科的ショック，外科的ショック様状態，脳浮腫，輸血による副作用，気管支痙攣(術中) ○
(表終了)
3. 整形外科
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
強直性脊椎炎(リウマチ性脊椎炎)　○
強直性脊椎炎(リウマチ性脊椎炎)に伴う四肢関節炎，変形性関節症(炎症症状がある時)，外傷後関節炎，非感染性慢性関節炎，痛風性関節炎　関節腔内注射
関節周囲炎(非感染性のみ)，腱周囲炎(非感染性のみ)　軟組織内注射 腱鞘内注射 滑液嚢内注入
腱炎(非感染性のみ)　軟組織内注射 腱鞘内注射
腱鞘炎(非感染性のみ)　腱鞘内注射
滑液包炎(非感染性のみ)　滑液嚢内注入
(表終了)
4. 産婦人科
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
卵管閉塞症(不妊症)への通水療法　卵管腔内注入
卵管整形術後の癒着防止　○☆ 卵管腔内注入
副腎皮質機能障害による排卵障害　○☆
早産が予期される時，母体投与による胎児肺成熟を介した新生児呼吸窮迫症候群の発症抑制　○
(表終了)
5. 泌尿器科
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
前立腺癌(他の療法無効時)，陰茎硬結　○☆
(表終了)
6. 皮膚科
△印;外用剤で効果不十分時のみ使用
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
△湿疹・皮膚炎群(急性湿疹，亜急性湿疹，慢性湿疹，接触皮膚炎，貨幣状湿疹，自家感作性皮膚炎，アトピー皮膚炎，乳・幼・小児湿疹，ビダール苔癬，その他の神経皮膚炎，脂漏性皮膚炎，進行性指掌角皮症，その他の手指の皮膚炎，陰部・肛門湿疹，耳介・外耳道の湿疹・皮膚炎，鼻前庭・鼻翼周辺の湿疹・皮膚炎等)(重症例以外は極力投与しない。)△痒疹群(小児ストロフルス，蕁麻疹様苔癬，固定蕁麻疹含む)(重症例のみ。固定蕁麻疹は局注)，△類乾癬(重症例のみ)，△掌蹠膿疱症(重症例のみ)，△毛孔性紅色粃糠疹(重症例のみ)，成年性浮腫性硬化症，紅斑症〔△多形滲出性紅斑(重症例のみ)，結節性紅斑〕，レイノー病，先天性表皮水疱症，帯状疱疹(重症例のみ)，顔面播種状粟粒性狼瘡(重症例のみ)，潰瘍性慢性膿皮症，新生児スクレレーマ　○☆
蕁麻疹(慢性例除く)(重症例のみ)，△乾癬・類症(尋常性乾癬(重症例)，乾癬性関節炎，乾癬性紅皮症，膿疱性乾癬，稽留性肢端皮膚炎，疱疹状膿痂疹，ライター症候群)，IgA血管炎(重症例のみ)，ウェーバークリスチャン病，粘膜皮膚眼症候群(開口部糜爛性外皮症，スチブンス・ジョンソン病，皮膚口内炎，フックス症候群，ベーチェット病(眼症状のない時)，リップシュッツ急性陰門潰瘍)，天疱瘡群(尋常性天疱瘡，落葉状天疱瘡，Senear－Usher症候群，増殖性天疱瘡)，デューリング疱疹状皮膚炎(類天疱瘡，妊娠性疱疹含む)，△紅皮症(ヘブラ紅色粃糠疹含む)　○☆ ○☆
(表終了)
7. 眼科
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
内眼・視神経・眼窩・眼筋の炎症性疾患の対症療法(ブドウ膜炎，網脈絡膜炎，網膜血管炎，視神経炎，眼窩炎性偽腫瘍，眼窩漏斗尖端部症候群，眼筋麻痺)○☆　○☆ 結膜下注射 球後注射 点眼
外・前眼部の炎症性疾患の対症療法で点眼が不適当・不十分な時(眼瞼炎，結膜炎，角膜炎，強膜炎，虹彩毛様体炎) ○☆　○☆ 結膜下注射 球後注射
眼科の術後炎症 ○☆　○☆ 結膜下注射 点眼
(表終了)
8. 耳鼻咽喉科
(表開始)
効能・効果 静注 点滴静注 筋注 その他の用法
急性・慢性中耳炎 ○☆ ○☆ ○☆ 中耳腔内注入
滲出性中耳炎・耳管狭窄症 ○☆ ○☆ ○☆ 中耳腔内注入 耳管内注入
メニエル病・メニエル症候群，急性感音性難聴，口腔外科術後の後療法 ○ ○ ○
血管運動(神経)性鼻炎，アレルギー性鼻炎，花粉症(枯草熱)　○ ネブライザー 鼻腔内注入 鼻甲介内注射
副鼻腔炎・鼻茸　○ ネブライザー 鼻腔内注入 副鼻腔内注入 鼻茸内注射
進行性壊疽性鼻炎 ○ ○ ○ ネブライザー 鼻腔内注入 副鼻腔内注入 喉頭・気管注入
喉頭炎・喉頭浮腫 ○ ○ ○ ネブライザー 喉頭・気管注入
喉頭ポリープ・結節 ○☆ ○☆ ○☆ ネブライザー 喉頭・気管注入
食道の炎症(腐蝕性食道炎，直達鏡使用後)・食道拡張術後 ○ ○ ○ ネブライザー 食道注入
耳鼻咽喉科の術後の後療法 ○ ○ ○ 軟組織内注射 ネブライザー 鼻腔内注入 副鼻腔内注入 鼻甲介内注射 喉頭・気管注入 中耳腔内注入 食道注入
難治性口内炎・舌炎(局所療法で治癒しないもの)　軟組織内注射
嗅覚障害 ○☆ ○☆ ○☆ ネブライザー 鼻腔内注入
急性・慢性(反復性)唾液腺炎 ○☆ ○☆ ○☆ 唾液腺管内注入
(表終了)
注意
母体投与による新生児呼吸窮迫症候群の発症抑制
高次医療施設での周産期管理が可能な状況で投与。
【用法用量】下記量　適宜増減(母体投与による新生児呼吸窮迫症候群の発症抑制除く)。
静注
成人　1回2～8mg　3～6時間ごと　静注。
点滴静注
成人　1回2～10mg　1日1～2回　点滴静注。
筋注
成人　1回2～8mg　3～6時間ごと　筋注。
母体投与で新生児呼吸窮迫症候群の発症抑制 早産が予期される妊娠34週まで　1回12mg　計2回　24時間ごと　筋注。
関節腔内注射
成人　1回1～5mg　関節腔内注射。投与間隔　2週間以上。
軟組織内注射
成人　1回1～5mg　軟組織内注射。投与間隔　2週間以上。
腱鞘内注射
成人　1回1～5mg　腱鞘内注射。投与間隔　2週間以上。
滑液嚢内注入
成人　1回1～5mg　滑液嚢内注入。投与間隔　2週間以上。
脊髄腔内注入
成人　1回1～5mg　週1～3回　脊髄腔内注入。
胸腔内注入
成人　1回1～5mg　週1～3回　胸腔内注入。
卵管腔内注入
成人　1回0．4～1mg　卵管腔内注入。
注腸
成人　1回0．4～6mg　直腸内注入。
結膜下注射
成人　1回0．4～2mg　結膜下注射。液量0．2～0．5mL。
球後注射
成人　1回0．8～4mg　球後注射。液量0．5～1mL。
点眼
成人　1回0．25～1mg／mL溶液1～2滴　1日3～8回　点眼。
ネブライザー
成人　1回0．1～2mg　1日1～3回　ネブライザーで投与。
鼻腔内注入
成人　1回0．1～2mg　1日1～3回　鼻腔内注入。
副鼻腔内注入
成人　1回0．1～2mg　1日1～3回　副鼻腔内注入。
鼻甲介内注射
成人　1回1～5mg　鼻甲介内注射。
鼻茸内注射
成人　1回1～5mg　鼻茸内注射。
喉頭・気管注入
成人　1回0．1～2mg　1日1～3回　喉頭・気管注入。
中耳腔内注入
成人　1回0．1～2mg　1日1～3回　中耳腔内注入。
耳管内注入
成人　1回0．1～2mg　1日1～3回　耳管内注入。
食道注入
成人　1回1～2mg　食道注入。
唾液腺管内注入
成人　1回0．5～1mg　唾液腺管内注入。
注意
母体投与による新生児呼吸窮迫症候群の発症抑制
1．本剤投与から出産までの最適期間は投与開始後24時間以上7日間以内。それ以降に本剤を繰り返し投与した時の有効性と安全性は未確立，児の娩出時期を考慮して投与時期を決定。
眼科
2．重篤な副作用の可能性，2週間以上の長期投与は避ける。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．感染症のある関節腔内，滑液嚢内，腱鞘内・腱周囲。
3．動揺関節の関節腔内。
4．デスモプレシン酢酸塩水和物(男性の夜間多尿による夜間頻尿)の投与患者。

リンデロン注2mg(0．4%)

2 個々の器官系用医薬品

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（0．1%未満）（呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等）。
2. 誘発感染症，感染症の増悪（頻度不明），B型肝炎ウイルスの増殖による肝炎。
3. 続発性副腎皮質機能不全，糖尿病（頻度不明）。
4. 消化管潰瘍，消化管穿孔（頻度不明）。
5. 膵炎（頻度不明）。
6. 精神変調，うつ状態，痙攣（頻度不明）。
7. 骨粗鬆症，大腿骨・上腕骨等の骨頭無菌性壊死，ミオパシー（頻度不明）。
8. 緑内障，後嚢白内障（頻度不明），眼圧亢進。
9. 血栓症（頻度不明）。
10. 喘息発作の増悪（頻度不明）。

2．4．7 卵胞ホルモン及び黄体ホルモン剤

エストラーナテープ0．72mg（（0．72mg）9平方cm1枚）

両 外用 流通

【YJコード】2473700S2076
【薬効分類】2．4．7 卵胞ホルモン及び黄体ホルモン剤
【一般名】エストラジオール
【メーカー】製)久光製薬
【薬価】74.5円/1枚
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】経皮吸収型エストラジオール製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○更年期障害・卵巣欠落症状に伴う下記
血管運動神経症状（Hot flush・発汗），泌尿生殖器の萎縮症状
○閉経後骨粗鬆症
○性腺機能低下症，性腺摘出・原発性卵巣不全による低エストロゲン症
○生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整
○凍結融解胚移植のホルモン補充周期
注意
生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整，凍結融解胚移植のホルモン補充周期
本剤含む卵胞ホルモン剤と黄体ホルモン剤の併用で調節卵巣刺激の開始時期の調整・ホルモン補充周期で凍結融解胚移植を行った時，開始時期の調整を行わない時・自然排卵周期で凍結融解胚移植を行った時と比べ，妊娠率・生産率低下の可能性。説明の上，投与の要否は，必要性・危険性を考慮し慎重に判断。
【用法用量】更年期障害・卵巣欠落症状に伴う症状（血管運動神経症状（Hot flush・発汗），泌尿生殖器の萎縮症状），閉経後骨粗鬆症
成人 1回0．72mg 下腹部，臀部のいずれかに貼付し 2日ごと 貼りかえ。
性腺機能低下症，性腺摘出・原発性卵巣不全による低エストロゲン症
成人 1回0．72mgから開始。下腹部，臀部のいずれかに貼付し 2日ごと 貼りかえ 適宜増減。小児 1回0．09mgから開始。下腹部，臀部のいずれかに貼付し 2日ごと 貼りかえ。その後，0．18mg，0．36mg，0．72mgへ漸増。
生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整
1回0．72mg 下腹部，臀部のいずれかに貼付し 21～28日間 2日ごと 貼りかえ 投与期間の後半に黄体ホルモン剤併用。
凍結融解胚移植のホルモン補充周期
1回0．72～5．76mg 下腹部，臀部のいずれかに貼付し 2日ごと貼りかえ 子宮内膜の肥厚が得られたら，黄体ホルモン剤併用開始し，妊娠8週まで投与継続。
注意
閉経後骨粗鬆症
1．使用後6ヵ月～1年後に骨密度を測定し，効果なければ使用中止し，他の療法を考慮。
性腺機能低下症，性腺摘出・原発性卵巣不全による低エストロゲン症
2．成人 定期的に中止・漸減の判断を行い，最少量で治療。
3．小児 使用後6ヵ月～1年を目処に増量を検討。定期的に症状や血中エストラジオール濃度等を確認し，増量・中止・漸減の判断を行う。
凍結融解胚移植のホルモン補充周期
4．妊娠成立後の投与期間は，予想されるリスクと状態を考慮して慎重判断し，漫然投与継続せず，最長妊娠10週まで。

■禁忌
【禁忌】効能共通
1．エストロゲン依存性悪性腫瘍（例 乳癌，子宮内膜癌）・その疑い。
2．乳癌の既往。
3．未治療の子宮内膜増殖症。
4．血栓性静脈炎・肺塞栓症・その既往。
5．動脈性の血栓塞栓疾患（例 冠動脈性心疾患，脳卒中）・その既往。
6．本剤の成分に過敏症の既往。
7．授乳婦。
8．重篤な肝障害。
9．診断未確定の異常性器出血。
更年期障害・卵巣欠落症状に伴う症状（血管運動神経症状（Hot flush・発汗），泌尿生殖器の萎縮症状），閉経後骨粗鬆症，性腺機能低下症，性腺摘出・原発性卵巣不全による低エストロゲン症，生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整
10．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．アナフィラキシー（頻度不明）。
2．静脈血栓塞栓症，血栓性静脈炎（各頻度不明）（下肢の疼痛・浮腫，胸痛，突然の息切れ，急性視力障害等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚 一次刺激性の接触皮膚炎（紅斑，掻痒等）かぶれ，水疱，色素沈着
生殖器 不正出血，消退出血 帯下，外陰部腫脹感，外陰部掻痒感，子宮内膜増殖
乳房 乳房緊満感 乳房痛，乳頭痛，乳腺症
精神神経系 頭痛，眠気，眩暈 不眠 片頭痛
循環器 動悸 胸部不快感，血圧上昇 静脈瘤の悪化，血栓症
消化器 嘔吐，嘔気，下痢，腹部膨満感，便秘，心窩部痛
電解質代謝 浮腫 体液貯留
過敏症 全身の掻痒，発疹，顔面掻痒，顔面紅斑 蕁麻疹 アレルギー性接触皮膚炎
肝臓 肝機能障害（AST，ALT，Al－P，LDH上昇等） 胆石症，胆嚢疾患，胆汁うっ滞性黄疸
その他 腹痛，下腹部痛，関節痛，腰痛，耳鳴，体重の増加，背部痛，倦怠感，トリグリセライド上昇，フィブリノーゲン増加 体重の減少，発熱 下肢痛，ポルフィリン症の悪化，喘息の悪化，耳硬化症
（表終了）

プロスタール錠25（25mg1錠）

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】2478001F2179
【薬効分類】2．4．7 卵胞ホルモン及び黄体ホルモン剤
【一般名】クロルマジノン酢酸エステル
【メーカー】製)あすか製薬 販)住友製薬 販)武田薬品工業 販)大日本住友製薬
【薬価】37.7円/1T
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】前立腺肥大症・癌治療剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】前立腺肥大症，前立腺癌
転移のある前立腺癌症例は，他療法で治療困難な時
注意
前立腺肥大症
根治療法でない。効果不十分時は手術療法等他の処置を考慮。
【用法用量】前立腺肥大症
1回25mg 1日2回 食後 内服。
前立腺癌
1回50mg 1日2回 食後 内服。
適宜増減。
注意
前立腺肥大症
投与期間は16週とし，効果が期待できない時は，漫然と投与継続しない。

■禁忌
【禁忌】重篤な肝障害・肝疾患。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．うっ血性心不全（0．1%未満）。
2．血栓症（脳，心，肺，四肢等）（0．1%未満）。
3．劇症肝炎（頻度不明），肝機能障害，黄疸（各0．1%未満）（悪心・嘔吐，食欲不振，全身倦怠感等），死亡。
4．糖尿病，糖尿病の悪化，高血糖（各頻度不明），昏睡，ケトアシドーシス。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
生殖器 インポテンス等 性欲低下等
過敏症 発疹等 掻痒
肝臓 肝機能異常等
腎臓 BUN，クレアチニンの上昇等
電解質代謝 浮腫，体重増加等
循環器 動悸，心悸亢進，胸内苦悶，息切れ等
血液 貧血
消化器 胃部不快感等 悪心，便秘，下痢，食欲不振，口渇等 嘔吐，腹痛等

2 個々の器官系用医薬品

精神神経系 頭痛，眠気等
泌尿器 頻尿，尿道不快感，下腹部痛等
脂質代謝 中性脂肪の上昇
内分泌 女性型乳房 血中FSH，LH，テストステロン値の低下，プロラクチン値の上昇
皮膚 脱毛
その他 倦怠感，微熱，発汗，肥満
（表終了）

2．4．8 混合ホルモン剤

プラノバール配合錠（1錠）

両 内服 流通

【YJコード】2482005F1041
【薬効分類】2．4．8 混合ホルモン剤
【一般名】ノルゲストレル・エチニルエストラジオール
【メーカー】製)あすか製薬 販)武田薬品工業
【薬価】13.2円/1T
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】黄体・卵胞ホルモン配合剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇機能性子宮出血
〇月経困難症，月経周期異常（稀発月経，頻発月経）・生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整，過多月経，子宮内膜症，卵巣機能不全
注意
生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整
本剤含む卵胞ホルモン・黄体ホルモン配合剤で調節卵巣刺激開始時期の調整を行った時，開始時期の調整を行わない時と比べ，妊娠率・生産率低下の可能性。説明の上，投与の要否は，必要性・危険性を考慮し慎重に判断。
【用法用量】機能性子宮出血
1日1錠 7～10日間連続 内服。
月経困難症，月経周期異常（稀発月経，頻発月経），生殖補助医療の調節卵巣刺激開始時期の調整，過多月経，子宮内膜症，卵巣機能不全
1日1錠 月経周期第5日より約3週間連続 内服。

■禁忌

【禁忌】1．血栓性静脈炎・肺塞栓症・その既往。
2．エストロゲン依存性悪性腫瘍（例 乳癌，子宮内膜癌）・その疑い。
3．重篤な肝障害。
4．前回妊娠中に黄疸・持続性掻痒症の既往。
5．前回妊娠中に悪化した耳硬化症の既往。
6．妊娠ヘルペスの既往。
7．鎌状赤血球貧血。
8．デュビン・ジョンソン症候群，ローター症候群。
9．脂質代謝異常。
10．妊婦・妊娠の可能性。
11．診断未確定の異常性器出血。

■副作用

【副作用】重大な副作用
血栓症（四肢，肺，心，脳，網膜等）（0．1～0．2%未満）（下肢の急激な疼痛・腫脹，突然の息切れ，胸痛，激しい頭痛，四肢の脱力・麻痺，構語障害，急性視力障害等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
肝臓 肝機能の異常 黄疸等
子宮 不正出血（破綻出血，点状出血）経血量の変化，帯下の増加等
乳房 乳房緊満感 乳房痛等
過敏症 発疹等
電解質代謝 浮腫，体重増加
循環器 動悸，血圧上昇等
消化器 悪心・嘔吐，食欲不振，胃痛等 下痢，腹痛，便秘，口内炎，口渇等
精神神経系 頭痛，眠気，倦怠感 眩暈，神経過敏等
皮膚 ざ瘡等 色素沈着等
その他 熱感，腰痛，肩こり，冷感 コンタクトレンズがうまく調節されない等
（表終了）

2．4．9 その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）

インスリン アスパルトBS注ソロスター NR「サノフィ」（300単位1キット）

両 注射 自注 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2492423G1028
【薬効分類】2．4．9 その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】インスリン アスパルト（遺伝子組換え）
【メーカー】製)サノフィ
【薬価】1248円/1kit
【薬価収載日】2021/05/26
【ハイリスク分類】膵臓ホルモン剤
【標榜薬効】超速効型インスリンアナログ製剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】インスリン療法が適応となる糖尿病
注意
2型糖尿病には，緊急時以外，食事療法，運動療法を行ったうえで適用を考慮。
【用法用量】持続型インスリン製剤と併用する超速効型インスリンアナログ製剤。
成人 初期 1回2～20単位 食直前 皮下注。
適宜増減，持続型インスリン製剤の投与量を含めた維持量 1日4～100単位。
注意
1．速効型ヒトインスリン製剤より作用発現が速いため，食直前に投与。
2．本剤の作用時間，1mLあたりのインスリン アスパルト含有単位と病状に注意し，製剤的特徴に適する場合に投与。
3．他のインスリン製剤から本剤への変更で，インスリン用量の変更が必要になる可能性。用量の調整には，初回の投与から数週間又は数ヵ月間必要。

■禁忌

【禁忌】1．低血糖症状。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低血糖（頻度不明）（脱力感，倦怠感，高度の空腹感，冷汗，顔面蒼白，動悸，振戦，頭痛，眩暈，嘔気，視覚異常，不安，興奮，神経過敏，集中力低下，精神障害，痙攣，意識障害（意識混濁，昏睡）等），低血糖昏睡等重篤な転帰（中枢神経系の不可逆的障害，死亡等）。
2．アナフィラキシーショック（頻度不明）（呼吸困難，血圧低下，頻脈，発汗，全身の発疹，血管神経性浮腫等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 アレルギー，発疹，掻痒感 血圧降下，蕁麻疹
肝臓 肝機能障害
消化器 食欲不振，嘔気，腹痛 嘔吐
神経系 治療後神経障害（主に有痛性）
眼 糖尿病網膜症の顕在化・増悪 屈折異常，白内障
注射部位 注射部位反応（疼痛，発赤，腫脹，硬結，発疹，掻痒感等），リポジストロフィー（皮下脂肪の萎縮・肥厚等），皮膚アミロイドーシス
呼吸器系 呼吸困難
血液 血小板減少
その他 倦怠感，多汗，眩暈，振戦 空腹感，体重増加 発熱，頭痛，浮腫
（表終了）

インスリン グラルギンBS注ミリオペン「リリー」（300単位1キット）

両 注射 自注 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2492420G1024
【薬効分類】2．4．9 その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】インスリン グラルギン（遺伝子組換え）
【メーカー】製)日本イーライリリー
【薬価】1041円/1kit
【薬価収載日】2015/05/29
【ハイリスク分類】膵臓ホルモン剤
【標榜薬効】持効型溶解インスリンアナログ製剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】インスリン療法が適応となる糖尿病
注意
2型糖尿病には，緊急時以外，食事療法，運動療法を行ったうえで適用を考慮。
【用法用量】成人 初期 1回4～20単位 1日1回 朝食前又は就寝前（定刻） 皮下注。ときに他のインスリン製剤を併用。

2 個々の器官系用医薬品

適宜増減。その他のインスリン製剤の投与量を含めた維持量 1日4～80単位。
必要時，上記量超えての使用あり。
注意
1. 作用時間，1mLあたりのインスリン含有単位と病状に注意し，製剤的特徴に適する場合に投与。
2. 糖尿病性昏睡，急性感染症，手術等緊急時は，本剤のみの処置は適当でなく，速効型インスリン製剤を使用。
3. 中間型又は持続型インスリン製剤から本剤に変更時，下記を参考に投与を開始し，適宜増減等，作用特性を考慮。
(1). インスリン グラルギン300単位／mL製剤から本剤に変更時
初期量は，前治療のインスリン グラルギン300単位／mL製剤の1日量と同単位よりも低用量を目安として投与を開始。
(2). インスリン グラルギン300単位／mL製剤以外の中間型又は持続型インスリン製剤から本剤に変更時
[1]. 1日1回投与の中間型又は持続型インスリン製剤から本剤に変更時，初期量は，前治療の中間型又は持続型インスリン製剤の1日量と同単位を目安として投与を開始。
[2]. 1日2回投与の中間型インスリン製剤から本剤への切りかえは，国内では使用経験がない。
4. インスリン グラルギン300単位／mL製剤又は中間型インスリン製剤から本剤への切りかえ直後に低血糖あり。中間型又は持続型インスリン製剤から本剤に変更時，併用している速効型インスリン製剤，超速効型インスリンアナログ製剤又は他の糖尿病用薬の投与量及び投与スケジュールの調整が必要。
5. インスリン製剤以外の他の糖尿病用薬から本剤に変更時又はインスリン製剤以外の他の糖尿病用薬と本剤を併用時 低用量から開始等，本剤の作用特性を考慮。
6. 本剤の作用は皮下注で，ピークを示さず，ほぼ24時間持続することから，他のインスリン製剤からの切りかえ時等，低血糖発現状態の変化に注意。

■禁忌
【禁忌】1. 低血糖症状。
2. 本剤の成分・他のインスリン グラルギン製剤に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 低血糖(0. 7%)(脱力感，倦怠感，高度の空腹感，冷汗，顔面蒼白，動悸，振戦，頭痛，眩暈，嘔気，視覚異常，不安，興奮，神経過敏，集中力低下，精神障害，痙攣，意識障害(意識混濁，昏睡)等)，低血糖昏睡等重篤な転帰(中枢神経系の不可逆的障害，死亡等)。
2. ショック，アナフィラキシー(頻度不明)(全身性皮膚反応，血管神経性浮腫，気管支痙攣，低血圧等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹，掻痒感
肝臓 肝機能異常(AST，ALTの上昇等)
眼 糖尿病網膜症の顕在化・増悪
注射部位 浮腫，疼痛，掻痒感，硬結 発赤，蕁麻疹，腫脹，炎症，リポジストロフィー(皮下脂肪の萎縮・肥厚等)，皮膚アミロイドーシス
その他 ナトリウム貯留，浮腫
(表終了)

インスリン リスプロBS注ソロスター HU「サノフィ」(300単位1キット)

両 注射 自注 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2492422G1023
【薬効分類】2. 4. 9 その他のホルモン剤(抗ホルモン剤を含む。)
【一般名】インスリン リスプロ(遺伝子組換え)
【メーカー】製)サノフィ
【薬価】876円/1kit
【薬価収載日】2020/05/27
【ハイリスク分類】膵臓ホルモン剤
【標榜薬効】抗糖尿病剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】インスリン療法が適応となる糖尿病
注意
2型糖尿病には，緊急時以外，食事療法，運動療法を行ったうえで適用を考慮。
【用法用量】成人 1回2～20単位 毎食直前 皮下注。ときに投与回数を増やす，持続型インスリン製剤を併用することあり。
適宜増減，持続型インスリン製剤の投与量を含めた維持量 1日4～100単位。
注意
速効型インスリン製剤に比べ，皮下からより速やかに吸収され，血糖降下作用は同等(1モルと速効型インスリン製剤1モルは，同等の血糖降下作用あり)。その作用の発現はより速やかで作用持続の時間が短い(投与後約5時間まで)ので，速効型インスリン製剤(食事の30分前に投与)と異なり食直前(15分以内)に投与。
＜投与時間＞
(表開始)
食前
本剤 15分以内
速効型インスリン製剤 30分前
(表終了)
他のインスリン製剤から本剤に変更時にも，その作用特性や薬物動態を考慮し，必要時投与量を増減する等，慎重に行う。用量の調整には，初回の投与から数週間又は数ヵ月間必要。
持続型インスリン製剤の併用時は，持続型インスリン製剤の投与量，投与スケジュールの調整が必要な時あり。

■禁忌
【禁忌】1. 低血糖症状。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 低血糖(頻度不明)(脱力感，倦怠感，高度の空腹感，冷汗，顔面蒼白，動悸，振戦，頭痛，眩暈，嘔気，視覚異常，不安，興奮，神経過敏，集中力低下，精神障害，痙攣，意識障害(意識混濁，昏睡)等)，低血糖昏睡等重篤な転帰(中枢神経系の不可逆的障害，死亡等)。
2. アナフィラキシーショック(呼吸困難，血圧低下，頻脈，発汗，全身の発疹等)，血管神経性浮腫(頻度不明)等。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 頻度不明
過敏症 蕁麻疹 アレルギー，発疹，掻痒感
代謝異常 高血糖，血糖値上昇
神経系 治療後神経障害(主に有痛性)
眼 糖尿病網膜症の顕在化・増悪，屈折異常
注射部位 局所反応(腫脹，掻痒感，疼痛，硬結，発赤等)，リポジストロフィー(皮下脂肪の萎縮・肥厚等)，皮膚アミロイドーシス
肝臓 肝機能異常
その他 浮腫
(表終了)

オクトレオチド皮下注100μg「あすか」(100μg1mL1管)

両 注射 自注 後発 流通
劇

【YJコード】2499403A2050
【薬効分類】2. 4. 9 その他のホルモン剤(抗ホルモン剤を含む。)
【一般名】オクトレオチド酢酸塩
【先発品】サンドスタチン皮下注用100μg
【メーカー】製)あすか製薬 販)武田薬品工業
【薬価】724円/1A
【薬価収載日】2016/06/17
【標榜薬効】持続性ソマトスタチンアナログ製剤
【区分】抗がん剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 下記に伴う諸症状の改善
消化管ホルモン産生腫瘍(VIP産生腫瘍，カルチノイド症候群の特徴を示すカルチノイド腫瘍，ガストリン産生腫瘍)
2. 下記の成長ホルモン，ソマトメジンーC分泌過剰状態・諸症状の改善
先端巨大症・下垂体性巨人症(外科的処置，他剤による治療で効果不十分時又は施行困難な時)
3. 進行・再発癌患者の緩和医療の消化管閉塞に伴う消化器症状の改善
4. 先天性高インスリン血症に伴う低血糖(他剤による治療で効果不十分時)
注意
下垂体性巨人症
1. 脳性巨人症や染色体異常等他の原因による高身長例を鑑別し，下垂体性病変に由来することを確認。
先天性高インスリン血症に伴う低血糖
2. ジアゾキシドによる治療で効果不十分時に投与を検討。
3. 重症低血糖により引きおこされる中枢神経症状への有効性は未確認。
【用法用量】1. 消化管ホルモン産生腫瘍，先端巨大症・下垂体性巨人症
成人 1日100又は150μgから開始 効果不十分時 1日300μgまで漸増 1日2～3回 分割 皮下注。
適宜増減。
2. 進行・再発癌患者の緩和医療の消化管閉塞に伴う消化器症状
成人 1日300μg 24時間持続皮下注。
適宜増減。
3. 先天性高インスリン血症に伴う低血糖
1日5μg／kg 1日3～4回 分割 皮下注又は24時間持続皮下注。
適宜増減，1日25μg／kgまで。
注意
進行・再発癌患者の緩和医療の消化管閉塞に伴う消化器症状
1. 本剤の投与量の増量と効果の増強の関係は，未確立。
2. 本剤を継続投与時，7日間ごとを目安として慎重に検討。
先天性高インスリン血症に伴う低血糖
3. 低血糖状態の重症度，血糖値及び臨床症状により，最少量で効果が認められるよう，個別に調整。増量時は慎重に増量。

2 個々の器官系用医薬品

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. アナフィラキシー(頻度不明)(血圧低下，呼吸困難，気管支痙攣等)(皮疹，掻痒，蕁麻疹，発疹を伴う末梢性の浮腫等)。
2. 重篤な徐脈。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
内分泌障害　甲状腺機能低下症，甲状腺機能障害(甲状腺刺激ホルモン(TSH)減少，総サイロキシン(T4)減少・遊離T4減少等)
代謝・栄養障害　耐糖能異常，低血糖，高血糖 脱水
神経系障害　頭痛，眩暈
呼吸器障害　呼吸困難
胃腸障害 嘔気 胃部不快感，下痢，嘔吐 便秘，腹痛，食欲不振，白色便，腹部膨満 膵炎，鼓腸放屁
肝胆道系障害　肝機能異常，AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇，γ－GTP上昇，胆石 LDH上昇，ビリルビン上昇 胆嚢炎
皮膚・皮下組織障害　発赤，皮膚掻痒感，脱毛
全身障害　疲労，倦怠感
注射部位 疼痛　発赤，硬結 刺激感，刺痛，腫脹，灼熱感
(表終了)

カルナクリン錠50（50単位1錠）
両　内服　流通

【YJコード】2491001F6060
【薬効分類】2．4．9　その他のホルモン剤(抗ホルモン剤を含む。)
【一般名】カリジノゲナーゼ
【メーカー】製)三和化学研究所
【薬価】12.8円/1T
【薬価収載日】2001/09/07
【標榜薬効】循環障害改善剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇下記の末梢循環障害の改善
高血圧症，メニエール症候群，閉塞性血栓血管炎(ビュルガー病)
〇下記の改善
更年期障害，網脈絡膜の循環障害
【用法用量】成人　1回1錠　1日3回　内服。
適宜増減。
再評価結果
成人　1日30～150単位　1日3回　分割　内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】脳出血直後等の新鮮出血時。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 掻痒感，蕁麻疹
循環器　心悸亢進
消化器 胃部不快感，嘔気，嘔吐，食欲不振，上腹部痛，下痢，便秘
肝臓　AST上昇，ALT上昇，肝機能障害
その他 ほてり 頭痛，頭重，眠気，倦怠感
(表終了)

ジエノゲスト錠1mg「モチダ」（1mg1錠）
両　内服　後発　流通

【YJコード】2499010F1120
【薬効分類】2．4．9　その他のホルモン剤(抗ホルモン剤を含む。)
【一般名】ジエノゲスト
【先発品】ディナゲスト錠1mg
【メーカー】製)持田製薬販売　販)持田製薬
【薬価】53.5円/1T
【薬価収載日】2017/06/16
【標榜薬効】子宮内膜症・子宮腺筋症に伴う疼痛改善治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．子宮内膜症
2．子宮腺筋症に伴う疼痛の改善
【用法用量】成人　1日2mg　1日2回　分割　月経周期2～5日目から内服。
注意
妊娠していないことを確認，必ず月経周期2～5日目から開始。治療期間中は非ホルモン性の避妊をさせる。

■禁忌
【禁忌】1．診断未確定の異常性器出血。
2．妊婦・妊娠の可能性。
3．本剤の成分に過敏症の既往。
4．高度の子宮腫大・重度の貧血。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．重篤な不正出血(頻度不明)，重度の貧血(頻度不明)。
2．アナフィラキシー(頻度不明)(呼吸困難，血管浮腫，蕁麻疹，掻痒感等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満
低エストロゲン症状 ほてり(20．6%)，頭痛 眩暈，動悸 不眠，発汗，不安，抑うつ
子宮 不正出血(88．3%) 腹痛
乳房　乳房緊満感，乳房痛 乳汁分泌
皮膚 外陰部かぶれ・かゆみ ざ瘡 脱毛，皮膚乾燥
精神神経系　傾眠 いらいら感，片頭痛，しびれ感
過敏症　発疹等 掻痒感
肝臓　AST・ALT・γ－GTP・ビリルビン上昇等の肝機能検査値異常
消化器 悪心 腹痛，便秘，下痢，胃部不快感，腹部膨満感 嘔吐，口内炎
血液　貧血 白血球減少
筋骨格系　背部痛，骨塩量低下，肩こり 関節痛
その他　倦怠感，体重増加，浮腫，疲労 発熱，コレステロール上昇，耳鳴，血糖値上昇
(表終了)

ジノプロスト注射液1000μg「F」（1mg1mL1管）
内　注射　後発　流通
劇

【YJコード】2499401A2093
【薬効分類】2．4．9　その他のホルモン剤(抗ホルモン剤を含む。)
【一般名】ジノプロスト
【先発品】プロスタルモン・F注射液1000
【メーカー】製)富士製薬工業
【薬価】232円/1A
【薬価収載日】2015/01/21
【標榜薬効】PGF2α製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．静注
(1)．妊娠末期の陣痛誘発・陣痛促進・分娩促進
(2)．下記の腸管蠕動亢進
・胃腸管の手術の術後腸管麻痺の回復遷延の時
・麻痺性イレウスで他の保存的治療で効果がない時
2．卵膜外投与
治療的流産
【用法用量】1．注射投与
妊娠末期の陣痛誘発・陣痛促進・分娩促進
1～2mL　点滴静注・持続静注。
(1)．点滴静注
ジノプロスト　0．1μg／kg／分の割合(本剤1mLに5%ブドウ糖液又は糖液を加え500mLに希釈)。希釈する輸液の量及び種類は患者の状態により適切に選択。
(2)．シリンジポンプによる静注(持続注入)
ジノプロスト　0．1μg／kg／分(0．05～0．15μg／kg／分)の割合(本剤1mLに生食を加え50mLに希釈)。
(3)．適宜増減。
腸管蠕動亢進
(1)．ジノプロスト　1回1000～2000μg(本剤　1～2mL)　1日2回　1～2時間(10～20μg／分)で　点滴静注(輸液500mLに希釈)。
(2)．手術侵襲の程度，他の処置等を考慮し慎重投与。
(3)．3日間投与しても効果なければ直ちに中止し，他の療法に切りかえる。
(4)．適宜増減。
2．卵膜外投与
治療的流産
妊娠12週以降
本剤1mLに生食を加え4mLに希釈。これを子宮壁と卵膜の間に分割注入。
(1)．薬液注入カテーテルの固定
フォーリーカテーテルを使用。カテーテルを子宮頸管を通じ挿入，カテーテルのバルーン部が子宮口を通過して，子宮下部まで到達後，バルーン部に生食を充満，内子宮口を閉鎖し，カテーテルの脱出と膣への薬液漏出を防止。カテーテルを大腿部内側へテープで固定。
(2)．薬液注入
1)．初回量
希釈液(ジノプロスト　250μg／mL)1mLを注入。薬液がカテーテル内に残らないように引き続きカテーテルの内腔量を上回る生食を注入(16号カテーテルでは約3．5mL)。
2)．2回目以降
2回目以降の注入は，2時間ごとに希釈液3～4mL(750～1000μ

2 個々の器官系用医薬品

g)を反復投与。初回投与による子宮収縮等の反応が強すぎる時は，次回量を2mL(500μg)に減量又は4時間後に投与。
3). 投与は2時間間隔で行うが，本剤の効果，その他の反応を観察し適宜投与量及び投与間隔を1～4時間の間で調節。
4). 薬液注入の度に，カテーテルの内腔量を上回る生食を引き続き注入。
妊娠12週未満
胞状奇胎，合併症で全身麻酔が困難な症例，頸管拡張の困難な症例又はその場合の除去術の前処置に使用。アトロピン硫酸塩水和物，鎮痛剤の投与後，前麻酔効果があらわれてから行う。
(1). チューブ挿入
F4～5号の合成樹脂製の細いチューブを用い，使用前にチューブ内腔に生食を満たす。チューブを鉗子ではさみ，外子宮口より子宮腔内にゆっくり約7cm位まで挿入。直視下で薬液の注入を行う以外は，チューブの排出を防ぐためチューブをとりかこむようにガーゼを腟腔内につめる。注射器をチューブに接続し，また，チューブを大腿部内側にテープで固定。
(2). 薬液注入
1). 分割注入法
妊娠12週以降の場合に準じ，本剤1mLに生食を加え4mLに希釈した液を用い分割注入。
・初回量 希釈液1mL(ジノプロスト 250μg／mL)を注入し，薬液がチューブ内に残らないようチューブ内腔量を上回る生食を注入。
・2回目以降 1時間ごと希釈液3～4mL(750～1000μg)を反復投与。初回投与による子宮収縮等の反応が強すぎれば，次回量を2mL(500μg)に減量又は投与間隔を遅らせる。
・総量3000μg，1時間間隔で行うが，本剤の効果，その他の反応を観察し適宜投与量と投与間隔を調節。
・薬液注入の度にチューブの内腔量を上回る生食を引き続き注入。
2). 一回注入法
・1回2000～3000μg(2～3mL)をゆっくり注入(ジノプロスト 1000μg／mL含有注射剤を希釈しない)。適宜増減。
・注入後チューブの内腔量を上回る生食を引き続き注入。チューブは薬液注入が終了後，抜きとる。
注意
妊娠末期の陣痛誘発，陣痛促進，分娩促進
1. 精密持続点滴装置を用いる。
治療的流産
2. 妊娠12週未満の投与は，子宮内容物の完全な排出に至らない時又は総量3000μgを投与しても効果なければ，直ちに器械的子宮内容物除去術に切りかえる。

■禁忌

【禁忌】効能共通
1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 気管支喘息・その既往。
妊娠末期の陣痛誘発，陣痛促進，分娩促進
3. 骨盤狭窄，児頭骨盤不均衡，骨盤位，横位等の胎位異常。
4. 前置胎盤。
5. 常位胎盤早期剥離(胎児生存時)。
6. 重度胎児機能不全。
7. 過強陣痛。
8. 帝王切開・子宮切開等の既往。
9. オキシトシン，ジノプロストンの投与患者。
10. プラステロン硫酸(レボスパ)を投与中・投与後十分な時間が経過していない患者。
11. 吸湿性頸管拡張材(ラミナリア等)を挿入中・メトロイリンテル挿入後1時間以上経過していない患者。
12. ジノプロストンの投与終了後1時間以上経過していない患者。
腸管蠕動亢進
13. 妊娠・妊娠の可能性。
治療的流産
14. 前置胎盤，子宮外妊娠等で，操作により出血の危険性のある患者。
15. 骨盤内感染による発熱。

■副作用

【副作用】重大な副作用
効能共通
1. 心室細動，心停止，ショック(各頻度不明)。
2. 呼吸困難(頻度不明)，喘鳴等。
妊娠末期の陣痛誘発・陣痛促進・分娩促進
3. 過強陣痛(0．7%)，子宮破裂，頸管裂傷。
4. 胎児機能不全徴候(児切迫仮死徴候(2．0%)，徐脈(2．0%)，頻脈(2．6%))，羊水の混濁(2．0%)。
その他の副作用(発現時中止等)(妊娠末期の陣痛誘発・陣痛促進・分娩促進)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
循環器 顔面潮紅 頻脈，血圧上昇，血圧下降，動悸
消化器 嘔気・嘔吐 下痢
注射部 血管痛，静脈炎，発赤
その他 頭痛・頭重，発汗，悪寒，発熱，手指のしびれ
(表終了)
その他の副作用(発現時中止等)(腸管蠕動亢進)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
循環器 心悸亢進，顔面潮紅 血圧上昇，血圧下降，胸内苦悶，不整脈 頻脈
過敏症 発疹等
消化器 嘔気(15．4%)，腹痛(9．4%)，腹部膨満感 嘔吐，下痢 腹部不快感，鼓腸
注射部 血管痛 静脈炎，発赤
その他 口渇，頭痛 発汗，冷汗 しびれ感，発熱
(表終了)
その他の副作用(発現時中止等)(治療的流産)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
循環器 顔面潮紅 血圧上昇，血圧下降，動悸 胸内苦悶，四肢冷感
消化器 嘔気・嘔吐(32．1%) 下痢
皮膚 発疹
その他 頭痛・頭重，発熱 全身倦怠感，耳鳴
(表終了)

ゾラデックス1．8mgデポ（1．8mg1筒(ゴセレリンとして)）

内 注射 流通
劇

【YJコード】2499406G2021
【薬効分類】2．4．9 その他のホルモン剤(抗ホルモン剤を含む。)
【一般名】ゴセレリン酢酸塩
【メーカー】製)アストラゼネカ 販)キッセイ薬品工業
【薬価】19640円/1筒
【薬価収載日】2000/08/25
【標榜薬効】GnRHアゴニスト

■効能効果・用法用量

【効能効果】子宮内膜症
【用法用量】成人 1回1筒(ゴセレリン 1．8mg含有) 4週(28日)ごとに 前腹部 皮下注。
初回 必ず月経中に行う。
注意
1. 妊娠していないことを確認，初回投与は月経中に行う。治療期間中はホルモン剤以外の避妊法で避妊。
2. 6ヵ月投与で，エストロゲン低下作用で骨塩量の低下あり。6ヵ月を超える使用経験，治療再開に伴う再投与の使用経験ないため，長期投与又は再投与時は，有益性が骨塩量低下の危険性を上回る場合のみ。骨塩量の検査を実施。
3. 4週間持続の徐放性製剤であり，4週を超える間隔で投与すると下垂体一性腺系刺激作用で血清エストロゲン濃度が再度上昇し，臨床所見の一過性な悪化のおそれ，4週に1回の用法を遵守。

■禁忌

【禁忌】1. 診断未確定の異常性器出血。
2. 妊婦・妊娠の可能性。
3. 授乳婦。
4. 本剤の成分・LH－RH作動薬に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. アナフィラキシー(頻度不明)等の過敏症状。
2. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTP上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
3. 血栓塞栓症(頻度不明)(心筋梗塞，脳梗塞，静脈血栓症，肺塞栓症等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
内分泌 ほてり(64．3%) 乳房緊満感，腟乾燥感 性欲減退 性器出血
肝臓 AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇，LDH上昇
皮膚 発疹，蕁麻疹，皮膚乾燥，ざ瘡，脱毛
精神神経系 頭痛 眩暈，不眠，しびれ感 不安 いらいら感，抑うつ，幻覚，妄想
循環器 冷感 心悸亢進，高血圧，低血圧等の血圧の変動
消化器 嘔気 嘔吐
筋・骨格系 肩こり(25．4%) 関節痛，腰痛 血清カルシウム値上昇，血清リン上昇 骨塩量の低下
血液 血小板減少
注射部位 出血，血腫，膿瘍，硬結，疼痛等の注射部位反応
その他 倦怠感，浮腫，発汗 トリグリセライド上昇，コレステロール上昇，更年期様症状，活性化部分トロンボプラスチン時間延長，卵巣嚢胞，下垂体卒中，下垂体腺腫，体重増加
(表終了)

ゾラデックスLA10．8mgデポ（10．8mg1筒(ゴセレリンとして)）

内 注射 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2499406G3028
【薬効分類】2．4．9 その他のホルモン剤(抗ホルモン剤を含む。)
【一般名】ゴセレリン酢酸塩
【メーカー】製)アストラゼネカ

2 個々の器官系用医薬品

【薬価】34937円/1筒
【薬価収載日】2002/04/26
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】LH－RHアゴニスト
【区分】抗がん剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】前立腺癌，閉経前乳癌
注意
閉経前乳癌 ホルモン受容体の発現の有無を確認し，陰性の時は使用しない。
【用法用量】成人　1回1筒(ゴセレリン　10．8mg含有)　12～13週ごとに　前腹部　皮下注。

■禁忌
【禁忌】1．妊婦・妊娠の可能性。
2．授乳婦。
3．本剤の成分・LH－RH作動薬に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
効能共通
1．アナフィラキシー(頻度不明)等の過敏症状。
2．間質性肺炎(頻度不明)。
3．肝機能障害(AST，ALT，γ－GTP上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
4．血栓塞栓症(頻度不明)(心筋梗塞，脳梗塞，静脈血栓症，肺塞栓症等)。
前立腺癌
5．前立腺癌随伴症状の増悪(頻度不明)(骨性疼痛，尿路閉塞，排尿困難，脊髄圧迫等)。
6．糖尿病の発症・増悪(頻度不明)。
7．心不全(頻度不明)。
閉経前乳癌
8．高カルシウム血症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)(前立腺癌)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
循環器　血圧の変動(高血圧，低血圧等)
皮膚 掻痒感 発疹 脱毛
内分泌 勃起力低下，性欲減退　乳房腫脹，乳房圧痛
泌尿器 排尿困難 BUN上昇，クレアチニン上昇，蛋白尿
肝臓 AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇　AI－P上昇，LDH上昇
精神神経系　感覚異常(しびれ等)，幻覚，妄想，気分変調(抑うつ等)
消化器　悪心，嘔吐
筋・骨格系　骨性疼痛，関節痛，骨塩量の低下
血液 貧血　白血球減少，血小板減少
注射部位　注射部位反応(出血，血腫，膿瘍，硬結，疼痛等)
その他 体のほてり(20．0%)，トリグリセライド上昇，発汗，コレステロール上昇 食欲不振，浮腫 倦怠感，顔面潮紅，発熱，体重増加，鼻出血，血糖値上昇，下垂体卒中，下垂体腺腫
(表終了)
その他の副作用(発現時中止等)(閉経前乳癌)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
循環器　血圧の変動(高血圧，低血圧等)
皮膚　蕁麻疹，掻痒感，脱毛 ざ瘡
内分泌 ほてり(38．7%)，月経回復遅延 白帯下，性器出血，膣乾燥感 乳房緊満，性欲減退
肝臓　ALT上昇 AST上昇，AI－P上昇，LDH上昇，γ－GTP上昇
精神神経系 頭痛 眩暈，気分変調(抑うつ等)，頭重感，不眠，感覚異常(しびれ等) いらいら感，幻覚，妄想
消化器　悪心 嘔吐
筋・骨格系 関節痛 骨塩量の低下，骨痛
血液　白血球減少，血小板減少 貧血
注射部位　注射部位反応(出血，血腫，膿瘍，硬結，疼痛等)
その他 発汗 更年期様症状(肩こり，食欲不振等)，浮腫，体重増加，トリグリセライド上昇，コレステロール上昇 発熱，倦怠感，鼻出血，卵巣嚢胞，下垂体卒中，下垂体腺腫
(表終了)

デュタステリドカプセル0．5mgAV「サワイ」(0．5mg1カプセル)

両　内服　後発　流通
劇

【YJコード】2499011M1094
【薬効分類】2．4．9　その他のホルモン剤(抗ホルモン剤を含む。)
【一般名】デュタステリド
【先発品】アボルブカプセル0．5mg
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】26.8円/1C
【薬価収載日】2020/06/19
【標榜薬効】前立腺肥大症治療薬
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】前立腺肥大症
注意
前立腺が肥大していない患者への有効性・安全性は未確認。
【用法用量】成人　1回0．5mg　1日1回　内服。
注意
投与開始初期に改善が認められる場合もあるが，治療効果の評価には，6ヵ月間の治療が必要。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分・他の5α還元酵素阻害薬に過敏症の既往。
2．女性。
3．小児等。
4．重度の肝機能障害。

■副作用
【副作用】重大な副作用
肝機能障害(1．5%)(AST，ALT，ビリルビンの上昇等)，黄疸(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
過敏症　蕁麻疹 アレルギー反応，発疹，掻痒症，限局性浮腫，血管性浮腫
精神神経系 リビドー減退 浮動性眩暈 抑うつ気分，味覚異常
生殖系・乳房障害 勃起不全，乳房障害(女性化乳房，乳頭痛，乳房痛，乳房不快感) 射精障害 精巣痛，精巣腫脹
皮膚　脱毛症(主に体毛脱落)，多毛症
消化器　腹部不快感 下痢
その他　倦怠感 血中CK増加
(表終了)

トルリシティ皮下注0．75mgアテオス（0．75mg0．5mL1キット）

両　注射　自注　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】2499416G1029
【薬効分類】2．4．9　その他のホルモン剤(抗ホルモン剤を含む。)
【一般名】デュラグルチド(遺伝子組換え)
【メーカー】製)日本イーライリー　販)住友ファーマ
【薬価】2749円/1kit
【薬価収載日】2015/08/31
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】持続性GLP－1受容体作動薬
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】2型糖尿病
注意
食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
【用法用量】成人　1回0．75mg　週1回，皮下注。状態により1回1．5mg　週1回まで。
注意
1．本剤は週1回投与する薬剤，同一曜日に投与。
2．忘れた時は，次回投与まで3日間(72時間)以上であれば，気付いた時点で直ちに投与し，その後は予定曜日に投与。次回投与まで3日間(72時間)未満であれば投与せず，次の予定曜日に投与。週1回投与の曜日を変更する必要がある時は，前回投与から最低3日間(72時間)以上間隔をあける。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．糖尿病性ケトアシドーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，1型糖尿病。
3．重症感染症，手術等の緊急時。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．低血糖(頻度不明)，低血糖症状(脱力感，高度の空腹感，冷汗，顔面蒼白，動悸，振戦，頭痛，眩暈，嘔気，知覚異常等)。
重篤な低血糖症状，意識消失(DPP－4阻害剤)。
2．アナフィラキシー，血管浮腫(各頻度不明)(蕁麻疹，口唇腫脹，咽・喉頭浮腫，呼吸困難等)。
3．急性膵炎(0．1%)(嘔吐を伴う持続的な激しい腹痛等)。
4．腸閉塞(頻度不明)(高度の便秘，腹部膨満，持続する腹痛，嘔吐等)。
5．重度の下痢，嘔吐(各頻度不明)，脱水，急性腎障害。
6．胆嚢炎，胆管炎，胆汁うっ滞性黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
循環器　心拍数増加 洞性頻脈，PR間隔延長／第一度房室ブロック
消化器 便秘，悪心，下痢 食欲減退，消化不良，嘔吐，腹部不快感，腹痛，腹部膨満 胃食道逆流性疾患，おくび，胃炎
肝胆道　胆石症

2 個々の器官系用医薬品

眼　糖尿病網膜症
注射部位　注射部位反応(紅斑，炎症，掻痒感，腫脹，発疹等)
過敏症　過敏症反応(浮腫，蕁麻疹等)
その他　疲労
(表終了)

トレシーバ注 フレックスタッチ（300単位1キット）

両　注射　自注　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】2492419G1021
【薬効分類】2．4．9　その他のホルモン剤(抗ホルモン剤を含む。)
【一般名】インスリン　デグルデク(遺伝子組換え)
【メーカー】製)ノボノルディスクファーマ
【薬価】1841円/1kit
【薬価収載日】2013/02/22
【ハイリスク分類】膵臓ホルモン剤
【標榜薬効】持効型溶解インスリンアナログ製剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】インスリン療法が適応となる糖尿病
注意
2型糖尿病には，緊急時以外，食事療法，運動療法を行ったうえで適用を考慮。
【用法用量】成人　初期　1回4～20単位　1日1回　皮下注。
適宜増減。他のインスリン製剤の投与量を含めた維持量　1日4～80単位。
必要時，上記量超えての使用あり。注射時刻は定刻，必要時は注射時刻を変更できる。
小児　1日1回　定刻に　皮下注。
適宜増減。他のインスリン製剤の投与量を含めた維持量　1日0．5～1．5単位／kg。
必要時，上記量超えての使用あり。
注意
1．作用持続時間や病状に注意し，製剤的特徴に適する時に投与。
2．成人では，注射時刻は定刻とするが，通常の注射時刻から変更時は，血糖値の変動に注意しながら前後8時間以内に変更し，以後は通常の注射時刻に戻すよう指導。変更に際して投与間隔が短くなる時は低血糖の発現に注意するよう指導。
3．投与を忘れた時は，気づいた時点で直ちに投与できるが，その次は8時間以上あけ，以後定刻に投与するよう指導。
4．糖尿病性昏睡，急性感染症，手術等緊急時は，本剤のみの処置は適当でなく，速効型インスリン製剤を使用。
5．中間型又は持効型インスリン製剤から本剤に変更時
下記を参考に投与を開始し，適宜増減等，作用特性を考慮し慎重に行う。
(1)．成人では，Basalインスリン製剤，Basal－Bolus療法，混合製剤による治療から本剤に切りかえ時，前治療で使用のBasalインスリンと同じ単位数から開始し，以後血糖コントロールに基づき調整。Basal－Bolus療法による治療で，1日2回投与のBasalインスリン製剤から本剤に切りかえ時，減量が必要な場合あり。
(2)．小児では，Basalインスリン製剤，Basal－Bolus療法，持続皮下インスリン注入療法，混合製剤による治療から本剤に切りかえ時，前治療で使用のBasalインスリン相当量を目安とするが，低血糖リスクを回避するため減量を考慮。以後血糖コントロールに基づき調整。
6．インスリン以外の糖尿病用薬から切りかえ時又はインスリン以外の糖尿病用薬と併用時は，低用量から開始等，本剤の作用特性を考慮。
7．小児では，インスリン治療開始時の初期量は，状態により個別に決定。
8．開始時及び数週間は血糖コントロールをモニタリング。併用する超速効型，速効型インスリン，他の糖尿病用薬の用量や投与スケジュールの調整が必要。

■禁忌

【禁忌】1．低血糖症状。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低血糖(頻度不明)(脱力感，倦怠感，高度の空腹感，冷汗，顔面蒼白，動悸，振戦，頭痛，眩暈，嘔気，視覚異常，不安，興奮，神経過敏，集中力低下，精神障害，痙攣，意識障害(意識混濁，昏睡)等)，低血糖昏睡等重篤な転帰(中枢神経系の不可逆的障害，死亡等)。
2．アナフィラキシーショック(頻度不明)(呼吸困難，血圧低下，頻脈，発汗，全身の発疹，血管神経性浮腫等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．3～5%未満 頻度不明
過敏症　アレルギー，蕁麻疹，掻痒感
肝臓　肝機能異常(AST，ALTの上昇等)
神経系 頭痛，眩暈
眼 糖尿病網膜症の顕在化・増悪
注射部位 注射部位反応(疼痛，血腫，結節，熱感等)，リポジストロフィー(皮下脂肪の萎縮・肥厚等) 皮膚アミロイドーシス
その他 血中ケトン体増加，体重増加 浮腫，抗インスリン抗体産生に伴う血糖コントロール不良
(表終了)

ノボラピッド30ミックス注 フレックスペン（300単位1キット）

両　注射　自注　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】2492415G2020
【薬効分類】2．4．9　その他のホルモン剤(抗ホルモン剤を含む。)
【一般名】インスリン　アスパルト(遺伝子組換え)
【メーカー】製)ノボノルディスクファーマ
【薬価】1445円/1kit
【薬価収載日】2003/12/19
【ハイリスク分類】膵臓ホルモン剤
【標榜薬効】二相性プロタミン結晶性インスリンアナログ製剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】インスリン療法が適応となる糖尿病
注意
2型糖尿病には，緊急時以外，食事療法，運動療法を行ったうえで適用を考慮。
【用法用量】超速効型インスリンアナログと中間型インスリンアナログを3 7で含有する混合製剤。
成人　初期　1回4～20単位　1日2回　朝・夕食直前　皮下注。1日1回投与時は　朝食直前　皮下注。
適宜増減，維持量　1日4～80単位。
注意
1．ヒト二相性イソフェンインスリン水性懸濁注射液より作用発現が速いため，食直前に投与。
2．作用時間，1mLあたりのインスリン　アスパルト含有単位と病状に注意し，製剤的特徴に適する場合に投与。
3．他のインスリン製剤から本剤への変更で，インスリン用量の変更が必要になる可能性。用量の調整には，初回の投与から数週間又は数ヵ月間必要。
4．糖尿病性昏睡，急性感染症，手術等緊急の場合は，本剤のみの処置は適当でなく，速効型ヒトインスリン製剤を使用。

■禁忌

【禁忌】1．低血糖症状。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低血糖(頻度不明)(脱力感，倦怠感，高度の空腹感，冷汗，顔面蒼白，動悸，振戦，頭痛，眩暈，嘔気，視覚異常，不安，興奮，神経過敏，集中力低下，精神障害，痙攣，意識障害(意識混濁，昏睡)等)，低血糖昏睡等重篤な転帰(中枢神経系の不可逆的障害，死亡等)。
2．アナフィラキシーショック(頻度不明)(呼吸困難，血圧低下，頻脈，発汗，全身の発疹，血管神経性浮腫等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 アレルギー 発疹，蕁麻疹 血圧降下，掻痒感
肝臓　肝機能障害
消化器　食欲不振，嘔気 嘔吐，腹痛
神経系　治療後神経障害(主に有痛性)
眼　糖尿病網膜症の顕在化・増悪，屈折異常，白内障
注射部位　リポジストロフィー(皮下脂肪の萎縮・肥厚等) 注射部位反応(疼痛，発赤，腫脹，硬結，発疹，掻痒感等)，皮膚アミロイドーシス
呼吸器系　呼吸困難
血液　血小板減少
その他 頭痛，体重増加 倦怠感，多汗，眩暈，振戦，空腹感，浮腫 発熱，抗インスリン抗体産生に伴う血糖コントロール不良
(表終了)

ノボラピッド注 フレックスペン（300単位1キット）

両　注射　自注　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】2492415G1031
【薬効分類】2．4．9　その他のホルモン剤(抗ホルモン剤を含む。)
【一般名】インスリン　アスパルト(遺伝子組換え)
【メーカー】製)ノボノルディスクファーマ
【薬価】1293円/1kit
【薬価収載日】2008/12/19
【ハイリスク分類】膵臓ホルモン剤
【標榜薬効】超速効型インスリンアナログ製剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】インスリン療法が適応となる糖尿病

2 個々の器官系用医薬品

注意
2型糖尿病には，緊急時以外，食事療法，運動療法を行ったうえで適用を考慮。
【用法用量】持続型インスリン製剤と併用する超速効型インスリンアナログ製剤。
成人　初期　1回2～20単位　食直前　皮下注。
適宜増減，持続型インスリン製剤の投与量を含めた維持量　1日4～100単位。
注意
1. 速効型ヒトインスリン製剤より作用発現が速いため，食直前に投与。
2. 本剤の作用時間，1mLあたりのインスリン　アスパルト含有単位と病状に注意し，製剤的特徴に適する場合に投与。
3. 他のインスリン製剤から本剤への変更で，インスリン用量の変更が必要になる可能性。用量の調整には，初回の投与から数週間又は数ヵ月間必要。

■禁忌
【禁忌】1. 低血糖症状。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 低血糖（頻度不明）（脱力感，倦怠感，高度の空腹感，冷汗，顔面蒼白，動悸，振戦，頭痛，眩暈，嘔気，視覚異常，不安，興奮，神経過敏，集中力低下，精神障害，痙攣，意識障害（意識混濁，昏睡）等），低血糖昏睡等重篤な転帰（中枢神経系の不可逆的障害，死亡等）。
2. アナフィラキシーショック（頻度不明）（呼吸困難，血圧低下，頻脈，発汗，全身の発疹，血管神経性浮腫等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症　アレルギー，発疹，掻痒感 血圧降下，蕁麻疹
肝臓　肝機能障害
消化器　食欲不振，嘔気，腹痛 嘔吐
神経系　治療後神経障害（主に有痛性）
眼　糖尿病網膜症の顕在化・増悪 屈折異常，白内障
注射部位　注射部位反応（疼痛，発赤，腫脹，硬結，発疹，掻痒感等），リポジストロフィー（皮下脂肪の萎縮・肥厚等），皮膚アミロイドーシス
呼吸器系　呼吸困難
血液　血小板減少
その他 倦怠感，多汗，眩暈，振戦 空腹感，体重増加 発熱，頭痛，浮腫，抗インスリン抗体産生に伴う血糖コントロール不良
（表終了）

ノボリンN注フレックスペン（300単位1キット）

両　注射　自注　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】2492413G1059
【薬効分類】2. 4. 9　その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】インスリン　ヒト（遺伝子組換え）
【メーカー】製)ノボノルディスクファーマ
【薬価】1297円/1kit
【薬価収載日】2003/07/04
【ハイリスク分類】膵臓ホルモン剤
【標榜薬効】インスリン製剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】インスリン療法が適応となる糖尿病
注意
2型糖尿病には，緊急時以外，食事療法，運動療法を行ったうえで適用を考慮。
【用法用量】成人　初期　1回4～20単位　朝食前30分以内　皮下注。
ときに回数を増やしたり，他のインスリン製剤を併用。
以後，適宜増減，維持量　1日4～80単位。
必要時，上記量超えての使用あり。
注意
1. 作用時間，1mLあたりのインスリン含有単位と病状に注意し，製剤的特徴に適する場合に投与。
2. 他のインスリン製剤から本剤への変更で，インスリン用量の変更が必要になる可能性。用量の調整には，初回の投与から数週間又は数ヵ月間必要。
3. 糖尿病性昏睡，急性感染症，手術等緊急時は，本剤のみの処置は適当でなく，速効型インスリン製剤を使用。

■禁忌
【禁忌】1. 低血糖症状。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 低血糖（頻度不明）（脱力感，倦怠感，高度の空腹感，冷汗，顔面蒼白，動悸，振戦，頭痛，眩暈，嘔気，視覚異常，不安，興奮，神経過敏，集中力低下，精神障害，痙攣，意識障害（意識混濁，昏睡）等），低血糖昏睡等重篤な転帰（中枢神経系の不可逆的障害，死亡等）。
2. アナフィラキシーショック（0. 1%未満）（呼吸困難，血圧低下，頻脈，発汗，全身の発疹，血管神経性浮腫等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症　アレルギー，蕁麻疹，発疹，掻痒感 血圧降下
肝臓　肝機能障害
消化器　食欲不振 嘔気
神経系　治療後神経障害（主に有痛性）
眼　糖尿病網膜症の顕在化・増悪，屈折異常
注射部位 疼痛，発赤，腫脹，硬結，リポジストロフィー（皮下脂肪の萎縮・肥厚等）発疹 皮膚アミロイドーシス
その他　浮腫，発熱，抗インスリン抗体産生に伴う血糖コントロール不良
（表終了）

ノボリンR注フレックスペン（300単位1キット）

両　注射　自注　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】2492413G8053
【薬効分類】2. 4. 9　その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】インスリン　ヒト（遺伝子組換え）
【メーカー】製)ノボノルディスクファーマ
【薬価】1167円/1kit
【薬価収載日】2003/07/04
【ハイリスク分類】膵臓ホルモン剤
【標榜薬効】インスリン製剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】インスリン療法が適応となる糖尿病
注意
2型糖尿病には，緊急時以外，食事療法，運動療法を行ったうえで適用を考慮。
【用法用量】持続型インスリン製剤と併用する速効型インスリン製剤。
成人　2～20単位　毎食前　皮下注。
適宜増減，持続型インスリン製剤の投与量を含めた維持量　1日4～100単位。
注意
1. 作用時間，1mLあたりのインスリン含有単位と病状に注意し，製剤的特徴に適する場合に投与。
2. 他のインスリン製剤から本剤への変更で，インスリン用量の変更が必要になる可能性。用量の調整には，初回の投与から数週間又は数ヵ月間必要。

■禁忌
【禁忌】1. 低血糖症状。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 低血糖（頻度不明）（脱力感，倦怠感，高度の空腹感，冷汗，顔面蒼白，動悸，振戦，頭痛，眩暈，嘔気，視覚異常，不安，興奮，神経過敏，集中力低下，精神障害，痙攣，意識障害（意識混濁，昏睡）等），低血糖昏睡等重篤な転帰（中枢神経系の不可逆的障害，死亡等）。
2. アナフィラキシーショック（0. 1%未満）（呼吸困難，血圧低下，頻脈，発汗，全身の発疹，血管神経性浮腫等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症　アレルギー，蕁麻疹，発疹，掻痒感 血圧降下
肝臓　肝機能障害
消化器　食欲不振 嘔気
神経系　治療後神経障害（主に有痛性）
眼　糖尿病網膜症の顕在化・増悪，屈折異常
注射部位 疼痛，発赤，腫脹，硬結，リポジストロフィー（皮下脂肪の萎縮・肥厚等）発疹 皮膚アミロイドーシス
その他　浮腫，発熱，抗インスリン抗体産生に伴う血糖コントロール不良
（表終了）

ビクトーザ皮下注18mg（18mg3mL1キット）

両　注射　自注　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】2499410G1021
【薬効分類】2. 4. 9　その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】リラグルチド（遺伝子組換え）
【メーカー】製)ノボノルディスクファーマ

2 個々の器官系用医薬品

【薬価】8434円/1kit
【薬価収載日】2010/06/11
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】ヒトGLP－1アナログ製剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】2型糖尿病
注意
食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
【用法用量】成人　維持量　リラグルチド（遺伝子組換え）　1回0．9mg　1日1回　朝又は夕　皮下注。1回0．3mg　1日1回から開始　1週間以上の間隔で0．3mgずつ増量。適宜増減，1日0．9mgで効果不十分時1週間以上の間隔で0．3mgずつ増量　1．8mgまで。
注意
1．1日1回朝又は夕に投与するが，同じ時刻に行う。
2．胃腸障害の発現を軽減するため，低用量より開始し，用量の漸増を行う。
良好な忍容性が得られない時は，減量を考慮。さらに症状が持続する時は，休薬を考慮。1～2日間の減量・休薬で症状が消失すれば，減量・休薬前の用量を再開。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．糖尿病性ケトアシドーシス，糖尿病性昏睡，1型糖尿病。
3．重症感染症，手術等の緊急時。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．低血糖（頻度不明）（脱力感，倦怠感，高度の空腹感，冷汗，顔面蒼白，動悸，振戦，頭痛，眩暈，嘔気，知覚異常等），重篤な低血糖症状，意識消失。
2．膵炎（頻度不明）（嘔吐を伴う持続的な激しい腹痛等）。
壊死性膵炎（外国）。
3．腸閉塞（頻度不明）（高度の便秘，腹部膨満，持続する腹痛，嘔吐等）。
4．胆嚢炎，胆管炎，胆汁うっ滞性黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 0．2～1%未満 頻度不明
感染症　胃腸炎
血液・リンパ系障害　貧血
内分泌障害　甲状腺腫瘤
代謝・栄養障害　食欲減退 高脂血症 脱水
神経系障害　頭痛，浮動性眩暈，感覚鈍麻，味覚異常
眼障害　糖尿病性網膜症
心臓障害　心室性期外収縮 心拍数増加
血管障害　高血圧
呼吸器，胸郭・縦隔障害　咳嗽
胃腸障害 便秘，悪心 下痢，腹部不快感，消化不良，腹部膨満，嘔吐，腹痛 胃食道逆流性疾患，胃炎，おくび 鼓腸，胃排出遅延
肝胆道系障害　肝機能異常 胆石症
皮膚・皮下組織障害　蕁麻疹，掻痒症，紅斑，湿疹，発疹 皮膚アミロイドーシス
全身障害・投与部位状態　注射部位反応（紅斑，発疹，内出血，疼痛等）倦怠感，胸痛
臨床検査　膵酵素（リパーゼ，アミラーゼ等）増加 ALT増加，AST増加，体重減少
（表終了）

ヒューマリンR注100単位／mL（100単位1mLバイアル）

両　注射　自注　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】2492403A4051
【薬効分類】2．4．9　その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】インスリン　ヒト（遺伝子組換え）
【メーカー】製）日本イーライリリー
【薬価】232円/1mLバイアル
【薬価収載日】2008/12/19
【ハイリスク分類】膵臓ホルモン剤
【標榜薬効】抗糖尿病剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】インスリン療法が適応となる糖尿病
注意
2型糖尿病には，緊急時以外，食事療法，運動療法を行ったうえで適用を考慮。
【用法用量】成人　初期　1回4～20単位　毎食前　皮下注。ときに回数を増やしたり，他のインスリン製剤を併用。
以後，適宜増減，維持量　1日4～100単位。
必要時，上記量超えての使用あり。
糖尿病昏睡 必要時　皮下注・筋注・静注・持続静注。
注意
1．作用時間，1mLあたりのインスリン含有単位と病状に注意し，製剤的特徴に適する場合に投与。
2．他のインスリン製剤から本剤への変更で，インスリン用量の変更が必要になる可能性。用量の調整には，初回の投与から数週間又は数ヵ月間必要。

■禁忌
【禁忌】1．低血糖症状。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．低血糖（頻度不明）（脱力感，倦怠感，高度の空腹感，冷汗，顔面蒼白，動悸，振戦，頭痛，眩暈，嘔気，視覚異常，不安，興奮，神経過敏，集中力低下，精神障害，痙攣，意識障害（意識混濁，昏睡）等），低血糖昏睡等重篤な転帰（中枢神経系の不可逆的障害，死亡等）。
2．アナフィラキシーショック（0．1%未満）（呼吸困難，血圧低下，頻脈，発汗，全身の発疹等），血管神経性浮腫（頻度不明）等。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症　アレルギー，蕁麻疹，発疹，掻痒感
神経系　治療後神経障害（主に有痛性）
眼　糖尿病網膜症の顕在化・増悪，屈折異常
注射部位 発赤，掻痒感 疼痛，腫脹，硬結，リポジストロフィー（皮下脂肪の萎縮・肥厚等）皮膚アミロイドーシス
肝臓　肝機能異常
その他　浮腫
（表終了）

ヒューマログミックス50注ミリオペン（300単位1キット）

両　注射　自注　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】2492414G7027
【薬効分類】2．4．9　その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】インスリン　リスプロ（遺伝子組換え）
【メーカー】製）日本イーライリリー
【薬価】1190円/1kit
【薬価収載日】2008/06/20
【ハイリスク分類】膵臓ホルモン剤
【標榜薬効】抗糖尿病剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】インスリン療法が適応となる糖尿病
注意
2型糖尿病には，緊急時以外，食事療法，運動療法を行ったうえで適用を考慮。
【用法用量】超速効型インスリンアナログであるインスリンリスプロと中間型インスリンリスプロを50 50で含有する混合製剤。
成人　1回4～20単位　1日2回　朝・夕食直前　皮下注。投与回数を増減時　食直前に投与。1日1回投与時は　朝食直前　皮下注。
適宜増減，維持量　1日4～80単位。
注意
超速効型のインスリンリスプロの速やかな効果発現と，中間型インスリンリスプロの持続作用が保持されている。インスリンリスプロの超速効作用のために，速効型インスリン含む混合製剤（食事の30分前に投与）と異なり食直前（15分以内）に投与。
＜投与時間＞
（表開始）
食前
本剤 15分以内
速効型インスリン含む混合製剤 30分前
（表終了）
他のインスリン製剤から本剤に変更時も，その作用特性や薬物動態を考慮し，必要時投与量を増減する等，慎重に行う。用量の調整には，初回の投与から数週間又は数ヵ月間必要。
臨床試験で切り替え時に一過性の低血糖の増加あり。
糖尿病性昏睡，急性感染症，手術等緊急時，本剤のみの処置は適当でなく，速効型インスリン製剤を使用。

■禁忌
【禁忌】1．低血糖症状。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．低血糖（頻度不明）（脱力感，倦怠感，高度の空腹感，冷汗，顔面蒼白，動悸，振戦，頭痛，眩暈，嘔気，視覚異常，不安，興奮，神経過敏，集中力低下，精神障害，痙攣，意識障害（意識混濁，昏睡）等），低血糖昏睡等重篤な転帰（中枢神経系の不可逆的障害，死亡等）。
2．アナフィラキシーショック（呼吸困難，血圧低下，頻脈，発汗，全身の発疹等），血管神経性浮腫（頻度不明）等。
その他の副作用（発現時中止等）

2 個々の器官系用医薬品

（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 アレルギー，発疹，掻痒感，蕁麻疹
代謝異常 高血糖，血糖値上昇
神経系 治療後神経障害（主に有痛性）
眼 糖尿病網膜症の顕在化・増悪，屈折異常
注射部位 局所反応（腫脹，掻痒感，疼痛，硬結，発赤等），リポディストロフィー（皮下脂肪の萎縮・肥厚等），皮膚アミロイドーシス
肝臓 肝機能異常
その他 浮腫
（表終了）

ライゾデグ配合注 フレックスタッチ（300単位1キット）

両 注射 自注 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2492500G1025
【薬効分類】2．4．9 その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】インスリン デグルデク（遺伝子組換え）・インスリン アスパルト（遺伝子組換え）配合剤
【メーカー】製)ノボノルディスクファーマ
【薬価】1670円/1kit
【薬価収載日】2015/11/26
【ハイリスク分類】膵臓ホルモン剤
【標榜薬効】溶解インスリンアナログ製剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】インスリン療法が適応となる糖尿病
注意
2型糖尿病には，緊急時以外，食事療法，運動療法を行ったうえで適用を考慮。
【用法用量】超速効型インスリン（インスリン アスパルト）と持効型インスリン（インスリン デグルデク）を3 7のモル比で含有する溶解インスリン製剤。
成人 初期 1回4～20単位 1日1～2回 皮下注。1日1回投与時主たる食直前に投与し毎日一定とする。1日2回投与時 朝・夕食直前投与。
適宜増減，維持量 1日4～80単位。必要時，上記量超えての使用あり。
注意
1．作用発現が速いため，食直前に投与。
2．本剤の作用時間，病状に注意。他のインスリン製剤と同様に，製剤的特徴に適する場合に投与。
3．1日1回投与時は，朝食，昼食，夕食のうち主たる食直前に投与。いずれの食直前に投与するかは毎日一定とする。
4．インスリン依存状態（1型糖尿病等）には，他のインスリン製剤と併用して本剤は1日1回投与。
5．糖尿病性昏睡，急性感染症，手術等緊急時は，本剤のみの処置は適当でなく，速効型インスリン製剤を使用。
6．1日1回又は1日2回投与の中間型又は持効型インスリン製剤あるいは混合製剤によるインスリン治療から本剤に変更時，状態に応じて用量を決定等，慎重投与。目安として1日量は前治療のインスリン製剤の1日量と同単位で投与を開始し，適宜増減等，作用特性を考慮。
7．インスリン以外の糖尿病用薬から切りかえ時又はインスリン以外の糖尿病用薬と併用時は，低用量から開始等，本剤の作用特性を考慮。
8．開始時及び数週間は血糖コントロールをモニタリング。併用する他の糖尿病用薬の投与量や投与スケジュールの調整が必要となることがある。

■禁忌

【禁忌】1．低血糖症状。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低血糖（頻度不明）（脱力感，倦怠感，高度の空腹感，冷汗，顔面蒼白，動悸，振戦，頭痛，眩暈，嘔気，視覚異常，不安，興奮，神経過敏，集中力低下，精神障害，痙攣，意識障害（意識混濁，昏睡）等），低血糖昏睡等重篤な転帰（中枢神経系の不可逆的障害，死亡等）。
2．アナフィラキシーショック（頻度不明）（呼吸困難，血圧低下，頻脈，発汗，全身の発疹，血管神経性浮腫等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．5～5%未満 頻度不明
過敏症 アレルギー，蕁麻疹，掻痒感，血圧降下，発疹
肝臓 肝機能異常（AST，ALTの上昇等）
消化器 嘔吐，嘔気，腹痛，食欲不振
神経系 頭痛 眩暈，治療後神経障害（主に有痛性）
眼 糖尿病網膜症の顕在化・増悪 屈折異常，白内障
注射部位 注射部位反応（疼痛，掻痒，硬結等）リポジストロフィー（皮下脂肪の萎縮・肥厚等），皮膚アミロイドーシス
呼吸器系 呼吸困難
血液 血小板減少
その他 発熱，浮腫，倦怠感，多汗，振戦，空腹感，体重増加，血中ケトン体増加，抗インスリン抗体産生に伴う血糖コントロール不良
（表終了）

ランタスXR注ソロスター（450単位1キット）

両 注射 自注 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2492416G3020
【薬効分類】2．4．9 その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】インスリン グラルギン（遺伝子組換え）
【メーカー】製)サノフィ
【薬価】1910円/1kit
【薬価収載日】2015/08/31
【ハイリスク分類】膵臓ホルモン剤
【標榜薬効】持効型溶解インスリンアナログ製剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】インスリン療法が適応となる糖尿病
注意
2型糖尿病には，緊急時以外，食事療法，運動療法を行ったうえで適用を考慮。
【用法用量】成人 初期 1回4～20単位 1日1回 定刻に 皮下注。ときに他のインスリン製剤を併用。
適宜増減。他のインスリン製剤の投与量を含めた維持量 1日4～80単位。
必要時，上記量超えての使用あり。
注意
1．作用時間や1mLあたりのインスリン含有単位と病状に注意し，製剤的特徴に適する時に投与。
2．糖尿病性昏睡，急性感染症，手術等緊急時は，本剤のみの処置は適当でなく，速効型インスリン製剤を使用。
3．他の基礎インスリン製剤から本剤に変更時，下記を参考に投与開始し，適宜増減等，本剤の作用特性を考慮。
（1）．インスリン グラルギン100単位／mL製剤から本剤に変更時 初期量は，前治療のインスリン グラルギン100単位／mL製剤の1日量と同単位を目安として投与開始。
（2）．インスリン グラルギン100単位／mL製剤以外の基礎インスリン製剤から本剤に変更時
［1］．1日1回投与の基礎インスリン製剤から本剤に変更時，初期量は，前治療の中間型又は持効型インスリン製剤の1日量と同単位を目安として投与開始。
［2］．1日2回投与の基礎インスリン製剤から本剤に変更時，初期量は，前治療の中間型又は持効型インスリン製剤の1日量の80%を目安として投与開始。
4．併用している速効型インスリン製剤，超速効型インスリンアナログ製剤又は他の糖尿病用薬の投与量・投与スケジュールの調整が必要。
5．インスリン製剤以外の他の糖尿病用薬から本剤に変更時又はインスリン製剤以外の他の糖尿病用薬と本剤を併用時
低用量から開始等，本剤の作用特性を考慮。

■禁忌

【禁忌】1．低血糖症状。
2．本剤の成分・他のインスリン グラルギン製剤に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低血糖（2．1%）（脱力感，倦怠感，高度の空腹感，冷汗，顔面蒼白，動悸，振戦，頭痛，眩暈，嘔気，視覚異常，不安，興奮，神経過敏，集中力低下，精神障害，痙攣，意識障害（意識混濁，昏睡）等），低血糖昏睡等重篤な転帰（中枢神経系の不可逆的障害，死亡等）。
2．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（全身性皮膚反応，血管神経性浮腫，気管支痙攣，低血圧等の異常）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%未満 頻度不明
過敏症 全身性掻痒症 蕁麻疹，発疹，掻痒感
肝臓 脂肪肝 肝機能異常（AST，ALTの上昇等）
精神神経系 不眠症，感覚鈍麻
眼 硝子体出血 糖尿病網膜症の顕在化・増悪
注射部位 注射部位反応，腫脹，出血 発赤，蕁麻疹，炎症，疼痛，掻痒感，浮腫，硬結，リポジストロフィー（皮下脂肪の萎縮・肥厚等），皮膚アミロイドーシス
その他 ナトリウム貯留，浮腫
（表終了）

リュープリンPRO注射用キット22．5mg（22．5mg1筒）

内 注射 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2499407G4029
【薬効分類】2．4．9 その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】リュープロレリン酢酸塩

2 個々の器官系用医薬品

【メーカー】製)武田薬品工業
【薬価】64537円/1筒
【薬価収載日】2015/11/26
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】LH－RH誘導体徐放性製剤
【区分】抗がん剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1. 前立腺癌
2. 閉経前乳癌
注意
効能共通
1. 患者の治療歴等，臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で，適応患者の選択を行う。
閉経前乳癌
2. ホルモン受容体の発現の有無を確認し，陰性の時は使用しない。
【用法用量】成人　1回22．5mg　24週に1回　皮下注。
注射針を上にしてプランジャーロッドを押して，懸濁用液全量を粉末部に移動させて，泡立てないように懸濁し使用。
注意
24週間持続の徐放性製剤であり，24週を超える間隔で投与すると下垂体－性腺系刺激作用で性腺ホルモン濃度が再度上昇し，臨床所見の一過性な悪化のおそれ，24週に1回の用法を遵守。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分・合成LH－RH，LH－RH誘導体に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。
3. 授乳婦。

■副作用

【副作用】重大な副作用
効能共通
1. 間質性肺炎(0．1%未満)(発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等)。
2. アナフィラキシー(0．1%未満)。
3. 肝機能障害(AST，ALTの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
4. 糖尿病の発症・増悪(頻度不明)。
5. 下垂体卒中(頻度不明)(頭痛，視力・視野障害等)。
6. 心筋梗塞，脳梗塞，静脈血栓症，肺塞栓症等の血栓塞栓症(頻度不明)。
前立腺癌
7. うつ状態(0．1%未満)。
8. 骨疼痛の一過性増悪(血清テストステロン濃度の上昇)，尿路閉塞，脊髄圧迫(5%以上)。
9. 心不全(0．1～5%未満)。
閉経前乳癌
10. 更年期障害様のうつ状態(0．1～5%未満)。
その他の副作用(発現時中止等)(前立腺癌)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
肝臓 LDH上昇 黄疸，AST，ALT，γ－GTP，AI－Pの上昇
内分泌系 ほてり，熱感 頭痛，不眠，顔面潮紅，眩暈，発汗，性欲減退，勃起障害，女性化乳房，睾丸萎縮，会陰部不快感
筋・骨格系　関節痛，骨疼痛，肩・腰・四肢等の疼痛，歩行困難，手指等のこわばり 筋肉痛，骨塩量の低下
皮膚　皮膚炎，頭部発毛
泌尿器系　頻尿，血尿，BUNの上昇
循環器　心電図異常，心胸比増大
血液　貧血，血小板減少
消化器　悪心，嘔吐，食欲不振，便秘 下痢
過敏症　発疹，掻痒
投与部位 硬結 疼痛，発赤　膿瘍，腫脹，潰瘍，掻痒，肉芽腫，腫瘤，熱感，壊死等の注射部位反応
その他　浮腫，胸部圧迫感，悪寒，倦怠感，口唇・四肢のしびれ，体重増加，知覚異常，難聴，耳鳴，発熱，総コレステロール上昇，トリグリセライド上昇，尿酸上昇，高カリウム血症，血糖値上昇 脱力感 痙攣
(表終了)
その他の副作用(発現時中止等)(閉経前乳癌)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
低エストロゲン症状 ほてり，熱感，のぼせ，肩こり，頭痛，不眠，眩暈，発汗 性欲減退，冷感，視覚障害，情緒不安定
女性生殖器　不正出血，腟乾燥，性交痛，腟炎，帯下増加，卵巣過剰刺激症状，乳房の疼痛・緊満感・萎縮
筋・骨格系 関節痛，骨疼痛等の疼痛 手指等のこわばり，腰痛，筋肉痛，筋痙攣，骨塩量の低下，血清リン上昇，高カルシウム血症
皮膚　ざ瘡，皮膚乾燥，脱毛，多毛，爪の異常
精神神経系　眠気，いらいら感，記憶力低下，注意力低下，知覚異常
過敏症　発疹，掻痒
肝臓　AST，ALT，AI－P，LDH，γ－GTP，ビリルビンの上昇 黄疸
消化器　悪心，嘔吐，食欲不振，腹痛，腹部膨満感，下痢，便秘，口内炎，口渇
循環器　心悸亢進，血圧上昇
血液　赤血球増多，貧血，白血球減少，血小板減少，部分トロンボプラスチン時間延長
泌尿器系　頻尿，排尿困難，BUNの上昇
投与部位 硬結 疼痛，発赤　膿瘍，腫脹，潰瘍，掻痒，肉芽腫，腫瘤，熱感，壊死等の注射部位反応
その他　疲労，倦怠感，脱力感，口唇・四肢のしびれ，手根管症候群，耳鳴，難聴，胸部不快感，浮腫，体重増加，下肢痛，息苦しさ，発熱，総コレステロール上昇，LDLコレステロール上昇，トリグリセライド上昇，高カリウム血症 体重減少，味覚異常，甲状腺機能異常 痙攣
(表終了)

リュープリンSR注射用キット11．25mg（11．25mg1筒）

内　注射　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】2499407G3030
【薬効分類】2．4．9　その他のホルモン剤(抗ホルモン剤を含む。)
【一般名】リュープロレリン酢酸塩
【メーカー】製)武田薬品工業
【薬価】42538円/1筒
【薬価収載日】2015/06/19
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】LH－RH誘導体徐放性製剤
【区分】抗がん剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1. 前立腺癌
2. 閉経前乳癌
3. 球脊髄性筋萎縮症の進行抑制
注意
閉経前乳癌
1. ホルモン受容体の発現の有無を確認し，陰性の時は使用しない。
球脊髄性筋萎縮症の進行抑制
2. 遺伝子検査により，アンドロゲン受容体遺伝子のCAGリピート数の異常延長が確認された患者に投与。
3. 去勢術，薬物療法等により血清テストステロン濃度が去勢レベルに低下している患者では，効果が期待できないため，投与しない。
【用法用量】成人　1回11．25mg　12週に1回　皮下注。
注射針を上にしてプランジャーロッドを押して，懸濁用液全量を粉末部に移動させて，泡立てないように懸濁し使用。
注意
前立腺癌，閉経前乳癌
1．12週間持続の徐放性製剤であり，12週を超える間隔で投与すると下垂体－性腺系刺激作用で性腺ホルモン濃度が再度上昇し，臨床所見の一過性な悪化のおそれ，12週に1回の用法を遵守。
球脊髄性筋萎縮症の進行抑制
2．12週間持続の徐放性製剤であり，12週を超える間隔で投与すると下垂体－性腺系刺激作用で性腺ホルモン濃度が再度上昇し，疾患が進行するおそれ，12週に1回の用法を遵守。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分・合成LH－RH，LH－RH誘導体に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。
3. 授乳婦。

■副作用

【副作用】重大な副作用
効能共通
1. 間質性肺炎(0．1%未満)(発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等)。
2. アナフィラキシー(0．1%未満)。
3. 肝機能障害(AST，ALTの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
4. 糖尿病の発症・増悪(頻度不明)。
5. 下垂体卒中(頻度不明)(頭痛，視力・視野障害等)。
6. 心筋梗塞，脳梗塞，静脈血栓症，肺塞栓症等の血栓塞栓症(頻度不明)。
前立腺癌
7. うつ状態(0．1%未満)。
8. 骨疼痛の一過性増悪(血清テストステロン濃度の上昇)，尿路閉塞，脊髄圧迫(5%以上)。
9. 心不全(0．1～5%未満)。
閉経前乳癌
10. 更年期障害様のうつ状態(0．1～5%未満)。
球脊髄性筋萎縮症の進行抑制
11. うつ状態(0．1～5%未満)。
12. 心不全(0．1～5%未満)。
その他の副作用(発現時中止等)(前立腺癌)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
肝臓 LDH上昇 黄疸，AST，ALT，γ－GTP，AI－Pの上昇
内分泌系 ほてり，熱感 頭痛，不眠，顔面潮紅，眩暈，発汗，性欲減退，勃起障害，女性化乳房，睾丸萎縮，会陰部不快感
筋・骨格系　関節痛，骨疼痛，肩・腰・四肢等の疼痛，歩行困難，手指等のこわばり 筋肉痛，骨塩量の低下
皮膚　皮膚炎，頭部発毛
泌尿器系　頻尿，血尿，BUNの上昇
循環器　心電図異常，心胸比増大
血液　貧血，血小板減少
消化器　悪心，嘔吐，食欲不振，便秘 下痢
過敏症　発疹，掻痒

2 個々の器官系用医薬品

投与部位 硬結 疼痛，発赤 膿瘍，腫脹，潰瘍，掻痒，肉芽腫，腫瘤，熱感，壊死等の注射部位反応
その他 浮腫，胸部圧迫感，悪寒，倦怠感，口唇・四肢のしびれ，体重増加，知覚異常，難聴，耳鳴，発熱，総コレステロール上昇，トリグリセライド上昇，尿酸上昇，高カリウム血症，血糖値上昇 脱力感 痙攣
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（閉経前乳癌）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
低エストロゲン症状 ほてり，熱感，のぼせ，肩こり，頭痛，不眠，眩暈，発汗 性欲減退，冷感，視覚障害，情緒不安定
女性生殖器 不正出血，膣乾燥，性交痛，膣炎，帯下増加，卵巣過剰刺激症状，乳房の疼痛・緊満感・萎縮
筋・骨格系 関節痛，骨疼痛等の疼痛 手指等のこわばり，腰痛，筋肉痛，筋痙攣，骨塩量の低下，血清リン上昇，高カルシウム血症
皮膚 ざ瘡，皮膚乾燥，脱毛，多毛，爪の異常
精神神経系 眠気，いらいら感，記憶力低下，注意力低下，知覚異常
過敏症 発疹，掻痒
肝臓 AST，ALT，Al－P，LDH，γ－GTP，ビリルビンの上昇 黄疸
消化器 悪心，嘔吐，食欲不振，腹痛，腹部膨満感，下痢，便秘，口内炎，口渇
循環器 心悸亢進，血圧上昇
血液 赤血球増多，貧血，白血球減少，血小板減少，部分トロンボプラスチン時間延長
泌尿器系 頻尿，排尿困難，BUNの上昇
投与部位 硬結 疼痛，発赤 膿瘍，腫脹，潰瘍，掻痒，肉芽腫，腫瘤，熱感，壊死等の注射部位反応
その他 疲労，倦怠感，脱力感，口唇・四肢のしびれ，手根管症候群，耳鳴，難聴，胸部不快感，浮腫，体重増加，下肢痛，息苦しさ，発熱，総コレステロール上昇，LDLコレステロール上昇，トリグリセライド上昇，高カリウム血症 体重減少，味覚異常，甲状腺機能異常 痙攣
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（球脊髄性筋萎縮症の進行抑制）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
肝臓 肝機能異常
内分泌系 ほてり，頭痛，性欲減退 眩暈，発汗，不眠，男性性機能不全，勃起障害
筋・骨格系 関節痛，背部痛，筋肉痛 骨粗鬆症，四肢痛，変形性脊椎症，筋骨格痛，筋骨格硬直
投与部位 硬結 内出血，疼痛 膿瘍，腫脹，潰瘍，掻痒，肉芽腫，腫瘤，熱感，壊死等の注射部位反応
その他 便秘，体重増加，高脂血症，高血圧，湿疹 胸痛，頻尿，貧血，感覚鈍麻，倦怠感，トリグリセライド上昇，血清リン上昇，末梢性浮腫，鼻咽頭炎，末梢冷感，呼吸困難，下痢，胃炎，血尿 痙攣
（表終了）

リュープロレリン酢酸塩注射用キット3．75mg「あすか」（3．75mg1筒）

内 注射 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2499407G2042
【薬効分類】2．4．9 その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】リュープロレリン酢酸塩
【先発品】リュープリン注射用キット3．75mg
【メーカー】製）あすか製薬 販）武田薬品工業
【薬価】17611円/1筒
【薬価収載日】2013/12/13
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】LH－RH誘導体徐放性製剤
【区分】抗がん剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇子宮内膜症
〇過多月経，下腹痛，腰痛・貧血等を伴う子宮筋腫の筋腫核の縮小・症状の改善
〇中枢性思春期早発症
〇閉経前乳癌
〇前立腺癌
注意
子宮筋腫
1．根治療法でない。手術適応患者の手術までの保存療法，閉経前の保存療法として適用。投与初期の下腹痛，腰痛は対症療法を考慮。
閉経前乳癌
2．ホルモン受容体の発現の有無を確認し，陰性の時は使用しない。
【用法用量】子宮内膜症
成人 1回3．75mg 4週に1回 皮下注。体重50kg未満には1．88mg投与できる。初回 月経周期1～5日目。
子宮筋腫
成人 1回1．88mg 4週に1回 皮下注。体重の重い患者，子宮腫大が高度の患者には3．75mg投与。初回 月経周期1～5日目。
中枢性思春期早発症
1回30μg／kg 4週に1回 皮下注。180μg／kgまで。
閉経前乳癌，前立腺癌
成人 1回3．75mg 4週に1回 皮下注。
注射針を上にしてプランジャーロッドを押して，懸濁用液全量を粉末部に移動させて，泡立てないように懸濁し使用。
投与量の調節が不可能，1回あたり全量投与が必要な患者にのみ使用。
注意
効能共通
1．4週間持続の徐放性製剤であり，4週を超える間隔で投与すると下垂体－性腺系刺激作用で性腺ホルモン濃度が再度上昇し，臨床所見の一過性悪化のおそれ，4週に1回の用法を遵守。
子宮内膜症，子宮筋腫
2．投与量の増加に伴い副作用の発現率が高くなる傾向あり。投与量の決定は，用法・用量に示された体重，子宮腫大の程度に注意。
3．妊娠していないことを確認。月経周期1～5日目から開始。治療期間中は非ホルモン性の避妊をさせる。
4．エストロゲン低下作用による骨塩量の低下の可能性，6ヵ月を超える投与は行わない（安全性は未確立）。
中枢性思春期早発症
5．用量を超えないよう使用。

■禁忌

【禁忌】効能共通
1．本剤の成分・合成LH－RH，LH－RH誘導体に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性。
3．授乳婦。
子宮内膜症，子宮筋腫，中枢性思春期早発症
4．診断未確定の異常性器出血。

■副作用

【副作用】重大な副作用
効能共通
1．間質性肺炎（0．1%未満）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等）。
2．アナフィラキシー（0．1%未満）。
3．肝機能障害（AST，ALTの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
4．糖尿病の発症・増悪（頻度不明）。
5．下垂体卒中（頻度不明）（頭痛，視力・視野障害等）。
6．心筋梗塞，脳梗塞，静脈血栓症，肺塞栓症等の血栓塞栓症（頻度不明）。
子宮内膜症，子宮筋腫，閉経前乳癌
7．更年期障害様のうつ状態（0．1～5%未満）。
前立腺癌
8．うつ状態（0．1%未満）。
9．骨疼痛の一過性増悪（血清テストステロン濃度の上昇），尿路閉塞，脊髄圧迫（5%以上）。
10．心不全（0．1～5%未満）。
その他の副作用（発現時中止等）（子宮内膜症，子宮筋腫，中枢性思春期早発症，閉経前乳癌）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
低エストロゲン症状 ほてり，熱感，のぼせ，肩こり，頭痛，不眠，眩暈，発汗 性欲減退，冷感，視覚障害，情緒不安定
女性生殖器 不正出血，膣乾燥，性交痛，膣炎，帯下増加，卵巣過剰刺激症状，乳房の疼痛・緊満感・萎縮
筋・骨格系 関節痛，骨疼痛等の疼痛 手指等のこわばり，腰痛，筋肉痛，筋痙攣，骨塩量の低下，血清リン上昇，高カルシウム血症
皮膚 ざ瘡，皮膚乾燥，脱毛，多毛，爪の異常
精神神経系 眠気，いらいら感，記憶力低下，注意力低下，知覚異常
過敏症 発疹，掻痒
肝臓 AST，ALT，Al－P，LDH，γ－GTP，ビリルビンの上昇 黄疸
消化器 悪心，嘔吐，食欲不振，腹痛，腹部膨満感，下痢，便秘，口内炎，口渇
循環器 心悸亢進，血圧上昇
血液 赤血球増多，貧血，白血球減少，血小板減少，部分トロンボプラスチン時間延長
泌尿器系 頻尿，排尿困難，BUNの上昇
投与部位 疼痛，硬結，発赤 膿瘍，腫脹，潰瘍，掻痒，肉芽腫，腫瘤，熱感，壊死等の注射部位反応
その他 疲労，倦怠感，脱力感，口唇・四肢のしびれ，手根管症候群，耳鳴，難聴，胸部不快感，浮腫，体重増加，下肢痛，息苦しさ，発熱，総コレステロール上昇，LDLコレステロール上昇，トリグリセライド上昇，高カリウム血症 体重減少，味覚異常，甲状腺機能異常 痙攣
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（前立腺癌）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
肝臓 LDH上昇 黄疸，AST，ALT，γ－GTP，Al－Pの上昇
内分泌系 ほてり，熱感 頭痛，不眠，顔面潮紅，眩暈，発汗，性欲減退，勃起障害，女性化乳房，睾丸萎縮，会陰部不快感
筋・骨格系 関節痛，骨疼痛，肩・腰・四肢等の疼痛，歩行困難，手指等のこわばり 筋肉痛，骨塩量の低下
皮膚 皮膚炎，頭部発毛
泌尿器系 頻尿，血尿，BUNの上昇
循環器 心電図異常，心胸比増大
血液 貧血，血小板減少
消化器 悪心，嘔吐，食欲不振，便秘 下痢
過敏症 発疹，掻痒
投与部位 疼痛，硬結，発赤 膿瘍，腫脹，潰瘍，掻痒，肉芽腫，腫瘤，熱感，壊死等の注射部位反応
その他 浮腫，胸部圧迫感，悪寒，倦怠感，口唇・四肢のしびれ，体重増加，知覚異常，難聴，耳鳴，発熱，総コレステロール上昇，トリグリセライド上昇，尿酸上昇，高カリウム血症，血糖値上昇 脱力感 痙攣

2 個々の器官系用医薬品

（表終了）

ルムジェブ注ミリオペン（300単位1キット）

両 注射 自注 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2492414P1029
【薬効分類】2．4．9 その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】インスリン リスプロ（遺伝子組換え）
【メーカー】製)日本イーライリリー
【薬価】1305円/1kit
【薬価収載日】2020/05/20
【ハイリスク分類】膵臓ホルモン剤
【標榜薬効】抗糖尿病剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】インスリン療法が適応となる糖尿病
注意
2型糖尿病には，緊急時以外，食事療法，運動療法を行ったうえで適用を考慮。
【用法用量】成人 1回2～20単位 毎食事開始時 皮下注。必要時食事開始後 皮下注。投与回数を増やす，持続型インスリン製剤と併用したりすることがある。
適宜増減，持続型インスリン製剤を含めた維持量 1日4～100単位。
注意
1．ヒューマログ注と比べ作用発現が速いため，食事開始時（食事開始前の2分以内）に投与。食事開始後の投与は，食事開始から20分以内。食事開始後の投与は，血糖コントロールや低血糖の発現に関する臨床試験成績を踏まえ，状況により判断。
2．他の追加インスリン製剤から本剤へ切りかえる時，前治療で使用していた製剤と同じ単位数を目安とし投与開始し，本剤への切りかえ時・その後の数週間は血糖コントロールのモニタリング行う。

■禁忌

【禁忌】1．低血糖症状。
2．インスリンリスプロ・本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低血糖（頻度不明）（脱力感，倦怠感，高度の空腹感，冷汗，顔面蒼白，動悸，振戦，頭痛，眩暈，嘔気，視覚異常，不安，興奮，神経過敏，集中力低下，精神障害，痙攣，意識障害（意識混濁，昏睡）等），低血糖昏睡等重篤な転帰（中枢神経系の不可逆的障害，死亡等）。
2．アナフィラキシーショック（呼吸困難，血圧低下，頻脈，発汗，全身の発疹等），血管神経性浮腫（各頻度不明）等。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒症
注射部位 注射部位反応（発疹，発赤，炎症，疼痛，出血，掻痒感），リポジストロフィー（皮下脂肪の萎縮・肥厚等） 皮膚アミロイドーシス
その他 浮腫
（表終了）

レベミル注 フレックスペン（300単位1キット）

両 注射 自注 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】2492417G1030
【薬効分類】2．4．9 その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。）
【一般名】インスリン デテミル（遺伝子組換え）
【メーカー】製)ノボノルディスクファーマ
【薬価】1424円/1kit
【薬価収載日】2008/12/19
【ハイリスク分類】膵臓ホルモン剤
【標榜薬効】持効型溶解インスリンアナログ製剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】インスリン療法が適応となる糖尿病
注意
2型糖尿病には，緊急時以外，食事療法，運動療法を行ったうえで適用を考慮。
【用法用量】成人 初期 1回4～20単位 1日1回 夕食前又は就寝前（定刻） 皮下注。
他のインスリン製剤との併用 投与回数を1日2回にする時は，朝食前・夕食前又は朝食前・就寝前 投与。
適宜増減。他のインスリン製剤の投与量を含めた維持量 1日4～80単位。
必要時，上記量超えての使用あり。
注意
1．作用持続時間，1mLあたりのインスリン含有単位と患者の病状に注意し，製剤的特徴に適する場合に投与。
2．糖尿病性昏睡，急性感染症，手術等緊急の時，本剤のみの処置は適当でなく，速効型インスリン製剤を使用。
3．中間型又は持効型インスリン製剤から本剤に変更時
下記を参考に投与を開始し，適宜増減等，作用特性を考慮し慎重に行う。小児への投与も同様。
（1）．国内の臨床試験で，中間型インスリン製剤から本剤に変更時，前治療の70%用量から開始したが，試験終了時の用量は前治療と同様であった。
（2）．他の持効型インスリン製剤から本剤へ切りかえた国内での使用経験はない。
（3）．投与回数・時期は，前治療と同じ用法で切りかえる。
（4）．本剤への変更で本剤及び併用している超速効型又は速効型インスリン製剤の用量の調整には，初回の投与から数週間又は数ヵ月間必要。
4．経口糖尿病薬から本剤に変更時及び経口糖尿病薬と併用時
（1）．低用量から開始等，作用特性を考慮し慎重に行う。
（2）．経口糖尿病薬と併用時は，経口糖尿病薬の投与量及び投与スケジュールの調整が必要。

■禁忌

【禁忌】1．低血糖症状。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低血糖（頻度不明）（脱力感，倦怠感，高度の空腹感，冷汗，顔面蒼白，動悸，振戦，頭痛，眩暈，嘔気，視覚異常，不安，興奮，神経過敏，集中力低下，精神障害，痙攣，意識障害（意識混濁，昏睡）等），低血糖昏睡等重篤な転帰（中枢神経系の不可逆的障害，死亡等）。
2．アナフィラキシーショック（0．2%）（呼吸困難，血圧低下，頻脈，発汗，全身の発疹，血管神経性浮腫等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感 アレルギー，蕁麻疹
肝臓 肝機能障害，ALT上昇，AST上昇，γ－GTP上昇
神経系 治療後神経障害（主に有痛性）
眼 糖尿病網膜症の顕在化・増悪 屈折異常
注射部位 リポジストロフィー（皮下脂肪の萎縮・肥厚等），注射部位反応（疼痛，発赤，腫脹，硬結，発疹，掻痒感等） 皮膚アミロイドーシス
その他 頭痛，浮腫，血中アミラーゼ上昇，BUN上昇 抗インスリン抗体産生に伴う血糖コントロール不良
（表終了）

2．5 泌尿生殖器官及び肛門用薬

2．5．2 生殖器官用剤（性病予防剤を含む。）

エストリール腟錠0．5mg（0．5mg1錠）

両 外用 流通

【YJコード】2529701H1058
【薬効分類】2．5．2 生殖器官用剤（性病予防剤を含む。）
【一般名】エストリオール
【メーカー】製)持田製薬
【薬価】15.7円/1T
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】卵胞ホルモン剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】腟炎（老人，小児・非特異性），子宮頸管炎，子宮腟部糜爛
【用法用量】成人 1回0．5～1mg 1日1回 腟内挿入。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．エストロゲン依存性悪性腫瘍（例 乳癌，子宮内膜癌）・その疑い。
2．本剤の成分に過敏症の既往。
3．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック（頻度不明），アナフィラキシー（頻度不明）（発疹，潮紅，呼吸困難，血圧低下等）。
2．血栓症（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹等
乳房 乳房痛，乳房緊満感等
（表終了）

2 個々の器官系用医薬品

オキナゾール腟錠600mg（600mg1錠）

両 外用 流通

【YJコード】2529709H2042
【薬効分類】2．5．2 生殖器官用剤（性病予防剤を含む。）
【一般名】オキシコナゾール硝酸塩
【メーカー】製)田辺三菱製薬 販)三菱ウェルファーマ
【薬価】271.2円/1T
【薬価収載日】2006/06/09
【標榜薬効】抗真菌剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】カンジダによる腟炎・外陰腟炎
【用法用量】1回1錠 週1回 腟深部に挿入。
真菌学的効果（一次効果）なければ，さらに1回1錠使用。

■禁忌

【禁忌】本剤・他のオキシコナゾール硝酸塩製剤に過敏。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹等
腟・外陰 発赤 刺激感，ひりひり感，掻痒感，疼痛等
（表終了）

クロトリマゾール腟錠100mg「F」（100mg1錠）

両 外用 後発 流通

【YJコード】2529702H1087
【薬効分類】2．5．2 生殖器官用剤（性病予防剤を含む。）
【一般名】クロトリマゾール
【メーカー】製)富士製薬工業
【薬価】24.2円/1T
【薬価収載日】2018/12/14
【標榜薬効】抗真菌剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】カンジダによる腟炎・外陰腟炎
【用法用量】1回1錠 1日1回 腟深部に挿入。
6日間継続使用 必要時，使用期間を延長。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
腟 局所の熱感，刺激感，発赤・紅斑 掻痒，疼痛
皮膚 発疹
（表終了）

クロマイ腟錠100mg（100mg1錠）

両 外用 流通

【YJコード】2521701H1050
【薬効分類】2．5．2 生殖器官用剤（性病予防剤を含む。）
【一般名】クロラムフェニコール
【メーカー】製)アルフレッサファーマ 販)第一三共
【薬価】71.7円/1T
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】抗生物質製剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種 クロラムフェニコール感性菌
適応症 細菌性腟炎
【用法用量】1回1錠 1日1回 局所に挿入。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，発疹，血圧低下等の異常）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒，局所の発赤，局所の刺激，局所の糜爛，接触性皮膚炎，全身性皮疹・紅斑
長期連用 内服，注射等全身投与と同様な症状
（表終了）

フラジール腟錠250mg（250mg1錠）

両 外用 流通

【YJコード】2529707H1063
【薬効分類】2．5．2 生殖器官用剤（性病予防剤を含む。）
【一般名】メトロニダゾール
【メーカー】製)富士製薬工業 販)塩野義製薬
【薬価】54.3円/1T
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】抗トリコモナス剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○トリコモナス腟炎
○細菌性腟症
適応菌種 ペプトストレプトコッカス属，バクテロイデス・フラジリス，プレボテラ・ビビア，モビルンカス属，ガードネラ・バジナリス
適応症 細菌性腟症
【用法用量】トリコモナス腟炎
成人 1クール 1回250mg 1日1回 10～14日間 腟内挿入。
細菌性腟症
成人 1回250mg 1日1回 7～10日間 腟内挿入。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上又は頻度不明 0．1～5%未満
過敏症 掻痒感，腟壁充血等の局所刺激，局所の発赤
生殖器 Candida albicansの出現
（表終了）

ミレーナ52mg（1個）

内 外用 流通

【YJコード】2529710X1027
【薬効分類】2．5．2 生殖器官用剤（性病予防剤を含む。）
【一般名】レボノルゲストレル
【メーカー】製)バイエル薬品
【薬価】26206.7円/1個
【薬価収載日】2014/09/02
【標榜薬効】子宮内黄体ホルモン放出システム

■効能効果・用法用量

【効能効果】避妊
過多月経
月経困難症
注意
過多月経 器質性過多月経は，原疾患の治療を優先。
【用法用量】本剤1個 子宮腔内装着。
注意
装着後5年までに除去・交換。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．性器癌・その疑い。
3．黄体ホルモン依存性腫瘍・その疑い。
4．診断未確定の異常性器出血。
5．先天性，後天性の子宮の形態異常（子宮腔の変形をきたしているような子宮筋腫含む）・著しい位置異常。
6．性器感染症（カンジダ症除く）。
7．過去3ヵ月以内に性感染症（細菌性腟炎，カンジダ症，再発性ヘルペスウイルス感染，B型肝炎，サイトメガロウイルス感染除く）の既往。
8．頸管炎・腟炎。
9．再発性・現在PID。
10．過去3ヵ月以内に分娩後子宮内膜炎・感染性流産の既往。
11．子宮外妊娠の既往。
12．本剤・子宮内避妊用具装着時・頸管拡張時に失神，徐脈等の迷走神経反射の既往。
13．重篤な肝障害。
14．肝腫瘍。
15．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用

2 個々の器官系用医薬品

1. 骨盤内炎症性疾患(0. 2%未満)(発熱, 下腹部痛, 腟分泌物の異常等)。
骨盤内感染症, 敗血症(A群β溶血性レンサ球菌性敗血症等)(外国)。
2. 異所性妊娠(頻度不明)(月経遅延時の下腹部痛, 無月経の出血)。
3. 穿孔(頻度不明)(子宮穿孔, 子宮体部・頸部への部分的貫入)。
4. 卵巣嚢胞破裂(頻度不明)(持続性・急性腹部膨満感, 下腹部痛(圧痛)等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
代謝・栄養障害 浮腫, 末梢性浮腫, 高トリグリセライド血症, フェリチン上昇, 体重増加
精神神経系 頭痛, 抑うつ 気分の変化, 性欲減退, 片頭痛, 神経過敏
消化器 悪心, 鼓腸放屁
皮膚 ざ瘡, 湿疹 多毛, 脱毛, 掻痒
過敏症 蕁麻疹 発疹, 血管浮腫
肝臓 γ－GTP上昇, 肝機能異常
乳房 乳房痛 乳房緊満
生殖器 月経異常(過長月経, 月経周期異常等)(78. 6%), 月経中間期出血, 除去後の消退出血, 卵巣嚢胞 無月経, 月経困難症, 過多月経, 卵巣疾患, 腟炎, 外陰炎, 陰部掻痒, 白帯下, 生殖器モニリア症, 本剤の脱出, 装着・除去時の疼痛・出血 生殖器感染症, 子宮頸管炎, 骨盤痛
その他 腹痛 背部痛, 倦怠感, 白血球増多 血圧上昇
(表終了)

2. 5. 3 子宮収縮剤

パルタンM錠0. 125mg(0. 125mg1錠)

両 内服 流通
劇

【YJコード】2531002F1214
【薬効分類】2. 5. 3 子宮収縮剤
【一般名】メチルエルゴメトリンマレイン酸塩
【メーカー】製)持田製薬
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】子宮収縮止血剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】子宮収縮の促進, 子宮出血の予防・治療で下記に使用
胎盤娩出後, 子宮復古不全, 流産, 人工妊娠中絶
【用法用量】成人 1回0. 125～0. 25mg 1日2～4回 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 妊婦・妊娠の可能性。
2. 児頭娩出前。
3. 本剤・麦角アルカロイドに過敏症の既往。
4. 重篤な虚血性心疾患・その既往。
5. 敗血症。
6. HIVプロテアーゼ阻害剤(リトナビル含有製剤, アタザナビル硫酸塩, ホスアンプレナビルカルシウム水和物, ダルナビル エタノール付加物含有製剤), エファビレンツ, アゾール系抗真菌薬(イトラコナゾール, ボリコナゾール, ポサコナゾール), コビシスタット含有製剤, ニルマトレルビル・リトナビル, レテルモビル, エンシトレルビル フマル酸, レナカパビルナトリウム, 5－HT1B／1D受容体作動薬(スマトリプタン, ゾルミトリプタン, エレトリプタン臭化水素酸塩, リザトリプタン安息香酸塩, ナラトリプタン塩酸塩), エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリンの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. アナフィラキシー(頻度不明)。
2. 心筋梗塞, 狭心症, 冠動脈攣縮, 房室ブロック(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
循環器 胸痛, 胸部圧迫感, 血圧上昇, 血圧低下, 頻脈, 徐脈, 動悸等
血管系 静脈血栓, 末梢循環障害, 血管痙攣
精神神経系 頭痛, 眠気, 眩暈, 口渇, 耳鳴, 興奮, 幻覚, 痙攣, 錯感覚等
過敏症 発疹等
消化器 悪心・嘔吐, 腹痛, 下痢等
筋・骨格系 筋痙攣
その他 胎盤嵌頓, 多汗
(表終了)

パルタンM注0. 2mg(0. 02%1mL1管)

内 注射 後発 流通
劇

【YJコード】2531401A1118
【薬効分類】2. 5. 3 子宮収縮剤
【一般名】メチルエルゴメトリンマレイン酸塩
【メーカー】製)持田製薬
【薬価】82円/1A
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】子宮収縮止血剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】子宮収縮の促進, 子宮出血の予防・治療で下記に使用
胎盤娩出前後, 弛緩出血, 子宮復古不全, 帝王切開術, 流産, 人工妊娠中絶
【用法用量】成人 1回0. 1～0. 2mg 静注, 又は1回0. 2mg 皮下注・筋注。
適宜増減。
注意
静注は血圧等に注意しながら徐々に行う(特に麻酔剤, 昇圧剤等の併用時)。

■禁忌
【禁忌】1. 妊婦・妊娠の可能性。
2. 児頭娩出前。
3. 本剤・麦角アルカロイドに過敏症の既往。
4. 重篤な虚血性心疾患・その既往。
5. 敗血症。
6. HIVプロテアーゼ阻害剤(リトナビル含有製剤, アタザナビル硫酸塩, ホスアンプレナビルカルシウム水和物, ダルナビル エタノール付加物含有製剤), エファビレンツ, アゾール系抗真菌薬(イトラコナゾール, ボリコナゾール, ポサコナゾール), コビシスタット含有製剤, ニルマトレルビル・リトナビル, レテルモビル, エンシトレルビル フマル酸, レナカパビルナトリウム, 5－HT1B／1D受容体作動薬(スマトリプタン, ゾルミトリプタン, エレトリプタン臭化水素酸塩, リザトリプタン安息香酸塩, ナラトリプタン塩酸塩), エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリンの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック(頻度不明), アナフィラキシー(頻度不明)(血圧低下, 悪心・嘔吐, チアノーゼ, 呼吸困難等)。
2. 心筋梗塞, 狭心症, 冠動脈攣縮, 房室ブロック(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
循環器 胸痛, 胸部圧迫感, 血圧上昇, 血圧低下, 頻脈, 徐脈, 動悸等
血管系 静脈血栓, 末梢循環障害, 血管痙攣
精神神経系 頭痛, 眠気, 眩暈, 口渇, 耳鳴, 興奮, 幻覚, 痙攣, 錯感覚等
過敏症 発疹等
消化器 悪心・嘔吐, 腹痛, 下痢等
筋・骨格系 筋痙攣
投与部位 疼痛, 発赤, 硬結等
その他 胎盤嵌頓, 多汗
(表終了)

2. 5. 5 痔疾用剤

強力ポステリザン(軟膏)(1g)

両 外用 流通

【YJコード】2559808M1020
【薬効分類】2. 5. 5 痔疾用剤
【一般名】大腸菌死菌・ヒドロコルチゾン
【メーカー】製)マルホ
【薬価】20.4円/1g
【標榜薬効】痔疾治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】痔核・裂肛の症状(出血, 疼痛, 腫脹, 痒感)の緩解, 肛門部手術創, 肛門周囲の湿疹・皮膚炎, 軽度な直腸炎の症状の緩解
注意
局所の感染症・真菌症には使用しない, 必要時は, 抗菌剤, 抗真菌剤による治療・併用を考慮。
【用法用量】1日1～3回 塗布・注入。

■禁忌
【禁忌】1. 局所に結核性・化膿性感染症, ウイルス性疾患。
2. 局所に真菌症(カンジダ症, 白癬等)。
3. 本剤に過敏症の既往。
4. ヒドロコルチゾンに過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
緑内障, 後嚢白内障(各頻度不明), 眼圧亢進。
その他の副作用(発現時中止等)

2 個々の器官系用医薬品

（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 掻痒感 接触皮膚炎，紅斑，発疹，皮膚刺激感
皮膚 皮膚・陰部の真菌感染症（カンジダ症，白癬等），ウイルス感染症，細菌感染症
眼 中心性漿液性網脈絡膜症等による網膜障害，眼球突出
内分泌系 下垂体・副腎皮質系機能の抑制
消化器 便意
その他 適用部位不快感
（表終了）

2．5．9 その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬

ウテメリン錠5mg（5mg1錠）

両 内服 流通

【YJコード】2590004F1192
【薬効分類】2．5．9 その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬
【一般名】リトドリン塩酸塩
【メーカー】製）キッセイ薬品工業
【薬価】42.7円/1T
【薬価収載日】2004/07/09
【標榜薬効】切迫流・早産治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】切迫流・早産
【用法用量】1回1錠（リトドリン塩酸塩 5mg） 1日3回 食後 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．強度の子宮出血，子癇，前期破水例のうち子宮内感染を合併する症例，常位胎盤早期剥離，子宮内胎児死亡，その他妊娠の継続が危険。
2．重篤な甲状腺機能亢進症。
3．重篤な高血圧症。
4．重篤な心疾患。
5．重篤な糖尿病。
6．重篤な肺高血圧症。
7．妊娠16週未満。
8．本剤の成分に重篤な過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇）。
2．汎血球減少（頻度不明）。
3．血清カリウム値の低下（頻度不明）。
4．高血糖，糖尿病性ケトアシドーシス（頻度不明）（血糖値の急激な上昇，糖尿病の悪化）。
5．新生児腸閉塞（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
循環器 動悸・頻脈 顔面潮紅 不整脈（心室性期外収縮等）
肝臓 AST，ALTの上昇等
血液 血小板減少
精神神経系 ふらつき 振戦，しびれ
消化器 嘔気 腹痛
過敏症 発疹，紅斑
その他 唾液腺腫脹，高アミラーゼ血症（唾液腺型アミラーゼ増加）
胎児・新生児 胎児頻脈，胎児不整脈，新生児頻脈，新生児低血糖症
（表終了）

ウロカルン錠225mg（225mg1錠）

両 内服 流通

【YJコード】2590001F1024
【薬効分類】2．5．9 その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬
【一般名】ウラジロガシエキス
【メーカー】製）日本新薬
【薬価】6.1円/1T
【薬価収載日】2005/07/08
【標榜薬効】尿路結石治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】腎結石・尿管結石の排出促進
【用法用量】1回2錠 1日3回 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
皮膚 発疹，発赤，掻痒，蕁麻疹
消化器 胃部不快感，胃部膨満感，胃腸障害 下痢
（表終了）

エビプロスタット配合錠DB（1錠）

両 内服 流通

【YJコード】2590100X2046
【薬効分類】2．5．9 その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬
【一般名】オオウメガサソウエキス・ハコヤナギエキス配合剤
【メーカー】製）日本新薬
【薬価】25.5円/1T
【薬価収載日】2008/07/04
【標榜薬効】前立腺肥大症治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】前立腺肥大に伴う排尿困難，残尿・残尿感，頻尿
【用法用量】1回1錠 1日3回 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
皮膚 発疹，掻痒感等の過敏症状 多形紅斑
消化器 食欲不振，腹痛，胃部不快感，胃痛，悪心
肝臓 肝機能異常，黄疸
代謝異常 血中尿酸上昇
その他 倦怠感 しびれ
（表終了）

シロドシンOD錠4mg「サワイ」（4mg1錠）

両 内服 後発 流通
劇

【YJコード】2590010F4138
【薬効分類】2．5．9 その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬
【一般名】シロドシン
【先発品】ユリーフOD錠4mg
【メーカー】製）沢井製薬
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2019/06/14
【標榜薬効】前立腺肥大症に伴う排尿障害改善薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】前立腺肥大症に伴う排尿障害
注意
原因療法ではなく対症療法。効果不十分時は手術療法等他の処置を考慮。
【用法用量】成人 1回4mg 1日2回 朝・夕食後 内服。
適宜減量。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．失神・血圧低下に伴う一過性の意識喪失（頻度不明）等。
2．肝機能障害（頻度不明）（AST上昇，ALT上昇等），黄疸（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
泌尿・生殖器 射精障害（逆行性射精等）（17．2%） インポテンス，尿失禁
消化器 口渇 胃不快感，下痢，軟便，便秘 嘔吐，嘔気，食欲不振，胃痛，腹痛，腹部膨満感，上腹部異和感，下腹部痛，胃潰瘍，胃炎，萎縮性胃炎，胸やけ，胃もたれ感，十二指腸潰瘍，放屁増加，排便回数増加，残便感，肛門不快感 口内炎
精神神経系 眩暈，立ちくらみ，ふらつき，頭痛 肩こり，頭がボーとする感じ，眠気，性欲減退，頭重感 しびれ
呼吸器 鼻出血，鼻閉 鼻汁，咳
循環器 心房細動，動悸，頻脈，不整脈，上室性期外収縮，起立性低血圧，血圧低下，血圧上昇
過敏症 発疹，皮疹，湿疹，蕁麻疹，掻痒感 口唇腫脹，舌腫脹，咽頭浮腫，顔面腫脹，眼瞼浮腫
眼 眼の充血，目のかゆみ，結膜出血 術中虹彩緊張低下症候群，かすみ目
肝臓 AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇，総ビリルビン上昇，AI－P上昇，LDH上昇
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇
血液 白血球数減少，赤血球数減少，血色素量減少，ヘマトクリット値減少 白血球数増多，血小板数減少

2 個々の器官系用医薬品

その他 トリグリセリド上昇 倦怠感，CRP上昇，総コレステロール上昇，尿糖上昇，尿沈渣上昇 顔のほてり，耳鳴，苦味，胸痛，腰痛，下肢脱力感，発汗，ほてり，気分不良，血清カリウム値上昇，総蛋白低下，前立腺特異抗原増加，尿酸上昇，尿蛋白上昇 浮腫，女性化乳房
（表終了）

ソリフェナシンコハク酸塩OD錠5mg「サワイ」（5mg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】2590011F4043
【薬効分類】2．5．9 その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬
【一般名】コハク酸ソリフェナシン
【先発品】ベシケアOD錠5mg
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】33円/1T
【薬価収載日】2021/06/18
【標榜薬効】過活動膀胱治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】過活動膀胱の尿意切迫感，頻尿，切迫性尿失禁
注意
1．十分な問診により臨床症状を確認，類似の疾患（尿路感染症，尿路結石，膀胱癌や前立腺癌等の下部尿路の新生物等）に注意し，尿検査等で除外診断を実施。必要時専門的な検査も考慮。
2．下部尿路閉塞疾患（前立腺肥大症等）の合併では，その治療（α1遮断薬等）を優先。
3．過活動膀胱を認識できない認知症・認知機能障害は対象外。
【用法用量】成人 1回5mg 1日1回 内服。
適宜増減，1日最高10mg。
注意
1．中等度の肝機能障害（Child－Pugh分類B）
1日1回2．5mgから開始，1日1回5mgまで。
軽度の肝機能障害（Child－Pugh分類A）
1日1回5mgから開始，増量時，副作用発現に注意し，慎重に行う。
2．重度の腎機能障害（クレアチニンクリアランス30mL／分未満）
1日1回2．5mgから開始，1日1回5mgまで。
軽度・中等度の腎機能障害（クレアチニンクリアランス30mL／分以上かつ80mL／分以下）
1日1回5mgから開始，増量時，副作用発現に注意し，慎重に行う。
3．高齢者
1日1回5mgから開始，増量時，副作用発現に注意し，慎重に行う。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．尿閉。
3．閉塞隅角緑内障。
4．幽門部・十二指腸・腸管閉塞，麻痺性イレウス。
5．胃アトニー・腸アトニー。
6．重症筋無力症。
7．重篤な心疾患。
8．重度の肝機能障害（Child－Pugh分類C）。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（蕁麻疹，呼吸困難，血圧低下等）。
2．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTP，AI－P，総ビリルビンの上昇（各0．1～5%未満）等）。
3．尿閉（頻度不明）。
4．QT延長，心室頻拍（Torsades de pointes含む），房室ブロック，洞不全症候群，高度徐脈（各頻度不明）。
5．麻痺性イレウス（頻度不明）（著しい便秘，腹部膨満等）。
6．幻覚・せん妄（頻度不明）。
7．急性緑内障発作（頻度不明）（眼圧亢進，嘔気，頭痛を伴う眼痛，視力低下等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
血液・リンパ系障害 白血球数増多，白血球数減少，血小板数増多，血小板数減少
心臓障害 狭心症，上室性期外収縮，心室性期外収縮 徐脈，心房細動，頻脈，動悸
耳・迷路障害 回転性眩暈
眼障害 霧視，調節障害，乾性角結膜炎，視力低下
胃腸障害 口内乾燥（28．3%），便秘（14．4%） 腹部不快感，腹部膨満，腹痛，下腹部痛，上腹部痛，下痢，消化不良，硬便，胃炎，萎縮性胃炎，舌炎，悪心，胃不快感，口内炎，舌変色 嘔吐，胃食道逆流性疾患，口の感覚鈍麻
全身障害・投与局所様態 胸部不快感，胸痛，倦怠感，発熱 浮腫
感染症 膀胱炎，尿路感染，気管支炎，鼻咽頭炎，上気道感染，尿沈渣陽性
代謝・栄養障害 CK上昇，尿酸上昇，総コレステロール上昇，K上昇，尿糖陽性 食欲減退
筋骨格系・結合組織障害 関節痛，背部痛，側腹部痛 筋力低下
神経系障害 浮動性眩暈，味覚異常，頭痛，傾眠 認知機能障害
精神障害 不眠症
腎・尿路障害 排尿困難，膿尿，排尿躊躇，クレアチニン上昇，BUN上昇，尿蛋白陽性
呼吸器，胸郭・縦隔障害 咳嗽，鼻乾燥，咽頭不快感 発声障害
皮膚・皮下組織障害 皮膚乾燥，湿疹，掻痒症，発疹，蕁麻疹 血管浮腫，多形紅斑，剥脱性皮膚炎
血管障害 潮紅，高血圧
（表終了）

タダラフィル錠5mgZA「日医工」（5mg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】2590016F2086
【薬効分類】2．5．9 その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬
【一般名】タダラフィル
【先発品】ザルティア錠5mg
【メーカー】製)日医工
【薬価】34.7円/1T
【薬価収載日】2020/06/19
【標榜薬効】前立腺肥大症に伴う排尿障害改善剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】前立腺肥大症に伴う排尿障害
注意
1．前立腺肥大症の診断・診療に関する国内外のガイドライン等の最新情報を参考に，適切な検査で診断を確定。
2．原因療法ではなく対症療法。効果不十分時は手術療法等他の処置を考慮。
【用法用量】成人 1回5mg 1日1回 内服。
注意
1．中等度の腎障害 血漿中濃度上昇のおそれ。1日1回2．5mgから開始等も考慮。
2．CYP3A4を強く阻害する薬剤の投与患者 1日1回2．5mgから開始し，5mgへ増量。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．硝酸剤・一酸化窒素供与剤（ニトログリセリン，亜硝酸アミル，硝酸イソソルビド，ニコランジル等）の投与患者。
3．可溶性グアニル酸シクラーゼ刺激剤（リオシグアト）の投与患者。
4．下記の心血管系障害
（1）．不安定狭心症。
（2）．心不全（NYHA分類Ⅲ度以上）。
（3）．コントロール不良の不整脈，低血圧（血圧＜90／50mmHg），コントロール不良の高血圧（安静時血圧＞170／100mmHg）。
（4）．最近3ヵ月以内に心筋梗塞の既往。
（5）．最近6ヵ月以内に脳梗塞・脳出血の既往。
5．重度の腎障害。
6．重度の肝障害。

■副作用

【副作用】重大な副作用
過敏症（頻度不明）（発疹，蕁麻疹，顔面浮腫，剥脱性皮膚炎，Stevens－Johnson症候群等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
循環器 動悸，ほてり，潮紅 心筋梗塞，胸痛，心突然死，失神，低血圧
感覚器 眼痛，霧視，結膜充血，網膜動脈閉塞，網膜静脈閉塞，眼瞼腫脹，視野欠損，非動脈炎性前部虚血性視神経症，突発性難聴，中心性漿液性脈絡網膜症
消化器 消化不良 胃食道逆流性疾患，下痢，胃炎 腹痛
腎臓 腎クレアチニンクリアランス減少
筋骨格 筋肉痛，背部痛 四肢痛
精神神経系 頭痛 浮動性眩暈 片頭痛，脳卒中
泌尿・生殖器 勃起増強，自発陰茎勃起 持続勃起症，勃起の延長
呼吸器 呼吸困難，鼻出血
皮膚 多汗症
その他 CK上昇
（表終了）

タムスロシン塩酸塩OD錠0．1mg「トーワ」（0．1mg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】2590008F1166
【薬効分類】2．5．9 その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬
【一般名】タムスロシン塩酸塩
【先発品】ハルナールD錠0．1mg
【メーカー】製)東和薬品
【薬価】11.2円/1T
【薬価収載日】2013/12/13
【標榜薬効】前立腺肥大症排尿障害改善剤

2 個々の器官系用医薬品

【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】前立腺肥大症に伴う排尿障害
注意
1. 原因療法ではなく対症療法。効果不十分時は手術療法等他の処置を考慮。
2. 前立腺肥大症の診断・診療は国内外のガイドライン等の最新情報を参考。
【用法用量】成人　1回0. 2mg　1日1回　食後　内服。
適宜増減。
注意
高齢者 腎機能低下時は0. 1mgから開始し，経過観察後に0. 2mgに増量。効果なければそれ以上増量せず，他の処置を実施。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 失神・血圧低下に伴う一過性の意識喪失（頻度不明）等。
2. 肝機能障害，黄疸（各頻度不明）（AST上昇，ALT上昇等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0. 1～5%未満 頻度不明
精神神経系 眩暈，ふらふら感 立ちくらみ，頭痛，眠気，いらいら感，しびれ感
循環器 頻脈 血圧低下，起立性低血圧，動悸，不整脈
過敏症 発疹 掻痒感，蕁麻疹，多形紅斑，血管浮腫
消化器 胃不快感，嘔気，嘔吐，胃重感，胃痛，食欲不振，嚥下障害 口渇，便秘，下痢
その他 咽頭灼焼感，全身倦怠感 鼻閉，浮腫，尿失禁，味覚異常，女性化乳房，持続勃起症，射精障害，術中虹彩緊張低下症候群，霧視，視力障害，ほてり，熱感，灼熱感，胸部不快感
（表終了）

ナフトピジルOD錠25mg「日医工」（25mg1錠）

両　内服　後発　流通

【YJコード】2590009F6170
【薬効分類】2. 5. 9　その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬
【一般名】ナフトピジル
【先発品】フリバスOD錠25mg
【メーカー】製)日医工
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2015/06/19
【標榜薬効】前立腺肥大症に伴う排尿障害改善剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】前立腺肥大症に伴う排尿障害
注意
原因療法ではなく対症療法。効果不十分時は手術療法等他の処置を考慮。
【用法用量】成人　1回25mgから開始　1日1回　食後　内服。効果不十分時　1～2週間あけて　50～75mgに漸増　1日1回　食後　内服。
適宜増減，1日最高75mg。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 肝機能障害（AST，ALT，γ－GTP等の上昇），黄疸（頻度不明）。
2. 失神，血圧低下に伴う一過性の意識喪失（頻度不明）等。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0. 1～1%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 掻痒感，蕁麻疹 多形紅斑
精神神経系 眩暈・ふらつき，頭痛・頭重 倦怠感，眠気，耳鳴，しびれ感，振戦，味覚異常 頭がボーッとする
循環器 立ちくらみ，低血圧 動悸，ほてり，不整脈（期外収縮，心房細動等）頻脈
消化器 胃部不快感，下痢 便秘，口渇，嘔気，嘔吐，膨満感，腹痛
肝臓 AST，ALTの上昇 LDH，AI－Pの上昇
血液　血小板数減少
眼　霧視 術中虹彩緊張低下症候群，色視症
その他　浮腫，尿失禁，悪寒，眼瞼浮腫，肩こり，鼻閉，勃起障害 女性化乳房，胸痛
（表終了）

ベオーバ錠50mg（50mg1錠）

両　内服　流通

【YJコード】2590017F1025
【薬効分類】2. 5. 9　その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬
【一般名】ビベグロン
【メーカー】製)杏林製薬　販)キッセイ薬品工業
【薬価】146.1円/1T
【薬価収載日】2018/11/20
【標榜薬効】選択的β3アドレナリン受容体作動性過活動膀胱治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】過活動膀胱の尿意切迫感，頻尿，切迫性尿失禁
注意
1. 十分な問診により臨床症状を確認，類似の疾患（尿路感染症，尿路結石，膀胱癌や前立腺癌等の下部尿路の新生物等）に注意し，尿検査等で除外診断を実施。必要時専門的な検査も考慮。
2. 下部尿路閉塞疾患（前立腺肥大症等）の合併では，その治療を優先。
【用法用量】成人　1回50mg　1日1回　食後　内服。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
尿閉（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～2%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系　頭痛，眩暈，不眠症，傾眠
消化器 口内乾燥，便秘　悪心，腹部膨満，消化不良，胃炎，胃食道逆流性疾患，下痢，腹痛，食欲減退
循環器　QT延長，動悸
泌尿器・腎臓 尿路感染（膀胱炎等），残尿量増加　排尿躊躇，膀胱痛，遺尿，排尿困難
皮膚　発疹，多汗症，掻痒症
眼　羞明 眼乾燥，霧視
肝臓　AST上昇，ALT上昇 肝機能異常，γ－GTP上昇，AI－P上昇
その他　疲労，ほてり，高脂血症，体液貯留，筋肉痛，浮腫，CK上昇，口渇，血圧上昇，胸部不快感
（表終了）

ベタニス錠25mg（25mg1錠）

両　内服　流通
劇

【YJコード】2590014F1021
【薬効分類】2. 5. 9　その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬
【一般名】ミラベグロン
【メーカー】製)アステラス製薬
【薬価】83.8円/1T
【薬価収載日】2011/09/12
【標榜薬効】選択的β3アドレナリン受容体作動性過活動膀胱治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】過活動膀胱の尿意切迫感，頻尿，切迫性尿失禁
注意
1. 十分な問診により臨床症状を確認，類似の疾患（尿路感染症，尿路結石，膀胱癌や前立腺癌等の下部尿路の新生物等）に注意し，尿検査等で除外診断を実施。必要時専門的な検査も考慮。
2. 下部尿路閉塞疾患（前立腺肥大症等）の合併では，その治療を優先。
【用法用量】成人　1回50mg　1日1回　食後　内服。
注意
1. 中等度の肝機能障害（Child－Pughスコア7～9）
1日1回25mgから開始。
2. 重度の腎機能障害（eGFR15～29mL／分／1. 73m2）
1日1回25mgから開始。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 重篤な心疾患。
3. 妊婦・妊娠の可能性。
4. 授乳婦。
5. 重度の肝機能障害（Child－Pughスコア10以上）。
6. フレカイニド酢酸塩・プロパフェノン塩酸塩の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 尿閉（頻度不明）。
2. 高血圧（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
血液・リンパ系障害　血小板数増加，白血球数増加，血小板数減少，白血球数減少

2 個々の器官系用医薬品

心臓障害 右脚ブロック，動悸，上室性期外収縮，頻脈，心室性期外収縮，血圧上昇，心拍数増加 心房細動
耳・迷路障害 回転性眩暈
眼障害 霧視
胃腸障害 便秘，口内乾燥 腹部不快感，腹部膨満，下痢，十二指腸潰瘍，胃炎，口内炎 悪心，嘔吐，腹痛，上腹部痛，下腹部痛
全身障害・投与局所様態 倦怠感，浮腫，口渇 胸部不快感，胸痛
肝胆道系障害 AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇，AI－P上昇 ビリルビン上昇
感染症 尿沈渣異常 膀胱炎
代謝・栄養障害 CK上昇 CK減少，血中ブドウ糖増加，血中ブドウ糖減少，コレステロール上昇，尿酸上昇 食欲減退
神経系障害 浮動性眩暈，頭痛 振戦，感覚鈍麻，傾眠
腎・尿路障害 尿中蛋白陽性 尿中ブドウ糖陽性，クレアチニン上昇，BUN上昇，BUN減少，残尿
皮膚・皮下組織障害 発疹，蕁麻疹 掻痒症
血管障害 高血圧
（表終了）

マグセント注100mL（100mL1瓶）

内 注射 流通

【YJコード】2590500A1023
【薬効分類】2．5．9 その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬
【一般名】硫酸マグネシウム水和物・ブドウ糖
【メーカー】製)あすか製薬 販)武田薬品工業 販)鳥居薬品
【薬価】2443円/1V
【薬価収載日】2006/04/28
【標榜薬効】切迫早産における子宮収縮抑制剤／子癇の発症抑制・治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．切迫早産の子宮収縮の抑制
2．重症妊娠高血圧症候群の子癇の発症抑制・治療
注意
切迫早産の子宮収縮の抑制
1．切迫早産の妊娠延長に関する硫酸マグネシウム水和物の有効性・安全性は未確立。
2．切迫早産では，副作用等でリトドリン塩酸塩の投与が制限される時，又はリトドリン塩酸塩で収縮が抑制されない時に投与。
3．妊娠35週以下・推定胎児体重2500g未満の切迫早産に使用。
4．妊娠22週未満の切迫流産の有効性・安全性は未確立。
【用法用量】1．切迫早産の子宮収縮の抑制
初回量 40mL(硫酸マグネシウム水和物 4g) 20分以上かけ 静注後，10mL(硫酸マグネシウム水和物 1g)／時 持続静注。
子宮収縮が抑制されない時 5mL(硫酸マグネシウム水和物 0．5g)／時ずつ増量。最大20mL(硫酸マグネシウム水和物 2g)／時。
子宮収縮抑制後は漸減し，子宮収縮の再発なければ中止。
持続注入ポンプを使用。
2．重症妊娠高血圧症候群の子癇の発症抑制・治療
初回量 40mL(硫酸マグネシウム水和物 4g) 20分以上かけ 静注後，10mL(硫酸マグネシウム水和物 1g)／時 持続静注。症状により 5mL(硫酸マグネシウム水和物 0．5g)／時ずつ増量。最大20mL(硫酸マグネシウム水和物 2g)／時。初回投与時を除き，持続注入ポンプを使用。
注意
1．プラスチック瓶のまま初回量として使用しない。40mL(硫酸マグネシウム水和物 4g)をシリンジに吸引して使用し，残液は持続注入ポンプで持続静注。
2．投与は48時間とし，継続する時は有益性が危険性を上回る時のみ，漫然投与しない。

■禁忌

【禁忌】1．重症筋無力症。
2．心ブロックの既往。
3．低張性脱水症。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．マグネシウム中毒(眼瞼下垂，膝蓋腱反射の消失，筋緊張低下，心電図異常(房室ブロック，伝導障害)，呼吸数低下，呼吸困難等(各頻度不明))。
2．心(肺)停止，呼吸停止，呼吸不全(各頻度不明)。
3．横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)。
4．肺水腫(頻度不明)(呼吸困難，胸部圧迫感，頻脈等)。
5．イレウス(腸管麻痺)(頻度不明)(嘔吐，腹部膨満等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
血液 鼻出血 凝血異常
呼吸器 呼吸困難
循環器 心悸亢進(動悸)，不整脈，胸痛，潮紅 うっ血性心不全
消化器 口渇，嘔気，嘔吐，食欲不振
肝臓 肝機能障害[AST，ALTの上昇] 肝不全
腎臓 急性腎不全
精神神経系 熱感，倦怠感 無力症，頭痛，視力異常，調節障害，複視，反射減退，知覚減退(しびれ)，浮動性眩暈，振戦 意識障害
代謝異常 高マグネシウム血症 低カルシウム血症，高カリウム血症，電解質異常
過敏症 中毒疹
投与部位 血管痛
女性生殖 乳房うっ滞，乳汁漏出，外陰浮腫
その他 尿崩症，乏尿，踵骨骨折
（表終了）

リトドリン塩酸塩点滴静注液50mg「あすか」（1%5mL1管）

内 注射 後発 流通
劇

【YJコード】2590402A1288
【薬効分類】2．5．9 その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬
【一般名】リトドリン塩酸塩
【先発品】ウテメリン注50mg
【メーカー】製)あすか製薬 販)武田薬品工業
【薬価】482円/1A
【薬価収載日】2018/06/15
【標榜薬効】切迫流・早産治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】緊急治療を要する切迫流・早産
注意
1．対象は，入院治療等緊急を要する切迫流・早産患者。子宮収縮，頸管の開大・展退，出血等の程度を判断して使用。緊急状態を離脱後は，不必要な投与は避ける。
2．頸管の開大が5cm以上の安全性・有効性は未確立。
3．妊娠35週以下・推定胎児体重2500g未満の切迫流・早産に使用。
【用法用量】リトドリン塩酸塩 50μg／分から開始 点滴静注(1アンプル(5mL)を5%ブドウ糖液又は10%マルトース注射液500mLに希釈)。
適宜増減。
子宮収縮の抑制後は漸減し，50μg／分以下の維持で収縮再発なければ投与中止。
有効用量 50～150μg／分。注入薬量 200μg／分まで。

■禁忌

【禁忌】1．強度の子宮出血，子癇，前期破水例のうち子宮内感染を合併する症例，常位胎盤早期剥離，子宮内胎児死亡，その他妊娠の継続が危険。
2．重篤な甲状腺機能亢進症。
3．重篤な高血圧症。
4．重篤な心疾患。
5．重篤な糖尿病。
6．重篤な肺高血圧症。
7．妊娠16週未満。
8．本剤の成分に重篤な過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．肺水腫，心不全(頻度不明)，急性心不全の合併(呼吸困難，胸部圧迫感，咳嗽，頻脈，低酸素血症等)。
2．汎血球減少，無顆粒球症，白血球減少，血小板減少(頻度不明)。
3．ショック(頻度不明)(蒼白，チアノーゼ，血圧低下等)。
4．心室頻拍等の重篤な不整脈(頻度不明)。
5．肝機能障害(AST，ALTの上昇等)，黄疸(頻度不明)。
6．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)(発熱，紅斑，掻痒感，眼充血，口内炎等)。
7．横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)。
8．血清カリウム値の低下(頻度不明)。
9．胸水(頻度不明)。
10．高血糖，糖尿病性ケトアシドーシス(頻度不明)(血糖値の急激な上昇，糖尿病の悪化)。
11．腸閉塞(頻度不明)。
12．新生児腸閉塞(頻度不明)。
13．胎児・新生児の心不全(頻度不明)。
14．可逆的な新生児心室中隔壁の肥大(頻度不明)。
15．新生児低血糖(頻度不明)。
16．新生児高カリウム血症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
循環器 動悸・頻脈 顔面潮紅，顔面疼痛 心電図異常(ST・Tの異常)，上室性頻拍，血圧の変動，息苦しさ，胸痛
肝臓 肝機能障害(AST，ALTの上昇等)
血液 血小板減少，貧血
精神神経系 振戦，頭痛，四肢末梢熱感，脱力感，発汗，眩暈 しびれ感
消化器 嘔気，嘔吐，便秘 下痢
過敏症 発疹 多形滲出性紅斑，腫脹，掻痒
投与部位 血管痛，静脈炎
その他 尿糖の変動，発熱，冷汗 唾液腺腫脹，高アミラーゼ血症(唾液腺型アミラーゼ増加)，一過性の血糖上昇，CK上昇，倦怠感，こわばり，咳嗽

2 個々の器官系用医薬品

胎児・新生児　胎児頻脈，胎児不整脈，新生児頻脈，新生児腎機能障害，新生児呼吸障害（多呼吸等）
（表終了）

2．6 外皮用薬

2．6．1 外皮用殺菌消毒剤

0．1%グルコジンW水（0．1%10mL）

両 外用 流通

【YJコード】2619702X1056
【薬効分類】2．6．1 外皮用殺菌消毒剤
【一般名】クロルヘキシジングルコン酸塩
【メーカー】製)ヤクハン製薬 販)長堀薬品 販)日医工 販)日興製薬販売販)ニプロ
【薬価】6.8円/10mL
【薬価収載日】2000/07/07
【標榜薬効】殺菌消毒剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇手指・皮膚の消毒
〇手術部位（手術野）の皮膚の消毒
〇皮膚の創傷部位の消毒
〇医療機器の消毒
〇手術室・病室・家具・器具・物品等の消毒
〇結膜嚢の洗浄・消毒
〇産婦人科・泌尿器科の外陰・外性器の皮膚消毒
【用法用量】手指・皮膚の消毒，手術部位（手術野）の皮膚の消毒，医療機器の消毒
0．1%水溶液使用。
皮膚の創傷部位の消毒，手術室・病室・家具・器具・物品等の消毒
0．05%水溶液使用。
結膜嚢の洗浄・消毒
0．05%以下の水溶液使用。
産婦人科・泌尿器科の外陰・外性器の皮膚消毒
0．02%水溶液使用。

■禁忌
【禁忌】1．クロルヘキシジン製剤に過敏症の既往。
2．脳，脊髄，耳（内耳，中耳，外耳）には使用しない。
3．膣，膀胱，口腔等の粘膜面には使用しない。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック（0．1%未満），アナフィラキシー（頻度不明）（血圧低下，蕁麻疹，呼吸困難等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1%未満
過敏症 発疹，蕁麻疹
（表終了）

アルキニン液10（10%10mL）

両 外用 後発

【YJコード】2619716Q1150
【薬効分類】2．6．1 外皮用殺菌消毒剤
【一般名】アルキルジアミノエチルグリシン塩酸塩
【メーカー】製)ヤクハン製薬
【薬価収載日】2004/07/09 【経過措置期限】2018/03/31
【標榜薬効】殺菌消毒剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．医療機器の消毒
2．手術室・病室・家具・器具・物品等の消毒
3．手指・皮膚の消毒
4．手術部位（手術野）の皮膚の消毒
5．手術部位（手術野）の粘膜の消毒，皮膚・粘膜の創傷部位の消毒
【用法用量】下記の濃度に水で希釈，下記のように使用。
（表開始）
効能・効果 用法・用量（本剤希釈倍数）
医療機器の消毒 0．05～0．2%溶液（50～200倍）に10～15分間浸漬。結核；0．2～0．5%溶液（20～50倍）使用。
手術室・病室・家具・器具・物品等の消毒 0．05～0．2%溶液（50～200倍）を布片で塗布・清拭，又は噴霧。結核；0．2～0．5%溶液（20～50倍）使用。
手指・皮膚の消毒 0．05～0．2%溶液（50～200倍）で約5分間洗った後，滅菌ガーゼ，布片で清拭。
手術部位（手術野）の皮膚の消毒 0．1%溶液（100倍）で約5分間洗った後，0．2%溶液（50倍）を塗布。
手術部位（手術野）の粘膜の消毒 皮膚・粘膜の創傷部位の消毒 0．01～0．05%溶液（200～1000倍）使用。
（表終了）

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感等
（表終了）

イソジンゲル10%（10%10g）

両 外用 流通

【YJコード】2612701Q2109
【薬効分類】2．6．1 外皮用殺菌消毒剤
【一般名】ポビドンヨード
【メーカー】製)iNovaPharmaceuticalsJapan 販)塩野義製薬 販)Meiji Seikaファルマ
【薬価】42.2円/10g
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】殺菌消毒剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】皮膚・粘膜の創傷部位の消毒，熱傷皮膚面の消毒
【用法用量】皮膚・粘膜の創傷部位の消毒，熱傷皮膚面の消毒
塗布。

■禁忌
【禁忌】本剤・ヨウ素に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック（0．1%未満），アナフィラキシー（0．1%未満）（呼吸困難，不快感，浮腫，潮紅，蕁麻疹等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1%未満
過敏症 発疹
皮膚 接触皮膚炎，掻痒感，灼熱感，皮膚潰瘍
甲状腺 血中甲状腺ホルモン値（T3，T4値等）の上昇・低下等の甲状腺機能異常
（表終了）

エタノール「ケンエー」（10mL）

両 外用 流通

【YJコード】2615702X1430
【薬効分類】2．6．1 外皮用殺菌消毒剤
【一般名】エタノール
【メーカー】製)健栄製薬
【薬価】29.7円/10mL
【薬価収載日】1993/10/01
【標榜薬効】殺菌消毒剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】手指・皮膚の消毒，手術部位（手術野）の皮膚の消毒，医療機器の消毒
【用法用量】83．0mLを精製水で希釈して100．0mLとし 消毒部位に塗布。

■禁忌
【禁忌】損傷皮膚・粘膜には使用しない。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹等
皮膚 刺激症状
（表終了）

オキシドール「ヤクハン」（10mL）

両 外用 流通

【YJコード】2614700X1255
【薬効分類】2．6．1 外皮用殺菌消毒剤
【一般名】オキシドール
【メーカー】製)ヤクハン製薬 販)岩城製薬 販)日医工
【薬価】7.7円/10mL
【標榜薬効】殺菌消毒剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．創傷・潰瘍の殺菌・消毒

2 個々の器官系用医薬品

2. 外耳・中耳の炎症，鼻炎，咽喉頭炎，扁桃炎等の粘膜の炎症
3. 口腔粘膜の消毒，齲窩・根管の清掃・消毒，歯の清浄，口内炎の洗口
【用法用量】創傷・潰瘍
原液のまま，又は2～3倍希釈し　塗布・洗浄。
耳鼻咽喉
原液のまま　塗布・滴下，又は2～10倍（耳科　ときにグリセリン，アルコールで希釈）希釈し　洗浄・噴霧・含嗽。
口腔
口腔粘膜の消毒，齲窩・根管の清掃・消毒，歯の清浄 原液，又は2倍希釈し　洗浄・拭掃。
口内炎の洗口 10倍希釈し　洗口。

■禁忌
【禁忌】瘻孔，挫創等の体腔にしみ込むおそれのある部位には使用しない。

■副作用
【副作用】重大な副作用
空気塞栓（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
口腔 口腔粘膜刺激
（表終了）

産婦人科用イソジンクリーム5%（5%10g）

内　外用　流通

【YJコード】2612701N1033
【薬効分類】2．6．1　外皮用殺菌消毒剤
【一般名】ポビドンヨード
【メーカー】製)iNovaPharmaceuticalsJapan　販)塩野義製薬　販)Meiji Seikaファルマ
【薬価】63.6円/10g
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】殺菌消毒剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○分娩時，産婦の外陰部，外陰部周囲，腟消毒
○腟検査の腟消毒
【用法用量】外陰部，外陰部周囲，腟内　塗布・注入。

■禁忌
【禁忌】1．本剤・ヨウ素に過敏症の既往。
2．甲状腺機能に異常。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック（0．1%未満），アナフィラキシー（0．1%未満）（呼吸困難，不快感，浮腫，潮紅，蕁麻疹等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1%未満
過敏症 発疹
皮膚・粘膜 接触皮膚炎，掻痒感，灼熱感，皮膚潰瘍
甲状腺 血中甲状腺ホルモン値（T3，T4値等）の上昇・低下等の甲状腺機能異常
（表終了）

ステリクロンW液0．05（0．05%10mL）

両　外用　流通

【YJコード】2619702X2028
【薬効分類】2．6．1　外皮用殺菌消毒剤
【一般名】クロルヘキシジングルコン酸塩
【メーカー】製)健栄製薬
【薬価】6.8円/10mL
【薬価収載日】1994/07/08
【標榜薬効】殺菌消毒剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○皮膚の創傷部位の消毒，手術室・病室・家具・器具・物品等の消毒
○結膜嚢の洗浄・消毒，産婦人科・泌尿器科の外陰・外性器の皮膚消毒
【用法用量】（表開始）
効能・効果 用法・用量
皮膚の創傷部位の消毒，手術室・病室・家具・器具・物品等の消毒 0．05%水溶液使用。
結膜嚢の洗浄・消毒 0．05%以下の水溶液使用。
産婦人科・泌尿器科の外陰・外性器の皮膚消毒 0．02%水溶液使用。
（表終了）

■禁忌
【禁忌】1．クロルヘキシジン製剤に過敏症の既往。
2．脳，脊髄，耳（内耳，中耳，外耳）には使用しない。
3．腟，膀胱，口腔等の粘膜面には使用しない。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック（0．1%未満），アナフィラキシー（頻度不明）（血圧低下，蕁麻疹，呼吸困難等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1%未満
過敏症 発疹，蕁麻疹
（表終了）

タマガワヨードホルムガーゼ

両　外用　流通

【YJコード】261270BS1023
【薬効分類】2．6．1　外皮用殺菌消毒剤
【一般名】ヨードホルム
【メーカー】製)玉川衛材

■効能効果・用法用量
【効能効果】創傷・潰瘍の殺菌・消毒
【用法用量】消毒性包帯材料として使用。

■禁忌
【禁忌】1．ヨード過敏症。
2．腎障害。
3．心障害。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ヨード中毒（頻度不明）
・精神神経系（興奮，せん妄，不穏，見当識障害，記憶障害，抑うつ，昏睡，失神，傾眠，不眠（睡眠障害）等）。
・消化器（食欲不振等）。
・その他（頭痛，全身倦怠感，頻脈等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1%未満
過敏症 掻痒感，ヨード疹，蕁麻疹様発疹，紅斑，丘疹，水疱等
皮膚 灼熱感等
（表終了）

ポビドンヨード消毒液10%「ケンエー」（10%10mL）

両　外用　後発　流通

【YJコード】2612701Q3474
【薬効分類】2．6．1　外皮用殺菌消毒剤
【一般名】ポビドンヨード
【先発品】イソジン液10%
【メーカー】製)健栄製薬
【薬価】13.1円/10mL
【薬価収載日】2018/06/15
【標榜薬効】殺菌消毒剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】手術部位（手術野）の皮膚の消毒，手術部位（手術野）の粘膜の消毒，皮膚・粘膜の創傷部位の消毒，熱傷皮膚面の消毒，感染皮膚面の消毒
【用法用量】（表開始）
効能・効果 用法・用量
手術部位（手術野）の皮膚の消毒，手術部位（手術野）の粘膜の消毒 塗布。
皮膚・粘膜の創傷部位の消毒，熱傷皮膚面の消毒，感染皮膚面の消毒 塗布。
（表終了）

■禁忌
【禁忌】本剤・ヨウ素に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック（0．1%未満），アナフィラキシー（0．1%未満）（呼吸困難，不快感，浮腫，潮紅，蕁麻疹等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1%未満
過敏症 発疹

2 個々の器官系用医薬品

皮膚 接触皮膚炎，掻痒感，灼熱感，皮膚潰瘍，皮膚変色
甲状腺 血中甲状腺ホルモン値（T3，T4値等）の上昇・低下等の甲状腺機能異常
（表終了）

2．6．3 化膿性疾患用剤

アクアチムクリーム1%（1%1g）

両 外用 流通

【YJコード】2639700N1032
【薬効分類】2．6．3 化膿性疾患用剤
【一般名】ナジフロキサシン
【メーカー】製)大塚製薬
【薬価】20.7円/1g
【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】ニューキノロン系外用抗菌剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種 ブドウ球菌属，アクネ菌
適応症 表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，ざ瘡（化膿性炎症を伴うもの）
【用法用量】1日2回 塗布。
ざ瘡 洗顔後 塗布。
注意
表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症
1．1週間で効果なければ使用中止。
ざ瘡（化膿性炎症を伴うもの）
2．4週間で効果なければ使用中止。炎症性皮疹が消失した時には継続使用しない。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満
皮膚 掻痒感 刺激感，発赤，潮紅，丘疹，顔面の熱感，接触皮膚炎，皮膚乾燥，ほてり感
（表終了）

ゲーベンクリーム1%（1%1g）

両 外用 流通

【YJコード】2633705N1031
【薬効分類】2．6．3 化膿性疾患用剤
【一般名】スルファジアジン銀
【メーカー】製)田辺三菱製薬
【薬価】12.8円/1g
【薬価収載日】2008/12/19
【標榜薬効】外用感染治療剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種 ブドウ球菌属，レンサ球菌属，クレブシエラ属，エンテロバクター属，緑膿菌，カンジダ属
適応症 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，糜爛・潰瘍の二次感染
【用法用量】1日1回 滅菌手袋等で，創面を覆う厚さ（約2～3mm）に直接塗布。
又はガーゼ等に同様の厚さにのばして貼付し 包帯を行う。第2日目以後の塗布時 前日に塗布した本剤を清拭又は温水浴等で洗い落した後，新たに塗布。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分・サルファ剤に過敏症の既往。
2．低出生体重児，新生児。
3．軽症熱傷。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．汎血球減少（頻度不明）。
2．皮膚壊死（頻度不明）。
3．間質性腎炎（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹，接触皮膚炎 発赤，光線過敏症
菌交代現象 耐性菌・非感性菌による化膿性感染症
血液 白血球減少 貧血，血小板減少
皮膚 疼痛
（表終了）

ゲンタマイシン硫酸塩軟膏0．1%「イワキ」（1mg1g）

両 外用 流通

【YJコード】2634710M1085
【薬効分類】2．6．3 化膿性疾患用剤
【一般名】ゲンタマイシン硫酸塩
【メーカー】製)岩城製薬
【薬価】8.7円/1g
【薬価収載日】2014/06/20
【標榜薬効】アミノグリコシド系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種
ブドウ球菌属，レンサ球菌属（肺炎球菌除く），大腸菌，クレブシエラ属，エンテロバクター属，プロテウス属，モルガネラ・モルガニー，プロビデンシア属，緑膿菌
適応症
表在性皮膚感染症，慢性膿皮症，糜爛・潰瘍の二次感染
【用法用量】1日1～数回 塗布，又はガーゼ等にのばして貼付。

■禁忌
【禁忌】本剤・他のアミノグリコシド系抗生剤・バシトラシンに過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹
その他 腎障害，難聴
（表終了）

ソフラチュール貼付剤10cm（（10．8mg）10cm×10cm1枚）

両 外用 流通

【YJコード】2634711S1046
【薬効分類】2．6．3 化膿性疾患用剤
【一般名】フラジオマイシン硫酸塩
【メーカー】製)テイカ製薬 販)サノフィ
【薬価】77.5円/1枚
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】化膿性疾患用剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種
ブドウ球菌属，レンサ球菌属（肺炎球菌除く）
適応症
外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，糜爛・潰瘍の二次感染
【用法用量】1～数枚 直接当て その上を無菌ガーゼで覆う。

■禁忌
【禁忌】ストレプトマイシン，カナマイシン，ゲンタマイシン，フラジオマイシン等のアミノグリコシド系抗生剤・バシトラシンに過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
腎障害，難聴（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，接触皮膚炎
（表終了）

ダラシンTゲル1%（1%1g）

両 外用 流通

【YJコード】2634713M1020
【薬効分類】2．6．3 化膿性疾患用剤
【一般名】クリンダマイシンリン酸エステル
【メーカー】製)佐藤製薬
【薬価】22.6円/1g
【薬価収載日】2002/08/30
【標榜薬効】抗生物質製剤
【区分】抗生剤

2 個々の器官系用医薬品

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種 ブドウ球菌属，アクネ菌
適応症 ざ瘡（化膿性炎症を伴うもの）
【用法用量】1日2回　洗顔後　塗布。
注意
1．塗布する面積は必要最小限にとどめる。
2．4週間で効果なければ使用中止。炎症性皮疹が消失した時には継続使用しない。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・リンコマイシン系抗生剤に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎（頻度不明）（腹痛，頻回の下痢）。
その他の副作用（発現時中止等）（ゲル）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
皮膚　つっぱり感，パリパリ感 グラム陰性菌毛嚢炎，脂性肌
過敏症 掻痒 発赤，蕁麻疹，刺激感，ヒリヒリ感 接触皮膚炎
肝臓　AST，ALT，AI－P，総ビリルビンの上昇，ウロビリノーゲン陽性
その他　白血球増加，血小板増加，総コレステロール低下，尿蛋白，尿糖 消化器障害
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（ローション）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満
過敏症 刺激感 紅斑
肝臓　総ビリルビンの上昇
（表終了）

フシジンレオ軟膏2%（20mg1g）

両　外用　流通

【YJコード】2634708M1037
【薬効分類】2．6．3　化膿性疾患用剤
【一般名】フシジン酸ナトリウム
【メーカー】製)アルフレッサファーマ　販)第一三共
【薬価】25円/1g
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】抗生物質製剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種
ブドウ球菌属
適応症
表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，慢性膿皮症，外傷・熱傷及び手術創等の二次感染
【用法用量】清潔にした後　1日数回　直接塗布，又は無菌ガーゼにのばし貼付。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～2%未満
過敏症 発疹
投与部位 疼痛・刺激感
（表終了）

2．6．4　鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤

亜鉛華（10%）単軟膏「ニッコー」（10g）

両　外用　後発　流通

【YJコード】2649710M2050
【薬効分類】2．6．4　鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】亜鉛華
【メーカー】製)日興製薬　販)エビス製薬　販)健栄製薬　販)日興製薬販売　販)丸石製薬
【薬価】26.7円/10g
【標榜薬効】収斂・消炎・保護剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○下記の収斂・消炎・保護・緩和な防腐
外傷，熱傷，凍傷，湿疹・皮膚炎，肛門掻痒症，白癬，面皰，せつ，よう
○その他の皮膚疾患による糜爛・潰瘍・湿潤面
【用法用量】1日1～数回　塗擦・貼布。

■禁忌
【禁忌】重度・広範囲の熱傷には使用しない。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 過敏症状
皮膚 発疹，刺激感等
（表終了）

アズノール軟膏0．033%（0．033%10g）

両　外用　流通

【YJコード】2649716M1042
【薬効分類】2．6．4　鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】ジメチルイソプロピルアズレン
【メーカー】製)日本新薬
【薬価】80.3円/10g
【薬価収載日】2005/06/10
【標榜薬効】炎症性皮膚疾患治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．湿疹
2．熱傷・その他の疾患による糜爛・潰瘍
【用法用量】1日数回　塗布。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～1%未満 頻度不明
皮膚 皮膚刺激感等の過敏症状 接触性皮膚炎
（表終了）

アンテベートクリーム0．05%（0．05%1g）

両　外用　流通
劇

【YJコード】2646730N1054
【薬効分類】2．6．4　鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】ベタメタゾン酪酸エステルプロピオン酸エステル
【メーカー】製)鳥居薬品
【薬価】18.9円/1g
【薬価収載日】2008/12/19
【標榜薬効】外用副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】湿疹・皮膚炎群（手湿疹，進行性指掌角皮症，脂漏性皮膚炎含む），乾癬，虫さされ，薬疹・中毒疹，痒疹群（ストロフルス，蕁麻疹様苔癬，結節性痒疹含む），紅皮症，紅斑症（多形滲出性紅斑，ダリエ遠心性環状紅斑），ジベルバラ色粃糠疹，掌蹠膿疱症，扁平紅色苔癬，慢性円板状エリテマトーデス，肉芽腫症（サルコイドーシス，環状肉芽腫），特発性色素性紫斑（マヨッキー紫斑，シャンバーク病），円形脱毛症，肥厚性瘢痕・ケロイド，悪性リンパ腫（菌状息肉症含む），アミロイド苔癬，水疱症（天疱瘡群，ジューリング疱疹状皮膚炎・水疱性類天疱瘡）
注意
皮膚感染を伴う湿疹・皮膚炎には使用しない，必要時は，抗菌剤（全身適用），抗真菌剤による治療・併用を考慮。
【用法用量】1日1～数回　塗布。

■禁忌
【禁忌】1．細菌・真菌・スピロヘータ・ウイルス皮膚感染症，動物性皮膚疾患（疥癬，毛じらみ等）。
2．本剤の成分に過敏症の既往。
3．鼓膜に穿孔のある湿疹性外耳道炎。
4．潰瘍（ベーチェット病除く），第2度深在性以上の熱傷・凍傷。

■副作用
【副作用】重大な副作用
眼圧亢進，緑内障，白内障（頻度不明），後嚢下白内障。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚の感染症 皮膚の真菌症（カンジダ症，白癬等），細菌感染症（伝染性膿痂疹，毛嚢炎・せつ等）　ウイルス感染症
その他の皮膚症状 ざ瘡（ざ瘡様発疹，ステロイドざ瘡等），ステロイド皮

2 個々の器官系用医薬品

膚(皮膚萎縮，毛細血管拡張，ステロイド潮紅等) ステロイド酒さ・口囲皮膚炎(口囲，顔面全体に紅斑，丘疹，毛細血管拡張，痂皮，鱗屑)，紅斑，紫斑，多毛，色素脱失，色素沈着 魚鱗癬様皮膚変化
その他の皮膚症状 刺激感，湿疹(発赤，苔癬化，腫脹，糜爛等) 接触皮膚炎，皮膚乾燥，掻痒
過敏症　皮膚の刺激感，発疹等
下垂体・副腎皮質系機能　下垂体・副腎皮質系機能の抑制
(表終了)

アンテベート軟膏0．05%（0．05%1g）

両 外用 流通
劇

【YJコード】2646730M1059
【薬効分類】2．6．4　鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】ベタメタゾン酪酸エステルプロピオン酸エステル
【メーカー】製)鳥居薬品
【薬価】18.9円/1g
【薬価収載日】2008/12/19
【標榜薬効】外用副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】湿疹・皮膚炎群(手湿疹，進行性指掌角皮症，脂漏性皮膚炎含む)，乾癬，虫ささされ，薬疹・中毒疹，痒疹群(ストロフルス，蕁麻疹様苔癬，結節性痒疹含む)，紅皮症，紅斑症(多形滲出性紅斑，ダリエ遠心性環状紅斑)，ジベルバラ色粃糠疹，掌蹠膿疱症，扁平紅色苔癬，慢性円板状エリテマトーデス，肉芽腫症(サルコイドーシス，環状肉芽腫)，特発性色素性紫斑(マヨッキー紫斑，シャンバーク病)，円形脱毛症，肥厚性瘢痕・ケロイド，悪性リンパ腫(菌状息肉症含む)，アミロイド苔癬，水疱症(天疱瘡群，ジューリング疱疹状皮膚炎・水疱性類天疱瘡)
注意
皮膚感染を伴う湿疹・皮膚炎には使用しない，必要時は，抗菌剤(全身適用)，抗真菌剤による治療・併用を考慮。
【用法用量】1日1～数回　塗布。

■禁忌
【禁忌】1．細菌・真菌・スピロヘータ・ウイルス皮膚感染症，動物性皮膚疾患(疥癬，毛じらみ等)。
2．本剤の成分に過敏症の既往。
3．鼓膜に穿孔のある湿疹性外耳道炎。
4．潰瘍(ベーチェット病除く)，第2度深在性以上の熱傷・凍傷。

■副作用
【副作用】重大な副作用
眼圧亢進，緑内障，白内障(頻度不明)，後嚢下白内障。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚の感染症 皮膚の真菌症(カンジダ症，白癬等)，細菌感染症(伝染性膿痂疹，毛嚢炎・せつ等)　ウイルス感染症
その他の皮膚症状 ざ瘡(ざ瘡様発疹，ステロイドざ瘡等)，ステロイド皮膚(皮膚萎縮，毛細血管拡張，ステロイド潮紅等) ステロイド酒さ・口囲皮膚炎(口囲，顔面全体に紅斑，丘疹，毛細血管拡張，痂皮，鱗屑)，紅斑，紫斑，多毛，色素脱失，色素沈着 魚鱗癬様皮膚変化
その他の皮膚症状 刺激感，湿疹(発赤，苔癬化，腫脹，糜爛等) 接触皮膚炎，皮膚乾燥，掻痒
過敏症　皮膚の刺激感，発疹等
下垂体・副腎皮質系機能　下垂体・副腎皮質系機能の抑制
(表終了)

アンテベートローション0．05%（0．05%1g）

両 外用 流通
劇

【YJコード】2646730Q1026
【薬効分類】2．6．4　鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】ベタメタゾン酪酸エステルプロピオン酸エステル
【メーカー】製)鳥居薬品
【薬価】18.9円/1g
【薬価収載日】2002/07/05
【標榜薬効】外用副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】湿疹・皮膚炎群(手湿疹，進行性指掌角皮症，脂漏性皮膚炎含む)，乾癬，虫ささされ，薬疹・中毒疹，痒疹群(ストロフルス，蕁麻疹様苔癬，結節性痒疹含む)，紅皮症，紅斑症(多形滲出性紅斑，ダリエ遠心性環状紅斑)，ジベルバラ色粃糠疹，掌蹠膿疱症，扁平紅色苔癬，慢性円板状エリテマトーデス，肉芽腫症(サルコイドーシス，環状肉芽腫)，特発性色素性紫斑(マヨッキー紫斑，シャンバーク病)，円形脱毛症，肥厚性瘢痕・ケロイド，悪性リンパ腫(菌状息肉症含む)，アミロイド苔癬，水疱症(天疱瘡群，ジューリング疱疹状皮膚炎・水疱性類天疱瘡)
注意
皮膚感染を伴う湿疹・皮膚炎には使用しない，必要時は，抗菌剤(全身適用)，抗真菌剤による治療・併用を考慮。
【用法用量】1日1～数回　塗布。

■禁忌
【禁忌】1．細菌・真菌・スピロヘータ・ウイルス皮膚感染症，動物性皮膚疾患(疥癬，毛じらみ等)。
2．本剤の成分に過敏症の既往。
3．鼓膜に穿孔のある湿疹性外耳道炎。
4．潰瘍(ベーチェット病除く)，第2度深在性以上の熱傷・凍傷。

■副作用
【副作用】重大な副作用
眼圧亢進，緑内障，白内障(頻度不明)，後嚢下白内障。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚の感染症 皮膚の真菌症(カンジダ症，白癬等)，細菌感染症(伝染性膿痂疹，毛嚢炎・せつ等)　ウイルス感染症
その他の皮膚症状 ざ瘡(ざ瘡様発疹，ステロイドざ瘡等)，ステロイド皮膚(皮膚萎縮，毛細血管拡張，ステロイド潮紅等) ステロイド酒さ・口囲皮膚炎(口囲，顔面全体に紅斑，丘疹，毛細血管拡張，痂皮，鱗屑)，紅斑，紫斑，多毛，色素脱失，色素沈着 魚鱗癬様皮膚変化
その他の皮膚症状 刺激感，湿疹(発赤，苔癬化，腫脹，糜爛等) 接触皮膚炎，皮膚乾燥，掻痒
過敏症　皮膚の刺激感，発疹等
下垂体・副腎皮質系機能　下垂体・副腎皮質系機能の抑制
(表終了)

インテバン外用液1%（1%1mL）

両 外用 流通

【YJコード】2649719Q2087
【薬効分類】2．6．4　鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】インドメタシン
【メーカー】製)帝國製薬　販)住友ファーマ
【薬価】3.3円/1mL
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】経皮鎮痛消炎剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の鎮痛・消炎
変形性関節症，肩関節周囲炎，腱・腱鞘炎，腱周囲炎，上腕骨上顆炎(テニス肘等)，筋肉痛，外傷後の腫脹・疼痛
【用法用量】1日数回　塗布。

■禁忌
【禁忌】1．本剤・他のインドメタシン製剤に過敏症の既往。
2．アスピリン喘息・その既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)(軟膏，外用液)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
皮膚 掻痒，発赤，発疹 ヒリヒリ感，乾燥感，熱感，腫脹
(表終了)
その他の副作用(発現時中止等)(クリーム)
(表開始)
発現部位等 0．1%未満
皮膚 発疹，掻痒，発赤，ヒリヒリ感，乾燥感，腫脹，熱感
(表終了)

エキザルベ（1g）

両 外用 流通

【YJコード】2649852M1020
【薬効分類】2．6．4　鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】混合死菌製剤
【メーカー】製)マルホ
【薬価】29.8円/1g
【標榜薬効】皮膚疾患治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．湿潤，糜爛，結痂を伴うか，二次感染併発の下記湿疹・皮膚炎群(進行性指掌角皮症，ビダール苔癬，放射線皮膚炎，日光皮膚炎含む)，熱傷，術創
2．湿疹様変化を伴う膿皮症(感染性湿疹様皮膚炎，湿疹様膿痂疹)
【用法用量】1日1～数回　直接塗布，塗擦，又は無菌ガーゼ等にのばして貼付。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．皮膚結核，単純疱疹，水痘，帯状疱疹，種痘疹。
2．真菌症(カンジダ症，白癬等)。

2 個々の器官系用医薬品

3. 本剤に過敏症の既往。
4. 潰瘍(ベーチェット病除く)，第2度深在性以上の熱傷・凍傷。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 皮膚刺激感，発赤，発疹，灼熱感 接触皮膚炎
皮膚 湿潤 真菌感染症(カンジダ症，白癬等)，ウイルス感染症，細菌感染症(伝染性膿痂疹，毛嚢炎等)，ステロイドざ瘡，ステロイド皮膚(皮膚萎縮，毛細血管拡張)，魚鱗癬様変化，紫斑，多毛症，色素脱失
眼 後嚢白内障，緑内障
内分泌系 下垂体・副腎皮質系機能の抑制
(表終了)

エクラープラスター20μg／cm2((1．5mg)7．5cm×10cm)

両 外用 流通

【YJコード】2646729S2035
【薬効分類】2．6．4 鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】デプロドンプロピオン酸エステル
【メーカー】製)久光製薬
【薬価】37.7円/1枚
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】外用副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】湿疹・皮膚炎群(進行性指掌角皮症，ビダール苔癬含む)，虫さされ，痒疹群(蕁麻疹様苔癬，ストロフルス，結節性痒疹(固定蕁麻疹)含む)，乾癬，掌蹠膿疱症，肥厚性瘢痕・ケロイド，扁平紅色苔癬，慢性円板状エリテマトーデス，環状肉芽腫
注意
皮膚感染を伴う湿疹・皮膚炎には使用しない，必要時は，抗菌剤(全身適用)，抗真菌剤による治療・併用を考慮。
【用法用量】患部を洗浄，乾燥後，膏体面被覆ポリエステルフィルムに付着させたまま適当な大きさに切り取り，ポリエステルフィルムを取り除き，膏体面を当てて貼付。貼付後，12時間又は24時間ごと 貼りかえ。
必要時 夜間のみ貼付もできる。
貼りかえ時 患部の洗浄・乾燥。

■禁忌
【禁忌】1．細菌・真菌・スピロヘータ・ウイルス皮膚感染症，動物性皮膚疾患(疥癬，毛じらみ等)。
2．本剤の成分に過敏症の既往。
3．鼓膜に穿孔のある湿疹性外耳道炎。
4．潰瘍(ベーチェット病除く)，第2度深在性以上の熱傷・凍傷。
5．血清の浸出している病巣，特に発汗の強い部位。

■副作用
【副作用】重大な副作用
緑内障，後嚢白内障(頻度不明)，眼圧亢進。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上又は頻度不明 0．1～5%未満
皮膚の感染症 皮膚の真菌性(カンジダ症，白癬等)・細菌性(伝染性膿痂疹，毛嚢炎，せつ等)感染症，ウイルス感染症
その他の皮膚症状 ステロイドざ瘡(白色の面皰が多発する傾向)，ステロイド酒さ・口囲皮膚炎(顔面の紅斑，丘疹，毛細血管拡張，痂皮，鱗屑)，掻痒，疼痛，ヒリヒリ感，潮紅，紫斑，水疱，糜爛等の皮膚刺激症状・汗疹，過乾燥，亀裂，出血，貼付部位のムレ・悪臭，皮疹の悪化 ステロイド皮膚(皮膚萎縮，毛細血管拡張)，魚鱗癬様皮膚変化，紫斑，多毛，色素脱失等
過敏症 皮膚の刺激感，発疹等
下垂体・副腎皮質系機能 下垂体・副腎皮質系機能の抑制
(表終了)

オイラックスクリーム10%（10%10g）

両 外用 流通

【YJコード】2649722N1027
【薬効分類】2．6．4 鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】クロタミトン
【メーカー】製)日新製薬 販)ノバルティスファーマ
【薬価】58.1円/10g
【薬価収載日】2006/12/08
【標榜薬効】鎮痒剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】湿疹，蕁麻疹，神経皮膚炎，皮膚掻痒症，小児ストロフルス
注意
炎症が強い浸出性の皮膚炎は，外用剤の使用で炎症軽減後もかゆみが残る場合に使用。
【用法用量】1日数回 塗布・塗擦。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 頻度不明
過敏症 皮膚の刺激感(熱感，ひりひり感等)・接触性皮膚炎(発赤等)
掻痒，発疹，湿疹，紅斑，血管浮腫
(表終了)

ケトプロフェンテープS20mg「テイコク」（7cm×10cm1枚）

両 外用 後発 流通

【YJコード】2649729S2290
【薬効分類】2．6．4 鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】ケトプロフェン
【先発品】モーラステープ20mg
【メーカー】製)帝國製薬 販)日本ジェネリック
【薬価】12.7円/1枚
【薬価収載日】2023/09/25
【標榜薬効】経皮鎮痛消炎剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇下記の鎮痛・消炎
腰痛症(筋・筋膜性腰痛症，変形性脊椎症，椎間板症，腰椎捻挫)，変形性関節症，肩関節周囲炎，腱・腱鞘炎，腱周囲炎，上腕骨上顆炎(テニス肘等)，筋肉痛，外傷後の腫脹・疼痛
〇関節リウマチにおける関節局所の鎮痛
注意
重篤な接触皮膚炎，光線過敏症の可能性，重度の全身性発疹の報告あり，有益性が危険性を上回る時のみ使用。
【用法用量】1日1回 貼付。

■禁忌
【禁忌】1．本剤・本剤の成分に過敏症の既往。
2．アスピリン喘息・その既往。
3．チアプロフェン酸・スプロフェン・フェノフィブラート・オキシベンゾン・オクトクリレン含有製品(サンスクリーン，香水等)に過敏症の既往。
4．光線過敏症の既往。
5．妊娠後期。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック(頻度不明)，アナフィラキシー(0．1%未満)(蕁麻疹，呼吸困難，顔面浮腫等)。
2．喘息発作の誘発(アスピリン喘息)(0．1%未満)(乾性ラ音，喘鳴，呼吸困難感等)。
3．接触皮膚炎(5%未満，重篤例は頻度不明)(発疹・発赤，掻痒感，刺激感，紅斑等の悪化，腫脹，浮腫，水疱・糜爛等の重度の皮膚炎症状，色素沈着，色素脱失，全身の皮膚炎症状)。
4．光線過敏症(頻度不明)(強い掻痒を伴う紅斑，発疹，刺激感，腫脹，浮腫，水疱・糜爛等の重度の皮膚炎症状，色素沈着，色素脱失，全身の皮膚炎症状)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚 局所の発疹，発赤，腫脹，掻痒感，刺激感，水疱・糜爛，色素沈着 皮下出血 皮膚剥脱
過敏症 蕁麻疹，眼瞼浮腫，顔面浮腫
消化器 消化性潰瘍
(表終了)

スタデルムクリーム5%（5%1g）

両 外用 流通

【YJコード】2649728N1075
【薬効分類】2．6．4 鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】イブプロフェンピコノール
【メーカー】製)鳥居薬品
【薬価】11.1円/1g
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】非ステロイド系消炎・鎮痛剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】急性湿疹，接触皮膚炎，アトピー皮膚炎，慢性湿疹，酒さ様皮膚炎・口囲皮膚炎，帯状疱疹，尋常性ざ瘡
【用法用量】(表開始)
効能・効果 用法・用量
急性湿疹，接触皮膚炎，アトピー皮膚炎，慢性湿疹，酒さ様皮膚炎・口囲皮膚炎 1日数回 塗布。
帯状疱疹 1日1～2回 貼布。

2 個々の器官系用医薬品

尋常性ざ瘡 1日数回 石鹸で洗顔後 塗布。
（表終了）

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
皮膚 刺激感 つっぱり感，掻痒感，症状の悪化，色素沈着 接触皮膚炎（発疹，腫脹，水疱・糜爛，熱感，鱗屑等），膿疱，皮膚乾燥
血管障害 発赤
（表終了）

ダイアコート軟膏0．05%（0．05%1g）

両 外用 流通

【YJコード】2646723M1172
【薬効分類】2．6．4 鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】ジフロラゾン酢酸エステル
【メーカー】製)帝國製薬 販)ファイザー
【薬価】10.9円/1g
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】外用合成副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】湿疹・皮膚炎群（ビダール苔癬，進行性指掌角皮症，脂漏性皮膚炎含む），乾癬，痒疹群（ストロフルス，蕁麻疹様苔癬，固定蕁麻疹含む），掌蹠膿疱症，紅皮症，薬疹・中毒疹，虫さされ，紅斑症（多形滲出性紅斑，ダリエ遠心性環状紅斑，遠心性丘疹性紅斑），慢性円板状エリテマトーデス，扁平紅色苔癬，毛孔性紅色粃糠疹，特発性色素性紫斑（マヨッキー紫斑，シャンバーク病，紫斑性色素性苔癬様皮膚炎含む），肥厚性瘢痕・ケロイド，肉芽腫症（サルコイドーシス，環状肉芽腫），悪性リンパ腫（菌状息肉症含む），皮膚アミロイドーシス（アミロイド苔癬，斑状型アミロイド苔癬含む），天疱瘡群，類天疱瘡（ジューリング疱疹状皮膚炎含む），円形脱毛症
注意
皮膚感染を伴う時は使用しない。
【用法用量】1日1～数回 塗布。

■禁忌
【禁忌】1．細菌・真菌・スピロヘータ・ウイルス皮膚感染症，動物性皮膚疾患（疥癬，毛じらみ等）。
2．本剤の成分に過敏症の既往。
3．鼓膜に穿孔のある湿疹性外耳道炎。
4．潰瘍（ベーチェット病除く），第2度深在性以上の熱傷・凍傷。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．皮膚の細菌性感染症（伝染性膿痂疹，毛嚢炎等）・真菌性感染症（0．53%）（カンジダ症，白癬等）。
2．下垂体・副腎皮質系機能抑制（0．01%）。
3．後嚢白内障・緑内障（頻度不明），眼圧亢進。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～1%未満 0．1%未満
皮膚注1）ステロイド皮膚，ステロイドざ瘡，酒さ様皮膚炎・口囲皮膚炎 乾燥，色素脱失，多毛，魚鱗癬様皮膚変化
過敏症 皮膚の刺激感 掻痒，発疹，灼熱感，接触皮膚炎
（表終了）

テクスメテン軟膏0．1%（0．1%1g）

両 外用 流通
劇

【YJコード】2646700M1155
【薬効分類】2．6．4 鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】ジフルコルトロン吉草酸エステル
【メーカー】製)佐藤製薬
【薬価】19.2円/1g
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】外用合成副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○湿疹・皮膚炎群（進行性指掌角皮症，ビダール苔癬，日光皮膚炎含む）
○乾癬
○掌蹠膿疱症
○痒疹群（蕁麻疹様苔癬，ストロフルス，固定蕁麻疹含む）
○紅皮症
○慢性円板状エリテマトーデス
○アミロイド苔癬
○扁平紅色苔癬
注意
皮膚感染を伴う湿疹・皮膚炎には使用しない，必要時は，抗菌剤（全身適用），抗真菌剤による治療・併用を考慮。
【用法用量】1日1～3回 塗布。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．皮膚結核，梅毒性皮膚疾患，単純疱疹，水痘，帯状疱疹，種痘疹。
3．鼓膜に穿孔のある湿疹性外耳道炎。
4．潰瘍（ベーチェット病除く），第2度深在性以上の熱傷・凍傷。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．眼圧亢進，緑内障（頻度不明）。
2．後嚢白内障，緑内障（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚の感染症 皮膚の真菌性（カンジダ症，白癬等）感染症 皮膚の細菌性（伝染性膿痂疹，毛嚢炎等）感染症
その他の皮膚症状 乾燥感 多毛等 ステロイドざ瘡（白色の面皰が多発する傾向），ステロイド皮膚（皮膚萎縮，毛細血管拡張），ステロイド酒さ・口囲皮膚炎（口囲，顔面全体に紅斑，丘疹，毛細血管拡張，痂皮，鱗屑），魚鱗癬様皮膚変化，紫斑，色素脱失
過敏症 皮膚の刺激感 発疹等
下垂体・副腎皮質系機能 下垂体・副腎皮質系機能の抑制
（表終了）

テラ・コートリル軟膏（1g）

両 外用 流通

【YJコード】2647705M1023
【薬効分類】2．6．4 鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】オキシテトラサイクリン塩酸塩・ヒドロコルチゾン
【メーカー】製)陽進堂 販)ファイザー
【薬価】27.2円/1g
【標榜薬効】抗生物質・副腎皮質ホルモン配合剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種
オキシテトラサイクリン感性菌
適応症
○深在性皮膚感染症，慢性膿皮症
○湿潤，糜爛，結痂を伴うか，二次感染併発の下記
湿疹・皮膚炎群（進行性指掌角皮症，ビダール苔癬，放射線皮膚炎，日光皮膚炎含む）
○外傷・熱傷及び手術創等の二次感染
○歯周組織炎，感染性口内炎，舌炎
【用法用量】1日1～数回 直接塗布，塗擦，又は無菌ガーゼ等にのばして貼付。
口腔内疾患 毎日又は隔日 少量ずつ 注入・塗擦。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．オキシテトラサイクリン耐性菌・非感性菌による皮膚感染。
2．真菌症（白癬，カンジダ症等），皮膚結核，単純疱疹，水痘，種痘疹。
3．本剤の成分・テトラサイクリン系抗生剤に過敏症の既往。
4．潰瘍（ベーチェット病除く），第2度深在性以上の熱傷・凍傷。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
皮膚の感染症 オキシテトラサイクリン耐性菌・非感性菌による感染症，真菌症（白癬，カンジダ症等），ウイルス感染症
過敏症 皮膚の刺激感，発疹，接触性皮膚炎
その他の皮膚症状 ステロイドざ瘡（白色の面皰が多発する傾向），ステロイド皮膚（皮膚萎縮，毛細血管拡張），魚鱗癬様皮膚変化，紫斑，多毛，色素脱失
下垂体・副腎皮質系機能 下垂体・副腎皮質系機能の抑制
眼 眼圧亢進，緑内障
眼 後嚢白内障，緑内障
（表終了）

デルモベートクリーム0．05%（0．05%1g）

両 外用 流通
劇

【YJコード】2646713N1123
【薬効分類】2．6．4 鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】クロベタゾールプロピオン酸エステル
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】14.6円/1g

デルモベートクリーム0．05%

2 個々の器官系用医薬品

【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】外用合成副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 湿疹・皮膚炎群(進行性指掌角皮症, ビダール苔癬, 日光皮膚炎含む)
2. 痒疹群(蕁麻疹様苔癬, ストロフルス, 固定蕁麻疹含む)
3. 掌蹠膿疱症
4. 乾癬
5. 虫さされ
6. 薬疹・中毒疹
7. ジベルバラ色粃糠疹
8. 慢性円板状エリテマトーデス
9. 扁平紅色苔癬
10. 紅皮症
11. 肥厚性瘢痕・ケロイド
12. 肉芽腫症(サルコイドーシス, 環状肉芽腫)
13. アミロイド苔癬
14. 天疱瘡群
15. 類天疱瘡(ジューリング疱疹状皮膚炎含む)
16. 悪性リンパ腫(菌状息肉症含む)
17. 円形脱毛症(悪性含む)
注意
皮膚感染を伴う湿疹・皮膚炎には使用しない, 必要時は, 抗菌剤(全身適用), 抗真菌剤による治療・併用を考慮。
【用法用量】1日1～数回　塗布。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 細菌・真菌・スピロヘータ・ウイルス皮膚感染症, 動物性皮膚疾患(疥癬, 毛じらみ等)。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。
3. 鼓膜に穿孔のある湿疹性外耳道炎。
4. 潰瘍(ベーチェット病除く), 第2度深在性以上の熱傷・凍傷。

■副作用
【副作用】重大な副作用
眼圧亢進, 緑内障, 白内障(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
皮膚の感染症 真菌症(カンジダ症, 白癬等), 細菌感染症(伝染性膿痂疹, 毛嚢炎等), ウイルス感染症
過敏症 紅斑, 発疹, 蕁麻疹, 掻痒, 皮膚灼熱感, 接触性皮膚炎
その他の皮膚症状 ステロイド皮膚(皮膚萎縮, 毛細血管拡張, 紫斑), 色素脱失, 酒さ様皮膚炎・口囲皮膚炎(頬, 口囲等に潮紅, 丘疹, 膿疱, 毛細血管拡張), 多毛, ステロイドざ瘡, 魚鱗癬様皮膚変化, 一過性の刺激感, 乾燥
その他 下垂体・副腎皮質系機能抑制, 中心性漿液性網脈絡膜症
(表終了)

デルモベートスカルプローション0. 05%(0. 05%1g)

両　外用　流通
劇

【YJコード】2646713Q1081
【薬効分類】2. 6. 4　鎮痛, 鎮痒, 収斂, 消炎剤
【一般名】クロベタゾールプロピオン酸エステル
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】14.4円/1g
【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】外用合成副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】頭部の皮膚疾患
湿疹・皮膚炎群
乾癬
注意
皮膚感染を伴う湿疹・皮膚炎には使用しない, 必要時は, 抗菌剤(全身適用), 抗真菌剤による治療・併用を考慮。
【用法用量】1日1～数回　塗布。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 細菌・真菌・スピロヘータ・ウイルス皮膚感染症, 動物性皮膚疾患(疥癬, 毛じらみ等)。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。
3. 鼓膜に穿孔のある湿疹性外耳道炎。
4. 潰瘍(ベーチェット病除く), 第2度深在性以上の熱傷・凍傷。

■副作用
【副作用】重大な副作用
眼圧亢進, 緑内障, 白内障(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
皮膚の感染症 真菌症(カンジダ症, 白癬等), 細菌感染症(伝染性膿痂疹, 毛嚢炎等), ウイルス感染症
過敏症 紅斑, 発疹, 蕁麻疹, 掻痒, 皮膚灼熱感, 接触性皮膚炎
その他の皮膚症状 ステロイド皮膚(皮膚萎縮, 毛細血管拡張, 紫斑), 色素脱失, 酒さ様皮膚炎・口囲皮膚炎(頬, 口囲等に潮紅, 丘疹, 膿疱, 毛細血管拡張), 多毛, ステロイドざ瘡, 魚鱗癬様皮膚変化, 一過性の刺激感, 乾燥
その他 下垂体・副腎皮質系機能抑制, 中心性漿液性網脈絡膜症
(表終了)

デルモベート軟膏0. 05%(0. 05%1g)

両　外用　流通
劇

【YJコード】2646713M1136
【薬効分類】2. 6. 4　鎮痛, 鎮痒, 収斂, 消炎剤
【一般名】クロベタゾールプロピオン酸エステル
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】14.6円/1g
【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】外用合成副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 湿疹・皮膚炎群(進行性指掌角皮症, ビダール苔癬, 日光皮膚炎含む)
2. 痒疹群(蕁麻疹様苔癬, ストロフルス, 固定蕁麻疹含む)
3. 掌蹠膿疱症
4. 乾癬
5. 虫さされ
6. 薬疹・中毒疹
7. ジベルバラ色粃糠疹
8. 慢性円板状エリテマトーデス
9. 扁平紅色苔癬
10. 紅皮症
11. 肥厚性瘢痕・ケロイド
12. 肉芽腫症(サルコイドーシス, 環状肉芽腫)
13. アミロイド苔癬
14. 天疱瘡群
15. 類天疱瘡(ジューリング疱疹状皮膚炎含む)
16. 悪性リンパ腫(菌状息肉症含む)
17. 円形脱毛症(悪性含む)
注意
皮膚感染を伴う湿疹・皮膚炎には使用しない, 必要時は, 抗菌剤(全身適用), 抗真菌剤による治療・併用を考慮。
【用法用量】1日1～数回　塗布。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 細菌・真菌・スピロヘータ・ウイルス皮膚感染症, 動物性皮膚疾患(疥癬, 毛じらみ等)。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。
3. 鼓膜に穿孔のある湿疹性外耳道炎。
4. 潰瘍(ベーチェット病除く), 第2度深在性以上の熱傷・凍傷。

■副作用
【副作用】重大な副作用
眼圧亢進, 緑内障, 白内障(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
皮膚の感染症 真菌症(カンジダ症, 白癬等), 細菌感染症(伝染性膿痂疹, 毛嚢炎等), ウイルス感染症
過敏症 紅斑, 発疹, 蕁麻疹, 掻痒, 皮膚灼熱感, 接触性皮膚炎
その他の皮膚症状 ステロイド皮膚(皮膚萎縮, 毛細血管拡張, 紫斑), 色素脱失, 酒さ様皮膚炎・口囲皮膚炎(頬, 口囲等に潮紅, 丘疹, 膿疱, 毛細血管拡張), 多毛, ステロイドざ瘡, 魚鱗癬様皮膚変化, 一過性の刺激感, 乾燥
その他 下垂体・副腎皮質系機能抑制, 中心性漿液性網脈絡膜症
(表終了)

ボアラクリーム0. 12%(0. 12%1g)

両　外用　流通

【YJコード】2646724N1040
【薬効分類】2. 6. 4　鎮痛, 鎮痒, 収斂, 消炎剤
【一般名】デキサメタゾン吉草酸エステル
【メーカー】製)マルホ
【薬価】11.3円/1g
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】合成副腎皮質ホルモン外用剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】湿疹・皮膚炎群(進行性指掌角皮症, ビダール苔癬含む),

2 個々の器官系用医薬品

乾癬，痒疹群(蕁麻疹様苔癬，固定蕁麻疹含む)，掌蹠膿疱症，虫刺症，慢性円板状エリテマトーデス，扁平苔癬
注意
皮膚感染を伴う湿疹・皮膚炎には使用しない，必要時は，抗菌剤，抗真菌剤による治療・併用を考慮。
【用法用量】1日1～数回　塗布。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 細菌・真菌・ウイルス皮膚感染症。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。
3. 鼓膜に穿孔のある湿疹性外耳道炎。
4. 潰瘍，第2度深在性以上の熱傷・凍傷。

■副作用
【副作用】重大な副作用
眼圧亢進，緑内障，後嚢白内障(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症　皮膚の刺激感，掻痒感，発赤
皮膚 細菌性感染症(伝染性膿痂疹，毛嚢炎等)，ステロイドざ瘡 真菌性感染症(カンジダ症，白癬等)，酒さ様皮膚炎・口囲皮膚炎(類，口囲等に潮紅，丘疹，膿疱，毛細血管拡張)，ステロイド皮膚(皮膚萎縮，毛細血管拡張，紫斑)，魚鱗癬様皮膚変化以上 多毛，色素脱失
内分泌系　下垂体・副腎皮質系機能の抑制
(表終了)

ボアラ軟膏0．12%（0．12%1g）

両　外用　流通

【YJコード】2646724M1045
【薬効分類】2．6．4　鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】デキサメタゾン吉草酸エステル
【メーカー】製)マルホ
【薬価】11.3円/1g
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】合成副腎皮質ホルモン外用剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】湿疹・皮膚炎群(進行性指掌角皮症，ビダール苔癬含む)，乾癬，痒疹群(蕁麻疹様苔癬，固定蕁麻疹含む)，掌蹠膿疱症，虫刺症，慢性円板状エリテマトーデス，扁平苔癬
注意
皮膚感染を伴う湿疹・皮膚炎には使用しない，必要時は，抗菌剤，抗真菌剤による治療・併用を考慮。
【用法用量】1日1～数回　塗布。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 細菌・真菌・ウイルス皮膚感染症。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。
3. 鼓膜に穿孔のある湿疹性外耳道炎。
4. 潰瘍，第2度深在性以上の熱傷・凍傷。

■副作用
【副作用】重大な副作用
眼圧亢進，緑内障，後嚢白内障(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症　皮膚の刺激感，掻痒感，発赤
皮膚 細菌性感染症(伝染性膿痂疹，毛嚢炎等)，ステロイドざ瘡 真菌性感染症(カンジダ症，白癬等)，酒さ様皮膚炎・口囲皮膚炎(類，口囲等に潮紅，丘疹，膿疱，毛細血管拡張)，ステロイド皮膚(皮膚萎縮，毛細血管拡張，紫斑)，魚鱗癬様皮膚変化以上 多毛，色素脱失
内分泌系　下垂体・副腎皮質系機能の抑制
(表終了)

マイザー軟膏0．05%（0．05%1g）

両　外用　流通

【YJコード】2646725M1201
【薬効分類】2．6．4　鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】ジフルプレドナート
【メーカー】製)田辺三菱製薬
【薬価】11.1円/1g
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】外用合成副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】湿疹・皮膚炎群(進行性指掌角皮症，ビダール苔癬，脂漏性皮膚炎，放射線皮膚炎，日光皮膚炎含む)，痒疹群(蕁麻疹様苔癬，ストロフルス，固定蕁麻疹，結節性痒疹含む)，虫さされ，乾癬，掌蹠膿疱症，扁平紅色苔癬，ジベルバラ色粃糠疹，薬疹・中毒疹，慢性円板状エリテマトーデス，紅斑症(多形滲出性紅斑，ダリエ遠心性環状紅斑，遠心性丘疹性紅斑)，特発性色素性紫斑(マヨッキー紫斑，シャンバーク病，紫斑性色素性苔癬様皮膚炎)，紅皮症，肉芽腫症(サルコイドーシス，環状肉芽腫)，円形脱毛症，アミロイド苔癬(斑状アミロイドーシス含む)，肥厚性瘢痕・ケロイド
注意
皮膚感染を伴う湿疹・皮膚炎には使用しない，必要時は，抗菌剤(全身適用)，抗真菌剤による治療・併用を考慮。
【用法用量】1日1～数回　塗布。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 細菌・真菌・ウイルス皮膚感染症。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。
3. 鼓膜に穿孔のある湿疹性外耳道炎。
4. 潰瘍(ベーチェット病除く)，第2度深在性以上の熱傷・凍傷。

■副作用
【副作用】重大な副作用
眼圧亢進，緑内障，後嚢白内障(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚の感染症 細菌感染症(毛嚢炎等) 細菌感染症(伝染性膿痂疹)
皮膚の真菌症(カンジダ症，白癬等)，ウイルス感染症
その他の皮膚症状 ステロイド皮膚(毛細血管拡張，皮膚萎縮，紫斑)，ざ瘡様発疹，刺激感，乾燥 軟毛の濃色化 色素脱失
過敏症 接触皮膚炎　紅斑
内分泌系　下垂体・副腎皮質系機能の抑制
(表終了)

ラクティオンパップ70mg（10cm×14cm 1枚）

両　外用　流通

【YJコード】2649719S1290
【薬効分類】2．6．4　鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】インドメタシン
【メーカー】製)テイカ製薬　販)三笠製薬
【薬価】17.6円/1枚
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】経皮吸収型鎮痛・消炎温感貼付剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の鎮痛・消炎
変形性関節症，肩関節周囲炎，腱・腱鞘炎，腱周囲炎，上腕骨上顆炎(テニス肘等)，筋肉痛，外傷後の腫脹・疼痛
【用法用量】1日2回　貼付。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分・他のインドメタシン製剤に過敏症の既往。
2. アスピリン喘息・その既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
皮膚 発赤，掻痒，発疹，かぶれ ヒリヒリ感，腫脹
(表終了)

リンデロンーVGローション（1mL）

両　外用　流通

【YJコード】2647709Q1040
【薬効分類】2．6．4　鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】ベタメタゾン吉草酸エステル・ゲンタマイシン硫酸塩
【メーカー】製)シオノギファーマ　販)塩野義製薬
【薬価】27.7円/1mL
【標榜薬効】皮膚外用合成副腎皮質ホルモン・抗生物質配合剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種
ゲンタマイシン感性菌
適応症
湿潤，糜爛，結痂を伴うか，二次感染併発の下記
湿疹・皮膚炎群(進行性指掌角皮症，脂漏性皮膚炎含む)，乾癬，掌蹠膿疱症
注意
湿疹・皮膚炎群，乾癬，掌蹠膿疱症には，湿潤，糜爛，結痂を伴うか，二次感染併発に使用。症状改善した場合は，使用を中止。抗生剤を含有しない薬剤に切りかえる。
【用法用量】1日1～数回　塗布。
適宜増減。

2 個々の器官系用医薬品

■禁忌
【禁忌】1. ゲンタマイシン耐性菌・非感性菌による皮膚感染。
2. 真菌・スピロヘータ・ウイルス皮膚感染症，動物性皮膚疾患（疥癬，毛じらみ等）。
3. 本剤の成分に過敏症の既往。
4. 鼓膜に穿孔のある湿疹性外耳道炎。
5. 潰瘍（ベーチェット病除く），第2度深在性以上の熱傷・凍傷。
6. ストレプトマイシン，カナマイシン，ゲンタマイシン，フラジオマイシン等のアミノグリコシド系抗生剤・バシトラシンに過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
眼圧亢進，緑内障，後嚢白内障（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 皮膚の刺激感，接触性皮膚炎，発疹
眼 中心性漿液性網脈絡膜症
皮膚 魚鱗癬様皮膚変化
皮膚の感染症 ゲンタマイシン耐性菌・非感性菌による感染症，真菌症（カンジダ症，白癬等），ウイルス感染症
その他の皮膚症状 ざ瘡様発疹，酒さ様皮膚炎・口囲皮膚炎（頬，口囲等に潮紅，丘疹，膿疱，毛細血管拡張），ステロイド皮膚（皮膚萎縮，毛細血管拡張，紫斑），多毛，色素脱失
下垂体・副腎皮質系 下垂体・副腎皮質系機能の抑制
長期連用 腎障害，難聴
（表終了）

リンデロン－Vクリーム0．12%（0．12% 1g）
両 外用 流通

【YJコード】2646701N2135
【薬効分類】2．6．4 鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】ベタメタゾン吉草酸エステル
【メーカー】製)シオノギファーマ 販)塩野義製薬
【薬価】16.9円/1g
【標榜薬効】皮膚外用合成副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】湿疹・皮膚炎群（進行性指掌角皮症，女子顔面黒皮症，ビダール苔癬，放射線皮膚炎，日光皮膚炎含む），皮膚掻痒症，痒疹群（蕁麻疹様苔癬，ストロフルス，固定蕁麻疹含む），虫さされ，乾癬，掌蹠膿疱症，扁平苔癬，光沢苔癬，毛孔性紅色粃糠疹，ジベルバラ色粃糠疹，紅斑症（多形滲出性紅斑，結節性紅斑，ダリエ遠心性環状紅斑），紅皮症（悪性リンパ腫による紅皮症含む），慢性円板状エリテマトーデス，薬疹・中毒疹，円形脱毛症（悪性含む），熱傷（瘢痕，ケロイド含む），凍瘡，天疱瘡群，ジューリング疱疹状皮膚炎（類天疱瘡含む），痔核，鼓室形成手術・内耳開窓術・中耳根治手術の術創
注意
皮膚感染を伴う湿疹・皮膚炎には使用しない，必要時は，抗菌剤（全身適用），抗真菌剤による治療・併用を考慮。
【用法用量】1日1～数回 塗布。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 細菌・真菌・スピロヘータ・ウイルス皮膚感染症，動物性皮膚疾患（疥癬，毛じらみ等）。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。
3. 鼓膜に穿孔のある湿疹性外耳道炎。
4. 潰瘍（ベーチェット病除く），第2度深在性以上の熱傷・凍傷。

■副作用
【副作用】重大な副作用
眼圧亢進，緑内障，後嚢白内障（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 皮膚の刺激感，接触性皮膚炎，発疹
眼 中心性漿液性網脈絡膜症
皮膚の感染症 細菌感染症（伝染性膿痂疹，毛嚢炎・せつ等），真菌症（カンジダ症，白癬等），ウイルス感染症
その他の皮膚症状 魚鱗癬様皮膚変化，紫斑，多毛，色素脱失 ステロイドざ瘡（白色の面皰が多発する傾向），ステロイド酒さ・口囲皮膚炎（口囲，顔面全体に紅斑，丘疹，毛細血管拡張，痂皮，鱗屑），ステロイド皮膚（皮膚萎縮，毛細血管拡張）
下垂体・副腎皮質系 下垂体・副腎皮質系機能の抑制
（表終了）

ルリクールVG軟膏0．12%（1g）
両 外用 流通

【YJコード】2647709M1110
【薬効分類】2．6．4 鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】ベタメタゾン吉草酸エステル・ゲンタマイシン硫酸塩
【メーカー】製)東和薬品
【薬価】26.5円/1g
【薬価収載日】1999/07/09
【標榜薬効】皮膚外用合成副腎皮質ホルモン・抗生物質配合剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種
ゲンタマイシン感性菌
適応症
○湿潤，糜爛，結痂を伴うか，二次感染併発の下記
湿疹・皮膚炎群（進行性指掌角皮症，脂漏性皮膚炎含む），乾癬，掌蹠膿疱症
○外傷・熱傷及び手術創等の二次感染
注意
湿疹・皮膚炎群，乾癬，掌蹠膿疱症，外傷・熱傷，手術創等に対し，湿潤，糜爛，結痂を伴うか，二次感染併発に使用。症状が改善した場合は，使用を中止。抗生剤を含有しない薬剤に切りかえる。
【用法用量】1日1～数回 塗布。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. ゲンタマイシン耐性菌・非感性菌による皮膚感染。
2. 真菌・スピロヘータ・ウイルス皮膚感染症，動物性皮膚疾患（疥癬，毛じらみ等）。
3. 本剤の成分に過敏症の既往。
4. 鼓膜に穿孔のある湿疹性外耳道炎。
5. 潰瘍（ベーチェット病除く），第2度深在性以上の熱傷・凍傷。
6. ストレプトマイシン，カナマイシン，ゲンタマイシン，フラジオマイシン等のアミノグリコシド系抗生剤・バシトラシンに過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
眼圧亢進，緑内障，後嚢白内障（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 皮膚の刺激感，接触性皮膚炎，発疹
眼 中心性漿液性網脈絡膜症
皮膚 魚鱗癬様皮膚変化
皮膚の感染症 ゲンタマイシン耐性菌・非感性菌による感染症，真菌症（カンジダ症，白癬等），ウイルス感染症
その他の皮膚症状 ざ瘡様発疹，酒さ様皮膚炎・口囲皮膚炎（頬，口囲等に潮紅，丘疹，膿疱，毛細血管拡張），ステロイド皮膚（皮膚萎縮，毛細血管拡張，紫斑），多毛，色素脱失
下垂体・副腎皮質系 下垂体・副腎皮質系機能の抑制
長期連用 腎障害，難聴
（表終了）

レスタミンコーワクリーム1%（1%10g）
両 外用 流通

【YJコード】2642702N1029
【薬効分類】2．6．4 鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】ジフェンヒドラミン
【メーカー】製)興和
【薬価】21.3円/10g
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】アレルギー性疾患治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】蕁麻疹，湿疹，小児ストロフルス，皮膚掻痒症，虫さされ
注意
炎症が強い浸出性の皮膚炎は，外用剤の使用で炎症軽減後もかゆみが残る場合に使用。
【用法用量】1日数回 塗布・塗擦。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 皮膚の発赤，腫脹，掻痒感，湿潤
（表終了）

ロキソニンゲル1%（1%1g）
両 外用 流通

【YJコード】2649735Q1020
【薬効分類】2．6．4 鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】ロキソプロフェンナトリウム水和物
【メーカー】製)第一三共
【薬価】2.6円/1g
【薬価収載日】2010/09/24
【標榜薬効】経皮吸収型鎮痛・抗炎症剤

2 個々の器官系用医薬品

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の消炎・鎮痛
変形性関節症，筋肉痛，外傷後の腫脹・疼痛
【用法用量】1日数回　塗擦。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．アスピリン喘息・その既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック(頻度不明)，アナフィラキシー(頻度不明)(血圧低下，蕁麻疹，喉頭浮腫，呼吸困難等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～3%未満 0．5～1%未満 0．5%未満 頻度不明
皮膚 掻痒，紅斑，接触性皮膚炎，皮疹　皮膚刺激，色素沈着，水疱，腫脹
消化器　胃不快感 上腹部痛，下痢・軟便
肝臓　AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇
その他　　浮腫
(表終了)

ロキソプロフェンNaテープ100mg「ユート ク」(10cm×14cm1枚)

両　外用　流通

【YJコード】2649735S3209
【薬効分類】2．6．4　鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】ロキソプロフェンナトリウム水和物
【メーカー】製)祐徳薬品工業　販)久光製薬
【薬価】17.6円/1枚
【薬価収載日】2013/06/21
【標榜薬効】経皮吸収型鎮痛・抗炎症剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の消炎・鎮痛
変形性関節症，筋肉痛，外傷後の腫脹・疼痛
【用法用量】1日1回　貼付。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．アスピリン喘息・その既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック(頻度不明)，アナフィラキシー(頻度不明)(血圧低下，蕁麻疹，喉頭浮腫，呼吸困難等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～3%未満 0．5～1%未満 0．5%未満 頻度不明
皮膚 掻痒，紅斑，接触性皮膚炎，皮疹　皮下出血，皮膚刺激，色素沈着，水疱，腫脹
消化器　胃不快感 上腹部痛，下痢・軟便
肝臓　AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇
その他　　浮腫
(表終了)

ロキソプロフェンナトリウムパップ100mg「ケミファ」(10cm×14cm1枚)

両　外用　流通

【YJコード】2649735S1125
【薬効分類】2．6．4　鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】ロキソプロフェンナトリウム水和物
【メーカー】製)日本ケミファ
【薬価】17.6円/1枚
【薬価収載日】2013/06/21
【標榜薬効】経皮吸収型鎮痛・抗炎症剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の消炎・鎮痛
変形性関節症，筋肉痛，外傷後の腫脹・疼痛
【用法用量】1日1回　貼付。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．アスピリン喘息・その既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック(頻度不明)，アナフィラキシー(頻度不明)(血圧低下，蕁麻疹，喉頭浮腫，呼吸困難等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～3%未満 0．5～1%未満 0．5%未満 頻度不明
皮膚 掻痒，紅斑，接触性皮膚炎，皮疹　皮下出血，皮膚刺激，色素沈着，水疱，腫脹
消化器　胃不快感 上腹部痛，下痢・軟便
肝臓　AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇
その他　　浮腫
(表終了)

ロコイドクリーム0．1%(0．1%1g)

両　外用　流通

【YJコード】2646717N1083
【薬効分類】2．6．4　鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】ヒドロコルチゾン酪酸エステル
【メーカー】製)鳥居薬品
【薬価】14.9円/1g
【薬価収載日】2008/12/19
【標榜薬効】外用副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】湿疹・皮膚炎群(進行性指掌角皮症，ビダール苔癬，脂漏性皮膚炎含む)，痒疹群(蕁麻疹様苔癬，ストロフルス，固定蕁麻疹含む)，乾癬，掌蹠膿疱症
注意
皮膚感染を伴う湿疹・皮膚炎には使用しない，必要時は，抗菌剤(全身適用)，抗真菌剤による治療・併用を考慮。
【用法用量】1日1～数回　塗布。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．細菌・真菌・スピロヘータ・ウイルス皮膚感染症，動物性皮膚疾患(疥癬，毛じらみ等)。
2．本剤に過敏症の既往。
3．鼓膜に穿孔のある湿疹性外耳道炎。
4．潰瘍(ベーチェット病除く)，第2度深在性以上の熱傷・凍傷。

■副作用
【副作用】重大な副作用
眼圧亢進，緑内障，白内障(各頻度不明)，後嚢下白内障。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚の感染症　真菌症(白癬等)，細菌感染症(毛嚢炎・せつ，汗疹等)
真菌症(カンジダ症)，細菌感染症(伝染性膿痂疹)，ウイルス感染症
その他の皮膚症状　ざ瘡様疹 酒さ様皮膚炎・口囲皮膚炎(頬，口囲等に潮紅，膿疱，丘疹，毛細血管拡張)，ステロイド皮膚(皮膚萎縮，毛細血管拡張，紫斑)
その他の皮膚症状　乾皮症様皮膚 接触皮膚炎，魚鱗癬様皮膚変化，多毛，色素脱失
過敏症 過敏症(発赤，掻痒感，刺激感，皮膚炎等)
下垂体・副腎皮質系機能　下垂体・副腎皮質系機能の抑制
(表終了)

ロコイド軟膏0．1%(0．1%1g)

両　外用　流通

【YJコード】2646717M1096
【薬効分類】2．6．4　鎮痛，鎮痒，収斂，消炎剤
【一般名】ヒドロコルチゾン酪酸エステル
【メーカー】製)鳥居薬品
【薬価】14.9円/1g
【薬価収載日】2008/12/19
【標榜薬効】外用副腎皮質ホルモン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】湿疹・皮膚炎群(進行性指掌角皮症，ビダール苔癬，脂漏性皮膚炎含む)，痒疹群(蕁麻疹様苔癬，ストロフルス，固定蕁麻疹含む)，乾癬，掌蹠膿疱症
注意
皮膚感染を伴う湿疹・皮膚炎には使用しない，必要時は，抗菌剤(全身適用)，抗真菌剤による治療・併用を考慮。
【用法用量】1日1～数回　塗布。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．細菌・真菌・スピロヘータ・ウイルス皮膚感染症，動物性皮膚疾患(疥癬，毛じらみ等)。
2．本剤に過敏症の既往。
3．鼓膜に穿孔のある湿疹性外耳道炎。
4．潰瘍(ベーチェット病除く)，第2度深在性以上の熱傷・凍傷。

2 個々の器官系用医薬品

■副作用
【副作用】重大な副作用
眼圧亢進，緑内障，白内障(各頻度不明)，後嚢下白内障。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚の感染症 真菌症(白癬等)，細菌感染症(毛嚢炎・せつ，汗疹等)
真菌症(カンジダ症)，細菌感染症(伝染性膿痂疹)，ウイルス感染症
その他の皮膚症状 ざ瘡様疹 酒さ様皮膚炎・口囲皮膚炎(頬，口囲等に潮紅，膿疱，丘疹，毛細血管拡張)，ステロイド皮膚(皮膚萎縮，毛細血管拡張，紫斑)
その他の皮膚症状 乾皮症様皮膚 接触皮膚炎，魚鱗癬様皮膚変化，多毛，色素脱失
過敏症 過敏症(発赤，掻痒感，刺激感，皮膚炎等)
下垂体・副腎皮質系機能 下垂体・副腎皮質系機能の抑制
(表終了)

2．6．5 寄生性皮ふ疾患用剤

10%サリチル酸ワセリン軟膏東豊（10% 10g）
両 外用 後発 流通

【YJコード】2652701M2021
【薬効分類】2．6．5 寄生性皮ふ疾患用剤
【一般名】サリチル酸
【メーカー】製)東豊薬品 販)純生薬品工業 販)中北薬品 販)日医工 販)メルク製薬 販)模範薬品研究所 販)ヤクハン製薬 販)山善製薬 販)吉田製薬
【薬価】43.1円/10g
【標榜薬効】寄生性皮膚疾患剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】乾癬，白癬(頭部浅在性白癬，小水疱性斑状白癬，汗疱状白癬，頑癬)，癜風，紅色粃糠疹，紅色陰癬，角化症(尋常性魚鱗癬，先天性魚鱗癬，毛孔性苔癬，先天性手掌足底角化症(腫)，ダリエー病，遠山連圏状粃糠疹)，湿疹(角化を伴う)，口囲皮膚炎，掌蹠膿疱症，ヘブラ粃糠疹，アトピー性皮膚炎，ざ瘡，せつ，腋臭症，多汗症，その他角化性の皮膚疾患
【用法用量】成人 1日1～2回 塗布。

■禁忌
【禁忌】本剤に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 過敏症状
皮膚 発赤，紅斑
(表終了)

アトラント外用液1%（1%1mL）
両 外用 流通

【YJコード】2655711Q1030
【薬効分類】2．6．5 寄生性皮ふ疾患用剤
【一般名】ネチコナゾール塩酸塩
【メーカー】製)久光製薬 販)エスエス製薬 販)田辺三菱製薬 販)鳥居薬品 販)三菱ウェルファーマ
【薬価】24.3円/1mL
【薬価収載日】2003/07/04
【標榜薬効】抗真菌剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の皮膚真菌症の治療
(1)．白癬 足白癬，体部白癬，股部白癬
(2)．皮膚カンジダ症 指間糜爛症，間擦疹
(3)．癜風
【用法用量】1日1回 塗布。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
皮膚 局所の刺激感，皮膚炎，発赤・紅斑，掻痒感等 亀裂
(表終了)

ゼフナートクリーム2%（2%1g）
両 外用 流通

【YJコード】2659712N1020
【薬効分類】2．6．5 寄生性皮ふ疾患用剤
【一般名】リラナフタート
【メーカー】製)全薬工業 販)鳥居薬品
【薬価】25.4円/1g
【薬価収載日】2000/04/14
【標榜薬効】抗真菌剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】白癬 足白癬，体部白癬，股部白癬
【用法用量】1日1回 塗布。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．他の外用抗真菌剤に過敏症の既往。
3．臨床所見上皮膚カンジダ症，汗疱，掌蹠膿疱症，膿皮症，他の皮膚炎等との鑑別が困難。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
皮膚 接触性皮膚炎，掻痒症，発赤，紅斑，刺激感，疼痛，小水疱性皮疹 皮膚炎，自家感作性皮膚炎，潮紅
(表終了)

テルビナフィン塩酸塩クリーム1%「VTRS」（1%1g）
両 外用 後発 流通

【YJコード】2659710N1250
【薬効分類】2．6．5 寄生性皮ふ疾患用剤
【一般名】テルビナフィン塩酸塩
【先発品】ラミシールクリーム1%
【メーカー】製)ヴィアトリス・ヘルスケア 販)ヴィアトリス製薬
【薬価】13円/1g
【薬価収載日】2022/06/17 【経過措置期限】2026/03/31
【標榜薬効】アリルアミン系抗真菌剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の皮膚真菌症の治療
○白癬 足白癬，体部白癬，股部白癬
○皮膚カンジダ症 指間糜爛症，間擦疹(乳児寄生菌性紅斑含む)
○癜風
【用法用量】1日1回 塗布。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 掻痒症，紅斑 ー 発疹，蕁麻疹，血管浮腫
適用部位 接触皮膚炎，発赤，刺激感 鱗屑，落屑，皮膚亀裂 湿疹，皮膚乾燥，疼痛，色素沈着，皮膚灼熱感
(表終了)

ニゾラールクリーム2%（2%1g）
両 外用 流通

【YJコード】2655709N1053
【薬効分類】2．6．5 寄生性皮ふ疾患用剤
【一般名】ケトコナゾール
【メーカー】製)帝國製薬 販)ヤンセンファーマ
【薬価】16円/1g
【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】抗真菌剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の皮膚真菌症の治療
(1)．白癬 足白癬，体部白癬，股部白癬
(2)．皮膚カンジダ症 指間糜爛症，間擦疹(乳児寄生菌性紅斑含む)
(3)．癜風
(4)．脂漏性皮膚炎
【用法用量】白癬，皮膚カンジダ症，癜風
1日1回 塗布。
脂漏性皮膚炎

2 個々の器官系用医薬品

1日2回 塗布。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0.1～5%未満 0.1%未満 頻度不明
皮膚 接触皮膚炎, 掻痒, 発赤, 刺激感, 紅斑, 糜爛, 皮膚剥脱 水疱, 亀裂, 疼痛, 皮膚灼熱感, 発疹, 皮膚のべとつき感 蕁麻疹
全身障害・投与局所様態 適用部位反応(乾燥, 浮腫) 適用部位反応(出血, 不快感, 炎症, 錯感覚)
免疫系障害 過敏症
(表終了)

ルリコナゾールクリーム1%「イワキ」(1%1g)
両 外用 後発 流通

【YJコード】2655712N1039
【薬効分類】2.6.5 寄生性皮ふ疾患用剤
【一般名】ルリコナゾール
【先発品】ルリコンクリーム1%
【メーカー】製)岩城製薬
【薬価】16.4円/1g
【薬価収載日】2022/12/09
【標榜薬効】抗真菌剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の皮膚真菌症の治療
○白癬 足白癬, 体部白癬, 股部白癬
○カンジダ症 指間糜爛症, 間擦疹
○癜風
【用法用量】1日1回 塗布。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 発現部位等 0.1～5%未満 0.1%未満 頻度不明
クリーム 皮膚 掻痒, 発赤, 刺激感, 接触皮膚炎, 疼痛, 湿疹 ほてり, 熱感, 灼熱感 水疱
クリーム その他 BUN上昇, 尿蛋白増加
軟膏 皮膚 接触皮膚炎, 発赤, 掻痒
(表終了)

ルリコナゾール軟膏1%「イワキ」(1%1g)
両 外用 後発 流通

【YJコード】2655712M1033
【薬効分類】2.6.5 寄生性皮ふ疾患用剤
【一般名】ルリコナゾール
【先発品】ルリコン軟膏1%
【メーカー】製)岩城製薬
【薬価】16.4円/1g
【薬価収載日】2022/12/09
【標榜薬効】抗真菌剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の皮膚真菌症の治療
○白癬 足白癬, 体部白癬, 股部白癬
○カンジダ症 指間糜爛症, 間擦疹
○癜風
【用法用量】1日1回 塗布。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 発現部位等 0.1～5%未満 0.1%未満 頻度不明
クリーム 皮膚 掻痒, 発赤, 刺激感, 接触皮膚炎, 疼痛, 湿疹 ほてり, 熱感, 灼熱感 水疱
クリーム その他 BUN上昇, 尿蛋白増加
軟膏 皮膚 接触皮膚炎, 発赤, 掻痒
(表終了)

2.6.6 皮ふ軟化剤(腐しょく剤を含む。)

ケラチナミンコーワクリーム20%(20%1g)
両 外用 流通

【YJコード】2669701N2067
【薬効分類】2.6.6 皮ふ軟化剤(腐しょく剤を含む。)
【一般名】尿素
【メーカー】製)興和
【薬価】4円/1g
【薬価収載日】2012/06/22
【標榜薬効】角化症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】魚鱗癬, 老人性乾皮症, アトピー皮膚, 進行性指掌角皮症(主婦湿疹の乾燥型), 足蹠部皸裂性皮膚炎, 掌蹠角化症, 毛孔性苔癬
【用法用量】1日1～数回 塗擦。

■禁忌
【禁忌】下記に使用しない。
眼粘膜等の粘膜。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0.1～5%未満 0.1%未満
皮膚 ぴりぴり感, 紅斑, 掻痒感, 疼痛, 丘疹 灼熱感, 落屑
(表終了)

酢酸「ニッコー」(10mL)
内 外用 流通

【YJコード】2661700X1298
【薬効分類】2.6.6 皮ふ軟化剤(腐しょく剤を含む。)
【一般名】酢酸
【メーカー】製)日興製薬 販)エビス製薬 販)日興製薬販売 販)丸石製薬
【薬価】5.7円/10mL
【標榜薬効】皮膚軟化剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】洗浄液・収斂液の調剤
緩衝・矯味として調剤
【用法用量】洗浄液, 収斂液の調剤, 緩衝・矯味として調剤。

2.6.9 その他の外皮用薬

アクトシン軟膏3%(3%1g)
両 外用 流通

【YJコード】2699703M1039
【薬効分類】2.6.9 その他の外皮用薬
【一般名】ブクラデシンナトリウム
【メーカー】製)ニプロファーマ 販)第一三共 販)マルホ
【薬価】50円/1g
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】褥瘡・皮膚潰瘍治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】褥瘡, 皮膚潰瘍(熱傷潰瘍, 下腿潰瘍)
注意
本剤は熱傷潰瘍が適用, 潰瘍がない熱傷には, 他の療法を考慮。
【用法用量】潰瘍面を清拭後 1日1～2回 ガーゼ等にのばして貼付, 又は直接塗布。
注意
本剤は保存的治療で, 約6週間以上使用しても症状の改善なければ, 外科的療法等を考慮。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 0.1～1%未満 頻度不明
皮膚 疼痛 接触皮膚炎(紅斑, 発赤, 掻痒, 刺激感等) 接触皮膚炎(水疱), 滲出液増加
(表終了)

2 個々の器官系用医薬品

イソジンシュガーパスタ軟膏（1g）

両 外用 後発 流通

【YJコード】2699801V1114
【薬効分類】2．6．9 その他の外皮用薬
【一般名】精製白糖・ポビドンヨード
【先発品】ユーパスタ軟膏
【メーカー】製)iNovaPharmaceuticalsJapan 販)塩野義製薬 販)Meiji Seikaファルマ
【薬価】7.5円/1g
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】褥瘡・皮膚潰瘍治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】褥瘡，皮膚潰瘍（熱傷潰瘍，下腿潰瘍）
注意
1．本剤は保存的治療で，改善なければ外科的療法等を考慮。
2．対象は熱傷後の二次損傷で生じた熱傷潰瘍なので，新鮮熱傷は他の療法を考慮。
【用法用量】潰瘍面を清拭後 1日1～2回 ガーゼにのばして貼付，又は直接塗布しその上をガーゼで保護。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分・ヨウ素に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，不快感，浮腫，潮紅，蕁麻疹等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 ヨード疹
皮膚 疼痛，発赤，刺激感，皮膚炎，掻痒感
甲状腺 血中甲状腺ホルモン値（T3，T4値等）の上昇・低下等の甲状腺機能異常
（表終了）

オクソラレンローション1%（1%1mL）

両 外用 流通

【YJコード】2699701Q2038
【薬効分類】2．6．9 その他の外皮用薬
【一般名】メトキサレン
【メーカー】製)大正製薬 販)大正富山医薬品
【薬価】35.5円/1mL
【薬価収載日】2001/09/07
【標榜薬効】尋常性白斑治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】尋常性白斑
【用法用量】白斑部位にのみ塗布。1～2時間後，日光浴又は人工紫外線を照射。
同一白斑部位 週1～3回程度の治療施行。限局性白斑は外用療法。
注意
1．紫外線照射の時，照射源及び個人差に応じ至適量を個々に把握。目安は，照射した翌日の治療白斑部位が軽度にピンク色に発赤し，持続する程度が適当。
2．最初の照射量は，最少紅斑量以下から開始。目安として，日光浴は5分から開始。人工紫外線照射は，光源より20～30cmの距離で1分から開始，以後白斑部位の皮膚症状により漸増・漸減して至適量を把握し，照射。
3．360nmをピークとする波長に高い活性あり，360nm付近の波長を有するBlackーlightの照射を行う。

■禁忌

【禁忌】1．皮膚癌・その既往。
2．ポルフィリン症，紅斑性狼瘡，色素性乾皮症，多形性日光皮膚炎等の光線過敏症を伴う疾患。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5～15%未満 5%未満 頻度不明
皮膚 水疱，皮膚炎 掻痒，紅斑，熱感，痂皮 腫脹
（表終了）

フィブラストスプレー500（500μg1瓶（溶解液付））

両 外用 流通

【YJコード】2699710R2024
【薬効分類】2．6．9 その他の外皮用薬
【一般名】トラフェルミン（遺伝子組換え）
【メーカー】製)科研製薬
【薬価】6907.7円/1V
【薬価収載日】2001/06/01
【標榜薬効】褥瘡・皮膚潰瘍治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】褥瘡，皮膚潰瘍（熱傷潰瘍，下腿潰瘍）
注意
本剤は熱傷潰瘍が適応，潰瘍がない熱傷には，他の療法を考慮。
【用法用量】潰瘍面を清拭後，専用の噴霧器で 下記量 1日1回 噴霧（添付溶解液で用時溶解（100μg／mL））。
潰瘍の最大径が6cm以内 潰瘍面から約5cm離して5噴霧（トラフェルミン（遺伝子組換え） 30μg）。
潰瘍の最大径が6cmを超える時 同一潰瘍面に5噴霧するよう，潰瘍面から約5cm離して同様の操作を繰り返す。
注意
1．1日量はトラフェルミン（遺伝子組換え）1000μgまで。
2．約4週間投与しても潰瘍の大きさ（面積，深さ），症状（肉芽形成，肉芽の色調，表皮形成等）の改善傾向がなければ外科的療法等を考慮。

■禁忌

【禁忌】1．投与部位に悪性腫瘍・その既往。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 2%未満 頻度不明
投与部位 刺激感・疼痛 過剰肉芽組織，滲出液の増多
皮膚 発赤 発疹，接触皮膚炎，掻痒感，腫脹
肝臓 ALT上昇，AST上昇
（表終了）

プロスタンディン軟膏0．003%（0．003%1g）

両 外用 流通
劇

【YJコード】2699705M1038
【薬効分類】2．6．9 その他の外皮用薬
【一般名】アルプロスタジル アルファデクス
【メーカー】製)小野薬品工業
【薬価】34.3円/1g
【薬価収載日】2005/12/16
【標榜薬効】褥瘡・皮膚潰瘍治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】褥瘡，皮膚潰瘍（熱傷潰瘍，糖尿病性潰瘍，下腿潰瘍，術後潰瘍）
注意
対象は熱傷後の二次損傷で生じた熱傷潰瘍なので，新鮮熱傷は他の療法を考慮。
【用法用量】潰瘍周囲から潰瘍部を消毒・清拭後 1日2回 ガーゼ等にのばし潰瘍部に貼付，又は潰瘍部に直接塗布し，ガーゼ等で保護。
注意
本剤は保存的治療で，約8週間以上使用しても症状の改善なければ，外科的療法等を考慮。

■禁忌

【禁忌】1．重篤な心不全。
2．出血（頭蓋内出血，出血性眼疾患，消化管出血，喀血等）。
3．妊婦・妊娠の可能性。
4．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
使用部位 疼痛，刺激感 接触性皮膚炎，掻痒，熱感，落屑，浮腫 出血，発赤，滲出液増加
（表終了）

プロトピック軟膏0．1%（0．1%1g）

両 外用 流通
劇

【YJコード】2699709M1028
【薬効分類】2．6．9 その他の外皮用薬
【一般名】タクロリムス水和物

2 個々の器官系用医薬品

【メーカー】製)マルホ 販)アステラス製薬 販)藤沢薬品工業
【薬価】58.4円/1g
【薬価収載日】1999/11/19
【標榜薬効】アトピー性皮膚炎治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】アトピー性皮膚炎
注意
ステロイド外用剤等の既存療法では効果が不十分又は副作用で投与できない等，治療がより適切な時に使用。
【用法用量】成人 1日1～2回 塗布。1回5gまで。
注意
1. 皮疹の増悪期 角質層のバリア機能が低下し，血中濃度が高くなる可能性，2週間以内に皮疹の改善なければ使用中止。皮疹の悪化時も使用中止。
2. 症状改善で必要がなくなれば速やかに中止。漫然と長期使用しない。
3. 1日2回では約12時間間隔で塗布。

■禁忌
【禁忌】1. 患部に潰瘍，局面を形成している糜爛。
2. 高度の腎障害，高度の高カリウム血症。
3. 魚鱗癬様紅皮症(Netherton症候群等)。
4. 小児等。
5. 本剤の成分に過敏症の既往。
6. PUVA療法等の紫外線療法を実施中。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 頻度不明
適用部位の皮膚刺激感 熱感(灼熱感，ほてり感等)(44. 3%)，疼痛(ヒリヒリ感，しみる等)(23. 6%)，掻痒感
皮膚感染症 細菌性感染症(毛嚢炎，伝染性膿痂疹等) ウイルス性感染症(単純疱疹，カポジ水痘様発疹症等)，真菌性感染症(白癬等)
その他の皮膚症状 ざ瘡，ざ瘡様皮疹，皮膚乾燥，丘疹，接触皮膚炎紅斑，酒さ様皮膚炎，適用部位浮腫
皮膚以外の症状 頭痛，頭重感，皮膚以外の感染症(上気道炎，リンパ節炎等)
(表終了)

マキサカルシトール軟膏25μg／g「タカタ」(0. 0025%1g)

両 外用 後発 流通
劇

【YJコード】2691702M1060
【薬効分類】2. 6. 9 その他の外皮用薬
【一般名】マキサカルシトール
【先発品】オキサロール軟膏25μg／g
【メーカー】製)高田製薬
【薬価】34.8円/1g
【薬価収載日】2012/12/14
【標榜薬効】角化症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】尋常性乾癬，魚鱗癬群，掌蹠角化症，掌蹠膿疱症
【用法用量】1日2回 塗擦。適宜回数減。
注意
1. マキサカルシトール 1日250μg(マキサカルシトール外用製剤 10g)まで。
2. 使用後6週目までに効果なければ，漫然と使用を継続しない。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 高カルシウム血症(頻度不明)(口渇，倦怠感，脱力感，食欲不振，嘔吐，腹痛，筋力低下等)。
2. 急性腎障害(頻度不明)(血中カルシウム増加)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0. 1～1%未満 頻度不明
皮膚 掻痒，皮膚刺激，紅斑，皮膚剥脱 発疹，湿疹，接触皮膚炎，水疱，腫脹，疼痛，毛包炎，色素沈着，糜爛，浮腫，熱感
腎臓 尿中蛋白陽性，血中クレアチニン増加，増殖性糸球体腎炎 尿路結石，BUN増加
代謝 血中カルシウム増加 血中リン増加，AI－P増加，CK増加，尿中ブドウ糖陽性，血中アルブミン減少，血中カリウム減少
消化器 口渇，食欲不振，糜爛性胃炎
肝臓 γ－GTP増加，AST増加，ALT増加，血中ビリルビン増加，尿中ウロビリン陽性
血液 白血球数減少，白血球数増加，血小板数減少
筋・骨格系 背部痛
(表終了)

2. 7 歯科口腔用薬

2. 7. 1 歯科用局所麻酔剤

ネオザロカインパスタ(1g)

内 外用 流通
劇

【YJコード】2710818V1020
【薬効分類】2. 7. 1 歯科用局所麻酔剤
【一般名】アミノ安息香酸エチル・パラブチルアミノ安息香酸ジエチルアミノエチル塩酸塩
【メーカー】製)ネオ製薬工業
【薬価】103.3円/1g
【標榜薬効】歯科用表面麻酔剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】歯科の表面麻酔
【用法用量】0. 1～0. 3g 塗布。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤・安息香酸エステル(コカイン除く)系局所麻酔剤に過敏症の既往。
2. メトヘモグロビン血症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック(頻度不明)(血圧低下，顔面蒼白，脈拍の異常，呼吸抑制等)。
2. 振戦，痙攣(各頻度不明)等の中毒症状。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
精神神経系 眠気，不安，興奮，霧視，眩暈，悪心・嘔吐等
過敏症 蕁麻疹等の皮膚症状，浮腫等
血液 メトヘモグロビン血症
(表終了)

2. 7. 9 その他の歯科口腔用薬

ネオステリングリーンうがい液0. 2%(1mL)

両 外用 流通

【YJコード】2790820Q1040
【薬効分類】2. 7. 9 その他の歯科口腔用薬
【一般名】ベンゼトニウム塩化物
【メーカー】製)日本歯科薬品
【薬価】5.4円/1mL
【薬価収載日】2008/12/19
【標榜薬効】口腔洗浄・含嗽剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】口腔内消毒，抜歯創の感染予防
【用法用量】口腔内の消毒 0. 004%(50倍希釈)溶液 洗口。
抜歯創の感染予防 0. 01～0. 02%(10～20倍希釈)溶液 洗浄。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 頻度不明
過敏症 過敏症状
刺激感 刺激感
(表終了)

リグロス歯科用液キット1200μg(1200μg1キット)

両 外用 流通

【YJコード】2790823U2022
【薬効分類】2. 7. 9 その他の歯科口腔用薬
【一般名】トラフェルミン(遺伝子組換え)
【メーカー】製)科研製薬
【薬価】28317.8円/1kit
【薬価収載日】2016/11/18
【標榜薬効】歯周組織再生剤

2 個々の器官系用医薬品

■効能効果・用法用量
【効能効果】歯周炎による歯槽骨の欠損
注意
1. 歯周ポケットの深さが4mm以上，骨欠損の深さが3mm以上の垂直性骨欠損の時に使用。
2. インプラント治療に関する有効性・安全性は未確立。
3. 術後に歯肉弁の陥凹を生じる骨欠損部位には，他の適切な治療法を考慮。
【用法用量】歯肉剥離掻爬手術時　歯槽骨欠損部を満たす量を塗布。
注意
臨床成績の項を参照し適量を使用。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 口腔内の悪性腫瘍・その既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
適用部位・適用部位近傍　歯肉白色化，歯肉紅斑，腫脹，硬結，肥厚
精神神経系　頭痛
臨床検査 尿中アルブミン陽性，尿中NAG上昇，尿中β2ミクログロブリン上昇 AST上昇，CRP上昇，ビリルビン上昇，CK上昇，ALT上昇，LDH上昇，尿糖陽性，リンパ球増多，好中球減少，総蛋白上昇 単球増多，白血球減少
（表終了）

リグロス歯科用液キット600μg（600μg1キット）

両　外用　流通

【YJコード】2790823U1026
【薬効分類】2．7．9　その他の歯科口腔用薬
【一般名】トラフェルミン（遺伝子組換え）
【メーカー】製)科研製薬
【薬価】21053.7円/1kit
【薬価収載日】2016/11/18
【標榜薬効】歯周組織再生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】歯周炎による歯槽骨の欠損
注意
1. 歯周ポケットの深さが4mm以上，骨欠損の深さが3mm以上の垂直性骨欠損の時に使用。
2. インプラント治療に関する有効性・安全性は未確立。
3. 術後に歯肉弁の陥凹を生じる骨欠損部位には，他の適切な治療法を考慮。
【用法用量】歯肉剥離掻爬手術時　歯槽骨欠損部を満たす量を塗布。
注意
臨床成績の項を参照し適量を使用。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 口腔内の悪性腫瘍・その既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
適用部位・適用部位近傍　歯肉白色化，歯肉紅斑，腫脹，硬結，肥厚
精神神経系　頭痛
臨床検査 尿中アルブミン陽性，尿中NAG上昇，尿中β2ミクログロブリン上昇 AST上昇，CRP上昇，ビリルビン上昇，CK上昇，ALT上昇，LDH上昇，尿糖陽性，リンパ球増多，好中球減少，総蛋白上昇 単球増多，白血球減少
（表終了）

2．9　その他の個々の器官系用医薬品

2．9．0　その他の個々の器官系用医薬品

セファランチン錠1mg（1mg1錠）

両　内服　流通

【YJコード】2900001F1029
【薬効分類】2．9．0　その他の個々の器官系用医薬品
【一般名】セファランチン
【メーカー】製)メディサ新薬　販)化研生薬
【薬価】6.2円/1T
【標榜薬効】抗アレルギー剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○放射線による白血球減少症
○円形脱毛症・粃糠性脱毛症
【用法用量】白血球減少症
成人　1日3～6mg　1日2～3回　分割　食後　内服。適宜増減。
脱毛症
成人　1日1．5～2mg　1日2～3回　分割　食後　内服。適宜増減。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（顔面潮紅，蕁麻疹，胸部不快感，喉頭浮腫，呼吸困難，血圧低下等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，皮疹，浮腫（顔面，手足）
消化器 食欲不振，胃部不快感，悪心，嘔吐，下痢
肝臓 AST，ALTの上昇
内分泌 月経異常
その他 頭痛，掻痒感，眩暈
（表終了）

3 代謝性医薬品

3 代謝性医薬品

3．1 ビタミン剤

3．1．1 ビタミンA及びD剤

アルファカルシドール錠0．5μg「アメル」（0．5μg1錠）

両 内服 後発 流通
劇

【YJコード】3112001F2060
【薬効分類】3．1．1 ビタミンA及びD剤
【一般名】アルファカルシドール
【先発品】ワンアルファ錠0．5μg
【メーカー】製)共和薬品工業
【薬価】6.1円/1T
【薬価収載日】2019/12/12
【標榜薬効】活性型ビタミンD3製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇下記ビタミンD代謝異常に伴う諸症状（低カルシウム血症，テタニー，骨痛，骨病変等）の改善
・慢性腎不全
・副甲状腺機能低下症
・ビタミンD抵抗性クル病・骨軟化症
〇骨粗鬆症
【用法用量】効能共通
血清カルシウム濃度の管理のもとに，投与量を調整。
慢性腎不全，骨粗鬆症
成人 1回0．5～1μg 1日1回 内服。適宜増減。
副甲状腺機能低下症，その他のビタミンD代謝異常に伴う疾患
成人 1回1～4μg 1日1回 内服。適宜増減。
（小児量）
骨粗鬆症 1回0．01～0．03μg／kg 1日1回 内服。その他の疾患 1回0．05～0．1μg／kg 1日1回 内服。適宜増減。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．急性腎障害（頻度不明）（血清カルシウム上昇）。
2．肝機能障害（AST，ALT，AI－Pの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
消化器 食欲不振，悪心・嘔気，下痢，便秘，胃痛 嘔吐，腹部膨満感，胃部不快感，消化不良，口内異和感，口渇等
精神神経系 頭痛・頭重，不眠・いらいら感，脱力・倦怠感，眩暈，しびれ感，眠気，記憶力・記銘力の減退，耳鳴り，老人性難聴，背部痛，肩こり，下肢のつっぱり感，胸痛等
循環器 軽度の血圧上昇，動悸
肝臓 AST，ALTの上昇 LDH，γ－GTPの上昇
腎臓 BUN，クレアチニンの上昇（腎機能の低下） 腎結石
皮膚 掻痒感 発疹，熱感
眼 結膜充血
骨 関節周囲の石灰化（化骨形成）
その他 嗄声，浮腫
（表終了）

エルデカルシトールカプセル0．75μg「トーワ」（0．75μg1カプセル）

両 内服 後発 流通
劇

【YJコード】3112006M2053
【薬効分類】3．1．1 ビタミンA及びD剤
【一般名】エルデカルシトール
【先発品】エディロールカプセル0．75μg
【メーカー】製)東和薬品
【薬価】19.3円/1C
【薬価収載日】2021/12/10
【標榜薬効】骨粗鬆症治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】骨粗鬆症
注意
日本骨代謝学会の診断基準等を参考に，確定診断された患者が対象。
【用法用量】成人 1回0．75μg 1日1回 内服。症状により1回0．5μg 1日1回 適宜減量。
注意
血清カルシウム値を定期的に測定し，高カルシウム血症の発現時は，直ちに休薬。休薬後は，血清カルシウム値が正常域まで回復後 1回0．5μg 1日1回 内服。1回0．5μg 1日1回の骨折予防効果は未確立，漫然投与せず 1回0．75μg 1日1回への増量・他剤による治療への変更を考慮。

■禁忌

【禁忌】妊婦，妊娠の可能性，授乳婦。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．高カルシウム血症（1．5%）。
2．急性腎障害（頻度不明）（血清カルシウム上昇）。
3．尿路結石（0．9%）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 2%以上 2%未満 頻度不明
消化器 便秘，胃不快感，口渇，胃炎 嘔気，下痢，腹痛
精神神経系 浮動性眩暈，味覚異常
肝臓 γ－GTP上昇，AST上昇，ALT上昇，LDH上昇
腎臓 クレアチニン上昇，BUN上昇，尿中血陽性，尿中蛋白陽性
代謝 尿中カルシウム増加（20．3%），血中カルシウム増加（15．0%）
血中尿酸増加，AI－P上昇
血液 ヘモグロビン減少，白血球数減少，貧血，ヘマトクリット減少，赤血球数減少
皮膚 発疹，掻痒症
その他 耳鳴 浮腫
（表終了）

3．1．2 ビタミンB1剤

50mgアリナミンF糖衣錠（50mg1錠）

両 内服 流通

【YJコード】3122007F3027
【薬効分類】3．1．2 ビタミンB1剤
【一般名】フルスルチアミン
【メーカー】製)武田テバ薬品 販)武田薬品工業
【薬価】6.2円/1T
【標榜薬効】ビタミンB1誘導体

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．ビタミンB1欠乏症の予防・治療
2．ビタミンB1の需要が増大し，食事での摂取が不十分な際の補給（消耗性疾患，甲状腺機能亢進症，妊産婦，授乳婦，激しい肉体労働時等）
3．ウェルニッケ脳症
4．脚気衝心
5．下記のうちビタミンB1の欠乏・代謝障害の関与が推定される時（効果なければ漫然使用しない）
（1）．神経痛
（2）．筋肉痛，関節痛
（3）．末梢神経炎，末梢神経麻痺
（4）．心筋代謝障害
（5）．便秘等の胃腸運動機能障害
（6）．術後腸管麻痺
【用法用量】成人 1日1～2錠（フルスルチアミン 50～100mg） 1日1～2回 分割 食直後 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感
消化器 悪心，胸やけ，胃痛，胃部不快感，下痢，口内炎
（表終了）

チアミン塩化物塩酸塩注50mg「フソー」（50mg1管）

両 注射 流通

【YJコード】3121400A4100
【薬効分類】3．1．2 ビタミンB1剤
【一般名】チアミン塩化物塩酸塩
【メーカー】製)扶桑薬品工業 販)アルフレッサファーマ
【薬価】100円/1A
【薬価収載日】2020/12/11
【標榜薬効】ビタミンB1製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．ビタミンB1欠乏症の予防・治療
2．ビタミンB1の需要が増大し，食事での摂取が不十分な際の補給（消

3 代謝性医薬品

耗性疾患，甲状腺機能亢進症，妊産婦，授乳婦，激しい肉体労働時等）
3. ウェルニッケ脳炎
4. 脚気衝心
5. 下記のうちビタミンB1の欠乏・代謝障害の関与が推定される時（効果なければ漫然使用しない）
神経痛，筋肉痛・関節痛，末梢神経炎・末梢神経麻痺，心筋代謝障害
【用法用量】成人　1日1～50mg　静注。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック（頻度不明）（血圧降下，胸内苦悶，呼吸困難等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹
（表終了）

3．1．3 ビタミンB剤（ビタミンB1剤を除く。）

パントシン細粒50%（50%1g）
両 内服 流通

【YJコード】3133001C3035
【薬効分類】3．1．3 ビタミンB剤（ビタミンB1剤を除く。）
【一般名】パンテチン
【メーカー】製)アルフレッサファーマ　販)第一三共　販)第一製薬
【薬価】21.6円/1g
【薬価収載日】2004/07/09
【標榜薬効】パンテチン製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．パントテン酸欠乏症の予防・治療
2．パントテン酸の需要が増大し，食事での摂取が不十分な際の補給（消耗性疾患，甲状腺機能亢進症，妊産婦，授乳婦等）
3．下記のうちパントテン酸の欠乏・代謝障害の関与が推定される時（効果なければ漫然使用しない）
・高脂血症
・弛緩性便秘
・ストレプトマイシン，カナマイシンによる副作用予防・治療
・急・慢性湿疹
・血液疾患の血小板数，出血傾向の改善
【用法用量】成人　1日パンテチン30～180mg　1日1～3回　分割　内服。
血液疾患，弛緩性便秘 1日パンテチン300～600mg　1日1～3回　分割　内服。
高脂血症 1日パンテチン600mg　1日3回　分割　内服。適宜増減。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
消化器 下痢・軟便 腹部膨満，嘔吐 食欲不振
（表終了）

パントール注射液500mg（500mg1管）
両 注射 流通

【YJコード】3133401A3045
【薬効分類】3．1．3 ビタミンB剤（ビタミンB1剤を除く。）
【一般名】パンテノール
【メーカー】製)トーアエイヨー　販)アステラス製薬
【薬価】61円/1A
【標榜薬効】パンテノール製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．パントテン酸欠乏症の予防・治療
2．パントテン酸の需要が増大し，食事での摂取が不十分な際の補給（消耗性疾患，甲状腺機能亢進症，妊産婦，授乳婦等）
3．下記のうちパントテン酸の欠乏・代謝障害の関与が推定される時（効果なければ漫然使用しない）
・ストレプトマイシン，カナマイシンによる副作用予防・治療
・接触皮膚炎，急・慢性湿疹
・術後腸管麻痺
【用法用量】成人　1回20～100mg　1日1～2回　皮下注・筋注・静注。
術後腸管麻痺 1回50～500mg　1日1～3回，必要時6回まで　皮下注・筋注・静注。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】血友病。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
消化器 腹痛，下痢
（表終了）

ピドキサール錠20mg（20mg1錠）
両 内服 流通

【YJコード】3134003F2147
【薬効分類】3．1．3 ビタミンB剤（ビタミンB1剤を除く。）
【一般名】ピリドキサールリン酸エステル水和物
【メーカー】製)太陽ファルマ　販)中外製薬
【薬価】6.1円/1T
【薬価収載日】2002/07/05
【標榜薬効】活性型ビタミンB6製剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．ビタミンB6欠乏症の予防・治療（薬物投与によるもの含む　例，イソニアジド）
2．ビタミンB6の需要が増大し，食事での摂取が不十分な際の補給（消耗性疾患，妊産婦，授乳婦等）
3．ビタミンB6依存症（ビタミンB6反応性貧血等）
4．下記のうちビタミンB6の欠乏・代謝障害の関与が推定される時（効果なければ漫然使用しない）
（1）．口角炎，口唇炎，舌炎，口内炎
（2）．急・慢性湿疹，脂漏性湿疹，接触皮膚炎，アトピー皮膚炎
（3）．尋常性ざ瘡
（4）．末梢神経炎
（5）．放射線障害（宿酔）
【用法用量】成人　1日10～60mg　1日1～3回　分割　内服。
適宜増減。
依存症　大量投与が必要な場合もあり。
注意
依存症に大量投与時は，十分な観察。新生児，乳・幼児への投与は少量から漸増し，適合量に到達させる。

■副作用
【副作用】重大な副作用
横紋筋融解症（頻度不明）（CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇），急性腎障害等の重篤な腎障害。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹等の過敏症状
消化器 悪心，食欲不振，腹部膨満感，下痢，嘔吐
肝臓 肝機能異常
（表終了）

フォリアミン錠（5mg1錠）
両 内服 流通

【YJコード】3135001F1025
【薬効分類】3．1．3 ビタミンB剤（ビタミンB1剤を除く。）
【一般名】葉酸
【メーカー】製)富士製薬工業　販)武田薬品工業
【薬価】10.1円/1T
【標榜薬効】葉酸製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．葉酸欠乏症の予防・治療
2．葉酸の需要が増大し，食事での摂取が不十分な際の補給（消耗性疾患，妊産婦，授乳婦等）
3．悪性貧血の補助療法
4．吸収不全症候群（スプルー等）
5．下記のうち葉酸の欠乏・代謝障害の関与が推定される時（効果なければ漫然使用しない）
・栄養性貧血
・妊娠性貧血
・小児貧血
・抗痙攣剤，抗マラリア剤投与による貧血
6．アルコール中毒，肝疾患に関する大赤血球性貧血
7．再生不良性貧血
8．顆粒球減少症
【用法用量】成人　1日5～20mg　1日2～3回　分割　内服。小児　1日5～10mg　1日2～3回　分割　内服。適宜増減。
消化管に吸収障害，又は重篤時 注射。

■副作用

3 代謝性医薬品

【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 紅斑, 掻痒感, 全身倦怠等
消化器 食欲不振, 悪心等
その他 浮腫, 体重減少
(表終了)

フォリアミン注射液(15mg1管)

両 注射 流通

【YJコード】3135400A1026
【薬効分類】3. 1. 3 ビタミンB剤(ビタミンB1剤を除く。)
【一般名】葉酸
【メーカー】製)富士製薬工業 販)武田薬品工業
【薬価】100円/1A
【標榜薬効】葉酸製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 葉酸欠乏症の予防・治療
2. 葉酸の需要が増大し, 食事での摂取が不十分な際の補給(消耗性疾患, 妊産婦, 授乳婦等)
3. 吸収不全症候群(スプルー等)
4. 悪性貧血の補助療法
5. 下記のうち葉酸の欠乏・代謝障害の関与が推定される時(効果なければ漫然使用しない)
・栄養性貧血
・妊娠性貧血
・小児貧血
・抗痙攣剤, 抗マラリア剤投与による貧血
6. アルコール中毒, 肝疾患に関する大赤血球性貧血
7. 再生不良性貧血
8. 顆粒球減少症
【用法用量】成人 1回15mg 1日1回 皮下注・筋注。適宜増減。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 紅斑, 掻痒感, 全身倦怠等
消化器 食欲不振, 悪心等
その他 浮腫, 体重減少
(表終了)

メコバラミン錠500μg「SW」(0. 5mg1錠)

両 内服 後発 流通

【YJコード】3136004F2278
【薬効分類】3. 1. 3 ビタミンB剤(ビタミンB1剤を除く。)
【一般名】メコバラミン
【メーカー】製)沢井製薬 販)日本ケミファ
【薬価】5.9円/1T
【薬価収載日】2015/03/25
【標榜薬効】末梢性神経障害治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】末梢性神経障害
【用法用量】成人 1日3錠(メコバラミン 1500μg) 1日3回 分割内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満
消化器 食欲不振, 悪心・嘔吐, 下痢
過敏症 発疹
(表終了)

メチコバール注射液500μg(0. 5mg1管)

両 注射 流通

【YJコード】3136403A1140
【薬効分類】3. 1. 3 ビタミンB剤(ビタミンB1剤を除く。)
【一般名】メコバラミン
【メーカー】製)エーザイ
【薬価】96円/1A
【標榜薬効】末梢性神経障害治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 末梢性神経障害
2. ビタミンB12欠乏による巨赤芽球性貧血
【用法用量】1. 末梢性神経障害
成人 1回1アンプル(メコバラミン 500μg) 1日1回 週3回 筋注・静注。
適宜増減。
2. 巨赤芽球性貧血
成人 1回1アンプル(メコバラミン 500μg) 1日1回 週3回 筋注・静注。
約2ヵ月投与後, 維持療法 1回1アンプル 1～3ヵ月に1回 投与。

■副作用
【副作用】重大な副作用
アナフィラキシー(頻度不明)(血圧降下, 呼吸困難等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹
その他 頭痛, 発熱感 発汗, 筋注部位の疼痛・硬結
(表終了)

3. 1. 4 ビタミンC剤

アスコルビン酸注500mgPB「日新」(500mg1管)

両 注射 後発 流通

【YJコード】3140401A1039
【薬効分類】3. 1. 4 ビタミンC剤
【一般名】アスコルビン酸
【メーカー】製)日新製薬 販)富士フイルムファーマ
【薬価】100円/1A
【薬価収載日】2015/06/19
【標榜薬効】ビタミンC製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. ビタミンC欠乏症の予防・治療(壊血病, メルレル・バロー病)
2. ビタミンCの需要が増大し, 食事での摂取が不十分な際の補給(消耗性疾患, 妊産婦, 授乳婦, 激しい肉体労働時等)
3. 下記のうちビタミンCの欠乏・代謝障害の関与が推定される時(効果なければ漫然使用しない)
・毛細管出血(鼻出血, 歯肉出血, 血尿等)
・薬物中毒
・副腎皮質機能障害
・骨折時の骨基質形成・骨癒合促進
・肝斑・雀卵斑・炎症後の色素沈着
・光線過敏性皮膚炎
【用法用量】成人 1日50～2000mg 1日1～数回 分割 皮下注・筋注・静注。
適宜増減。

3. 1. 6 ビタミンK剤

グラケーカプセル15mg(15mg1カプセル)

両 内服 流通

【YJコード】3160002M2028
【薬効分類】3. 1. 6 ビタミンK剤
【一般名】メナテトレノン
【メーカー】製)エーザイ
【薬価】14.4円/1C
【薬価収載日】1995/08/25
【標榜薬効】骨粗鬆症治療用ビタミンK2剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】骨粗鬆症の骨量・疼痛の改善
注意
厚生省「老人性骨粗鬆症の予防及び治療法に関する総合的研究班」の診断基準(骨量減少の有無, 骨折の有無, 腰背痛の有無等総合による)等を参考に, 骨粗鬆症との診断が確立し, 骨量減少・疼痛が対象。
【用法用量】成人 1日45mg 1日3回 分割 食後 内服。

■禁忌
【禁忌】ワルファリンカリウムの投与患者。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)

3 代謝性医薬品

（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
消化器 胃部不快感，腹痛，下痢，悪心，口内炎，食欲不振，消化不良，便秘 口渇，舌炎，嘔吐
過敏症 発疹，掻痒 発赤
精神神経系 頭痛 眩暈，ふらつき，しびれ
循環器 血圧上昇，動悸
肝臓 AST，ALT，γ－GTPの上昇等
泌尿器 BUNの上昇等 頻尿
その他 浮腫 眼の異常，関節痛 倦怠感
（表終了）

ケイツーN静注10mg（10mg1管）

内 注射 流通

【YJコード】3160401A6041
【薬効分類】3．1．6 ビタミンK剤
【一般名】メナテトレノン
【メーカー】製)エーザイ
【薬価】61円/1A
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】止血機構賦活ビタミン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】ビタミンK欠乏による下記
1．胆道閉塞・胆汁分泌不全による低プロトロンビン血症
2．新生児低プロトロンビン血症
3．分娩時出血
4．クマリン系抗凝血薬投与中の低プロトロンビン血症
5．クマリン系殺鼠剤中毒時の低プロトロンビン血症
注意
1．ビタミンK拮抗作用を有し，低プロトロンビン血症を生じる殺鼠剤で，ワルファリン，フマリン，クマテトラリル，ブロマジオロン，ダイファシノン，クロロファシノン等あり。抗凝血作用を有する殺鼠剤の中毒であることを血液凝固能検査で確認。
2．ビタミンK依存性凝固因子の異常時に投与。
3．経口ビタミンK製剤の効果が期待できない時のみ投与を考慮。
4．適用対象となる新生児低プロトロンビン血症（例，トロンボテスト値20%以下，ヘパプラスチンテスト値30%以下の症例）。
【用法用量】胆道閉塞・胆汁分泌不全による低プロトロンビン血症，分娩時出血，クマリン系抗凝血薬投与中の低プロトロンビン血症
成人 1回10～20mg 1日1回 静注。
新生児低プロトロンビン血症
生後直ちに 1回1～2mg 静注。症状により 2～3回 反復静注。
クマリン系殺鼠剤中毒時の低プロトロンビン血症
1回20mg 静注。血液凝固能検査結果により 1日40mgまで増量。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．5～1%未満
過敏症 発疹
（表終了）

ケイツーシロップ0．2%（0．2%1mL）

両 内服 流通

【YJコード】3160002Q1040
【薬効分類】3．1．6 ビタミンK剤
【一般名】メナテトレノン
【メーカー】製)アルフレッサファーマ 販)エーザイ
【薬価】23.7円/1mL
【薬価収載日】2006/12/08
【標榜薬効】ビタミンK2剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇新生児出血症，新生児低プロトロンビン血症の治療
〇新生児・乳児ビタミンK欠乏性出血症の予防
注意
新生児出血症，新生児低プロトロンビン血症の治療
治療の適用対象（例，トロンボテスト値20%以下，ヘパプラスチンテスト値30%以下の症例）。
【用法用量】新生児出血症，新生児低プロトロンビン血症の治療
1回1mL（メナテトレノン 2mg） 1日1回 内服。
症状により 3mL（メナテトレノン 6mg）まで増量。
新生児・乳児ビタミンK欠乏性出血症の予防
哺乳の確立後 1回1mL（メナテトレノン 2mg） 内服。2回目 生後1週間又は産科退院時の早い時期 1回1mL 内服。3回目 生後1ヵ月時 1回1mL 内服。
注意
新生児・乳児ビタミンK欠乏性出血症の予防
1ヵ月健診時にビタミンK欠乏の想定症例では，生後1ヵ月を超えて投与を継続。

3．1．7 混合ビタミン剤（ビタミンA・D混合製剤を除く。）

シナール配合顆粒（1g）

両 内服 流通

【YJコード】3179115D1096
【薬効分類】3．1．7 混合ビタミン剤（ビタミンA・D混合製剤を除く。）
【一般名】アスコルビン酸・パントテン酸カルシウム
【メーカー】製)シオノギファーマ 販)塩野義製薬
【薬価】6.5円/1g
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】ビタミンC・パントテン酸カルシウム配合剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】本剤含有ビタミン類の需要が増大し，食事での摂取が不十分な際の補給（消耗性疾患，妊産婦，授乳婦等），炎症後の色素沈着（効果なければ漫然使用しない）
【用法用量】成人 1回1～3g 1日1～3回 内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
消化器 胃不快感，悪心・嘔吐，下痢等
（表終了）

ネオラミン・スリービー液（静注用）（10mL1管）

両 注射 流通

【YJコード】3179504A1116
【薬効分類】3．1．7 混合ビタミン剤（ビタミンA・D混合製剤を除く。）
【一般名】チアミンジスルフィド・B6・B12配合剤
【メーカー】製)日本化薬
【薬価】117円/1A
【標榜薬効】神経・筋機能賦活剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．本剤含有ビタミン類の需要が増大し，食事での摂取が不十分な際の補給（消耗性疾患，妊産婦，授乳婦等）
2．下記のうち本剤含有ビタミン類の欠乏・代謝障害の関与が推定される時
神経痛，筋肉痛・関節痛，末梢神経炎・末梢神経麻痺
効果なければ漫然使用しない
【用法用量】成人 1回10mL 1日1回 緩徐に静注。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】本剤・チアミンジスルフィドに過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック（0．1%未満），アナフィラキシー（頻度不明）（全身皮膚潮紅，掻痒感，血圧低下，胸内苦悶，呼吸困難，痙攣等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1%以上 0．1%未満
過敏症 発疹 掻痒感
消化器 悪心・嘔吐
投与部位 局所疼痛
（表終了）

ビタジェクト注キット（2筒1キット）

両 注射 流通

【YJコード】3179517G1035
【薬効分類】3．1．7 混合ビタミン剤（ビタミンA・D混合製剤を除く。）
【一般名】高カロリー輸液用総合ビタミン剤
【メーカー】製)テルモ
【薬価】560円/1kit
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】高カロリー輸液用総合ビタミン剤

■効能効果・用法用量

3 代謝性医薬品

【効能効果】経口・経腸管栄養補給が不能・不十分で，高カロリー静脈栄養に頼る時のビタミン補給
【用法用量】成人 1日1キット 点滴静注（A液・B液を高カロリー経静脈輸液に専用の器具で注入）。適宜増減。
注意
本剤は高カロリー静脈栄養輸液添加用ビタミン剤のため，単独投与，末梢静注は避ける。

■禁忌
【禁忌】1．本剤・本剤配合成分に過敏症の既往。
2．血友病。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（血圧低下，意識障害，呼吸困難，チアノーゼ，悪心，胸内苦悶，顔面潮紅，掻痒感，発汗等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 蕁麻疹，発疹，顔面潮紅
消化器 悪心，下痢，腹痛，食欲不振
（表終了）

3．2 滋養強壮薬

3．2．1 カルシウム剤

カルチコール注射液8．5%10mL（8．5%10mL1管）
両 注射 流通

【YJコード】3213400A3043
【薬効分類】3．2．1 カルシウム剤
【一般名】グルコン酸カルシウム水和物
【メーカー】製)日医工 販)大日本住友製薬
【薬価】96円/1A
【薬価収載日】2002/07/05
【標榜薬効】カルシウム補給剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇低カルシウム血症による下記の改善
テタニー，テタニー関連症状
〇小児脂肪便のカルシウム補給
【用法用量】成人 1回0．4～2g（カルシウム 1．8～8．9mEq） 8．5w／v%（0．39mEq／mL）液とし 1日1回 緩徐に（カルシウム 0．68～1．36mEq／分）静注。小児脂肪便 内服不能時のみ。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．強心配糖体の投与患者。
2．高カルシウム血症。
3．腎結石。
4．重篤な腎不全。

■副作用
【副作用】重大な副作用
高カルシウム血症，結石症（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
消化器 食欲不振，悪心・嘔吐，便秘，胃痛
その他 倦怠感
（表終了）

デノタスチュアブル配合錠（1錠）
両 内服 流通

【YJコード】3219100F1020
【薬効分類】3．2．1 カルシウム剤
【一般名】沈降炭酸カルシウム・コレカルシフェロール・炭酸マグネシウム
【メーカー】製)日東薬品工業 販)第一三共
【薬価】11.3円/1T
【薬価収載日】2013/05/31
【標榜薬効】カルシウム／天然型ビタミンD3／マグネシウム配合剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】RANKL阻害剤（デノスマブ（遺伝子組換え）等）投与に伴う低カルシウム血症の治療・予防
【用法用量】1回2錠 1日1回 内服。
適宜増減。
注意
1．血清補正カルシウム値が高値な時は投薬を避け，正常化後に，投与を開始又は再開。
2．多発性骨髄腫・固形癌骨転移による骨病変のデノスマブ（遺伝子組換え）投与時の重篤な低カルシウム血症を軽減するため，毎日最低1日1回2錠投与。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．高カルシウム血症。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
消化器 便秘，下痢，悪心，嘔吐，腹部不快感
皮膚 発疹，紅斑，掻痒症
（表終了）

乳酸カルシウム水和物「ケンエー」原末（10g）
両 内服 流通

【YJコード】3211001X1300
【薬効分類】3．2．1 カルシウム剤
【一般名】乳酸カルシウム水和物
【メーカー】製)健栄製薬
【薬価】38.4円/10g
【薬価収載日】2024/06/14
【標榜薬効】カルシウム剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇低カルシウム血症による下記の改善
テタニー
〇下記代謝性骨疾患のカルシウム補給
妊婦・産婦の骨軟化症
〇発育期のカルシウム補給
【用法用量】成人 1回1g 1日2～5回 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．高カルシウム血症。
2．腎結石。
3．重篤な腎不全。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
消化器 便秘
その他 高カルシウム血症，結石症
（表終了）

3．2．2 無機質製剤

インクレミンシロップ5%（1mL）
両 内服 後発 流通

【YJコード】3222012Q1030
【薬効分類】3．2．2 無機質製剤
【一般名】溶性ピロリン酸第二鉄
【メーカー】製)アルフレッサファーマ
【薬価】6.4円/1mL
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】鉄欠乏性貧血治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】鉄欠乏性貧血
【用法用量】下記1日量 1日3～4回 分割 内服。
（表開始）
年齢 シロップ（mL）
1歳未満 2～4
1～5歳 3～10
6～15歳 10～15
（表終了）
適宜増減。
注意
1日量は下記。
（表開始）
年齢 溶性ピロリン酸第二鉄（mg） 鉄（mg）
1歳未満 100～200 12～24
1～5歳 150～500 18～60
6～15歳 500～750 60～90

3 代謝性医薬品

（表終了）
2. 下痢，吐乳等をおこしやすい低出生体重児，新生児，乳児に投与時，少量から開始し，様子を見ながら1日量まで漸増。

■禁忌
【禁忌】鉄欠乏状態にない患者。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
消化器 悪心，嘔吐，食欲不振，腹痛，下痢，便秘，胃部不快感
皮膚 光線過敏症
過敏症 発疹，蕁麻疹，掻痒
（表終了）

エレジェクト注シリンジ（2mL1筒）

両 注射 後発 流通

【YJコード】3229501G1070
【薬効分類】3．2．2 無機質製剤
【一般名】塩化マンガン・硫酸亜鉛水和物配合剤
【メーカー】製)テルモ
【薬価】251円/1筒
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】高カロリー輸液用微量元素製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】経口・経腸管栄養補給が不能・不十分で，高カロリー静脈栄養に頼る時の亜鉛，鉄，銅，マンガン，ヨウ素の補給
【用法用量】成人 1日2mL 点滴静注（高カロリー静脈栄養輸液に添加）。適宜増減。
注意
高カロリー輸液用基本液等は微量元素が含まれた製剤あり。それらの微量元素量に応じ適宜減量。

■禁忌
【禁忌】1．本剤・本剤配合成分に過敏症の既往。
2．胆道閉塞。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹
肝臓 肝機能異常（AST上昇，ALT上昇，AlーP上昇等），ビリルビン上昇
精神神経系 パーキンソン様症状
その他 血中マンガン上昇
（表終了）

塩化カリウム（10g）

両 内服 流通

【YJコード】3229001X1029
【薬効分類】3．2．2 無機質製剤
【一般名】塩化カリウム
【メーカー】製)山善製薬
【薬価】7.8円/10g
【標榜薬効】塩化カリウム製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇下記のカリウム補給
・降圧利尿剤，副腎皮質ホルモン，強心配糖体，インスリン，ある種の抗生剤等の連用時
・低カリウム血症型周期性四肢麻痺
・重症嘔吐，下痢，カリウム摂取不足，術後
〇低クロール性アルカローシス
【用法用量】成人 1日2～10g 1日数回 分割 多量の水とともに 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．重篤な腎機能障害（前日の尿量が500mL以下・投与直前の排尿が20mL／時以下）。
2．副腎機能障害（アジソン病）。
3．高カリウム血症。
4．消化管通過障害。
（1）．食道狭窄（心肥大，食道癌，胸部大動脈瘤，逆流性食道炎，心臓手術等による食道圧迫）。
（2）．消化管狭窄・消化管運動機能不全。
5．高カリウム血性周期性四肢麻痺。
6．本剤の成分に過敏症の既往。
7．エプレレノン（高血圧症），エサキセレノンの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．消化管の閉塞，潰瘍，穿孔（各頻度不明）（嚥下時の疼痛，激しい嘔吐・腹痛・腹部膨満，消化管出血等）。
2．心臓伝導障害（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
消化器 悪心・嘔吐，腹部不快感，下痢
過敏症 蕁麻疹，発疹，掻痒感
（表終了）

塩化カリウム徐放錠600mg「St」（600mg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】3229002G1082
【薬効分類】3．2．2 無機質製剤
【一般名】塩化カリウム
【メーカー】製)佐藤薬品工業 販)アルフレッサファーマ
【薬価】6.1円/1T
【薬価収載日】2020/06/18
【標榜薬効】徐放性カリウム剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】低カリウム血症の改善
【用法用量】成人 1回2錠（塩化カリウム 1200mg） 1日2回 食後 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．乏尿・無尿（前日の尿量が500mL以下，投与直前の排尿が20mL／時以下）・高窒素血症がある高度の腎機能障害。
2．未治療のアジソン病。
3．高カリウム血症。
4．消化管通過障害。
（1）．食道狭窄（心肥大，食道癌，胸部大動脈瘤，逆流性食道炎，心臓手術等による食道圧迫）。
（2）．消化管狭窄・消化管運動機能不全。
5．高カリウム血性周期性四肢麻痺。
6．本剤の成分に過敏症の既往。
7．エプレレノン（高血圧症），エサキセレノンの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．消化管の閉塞，潰瘍，穿孔（各頻度不明）（嚥下時の疼痛，激しい嘔吐・腹痛・腹部膨満，消化管出血等）。
2．心臓伝導障害（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
消化器 悪心・嘔吐，腹部不快感，下痢
過敏症 蕁麻疹，発疹，掻痒感
（表終了）

クエン酸第一鉄Na錠50mg「サワイ」（鉄50mg1錠）

両 内服 流通

【YJコード】3222013F1157
【薬効分類】3．2．2 無機質製剤
【一般名】クエン酸第一鉄ナトリウム
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】6.2円/1T
【薬価収載日】2014/06/20
【標榜薬効】可溶性非イオン型鉄剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】鉄欠乏性貧血
【用法用量】成人 1日100～200mg（本剤 2～4錠） 1日1～2回 分割 食後 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】鉄欠乏状態にない患者。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明

3 代謝性医薬品

消化器 悪心・嘔吐 上腹部不快感，胃・腹痛，下痢，食欲不振，便秘，
胸やけ 腹部膨満感
過敏症 発疹 掻痒感 光線過敏症
肝臓 AST，ALTの上昇等 AI－Pの上昇等
精神神経系 頭痛，眩暈
その他 倦怠感，浮腫
（表終了）

フェジン静注40mg（40mg2mL1管）

内 注射 流通

【YJコード】3222400A1058
【薬効分類】3．2．2 無機質製剤
【一般名】含糖酸化鉄
【メーカー】製)日医工
【薬価】127円/1A
【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】静注用鉄剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】鉄欠乏性貧血
【用法用量】経口鉄剤が困難又は不適当な時のみ使用。必要鉄量を算出し投与。
成人 1日40～120mg 2分以上かけ 徐々に静注。
適宜増減。
注意
あらかじめ必要鉄量を算出し，投与中も定期的に血液検査を実施，フェリチン値等を確認し，過量投与に注意。
参考 必要鉄量の算出法
あらかじめ総投与鉄量を算定して治療を行うことにより，鉄の過剰投与の障害が避けられ，不足鉄量を補える。鉄欠乏性貧血では利用可能な貯蔵鉄が零に近いので，鉄必要量の他に貯蔵鉄をも加算の必要あり。
・総投与鉄量（貯蔵鉄を加えた鉄量）
ヘモグロビン値Xg／dLと体重Wkgより算定（中尾式。Hb値 16g／dLを100%とする）。
総投与鉄量（mg）＝〔2．72（16－X）＋17〕W
総投与鉄量[mg]一覧（表開始）
体重kg＼治療前Hb量g／dL 5 6 7 8 9 10 11 12 13
20 940 880 830 780 720 670 610 560 500
30 1410 1330 1240 1160 1080 1000 920 840 750
40 1880 1770 1660 1550 1440 1330 1220 1120 1010
50 2350 2210 2070 1940 1800 1670 1530 1390 1260
60 2820 2650 2490 2330 2160 2000 1840 1670 1510
70 3280 3090 2900 2710 2520 2330 2140 1950 1760
（表終了）
1管2mL中鉄として40mg含有。

■禁忌

【禁忌】1．鉄欠乏状態にない患者。
2．重篤な肝障害。
3．本剤に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック（頻度不明）（脈拍異常，血圧低下，呼吸困難等）（不快感，胸内苦悶感，悪心・嘔吐等）。
2．骨軟化症（頻度不明）（骨痛，関節痛等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹
肝臓 AST，ALTの上昇
消化器 悪心，嘔気
精神神経系 頭痛，頭重，眩暈，倦怠感
その他 発熱，熱感，悪寒，心悸亢進，顔面潮紅 低リン血症，四肢のしびれ感，疼痛（四肢痛，関節痛，背部痛，胸痛等），着色尿
（表終了）

フェロ・グラデュメット錠105mg（105mg1錠）

両 内服 流通

【YJコード】3222007G1033
【薬効分類】3．2．2 無機質製剤
【一般名】乾燥硫酸鉄
【メーカー】製)ヴィアトリス製薬 販)アボットジャパン 販)ヴィアトリス・ヘルスケア
【薬価】6.1円/1T
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】徐放型鉄剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】鉄欠乏性貧血
【用法用量】成人 1日105～210mg 1日1～2回 分割 空腹時 内服。副作用が強い時 食直後 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】鉄欠乏状態にない患者。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．5～5%未満 0．5%未満 頻度不明
消化器 悪心・嘔吐，腹痛，食欲不振，胃部不快感 下痢，便秘
過敏症 発疹，蕁麻疹，掻痒感
肝臓 肝機能異常
（表終了）

ホスリボン配合顆粒（100mg1包（リンとして））

両 内服 流通

【YJコード】3229103D1020
【薬効分類】3．2．2 無機質製剤
【一般名】リン酸二水素ナトリウム一水和物・無水リン酸水素二ナトリウム
【メーカー】製)ゼリア新薬工業
【薬価】71.1円/1包
【薬価収載日】2013/02/22
【標榜薬効】経口リン酸製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】低リン血症
注意
クル病や骨軟化症をきたす低リン血症（原発性低リン血症性クル病・骨軟化症，Fanconi症候群，腫瘍性骨軟化症，未熟児クル病等）に投与。
【用法用量】1日20～40mg／kg 数回 分割 内服。
適宜増減，1日3000mgまで。
注意
1．血清リン濃度は服用1～2時間後に最高に達し，以後急激に低下することから，濃度を保つため投与を分割し，1日あたりの投与回数を増やす。
2．血清リン値，血清・尿中カルシウム値，血清AI－P値，血清PTH値，血清クレアチニン値等を定期的に測定し，患者の状態を考慮して，用法・用量を調節。
3．胃腸障害には，1回量を減量し，投与回数を増やすことを考慮。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上
過敏症 アレルギー性皮膚炎
消化器 腹痛，下痢
（表終了）

ヨウ化カリウム丸50mg「日医工」（50mg1丸）

両 内服 流通

【YJコード】3221002L1074
【薬効分類】3．2．2 無機質製剤
【一般名】ヨウ化カリウム
【メーカー】製)日医工
【薬価】5.9円/1丸
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】無機質製剤
【区分】甲状腺薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】○甲状腺腫（甲状腺機能亢進症を伴うもの）
○下記に伴う喀痰喀出困難
慢性気管支炎，喘息
○第三期梅毒
○放射性ヨウ素による甲状腺の内部被曝の予防・低減
【用法用量】甲状腺機能亢進症を伴う甲状腺腫
1日5～50mg 1日1～3回 分割 内服。
適宜増減。
慢性気管支炎，喘息に伴う喀痰喀出困難，第三期梅毒
成人 1回0．1～0．5g 1日3～4回 内服。
適宜増減。
放射性ヨウ素による甲状腺の内部被曝の予防・低減
13歳以上 1回100mg 内服。3～13歳未満 1回50mg 内服。生後1ヵ月～3歳未満 1回32．5mg 内服。新生児 1回16．3mg 内服。

3 代謝性医薬品

注意
1. 食直後の内服で，胃内容物に吸着されるので注意。制酸剤，牛乳等との併用は胃障害を軽減できる。
2. 放射性ヨウ素による甲状腺の内部被曝の予防・低減時，国等の指示に従い投与。
3. 131I療法を行う時は，その1週間前に投与中止。

■禁忌
【禁忌】効能共通
1. 本剤の成分・ヨウ素に過敏症の既往。
放射性ヨウ素による甲状腺の内部被曝の予防・低減以外
2. エプレレノン(高血圧症)，エサキセレノンの投与患者。
3. 肺結核。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ヨウ素中毒(頻度不明)(結膜炎，眼瞼浮腫，鼻炎，喉頭炎，気管支炎，声門浮腫，喘息発作，前額痛，流涎，唾液腺腫脹，耳下腺炎，胃炎等，発疹，面疱，せつ，蕁麻疹，水疱，微熱，甲状腺腫，粘液水腫等)。
2. ヨウ素悪液質(頻度不明)(皮膚の粗荒，体重減少，全身衰弱，心悸亢進，抑うつ，不眠，神経過敏，性欲減退，乳房の腫大・疼痛，骨盤痛)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹等
消化器 悪心・嘔吐，胃痛，下痢，口腔・咽喉の灼熱感，金属味覚，歯痛，歯肉痛，血便(消化管出血)等
その他 甲状腺機能低下症，頭痛，息切れ，かぜ症状，不規則性心拍，皮疹，原因不明の発熱，首・咽喉の腫脹等
(表終了)

3．2．3 糖類剤

20%ブドウ糖注射液「ニッシン」(20%20mL1管)
内 注射 流通

【YJコード】3231401H1173
【薬効分類】3．2．3 糖類剤
【一般名】精製ブドウ糖
【メーカー】製)日新製薬 販)宇治製薬 販)ヴィアトリス製薬 販)共和薬品工業 販)日本ジェネリック 販)ネオクリティケア製薬 販)ファイザー 販)富士フイルムファーマ 販)マイラン製薬 販)和薬
【薬価】100円/1A
【薬価収載日】1993/10/01
【標榜薬効】糖類製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○循環虚脱
○低血糖時の糖質補給
○高カリウム血症
○心疾患(GIK療法)
○その他非経口的に水・エネルギー補給必要時
○注射剤の溶解希釈
【用法用量】循環虚脱，低血糖時の糖質補給，高カリウム血症，心疾患(GIK療法)，その他非経口的に水・エネルギー補給必要時 成人 1回10～50%液20～500mL 静注。
点滴静注時 0．5g／kg／時以下。
注射剤の溶解希釈 適量使用。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】低張性脱水症。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
大量・急速投与 電解質喪失
(表終了)

5%ブドウ糖注射液「ニッシン」(5%20mL1管)
内 注射 流通

【YJコード】3231401A1124
【薬効分類】3．2．3 糖類剤
【一般名】精製ブドウ糖
【メーカー】製)日新製薬 販)ヴィアトリス製薬 販)日本ジェネリック 販)ネオクリティケア製薬 販)ファイザー 販)富士フイルムファーマ 販)マイラン製薬 販)和薬
【薬価】100円/1A
【薬価収載日】1999/09/13
【標榜薬効】糖類製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○脱水症で水欠乏時の水補給
○薬物・毒物中毒
○肝疾患
○注射剤の溶解希釈
【用法用量】水補給，薬物・毒物中毒，肝疾患 成人 1回5%液500～1000mL 静注。
点滴静注時 0．5g／kg／時以下。
注射剤の溶解希釈 適量使用。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】低張性脱水症。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
大量・急速投与 電解質喪失
(表終了)

大塚糖液5%（5%250mL1袋）
内 注射 流通

【YJコード】3231401J6029
【薬効分類】3．2．3 糖類剤
【一般名】精製ブドウ糖
【メーカー】製)大塚製薬工場 販)大塚製薬
【薬価】284円/1袋
【薬価収載日】1997/10/01
【標榜薬効】糖類製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○脱水症で水欠乏時の水補給
○循環虚脱
○低血糖時の糖質補給
○高カリウム血症
○注射剤の溶解希釈
○薬物・毒物中毒
○心疾患(GIK療法)
○肝疾患
○その他非経口的に水・エネルギー補給必要時
【用法用量】水補給，薬物・毒物中毒，肝疾患 成人 1回5%液500～1000mL 静注。
循環虚脱，低血糖時の糖質補給，高カリウム血症，心疾患(GIK療法)，その他非経口的に水・エネルギー補給必要時 成人 1回10～50%液20～500mL 静注。
点滴静注時 0．5g／kg／時以下。
注射剤の溶解希釈 適量使用。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】低張性脱水症。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
大量・急速投与 電解質喪失
(表終了)

大塚糖液50%（50%200mL1袋）
内 注射 流通

【YJコード】3231401J3038
【薬効分類】3．2．3 糖類剤
【一般名】精製ブドウ糖
【メーカー】製)大塚製薬工場 販)大塚製薬
【薬価】356円/1袋
【薬価収載日】2001/04/10
【標榜薬効】糖類製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○脱水症で水欠乏時の水補給
○循環虚脱
○低血糖時の糖質補給
○高カリウム血症
○注射剤の溶解希釈
○薬物・毒物中毒
○心疾患(GIK療法)

3 代謝性医薬品

○肝疾患
○その他非経口的に水・エネルギー補給必要時
【用法用量】水補給，薬物・毒物中毒，肝疾患 成人 1回5%液500～1000mL 静注。
循環虚脱，低血糖時の糖質補給，高カリウム血症，心疾患(GIK療法)，その他非経口的に水・エネルギー補給必要時 成人 1回10～50%液20～500mL 静注。
点滴静注時 0．5g／kg／時以下。
注射剤の溶解希釈 適量使用。
適宜増減。
注意
経中心静脈栄養等の高カロリー輸液として中心静脈内に持続点滴注入。

■禁忌
【禁忌】低張性脱水症。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
大量・急速投与 電解質喪失
(表終了)

テルモ糖注10%（10%500mL1袋）
内 注射 流通

【YJコード】3231401Q5080
【薬効分類】3．2．3 糖類剤
【一般名】精製ブドウ糖
【メーカー】製)テルモ
【薬価】240円/1袋
【薬価収載日】2007/12/25
【標榜薬効】糖類製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】脱水症で水欠乏時の水補給，循環虚脱，低血糖時の糖質補給，高カリウム血症，注射剤の溶解希釈，薬物・毒物中毒，心疾患(GIK療法)，肝疾患，その他非経口的に水・エネルギー補給必要時
【用法用量】水補給，薬物・毒物中毒，肝疾患 成人 1回5%液500～1000mL 静注。
循環虚脱，低血糖時の糖質補給，高カリウム血症，心疾患(GIK療法)，その他非経口的に水・エネルギー補給必要時 成人 1回10～50%液20～500mL 静注。
点滴静注時 0．5g／kg／時以下。
注射剤の溶解希釈 適量使用。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】低張性脱水症。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
大量・急速投与 電解質喪失
(表終了)

ハイカリックRF輸液（500mL1袋）
両 注射 流通

【YJコード】3239527A2032
【薬効分類】3．2．3 糖類剤
【一般名】高カロリー輸液用基本液
【メーカー】製)テルモ
【薬価】533円/1袋
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】高カロリー輸液用基本液

■効能効果・用法用量
【効能効果】経口・経腸管栄養補給が不能・不十分で，経中心静脈栄養に頼る時の水分，電解質，カロリー補給(腎不全等による高カリウム血症，高リン血症又はそのおそれのある患者のみ)
【用法用量】本剤1000mLに対しナトリウム，クロールを含有しないか，含有量の少ない5．9～12%アミノ酸注射液を200～600mLの割合で加えてよく混合。
成人 維持量 1日1200～1600mL 24時間かけ 中心静脈内に持続点滴注入。
本剤は高濃度のブドウ糖含有製剤なので，特に投与開始時には耐糖能，肝機能等に注意。維持量の半量程度から1日あたりの投与量を漸増し 維持量。
適宜増減。
注意
1．高カロリー輸液療法施行中にビタミンB1欠乏により重篤なアシドーシスの可能性，必ず必要量(1日3mg以上を目安)のビタミンB1を併用。
2．ナトリウム，クロールを含有しないか，含有量が少ないアミノ酸注射液を混合。

■禁忌
【禁忌】1．高乳酸血症。
2．高ナトリウム血症。
3．高クロール血症。
4．高マグネシウム血症，甲状腺機能低下症。
5．高カルシウム血症。
6．遺伝性果糖不耐症(ソルビトール含有のアミノ酸注射液を混注時)。
7．肝性昏睡・そのおそれ。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．重篤なアシドーシス(頻度不明)。
2．高血糖(頻度不明)(過度の高血糖，口渇)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
肝臓 肝機能異常
大量・急速投与 脳浮腫，肺水腫，末梢の浮腫，アシドーシス，水中毒
(表終了)

光糖液5%（5%100mL1瓶）
内 注射 流通

【YJコード】3231401A2040
【薬効分類】3．2．3 糖類剤
【一般名】精製ブドウ糖
【メーカー】製)光製薬 販)ネオクリティケア製薬
【薬価】150円/1V
【標榜薬効】糖類製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．脱水症で水欠乏時の水補給
2．薬物・毒物中毒
3．肝疾患
4．注射剤の溶解希釈
【用法用量】水補給，薬物・毒物中毒，肝疾患 成人 1回5%液500～1000mL 静注。
点滴静注時 0．5g／kg／時以下。
注射剤の溶解希釈 適量使用。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】低張性脱水症。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
大量・急速投与 電解質喪失
(表終了)

光糖液5%（5%500mL1瓶）
内 注射 流通

【YJコード】3231401A6096
【薬効分類】3．2．3 糖類剤
【一般名】精製ブドウ糖
【メーカー】製)光製薬 販)日医工
【薬価】332円/1V
【標榜薬効】糖類製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．脱水症で水欠乏時の水補給
2．薬物・毒物中毒
3．肝疾患
4．注射剤の溶解希釈
【用法用量】水補給，薬物・毒物中毒，肝疾患 成人 1回5%液500～1000mL 静注。
点滴静注時 0．5g／kg／時以下。
注射剤の溶解希釈 適量使用。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】低張性脱水症。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)

3 代謝性医薬品

発現部位等 頻度不明
大量・急速投与 電解質喪失
（表終了）

ブドウ糖（10g）

両 局方 内服 流通

【YJコード】3231001X1019
【薬効分類】3．2．3 糖類剤
【一般名】ブドウ糖
【薬価】7.7円/10g
【標榜薬効】糖類剤

ブドウ糖注50%シリンジ「テルモ」（50%20mL1筒）

内 注射 流通

【YJコード】3231400G9034
【薬効分類】3．2．3 糖類剤
【一般名】精製ブドウ糖
【メーカー】製)テルモ
【薬価】296円/1筒
【薬価収載日】2005/06/10
【標榜薬効】糖類製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】脱水症で水欠乏時の水補給，循環虚脱，低血糖時の糖質補給，高カリウム血症，注射剤の溶解希釈，薬物・毒物中毒，心疾患（GIK療法），肝疾患，その他非経口的に水・エネルギー補給必要時
【用法用量】水補給，薬物・毒物中毒，肝疾患 成人 1回5%液500～1000mL 静注。
循環虚脱，低血糖時の糖質補給，高カリウム血症，心疾患（GIK療法），その他非経口的に水・エネルギー補給必要時 成人 1回10～50%液20～500mL 静注。
点滴静注時 0．5g／kg／時以下。
注射剤の溶解希釈 適量使用。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】低張性脱水症。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
大量・急速投与 電解質喪失
（表終了）

マンニットールS注射液（300mL1袋）

内 注射 流通

【YJコード】3239501A3026
【薬効分類】3．2．3 糖類剤
【一般名】D－ソルビトール・D－マンニトール
【メーカー】製)陽進堂
【薬価】470円/1袋
【薬価収載日】2020/06/19
【標榜薬効】脳圧降下・浸透圧利尿剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○脳圧降下，脳容積縮小の必要時
○眼内圧降下の必要時
○術中・術後・外傷後，薬物中毒時の急性腎不全を浸透圧利尿で予防・治療
【用法用量】7～20mL／kg 点滴静注。速度 3～10分間に100mL。
適宜増減，1日D－マンニトール200gまで。

■禁忌

【禁忌】1．遺伝性果糖不耐症。
2．低張性脱水症。
3．急性頭蓋内血腫。

■副作用

【副作用】重大な副作用
急性腎障害（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
循環器 胸部圧迫感
精神神経系 頭痛，眩暈
消化器 口渇，悪心
その他 悪寒，電解質失調等の脱水症状
（表終了）

3．2．5 たん白アミノ酸製剤

アミノレバンEN配合散（10g）

両 内服 流通

【YJコード】3259108B1039
【薬効分類】3．2．5 たん白アミノ酸製剤
【一般名】肝不全用成分栄養剤
【メーカー】製)大塚製薬
【薬価】88.8円/10g
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】肝不全用栄養剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】肝性脳症を伴う慢性肝不全患者の栄養状態の改善
注意
肝性脳症を伴う慢性肝不全患者の維持療法に使用。
【用法用量】成人 1回1包（50g）（約180mLの水又は温湯に溶かす（約200kcal／200mL）） 1日3回 食事とともに 内服。
適宜増減。
注意
1．1日（150g）で補充される蛋白質量は40．5g，総カロリーは639kcal。残りの必要量は食事より摂取。
2．食事療法含めた治療状況を確認後，用法を選択。
（参考例1）
低蛋白食（蛋白質量40g／日，熱量1600kcal／日）からの切りかえ
蛋白質量40g／日，熱量1000kcal／日の低蛋白食と本剤3包／日（蛋白質量40．5g／日，熱量639kcal／日）の併用に切りかえる。
（参考例2）
肝性脳症改善アミノ酸注射液療法からの切りかえ
蛋白質量40g／日，熱量1000kcal／日の低蛋白食と本剤3包／日（蛋白質量40．5g／日，熱量639kcal／日）の併用に切りかえる。
（参考例3）
肝臓食（蛋白質量80g／日，熱量2100kcal／日）からの切りかえ
蛋白質量40g／日，熱量1500kcal／日の低蛋白食と本剤3包／日（蛋白質量40．5g／日，熱量639kcal／日）の併用に切りかえる。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．牛乳アレルギー。

■副作用

【副作用】重大な副作用
低血糖（1%未満）（冷汗，気分不良，ふるえ，動悸等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感
消化器 下痢，腹部膨満感，嘔気・嘔吐，食欲不振 心窩部痛・腹痛，胸やけ，口唇炎，気分不良，空腹感 舌炎
肝臓 黄疸，肝機能障害
代謝異常 高アンモニア血症，腹水，口渇，血糖値の上昇 低カリウム血症，浮腫，体重増加，偽アルドステロン症，代謝性アシドーシス
精神神経系 頭痛・頭重感，眩暈・眠気
その他 貧血，ほてり 尿量減少，四肢麻痺，血圧上昇
（表終了）

アミノレバン点滴静注（500mL1袋）

内 注射 流通

【YJコード】3253404A4051
【薬効分類】3．2．5 たん白アミノ酸製剤
【一般名】肝不全用アミノ酸製剤
【メーカー】製)大塚製薬工場 販)大塚製薬
【薬価】715円/1袋
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】肝性脳症改善アミノ酸製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性肝障害時の脳症の改善
【用法用量】成人 1回500～1000mL 点滴静注。
速度 成人 500mLあたり180～300分。
経中心静脈輸液法 500～1000mL 24時間かけ 中心静脈内に持続注入（糖質輸液等に混和）。適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．アミノ酸代謝異常。
2．重篤な腎障害（透析・血液ろ過を実施している患者除く）。

■副作用

3 代謝性医薬品

【副作用】重大な副作用
1. 低血糖(頻度不明)。
2. 高アンモニア血症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0.1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹
消化器 悪心・嘔吐
循環器 胸部不快感, 動悸
代謝異常 一過性の血中アンモニア値の上昇
大量・急速投与 アシドーシス
その他 血管痛 悪寒, 発熱, 頭痛
(表終了)

エルネオパNF1号輸液(1000mL1キット)

両 注射 流通

【YJコード】3259533G1029
【薬効分類】3.2.5 たん白アミノ酸製剤
【一般名】アミノ酸・糖・電解質・ビタミン
【メーカー】製)大塚製薬工場 販)大塚製薬
【薬価】1244円/1kit
【薬価収載日】2016/11/18
【標榜薬効】高カロリー輸液用糖・電解質・アミノ酸・総合ビタミン・微量元素液

■効能効果・用法用量

【効能効果】経口・経腸管栄養補給が不能・不十分で, 経中心静脈栄養に頼る時の水分, 電解質, カロリー, アミノ酸, ビタミン, 亜鉛, 鉄, 銅, マンガン, ヨウ素の補給
注意
1. 経中心静脈栄養療法用の栄養輸液として組成, 重篤な肝障害, 腎障害(透析・血液ろ過を実施患者を除く)等の特殊な輸液組成を必要とする疾患には使用しない。
2. エルネオパNF1号輸液は経中心静脈栄養療法の開始時で, 耐糖能不明・病態による耐糖能低下時の開始液, 又は, 侵襲時等で耐糖能低下し, カロリー制限の必要時に経中心静脈栄養療法の維持液として使用。エルネオパNF2号輸液は通常必要カロリー量の患者に維持液として使用。
3. 投与時は, 尿量が1日500mL又は20mL／時以上。
【用法用量】経中心静脈栄養法の開始時で, 耐糖能が不明や耐糖能が低下時の開始液として, 又は侵襲時等で耐糖能が低下しており, ブドウ糖制限の必要時の維持液として使用。
用時, 上下2室の隔壁と上室内にある黄褐色及び赤褐色の小室を同時に開通し混合して, 開始液又は維持液とする。
成人 1日2000mLの開始液又は維持液 24時間かけ 中心静脈内に 持続点滴注入。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤・本剤配合成分に過敏症の既往。
2. 高ナトリウム血症。
3. 高クロール血症。
4. 高カリウム血症, アジソン病。
5. 高リン血症, 副甲状腺機能低下症。
6. 高マグネシウム血症, 甲状腺機能低下症。
7. 高カルシウム血症。
8. アミノ酸代謝異常。
9. 血友病。
10. 重篤な腎障害, 高窒素血症(いずれも透析・血液ろ過を実施している患者除く)。
11. 乏尿(透析・血液ろ過を実施している患者除く)。
12. 重篤な肝障害(肝性昏睡・そのおそれ等)。
13. 胆道閉塞。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 重篤なアシドーシス(頻度不明)。
2. ショック, アナフィラキシー(各頻度不明)(血圧低下, 意識障害, 呼吸困難, チアノーゼ, 悪心, 胸内苦悶, 顔面潮紅, 掻痒感, 発汗等)。
3. 高血糖(頻度不明)(過度の高血糖, 高浸透圧利尿, 口渇)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0.1～5%未満 頻度不明
過敏症 顔面潮紅, 発疹, 掻痒感
代謝異常 血糖上昇 高ナトリウム血症, 高カルシウム血症, 高カリウム血症
消化器 食欲不振, 嘔吐 悪心, 腹痛, 下痢
肝臓 肝機能異常 AI－Pの上昇, γ－GTP上昇 総ビリルビンの上昇
腎臓 BUNの上昇
循環器 胸部不快感, 動悸
精神神経系 パーキンソン様症状
大量・急速投与 脳浮腫, 肺水腫, 末梢の浮腫, 水中毒
その他 血中マンガン上昇, 頭痛, 悪寒, 発熱, 熱感
(表終了)

エルネオパNF1号輸液(1500mL1キット)

両 注射 流通

【YJコード】3259533G2025
【薬効分類】3.2.5 たん白アミノ酸製剤
【一般名】アミノ酸・糖・電解質・ビタミン
【メーカー】製)大塚製薬工場 販)大塚製薬
【薬価】1817円/1kit
【薬価収載日】2016/11/18
【標榜薬効】高カロリー輸液用糖・電解質・アミノ酸・総合ビタミン・微量元素液

■効能効果・用法用量

【効能効果】経口・経腸管栄養補給が不能・不十分で, 経中心静脈栄養に頼る時の水分, 電解質, カロリー, アミノ酸, ビタミン, 亜鉛, 鉄, 銅, マンガン, ヨウ素の補給
注意
1. 経中心静脈栄養療法用の栄養輸液として組成, 重篤な肝障害, 腎障害(透析・血液ろ過を実施患者を除く)等の特殊な輸液組成を必要とする疾患には使用しない。
2. エルネオパNF1号輸液は経中心静脈栄養療法の開始時で, 耐糖能不明・病態による耐糖能低下時の開始液, 又は, 侵襲時等で耐糖能低下し, カロリー制限の必要時に経中心静脈栄養療法の維持液として使用。エルネオパNF2号輸液は通常必要カロリー量の患者に維持液として使用。
3. 投与時は, 尿量が1日500mL又は20mL／時以上。
【用法用量】経中心静脈栄養法の開始時で, 耐糖能が不明や耐糖能が低下時の開始液として, 又は侵襲時等で耐糖能が低下しており, ブドウ糖制限の必要時の維持液として使用。
用時, 上下2室の隔壁と上室内にある黄褐色及び赤褐色の小室を同時に開通し混合して, 開始液又は維持液とする。
成人 1日2000mLの開始液又は維持液 24時間かけ 中心静脈内に 持続点滴注入。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤・本剤配合成分に過敏症の既往。
2. 高ナトリウム血症。
3. 高クロール血症。
4. 高カリウム血症, アジソン病。
5. 高リン血症, 副甲状腺機能低下症。
6. 高マグネシウム血症, 甲状腺機能低下症。
7. 高カルシウム血症。
8. アミノ酸代謝異常。
9. 血友病。
10. 重篤な腎障害, 高窒素血症(いずれも透析・血液ろ過を実施している患者除く)。
11. 乏尿(透析・血液ろ過を実施している患者除く)。
12. 重篤な肝障害(肝性昏睡・そのおそれ等)。
13. 胆道閉塞。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 重篤なアシドーシス(頻度不明)。
2. ショック, アナフィラキシー(各頻度不明)(血圧低下, 意識障害, 呼吸困難, チアノーゼ, 悪心, 胸内苦悶, 顔面潮紅, 掻痒感, 発汗等)。
3. 高血糖(頻度不明)(過度の高血糖, 高浸透圧利尿, 口渇)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0.1～5%未満 頻度不明
過敏症 顔面潮紅, 発疹, 掻痒感
代謝異常 血糖上昇 高ナトリウム血症, 高カルシウム血症, 高カリウム血症
消化器 食欲不振, 嘔吐 悪心, 腹痛, 下痢
肝臓 肝機能異常 AI－Pの上昇, γ－GTP上昇 総ビリルビンの上昇
腎臓 BUNの上昇
循環器 胸部不快感, 動悸
精神神経系 パーキンソン様症状
大量・急速投与 脳浮腫, 肺水腫, 末梢の浮腫, 水中毒
その他 血中マンガン上昇, 頭痛, 悪寒, 発熱, 熱感
(表終了)

エルネオパNF2号輸液(1000mL1キット)

両 注射 流通

【YJコード】3259534G1023
【薬効分類】3.2.5 たん白アミノ酸製剤
【一般名】アミノ酸・糖・電解質・ビタミン
【メーカー】製)大塚製薬工場 販)大塚製薬
【薬価】1336円/1kit
【薬価収載日】2016/11/18
【標榜薬効】高カロリー輸液用糖・電解質・アミノ酸・総合ビタミン・微量元素

3 代謝性医薬品

液

■効能効果・用法用量

【効能効果】経口・経腸管栄養補給が不能・不十分で，経中心静脈栄養に頼る時の水分，電解質，カロリー，アミノ酸，ビタミン，亜鉛，鉄，銅，マンガン，ヨウ素の補給
注意
1．経中心静脈栄養療法用の栄養輸液として組成，重篤な肝障害，腎障害（透析・血液ろ過を実施患者を除く）等の特殊な輸液組成を必要とする疾患には使用しない。
2．エルネオパNF1号輸液は経中心静脈栄養療法の開始時で，耐糖能不明・病態による耐糖能低下時の開始液，又は，侵襲時等で耐糖能低下し，カロリー制限の必要時に経中心静脈栄養療法の維持液として使用。エルネオパNF2号輸液は通常必要カロリー量の患者に維持液として使用。
3．投与時は，尿量が1日500mL又は20mL／時以上。
【用法用量】経中心静脈栄養法の維持液として使用。
用時，上下2室の隔壁と上室内にある黄褐色及び赤褐色の小室を同時に開通し混合して，維持液とする。
成人　1日2000mLの維持液　24時間かけ　中心静脈内に　持続点滴注入。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．本剤・本剤配合成分に過敏症の既往。
2．高ナトリウム血症。
3．高クロール血症。
4．高カリウム血症，アジソン病。
5．高リン血症，副甲状腺機能低下症。
6．高マグネシウム血症，甲状腺機能低下症。
7．高カルシウム血症。
8．アミノ酸代謝異常。
9．血友病。
10．重篤な腎障害，高窒素血症（いずれも透析・血液ろ過を実施している患者除く）。
11．乏尿（透析・血液ろ過を実施している患者除く）。
12．重篤な肝障害（肝性昏睡・そのおそれ等）。
13．胆道閉塞。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．重篤なアシドーシス（頻度不明）。
2．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（血圧低下，意識障害，呼吸困難，チアノーゼ，悪心，胸内苦悶，顔面潮紅，掻痒感，発汗等）。
3．高血糖（頻度不明）（過度の高血糖，高浸透圧利尿，口渇）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症　顔面潮紅，発疹，掻痒感
代謝異常 血糖上昇　高ナトリウム血症，高カルシウム血症，高カリウム血症
消化器　食欲不振，嘔吐 悪心，腹痛，下痢
肝臓 肝機能異常 AI－Pの上昇，γ－GTP上昇 総ビリルビンの上昇
腎臓　BUNの上昇
循環器　胸部不快感，動悸
精神神経系　パーキンソン様症状
大量・急速投与　脳浮腫，肺水腫，末梢の浮腫，水中毒
その他　血中マンガン上昇，頭痛，悪寒，発熱，熱感
（表終了）

エルネオパNF2号輸液（1500mL1キット）

両　注射　流通

【YJコード】3259534G2020
【薬効分類】3．2．5　たん白アミノ酸製剤
【一般名】アミノ酸・糖・電解質・ビタミン
【メーカー】製)大塚製薬工場　販)大塚製薬
【薬価】1957円／1kit
【薬価収載日】2016/11/18
【標榜薬効】高カロリー輸液用糖・電解質・アミノ酸・総合ビタミン・微量元素液

■効能効果・用法用量

【効能効果】経口・経腸管栄養補給が不能・不十分で，経中心静脈栄養に頼る時の水分，電解質，カロリー，アミノ酸，ビタミン，亜鉛，鉄，銅，マンガン，ヨウ素の補給
注意
1．経中心静脈栄養療法用の栄養輸液として組成，重篤な肝障害，腎障害（透析・血液ろ過を実施患者を除く）等の特殊な輸液組成を必要とする疾患には使用しない。
2．エルネオパNF1号輸液は経中心静脈栄養療法の開始時で，耐糖能不明・病態による耐糖能低下時の開始液，又は，侵襲時等で耐糖能低下し，カロリー制限の必要時に経中心静脈栄養療法の維持液として使用。エルネオパNF2号輸液は通常必要カロリー量の患者に維持液として使用。
3．投与時は，尿量が1日500mL又は20mL／時以上。
【用法用量】経中心静脈栄養法の維持液として使用。
用時，上下2室の隔壁と上室内にある黄褐色及び赤褐色の小室を同時に開通し混合して，維持液とする。
成人　1日2000mLの維持液　24時間かけ　中心静脈内に　持続点滴注入。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．本剤・本剤配合成分に過敏症の既往。
2．高ナトリウム血症。
3．高クロール血症。
4．高カリウム血症，アジソン病。
5．高リン血症，副甲状腺機能低下症。
6．高マグネシウム血症，甲状腺機能低下症。
7．高カルシウム血症。
8．アミノ酸代謝異常。
9．血友病。
10．重篤な腎障害，高窒素血症（いずれも透析・血液ろ過を実施している患者除く）。
11．乏尿（透析・血液ろ過を実施している患者除く）。
12．重篤な肝障害（肝性昏睡・そのおそれ等）。
13．胆道閉塞。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．重篤なアシドーシス（頻度不明）。
2．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（血圧低下，意識障害，呼吸困難，チアノーゼ，悪心，胸内苦悶，顔面潮紅，掻痒感，発汗等）。
3．高血糖（頻度不明）（過度の高血糖，高浸透圧利尿，口渇）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症　顔面潮紅，発疹，掻痒感
代謝異常 血糖上昇　高ナトリウム血症，高カルシウム血症，高カリウム血症
消化器　食欲不振，嘔吐 悪心，腹痛，下痢
肝臓 肝機能異常 AI－Pの上昇，γ－GTP上昇 総ビリルビンの上昇
腎臓　BUNの上昇
循環器　胸部不快感，動悸
精神神経系　パーキンソン様症状
大量・急速投与　脳浮腫，肺水腫，末梢の浮腫，水中毒
その他　血中マンガン上昇，頭痛，悪寒，発熱，熱感
（表終了）

エレンタール配合内用剤（10g）

両　内服　流通

【YJコード】3259103B1036
【薬効分類】3．2．5　たん白アミノ酸製剤
【一般名】経腸成分栄養剤
【メーカー】製)EAファーマ
【薬価】58.6円／10g
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】成分栄養剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】消化を殆ど必要としない成分で構成された極めて低残渣性・易吸収性の経腸的高カロリー栄養剤でエレメンタルダイエット・成分栄養と呼ばれる。術前・後に，未消化態蛋白含む経管栄養剤による栄養管理が困難な時用いるが，特に下記に使用。
1．未消化態蛋白含む経管栄養剤の適応困難時の術後栄養管理
2．腸内の清浄化を要する疾患の栄養管理
3．術直後の栄養管理
4．消化管異常病態下の栄養管理（縫合不全，短腸症候群，各種消化管瘻等）
5．消化管特殊疾患時の栄養管理（クローン氏病，潰瘍性大腸炎，消化不全症候群，膵疾患，蛋白漏出性腸症等）
6．高カロリー輸液が困難時の栄養管理（広範囲熱傷等）
【用法用量】エレンタール配合内用剤80gを300mLとなるよう常水又は微温湯に溶かす（1kcal／mL）　鼻腔ゾンデ，胃瘻又は腸瘻から十二指腸又は空腸内に　24時間　持続注入（速度　75～100mL／時）。
本溶液を1回又は数回　分割　内服もできる。
標準量　成人　1日480～640g（1800～2400kcal）　投与。適宜増減。
初期量　1日量の約1／8（60～80g）を所定濃度の約1／2（0．5kcal／mL）から開始。状態により，漸増し4～10日後に標準量に達するようにする。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．重症糖尿病，ステロイド大量投与で糖代謝異常の疑い。
3．妊娠3ヵ月以内・妊娠を希望する女性へのビタミンA5000IU／日以上の投与。
4．アミノ酸代謝異常。

■副作用

3 代謝性医薬品

【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（血圧低下，意識障害，呼吸困難，チアノーゼ，悪心，胸内苦悶，顔面潮紅，掻痒感，発汗等）。
2. ダンピング症候群様の低血糖（0．1%未満）（倦怠感，発汗，冷汗，顔面蒼白，痙攣，意識低下等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満
消化器 下痢 腹部膨満感，悪心，嘔吐，腹痛
肝臓 血中AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇 LDH上昇，γ－GTP上昇
腎臓 血中尿素窒素の上昇
糖・脂質代謝 血糖値の上昇 中性脂肪上昇
自律神経系 発汗
皮膚 発疹
その他 発熱
（表終了）

エンシュア・H（10mL）

両 内服 流通

【YJコード】3259114S1026
【薬効分類】3．2．5 たん白アミノ酸製剤
【一般名】経腸成分栄養剤
【メーカー】製)アボットジャパン 販)大日本住友製薬
【薬価】9.1円/10mL
【薬価収載日】1995/06/02
【標榜薬効】経腸栄養剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】術後の栄養保持，長期に経口摂取困難で，単位量あたり高カロリー（1．5kcal／mL）の経腸栄養剤を要する下記の経管栄養補給
（1）．水分の摂取制限が必要（心不全や腎不全の合併等）
（2）．安静時エネルギー消費量の亢進（熱傷患者，感染症の合併等）
（3）．経腸栄養剤の投与容量を減らす（容量依存性の腹部膨満感等）
（4）．経腸栄養剤の投与時間を短縮（口腔外科や耳鼻科の術後等）
【用法用量】成人 1日1000～1500mL（1500～2250kcal） 経管又は内服。1．5kcal／mL。
適宜増減。
経管 50～100mL／時 持続的又は1日数回 分割。消化吸収障害がなく経腸栄養剤の投与時間の短縮時 400mL／時の速度まで上げることができる。
内服 1日1～数回 分割。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．牛乳蛋白アレルギー。
3．蛋白質や電解質の厳密な制限が必要な急性腎炎，ネフローゼ，腎不全末期。
4．悪心，嘔吐，下痢を合併している心不全。
5．妊娠3ヵ月以内・妊娠を希望する女性へのビタミンA5000IU／日以上の投与。

■副作用

【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（血圧低下，意識障害，呼吸困難，チアノーゼ，悪心，胸内苦悶，顔面潮紅，掻痒感，発汗等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
消化器 下痢 胃部不快感，腹部膨満感，悪心，嘔吐
肝臓 肝機能異常（AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇，AI－P上昇等）
代謝・栄養 BUN上昇，血中カリウム上昇，LDH上昇，アミラーゼ上昇
過敏症 発疹
（表終了）

キドパレン輸液（1050mL1キット）

内 注射 流通

【YJコード】3259538G1021
【薬効分類】3．2．5 たん白アミノ酸製剤
【一般名】アミノ酸・糖・電解質・ビタミン
【メーカー】製)大塚製薬工場 販)大塚製薬
【薬価】2269円/1kit
【薬価収載日】2024/11/20
【標榜薬効】慢性腎不全高カロリー輸液用アミノ酸・糖・電解質・総合ビタミン液

■効能効果・用法用量

【効能効果】経口・経腸管栄養補給が不能・不十分で，経中心静脈栄養に頼る慢性腎不全（高カリウム血症，高リン血症又はそのおそれのある患者のみ）の水分，電解質，カロリー，アミノ酸，ビタミン補給
【用法用量】用時，上下2室の隔壁と上室内にある黄褐色の小室を同時に開通し，混合して使用。
成人 維持量 1050mL 24時間かけ 中心静脈内に 持続点滴注入。
本剤は，高濃度のブドウ糖含有製剤なので，特に投与開始時には耐糖能，肝機能等に注意。低速度（維持量の半量程度）から開始，1日量を漸増し 維持量とする。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．高乳酸血症。
3．高ナトリウム血症。
4．高クロール血症。
5．高マグネシウム血症，甲状腺機能低下症。
6．高カルシウム血症。
7．高アンモニア血症。
8．先天性アミノ酸代謝異常症。
9．血友病。
10．肝性昏睡・そのおそれ。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．重篤な急性心不全（1．6%）。
2．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（血圧低下，意識障害，呼吸困難，チアノーゼ，悪心，胸内苦悶，顔面潮紅，掻痒感，発汗等）。
3．重篤なアシドーシス（頻度不明）。
4．高血糖（頻度不明）（過度の高血糖，口渇）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感，顔面潮紅
代謝異常 高カリウム血症，高カルシウム血症
消化器 悪心・嘔吐，腹痛，下痢，食欲不振
循環器 胸部不快感，動悸
肝臓 肝機能異常，肝機能検査異常 高アンモニア血症
腎臓 BUNの上昇，クレアチニンの上昇
大量・急速投与 脳浮腫，肺水腫，末梢の浮腫，アシドーシス，水中毒
その他 下肢浮腫，口渇，頭痛，悪寒，発熱，熱感
（表終了）

ネオアミユー輸液（200mL1袋）

両 注射 流通

【YJコード】3253415A1034
【薬効分類】3．2．5 たん白アミノ酸製剤
【一般名】腎不全用アミノ酸製剤
【メーカー】製)エイワイファーマ 販)EAファーマ 販)陽進堂
【薬価】450円/1袋
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】腎不全用総合アミノ酸製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の急性・慢性腎不全時のアミノ酸補給
低蛋白血症，低栄養状態，術前後
注意
経口栄養摂取が不能・不十分で，非経口的な栄養管理を必要時に投与。
【用法用量】慢性腎不全
・末梢静脈投与時
成人 1回200mL 1日1回 緩徐に点滴静注。
速度 200mLあたり120～180分。
小児，高齢者，重篤な患者 さらに緩徐に注入。
適宜増減。
透析療法施行時 透析終了90～60分前より透析回路の静脈側に注入。摂取熱量 1日1500kcal以上。
・高カロリー輸液法で投与時
成人 1日400mL 中心静脈内に 持続点滴注入。
適宜増減。投与窒素1．6g（本剤 200mL）あたり500kcal以上の非蛋白熱量を投与。
急性腎不全
成人 1日400mL 高カロリー輸液法で 中心静脈内に 持続点滴注入。
適宜増減。投与窒素1．6g（本剤 200mL）あたり500kcal以上の非蛋白熱量を投与。

■禁忌

【禁忌】1．高アンモニア血症。
2．先天性アミノ酸代謝異常症。
3．肝性昏睡・そのおそれ。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒，全身蕁麻疹
消化器 悪心（嘔気），嘔吐 食欲不振
肝臓 肝障害

3 代謝性医薬品

腎臓 血中クレアチニン上昇，BUN上昇
循環器 胸部不快感，動悸
大量・急速投与 アシドーシス
その他 頭痛，鼻閉・鼻汁，代謝性アシドーシス 高アンモニア血症，重炭酸塩減少，悪寒，発熱，熱感，頭部灼熱感，血管痛
（表終了）

ビーフリード輸液（500mL1キット）

両 注射 流通

【YJコード】3259529G1030
【薬効分類】3．2．5 たん白アミノ酸製剤
【一般名】アミノ酸・糖・電解質・ビタミン
【メーカー】製)大塚製薬工場 販)大塚製薬
【薬価】551円/1kit
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】ビタミンB1・糖・電解質・アミノ酸液

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記のアミノ酸，電解質，ビタミンB1，水分の補給
〇経口摂取不十分で，軽度の低蛋白血症・軽度の低栄養状態
〇術前後
注意
投与時は，尿量が1日500mL又は20mL／時以上。
【用法用量】用時，隔壁開通して上室液と下室液を混合。
成人 1回500mL 末梢静脈内に 点滴静注。
速度 成人 500mLあたり120分。
高齢者，重篤な患者 さらに緩徐に注入。
適宜増減，1日最大2500mL。
注意
1．経口摂取不十分で，本剤にて補助的栄養補給時は，栄養必要量・経口摂取量等を総合的に判断し，投与。
2．本剤のみでは1日必要量のカロリー補給できないので，使用は短期間にとどめる。
3．術後の本剤単独投与は短期間（3～5日間）とし，速やかに経口・経腸管栄養，他の栄養法に移行。

■禁忌

【禁忌】1．チアミン塩化物塩酸塩に過敏症の既往。
2．高カリウム血症，アジソン病。
3．高リン血症，副甲状腺機能低下症。
4．高マグネシウム血症，甲状腺機能低下症。
5．高カルシウム血症。
6．アミノ酸代謝異常症。
7．高度のアシドーシス（高乳酸血症等）。
8．うっ血性心不全。
9．閉塞性尿路疾患による尿量の減少。
10．重篤な腎障害，高窒素血症（いずれも透析・血液ろ過を実施している患者除く）。
11．乏尿（透析・血液ろ過を実施している患者除く）。
12．肝性昏睡・そのおそれ。

■副作用

【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（血圧降下，胸内苦悶，呼吸困難等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹
消化器 悪心・嘔吐
循環器 胸部不快感 動悸
肝臓 AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇 総ビリルビンの上昇
大量・急速投与 脳浮腫，肺水腫，末梢の浮腫，高カリウム血症，水中毒，アシドーシス
その他 血管痛，静脈炎 悪寒，発熱，熱感，頭痛
（表終了）

モリプロンF輸液（200mL1袋）

内 注射 流通

【YJコード】3253403A2038
【薬効分類】3．2．5 たん白アミノ酸製剤
【一般名】高カロリー輸液用総合アミノ酸製剤
【メーカー】製)エイワイファーマ 販)EAファーマ 販)陽進堂
【薬価】474円/1袋
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】総合アミノ酸製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記のアミノ酸補給
低蛋白血症，低栄養状態，術前後
【用法用量】末梢静脈投与
成人 1回200～400mL 緩徐に点滴静注。
速度 成人 200mLあたり約120分。
小児，老人，重篤な患者 さらに緩徐に注入。
適宜増減。
糖類輸液剤と同時投与。
中心静脈投与
成人 1日400～800mL 高カロリー輸液法で 中心静脈内に 持続点滴注入。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．アミノ酸代謝異常。
2．重篤な腎障害，高窒素血症（いずれも透析・血液ろ過を実施している患者除く）。
3．肝性昏睡・そのおそれ。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感等
消化器 悪心・嘔吐等
循環器 胸部不快感，動悸
大量・急速投与 アシドーシス
その他 悪寒，熱感，頭痛，血管痛
（表終了）

ラコールNF配合経腸用液（10mL）

両 内服 流通

【YJコード】3259118S1024
【薬効分類】3．2．5 たん白アミノ酸製剤
【一般名】経腸成分栄養剤
【メーカー】製)イーエヌ大塚製薬 販)大塚製薬
【薬価】10.7円/10mL
【薬価収載日】2011/05/20
【標榜薬効】経腸栄養剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】術後の栄養保持，長期に経口摂取困難時の経管栄養補給
注意
術後投与時，胃，腸管の運動機能が回復し，水分の摂取が可能になったことを確認。
【用法用量】成人 1日1200～2000mL（1200～2000kcal） 経鼻チューブ，胃瘻又は腸瘻より胃，十二指腸又は空腸に 1日12～24時間（75～125mL／時）かけ 投与。内服 1日1～数回 分割もできる。
開始時 1日400mL（400kcal）（水で希釈（0．5kcal／mL程度））低速度（約100mL／時以下）で投与。増量し，3～7日で標準量に達するようにする。
適宜増減。
注意
1．臨床試験では35日以上の効果は未確認。
2．経口食により栄養摂取が可能となれば，速やかに経口食に切りかえる。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．牛乳蛋白アレルギー。
3．イレウス。
4．腸管の機能が残存してない患者。
5．高度の肝・腎障害。
6．重症糖尿病等の糖代謝異常。
7．先天性アミノ酸代謝異常。

■副作用

【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（血圧低下，意識障害，呼吸困難，チアノーゼ，悪心，胸内苦悶，顔面潮紅，掻痒感，発汗等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
消化器 下痢（22．5%），腹部膨満感，腹痛 悪心，嘔吐，肝機能検査値の異常 便秘
その他 皮疹，蕁麻疹，発熱，頭痛
臨床検査値の異常変動（血液） AST，ALT，AI－P，LDH，γ－GTP，LAP，尿素窒素，中性脂肪，カリウム，クレアチニン，カルシウム，クロールの上昇，ナトリウム，クロール，カルシウム，総コレステロール，遊離脂肪酸，総ビリルビン，尿酸，総蛋白，アルブミンの低下，血糖値の上昇と低下，血小板数，白血球数の増加，赤血球数の減少，血色素量，ヘマトクリット値の低下
臨床検査値の異常変動（尿） ナトリウムの低下 蛋白定性，ウロビリノーゲン定性，ケトン体定性，尿糖定性の陽性，ナトリウムの上昇，クロール，カルシウム，カリウムの低下と上昇，pHの上昇
（表終了）

3 代謝性医薬品

ラコールNF配合経腸用半固形剤（10g）

両 内服 流通

【YJコード】3259118T1020
【薬効分類】3．2．5 たん白アミノ酸製剤
【一般名】経腸成分栄養剤
【メーカー】製)イーエヌ大塚製薬 販)大塚製薬
【薬価】10.7円/10g
【薬価収載日】2014/05/30
【標榜薬効】経腸栄養剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】術後の栄養保持，長期に経口摂取困難時の経管栄養補給
注意
術後投与時，胃，腸管の運動機能が回復し，水分の摂取が可能になったことを確認。
【用法用量】成人 1日1200～2000g(1200～2000kcal) 胃瘻より胃に 1日数回 分割 投与。100gあたり2～3分(300gあたり6～9分) 1回最大600g。
初めて投与する時 投与後の症状に注意し増量 数日で標準量に達するようにする。
適宜増減。
注意
1．臨床試験では13日以上の効果は未確認。
2．経口食により栄養摂取が可能となれば，速やかに経口食に切りかえる。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．牛乳蛋白アレルギー。
3．胃の機能が残存していない患者。
4．イレウス。
5．腸管の機能が残存してない患者。
6．高度の肝・腎障害。
7．重症糖尿病等の糖代謝異常。
8．先天性アミノ酸代謝異常。

■副作用

【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(血圧低下，意識障害，呼吸困難，チアノーゼ，悪心，胸内苦悶，顔面潮紅，掻痒感，発汗等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
消化器 下痢(17．9%) 腹部膨満感，便秘，悪心 腹痛，嘔吐，肝機能検査値の異常
その他 低ナトリウム血症，誤嚥性肺炎 皮疹，蕁麻疹，発熱，頭痛
臨床検査値の異常変動(血液) ALTの上昇 AST，カリウムの上昇，ナトリウム，クロールの低下，白血球数の増加 AI－P，LDH，γ－GTP，LAP，尿素窒素，中性脂肪，クレアチニン，カルシウム，クロールの上昇，カルシウム，総コレステロール，遊離脂肪酸，総ビリルビン，尿酸，総蛋白，アルブミンの低下，血糖値の上昇と低下，血小板数の増加，赤血球数の減少，血色素量，ヘマトクリット値の低下
臨床検査値の異常変動(尿) 蛋白定性，ウロビリノーゲン定性，ケトン体定性，尿糖定性の陽性，ナトリウム，クロール，カルシウム，カリウムの低下と上昇，pHの上昇
(表終了)

リーバクト配合顆粒（4．15g1包）

両 内服 流通

【YJコード】3253003D2031
【薬効分類】3．2．5 たん白アミノ酸製剤
【一般名】イソロイシン・ロイシン・バリン
【メーカー】製)EAファーマ
【薬価】134円/1包
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】分岐鎖アミノ酸製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】非代償性肝硬変で，食事摂取量が十分な低アルブミン血症の改善
注意
1．血清アルブミン値が3．5g／dL以下の低アルブミン血症を呈し，腹水・浮腫・肝性脳症か既往のある非代償性肝硬変で，食事摂取量が十分な低アルブミン血症，糖尿病・肝性脳症の合併等で総熱量や総蛋白(アミノ酸)量の制限が必要な患者が適応。糖尿病や肝性脳症の合併等がなく，食事摂取は可能だが摂取量不足には食事指導を行う。肝性脳症の発現等で食事摂取量不足には熱量・蛋白質(アミノ酸)含む薬剤を投与。
2．下記は肝硬変が高度進行し効果が期待できないので投与しない。
(1)．肝性脳症で昏睡度がⅢ度以上。
(2)．総ビリルビン値が3mg／dL以上。
(3)．肝臓での蛋白合成能が著しく低下。
【用法用量】成人 1回1包 1日3回 食後 内服。
注意
1．本剤は分岐鎖アミノ酸製剤，使用時は状態に合わせた必要蛋白量(アミノ酸量)，熱量(1日蛋白量40g以上，1日熱量1000kcal以上)を食事等で摂取。蛋白制限時は，必要最小限の蛋白量，熱量を確保しないと効果は期待できず，長期投与で栄養状態の悪化のおそれ。
2．BUN又は血中アンモニア異常がある時は過剰投与の可能性。長期・過剰投与は栄養状態悪化のおそれ。
3．2ヵ月以上投与しても低アルブミン血症の改善なければ，他の治療に切りかえる等の処置。

■禁忌

【禁忌】先天性分岐鎖アミノ酸代謝異常。

■副作用

【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
消化器 腹部膨満感，下痢，腹部不快感，食欲不振，口渇 嘔気，便秘，腹痛，嘔吐，おくび，胸やけ等
腎臓 BUN上昇，血中クレアチニン上昇等
代謝 血中アンモニア値の上昇等
肝臓 AST上昇，ALT上昇，T－Bilの上昇等
皮膚 発疹，掻痒等
その他 倦怠感，浮腫(顔，下肢等)，発赤，ほてり
(表終了)

3．2．9 その他の滋養強壮薬

イントラリポス輸液20%（20%100mL1袋）

両 注射 流通

【YJコード】3299505A4045
【薬効分類】3．2．9 その他の滋養強壮薬
【一般名】ダイズ油
【メーカー】製)大塚製薬工場 販)大塚製薬
【薬価】1182円/1袋
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】脂肪乳剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の栄養補給
術前・術後，急・慢性消化器疾患，消耗性疾患，火傷(熱傷)・外傷，長期の意識不明状態時
【用法用量】1日250mL(ダイズ油 20%液) 3時間以上かけ 点滴静注。
適宜増減，1日脂肪2g／kg以内。

■禁忌

【禁忌】1．血栓症。
2．重篤な血液凝固障害。
3．高脂血症。
4．ケトーシスを伴う糖尿病。
5．重篤な肝障害。
6．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(呼吸困難，チアノーゼ等)。
2．静脈塞栓(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
血管・血液 静脈炎，血管痛，出血傾向
過敏症 発疹，掻痒感
肝臓 肝機能障害
循環器 血圧降下，頻脈，頻呼吸
呼吸器 呼吸困難
消化器 嘔気・嘔吐，下痢，口渇
その他 発熱，悪寒，顔面潮紅，顔面浮腫，異臭感，胸部圧迫感
(表終了)

3 代謝性医薬品

3．3 血液・体液用薬

3．3．1 血液代用剤

KCL注20mEqキット「テルモ」（1モル20mL1キット）

両 注射 後発 流通
ハイリスク

【YJコード】3319402G4024
【薬効分類】3．3．1 血液代用剤
【一般名】塩化カリウム
【メーカー】製)テルモ
【薬価】225円/1kit
【薬価収載日】2006/12/08
【ハイリスク分類】カリウム製剤
【標榜薬効】補正用電解質液

■効能効果・用法用量
【効能効果】電解質補液の補正
【用法用量】電解質補液の補正用 体内の水分，電解質の不足に応じて電解質補液に添加し 点滴静注，又は腹膜透析液に添加し 腹腔内投与。
注意
1．希釈して使用（カリウムイオン濃度で40mEq／L以下に希釈し，混和後に投与）。
2．ゆっくり静脈内に投与，速度はカリウムイオンで20mEq／時まで。
3．カリウムイオンとしての投与量は1日100mEqまで。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
急速投与 高カリウム血症
（表終了）

ヴィーン3G輸液（500mL1袋）

両 注射 流通

【YJコード】3319562A3041
【薬効分類】3．3．1 血液代用剤
【一般名】酢酸維持液（ブドウ糖加）
【メーカー】製)扶桑薬品工業 販)ニプロ
【薬価】274円/1袋
【薬価収載日】2017/06/16
【標榜薬効】ブドウ糖加酢酸維持液

■効能効果・用法用量
【効能効果】経口摂取不能・不十分時の水分・電解質の補給・維持，エネルギーの補給
注意
投与時は，尿量が1日500mL又は20mL／時以上。
【用法用量】成人 1回500～1000mL 点滴静注。
小児 1回200～500mL 点滴静注。
成人・小児 ブドウ糖0．5g／kg／時以下。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．高カリウム血症，乏尿，アジソン病，重症熱傷，高窒素血症。
2．高リン血症，低カルシウム血症，副甲状腺機能低下症。
3．高マグネシウム血症，甲状腺機能低下症。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
大量・急速投与 脳浮腫，肺水腫，末梢の浮腫，水中毒，高カリウム血症
（表終了）

ヴィーンD輸液（500mL1袋）

両 注射 流通

【YJコード】3319551A4090
【薬効分類】3．3．1 血液代用剤
【一般名】ブドウ糖加酢酸リンゲル液
【メーカー】製)扶桑薬品工業 販)ニプロ
【薬価】222円/1袋
【薬価収載日】2017/06/16
【標榜薬効】細胞外液補充液

■効能効果・用法用量
【効能効果】循環血液量・組織間液減少時の細胞外液の補給・補正，代謝性アシドーシスの補正，エネルギーの補給
【用法用量】成人 1回500～1000mL 点滴静注。
速度 ブドウ糖0．5g／kg／時以下。
適宜増減。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
大量・急速投与 脳浮腫，肺水腫，末梢の浮腫
代謝異常 高血糖，尿糖
肝臓 肝機能障害
（表終了）

塩化ナトリウム注10%「日新」（10%20mL1管）

両 注射 流通

【YJコード】3311400A1092
【薬効分類】3．3．1 血液代用剤
【一般名】塩化ナトリウム
【メーカー】製)日新製薬 販)日本ジェネリック 販)和薬
【薬価】100円/1A
【薬価収載日】2007/07/06
【標榜薬効】電解質補給液

■効能効果・用法用量
【効能効果】ナトリウム欠乏時の電解質補給
【用法用量】電解質補給 輸液剤等に添加し 必要量 静注・点滴静注。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
大量投与 高ナトリウム血症，うっ血性心不全，浮腫
（表終了）

大塚生食注（100mL1瓶）

両 注射 流通

【YJコード】3311401A3111
【薬効分類】3．3．1 血液代用剤
【一般名】生理食塩液
【メーカー】製)大塚製薬工場 販)大塚製薬
【薬価】147円/1V
【薬価収載日】1997/10/01
【標榜薬効】生理食塩液

■効能効果・用法用量
【効能効果】注射 細胞外液欠乏時，ナトリウム欠乏時，クロール欠乏時，注射剤の溶解希釈
外用 皮膚・創傷面・粘膜の洗浄・湿布，含嗽・噴霧吸入剤として気管支粘膜洗浄・喀痰排出促進
その他 医療用器具の洗浄
【用法用量】1．注射
20～1000mL 皮下注・静注・点滴静注。
適宜増減。
注射用医薬品の希釈・溶解に使用。
2．外用
皮膚・創傷面・粘膜の洗浄，湿布，含嗽，噴霧吸入に使用。
3．その他
医療器具の洗浄に使用。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
大量・急速投与 血清電解質異常，うっ血性心不全，浮腫，アシドーシス
（表終了）

大塚生食注（500mL1瓶）

両 注射 流通

【YJコード】3311401A7028
【薬効分類】3．3．1 血液代用剤
【一般名】生理食塩液
【メーカー】製)大塚製薬工場 販)大塚製薬
【薬価】236円/1V
【標榜薬効】生理食塩液

3 代謝性医薬品

■効能効果・用法用量
【効能効果】注射 細胞外液欠乏時，ナトリウム欠乏時，クロール欠乏時，注射剤の溶解希釈
外用 皮膚・創傷面・粘膜の洗浄・湿布，含嗽・噴霧吸入剤として気管支粘膜洗浄・喀痰排出促進
その他 医療用器具の洗浄
【用法用量】1．注射
20～1000mL 皮下注・静注・点滴静注。
適宜増減。
注射用医薬品の希釈・溶解に使用。
2．外用
皮膚・創傷面・粘膜の洗浄，湿布，含嗽，噴霧吸入に使用。
3．その他
医療器具の洗浄に使用。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
大量・急速投与 血清電解質異常，うっ血性心不全，浮腫，アシドーシス
（表終了）

大塚生食注（500mL1袋）
両 注射 流通

【YJコード】3311401A9020
【薬効分類】3．3．1 血液代用剤
【一般名】生理食塩液
【メーカー】製)大塚製薬工場 販)大塚製薬
【薬価】236円/1袋
【標榜薬効】生理食塩液

■効能効果・用法用量
【効能効果】注射 細胞外液欠乏時，ナトリウム欠乏時，クロール欠乏時，注射剤の溶解希釈
外用 皮膚・創傷面・粘膜の洗浄・湿布，含嗽・噴霧吸入剤として気管支粘膜洗浄・喀痰排出促進
その他 医療用器具の洗浄
【用法用量】1．注射
20～1000mL 皮下注・静注・点滴静注。
適宜増減。
注射用医薬品の希釈・溶解に使用。
2．外用
皮膚・創傷面・粘膜の洗浄，湿布，含嗽，噴霧吸入に使用。
3．その他
医療器具の洗浄に使用。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
大量・急速投与 血清電解質異常，うっ血性心不全，浮腫，アシドーシス
（表終了）

生食液NS（20mL1管）
両 注射 流通

【YJコード】3311401A2115
【薬効分類】3．3．1 血液代用剤
【一般名】生理食塩液
【メーカー】製)日新製薬 販)宇治製薬 販)ヴィアトリス製薬 販)共和薬品工業 販)日本ジェネリック 販)ネオクリティケア製薬 販)ファイザー 販)富士フイルムファーマ 販)マイラン製薬
【薬価】100円/1A
【薬価収載日】1993/10/01
【標榜薬効】生理食塩液

■効能効果・用法用量
【効能効果】注射
細胞外液欠乏時，ナトリウム欠乏時，クロール欠乏時，注射剤の溶解希釈
外用
皮膚・創傷面・粘膜の洗浄・湿布，含嗽・噴霧吸入剤として気管支粘膜洗浄・喀痰排出促進
その他
医療用器具の洗浄
【用法用量】注射
20～1000mL 皮下注・静注・点滴静注。適宜増減。
注射用医薬品の希釈・溶解に使用。
外用
皮膚，創傷面，粘膜の洗浄，湿布に使用。
含嗽，噴霧吸入に使用。
その他
医療用器具の洗浄に使用。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
大量・急速投与 血清電解質異常，うっ血性心不全，浮腫，アシドーシス
（表終了）

生食注シリンジ「テルモ」10mL（10mL1筒）
両 注射 流通

【YJコード】3311402G7084
【薬効分類】3．3．1 血液代用剤
【一般名】生理食塩液
【メーカー】製)テルモ
【薬価】100円/1筒
【薬価収載日】2011/11/28
【標榜薬効】生理食塩液

■効能効果・用法用量
【効能効果】注射 細胞外液欠乏時，ナトリウム欠乏時，クロール欠乏時，注射剤の溶解希釈
外用 皮膚・創傷面・粘膜の洗浄・湿布，含嗽・噴霧吸入剤として気管支粘膜洗浄・喀痰排出促進
その他 医療用器具の洗浄
【用法用量】1．注射
20～1000mL 皮下注・静注・点滴静注。
適宜増減。
注射用医薬品の希釈・溶解に使用。
2．外用
皮膚・創傷面・粘膜の洗浄，湿布，含嗽，噴霧吸入に使用。
3．その他
医療器具の洗浄に使用。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
大量・急速投与 血清電解質異常，うっ血性心不全，浮腫，アシドーシス
（表終了）

生理食塩液PL「フソー」（50mL1瓶）
両 注射 流通

【YJコード】3311401H2083
【薬効分類】3．3．1 血液代用剤
【一般名】生理食塩液
【メーカー】製)扶桑薬品工業
【薬価】143円/1V
【薬価収載日】2007/12/25
【標榜薬効】生理食塩液

■効能効果・用法用量
【効能効果】注射
細胞外液欠乏時，ナトリウム欠乏時，クロール欠乏時，注射剤の溶解希釈
外用
皮膚・創傷面・粘膜の洗浄・湿布，含嗽・噴霧吸入剤として気管支粘膜洗浄・喀痰排出促進
その他
医療用器具の洗浄
【用法用量】注射
20～1000mL 皮下注・静注・点滴静注。
適宜増減。
注射用医薬品の希釈・溶解に使用。
外用
皮膚，創傷面，粘膜の洗浄，湿布に使用。
含嗽，噴霧吸入に使用。
その他
医療用器具の洗浄に使用。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
大量・急速投与 血清電解質異常，うっ血性心不全，浮腫，アシドーシス
（表終了）

生理食塩液バッグ「フソー」（1L1袋）
両 注射 流通

【YJコード】3311401H1117
【薬効分類】3．3．1 血液代用剤

3 代謝性医薬品

【一般名】生理食塩液
【メーカー】製)扶桑薬品工業　販)光製薬
【薬価】356円/1袋
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】生理食塩液

■効能効果・用法用量
【効能効果】注射
細胞外液欠乏時，ナトリウム欠乏時，クロール欠乏時，注射剤の溶解
希釈
外用
皮膚・創傷面・粘膜の洗浄・湿布，含嗽・噴霧吸入剤として気管支粘膜
洗浄・喀痰排出促進
その他
医療用器具の洗浄
【用法用量】注射
20～1000mL　皮下注・静注・点滴静注。
適宜増減。
注射用医薬品の希釈・溶解に使用。
外用
皮膚，創傷面，粘膜の洗浄，湿布に使用。
含嗽，噴霧吸入に使用。
その他
医療用器具の洗浄に使用。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
大量・急速投与 血清電解質異常，うっ血性心不全，浮腫，アシドーシス
(表終了)

生理食塩液バッグ「フソー」(250mL1袋)
両　注射　流通

【YJコード】3311401H6070
【薬効分類】3．3．1　血液代用剤
【一般名】生理食塩液
【メーカー】製)扶桑薬品工業
【薬価】246円/1袋
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】生理食塩液

■効能効果・用法用量
【効能効果】注射
細胞外液欠乏時，ナトリウム欠乏時，クロール欠乏時，注射剤の溶解
希釈
外用
皮膚・創傷面・粘膜の洗浄・湿布，含嗽・噴霧吸入剤として気管支粘膜
洗浄・喀痰排出促進
その他
医療用器具の洗浄
【用法用量】注射
20～1000mL　皮下注・静注・点滴静注。
適宜増減。
注射用医薬品の希釈・溶解に使用。
外用
皮膚，創傷面，粘膜の洗浄，湿布に使用。
含嗽，噴霧吸入に使用。
その他
医療用器具の洗浄に使用。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
大量・急速投与 血清電解質異常，うっ血性心不全，浮腫，アシドーシス
(表終了)

生理食塩液「ヒカリ」(1L1瓶)
両　注射　流通

【YJコード】3311401A8040
【薬効分類】3．3．1　血液代用剤
【一般名】生理食塩液
【メーカー】製)光製薬
【薬価】356円/1V
【標榜薬効】生理食塩液

■効能効果・用法用量
【効能効果】注射
細胞外液欠乏時，ナトリウム欠乏時，クロール欠乏時，注射剤の溶解
希釈
外用
皮膚・創傷面・粘膜の洗浄・湿布，含嗽・噴霧吸入剤として気管支粘膜
洗浄・喀痰排出促進
その他
医療用器具の洗浄
【用法用量】注射
20～1000mL　皮下注・静注・点滴静注。適宜増減。
注射用医薬品の希釈・溶解に使用。
外用
皮膚，創傷面，粘膜の洗浄，湿布に使用。
含嗽，噴霧吸入に使用。
その他
医療用器具の洗浄に使用。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
大量・急速投与 血清電解質異常，うっ血性心不全，浮腫，アシドーシス
(表終了)

ソルデム1輸液(500mL1袋)
両　注射　流通

【YJコード】3319500A3067
【薬効分類】3．3．1　血液代用剤
【一般名】開始液
【メーカー】製)テルモ
【薬価】184円/1袋
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】開始液

■効能効果・用法用量
【効能効果】脱水症・病態不明時の水分・電解質の初期補給，術前後の水分・電解質の補給
【用法用量】成人　1回500～1000mL　点滴静注。
速度　成人　300～500mL／時。
小児　50～100mL／時。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】高乳酸血症。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
大量・急速投与 脳浮腫，肺水腫，末梢の浮腫
(表終了)

ソルデム1輸液(200mL1袋)
両　注射　流通

【YJコード】3319500A5060
【薬効分類】3．3．1　血液代用剤
【一般名】開始液
【メーカー】製)テルモ
【薬価】145円/1袋
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】開始液

■効能効果・用法用量
【効能効果】脱水症・病態不明時の水分・電解質の初期補給，術前後の水分・電解質の補給
【用法用量】成人　1回500～1000mL　点滴静注。
速度　成人　300～500mL／時。
小児　50～100mL／時。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】高乳酸血症。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
大量・急速投与 脳浮腫，肺水腫，末梢の浮腫
(表終了)

ソルデム3A輸液(500mL1袋)
両　注射　流通

【YJコード】3319510A4083
【薬効分類】3．3．1　血液代用剤

3 代謝性医薬品

【一般名】維持液
【メーカー】製)テルモ
【薬価】183円/1袋
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】維持液

■効能効果・用法用量
【効能効果】経口摂取不能・不十分時の水分・電解質の補給・維持
注意
投与時は，尿量が1日500mL又は20mL／時以上。
【用法用量】成人　1回500～1000mL　点滴静注。
速度　成人　300～500mL／時。
小児　50～100mL／時。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 高乳酸血症。
2. 高カリウム血症，乏尿，アジソン病，重症熱傷，高窒素血症。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
大量・急速投与 脳浮腫，肺水腫，末梢の浮腫，水中毒，高カリウム血症
(表終了)

ソルデム3A輸液（200mL1袋）
両　注射　流通

【YJコード】3319510A5098
【薬効分類】3．3．1　血液代用剤
【一般名】維持液
【メーカー】製)テルモ
【薬価】176円/1袋
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】維持液

■効能効果・用法用量
【効能効果】経口摂取不能・不十分時の水分・電解質の補給・維持
注意
投与時は，尿量が1日500mL又は20mL／時以上。
【用法用量】成人　1回500～1000mL　点滴静注。
速度　成人　300～500mL／時。
小児　50～100mL／時。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 高乳酸血症。
2. 高カリウム血症，乏尿，アジソン病，重症熱傷，高窒素血症。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
大量・急速投与 脳浮腫，肺水腫，末梢の浮腫，水中毒，高カリウム血症
(表終了)

ソルラクト輸液（500mL1袋）
両　注射　流通

【YJコード】3319534A4160
【薬効分類】3．3．1　血液代用剤
【一般名】乳酸リンゲル液
【メーカー】製)テルモ
【薬価】215円/1袋
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】乳酸リンゲル液

■効能効果・用法用量
【効能効果】循環血液量・組織間液減少時の細胞外液の補給・補正，代謝性アシドーシスの補正
【用法用量】成人　1回500～1000mL　点滴静注。
速度　300～500mL／時。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】高乳酸血症。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 紅斑，蕁麻疹，掻痒感
大量・急速投与 肺水腫，脳浮腫，末梢の浮腫
(表終了)

低分子デキストランL注（500mL1袋）
内　注射　流通

【YJコード】3319536A3022
【薬効分類】3．3．1　血液代用剤
【一般名】乳酸リンゲル液(デキストラン40加)
【メーカー】製)大塚製薬工場　販)大塚製薬
【薬価】751円/1袋
【標榜薬効】血漿増量・体外循環灌流液

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 体外循環灌流液として用い，灌流を容易にし術中の併発症の危険を減少
2. 代用血漿として急性出血の治療，急性大量出血の初期治療で有効
3. 外傷，熱傷，出血による外科的ショックの予防・治療
4. 手術時の輸血量の節減
【用法用量】1回500mL　緩徐に静注。
適宜増減。
体外循環灌流液　2～3g(本剤　20～30mL)／kg　注入。
注意
長期連用しない(5日以内)。

■禁忌
【禁忌】1. うっ血性心不全。
2. 高乳酸血症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック(頻度不明)(血圧降下，脈拍の異常，呼吸抑制等)。
2. 急性腎障害(頻度不明)(乏尿等)。
3. 過敏症(頻度不明)(アナフィラキシー等の過敏症状)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
血液 出血時間延長，出血傾向
胃腸 悪心・嘔吐
皮膚 蕁麻疹
大量・急速投与 脳浮腫，肺水腫，末梢の浮腫
(表終了)

ビカネイト輸液（500mL1袋）
両　注射　流通

【YJコード】3319564A1021
【薬効分類】3．3．1　血液代用剤
【一般名】重炭酸リンゲル液
【メーカー】製)大塚製薬工場　販)大塚製薬
【薬価】288円/1袋
【薬価収載日】2010/09/24
【標榜薬効】細胞外液補充液

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 循環血液量・組織間液減少時の細胞外液の補給・補正
2. 代謝性アシドーシスの補正
【用法用量】成人　1回500～1000mL　点滴静注。
速度　10mL／kg／時以下。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】高マグネシウム血症，甲状腺機能低下症。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
血液 重炭酸塩増加，過剰塩基増加 過剰塩基減少，pH異常，pH上昇，アルブミン減少，カルシウム減少，クエン酸異常，クエン酸増加，ケトン体増加，マグネシウム増加，総蛋白減少
大量・急速投与　脳浮腫，肺水腫，末梢の浮腫
(表終了)

フィジオ140輸液（500mL1袋）
両　注射　流通

【YJコード】3319561A2032
【薬効分類】3．3．1　血液代用剤
【一般名】酢酸リンゲル液(ブドウ糖加)
【メーカー】製)大塚製薬工場　販)大塚製薬

3 代謝性医薬品

【薬価】212円/1袋
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】細胞外液補給液

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 循環血液量・組織間液減少時の細胞外液の補給・補正
2. 代謝性アシドーシスの補正
【用法用量】成人　1回500～1000mL　点滴静注。
速度　15mL／kg／時以下。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】高マグネシウム血症，甲状腺機能低下症。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
循環器 ST低下，不整脈
大量・急速投与　脳浮腫，肺水腫，末梢の浮腫
（表終了）

フィジオ35輸液（500mL1袋）

両　注射　流通

【YJコード】3319560A2038
【薬効分類】3．3．1　血液代用剤
【一般名】維持液（ブドウ糖加）
【メーカー】製)大塚製薬工場　販)大塚製薬
【薬価】268円/1袋
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】維持液

■効能効果・用法用量
【効能効果】経口摂取不能・不十分時の水分・電解質の補給・維持，エネルギーの補給
注意
投与時は，尿量が1日500mL又は20mL／時以上。
【用法用量】成人　1回500～1000mL　点滴静注。速度　ブドウ糖0．5g／kg／時以下。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．高カリウム血症，乏尿，アジソン病，重症熱傷，高窒素血症。
2．高リン血症，副甲状腺機能低下症。
3．高マグネシウム血症，甲状腺機能低下症。
4．高カルシウム血症。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
注射部位 血管痛 静脈炎
肝臓　AST，ALTの上昇
代謝　低ナトリウム血症
大量・急速投与　脳浮腫，肺水腫，末梢の浮腫，水中毒，高カリウム血症，血栓性静脈炎
（表終了）

ボルベン輸液6%（6%500mL1袋）

内　注射　流通

【YJコード】3319408A1020
【薬効分類】3．3．1　血液代用剤
【一般名】ヒドロキシエチルデンプン130000
【メーカー】製)フレゼニウスカービジャパン　販)大塚製薬
【薬価】865円/1袋
【薬価収載日】2013/05/24
【標榜薬効】代用血漿剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】循環血液量の維持
【用法用量】1日50mL／kgまで　持続静注。投与量・速度を適宜調節。
注意
成人500mLあたり，小児10mL／kgあたり30分以上かけて点滴静注。

■禁忌
【禁忌】1．本剤・本剤の成分に過敏症の既往。
2．重度の高ナトリウム血症・高クロール血症。
3．肺水腫，うっ血性心不全等水分過負荷のある患者。
4．頭蓋内出血中。
5．乏尿・無尿を伴う腎不全。
6．透析患者。
7．重症の敗血症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）。
2．腎機能障害（頻度不明）（急性腎障害等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 1～10%未満 1%未満
血液　貧血，赤血球減少
臨床検査 血清アミラーゼ増加 血中クロール増加，血中ナトリウム増加
活性化部分トロンボプラスチン時間延長，プロトロンビン時間延長，血中ナトリウム減少，血中カリウム減少，血中クレアチニン増加
皮膚　掻痒症
呼吸器　呼吸不全
その他　処置後出血，創傷出血
（表終了）

リン酸Na補正液0．5mmol／mL（0．5モル20mL1管）

両　注射　流通

【YJコード】3319407A1025
【薬効分類】3．3．1　血液代用剤
【一般名】リン酸水素ナトリウム水和物・リン酸二水素ナトリウム水和物
【メーカー】製)大塚製薬工場　販)大塚製薬
【薬価】143円/1A
【薬価収載日】2011/03/18
【標榜薬効】補正用電解質液

■効能効果・用法用量
【効能効果】電解質補液の補正
【用法用量】電解質補液の補正 体内の水分，電解質の不足に応じて電解質液に添加。
注意
新生児（低出生体重児含む）　1日20～40mg（本剤　1．3～2．6mL）／kg　血清リン濃度の管理の目安は4mg／dL以上，7mg／dL未満。異常時は間欠投与等の処置。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上
過敏症 紅斑
電解質異常 血中カルシウム減少
（表終了）

3．3．2　止血剤

オルダミン注射用1g（10%10g1瓶）

両　注射　流通
劇

【YJコード】3329404D1032
【薬効分類】3．3．2　止血剤
【一般名】モノエタノールアミンオレイン酸塩
【メーカー】製)富士化学工業　販)武田薬品工業
【薬価】15004円/1V
【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】食道静脈瘤硬化療法・胃静脈瘤退縮・静脈奇形硬化療法剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○食道静脈瘤出血の止血，食道静脈瘤の硬化退縮
○胃静脈瘤の退縮
○静脈奇形の硬化退縮
注意
食道静脈瘤出血の止血・食道静脈瘤の硬化退縮，胃静脈瘤の退縮
1．経内視鏡的食道静脈瘤硬化療法・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術の適応患者であることを確認。
静脈奇形の硬化退縮
2．ガイドラインを参考に確定診断され，硬化療法の適応患者であることを確認。
【用法用量】食道静脈瘤出血の止血，食道静脈瘤の硬化退縮
経内視鏡的食道静脈瘤硬化療法に使用。
用時，1バイアルあたり10mLの注射用水又は血管造影用X線造影剤を加え5%溶液に調製。
成人　静脈瘤1条あたり5%モノエタノールアミンオレイン酸塩として1～5mL　食道静脈瘤内注入。
適宜増減，1内視鏡治療あたりの総注入量　20mL以内。
胃静脈瘤の退縮
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術に使用。
用時，1バイアルあたり10mLの血管造影用X線造影剤を加え5%溶液に調製。

3 代謝性医薬品

成人 1治療あたり5%モノエタノールアミンオレイン酸塩として，0．4mL／kg以内 胃静脈瘤内注入。
1治療あたり5%モノエタノールアミンオレイン酸塩として総注入量 30mL以内。
静脈奇形の硬化退縮
静脈奇形の硬化療法に使用。
用時，1バイアルあたり10mLの注射用水又は血管造影用X線造影剤を加え5%溶液に調製。
1治療あたり5%モノエタノールアミンオレイン酸塩として，0．4mL／kg以内 静脈奇形病変内注入。
1治療あたり5%モノエタノールアミンオレイン酸塩として総注入量 30mL以内。

■禁忌

【禁忌】1．ショック・前ショック状態。
2．多臓器障害，DIC状態。
3．胃潰瘍出血，十二指腸潰瘍出血，胃糜爛出血。
4．経内視鏡的食道静脈瘤硬化療法では，内視鏡検査が危険。
5．心肺に重篤な合併症。
6．腎に重篤な合併症。
7．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック(0．1%未満)。
2．急性腎障害(0．1%未満)(血尿等の溶血)。
3．DIC(0．1%未満)。
4．肝性昏睡(頻度不明)。
5．重篤な血栓症(門脈血栓(1%未満)，肺梗塞(頻度不明)，脳血管障害(頻度不明))。
6．食道穿孔(頻度不明)。
7．重篤な胃潰瘍(0．1%未満)(巨大胃潰瘍)。
8．急性呼吸窮迫症候群，肺水腫(頻度不明)(急速に進行する呼吸困難，低酸素血症，胸部X線による両側性びまん性肺浸潤陰影)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
血液 溶血 白血球増多，貧血(赤血球，ヘモグロビン，ヘマトクリットの減少)，血小板減少 白血球減少
腎臓 肉眼的血色素尿，BUN，クレアチニンの上昇 蛋白尿
肝臓 LDH，ビリルビンの上昇 AST，ALTの上昇，アルブミン低下 γ－GTP，AI－P，尿ウロビリノーゲンの上昇，血清総蛋白低下
食道 食道狭窄，食道潰瘍，食道静脈瘤 食道内巨大血腫，食道糜爛・潰瘍出血 食道静脈瘤出血
消化器 腹痛 出血性胃炎，胃・十二指腸潰瘍出血
胸部 胸痛 胸水貯留，縦隔炎
中枢神経系 血圧上昇，頭痛
循環器 血圧低下
筋肉 CK上昇
その他 発熱，腫脹(25．0%) 疼痛 嘔気，心窩部痛 菌血症
(表終了)

カルバゾクロムスルホン酸Na錠30mg「トーワ」(30mg1錠)

両 内服 後発 流通

【YJコード】3321002F2447
【薬効分類】3．3．2 止血剤
【一般名】カルバゾクロムスルホン酸ナトリウム水和物
【先発品】アドナ錠30mg
【メーカー】製)東和薬品
【薬価】6.1円/1T
【薬価収載日】2017/06/16
【標榜薬効】止血剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．毛細血管抵抗性の減弱，透過性の亢進によると考えられる出血傾向(例，紫斑病等)
2．毛細血管抵抗性の減弱による皮膚，粘膜，内膜からの出血，眼底出血・腎出血・子宮出血
3．毛細血管抵抗性の減弱による術中・術後の異常出血
【用法用量】成人 1日30～90mg 1日3回 分割 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
消化器 食欲不振，胃部不快感 悪心，嘔吐
過敏症 発疹，掻痒
(表終了)

カルバゾクロムスルホン酸Na静注100mg「トーワ」(0．5%20mL1管)

両 注射 後発 流通

【YJコード】3321401A4254
【薬効分類】3．3．2 止血剤
【一般名】カルバゾクロムスルホン酸ナトリウム水和物
【先発品】アドナ注(静脈用)100mg
【メーカー】製)東和薬品
【薬価】61円/1A
【薬価収載日】2017/06/16
【標榜薬効】止血剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．毛細血管抵抗性の減弱，透過性の亢進によると考えられる出血傾向(例，紫斑病等)
2．毛細血管抵抗性の減弱による皮膚，粘膜，内膜からの出血，眼底出血・腎出血・子宮出血
3．毛細血管抵抗性の減弱による術中・術後の異常出血
【用法用量】成人 1日25～100mg 静注・点滴静注。
適宜増減。

■副作用

【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹
(表終了)

スポンゼル (10cm×7cm1枚)

両 外用 流通

【YJコード】3322700X2022
【薬効分類】3．3．2 止血剤
【一般名】ゼラチン
【メーカー】製)LTLファーマ 販)アステラス製薬
【薬価】756.6円/1枚
【経過措置期限】2026/03/31
【標榜薬効】止血用ゼラチンスポンジ

■効能効果・用法用量

【効能効果】各種外科の止血，褥瘡潰瘍
【用法用量】乾燥状態のまま，又は生食かトロンビン溶液に浸し，皮膚又は臓器の傷創面に貼付し 滲出する血液を吸収させ固着。体内に包埋できる。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．下記に使用しない。
血管内。

■副作用

【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(全身発赤，呼吸困難，血圧低下等)。

トラネキサム酸注1000mg／10mL「日新」(10%10mL1管)

両 注射 後発 流通

【YJコード】3327401A4274
【薬効分類】3．3．2 止血剤
【一般名】トラネキサム酸
【先発品】トランサミン注10%
【メーカー】製)日新製薬
【薬価】100円/1A
【薬価収載日】2014/12/12
【標榜薬効】抗プラスミン剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○全身性線溶亢進が関与すると考えられる出血傾向
(白血病，再生不良性貧血，紫斑病等，術中・術後の異常出血)
○局所線溶亢進が関与すると考えられる異常出血
(肺出血，鼻出血，性器出血，腎出血，前立腺手術中・術後の異常出血)
○下記の紅斑・腫脹・掻痒等の症状
湿疹・その類症，蕁麻疹，薬疹・中毒疹
○下記の咽頭痛・発赤・充血・腫脹等の症状
扁桃炎，咽喉頭炎

3 代謝性医薬品

○口内炎の口内痛・口内粘膜アフタ
【用法用量】成人 1日250～500mg 1日1～2回 分割 静注・筋注。術中，術後等 必要時，1回500～1000mg 静注，又は1回500～2500mg 点滴静注。適宜増減。
注意
成人 1日2．5～5mL 1日1～2回 分割 静注・筋注。術中・術後等 必要時，1回5～10mL 静注，又は1回5～25mL 点滴静注。

■禁忌
【禁忌】1．トロンビンの投与患者。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック(頻度不明)。
2．痙攣(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 掻痒感，発疹等
消化器 悪心，嘔吐 食欲不振，下痢
眼 一過性の色覚異常(静注時)
その他 眠気，頭痛
(表終了)

トランサミンカプセル250mg（250mg1カプセル）

両 内服 流通

【YJコード】3327002M1303
【薬効分類】3．3．2 止血剤
【一般名】トラネキサム酸
【メーカー】製)第一三共
【薬価】10.4円/1C
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】抗プラスミン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．全身性線溶亢進が関与すると考えられる出血傾向(白血病，再生不良性貧血，紫斑病等，術中・術後の異常出血)
2．局所線溶亢進が関与すると考えられる異常出血(肺出血，鼻出血，性器出血，腎出血，前立腺手術中・術後の異常出血)
3．下記の紅斑・腫脹・掻痒等の症状
湿疹・その類症，蕁麻疹，薬疹・中毒疹
4．下記の咽頭痛・発赤・充血・腫脹等の症状
扁桃炎，咽喉頭炎
5．口内炎の口内痛・口内粘膜アフタ
【用法用量】成人 1日750～2000mg 1日3～4回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】トロンビンの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
痙攣(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～1%未満 0．1%未満
過敏症 掻痒感，発疹等
消化器 食欲不振，悪心，嘔吐，下痢，胸やけ
その他 眠気
(表終了)

トランサミンシロップ5%（5%1mL）

両 内服 流通

【YJコード】3327002Q1062
【薬効分類】3．3．2 止血剤
【一般名】トラネキサム酸
【メーカー】製)ニプロファーマ 販)第一三共 販)ニプロ
【薬価】4.5円/1mL
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】抗プラスミン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○全身性線溶亢進が関与すると考えられる出血傾向
(白血病，再生不良性貧血，紫斑病等，術中・術後の異常出血)
○局所線溶亢進が関与すると考えられる異常出血
(肺出血，鼻出血，性器出血，腎出血，前立腺手術中・術後の異常出血)
○下記の紅斑・腫脹・掻痒等の症状
湿疹・その類症，蕁麻疹，薬疹・中毒疹
○下記の咽頭痛・発赤・充血・腫脹等の症状
扁桃炎，咽喉頭炎
○口内炎の口内痛・口内粘膜アフタ
【用法用量】下記1日量 1日3～4回 分割 内服。適宜増減。
(表開始)
年齢(歳) トラネキサム酸(mg) 本剤(mL)
～1 75～200 1．5～4
2～3 150～350 3～7
4～6 250～650 5～13
7～14 400～1000 8～20
15～ 750～2000 15～40
(表終了)

■禁忌
【禁忌】トロンビンの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
痙攣(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～1%未満 0．1%未満
過敏症 掻痒感，発疹等
消化器 食欲不振，悪心，嘔吐，下痢，胸やけ
その他 眠気
(表終了)

トロンビン液モチダ ソフトボトル1万（10000単位10mL1キット）

両 外用 流通

【YJコード】3323702Q3020
【薬効分類】3．3．2 止血剤
【一般名】トロンビン
【メーカー】製)持田製薬
【薬価】1447.4円/1kit
【薬価収載日】2003/06/13
【標榜薬効】止血剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】結紮で止血困難な小血管，毛細血管，実質臓器からの出血(例，外傷に伴う出血，術中の出血，骨性出血，膀胱出血，抜歯後の出血，鼻出血，上部消化管からの出血等)
【用法用量】上部消化管出血以外
出血局所に本剤をそのまま 噴霧，灌注，又は撒布。
適宜増減。
上部消化管出血
適当な緩衝剤で希釈した液(トロンビン 200～400単位／mL) 内服。
適宜増減。
注意
上部消化管出血
酸により酵素活性が低下するので，事前に緩衝液等で胃酸を中和。

■禁忌
【禁忌】1．本剤・牛血液が原料の製剤(フィブリノリジン，幼牛血液抽出物等)に過敏症の既往。
2．凝固促進剤(ヘモコアグラーゼ)・抗プラスミン剤(トラネキサム酸)・アプロチニン製剤の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック(頻度不明)(呼吸困難，チアノーゼ，血圧降下等)。
2．凝固異常(頻度不明)，異常出血(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，発赤
消化器 嘔気，嘔吐
その他 発熱，頭痛
(表終了)

プロタミン硫酸塩静注100mg「モチダ」（1%10mLバイアル）

内 注射 流通

【YJコード】3329403A1058
【薬効分類】3．3．2 止血剤
【一般名】プロタミン硫酸塩
【メーカー】製)持田製薬
【薬価】683円/10mLバイアル
【薬価収載日】2014/12/11
【標榜薬効】ヘパリン拮抗剤

3 代謝性医薬品

■効能効果・用法用量
【効能効果】ヘパリン過量投与時の中和，血液透析・人工心肺・選択的脳灌流冷却等の血液体外循環後のヘパリン作用の中和
【用法用量】ヘパリン1000単位に対して，1～1．5mL(プロタミン硫酸塩　10～15mg)　投与。
ヘパリンの中和に要するプロタミン硫酸塩量　プロタミンによる中和試験で決める(投与したヘパリン量，ヘパリン投与後の時間経過による)。
投与時　1回5mL(プロタミン硫酸塩　50mg)まで　10分以上かけ徐々に静注(生食又は5%ブドウ糖液100～200mLに希釈)。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック(頻度不明)，アナフィラキシー(頻度不明)(血圧低下，脈拍異常，冷汗，呼吸困難，発赤，意識レベルの低下等)。
2．肺高血圧症(頻度不明)(肺動脈圧の上昇，血圧低下，頻脈等)。
3．呼吸困難(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
循環器 血圧降下，徐脈
皮膚 一過性皮膚潮紅，温感
消化器 悪心・嘔吐
(表終了)

ポリドカスクレロール1%注2mL（1%2mL1管）

内　注射　流通
劇

【YJコード】3329405A3025
【薬効分類】3．3．2　止血剤
【一般名】ポリドカノール
【メーカー】製)カイゲンファーマ　販)インテグラル　販)ゼリア新薬工業
【薬価】719円/1A
【薬価収載日】2006/09/15
【標榜薬効】下肢静脈瘤硬化剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】一次性下肢静脈瘤の硬化退縮
注意
1．伏在静脈瘤本幹の治療時は，本剤又はポリドカスクレロール3%注2mLを使用，フォーム硬化療法にて行う。
2．液状硬化療法にて，直径8mmを超える一次性下肢静脈瘤への有効性・安全性は未確認。
3．フォーム硬化療法にて，直径12mmを超える一次性下肢静脈瘤への有効性・安全性は未確認。
4．下肢静脈瘤硬化療法の適応患者(一次性下肢静脈瘤)を確認し，医療上の必要性を勘案した上で本剤投与を判断。
【用法用量】液状硬化療法で使用時
直径1～3mm未満の一次性下肢静脈瘤 1穿刺0．5～1mL　静脈瘤内に1ヵ所又は2ヵ所以上投与。1回総量2mg／kg以下。
1回の処置で治療が終了しない時，次回1週間後。
フォーム硬化療法で使用時
小型の一次性下肢静脈瘤 静脈瘤内に1ヵ所又は2ヵ所以上投与。1穿刺の最大量　静脈瘤の大きさに応じ　2～6mL。1回総量2mg／kg以下。フォーム硬化剤として10mL以下。
1回の処置で治療が終了しない時，次回1週間後。
注意
用法共通
1．使用薬剤・体重別の1日上限量は下表を参照。
(表開始)
使用薬剤(ポリドカスクレロール) 患者体重(kg) 1日上限投与量(mL)
0．5%注2mL 50 60 70 20 24 28
本剤 50 60 70 10 12 14
3%注2mL 50 60 70 3．3 4 4．6
(表終了)
2．3%製剤は有害事象の発現頻度が高く，患者の選択も含め，慎重に投与。
液状硬化療法で使用時
3．静脈瘤径別の使用薬剤は下表を参照し，注入量は必要最小限にとどめる。
(表開始)
静脈瘤径 使用薬剤(ポリドカスクレロール)
直径1mm未満 0．5%注2mL
直径1mm以上3mm未満 本剤
直径3mm以上8mm以下 3%注2mL
(表終了)
4．投与法
静脈針又は翼状針を静脈瘤内に穿刺して血液の逆流等で瘤内に穿刺されていることを確認。本剤，ポリドカスクレロール3%注2mLを投与時は生食等を注入し瘤内の血液を除外し，本剤をゆっくり注入。注入後，直ちに枕子等で圧迫後，弾力包帯・弾力ストッキングを装着し，投与部位の血管内皮を接着させ，積極的に歩行させるか，屈伸運動を行い，深部静脈血栓形成を防止。
5．投与後処置
弾力包帯・弾力ストッキングを用い，圧迫は最低1週間行う。圧迫1週間後に下肢検査を実施。血栓除去術はこの時点で行う。その後弾力ストッキングで約1ヵ月間圧迫。
フォーム硬化療法で使用時
6．静脈瘤サイズ別の使用薬剤及び1穿刺の投与量は下表を参照し，注入量は必要最小限にとどめる。ポリドカスクレロール0．5%注2mLはフォーム硬化療法には使用しない。
(表開始)
静脈瘤のサイズ 静脈瘤の例 使用薬剤(ポリドカスクレロール) 1穿刺の投与量(mL)
小型 側枝静脈瘤 本剤 4以下(最大6以下)
小型 不全穿通枝 本剤 2以下(最大4以下)
中型・大型 小伏在静脈瘤 3%注2mL 4以下
中型・大型 大伏在静脈瘤 3%注2mL 4以下(最大6以下)
(表終了)
7．フォーム硬化剤の調製法
(1)．細菌による汚染を避けるため，フォーム硬化剤の調製は投与直前に行う。
(2)．フォーム硬化剤の調製法はTessari法等を使用。
(3)．調製したフォーム硬化剤は速やかに使用し，余剰のフォーム硬化剤は廃棄。
8．投与法
(1)．25G又はそれより太い静脈針，もしくは翼状針を静脈瘤内に穿刺して血液の逆流等で瘤内に穿刺されていることを確認し，下肢を挙上させ，フォーム硬化剤をゆっくり注入。
(2)．フォーム硬化剤の注入は，超音波ガイド下で行う。
(3)．大伏在静脈瘤・小伏在静脈瘤には，伏在大腿静脈接合部より最低8～10cm離れた部位にフォーム硬化剤を注入。超音波検査で深部静脈系に大量のフォームを認めた際は，足関節の背屈等の筋活動を行わせる。
9．投与後処置
(1)．圧迫方法
フォーム硬化剤を注入後，投与部位を被覆し，2～5分間の下肢の運動を避け，バルサルバ法や筋活動を行わせない。
投与部位の圧迫は，即時圧迫を避け，大伏在静脈・小伏在静脈では約10分後，側枝静脈瘤，再発静脈瘤，穿通枝静脈では約5分後に枕子等で圧迫後，弾力包帯・弾力ストッキングを装着し圧迫。
(2)．圧迫期間
弾力包帯・弾力ストッキングを用い，圧迫は最低1週間行う。圧迫1週間後に下肢検査を実施。血栓除去術はこの時点で行う。その後弾力ストッキングで約1ヵ月間圧迫。

■禁忌
【禁忌】用法共通
1．深部静脈血栓症，血栓症の既往。
2．動脈性血行障害。
3．歩行困難。
4．多臓器障害，DIC状態。
5．経口避妊薬の服用患者。
6．抗凝固剤，抗血小板剤の服用患者。
7．重篤な心疾患。
8．ショック・前ショック状態。
9．本剤の成分に過敏症の既往。
10．気管支喘息。
11．妊婦・妊娠の可能性。
12．投与部位，その周辺に炎症・潰瘍。
フォーム硬化療法で使用時
13．卵円孔開存症を介した奇異性塞栓症による脳卒中，一過性脳虚血発作等の疾患・その既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．アナフィラキシー(頻度不明)(喘息発作，血圧低下，意識消失，全身性蕁麻疹，血管浮腫(眼瞼浮腫等)，呼吸困難等)(外国)。
2．血栓塞栓症(頻度不明)(肺塞栓症，深部静脈血栓症，血栓性静脈炎等)(呼吸困難，息切れ，胸部不快感，下肢の疼痛・浮腫等)。
3．脳血管障害(一過性脳虚血発作等)(頻度不明)。
4．心停止，循環虚脱(各頻度不明)(息切れ，動悸，心電図異常等)(外国)。
5．肺水腫(頻度不明)。
6．錯乱(頻度不明)。
7．局所組織障害(壊死，潰瘍，瘤内血栓(0．5%製剤 10．2%，1%製剤 37．5%，3%製剤 56．1%)，色素沈着(0．5%製剤 16．9%，1%製剤 34．7%，3%製剤 36．6%))(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚 瘤内血栓，色素沈着 水疱，皮下出血，異常感覚，掻痒，浮腫，発赤，静脈炎，皮膚炎，糜爛，疼痛，圧痛，湿疹，アレルギー性皮膚反応 痂皮，血腫
血液 白血球減少 ヘモグロビン低下，プロトロンビン時間短縮
肝臓 中性脂肪上昇，LDH上昇，γ－GTP上昇 γ－GTP低下，AI－P低下，総コレステロール上昇・低下
腎臓 尿蛋白
その他 CRP上昇，CK上昇，眩暈 悪心，嘔気，多毛症，発熱，ほてり 頭痛，片頭痛，錯感覚，胸痛，視覚障害，味覚異常，血圧低下
(表終了)

3 代謝性医薬品

3．3．3 血液凝固阻止剤

エリキュース錠2．5mg（2．5mg1錠）

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】3339004F1029
【薬効分類】3．3．3 血液凝固阻止剤
【一般名】アピキサバン
【メーカー】製)ブリストル・マイヤーズスクイブ 販)ファイザー 販)ファイザー製薬
【薬価】114.7円/1T
【薬価収載日】2013/02/22
【ハイリスク分類】血液凝固阻止剤
【標榜薬効】経口FXa阻害剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．非弁膜症性心房細動の虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制
2．静脈血栓塞栓症（深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症）の治療・再発抑制
注意
静脈血栓塞栓症（深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症）の治療・再発抑制
1．ショックや低血圧が遷延するような血行動態が不安定な肺血栓塞栓症，血栓溶解剤の使用や肺塞栓摘出術が必要な肺血栓塞栓症への有効性・安全性は未確立。ヘパリンの代替療法として投与しない。
2．下大静脈フィルターが留置された患者への投与時は，リスクとベネフィットを考慮。
【用法用量】非弁膜症性心房細動の虚血性脳卒中・全身性塞栓症の発症抑制
成人 1回5mg 1日2回 内服。
年齢，体重，腎機能により 1回2．5mg 1日2回へ減量。
静脈血栓塞栓症（深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症）の治療・再発抑制
成人 1回10mg 1日2回 7日間内服後 1回5mg 1日2回 内服。
注意
非弁膜症性心房細動の虚血性脳卒中・全身性塞栓症の発症抑制
1．下記の2つ以上に該当する患者は，出血のリスクが高く，血中濃度上昇のおそれ，1回2．5mg1日2回内服。
・80歳以上。
・体重60kg以下。
・血清クレアチニン1．5mg／dL以上。
静脈血栓塞栓症（深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症）の治療・再発抑制
2．発症後初期7日間の1回10mg1日2回投与中は，出血のリスクに注意。

■禁忌

【禁忌】効能共通
1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．臨床的に問題となる出血症状。
3．血液凝固異常・臨床的に重要な出血リスクを有する肝疾患。
非弁膜症性心房細動の虚血性脳卒中・全身性塞栓症の発症抑制
4．腎不全（クレアチニンクリアランス15mL／分未満）。
静脈血栓塞栓症（深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症）の治療・再発抑制
5．重度の腎障害（クレアチニンクリアランス30mL／分未満）。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．出血（頭蓋内出血（頻度不明），消化管出血（0．6%），眼内出血（0．3%）等）。
2．間質性肺疾患（頻度不明）（咳嗽，血痰，息切れ，呼吸困難，発熱，肺音の異常等）。
3．肝機能障害（頻度不明）（AST，ALTの上昇等）。
4．急性腎障害（頻度不明）（血尿，赤血球円柱）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
免疫系障害 過敏症（皮疹等の薬物過敏症，アレルギー性浮腫等のアナフィラキシー反応等）
神経系障害 味覚異常，くも膜下出血，三叉神経痛 脳出血，頭蓋内，脊髄内出血（硬膜下血腫・脊髄血腫等）
眼障害 眼出血 眼充血
血管障害 血腫 腹腔内出血
呼吸器，胸郭・縦隔障害 鼻出血 喀血，咳嗽 気道出血（肺胞出血，喉頭出血，咽頭出血等）
胃腸障害 歯肉出血，胃腸出血，消化不良，便潜血陽性 口腔内出血，便秘，腹部不快感，上腹部痛，血便排泄，下痢，逆流性食道炎，悪心 直腸出血，痔出血，後腹膜出血，吐血，マロリー・ワイス症候群，出血性消化性潰瘍
肝胆道系障害 血中ビリルビン増加，γ－GTP増加，肝機能異常
腎・尿路障害 血尿，尿中血陽性 尿中蛋白陽性
生殖系・乳房障害 前立腺炎，膣出血，不規則月経 不正出血，尿生殖器出血，月経過多
傷害，中毒，処置合併症 挫傷 処置後出血 外傷性出血，切開部位出血，血管偽動脈瘤
皮膚・皮下組織障害 円形脱毛症，掻痒症，紫斑，膿疱性乾癬，顔面腫脹，水疱，点状出血，皮膚糜爛 斑状出血，出血性皮膚潰瘍
その他 初期不眠症，疲労，血小板減少症，血中ブドウ糖変動，高尿酸血症，血中ブドウ糖増加，血中CK増加，末梢性浮腫，動悸 適用部位出血，注射部位血腫，血管穿刺部位血腫
（表終了）

エリキュース錠5mg（5mg1錠）

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】3339004F2025
【薬効分類】3．3．3 血液凝固阻止剤
【一般名】アピキサバン
【メーカー】製)ブリストル・マイヤーズスクイブ 販)ファイザー 販)ファイザー製薬
【薬価】207円/1T
【薬価収載日】2013/02/22
【ハイリスク分類】血液凝固阻止剤
【標榜薬効】経口FXa阻害剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．非弁膜症性心房細動の虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制
2．静脈血栓塞栓症（深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症）の治療・再発抑制
注意
静脈血栓塞栓症（深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症）の治療・再発抑制
1．ショックや低血圧が遷延するような血行動態が不安定な肺血栓塞栓症，血栓溶解剤の使用や肺塞栓摘出術が必要な肺血栓塞栓症への有効性・安全性は未確立。ヘパリンの代替療法として投与しない。
2．下大静脈フィルターが留置された患者への投与時は，リスクとベネフィットを考慮。
【用法用量】非弁膜症性心房細動の虚血性脳卒中・全身性塞栓症の発症抑制
成人 1回5mg 1日2回 内服。
年齢，体重，腎機能により 1回2．5mg 1日2回へ減量。
静脈血栓塞栓症（深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症）の治療・再発抑制
成人 1回10mg 1日2回 7日間内服後 1回5mg 1日2回 内服。
注意
非弁膜症性心房細動の虚血性脳卒中・全身性塞栓症の発症抑制
1．下記の2つ以上に該当する患者は，出血のリスクが高く，血中濃度上昇のおそれ，1回2．5mg1日2回内服。
・80歳以上。
・体重60kg以下。
・血清クレアチニン1．5mg／dL以上。
静脈血栓塞栓症（深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症）の治療・再発抑制
2．発症後初期7日間の1回10mg1日2回投与中は，出血のリスクに注意。

■禁忌

【禁忌】効能共通
1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．臨床的に問題となる出血症状。
3．血液凝固異常・臨床的に重要な出血リスクを有する肝疾患。
非弁膜症性心房細動の虚血性脳卒中・全身性塞栓症の発症抑制
4．腎不全（クレアチニンクリアランス15mL／分未満）。
静脈血栓塞栓症（深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症）の治療・再発抑制
5．重度の腎障害（クレアチニンクリアランス30mL／分未満）。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．出血（頭蓋内出血（頻度不明），消化管出血（0．6%），眼内出血（0．3%）等）。
2．間質性肺疾患（頻度不明）（咳嗽，血痰，息切れ，呼吸困難，発熱，肺音の異常等）。
3．肝機能障害（頻度不明）（AST，ALTの上昇等）。
4．急性腎障害（頻度不明）（血尿，赤血球円柱）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
免疫系障害 過敏症（皮疹等の薬物過敏症，アレルギー性浮腫等のアナフィラキシー反応等）
神経系障害 味覚異常，くも膜下出血，三叉神経痛 脳出血，頭蓋内，脊髄内出血（硬膜下血腫・脊髄血腫等）
眼障害 眼出血 眼充血
血管障害 血腫 腹腔内出血
呼吸器，胸郭・縦隔障害 鼻出血 喀血，咳嗽 気道出血（肺胞出血，喉頭出血，咽頭出血等）
胃腸障害 歯肉出血，胃腸出血，消化不良，便潜血陽性 口腔内出血，便秘，腹部不快感，上腹部痛，血便排泄，下痢，逆流性食道炎，悪心 直腸出血，痔出血，後腹膜出血，吐血，マロリー・ワイス症候群，出血性消化性潰瘍
肝胆道系障害 血中ビリルビン増加，γ－GTP増加，肝機能異常
腎・尿路障害 血尿，尿中血陽性 尿中蛋白陽性
生殖系・乳房障害 前立腺炎，膣出血，不規則月経 不正出血，尿生殖器出血，月経過多

3 代謝性医薬品

傷害，中毒，処置合併症 挫傷 処置後出血 外傷性出血，切開部位出血，血管偽動脈瘤
皮膚・皮下組織障害 円形脱毛症，掻痒症，紫斑，膿疱性乾癬，顔面腫脹，水疱，点状出血，皮膚糜爛 斑状出血，出血性皮膚潰瘍
その他 初期不眠症，疲労，血小板減少症，血中ブドウ糖変動，高尿酸血症，血中ブドウ糖増加，血中CK増加，末梢性浮腫，動悸 適用部位出血，注射部位血腫，血管穿刺部位血腫
（表終了）

クレキサン皮下注キット2000IU（2000低分子ヘパリン国際単位0．2mL1筒）

両 注射 流通
劇

【YJコード】3334406G1020
【薬効分類】3．3．3 血液凝固阻止剤
【一般名】エノキサパリンナトリウム
【メーカー】製)サノフィ 販)科研製薬
【薬価】650円/1筒
【薬価収載日】2008/04/18
【標榜薬効】血液凝固阻止剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇下記の下肢整形外科手術の静脈血栓塞栓症の発症抑制
股関節全置換術，膝関節全置換術，股関節骨折手術
〇静脈血栓塞栓症の発症リスクの高い，腹部手術施行患者の静脈血栓塞栓症の発症抑制
注意
静脈血栓塞栓症の発症リスクの高い，腹部手術施行患者の静脈血栓塞栓症の発症抑制
腹部手術のうち帝王切開術施行患者の有効性・安全性は未確立，投与時は，リスクとベネフィットを考慮（使用経験は少ない）。
【用法用量】エノキサパリンナトリウム 1回2000IU 1日2回 12時間ごと 連日皮下注。
注意
1．国内臨床試験で，15日間以上投与した時の有効性・安全性は未検討。
2．術後24～36時間に手術創等からの出血がないことを確認後，投与開始。
3．腎障害 血中濃度が上昇し，出血の危険性が増大するおそれ。クレアチニンクリアランス30～50mL／分の患者は，国内臨床試験成績も踏まえて，症例ごとの血栓リスク及び出血リスクを勘案して適用を慎重に判断。出血の危険性が高い場合，投与間隔を延長（エノキサパリンナトリウム 2000IUを1日1回投与）。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分・ヘパリン・ヘパリン誘導体（低分子量ヘパリン等）に過敏症の既往。
2．出血（頭蓋内出血，後腹膜出血，他の重要器官における出血等）。
3．急性細菌性心内膜炎。
4．重度の腎障害（クレアチニンクリアランス30mL／分未満）。
5．ヘパリン起因性血小板減少症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）。
2．皮下出血（3．7%），処置後出血（3．1%），消化管出血（0．1%）等。
脊髄硬膜外血腫，後腹膜出血，頭蓋内出血（各頻度不明）（外国）。
3．血小板減少（0．3%），血小板減少症，動脈血栓による梗塞・四肢の虚血。
4．肝機能障害（AST，ALTの上昇等），黄疸（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～10%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 頭痛，眩暈 感覚減退，不眠
血液 血小板数増加，貧血，白血球数減少，白血球数増加 好酸球数増加
過敏症 紅斑，掻痒症 発疹
消化器 便秘 下痢，悪心・嘔吐，消化不良，腹痛
筋・骨格系 四肢痛 背部痛
肝臓 ALT上昇，γ－GTP上昇，AST上昇，AI－P上昇，LDH上昇 肝機能異常，ビリルビン上昇
腎臓 血中尿素上昇
投与部位 疼痛・硬結・掻痒感・熱感 中等度の刺激感，皮膚壊死
その他 末梢性浮腫，発熱，熱感，血中カルシウム減少 血中カリウム減少，CRP上昇，創部分泌，動悸，胸痛，創合併症，末梢冷感，湿疹，トリグリセリド上昇 水疱性皮疹，皮膚血管炎，血中カリウム上昇，脱毛症
（表終了）

ダルテパリンNa静注4000単位／16mLシリンジ「ニプロ」（4000低分子ヘパリン国際単位16mL1筒）

両 注射 流通

【YJコード】3334403G4025
【薬効分類】3．3．3 血液凝固阻止剤
【一般名】ダルテパリンナトリウム
【メーカー】製)ニプロ
【薬価】645円/1筒
【薬価収載日】2010/05/28
【標榜薬効】血液凝固阻止剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇血液体外循環時の灌流血液の凝固防止（血液透析）
〇DIC
【用法用量】血液体外循環時の灌流血液の凝固防止（血液透析）
直接又は生食により希釈して投与。
・出血性病変又は出血傾向を有しない時
成人 体外循環開始時 15～20国際単位／kg 回路内に単回投与。体外循環開始後 7．5～10国際単位／kg／時 抗凝固薬注入ラインより持続注入。
・出血性病変又は出血傾向を有する時
成人 体外循環開始時 10～15国際単位／kg 回路内に単回投与。体外循環開始後 7．5国際単位／kg／時 抗凝固薬注入ラインより持続注入。
DIC
成人 1日75国際単位／kg 24時間かけ 持続静注。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック・アナフィラキシー（頻度不明）（呼吸困難，浮腫等）。
2．重篤な出血（0．85%）（頭蓋内出血（0．08%），消化管出血（0．27%），後腹膜出血（頻度不明）等）。
3．血小板減少（0．01%）。
4．血栓症（頻度不明），ヘパリン起因性血小板減少症（著明な血小板減少，脳梗塞，肺塞栓症，深部静脈血栓症等の血栓症，シャント閉塞，回路内閉塞）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 掻痒感，発熱 発疹
肝臓 ALTの上昇 AST，AI－Pの上昇
消化器 嘔気，食欲不振
皮膚 脱毛
その他 骨粗鬆症
（表終了）

プラザキサカプセル110mg（110mg1カプセル）

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】3339001M2020
【薬効分類】3．3．3 血液凝固阻止剤
【一般名】ダビガトランエテキシラートメタンスルホン酸塩
【メーカー】製)日本ベーリンガーインゲルハイム
【薬価】216.3円/1C
【薬価収載日】2011/03/11
【ハイリスク分類】血液凝固阻止剤
【標榜薬効】直接トロンビン阻害剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】非弁膜症性心房細動の虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制
注意
人工心臓弁置換術後の抗凝固療法には使用しない。
【用法用量】成人 1回150mg（75mgカプセル 2カプセル） 1日2回内服。必要時，1回110mg（110mgカプセル 1カプセル） 1日2回へ減量。
注意
1．下記は，ダビガトランの血中濃度上昇のおそれ，1回110mg1日2回投与を考慮。
（1）．中等度の腎障害（クレアチニンクリアランス30－50mL／分）。
（2）．P－糖蛋白阻害剤（経口剤）を併用。
2．下記の出血の危険性が高い患者は，1回110mg1日2回投与を考慮。
（1）．70歳以上。

3 代謝性医薬品

(2). 消化管出血の既往。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 透析患者含む高度の腎障害(クレアチニンクリアランス30mL／分未満)。
3. 出血症状，出血性素因，止血障害。
4. 臨床的に問題となる出血リスクのある器質的病変(6ヵ月以内の出血性脳卒中含む)。
5. 脊椎・硬膜外カテーテルを留置・抜去後1時間以内。
6. イトラコナゾール(経口剤)の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 出血(消化管出血(1. 6%)，頭蓋内出血(頻度不明)等)。
2. 間質性肺炎(頻度不明)(咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常等)。
3. アナフィラキシー(頻度不明)(蕁麻疹，顔面腫脹，呼吸困難等)。
4. 急性肝不全(頻度不明)，肝機能障害(頻度不明)，黄疸(頻度不明)。
5. 食道潰瘍(頻度不明)，食道炎(頻度不明)。
6. 急性腎障害(頻度不明)(血尿，赤血球円柱)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
血液・リンパ系障害 貧血，凝血異常，好酸球増加症 血小板減少症，好中球減少症
免疫系障害 薬物過敏症，掻痒，気管支痙攣，血管浮腫
神経系障害 浮動性眩暈，傾眠
眼障害 結膜出血，結膜ポリープ
心臓障害 うっ血性心不全，動悸
血管障害 高血圧，創傷出血 血腫，出血
呼吸器障害 鼻出血(1. 3%) 口腔咽頭不快感，口腔咽頭痛，しゃっくり，胸水，咽喉絞扼感 喀血
胃腸障害 消化不良(4. 7%)，胃食道炎(3. 1%)，悪心(2. 8%)，腹部不快感(2. 2%)，上腹部痛(1. 9%)，心窩部不快感(1. 6%)，嘔吐(1. 3%)，消化管潰瘍(1. 3%) 便秘，歯肉出血，腹部膨満，歯肉炎，痔出血，口腔内出血，嚥下障害，下痢，胃腸障害，胃食道逆流性疾患，吐血，血便排泄，痔核，胃酸過多，口の錯感覚 腹痛
肝胆道系障害 胆嚢ポリープ，肝障害
皮膚・皮下組織障害 皮下出血(3. 1%) 発疹，湿疹，蕁麻疹，皮膚乾燥，皮膚出血 脱毛症
筋骨格系・結合組織障害 背部痛，関節腫脹，筋痙縮 出血性関節症
腎・尿路障害 血尿(1. 3%) 腎機能障害，腎不全，排尿困難 尿生殖器出血
生殖系・乳房障害 良性前立腺肥大症，女性化乳房
全身障害・投与局所様態 胸痛(2. 2%)，浮腫(1. 6%) 異常感，熱感，胸部不快感，疲労，歩行障害 注射部位出血，カテーテル留置部位出血
臨床検査 血中ビリルビン増加，便潜血陽性，γ－グルタミルトランスフェラーゼ増加，ヘモグロビン減少，肝酵素上昇，血小板数減少 白血球数減少，血中クレアチンホスホキナーゼ増加
傷害，中毒，処置合併症 硬膜下血腫，創傷 外傷性出血，切開部位出血
(表終了)

プラザキサカプセル75mg（75mg1カプセル）

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】3339001M1024
【薬効分類】3. 3. 3 血液凝固阻止剤
【一般名】ダビガトランエテキシラートメタンスルホン酸塩
【メーカー】(製)日本ベーリンガーインゲルハイム
【薬価】122.4円/1C
【薬価収載日】2011/03/11
【ハイリスク分類】血液凝固阻止剤
【標榜薬効】直接トロンビン阻害剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】非弁膜症性心房細動の虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制
注意
人工心臓弁置換術後の抗凝固療法には使用しない。
【用法用量】成人 1回150mg(75mgカプセル 2カプセル) 1日2回内服。必要時，1回110mg(110mgカプセル 1カプセル) 1日2回へ減量。
注意
1. 下記は，ダビガトランの血中濃度上昇のおそれ，1回110mg1日2回投与を考慮。
(1). 中等度の腎障害(クレアチニンクリアランス30－50mL／分)。
(2). P－糖蛋白阻害剤(経口剤)を併用。
2. 下記の出血の危険性が高い患者は，1回110mg1日2回投与を考慮。
(1). 70歳以上。
(2). 消化管出血の既往。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 透析患者含む高度の腎障害(クレアチニンクリアランス30mL／分未満)。
3. 出血症状，出血性素因，止血障害。
4. 臨床的に問題となる出血リスクのある器質的病変(6ヵ月以内の出血性脳卒中含む)。
5. 脊椎・硬膜外カテーテルを留置・抜去後1時間以内。
6. イトラコナゾール(経口剤)の投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 出血(消化管出血(1. 6%)，頭蓋内出血(頻度不明)等)。
2. 間質性肺炎(頻度不明)(咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常等)。
3. アナフィラキシー(頻度不明)(蕁麻疹，顔面腫脹，呼吸困難等)。
4. 急性肝不全(頻度不明)，肝機能障害(頻度不明)，黄疸(頻度不明)。
5. 食道潰瘍(頻度不明)，食道炎(頻度不明)。
6. 急性腎障害(頻度不明)(血尿，赤血球円柱)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
血液・リンパ系障害 貧血，凝血異常，好酸球増加症 血小板減少症，好中球減少症
免疫系障害 薬物過敏症，掻痒，気管支痙攣，血管浮腫
神経系障害 浮動性眩暈，傾眠
眼障害 結膜出血，結膜ポリープ
心臓障害 うっ血性心不全，動悸
血管障害 高血圧，創傷出血 血腫，出血
呼吸器障害 鼻出血(1. 3%) 口腔咽頭不快感，口腔咽頭痛，しゃっくり，胸水，咽喉絞扼感 喀血
胃腸障害 消化不良(4. 7%)，胃食道炎(3. 1%)，悪心(2. 8%)，腹部不快感(2. 2%)，上腹部痛(1. 9%)，心窩部不快感(1. 6%)，嘔吐(1. 3%)，消化管潰瘍(1. 3%) 便秘，歯肉出血，腹部膨満，歯肉炎，痔出血，口腔内出血，嚥下障害，下痢，胃腸障害，胃食道逆流性疾患，吐血，血便排泄，痔核，胃酸過多，口の錯感覚 腹痛
肝胆道系障害 胆嚢ポリープ，肝障害
皮膚・皮下組織障害 皮下出血(3. 1%) 発疹，湿疹，蕁麻疹，皮膚乾燥，皮膚出血 脱毛症
筋骨格系・結合組織障害 背部痛，関節腫脹，筋痙縮 出血性関節症
腎・尿路障害 血尿(1. 3%) 腎機能障害，腎不全，排尿困難 尿生殖器出血
生殖系・乳房障害 良性前立腺肥大症，女性化乳房
全身障害・投与局所様態 胸痛(2. 2%)，浮腫(1. 6%) 異常感，熱感，胸部不快感，疲労，歩行障害 注射部位出血，カテーテル留置部位出血
臨床検査 血中ビリルビン増加，便潜血陽性，γ－グルタミルトランスフェラーゼ増加，ヘモグロビン減少，肝酵素上昇，血小板数減少 白血球数減少，血中クレアチンホスホキナーゼ増加
傷害，中毒，処置合併症 硬膜下血腫，創傷 外傷性出血，切開部位出血
(表終了)

ヘパリンCa皮下注2万単位／0. 8mL「サワイ」(20000単位1瓶)

両 注射 流通

【YJコード】3334400A3049
【薬効分類】3. 3. 3 血液凝固阻止剤
【一般名】ヘパリンカルシウム
【メーカー】(製)沢井製薬
【薬価】1068円/1V
【薬価収載日】2013/12/13
【標榜薬効】血液凝固阻止剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1. DICの治療
2. 血栓塞栓症(静脈血栓症，心筋梗塞症，肺塞栓症，脳塞栓症，四肢動脈血栓塞栓症，術中・術後の血栓塞栓症等)の治療・予防
【用法用量】下記の各投与法は，症例又は適応領域，目的により決定。
投与後，全血凝固時間(Lee－White法)又は全血活性化部分トロンボプラスチン時間(WBAPTT)が正常値の2～3倍になるように適宜コントロール。
初回 15000～20000単位，維持量 1回10000～15000単位 1日2回 12時間間隔 皮下注。
術後又は心筋梗塞等に続発する静脈血栓症の予防 5000単位 12時間ごと 7～10日間 皮下注。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. ショック(頻度不明)，アナフィラキシー(頻度不明)(血圧低下，意識低下，呼吸困難，チアノーゼ，蕁麻疹等)。
2. 重篤な出血(頻度不明)(脳出血，消化管出血，肺出血，硬膜外血腫，後腹膜血腫，腹腔内出血，術後出血，刺入部出血等)。
3. 血小板減少(頻度不明)，HIT等に伴う血小板減少・血栓症(頻度不

3 代謝性医薬品

明)(著明な血小板減少，脳梗塞，肺塞栓症，深部静脈血栓症等，シャント閉塞，回路内閉塞等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 掻痒感，蕁麻疹，悪寒，発熱，鼻炎，気管支喘息，流涙等
皮膚 脱毛，白斑，出血性壊死等
肝臓 AST上昇，ALT上昇
長期投与 骨粗鬆症，低アルドステロン症
投与部位 発赤，紅斑，腫脹，硬結，掻痒感，局所の疼痛性血腫等
(表終了)

ヘパリンNa注5千単位／5mL「モチダ」(5000単位5mL1瓶)

両 注射 流通

【YJコード】3334401A5062
【薬効分類】3．3．3 血液凝固阻止剤
【一般名】ヘパリンナトリウム
【メーカー】製)持田製薬
【薬価】165円/1V
【薬価収載日】2014/12/12
【標榜薬効】血液凝固阻止剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．DICの治療，血液透析・人工心肺その他の体外循環装置使用時の血液凝固防止，血管カテーテル挿入時の血液凝固防止，輸血・血液検査の血液凝固防止
2．血栓塞栓症(静脈血栓症，心筋梗塞症，肺塞栓症，脳塞栓症，四肢動脈血栓塞栓症，術中・術後の血栓塞栓症等)の治療・予防
【用法用量】下記の各投与法は，症例又は適応領域，目的により決定。投与後，全血凝固時間(Lee－White法)又は全血活性化部分トロンボプラスチン時間(WBAPTT)が正常値の2～3倍になるように適宜コントロール。
静脈内点滴注射法
10000～30000単位(5%ブドウ糖液，生食，リンゲル液1000mLで希釈) 最初30滴前後／分で 続いて全血凝固時間又はWBAPTTが投与前の2～3倍になれば20滴前後／分で 点滴静注。
静脈内間欠注射法
1回5000～10000単位 4～8時間ごと 静注。
注射開始3時間後から，2～4時間ごとに全血凝固時間又はWBAPTTを測定し，投与前の2～3倍になるようにコントロール。
皮下注射・筋肉内注射法
1回5000単位 4時間ごと 皮下注・筋注。筋注では，下記に配慮(組織・神経等の影響を避けるため)。
・神経走行部位を避ける。
・繰り返し注射する時は，注射部位をかえる。乳・幼・小児には連用しない。
・注射針を刺入した時，激痛を訴えたり，血液の逆流があれば，直ちに抜針し，部位をかえ注射。
体外循環時(血液透析・人工心肺)の使用法
・人工腎 適量を透析前に各々のヘパリン感受性試験の結果に基づいて算出。
全身ヘパリン化法 透析開始前 1000～3000単位 投与。透析開始後 500～1500単位／時 持続的，又は1時間ごと 500～1500単位 間欠的に追加。
局所ヘパリン化法 1500～2500単位／時 持続注入。体内灌流時にプロタミン硫酸塩で中和。
・術式・方法により異なるが，人工心肺灌流時 150～300単位／kg投与。さらに体外循環時間の延長とともに適宜追加。体外循環後，術後出血を防止し，ヘパリンの作用を中和するためプロタミン硫酸塩を使用。
輸血・血液検査の血液凝固防止法
輸血の血液凝固の防止 血液100mLに400～500単位を使用。
血液検査の血液凝固の防止 血液20～30mLに100単位を使用。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック(頻度不明)，アナフィラキシー(頻度不明)(血圧低下，意識低下，呼吸困難，チアノーゼ，蕁麻疹等)。
2．重篤な出血(頻度不明)(脳出血，消化管出血，肺出血，硬膜外血腫，後腹膜血腫，腹腔内出血，術後出血，刺入部出血等)。
3．血小板減少(頻度不明)，HIT等に伴う血小板減少・血栓症(頻度不明)(著明な血小板減少，脳梗塞，肺塞栓症，深部静脈血栓症等，シャント閉塞，回路内閉塞等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 掻痒感，蕁麻疹，悪寒，発熱，鼻炎，気管支喘息，流涙等
皮膚 脱毛，白斑，出血性壊死等
肝臓 AST・ALTの上昇等
長期投与 骨粗鬆症，低アルドステロン症
投与部位 局所の疼痛性血腫(皮下注・筋注時)
(表終了)

ヘパリンNaロック用100単位／mLシリンジ「オーツカ」5mL(500単位5mL1筒)

両 注射 流通

【YJコード】3334402G3067
【薬効分類】3．3．3 血液凝固阻止剤
【一般名】ヘパリンナトリウム
【メーカー】製)大塚製薬工場 販)大塚製薬
【薬価】155円/1筒
【薬価収載日】2006/07/07
【標榜薬効】血液凝固阻止剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】静脈内留置ルート内の血液凝固防止
注意
静脈内留置ルート内の血液凝固防止に使用する濃度の製剤であり，DICの治療，血栓塞栓症の治療・予防，血液透析・人工心肺その他の体外循環装置使用時の血液凝固防止，輸血・血液検査の血液凝固防止で投与しない。
【用法用量】静脈内留置ルート内を充填する十分量を注入。
注意
10単位／mL製剤は6時間まで，100単位／mL製剤は12時間までを標準とし最長24時間までの静脈内留置ルート内の血液凝固防止(ヘパリンロック)に使用。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック(頻度不明)，アナフィラキシー(頻度不明)(血圧低下，意識低下，呼吸困難，チアノーゼ，蕁麻疹等)。
2．血小板減少(頻度不明)，HIT等に伴う血小板減少・血栓症(頻度不明)(著明な血小板減少，脳梗塞，肺塞栓症，深部静脈血栓症等，シャント閉塞，回路内閉塞等)。
3．重篤な出血(頻度不明)(脳出血，消化管出血，肺出血，硬膜外血腫，後腹膜血腫，腹腔内出血，術後出血，刺入部出血等)(1000単位／mLのヘパリンナトリウム注射液)。
その他の副作用(発現時中止等)(静脈内留置ルート内の血液凝固の防止)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満
注射部位 血管痛
肝臓 ALT上昇，総ビリルビン上昇
その他 PT低下・延長，APTT延長，フィブリノーゲン上昇
(表終了)
その他の副作用(発現時中止等)(抗凝固療法で1000単位／mLのヘパリンナトリウム注射液)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 掻痒感，蕁麻疹，悪寒，発熱，鼻炎，気管支喘息，流涙等
皮膚 脱毛，白斑，出血性壊死等
肝臓 AST，ALTの上昇等
長期投与 骨粗鬆症，低アルドステロン症
(表終了)

ヘパリン類似物質外用泡状スプレー0．3%「日本臓器」(1g)

両 外用 後発 流通

【YJコード】3339950R1169
【薬効分類】3．3．3 血液凝固阻止剤
【一般名】ヘパリン類似物質
【先発品】ヒルドイドフォーム0．3%
【メーカー】製)日本臓器製薬
【薬価】7.4円/1g
【薬価収載日】2016/12/09
【標榜薬効】血行促進・皮膚保湿剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】血栓性静脈炎(痔核含む)，血行障害による疼痛と炎症性疾患(注射後の硬結・疼痛)，凍瘡，肥厚性瘢痕・ケロイドの治療と予防，進行性指掌角皮症，皮脂欠乏症，外傷(打撲，捻挫，挫傷)後の腫脹・血腫・腱鞘炎・筋肉痛・関節炎，筋性斜頸(乳児期)
【用法用量】1日1～数回 噴霧。

■禁忌

【禁忌】1．出血性血液疾患(血友病，血小板減少症，紫斑病等)。
2．僅少な出血でも重大な結果の予想される患者。

■副作用

【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 皮膚炎，掻痒，発赤，発疹，潮紅等 皮膚刺激感
皮膚(投与部位) － 紫斑

3 代謝性医薬品

（表終了）

ヘパリン類似物質油性クリーム0．3%「ニプロ」（1g）

両 外用 後発 流通

【YJコード】3339950M1153
【薬効分類】3．3．3 血液凝固阻止剤
【一般名】ヘパリン類似物質
【先発品】ヒルドイドソフト軟膏0．3%
【メーカー】製)ニプロ
【薬価】3.7円/1g
【薬価収載日】2014/10/20
【標榜薬効】血行促進・皮膚保湿剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】血栓性静脈炎（痔核含む），血行障害による疼痛と炎症性疾患（注射後の硬結・疼痛），凍瘡，肥厚性瘢痕・ケロイドの治療と予防，進行性指掌角皮症，皮脂欠乏症，外傷（打撲，捻挫，挫傷）後の腫脹・血腫・腱鞘炎・筋肉痛・関節炎，筋性斜頸（乳児期）
【用法用量】1日1～数回 塗擦，又はガーゼ等にのばして貼付。

■禁忌

【禁忌】1．出血性血液疾患（血友病，血小板減少症，紫斑病等）。
2．僅少な出血でも重大な結果の予想される患者。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 皮膚炎，掻痒，発赤，発疹，潮紅等 皮膚刺激感
皮膚（投与部位） 紫斑
（表終了）

リクシアナOD錠15mg（15mg1錠）

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】3339002F4029
【薬効分類】3．3．3 血液凝固阻止剤
【一般名】エドキサバントシル酸塩水和物
【メーカー】製)第一三共
【薬価】224.7円/1T
【薬価収載日】2017/11/29
【ハイリスク分類】血液凝固阻止剤
【標榜薬効】経口FXa阻害剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇非弁膜症性心房細動の虚血性脳卒中・全身性塞栓症の発症抑制
〇静脈血栓塞栓症（深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症）の治療・再発抑制
〇慢性血栓塞栓性肺高血圧症の血栓・塞栓形成の抑制
〇下記の下肢整形外科手術の静脈血栓塞栓症の発症抑制
膝関節全置換術，股関節全置換術，股関節骨折手術
注意
静脈血栓塞栓症の治療・再発抑制
2．ショックや低血圧が遷延するような血行動態が不安定な患者，血栓溶解剤の使用や血栓摘除術が必要な患者は，血行動態安定後に投与（有効性・安全性は未確立）。
3．急性期への初期治療（ヘパリン投与等）後に投与。
慢性血栓塞栓性肺高血圧症の血栓・塞栓形成の抑制
4．肺高血圧症のWHO機能分類クラスⅢ・Ⅳの有効性・安全性は未確立。
5．臨床成績の項を熟知し，臨床試験に組み入れられた背景（前治療等）を理解し，適応患者を選択。
6．慢性血栓塞栓性肺高血圧症の治療に熟知した医師のもとで，適切な患者に適用。
【用法用量】非弁膜症性心房細動の虚血性脳卒中・全身性塞栓症の発症抑制
成人 エドキサバン 下記量 1日1回 内服。
体重60kg以下 30mg。
体重60kg超 60mg。腎機能，併用薬に応じ 1回30mg 1日1回に減量。
出血リスクが高い高齢者 1日1回15mgに減量できる。
静脈血栓塞栓症の治療・再発抑制，慢性血栓塞栓性肺高血圧症の血栓・塞栓形成の抑制
成人 エドキサバン 下記量 1日1回 内服。
体重60kg以下 30mg。
体重60kg超 60mg。腎機能，併用薬に応じ 1回30mg 1日1回に減量。
下肢整形外科手術の静脈血栓塞栓症の発症抑制
成人 エドキサバン 1回30mg 1日1回 内服。
注意
非弁膜症性心房細動の虚血性脳卒中・全身性塞栓症の発症抑制，静脈血栓塞栓症の治療・再発抑制，慢性血栓塞栓性肺高血圧症の血栓・塞栓形成の抑制
1．腎機能障害
（表開始）
クレアチニンクリアランス（CLcr）値（mL／分） 投与法
30≦CLcr≦50 30mgを1日1回内服。
15≦CLcr＜30 有効性・安全性は未確立，投与の適否を判断。投与時は，30mgを1日1回内服（注）。
（表終了）
（注）非弁膜症性心房細動の虚血性脳卒中・全身性塞栓症の発症抑制 15mg1日1回に減量を考慮。
2．P糖蛋白阻害作用を有する薬剤を併用
（表開始）
併用薬 投与法
キニジン硫酸塩水和物，ベラパミル塩酸塩，エリスロマイシン，シクロスポリン 併用時は，30mgを1日1回内服。
アジスロマイシン，クラリスロマイシン，イトラコナゾール，ジルチアゼム，アミオダロン塩酸塩，HIVプロテアーゼ阻害剤（リトナビル等）等 有益性と危険性を考慮し，本剤との併用が適切と判断時のみ併用。併用時は，30mgを1日1回内服を考慮。
（表終了）
非弁膜症性心房細動の虚血性脳卒中・全身性塞栓症の発症抑制
3．高齢者（80歳以上を目安）で，下記のいずれも満たす時，有益性と出血リスクを考慮し本剤投与の適否を判断し，投与時は15mgを1日1回内服を考慮。
●下記の出血性素因を1つ以上有する。
・頭蓋内，眼内，消化管等重要器官での出血の既往。
・低体重（45kg以下）。
・クレアチニンクリアランス15以上30mL／分未満。
・非ステロイド性消炎鎮痛剤の常用。
・抗血小板剤の使用。
●通常量又は他の経口抗凝固剤の承認量では出血リスクのため投与できない。
下肢整形外科手術の静脈血栓塞栓症の発症抑制
4．クレアチニンクリアランス30以上50mL／分未満 個々の患者の静脈血栓塞栓症発現リスク・出血リスクを評価した上で，15mg1日1回に減量を考慮。
5．P糖蛋白阻害作用を有する薬剤を併用時は，15mg1日1回に減量を考慮。
6．初回投与は，術後12時間を経過し，手術創等からの出血がないことを確認し実施。
7．初回投与は，硬膜外カテーテル抜去又は腰椎穿刺から最低2時間を経過してから実施。初回投与以降にこれらの処置を実施時，前回投与から12時間以上の十分な時間をあけ，予定している次回の投与の最低2時間以上前に実施。

■禁忌

【禁忌】効能共通
1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．出血（頭蓋内出血，後腹膜出血，他の重要器官の出血等）。
3．急性細菌性心内膜炎。
非弁膜症性心房細動の虚血性脳卒中・全身性塞栓症の発症抑制，静脈血栓塞栓症の治療・再発抑制，慢性血栓塞栓性肺高血圧症の血栓・塞栓形成の抑制
4．腎不全（クレアチニンクリアランス15mL／分未満）。
5．凝血異常を伴う肝疾患。
下肢整形外科手術の静脈血栓塞栓症の発症抑制
6．高度の腎機能障害（クレアチニンクリアランス30mL／分未満）。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．重大な出血（消化管出血（1．3%），頭蓋内出血（0．3%），眼内出血（0．2%），創傷出血（0．1%未満），後腹膜出血（頻度不明）等），死亡。
2．急性腎障害（頻度不明）（血尿，赤血球円柱）。
3．肝機能障害（頻度不明）（AST，ALTの上昇等），黄疸（頻度不明）。
4．間質性肺疾患（頻度不明）（血痰，肺胞出血，咳嗽，息切れ，呼吸困難，発熱，肺音の異常等）。
5．血小板減少症（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～10%未満 1%未満 頻度不明
血液 貧血 血小板数増加，好酸球増多
出血傾向 鼻出血，血尿（尿中血陽性等），皮下出血，挫傷，創傷出血 月経過多，関節内出血
肝臓 肝機能異常 γ－GTP上昇，ALT上昇，ビリルビン上昇，AST上昇，Al－P上昇，LDH上昇
精神神経系 頭痛 浮動性眩暈
消化器 下痢 悪心，腹痛
過敏症 発疹，掻痒 血管浮腫，蕁麻疹
その他 浮腫，尿酸上昇，トリグリセリド上昇，発熱
（表終了）

3 代謝性医薬品

リクシアナOD錠60mg（60mg1錠）

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】3339002F6021
【薬効分類】3．3．3 血液凝固阻止剤
【一般名】エドキサバントシル酸塩水和物
【メーカー】製)第一三共
【薬価】416.8円/1T
【薬価収載日】2017/11/29
【ハイリスク分類】血液凝固阻止剤
【標榜薬効】経口FXa阻害剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇非弁膜症性心房細動の虚血性脳卒中・全身性塞栓症の発症抑制
〇静脈血栓塞栓症（深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症）の治療・再発抑制
〇慢性血栓塞栓性肺高血圧症の血栓・塞栓形成の抑制
注意
静脈血栓塞栓症の治療・再発抑制
2．ショックや低血圧が遷延するような血行動態が不安定な患者，血栓溶解剤の使用や血栓摘除術が必要な患者は，血行動態安定後に投与（有効性・安全性は未確立）。
3．急性期への初期治療（ヘパリン投与等）後に投与。
慢性血栓塞栓性肺高血圧症の血栓・塞栓形成の抑制
4．肺高血圧症のWHO機能分類クラスⅢ・Ⅳの有効性・安全性は未確立。
5．臨床成績の項を熟知し，臨床試験に組み入れられた背景（前治療等）を理解し，適応患者を選択。
6．慢性血栓塞栓性肺高血圧症の治療に熟知した医師のもとで，適切な患者に適用。
【用法用量】非弁膜症性心房細動の虚血性脳卒中・全身性塞栓症の発症抑制
成人 エドキサバン 下記量 1日1回 内服。
体重60kg以下 30mg。
体重60kg超 60mg。腎機能，併用薬に応じ 1回30mg 1日1回に減量。
出血リスクが高い高齢者 1日1回15mgに減量できる。
静脈血栓塞栓症の治療・再発抑制，慢性血栓塞栓性肺高血圧症の血栓・塞栓形成の抑制
成人 エドキサバン 下記量 1日1回 内服。
体重60kg以下 30mg。
体重60kg超 60mg。腎機能，併用薬に応じ 1回30mg 1日1回に減量。
注意
非弁膜症性心房細動の虚血性脳卒中・全身性塞栓症の発症抑制，静脈血栓塞栓症の治療・再発抑制，慢性血栓塞栓性肺高血圧症の血栓・塞栓形成の抑制
1．腎機能障害
（表開始）
クレアチニンクリアランス（CLcr）値（mL／分） 投与法
30≦CLcr≦50 30mgを1日1回内服。
15≦CLcr＜30 有効性・安全性は未確立，投与の適否を判断。投与時は，30mgを1日1回内服（注）。
（表終了）
（注）非弁膜症性心房細動の虚血性脳卒中・全身性塞栓症の発症抑制 15mg1日1回に減量を考慮。
2．P糖蛋白阻害作用を有する薬剤を併用
（表開始）
併用薬 投与法
キニジン硫酸塩水和物，ベラパミル塩酸塩，エリスロマイシン，シクロスポリン 併用時は，30mgを1日1回内服。
アジスロマイシン，クラリスロマイシン，イトラコナゾール，ジルチアゼム，アミオダロン塩酸塩，HIVプロテアーゼ阻害剤（リトナビル等）等 有益性と危険性を考慮し，本剤との併用が適切と判断時のみ併用。併用時は，30mgを1日1回内服を考慮。
（表終了）
非弁膜症性心房細動の虚血性脳卒中・全身性塞栓症の発症抑制
3．高齢者（80歳以上を目安）で，下記のいずれも満たす時，有益性と出血リスクを考慮し本剤投与の適否を判断し，投与時は15mgを1日1回内服を考慮。
●下記の出血性素因を1つ以上有する。
・頭蓋内，眼内，消化管等重要器官での出血の既往。
・低体重（45kg以下）。
・クレアチニンクリアランス15以上30mL／分未満。
・非ステロイド性消炎鎮痛剤の常用。
・抗血小板剤の使用。
●通常量又は他の経口抗凝固剤の承認量では出血リスクのため投与できない。

■禁忌

【禁忌】効能共通
1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．出血（頭蓋内出血，後腹膜出血，他の重要器官の出血等）。
3．急性細菌性心内膜炎。
非弁膜症性心房細動の虚血性脳卒中・全身性塞栓症の発症抑制，静脈血栓塞栓症の治療・再発抑制，慢性血栓塞栓性肺高血圧症の血栓・塞栓形成の抑制
4．腎不全（クレアチニンクリアランス15mL／分未満）。
5．凝血異常を伴う肝疾患。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．重大な出血（消化管出血（1．3%），頭蓋内出血（0．3%），眼内出血（0．2%），創傷出血（0．1%未満），後腹膜出血（頻度不明）等），死亡。
2．急性腎障害（頻度不明）（血尿，赤血球円柱）。
3．肝機能障害（頻度不明）（AST，ALTの上昇等），黄疸（頻度不明）。
4．間質性肺疾患（頻度不明）（血痰，肺胞出血，咳嗽，息切れ，呼吸困難，発熱，肺音の異常等）。
5．血小板減少症（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～10%未満 1%未満 頻度不明
血液 貧血 血小板数増加，好酸球増多
出血傾向 鼻出血，血尿（尿中血陽性等），皮下出血，挫傷，創傷出血
月経過多，関節内血腫
肝臓 肝機能異常 γ－GTP上昇，ALT上昇，ビリルビン上昇，AST上昇，Al－P上昇，LDH上昇
精神神経系 頭痛 浮動性眩暈
消化器 下痢 悪心，腹痛
過敏症 発疹，掻痒 血管浮腫，蕁麻疹
その他 浮腫，尿酸上昇，トリグリセリド上昇，発熱
（表終了）

リコモジュリン点滴静注用12800（12800単位1瓶）

内 注射 流通

【YJコード】3339401D1027
【薬効分類】3．3．3 血液凝固阻止剤
【一般名】トロンボモデュリン アルファ（遺伝子組換え）
【メーカー】製)旭化成ファーマ
【薬価】33347円/1V
【薬価収載日】2008/04/18
【標榜薬効】血液凝固阻止剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】DIC
注意
1．DICの状態を確認した時のみ使用。
2．基礎疾患への積極的治療が不可能で，DICを回復させても予後の改善が期待できない時は，投与しない。
3．造血器悪性腫瘍，感染症，固形癌以外を基礎疾患とするDICでは，投与経験が少なく，有効性・安全性は未確立。
【用法用量】成人 1回380U／kg 1日1回 約30分かけ 点滴静注。適宜減量。
注意
1．臨床試験・使用成績調査で，7日間以上の投与経験少なく，7日間以上投与した時の有効性・安全性は未確立。本剤の使用は，基礎疾患の病態，凝血学的検査値及び臨床症状等から血管内血液凝固亢進状態か否かを総合的に判断して投与期間を決定，漫然と投与継続しない。
2．重篤な腎機能障害 適宜130U／kgに減量。本剤は主に腎臓から排泄。本剤130U／kgは，DICを対象とした臨床試験（用量設定試験）で有効性が認められた。

■禁忌

【禁忌】1．頭蓋内出血，肺出血，消化管出血（継続的な吐血・下血，消化管潰瘍による出血）。
2．本剤の成分に過敏症の既往。
3．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
重篤な出血（頭蓋内出血（頻度不明），肺出血（0．9%），消化管出血（頻度不明）等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
出血障害 穿刺部位出血 口内出血，紫斑（病），血尿，鼻出血，下血，血腫 消化管出血，便潜血陽性，皮下出血，腹腔内出血，気道出血，創傷出血，筋肉内出血，胸腔内出血
皮膚・皮膚付属器障害 発疹 多形滲出性紅斑様皮疹，丘疹
消化管障害 胃潰瘍
肝臓・胆管系障害 血清AST上昇，血清ALT上昇 黄疸，ビリルビン血症
代謝・栄養障害 Al－P上昇，高コレステロール血症，低カリウム血症，低クロール血症，低コレステロール血症，糖尿，コリンエステラーゼ低下，血中尿酸低下，高トリグリセライド血症 LDH上昇，高カリウム血症，高クロール血症，低血糖，高ナトリウム血症
血管（心臓外）障害 アレルギー紫斑病
呼吸器系障害 呼吸困難

3 代謝性医薬品

赤血球障害 貧血
泌尿器系障害 蛋白尿，尿円柱，尿沈渣白血球，尿潜血陽性，尿沈渣赤血球
一般的全身障害 胸痛，浮腫 発熱
（表終了）

リバーロキサバン錠10mg「バイエル」（10mg1錠）

両 内服 後発 流通
ハイリスク

【YJコード】3339003F1040
【薬効分類】3．3．3 血液凝固阻止剤
【一般名】リバーロキサバン
【先発品】イグザレルト錠10mg
【メーカー】製)バイエルライフサイエンス 販)第一三共
【薬価】161.3円/1T
【薬価収載日】2024/12/06
【ハイリスク分類】血液凝固阻止剤
【標榜薬効】選択的直接作用型第Xa因子阻害剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇非弁膜症性心房細動の虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制
〇静脈血栓塞栓症（深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症）の治療・再発抑制
注意
静脈血栓塞栓症の治療・再発抑制
1．ショックや低血圧が遷延するような血行動態が不安定な肺血栓塞栓症患者，血栓溶解療法又は肺塞栓摘除術が必要な肺血栓塞栓症患者への安全性・有効性は未検討。ヘパリンの代替療法として投与しない。
2．下大静脈フィルターが留置された患者への安全性・有効性は未検討。
【用法用量】非弁膜症性心房細動の虚血性脳卒中・全身性塞栓症の発症抑制
成人 リバーロキサバン 1回15mg 1日1回 食後 内服。腎障害の程度に応じ1回10mg 1日1回に減量。
静脈血栓塞栓症の治療・再発抑制
成人 深部静脈血栓症又は肺血栓塞栓症発症後の初期3週間 リバーロキサバン 1回15mg 1日2回 食後 内服，以後1回15mg 1日1回 食後 内服。
注意
非弁膜症性心房細動の虚血性脳卒中・全身性塞栓症の発症抑制
1．クレアチニンクリアランス30～49mL／分 10mgを1日1回投与。
2．クレアチニンクリアランス15～29mL／分 投与の適否を検討した上で，投与時は，10mgを1日1回投与。

■禁忌

【禁忌】効能共通
1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．出血（頭蓋内出血，消化管出血等の重大な出血）。
3．凝固障害を伴う肝疾患。
4．中等度以上の肝障害（Child－Pugh分類B又はCに相当）。
5．妊婦・妊娠の可能性。
6．リトナビル含有製剤，アタザナビル，ダルナビル，ホスアンプレナビルの投与患者。
7．コビシスタット含有製剤の投与患者。
8．イトラコナゾール，ポサコナゾール，ボリコナゾール，ミコナゾール，ケトコナゾールの経口又は注射剤の投与患者。
9．エンシトレルビルの投与患者。
10．急性細菌性心内膜炎。
非弁膜症性心房細動患者の虚血性脳卒中・全身性塞栓症の発症抑制
11．腎不全（クレアチニンクリアランス15mL／分未満）。
静脈血栓塞栓症の治療・再発抑制
12．重度の腎障害（クレアチニンクリアランス30mL／分未満）。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．重篤な出血（頭蓋内出血（0．09%），脳出血（0．06%），出血性卒中（0．06%），眼出血（0．23%），網膜出血（0．08%），直腸出血（1．25%），胃腸出血（0．74%），メレナ（0．53%），上部消化管出血（0．36%），下部消化管出血（0．21%），出血性胃潰瘍（0．14%），関節内出血（0．16%），コンパートメント症候群を伴う筋肉内出血（0．01%）等），死亡，ショック，腎不全，呼吸困難，浮腫，頭痛，浮動性眩暈，蒼白，脱力感，胸痛，狭心症様の心虚血症状。
2．肝機能障害（0．1～1%未満）（ALT上昇，AST上昇），黄疸（頻度不明）。
3．間質性肺疾患（頻度不明）（血痰，肺胞出血，咳嗽，息切れ，呼吸困難，発熱，肺音の異常等）。
4．血小板減少（頻度不明）。
5．急性腎障害（頻度不明）（血尿，赤血球円柱）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～10%未満 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 頭痛，浮動性眩暈，不眠 失神
感覚器 結膜出血 耳出血
消化器 歯肉出血 肛門出血，下痢，悪心，口腔内出血，血便，腹痛，便潜血，上腹部痛，消化不良，便秘，嘔吐，吐血，口内乾燥，胃食道逆流性疾患，胃炎 痔核，アミラーゼ上昇，リパーゼ上昇
循環器 血腫 頻脈，低血圧 血管偽動脈瘤形成
呼吸器 鼻出血，喀血 呼吸困難
血液 貧血 INR増加，ヘモグロビン減少，鉄欠乏性貧血 血小板増加症（血小板数増加等）
肝臓 ALT上昇，AST上昇，血中ビリルビン上昇，AlーP上昇 γーGTP上昇，直接ビリルビン上昇 LDH上昇
腎臓 血尿 尿中血陽性 尿路出血，腎クレアチニンクリアランス減少，血中クレアチニン上昇，腎機能障害，BUN上昇
生殖器 月経過多 性器出血
筋・骨格系 四肢痛，関節痛 筋肉内出血
皮膚 斑状出血 皮下出血，皮下血腫，脱毛，皮膚裂傷 擦過傷
過敏症 発疹，掻痒，アレルギー性皮膚炎 蕁麻疹（全身性掻痒症等），アレルギー反応，血管浮腫
その他 挫傷 創傷出血，処置後出血，無力症，末梢性浮腫，食欲減退，疲労 限局性浮腫，倦怠感，創部分泌，発熱，硬膜下血腫
（表終了）

リバーロキサバン錠15mg「バイエル」（15mg1錠）

両 内服 後発 流通
ハイリスク

【YJコード】3339003F2047
【薬効分類】3．3．3 血液凝固阻止剤
【一般名】リバーロキサバン
【先発品】イグザレルト錠15mg
【メーカー】製)バイエルライフサイエンス 販)第一三共
【薬価】226.7円/1T
【薬価収載日】2024/12/06
【ハイリスク分類】血液凝固阻止剤
【標榜薬効】選択的直接作用型第Xa因子阻害剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇非弁膜症性心房細動の虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制
〇静脈血栓塞栓症（深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症）の治療・再発抑制
注意
静脈血栓塞栓症の治療・再発抑制
1．ショックや低血圧が遷延するような血行動態が不安定な肺血栓塞栓症患者，血栓溶解療法又は肺塞栓摘除術が必要な肺血栓塞栓症患者への安全性・有効性は未検討。ヘパリンの代替療法として投与しない。
2．下大静脈フィルターが留置された患者への安全性・有効性は未検討。
【用法用量】非弁膜症性心房細動の虚血性脳卒中・全身性塞栓症の発症抑制
成人 リバーロキサバン 1回15mg 1日1回 食後 内服。腎障害の程度に応じ1回10mg 1日1回に減量。
静脈血栓塞栓症の治療・再発抑制
成人 深部静脈血栓症又は肺血栓塞栓症発症後の初期3週間 リバーロキサバン 1回15mg 1日2回 食後 内服，以後1回15mg 1日1回 食後 内服。
注意
非弁膜症性心房細動の虚血性脳卒中・全身性塞栓症の発症抑制
1．クレアチニンクリアランス30～49mL／分 10mgを1日1回投与。
2．クレアチニンクリアランス15～29mL／分 投与の適否を検討した上で，投与時は，10mgを1日1回投与。

■禁忌

【禁忌】効能共通
1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．出血（頭蓋内出血，消化管出血等の重大な出血）。
3．凝固障害を伴う肝疾患。
4．中等度以上の肝障害（Child－Pugh分類B又はCに相当）。
5．妊婦・妊娠の可能性。
6．リトナビル含有製剤，アタザナビル，ダルナビル，ホスアンプレナビルの投与患者。
7．コビシスタット含有製剤の投与患者。
8．イトラコナゾール，ポサコナゾール，ボリコナゾール，ミコナゾール，ケトコナゾールの経口又は注射剤の投与患者。
9．エンシトレルビルの投与患者。
10．急性細菌性心内膜炎。
非弁膜症性心房細動患者の虚血性脳卒中・全身性塞栓症の発症抑制
11．腎不全（クレアチニンクリアランス15mL／分未満）。
静脈血栓塞栓症の治療・再発抑制
12．重度の腎障害（クレアチニンクリアランス30mL／分未満）。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．重篤な出血（頭蓋内出血（0．09%），脳出血（0．06%），出血性卒中（0．06%），眼出血（0．23%），網膜出血（0．08%），直腸出血（1．25%），胃腸出血（0．74%），メレナ（0．53%），上部消化管出血（0．36%），下部消化管出血（0．21%），出血性胃潰瘍（0．14%），関節内出血（0．16%），コンパートメント症候群を伴う筋肉内出血（0．01%）等），死亡，ショック，腎不全，呼吸困難，浮腫，頭痛，浮動性眩

3 代謝性医薬品

暈，蒼白，脱力感，胸痛，狭心症様の心虚血症状。
2. 肝機能障害（0．1～1%未満）（ALT上昇，AST上昇），黄疸（頻度不明）。
3. 間質性肺疾患（頻度不明）（血痰，肺胞出血，咳嗽，息切れ，呼吸困難，発熱，肺音の異常等）。
4. 血小板減少（頻度不明）。
5. 急性腎障害（頻度不明）（血尿，赤血球円柱）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～10%未満 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 頭痛，浮動性眩暈，不眠 失神
感覚器 結膜出血 耳出血
消化器 歯肉出血 肛門出血，下痢，悪心，口腔内出血，血便，腹痛，便潜血，上腹部痛，消化不良，便秘，嘔吐，吐血，口内乾燥，胃食道逆流性疾患，胃炎 痔核，アミラーゼ上昇，リパーゼ上昇
循環器 血腫 頻脈，低血圧 血管偽動脈瘤形成
呼吸器 鼻出血，喀血 呼吸困難
血液 貧血 INR増加，ヘモグロビン減少，鉄欠乏性貧血 血小板増加症（血小板数増加等）
肝臓 ALT上昇，AST上昇，血中ビリルビン上昇，AI－P上昇 γ－GTP上昇，直接ビリルビン上昇 LDH上昇
腎臓 血尿 尿中血陽性 尿路出血，腎クレアチニンクリアランス減少，血中クレアチニン上昇，腎機能障害，BUN上昇
生殖器 月経過多 性器出血
筋・骨格系 四肢痛，関節痛 筋肉内出血
皮膚 斑状出血 皮下出血，皮下血腫，脱毛，皮膚裂傷 擦過傷
過敏症 発疹，掻痒，アレルギー性皮膚炎 蕁麻疹（全身性掻痒症等），アレルギー反応，血管浮腫
その他 挫傷 創傷出血，処置後出血，無力症，末梢性浮腫，食欲減退，疲労 限局性浮腫，倦怠感，創部分泌，発熱，硬膜下血腫
（表終了）

ワーファリン錠1mg（1mg1錠）

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】3332001F1024
【薬効分類】3．3．3 血液凝固阻止剤
【一般名】ワルファリンカリウム
【メーカー】製)エーザイ
【薬価】10.4円/1T
【ハイリスク分類】血液凝固阻止剤
【標榜薬効】抗凝固剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】血栓塞栓症（静脈血栓症，心筋梗塞症，肺塞栓症，脳塞栓症，緩徐に進行する脳血栓症等）の治療・予防
【用法用量】血液凝固能検査（プロトロンビン時間・トロンボテスト）の検査値で，投与量を決定し，血液凝固能管理を行いつつ使用する薬剤。
初回量を1日1回内服後，数日間かけて血液凝固能検査で目標治療域に入るように用量調節し，維持量を決定。
ワルファリン感受性に個体差が大きく，同一個人でも変化する可能性，定期的に血液凝固能検査を実施，維持量を調節。
抗凝固効果の発現を急ぐ時，初回投与時ヘパリン等の併用を考慮。
成人 初回 1～5mg 1日1回。
小児の維持量（mg／kg／日）の目安。
12ヵ月未満 0．16
1～15歳未満 0．04～0．1
注意
1．血液凝固能検査（プロトロンビン時間・トロンボテスト）等で投与量を決定し，治療域を逸脱しないように，血液凝固能管理を行いつつ使用。
2．プロトロンビン時間・トロンボテストの検査値は，活性（%）以外の表示方法では，一般的にINRを用いる。INRを用いる場合，国内外の学会のガイドライン等，最新の情報を参考に年齢，疾患，併用薬等を勘案し治療域を決定。
3．成人の維持量は1日1回1～5mg。

■禁忌
【禁忌】1．出血（血小板減少性紫斑病，血管障害による出血傾向，血友病その他の血液凝固障害，月経期間中，手術時，消化管潰瘍，尿路出血，喀血，流早産・分娩直後等性器出血を伴う妊産褥婦，頭蓋内出血の疑い等）。
2．出血の可能性（内臓腫瘍，消化管の憩室炎，大腸炎，亜急性細菌性心内膜炎，重症高血圧症，重症糖尿病等）。
3．重篤な腎障害。
4．重篤な肝障害。
5．中枢神経系の手術・外傷後日の浅い患者。
6．本剤の成分に過敏症の既往。
7．妊婦・妊娠の可能性。
8．骨粗鬆症治療用ビタミンK2製剤の投与患者。
9．イグラチモドの投与患者。
10．ミコナゾール（ゲル剤・注射剤・錠剤）の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．重篤な出血（頻度不明）（脳出血等の臓器内出血，粘膜出血，皮下出血等）。
2．皮膚壊死（頻度不明）（一過性の過凝固状態，微小血栓）。
3．カルシフィラキシス（頻度不明）（有痛性紫斑を伴う有痛性皮膚潰瘍，皮下脂肪組織・真皮の小～中動脈の石灰化），敗血症。
4．肝機能障害（AST，ALT，AI－Pの上昇等），黄疸（頻度不明）。
5．急性腎障害（頻度不明）（血尿，治療域を超えるINR，赤血球円柱）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒症，紅斑，蕁麻疹，皮膚炎，発熱
肝臓 AST，ALTの上昇等
消化器 悪心・嘔吐，下痢
皮膚 脱毛
その他 抗甲状腺作用
（表終了）

3．3．9 その他の血液・体液用薬

アートセレブ脳脊髄手術用洗浄灌流液（500mL1キット）

内 注射 流通

【YJコード】3399500G1025
【薬効分類】3．3．9 その他の血液・体液用薬
【一般名】ブドウ糖・無機塩類配合剤
【メーカー】製)大塚製薬工場 販)大塚製薬
【薬価】1689円/1kit
【薬価収載日】2008/04/18
【標榜薬効】脳脊髄手術用洗浄・灌流液

■効能効果・用法用量
【効能効果】○穿頭・開頭手術時の洗浄
○脊髄疾患手術時の洗浄・神経内視鏡手術時の灌流
【用法用量】穿頭・開頭手術時の洗浄，脊髄疾患手術時の洗浄及び神経内視鏡手術時の灌流
用時，隔壁開通して上室液と下室液を混合。
適宜増減。
上限量は下記を目安。
穿頭・開頭手術及び神経内視鏡手術 4000mL。
脊髄疾患手術 3000mL。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 頻度不明
消化器 嘔吐
臨床検査 血中AI－P減少 白血球数増加，血中AI－P増加，血中クレアチニン減少，血中ブドウ糖増加
その他 体温上昇 悪寒，創合併症
（表終了）

イコサペント酸エチル粒状カプセル900mg「サワイ」（900mg1包）

両 内服 後発 流通

【YJコード】3399004M4068
【薬効分類】3．3．9 その他の血液・体液用薬
【一般名】イコサペント酸エチル
【先発品】エパデールS900
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】41.2円/1包
【薬価収載日】2008/07/04
【標榜薬効】EPA製剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】○閉塞性動脈硬化症に伴う潰瘍，疼痛，冷感の改善
○高脂血症
注意
高脂血症
適用前に検査を実施し，高脂血症を確認後適用を考慮。
【用法用量】閉塞性動脈硬化症に伴う潰瘍，疼痛，冷感の改善
成人 1回600mg 1日3回 食直後 内服。
適宜増減。
高脂血症
成人 1回900mg 1日2回，又は1回600mg 1日3回 食直後 内服。
トリグリセリドの異常時 1回900mg 1日3回まで。

■禁忌
【禁忌】1．出血（血友病，毛細血管脆弱症，消化管潰瘍，尿路出血，喀血，硝子体出血等）。
2．ミフェプリストン・ミソプロストールの投与患者。

3 代謝性医薬品

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 肝機能障害(頻度不明)(AST, ALT, Al－P, γ－GTP, LDH, ビリルビン等の上昇), 黄疸(頻度不明)。
2. 心房細動(頻度不明), 心房粗動(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹, 掻痒感等
出血傾向 皮下出血 血尿, 歯肉出血, 眼底出血, 鼻出血, 消化管出血等
血液 貧血等
消化器 悪心, 胸やけ, 腹部不快感, 下痢, 便秘, 腹部膨満感, 腹痛 嘔吐, 食欲不振, 口内炎, 口渇, 鼓腸等
肝臓 AST・ALT・Al－P・γ－GTP・LDH・ビリルビンの上昇等の肝機能障害
腎臓 BUN・クレアチニンの上昇
呼吸器 咳嗽, 呼吸困難
精神神経系 頭痛・頭重感, ふらつき, しびれ 眩暈, 眠気, 不眠
筋骨格系 関節痛, 筋肉痛, 四肢痛, 筋痙攣(こむら返り等)
その他 浮腫, 尿酸上昇, CKの上昇, 動悸 顔面潮紅, ほてり, 発熱, 頻尿, 全身倦怠感, 血圧上昇, 女性化乳房, 耳鳴, 発汗, ざ瘡
(表終了)

エフィエントOD錠20mg(20mg1錠)

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】3399009F5025
【薬効分類】3. 3. 9 その他の血液・体液用薬
【一般名】プラスグレル塩酸塩
【メーカー】製)第一三共
【薬価】999円/1T
【薬価収載日】2018/11/28
【ハイリスク分類】血液凝固阻止剤
【標榜薬効】抗血小板剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○経皮的冠動脈形成術(PCI)が適用される下記の虚血性心疾患
急性冠症候群(不安定狭心症, 非ST上昇心筋梗塞, ST上昇心筋梗塞)
安定狭心症, 陳旧性心筋梗塞
注意
経皮的冠動脈形成術(PCI)が適用される虚血性心疾患
PCIが適用予定の虚血性心疾患への投与は可能。冠動脈造影により, 保存的治療・冠動脈バイパス術が選択され, PCI不適用時には, 以後の投与は控える。
【用法用量】経皮的冠動脈形成術(PCI)が適用される虚血性心疾患
成人 投与開始日 プラスグレル 1回20mg 1日1回 内服。以後維持量 1回3. 75mg 1日1回 内服。
注意
経皮的冠動脈形成術(PCI)が適用される虚血性心疾患
1. 抗血小板薬二剤併用療法期間はアスピリン(81～100mg／日, 初回負荷投与では324mgまで)と併用。終了後の投与法は, 国内外の最新のガイドライン等を参考。
2. PCI施行前に本剤3. 75mgを5日間程度投与時, 初回負荷投与(投与開始日に20mgを投与)は必須ではない(本剤の血小板凝集抑制作用は5日間で定常状態と想定される)。
3. 空腹時は避ける(初回負荷投与除く)。空腹時は食後投与と比較してCmaxが増加。
4. 低体重(体重50kg以下) 出血の危険性が増大するおそれ, 必要時維持量1日1回2. 5mgへの減量も考慮。

■禁忌
【禁忌】1. 出血(血友病, 頭蓋内出血, 消化管出血, 尿路出血, 喀血, 硝子体出血等)。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 出血(1. 0%)(頭蓋内出血(頭痛, 悪心・嘔吐, 意識障害, 片麻痺等), 消化管出血, 心嚢内出血等)。
2. 血栓性血小板減少性紫斑病(頻度不明)(倦怠感, 食欲不振, 出血症状(紫斑等), 精神神経症状(意識障害等), 血小板減少, 溶血性貧血(破砕赤血球の出現), 発熱, 腎機能障害等)。
3. 過敏症(頻度不明)(血管浮腫含む)。
4. 肝機能障害, 黄疸(頻度不明)。
5. 無顆粒球症, 再生不良性貧血含む汎血球減少症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0. 1～1%未満
血液 貧血, 血小板数減少, 好酸球数増加, 白血球数減少
出血傾向 皮下出血(8. 3%), 鼻出血, 血尿, 血管穿刺部位血腫, 皮下血腫, 穿刺部位出血, 歯肉出血, 結膜出血, 創傷出血 便潜血, 痔出血, 処置による出血, 血腫, 喀血, 胃腸出血, 網膜出血, 出血, 上部消化管出血, 口腔内出血, カテーテル留置部位出血, 紫斑, 硝子体出血, 出血性腸憩室, 下部消化管出血, 点状出血, 血管偽動脈瘤, 不正子宮出血
肝臓 肝機能障害 γ－GTP上昇, Al－P上昇, ALT上昇, AST上昇
腎臓 腎機能障害, 尿蛋白増加
精神神経系 浮動性眩暈, 味覚障害, しびれ, 回転性眩暈
消化器 下痢, 便秘, 悪心・嘔吐, 胃食道逆流性疾患, 腹痛, 腹部不快感, 胃炎, 胃・十二指腸潰瘍
過敏症 発疹, 紅斑, 蕁麻疹
循環器 期外収縮, 血圧上昇, 狭心症
その他 尿酸上昇, 末梢性浮腫, 背部痛, 血管穿刺部位腫脹, 血中甲状腺刺激ホルモン増加, 尿糖上昇, 倦怠感
(表終了)

エフィエント錠3. 75mg(3. 75mg1錠)

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】3399009F1020
【薬効分類】3. 3. 9 その他の血液・体液用薬
【一般名】プラスグレル塩酸塩
【メーカー】製)第一三共
【薬価】248.8円/1T
【薬価収載日】2014/05/23
【ハイリスク分類】血液凝固阻止剤
【標榜薬効】抗血小板剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○経皮的冠動脈形成術(PCI)が適用される下記の虚血性心疾患
急性冠症候群(不安定狭心症, 非ST上昇心筋梗塞, ST上昇心筋梗塞), 安定狭心症, 陳旧性心筋梗塞
○虚血性脳血管障害(大血管アテローム硬化・小血管の閉塞に伴う)後の再発抑制(脳梗塞発症リスクが高い時のみ)
注意
経皮的冠動脈形成術(PCI)が適用される虚血性心疾患
2. PCIが適用予定の虚血性心疾患への投与は可能。冠動脈造影により, 保存的治療・冠動脈バイパス術が選択され, PCI不適用時には, 以後の投与は控える。
虚血性脳血管障害(大血管アテローム硬化・小血管の閉塞に伴う)後の再発抑制
3. 虚血性脳血管障害の病型分類を理解した上で, TOAST分類の大血管アテローム硬化・小血管の閉塞に伴う虚血性脳血管障害に投与。その他の原因・原因不明の虚血性脳血管障害には有効性が未確認のため投与しない。
4. 高血圧症, 脂質異常症, 糖尿病, 慢性腎臓病, 最終発作前の脳梗塞既往のいずれかに投与。
5. 臨床成績の項を熟知し, 理解した上で投与の適否を判断。
【用法用量】経皮的冠動脈形成術(PCI)が適用される虚血性心疾患
成人 投与開始日 プラスグレル 1回20mg 1日1回 内服。以後維持量 1回3. 75mg 1日1回 内服。
虚血性脳血管障害(大血管アテローム硬化・小血管の閉塞)後の再発抑制
成人 プラスグレル 1回3. 75mg 1日1回 内服。
注意
経皮的冠動脈形成術(PCI)が適用される虚血性心疾患
1. 抗血小板薬二剤併用療法期間はアスピリン(81～100mg／日, 初回負荷投与では324mgまで)と併用。終了後の投与法は, 国内外の最新のガイドライン等を参考。
2. PCI施行前に本剤3. 75mgを5日間程度投与時, 初回負荷投与(投与開始日に20mgを投与)は必須ではない(本剤の血小板凝集抑制作用は5日間で定常状態と想定される)。
3. 空腹時は避ける(初回負荷投与除く)。空腹時は食後投与と比較してCmaxが増加。
4. 低体重(体重50kg以下) 出血の危険性が増大するおそれ, 必要時維持量1日1回2. 5mgへの減量も考慮。
虚血性脳血管障害(大血管アテローム硬化・小血管の閉塞)後の再発抑制
5. 空腹時は避ける。空腹時は食後投与と比較してCmaxが増加。
6. 低体重(体重50kg以下) 出血の危険性が増大のおそれ, 必要時1日1回2. 5mgへの減量も考慮。

■禁忌
【禁忌】1. 出血(血友病, 頭蓋内出血, 消化管出血, 尿路出血, 喀血, 硝子体出血等)。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 出血(1. 0%)(頭蓋内出血(頭痛, 悪心・嘔吐, 意識障害, 片麻痺等), 消化管出血, 心嚢内出血等)。
2. 血栓性血小板減少性紫斑病(頻度不明)(倦怠感, 食欲不振, 出血症状(紫斑等), 精神神経症状(意識障害等), 血小板減少, 溶血性貧血(破砕赤血球の出現), 発熱, 腎機能障害等)。
3. 過敏症(頻度不明)(血管浮腫含む)。
4. 肝機能障害, 黄疸(頻度不明)。
5. 無顆粒球症, 再生不良性貧血含む汎血球減少症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)

3 代謝性医薬品

（表開始）
発現部位等 1%以上 0．1～1%未満
血液 貧血，血小板数減少，好酸球数増加，白血球数減少
出血傾向 皮下出血（8．3%），鼻出血，血尿，血管穿刺部位血腫，皮下血腫，穿刺部位出血，歯肉出血，結膜出血，創傷出血 便潜血，痔出血，処置による出血，血腫，喀血，胃腸出血，網膜出血，出血，上部消化管出血，口腔内出血，カテーテル留置部位出血，紫斑，硝子体出血，出血性腸憩室，下部消化管出血，点状出血，血管偽動脈瘤，不正子宮出血
肝臓 肝機能障害 γ－GTP上昇，AI－P上昇，ALT上昇，AST上昇
腎臓 腎機能障害，尿蛋白増加
精神神経系 浮動性眩暈，味覚障害，しびれ，回転性眩暈
消化器 下痢，便秘，悪心・嘔吐，胃食道逆流性疾患，腹痛，腹部不快感，胃炎，胃・十二指腸潰瘍
過敏症 発疹，紅斑，蕁麻疹
循環器 期外収縮，血圧上昇，狭心症
その他 尿酸上昇，末梢性浮腫，背部痛，血管穿刺部位腫脹，血中甲状腺刺激ホルモン増加，尿糖上昇，倦怠感
（表終了）

オンデキサ静注用200mg（200mg1瓶）

内 注射 流通

【YJコード】3399414D1022
【薬効分類】3．3．9 その他の血液・体液用薬
【一般名】アンデキサネット アルファ（遺伝子組換え）
【メーカー】製）アストラゼネカ
【薬価】338671円/1V
【薬価収載日】2022/05/25
【標榜薬効】直接作用型第Xa因子阻害剤中和剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】直接作用型第Xa因子阻害剤（アピキサバン，リバーロキサバン，エドキサバントシル酸塩水和物）投与中の，生命を脅かす出血・止血困難な出血発現時の抗凝固作用の中和
注意
1．直接作用型第Xa因子阻害剤の種類，最終投与時の1回量，最終投与からの経過時間，患者背景（直接作用型第Xa因子阻害剤の薬物動態に影響する可能性がある腎機能等）等から，直接作用型第Xa因子阻害剤による抗凝固作用が発現している期間であることが推定される患者にのみ使用。
2．アピキサバン，リバーロキサバン，エドキサバントシル酸塩水和物以外の抗凝固剤による抗凝固作用の中和には使用しない。
【用法用量】成人 直接作用型第Xa因子阻害剤の種類，最終投与時の1回量，最終投与からの経過時間により，下記のA法・B法の用法・用量で静注。
A法
400mg 30mg／分 静注，続いて480mg 4mg／分 2時間 静注。
B法
800mg 30mg／分 静注，続いて960mg 8mg／分 2時間 静注。
注意
1．直接作用型第Xa因子阻害剤の種類，最終投与時の1回量，最終投与からの経過時間により下記の通り投与。
（表開始）
直接作用型第Xa因子阻害剤の種類 直接作用型第Xa因子阻害剤の最終投与時の1回量（mg） 直接作用型第Xa因子阻害剤の最終投与からの経過時間 8時間未満又は不明 直接作用型第Xa因子阻害剤の最終投与からの経過時間 8時間以上
アピキサバン 2．5，5 A法 A法
アピキサバン 10，不明 B法 A法
リバーロキサバン 2．5 A法 A法
リバーロキサバン 10，15，不明 B法 A法
エドキサバン 15，30，60，不明 B法 A法
（表終了）
2．再出血・出血継続の追加投与の有効性・安全性は未確立，他の止血処置を検討。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．血栓塞栓症（虚血性脳卒中（1．5%），脳血管発作，心筋梗塞，肺塞栓症（各0．8%），脳梗塞，塞栓性脳卒中，心房血栓症，深部静脈血栓症（各0．6%），脳虚血，急性心筋梗塞，頚静脈血栓症（各0．4%），一過性脳虚血発作，腸骨動脈閉塞（各0．2%）等）。
2．infusion reaction（0．4%）（潮紅，熱感，咳嗽，呼吸困難等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%未満
心臓障害 心停止
一般・全身障害・投与部位の状態 発熱
（表終了）

キャブピリン配合錠（1錠）

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】3399103F1020
【薬効分類】3．3．9 その他の血液・体液用薬
【一般名】アスピリン・ボノプラザンフマル酸塩配合剤
【メーカー】製）武田薬品工業
【薬価】90.1円/1T
【薬価収載日】2020/05/20
【ハイリスク分類】血液凝固阻止剤
【標榜薬効】アスピリン／ボノプラザンフマル酸塩配合剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の血栓・塞栓形成の抑制（胃潰瘍，十二指腸潰瘍の既往のみ）
・狭心症（慢性安定狭心症，不安定狭心症），心筋梗塞，虚血性脳血管障害（一過性脳虚血発作，脳梗塞）
・冠動脈バイパス術，経皮経管冠動脈形成術施行後
【用法用量】成人 1回1錠（アスピリン／ボノプラザン 100mg／10mg） 1日1回 内服。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分・サリチル酸系製剤に過敏症の既往。
2．アタザナビル硫酸塩，リルピビリン塩酸塩の投与患者。
3．消化性潰瘍。
4．出血傾向。
5．アスピリン喘息・その既往。
6．出産予定日12週以内の妊婦。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．汎血球減少，無顆粒球症，白血球減少，血小板減少，再生不良性貧血（頻度不明）。
2．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑，剥脱性皮膚炎（頻度不明）。
3．ショック，アナフィラキシー（頻度不明）（呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等）。
4．出血（頻度不明）（脳出血等の頭蓋内出血（頭痛，悪心・嘔吐，意識障害，片麻痺等），肺出血，消化管出血，鼻出血，眼底出血等）。
5．喘息発作（頻度不明）。
6．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTP等の著しい上昇），黄疸（頻度不明）。
7．消化性潰瘍（下血（メレナ）を伴う胃潰瘍・十二指腸潰瘍等），小腸・大腸潰瘍（頻度不明）（消化管出血，腸管穿孔，狭窄・閉塞）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
消化器 便秘，下痢，腹部膨満感，悪心，腹痛，食道炎，胃部不快感 胃腸障害，嘔吐，胸やけ，口唇腫脹，吐血，食欲不振
過敏症 発疹，蕁麻疹
皮膚 掻痒 発汗
血液 貧血，好酸球増多 血小板機能低下（出血時間延長）
精神神経系 眩暈，興奮，頭痛
肝臓 AST，ALT，AI－P，LDH，γ－GTPの上昇
腎臓 腎障害
循環器 血圧低下 血管炎，心窩部痛
呼吸器 気管支炎，鼻炎
感覚器 角膜炎，結膜炎，耳鳴，難聴
その他 浮腫 過呼吸，代謝性アシドーシス，倦怠感，低血糖
（表終了）

クロピドグレル錠75mg「SANIK」（75mg1錠）

両 内服 後発 流通
ハイリスク

【YJコード】3399008F2110
【薬効分類】3．3．9 その他の血液・体液用薬
【一般名】クロピドグレル硫酸塩
【先発品】プラビックス錠75mg
【メーカー】製）日医工
【薬価】31.9円/1T
【薬価収載日】2015/06/19
【ハイリスク分類】血液凝固阻止剤
【標榜薬効】抗血小板剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．虚血性脳血管障害（心原性脳塞栓症除く）後の再発抑制
2．経皮的冠動脈形成術（PCI）が適用される下記の虚血性心疾患
急性冠症候群（不安定狭心症，非ST上昇心筋梗塞，ST上昇心筋梗塞），安定狭心症，陳旧性心筋梗塞

3 代謝性医薬品

3. 末梢動脈疾患の血栓・塞栓形成の抑制
注意
PCIが適用される虚血性心疾患 PCIが適用予定患者への投与は可能。冠動脈造影により，保存的治療・冠動脈バイパス術が選択され，PCI不適用時には，以後の投与は控える。
【用法用量】1. 虚血性脳血管障害（心原性脳塞栓症除く）後の再発抑制
成人 クロピドグレル 1回75mg 1日1回 内服。
年齢，体重，症状により クロピドグレル 1回50mg 1日1回 内服。
2. 経皮的冠動脈形成術（PCI）が適用される虚血性心疾患
成人 投与開始日 クロピドグレル 300mg 1日1回 内服，その後，維持量 1回75mg 1日1回 内服。
3. 末梢動脈疾患の血栓・塞栓形成の抑制
成人 クロピドグレル 1回75mg 1日1回 内服。
注意
効能共通
1. 空腹時は避ける（国内臨床試験で絶食投与時に消化器症状あり）。
虚血性脳血管障害（心原性脳塞栓症除く）後の再発抑制
2. 出血を増強する可能性，出血傾向，その素因がある患者は，50mg 1日1回から投与。
経皮的冠動脈形成術（PCI）が適用される虚血性心疾患
3. 抗血小板薬二剤併用療法期間はアスピリン（81～100mg／日）と併用。抗血小板薬二剤併用療法期間終了後の投与法は，国内外の最新のガイドライン等を参考。
4. ステント留置患者では該当医療機器の電子添文を必ず参照。
5. PCI施行前にクロピドグレル75mgを最低4日間投与されている時，ローディングドーズ投与（投与開始日に300mgを投与）は必須ではない。

■禁忌
【禁忌】1. 出血（血友病，頭蓋内出血，消化管出血，尿路出血，喀血，硝子体出血等）。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 出血（脳出血等の頭蓋内出血（1%未満）（頭痛，悪心・嘔吐，意識障害，片麻痺等），硬膜下血腫（0. 1%未満），吐血（頻度不明），下血，胃腸出血，眼底出血（各1%未満），関節血腫（0. 1%未満），腹部血腫（0. 1%未満），後腹膜出血（頻度不明）等）。
2. 出血を伴う胃・十二指腸潰瘍（頻度不明）。
3. 肝機能障害（ALT上昇，γ－GTP上昇，AST上昇），黄疸，急性肝不全（頻度不明），肝炎（頻度不明）等。
4. 血栓性血小板減少性紫斑病（頻度不明）（倦怠感，食欲不振，出血症状（紫斑等），精神神経症状（意識障害等），血小板減少，溶血性貧血（破砕赤血球の出現），発熱，腎機能障害等）。
5. 間質性肺炎（0. 1%未満），好酸球性肺炎（頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常等）。
6. 血小板減少，無顆粒球症，再生不良性貧血含む汎血球減少症（頻度不明）。
7. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形滲出性紅斑，急性汎発性発疹性膿疱症（頻度不明）。
8. 薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
9. 後天性血友病（頻度不明）。
10. 横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇），急性腎障害等の重篤な腎障害。
11. インスリン自己免疫症候群（頻度不明）（重度の低血糖）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
血液 皮下出血，貧血，紫斑（病），鼻出血，止血延長，眼出血，歯肉出血，痔出血，血痰，穿刺部位出血，処置後出血，ヘモグロビン減少，赤血球減少，ヘマトクリット減少，白血球減少，好中球減少，好酸球増多
月経過多，口腔内出血，術中出血，カテーテル留置部位血腫，口唇出血，陰茎出血，尿道出血，好酸球減少 血清病
肝臓 AI－P上昇，LDH上昇，血清ビリルビン上昇 胆嚢炎，胆石症，黄疸
消化器 消化器不快感，胃腸炎，口内炎，腹痛，嘔気，下痢，食欲不振，便秘，食道炎，嘔吐 腹部膨満，消化不良，口渇，耳下腺痛，歯肉（齦）炎，歯肉腫脹，唾液分泌過多，粘膜出血，腸管虚血 大腸炎（潰瘍性大腸炎，リンパ球性大腸炎），膵炎
代謝異常 中性脂肪上昇，CK上昇，総コレステロール上昇，総蛋白低下，K上昇，アルブミン低下 血糖上昇，K下降，血中尿酸上昇，アミラーゼ上昇，Cl下降，Na上昇，Na下降
過敏症 発疹，掻痒感，湿疹，蕁麻疹，紅斑 光線過敏性皮膚炎，眼瞼浮腫 アナフィラキシー，斑状丘疹性皮疹，血管浮腫，気管支痙攣
皮膚 脱毛，皮膚乾燥 水疱性皮疹，扁平苔癬
感覚器 眼充血，眼瞼炎，眼精疲労，視力低下，複視，嗅覚障害，結膜炎，味覚異常 味覚消失
精神神経系 頭痛，高血圧，眩暈 しびれ，筋骨格硬直（肩こり，手指硬直），意識障害，不眠症，意識喪失，音声変調，低血圧，てんかん，眠気，皮膚感覚過敏，流涙，気分変動
循環器 浮腫，頻脈，不整脈 動悸，心電図異常，胸痛，脈拍数低下，徐脈 血管炎
腎臓 BUN上昇，血中クレアチニン上昇，尿蛋白増加，血尿，尿沈渣異常，尿糖陽性，腎機能障害 急性腎障害，尿閉，頻尿，尿路感染 糸球体症
呼吸器 咳，気管支肺炎，胸水，痰
その他 ほてり，関節炎，発熱，異常感（浮遊感，気分不良）多発性筋炎，滑液包炎，男性乳房痛，乳汁分泌過多，乳腺炎，倦怠感，腰痛，多発性関節炎，肩痛，腱鞘炎，注射部位腫脹，CRP上昇 筋痛，関節痛，女性化乳房
（表終了）

シロスタゾール錠100mg「トーワ」（100mg1錠）

両 内服 後発 流通
ハイリスク

【YJコード】3399002F2369
【薬効分類】3. 3. 9 その他の血液・体液用薬
【一般名】シロスタゾール
【メーカー】製）東和薬品
【薬価】12.6円/1T
【薬価収載日】2013/06/21
【ハイリスク分類】血液凝固阻止剤
【標榜薬効】抗血小板剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 慢性動脈閉塞症による潰瘍，疼痛，冷感等の虚血性諸症状の改善
2. 脳梗塞（心原性脳塞栓症除く）発症後の再発抑制
注意
無症候性脳梗塞における脳梗塞発作の抑制効果は未検討。
【用法用量】成人 1回100mg 1日2回 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 出血（血友病，毛細血管脆弱症，頭蓋内出血，消化管出血，尿路出血，喀血，硝子体出血等）。
2. うっ血性心不全。
3. 本剤の成分に過敏症の既往。
4. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. うっ血性心不全（0. 1%未満），心筋梗塞，狭心症，心室頻拍（各頻度不明）。
2. 出血（脳出血等の頭蓋内出血（頻度不明）（頭痛，悪心・嘔吐，意識障害，片麻痺），消化管出血（0. 1～5%未満），眼底出血（0. 1%未満），肺出血，鼻出血（各頻度不明））。
3. 出血を伴う胃・十二指腸潰瘍（0. 1～5%未満）。
4. 血小板減少，汎血球減少，無顆粒球症（各頻度不明）。
5. 間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多）。
6. 肝機能障害（0. 1%未満）（AST，ALT，AI－P，LDH等の上昇），黄疸（頻度不明）。
7. 急性腎障害（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，皮疹，掻痒感 蕁麻疹 光線過敏症，紅斑
循環器 動悸，頻脈，ほてり，心房細動・上室性頻拍・上室性期外収縮・心室性期外収縮等の不整脈 血圧上昇 血圧低下
精神神経系 頭痛・頭重感 眠気，眩暈，不眠，しびれ感 振戦，肩こり 失神・一過性の意識消失
消化器 腹痛，悪心・嘔吐，食欲不振，下痢，胸やけ，腹部膨満感，味覚異常 口渇
血液 貧血，白血球減少，好酸球増多
出血傾向 皮下出血 血尿
肝臓 AST・ALT・AI－P・LDHの上昇
腎臓 尿酸値上昇，頻尿 BUN上昇，クレアチニン上昇，排尿障害
その他 浮腫，胸痛，耳鳴，倦怠感，発熱 発汗，疼痛，脱力感，血糖上昇，脱毛 結膜炎，筋痛
（表終了）

バイアスピリン錠100mg（100mg1錠）

両 内服 後発 流通
ハイリスク

【YJコード】3399007H1021
【薬効分類】3. 3. 9 その他の血液・体液用薬
【一般名】アスピリン
【メーカー】製）バイエル薬品
【薬価】5.9円/1T
【薬価収載日】2000/11/24
【ハイリスク分類】血液凝固阻止剤
【標榜薬効】抗血小板剤
【粉砕情報】粉砕不可

3 代謝性医薬品

■効能効果・用法用量

【効能効果】1. 下記の血栓・塞栓形成の抑制
(1). 狭心症(慢性安定狭心症, 不安定狭心症)
(2). 心筋梗塞
(3). 虚血性脳血管障害(一過性脳虚血発作, 脳梗塞)
2. 冠動脈バイパス術, 経皮経管冠動脈形成術施行後の血栓・塞栓形成の抑制
3. 川崎病(川崎病による心血管後遺症含む)
【用法用量】1. 狭心症(慢性安定狭心症, 不安定狭心症), 心筋梗塞, 虚血性脳血管障害(一過性脳虚血発作, 脳梗塞)の血栓・塞栓形成の抑制, 冠動脈バイパス術, 経皮経管冠動脈形成術施行後の血栓・塞栓形成の抑制
成人 1回100mg 1日1回 内服。症状により 1回300mgまで。
2. 川崎病(川崎病による心血管後遺症含む)
急性期有熱期間 1日30～50mg／kg 1日3回 分割 内服。
解熱後の回復期から慢性期 1日3～5mg／kg 1日1回 内服。
適宜増減。
注意
1. 急性心筋梗塞, 脳梗塞急性期の初期治療 抗血小板作用の発現を急ぐ時は, 初回投与時はすりつぶしたり, かみ砕いて服用。
2. 心筋梗塞, 経皮経管冠動脈形成術施行の初期治療 常用量の数倍を投与。
3. 川崎病の診断後, 投与を開始。
4. 川崎病の回復期 発症後数ヵ月間, 血小板凝集能が亢進しているので, 本剤を発症後2～3ヵ月間投与し, その後断層心エコー図等の冠動脈検査で冠動脈障害が認められない時は, 投与中止。冠動脈瘤を形成した症例では, 退縮が確認される時期まで投与を継続。
5. 川崎病 低用量では血小板機能の抑制が認められない時もあるため, 適宜, 血小板凝集能の測定等を考慮。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分・サリチル酸系製剤に過敏症の既往。
2. 消化性潰瘍。
3. 出血傾向。
4. アスピリン喘息・その既往。
5. 出産予定日12週以内の妊婦。
6. 低出生体重児, 新生児, 乳児。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. ショック, アナフィラキシー(各頻度不明)(呼吸困難, 全身潮紅, 血管浮腫, 蕁麻疹等)。
2. 出血(頻度不明)(脳出血等の頭蓋内出血(頭痛, 悪心・嘔吐, 意識障害, 片麻痺等), 肺出血, 消化管出血, 鼻出血, 眼底出血等)。
3. 中毒性表皮壊死融解症, 皮膚粘膜眼症候群, 剥脱性皮膚炎(各頻度不明)。
4. 再生不良性貧血, 血小板減少, 白血球減少(各頻度不明)。
5. 喘息発作(頻度不明)。
6. 肝機能障害(AST, ALT, γ－GTP等の著しい上昇), 黄疸(各頻度不明)。
7. 消化性潰瘍(下血(メレナ)を伴う胃潰瘍・十二指腸潰瘍等), 小腸・大腸潰瘍(各頻度不明)(消化管出血, 腸管穿孔, 狭窄・閉塞)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
消化器 胃腸障害, 嘔吐, 腹痛, 胸やけ, 便秘, 下痢, 食道炎, 口唇腫脹, 吐血, 吐気, 悪心, 食欲不振, 胃部不快感
過敏症 蕁麻疹, 発疹, 浮腫
血液 貧血, 血小板機能低下(出血時間延長)
皮膚 掻痒, 皮疹, 膨疹, 発汗
精神神経系 眩暈, 興奮, 頭痛
肝臓 AST上昇, ALT上昇
腎臓 腎障害
循環器 血圧低下, 血管炎, 心窩部痛
呼吸器 気管支炎, 鼻炎
感覚器 角膜炎, 結膜炎, 耳鳴, 難聴
その他 過呼吸, 代謝性アシドーシス, 倦怠感, 低血糖
(表終了)

フィルグラスチムBS注75μgシリンジ「F」(75μg0.3mL1筒)

両 注射 自注 後発 流通

【YJコード】3399408G1023
【薬効分類】3.3.9 その他の血液・体液用薬
【一般名】フィルグラスチム(遺伝子組換え)
【メーカー】製)富士製薬工業
【薬価】2019円/1筒
【薬価収載日】2013/05/31
【標榜薬効】G－CSF製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1. 造血幹細胞の末梢血中への動員
2. 造血幹細胞移植時の好中球数の増加促進
3. 癌化学療法による好中球減少症
4. ヒト免疫不全ウイルス感染症の治療に支障をきたす好中球減少症
5. 骨髄異形成症候群に伴う好中球減少症
6. 再生不良性貧血に伴う好中球減少症
7. 先天性・特発性好中球減少症
8. 再発・難治性の急性骨髄性白血病への抗悪性腫瘍剤との併用療法
注意
癌化学療法による好中球減少症
胚細胞腫瘍で卵巣腫瘍は, 未熟奇形腫, 未分化胚細胞腫, 卵黄嚢腫瘍等。
【用法用量】造血幹細胞の末梢血中への動員
1. 同種・自家末梢血幹細胞採取時のフィルグラスチム(遺伝子組換え)[後続1]単独投与による動員
成人・小児 フィルグラスチム(遺伝子組換え)[後続1] 1日400μg／m2 1日1～2回 分割 5日間連日又は末梢血幹細胞採取終了時まで連日 皮下注。末梢血幹細胞採取はフィルグラスチム(遺伝子組換え)[後続1]投与開始後4～6日目に施行。
末梢血幹細胞採取終了前に白血球数50000／mm3以上に増加時は減量。減量後, 白血球数75000／mm3に達した時は投与中止。
適宜減量。
2. 自家末梢血幹細胞採取時の癌化学療法剤投与終了後のフィルグラスチム(遺伝子組換え)[後続1]投与による動員
成人・小児 癌化学療法剤投与終了翌日又は癌化学療法で好中球数が最低値を経過後, フィルグラスチム(遺伝子組換え)[後続1] 1日400μg／m2 1日1～2回 分割 末梢血幹細胞採取終了時まで連日皮下注。
末梢血幹細胞採取終了前に白血球数50000／mm3以上に増加時は減量。減量後, 白血球数75000／mm3に達した時は投与中止。
適宜減量。
造血幹細胞移植時の好中球数の増加促進
3. 成人・小児 造血幹細胞移植施行翌日ないし5日後から フィルグラスチム(遺伝子組換え)[後続1] 1日300μg／m2 1日1回 点滴静注。
好中球数が5000／mm3以上に増加時は症状を観察し投与中止。
投与中止時期の指標である好中球数が緊急時等で確認できない時は, 白血球数の半数を好中球数として推定。
適宜増減。
癌化学療法による好中球減少症
4. 急性白血病
成人・小児 癌化学療法剤投与終了後(翌日以降)で骨髄中の芽球が減少し末梢血液中に芽球が認められない時点から開始 フィルグラスチム(遺伝子組換え)[後続1] 1日200μg／m2 1日1回 静注(点滴静注含む)。出血傾向等の問題がなければ フィルグラスチム(遺伝子組換え)[後続1] 1日100μg／m2 1日1回 皮下注。
好中球数が最低値を示す時期を経過後 5000／mm3に達した時は投与中止。
投与開始・中止時期の指標である好中球数が緊急時等で確認できない時は, 白血球数の半数を好中球数として推定。
適宜増減。
5. 悪性リンパ腫, 小細胞肺癌, 胚細胞腫瘍(睾丸腫瘍, 卵巣腫瘍等), 神経芽細胞腫, 小児癌
成人・小児 癌化学療法剤投与終了後(翌日以降)から開始 フィルグラスチム(遺伝子組換え)[後続1] 1日50μg／m2 1日1回 皮下注。出血傾向等により皮下注が困難時 フィルグラスチム(遺伝子組換え)[後続1] 1日100μg／m2 1日1回 静注(点滴静注含む)。
好中球数が最低値を示す時期を経過後 5000／mm3に達した時は投与中止。
投与開始・中止時期の指標である好中球数が緊急時等で確認できない時は, 白血球数の半数を好中球数として推定。
適宜増減。
6. その他の癌腫
成人・小児 癌化学療法により好中球数1000／mm3未満で発熱(38℃以上)又は好中球数500／mm3未満で開始 フィルグラスチム(遺伝子組換え)[後続1] 1日50μg／m2 1日1回 皮下注。出血傾向等により皮下注が困難時 フィルグラスチム(遺伝子組換え)[後続1] 1日100μg／m2 1日1回 静注(点滴静注含む)。
癌化学療法により好中球数1000／mm3未満で発熱(38℃以上)又は好中球数500／mm3未満が観察され, 引き続き同一癌化学療法の施行時, 次回以降の癌化学療法施行時には, 好中球数1000／mm3未満で開始 フィルグラスチム(遺伝子組換え)[後続1] 1日50μg／m2 1日1回 皮下注。出血傾向等により皮下注が困難時 フィルグラスチム(遺伝子組換え)[後続1] 1日100μg／m2 1日1回 静注(点滴静注含む)。
好中球数が最低値を示す時期を経過後 5000／mm3に達した時は投与中止。
投与開始・中止時期の指標である好中球数が緊急時等で確認できない時は, 白血球数の半数を好中球数として推定。
適宜増減。
ヒト免疫不全ウイルス感染症の治療に支障をきたす好中球減少症
7. 成人 好中球数1000／mm3未満 フィルグラスチム(遺伝子組換え)[後続1] 1日200μg／m2 1日1回 点滴静注。小児 好中球数1000／mm3未満 フィルグラスチム(遺伝子組換え)[後続1] 1日200μg／m2 1日1回 点滴静注。
投与期間は2週間を目安。好中球数が3000／mm3以上に増加時は症状を観察しながら減量・投与中止。
適宜増減。
骨髄異形成症候群に伴う好中球減少症
8. 成人 好中球数1000／mm3未満 フィルグラスチム(遺伝子組換え)[後続1] 1日100μg／m2 1日1回 点滴静注。
好中球数が5000／mm3以上に増加時は症状を観察し減量・投与中止。
適宜増減。

3 代謝性医薬品

再生不良性貧血に伴う好中球減少症
9. 成人 好中球数1000／mm3未満 フィルグラスチム（遺伝子組換え）[後続1] 1日400μg／m2 1日1回 点滴静注。小児 好中球数1000／mm3未満 フィルグラスチム（遺伝子組換え）[後続1] 1日400μg／m2 1日1回 点滴静注。
好中球数が5000／mm3以上に増加時は症状を観察し減量・投与中止。
適宜増減。
先天性・特発性好中球減少症
10. 成人 好中球数1000／mm3未満 フィルグラスチム（遺伝子組換え）[後続1] 1日50μg／m2 1日1回 皮下注。小児 好中球数1000／mm3未満 フィルグラスチム（遺伝子組換え）[後続1] 1日50μg／m2 1日1回 皮下注。
好中球数が5000／mm3以上に増加時は症状を観察し減量・投与中止。
適宜増減。
再発・難治性の急性骨髄性白血病への抗悪性腫瘍剤との併用療法
11. フィルグラスチム（遺伝子組換え）[後続1] 1回300μg／m2 1日1回 フルダラビン，シタラビン等の抗悪性腫瘍剤併用化学療法の開始前日から併用化学療法終了日まで（5～6日間）連日 皮下注・静注（点滴静注含む）。
適宜減量。
注意
造血幹細胞の末梢血中への動員
1. 自家末梢血幹細胞採取時の癌化学療法剤投与終了後の本剤投与により造血幹細胞を採取時，白血球数が最低値を経過後5000～10000／mm3以上への回復期に末梢血幹細胞採取を開始。
癌化学療法による好中球減少症
2. 癌化学療法剤の投与前・投与終了後24時間以内の本剤の投与は避ける。
3. その他の癌腫への用法・用量の同一の癌化学療法とは，抗悪性腫瘍薬の種類，その用量も同一の化学療法レジメンである。
4. 好中球数が最低値を示す時期を経過後5000／mm3で投与中止，好中球数が2000／mm3以上に回復し，感染症を疑う症状がなく，本剤反応性から安全な場合は，減量・中止を検討。
HIV感染症の治療に支障をきたす好中球減少症
5. 投与期間は2週間を目安とし，継続投与が必要時でも6週間まで。6週間を超えて投与時の安全性は未確立。1週間以上投与しても好中球数の増加なければ投与中止。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分・他の顆粒球コロニー形成刺激因子製剤に過敏症。
2. 骨髄中の芽球が減少していない骨髄性白血病，末梢血液中に骨髄芽球のある骨髄性白血病（再発・難治性の急性骨髄性白血病に対する抗悪性腫瘍剤との併用療法除く）。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）。
2. 間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線検査異常等）。
3. 急性呼吸窮迫症候群（頻度不明）（急速に進行する呼吸困難，低酸素血症，両側性びまん性肺浸潤影等の胸部X線異常等）。
4. 芽球の増加（頻度不明）。
5. 毛細血管漏出症候群（0．1%未満）（低血圧，低アルブミン血症，浮腫，肺水腫，胸水，腹水，血液濃縮等）。
6. 大型血管炎（大動脈，総頸動脈，鎖骨下動脈等の炎症）（頻度不明）（発熱，CRP上昇，大動脈壁の肥厚等）。
7. 脾腫，脾破裂（各頻度不明）（脾臓の急激な腫大）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
皮膚 発疹，発赤 好中球浸潤・有痛性紅斑・発熱を伴う皮膚障害（Sweet症候群等）
筋・骨格 骨痛，腰痛 胸痛，関節痛，筋肉痛 四肢痛
消化器 悪心・嘔吐
肝臓 ALT上昇 肝機能異常，AST上昇
血液 血小板減少，白血球増加症，髄外造血
腎臓 糸球体腎炎
その他 LDH上昇 発熱，AI－P上昇 頭痛，倦怠感，動悸，尿酸上昇，血清クレアチニン上昇，CRP上昇 浮腫
（表終了）

プリズバインド静注液2．5g（2．5g50mL1瓶）

内 注射 流通

【YJコード】3399412A1027
【薬効分類】3．3．9 その他の血液・体液用薬
【一般名】イダルシズマブ（遺伝子組換え）
【メーカー】製）日本ベーリンガーインゲルハイム
【薬価】203626円／1V
【薬価収載日】2016/11/18
【標榜薬効】ダビガトラン特異的中和剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の状況でダビガトランの抗凝固作用の中和
○生命を脅かす出血・止血困難な出血の発現時
○重大な出血が予想される緊急を要する手術・処置の施行時
注意
1. ダビガトランエテキシラートメタンスルホン酸塩の最終投与からの経過時間，患者背景（ダビガトランの薬物動態に影響する可能性がある腎機能及びP－糖蛋白阻害剤の併用等）等から，ダビガトランによる抗凝固作用が発現している期間であることが推定される患者にのみ使用。
2. 手術・処置に使用時，ダビガトランによる抗凝固作用の消失を待たずに緊急で行う必要があり，手技に伴う出血のリスクが高く，止血困難な時に致死的，重篤な経過になるおそれがある時に使用。
3. ダビガトランエテキシラートメタンスルホン酸塩以外の抗凝固剤による抗凝固作用の中和には使用しない。
【用法用量】成人 1回5g（1バイアル2．5g／50mL 2バイアル） 点滴静注又は急速静注。点滴静注 1バイアル 5～10分かけ投与。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー（0．2%）含む過敏症状。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%未満
血液・リンパ系障害 血小板減少症
神経系障害 脳血管発作，頭痛
心臓障害 心停止，心房血栓症，徐脈，上室性頻脈
血管障害 深部静脈血栓症，低血圧
呼吸器，胸郭・縦隔障害 肺塞栓症
胃腸障害 下痢，糜爛性胃炎
皮膚・皮下組織障害 発疹
筋骨格系・結合組織障害 四肢痛
一般・全身障害・投与部位の状態 溢出，注入部位疼痛
（表終了）

ペグフィルグラスチムBS皮下注3．6mg「ニプロ」（3．6mg0．36mL1筒）

内 注射 後発 流通

【YJコード】3399416G1028
【薬効分類】3．3．9 その他の血液・体液用薬
【一般名】ペグフィルグラスチム（遺伝子組換え）
【メーカー】製）持田製薬販売 販）ニプロ
【薬価】57967円／1筒
【薬価収載日】2023/11/22
【標榜薬効】持続型G－CSF製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】癌化学療法による発熱性好中球減少症の発症抑制
注意
1. 臨床試験に組み入れられた発熱性好中球減少症のリスク等，臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で，適応患者の選択を行う。
2. 国内外の最新のガイドライン等を参考。
【用法用量】成人 癌化学療法剤投与終了後の翌日以降 1回3．6mg 化学療法1サイクルあたり1回 皮下注。
注意
癌化学療法剤の投与開始10日前から投与終了後24時間以内に投与した時の安全性は未確立。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分・他の顆粒球コロニー形成刺激因子製剤に過敏症。
2. 骨髄中の芽球が減少していない骨髄性白血病，末梢血液中に骨髄芽球のある骨髄性白血病。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）。
2. 間質性肺疾患（0．5%）（肺臓炎，肺障害等）（発熱，咳嗽，呼吸困難・胸部X線検査異常等）。
3. 急性呼吸窮迫症候群（頻度不明）（急速に進行する呼吸困難，低酸素血症，両側性びまん性肺浸潤影等の胸部X線異常等）。
4. 芽球の増加（頻度不明）。
5. 脾腫（0．3%）・脾破裂（頻度不明）（脾臓の急激な腫大）。
6. 毛細血管漏出症候群（頻度不明）（低血圧，低アルブミン血症，浮腫，肺水腫，胸水，腹水，血液濃縮等）。
7. Sweet症候群（頻度不明）。
8. 皮膚血管炎（頻度不明）。
9. 大型血管炎（大動脈，総頸動脈，鎖骨下動脈等の炎症）（頻度不明）（発熱，CRP上昇，大動脈壁の肥厚等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）

3 代謝性医薬品

発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
皮膚 発疹 蕁麻疹，紅斑，掻痒症 多形紅斑，皮膚剥脱
筋・骨格 背部痛，関節痛，筋肉痛 骨痛，四肢痛 筋骨格痛
消化器 下痢，便秘，腹痛，腹部不快感，悪心，嘔吐，口内炎
肝臓 ALT上昇，AST上昇 肝機能異常，血中ビリルビン増加，γ－GTP増加
血液 白血球増加，好中球増加，リンパ球減少 貧血，血小板減少，白血球減少 単球増加
代謝・栄養 電解質（カリウム，カルシウム，リン，クロール，ナトリウム）異常，高血糖，食欲減退
精神神経系 頭痛 味覚異常，眩暈，異常感覚 感覚鈍麻，不眠症
呼吸器 口腔咽頭痛，咳嗽，呼吸困難
腎臓 糸球体腎炎
その他 LDH上昇，発熱，倦怠感，AI－P上昇 潮紅，浮腫，CRP上昇，疼痛，胸痛 血中アルブミン減少，尿酸増加，注射部位反応（注射部位疼痛含む）
（表終了）

ベラプロストNa錠20μg「サワイ」（20μg1錠）

両 内服 後発 流通
劇

【YJコード】3399005F1200
【薬効分類】3．3．9 その他の血液・体液用薬
【一般名】ベラプロストナトリウム
【先発品】ドルナー錠20μg，プロサイリン錠20
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】21.2円/1T
【薬価収載日】2012/12/14
【標榜薬効】PGI2誘導体製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．慢性動脈閉塞症に伴う潰瘍，疼痛，冷感の改善
2．原発性肺高血圧症
注意
原発性肺高血圧症
1．原発性肺高血圧症のみ使用。
2．内服のため，重症度の高い患者等は効果が得難い。改善なければ，注射剤や他の治療に切りかえる等の処置。
【用法用量】1．慢性動脈閉塞症に伴う潰瘍，疼痛，冷感の改善
成人 1日120μg 1日3回 分割 食後 内服。
2．原発性肺高血圧症
成人 1日60μgから開始 1日3回 分割 食後 内服。以後，漸増。増量時 1日3～4回，1日最高180μg。
注意
原発性肺高血圧症
薬物療法への忍容性が患者により異なるので，少量から開始し，増量は状態を観察しながら行う。

■禁忌

【禁忌】1．出血（血友病，毛細血管脆弱症，上部消化管出血，尿路出血，喀血，眼底出血等）。
2．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．出血傾向（頻度不明）（脳出血，消化管出血，肺出血，眼底出血）。
2．ショック，失神，意識消失（各頻度不明）（血圧低下，頻脈，顔面蒼白，嘔気等）。
3．間質性肺炎（頻度不明）。
4．肝機能障害（頻度不明）（黄疸，著しいAST，ALTの上昇）。
5．狭心症（頻度不明）。
6．心筋梗塞（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
出血傾向 出血傾向，皮下出血，鼻出血
血液 貧血，白血球増多 好酸球増多，血小板減少，白血球減少
過敏症 発疹，湿疹，掻痒 蕁麻疹，紅斑
精神神経系 頭痛 眠気，ふらつき 眩暈，立ちくらみ，もうろう状態，しびれ感，振戦，不眠，浮遊感
消化器系 下痢，嘔気，食欲不振，腹痛 嘔吐，口渇，胃不快感 上腹部痛，胃潰瘍，胃障害，胸やけ
肝臓 ALT上昇，γ－GTP上昇，AST上昇，LDH上昇 ビリルビン上昇，AI－P上昇 黄疸
腎臓 BUN上昇 血尿 頻尿
循環器系 顔面潮紅 ほてり，のぼせ 動悸，潮紅 血圧低下，頻脈
その他 トリグリセライド上昇 倦怠感，冷汗，疼痛，関節痛，息苦しさ，耳鳴，発汗 浮腫，胸部不快感，胸痛，発熱，熱感，顎痛，気分不良，背部痛，頸部痛，脱毛，咳嗽，筋痛，脱力感
（表終了）

リマプロストアルファデクス錠5μg「SN」（5μg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】3399003F1120
【薬効分類】3．3．9 その他の血液・体液用薬
【一般名】リマプロスト アルファデクス
【先発品】オパルモン錠5μg
【メーカー】製)シオノケミカル 販)江州製薬 販)東和薬品 販)日本ケミファ 販)日本薬品工業
【薬価】18.3円/1T
【薬価収載日】2014/06/20
【標榜薬効】PGE1誘導体製剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．閉塞性血栓血管炎に伴う潰瘍，疼痛，冷感等の虚血性諸症状の改善
2．後天性の腰部脊柱管狭窄症（SLR試験正常で，両側性の間欠跛行を呈する患者）に伴う自覚症状（下肢疼痛，下肢しびれ）・歩行能力の改善
注意
後天性の腰部脊柱管狭窄症（SLR試験正常で，両側性の間欠跛行を呈する患者）に伴う自覚症状（下肢疼痛，下肢しびれ）・歩行能力の改善手術適応となる重症例の有効性は未確立。
【用法用量】閉塞性血栓血管炎に伴う潰瘍，疼痛，冷感等の虚血性諸症状の改善
成人 1日30μg 1日3回 分割 内服。
後天性の腰部脊柱管狭窄症（SLR試験正常で，両側性の間欠跛行を呈する患者）に伴う自覚症状（下肢疼痛，下肢しびれ）・歩行能力の改善
成人 1日15μg 1日3回 分割 内服。

■禁忌

【禁忌】妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
肝機能障害（AST，ALTの著しい上昇等），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感等 蕁麻疹 光線過敏症
出血傾向 出血
血液 貧血，血小板減少
消化器 下痢，悪心，腹部不快感，腹痛，食欲不振，胸やけ 嘔吐，腹部膨満感，口渇，口内炎 舌しびれ
肝臓 AST・ALTの上昇等の肝機能異常
循環器 心悸亢進 頻脈，低血圧，四肢のチアノーゼ，血圧上昇
精神神経系 頭痛，眩暈 しびれ感，眠気，不眠
その他 潮紅，ほてり 全身倦怠感，胸痛，胸部不快感，四肢痛，浮腫，乳腺腫脹，身ぶるい，下肢多毛，味覚異常
（表終了）

3．4 人工透析用薬

3．4．1 人工腎臓透析用剤

キンダリー透析剤AF4号（6L1瓶（炭酸水素ナトリウム液付））

両 注射 流通

【YJコード】3410540A1026
【薬効分類】3．4．1 人工腎臓透析用剤
【一般名】人工透析液
【メーカー】製)扶桑薬品工業
【薬価】2577円/1V
【薬価収載日】2012/06/22
【標榜薬効】人工腎臓用透析液

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性腎不全の透析型人工腎臓の灌流液（無糖の透析液では血糖値管理の困難な患者，他の重炭酸型透析液では高カリウム血症，高マグネシウム血症の改善不十分時，高カルシウム血症のおそれのある時に使用）
注意
慢性腎不全の血液透析に使用，本剤の特徴と下記を考慮して使用。
1．本剤はブドウ糖含有製剤（使用時 125mg／dL），ブドウ糖を含まない透析液で，透析中血糖値の急激な低下等，良好な血糖コントロールの困難時に使用。
2．本剤はカリウム，カルシウム，マグネシウム濃度の低い製剤，下記に使用。

3 代謝性医薬品

(1). カリウム，マグネシウム濃度の高い透析液では，高カリウム血症，高マグネシウム血症の改善不十分時。
(2). 活性型ビタミンD3製剤やリン吸着剤でカルシウム製剤等の使用中，カルシウム濃度の高い透析液で，高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】A液 B液 希釈水＝1 1. 26 32. 74の希釈・調製比率の重炭酸型透析液供給装置を用いて血液透析時の灌流液として使用。
灌流液 150～300L 使用。

リンパック透析剤TA1（2袋1組）

両 注射 流通

【YJコード】3410525D3039
【薬効分類】3. 4. 1 人工腎臓透析用剤
【一般名】人工透析液
【メーカー】製)ニプロ
【薬価】1700円/1組
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】人工腎臓用透析液粉末製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性腎不全の透析型人工腎臓の灌流液で，活性型ビタミンD3剤やカルシウム剤の投与等による高カルシウム血症の下記
(1). 無糖の透析液では，血糖値管理の困難な時
(2). カリウム，マグネシウムの高い透析液では，高カリウム血症，高マグネシウム血症の改善不十分時
注意
慢性腎不全の血液透析に使用，本剤の特徴と下記を考慮して使用。
1. 本剤はブドウ糖含有製剤(使用時 100mg／dL)，ブドウ糖を含まない透析液で，透析中血糖値の急激な低下等，良好な血糖コントロールの困難な時に使用。
2. 本剤はカリウム，カルシウム，マグネシウム濃度の低い製剤，下記に使用。
(1). カリウム，マグネシウム濃度の高い透析液では，高カリウム血症，高マグネシウム血症の改善不十分時。
(2). 活性型ビタミンD3製剤やリン吸着剤でカルシウム製剤等の使用中，カルシウム濃度の高い透析液で，高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】A剤1包(2565g)を希釈水で溶解，A液(9L)を製する。
B剤1包(741. 3g)を希釈水で溶解，B液(10. 59L)を製する。
A液 B液 希釈水＝1 1. 18 32. 82の希釈・調製比率の重炭酸型透析液供給装置を用いて血液透析時の灌流液として使用。
灌流液 150～300L 使用。

3. 4. 2 腹膜透析用剤

エクストラニール腹膜透析液（1. 5L1袋）

両 注射 流通

【YJコード】3420432A1038
【薬効分類】3. 4. 2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ヴァンティブ 販)バクスター
【薬価】998円/1袋
【薬価収載日】2009/03/24
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析
注意
1. 本剤・ブドウ糖含有腹膜透析液それぞれの貯留時間と除水量の関係を理解し，透析液を選択・処方。使用は1日1回のみ。
2. CAPD用腹膜透析液の用法・用量の範囲で適正に処方し，溢水と透析不足の原因となる食事内容やカテーテルトラブル等を排除後，症状の改善のない患者には，必ず腹膜平衡試験等必要な検査を実施しCAPD治療中止対象でないことを確認。適用後も定期的に腹膜平衡試験を実施し，必要時CAPDの一時中止等の処置。
【用法用量】腹膜透析治療 1日1回のみ使用。成人 1. 5～2Lを腹腔内注入し，8～12時間滞液し，効果期待後に排液除去(1日3～5回の透析液交換の1回でのみ使用)。本剤以外の交換にはブドウ糖含有腹膜透析液を使用。
適宜増減。注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1. 1日1回のみ使用。
2. 本剤は1. 36及び2. 27%ブドウ糖含有腹膜透析液使用時に比べ，限外濾過量が増加，脱水症状をおこさないよう，処方時は本剤と組み合わせて使用するブドウ糖含有腹膜透析液のブドウ糖濃度を併せて見直す。

■禁忌

【禁忌】1. トウモロコシデンプン由来物質に過敏症の既往。
2. 糖原病。
3. 横隔膜欠損。
4. 腹部に挫滅傷・熱傷。
5. 高度の腹膜癒着。
6. 尿毒症に起因する以外の出血性素因。
7. 乳酸代謝障害の疑い。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 心・血管障害(急激な脱水による循環血液量の減少(脱水症(1. 9%))，低血圧(3. 2%)，ショック(頻度不明)等)。
2. 被嚢性腹膜硬化症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
精神神経系 筋痙攣，浮動性眩暈，錯感覚，味覚消失，頭痛，構語障害，運動過多，不安，神経過敏，思考異常
消化器 口内乾燥，腹痛，口渇，腹膜炎，血性排液，下痢，消化不良，悪心，嘔吐，便秘，胃腸障害，鼓腸，腹部膨満，胃炎，腸閉塞，胃潰瘍
循環器 頻脈，心臓血管疾患，低血圧，高血圧
呼吸器 肺水腫，呼吸困難，肺障害，咳嗽増悪，しゃっくり
血液 貧血，白血球増加症，好酸球増加症
内分泌系 副甲状腺障害
皮膚 発疹 皮膚障害，皮膚乾燥，皮膚潰瘍，湿疹，掻痒症，剥脱性皮膚炎，爪の障害，乾癬，水疱性皮膚炎，顔面浮腫
肝臓 AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇
腎臓 腎臓痛，尿量減少
代謝・栄養 低ナトリウム血症，低クロール血症，低カリウム血症，低マグネシウム血症，低蛋白血症，高血糖，食欲不振，脱水，循環血液量減少，循環血液量増加，低血糖症
その他 筋痛，頚部痛，耳鳴，無力症，胸痛，疼痛，浮腫，末梢性浮腫，倦怠感，発熱，せつ，感染，損傷，カテーテル機能不全，β2ミクログロブリン増加，血液浸透圧上昇，体重減少，体重増加
(表終了)

エクストラニール腹膜透析液（1. 5L1袋（排液用バッグ付））

両 注射 流通

【YJコード】3420432A2034
【薬効分類】3. 4. 2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ヴァンティブ 販)バクスター
【薬価】2027円/1袋
【薬価収載日】2009/03/24
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析
注意
1. 本剤・ブドウ糖含有腹膜透析液それぞれの貯留時間と除水量の関係を理解し，透析液を選択・処方。使用は1日1回のみ。
2. CAPD用腹膜透析液の用法・用量の範囲で適正に処方し，溢水と透析不足の原因となる食事内容やカテーテルトラブル等を排除後，症状の改善のない患者には，必ず腹膜平衡試験等必要な検査を実施しCAPD治療中止対象でないことを確認。適用後も定期的に腹膜平衡試験を実施し，必要時CAPDの一時中止等の処置。
【用法用量】腹膜透析治療 1日1回のみ使用。成人 1. 5～2Lを腹腔内注入し，8～12時間滞液し，効果期待後に排液除去(1日3～5回の透析液交換の1回でのみ使用)。本剤以外の交換にはブドウ糖含有腹膜透析液を使用。
適宜増減。注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1. 1日1回のみ使用。
2. 本剤は1. 36及び2. 27%ブドウ糖含有腹膜透析液使用時に比べ，限外濾過量が増加，脱水症状をおこさないよう，処方時は本剤と組み合わせて使用するブドウ糖含有腹膜透析液のブドウ糖濃度を併せて見直す。

■禁忌

【禁忌】1. トウモロコシデンプン由来物質に過敏症の既往。
2. 糖原病。
3. 横隔膜欠損。
4. 腹部に挫滅傷・熱傷。
5. 高度の腹膜癒着。
6. 尿毒症に起因する以外の出血性素因。
7. 乳酸代謝障害の疑い。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 心・血管障害(急激な脱水による循環血液量の減少(脱水症(1. 9%))，低血圧(3. 2%)，ショック(頻度不明)等)。
2. 被嚢性腹膜硬化症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
精神神経系 筋痙攣，浮動性眩暈，錯感覚，味覚消失，頭痛，構語障害，運動過多，不安，神経過敏，思考異常
消化器 口内乾燥，腹痛，口渇，腹膜炎，血性排液，下痢，消化不良，悪心，嘔吐，便秘，胃腸障害，鼓腸，腹部膨満，胃炎，腸閉塞，胃潰瘍

3 代謝性医薬品

循環器 頻脈，心臓血管疾患，低血圧，高血圧
呼吸器 肺水腫，呼吸困難，肺障害，咳嗽増悪，しゃっくり
血液 貧血，白血球増加症，好酸球増加症
内分泌系 副甲状腺障害
皮膚 発疹 皮膚障害，皮膚乾燥，皮膚潰瘍，湿疹，掻痒症，剥脱性皮膚炎，爪の障害，乾癬，水疱性皮膚炎，顔面浮腫
肝臓 AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇
腎臓 腎臓痛，尿量減少
代謝・栄養 低ナトリウム血症，低クロール血症，低カリウム血症，低マグネシウム血症，低蛋白血症，高血糖，食欲不振，脱水，循環血液量減少，循環血液量増加，低血糖症
その他 筋痛，頚部痛，耳鳴，無力症，胸痛，疼痛，浮腫，末梢性浮腫，倦怠感，発熱，せつ，感染，損傷，カテーテル機能不全，β2ミクログロブリン増加，血液浸透圧上昇，体重減少，体重増加
（表終了）

エクストラニール腹膜透析液（2L1袋）

両 注射 流通

【YJコード】3420432A3030
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ヴァンティブ 販)バクスター
【薬価】788円/1袋
【薬価収載日】2009/03/24
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析
注意
1．本剤・ブドウ糖含有腹膜透析液それぞれの貯留時間と除水量の関係を理解し，透析液を選択・処方。使用は1日1回のみ。
2．CAPD用腹膜透析液の用法・用量の範囲で適正に処方し，溢水と透析不足の原因となる食事内容やカテーテルトラブル等を排除後，症状の改善のない患者には，必ず腹膜平衡試験等必要な検査を実施しCAPD治療中止対象でないことを確認。適用後も定期的に腹膜平衡試験を実施し，必要時CAPDの一時中止等の処置。
【用法用量】腹膜透析治療 1日1回のみ使用。成人 1．5～2Lを腹腔内注入し，8～12時間滞液し，効果期待後に排液除去（1日3～5回の透析液交換の1回でのみ使用）。本剤以外の交換にはブドウ糖含有腹膜透析液を使用。
適宜増減。注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．1日1回のみ使用。
2．本剤は1．36及び2．27%ブドウ糖含有腹膜透析液使用時に比べ，限外濾過量が増加，脱水症状をおこさないよう，処方時は本剤と組み合わせて使用するブドウ糖含有腹膜透析液のブドウ糖濃度を併せて見直す。

■禁忌

【禁忌】1．トウモロコシデンプン由来物質に過敏症の既往。
2．糖原病。
3．横隔膜欠損。
4．腹部に挫滅傷・熱傷。
5．高度の腹膜癒着。
6．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
7．乳酸代謝障害の疑い。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．心・血管障害（急激な脱水による循環血液量の減少（脱水症（1．9%）），低血圧（3．2%），ショック（頻度不明）等）。
2．被嚢性腹膜硬化症（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
精神神経系 筋痙攣，浮動性眩暈，錯感覚，味覚消失，頭痛，構語障害，運動過多，不安，神経過敏，思考異常
消化器 口内乾燥，腹痛，口渇，腹膜炎，血性排液，下痢，消化不良，悪心，嘔吐，便秘，胃腸障害，鼓腸，腹部膨満，胃炎，腸閉塞，胃潰瘍
循環器 頻脈，心臓血管疾患，低血圧，高血圧
呼吸器 肺水腫，呼吸困難，肺障害，咳嗽増悪，しゃっくり
血液 貧血，白血球増加症，好酸球増加症
内分泌系 副甲状腺障害
皮膚 発疹 皮膚障害，皮膚乾燥，皮膚潰瘍，湿疹，掻痒症，剥脱性皮膚炎，爪の障害，乾癬，水疱性皮膚炎，顔面浮腫
肝臓 AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇
腎臓 腎臓痛，尿量減少
代謝・栄養 低ナトリウム血症，低クロール血症，低カリウム血症，低マグネシウム血症，低蛋白血症，高血糖，食欲不振，脱水，循環血液量減少，循環血液量増加，低血糖症
その他 筋痛，頚部痛，耳鳴，無力症，胸痛，疼痛，浮腫，末梢性浮腫，倦怠感，発熱，せつ，感染，損傷，カテーテル機能不全，β2ミクログロブリン増加，血液浸透圧上昇，体重減少，体重増加
（表終了）

エクストラニール腹膜透析液（2L1袋（排液用バッグ付））

両 注射 流通

【YJコード】3420432A4037
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ヴァンティブ 販)バクスター
【薬価】1414円/1袋
【薬価収載日】2009/03/24
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析
注意
1．本剤・ブドウ糖含有腹膜透析液それぞれの貯留時間と除水量の関係を理解し，透析液を選択・処方。使用は1日1回のみ。
2．CAPD用腹膜透析液の用法・用量の範囲で適正に処方し，溢水と透析不足の原因となる食事内容やカテーテルトラブル等を排除後，症状の改善のない患者には，必ず腹膜平衡試験等必要な検査を実施しCAPD治療中止対象でないことを確認。適用後も定期的に腹膜平衡試験を実施し，必要時CAPDの一時中止等の処置。
【用法用量】腹膜透析治療 1日1回のみ使用。成人 1．5～2Lを腹腔内注入し，8～12時間滞液し，効果期待後に排液除去（1日3～5回の透析液交換の1回でのみ使用）。本剤以外の交換にはブドウ糖含有腹膜透析液を使用。
適宜増減。注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．1日1回のみ使用。
2．本剤は1．36及び2．27%ブドウ糖含有腹膜透析液使用時に比べ，限外濾過量が増加，脱水症状をおこさないよう，処方時は本剤と組み合わせて使用するブドウ糖含有腹膜透析液のブドウ糖濃度を併せて見直す。

■禁忌

【禁忌】1．トウモロコシデンプン由来物質に過敏症の既往。
2．糖原病。
3．横隔膜欠損。
4．腹部に挫滅傷・熱傷。
5．高度の腹膜癒着。
6．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
7．乳酸代謝障害の疑い。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．心・血管障害（急激な脱水による循環血液量の減少（脱水症（1．9%）），低血圧（3．2%），ショック（頻度不明）等）。
2．被嚢性腹膜硬化症（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
精神神経系 筋痙攣，浮動性眩暈，錯感覚，味覚消失，頭痛，構語障害，運動過多，不安，神経過敏，思考異常
消化器 口内乾燥，腹痛，口渇，腹膜炎，血性排液，下痢，消化不良，悪心，嘔吐，便秘，胃腸障害，鼓腸，腹部膨満，胃炎，腸閉塞，胃潰瘍
循環器 頻脈，心臓血管疾患，低血圧，高血圧
呼吸器 肺水腫，呼吸困難，肺障害，咳嗽増悪，しゃっくり
血液 貧血，白血球増加症，好酸球増加症
内分泌系 副甲状腺障害
皮膚 発疹 皮膚障害，皮膚乾燥，皮膚潰瘍，湿疹，掻痒症，剥脱性皮膚炎，爪の障害，乾癬，水疱性皮膚炎，顔面浮腫
肝臓 AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇
腎臓 腎臓痛，尿量減少
代謝・栄養 低ナトリウム血症，低クロール血症，低カリウム血症，低マグネシウム血症，低蛋白血症，高血糖，食欲不振，脱水，循環血液量減少，循環血液量増加，低血糖症
その他 筋痛，頚部痛，耳鳴，無力症，胸痛，疼痛，浮腫，末梢性浮腫，倦怠感，発熱，せつ，感染，損傷，カテーテル機能不全，β2ミクログロブリン増加，血液浸透圧上昇，体重減少，体重増加
（表終了）

ダイアニールーN PD－4 1．5腹膜透析液（2L1袋）

両 注射 流通

【YJコード】3420419A4040
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ヴァンティブ 販)バクスター
【薬価】701円/1袋
【薬価収載日】2009/03/24
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量

3 代謝性医薬品

【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析(高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時)
注意
下記に使用。
高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人　1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。
体液過剰が1kg／日以下　ダイアニールーN　PD－4　1．5のみ　1日3～4回　連続操作を継続。
体液過剰が1kg／日以上　ダイアニールーN　PD－4　2．5　1日1～4回，又はダイアニールPD－4　4．25　1日1～2回，ダイアニールーN　PD－4　1．5と組み合わせ　1日3～5回　連続操作を継続。
適宜増減。
注入・排液速度　300mL／分以下。
注意
1．体液過剰が1kg／日以下の場合，ダイアニールーN　PD－4　1．5のみを1日3～4回交換使用。体液過剰が1kg／日以上の場合，ダイアニールーN　PD－4　2．5を1日1～4回，ダイアニールーN　PD－4　1．5と組み合わせ交換使用。ダイアニールPD－4　4．25は高浸透圧液で，これのみを使用する場合は脱水の可能性，急速な除水や多量の除水を必要とし，体液過剰が1kg／日以上の場合，ダイアニールPD－4　4．25を1日1～2回，ダイアニールーN　PD－4　1．5と組み合わせ交換使用。体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。
2．本剤の2．5Lは2L貯留を施行しているCAPD患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，又は1日5回以上の透析液交換に不都合を感じている時に，腹腔内容積や肺活量に応じて(体重60kg以上を目安)2Lにかえる。
3．使用直前に上室液と下室液の2液をよく混合し，混合後は速やかに使用。
混合操作
(1)．バッグを外袋から取り出す。
(2)．隔壁に開通がないことを確認。
(3)．下室側を強くつかみ隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，隔壁を開通。
(4)．両手で交互に押し混合。

■禁忌
【禁忌】1．横隔膜欠損。
2．腹部に挫滅傷・熱傷。
3．高度の腹膜癒着。
4．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5．乳酸代謝障害の疑い。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．心・血管障害(頻度不明)(急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等)。
2．被嚢性腹膜硬化症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
精神神経系 筋痙攣
消化器 悪心，腹痛，腹部膨満感，嘔吐，下痢，便秘，痔核，腹膜炎
循環器 高血圧，低血圧
呼吸器 息切れ，胸水貯留
皮膚 蕁麻疹，発疹，紅斑，掻痒症
代謝・栄養 高乳酸血症，低カリウム血症，低ナトリウム血症，低カルシウム血症，低リン血症，低マグネシウム血症，代謝性アルカローシス，食欲不振，高コレステロール血症，高トリグリセライド血症，低蛋白血症，高血糖，肥満，アミノ酸・水溶性ビタミン等の喪失，脱水
その他 除水不良，ヘルニア，陰嚢水腫，発熱，筋肉痛，筋骨格痛，浮腫，倦怠感
(表終了)

ダイアニールーN PD－4 1．5腹膜透析液(2．5L1袋)

両　注射　流通

【YJコード】3420419A5062
【薬効分類】3．4．2　腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ヴァンティブ　販)バクスター
【薬価】956円/1袋
【薬価収載日】2009/03/24
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析(高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時)
注意
下記に使用。
高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人　1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。
体液過剰が1kg／日以下　ダイアニールーN　PD－4　1．5のみ　1日3～4回　連続操作を継続。
体液過剰が1kg／日以上　ダイアニールーN　PD－4　2．5　1日1～4回，又はダイアニールPD－4　4．25　1日1～2回，ダイアニールーN　PD－4　1．5と組み合わせ　1日3～5回　連続操作を継続。
適宜増減。
注入・排液速度　300mL／分以下。
注意
1．体液過剰が1kg／日以下の場合，ダイアニールーN　PD－4　1．5のみを1日3～4回交換使用。体液過剰が1kg／日以上の場合，ダイアニールーN　PD－4　2．5を1日1～4回，ダイアニールーN　PD－4　1．5と組み合わせ交換使用。ダイアニールPD－4　4．25は高浸透圧液で，これのみを使用する場合は脱水の可能性，急速な除水や多量の除水を必要とし，体液過剰が1kg／日以上の場合，ダイアニールPD－4　4．25を1日1～2回，ダイアニールーN　PD－4　1．5と組み合わせ交換使用。体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。
2．本剤の2．5Lは2L貯留を施行しているCAPD患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，又は1日5回以上の透析液交換に不都合を感じている時に，腹腔内容積や肺活量に応じて(体重60kg以上を目安)2Lにかえる。
3．使用直前に上室液と下室液の2液をよく混合し，混合後は速やかに使用。
混合操作
(1)．バッグを外袋から取り出す。
(2)．隔壁に開通がないことを確認。
(3)．下室側を強くつかみ隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，隔壁を開通。
(4)．両手で交互に押し混合。

■禁忌
【禁忌】1．横隔膜欠損。
2．腹部に挫滅傷・熱傷。
3．高度の腹膜癒着。
4．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5．乳酸代謝障害の疑い。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．心・血管障害(頻度不明)(急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等)。
2．被嚢性腹膜硬化症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
精神神経系 筋痙攣
消化器 悪心，腹痛，腹部膨満感，嘔吐，下痢，便秘，痔核，腹膜炎
循環器 高血圧，低血圧
呼吸器 息切れ，胸水貯留
皮膚 蕁麻疹，発疹，紅斑，掻痒症
代謝・栄養 高乳酸血症，低カリウム血症，低ナトリウム血症，低カルシウム血症，低リン血症，低マグネシウム血症，代謝性アルカローシス，食欲不振，高コレステロール血症，高トリグリセライド血症，低蛋白血症，高血糖，肥満，アミノ酸・水溶性ビタミン等の喪失，脱水
その他 除水不良，ヘルニア，陰嚢水腫，発熱，筋肉痛，筋骨格痛，浮腫，倦怠感
(表終了)

ダイアニールーN PD－4 1．5腹膜透析液(1L1袋(排液用バッグ付))

両　注射　流通

【YJコード】3420419A6050
【薬効分類】3．4．2　腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ヴァンティブ　販)バクスター
【薬価】882円/1袋
【薬価収載日】2009/03/24
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析(高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時)
注意
下記に使用。
高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれの

ダイアニールーN PD－4 1．5腹膜透析液

3 代謝性医薬品

ある時。
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。
体液過剰が1kg／日以下 ダイアニールーN PD－4 1．5のみ 1日3～4回 連続操作を継続。
体液過剰が1kg／日以上 ダイアニールーN PD－4 2．5 1日1～4回，又はダイアニールPD－4 4．25 1日1～2回，ダイアニールーN PD－4 1．5と組み合わせ 1日3～5回 連続操作を継続。
適宜増減。
注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．体液過剰が1kg／日以下の場合，ダイアニールーN PD－4 1．5のみを1日3～4回交換使用。体液過剰が1kg／日以上の場合，ダイアニールーN PD－4 2．5を1日1～4回，ダイアニールーN PD－4 1．5と組み合わせ交換使用。ダイアニールPD－4 4．25は高浸透圧液で，これのみを使用する場合は脱水の可能性，急速な除水や多量の除水を必要とし，体液過剰が1kg／日以上の場合，ダイアニールPD－4 4．25を1日1～2回，ダイアニールーN PD－4 1．5と組み合わせ交換使用。体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。
2．本剤の2．5Lは2L貯留を施行しているCAPD患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，又は1日5回以上の透析液交換に不都合を感じている時に，腹腔内容積や肺活量に応じて（体重60kg以上を目安）2Lにかえる。
3．使用直前に上室液と下室液の2液をよく混合し，混合後は速やかに使用。
混合操作
（1）．バッグを外袋から取り出す。
（2）．隔壁に開通がないことを確認。
（3）．下室側を強くつかみ隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，隔壁を開通。
（4）．両手で交互に押し混合。

■禁忌
【禁忌】1．横隔膜欠損。
2．腹部に挫滅傷・熱傷。
3．高度の腹膜癒着。
4．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5．乳酸代謝障害の疑い。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．心・血管障害（頻度不明）（急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等）。
2．被嚢性腹膜硬化症（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
精神神経系 筋痙攣
消化器 悪心，腹痛，腹部膨満感，嘔吐，下痢，便秘，痔核，腹膜炎
循環器 高血圧，低血圧
呼吸器 息切れ，胸水貯留
皮膚 蕁麻疹，発疹，紅斑，掻痒症
代謝・栄養 高乳酸血症，低カリウム血症，低ナトリウム血症，低カルシウム血症，低リン血症，低マグネシウム血症，代謝性アルカローシス，食欲不振，高コレステロール血症，高トリグリセライド血症，低蛋白血症，高血糖，肥満，アミノ酸・水溶性ビタミン等の喪失，脱水
その他 除水不良，ヘルニア，陰嚢水腫，発熱，筋肉痛，筋骨格痛，浮腫，倦怠感
（表終了）

ダイアニールーN PD－4 1．5腹膜透析液（1．5L1袋（排液用バッグ付））

両 注射 流通

【YJコード】3420419A7073
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ヴァンティブ 販)バクスター
【薬価】1189円/1袋
【薬価収載日】2009/03/24
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析（高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時）
注意
下記に使用。
高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。
体液過剰が1kg／日以下 ダイアニールーN PD－4 1．5のみ 1日3～4回 連続操作を継続。
体液過剰が1kg／日以上 ダイアニールーN PD－4 2．5 1日1～4回，又はダイアニールPD－4 4．25 1日1～2回，ダイアニールーN PD－4 1．5と組み合わせ 1日3～5回 連続操作を継続。
適宜増減。
注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．体液過剰が1kg／日以下の場合，ダイアニールーN PD－4 1．5のみを1日3～4回交換使用。体液過剰が1kg／日以上の場合，ダイアニールーN PD－4 2．5を1日1～4回，ダイアニールーN PD－4 1．5と組み合わせ交換使用。ダイアニールPD－4 4．25は高浸透圧液で，これのみを使用する場合は脱水の可能性，急速な除水や多量の除水を必要とし，体液過剰が1kg／日以上の場合，ダイアニールPD－4 4．25を1日1～2回，ダイアニールーN PD－4 1．5と組み合わせ交換使用。体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。
2．本剤の2．5Lは2L貯留を施行しているCAPD患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，又は1日5回以上の透析液交換に不都合を感じている時に，腹腔内容積や肺活量に応じて（体重60kg以上を目安）2Lにかえる。
3．使用直前に上室液と下室液の2液をよく混合し，混合後は速やかに使用。
混合操作
（1）．バッグを外袋から取り出す。
（2）．隔壁に開通がないことを確認。
（3）．下室側を強くつかみ隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，隔壁を開通。
（4）．両手で交互に押し混合。

■禁忌
【禁忌】1．横隔膜欠損。
2．腹部に挫滅傷・熱傷。
3．高度の腹膜癒着。
4．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5．乳酸代謝障害の疑い。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．心・血管障害（頻度不明）（急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等）。
2．被嚢性腹膜硬化症（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
精神神経系 筋痙攣
消化器 悪心，腹痛，腹部膨満感，嘔吐，下痢，便秘，痔核，腹膜炎
循環器 高血圧，低血圧
呼吸器 息切れ，胸水貯留
皮膚 蕁麻疹，発疹，紅斑，掻痒症
代謝・栄養 高乳酸血症，低カリウム血症，低ナトリウム血症，低カルシウム血症，低リン血症，低マグネシウム血症，代謝性アルカローシス，食欲不振，高コレステロール血症，高トリグリセライド血症，低蛋白血症，高血糖，肥満，アミノ酸・水溶性ビタミン等の喪失，脱水
その他 除水不良，ヘルニア，陰嚢水腫，発熱，筋肉痛，筋骨格痛，浮腫，倦怠感
（表終了）

ダイアニールーN PD－4 1．5腹膜透析液（2L1袋（排液用バッグ付））

両 注射 流通

【YJコード】3420419A8070
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ヴァンティブ 販)バクスター
【薬価】1227円/1袋
【薬価収載日】2009/03/24
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析（高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時）
注意
下記に使用。
高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。
体液過剰が1kg／日以下 ダイアニールーN PD－4 1．5のみ 1日3～4回 連続操作を継続。
体液過剰が1kg／日以上 ダイアニールーN PD－4 2．5 1日1～4回，又はダイアニールPD－4 4．25 1日1～2回，ダイアニールー

ダイアニールーN PD－4 1．5腹膜透析液

3 代謝性医薬品

N PD－4 1．5と組み合わせ 1日3～5回 連続操作を継続。
適宜増減。
注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．体液過剰が1kg／日以下の場合，ダイアニールーN PD－4 1．5のみを1日3～4回交換使用。体液過剰が1kg／日以上の場合，ダイアニールーN PD－4 2．5を1日1～4回，ダイアニールーN PD－4 1．5と組み合わせ交換使用。ダイアニールPD－4 4．25は高浸透圧液で，これのみを使用する場合は脱水の可能性，急速な除水や多量の除水を必要とし，体液過剰が1kg／日以上の場合，ダイアニールPD－4 4．25を1日1～2回，ダイアニールーN PD－4 1．5と組み合わせ交換使用。体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。
2．本剤の2．5Lは2L貯留を施行しているCAPD患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，又は1日5回以上の透析液交換に不都合を感じている時に，腹腔内容積や肺活量に応じて（体重60kg以上を目安）2Lにかえる。
3．使用直前に上室液と下室液の2液をよく混合し，混合後は速やかに使用。
混合操作
（1）．バッグを外袋から取り出す。
（2）．隔壁に開通がないことを確認。
（3）．下室側を強くつかみ隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，隔壁を開通。
（4）．両手で交互に押し混合。

■禁忌
【禁忌】1．横隔膜欠損。
2．腹部に挫滅傷・熱傷。
3．高度の腹膜癒着。
4．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5．乳酸代謝障害の疑い。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．心・血管障害（頻度不明）（急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等）。
2．被嚢性腹膜硬化症（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
精神神経系 筋痙攣
消化器 悪心，腹痛，腹部膨満感，嘔吐，下痢，便秘，痔核，腹膜炎
循環器 高血圧，低血圧
呼吸器 息切れ，胸水貯留
皮膚 蕁麻疹，発疹，紅斑，掻痒症
代謝・栄養 高乳酸血症，低カリウム血症，低ナトリウム血症，低カルシウム血症，低リン血症，低マグネシウム血症，代謝性アルカローシス，食欲不振，高コレステロール血症，高トリグリセライド血症，低蛋白血症，高血糖，肥満，アミノ酸・水溶性ビタミン等の喪失，脱水
その他 除水不良，ヘルニア，陰嚢水腫，発熱，筋肉痛，筋骨格痛，浮腫，倦怠感
（表終了）

ダイアニールーN PD－4 1．5腹膜透析液（5L1袋）
両 注射 流通

【YJコード】3420419H1065
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ヴァンティブ 販)バクスター
【薬価】1683円/1袋
【薬価収載日】2009/03/24
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析（高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時）
注意
下記に使用。
高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。
体液過剰が1kg／日以下 ダイアニールーN PD－4 1．5のみ 1日3～4回 連続操作を継続。
体液過剰が1kg／日以上 ダイアニールーN PD－4 2．5 1日1～4回，又はダイアニールPD－4 4．25 1日1～2回，ダイアニールーN PD－4 1．5と組み合わせ 1日3～5回 連続操作を継続。
適宜増減。
注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．体液過剰が1kg／日以下の場合，ダイアニールーN PD－4 1．5のみを1日3～4回交換使用。体液過剰が1kg／日以上の場合，ダイアニールーN PD－4 2．5を1日1～4回，ダイアニールーN PD－4 1．5と組み合わせ交換使用。ダイアニールPD－4 4．25は高浸透圧液で，これのみを使用する場合は脱水の可能性，急速な除水や多量の除水を必要とし，体液過剰が1kg／日以上の場合，ダイアニールPD－4 4．25を1日1～2回，ダイアニールーN PD－4 1．5と組み合わせ交換使用。体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。
2．本剤の2．5Lは2L貯留を施行しているCAPD患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，又は1日5回以上の透析液交換に不都合を感じている時に，腹腔内容積や肺活量に応じて（体重60kg以上を目安）2Lにかえる。
3．使用直前に上室液と下室液の2液をよく混合し，混合後は速やかに使用。
混合操作
（1）．バッグを外袋から取り出す。
（2）．隔壁に開通がないことを確認。
（3）．下室側を強くつかみ隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，隔壁を開通。
（4）．両手で交互に押し混合。

■禁忌
【禁忌】1．横隔膜欠損。
2．腹部に挫滅傷・熱傷。
3．高度の腹膜癒着。
4．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5．乳酸代謝障害の疑い。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．心・血管障害（頻度不明）（急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等）。
2．被嚢性腹膜硬化症（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
精神神経系 筋痙攣
消化器 悪心，腹痛，腹部膨満感，嘔吐，下痢，便秘，痔核，腹膜炎
循環器 高血圧，低血圧
呼吸器 息切れ，胸水貯留
皮膚 蕁麻疹，発疹，紅斑，掻痒症
代謝・栄養 高乳酸血症，低カリウム血症，低ナトリウム血症，低カルシウム血症，低リン血症，低マグネシウム血症，代謝性アルカローシス，食欲不振，高コレステロール血症，高トリグリセライド血症，低蛋白血症，高血糖，肥満，アミノ酸・水溶性ビタミン等の喪失，脱水
その他 除水不良，ヘルニア，陰嚢水腫，発熱，筋肉痛，筋骨格痛，浮腫，倦怠感
（表終了）

ダイアニールーN PD－4 2．5腹膜透析液（2L1袋）
両 注射 流通

【YJコード】3420420A4042
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ヴァンティブ 販)バクスター
【薬価】693円/1袋
【薬価収載日】2009/03/24
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析（高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時）
注意
下記に使用。
高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。
体液過剰が1kg／日以下 ダイアニールーN PD－4 1．5のみ 1日3～4回 連続操作を継続。
体液過剰が1kg／日以上 ダイアニールーN PD－4 2．5 1日1～4回，又はダイアニールPD－4 4．25 1日1～2回，ダイアニールーN PD－4 1．5と組み合わせ 1日3～5回 連続操作を継続。
適宜増減。
注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．体液過剰が1kg／日以下の場合，ダイアニールーN PD－4 1．5のみを1日3～4回交換使用。体液過剰が1kg／日以上の場合，ダイアニールーN PD－4 2．5を1日1～4回，ダイアニールーN PD－4 1．5と組み合わせ交換使用。ダイアニールPD－4 4．25は高浸透圧

3 代謝性医薬品

液で，これのみを使用する場合は脱水の可能性，急速な除水や多量の除水を必要とし，体液過剰が1kg／日以上の場合，ダイアニールPD－4 4．25を1日1～2回，ダイアニールーN PD－4 1．5と組み合わせ交換使用。体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。
2．本剤の2．5Lは2L貯留を施行しているCAPD患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，又は1日5回以上の透析液交換に不都合を感じている時に，腹腔内容積や肺活量に応じて（体重60kg以上を目安）2Lにかえる。
3．使用直前に上室液と下室液の2液をよく混合し，混合後は速やかに使用。
混合操作
（1）．バッグを外袋から取り出す。
（2）．隔壁に開通がないことを確認。
（3）．下室側を強くつかみ隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，隔壁を開通。
（4）．両手で交互に押し混合。

■禁忌
【禁忌】1．横隔膜欠損。
2．腹部に挫滅傷・熱傷。
3．高度の腹膜癒着。
4．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5．乳酸代謝障害の疑い。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．心・血管障害（頻度不明）（急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等）。
2．被嚢性腹膜硬化症（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
精神神経系 筋痙攣
消化器 悪心，腹痛，腹部膨満感，嘔吐，下痢，便秘，痔核，腹膜炎
循環器 高血圧，低血圧
呼吸器 息切れ，胸水貯留
皮膚 蕁麻疹，発疹，紅斑，掻痒症
代謝・栄養 高乳酸血症，低カリウム血症，低ナトリウム血症，低カルシウム血症，低リン血症，低マグネシウム血症，代謝性アルカローシス，食欲不振，高コレステロール血症，高トリグリセライド血症，低蛋白血症，高血糖，肥満，アミノ酸・水溶性ビタミン等の喪失，脱水
その他 除水不良，ヘルニア，陰嚢水腫，発熱，筋肉痛，筋骨格痛，浮腫，倦怠感
（表終了）

ダイアニールーN PD－4 2．5腹膜透析液（2．5L1袋）

両 注射 流通

【YJコード】3420420A5065
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ヴァンティブ 販)バクスター
【薬価】1039円/1袋
【薬価収載日】2009/03/24
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析（高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時）
注意
下記に使用。
高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。
体液過剰が1kg／日以下 ダイアニールーN PD－4 1．5のみ 1日3～4回 連続操作を継続。
体液過剰が1kg／日以上 ダイアニールーN PD－4 2．5 1日1～4回，又はダイアニールPD－4 4．25 1日1～2回，ダイアニールーN PD－4 1．5と組み合わせ 1日3～5回 連続操作を継続。
適宜増減。
注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．体液過剰が1kg／日以下の場合，ダイアニールーN PD－4 1．5のみを1日3～4回交換使用。体液過剰が1kg／日以上の場合，ダイアニールーN PD－4 2．5を1日1～4回，ダイアニールーN PD－4 1．5と組み合わせ交換使用。ダイアニールPD－4 4．25は高浸透圧液で，これのみを使用する場合は脱水の可能性，急速な除水や多量の除水を必要とし，体液過剰が1kg／日以上の場合，ダイアニールPD－4 4．25を1日1～2回，ダイアニールーN PD－4 1．5と組み合わせ交換使用。体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。
2．本剤の2．5Lは2L貯留を施行しているCAPD患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，又は1日5回以上の透析液交換に不都合を感じている時に，腹腔内容積や肺活量に応じて（体重60kg以上を目安）2Lにかえる。
3．使用直前に上室液と下室液の2液をよく混合し，混合後は速やかに使用。
混合操作
（1）．バッグを外袋から取り出す。
（2）．隔壁に開通がないことを確認。
（3）．下室側を強くつかみ隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，隔壁を開通。
（4）．両手で交互に押し混合。

■禁忌
【禁忌】1．横隔膜欠損。
2．腹部に挫滅傷・熱傷。
3．高度の腹膜癒着。
4．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5．乳酸代謝障害の疑い。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．心・血管障害（頻度不明）（急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等）。
2．被嚢性腹膜硬化症（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
精神神経系 筋痙攣
消化器 悪心，腹痛，腹部膨満感，嘔吐，下痢，便秘，痔核，腹膜炎
循環器 高血圧，低血圧
呼吸器 息切れ，胸水貯留
皮膚 蕁麻疹，発疹，紅斑，掻痒症
代謝・栄養 高乳酸血症，低カリウム血症，低ナトリウム血症，低カルシウム血症，低リン血症，低マグネシウム血症，代謝性アルカローシス，食欲不振，高コレステロール血症，高トリグリセライド血症，低蛋白血症，高血糖，肥満，アミノ酸・水溶性ビタミン等の喪失，脱水
その他 除水不良，ヘルニア，陰嚢水腫，発熱，筋肉痛，筋骨格痛，浮腫，倦怠感
（表終了）

ダイアニールーN PD－4 2．5腹膜透析液（1L1袋（排液用バッグ付））

両 注射 流通

【YJコード】3420420A6053
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ヴァンティブ 販)バクスター
【薬価】1281円/1袋
【薬価収載日】2009/03/24
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析（高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時）
注意
下記に使用。
高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。
体液過剰が1kg／日以下 ダイアニールーN PD－4 1．5のみ 1日3～4回 連続操作を継続。
体液過剰が1kg／日以上 ダイアニールーN PD－4 2．5 1日1～4回，又はダイアニールPD－4 4．25 1日1～2回，ダイアニールーN PD－4 1．5と組み合わせ 1日3～5回 連続操作を継続。
適宜増減。
注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．体液過剰が1kg／日以下の場合，ダイアニールーN PD－4 1．5のみを1日3～4回交換使用。体液過剰が1kg／日以上の場合，ダイアニールーN PD－4 2．5を1日1～4回，ダイアニールーN PD－4 1．5と組み合わせ交換使用。ダイアニールPD－4 4．25は高浸透圧液で，これのみを使用する場合は脱水の可能性，急速な除水や多量の除水を必要とし，体液過剰が1kg／日以上の場合，ダイアニールPD－4 4．25を1日1～2回，ダイアニールーN PD－4 1．5と組み合わせ交換使用。体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。
2．本剤の2．5Lは2L貯留を施行しているCAPD患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，又は1日5

ダイアニールーN PD－4 2．5腹膜透析液

3 代謝性医薬品

回以上の透析液交換に不都合を感じている時に，腹腔内容積や肺活量に応じて（体重60kg以上を目安）2Lにかえる。
3．使用直前に上室液と下室液の2液をよく混合し，混合後は速やかに使用。
混合操作
（1）．バッグを外袋から取り出す。
（2）．隔壁に開通がないことを確認。
（3）．下室側を強くつかみ隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，隔壁を開通。
（4）．両手で交互に押し混合。

■禁忌
【禁忌】1．横隔膜欠損。
2．腹部に挫滅傷・熱傷。
3．高度の腹膜癒着。
4．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5．乳酸代謝障害の疑い。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．心・血管障害（頻度不明）（急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等）。
2．被嚢性腹膜硬化症（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
精神神経系 筋痙攣
消化器 悪心，腹痛，腹部膨満感，嘔吐，下痢，便秘，痔核，腹膜炎
循環器 高血圧，低血圧
呼吸器 息切れ，胸水貯留
皮膚 蕁麻疹，発疹，紅斑，掻痒症
代謝・栄養 高乳酸血症，低カリウム血症，低ナトリウム血症，低カルシウム血症，低リン血症，低マグネシウム血症，代謝性アルカローシス，食欲不振，高コレステロール血症，高トリグリセライド血症，低蛋白血症，高血糖，肥満，アミノ酸・水溶性ビタミン等の喪失，脱水
その他 除水不良，ヘルニア，陰嚢水腫，発熱，筋肉痛，筋骨格痛，浮腫，倦怠感
（表終了）

ダイアニールーN PD－4 2．5腹膜透析液（1．5L1袋（排液用バッグ付））

両 注射 流通

【YJコード】3420420A7076
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ヴァンティブ 販)バクスター
【薬価】1033円/1袋
【薬価収載日】2009/03/24
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析（高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時）
注意
下記に使用。
高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。
体液過剰が1kg／日以下 ダイアニールーN PD－4 1．5のみ 1日3～4回 連続操作を継続。
体液過剰が1kg／日以上 ダイアニールーN PD－4 2．5 1日1～4回，又はダイアニールPD－4 4．25 1日1～2回，ダイアニールーN PD－4 1．5と組み合わせ 1日3～5回 連続操作を継続。
適宜増減。
注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．体液過剰が1kg／日以下の場合，ダイアニールーN PD－4 1．5のみを1日3～4回交換使用。体液過剰が1kg／日以上の場合，ダイアニールーN PD－4 2．5を1日1～4回，ダイアニールーN PD－4 1．5と組み合わせ交換使用。ダイアニールPD－4 4．25は高浸透圧液で，これのみを使用する場合は脱水の可能性，急速な除水や多量の除水を必要とし，体液過剰が1kg／日以上の場合，ダイアニールPD－4 4．25を1日1～2回，ダイアニールーN PD－4 1．5と組み合わせ交換使用。体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。
2．本剤の2．5Lは2L貯留を施行しているCAPD患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，又は1日5回以上の透析液交換に不都合を感じている時に，腹腔内容積や肺活量に応じて（体重60kg以上を目安）2Lにかえる。
3．使用直前に上室液と下室液の2液をよく混合し，混合後は速やかに使用。
混合操作
（1）．バッグを外袋から取り出す。
（2）．隔壁に開通がないことを確認。
（3）．下室側を強くつかみ隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，隔壁を開通。
（4）．両手で交互に押し混合。

■禁忌
【禁忌】1．横隔膜欠損。
2．腹部に挫滅傷・熱傷。
3．高度の腹膜癒着。
4．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5．乳酸代謝障害の疑い。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．心・血管障害（頻度不明）（急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等）。
2．被嚢性腹膜硬化症（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
精神神経系 筋痙攣
消化器 悪心，腹痛，腹部膨満感，嘔吐，下痢，便秘，痔核，腹膜炎
循環器 高血圧，低血圧
呼吸器 息切れ，胸水貯留
皮膚 蕁麻疹，発疹，紅斑，掻痒症
代謝・栄養 高乳酸血症，低カリウム血症，低ナトリウム血症，低カルシウム血症，低リン血症，低マグネシウム血症，代謝性アルカローシス，食欲不振，高コレステロール血症，高トリグリセライド血症，低蛋白血症，高血糖，肥満，アミノ酸・水溶性ビタミン等の喪失，脱水
その他 除水不良，ヘルニア，陰嚢水腫，発熱，筋肉痛，筋骨格痛，浮腫，倦怠感
（表終了）

ダイアニールーN PD－4 2．5腹膜透析液（2L1袋（排液用バッグ付））

両 注射 流通

【YJコード】3420420A8072
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ヴァンティブ 販)バクスター
【薬価】1304円/1袋
【薬価収載日】2009/03/24
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析（高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時）
注意
下記に使用。
高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。
体液過剰が1kg／日以下 ダイアニールーN PD－4 1．5のみ 1日3～4回 連続操作を継続。
体液過剰が1kg／日以上 ダイアニールーN PD－4 2．5 1日1～4回，又はダイアニールPD－4 4．25 1日1～2回，ダイアニールーN PD－4 1．5と組み合わせ 1日3～5回 連続操作を継続。
適宜増減。
注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．体液過剰が1kg／日以下の場合，ダイアニールーN PD－4 1．5のみを1日3～4回交換使用。体液過剰が1kg／日以上の場合，ダイアニールーN PD－4 2．5を1日1～4回，ダイアニールーN PD－4 1．5と組み合わせ交換使用。ダイアニールPD－4 4．25は高浸透圧液で，これのみを使用する場合は脱水の可能性，急速な除水や多量の除水を必要とし，体液過剰が1kg／日以上の場合，ダイアニールPD－4 4．25を1日1～2回，ダイアニールーN PD－4 1．5と組み合わせ交換使用。体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。
2．本剤の2．5Lは2L貯留を施行しているCAPD患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，又は1日5回以上の透析液交換に不都合を感じている時に，腹腔内容積や肺活量に応じて（体重60kg以上を目安）2Lにかえる。
3．使用直前に上室液と下室液の2液をよく混合し，混合後は速やかに使用。
混合操作
（1）．バッグを外袋から取り出す。
（2）．隔壁に開通がないことを確認。
（3）．下室側を強くつかみ隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，隔壁を

ダイアニールーN PD－4 2．5腹膜透析液

3 代謝性医薬品

開通。
(4). 両手で交互に押し混合。

■禁忌
【禁忌】1. 横隔膜欠損。
2. 腹部に挫滅傷・熱傷。
3. 高度の腹膜癒着。
4. 尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5. 乳酸代謝障害の疑い。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 心・血管障害(頻度不明)(急激な脱水による循環血液量の減少, 低血圧, ショック等)。
2. 被嚢性腹膜硬化症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
精神神経系 筋痙攣
消化器 悪心, 腹痛, 腹部膨満感, 嘔吐, 下痢, 便秘, 痔核, 腹膜炎
循環器 高血圧, 低血圧
呼吸器 息切れ, 胸水貯留
皮膚 蕁麻疹, 発疹, 紅斑, 掻痒症
代謝・栄養 高乳酸血症, 低カリウム血症, 低ナトリウム血症, 低カルシウム血症, 低リン血症, 低マグネシウム血症, 代謝性アルカローシス, 食欲不振, 高コレステロール血症, 高トリグリセライド血症, 低蛋白血症, 高血糖, 肥満, アミノ酸・水溶性ビタミン等の喪失, 脱水
その他 除水不良, ヘルニア, 陰嚢水腫, 発熱, 筋肉痛, 筋骨格痛, 浮腫, 倦怠感
(表終了)

ダイアニールーN PD−4 2. 5腹膜透析液(5L1袋)

両 注射 流通

【YJコード】3420420H1068
【薬効分類】3. 4. 2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ヴァンティブ 販)バクスター
【薬価】1630円/1袋
【薬価収載日】2009/03/24
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析(高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で, カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時)
注意
下記に使用。
高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で, 炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】腹腔内注入し, 透析治療で使用。
成人 1回1. 5〜2Lを腹腔内注入し, 4〜8時間滞液し, 効果期待後に排液除去。以上を1回。
体液過剰が1kg/日以下 ダイアニールーN PD−4 1. 5のみ 1日3〜4回 連続操作を継続。
体液過剰が1kg/日以上 ダイアニールーN PD−4 2. 5 1日1〜4回, 又はダイアニールPD−4 4. 25 1日1〜2回, ダイアニールーN PD−4 1. 5と組み合わせ 1日3〜5回 連続操作を継続。
適宜増減。
注入・排液速度 300mL/分以下。
注意
1. 体液過剰が1kg/日以下の場合, ダイアニールーN PD−4 1. 5のみを1日3〜4回交換使用。体液過剰が1kg/日以上の場合, ダイアニールーN PD−4 2. 5を1日1〜4回, ダイアニールーN PD−4 1. 5と組み合わせ交換使用。ダイアニールPD−4 4. 25は高浸透圧液で, これのみを使用する場合は脱水の可能性, 急速な除水や多量の除水を必要とし, 体液過剰が1kg/日以上の場合, ダイアニールPD−4 4. 25を1日1〜2回, ダイアニールーN PD−4 1. 5と組み合わせ交換使用。体液過剰は, 患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく, 細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。
2. 本剤の2. 5Lは2L貯留を施行しているCAPD患者で透析不足による全身倦怠感, 食欲不振, 不眠等の尿毒症症状がある時, 又は1日5回以上の透析液交換に不都合を感じている時に, 腹腔内容積や肺活量に応じて(体重60kg以上を目安)2Lにかえる。
3. 使用直前に上室液と下室液の2液をよく混合し, 混合後は速やかに使用。
混合操作
(1). バッグを外袋から取り出す。
(2). 隔壁に開通がないことを確認。
(3). 下室側を強くつかみ隔壁側へ押し出すように圧力をかけ, 隔壁を開通。
(4). 両手で交互に押し混合。

■禁忌
【禁忌】1. 横隔膜欠損。
2. 腹部に挫滅傷・熱傷。
3. 高度の腹膜癒着。
4. 尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5. 乳酸代謝障害の疑い。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 心・血管障害(頻度不明)(急激な脱水による循環血液量の減少, 低血圧, ショック等)。
2. 被嚢性腹膜硬化症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
精神神経系 筋痙攣
消化器 悪心, 腹痛, 腹部膨満感, 嘔吐, 下痢, 便秘, 痔核, 腹膜炎
循環器 高血圧, 低血圧
呼吸器 息切れ, 胸水貯留
皮膚 蕁麻疹, 発疹, 紅斑, 掻痒症
代謝・栄養 高乳酸血症, 低カリウム血症, 低ナトリウム血症, 低カルシウム血症, 低リン血症, 低マグネシウム血症, 代謝性アルカローシス, 食欲不振, 高コレステロール血症, 高トリグリセライド血症, 低蛋白血症, 高血糖, 肥満, アミノ酸・水溶性ビタミン等の喪失, 脱水
その他 除水不良, ヘルニア, 陰嚢水腫, 発熱, 筋肉痛, 筋骨格痛, 浮腫, 倦怠感
(表終了)

ニコペリック腹膜透析液(1. 5L1袋)

両 注射 流通

【YJコード】3420432A1046
【薬効分類】3. 4. 2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)テルモ
【薬価】1013円/1袋
【薬価収載日】2014/12/12
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析
注意
1. 本剤・ブドウ糖含有腹膜透析液それぞれの貯留時間と除水量の関係を理解し, 透析液を選択・処方。使用は1日1回のみ。
2. CAPD用腹膜透析液の用法・用量の範囲で適正に処方し, 溢水と透析不足の原因となる食事内容やカテーテルトラブル等を排除後, 症状の改善のない患者には, 必ず腹膜平衡試験等必要な検査を実施しCAPD治療中止対象でないことを確認。適用後も定期的に腹膜平衡試験を実施し, 必要時CAPDの一時中止等の処置。
【用法用量】腹膜透析治療 1日1回のみ使用。成人 1. 5〜2Lを腹腔内注入し, 8〜12時間滞液し, 効果期待後に排液除去(1日3〜5回の透析液交換の1回でのみ使用)。本剤以外の交換にはブドウ糖含有腹膜透析液を使用。
適宜増減。注入・排液速度 300mL/分以下。
注意
1. 1日1回のみ使用。
2. 本剤は低濃度及び中濃度ブドウ糖含有腹膜透析液使用時に比べ, 限外濾過量が増加, 脱水症状をおこさないよう, 処方時は本剤と組み合わせて使用するブドウ糖含有腹膜透析液のブドウ糖濃度を併せて見直す。

■禁忌
【禁忌】1. トウモロコシデンプン由来物質に過敏症の既往。
2. 糖原病。
3. 横隔膜欠損。
4. 腹部に挫滅傷・熱傷。
5. 高度の腹膜癒着。
6. 尿毒症に起因する以外の出血性素因。
7. 乳酸代謝障害の疑い。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 心・血管障害(急激な脱水による循環血液量の減少(脱水症(1. 9%)), 低血圧(3. 2%), ショック(頻度不明)等)。
2. 被嚢性腹膜硬化症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
精神神経系 − 筋痙攣, 浮動性眩暈, 錯感覚, 味覚消失, 頭痛, 構語障害, 運動過多, 不安, 神経過敏, 思考異常 −
消化器 − 口内乾燥, 腹痛, 口渇, 腹膜炎, 血性排液, 下痢, 消化不良, 悪心, 嘔吐, 便秘, 胃腸障害, 鼓腸, 腹部膨満, 胃炎, 腸閉塞, 胃潰瘍 −
循環器 − 頻脈, 心臓血管疾患, 低血圧, 高血圧 −
呼吸器 − 肺水腫, 呼吸困難, 肺障害, 咳嗽増悪, しゃっくり −
血液 − 貧血, 白血球増加症, 好酸球増加症 −

3 代謝性医薬品

内分泌系 － 副甲状腺障害 －
皮膚 発疹 皮膚障害，皮膚乾燥，皮膚潰瘍，湿疹，掻痒症，剥脱性皮膚炎，爪の障害，乾癬，水疱性皮膚炎，顔面浮腫 －
肝臓 － AST上昇，ALT上昇，AlーP上昇 －
腎臓 － 腎臓痛，尿量減少 －
代謝・栄養 － 低ナトリウム血症，低クロール血症，低カリウム血症，低マグネシウム血症，低蛋白血症，高血糖，食欲不振，脱水，循環血液量減少，循環血液量増加，低血糖症 －
その他 － 筋痛，頚部痛，耳鳴，無力症，胸痛，疼痛，浮腫，末梢性浮腫，倦怠感，発熱，せつ，感染，損傷，カテーテル機能不全，β2ミクログロブリン増加，血液浸透圧上昇，体重減少，体重増加 －
（表終了）

ニコペリック腹膜透析液（1．5L1袋（排液用バッグ付））

両 注射 流通

【YJコード】3420432A2042
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】㈱テルモ
【薬価】2043円/1袋
【薬価収載日】2014/12/12
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析
注意
1．本剤・ブドウ糖含有腹膜透析液それぞれの貯留時間と除水量の関係を理解し，透析液を選択・処方。使用は1日1回のみ。
2．CAPD用腹膜透析液の用法・用量の範囲で適正に処方し，溢水と透析不足の原因となる食事内容やカテーテルトラブル等を排除後，症状の改善のない患者には，必ず腹膜平衡試験等必要な検査を実施しCAPD治療中止対象でないことを確認。適用後も定期的に腹膜平衡試験を実施し，必要時CAPDの一時中止等の処置。
【用法用量】腹膜透析治療 1日1回のみ使用。成人 1．5～2Lを腹腔内注入し，8～12時間滞液し，効果期待後に排液除去（1日3～5回の透析液交換の1回でのみ使用）。本剤以外の交換にはブドウ糖含有腹膜透析液を使用。
適宜増減。注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．1日1回のみ使用。
2．本剤は低濃度及び中濃度ブドウ糖含有腹膜透析液使用時に比べ，限外濾過量が増加，脱水症状をおこさないよう，処方時は本剤と組み合わせて使用するブドウ糖含有腹膜透析液のブドウ糖濃度を併せて見直す。

■禁忌

【禁忌】1．トウモロコシデンプン由来物質に過敏症の既往。
2．糖原病。
3．横隔膜欠損。
4．腹部に挫滅傷・熱傷。
5．高度の腹膜癒着。
6．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
7．乳酸代謝障害の疑い。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．心・血管障害（急激な脱水による循環血液量の減少（脱水症（1．9%）），低血圧（3．2%），ショック（頻度不明）等）。
2．被嚢性腹膜硬化症（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
精神神経系 － 筋痙攣，浮動性眩暈，錯感覚，味覚消失，頭痛，構語障害，運動過多，不安，神経過敏，思考異常 －
消化器 － 口内乾燥，腹痛，口渇，腹膜炎，血性排液，下痢，消化不良，悪心，嘔吐，便秘，胃腸障害，鼓腸，腹部膨満，胃炎，腸閉塞，胃潰瘍 －
循環器 － 頻脈，心臓血管疾患，低血圧，高血圧 －
呼吸器 － 肺水腫，呼吸困難，肺障害，咳嗽増悪，しゃっくり －
血液 － 貧血，白血球増加症，好酸球増加症 －
内分泌系 － 副甲状腺障害 －
皮膚 発疹 皮膚障害，皮膚乾燥，皮膚潰瘍，湿疹，掻痒症，剥脱性皮膚炎，爪の障害，乾癬，水疱性皮膚炎，顔面浮腫 －
肝臓 － AST上昇，ALT上昇，AlーP上昇 －
腎臓 － 腎臓痛，尿量減少 －
代謝・栄養 － 低ナトリウム血症，低クロール血症，低カリウム血症，低マグネシウム血症，低蛋白血症，高血糖，食欲不振，脱水，循環血液量減少，循環血液量増加，低血糖症 －
その他 － 筋痛，頚部痛，耳鳴，無力症，胸痛，疼痛，浮腫，末梢性浮腫，倦怠感，発熱，せつ，感染，損傷，カテーテル機能不全，β2ミクログロブリン増加，血液浸透圧上昇，体重減少，体重増加 －
（表終了）

ニコペリック腹膜透析液（2L1袋）

両 注射 流通

【YJコード】3420432A3049
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】㈱テルモ
【薬価】1314円/1袋
【薬価収載日】2014/12/12
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析
注意
1．本剤・ブドウ糖含有腹膜透析液それぞれの貯留時間と除水量の関係を理解し，透析液を選択・処方。使用は1日1回のみ。
2．CAPD用腹膜透析液の用法・用量の範囲で適正に処方し，溢水と透析不足の原因となる食事内容やカテーテルトラブル等を排除後，症状の改善のない患者には，必ず腹膜平衡試験等必要な検査を実施しCAPD治療中止対象でないことを確認。適用後も定期的に腹膜平衡試験を実施し，必要時CAPDの一時中止等の処置。
【用法用量】腹膜透析治療 1日1回のみ使用。成人 1．5～2Lを腹腔内注入し，8～12時間滞液し，効果期待後に排液除去（1日3～5回の透析液交換の1回でのみ使用）。本剤以外の交換にはブドウ糖含有腹膜透析液を使用。
適宜増減。注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．1日1回のみ使用。
2．本剤は低濃度及び中濃度ブドウ糖含有腹膜透析液使用時に比べ，限外濾過量が増加，脱水症状をおこさないよう，処方時は本剤と組み合わせて使用するブドウ糖含有腹膜透析液のブドウ糖濃度を併せて見直す。

■禁忌

【禁忌】1．トウモロコシデンプン由来物質に過敏症の既往。
2．糖原病。
3．横隔膜欠損。
4．腹部に挫滅傷・熱傷。
5．高度の腹膜癒着。
6．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
7．乳酸代謝障害の疑い。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．心・血管障害（急激な脱水による循環血液量の減少（脱水症（1．9%）），低血圧（3．2%），ショック（頻度不明）等）。
2．被嚢性腹膜硬化症（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
精神神経系 － 筋痙攣，浮動性眩暈，錯感覚，味覚消失，頭痛，構語障害，運動過多，不安，神経過敏，思考異常 －
消化器 － 口内乾燥，腹痛，口渇，腹膜炎，血性排液，下痢，消化不良，悪心，嘔吐，便秘，胃腸障害，鼓腸，腹部膨満，胃炎，腸閉塞，胃潰瘍 －
循環器 － 頻脈，心臓血管疾患，低血圧，高血圧 －
呼吸器 － 肺水腫，呼吸困難，肺障害，咳嗽増悪，しゃっくり －
血液 － 貧血，白血球増加症，好酸球増加症 －
内分泌系 － 副甲状腺障害 －
皮膚 発疹 皮膚障害，皮膚乾燥，皮膚潰瘍，湿疹，掻痒症，剥脱性皮膚炎，爪の障害，乾癬，水疱性皮膚炎，顔面浮腫 －
肝臓 － AST上昇，ALT上昇，AlーP上昇 －
腎臓 － 腎臓痛，尿量減少 －
代謝・栄養 － 低ナトリウム血症，低クロール血症，低カリウム血症，低マグネシウム血症，低蛋白血症，高血糖，食欲不振，脱水，循環血液量減少，循環血液量増加，低血糖症 －
その他 － 筋痛，頚部痛，耳鳴，無力症，胸痛，疼痛，浮腫，末梢性浮腫，倦怠感，発熱，せつ，感染，損傷，カテーテル機能不全，β2ミクログロブリン増加，血液浸透圧上昇，体重減少，体重増加 －
（表終了）

ニコペリック腹膜透析液（2L1袋（排液用バッグ付））

両 注射 流通

【YJコード】3420432A4045
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】㈱テルモ
【薬価】2307円/1袋
【薬価収載日】2014/12/12
【標榜薬効】腹膜透析液

ニコペリック腹膜透析液

3 代謝性医薬品

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析
注意
1. 本剤・ブドウ糖含有腹膜透析液それぞれの貯留時間と除水量の関係を理解し，透析液を選択・処方。使用は1日1回のみ。
2. CAPD用腹膜透析液の用法・用量の範囲で適正に処方し，溢水と透析不足の原因となる食事内容やカテーテルトラブル等を排除後，症状の改善のない患者には，必ず腹膜平衡試験等必要な検査を実施しCAPD治療中止対象でないことを確認。適用後も定期的に腹膜平衡試験を実施し，必要時CAPDの一時中止等の処置。
【用法用量】腹膜透析治療　1日1回のみ使用。成人　1．5～2Lを腹腔内注入し，8～12時間滞液し，効果期待後に排液除去（1日3～5回の透析液交換の1回でのみ使用）。本剤以外の交換にはブドウ糖含有腹膜透析液を使用。
適宜増減。注入・排液速度　300mL／分以下。
注意
1. 1日1回のみ使用。
2. 本剤は低濃度及び中濃度ブドウ糖含有腹膜透析液使用時に比べ，限外濾過量が増加，脱水症状をおこさないよう，処方時は本剤と組み合わせて使用するブドウ糖含有腹膜透析液のブドウ糖濃度を併せて見直す。

■禁忌

【禁忌】1. トウモロコシデンプン由来物質に過敏症の既往。
2. 糖原病。
3. 横隔膜欠損。
4. 腹部に挫滅傷・熱傷。
5. 高度の腹膜癒着。
6. 尿毒症に起因する以外の出血性素因。
7. 乳酸代謝障害の疑い。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 心・血管障害（急激な脱水による循環血液量の減少（脱水症（1．9%）），低血圧（3．2%），ショック（頻度不明）等）。
2. 被嚢性腹膜硬化症（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
精神神経系 － 筋痙攣，浮動性眩暈，錯感覚，味覚消失，頭痛，構語障害，運動過多，不安，神経過敏，思考異常 －
消化器 － 口内乾燥，腹痛，口渇，腹膜炎，血性排液，下痢，消化不良，悪心，嘔吐，便秘，胃腸障害，鼓腸，腹部膨満，胃炎，腸閉塞，胃潰瘍 －
循環器 － 頻脈，心臓血管疾患，低血圧，高血圧 －
呼吸器 － 肺水腫，呼吸困難，肺障害，咳嗽増悪，しゃっくり －
血液 － 貧血，白血球増加症，好酸球増加症 －
内分泌系 － 副甲状腺障害 －
皮膚 発疹 皮膚障害，皮膚乾燥，皮膚潰瘍，湿疹，掻痒症，剥脱性皮膚炎，爪の障害，乾癬，水疱性皮膚炎，顔面浮腫 －
肝臓 － AST上昇，ALT上昇，AlーP上昇 －
腎臓 － 腎臓痛，尿量減少 －
代謝・栄養 － 低ナトリウム血症，低クロール血症，低カリウム血症，低マグネシウム血症，低蛋白血症，高血糖，食欲不振，脱水，循環血液量減少，循環血液量増加，低血糖症 －
その他 － 筋痛，頚部痛，耳鳴，無力症，胸痛，疼痛，浮腫，末梢性浮腫，倦怠感，発熱，せつ，感染，損傷，カテーテル機能不全，β2ミクログロブリン増加，血液浸透圧上昇，体重減少，体重増加 －
（表終了）

ペリセート360NL腹膜透析液（1L1袋（排液用バッグ付））

両　注射　流通

【YJコード】3420426A3043
【薬効分類】3．4．2　腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ジェイ・エム・エス
【薬価】1449円/1袋
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析（代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時）
注意
下記に使用。
代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人　1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。体液過剰が1kg／日以下　ペリセート360NLのみ　1日3～4回　連続操作を継続。体液過剰が1kg／日以上　ペリセート400NL　1日1～4回，ペリセート360NLと組み合わせ　1日3～5回　連続操作を継続。
適宜増減。
注入・排液速度　300mL／分以下。
注意
体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。

■禁忌

【禁忌】1. 横隔膜欠損。
2. 腹部に挫滅傷・熱傷。
3. 高度の腹膜癒着。
4. 尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5. 乳酸代謝障害の疑い。
6. 高度の換気障害。
7. 憩室炎。
8. 人工肛門使用患者。
9. 高度の脂質代謝異常。
10. 高度の肥満。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 循環器障害（頻度不明）（急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等），高血圧，息切れ。
2. 高血糖（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
電解質・酸塩基平衡障害 低カリウム血症，低カルシウム血症，高乳酸血症，低ナトリウム血症，高マグネシウム血症，代謝性アルカローシス
精神神経系 意識混濁，筋痙攣，悪心，嘔吐，食欲不振，掻痒感，立ちくらみ，頭痛，倦怠感
蛋白・アミノ酸・その他の喪失 低蛋白血症，アミノ酸・水溶性ビタミンの著しい喪失
消化器 腹痛，腹部膨満感，下痢，便秘
その他 高コレステロール血症，高トリグリセライド血症，低HDL－コレステロール血症，低γグロブリン血症，浮腫，発熱，排液困難，除水機能低下，腹腔内圧の上昇，ヘルニア・痔核の発現
（表終了）

ペリセート360NL腹膜透析液（1．5L1袋（排液用バッグ付））

両　注射　流通

【YJコード】3420426A5046
【薬効分類】3．4．2　腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ジェイ・エム・エス
【薬価】1563円/1袋
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析（代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時）
注意
下記に使用。
代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人　1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。体液過剰が1kg／日以下　ペリセート360NLのみ　1日3～4回　連続操作を継続。体液過剰が1kg／日以上　ペリセート400NL　1日1～4回，ペリセート360NLと組み合わせ　1日3～5回　連続操作を継続。
適宜増減。
注入・排液速度　300mL／分以下。
注意
体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。

■禁忌

【禁忌】1. 横隔膜欠損。
2. 腹部に挫滅傷・熱傷。
3. 高度の腹膜癒着。
4. 尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5. 乳酸代謝障害の疑い。
6. 高度の換気障害。
7. 憩室炎。
8. 人工肛門使用患者。
9. 高度の脂質代謝異常。
10. 高度の肥満。

■副作用

【副作用】重大な副作用

3 代謝性医薬品

1. 循環器障害(頻度不明)(急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等)，高血圧，息切れ。
2. 高血糖(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
電解質・酸塩基平衡障害 低カリウム血症，低カルシウム血症，高乳酸血症，低ナトリウム血症，高マグネシウム血症，代謝性アルカローシス
精神神経系 意識混濁，筋痙攣，悪心，嘔吐，食欲不振，掻痒感，立ちくらみ，頭痛，倦怠感
蛋白・アミノ酸・その他の喪失 低蛋白血症，アミノ酸・水溶性ビタミンの著しい喪失
消化器 腹痛，腹部膨満感，下痢，便秘
その他 高コレステロール血症，高トリグリセライド血症，低HDL－コレステロール血症，低γグロブリン血症，浮腫，発熱，排液困難，除水機能低下，腹腔内圧の上昇，ヘルニア・痔核の発現
(表終了)

ペリセート360NL腹膜透析液（2L1袋）

両 注射 流通

【YJコード】3420426A6042
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ジェイ・エム・エス
【薬価】837円/1袋
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析(代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時)
注意
下記に使用。
代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。体液過剰が1kg／日以下 ペリセート360NLのみ 1日3～4回 連続操作を継続。体液過剰が1kg／日以上 ペリセート400NL 1日1～4回，ペリセート360NLと組み合わせ 1日3～5回 連続操作を継続。
適宜増減。
注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。

■禁忌

【禁忌】1．横隔膜欠損。
2．腹部に挫滅傷・熱傷。
3．高度の腹膜癒着。
4．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5．乳酸代謝障害の疑い。
6．高度の換気障害。
7．憩室炎。
8．人工肛門使用患者。
9．高度の脂質代謝異常。
10．高度の肥満。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．循環器障害(頻度不明)(急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等)，高血圧，息切れ。
2．高血糖(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
電解質・酸塩基平衡障害 低カリウム血症，低カルシウム血症，高乳酸血症，低ナトリウム血症，高マグネシウム血症，代謝性アルカローシス
精神神経系 意識混濁，筋痙攣，悪心，嘔吐，食欲不振，掻痒感，立ちくらみ，頭痛，倦怠感
蛋白・アミノ酸・その他の喪失 低蛋白血症，アミノ酸・水溶性ビタミンの著しい喪失
消化器 腹痛，腹部膨満感，下痢，便秘
その他 高コレステロール血症，高トリグリセライド血症，低HDL－コレステロール血症，低γグロブリン血症，浮腫，発熱，排液困難，除水機能低下，腹腔内圧の上昇，ヘルニア・痔核の発現
(表終了)

ペリセート360NL腹膜透析液（2L1袋(排液用バッグ付)）

両 注射 流通

【YJコード】3420426A7049
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ジェイ・エム・エス
【薬価】1584円/1袋
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析(代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時)
注意
下記に使用。
代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。体液過剰が1kg／日以下 ペリセート360NLのみ 1日3～4回 連続操作を継続。体液過剰が1kg／日以上 ペリセート400NL 1日1～4回，ペリセート360NLと組み合わせ 1日3～5回 連続操作を継続。
適宜増減。
注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。

■禁忌

【禁忌】1．横隔膜欠損。
2．腹部に挫滅傷・熱傷。
3．高度の腹膜癒着。
4．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5．乳酸代謝障害の疑い。
6．高度の換気障害。
7．憩室炎。
8．人工肛門使用患者。
9．高度の脂質代謝異常。
10．高度の肥満。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．循環器障害(頻度不明)(急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等)，高血圧，息切れ。
2．高血糖(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
電解質・酸塩基平衡障害 低カリウム血症，低カルシウム血症，高乳酸血症，低ナトリウム血症，高マグネシウム血症，代謝性アルカローシス
精神神経系 意識混濁，筋痙攣，悪心，嘔吐，食欲不振，掻痒感，立ちくらみ，頭痛，倦怠感
蛋白・アミノ酸・その他の喪失 低蛋白血症，アミノ酸・水溶性ビタミンの著しい喪失
消化器 腹痛，腹部膨満感，下痢，便秘
その他 高コレステロール血症，高トリグリセライド血症，低HDL－コレステロール血症，低γグロブリン血症，浮腫，発熱，排液困難，除水機能低下，腹腔内圧の上昇，ヘルニア・痔核の発現
(表終了)

ペリセート360NL腹膜透析液（3L1袋）

両 注射 流通

【YJコード】3420426A8045
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ジェイ・エム・エス
【薬価】1450円/1袋
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析(代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時)
注意
下記に使用。
代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。体液過剰が1kg／日以下 ペリセート360NLのみ 1日3～4回 連続操作を継続。体液過剰が1kg／日以上 ペリセート400NL 1日1～4回，ペリセート360NLと組み合わせ 1日3～5回 連続操作を継続。

ペリセート360NL腹膜透析液

3 代謝性医薬品

適宜増減。
注入・排液速度　300mL／分以下。
注意
体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。

■禁忌
【禁忌】1．横隔膜欠損。
2．腹部に挫滅傷・熱傷。
3．高度の腹膜癒着。
4．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5．乳酸代謝障害の疑い。
6．高度の換気障害。
7．憩室炎。
8．人工肛門使用患者。
9．高度の脂質代謝異常。
10．高度の肥満。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．循環器障害（頻度不明）（急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等），高血圧，息切れ。
2．高血糖（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
電解質・酸塩基平衡障害 低カリウム血症，低カルシウム血症，高乳酸血症，低ナトリウム血症，高マグネシウム血症，代謝性アルカローシス
精神神経系 意識混濁，筋痙攣，悪心，嘔吐，食欲不振，掻痒感，立ちくらみ，頭痛，倦怠感
蛋白・アミノ酸・その他の喪失 低蛋白血症，アミノ酸・水溶性ビタミンの著しい喪失
消化器 腹痛，腹部膨満感，下痢，便秘
その他 高コレステロール血症，高トリグリセライド血症，低HDL－コレステロール血症，低γグロブリン血症，浮腫，発熱，排液困難，除水機能低下，腹腔内圧の上昇，ヘルニア・痔核の発現
（表終了）

ペリセート400NL腹膜透析液（1L1袋（排液用バッグ付））

両　注射　流通

【YJコード】3420427A3048
【薬効分類】3．4．2　腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ジェイ・エム・エス
【薬価】1152円/1袋
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析（代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時）
注意
下記に使用。
代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人　1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。体液過剰が1kg／日以下　ペリセート360NLのみ　1日3～4回　連続操作を継続。体液過剰が1kg／日以上　ペリセート400NL　1日1～4回，ペリセート360NLと組み合わせ　1日3～5回　連続操作を継続。
適宜増減。
注入・排液速度　300mL／分以下。
注意
体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。

■禁忌
【禁忌】1．横隔膜欠損。
2．腹部に挫滅傷・熱傷。
3．高度の腹膜癒着。
4．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5．乳酸代謝障害の疑い。
6．高度の換気障害。
7．憩室炎。
8．人工肛門使用患者。
9．高度の脂質代謝異常。
10．高度の肥満。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．循環器障害（頻度不明）（急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等），高血圧，息切れ。
2．高血糖（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
電解質・酸塩基平衡障害 低カリウム血症，低カルシウム血症，高乳酸血症，低ナトリウム血症，高マグネシウム血症，代謝性アルカローシス
精神神経系 意識混濁，筋痙攣，悪心，嘔吐，食欲不振，掻痒感，立ちくらみ，頭痛，倦怠感
蛋白・アミノ酸・その他の喪失 低蛋白血症，アミノ酸・水溶性ビタミンの著しい喪失
消化器 腹痛，腹部膨満感，下痢，便秘
その他 高コレステロール血症，高トリグリセライド血症，低HDL－コレステロール血症，低γグロブリン血症，浮腫，発熱，排液困難，除水機能低下，腹腔内圧の上昇，ヘルニア・痔核の発現
（表終了）

ペリセート400NL腹膜透析液（1．5L1袋（排液用バッグ付））

両　注射　流通

【YJコード】3420427A5040
【薬効分類】3．4．2　腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ジェイ・エム・エス
【薬価】1420円/1袋
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析（代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時）
注意
下記に使用。
代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人　1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。体液過剰が1kg／日以下　ペリセート360NLのみ　1日3～4回　連続操作を継続。体液過剰が1kg／日以上　ペリセート400NL　1日1～4回，ペリセート360NLと組み合わせ　1日3～5回　連続操作を継続。
適宜増減。
注入・排液速度　300mL／分以下。
注意
体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。

■禁忌
【禁忌】1．横隔膜欠損。
2．腹部に挫滅傷・熱傷。
3．高度の腹膜癒着。
4．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5．乳酸代謝障害の疑い。
6．高度の換気障害。
7．憩室炎。
8．人工肛門使用患者。
9．高度の脂質代謝異常。
10．高度の肥満。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．循環器障害（頻度不明）（急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等），高血圧，息切れ。
2．高血糖（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
電解質・酸塩基平衡障害 低カリウム血症，低カルシウム血症，高乳酸血症，低ナトリウム血症，高マグネシウム血症，代謝性アルカローシス
精神神経系 意識混濁，筋痙攣，悪心，嘔吐，食欲不振，掻痒感，立ちくらみ，頭痛，倦怠感
蛋白・アミノ酸・その他の喪失 低蛋白血症，アミノ酸・水溶性ビタミンの著しい喪失
消化器 腹痛，腹部膨満感，下痢，便秘
その他 高コレステロール血症，高トリグリセライド血症，低HDL－コレステロール血症，低γグロブリン血症，浮腫，発熱，排液困難，除水機能低下，腹腔内圧の上昇，ヘルニア・痔核の発現
（表終了）

3 代謝性医薬品

ペリセート400NL腹膜透析液（2L1袋）

両 注射 流通

【YJコード】3420427A6047
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ジェイ・エム・エス
【薬価】890円/1袋
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析（代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時）
注意
下記に使用。
代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。体液過剰が1kg／日以下 ペリセート360NLのみ 1日3～4回 連続操作を継続。体液過剰が1kg／日以上 ペリセート400NL 1日1～4回，ペリセート360NLと組み合わせ 1日3～5回 連続操作を継続。
適宜増減。
注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。

■禁忌

【禁忌】1．横隔膜欠損。
2．腹部に挫滅傷・熱傷。
3．高度の腹膜癒着。
4．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5．乳酸代謝障害の疑い。
6．高度の換気障害。
7．憩室炎。
8．人工肛門使用患者。
9．高度の脂質代謝異常。
10．高度の肥満。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．循環器障害（頻度不明）（急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等），高血圧，息切れ。
2．高血糖（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
電解質・酸塩基平衡障害 低カリウム血症，低カルシウム血症，高乳酸血症，低ナトリウム血症，高マグネシウム血症，代謝性アルカローシス
精神神経系 意識混濁，筋痙攣，悪心，嘔吐，食欲不振，掻痒感，立ちくらみ，頭痛，倦怠感
蛋白・アミノ酸・その他の喪失 低蛋白血症，アミノ酸・水溶性ビタミンの著しい喪失
消化器 腹痛，腹部膨満感，下痢，便秘
その他 高コレステロール血症，高トリグリセライド血症，低HDL－コレステロール血症，低γグロブリン血症，浮腫，発熱，排液困難，除水機能低下，腹腔内圧の上昇，ヘルニア・痔核の発現
（表終了）

ペリセート400NL腹膜透析液（2L1袋（排液用バッグ付））

両 注射 流通

【YJコード】3420427A7043
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ジェイ・エム・エス
【薬価】1746円/1袋
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析（代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時）
注意
下記に使用。
代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。体液過剰が1kg／日以下 ペリセート360NLのみ 1日3～4回 連続操作を継続。体液過剰が1kg／日以上 ペリセート400NL 1日1～4回，ペリセート360NLと組み合わせ 1日3～5回 連続操作を継続。
適宜増減。
注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。

■禁忌

【禁忌】1．横隔膜欠損。
2．腹部に挫滅傷・熱傷。
3．高度の腹膜癒着。
4．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5．乳酸代謝障害の疑い。
6．高度の換気障害。
7．憩室炎。
8．人工肛門使用患者。
9．高度の脂質代謝異常。
10．高度の肥満。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．循環器障害（頻度不明）（急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等），高血圧，息切れ。
2．高血糖（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
電解質・酸塩基平衡障害 低カリウム血症，低カルシウム血症，高乳酸血症，低ナトリウム血症，高マグネシウム血症，代謝性アルカローシス
精神神経系 意識混濁，筋痙攣，悪心，嘔吐，食欲不振，掻痒感，立ちくらみ，頭痛，倦怠感
蛋白・アミノ酸・その他の喪失 低蛋白血症，アミノ酸・水溶性ビタミンの著しい喪失
消化器 腹痛，腹部膨満感，下痢，便秘
その他 高コレステロール血症，高トリグリセライド血症，低HDL－コレステロール血症，低γグロブリン血症，浮腫，発熱，排液困難，除水機能低下，腹腔内圧の上昇，ヘルニア・痔核の発現
（表終了）

ペリセート400NL腹膜透析液（3L1袋）

両 注射 流通

【YJコード】3420427A8040
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ジェイ・エム・エス
【薬価】1501円/1袋
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析（代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時）
注意
下記に使用。
代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。体液過剰が1kg／日以下 ペリセート360NLのみ 1日3～4回 連続操作を継続。体液過剰が1kg／日以上 ペリセート400NL 1日1～4回，ペリセート360NLと組み合わせ 1日3～5回 連続操作を継続。
適宜増減。
注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。

■禁忌

【禁忌】1．横隔膜欠損。
2．腹部に挫滅傷・熱傷。
3．高度の腹膜癒着。
4．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5．乳酸代謝障害の疑い。
6．高度の換気障害。
7．憩室炎。
8．人工肛門使用患者。
9．高度の脂質代謝異常。

ペリセート400NL腹膜透析液

3 代謝性医薬品

10. 高度の肥満。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 循環器障害(頻度不明)(急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等)，高血圧，息切れ。
2. 高血糖(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
電解質・酸塩基平衡障害 低カリウム血症，低カルシウム血症，高乳酸血症，低ナトリウム血症，高マグネシウム血症，代謝性アルカローシス
精神神経系 意識混濁，筋痙攣，悪心，嘔吐，食欲不振，掻痒感，立ちくらみ，頭痛，倦怠感
蛋白・アミノ酸・その他の喪失 低蛋白血症，アミノ酸・水溶性ビタミンの著しい喪失
消化器 腹痛，腹部膨満感，下痢，便秘
その他 高コレステロール血症，高トリグリセライド血症，低HDL－コレステロール血症，低γグロブリン血症，浮腫，発熱，排液困難，除水機能低下，腹腔内圧の上昇，ヘルニア・痔核の発現
(表終了)

ミッドペリックL135腹膜透析液（1L1袋（排液用バッグ付））

両 注射 流通

【YJコード】3420429A2040
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)テルモ
【薬価】1488円/1袋
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析(高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時)
注意
下記に使用。
高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。
ミッドペリックL135，ミッドペリックL250，ミッドペリックL400を適宜組み合わせるか，単独使用し，1日4回 連続操作を継続。
適宜増減。注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．注入量及び交換回数
注入量(容量設定)は，下表を目安。交換回数は1日4回。
(表開始)
体重50kg未満 1．5L容量使用
体重50kg以上 2L容量使用
(表終了)
2L貯留をしている患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，1日5回以上の透析交換に不都合のある時に，腹腔内容積や肺活量に応じて(体重60kg以上を目安)2Lにかえ
2．5L容量を適用。
2．組み合わせ処方
ミッドペリックL135，ミッドペリックL250，ミッドペリックL400の1日の組み合わせ処方は，下表の推定除水量を参考。
ミッドペリックL400は，高張液であり，単独投与で脱水症状の可能性，適宜ミッドペリックL135，ミッドペリックL250を組み合わせて投与。
(表開始)
1日の組み合わせ処方 1日の組み合わせ処方 1日の組み合わせ処方 推定除水量(mL) 推定除水量(mL)
ミッドペリックL135 ミッドペリックL250 ミッドペリックL400 1．5L容量 2L容量
0 1 3 2000 2550
0 2 2 1800 2300
1 0 3 1800 2300
0 3 1 1600 2050
1 1 2 1600 2050
1 2 1 1400 1800
2 0 2 1400 1800
0 4 0 1400 1800
1 3 0 1200 1550
2 1 1 1200 1550
2 2 0 1000 1300
3 0 1 1000 1300
3 1 0 800 1050
4 0 0 600 800
(表終了)

■禁忌

【禁忌】1．横隔膜欠損。
2．腹部に挫滅傷・熱傷。
3．高度の腹膜癒着。
4．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5．乳酸代謝障害の疑い。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．循環器障害(頻度不明)(急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等)。
2．高血糖(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
精神神経系 筋痙攣
消化器 悪心・嘔吐，腹痛，腹部膨満感，下痢，便秘
内分泌系 副甲状腺ホルモン上昇
肝臓 AI－P上昇
代謝・栄養 低カリウム血症，低カルシウム血症，低マグネシウム血症，高乳酸血症，代謝性アルカローシス，高コレステロール血症，高トリグリセライド血症，低HDLコレステロール血症，食思不振
その他 牽引痛，浮腫，発熱，排液困難，除水機能低下，腹水の漏出，蛋白・アミノ酸・水溶性ビタミンの著しい喪失
(表終了)

ミッドペリックL135腹膜透析液（1．5L1袋（排液用バッグ付））

両 注射 流通

【YJコード】3420429A4043
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)テルモ
【薬価】1591円/1袋
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析(高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時)
注意
下記に使用。
高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。
ミッドペリックL135，ミッドペリックL250，ミッドペリックL400を適宜組み合わせるか，単独使用し，1日4回 連続操作を継続。
適宜増減。注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．注入量及び交換回数
注入量(容量設定)は，下表を目安。交換回数は1日4回。
(表開始)
体重50kg未満 1．5L容量使用
体重50kg以上 2L容量使用
(表終了)
2L貯留をしている患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，1日5回以上の透析交換に不都合のある時に，腹腔内容積や肺活量に応じて(体重60kg以上を目安)2Lにかえ
2．5L容量を適用。
2．組み合わせ処方
ミッドペリックL135，ミッドペリックL250，ミッドペリックL400の1日の組み合わせ処方は，下表の推定除水量を参考。
ミッドペリックL400は，高張液であり，単独投与で脱水症状の可能性，適宜ミッドペリックL135，ミッドペリックL250を組み合わせて投与。
(表開始)
1日の組み合わせ処方 1日の組み合わせ処方 1日の組み合わせ処方 推定除水量(mL) 推定除水量(mL)
ミッドペリックL135 ミッドペリックL250 ミッドペリックL400 1．5L容量 2L容量
0 1 3 2000 2550
0 2 2 1800 2300
1 0 3 1800 2300
0 3 1 1600 2050
1 1 2 1600 2050
1 2 1 1400 1800
2 0 2 1400 1800
0 4 0 1400 1800
1 3 0 1200 1550
2 1 1 1200 1550
2 2 0 1000 1300
3 0 1 1000 1300
3 1 0 800 1050

3 代謝性医薬品

4 0 0 600 800
（表終了）

■禁忌

【禁忌】1. 横隔膜欠損。
2. 腹部に挫滅傷・熱傷。
3. 高度の腹膜癒着。
4. 尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5. 乳酸代謝障害の疑い。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 循環器障害（頻度不明）（急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等）。
2. 高血糖（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
精神神経系 筋痙攣
消化器 悪心・嘔吐，腹痛，腹部膨満感，下痢，便秘
内分泌系 副甲状腺ホルモン上昇
肝臓 AI－P上昇
代謝・栄養 低カリウム血症，低カルシウム血症，低マグネシウム血症，高乳酸血症，代謝性アルカローシス，高コレステロール血症，高トリグリセライド血症，低HDLコレステロール血症，食思不振
その他 牽引痛，浮腫，発熱，排液困難，除水機能低下，腹水の漏出，蛋白・アミノ酸・水溶性ビタミンの著しい喪失
（表終了）

ミッドペリックL135腹膜透析液（2L1袋）

両 注射 流通

【YJコード】3420429A5040
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)テルモ
【薬価】1297円/1袋
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析（高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時）
注意
下記に使用。
高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。
ミッドペリックL135，ミッドペリックL250，ミッドペリックL400を適宜組み合わせるか，単独使用し，1日4回 連続操作を継続。
適宜増減。注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．注入量及び交換回数
注入量（容量設定）は，下表を目安。交換回数は1日4回。
（表開始）
体重50kg未満 1．5L容量使用
体重50kg以上 2L容量使用
（表終了）
2L貯留をしている患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，1日5回以上の透析交換に不都合のある時に，腹腔内容積や肺活量に応じて（体重60kg以上を目安）2Lにかえ
2．5L容量を適用。
2．組み合わせ処方
ミッドペリックL135，ミッドペリックL250，ミッドペリックL400の1日の組み合わせ処方は，下表の推定除水量を参考。
ミッドペリックL400は，高張液であり，単独投与で脱水症状の可能性，適宜ミッドペリックL135，ミッドペリックL250を組み合わせて投与。
（表開始）
1日の組み合わせ処方 1日の組み合わせ処方 1日の組み合わせ処方 推定除水量（mL） 推定除水量（mL）
ミッドペリックL135 ミッドペリックL250 ミッドペリックL400 1．5L容量 2L容量
0 1 3 2000 2550
0 2 2 1800 2300
1 0 3 1800 2300
0 3 1 1600 2050
1 1 2 1600 2050
1 2 1 1400 1800
2 0 2 1400 1800
0 4 0 1400 1800
1 3 0 1200 1550
2 1 1 1200 1550
2 2 0 1000 1300
3 0 1 1000 1300
3 1 0 800 1050
4 0 0 600 800
（表終了）

■禁忌

【禁忌】1. 横隔膜欠損。
2. 腹部に挫滅傷・熱傷。
3. 高度の腹膜癒着。
4. 尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5. 乳酸代謝障害の疑い。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 循環器障害（頻度不明）（急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等）。
2. 高血糖（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
精神神経系 筋痙攣
消化器 悪心・嘔吐，腹痛，腹部膨満感，下痢，便秘
内分泌系 副甲状腺ホルモン上昇
肝臓 AI－P上昇
代謝・栄養 低カリウム血症，低カルシウム血症，低マグネシウム血症，高乳酸血症，代謝性アルカローシス，高コレステロール血症，高トリグリセライド血症，低HDLコレステロール血症，食思不振
その他 牽引痛，浮腫，発熱，排液困難，除水機能低下，腹水の漏出，蛋白・アミノ酸・水溶性ビタミンの著しい喪失
（表終了）

ミッドペリックL135腹膜透析液（2L1袋（排液用バッグ付））

両 注射 流通

【YJコード】3420429A6046
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)テルモ
【薬価】1623円/1袋
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析（高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時）
注意
下記に使用。
高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。
ミッドペリックL135，ミッドペリックL250，ミッドペリックL400を適宜組み合わせるか，単独使用し，1日4回 連続操作を継続。
適宜増減。注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．注入量及び交換回数
注入量（容量設定）は，下表を目安。交換回数は1日4回。
（表開始）
体重50kg未満 1．5L容量使用
体重50kg以上 2L容量使用
（表終了）
2L貯留をしている患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，1日5回以上の透析交換に不都合のある時に，腹腔内容積や肺活量に応じて（体重60kg以上を目安）2Lにかえ
2．5L容量を適用。
2．組み合わせ処方
ミッドペリックL135，ミッドペリックL250，ミッドペリックL400の1日の組み合わせ処方は，下表の推定除水量を参考。
ミッドペリックL400は，高張液であり，単独投与で脱水症状の可能性，適宜ミッドペリックL135，ミッドペリックL250を組み合わせて投与。
（表開始）
1日の組み合わせ処方 1日の組み合わせ処方 1日の組み合わせ処方 推定除水量（mL） 推定除水量（mL）
ミッドペリックL135 ミッドペリックL250 ミッドペリックL400 1．5L容量 2L容量
0 1 3 2000 2550
0 2 2 1800 2300
1 0 3 1800 2300
0 3 1 1600 2050
1 1 2 1600 2050
1 2 1 1400 1800
2 0 2 1400 1800
0 4 0 1400 1800

ミッドペリックL135腹膜透析液

3 代謝性医薬品

１３０ 1200 1550
２１１ 1200 1550
２２０ 1000 1300
３０１ 1000 1300
３１０ 800 1050
４００ 600 800
（表終了）

■禁忌

【禁忌】1. 横隔膜欠損。
2. 腹部に挫滅傷・熱傷。
3. 高度の腹膜癒着。
4. 尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5. 乳酸代謝障害の疑い。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 循環器障害（頻度不明）（急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等）。
2. 高血糖（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
精神神経系 筋痙攣
消化器 悪心・嘔吐，腹痛，腹部膨満感，下痢，便秘
内分泌系 副甲状腺ホルモン上昇
肝臓 AI－P上昇
代謝・栄養 低カリウム血症，低カルシウム血症，低マグネシウム血症，高乳酸血症，代謝性アルカローシス，高コレステロール血症，高トリグリセライド血症，低HDLコレステロール血症，食思不振
その他 牽引痛，浮腫，発熱，排液困難，除水機能低下，腹水の漏出，蛋白・アミノ酸・水溶性ビタミンの著しい喪失
（表終了）

ミッドペリックL135腹膜透析液（2．5L1袋）

両 注射 流通

【YJコード】3420429H1034
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)テルモ
【薬価】1206円/1袋
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析（高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時）
注意
下記に使用。
高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。
ミッドペリックL135，ミッドペリックL250，ミッドペリックL400を適宜組み合わせるか，単独使用し，1日4回 連続操作を継続。
適宜増減。注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．注入量及び交換回数
注入量（容量設定）は，下表を目安。交換回数は1日4回。
（表開始）
体重50kg未満 1．5L容量使用
体重50kg以上 2L容量使用
（表終了）
2L貯留をしている患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，1日5回以上の透析交換に不都合のある時に，腹腔内容積や肺活量に応じて（体重60kg以上を目安）2Lにかえ2．5L容量を適用。
2．組み合わせ処方
ミッドペリックL135，ミッドペリックL250，ミッドペリックL400の1日の組み合わせ処方は，下表の推定除水量を参考。
ミッドペリックL400は，高張液であり，単独投与で脱水症状の可能性，適宜ミッドペリックL135，ミッドペリックL250を組み合わせて投与。
（表開始）
1日の組み合わせ処方 1日の組み合わせ処方 1日の組み合わせ処方 推定除水量（mL） 推定除水量（mL）
ミッドペリックL135 ミッドペリックL250 ミッドペリックL400 1．5L容量 2L容量
０１３ 2000 2550
０２２ 1800 2300
１０３ 1800 2300
０３１ 1600 2050
１１２ 1600 2050
１２１ 1400 1800
２０２ 1400 1800
０４０ 1400 1800
１３０ 1200 1550
２１１ 1200 1550
２２０ 1000 1300
３０１ 1000 1300
３１０ 800 1050
４００ 600 800
（表終了）

■禁忌

【禁忌】1. 横隔膜欠損。
2. 腹部に挫滅傷・熱傷。
3. 高度の腹膜癒着。
4. 尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5. 乳酸代謝障害の疑い。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 循環器障害（頻度不明）（急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等）。
2. 高血糖（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
精神神経系 筋痙攣
消化器 悪心・嘔吐，腹痛，腹部膨満感，下痢，便秘
内分泌系 副甲状腺ホルモン上昇
肝臓 AI－P上昇
代謝・栄養 低カリウム血症，低カルシウム血症，低マグネシウム血症，高乳酸血症，代謝性アルカローシス，高コレステロール血症，高トリグリセライド血症，低HDLコレステロール血症，食思不振
その他 牽引痛，浮腫，発熱，排液困難，除水機能低下，腹水の漏出，蛋白・アミノ酸・水溶性ビタミンの著しい喪失
（表終了）

ミッドペリックL250腹膜透析液（1L1袋（排液用バッグ付））

両 注射 流通

【YJコード】3420430A2043
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)テルモ
【薬価】1453円/1袋
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析（高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時）
注意
下記に使用。
高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。
ミッドペリックL135，ミッドペリックL250，ミッドペリックL400を適宜組み合わせるか，単独使用し，1日4回 連続操作を継続。
適宜増減。注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．注入量及び交換回数
注入量（容量設定）は，下表を目安。交換回数は1日4回。
（表開始）
体重50kg未満 1．5L容量使用
体重50kg以上 2L容量使用
（表終了）
2L貯留をしている患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，1日5回以上の透析交換に不都合のある時に，腹腔内容積や肺活量に応じて（体重60kg以上を目安）2Lにかえ2．5L容量を適用。
2．組み合わせ処方
ミッドペリックL135，ミッドペリックL250，ミッドペリックL400の1日の組み合わせ処方は，下表の推定除水量を参考。
ミッドペリックL400は，高張液であり，単独投与で脱水症状の可能性，適宜ミッドペリックL135，ミッドペリックL250を組み合わせて投与。
（表開始）
1日の組み合わせ処方 1日の組み合わせ処方 1日の組み合わせ処方 推定除水量（mL） 推定除水量（mL）
ミッドペリックL135 ミッドペリックL250 ミッドペリックL400 1．5L容量 2L容量
０１３ 2000 2550
０２２ 1800 2300

3 代謝性医薬品

１０３ 1800 2300
０３１ 1600 2050
１１２ 1600 2050
１２１ 1400 1800
２０２ 1400 1800
０４０ 1400 1800
１３０ 1200 1550
２１１ 1200 1550
２２０ 1000 1300
３０１ 1000 1300
３１０ 800 1050
４００ 600 800
（表終了）

■禁忌

【禁忌】1．横隔膜欠損。
2．腹部に挫滅傷・熱傷。
3．高度の腹膜癒着。
4．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5．乳酸代謝障害の疑い。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．循環器障害（頻度不明）（急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等）。
2．高血糖（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
精神神経系 筋痙攣
消化器 悪心・嘔吐，腹痛，腹部膨満感，下痢，便秘
内分泌系 副甲状腺ホルモン上昇
肝臓 AI－P上昇
代謝・栄養 低カリウム血症，低カルシウム血症，低マグネシウム血症，高乳酸血症，代謝性アルカローシス，高コレステロール血症，高トリグリセライド血症，低HDLコレステロール血症，食思不振
その他 牽引痛，浮腫，発熱，排液困難，除水機能低下，腹水の漏出，蛋白・アミノ酸・水溶性ビタミンの著しい喪失
（表終了）

ミッドペリックL250腹膜透析液（1．5L1袋（排液用バッグ付））

両 注射 流通

【YJコード】3420430A4046
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)テルモ
【薬価】1538円/1袋
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析（高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時）
注意
下記に使用。
高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。
ミッドペリックL135，ミッドペリックL250，ミッドペリックL400を適宜組み合わせるか，単独使用し，1日4回 連続操作を継続。
適宜増減。注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．注入量及び交換回数
注入量（容量設定）は，下表を目安。交換回数は1日4回。
（表開始）
体重50kg未満 1．5L容量使用
体重50kg以上 2L容量使用
（表終了）
2L貯留をしている患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，1日5回以上の透析交換に不都合のある時に，腹腔内容積や肺活量に応じて（体重60kg以上を目安）2Lにかえ
2．5L容量を適用。
2．組み合わせ処方
ミッドペリックL135，ミッドペリックL250，ミッドペリックL400の1日の組み合わせ処方は，下表の推定除水量を参考。
ミッドペリックL400は，高張液であり，単独投与で脱水症状の可能性，適宜ミッドペリックL135，ミッドペリックL250を組み合わせて投与。
（表開始）
1日の組み合わせ処方 1日の組み合わせ処方 1日の組み合わせ処方
推定除水量（mL） 推定除水量（mL）
ミッドペリックL135 ミッドペリックL250 ミッドペリックL400 1．5L容量
2L容量
０１３ 2000 2550
０２２ 1800 2300
１０３ 1800 2300
０３１ 1600 2050
１１２ 1600 2050
１２１ 1400 1800
２０２ 1400 1800
０４０ 1400 1800
１３０ 1200 1550
２１１ 1200 1550
２２０ 1000 1300
３０１ 1000 1300
３１０ 800 1050
４００ 600 800
（表終了）

■禁忌

【禁忌】1．横隔膜欠損。
2．腹部に挫滅傷・熱傷。
3．高度の腹膜癒着。
4．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5．乳酸代謝障害の疑い。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．循環器障害（頻度不明）（急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等）。
2．高血糖（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
精神神経系 筋痙攣
消化器 悪心・嘔吐，腹痛，腹部膨満感，下痢，便秘
内分泌系 副甲状腺ホルモン上昇
肝臓 AI－P上昇
代謝・栄養 低カリウム血症，低カルシウム血症，低マグネシウム血症，高乳酸血症，代謝性アルカローシス，高コレステロール血症，高トリグリセライド血症，低HDLコレステロール血症，食思不振
その他 牽引痛，浮腫，発熱，排液困難，除水機能低下，腹水の漏出，蛋白・アミノ酸・水溶性ビタミンの著しい喪失
（表終了）

ミッドペリックL250腹膜透析液（2L1袋）

両 注射 流通

【YJコード】3420430A5042
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)テルモ
【薬価】1363円/1袋
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析（高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時）
注意
下記に使用。
高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。
ミッドペリックL135，ミッドペリックL250，ミッドペリックL400を適宜組み合わせるか，単独使用し，1日4回 連続操作を継続。
適宜増減。注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．注入量及び交換回数
注入量（容量設定）は，下表を目安。交換回数は1日4回。
（表開始）
体重50kg未満 1．5L容量使用
体重50kg以上 2L容量使用
（表終了）
2L貯留をしている患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，1日5回以上の透析交換に不都合のある時に，腹腔内容積や肺活量に応じて（体重60kg以上を目安）2Lにかえ
2．5L容量を適用。
2．組み合わせ処方
ミッドペリックL135，ミッドペリックL250，ミッドペリックL400の1日の組み合わせ処方は，下表の推定除水量を参考。
ミッドペリックL400は，高張液であり，単独投与で脱水症状の可能性，適宜ミッドペリックL135，ミッドペリックL250を組み合わせて投与。
（表開始）
1日の組み合わせ処方 1日の組み合わせ処方 1日の組み合わせ処方

ミッドペリックL250腹膜透析液

3 代謝性医薬品

推定除水量(mL) 推定除水量(mL)
ミッドペリックL135 ミッドペリックL250 ミッドペリックL400 1．5L容量
2L容量
０１３ 2000 2550
０２２ 1800 2300
１０３ 1800 2300
０３１ 1600 2050
１１２ 1600 2050
１２１ 1400 1800
２０２ 1400 1800
０４０ 1400 1800
１３０ 1200 1550
２１１ 1200 1550
２２０ 1000 1300
３０１ 1000 1300
３１０ 800 1050
４００ 600 800
(表終了)

■禁忌
【禁忌】1．横隔膜欠損。
2．腹部に挫滅傷・熱傷。
3．高度の腹膜癒着。
4．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5．乳酸代謝障害の疑い。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．循環器障害(頻度不明)(急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等)。
2．高血糖(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
精神神経系 筋痙攣
消化器 悪心・嘔吐，腹痛，腹部膨満感，下痢，便秘
内分泌系 副甲状腺ホルモン上昇
肝臓 AI－P上昇
代謝・栄養 低カリウム血症，低カルシウム血症，低マグネシウム血症，高乳酸血症，代謝性アルカローシス，高コレステロール血症，高トリグリセライド血症，低HDLコレステロール血症，食思不振
その他 牽引痛，浮腫，発熱，排液困難，除水機能低下，腹水の漏出，蛋白・アミノ酸・水溶性ビタミンの著しい喪失
(表終了)

ミッドペリックL250腹膜透析液（2L1袋（排液用バッグ付））

両 注射 流通

【YJコード】3420430A6049
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)テルモ
【薬価】1656円/1袋
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析(高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時)
注意
下記に使用。
高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。
ミッドペリックL135，ミッドペリックL250，ミッドペリックL400を適宜組み合わせるか，単独使用し，1日4回 連続操作を継続。
適宜増減。注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．注入量及び交換回数
注入量(容量設定)は，下表を目安。交換回数は1日4回。
(表開始)
体重50kg未満 1．5L容量使用
体重50kg以上 2L容量使用
(表終了)
2L貯留をしている患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，1日5回以上の透析交換に不都合のある時に，腹腔内容積や肺活量に応じて(体重60kg以上を目安)2Lにかえ
2．5L容量を適用。
2．組み合わせ処方
ミッドペリックL135，ミッドペリックL250，ミッドペリックL400の1日の組み合わせ処方は，下表の推定除水量を参考。
ミッドペリックL400は，高張液であり，単独投与で脱水症状の可能性，適宜ミッドペリックL135，ミッドペリックL250を組み合わせて投与。
(表開始)
1日の組み合わせ処方 1日の組み合わせ処方 1日の組み合わせ処方
推定除水量(mL) 推定除水量(mL)
ミッドペリックL135 ミッドペリックL250 ミッドペリックL400 1．5L容量
2L容量
０１３ 2000 2550
０２２ 1800 2300
１０３ 1800 2300
０３１ 1600 2050
１１２ 1600 2050
１２１ 1400 1800
２０２ 1400 1800
０４０ 1400 1800
１３０ 1200 1550
２１１ 1200 1550
２２０ 1000 1300
３０１ 1000 1300
３１０ 800 1050
４００ 600 800
(表終了)

■禁忌
【禁忌】1．横隔膜欠損。
2．腹部に挫滅傷・熱傷。
3．高度の腹膜癒着。
4．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5．乳酸代謝障害の疑い。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．循環器障害(頻度不明)(急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等)。
2．高血糖(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
精神神経系 筋痙攣
消化器 悪心・嘔吐，腹痛，腹部膨満感，下痢，便秘
内分泌系 副甲状腺ホルモン上昇
肝臓 AI－P上昇
代謝・栄養 低カリウム血症，低カルシウム血症，低マグネシウム血症，高乳酸血症，代謝性アルカローシス，高コレステロール血症，高トリグリセライド血症，低HDLコレステロール血症，食思不振
その他 牽引痛，浮腫，発熱，排液困難，除水機能低下，腹水の漏出，蛋白・アミノ酸・水溶性ビタミンの著しい喪失
(表終了)

ミッドペリックL250腹膜透析液（2．5L1袋）

両 注射 流通

【YJコード】3420430H1037
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)テルモ
【薬価】1406円/1袋
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析(高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時)
注意
下記に使用。
高マグネシウム血症や代謝性アシドーシスの改善が不十分で，炭酸カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時。
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。
ミッドペリックL135，ミッドペリックL250，ミッドペリックL400を適宜組み合わせるか，単独使用し，1日4回 連続操作を継続。
適宜増減。注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．注入量及び交換回数
注入量(容量設定)は，下表を目安。交換回数は1日4回。
(表開始)
体重50kg未満 1．5L容量使用
体重50kg以上 2L容量使用
(表終了)
2L貯留をしている患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，1日5回以上の透析交換に不都合のある時に，腹腔内容積や肺活量に応じて(体重60kg以上を目安)2Lにかえ
2．5L容量を適用。
2．組み合わせ処方

ミッドペリックL250腹膜透析液

3 代謝性医薬品

ミッドペリックL135，ミッドペリックL250，ミッドペリックL400の1日の組み合わせ処方は，下表の推定除水量を参考。
ミッドペリックL400は，高張液であり，単独投与で脱水症状の可能性，適宜ミッドペリックL135，ミッドペリックL250を組み合わせて投与。
（表開始）
1日の組み合わせ処方 1日の組み合わせ処方 1日の組み合わせ処方 推定除水量（mL） 推定除水量（mL）
ミッドペリックL135 ミッドペリックL250 ミッドペリックL400 1．5L容量 2L容量
0 1 3 2000 2550
0 2 2 1800 2300
1 0 3 1800 2300
0 3 1 1600 2050
1 1 2 1600 2050
1 2 1 1400 1800
2 0 2 1400 1800
0 4 0 1400 1800
1 3 0 1200 1550
2 1 1 1200 1550
2 2 0 1000 1300
3 0 1 1000 1300
3 1 0 800 1050
4 0 0 600 800
（表終了）

■禁忌
【禁忌】1．横隔膜欠損。
2．腹部に挫滅傷・熱傷。
3．高度の腹膜癒着。
4．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5．乳酸代謝障害の疑い。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．循環器障害（頻度不明）（急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等）。
2．高血糖（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
精神神経系 筋痙攣
消化器 悪心・嘔吐，腹痛，腹部膨満感，下痢，便秘
内分泌系 副甲状腺ホルモン上昇
肝臓 AI－P上昇
代謝・栄養 低カリウム血症，低カルシウム血症，低マグネシウム血症，高乳酸血症，代謝性アルカローシス，高コレステロール血症，高トリグリセライド血症，低HDLコレステロール血症，食思不振
その他 牽引痛，浮腫，発熱，排液困難，除水機能低下，腹水の漏出，蛋白・アミノ酸・水溶性ビタミンの著しい喪失
（表終了）

レギュニール LCa 1．5腹膜透析液（1L1袋（排液用バッグ付））

両 注射 流通

【YJコード】3420436A1028
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ヴァンティブ
【薬価】1151円/1袋
【薬価収載日】2013/11/29
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析（高マグネシウム血症の改善が不十分で，カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時）
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。体液過剰が1kg／日以下 レギュニール LCa 1．5のみ 1日3～4回 連続操作を継続。体液過剰が1kg／日以上 レギュニール LCa 2．5 1日1～4回，又はレギュニール LCa 4．25 1日1～2回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ 1日3～5回 連続操作を継続。適宜増減。注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．体液過剰が1kg／日以下の場合，レギュニール LCa 1．5のみを1日に3～4回交換使用。体液過剰が1kg／日以上の場合，レギュニール LCa 2．5を1日に1～4回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ交換使用。レギュニール LCa 4．25は高浸透圧液で，脱水の可能性，急速な除水や多量の除水を必要とし，体液過剰が1kg／日以上の場合，レギュニール LCa 4．25を1日に1～2回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ交換使用。体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。
2．本剤の2．5Lは2L貯留を施行しているCAPD患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，又は1日5回以上の透析液交換に不都合を感じている時に，腹腔内容積や肺活量に応じて（体重60kg以上を目安）2Lにかえる。
3．使用直前に上室液と下室液の2液をよく混合し，混合後は速やかに使用。誤って下室液のみを注入時（注入量が1000mL未満の時に気付かないおそれ）には，腹痛・代謝性アルカローシスのおそれ。
混合操作
ツインバッグ，UVツインバッグ
（1）．バッグを外袋から取り出す。
（2）．混合隔壁・注液隔壁に開通がないことを確認。
（3）．本剤のクランプを両方とも閉める。
（4）．上室側を強くつかみ混合隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，混合隔壁を開通。
（5）．さらに圧力をかけ，注液隔壁を開通。
（6）．両手で交互に押し，混合。
シングルバッグ・機器専用
（1）．バッグを外袋から取り出す。
（2）．混合隔壁・注液隔壁に開通がないことを確認。
（3）．上室側を強くつかみ混合隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，混合隔壁を開通。
（4）．さらに圧力をかけ，注液隔壁を開通。
（5）．両手で交互に押し，混合。

■禁忌
【禁忌】1．横隔膜欠損。
2．腹部に挫滅傷・熱傷。
3．高度の腹膜癒着。
4．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5．乳酸代謝障害の疑い。

■副作用
【副作用】重大な副作用
心・血管障害（頻度不明）（急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満
一般・全身障害・投与部位の状態 末梢性浮腫 顔面浮腫，倦怠感
傷害，中毒・処置合併症 － 処置合併症
臨床検査 体重増加 アラニンアミノトランスフェラーゼ増加，アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ増加，血中ブドウ糖増加，血中乳酸脱水素酵素増加，血圧上昇，血中トリグリセリド減少，血中トリグリセリド増加，血中尿酸増加，C－反応性蛋白増加，心胸郭比増加，線維素溶解減少，γ－グルタミルトランスフェラーゼ増加，血小板数減少
代謝・栄養障害 体液貯留 低血糖
皮膚・皮下組織障害 － 掻痒症
血管障害 － 高血圧
（表終了）

レギュニール LCa 1．5腹膜透析液（1．5L1袋（排液用バッグ付））

両 注射 流通

【YJコード】3420436A2024
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ヴァンティブ
【薬価】1351円/1袋
【薬価収載日】2013/11/29
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析（高マグネシウム血症の改善が不十分で，カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時）
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。体液過剰が1kg／日以下 レギュニール LCa 1．5のみ 1日3～4回 連続操作を継続。体液過剰が1kg／日以上 レギュニール LCa 2．5 1日1～4回，又はレギュニール LCa 4．25 1日1～2回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ 1日3～5回 連続操作を継続。適宜増減。注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．体液過剰が1kg／日以下の場合，レギュニール LCa 1．5のみを1日に3～4回交換使用。体液過剰が1kg／日以上の場合，レギュニール LCa 2．5を1日に1～4回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ交換使用。レギュニール LCa 4．25は高浸透圧液で，脱水の可能性，急速な除水や多量の除水を必要とし，体液過剰が1kg／日以上の場合，レギュニール LCa 4．25を1日に1～2回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ交換使用。体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。
2．本剤の2．5Lは2L貯留を施行しているCAPD患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，又は1日5回以上の透析液交換に不都合を感じている時に，腹腔内容積や肺活量に応じて（体重60kg以上を目安）2Lにかえる。
3．使用直前に上室液と下室液の2液をよく混合し，混合後は速やかに使用。誤って下室液のみを注入時（注入量が1000mL未満の時に気付かないおそれ）には，腹痛・代謝性アルカローシスのおそれ。

3 代謝性医薬品

混合操作
ツインバッグ，UVツインバッグ
(1). バッグを外袋から取り出す。
(2). 混合隔壁・注液隔壁に開通がないことを確認。
(3). 本剤のクランプを両方とも閉める。
(4). 上室側を強くつかみ混合隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，混合隔壁を開通。
(5). さらに圧力をかけ，注液隔壁を開通。
(6). 両手で交互に押し，混合。
シングルバッグ・機器専用
(1). バッグを外袋から取り出す。
(2). 混合隔壁・注液隔壁に開通がないことを確認。
(3). 上室側を強くつかみ混合隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，混合隔壁を開通。
(4). さらに圧力をかけ，注液隔壁を開通。
(5). 両手で交互に押し，混合。

■禁忌
【禁忌】1. 横隔膜欠損。
2. 腹部に挫滅傷・熱傷。
3. 高度の腹膜癒着。
4. 尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5. 乳酸代謝障害の疑い。

■副作用
【副作用】重大な副作用
心・血管障害(頻度不明)(急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満
一般・全身障害・投与部位の状態 末梢性浮腫 顔面浮腫，倦怠感
傷害，中毒・処置合併症 ― 処置合併症
臨床検査 体重増加 アラニンアミノトランスフェラーゼ増加，アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ増加，血中ブドウ糖増加，血中乳酸脱水素酵素増加，血圧上昇，血中トリグリセリド減少，血中トリグリセリド増加，血中尿酸増加，C－反応性蛋白増加，心胸郭比増加，線維素溶解減少，γ－グルタミルトランスフェラーゼ増加，血小板数減少
代謝・栄養障害 体液貯留 低血糖
皮膚・皮下組織障害 ― 掻痒症
血管障害 ― 高血圧
(表終了)

レギュニール LCa 1．5腹膜透析液（2L1袋(排液用バッグ付)）

両 注射 流通

【YJコード】3420436A3020
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ヴァンティブ
【薬価】1522円/1袋
【薬価収載日】2013/11/29
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析(高マグネシウム血症の改善が不十分で，カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時)
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。体液過剰が1kg／日以下 レギュニール LCa 1．5のみ 1日3～4回 連続操作を継続。体液過剰が1kg／日以上 レギュニール LCa 2．5 1日1～4回，又はレギュニール LCa 4．25 1日1～2回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ 1日3～5回 連続操作を継続。適宜増減。注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1. 体液過剰が1kg／日以下の場合，レギュニール LCa 1．5のみを1日に3～4回交換使用。体液過剰が1kg／日以上の場合，レギュニール LCa 2．5を1日に1～4回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ交換使用。レギュニール LCa 4．25は高浸透圧液で，脱水の可能性，急速な除水や多量の除水を必要とし，体液過剰が1kg／日以上の場合，レギュニール LCa 4．25を1日に1～2回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ交換使用。体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。
2. 本剤の2．5Lは2L貯留を施行しているCAPD患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，又は1日5回以上の透析液交換に不都合を感じている時に，腹腔内容積や肺活量に応じて(体重60kg以上を目安)2Lにかえる。
3. 使用直前に上室液と下室液の2液をよく混合し，混合後は速やかに使用。誤って下室液のみを注入時(注入量が1000mL未満の時に気付かないおそれ)には，腹痛・代謝性アルカローシスのおそれ。
混合操作
ツインバッグ，UVツインバッグ
(1). バッグを外袋から取り出す。
(2). 混合隔壁・注液隔壁に開通がないことを確認。
(3). 本剤のクランプを両方とも閉める。
(4). 上室側を強くつかみ混合隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，混合隔壁を開通。
(5). さらに圧力をかけ，注液隔壁を開通。
(6). 両手で交互に押し，混合。
シングルバッグ・機器専用
(1). バッグを外袋から取り出す。
(2). 混合隔壁・注液隔壁に開通がないことを確認。
(3). 上室側を強くつかみ混合隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，混合隔壁を開通。
(4). さらに圧力をかけ，注液隔壁を開通。
(5). 両手で交互に押し，混合。

■禁忌
【禁忌】1. 横隔膜欠損。
2. 腹部に挫滅傷・熱傷。
3. 高度の腹膜癒着。
4. 尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5. 乳酸代謝障害の疑い。

■副作用
【副作用】重大な副作用
心・血管障害(頻度不明)(急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満
一般・全身障害・投与部位の状態 末梢性浮腫 顔面浮腫，倦怠感
傷害，中毒・処置合併症 ― 処置合併症
臨床検査 体重増加 アラニンアミノトランスフェラーゼ増加，アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ増加，血中ブドウ糖増加，血中乳酸脱水素酵素増加，血圧上昇，血中トリグリセリド減少，血中トリグリセリド増加，血中尿酸増加，C－反応性蛋白増加，心胸郭比増加，線維素溶解減少，γ－グルタミルトランスフェラーゼ増加，血小板数減少
代謝・栄養障害 体液貯留 低血糖
皮膚・皮下組織障害 ― 掻痒症
血管障害 ― 高血圧
(表終了)

レギュニール LCa 1．5腹膜透析液（2．5L1袋）

両 注射 流通

【YJコード】3420436A4027
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ヴァンティブ
【薬価】1670円/1袋
【薬価収載日】2013/11/29
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析(高マグネシウム血症の改善が不十分で，カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時)
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。体液過剰が1kg／日以下 レギュニール LCa 1．5のみ 1日3～4回 連続操作を継続。体液過剰が1kg／日以上 レギュニール LCa 2．5 1日1～4回，又はレギュニール LCa 4．25 1日1～2回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ 1日3～5回 連続操作を継続。適宜増減。注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1. 体液過剰が1kg／日以下の場合，レギュニール LCa 1．5のみを1日に3～4回交換使用。体液過剰が1kg／日以上の場合，レギュニール LCa 2．5を1日に1～4回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ交換使用。レギュニール LCa 4．25は高浸透圧液で，脱水の可能性，急速な除水や多量の除水を必要とし，体液過剰が1kg／日以上の場合，レギュニール LCa 4．25を1日に1～2回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ交換使用。体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。
2. 本剤の2．5Lは2L貯留を施行しているCAPD患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，又は1日5回以上の透析液交換に不都合を感じている時に，腹腔内容積や肺活量に応じて(体重60kg以上を目安)2Lにかえる。
3. 使用直前に上室液と下室液の2液をよく混合し，混合後は速やかに使用。誤って下室液のみを注入時(注入量が1000mL未満の時に気付かないおそれ)には，腹痛・代謝性アルカローシスのおそれ。
混合操作
ツインバッグ，UVツインバッグ
(1). バッグを外袋から取り出す。
(2). 混合隔壁・注液隔壁に開通がないことを確認。
(3). 本剤のクランプを両方とも閉める。
(4). 上室側を強くつかみ混合隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，混合隔壁を開通。
(5). さらに圧力をかけ，注液隔壁を開通。

レギュニール LCa 1．5腹膜透析液

3 代謝性医薬品

(6). 両手で交互に押し，混合。
シングルバッグ・機器専用
(1). バッグを外袋から取り出す。
(2). 混合隔壁・注液隔壁に開通がないことを確認。
(3). 上室側を強くつかみ混合隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，混合隔壁を開通。
(4). さらに圧力をかけ，注液隔壁を開通。
(5). 両手で交互に押し，混合。

■禁忌
【禁忌】1. 横隔膜欠損。
2. 腹部に挫滅傷・熱傷。
3. 高度の腹膜癒着。
4. 尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5. 乳酸代謝障害の疑い。

■副作用
【副作用】重大な副作用
心・血管障害(頻度不明)(急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満
一般・全身障害・投与部位の状態 末梢性浮腫 顔面浮腫，倦怠感
傷害，中毒・処置合併症 ― 処置合併症
臨床検査 体重増加 アラニンアミノトランスフェラーゼ増加，アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ増加，血中ブドウ糖増加，血中乳酸脱水素酵素増加，血圧上昇，血中トリグリセリド減少，血中トリグリセリド増加，血中尿酸増加，C－反応性蛋白増加，心胸郭比増加，線維素溶解減少，γ－グルタミルトランスフェラーゼ増加，血小板数減少
代謝・栄養障害 体液貯留 低血糖
皮膚・皮下組織障害 ― 掻痒症
血管障害 ― 高血圧
(表終了)

レギュニール LCa 1．5腹膜透析液（5L1袋）

両 注射 流通

【YJコード】3420436A5023
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ヴァンティブ
【薬価】2188円/1袋
【薬価収載日】2013/11/29
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析(高マグネシウム血症の改善が不十分で，カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時)
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。体液過剰が1kg／日以下 レギュニール LCa 1．5のみ 1日3～4回 連続操作を継続。体液過剰が1kg／日以上 レギュニール LCa 2．5 1日1～4回，又はレギュニール LCa 4．25 1日1～2回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ 1日3～5回 連続操作を継続。適宜増減。注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．体液過剰が1kg／日以下の場合，レギュニール LCa 1．5のみを1日に3～4回交換使用。体液過剰が1kg／日以上の場合，レギュニール LCa 2．5を1日に1～4回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ交換使用。レギュニール LCa 4．25は高浸透圧液で，脱水の可能性，急速な除水や多量の除水を必要とし，体液過剰が1kg／日以上の場合，レギュニール LCa 4．25を1日に1～2回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ交換使用。体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。
2．本剤の2．5Lは2L貯留を施行しているCAPD患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，又は1日5回以上の透析液交換に不都合を感じている時に，腹腔内容積や肺活量に応じて(体重60kg以上を目安)2Lにかえる。
3．使用直前に上室液と下室液の2液をよく混合し，混合後は速やかに使用。誤って下室液のみを注入時(注入量が1000mL未満の時に気付かないおそれ)には，腹痛・代謝性アルカローシスのおそれ。
混合操作
ツインバッグ，UVツインバッグ
(1). バッグを外袋から取り出す。
(2). 混合隔壁・注液隔壁に開通がないことを確認。
(3). 本剤のクランプを両方とも閉める。
(4). 上室側を強くつかみ混合隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，混合隔壁を開通。
(5). さらに圧力をかけ，注液隔壁を開通。
(6). 両手で交互に押し，混合。
シングルバッグ・機器専用
(1). バッグを外袋から取り出す。
(2). 混合隔壁・注液隔壁に開通がないことを確認。
(3). 上室側を強くつかみ混合隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，混合隔壁を開通。
(4). さらに圧力をかけ，注液隔壁を開通。
(5). 両手で交互に押し，混合。

■禁忌
【禁忌】1. 横隔膜欠損。
2. 腹部に挫滅傷・熱傷。
3. 高度の腹膜癒着。
4. 尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5. 乳酸代謝障害の疑い。

■副作用
【副作用】重大な副作用
心・血管障害(頻度不明)(急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満
一般・全身障害・投与部位の状態 末梢性浮腫 顔面浮腫，倦怠感
傷害，中毒・処置合併症 ― 処置合併症
臨床検査 体重増加 アラニンアミノトランスフェラーゼ増加，アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ増加，血中ブドウ糖増加，血中乳酸脱水素酵素増加，血圧上昇，血中トリグリセリド減少，血中トリグリセリド増加，血中尿酸増加，C－反応性蛋白増加，心胸郭比増加，線維素溶解減少，γ－グルタミルトランスフェラーゼ増加，血小板数減少
代謝・栄養障害 体液貯留 低血糖
皮膚・皮下組織障害 ― 掻痒症
血管障害 ― 高血圧
(表終了)

レギュニール LCa 2．5腹膜透析液（1L1袋(排液用バッグ付)）

両 注射 流通

【YJコード】3420437A1022
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ヴァンティブ
【薬価】1220円/1袋
【薬価収載日】2013/11/29
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析(高マグネシウム血症の改善が不十分で，カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時)
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。体液過剰が1kg／日以下 レギュニール LCa 1．5のみ 1日3～4回 連続操作を継続。体液過剰が1kg／日以上 レギュニール LCa 2．5 1日1～4回，又はレギュニール LCa 4．25 1日1～2回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ 1日3～5回 連続操作を継続。適宜増減。注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．体液過剰が1kg／日以下の場合，レギュニール LCa 1．5のみを1日に3～4回交換使用。体液過剰が1kg／日以上の場合，レギュニール LCa 2．5を1日に1～4回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ交換使用。レギュニール LCa 4．25は高浸透圧液で，脱水の可能性，急速な除水や多量の除水を必要とし，体液過剰が1kg／日以上の場合，レギュニール LCa 4．25を1日に1～2回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ交換使用。体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。
2．本剤の2．5Lは2L貯留を施行しているCAPD患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，又は1日5回以上の透析液交換に不都合を感じている時に，腹腔内容積や肺活量に応じて(体重60kg以上を目安)2Lにかえる。
3．使用直前に上室液と下室液の2液をよく混合し，混合後は速やかに使用。誤って下室液のみを注入時(注入量が1000mL未満の時に気付かないおそれ)には，腹痛・代謝性アルカローシスのおそれ。
混合操作
ツインバッグ，UVツインバッグ
(1). バッグを外袋から取り出す。
(2). 混合隔壁・注液隔壁に開通がないことを確認。
(3). 本剤のクランプを両方とも閉める。
(4). 上室側を強くつかみ混合隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，混合隔壁を開通。
(5). さらに圧力をかけ，注液隔壁を開通。
(6). 両手で交互に押し，混合。
シングルバッグ・機器専用
(1). バッグを外袋から取り出す。
(2). 混合隔壁・注液隔壁に開通がないことを確認。
(3). 上室側を強くつかみ混合隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，混合隔壁を開通。
(4). さらに圧力をかけ，注液隔壁を開通。
(5). 両手で交互に押し，混合。

3 代謝性医薬品

■禁忌
【禁忌】1. 横隔膜欠損。
2. 腹部に挫滅傷・熱傷。
3. 高度の腹膜癒着。
4. 尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5. 乳酸代謝障害の疑い。

■副作用
【副作用】重大な副作用
心・血管障害(頻度不明)(急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満
一般・全身障害・投与部位の状態 末梢性浮腫 顔面浮腫，倦怠感
傷害，中毒・処置合併症 － 処置合併症
臨床検査 体重増加 アラニンアミノトランスフェラーゼ増加，アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ増加，血中ブドウ糖増加，血中乳酸脱水素酵素増加，血圧上昇，血中トリグリセリド減少，血中トリグリセリド増加，血中尿酸増加，C－反応性蛋白増加，心胸郭比増加，線維素溶解減少，γ－グルタミルトランスフェラーゼ増加，血小板数減少
代謝・栄養障害 体液貯留 低血糖
皮膚・皮下組織障害 － 掻痒症
血管障害 － 高血圧
(表終了)

レギュニール LCa 2．5腹膜透析液（1．5 L1袋(排液用バッグ付)）

両 注射 流通

【YJコード】3420437A2029
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ヴァンティブ
【薬価】1347円/1袋
【薬価収載日】2013/11/29
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析(高マグネシウム血症の改善が不十分で，カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時)
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。体液過剰が1kg／日以下 レギュニール LCa 1．5のみ 1日3～4回 連続操作を継続。体液過剰が1kg／日以上 レギュニール LCa 2．5 1日1～4回，又はレギュニール LCa 4．25 1日1～2回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ 1日3～5回 連続操作を継続。適宜増減。注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．体液過剰が1kg／日以下の場合，レギュニール LCa 1．5のみを1日に3～4回交換使用。体液過剰が1kg／日以上の場合，レギュニール LCa 2．5を1日に1～4回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ交換使用。レギュニール LCa 4．25は高浸透圧液で，脱水の可能性，急速な除水や多量の除水を必要とし，体液過剰が1kg／日以上の場合，レギュニール LCa 4．25を1日に1～2回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ交換使用。体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。
2．本剤の2．5Lは2L貯留を施行しているCAPD患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，又は1日5回以上の透析液交換に不都合を感じている時に，腹腔内容積や肺活量に応じて(体重60kg以上を目安)2Lにかえる。
3．使用直前に上室液と下室液の2液をよく混合し，混合後は速やかに使用。誤って下室液のみを注入時(注入量が1000mL未満の時に気付かないおそれ)には，腹痛・代謝性アルカローシスのおそれ。
混合操作
ツインバッグ，UVツインバッグ
(1)．バッグを外袋から取り出す。
(2)．混合隔壁・注液隔壁に開通がないことを確認。
(3)．本剤のクランプを両方とも閉める。
(4)．上室側を強くつかみ混合隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，混合隔壁を開通。
(5)．さらに圧力をかけ，注液隔壁を開通。
(6)．両手で交互に押し，混合。
シングルバッグ・機器専用
(1)．バッグを外袋から取り出す。
(2)．混合隔壁・注液隔壁に開通がないことを確認。
(3)．上室側を強くつかみ混合隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，混合隔壁を開通。
(4)．さらに圧力をかけ，注液隔壁を開通。
(5)．両手で交互に押し，混合。

■禁忌
【禁忌】1. 横隔膜欠損。
2. 腹部に挫滅傷・熱傷。
3. 高度の腹膜癒着。
4. 尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5. 乳酸代謝障害の疑い。

■副作用
【副作用】重大な副作用
心・血管障害(頻度不明)(急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満
一般・全身障害・投与部位の状態 末梢性浮腫 顔面浮腫，倦怠感
傷害，中毒・処置合併症 － 処置合併症
臨床検査 体重増加 アラニンアミノトランスフェラーゼ増加，アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ増加，血中ブドウ糖増加，血中乳酸脱水素酵素増加，血圧上昇，血中トリグリセリド減少，血中トリグリセリド増加，血中尿酸増加，C－反応性蛋白増加，心胸郭比増加，線維素溶解減少，γ－グルタミルトランスフェラーゼ増加，血小板数減少
代謝・栄養障害 体液貯留 低血糖
皮膚・皮下組織障害 － 掻痒症
血管障害 － 高血圧
(表終了)

レギュニール LCa 2．5腹膜透析液（2L1袋(排液用バッグ付)）

両 注射 流通

【YJコード】3420437A3025
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ヴァンティブ
【薬価】1479円/1袋
【薬価収載日】2013/11/29
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析(高マグネシウム血症の改善が不十分で，カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時)
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。体液過剰が1kg／日以下 レギュニール LCa 1．5のみ 1日3～4回 連続操作を継続。体液過剰が1kg／日以上 レギュニール LCa 2．5 1日1～4回，又はレギュニール LCa 4．25 1日1～2回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ 1日3～5回 連続操作を継続。適宜増減。注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．体液過剰が1kg／日以下の場合，レギュニール LCa 1．5のみを1日に3～4回交換使用。体液過剰が1kg／日以上の場合，レギュニール LCa 2．5を1日に1～4回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ交換使用。レギュニール LCa 4．25は高浸透圧液で，脱水の可能性，急速な除水や多量の除水を必要とし，体液過剰が1kg／日以上の場合，レギュニール LCa 4．25を1日に1～2回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ交換使用。体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。
2．本剤の2．5Lは2L貯留を施行しているCAPD患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，又は1日5回以上の透析液交換に不都合を感じている時に，腹腔内容積や肺活量に応じて(体重60kg以上を目安)2Lにかえる。
3．使用直前に上室液と下室液の2液をよく混合し，混合後は速やかに使用。誤って下室液のみを注入時(注入量が1000mL未満の時に気付かないおそれ)には，腹痛・代謝性アルカローシスのおそれ。
混合操作
ツインバッグ，UVツインバッグ
(1)．バッグを外袋から取り出す。
(2)．混合隔壁・注液隔壁に開通がないことを確認。
(3)．本剤のクランプを両方とも閉める。
(4)．上室側を強くつかみ混合隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，混合隔壁を開通。
(5)．さらに圧力をかけ，注液隔壁を開通。
(6)．両手で交互に押し，混合。
シングルバッグ・機器専用
(1)．バッグを外袋から取り出す。
(2)．混合隔壁・注液隔壁に開通がないことを確認。
(3)．上室側を強くつかみ混合隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，混合隔壁を開通。
(4)．さらに圧力をかけ，注液隔壁を開通。
(5)．両手で交互に押し，混合。

■禁忌
【禁忌】1. 横隔膜欠損。
2. 腹部に挫滅傷・熱傷。
3. 高度の腹膜癒着。
4. 尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5. 乳酸代謝障害の疑い。

レギュニール LCa 2．5腹膜透析液

3 代謝性医薬品

■副作用
【副作用】重大な副作用
心・血管障害(頻度不明)(急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満
一般・全身障害・投与部位の状態 末梢性浮腫 顔面浮腫，倦怠感
傷害，中毒・処置合併症 － 処置合併症
臨床検査 体重増加 アラニンアミノトランスフェラーゼ増加，アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ増加，血中ブドウ糖増加，血中乳酸脱水素酵素増加，血圧上昇，血中トリグリセリド減少，血中トリグリセリド増加，血中尿酸増加，C－反応性蛋白増加，心胸郭比増加，線維素溶解減少，γ－グルタミルトランスフェラーゼ増加，血小板数減少
代謝・栄養障害 体液貯留 低血糖
皮膚・皮下組織障害 － 掻痒症
血管障害 － 高血圧
(表終了)

レギュニール LCa 2．5腹膜透析液（2．5L1袋）

両 注射 流通

【YJコード】3420437A4021
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】(製)ヴァンティブ
【薬価】1761円/1袋
【薬価収載日】2013/11/29
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析(高マグネシウム血症の改善が不十分で，カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時)
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。体液過剰が1kg／日以下 レギュニール LCa 1．5のみ 1日3～4回 連続操作を継続。体液過剰が1kg／日以上 レギュニール LCa 2．5 1日1～4回，又はレギュニール LCa 4．25 1日1～2回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ 1日3～5回 連続操作を継続。適宜増減。注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．体液過剰が1kg／日以下の場合，レギュニール LCa 1．5のみを1日に3～4回交換使用。体液過剰が1kg／日以上の場合，レギュニール LCa 2．5を1日に1～4回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ交換使用。レギュニール LCa 4．25は高浸透圧液で，脱水の可能性，急速な除水や多量の除水を必要とし，体液過剰が1kg／日以上の場合，レギュニール LCa 4．25を1日に1～2回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ交換使用。体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。
2．本剤の2．5Lは2L貯留を施行しているCAPD患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，又は1日5回以上の透析液交換に不都合を感じている時に，腹腔内容積や肺活量に応じて(体重60kg以上を目安)2Lにかえる。
3．使用直前に上室液と下室液の2液をよく混合し，混合後は速やかに使用。誤って下室液のみを注入時(注入量が1000mL未満の時に気付かないおそれ)には，腹痛・代謝性アルカローシスのおそれ。
混合操作
ツインバッグ，UVツインバッグ
(1)．バッグを外袋から取り出す。
(2)．混合隔壁・注液隔壁に開通がないことを確認。
(3)．本剤のクランプを両方とも閉める。
(4)．上室側を強くつかみ混合隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，混合隔壁を開通。
(5)．さらに圧力をかけ，注液隔壁を開通。
(6)．両手で交互に押し，混合。
シングルバッグ・機器専用
(1)．バッグを外袋から取り出す。
(2)．混合隔壁・注液隔壁に開通がないことを確認。
(3)．上室側を強くつかみ混合隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，混合隔壁を開通。
(4)．さらに圧力をかけ，注液隔壁を開通。
(5)．両手で交互に押し，混合。

■禁忌
【禁忌】1．横隔膜欠損。
2．腹部に挫滅傷・熱傷。
3．高度の腹膜癒着。
4．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5．乳酸代謝障害の疑い。

■副作用
【副作用】重大な副作用
心・血管障害(頻度不明)(急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満
一般・全身障害・投与部位の状態 末梢性浮腫 顔面浮腫，倦怠感
傷害，中毒・処置合併症 － 処置合併症
臨床検査 体重増加 アラニンアミノトランスフェラーゼ増加，アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ増加，血中ブドウ糖増加，血中乳酸脱水素酵素増加，血圧上昇，血中トリグリセリド減少，血中トリグリセリド増加，血中尿酸増加，C－反応性蛋白増加，心胸郭比増加，線維素溶解減少，γ－グルタミルトランスフェラーゼ増加，血小板数減少
代謝・栄養障害 体液貯留 低血糖
皮膚・皮下組織障害 － 掻痒症
血管障害 － 高血圧
(表終了)

レギュニール LCa 2．5腹膜透析液（5L1袋）

両 注射 流通

【YJコード】3420437A5028
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】(製)ヴァンティブ
【薬価】2196円/1袋
【薬価収載日】2013/11/29
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析(高マグネシウム血症の改善が不十分で，カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時)
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。体液過剰が1kg／日以下 レギュニール LCa 1．5のみ 1日3～4回 連続操作を継続。体液過剰が1kg／日以上 レギュニール LCa 2．5 1日1～4回，又はレギュニール LCa 4．25 1日1～2回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ 1日3～5回 連続操作を継続。適宜増減。注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．体液過剰が1kg／日以下の場合，レギュニール LCa 1．5のみを1日に3～4回交換使用。体液過剰が1kg／日以上の場合，レギュニール LCa 2．5を1日に1～4回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ交換使用。レギュニール LCa 4．25は高浸透圧液で，脱水の可能性，急速な除水や多量の除水を必要とし，体液過剰が1kg／日以上の場合，レギュニール LCa 4．25を1日に1～2回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ交換使用。体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。
2．本剤の2．5Lは2L貯留を施行しているCAPD患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，又は1日5回以上の透析液交換に不都合を感じている時に，腹腔内容積や肺活量に応じて(体重60kg以上を目安)2Lにかえる。
3．使用直前に上室液と下室液の2液をよく混合し，混合後は速やかに使用。誤って下室液のみを注入時(注入量が1000mL未満の時に気付かないおそれ)には，腹痛・代謝性アルカローシスのおそれ。
混合操作
ツインバッグ，UVツインバッグ
(1)．バッグを外袋から取り出す。
(2)．混合隔壁・注液隔壁に開通がないことを確認。
(3)．本剤のクランプを両方とも閉める。
(4)．上室側を強くつかみ混合隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，混合隔壁を開通。
(5)．さらに圧力をかけ，注液隔壁を開通。
(6)．両手で交互に押し，混合。
シングルバッグ・機器専用
(1)．バッグを外袋から取り出す。
(2)．混合隔壁・注液隔壁に開通がないことを確認。
(3)．上室側を強くつかみ混合隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，混合隔壁を開通。
(4)．さらに圧力をかけ，注液隔壁を開通。
(5)．両手で交互に押し，混合。

■禁忌
【禁忌】1．横隔膜欠損。
2．腹部に挫滅傷・熱傷。
3．高度の腹膜癒着。
4．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5．乳酸代謝障害の疑い。

■副作用
【副作用】重大な副作用
心・血管障害(頻度不明)(急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)

レギュニール LCa 2．5腹膜透析液

3 代謝性医薬品

発現部位等 5%以上 1～5%未満
一般・全身障害・投与部位の状態 末梢性浮腫 顔面浮腫，倦怠感
傷害，中毒・処置合併症 － 処置合併症
臨床検査 体重増加 アラニンアミノトランスフェラーゼ増加，アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ増加，血中ブドウ糖増加，血中乳酸脱水素酵素増加，血圧上昇，血中トリグリセリド減少，血中トリグリセリド増加，血中尿酸増加，C－反応性蛋白増加，心胸郭比増加，線維素溶解減少，γ－グルタミルトランスフェラーゼ増加，血小板数減少
代謝・栄養障害 体液貯留 低血糖
皮膚・皮下組織障害 － 掻痒症
血管障害 － 高血圧
（表終了）

レギュニール LCa 4．25腹膜透析液（2L1袋）

両 注射 流通

【YJコード】3420438A1027
【薬効分類】3．4．2 腹膜透析用剤
【一般名】腹膜透析液
【メーカー】製)ヴァンティブ
【薬価】1105円/1袋
【薬価収載日】2013/11/29
【標榜薬効】腹膜透析液

■効能効果・用法用量

【効能効果】慢性腎不全の腹膜透析（高マグネシウム血症の改善が不十分で，カルシウム製剤や活性型ビタミンD製剤で高カルシウム血症のおそれのある時）
【用法用量】腹腔内注入し，透析治療で使用。
成人 1回1．5～2Lを腹腔内注入し，4～8時間滞液し，効果期待後に排液除去。以上を1回。体液過剰が1kg／日以下 レギュニール LCa 1．5のみ 1日3～4回 連続操作を継続。体液過剰が1kg／日以上 レギュニール LCa 2．5 1日1～4回，又はレギュニール LCa 4．25 1日1～2回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ 1日3～5回 連続操作を継続。適宜増減。注入・排液速度 300mL／分以下。
注意
1．体液過剰が1kg／日以下の場合，レギュニール LCa 1．5のみを1日に3～4回交換使用。体液過剰が1kg／日以上の場合，レギュニール LCa 2．5を1日に1～4回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ交換使用。レギュニール LCa 4．25は高浸透圧液で，脱水の可能性，急速な除水や多量の除水を必要とし，体液過剰が1kg／日以上の場合，レギュニール LCa 4．25を1日に1～2回，レギュニール LCa 1．5と組み合わせ交換使用。体液過剰は，患者体重と基準体重とを比較検討し決定。基準体重は浮腫がなく，細胞外液の過剰によると考えられる心不全等の症状がない状態で測定した体重値。
2．本剤の2．5Lは2L貯留を施行しているCAPD患者で透析不足による全身倦怠感，食欲不振，不眠等の尿毒症症状がある時，又は1日5回以上の透析液交換に不都合を感じている時に，腹腔内容積や肺活量に応じて（体重60kg以上を目安）2Lにかえる。
3．使用直前に上室液と下室液の2液をよく混合し，混合後は速やかに使用。誤って下室液のみを注入時（注入量が1000mL未満の時に気付かないおそれ）には，腹痛・代謝性アルカローシスのおそれ。
混合操作
ツインバッグ，UVツインバッグ
（1）．バッグを外袋から取り出す。
（2）．混合隔壁・注液隔壁に開通がないことを確認。
（3）．本剤のクランプを両方とも閉める。
（4）．上室側を強くつかみ混合隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，混合隔壁を開通。
（5）．さらに圧力をかけ，注液隔壁を開通。
（6）．両手で交互に押し，混合。
シングルバッグ・機器専用
（1）．バッグを外袋から取り出す。
（2）．混合隔壁・注液隔壁に開通がないことを確認。
（3）．上室側を強くつかみ混合隔壁側へ押し出すように圧力をかけ，混合隔壁を開通。
（4）．さらに圧力をかけ，注液隔壁を開通。
（5）．両手で交互に押し，混合。

■禁忌

【禁忌】1．横隔膜欠損。
2．腹部に挫滅傷・熱傷。
3．高度の腹膜癒着。
4．尿毒症に起因する以外の出血性素因。
5．乳酸代謝障害の疑い。

■副作用

【副作用】重大な副作用
心・血管障害（頻度不明）（急激な脱水による循環血液量の減少，低血圧，ショック等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満
一般・全身障害・投与部位の状態 末梢性浮腫 顔面浮腫，倦怠感
傷害，中毒・処置合併症 － 処置合併症
臨床検査 体重増加 アラニンアミノトランスフェラーゼ増加，アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ増加，血中ブドウ糖増加，血中乳酸脱水素酵素増加，血圧上昇，血中トリグリセリド減少，血中トリグリセリド増加，血中尿酸増加，C－反応性蛋白増加，心胸郭比増加，線維素溶解減少，γ－グルタミルトランスフェラーゼ増加，血小板数減少
代謝・栄養障害 体液貯留 低血糖
皮膚・皮下組織障害 － 掻痒症
血管障害 － 高血圧
（表終了）

3．9 その他の代謝性医薬品

3．9．1 肝臓疾患用剤

グリチロン配合錠（1錠）

両 内服 流通

【YJコード】3919100F1150
【薬効分類】3．9．1 肝臓疾患用剤
【一般名】グリチルリチン・グリシン・DL－メチオニン配合剤
【メーカー】製)ミノファーゲン製薬 販)EAファーマ 販)エーザイ
【薬価】5.9円/1T
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】肝臓疾患・アレルギー用剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○湿疹・皮膚炎，小児ストロフルス，円形脱毛症，口内炎
○慢性肝疾患の肝機能異常の改善
【用法用量】成人 1回2～3錠 1日3回 食後 内服。小児 1回1錠 1日3回 食後 内服。適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．血清アンモニウム値の上昇傾向にある末期肝硬変症。
2．アルドステロン症，ミオパシー，低カリウム血症。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．偽アルドステロン症（頻度不明）（低カリウム血症，血圧上昇，ナトリウム・体液の貯留，浮腫，尿量減少，体重増加等）。
2．横紋筋融解症（頻度不明）（脱力感，筋力低下，筋肉痛，四肢痙攣・麻痺等，CK上昇，血中・尿中のミオグロビン上昇）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満
体液・電解質 血清カリウム値の低下
循環器 血圧上昇
その他 腹痛，頭痛
（表終了）

グルコリン配合静注（20mL1管）

内 注射 自注 後発 流通

【YJコード】3919502A1430
【薬効分類】3．9．1 肝臓疾患用剤
【一般名】グリチルリチン・グリシン・システイン配合剤
【先発品】強カネオミノファーゲンシーP静注20mL，強カネオミノファーゲンシー静注20mL
【メーカー】製)扶桑薬品工業 販)アルフレッサファーマ
【薬価】61円/1A
【薬価収載日】2015/06/19
【標榜薬効】肝臓疾患・アレルギー用剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○小児ストロフルス，湿疹・皮膚炎，蕁麻疹，皮膚掻痒症，口内炎，フリクテン，薬疹・中毒疹
○慢性肝疾患の肝機能異常の改善
【用法用量】成人 1回5～20mL 1日1回 静注。適宜増減。
慢性肝疾患 1回40～60mL 1日1回 静注・点滴静注。適宜増減。増量時 1日100mLまで。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．アルドステロン症，ミオパシー，低カリウム血症。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシーショック（頻度不明）（血圧低下，意識消失，呼吸困難，心肺停止，潮紅，顔面浮腫等）。
2．アナフィラキシー（頻度不明）（呼吸困難，潮紅，顔面浮腫等）。
3．偽アルドステロン症（頻度不明）（高度の低カリウム血症，低カリウム血症（脱力感，筋力低下等）の発現頻度の上昇，血圧上昇，ナトリウム・体液の貯留，浮腫，体重増加等）。
その他の副作用（発現時中止等）

3 代謝性医薬品

（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 蕁麻疹，掻痒
体液・電解質 血清カリウム値の低下 浮腫
循環器 血圧上昇
消化器 上腹部不快感 嘔気・嘔吐
呼吸器 咳嗽
眼 一過性の視覚異常（目のかすみ，目のチカチカ等）
その他 全身倦怠感，筋肉痛，異常感覚（しびれ感，ピリピリ感等），発熱，過呼吸症状（肩の熱感，四肢冷感，冷汗，口渇，動悸），尿糖陽性
頭痛，熱感，気分不良
（表終了）

3．9．2 解毒剤

球形吸着炭細粒「マイラン」（1g）

両 内服 後発 流通

【YJコード】3929003C1059
【薬効分類】3．9．2 解毒剤
【一般名】球形吸着炭
【先発品】球形吸着炭細粒分包2g「日医工」，クレメジン細粒分包2g
【メーカー】製）ヴィアトリス・ヘルスケア 販）ヴィアトリス製薬 販）扶桑薬品工業 販）マイラン製薬
【薬価】37.2円/1g
【薬価収載日】2009/05/15
【標榜薬効】慢性腎不全用剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の尿毒症症状の改善・透析導入の遅延
慢性腎不全（進行性）
注意
1．進行性の慢性腎不全と診断された保存療法期の患者が対象。血清クレアチニンの上昇による進行性の慢性腎不全を確認し，適用を考慮。
2．透析導入の遅延は，適用前の血清クレアチニン（S－Cr）上昇の割合が中等度以上（1ヵ月あたりの1／S－Crの変化が0．01dL／mg以上）を確認し，適用を考慮。血清クレアチニン値の目安は下表の通り。
（表開始）
1ヵ月前（mg／dL）→現在（mg／dL）
2．9→3．0
4．8→5．0
6．5→7．0
（表終了）
【用法用量】成人 1日6g 1日3回 分割 内服。
注意
服用中は，血清クレアチニン，尿毒症症状の変化等を観察し，投与開始6ヵ月を目標に投与継続の適否を検討。改善なければ，中止又は他の療法を考慮。

■禁忌
【禁忌】消化管の通過障害。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～2%未満 1%未満
皮膚 掻痒感 皮疹
消化器 便秘 食欲不振 悪心・嘔吐 腹部膨満感 胃重感 腹痛 下痢
（表終了）

重ソー静注7%「NS」（7%20mL1管）

両 注射 流通

【YJコード】3929400A3246
【薬効分類】3．9．2 解毒剤
【一般名】炭酸水素ナトリウム
【メーカー】製）日新製薬 販）日本ジェネリック 販）ネオクリティケア製薬 販）富士フイルムファーマ
【薬価】100円/1A
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】制酸・中和剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇薬物中毒の排泄促進（pHの上昇により尿中排泄の促進される薬物のみ）
〇アシドーシス
〇下記に伴う悪心・嘔吐，眩暈
動揺病，メニエール症候群，その他の内耳障害
〇急性蕁麻疹
【用法用量】薬物中毒時の排泄促進，動揺病等に伴う悪心・嘔吐，眩暈，急性蕁麻疹
成人 1回12～60mEq（1～5g） 静注。
アシドーシス
用量を下式で算出し 静注。
必要量（mEq）＝不足塩基量（mEq／L）×0．2×体重（kg）
いずれも適宜増減。
注意
製剤量は下記。
薬物中毒時の排泄促進，動揺病等に伴う悪心・嘔吐，眩暈，急性蕁麻疹
成人 1回量 本剤14～72mL。
アシドーシス
本剤必要量（mL）＝不足塩基量（Base Deficit mEq／L）×1／4×体重（kg）

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 発現部位等 頻度不明
過剰投与 電解質 アルカローシス，高ナトリウム血症，低カリウム血症
過剰投与 血液 血液凝固時間延長
過剰投与 骨格筋 テタニー
神経系 神経系 口唇しびれ感，知覚異常
投与部位 投与部位 血管痛
その他 その他 発熱，全身冷感，不快感，貧血，悪心，徐脈
（表終了）

スガマデクス静注液200mgシリンジ「マルイシ」（200mg2mL1筒）

内 注射 後発 流通

【YJコード】3929409G1042
【薬効分類】3．9．2 解毒剤
【一般名】スガマデクスナトリウム
【メーカー】製）丸石製薬
【薬価】2823円/1筒
【薬価収載日】2024/05/22
【標榜薬効】筋弛緩回復剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】ロクロニウム臭化物・ベクロニウム臭化物による筋弛緩状態からの回復
注意
ロクロニウム臭化物・ベクロニウム臭化物以外の筋弛緩剤による筋弛緩状態からの回復に使用しない。
【用法用量】成人 浅い筋弛緩状態（筋弛緩モニターにおいて四連刺激による2回目の収縮反応の再出現を確認後） 1回2mg／kg，深い筋弛緩状態（筋弛緩モニターにおいてポスト・テタニック・カウント刺激による1～2回の単収縮反応の出現を確認後） 1回4mg／kg 静注。
ロクロニウム臭化物の挿管用量投与直後に緊急に筋弛緩状態からの回復が必要時 成人 1回スガマデクス16mg／kg ロクロニウム臭化物投与3分後 静注。
注意
1．筋弛緩モニターによる確認ができない時，自発呼吸を確認後はスガマデクス2mg／kgを投与。自発呼吸を確認前のロクロニウム臭化物による筋弛緩へはスガマデクス4mg／kgを投与するが，筋弛緩状態からの回復が遅延する可能性。筋弛緩モニターによる確認ができない時の自発呼吸を確認前のベクロニウム臭化物による筋弛緩への有効性・安全性は未確立。
2．ベクロニウム臭化物の挿管用量投与直後に緊急に筋弛緩状態からの回復を要する時の有効性・安全性は未確立。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（潮紅，蕁麻疹，紅斑性皮疹，喘鳴，血圧低下，頻脈，舌腫脹，咽頭浮腫等）。
2．心室細動，心室頻拍，心停止，高度徐脈（各頻度不明）。
3．冠動脈攣縮（頻度不明）。
4．気管支痙攣（0．3%未満）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
消化器 悪心，嘔吐
精神神経系 浮動性眩暈，味覚異常
循環器 頻脈，徐脈，高血圧，低血圧
呼吸器 咳嗽
泌尿器 β－N－アセチル－D－グルコサミニダーゼ増加，尿中アルブミン陽性，尿中β2－ミクログロブリン増加
骨格筋・結合組織 筋力低下
過敏症 潮紅，掻痒，発疹
その他 悪寒，体動
（表終了）

3 代謝性医薬品

デトキソール静注液2g（10%20mL1瓶）

内 注射 流通

【YJコード】3925400A2020
【薬効分類】3．9．2 解毒剤
【一般名】チオ硫酸ナトリウム水和物
【メーカー】製)日医工
【薬価】412円/1V
【薬価収載日】2013/12/13
【標榜薬効】解毒剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】シアン・シアン化合物による中毒，ヒ素剤による中毒
【用法用量】成人 チオ硫酸ナトリウム水和物 1日1～2g 静注。
シアン，シアン化合物中毒 成人 1回12．5～25g 静注。
適宜増減。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 過敏症状
（表終了）

メイロン静注7%（7%250mL1袋）

両 注射 流通

【YJコード】3929400H2035
【薬効分類】3．9．2 解毒剤
【一般名】炭酸水素ナトリウム
【メーカー】製)大塚製薬工場 販)大塚製薬
【薬価】345円/1袋
【薬価収載日】2008/06/23
【標榜薬効】制酸・中和剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇薬物中毒の排泄促進（pHの上昇により尿中排泄の促進される薬物のみ）
〇アシドーシス
〇下記に伴う悪心・嘔吐，眩暈
動揺病，メニエール症候群，その他の内耳障害
〇急性蕁麻疹
【用法用量】薬物中毒時の排泄促進，動揺病等に伴う悪心・嘔吐，眩暈，急性蕁麻疹
成人 1回12～60mEq（1～5g） 静注。
アシドーシス
用量を下式で算出し 静注。
必要量（mEq）＝不足塩基量（mEq／L）×0．2×体重（kg）
いずれも適宜増減。
注意
製剤量は下記。
薬物中毒時の排泄促進，動揺病等に伴う悪心・嘔吐，眩暈，急性蕁麻疹
成人 1回量
本剤14～72mL。
アシドーシス
本剤必要量（mL）＝不足塩基量（Base Deficit mEq／L）×1／4×体重（kg）

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過剰投与 電解質 アルカローシス，高ナトリウム血症，低カリウム血症
過剰投与 血液 血液凝固時間延長
過剰投与 骨格筋 テタニー
神経系 口唇しびれ感，知覚異常
投与部位 血管痛
その他 発熱，全身冷感，不快感，貧血，悪心，徐脈
（表終了）

レボホリナート点滴静注用100mg「NK」（100mg1瓶）

内 注射 流通
ハイリスク

【YJコード】3929407D2035
【薬効分類】3．9．2 解毒剤
【一般名】レボホリナートカルシウム水和物
【メーカー】製)高田製薬 販)日本化薬
【薬価】1470円/1V
【薬価収載日】2007/07/06
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】活性型葉酸製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．レボホリナート・フルオロウラシル療法
胃癌（手術不能・再発），結腸・直腸癌へのフルオロウラシルの抗腫瘍効果の増強
2．レボホリナート・フルオロウラシル持続静注併用療法
結腸・直腸癌，小腸癌，治癒切除不能な膵癌，治癒切除不能な進行・再発の胃癌へのフルオロウラシルの抗腫瘍効果の増強
注意
術後補助療法の有効性・安全性は未確立。
【用法用量】1．レボホリナート・フルオロウラシル療法
成人 1回レボホリナート250mg／m2 2時間かけ 点滴静注。レボホリナートの投与開始1時間後 1回フルオロウラシル600mg／m2 3分以内で緩徐に静注。1週間ごとに6回繰り返した後，2週間休薬。これを1クール。
2．結腸・直腸癌へのレボホリナート・フルオロウラシル持続静注併用療法
（1）．成人 1回レボホリナート100mg／m2 2時間かけ 点滴静注。レボホリナートの点滴静注終了直後 フルオロウラシル400mg／m2 静注とともに，フルオロウラシル600mg／m2 22時間かけ 持続静注。2日間連続，2週間ごとに繰り返す。
（2）．成人 1回レボホリナート250mg／m2 2時間かけ 点滴静注。レボホリナートの点滴静注終了直後 フルオロウラシル2600mg／m2 24時間かけ 持続静注。1週間ごとに6回繰り返した後，2週間休薬。これを1クール。
（3）．成人 1回レボホリナート200mg／m2 2時間かけ 点滴静注。レボホリナートの点滴静注終了直後 フルオロウラシル400mg／m2 静注とともに，フルオロウラシル2400～3000mg／m2 46時間かけ持続静注。2週間ごとに繰り返す。
3．小腸癌，治癒切除不能な膵癌，治癒切除不能な進行・再発の胃癌へのレボホリナート・フルオロウラシル持続静注併用療法
成人 1回レボホリナート200mg／m2 2時間かけ 点滴静注。レボホリナートの点滴静注終了直後 フルオロウラシル400mg／m2 静注とともに，フルオロウラシル2400mg／m2 46時間かけ 持続静注。2週間ごとに繰り返す。
注意
1．本療法の施行は，白血球，血小板の変動に注意し，投与当日の白血球数又は血小板数等の検査により重篤な骨髄抑制があれば，骨髄機能が回復するまで投与を延期。
2．下痢，重篤な口内炎，重篤な白血球減少・血小板減少の発現時，それらが回復するまで本療法を延期。本療法を再開時は，フルオロウラシルの減量や投与間隔の延長等を考慮。

■禁忌

【禁忌】1．重篤な骨髄抑制。
2．下痢。
3．重篤な感染症の合併。
4．多量の腹水，胸水。
5．重篤な心疾患・その既往。
6．全身状態の悪化。
7．本剤の成分・フルオロウラシルに重篤な過敏症の既往。
8．テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤投与中・中止後7日以内。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．激しい下痢（5%以上），脱水症状。
2．重篤な腸炎（0．1～5%未満）（出血性腸炎，虚血性腸炎，壊死性腸炎等）（激しい腹痛，下痢等）。
3．骨髄抑制（5%以上）（汎血球減少，白血球減少，好中球減少，貧血，血小板減少等）。
4．ショック（0．1%未満），アナフィラキシー（頻度不明）（発疹，呼吸困難，血圧低下等）。
5．白質脳症（歩行時のふらつき，四肢末端のしびれ感，舌のもつれ等），精神神経障害（各0．1～5%未満）（錐体外路症状，言語障害，運動失調，眼振，意識障害，痙攣，顔面麻痺，見当識障害，せん妄，記憶力低下，自発性低下，尿失禁等）。
6．うっ血性心不全，心筋梗塞，安静狭心症（各頻度不明）。
7．肝機能障害（0．1～5%未満）（AST，ALT，Al－P，γ－GTPの上昇等），黄疸（頻度不明），肝不全。
8．急性腎障害（0．1～5%未満）等の重篤な腎障害。
9．間質性肺炎（0．1%未満）（発熱，咳嗽，呼吸困難等）。
10．消化管潰瘍（0．1～5%未満），重篤な口内炎（0．1～5%未満）。
11．手足症候群（0．1～5%未満）（手掌，足蹠の紅斑，疼痛性発赤腫脹，知覚過敏等）。
12．DIC（0．1～5%未満）。
13．嗅覚障害，嗅覚脱失（頻度不明）。
14．意識障害を伴う高アンモニア血症（頻度不明）。
15．急性膵炎（頻度不明）（腹痛，血清アミラーゼ上昇等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
消化器 食欲不振，悪心・嘔吐 味覚異常，腹痛，心窩部痛，口渇，便秘，歯肉炎，口唇炎・口角炎，舌炎，腹部膨満感 下血 胸やけ
肝臓 AST上昇，ALT上昇，ビリルビン上昇 Al－P上昇，LDH上昇
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇，蛋白尿，血尿 クレアチニンクリアランス低下

3 代謝性医薬品

精神神経系 しびれ，眩暈，末梢神経障害
皮膚 色素沈着，脱毛 落屑，紅斑，表皮剥離，角化，掻痒感，爪の異常
浮腫，紅潮，光線過敏症，糜爛 水疱
過敏症 発疹
循環器 胸痛 心電図異常(ST上昇，T逆転，不整脈等) 胸内苦悶
眼 流涙，眼充血，眼脂 結膜炎
その他 発熱，低蛋白血症，低アルブミン血症 倦怠感，糖尿，頭重感，
呼吸困難，顔面浮腫，手指の腫脹，鼻出血，筋肉痛，電解質異常(低ナトリウム血症，低カリウム血症，高カリウム血症，低クロール血症，高クロール血症，低カルシウム血症)，頭痛，白血球増多，CRP上昇，好酸球増多 耐糖能異常
(表終了)

レボホリナート点滴静注用25mg「NK」(25mg1瓶)

内 注射 流通
ハイリスク

【YJコード】3929407D1063
【薬効分類】3．9．2 解毒剤
【一般名】レボホリナートカルシウム水和物
【メーカー】製)高田製薬 販)日本化薬
【薬価】456円/1V
【薬価収載日】2007/07/06
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】活性型葉酸製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．レボホリナート・フルオロウラシル療法
胃癌(手術不能・再発)，結腸・直腸癌へのフルオロウラシルの抗腫瘍効果の増強
2．レボホリナート・フルオロウラシル持続静注併用療法
結腸・直腸癌，小腸癌，治癒切除不能な膵癌，治癒切除不能な進行・再発の胃癌へのフルオロウラシルの抗腫瘍効果の増強
注意
術後補助療法の有効性・安全性は未確立。
【用法用量】1．レボホリナート・フルオロウラシル療法
成人 1回レボホリナート250mg／m2 2時間かけ 点滴静注。レボホリナートの投与開始1時間後 1回フルオロウラシル600mg／m2 3分以内で緩徐に静注。1週間ごとに6回繰り返した後，2週間休薬。これを1クール。
2．結腸・直腸癌へのレボホリナート・フルオロウラシル持続静注併用療法
(1)．成人 1回レボホリナート100mg／m2 2時間かけ 点滴静注。レボホリナートの点滴静注終了直後 フルオロウラシル400mg／m2 静注とともに，フルオロウラシル600mg／m2 22時間かけ 持続静注。2日間連続，2週間ごとに繰り返す。
(2)．成人 1回レボホリナート250mg／m2 2時間かけ 点滴静注。レボホリナートの点滴静注終了直後 フルオロウラシル2600mg／m2 24時間かけ 持続静注。1週間ごとに6回繰り返した後，2週間休薬。これを1クール。
(3)．成人 1回レボホリナート200mg／m2 2時間かけ 点滴静注。レボホリナートの点滴静注終了直後 フルオロウラシル400mg／m2 静注とともに，フルオロウラシル2400～3000mg／m2 46時間かけ持続静注。2週間ごとに繰り返す。
3．小腸癌，治癒切除不能な膵癌，治癒切除不能な進行・再発の胃癌へのレボホリナート・フルオロウラシル持続静注併用療法
成人 1回レボホリナート200mg／m2 2時間かけ 点滴静注。レボホリナートの点滴静注終了直後 フルオロウラシル400mg／m2 静注とともに，フルオロウラシル2400mg／m2 46時間かけ 持続静注。2週間ごとに繰り返す。
注意
1．本療法の施行は，白血球，血小板の変動に注意し，投与当日の白血球数又は血小板数等の検査により重篤な骨髄抑制があれば，骨髄機能が回復するまで投与を延期。
2．下痢，重篤な口内炎，重篤な白血球減少・血小板減少の発現時，それらが回復するまで本療法を延期。本療法を再開時は，フルオロウラシルの減量や投与間隔の延長等を考慮。

■禁忌

【禁忌】1．重篤な骨髄抑制。
2．下痢。
3．重篤な感染症の合併。
4．多量の腹水，胸水。
5．重篤な心疾患・その既往。
6．全身状態の悪化。
7．本剤の成分・フルオロウラシルに重篤な過敏症の既往。
8．テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤投与中・中止後7日以内。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．激しい下痢(5%以上)，脱水症状。
2．重篤な腸炎(0．1～5%未満)(出血性腸炎，虚血性腸炎，壊死性腸炎等)(激しい腹痛，下痢等)。
3．骨髄抑制(5%以上)(汎血球減少，白血球減少，好中球減少，貧血，血小板減少等)。
4．ショック(0．1%未満)，アナフィラキシー(頻度不明)(発疹，呼吸困難，血圧低下等)。
5．白質脳症(歩行時のふらつき，四肢末端のしびれ感，舌のもつれ等)，精神神経障害(各0．1～5%未満)(錐体外路症状，言語障害，運動失調，眼振，意識障害，痙攣，顔面麻痺，見当識障害，せん妄，記憶力低下，自発性低下，尿失禁等)。
6．うっ血性心不全，心筋梗塞，安静狭心症(各頻度不明)。
7．肝機能障害(0．1～5%未満)(AST，ALT，AI－P，γ－GTPの上昇等)，黄疸(頻度不明)，肝不全。
8．急性腎障害(0．1～5%未満)等の重篤な腎障害。
9．間質性肺炎(0．1%未満)(発熱，咳嗽，呼吸困難等)。
10．消化管潰瘍(0．1～5%未満)，重篤な口内炎(0．1～5%未満)。
11．手足症候群(0．1～5%未満)(手掌，足蹠の紅斑，疼痛性発赤腫脹，知覚過敏等)。
12．DIC(0．1～5%未満)。
13．嗅覚障害，嗅覚脱失(頻度不明)。
14．意識障害を伴う高アンモニア血症(頻度不明)。
15．急性膵炎(頻度不明)(腹痛，血清アミラーゼ上昇等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
消化器 食欲不振，悪心・嘔吐 味覚異常，腹痛，心窩部痛，口渇，便秘，歯肉炎，口唇炎・口角炎，舌炎，腹部膨満感 下血 胸やけ
肝臓 AST上昇，ALT上昇，ビリルビン上昇 AI－P上昇，LDH上昇
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇，蛋白尿，血尿 クレアチニンクリアランス低下
精神神経系 しびれ，眩暈，末梢神経障害
皮膚 色素沈着，脱毛 落屑，紅斑，表皮剥離，角化，掻痒感，爪の異常
浮腫，紅潮，光線過敏症，糜爛 水疱
過敏症 発疹
循環器 胸痛 心電図異常(ST上昇，T逆転，不整脈等) 胸内苦悶
眼 流涙，眼充血，眼脂 結膜炎
その他 発熱，低蛋白血症，低アルブミン血症 倦怠感，糖尿，頭重感，呼吸困難，顔面浮腫，手指の腫脹，鼻出血，筋肉痛，電解質異常(低ナトリウム血症，低カリウム血症，高カリウム血症，低クロール血症，高クロール血症，低カルシウム血症)，頭痛，白血球増多，CRP上昇，好酸球増多 耐糖能異常
(表終了)

ロイコボリン注3mg(0．3%1mL1管)

内 注射 流通

【YJコード】3929403A1034
【薬効分類】3．9．2 解毒剤
【一般名】ホリナートカルシウム水和物
【メーカー】製)ファイザー 販)武田薬品工業
【薬価】263円/1A
【薬価収載日】2005/06/10
【標榜薬効】抗葉酸代謝拮抗剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】葉酸代謝拮抗剤の毒性軽減
【用法用量】メトトレキサート通常療法，CMF療法，メトトレキサート関節リウマチ療法又はM－VAC療法
メトトレキサートによる副作用発現時
成人 1回6～12mg 6時間間隔で4回 筋注。
メトトレキサートの過剰投与時 投与したメトトレキサートと同量 投与。
メトトレキサート・ロイコボリン救援療法
メトトレキサート投与終了3時間目より 1回15mg 3時間間隔で9回静注。以後，6時間間隔で8回 静注・筋注。
メトトレキサートによる重篤な副作用発現時 用量を増加し，投与期間を延長。
適宜増減。
メトトレキサート・フルオロウラシル交代療法
メトトレキサート投与後24時間目より 1回15mg 6時間間隔で2～6回(メトトレキサート投与後24，30，36，42，48，54時間目) 静注・筋注。
メトトレキサートによる重篤な副作用発現時 用量を増加し，投与期間を延長。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に重篤な過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
ショック(頻度不明)，アナフィラキシー(頻度不明)(発疹，呼吸困難，血圧低下等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，発熱，発赤
投与部位 血管痛(静注時)，一過性の疼痛(筋注時)
(表終了)

3 代謝性医薬品

3．9．4 痛風治療剤

アロプリノール錠100mg「サワイ」（100mg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】3943001F1586
【薬効分類】3．9．4 痛風治療剤
【一般名】アロプリノール
【先発品】ザイロリック錠100
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】8円/1T
【薬価収載日】2013/06/21
【標榜薬効】高尿酸血症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】下記の高尿酸血症の是正
痛風，高尿酸血症を伴う高血圧症
【用法用量】成人 1日200～300mg 1日2～3回 分割 食後 内服。
適宜増減。
注意
血中尿酸値を測定し，治療初期1週間は1日100mg。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，剥脱性皮膚炎等の重篤な皮膚障害，過敏性血管炎(各頻度不明)(発熱，発疹等)。
2．薬剤性過敏症症候群(頻度不明)(発疹，発熱，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現，肝機能障害等の臓器障害を伴う遅発性の重篤な過敏症状)，1型糖尿病(劇症1型糖尿病含む)，ケトアシドーシス，ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化，脳炎等。
3．ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)。
4．再生不良性貧血，汎血球減少，無顆粒球症，血小板減少(各頻度不明)。
5．劇症肝炎等の重篤な肝機能障害，黄疸(各頻度不明)。
6．腎不全，腎不全の増悪，間質性腎炎含む腎障害(各頻度不明)。
7．間質性肺炎(頻度不明)(発熱，咳嗽，呼吸困難等)。
8．横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等)。
9．無菌性髄膜炎(頻度不明)(項部硬直，発熱，頭痛，悪心・嘔吐，意識障害等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 掻痒，関節痛
血液 貧血 白血球減少，紫斑，好酸球増多，リンパ節症
腎臓 腎機能異常
消化器 食欲不振，胃部不快感，軟便，下痢 口内炎
全身症状 全身倦怠感 浮腫 脱力感
その他 脱毛 CK上昇，味覚障害，女性化乳房，末梢神経障害
(表終了)

ウラリット配合錠（1錠）

両 内服 流通

【YJコード】3949101F1073
【薬効分類】3．9．4 痛風治療剤
【一般名】クエン酸カリウム・クエン酸ナトリウム水和物
【メーカー】製)日本ケミファ
【薬価】6.5円/1T
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】アルカリ化療法剤／酸性尿・アシドーシス改善剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．痛風，高尿酸血症の酸性尿の改善
2．アシドーシスの改善
【用法用量】痛風，高尿酸血症の酸性尿の改善
成人 1回2錠 1日3回 内服。尿検査でpH6．2から6．8に入るよう投与量を調整。
アシドーシスの改善
成人 1日12錠 1日3～4回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】ヘキサミンの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
高カリウム血症(0．54%)(徐脈，全身倦怠感，脱力感等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～2%未満 頻度不明
肝臓 AST上昇，ALT上昇，Al－P上昇，γ－GTP上昇 LDH上昇
腎臓 血中クレアチニン上昇，BUN上昇
消化器 胃不快感，下痢，悪心，胸やけ，嘔吐，食欲不振 嘔気，口内炎，腹部膨満感，胃痛，舌炎
皮膚 発疹 掻痒感
泌尿器 排尿障害
その他 頻脈，残尿感，眠気 貧血，全身倦怠感
(表終了)

フェブキソスタット錠10mg「DSEP」（10mg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】3949003F1040
【薬効分類】3．9．4 痛風治療剤
【一般名】フェブキソスタット
【先発品】フェブリク錠10mg
【メーカー】製)第一三共エスファ 販)第一三共
【薬価】6.1円/1T
【薬価収載日】2022/06/17
【標榜薬効】高尿酸血症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○痛風，高尿酸血症
○癌化学療法に伴う高尿酸血症
注意
痛風，高尿酸血症
1．最新の治療指針等を参考に，薬物治療が必要とされる患者が対象。
癌化学療法に伴う高尿酸血症
2．腫瘍崩壊症候群の発症リスクを考慮し適応患者を選択。
3．既に生成された尿酸を分解する作用なし，血中尿酸値を急速に低下させる効果は期待できない。
4．癌化学療法後に発症した高尿酸血症への有効性・安全性は未確立。
【用法用量】痛風，高尿酸血症
成人 フェブキソスタット 1日10mgから開始 1日1回 内服。その後は血中尿酸値を確認しながら必要時，漸増。維持量 1回40mg 1日1回 内服。適宜増減，1日最大60mg 1日1回。
癌化学療法に伴う高尿酸血症
成人 フェブキソスタット 1回60mg 1日1回 内服。
注意
痛風，高尿酸血症
1．尿酸降下薬による治療初期には，血中尿酸値の急激な低下により痛風関節炎(痛風発作)が誘発される可能性，1回10mg 1日1回から開始し，開始から2週間以降 1回20mg 1日1回，開始から6週間以降 1回40mg 1日1回投与等，漸増。増量後は経過を十分に観察。
癌化学療法に伴う高尿酸血症
2．癌化学療法開始1～2日前から投与開始。
3．臨床症状・血中尿酸値をモニタリングし，化学療法開始5日目まで投与。投与期間を適宜延長。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．メルカプトプリン水和物・アザチオプリンの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．肝機能障害(頻度不明)(AST，ALT等の上昇)。
2．過敏症(頻度不明)(全身性皮疹，発疹等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
血液 白血球数減少 血小板数減少，貧血
内分泌系 TSH増加
神経系 手足のしびれ感，浮動性眩暈，傾眠 頭痛，味覚異常
心臓 心電図異常 動悸
胃腸 下痢，腹部不快感，悪心，腹痛
肝・胆道系 肝機能検査値異常(AST増加，ALT増加，γ－GTP増加等)
皮膚 発疹，掻痒症，紅斑 蕁麻疹，脱毛
筋骨格系 関節痛 四肢痛，四肢不快感，CK増加，筋肉痛
腎・尿路 β－NアセチルDグルコサミニダーゼ増加，尿中β2ミクログロブリン増加，血中クレアチニン増加，血中尿素増加，頻尿 尿量減少
その他 倦怠感，口渇，血中トリグリセリド増加，CRP増加，血中カリウム増加 浮腫
(表終了)

3 代謝性医薬品

ユリス錠1mg（1mg1錠）

両 内服 流通

【YJコード】3949005F2029
【薬効分類】3．9．4 痛風治療剤
【一般名】ドチヌラド
【メーカー】製)富士薬品 販)持田製薬
【薬価】42.4円/1T
【薬価収載日】2020/04/22
【標榜薬効】高尿酸血症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】痛風，高尿酸血症
注意
病型，最新の治療指針等を参考に，患者を選択。
【用法用量】成人 1回0．5mgから開始 1日1回 内服。その後は血中尿酸値を確認しながら必要時，漸増。維持量 1回2mg 1日1回 内服。
適宜増減，1回最大4mg 1日1回。
注意
尿酸降下薬による治療初期には，血中尿酸値の急激な低下により痛風関節炎（痛風発作）が誘発される可能性，1回0．5mg 1日1回から開始し，開始から2週間以降 1回1mg 1日1回，開始から6週間以降 1回2mg 1日1回投与等，漸増。増量後は経過を十分に観察。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
胃腸 軟便 下痢，悪心
肝・胆道系 γ－GTP増加 ALT増加，AST増加
筋・骨格系 痛風関節炎 関節炎，四肢不快感 関節痛
腎・泌尿器系 腎結石，腎石灰沈着症，尿中β2ミクログロブリン増加，血中クレアチニン増加，尿中アルブミン／クレアチニン比増加，尿中アルブミン陽性
皮膚 発疹，掻痒症
その他 倦怠感
（表終了）

3．9．5 酵素製剤

アクチバシン注2400万（2400万国際単位1瓶（溶解液付））

内 注射 流通

【YJコード】3959402D3020
【薬効分類】3．9．5 酵素製剤
【一般名】アルテプラーゼ（遺伝子組換え）
【メーカー】製)協和キリン
【薬価】140570円/1V
【標榜薬効】血栓溶解剤（rt－PA製剤）

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇虚血性脳血管障害急性期に伴う機能障害の改善（発症後4．5時間以内）
〇急性心筋梗塞の冠動脈血栓の溶解（発症後6時間以内）
注意
虚血性脳血管障害急性期に伴う機能障害の改善（発症後4．5時間以内）
1．投与前に頭蓋CT・MRIを実施し，出血がある時は投与しない。
2．臨床症状が急速に改善・ごく軽度の臨床症状（失調，感覚障害，構音障害，軽度の運動障害）のみの患者は，危険性が有益性を上回る可能性，投与しない。
急性心筋梗塞の冠動脈血栓の溶解（発症後6時間以内）
3．冠動脈造影で血栓を確認後，投与開始。冠動脈造影の実施困難時は，強い胸痛を伴い心電図上STの上昇があり，冠血管拡張剤投与でも胸痛が緩解しない患者に投与。
【用法用量】虚血性脳血管障害急性期に伴う機能障害の改善（発症後4．5時間以内）
成人 34．8万国際単位／kg（0．6mg／kg） 静注。3480万国際単位（60mg）まで。
総量の10%は急速投与（1～2分間）し，残りを1時間で 静注（添付溶解液に溶解，必要時，生食で希釈）。
投与は発症後，早期に行う。
急性心筋梗塞の冠動脈血栓の溶解（発症後6時間以内）
成人 29万～43．5万国際単位／kg（0．5～0．75mg／kg） 静注。
総量の10%は急速投与（1～2分間）し，残りを1時間で 静注（添付溶解液に溶解，必要時，生食で希釈）。
投与は発症後，早期に行う。
注意
虚血性脳血管障害急性期に伴う機能障害の改善（発症後4．5時間以内）
1．発症から4．5時間以内に投与開始。治療効果は時間とともに低下し，症候性頭蓋内出血の危険性が高まる報告あり。
急性心筋梗塞の冠動脈血栓の溶解（発症後6時間以内）
2．発症から6時間以内に投与開始。

■禁忌

【禁忌】効能共通
1．デフィブロチドナトリウムの投与患者。
2．出血（頭蓋内出血，消化管出血，尿路出血，後腹膜出血，喀血）。
3．重篤な肝障害。
4．急性膵炎。
5．本剤の成分に過敏症の既往。
虚血性脳血管障害急性期に伴う機能障害の改善（発症後4．5時間以内）
6．くも膜下出血の疑い。
7．脳出血のおそれの高い下記。
・投与前に降圧治療を行っても，収縮期血圧が185mmHg以上又は拡張期血圧が110mmHg以上。
・投与前の血糖値が400mg／dLを超える患者。
・投与前CTで早期虚血性変化（脳実質の吸収値がわずかに低下又は脳溝の消失）が広範。
・投与前CT（又はMRI）で正中線偏位等の圧排所見。
・頭蓋内出血の既往・頭蓋内腫瘍，動静脈奇形，動脈瘤等の出血性素因。
・脳梗塞の既往（3ヵ月以内）。
・頭蓋内・脊髄の手術・傷害を受けた患者（3ヵ月以内）。
8．出血のおそれの高い下記。
・消化管出血・尿路出血の既往（21日以内）。
・大手術後，日の浅い患者（14日以内）。
・投与前の血小板数が100000／mm3以下。
9．経口抗凝固薬・ヘパリンの投与患者で，投与前のプロトロンビン時間－国際標準値が1．7を超えるか又は活性化部分トロンボプラスチン時間が延長している患者。
10．投与前の血糖値が50mg／dL未満。
11．発症時に痙攣発作。
急性心筋梗塞の冠動脈血栓の溶解（発症後6時間以内）
12．出血のおそれの高い下記。
・頭蓋内出血の既往・頭蓋内腫瘍，動静脈奇形，動脈瘤等の出血性素因。
・脳梗塞の既往（3ヵ月以内）。
・頭蓋内・脊髄の手術・傷害を受けた患者（3ヵ月以内）。
・消化管出血・尿路出血の既往（21日以内）。
・大手術後，日の浅い患者（14日以内）。
13．重篤な高血圧症。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．重篤な出血（脳出血（2．5% 脳，0．4% 心），消化管出血（0．7% 脳，0．6% 心），肺出血（0．1%未満 脳，0．1%未満 心），後腹膜出血（0．1%未満 脳，0．1%未満 心）等），出血性ショック。
2．出血性脳梗塞（14．4% 脳）。
3．脳梗塞（0．6% 脳）。
4．ショック（0．1%未満 脳，0．1% 心），アナフィラキシー（頻度不明）（血圧低下，発汗，脈拍の異常，呼吸困難，蕁麻疹等）。
5．心破裂（0．2% 心），心タンポナーデ（0．1%未満 脳，0．1%未満 心）。
6．血管浮腫（0．1%未満 脳）（舌，口唇，顔面，咽頭，喉頭等の腫脹）。
7．重篤な不整脈（0．13% 脳，0．1%未満 心）（心室細動，心室頻拍等）。
（注）発現頻度は脳 虚血性脳血管障害急性期使用時，心 急性心筋梗塞使用時。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 0．1～1%未満 0．1%未満
出血傾向 血尿，歯肉出血，皮下出血，カテーテル穿刺部位からの出血等
神経系 頭痛
呼吸器 しゃっくり
肝臓 肝機能異常（AST，ALT，ビリルビン，LDH，AI－P上昇等）
皮膚 紅斑
消化器 悪心・嘔吐
その他 貧血 発熱，熱感，血圧低下，発汗
（表終了）

アクチバシン注600万（600万国際単位1瓶（溶解液付））

内 注射 流通

【YJコード】3959402D1027
【薬効分類】3．9．5 酵素製剤
【一般名】アルテプラーゼ（遺伝子組換え）
【メーカー】製)協和キリン
【薬価】32014円/1V
【標榜薬効】血栓溶解剤（rt－PA製剤）

3 代謝性医薬品

■効能効果・用法用量
【効能効果】○虚血性脳血管障害急性期に伴う機能障害の改善（発症後4．5時間以内）
○急性心筋梗塞の冠動脈血栓の溶解（発症後6時間以内）
注意
虚血性脳血管障害急性期に伴う機能障害の改善（発症後4．5時間以内）
1．投与前に頭蓋CT・MRIを実施し，出血がある時は投与しない。
2．臨床症状が急速に改善・ごく軽度の臨床症状（失調，感覚障害，構音障害，軽度の運動障害）のみの患者は，危険性が有益性を上回る可能性，投与しない。
急性心筋梗塞の冠動脈血栓の溶解（発症後6時間以内）
3．冠動脈造影で血栓を確認後，投与開始。冠動脈造影の実施困難時は，強い胸痛を伴い心電図上STの上昇があり，冠血管拡張剤投与でも胸痛が緩解しない患者に投与。
【用法用量】虚血性脳血管障害急性期に伴う機能障害の改善（発症後4．5時間以内）
成人　34．8万国際単位／kg（0．6mg／kg）　静注。3480万国際単位（60mg）まで。
総量の10%は急速投与（1～2分間）し，残りを1時間で　静注（添付溶解液に溶解，必要時，生食で希釈）。
投与は発症後，早期に行う。
急性心筋梗塞の冠動脈血栓の溶解（発症後6時間以内）
成人　29万～43．5万国際単位／kg（0．5～0．75mg／kg）　静注。
総量の10%は急速投与（1～2分間）し，残りを1時間で　静注（添付溶解液に溶解，必要時，生食で希釈）。
投与は発症後，早期に行う。
注意
虚血性脳血管障害急性期に伴う機能障害の改善（発症後4．5時間以内）
1．発症から4．5時間以内に投与開始。治療効果は時間とともに低下し，症候性頭蓋内出血の危険性が高まる報告あり。
急性心筋梗塞の冠動脈血栓の溶解（発症後6時間以内）
2．発症から6時間以内に投与開始。

■禁忌
【禁忌】効能共通
1．デフィブロチドナトリウムの投与患者。
2．出血（頭蓋内出血，消化管出血，尿路出血，後腹膜出血，喀血）。
3．重篤な肝障害。
4．急性膵炎。
5．本剤の成分に過敏症の既往。
虚血性脳血管障害急性期に伴う機能障害の改善（発症後4．5時間以内）
6．くも膜下出血の疑い。
7．脳出血のおそれの高い下記。
・投与前に降圧治療を行っても，収縮期血圧が185mmHg以上又は拡張期血圧が110mmHg以上。
・投与前の血糖値が400mg／dLを超える患者。
・投与前CTで早期虚血性変化（脳実質の吸収値がわずかに低下又は脳溝の消失）が広範。
・投与前CT（又はMRI）で正中線偏位等の圧排所見。
・頭蓋内出血の既往・頭蓋内腫瘍，動静脈奇形，動脈瘤等の出血性素因。
・脳梗塞の既往（3ヵ月以内）。
・頭蓋内・脊髄の手術・傷害を受けた患者（3ヵ月以内）。
8．出血のおそれの高い下記。
・消化管出血・尿路出血の既往（21日以内）。
・大手術後，日の浅い患者（14日以内）。
・投与前の血小板数が100000／mm3以下。
9．経口抗凝固薬・ヘパリンの投与患者で，投与前のプロトロンビン時間－国際標準値が1．7を超えるか又は活性化部分トロンボプラスチン時間が延長している患者。
10．投与前の血糖値が50mg／dL未満。
11．発症時に痙攣発作。
急性心筋梗塞の冠動脈血栓の溶解（発症後6時間以内）
12．出血のおそれの高い下記。
・頭蓋内出血の既往・頭蓋内腫瘍，動静脈奇形，動脈瘤等の出血性素因。
・脳梗塞の既往（3ヵ月以内）。
・頭蓋内・脊髄の手術・傷害を受けた患者（3ヵ月以内）。
・消化管出血・尿路出血の既往（21日以内）。
・大手術後，日の浅い患者（14日以内）。
13．重篤な高血圧症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．重篤な出血（脳出血（2．5% 脳，0．4% 心），消化管出血（0．7% 脳，0．6% 心），肺出血（0．1%未満 脳，0．1%未満 心），後腹膜出血（0．1%未満 脳，0．1%未満 心）等），出血性ショック。
2．出血性脳梗塞（14．4% 脳）。
3．脳梗塞（0．6% 脳）。
4．ショック（0．1%未満 脳，0．1% 心），アナフィラキシー（頻度不明）（血圧低下，発汗，脈拍の異常，呼吸困難，蕁麻疹等）。
5．心破裂（0．2% 心），心タンポナーデ（0．1%未満 脳，0．1%未満 心）。
6．血管浮腫（0．1%未満 脳）（舌，口唇，顔面，咽頭，喉頭等の腫脹）。
7．重篤な不整脈（0．13% 脳，0．1%未満 心）（心室細動，心室頻拍等）。
（注）発現頻度は脳 虚血性脳血管障害急性期使用時，心 急性心筋梗塞使用時。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 0．1～1%未満 0．1%未満
出血傾向 血尿，歯肉出血，皮下出血，カテーテル穿刺部位からの出血等
神経系　頭痛
呼吸器　しゃっくり
肝臓　肝機能異常（AST，ALT，ビリルビン，LDH，AI－P上昇等）
皮膚　紅斑
消化器　悪心・嘔吐
その他　貧血 発熱，熱感，血圧低下，発汗
（表終了）

ウロナーゼ静注用6万単位（60000単位1瓶）
内　注射　流通

【YJコード】3954400D4080
【薬効分類】3．9．5　酵素製剤
【一般名】ウロキナーゼ
【メーカー】製）持田製薬
【薬価】9400円/1V
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】線維素溶解酵素剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の血栓・閉塞性疾患の治療
○脳血栓症（発症後5日以内でコンピューター断層撮影で出血のないもの）
○末梢動・静脈閉塞症（発症後10日以内）
【用法用量】静注（生食10mLに用時溶解）。
点滴注射（生食又はブドウ糖液に混和）がよい。
血栓・閉塞性疾患
脳血栓症
1回60000単位　1日1回　約7日間投与。
末梢動・静脈閉塞症
初期　1日60000～240000単位，以後は漸減し　約7日間投与。

■禁忌
【禁忌】1．止血処置が困難（頭蓋内出血，喀血，後腹膜出血等）。
2．頭蓋内・脊髄の手術・損傷を受けた患者（2ヵ月以内）。
3．動脈瘤。
4．重篤な意識障害を伴う患者。
5．脳塞栓・その疑い。
6．デフィブロチドナトリウムの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．重篤な出血（頻度不明）（出血性脳梗塞，脳出血，消化管出血等，脳内出血），出血性ショック（頻度不明）。
2．ショック（頻度不明）（血圧低下，呼吸困難，胸内苦悶，脈拍の異常，発汗等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 蕁麻疹等
出血傾向 血尿，歯肉出血等
肝臓 AST・ALTの上昇等
消化器 悪心，嘔吐，食欲不振
その他 発熱，悪寒，頭痛 倦怠感
（表終了）

クリアクター静注用80万（80万国際単位1瓶）
内　注射　流通

【YJコード】3959407D2034
【薬効分類】3．9．5　酵素製剤
【一般名】モンテプラーゼ（遺伝子組換え）
【メーカー】製）エーザイ
【薬価】60414円/1V
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】血栓溶解剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○急性心筋梗塞の冠動脈血栓の溶解（発症後6時間以内）
○不安定な血行動態を伴う急性肺塞栓症の肺動脈血栓の溶解
注意
急性心筋梗塞の冠動脈血栓の溶解（発症後6時間以内）
1．冠動脈造影で血栓を確認後，投与開始。冠動脈造影の実施困難時

3 代謝性医薬品

は，強い胸痛を伴い心電図上STの上昇があり，冠血管拡張剤投与でも胸痛が緩解しない患者に投与。
不安定な血行動態を伴う急性肺塞栓症の肺動脈血栓の溶解
2. 急性肺塞栓症の診断は肺動脈造影等で，血栓，塞栓，血流の障害を確認。実施困難時は，症状から不安定な血行動態を伴う急性肺塞栓症が疑われ，低酸素血症，右心負荷の増大等を確認した患者に投与。
3. 急性肺塞栓症には，ヘパリン投与等による抗凝固療法を基礎治療として行う。
【用法用量】急性心筋梗塞の冠動脈血栓の溶解（発症後6時間以内）
成人　27500IU／kg　静注（生食で80000IU／mLに溶解し，約10mL（800000IU）／分）。
不安定な血行動態を伴う急性肺塞栓症の肺動脈血栓の溶解
成人　13750～27500IU／kg　静注（生食で80000IU／mLに溶解し，約10mL（800000IU）／分）。1回最大27500IU／kg。
投与は発症後，早期に行う。
注意
急性心筋梗塞の冠動脈血栓の溶解（発症後6時間以内）
1. 発症から6時間以内に投与開始。
不安定な血行動態を伴う急性肺塞栓症の肺動脈血栓の溶解
2. 急性肺塞栓症 危険性と有益性の両面から慎重に投与量を決定。
9. 特定の背景を有する患者に関する注意に該当する患者等，出血の危険性が高い患者 低用量（13750IU／kg）を考慮。
参考
体重別投与量早見表
（表開始）
体重（kg） 13750IU／kg静注時 13750IU／kg静注時 13750IU／kg静注時 27500IU／kg静注時 27500IU／kg静注時 27500IU／kg静注時
体重（kg） 投与量（万IU） 注入量（mL） 注入時間の目安（秒） 投与量（万IU） 注入量（mL） 注入時間の目安（秒）
30 41. 25 5. 2 30～45 82. 5 10. 3 60～90
35 48. 13 6 30～45 96. 25 12 60～90
40 55 6. 9 30～45 110 13. 8 60～90
45 61. 88 7. 7 45～60 123. 75 15. 5 90～120
50 68. 75 8. 6 45～60 137. 5 17. 2 90～120
55 75. 63 9. 5 45～60 151. 25 18. 9 90～120
60 82. 5 10. 3 60～75 165 20. 6 120～150
65 89. 38 11. 2 60～75 178. 75 22. 3 120～150
70 96. 25 12 60～75 192. 5 24. 1 120～150
75 103. 13 12. 9 75～90 206. 25 25. 8 150～180
80 110 13. 8 75～90 220 27. 5 150～180
85 116. 88 14. 6 75～90 233. 75 29. 2 150～180
90 123. 75 15. 5 90～105 247. 5 30. 9 180～210
95 130. 63 16. 3 90～105 261. 25 32. 7 180～210
100 137. 5 17. 2 90～105 275 34. 4 180～210
（表終了）
（IU 国際単位）

■禁忌
【禁忌】1. 出血（消化管出血，尿路出血，後腹膜出血，頭蓋内出血，喀血）。
2. 出血のおそれの高い下記。
・頭蓋内・脊髄の手術・障害を受けた患者（2ヵ月以内）。
・頭蓋内腫瘍，動静脈奇形，動脈瘤。
・出血性素因。
・重篤な高血圧症。
3. デフィブロチドナトリウムの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 重篤な出血（脳出血，消化管出血（0. 1～5%未満），肺出血（急性心筋梗塞 頻度不明，急性肺塞栓症 0. 1～5%未満）等），出血性ショック。
2. 心破裂（急性心筋梗塞 0. 1～5%未満），心室中隔穿孔（急性心筋梗塞 0. 1%未満），心タンポナーデ（心嚢液貯留（0. 1%未満））。
3. 再灌流不整脈（心室細動，心室頻拍（急性心筋梗塞 0. 1～5%未満）等の重篤な不整脈）。
4. ショック（血圧低下，発汗，脈拍の異常，呼吸困難等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 0. 1%未満
血液　穿刺部出血，歯肉出血，血尿，口腔内出血，創部出血，皮下出血，赤血球数・ヘモグロビン量・ヘマトクリット値の減少，血小板数の減少
循環器 不整脈 心嚢液貯留 血圧低下
呼吸器　呼吸困難
過敏症　発疹
肝臓　ALT上昇，AI－P上昇，AST上昇，LDH上昇 総ビリルビン上昇
腎臓　BUN上昇，クレアチニン上昇，尿蛋白
消化器　悪心，嘔吐
その他　悪寒
（表終了）

ブロメライン軟膏5万単位／g＊（ジェイドルフ）（50000単位1g）

両　外用　流通

【YJコード】3959701M1035
【薬効分類】3. 9. 5　酵素製剤
【一般名】ブロメライン
【メーカー】製）ジェイドルフ製薬　販）キョーリンリメディオ　販）杏林製薬　販）マルホ
【薬価】16.6円／1g
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】壊死組織除去剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】熱傷・褥瘡・表在性各種潰瘍・挫傷・切開傷・切断傷・化膿創等の創傷面の壊死組織の分解，除去，清浄化，それに伴う治癒促進
【用法用量】ガーゼ，リント等に軟膏をのばし，潰瘍辺縁に触れないよう塗布。1日1回交換。
創傷面が清浄化し，新生肉芽組織の再生あれば使用中止。

■禁忌
【禁忌】本剤・本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
アナフィラキシーショック（頻度不明）（不快感，血圧低下，呼吸困難，全身紅潮等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満
使用部位 出血（25. 6%），疼痛（16. 3%） 創縁のエロジオン，発赤，浮腫，紅斑・水疱，刺激感，掻痒感，皮膚炎
（表終了）

3. 9. 6　糖尿病用剤

カナグルOD錠100mg（100mg1錠）

両　内服　流通
ハイリスク

【YJコード】3969022F2025
【薬効分類】3. 9. 6　糖尿病用剤
【一般名】カナグリフロジン水和物
【メーカー】製）田辺三菱製薬
【薬価】152.6円／1T
【薬価収載日】2024/05/22
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】SGLT2阻害剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇2型糖尿病
〇2型糖尿病を合併する慢性腎臓病（末期腎不全・透析施行中除く）
注意
2型糖尿病
1. 2型糖尿病のみ使用し，1型糖尿病には投与しない。
2. 高度腎機能障害・透析中の末期腎不全には投与しない。
3. 中等度腎機能障害では血糖低下作用が得られない可能性，投与の必要性を慎重に判断。
4. 食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
2型糖尿病を合併する慢性腎臓病
5. eGFRが30mL／分／1. 73m2未満では，腎保護作用が得られない可能性，投与中にeGFRが低下，腎機能障害が悪化のおそれ，新規に投与しない。投与中にeGFRが30mL／分／1. 73m2未満に低下した時，投与継続の必要性を慎重に判断。
6. 臨床成績の項を熟知し，臨床試験に組み入れられた背景（原疾患，併用薬，腎機能等）を理解し，慢性腎臓病に対するガイドラインの診断基準・重症度分類等を参考に，適応患者を選択。
【用法用量】成人　1回100mg　1日1回　朝食前又は後　内服。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 重症ケトーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡。
3. 重症感染症，術前後，重篤な外傷。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 低血糖（4. 8%）。
2. 脱水（0. 1%）（口渇，多尿，頻尿，血圧低下等），脳梗塞含む血栓・塞栓症等。
3. ケトアシドーシス（0. 1%）（糖尿病性ケトアシドーシス含む）。
4. 腎盂腎炎（0. 1%），外陰部・会陰部の壊死性筋膜炎（頻度不明），敗血症（頻度不明）（敗血症性ショック含む）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 0. 1～1%未満 0. 1%未満 頻度不明
感染症・寄生虫症 尿路感染 カンジダ性亀頭炎，膀胱炎，腟感染，外陰部腟カンジダ症，真菌性性器感染，外陰腟真菌感染 細菌尿，蜂巣炎，

3 代謝性医薬品

結膜炎，性器カンジダ症，口腔カンジダ症，歯周炎，肺炎，股部白癬，外陰部炎，外陰腟炎，カンジダ感染
血液・リンパ系障害　赤血球増加症 貧血，白血球増加症
代謝・栄養障害 無症候性低血糖 高カリウム血症，高尿酸血症，ケトーシス，食欲減退 水分過負荷，痛風，高血糖，低ナトリウム血症，血液量減少症，代謝性アシドーシス，多飲症
神経系障害　浮動性眩暈，体位性眩暈，頭痛 脳卒中，糖尿病性ニューロパチー，労作性眩暈，味覚異常，末梢性ニューロパチー 失神
眼障害　糖尿病網膜症，網膜症
耳・迷路障害　回転性眩暈 耳鳴，突発性難聴
心臓障害　狭心症，不安定狭心症，心房細動，うっ血性心不全，冠動脈疾患，動悸，頻脈，心室性期外収縮，急性冠動脈症候群
血管障害　低血圧，起立性低血圧 高血圧
呼吸器，胸郭・縦隔障害　呼吸困難 咳嗽
胃腸障害 便秘 腹部膨満，腹痛，下痢，口内乾燥，胃炎，胃食道逆流性疾患，悪心，嘔吐 腹部不快感，上腹部痛，慢性胃炎，嚥下障害，痔核，過敏性腸症候群
肝胆道系障害　肝機能異常
皮膚・皮下組織障害　湿疹，掻痒症，発疹，皮膚潰瘍，蕁麻疹，中毒性皮疹 接触皮膚炎，薬疹，全身性皮疹，皮膚病変，全身性掻痒症，糖尿病性足病変
筋骨格系・結合組織障害　筋痙縮 背部痛，筋力低下
腎・尿路障害 頻尿 排尿困難，緊張性膀胱，尿意切迫，夜間頻尿，多尿，糖尿病性腎症，腎機能障害，慢性腎臓病，急性腎障害，末期腎疾患 腎結石症，中毒性ネフロパシー，蛋白尿，尿失禁
生殖系・乳房障害　亀頭包皮炎，陰部掻痒症，外陰腟掻痒症 良性前立腺肥大症，腟分泌物，勃起不全
一般・全身障害・投与部位の状態　疲労，空腹，倦怠感，末梢性浮腫，口渇 無力症，胸部不快感，悪寒，注射部位内出血
臨床検査 血中ケトン体増加 血中クレアチニン増加，血中尿素増加，γ－グルタミルトランスフェラーゼ増加，糸球体濾過率減少，尿中血陽性，体重減少，尿中ケトン体陽性，尿量増加 血中重炭酸塩減少，血中クレアチンホスホキナーゼ増加，血中乳酸脱水素酵素増加，血中カリウム増加，ヘマトクリット増加，赤血球数増加，尿中アルブミン／クレアチニン比増加，肝酵素上昇
傷害，中毒，処置合併症　転倒，上腕骨骨折
（表終了）

グラクティブ錠50mg（50mg1錠）

両　内服　流通
ハイリスク

【YJコード】3969010F2022
【薬効分類】3．9．6　糖尿病用剤
【一般名】シタグリプチンリン酸塩水和物
【メーカー】製)小野薬品工業
【薬価】85.2円/1T
【薬価収載日】2009/12/11
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】糖尿病用剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】2型糖尿病
注意
食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
【用法用量】成人　1回50mg　1日1回　内服。効果不十分時　1回100mg　1日1回まで。
注意
1．腎機能障害 本剤は主に腎臓で排泄されるため，下表を目安に用量調節。
（表開始）
腎機能障害 クレアチニンクリアランス（mL／分） 血清クレアチニン値（mg／dL）（注） 通常量 最大量
中等度 30≦CrCl＜50 男性；1．5＜Cr≦2．5 女性；1．3＜Cr≦2 25mg1日1回 50mg1日1回
重度，末期腎不全 CrCl＜30 男性；Cr＞2．5 女性；Cr＞2 12．5mg1日1回 25mg1日1回
（表終了）
（注）クレアチニンクリアランスに相当する値
2．末期腎不全 血液透析との時間関係は問わない。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．重症ケトーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，1型糖尿病。
3．重症感染症，術前後，重篤な外傷。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．アナフィラキシー反応（頻度不明）。
2．皮膚粘膜眼症候群，剥脱性皮膚炎（各頻度不明）。
3．低血糖（4．2%）。
重篤な低血糖症状，意識消失（インスリン製剤又はスルホニルウレア剤併用）。
4．肝機能障害（AST，ALT等の著しい上昇），黄疸（各頻度不明）。
5．急性腎障害（頻度不明）。
6．急性膵炎（頻度不明）（持続的な激しい腹痛，嘔吐等），出血性膵炎，壊死性膵炎。
7．間質性肺炎（頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常（捻髪音）等）。
8．腸閉塞（頻度不明）（高度の便秘，腹部膨満，持続する腹痛，嘔吐等）。
9．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇）。
10．血小板減少（頻度不明）。
11．類天疱瘡（頻度不明）（水疱，糜爛等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～2%未満 頻度不明
神経系障害 浮動性眩暈，感覚鈍麻 頭痛
眼障害 糖尿病網膜症の悪化
耳・迷路障害 回転性眩暈
心臓障害 上室性期外収縮，心室性期外収縮，動悸
呼吸，胸郭・縦隔障害 鼻咽頭炎 上気道感染
胃腸障害 腹部不快感（胃不快感含む），腹部膨満，腹痛，上腹部痛，悪心，便秘，下痢，鼓腸，胃ポリープ，胃炎，萎縮性胃炎，糜爛性胃炎，歯周炎，胃食道逆流性疾患，口内炎 嘔吐
肝胆道系障害 肝機能異常
皮膚・皮下組織障害 発疹，湿疹，冷汗，多汗症 皮膚血管炎，蕁麻疹，血管浮腫，掻痒症
筋骨格系・結合組織障害　関節痛，筋肉痛，四肢痛，背部痛，RS3PE症候群
全身障害 空腹，浮腫，倦怠感
臨床検査 心電図T波振幅減少，体重増加，赤血球数減少，ヘモグロビン減少，ヘマトクリット減少，白血球数増加，ALT増加，AST増加，γ－GTP増加，血中ビリルビン増加，血中LDH増加，CK増加，血中コレステロール増加，血中尿酸増加，血中尿素増加，血中クレアチニン増加，血中ブドウ糖減少，低比重リポ蛋白増加，血中トリグリセリド増加，尿中蛋白陽性
（表終了）

グリクラジド錠40mg「サワイ」（40mg1錠）

両　内服　後発　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】3961007F1204
【薬効分類】3．9．6　糖尿病用剤
【一般名】グリクラジド
【先発品】グリミクロン錠40mg
【メーカー】製)メディサ新薬　販)沢井製薬　販)日本ジェネリック
【薬価】6.1円/1T
【薬価収載日】2013/06/21
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】血糖降下剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】インスリン非依存型糖尿病（成人型糖尿病）（食事療法・運動療法のみで効果不十分時）
【用法用量】成人　1日40mgから開始　1日1～2回　朝又は朝・夕，食前又は食後　内服。維持量　1日40～120mg，1日160mgまで。

■禁忌

【禁忌】1．重症ケトーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，インスリン依存型糖尿病。
2．重篤な肝・腎機能障害。
3．重症感染症，術前後，重篤な外傷。
4．下痢，嘔吐等の胃腸障害。
5．本剤の成分・スルホンアミド系薬剤に過敏症の既往。
6．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低血糖（1．9%）（脱力感，高度の空腹感，発汗等，心悸亢進，振戦，頭痛，知覚異常，不安，興奮，神経過敏，集中力低下，精神障害，意識障害，痙攣等）。
2．無顆粒球症（0．1%未満）。
3．肝機能障害（AST，ALT，AI－Pの上昇等），黄疸（0．1%未満）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
血液　貧血，白血球減少 血小板減少
肝臓 AST，ALT，AI－Pの上昇
腎臓　BUNの上昇 血清クレアチニンの上昇
消化器 悪心，嘔吐，食欲不振 胃膨満感，便秘，下痢，腹痛
過敏症 皮膚掻痒感，発疹 光線過敏症
その他 頭重，眩暈 頭痛，熱感 脱毛
（表終了）

3 代謝性医薬品

グリメピリド錠0．5mg「NP」（0．5mg1錠）

両 内服 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】3961008F3031
【薬効分類】3．9．6 糖尿病用剤
【一般名】グリメピリド
【先発品】アマリール0．5mg錠
【メーカー】製)ニプロ
【薬価】10.1円/1T
【薬価収載日】2010/11/19
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】スルホニルウレア系血糖降下剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】2型糖尿病（食事療法・運動療法のみで効果不十分時）
【用法用量】1日0．5～1mgから開始 1日1～2回 朝又は朝・夕，食前又は食後 内服。維持量 1日1～4mg。適宜増減，1日最高6mg。

■禁忌

【禁忌】1．重症ケトーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，インスリン依存型糖尿病（若年型糖尿病，ブリットル型糖尿病等）。
2．重篤な肝・腎機能障害。
3．重症感染症，術前後，重篤な外傷。
4．下痢，嘔吐等の胃腸障害。
5．妊婦・妊娠の可能性。
6．本剤の成分・スルホンアミド系薬剤に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低血糖（4．08%）（脱力感，高度の空腹感，発汗，動悸，振戦，頭痛，知覚異常，不安，興奮，神経過敏，集中力低下，精神障害，意識障害，痙攣等）。
2．汎血球減少，無顆粒球症，溶血性貧血，血小板減少（各頻度不明）。
3．肝機能障害（AST，ALT，AI－Pの上昇等），黄疸（頻度不明）。
4．再生不良性貧血（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
血液 白血球減少，貧血
肝臓 AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇，LDH上昇，γ－GTP上昇
腎臓 BUN上昇
消化器 嘔気，嘔吐，心窩部痛，下痢，腹部膨満感 便秘，腹痛
過敏症 発疹，掻痒感等 光線過敏症
精神神経系 眩暈 頭痛
その他 血清カリウム上昇・ナトリウム低下等の電解質異常 味覚異常，CK上昇，浮腫，倦怠感，脱毛，一過性視力障害
（表終了）

グリメピリド錠1mg「NP」（1mg1錠）

両 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】3961008F1101
【薬効分類】3．9．6 糖尿病用剤
【一般名】グリメピリド
【メーカー】製)ニプロ
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2010/11/19
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】スルホニルウレア系血糖降下剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】2型糖尿病（食事療法・運動療法のみで効果不十分時）
【用法用量】1日0．5～1mgから開始 1日1～2回 朝又は朝・夕，食前又は食後 内服。維持量 1日1～4mg。適宜増減，1日最高6mg。

■禁忌

【禁忌】1．重症ケトーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，インスリン依存型糖尿病（若年型糖尿病，ブリットル型糖尿病等）。
2．重篤な肝・腎機能障害。
3．重症感染症，術前後，重篤な外傷。
4．下痢，嘔吐等の胃腸障害。
5．妊婦・妊娠の可能性。
6．本剤の成分・スルホンアミド系薬剤に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低血糖（4．08%）（脱力感，高度の空腹感，発汗，動悸，振戦，頭痛，知覚異常，不安，興奮，神経過敏，集中力低下，精神障害，意識障害，痙攣等）。
2．汎血球減少，無顆粒球症，溶血性貧血，血小板減少（各頻度不明）。
3．肝機能障害（AST，ALT，AI－Pの上昇等），黄疸（頻度不明）。
4．再生不良性貧血（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
血液 白血球減少，貧血
肝臓 AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇，LDH上昇，γ－GTP上昇
腎臓 BUN上昇
消化器 嘔気，嘔吐，心窩部痛，下痢，腹部膨満感 便秘，腹痛
過敏症 発疹，掻痒感等 光線過敏症
精神神経系 眩暈 頭痛
その他 血清カリウム上昇・ナトリウム低下等の電解質異常 味覚異常，CK上昇，浮腫，倦怠感，脱毛，一過性視力障害
（表終了）

ジャディアンス錠10mg（10mg1錠）

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】3969023F1023
【薬効分類】3．9．6 糖尿病用剤
【一般名】エンパグリフロジン
【メーカー】製)日本ベーリンガーインゲルハイム
【薬価】188.9円/1T
【薬価収載日】2015/02/24
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】2型糖尿病・慢性心不全・慢性腎臓病治療剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】○2型糖尿病
○慢性心不全（治療中のみ）
○慢性腎臓病（末期腎不全・透析施行中除く）
注意
2型糖尿病
1．2型糖尿病のみ使用し，1型糖尿病には投与しない。
2．食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
3．高度腎機能障害・透析中の末期腎不全には投与しない。
4．中等度腎機能障害では効果が得られない可能性があるので投与の必要性を慎重に判断。
慢性心不全
5．臨床成績の項を熟知し，臨床試験に組み入れられた背景（前治療等）を理解し，適応患者を選択。
慢性腎臓病
6．eGFRが25mL／分／1．73m2未満では，腎保護作用が得られない可能性，投与中にeGFRが低下，腎機能障害が悪化のおそれ，投与の必要性を慎重に判断。eGFRが25mL／分／1．73m2未満の臨床試験は未実施。
7．臨床成績の項を熟知し，臨床試験に組み入れられた背景（原疾患，併用薬，腎機能等）を理解し，慢性腎臓病に対するガイドラインの診断基準・重症度分類等を参考に，適応患者を選択。
【用法用量】2型糖尿病
成人 1回10mg 1日1回 朝食前又は後 内服。効果不十分時 1回25mg 1日1回まで。
慢性心不全，慢性腎臓病
成人 1回10mg 1日1回 朝食前又は後 内服。
注意
慢性心不全，慢性腎臓病
2型糖尿病を合併 血糖コントロールが不十分時は血糖コントロール改善として本剤25mgに増量できる。慢性心不全，慢性腎臓病に本剤10mg1日1回を超える用量の有効性は未確認，本剤10mgを上回る有効性を期待して本剤25mgを投与しない。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．重症ケトーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡。
3．重症感染症，術前後，重篤な外傷。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低血糖（1．4%）。
2．脱水（0．3%）（口渇，多尿，頻尿，血圧低下等），脳梗塞含む血栓・塞栓症等。
3．ケトアシドーシス（0．1%未満）（糖尿病性ケトアシドーシス含む）。
4．腎盂腎炎（0．1%未満），外陰部・会陰部の壊死性筋膜炎（0．1%未満），敗血症（0．1%未満）（敗血症性ショック含む）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5% 0．1%未満
感染症 尿路感染，膀胱炎，外陰部腟カンジダ症，無症候性細菌尿 外陰部腟炎，細菌性腟炎，トリコモナス症
生殖系障害 亀頭包皮炎，陰部掻痒症 亀頭炎，外陰腟掻痒症，外陰腟不快感

3 代謝性医薬品

代謝・栄養障害 高脂血症 体液量減少
血液・リンパ系障害 血液濃縮
神経障害 眩暈 味覚異常
胃腸障害 便秘 腹部膨満
皮膚・皮下組織障害 掻痒症，発疹 湿疹，蕁麻疹
腎・尿路障害 頻尿，多尿，排尿困難 尿量増加，尿意切迫
一般・全身障害 口渇 空腹感
臨床検査 体重減少 血中ケトン体陽性，尿中ケトン体陽性
（表終了）

スーグラ錠50mg（50mg1錠）

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】3969018F2029
【薬効分類】3．9．6 糖尿病用剤
【一般名】イプラグリフロジン L－プロリン
【メーカー】製)アステラス製薬
【薬価】162.6円/1T
【薬価収載日】2014/04/17
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】糖尿病治療剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】○2型糖尿病
○1型糖尿病
注意
効能共通
1．重度の腎機能障害・透析中の末期腎不全には投与しない。
2．中等度の腎機能障害では効果が得られない可能性があるので投与の必要性を慎重に判断。
3．食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
1型糖尿病
4．適用は，あらかじめ適切なインスリン治療を実施した上で，血糖コントロールが不十分時のみ。
【用法用量】2型糖尿病
成人 1回50mg 1日1回 朝食前又は後 内服。効果不十分時 1回100mg 1日1回まで。
1型糖尿病
インスリン製剤との併用 成人 1回50mg 1日1回 朝食前又は後 内服。効果不十分時 1回100mg 1日1回まで。
注意
1型糖尿病
1．インスリン製剤の代替薬ではない。インスリン製剤の投与を中止すると急激な高血糖やケトアシドーシスのおそれ，インスリン製剤を中止しない。
2．インスリン製剤の併用時は，低血糖リスク軽減のためインスリン製剤の減量を検討。過度な減量はケトアシドーシスのリスクを高めるので注意。臨床試験では，インスリン製剤の1日量は15%減量を推奨。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．重症ケトーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡。
3．重症感染症，術前後，重篤な外傷。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低血糖（1．0%）。
2．腎盂腎炎（0．1%），外陰部・会陰部の壊死性筋膜炎（頻度不明），敗血症（頻度不明）（敗血症性ショック含む）。
3．脱水（0．2%）（口渇，多尿，頻尿，血圧低下等），脳梗塞含む血栓・塞栓症等。
4．ケトアシドーシス（頻度不明）（糖尿病性ケトアシドーシス含む）。
5．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
血液・リンパ系障害 貧血
眼障害 糖尿病網膜症 眼瞼浮腫
胃腸障害 便秘 下痢，胃炎，胃食道逆流性疾患，上腹部痛，腹部膨満，齲歯，悪心 嘔吐
全身障害・投与局所様態 口渇，体重減少 空腹，倦怠感 顔面浮腫，脱力感
肝胆道系障害 肝機能異常，脂肪肝
感染症 膀胱炎 鼻咽頭炎，外陰部腟カンジダ症，細菌尿
代謝・栄養障害 ケトーシス
筋骨格系・結合組織障害 筋痙縮 筋肉痛，背部痛
神経系障害 糖尿病性ニューロパチー，浮動性眩暈，体位性眩暈，頭痛，感覚鈍麻
腎・尿路障害 頻尿 多尿 尿管結石，腎結石症
生殖系・乳房障害 陰部掻痒症
呼吸器，胸郭・縦隔障害 上気道の炎症
皮膚・皮下組織障害 湿疹，発疹，蕁麻疹，薬疹，掻痒症
血管障害 高血圧
臨床検査 尿中β2ミクログロブリン増加，血中ケトン体増加 尿中β－NアセチルDグルコサミニダーゼ増加，尿潜血陽性，尿中アルブミン／クレアチニン比増加，尿中ケトン体陽性，尿中α1ミクログロブリン増加，尿量増加
（表終了）

テネリアOD錠20mg（20mg1錠）

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】3969015F3021
【薬効分類】3．9．6 糖尿病用剤
【一般名】テネリグリプチン臭化水素酸塩水和物
【メーカー】製)田辺三菱製薬 販)第一三共
【薬価】98.3円/1T
【薬価収載日】2021/06/18
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】2型糖尿病治療剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】2型糖尿病
注意
食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
【用法用量】成人 1回20mg 1日1回 内服。効果不十分時 1回40mg 1日1回まで。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．重症ケトーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，1型糖尿病。
3．重症感染症，術前後，重篤な外傷。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低血糖（1．1～8．9%）。
重篤な低血糖症状，意識消失（インスリン製剤又はスルホニルウレア剤併用）。
2．腸閉塞（0．1%）（高度の便秘，腹部膨満，持続する腹痛，嘔吐等）。
3．肝機能障害（頻度不明）（AST，ALTの上昇等）。
4．間質性肺炎（頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常（捻髪音）等）。
5．類天疱瘡（頻度不明）（水疱，糜爛等）。
6．急性膵炎（頻度不明）（持続的な激しい腹痛，嘔吐等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 浮動性眩暈
消化器 便秘，腹部膨満，腹部不快感，悪心，腹痛，鼓腸，口内炎，胃ポリープ，結腸ポリープ，十二指腸潰瘍，逆流性食道炎，下痢，食欲減退，アミラーゼ上昇，リパーゼ上昇
肝臓 AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇 AI－P上昇
腎臓・泌尿器系 蛋白尿，尿ケトン体陽性，尿潜血
皮膚 湿疹，発疹，掻痒，アレルギー性皮膚炎
筋骨格系 関節痛
その他 CK上昇，血清カリウム上昇，倦怠感，アレルギー性鼻炎，血清尿酸上昇 末梢性浮腫
（表終了）

トラゼンタ錠5mg（5mg1錠）

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】3969014F1024
【薬効分類】3．9．6 糖尿病用剤
【一般名】リナグリプチン
【メーカー】製)日本ベーリンガーインゲルハイム
【薬価】118.9円/1T
【薬価収載日】2011/09/12
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】2型糖尿病治療剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】2型糖尿病
注意
食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
【用法用量】成人 1回5mg 1日1回 内服。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．糖尿病性ケトアシドーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，1型糖尿病。
3．重症感染症，術前後，重篤な外傷。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低血糖（2．1%）。

3 代謝性医薬品

重篤な低血糖，意識消失（スルホニルウレア剤併用）。
2．腸閉塞（頻度不明）（高度の便秘，腹部膨満，持続する腹痛，嘔吐等）。
3．肝機能障害（頻度不明）（AST，ALTの上昇等）。
4．類天疱瘡（頻度不明）（水疱，糜爛等）。
5．間質性肺炎（頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常（捻髪音）等）。
6．急性膵炎（頻度不明）（持続的な激しい腹痛，嘔吐等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．3%以上 頻度不明
過敏症 蕁麻疹，血管浮腫，気管支収縮
代謝・栄養障害 高トリグリセリド血症，高脂血症
神経系障害 浮動性眩暈
呼吸器，胸郭・縦隔障害 鼻咽頭炎 咳嗽
胃腸障害 腹部膨満，便秘，鼓腸，胃腸炎 口内炎
皮膚・皮下組織障害 発疹
全身障害・投与局所様態 浮腫
臨床検査 体重増加，膵酵素（血中アミラーゼ，リパーゼ）増加，肝酵素（AST，ALT）上昇
（表終了）

ピオグリタゾンOD錠15mg「NS」（15mg1錠）

両 内服 後発 流通
ハイリスク

【YJコード】3969007F3060
【薬効分類】3．9．6 糖尿病用剤
【一般名】ピオグリタゾン塩酸塩
【先発品】アクトスOD錠15
【メーカー】製）日新製薬 販）科研製薬
【薬価】12.7円/1T
【薬価収載日】2011/06/24
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】インスリン抵抗性改善剤－2型糖尿病治療剤－
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】2型糖尿病
下記治療が効果不十分でインスリン抵抗性の推定される時のみ
1．
（1）．食事療法，運動療法のみ
（2）．食事療法，運動療法に加えスルホニルウレア剤を使用
（3）．食事療法，運動療法に加えα－グルコシダーゼ阻害剤を使用
（4）．食事療法，運動療法に加えビグアナイド系薬剤を使用
2．食事療法，運動療法に加えインスリン製剤を使用
注意
インスリン抵抗性が推定される患者に限定。インスリン抵抗性の目安は肥満度（BMI kg／m2）で24以上，インスリン分泌状態が空腹時血中インスリン値で5μU／mL以上。
【用法用量】食事療法，運動療法のみ及び食事療法，運動療法に加えスルホニルウレア剤又はα－グルコシダーゼ阻害剤又はビグアナイド系薬剤を使用時
成人 1回15～30mg 1日1回 朝食前又は後 内服。適宜増減，1日45mgまで。
食事療法，運動療法に加えインスリン製剤を使用時
成人 1回15mg 1日1回 朝食前又は後 内服。適宜増減，1日30mgまで。
注意
1．女性は，浮腫に注意し，1日1回15mgから開始。
2．1日1回30mgから45mgに増量時，浮腫の発現が多い。
3．インスリンとの併用時に，浮腫が多く報告あり，1日1回15mgから開始。本剤を増量時は浮腫及び心不全の症状・徴候を観察。1日30mgまで。
4．高齢者は，1日1回15mgから開始。

■禁忌

【禁忌】1．心不全・その既往。
2．重症ケトーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，1型糖尿病。
3．重篤な肝機能障害。
4．重篤な腎機能障害。
5．重症感染症，術前後，重篤な外傷。
6．本剤の成分に過敏症の既往。
7．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．心不全（頻度不明）の増悪・発症（浮腫，急激な体重増加，息切れ，動悸，心胸比増大，胸水等）。
2．循環血漿量の増加による浮腫（8．2%）。
3．肝機能障害（AST，ALT，AI－P等の著しい上昇），黄疸（頻度不明）。
4．低血糖（0．1～5%未満），低血糖症状（糖尿病用薬併用時）。
5．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇）。
6．間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，肺音の異常（捻髪音）等）。
7．胃潰瘍の再燃（0．1%未満）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
血液 貧血，白血球減少，血小板減少
循環器 血圧上昇，心胸比増大，心電図異常，動悸，胸部圧迫感，顔面潮紅
過敏症 発疹，湿疹，掻痒
消化器 悪心・嘔吐，胃部不快感，胸やけ，腹痛，腹部膨満感，下痢，便秘，食欲亢進，食欲不振
肝臓 AST，ALT，AI－P，γ－GTPの上昇
精神神経系 眩暈，ふらつき，頭痛，眠気，倦怠感，脱力感，しびれ
その他 LDH・CKの上昇 BUN・カリウムの上昇，総蛋白・カルシウムの低下，体重・尿蛋白の増加，息切れ 関節痛，ふるえ，急激な血糖下降に伴う糖尿病性網膜症の悪化 骨折（注），糖尿病性黄斑浮腫の発症・増悪
（表終了）
（注）外国。

ビルダグリプチン錠50mg「JG」（50mg1錠）

両 内服 後発 流通
ハイリスク

【YJコード】3969011F1039
【薬効分類】3．9．6 糖尿病用剤
【一般名】ビルダグリプチン
【先発品】エクア錠50mg
【メーカー】製）日本ジェネリック
【薬価】18.4円/1T
【薬価収載日】2024/12/06
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】2型糖尿病治療薬
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】2型糖尿病
注意
食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
【用法用量】成人 1回50mg 1日2回 朝，夕 内服。
患者の状態により，1回50mg 1日1回 朝 内服。
注意
中等度以上の腎機能障害・透析中の末期腎不全 血中濃度上昇のおそれ，50mgを1日1回朝に投与する等慎重投与。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．糖尿病性ケトアシドーシス，糖尿病性昏睡，1型糖尿病。
3．重度の肝機能障害。
4．重症感染症，術前後，重篤な外傷。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．肝炎，肝機能障害（各頻度不明）（ALT，ASTの上昇等），黄疸。
2．血管浮腫（頻度不明）。
3．低血糖（頻度不明）。
重篤な低血糖症状，意識消失（スルホニルウレア剤併用）。
4．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇）。
5．急性膵炎（頻度不明）（持続的な激しい腹痛，嘔吐等）。
6．腸閉塞（頻度不明）（高度の便秘，腹部膨満，持続する腹痛，嘔吐等）。
7．間質性肺炎（頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常（捻髪音）等）。
8．類天疱瘡（頻度不明）（水疱，糜爛等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
血液・リンパ系障害 － 血小板数減少 －
神経系障害 眩暈，振戦 頭痛 －
心臓障害 動悸 － －
血管障害 － 高血圧 －
胃腸障害 便秘，腹部膨満，血中アミラーゼ増加，リパーゼ増加 鼓腸，上腹部痛，腹部不快感，胃炎，悪心，下痢，消化不良，胃食道逆流性疾患 －
肝胆道系障害 － ALT増加，AST増加，γ－GTP増加，AI－P増加 胆嚢炎
筋骨格系障害 － 関節痛 －
皮膚障害 多汗症 湿疹，発疹，掻痒症，蕁麻疹 皮膚剥脱，水疱，皮膚血管炎
その他 空腹，無力症，血中CK増加，血中CK－MB増加 CRP増加，末梢性浮腫，体重増加，悪寒 －
（表終了）

3 代謝性医薬品

フォシーガ錠10mg（10mg1錠）

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】3969019F2023
【薬効分類】3．9．6 糖尿病用剤
【一般名】ダパグリフロジンプロピレングリコール水和物
【メーカー】製)アストラゼネカ 販)小野薬品工業
【薬価】240.2円/1T
【薬価収載日】2014/05/23
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】選択的SGLT2阻害剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】○2型糖尿病
○1型糖尿病
○慢性心不全（治療中のみ）
○慢性腎臓病（末期腎不全・透析施行中除く）
注意
1型糖尿病，2型糖尿病
1．重度の腎機能障害・透析中の末期腎不全には投与しない。
2．中等度の腎機能障害では血糖降下作用が得られない可能性があるので投与の必要性を慎重に判断。
3．食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
1型糖尿病
4．適用は，あらかじめ適切なインスリン治療を実施した上で，血糖コントロールが不十分時のみ。
慢性心不全
5．臨床成績の項を熟知し，臨床試験に組み入れられた背景（前治療等）を理解し，適応患者を選択。
慢性腎臓病
6．eGFRが25mL／分／1．73m2未満では，腎保護作用が得られない可能性，投与中にeGFRが低下，腎機能障害が悪化のおそれ，投与の必要性を慎重に判断。eGFRが25mL／分／1．73m2未満の臨床試験は未実施。
7．臨床成績の項を熟知し，臨床試験に組み入れられた背景（原疾患，併用薬，腎機能等）を理解し，慢性腎臓病に対するガイドラインの診断基準・重症度分類等を参考に，適応患者を選択。
【用法用量】2型糖尿病
成人 1回5mg 1日1回 内服。効果不十分時 1回10mg 1日1回まで。
1型糖尿病
インスリン製剤との併用 成人 1回5mg 1日1回 内服。効果不十分時 1回10mg 1日1回まで。
慢性心不全，慢性腎臓病
成人 1回10mg 1日1回 内服。
注意
1型糖尿病
1．インスリン製剤の代替薬ではない。インスリン製剤の投与を中止すると急激な高血糖やケトアシドーシスのおそれ，インスリン製剤を中止しない。
2．インスリン製剤の併用時は，低血糖リスク軽減のためインスリン製剤の減量を検討。過度な減量はケトアシドーシスのリスクを高めるので注意。臨床試験では，インスリン製剤の1日量の減量は20%以内を推奨。
慢性心不全，慢性腎臓病
3．1型糖尿病を合併 糖尿病治療に精通した医師又はその指導のもとで，適切な管理下で5mg1日1回から投与開始。インスリン量を調整後，10mg1日1回に増量。5mg1日1回では慢性心不全，慢性腎臓病の有効性は確認されていない。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．重症ケトーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡。
3．重症感染症，術前後，重篤な外傷。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低血糖（頻度不明）。
2．腎盂腎炎（0．1%未満），外陰部・会陰部の壊死性筋膜炎（頻度不明），敗血症（0．1%未満）（敗血症性ショック含む）。
3．脱水（頻度不明）（口渇，多尿，頻尿，血圧低下等），脳梗塞含む血栓・塞栓症等。
4．ケトアシドーシス（頻度不明）（糖尿病ケトアシドーシス含む）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
感染症 性器感染（膣カンジダ症等） 尿路感染（膀胱炎等）
血液 ヘマトクリット増加
代謝・栄養障害 体液量減少 ケトーシス，食欲減退，多飲症
消化器 便秘，口渇 下痢，腹痛，悪心，嘔吐
筋・骨格系 背部痛，筋痙縮
皮膚 発疹
腎臓 頻尿，尿量増加 腎機能障害，排尿困難
精神神経系 頭痛，振戦，眩暈
眼 眼乾燥
生殖器 陰部掻痒症 外陰膣不快感
循環器 高血圧，低血圧
その他 倦怠感，無力症，体重減少，異常感
（表終了）

フォシーガ錠5mg（5mg1錠）

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】3969019F1027
【薬効分類】3．9．6 糖尿病用剤
【一般名】ダパグリフロジンプロピレングリコール水和物
【メーカー】製)アストラゼネカ 販)小野薬品工業
【薬価】163.3円/1T
【薬価収載日】2014/05/23
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】選択的SGLT2阻害剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】○2型糖尿病
○1型糖尿病
○慢性心不全（治療中のみ）
○慢性腎臓病（末期腎不全・透析施行中除く）
注意
1型糖尿病，2型糖尿病
1．重度の腎機能障害・透析中の末期腎不全には投与しない。
2．中等度の腎機能障害では血糖降下作用が得られない可能性があるので投与の必要性を慎重に判断。
3．食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
1型糖尿病
4．適用は，あらかじめ適切なインスリン治療を実施した上で，血糖コントロールが不十分時のみ。
慢性心不全
5．臨床成績の項を熟知し，臨床試験に組み入れられた背景（前治療等）を理解し，適応患者を選択。
慢性腎臓病
6．eGFRが25mL／分／1．73m2未満では，腎保護作用が得られない可能性，投与中にeGFRが低下，腎機能障害が悪化のおそれ，投与の必要性を慎重に判断。eGFRが25mL／分／1．73m2未満の臨床試験は未実施。
7．臨床成績の項を熟知し，臨床試験に組み入れられた背景（原疾患，併用薬，腎機能等）を理解し，慢性腎臓病に対するガイドラインの診断基準・重症度分類等を参考に，適応患者を選択。
【用法用量】2型糖尿病
成人 1回5mg 1日1回 内服。効果不十分時 1回10mg 1日1回まで。
1型糖尿病
インスリン製剤との併用 成人 1回5mg 1日1回 内服。効果不十分時 1回10mg 1日1回まで。
慢性心不全，慢性腎臓病
成人 1回10mg 1日1回 内服。
注意
1型糖尿病
1．インスリン製剤の代替薬ではない。インスリン製剤の投与を中止すると急激な高血糖やケトアシドーシスのおそれ，インスリン製剤を中止しない。
2．インスリン製剤の併用時は，低血糖リスク軽減のためインスリン製剤の減量を検討。過度な減量はケトアシドーシスのリスクを高めるので注意。臨床試験では，インスリン製剤の1日量の減量は20%以内を推奨。
慢性心不全，慢性腎臓病
3．1型糖尿病を合併 糖尿病治療に精通した医師又はその指導のもとで，適切な管理下で5mg1日1回から投与開始。インスリン量を調整後，10mg1日1回に増量。5mg1日1回では慢性心不全，慢性腎臓病の有効性は確認されていない。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．重症ケトーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡。
3．重症感染症，術前後，重篤な外傷。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低血糖（頻度不明）。
2．腎盂腎炎（0．1%未満），外陰部・会陰部の壊死性筋膜炎（頻度不明），敗血症（0．1%未満）（敗血症性ショック含む）。
3．脱水（頻度不明）（口渇，多尿，頻尿，血圧低下等），脳梗塞含む血栓・塞栓症等。
4．ケトアシドーシス（頻度不明）（糖尿病ケトアシドーシス含む）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
感染症 性器感染（膣カンジダ症等） 尿路感染（膀胱炎等）
血液 ヘマトクリット増加
代謝・栄養障害 体液量減少 ケトーシス，食欲減退，多飲症
消化器 便秘，口渇 下痢，腹痛，悪心，嘔吐

3 代謝性医薬品

筋・骨格系　背部痛，筋痙縮
皮膚　発疹
腎臓　頻尿，尿量増加 腎機能障害，排尿困難
精神神経系　頭痛，振戦，眩暈
眼　眼乾燥
生殖器　陰部掻痒症 外陰腟不快感
循環器　高血圧，低血圧
その他　倦怠感，無力症，体重減少，異常感
（表終了）

ボグリボースOD錠0．2mg「トーワ」（0．2mg1錠）

両　内服　後発　流通
ハイリスク

【YJコード】3969004F3082
【薬効分類】3．9．6　糖尿病用剤
【一般名】ボグリボース
【先発品】ベイスンOD錠0．2
【メーカー】製)東和薬品　販)共創未来ファーマ　販)和薬
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2007/07/06
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】糖尿病食後過血糖改善剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇糖尿病の食後過血糖の改善（食事療法・運動療法で効果不十分時，食事療法・運動療法に加え経口血糖降下剤又はインスリン製剤で効果不十分時のみ）
〇耐糖能異常の2型糖尿病の発症抑制（食事療法・運動療法で改善されない時のみ）
注意
効能共通
1．食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
糖尿病の食後過血糖の改善
2．食事療法・運動療法のみでは，投与時の食後血糖2時間値は200mg／dL以上。
3．食事療法，運動療法に加え経口血糖降下剤・インスリン製剤を使用で，投与時の空腹時血糖値は140mg／dL以上を目安。
耐糖能異常の2型糖尿病の発症抑制
4．適用は，耐糖能異常（空腹時血糖が126mg／dL未満で75g経口ブドウ糖負荷試験の血糖2時間値が140～199mg／dL）と判断され，食事療法・運動療法を3～6ヵ月間行っても改善せず，高血圧症，脂質異常症（高トリグリセリド血症，低HDLコレステロール血症等），肥満（BMI　25kg／m2以上），2親等以内の糖尿病家族歴のいずれかを有する時に限定。
【用法用量】糖尿病の食後過血糖の改善
成人　1回0．2mg　1日3回　食直前　内服。効果不十分時　1回0．3mgまで。
耐糖能異常の2型糖尿病の発症抑制
成人　1回0．2mg　1日3回　食直前　内服。
注意
高齢者は，低用量（例 1回0．1mg）から開始，血糖値・消化器症状に注意し，慎重投与。

■禁忌

【禁忌】1．重症ケトーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡。
2．重症感染症，術前後，重篤な外傷。
3．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低血糖（頻度不明，糖尿病用薬併用時0．1～5%未満）。
2．腸閉塞（頻度不明）（腹部膨満，鼓腸，放屁増加等，腸内ガス等の増加，持続する腹痛，嘔吐等）。
3．劇症肝炎，重篤な肝機能障害（AST，ALTの上昇等），黄疸（頻度不明）。
4．意識障害を伴う高アンモニア血症（頻度不明）の増悪。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
消化器 下痢，放屁，腹部膨満 軟便，腹鳴，腹痛，便秘，食欲不振，悪心，嘔吐，胸やけ，口渇 口内炎，味覚異常，腸管嚢胞様気腫症
過敏症　発疹，掻痒，光線過敏症
肝臓　AST，ALT，LDH，γ－GTP，AI－Pの上昇
精神神経系　眩暈 頭痛，ふらつき，眠気
血液　貧血 血小板減少 顆粒球減少
その他　しびれ，顔面等の浮腫，眼のかすみ，ほてり，倦怠感，脱力感，高カリウム血症，血清アミラーゼ上昇，HDLコレステロール低下，発汗，脱毛
（表終了）

ミグリトールOD錠50mg「サワイ」（50mg1錠）

両　内服　後発　流通
ハイリスク

【YJコード】3969009F4030
【薬効分類】3．9．6　糖尿病用剤
【一般名】ミグリトール
【先発品】セイブルOD錠50mg
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】10.6円/1T
【薬価収載日】2017/06/16
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】糖尿病食後過血糖改善剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】糖尿病の食後過血糖の改善（食事療法・運動療法が効果不十分時，食事療法・運動療法に加えスルホニルウレア剤，ビグアナイド系薬剤又はインスリン製剤が効果不十分時のみ）
注意
1．食事療法・運動療法のみでは，食後血糖1又は2時間値が200mg／dL以上。
2．食事療法，運動療法に加え経口血糖降下剤・インスリン製剤を使用で，投与時の空腹時血糖値は140mg／dL以上を目安。
【用法用量】成人　1回50mg　1日3回　食直前　内服。
効果不十分時　1回75mgまで。
注意
高齢者は，低用量（例 1回25mg）から開始する等慎重投与。

■禁忌

【禁忌】1．重症ケトーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡。
2．重症感染症，術前後，重篤な外傷。
3．本剤の成分に過敏症の既往。
4．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．低血糖（頻度不明，糖尿病用薬併用時0．1～5%未満）。
2．腸閉塞（頻度不明）（腹部膨満，鼓腸，放屁増加等，腸内ガス等の増加，持続する腹痛，嘔吐等）。
3．肝機能障害（頻度不明）（AST，ALTの上昇等），黄疸（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
消化器 腹部膨満，鼓腸，下痢 便秘，腸雑音異常，腹痛，嘔気，嘔吐，食欲不振，口渇，消化不良，胃不快感，おくび，胃炎，排便障害，痔核 口内炎，味覚異常，腸管嚢胞様気腫症
過敏症　発疹，紅斑，蕁麻疹，掻痒
肝臓　ALT上昇，AST上昇，γ－GTP上昇，LDH上昇，AI－P上昇
精神神経系　眩暈，頭痛 しびれ，眠気
血液　白血球数減少
代謝　血中アミラーゼ増加，血中カリウム増加，血中尿酸増加
その他　頻尿，咳嗽 倦怠感，浮腫
（表終了）

メトホルミン塩酸塩錠250mgMT「DSPB」（250mg1錠）

両　内服　流通
劇　ハイリスク

【YJコード】3962002F2124
【薬効分類】3．9．6　糖尿病用剤
【一般名】メトホルミン塩酸塩
【メーカー】製)住友ファーマプロモ　販)住友ファーマ
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2020/12/11
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】血糖降下剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇2型糖尿病
下記治療で効果不十分時のみ
（1）．食事療法・運動療法のみ
（2）．食事療法・運動療法に加えスルホニルウレア剤を使用
〇多嚢胞性卵巣症候群の排卵誘発，多嚢胞性卵巣症候群の生殖補助医療の調節卵巣刺激
肥満，耐糖能異常，インスリン抵抗性のいずれかのみ。
注意
多嚢胞性卵巣症候群の排卵誘発，多嚢胞性卵巣症候群の生殖補助医療の調節卵巣刺激
1．糖尿病を合併する多嚢胞性卵巣症候群では糖尿病の治療を優先。

3 代謝性医薬品

多嚢胞性卵巣症候群の排卵誘発
2. ゴナドトロピン製剤を除く排卵誘発薬で効果不十分時に本剤の併用を考慮。
【用法用量】2型糖尿病
成人 メトホルミン塩酸塩 1日500mgから開始 1日2～3回 分割 食直前又は食後 内服。維持量は効果をみながら決める。1日750～1500mg。適宜増減，1日最高2250mg。
10歳以上の小児 メトホルミン塩酸塩 1日500mgから開始 1日2～3回 分割 食直前又は食後 内服。維持量は効果をみながら決める。1日500～1500mg。適宜増減，1日最高2000mg。
多嚢胞性卵巣症候群の排卵誘発
他の排卵誘発薬と併用 メトホルミン塩酸塩 1回500mgから開始 1日1回 内服。忍容性を確認し増量，1日1500mgまで 1日2～3回 分割 内服。排卵までに中止。
多嚢胞性卵巣症候群の生殖補助医療の調節卵巣刺激
他の卵巣刺激薬と併用 メトホルミン塩酸塩 1回500mgから開始 1日1回 内服。忍容性を確認し増量，1日1500mgまで 1日2～3回 分割 内服。採卵までに中止。
注意
中等度の腎機能障害（eGFR30mL／分／1．73m2以上60mL／分／1．73m2未満）では，メトホルミンの血中濃度が上昇し，乳酸アシドーシスの発現リスクが高くなる可能性，下記に注意。特に，eGFRが30mL／分／1．73m2以上45mL／分／1．73m2未満には，有益性が危険性を上回る時のみ投与。
（1）．少量より開始。
（2）．投与中は，より頻回に腎機能（eGFR等）等慎重に経過を観察し，投与の適否・投与量の調節を検討。
（3）．効果不十分時は，メトホルミン塩酸塩1日最高量を下表の目安まで増量できるが，効果を観察し漸増。1日量を1日2～3回分割。
中等度の腎機能障害の1日最高量の目安
（表開始）
推算糸球体濾過量（eGFR）（mL／分／1．73m2） 1日最高量（mg）
45≦eGFR＜60 1500
30≦eGFR＜45 750
（表終了）

■禁忌
【禁忌】1．下記の患者
（1）．乳酸アシドーシスの既往。
（2）．重度の腎機能障害（eGFR30mL／分／1．73m2未満），透析患者（腹膜透析含む）。
（3）．重度の肝機能障害。
（4）．心血管系，肺機能に高度の障害（ショック，心不全，心筋梗塞，肺塞栓等）・その他の低酸素血症を伴いやすい状態。
（5）．脱水症，脱水状態の懸念（下痢，嘔吐等の胃腸障害，経口摂取が困難等）。
（6）．過度のアルコール摂取者。
2．重症ケトーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，1型糖尿病。
3．重症感染症，術前後，重篤な外傷。
4．栄養不良状態，飢餓状態，衰弱状態，脳下垂体機能不全，副腎機能不全。
5．妊婦・妊娠の可能性。
6．本剤の成分・ビグアナイド系薬剤に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．乳酸アシドーシス（頻度不明）（血中乳酸値の上昇，乳酸／ピルビン酸比の上昇，血液pHの低下等，胃腸症状，倦怠感，筋肉痛，過呼吸等）。
2．低血糖（5%以上），低血糖症状（脱力感，高度の空腹感，発汗等）。
3．肝機能障害（AST，ALT，AI－P，γ－GTP，ビリルビンの著しい上昇等），黄疸（頻度不明）。
4．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
消化器 下痢（40．5%），悪心（15．4%），食欲不振（11．8%），腹痛（11．5%），嘔吐 消化不良，腹部膨満感，便秘，胃炎 胃腸障害，放屁増加
血液 貧血，白血球増加，好酸球増加，白血球減少 血小板減少
過敏症 発疹，掻痒
肝臓 肝機能異常
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇
代謝異常 乳酸上昇 CK上昇，血中カリウム上昇 血中尿酸増加 ケトーシス
その他 眩暈・ふらつき 全身倦怠感，空腹感，眠気，動悸，脱力感，発汗，味覚異常，頭重，頭痛，浮腫，ビタミンB12減少 筋肉痛
（表終了）

レパグリニド錠0．25mg「サワイ」（0．25mg1錠）

両 内服 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】3969013F1038
【薬効分類】3．9．6 糖尿病用剤
【一般名】レパグリニド
【先発品】シュアポスト錠0．25mg
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】7.4円/1T
【薬価収載日】2020/06/19
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】速効型インスリン分泌促進剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】2型糖尿病
注意
1．食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
2．投与時は，空腹時血糖が126mg／dL以上か，食後血糖1又は2時間値が200mg／dL以上。
【用法用量】成人 1回0．25mgから開始 1日3回 食直前 内服。
維持量 1回0．25～0．5mg 適宜増減，1回1mgまで。
注意
1．食後投与では速やかな吸収が得られず効果が減弱。効果的に食後の血糖上昇を抑制するため，投与は食直前10分以内。投与後速やかに薬効を発現するため，食前30分投与は食事開始前に低血糖を誘発する可能性。
2．重度の肝機能障害は低用量（1回0．125mg）から開始。

■禁忌
【禁忌】1．重症ケトーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，1型糖尿病。
2．重症感染症，術前後，重篤な外傷。
3．妊婦・妊娠の可能性。
4．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．低血糖（15．1%），低血糖症状（眩暈・ふらつき，ふるえ，空腹感，冷汗，意識消失等）。
2．肝機能障害（0．4%）。
3．心筋梗塞（頻度不明）（外国）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満
代謝 血清カリウム上昇，尿酸上昇
消化器 下痢，便秘，腹痛，悪心，腹部膨満感，逆流性食道炎，胃炎
精神神経系 振戦，眩暈・ふらつき，しびれ感，頭痛，眠気，イライラ感，浮遊感，集中力低下
過敏症 蕁麻疹，掻痒，発疹，紅斑
肝臓 ビリルビン上昇，AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇，γ－GTP上昇
腎臓 クレアチニン上昇，BUN上昇
血液 白血球増加
眼 羞明，視野狭窄，霧視
循環器 血圧上昇，期外収縮，動悸，頻脈
その他 空腹感，倦怠感，脱力感，多汗，冷汗，浮腫，体重増加，ほてり，顔面蒼白，冷感，気分不良
（表終了）

レパグリニド錠0．5mg「サワイ」（0．5mg1錠）

両 内服 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】3969013F2034
【薬効分類】3．9．6 糖尿病用剤
【一般名】レパグリニド
【先発品】シュアポスト錠0．5mg
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】12.3円/1T
【薬価収載日】2020/06/19
【ハイリスク分類】糖尿病用剤
【標榜薬効】速効型インスリン分泌促進剤
【区分】糖尿病薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】2型糖尿病
注意
1．食事療法，運動療法で効果不十分時のみ。
2．投与時は，空腹時血糖が126mg／dL以上か，食後血糖1又は2時間値が200mg／dL以上。
【用法用量】成人 1回0．25mgから開始 1日3回 食直前 内服。
維持量 1回0．25～0．5mg 適宜増減，1回1mgまで。
注意
1．食後投与では速やかな吸収が得られず効果が減弱。効果的に食後の血糖上昇を抑制するため，投与は食直前10分以内。投与後速やかに薬効を発現するため，食前30分投与は食事開始前に低血糖を誘発する可能性。
2．重度の肝機能障害は低用量（1回0．125mg）から開始。

3 代謝性医薬品

■禁忌
【禁忌】1. 重症ケトーシス，糖尿病性昏睡・前昏睡，1型糖尿病。
2. 重症感染症，術前後，重篤な外傷。
3. 妊婦・妊娠の可能性。
4. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 低血糖（15．1%），低血糖症状（眩暈・ふらつき，ふるえ，空腹感，冷汗，意識消失等）。
2. 肝機能障害（0．4%）。
3. 心筋梗塞（頻度不明）（外国）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満
代謝 血清カリウム上昇，尿酸上昇
消化器 下痢，便秘，腹痛，悪心，腹部膨満感，逆流性食道炎，胃炎
精神神経系 振戦，眩暈・ふらつき，しびれ感，頭痛，眠気，イライラ感，浮遊感，集中力低下
過敏症 蕁麻疹，掻痒，発疹，紅斑
肝臓 ビリルビン上昇，AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇，γ－GTP上昇
腎臓 クレアチニン上昇，BUN上昇
血液 白血球増加
眼 羞明，視野狭窄，霧視
循環器 血圧上昇，期外収縮，動悸，頻脈
その他 空腹感，倦怠感，脱力感，多汗，冷汗，浮腫，体重増加，ほてり，顔面蒼白，冷感，気分不良
（表終了）

3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品

アデホス－Lコーワ注20mg（20mg1管）
内 注射 流通

【YJコード】3992400A2138
【薬効分類】3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】アデノシン三リン酸ニナトリウム水和物
【メーカー】製)興和
【薬価】69円/1A
【薬価収載日】2005/06/10
【標榜薬効】代謝賦活剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．下記に伴う諸症状の改善
頭部外傷後遺症
2．心不全
3．筋ジストロフィー症・その類縁疾患
4．急性灰白髄炎
5．脳性小児麻痺（弛緩型）
6．進行性脊髄性筋萎縮症・その類似疾患
7．調節性眼精疲労の調節機能の安定化
8．耳鳴・難聴
9．消化管機能低下のある慢性胃炎
10．慢性肝疾患の肝機能の改善
【用法用量】1．静注 1回5～40mg 1日1～2回 徐々に静注（等張ないし高張ブドウ糖液に溶解）。
2．点滴静注 1回40～80mg 1日1回 30～60分かけ 点滴静注（5%ブドウ糖液200～500mLに溶解）。

■禁忌
【禁忌】脳出血直後。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック様症状（0．1%未満）（胸内苦悶，悪心，顔面潮紅，咳，吃逆，熱感等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
消化器 悪心・嘔吐，食欲不振
循環器 一過性の心悸亢進
精神神経系 頭痛
（表終了）

アデホスコーワ顆粒10%（10%1g）
両 内服 流通

【YJコード】3992001D1059
【薬効分類】3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】アデノシン三リン酸ニナトリウム水和物
【メーカー】製)興和
【薬価】15.5円/1g
【薬価収載日】2006/06/09
【標榜薬効】代謝賦活・抗めまい剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．下記に伴う諸症状の改善
頭部外傷後遺症
2．心不全
3．調節性眼精疲労の調節機能の安定化
4．消化管機能低下のある慢性胃炎
5．メニエール病・内耳障害による眩暈
【用法用量】頭部外傷後遺症に伴う諸症状の改善，心不全，調節性眼精疲労の調節機能の安定化，消化管機能低下の慢性胃炎
1回アデノシン三リン酸ニナトリウム水和物40～60mg 1日3回 内服。
適宜増減。
メニエール病，内耳障害による眩暈
1回アデノシン三リン酸ニナトリウム水和物100mg 1日3回 内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1．0%未満 頻度不明
消化器 悪心，食欲不振，胃腸障害，便秘傾向，口内炎
循環器 全身拍動感
過敏症 掻痒感 発疹
精神神経系 頭痛，眠気，気分が落ち着かない
感覚器 耳鳴
その他 脱力感
（表終了）

アレンドロン酸錠35mg「トーワ」（35mg1錠）
両 内服 後発 流通 劇

【YJコード】3999018F2087
【薬効分類】3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】アレンドロン酸ナトリウム水和物
【先発品】アレンドロン酸錠35mg「DK」，アレンドロン酸錠35mg「SN」，アレンドロン酸錠35mg「YD」，フォサマック錠35mg，ボナロン錠35mg
【メーカー】製)東和薬品
【薬価】99.2円/1T
【薬価収載日】2011/11/28
【標榜薬効】骨粗鬆症治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】骨粗鬆症
注意
日本骨代謝学会の診断基準等を参考に，確定診断された患者が対象。
【用法用量】成人 1回35mg 週1回 朝起床時 水約180mLとともに内服。
服用後最低30分は横にならず，飲食（水除く），他剤の内服も避ける。
注意
1．水のみで服用。水以外の飲み物（Ca，Mg等の含量の高いミネラルウォーター含む），食物，他剤と同時服用で吸収抑制のおそれ。
2．食道・局所への副作用の可能性を低下させるため，速やかに胃内へと到達させる。下記に注意。
（1）．起床してすぐにコップ1杯の水（約180mL）で服用。
（2）．口腔咽頭部に潰瘍を生じる可能性，噛んだり口中で溶解しない。
（3）．服用後最低30分経ってから食事を摂り，食事を終えるまで横にならない。
（4）．就寝時・起床前に服用しない。

■禁忌
【禁忌】1．食道狭窄・アカラシア（食道弛緩不能症）等の食道通過を遅延させる障害。
2．30分以上坐位・立位を保てない患者。
3．本剤の成分・他のビスホスホネート系薬剤に過敏症の既往。
4．低カルシウム血症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．食道・口腔内障害（食道障害（食道穿孔（頻度不明），食道狭窄（頻度不明），食道潰瘍（頻度不明），食道炎（0．3%），食道糜爛（頻度不明））（出血を伴うことあり），口腔内潰瘍（頻度不明））（吐血，下血，貧血，嚥下困難，嚥下痛，胸骨下痛，胸やけ，口腔内異和感，口内痛の発現・悪化等）。
2．胃・十二指腸障害（（出血性）胃・十二指腸潰瘍（0．3%），出血性胃炎（0．2%））（吐血，下血，貧血，上腹部痛，心窩部痛，上腹部不快感の発現・悪化等）。
3．肝機能障害（AST，ALTの上昇），黄疸（各頻度不明）。
4．低カルシウム血症（0．09%）（痙攣，テタニー，しびれ，失見当識，QT延長等）。
5．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）。

3 代謝性医薬品

6. 顎骨壊死・顎骨骨髄炎(0. 03%)。
7. 外耳道骨壊死(頻度不明)。
8. 大腿骨転子下, 近位大腿骨骨幹部, 近位尺骨骨幹部等の非定型骨折(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
消化器 胃痛・心窩部痛, 胃不快感・胃重感・腹部不快感 腹痛, 嘔吐, 食欲不振, 腹部膨満感, 口内炎, 胃酸逆流, 咽喉頭痛, 咽喉頭不快感, おくび, 嘔気, 便秘, 下痢, 胃炎, 消化不良 鼓腸放屁, 口内乾燥, 嚥下困難, 歯肉腫脹
皮膚・皮膚付属器 発疹, かゆみ, 脱毛, 蕁麻疹 紅斑, 湿疹
血液 貧血(赤血球数減少, ヘモグロビン低下等), 白血球数減少, 血小板数減少
肝臓 肝機能異常(AST上昇, ALT上昇, γ－GTP上昇等)
腎臓 BUN上昇 頻尿, 排尿困難
中枢・末梢神経系 浮動性眩暈, 頭痛 回転性眩暈, 知覚減退
筋・骨格系 関節痛, 背(部)痛, 筋肉痛, 骨痛, 筋痙攣
精神神経系 不眠(症)
電解質代謝 血清リン低下, 血清カリウム上昇
眼 眼症状(かすみ, 異和感等), 強膜炎 ぶどう膜炎, 上強膜炎
その他 胸痛, 倦怠(感), 味覚倒錯, 末梢性浮腫, 顔面浮腫, 動悸, 脱力(感), 発熱, 気分不良, ほてり(顔面紅潮, 熱感等), CK上昇, 血圧上昇 血管浮腫, LDH上昇, 総コレステロール値上昇, 血清アルブミン低下, 下肢痛
(表終了)

イグラチモド錠25mg「サワイ」(25mg1錠)

両 内服 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】3999031F1043
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】イグラチモド
【先発品】ケアラム錠25mg
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】37.4円/1T
【薬価収載日】2021/12/10
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】抗リウマチ剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】関節リウマチ
【用法用量】成人 1回25mg 1日1回 朝食後 4週間以上 内服し, 以降, 1回25mg 1日2回 朝・夕食後 内服。
注意
1. 1日50mgから開始時, 1日25mgと比較して, AST, ALT増加の発現率が高いため, 開始から4週間は1日25mgを投与。
2. 1日50mgまで。
3. 本剤の効果は, 開始後16週までに発現するので, 16週までは継続投与し, 効果を確認。
4. 8mg／週以上のメトトレキサートとの併用時や, メトトレキサート以外の抗リウマチ剤との併用時の有効性・安全性は未確立, 注意。

■禁忌

【禁忌】1. 妊婦・妊娠の可能性。
2. 重篤な肝障害。
3. 消化性潰瘍。
4. 本剤の成分に過敏症の既往。
5. ワルファリンの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 肝機能障害(0. 5%)(AST, ALTの増加等), 黄疸(0. 1%)。
2. 汎血球減少症(0. 1%), 無顆粒球症(頻度不明), 白血球減少(0. 1%), 赤血球減少, 血小板減少等の血液障害。
3. 消化性潰瘍(0. 7%)(下血等の消化器症状)。
4. 間質性肺炎(0. 3%)(発熱, 咳嗽, 呼吸困難等)。
5. 感染症(0. 2%)(敗血症, 膿胸等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 10～20%未満 1～10%未満 0. 5～1%未満 0. 5%未満
肝臓 AST増加, ALT増加, Al－P増加, γ－GTP増加 総胆汁酸増加 血中ビリルビン増加 尿中ウロビリノーゲン増加
血液 ヘモグロビン減少, ヘマトクリット減少, 好酸球増加, リンパ球減少, 白血球増加, 白血球減少, 赤血球減少 貧血 血小板減少, 血小板増加, 好塩基球増加, 好中球増加, 好中球減少, 単球増加, 単球減少, リンパ球形態異常
消化器 腹痛, 口内炎, 便潜血陽性, 悪心, 腹部不快感, 下痢, 消化性潰瘍 胃炎, 消化不良, 嘔吐, 食欲減退, 口唇炎 便秘, 腹部膨満, 舌炎, 食道炎, 心窩部不快感, 胃腸炎, 胃腸障害, 歯周炎
腎臓 NAG増加, 尿中β2ミクログロブリン増加, 血中尿素増加, 血中β2ミクログロブリン増加, 尿中蛋白陽性, 尿中赤血球陽性, 尿中白血球陽性, 尿円柱, 尿沈渣陽性 血中クレアチニン増加 腎盂腎炎, 頻尿
過敏症 発疹, 掻痒症 湿疹, 蕁麻疹 紅斑, 光線過敏性反応
代謝異常 血中鉄減少, BNP増加 血中コリンエステラーゼ減少, 総蛋白減少 尿中ブドウ糖陽性, 血中アルブミン減少, 総鉄結合能減少, 不飽和鉄結合能増加
精神神経系 眩暈 頭痛, 不眠症, 傾眠, 異常感
その他 血圧上昇, 鼻咽頭炎, KL－6増加 発熱, 脱毛, 味覚異常, 上気道の炎症, 浮腫 帯状疱疹, 倦怠感, 耳鳴, 咳嗽, 月経障害, カンジダ症, 気管支炎, 爪囲炎, 咽頭炎, 皮膚乾燥, 動悸, 口腔咽頭痛, 背部痛, 筋痙縮, 悪寒, 膀胱炎, 真菌症
(表終了)

イベニティ皮下注105mgシリンジ(105mg1. 17mL1筒)

内 注射 流通

【YJコード】3999449G1025
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ロモソズマブ(遺伝子組換え)
【メーカー】製)アムジェン 販)アステラス製薬
【薬価】25061円/1筒
【薬価収載日】2019/02/26
【標榜薬効】ヒト化抗スクレロスチンモノクローナル抗体製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】骨折の危険性の高い骨粗鬆症
注意
1. 日本骨代謝学会・日本骨粗鬆症学会の診断基準で下記の重症度を参考に, 骨折の危険性の高い患者を対象。
(1). 骨密度値が－2. 5SD以下で1個以上の脆弱性骨折を有する。
(2). 腰椎骨密度が－3. 3SD未満。
(3). 既存椎体骨折の数が2個以上。
(4). 既存椎体骨折の半定量評価法結果がグレード3。
2. 本剤のベネフィットとリスクを理解した上で, 適用患者を選択。
【用法用量】成人 ロモソズマブ(遺伝子組換え) 1回210mg 1ヵ月に1回, 12ヵ月 皮下注。
注意
1. 骨折抑制効果は12ヵ月の投与で検証されており, 12ヵ月を超えた投与では未検討。投与終了後に適切な骨粗鬆症薬による治療を継続。
2. ロモソズマブ(遺伝子組換え)210mgを投与するために, 本剤2本を皮下注。
3. 投与が予定から遅れた時は速やかに投与, 以後, その投与を基点とし, 1ヵ月間隔で投与。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 低カルシウム血症。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 低カルシウム血症(頻度不明)(QT延長, 痙攣, テタニー, しびれ, 失見当識等)。
2. 顎骨壊死・顎骨骨髄炎(頻度不明)。
3. 大腿骨転子下・近位大腿骨骨幹部の非定型骨折(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満
一般・全身障害・投与部位の状態 注射部位反応(疼痛, 紅斑等) 末梢性浮腫
免疫系障害 過敏症(発疹, 皮膚炎, 蕁麻疹, 血管浮腫, 多形紅斑等)
感染症・寄生虫症 鼻咽頭炎
神経系障害 頭痛
呼吸器, 胸郭・縦隔障害 咳嗽
筋骨格系・結合組織障害 関節痛 頚部痛, 筋痙縮
(表終了)

イムラン錠50mg(50mg1錠)

両 内服 流通
ハイリスク

【YJコード】3999005F1059
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】アザチオプリン
【メーカー】製)サンドファーマ 販)グラクソ・スミスクライン 販)サンド
【薬価】69円/1T
【薬価収載日】2007/12/25
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】免疫抑制剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】1. 下記臓器移植の拒絶反応の抑制
腎移植, 肝移植, 心移植, 肺移植
2. ステロイド依存性のクローン病の寛解導入・寛解維持・ステロイド依存性の潰瘍性大腸炎の寛解維持
3. 治療抵抗性の下記リウマチ性疾患
全身性血管炎(顕微鏡的多発血管炎, 多発血管炎性肉芽腫症, 結節性

3 代謝性医薬品

多発動脈炎，好酸球性多発血管炎性肉芽腫症，高安動脈炎等），全身性エリテマトーデス，多発性筋炎，皮膚筋炎，強皮症，混合性結合組織病，難治性リウマチ性疾患
4．自己免疫性肝炎
注意
臓器移植の拒絶反応の抑制
1．副腎皮質ステロイドや他の免疫抑制剤と併用。
ステロイド依存性のクローン病，ステロイド依存性の潰瘍性大腸炎
2．他の標準的な治療法で効果不十分な患者のみ。ステロイド依存性のクローン病の寛解導入では，副腎皮質ステロイドと併用。
治療抵抗性のリウマチ性疾患
3．副腎皮質ステロイド等との併用を考慮。
自己免疫性肝炎
4．副腎皮質ステロイドとの併用を考慮。
【用法用量】1．移植
成人・小児　下記1日量　内服。用量を慎重に増減。
（1）．腎移植
初期量　2～3mg／kg。
維持量　0．5～1mg／kg。
（2）．肝，心，肺移植
初期量　2～3mg／kg。
維持量　1～2mg／kg。
2．ステロイド依存性のクローン病の寛解導入・寛解維持・ステロイド依存性の潰瘍性大腸炎の寛解維持
成人・小児　1日1～2mg／kg（成人　50～100mg）　内服。
3．全身性血管炎（顕微鏡的多発血管炎，多発血管炎性肉芽腫症，結節性多発動脈炎，好酸球性多発血管炎性肉芽腫症，高安動脈炎等），全身性エリテマトーデス，多発性筋炎，皮膚筋炎，強皮症，混合性結合組織病，難治性リウマチ性疾患
成人・小児　1日1～2mg／kg　内服。適宜増減，1日3mg／kgまで。
4．自己免疫性肝炎
成人・小児　1日1～2mg／kg（成人　50～100mg）　内服。
注意
効能共通
1．肝機能障害・腎不全 投与量を通常量の下限。臨床検査値（血液検査，肝機能，腎機能検査等）を観察し，異常時さらに減量を考慮。
ステロイド依存性のクローン病，ステロイド依存性の潰瘍性大腸炎
2．2年程度を目安に投与継続の要否を検討。治療効果は3～4ヵ月の投与ではあらわれない時あり。
治療抵抗性のリウマチ性疾患
3．治療効果があれば効果を維持できる最低量まで減量を検討。
自己免疫性肝炎
4．治療効果があれば効果を維持できる最低量まで減量を検討。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分・メルカプトプリンに過敏症の既往。
2．白血球数3000／mm3以下。
3．フェブキソスタット・トピロキソスタットの投与患者。
4．生ワクチンを接種しない。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．血液障害（頻度不明）（再生不良性貧血，汎血球減少，貧血，巨赤芽球性貧血，赤血球形成不全，無顆粒球症，血小板減少，出血）。
2．ショック様症状（頻度不明）（悪寒，戦慄，血圧降下等）。
3．肝機能障害，黄疸（頻度不明）。
4．悪性新生物（頻度不明）（悪性リンパ腫，皮膚癌，肉腫，子宮頸癌，急性骨髄性白血病，骨髄異形成症候群等）。
5．感染症（頻度不明）（肺炎，敗血症），B型肝炎ウイルスの再活性化による肝炎，C型肝炎の悪化。
6．間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，捻髪音，胸部X線異常，動脈血酸素分圧低下等を伴う）。
7．重度の下痢（頻度不明）。
8．進行性多巣性白質脳症（頻度不明）（意識障害，認知障害，麻痺症状（片麻痺，四肢麻痺），言語障害等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
皮膚 発疹，血管炎
腎臓 腎機能障害
膵臓 膵炎
消化器 食欲不振，悪心，嘔吐，下痢
循環器 心悸亢進
全身症状 全身倦怠感，筋痛，関節痛，発熱，悪寒
その他 脱毛，口内炎，舌炎，眩暈
（表終了）

エスポー皮下用24000シリンジ（24000国際単位0．5mL1筒）

両　注射　流通
劇

【YJコード】3999412G7020
【薬効分類】3．9．9　他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】エポエチン　アルファ（遺伝子組換え）
【メーカー】製）協和キリン　販）キリンファーマ　販）第一三共
【薬価】11772円／1筒
【薬価収載日】2002／12／13
【標榜薬効】ヒトエリスロポエチン製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．腎性貧血
2．貯血量が800mL以上で1週間以上の貯血期間を予定する手術施行患者の自己血貯血
注意
腎性貧血
1．対象は，貧血症に伴う日常生活活動の支障がある透析導入前の腎性貧血（血清クレアチニン濃度で2mg／dL以上，又はクレアチニンクリアランスが30mL／分以下）・連続携行式腹膜灌流施行中の腎性貧血。投与の目安はヘモグロビン濃度で10g／dL（ヘマトクリット値で30%）未満。
貯血量が800mL以上で1週間以上の貯血期間を予定する手術施行患者の自己血貯血

2．手術施行予定で貯血式自己血輸血施行例を対象。骨髄機能障害を伴う疾患の自己血貯血時は，効果・安全性が未確認のため投与しない。
【用法用量】1．腎性貧血
成人　初期　1回6000国際単位　週1回　皮下注。
貧血改善効果あれば　維持量　1回6000～12000国際単位　2週に1回　皮下注。
小児　1回100国際単位／kg　週1回　皮下注。
貧血改善効果の目標値　ヘモグロビン濃度で10g／dL（ヘマトクリット値で30%）前後。
適宜増減。
2．貯血量が800mL以上で1週間以上の貯血期間を予定する手術施行患者の自己血貯血
待機的手術予定でヘモグロビン濃度が13g／dL未満　初回採血1週間前から，ヘモグロビン濃度が13～14g／dL　初回採血後より，成人　1回24000国際単位　最終採血まで　週1回　皮下注。
初回採血は，800mL貯血の時　手術2週間前，1200mL貯血の時　手術3週間前。
投与回数や投与期間を適宜増減。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・他のエリスロポエチン製剤・ダルベポエチン　アルファ製剤に過敏症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（蕁麻疹，呼吸困難，口唇浮腫，咽頭浮腫等）。
2．高血圧性脳症，脳出血（各頻度不明）（急激な血圧上昇，頭痛・意識障害・痙攣等）。
3．心筋梗塞，肺梗塞，脳梗塞（各頻度不明）。
4．赤芽球癆（頻度不明）（抗エリスロポエチン抗体産生を伴う）。
5．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
循環器 血圧上昇 動悸
皮膚 掻痒感，発疹　ざ瘡
肝臓 肝機能異常，AST上昇，ALT上昇，LDH上昇，AI－P上昇 ビリルビン上昇，γ－GTP上昇
消化器　腹痛，嘔気・嘔吐，食欲不振 下痢
感覚器系 頭痛，発熱，熱感・ほてり感，全身倦怠感 関節痛，眩暈，不眠 筋肉痛，口内苦味感
血液　白血球増多，好酸球増多
その他 BUN上昇，血清カリウム上昇 尿酸上昇，クレアチニン上昇，浮腫，脾腫増大，鼻出血 眼底出血（網膜動脈血栓症，網膜静脈血栓症等）
（表終了）

エパルレスタット錠50mg「JG」（50mg1錠）

両　内服　後発　流通

【YJコード】3999013F1266
【薬効分類】3．9．9　他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】エパルレスタット
【先発品】キネダック錠50mg
【メーカー】製）日本ジェネリック
【薬価】20.7円／1T
【薬価収載日】2007／12／03
【標榜薬効】アルドース還元酵素阻害剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】糖尿病性末梢神経障害に伴う自覚症状（しびれ感，疼痛），振動覚異常，心拍変動異常の改善
（糖化ヘモグロビンが高値の時）
注意
1．食事療法，運動療法，経口血糖降下剤，インスリン等の治療を実施

3 代謝性医薬品

後，糖化ヘモグロビンが高値の患者に適用を考慮。
2. 対象は糖化ヘモグロビンが，HbA1c(NGSP値)7．0%以上(JDS値6．6%以上)を目安。
3. 不可逆的な器質的変化を伴う糖尿病性末梢神経障害は効果が未確立。
【用法用量】成人　1回50mg　1日3回　毎食前　内服。
適宜増減。
注意
12週間投与し効果なければ，他の治療に切りかえる。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．血小板減少(頻度不明)。
2．劇症肝炎(頻度不明)，肝機能障害(0．1%未満)(著しいAST・ALTの上昇等)，黄疸(頻度不明)，肝不全(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～0．5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 ― 発疹，掻痒，紅斑，水疱等 ―
肝臓 AST・ALT・γ－GTPの上昇等 ビリルビン上昇 ―
消化器 腹痛，嘔気 嘔吐，下痢，食欲不振，腹部膨満感，便秘 胸やけ
腎臓 ― BUN上昇，クレアチニン上昇 尿量減少，頻尿
血液 ― 貧血，白血球減少 ―
その他 ― 倦怠感，眩暈，頭痛，こわばり，脱力感，四肢疼痛，胸部不快感，動悸，浮腫，ほてり しびれ，脱毛，紫斑，CK上昇，発熱
(表終了)

エルシトニン注40単位（40エルカトニン単位1mL1管）

両　注射　流通
劇

【YJコード】3999401A1200
【薬効分類】3．9．9　他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】エルカトニン
【メーカー】製)旭化成ファーマ
【薬価】405円/1A
【薬価収載日】2006/06/09
【標榜薬効】合成カルシトニン誘導体製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．高カルシウム血症
2．骨ページェット病
【用法用量】高カルシウム血症
成人　1回40エルカトニン単位　1日2回　朝・晩　筋注・点滴静注。点滴静注は希釈後，速やかに使用し，1～2時間かけ　注入。適宜増減。
骨ページェット病
成人　1回40エルカトニン単位　1日1回　筋注。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．妊娠末期。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(血圧低下，気分不良，全身発赤，蕁麻疹，呼吸困難，咽頭浮腫等)。
2．テタニー(0．04%)(低カルシウム血症性テタニーの誘発)。
3．喘息発作(頻度不明)。
4．肝機能障害(AST，ALT，AI－Pの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹
循環器 顔面潮紅，熱感，胸部圧迫感，動悸 血圧上昇 血圧低下
消化器 悪心，嘔吐，下痢，食欲不振，胸やけ，腹痛　口渇，口内炎，腹部膨満感
神経系 眩暈，ふらつき，頭痛　耳鳴，視覚異常(かすみ目等)，しびれ感，口内しびれ感
肝臓 AST，ALTの上昇
電解質代謝 低ナトリウム血症，低リン血症
注射部位 疼痛　発赤，腫脹
その他 浮腫，発熱，悪寒，全身倦怠感 掻痒感，脱力感，咽喉部異和感(咽喉部ハッカ様爽快感等)，あくび 頻尿，発汗，赤血球減少，ヘモグロビン減少，BUN上昇，AI－P上昇，乳房肥大，乳房痛，尿白濁
(表終了)

オザグレルNa静注液80mg「日医工」（80mg8mL1管）

内　注射　後発　流通

【YJコード】3999411A2056
【薬効分類】3．9．9　他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】オザグレルナトリウム
【メーカー】製)日医工
【薬価】655円/1A
【薬価収載日】2012/12/14
【標榜薬効】トロンボキサン合成酵素阻害剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○くも膜下出血術後の脳血管攣縮，これに伴う脳虚血症状の改善
○脳血栓症(急性期)に伴う運動障害の改善
【用法用量】くも膜下出血術後の脳血管攣縮，これに伴う脳虚血症状の改善
成人　1日80mg　24時間かけ　持続静注(電解質液又は糖液で希釈)。
くも膜下出血術後早期に開始し，2週間持続投与。
適宜増減。
脳血栓症(急性期)に伴う運動障害の改善
成人　1回80mg　1日2回　朝・夕　約2週間　2時間かけ　持続静注(電解質液又は糖液で希釈)。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．出血(出血性脳梗塞，硬膜外出血，脳内出血，原発性脳室内出血の合併)。
2．重篤な意識障害を伴う大梗塞，脳塞栓症。
3．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．出血。
くも膜下出血術後の脳血管攣縮，これに伴う脳虚血症状の改善
出血性脳梗塞・硬膜外血腫・脳内出血(1．9%)，消化管出血(0．8%)，皮下出血(0．8%)，血尿(頻度不明)等。
脳血栓症(急性期)に伴う運動障害の改善
出血性脳梗塞・硬膜外血腫・脳内出血(0．3%)，消化管出血(頻度不明)，皮下出血(0．3%)，血尿(頻度不明)等。
2．ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(血圧低下，呼吸困難，喉頭浮腫，冷感等)。
3．重症な肝機能障害(著しいAST・ALTの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
4．血小板減少(頻度不明)。
5．白血球減少，顆粒球減少(各頻度不明)(発熱，悪寒等)。
6．重篤な腎機能障害(頻度不明)(急性腎障害等)，血小板減少。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～3%未満 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹，紅斑 喘息(様)発作，掻痒
循環器 上室性期外収縮，血圧下降
血液 貧血
肝臓　AST・ALT，LDH，AI－P，ビリルビンの上昇等
腎臓　BUN，クレアチニン上昇
消化器 嘔気，嘔吐，下痢，食欲不振，膨満感
その他 発熱，頭痛，注射部の発赤・腫脹・疼痛 CK上昇，胸内苦悶感，ほてり，悪寒・戦慄，関節炎，CRP上昇
(表終了)

オフェブカプセル100mg（100mg1カプセル）

両　内服　流通
劇

【YJコード】3999039M1022
【薬効分類】3．9．9　他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ニンテダニブエタンスルホン酸塩
【メーカー】製)日本ベーリンガーインゲルハイム
【薬価】3982.4円/1C
【薬価収載日】2015/08/31
【標榜薬効】抗線維化剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】○特発性肺線維症
○全身性強皮症に伴う間質性肺疾患
○進行性線維化を伴う間質性肺疾患
注意
全身性強皮症に伴う間質性肺疾患
1．皮膚病変等の全身性強皮症に伴う間質性肺疾患以外の臓器病変に対する有効性はない。
進行性線維化を伴う間質性肺疾患
2．臨床成績の項を熟知し，肺機能，呼吸器症状・胸部画像所見の総合的な評価により進行性線維化が認められる間質性肺疾患に投与。
【用法用量】成人　1回150mg　1日2回　朝・夕食後　内服。状態により1回100mg　1日2回へ減量。
注意
効能共通
1．下痢，悪心，嘔吐等の副作用があれば，対症療法等の処置を行い，本剤の治療が可能な状態に回復するまでの間，減量・治療の中断を検

3 代謝性医薬品

討。治療の中断後再開時は1回100mg，1日2回から再開を検討。状態に応じ1回150mg，1日2回へ増量できる。再投与・増量時は慎重投与。
2. AST・ALTが基準値上限の3倍を超えた時は，減量又は治療を中断し，経過観察。投与再開時は，AST・ALTが投与前の状態に回復後，1回100mg，1日2回から投与，状態に応じ1回150mg，1日2回へ増量できる。再投与・増量時は慎重投与。
全身性強皮症に伴う間質性肺疾患
3. シクロホスファミド，アザチオプリンとの併用時の有効性・安全性は未検討。

■禁忌

【禁忌】1. 妊婦・妊娠の可能性。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 重度の下痢(3. 0%)。
2. 肝機能障害(2. 1%)。
3. 血栓塞栓症(静脈血栓塞栓(頻度不明)，動脈血栓塞栓(0. 2%))。
4. 血小板減少(0. 2%)，重篤な出血。
5. 消化管穿孔(0. 1%)。
6. 間質性肺炎(頻度不明)。
7. ネフローゼ症候群(頻度不明)。
8. 動脈解離(頻度不明)(大動脈解離含む)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 10%以上 5～10%未満 1～5%未満 1%未満
代謝・栄養障害 食欲減退，体重減少
血管障害 高血圧
胃腸障害 下痢(56. 1%)，悪心(21. 6%)，嘔吐(11. 0%)，腹痛(10. 9%) 便秘 虚血性大腸炎
肝胆道系障害 肝酵素上昇(AST，ALT，AI－P，γ－GTP上昇等)(12. 2%) 高ビリルビン血症
皮膚・皮下組織障害 発疹，掻痒症，脱毛症
神経障害 頭痛
その他 出血
(表終了)

オフェブカプセル150mg（150mg1カプセル）

両 内服 流通
劇

【YJコード】3999039M2029
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ニンテダニブエタンスルホン酸塩
【メーカー】製)日本ベーリンガーインゲルハイム
【薬価】5966.4円/1C
【薬価収載日】2015/08/31
【標榜薬効】抗線維化剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇特発性肺線維症
〇全身性強皮症に伴う間質性肺疾患
〇進行性線維化を伴う間質性肺疾患
注意
全身性強皮症に伴う間質性肺疾患
1. 皮膚病変等の全身性強皮症に伴う間質性肺疾患以外の臓器病変に対する有効性はない。
進行性線維化を伴う間質性肺疾患
2. 臨床成績の項を熟知し，肺機能，呼吸器症状・胸部画像所見の総合的な評価により進行性線維化が認められる間質性肺疾患に投与。
【用法用量】成人 1回150mg 1日2回 朝・夕食後 内服。状態により1回100mg 1日2回へ減量。
注意
効能共通
1. 下痢，悪心，嘔吐等の副作用があれば，対症療法等の処置を行い，本剤の治療が可能な状態に回復するまでの間，減量・治療の中断を検討。治療の中断後再開時は1回100mg，1日2回から再開を検討。状態に応じ1回150mg，1日2回へ増量できる。再投与・増量時は慎重投与。
2. AST・ALTが基準値上限の3倍を超えた時は，減量又は治療を中断し，経過観察。投与再開時は，AST・ALTが投与前の状態に回復後，1回100mg，1日2回から投与，状態に応じ1回150mg，1日2回へ増量できる。再投与・増量時は慎重投与。
全身性強皮症に伴う間質性肺疾患
3. シクロホスファミド，アザチオプリンとの併用時の有効性・安全性は未検討。

■禁忌

【禁忌】1. 妊婦・妊娠の可能性。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 重度の下痢(3. 0%)。
2. 肝機能障害(2. 1%)。
3. 血栓塞栓症(静脈血栓塞栓(頻度不明)，動脈血栓塞栓(0. 2%))。
4. 血小板減少(0. 2%)，重篤な出血。
5. 消化管穿孔(0. 1%)。
6. 間質性肺炎(頻度不明)。
7. ネフローゼ症候群(頻度不明)。
8. 動脈解離(頻度不明)(大動脈解離含む)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 10%以上 5～10%未満 1～5%未満 1%未満
代謝・栄養障害 食欲減退，体重減少
血管障害 高血圧
胃腸障害 下痢(56. 1%)，悪心(21. 6%)，嘔吐(11. 0%)，腹痛(10. 9%) 便秘 虚血性大腸炎
肝胆道系障害 肝酵素上昇(AST，ALT，AI－P，γ－GTP上昇等)(12. 2%) 高ビリルビン血症
皮膚・皮下組織障害 発疹，掻痒症，脱毛症
神経障害 頭痛
その他 出血
(表終了)

オルケディア錠1mg（1mg1錠）

両 内服 流通
劇

【YJコード】3999044F1024
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】エボカルセト
【メーカー】製)協和キリン
【薬価】271.9円/1T
【薬価収載日】2018/05/22
【標榜薬効】カルシウム受容体作動薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】1. 維持透析下の二次性副甲状腺機能亢進症
2. 下記の高カルシウム血症
副甲状腺癌，副甲状腺摘出術不能・術後再発の原発性副甲状腺機能亢進症
【用法用量】維持透析下の二次性副甲状腺機能亢進症
成人 開始量 エボカルセト 1回1mg 1日1回 内服。状態に応じ 開始量 1回2mg 1日1回 内服。以後，副甲状腺ホルモン(PTH)及び血清カルシウム濃度により 1回1～8mg 1日1回 内服。適宜調整。効果不十分時 適宜調整，1日1回12mgまで。
副甲状腺癌の高カルシウム血症，副甲状腺摘出術不能・術後再発の原発性副甲状腺機能亢進症の高カルシウム血症
成人 開始量 エボカルセト 1回2mg 1日1回 内服。血清カルシウム濃度により 開始量 1回2mg 1日2回 内服。以後，投与量及び投与回数を適宜増減するが，1回6mg 1日4回まで。
注意
維持透析下の二次性副甲状腺機能亢進症
1. 本剤は血中カルシウムの低下作用を有するので，血清カルシウム濃度が低値でないこと(目安として8. 4mg／dL以上)を確認して開始。
2. 増量時は増量幅を1mgとし，2週間以上あける。
3. PTHが高値(目安としてintact PTHが500pg／mL以上)で血清カルシウム濃度が9mg／dL以上の時は，開始量として1日1回2mgを考慮。
4. 血清カルシウム濃度は，本剤の開始時・用量調整時は週1回以上測定し，維持期には2週に1回以上測定。血清カルシウム濃度が8. 4mg／dL未満に低下した時は，下表のように対応。
(表開始)
血清カルシウム濃度(mg／dL) 処置(本剤の投与) 処置 検査 増量・再開
8. 4未満 本剤の増量は行わない(必要時本剤を減量)。カルシウム剤やビタミンD製剤を考慮。血清カルシウム濃度を週1回以上測定。心電図検査を実施。増量時は，8. 4mg／dL以上に回復したことを確認後，増量。
7. 5以下 直ちに休薬。カルシウム剤やビタミンD製剤を考慮。血清カルシウム濃度を週1回以上測定。心電図検査を実施。再開時は，8. 4mg／dL以上に回復したことを確認後，休薬前の用量か，それ以下の用量から再開。
(表終了)
血清カルシウム濃度の検査は，薬効・安全性を適正に判断するために，服薬前に実施。低アルブミン血症(血清アルブミン濃度が4g／dL未満)の時には，補正値(注)を指標に用いる。
5. PTHが管理目標値に維持されるように，定期的にPTHを測定。PTHの測定は本剤の開始時・用量調整時(目安として投与開始から3ヵ月程度)は月2回とし，PTHの安定後は月1回とする。PTHの測定は薬効・安全性を適正に判断するために服薬前に実施。
副甲状腺癌の高カルシウム血症，副甲状腺摘出術不能・術後再発の原発性副甲状腺機能亢進症の高カルシウム血症
6. 血清カルシウム濃度は，本剤の開始時・用量調整時は2週に1回測定し，維持期には定期的に測定。
7. 血清カルシウム濃度が12. 5mg／dLを超える場合は，開始量として1回2mg 1日2回を考慮。
8. 投与量の調整が必要時は，下表を参考に投与量を増減。増量時は2週間以上あけて1段階ずつ実施。血清カルシウム濃度のコントロール

3 代謝性医薬品

困難時は1回量の増減幅を1mgとしてよい。
(表開始)
段階 用法・用量 1日量(mg)
1 2mg 1日1回 2
2 2mg 1日2回 4
3 4mg 1日2回 8
4 6mg 1日2回 12
5 6mg 1日3回 18
6 6mg 1日4回 24
(表終了)
9. 血清カルシウム濃度が7. 5mg／dL以下に低下時は，直ちに休薬。必要時カルシウム剤やビタミンD製剤を考慮。
10. 低アルブミン血症(血清アルブミン濃度が4g／dL未満)は，補正値(注)を指標に使用。
(注)補正カルシウム濃度算出方法 補正カルシウム濃度(mg／dL)＝血清カルシウム濃度(mg／dL)－血清アルブミン濃度(g／dL)＋4

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 低カルシウム血症(16. 2%)(QT延長，しびれ，筋痙攣，気分不良，不整脈，血圧低下，痙攣等)。
2. QT延長(0. 6%)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0. 5～1%未満 0. 5%未満 頻度不明
腹部・消化器 悪心，嘔吐，腹部不快感，下痢，食欲減退 胃腸炎，腹痛，便秘，逆流性食道炎，口内炎，歯肉炎，腹部膨満 消化管潰瘍，消化不良，腸炎，便潜血
循環器 不整脈 期外収縮，狭心症・心筋虚血，高血圧，動悸
精神神経 眩暈，感覚鈍麻 頭部不快感，振戦 頭痛
筋骨格 筋骨格痛，筋痙縮
肝臓 肝機能異常(AST上昇，ALT上昇，γ－GTP上昇)
眼 眼乾燥，視力障害
皮膚 掻痒症 発疹
内分泌 PTH減少 副甲状腺機能低下症
血液 貧血
代謝 CK上昇，痛風
呼吸器・胸郭・縦隔障害 胸痛，胸部不快感 呼吸困難
その他 シャント閉塞 AI－P上昇，浮腫
(表終了)

ガベキサートメシル酸塩注射用100mg「サワイ」(100mg1瓶)

内 注射 流通
劇

【YJコード】3999403D1280
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ガベキサートメシル酸塩
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】179円/1V
【薬価収載日】2010/05/28
【標榜薬効】蛋白分解酵素阻害剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○蛋白分解酵素(トリプシン，カリクレイン，プラスミン等)逸脱を伴う下記
急性膵炎
慢性再発性膵炎の急性増悪期
術後の急性膵炎
○DIC
【用法用量】膵炎
1回1バイアル(ガベキサートメシル酸塩 100mg) 8mL／分以下で点滴静注(5%ブドウ糖液又はリンゲル液で溶かし全量500mL，又はあらかじめ注射用水5mLで溶かし，5%ブドウ糖液又はリンゲル液500mLに混和して使用)。
(1). 初期量 1日1～3バイアル(溶解液500～1500mL)。以後，症状の消退に応じ減量。症状により 同日中にさらに1～3バイアル(溶解液500～1500mL)を追加して，点滴静注。
(2). 適宜増減。
DIC
成人 1日20～39mg／kg 24時間かけ 持続静注。
注意
DIC
静脈炎，硬結，潰瘍，壊死の可能性，末梢血管から投与時，本剤100mgあたり50mL以上の輸液(0. 2%以下)で点滴静注。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシーショック(各頻度不明)(血圧低下，呼吸困難，意識消失，咽・喉頭浮腫等)。
2. アナフィラキシー(頻度不明)(呼吸困難，咽・喉頭浮腫等)。
3. 注射部位の皮膚潰瘍・壊死(頻度不明)(静脈炎，硬結，注射部位の血管痛，発赤，炎症等)。
4. 無顆粒球症，白血球減少，血小板減少(各頻度不明)。
5. 高カリウム血症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感等
出血傾向 出血傾向亢進
血液 好酸球増多，顆粒球減少
循環器 血圧降下
肝臓 黄疸，ASTの上昇等 総ビリルビン上昇，ALTの上昇等
その他 悪心 顔面潮紅，発熱，低ナトリウム血症
(表終了)

ガベキサートメシル酸塩注射用500mg「サワイ」(500mg1瓶)

内 注射 後発 流通
劇

【YJコード】3999403D2090
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ガベキサートメシル酸塩
【先発品】注射用エフオーワイ500
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】486円/1V
【薬価収載日】2010/05/28
【標榜薬効】蛋白分解酵素阻害剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】DIC
【用法用量】成人 1日20～39mg／kg 24時間かけ 持続静注。
注意
DIC
静脈炎，硬結，潰瘍，壊死の可能性，末梢血管から投与時，本剤100mgあたり50mL以上の輸液(0. 2%以下)で点滴静注。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシーショック(各頻度不明)(血圧低下，呼吸困難，意識消失，咽・喉頭浮腫等)。
2. アナフィラキシー(頻度不明)(呼吸困難，咽・喉頭浮腫等)。
3. 注射部位の皮膚潰瘍・壊死(頻度不明)(静脈炎，硬結，注射部位の血管痛，発赤，炎症等)。
4. 無顆粒球症，白血球減少，血小板減少(各頻度不明)。
5. 高カリウム血症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感等
出血傾向 出血傾向亢進
血液 好酸球増多，顆粒球減少
循環器 血圧降下
肝臓 黄疸，ASTの上昇等 総ビリルビン上昇，ALTの上昇等
その他 悪心 顔面潮紅，発熱，低ナトリウム血症
(表終了)

カモスタットメシル酸塩錠100mg「日医工」(100mg1錠)

両 内服 後発 流通

【YJコード】3999003F1335
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】カモスタットメシル酸塩
【先発品】カモスタットメシル酸塩錠100mg「サワイ」，カモスタットメシル酸塩錠100mg「ツルハラ」，フオイパン錠100mg
【メーカー】製)日医工
【薬価】6.6円/1T
【薬価収載日】2012/12/14
【標榜薬効】蛋白分解酵素阻害剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○慢性膵炎の急性症状の緩解
○術後逆流性食道炎
注意
慢性膵炎の急性症状の緩解
1. 胃液吸引，絶食，絶飲等の食事制限が必要な慢性膵炎の重症患者に投与しない。

3 代謝性医薬品

術後逆流性食道炎
2. 胃液の逆流による術後逆流性食道炎には，効果が期待できないので使用しない。
【用法用量】慢性膵炎の急性症状の緩解
1日600mg 1日3回 分割 内服。適宜増減。
術後逆流性食道炎
1日300mg 1日3回 分割 食後 内服。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（血圧低下，呼吸困難，掻痒感等）。
2. 血小板減少（頻度不明）。
3. 肝機能障害（AST，ALT，γ－GTP，AI－Pの著しい上昇等），黄疸（各頻度不明）。
4. 重篤な高カリウム血症（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～0．5%未満 0．1%未満 頻度不明
血液 白血球減少，赤血球減少 好酸球増多
過敏症 発疹，掻痒等
消化器 嘔気，腹部不快感，腹部膨満感，下痢 食欲不振，嘔吐，口渇，胸やけ，腹痛，便秘
肝臓 AST・ALTの上昇等
腎臓 BUN，クレアチニンの上昇
その他 浮腫，低血糖
（表終了）

シクロスポリンカプセル25mg「サンド」（25mg1カプセル）

両 内服 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】3999004M4133
【薬効分類】3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】シクロスポリン
【先発品】ネオーラル25mgカプセル
【メーカー】㈱サンド
【薬価】48.9円/1C
【薬価収載日】2021/12/09
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】免疫抑制剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】○下記臓器移植の拒絶反応の抑制
腎移植，肝移植，心移植，肺移植，膵移植，小腸移植
○骨髄移植の拒絶反応，移植片対宿主病の抑制
○ベーチェット病（眼症状のある時），その他の非感染性ぶどう膜炎（既存治療で効果不十分，視力低下のおそれのある活動性の中間部・後部の非感染性ぶどう膜炎のみ）
○尋常性乾癬（皮疹が全身の30%以上又は難治性），膿疱性乾癬，乾癬性紅皮症，乾癬性関節炎
○再生不良性貧血，赤芽球癆
○ネフローゼ症候群（頻回再発型，ステロイドに抵抗性）
○全身型重症筋無力症（胸腺摘出後の治療で，ステロイド剤の投与が効果不十分，副作用で困難な時）
○アトピー性皮膚炎（既存治療で効果不十分時）
○細胞移植に伴う免疫反応の抑制
注意
再生不良性貧血
1. 診療ガイドライン等の最新情報を参考に，適切な患者に投与。寛解例で投与中止後に再燃したため再投与時の有効性・安全性は未確立。患者の状態により有益性に応じて投与。
ネフローゼ症候群
2. 副腎皮質ホルモン剤に反応するが頻回に再発を繰り返す患者，副腎皮質ホルモン剤治療に抵抗性を示す患者のみ。
全身型重症筋無力症
3. 単独投与での有効性は不明。
アトピー性皮膚炎
4. ステロイド外用剤やタクロリムス外用剤等の既存治療で効果不十分，強い炎症を伴う皮疹が体表面積の30%以上を対象。
【用法用量】腎移植
移植1日前から シクロスポリン 1日9～12mg／kg 1日2回 分割 内服。以後1日2mg／kgずつ減量。維持量 1日4～6mg／kg。適宜増減。
肝移植
移植1日前から シクロスポリン 1日14～16mg／kg 1日2回 分割 内服。以後漸減し 維持量 1日5～10mg／kg。適宜増減。
心移植，肺移植，膵移植
移植1日前から シクロスポリン 1日10～15mg／kg 1日2回 分割 内服。以後漸減し 維持量 1日2～6mg／kg。適宜増減。
小腸移植
シクロスポリン 1日14～16mg／kg 1日2回 分割 内服。以後漸減し 維持量 1日5～10mg／kg。適宜増減。移植1日前から シクロスポリン注射剤で投与開始 内服可能になれば速やかに内服に切りかえる。
骨髄移植
移植1日前から シクロスポリン 1日6～12mg／kg 1日2回 分割 内服，3～6ヵ月間継続，以後漸減し中止。
ベーチェット病，その他の非感染性ぶどう膜炎
シクロスポリン 1日5mg／kgから開始 1日2回 分割 内服，以後1ヵ月ごと 1日1～2mg／kgずつ増減。維持量 1日3～5mg／kg。適宜増減。
乾癬
1日5mg／kg 1日2回 分割 内服。効果あれば 1ヵ月ごと 1日1mg／kgずつ減量し 維持量 1日3mg／kg。適宜増減。
再生不良性貧血
シクロスポリン 1日6mg／kg 1日2回 分割 内服。適宜増減。
ネフローゼ症候群
シクロスポリン 下記量 1日2回 分割 内服。適宜増減。
（1）．頻回再発型の症例 成人 1日1．5mg／kg 内服。小児 1日2．5mg／kg 内服。
（2）．ステロイドに抵抗性を示す症例 成人 1日3mg／kg 内服。小児 1日5mg／kg 内服。
全身型重症筋無力症
シクロスポリン 1日5mg／kg 1日2回 分割 内服。効果あれば漸減し 維持量 3mg／kg。適宜増減。
アトピー性皮膚炎
成人 シクロスポリン 1日3mg／kg 1日2回 分割 内服。適宜増減，1日5mg／kgまで。
細胞移植に伴う免疫反応の抑制
再生医療等製品の用法・用量，使用方法に基づき使用。
注意
効能共通
1. サンディミュン（内用液・カプセル）から切りかえて投与する時は，1：1の比（mg／kg／日）で切りかえて投与するが，シクロスポリンの血中濃度（AUC，Cmax）が上昇して副作用のおそれ，切りかえ前後で血中濃度の測定及び臨床検査（血清クレアチニン，血圧等）を頻回に行うとともに，投与量を調節。開始量（初めてサンディミュンを服用する時の投与量）より高い用量を服用している患者で，一時的に免疫抑制作用が不十分となっても病状が悪化して危険な状態に陥る可能性のない患者では，切りかえ時の投与量は多くても通常の開始量とし，血中濃度及び患者の状態により投与量を調節。
2. 血中トラフ値を測定し，投与量を調節。
（1）．臓器移植患者 過量投与による副作用及び低用量投与による拒絶反応等を防ぐため，血中濃度の測定を移植直後は頻回に行い，その後は月1回を目安に測定し，投与量を調節。
（2）．ベーチェット病，その他の非感染性ぶどう膜炎，乾癬，再生不良性貧血，ネフローゼ症候群，全身型重症筋無力症，アトピー性皮膚炎 副作用を防ぐため，月1回を目安に血中濃度を測定し，投与量を調節。
臓器移植
3. 3剤又は4剤の免疫抑制剤を組み合わせた多剤免疫抑制療法を行う時は，初期量を低く設定することが可能な時もあるが，移植患者の状態及び併用される他の免疫抑制剤の種類・投与量等を考慮して調節。
再生不良性貧血
4. 投与量・投与期間は最新情報（診療ガイドライン等）を参考，効果なければ他の治療法を考慮。
ネフローゼ症候群
5. 効果は1～3ヵ月で出現，3ヵ月以上継続投与しても効果なければ中止。効果あれば，効果が維持できる量まで減量。
6. 使用前に副腎皮質ホルモン剤が維持投与されている時は，その維持量に本剤を上乗せする。副腎皮質ホルモン剤は適宜減量するが増量時は本剤を一旦中止。
アトピー性皮膚炎
7. 投与期間は短期間にとどめる。投与中は有効性・安全性の評価を定期的に行う。8週間の投与でも改善なければ投与中止。1回の治療期間は12週間以内を目安。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. タクロリムス（外用剤除く），ピタバスタチン，ロスバスタチン，ボセンタン，アリスキレン，グラゾプレビル，ペマフィブラートの投与患者。
3. 肝臓・腎臓に障害のあるコルヒチンの服用患者。
4. 生ワクチンを接種しない。

■副作用
【副作用】重大な副作用
効能共通
1. 腎障害（5%以上）（BUN上昇，クレアチニン上昇，腎血流量減少，糸球体濾過値の低下，高カリウム血症，高尿酸血症，低マグネシウム血症，尿細管萎縮，細動脈病変，間質の線維化等）。
2. 肝障害，肝不全（1～5%未満）（肝機能障害，黄疸，AST，ALT，AI－P，LDH，ビリルビンの上昇等）。
3. 可逆性後白質脳症症候群，高血圧性脳症等の中枢神経系障害（1%未満）（全身痙攣，意識障害，失見当識，錯乱，運動麻痺，小脳性運動失調，視覚障害，視神経乳頭浮腫，不眠等）。
4. 細菌，真菌，ウイルスによる重篤な感染症（1～5%未満）（肺炎，敗血症，尿路感染症，単純疱疹，帯状疱疹等），B型肝炎ウイルスの再活性化による肝炎，C型肝炎の悪化。
5. 進行性多巣性白質脳症（頻度不明）（意識障害，認知障害，麻痺症状（片麻痺，四肢麻痺），言語障害等）。
6. BKウイルス腎症（頻度不明）。

3 代謝性医薬品

7. 急性膵炎(1%未満)(上腹部の激痛，発熱，血糖上昇，アミラーゼ上昇等)。
8. 血栓性微小血管障害(溶血性尿毒症症候群(血小板減少，溶血性貧血，腎不全)(1%未満)，血栓性血小板減少性紫斑病様症状(血小板減少，微小血管性溶血性貧血，腎機能障害，精神神経症状)(頻度不明))。
9. 溶血性貧血，血小板減少(各1%未満)。
10. 横紋筋融解症(1%未満)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)。
11. 悪性腫瘍(1%未満)(悪性リンパ腫，リンパ増殖性疾患，悪性腫瘍(特に皮膚))。
ベーチェット病
12. 神経ベーチェット病症状(1～5%未満)(頭痛，発熱，情動失禁，運動失調，錐体外路症状，意識障害，髄液細胞増多等)の誘発・悪化。
全身型重症筋無力症
13. クリーゼ(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
過敏症 ― ― 発疹 ―
循環器 ― 血圧上昇 ― ―
血液 ― ― 貧血，白血球減少 ―
消化器 ― 悪心・嘔吐 消化管潰瘍，腹痛，胃部不快感，食欲不振，下痢，腹部膨満感 ―
皮膚 多毛 ― 脱毛，ざ瘡 ―
精神神経系 ― 振戦 頭痛，しびれ，眩暈，眠気，異常感覚，末梢神経障害 片頭痛
代謝異常 ― 糖尿・高血糖，高尿酸血症，高脂血症 高カリウム血症，低マグネシウム血症，体液貯留 ―
感覚器 ― ― 耳鳴，難聴 視力障害
筋骨格系 ― ― ミオパシー，筋痛，筋脱力，筋痙攣，関節痛 下肢痛
その他 ― 歯肉肥厚 出血傾向(鼻出血，皮下出血，消化管出血，血尿)，熱感，のぼせ，発熱，倦怠感，浮腫，体重増加，女性化乳房 月経障害，良性頭蓋内圧亢進症
(表終了)

シベレスタットNa点滴静注用100mg「ニプロ」(100mg1瓶)

内 注射 後発 流通

【YJコード】3999422D1054
【薬効分類】3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】シベレスタットナトリウム水和物
【先発品】注射用エラスポール100
【メーカー】製)ニプロ
【薬価】1320円/1V
【薬価収載日】2014/12/12
【標榜薬効】好中球エラスターゼ阻害剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】全身性炎症反応症候群に伴う急性肺障害の改善
注意
1. 下記を満たす患者に投与。
(1). 全身性炎症反応症候群では，下記のうち，2つ以上を満たす。
・体温＞38℃又は＜36℃。
・心拍数＞90回／分。
・呼吸数＞20回／分又はPaCO2＜32mmHg。
・白血球数＞12000／μL，＜4000／μL又は桿状球＞10%。
(2). 急性肺障害は，下記の全項目を満たす。
・肺機能低下(機械的人工呼吸管理下でPaO2／FIO2 300mmHg以下)。
・胸部X線所見で両側性に浸潤陰影。
・肺動脈楔入圧が測定された時は，肺動脈楔入圧≦18mmHg，測定されない時は，左房圧上昇の臨床所見なし。
2. 4臓器以上の多臓器障害を合併，熱傷，外傷に伴う急性肺障害には投与しない。4臓器以上の多臓器障害の合併，熱傷，外傷に伴う急性肺障害を除外せず，ARDS Networkに準拠した臨床試験で，プラセボ群と比較し，Ventilator Free Days及び28日死亡率で差は認められず，180日死亡率ではプラセボ群と比較し統計学的に有意に高いとの報告あり(外国)。
3. 高度な慢性呼吸器疾患の合併では，有効性・安全性は未確立。
【用法用量】1日4．8mg／kg 24時間(0．2mg／kg／時)かけ 持続静注(生食で溶解後，250～500mLの輸液で希釈)。投与期間 14日以内。
注意
1. 肺障害発症後72時間以内に開始。
2. より短期間で投与終了も考慮。投与5日後の改善度が低い時，その後の改善度(14日後)も低い。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 呼吸困難(0．3%)。
2. 白血球減少(0．7%)，血小板減少(頻度不明)。
3. 肝機能障害(1．0%)(AST・ALTの著しい上昇等)，黄疸(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～10%未満 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹等
肝臓 ビリルビン，AST，ALT，γ－GTP，AI－Pの上昇 ウロビリノーゲン陽性，LDH上昇
血液 好酸球増加 血小板減少，血小板増多，貧血，出血傾向
腎臓 多尿，尿蛋白増加，BUN上昇 クレアチニン上昇
その他 高カリウム血症，総蛋白減少，注射部静脈炎
(表終了)

ゾレドロン酸点滴静注4mg／5mL「サンド」(4mg5mL1瓶)

内 注射 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】3999423A1087
【薬効分類】3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ゾレドロン酸水和物
【先発品】ゾメタ点滴静注4mg／5mL
【メーカー】製)サンド
【薬価】4673円/1V
【薬価収載日】2014/06/20
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】骨吸収抑制剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．悪性腫瘍による高カルシウム血症
2．多発性骨髄腫・固形癌骨転移による骨病変
【用法用量】悪性腫瘍による高カルシウム血症
成人 4mg 15分以上かけ 点滴静注(生食又はブドウ糖液(5%)100mLに希釈)。再投与時 最低1週間あける(初回投与による反応を確認)。
多発性骨髄腫・固形癌骨転移による骨病変
成人 4mg 15分以上かけ 3～4週間隔で 点滴静注(生食又はブドウ糖液(5%)100mLに希釈)。
注意
悪性腫瘍による高カルシウム血症
1．軽症(血清補正カルシウム値12mg／dL未満)の高カルシウム血症補液による治療が効果不十分で症状の改善がない等投与が必要と判断される場合に投与。
2．再投与は初回と同様に4mgを点滴静注。
日本人で4mg以上の再投与・3回以上の投与の使用経験なし。
多発性骨髄腫・固形癌骨転移による骨病変
3．腎機能障害 血漿中濃度が増加，腎機能の低下に応じ，下表の通り投与量を調節。
(表開始)
クレアチニンクリアランス(mL／分) ＞60 50～60 40～49 30～39
推奨量(mg) 4 3．5 3．3
(表終了)
4．化学療法，内分泌療法等の抗癌療法と併用。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分・他のビスホスホネート系薬剤に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．急性腎障害，間質性腎炎，ファンコニー症候群(低リン血症，低カリウム血症，代謝性アシドーシス等を主症状とする近位腎尿細管障害)等の腎障害(1～10%未満)。
2．うっ血性心不全(頻度不明)(浮腫，呼吸困難，肺水腫)。
3．低カルシウム血症(5%未満)(QT延長，痙攣，テタニー，しびれ，失見当識等)。
4．間質性肺炎(頻度不明)(咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常(捻髪音)等)。
5．顎骨壊死・顎骨骨髄炎(頻度不明)。
6．外耳道骨壊死(頻度不明)。
7．大腿骨転子下，近位大腿骨骨幹部，近位尺骨骨幹部等の非定型骨折(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
血液系 ― 貧血 血小板減少，白血球減少，汎血球減少
過敏症 ― 紅斑，水疱，皮疹，湿疹，掻痒 紅斑性皮疹，斑状皮疹，血管神経性浮腫，蕁麻疹
代謝・栄養 低リン酸血症 低カリウム血症，高カリウム血症 低マグネシウム血症，高ナトリウム血症
精神 ― ― 不安，睡眠障害，錯乱，幻覚
神経系 頭痛 浮動性眩暈，味覚異常，感覚減退 錯感覚，知覚過敏，振戦，傾眠
眼 ― 結膜炎，結膜充血 霧視，ブドウ膜炎，上強膜炎，強膜炎，眼窩の炎症(眼窩浮腫，眼窩蜂巣炎等)
心臓 ― ― 徐脈，低血圧，高血圧
呼吸器系 ― 呼吸困難 咳嗽
胃腸 嘔気 下痢，便秘，腹痛，食欲不振，嘔吐，口内炎，歯周病(歯肉

3 代謝性医薬品

炎，歯周炎等）消化不良，口内乾燥
肝胆道系 肝機能異常（AST，ALT，γ－GTP増加） ― ―
筋骨格系 関節痛，骨痛 関節硬直，筋肉痛，筋硬直，背部痛 全身痛
腎・尿路 尿中β２－ミクログロブリン増加 血尿，多尿，蛋白尿，血中尿素増加，血中クレアチニン増加，β－Nアセチル－D－グルコサミニダーゼ増加 ―
全身障害・投与局所様態 発熱，倦怠感 脱力，疲労，浮腫，末梢性浮腫，胸痛，疼痛，悪寒，口渇，関節炎，関節腫脹 注射部位反応（疼痛，刺激感，腫脹，硬結，発赤），体重増加，多汗，インフルエンザ様疾患
（表終了）

タクロリムスカプセル1mg「VTRS」（1mg 1カプセル）

両 内服 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】3999014M1073
【薬効分類】3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】タクロリムス水和物
【先発品】プログラフカプセル1mg
【メーカー】製）ヴィアトリス・ヘルスケア 販）ヴィアトリス製薬
【薬価】153.5円/1C
【薬価収載日】2022/04/20
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】免疫抑制剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇下記臓器移植の拒絶反応の抑制
腎移植，肝移植，心移植，肺移植，膵移植，小腸移植
〇骨髄移植の拒絶反応，移植片対宿主病の抑制
〇重症筋無力症
〇関節リウマチ（既存治療で効果不十分時のみ）
〇ループス腎炎（ステロイド剤の投与が効果不十分，副作用で困難な時）
〇難治性（ステロイド抵抗性，ステロイド依存性）の活動期潰瘍性大腸炎（中等症～重症のみ）
〇多発性筋炎・皮膚筋炎に合併する間質性肺炎
注意
骨髄移植
1．HLA適合同胞間移植では第一選択薬にしない。
重症筋無力症
2．単独使用時・ステロイド剤未治療例使用時の有効性・安全性は未確立。
関節リウマチ
3．過去，非ステロイド性抗炎症剤・他の抗リウマチ薬等の治療を行っても，疾患による症状が残る時に投与。
ループス腎炎
4．急性期で疾患活動性の高い時期の有効性・安全性は未確立。
潰瘍性大腸炎
5．治療指針等を参考に，難治性（ステロイド抵抗性，ステロイド依存性）を確認。
6．維持療法の有効性・安全性は未確立。
【用法用量】腎移植
初期 タクロリムス 1回0．15mg／kg 1日2回 内服。以後，漸減。
維持量 1回0．06mg／kg 1日2回 内服。適宜増減。
肝移植
初期 タクロリムス 1回0．15mg／kg 1日2回 内服。以後，漸減。
維持量 1日0．1mg／kg。適宜増減。
心移植
初期 タクロリムス 1回0．03～0．15mg／kg 1日2回 内服。拒絶反応発現後に投与開始の時 1回0．075～0．15mg／kg 1日2回 内服。適宜増減。状態が安定すれば漸減して有効最少量で維持。
肺移植
初期 タクロリムス 1回0．05～0．15mg／kg 1日2回 内服。適宜増減。状態が安定すれば漸減して有効最少量で維持。
膵移植
初期 タクロリムス 1回0．15mg／kg 1日2回 内服。以後，漸減して有効最少量で維持。
小腸移植
初期 タクロリムス 1回0．15mg／kg 1日2回 内服。以後，漸減して有効最少量で維持。
骨髄移植
移植1日前より タクロリムス 1回0．06mg／kg 1日2回 内服。移植初期 タクロリムス 1回0．06mg／kg 1日2回 内服。以後，漸減。移植片対宿主病発現後に投与開始の時 タクロリムス 1回0．15mg／kg 1日2回 内服。適宜増減。
内服時の吸収は個人差あり，血中濃度の高い時の副作用，血中濃度が低い時の拒絶反応，移植片対宿主病の発現を防ぐため，適宜血中濃度を測定。トラフレベルの血中濃度を参考にし投与量を調節。特に移植直後又は投与開始直後は頻回に血中濃度測定を行う。血中トラフ濃度が20ng／mLを超える期間が長いと副作用が発現しやすい。
重症筋無力症
成人 タクロリムス 1回3mg 1日1回 夕食後 内服。
関節リウマチ
成人 タクロリムス 1回3mg 1日1回 夕食後 内服。高齢者 1回1．5mgから開始 1日1回 夕食後 内服，症状により 1回3mg 1日1回まで。
ループス腎炎
成人 タクロリムス 1回3mg 1日1回 夕食後 内服。
潰瘍性大腸炎
成人 初期 タクロリムス 1回0．025mg／kg 1日2回 朝・夕食後 内服。以後2週間，目標血中トラフ濃度を10～15ng／mLとし，血中トラフ濃度をモニタリングしながら投与量を調節。2週以降，目標血中トラフ濃度を5～10ng／mLとし投与量を調節。
多発性筋炎・皮膚筋炎に合併する間質性肺炎
成人 初期 1回0．0375mg／kg 1日2回 朝・夕食後 内服。以後，目標血中トラフ濃度を5～10ng／mLとし，血中トラフ濃度をモニタリングしながら投与量を調節。
注意
効能共通
1．血液中のタクロリムスの多くは赤血球画分に分布，投与量の調節時には全血中濃度を測定。
2．カプセルを使用にあたり下記に注意。
（1）．顆粒とカプセルの生物学的同等性は未検証。
（2）．カプセルと顆粒の切りかえ及び併用時，血中濃度を測定することで製剤による吸収の変動がないことを確認。切りかえ又は併用に伴う吸収の変動がみられた時，必要により投与量を調節。
3．高い血中濃度の持続時に腎障害あり，血中濃度（投与約12時間後）を20ng／mL以下に維持。
4．他の免疫抑制剤の併用で過度の免疫抑制の可能性。特に，臓器移植において3剤又は4剤の免疫抑制剤を組み合わせた多剤免疫抑制療法では，本剤の初期量を低く設定が可能な場合もあるが，移植患者の状態及び併用される他の免疫抑制剤の種類・投与量等を考慮して調節。
肝移植，腎移植，骨髄移植
5．市販後の調査で，承認された用量に比べ低用量を投与した成績あり，投与量設定時に考慮。
骨髄移植
6．クレアチニン値が投与前の25％以上上昇した時，本剤の25％以上の減量又は休薬等の処置を考慮。
7．血中濃度が低い時に移植片対宿主病あり，移植片対宿主病好発時期には血中濃度を10～20ng／mL。
重症筋無力症
8．副作用を防ぐため，投与開始3ヵ月間は月1回，以後は定期的に投与約12時間後の血中濃度を測定し，投与量を調節。十分な効果あれば，効果が維持できる用量まで減量。
関節リウマチ
9．高齢者に投与開始4週後まで1日1．5mgとして安全性を確認後，効果不十分時，1日3mgに増量。増量時，副作用を防ぐため，投与約12時間後の血中濃度を測定し，投与量を調節。
ループス腎炎
10．副作用を防ぐため，投与開始3ヵ月間は月1回，以後は定期的に投与約12時間後の血中濃度を測定し，投与量を調節。本剤を2ヵ月以上継続投与しても，尿蛋白等の腎炎臨床所見及び免疫学的所見で効果なければ投与中止か，他の治療法に変更。十分な効果あれば，その効果が維持できる用量まで減量。
潰瘍性大腸炎
11．治療初期は頻回に血中トラフ濃度を測定し投与量を調節するため，入院又はそれに準じた管理下で投与。
12．1日0．3mg／kgまで，下記に注意し用量を調節。
（1）．初回投与から2週間まで
・初回投与後12時間及び24時間の血中トラフ濃度に基づき，1回目の用量調節を実施。
・1回目の用量調節後2日以上経過後に測定された2点の血中トラフ濃度に基づき，2回目の用量調節を実施。
・2回目の用量調節から1．5日以上経過後に測定された1点の血中トラフ濃度に基づき，2週時（3回目）の用量調節を実施。
（2）．2週以降
・投与開始後2週時（3回目）の用量調節から1週間程度後に血中トラフ濃度を測定し，用量調節を実施。投与開始4週以降は4週間に1回を目安とし，定期的に血中トラフ濃度を測定。
（3）．用量調節にあたっては服薬時の食事条件（食後投与／空腹時投与）が同じ血中トラフ濃度を用いる。
13．カプセル剤のみを用い，0．5mg刻みの投与量を決定。
14．2週間投与して臨床症状の改善なければ，投与中止。
15．3ヵ月までの投与。
多発性筋炎・皮膚筋炎に合併する間質性肺炎
16．1日0．3mg／kgまで，血中トラフ濃度に基づき投与量を調節。
17．カプセル剤のみ用い，0．5mg刻みの投与量を決定。
18．投与開始時はステロイド剤を併用。症状安定後はステロイド剤の漸減を考慮。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．シクロスポリン・ボセンタンの投与患者。
3．カリウム保持性利尿剤の投与患者。
4．生ワクチンを接種しない。

■副作用

【副作用】重大な副作用
効能共通
1．急性腎障害（0．1～5％未満），ネフローゼ症候群（0．1％未満）。
2．心不全，心室性・上室性の不整脈，心筋梗塞，狭心症，心膜液貯留，心筋障害（各0．1～5％未満）（ST－T変化，心機能低下，心内腔拡大，壁肥厚等）。
3．中枢神経系障害（0．1～5％未満）（可逆性後白質脳症症候群，高

3 代謝性医薬品

血圧性脳症等)(全身痙攣, 意識障害, 錯乱, 言語障害, 視覚障害, 麻痺等)。
4. 脳血管障害(0. 1～5%未満)(脳梗塞, 脳出血等)。
5. 血栓性微小血管障害(0. 1～5%未満)(溶血性尿毒症症候群, 血栓性血小板減少性紫斑病等)。
6. 汎血球減少症, 血小板減少性紫斑病(各0. 1～5%未満), 無顆粒球症, 溶血性貧血, 赤芽球癆(各頻度不明)。
7. イレウス(0. 1～5%未満)。
8. 皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)。
9. 呼吸困難, 急性呼吸窮迫症候群(各0. 1～5%未満)。
10. 感染症(15%以上)(細菌性, ウイルス性, 真菌性, 原虫性感染症), B型肝炎ウイルスの再活性化による肝炎, C型肝炎の悪化。
11. 進行性多巣性白質脳症(頻度不明)(意識障害, 認知障害, 麻痺症状(片麻痺, 四肢麻痺), 言語障害等)。
12. BKウイルス腎症(頻度不明)。
13. リンパ腫等の悪性腫瘍(0. 1～5%未満)(Epstein－Barrウイルスに関連したリンパ増殖性疾患・リンパ腫)(発熱, リンパ節腫大等)。
14. 膵炎(0. 1～5%未満)。
15. 糖尿病, 糖尿病の悪化(0. 1～5%未満), 高血糖(15%以上)。
16. 肝機能障害(AST, ALT, γ－GTP, AI－P, LDHの著しい上昇等), 黄疸(各頻度不明)。
重症筋無力症
17. クリーゼ(頻度不明)。
関節リウマチ
18. 間質性肺炎(頻度不明)(発熱, 咳嗽, 呼吸困難等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
腎臓 腎障害(BUN上昇, クレアチニン上昇, クレアチニンクリアランス低下, 尿蛋白)(23. 1%) 尿量減少, 血尿, 多尿 頻尿, 残尿感
代謝異常 高カリウム血症, 高尿酸血症, 低マグネシウム血症 アシドーシス, 高コレステロール血症, 高リン酸血症, 低リン酸血症, 高クロール血症, 高カルシウム血症, 低カルシウム血症, 低蛋白血症, 低ナトリウム血症, 低カリウム血症, 高トリグリセリド血症, 尿糖 CK上昇
循環器 血圧上昇 浮腫, 頻脈, 動悸, 心電図異常, 血圧低下 徐脈
精神神経系 振戦 しびれ, 不眠, 失見当識, せん妄, 不安, 頭痛, 感覚異常 眩暈, 眼振, 外転神経麻痺, 四肢硬直, 傾眠, 意識混濁, うつ病, 興奮 運動失調, 幻覚
消化器 腸管運動障害, 食欲不振, 下痢, 腹痛, 胃潰瘍, 十二指腸潰瘍, 大腸炎, 口内炎, 悪心, 嘔吐, 腹部膨満感 下血 胸やけ, 消化管出血
膵臓 アミラーゼ上昇
肝臓 肝機能異常(AST上昇, ALT上昇, AI－P上昇, LDH上昇, γ－GTP上昇)
血液 貧血, 血小板増多, 血小板減少, 白血球増多, 白血球減少 リンパ球減少 好中球減少
皮膚 発疹, 紅斑, 掻痒, 脱毛
その他 胸水, 腹水, 喘息, 発熱, 全身倦怠感, 体重減少, ほてり, 月経過多 咽喉頭異和感, 筋肉痛, 関節痛, 味覚異常 疼痛, 発赤, 眼痛, 多汗, 口渇, 冷感, 胸痛
(表終了)

ダルベポエチン アルファ注120μgシリンジ「KKF」(120μg0. 5mL1筒)

両 注射 後発 流通
劇

【YJコード】3999425U2038
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ダルベポエチン アルファ(遺伝子組換え)
【先発品】ネスプ注射液120μgプラシリンジ
【メーカー】製)協和キリンフロンティア 販)協和キリン
【薬価】6155円/1筒
【薬価収載日】2019/06/14
【標榜薬効】持続型赤血球造血刺激因子製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】腎性貧血
注意
1. 貧血症による日常生活に支障がある患者のみ。投与初期の対象は, 血液透析ではヘモグロビン濃度で10g／dL(ヘマトクリット値で30%)未満, 活動性の高い若年血液透析, 腹膜透析, 保存期慢性腎臓病はヘモグロビン濃度で11g／dL(ヘマトクリット値で33%)未満。
2. 腎性貧血を確認し, 他の貧血症(失血性貧血, 汎血球減少症等)には投与しない。
【用法用量】1. 血液透析
・初回量
成人 1回20μg 週1回 静注。
小児 1回0. 33μg／kg(最高20μg) 週1回 静注。
・エリスロポエチン(エポエチン アルファ(遺伝子組換え), エポエチンベータ(遺伝子組換え)等)製剤からの切りかえ初回量
成人 1回15～60μg 週1回 静注。
・維持量
成人 貧血改善効果あれば 1回15～60μg 週1回 静注。週1回投与で貧血改善が維持されている時 その時点での1回量の2倍量を開始量とし 2週に1回に変更。1回30～120μg 2週に1回 静注。
小児 貧血改善効果あれば 1回5～60μg 週1回 静注。週1回投与で貧血改善が維持されている時 その時点での1回量の2倍量を開始量とし 2週に1回に変更。1回10～120μg 2週に1回 静注。
適宜増減, 1回最高180μg。
2. 腹膜透析・保存期慢性腎臓病
・初回量
成人 1回30μg 2週に1回 皮下注・静注。
小児 1回0. 5μg／kg(最高30μg) 2週に1回 皮下注・静注。
・エリスロポエチン(エポエチン アルファ(遺伝子組換え), エポエチンベータ(遺伝子組換え)等)製剤からの切りかえ初回量
成人 1回30～120μg 2週に1回 皮下注・静注。
小児 1回10～60μg 2週に1回 皮下注・静注。
・維持量
成人 貧血改善効果あれば 1回30～120μg 2週に1回 皮下注・静注。2週に1回投与で貧血改善が維持されている時 その時点での1回量の2倍量を開始量とし 4週に1回に変更。1回60～180μg 4週に1回 皮下注・静注。
小児 貧血改善効果あれば 1回5～120μg 2週に1回 皮下注・静注。2週に1回投与で貧血改善が維持されている時 その時点での1回量の2倍量を開始量とし 4週に1回に変更。1回10～180μg 4週に1回 皮下注・静注。
適宜増減, 1回最高180μg。
注意
1. 貧血改善効果の目標値は学会のガイドライン等, 最新の情報を参考。
2. 小児の初回量
(1). 血液透析
小児は下表を参考に, 週1回5～20μgを静注。
(表開始)
体重(kg) 投与量(μg)
30未満 5
30～40未満 10
40～60未満 15
60以上 20
(表終了)
(2). 腹膜透析及び保存期慢性腎臓病
小児は下表を参考に, 2週に1回5～30μgを皮下注・静注。
(表開始)
体重(kg) 投与量(μg)
20未満 5
20～30未満 10
30～40未満 15
40～60未満 20
60以上 30
(表終了)
3. 切りかえ初回量
下表を参考に, 切りかえ前のエリスロポエチン製剤投与量から本剤の投与量及び投与頻度を決定。
小児に1回3μg／kgを超える時, 慎重投与(小児に1回3μg／kgを超える使用経験はない)。
(1). エリスロポエチン製剤が週2回又は週3回投与患者 切りかえ前1週間のエリスロポエチン製剤投与量を合計し, 下表を参考に初回量を決定し, 週1回から開始。
(2). エリスロポエチン製剤が週1回又は2週に1回投与患者 切りかえ前2週間のエリスロポエチン製剤投与量を合計し, 下表を参考に初回量を決定し, 2週に1回から開始。
(表開始)
投与量(μg) 投与量(μg)
切りかえ前1週間又は2週間のエリスロポエチン製剤投与量の合計(IU)(小児は切りかえ前2週間) 成人 小児
3000未満 15 10
3000 15 15
4500 20 20
6000 30 30
9000 40 40
12000 60 60
(表終了)
4. 投与量調整 投与初期にヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値に適度な上昇がみられなかった時や, 維持投与期に2週連続して目標範囲から逸脱した時等, 下表を参考に投与量を増減。増量は1段階ずつ行う。
小児に1回3μg／kgを超える時, 慎重投与。
成人(皮下注時)の投与量調整表
(表開始)
段階 投与量(μg)
1 15
2 30
3 60
4 90
5 120
6 180
(表終了)
成人(静注時)及び小児(皮下注・静注時)の投与量調整表
(表開始)
段階 投与量(μg)
1 5
2 10
3 15
4 20
5 30
6 40
7 50

3 代謝性医薬品

8 60
9 80
10 100
11 120
12 140
13 160
14 180
(表終了)
5. 投与間隔変更時
(1). 投与間隔の変更時は，投与間隔を延長する前のヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値の推移を観察し，同一の投与量で安定を確認した上で，週1回から2週に1回又は2週に1回から4週に1回に変更。変更後には推移を確認し，適宜調整。
(2). 1回180μgを投与してもヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値が目標範囲に達しない時には，投与量を1／2とし，投与頻度を2週に1回から週1回又は4週に1回から2週に1回に変更。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・エリスロポエチン製剤に過敏症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 脳梗塞(0. 8%)。
2. 脳出血(0. 1%)。
3. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(0. 1%)。
4. 高血圧性脳症(0. 1%未満)。
5. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(蕁麻疹，呼吸困難，口唇浮腫，咽頭浮腫等)。
6. 赤芽球癆(頻度不明)(抗エリスロポエチン抗体産生を伴う)。
7. 心筋梗塞，肺梗塞(各0. 1%未満)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0. 5～1%未満 0. 5%未満 頻度不明
循環器 血圧上昇(16. 2%) 不整脈 狭心症・心筋虚血，透析時低血圧，動悸，閉塞性動脈硬化症
皮膚 掻痒症，発疹
肝臓 肝機能異常(AI－P上昇，γ－GTP上昇，AST上昇，ALT上昇，ビリルビン上昇) 胆嚢ポリープ
代謝 血清カリウム上昇，尿酸上昇，貯蔵鉄減少，血中リン上昇，食欲減退，二次性副甲状腺機能亢進症
血液 好酸球増多，血小板減少 リンパ球減少，白血球減少，白血球増多
腎臓・泌尿器 腎機能の低下(BUN，クレアチニンの上昇等) 血尿
消化器 腹痛，嘔気・嘔吐，胃炎，十二指腸炎
感覚器 頭痛，倦怠感 眩暈，不眠症，味覚異常，感音性難聴
眼 硝子体出血，結膜炎
その他 シャント血栓・閉塞，LDH上昇 透析回路内残血，筋骨格痛，シャント部疼痛，発熱，胸部不快感，浮腫，止血不良，糖尿病性壊疽 熱感・ほてり感
(表終了)

ダルベポエチン アルファ注180μgシリンジ「KKF」(180μg0. 5mL1筒)

両 注射 後発 流通
劇

【YJコード】3999425U3034
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ダルベポエチン アルファ(遺伝子組換え)
【先発品】ネスプ注射液180μgプラシリンジ
【メーカー】製)協和キリンフロンティア 販)協和キリン
【薬価】8230円/1筒
【薬価収載日】2019/06/14
【標榜薬効】持続型赤血球造血刺激因子製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】腎性貧血
注意
1. 貧血症による日常生活に支障がある患者のみ。投与初期の対象は，血液透析ではヘモグロビン濃度で10g／dL(ヘマトクリット値で30%)未満，活動性の高い若年血液透析，腹膜透析，保存期慢性腎臓病はヘモグロビン濃度で11g／dL(ヘマトクリット値で33%)未満。
2. 腎性貧血を確認し，他の貧血症(失血性貧血，汎血球減少症等)には投与しない。
【用法用量】1. 血液透析
・初回量
成人 1回20μg 週1回 静注。
小児 1回0. 33μg／kg(最高20μg) 週1回 静注。
・エリスロポエチン(エポエチン アルファ(遺伝子組換え)，エポエチンベータ(遺伝子組換え)等)製剤からの切りかえ初回量
成人 1回15～60μg 週1回 静注。
・維持量
成人 貧血改善効果あれば 1回15～60μg 週1回 静注。週1回投与で貧血改善が維持されている時 その時点での1回量の2倍量を開始量とし 2週に1回に変更。1回30～120μg 2週に1回 静注。
小児 貧血改善効果あれば 1回5～60μg 週1回 静注。週1回投与で貧血改善が維持されている時 その時点での1回量の2倍量を開始量とし 2週に1回に変更。1回10～120μg 2週に1回 静注。
適宜増減，1回最高180μg。
2. 腹膜透析・保存期慢性腎臓病
・初回量
成人 1回30μg 2週に1回 皮下注・静注。
小児 1回0. 5μg／kg(最高30μg) 2週に1回 皮下注・静注。
・エリスロポエチン(エポエチン アルファ(遺伝子組換え)，エポエチンベータ(遺伝子組換え)等)製剤からの切りかえ初回量
成人 1回30～120μg 2週に1回 皮下注・静注。
小児 1回10～60μg 2週に1回 皮下注・静注。
・維持量
成人 貧血改善効果あれば 1回30～120μg 2週に1回 皮下注・静注。2週に1回投与で貧血改善が維持されている時 その時点での1回量の2倍量を開始量とし 4週に1回に変更。1回60～180μg 4週に1回 皮下注・静注。
小児 貧血改善効果あれば 1回5～120μg 2週に1回 皮下注・静注。2週に1回投与で貧血改善が維持されている時 その時点での1回量の2倍量を開始量とし 4週に1回に変更。1回10～180μg 4週に1回 皮下注・静注。
適宜増減，1回最高180μg。
注意
1. 貧血改善効果の目標値は学会のガイドライン等，最新の情報を参考。
2. 小児の初回量
(1). 血液透析
小児は下表を参考に，週1回5～20μgを静注。
(表開始)
体重(kg) 投与量(μg)
30未満 5
30～40未満 10
40～60未満 15
60以上 20
(表終了)
(2). 腹膜透析及び保存期慢性腎臓病
小児は下表を参考に，2週に1回5～30μgを皮下注・静注。
(表開始)
体重(kg) 投与量(μg)
20未満 5
20～30未満 10
30～40未満 15
40～60未満 20
60以上 30
(表終了)
3. 切りかえ初回量
下表を参考に，切りかえ前のエリスロポエチン製剤投与量から本剤の投与量及び投与頻度を決定。
小児に1回3μg／kgを超える時，慎重投与(小児に1回3μg／kgを超える使用経験はない)。
(1). エリスロポエチン製剤が週2回又は週3回投与患者 切りかえ前1週間のエリスロポエチン製剤投与量を合計し，下表を参考に初回量を決定し，週1回から開始。
(2). エリスロポエチン製剤が週1回又は2週に1回投与患者 切りかえ前2週間のエリスロポエチン製剤投与量を合計し，下表を参考に初回量を決定し，2週に1回から開始。
(表開始)
投与量(μg) 投与量(μg)
切りかえ前1週間又は2週間のエリスロポエチン製剤投与量の合計(IU)(小児は切りかえ前2週間) 成人 小児
3000未満 15 10
3000 15 15
4500 20 20
6000 30 30
9000 40 40
12000 60 60
(表終了)
4. 投与量調整 投与初期にヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値に適度な上昇がみられなかった時や，維持投与期に2週連続して目標範囲から逸脱した時等，下表を参考に投与量を増減。増量は1段階ずつ行う。
小児に1回3μg／kgを超える時，慎重投与。
成人(皮下注時)の投与量調整表
(表開始)
段階 投与量(μg)
1 15
2 30
3 60
4 90
5 120
6 180
(表終了)
成人(静注時)及び小児(皮下注・静注時)の投与量調整表
(表開始)
段階 投与量(μg)
1 5
2 10
3 15
4 20
5 30
6 40
7 50

3 代謝性医薬品

8 60
9 80
10 100
11 120
12 140
13 160
14 180
(表終了)
5. 投与間隔変更時
(1). 投与間隔の変更時は，投与間隔を延長する前のヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値の推移を観察し，同一の投与量で安定を確認した上で，週1回から2週に1回又は2週に1回から4週に1回に変更。変更後には推移を確認し，適宜調整。
(2). 1回180μgを投与してもヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値が目標範囲に達しない時には，投与量を1／2とし，投与頻度を2週に1回から週1回又は4週に1回から2週に1回に変更。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・エリスロポエチン製剤に過敏症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 脳梗塞(0. 8%)。
2. 脳出血(0. 1%)。
3. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(0. 1%)。
4. 高血圧性脳症(0. 1%未満)。
5. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(蕁麻疹，呼吸困難，口唇浮腫，咽頭浮腫等)。
6. 赤芽球癆(頻度不明)(抗エリスロポエチン抗体産生を伴う)。
7. 心筋梗塞，肺梗塞(各0. 1%未満)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0. 5～1%未満 0. 5%未満 頻度不明
循環器 血圧上昇(16. 2%) 不整脈 狭心症・心筋虚血，透析時低血圧，動悸，閉塞性動脈硬化症
皮膚 掻痒症，発疹
肝臓 肝機能異常(AI－P上昇，γ－GTP上昇，AST上昇，ALT上昇，ビリルビン上昇) 胆嚢ポリープ
代謝 血清カリウム上昇，尿酸上昇，貯蔵鉄減少，血中リン上昇，食欲減退，二次性副甲状腺機能亢進症
血液 好酸球増多，血小板減少 リンパ球減少，白血球減少，白血球増多
腎臓・泌尿器 腎機能の低下(BUN，クレアチニンの上昇等) 血尿
消化器 腹痛，嘔気・嘔吐，胃炎，十二指腸炎
感覚器 頭痛，倦怠感 眩暈，不眠症，味覚異常，感音性難聴
眼 硝子体出血，結膜炎
その他 シャント血栓・閉塞，LDH上昇 透析回路内残血，筋骨格痛，シャント部疼痛，発熱，胸部不快感，浮腫，止血不良，糖尿病性壊疽 熱感・ほてり感
(表終了)

ダルベポエチン アルファ注20μgシリンジ「KKF」(20μg0. 5mL1筒)

両 注射 後発 流通
劇

【YJコード】3999425S7039
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ダルベポエチン アルファ(遺伝子組換え)
【先発品】ネスプ注射液20μgプラシリンジ
【メーカー】製)協和キリンフロンティア 販)協和キリン
【薬価】1350円/1筒
【薬価収載日】2019/06/14
【標榜薬効】持続型赤血球造血刺激因子製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】腎性貧血
注意
1. 貧血症による日常生活に支障がある患者のみ。投与初期の対象は，血液透析ではヘモグロビン濃度で10g／dL(ヘマトクリット値で30%)未満，活動性の高い若年血液透析，腹膜透析，保存期慢性腎臓病はヘモグロビン濃度で11g／dL(ヘマトクリット値で33%)未満。
2. 腎性貧血を確認し，他の貧血症(失血性貧血，汎血球減少症等)には投与しない。
【用法用量】1. 血液透析
・初回量
成人 1回20μg 週1回 静注。
小児 1回0. 33μg／kg(最高20μg) 週1回 静注。
・エリスロポエチン(エポエチン アルファ(遺伝子組換え)，エポエチンベータ(遺伝子組換え)等)製剤からの切りかえ初回量
成人 1回15～60μg 週1回 静注。
・維持量
成人 貧血改善効果あれば 1回15～60μg 週1回 静注。週1回投与で貧血改善が維持されている時 その時点での1回量の2倍量を開始量とし 2週に1回に変更。1回30～120μg 2週に1回 静注。
小児 貧血改善効果あれば 1回5～60μg 週1回 静注。週1回投与で貧血改善が維持されている時 その時点での1回量の2倍量を開始量とし 2週に1回に変更。1回10～120μg 2週に1回 静注。
適宜増減，1回最高180μg。
2. 腹膜透析・保存期慢性腎臓病
・初回量
成人 1回30μg 2週に1回 皮下注・静注。
小児 1回0. 5μg／kg(最高30μg) 2週に1回 皮下注・静注。
・エリスロポエチン(エポエチン アルファ(遺伝子組換え)，エポエチンベータ(遺伝子組換え)等)製剤からの切りかえ初回量
成人 1回30～120μg 2週に1回 皮下注・静注。
小児 1回10～60μg 2週に1回 皮下注・静注。
・維持量
成人 貧血改善効果あれば 1回30～120μg 2週に1回 皮下注・静注。2週に1回投与で貧血改善が維持されている時 その時点での1回量の2倍量を開始量とし 4週に1回に変更。1回60～180μg 4週に1回 皮下注・静注。
小児 貧血改善効果あれば 1回5～120μg 2週に1回 皮下注・静注。2週に1回投与で貧血改善が維持されている時 その時点での1回量の2倍量を開始量とし 4週に1回に変更。1回10～180μg 4週に1回 皮下注・静注。
適宜増減，1回最高180μg。
注意
1. 貧血改善効果の目標値は学会のガイドライン等，最新の情報を参考。
2. 小児の初回量
(1). 血液透析
小児は下表を参考に，週1回5～20μgを静注。
(表開始)
体重(kg) 投与量(μg)
30未満 5
30～40未満 10
40～60未満 15
60以上 20
(表終了)
(2). 腹膜透析及び保存期慢性腎臓病
小児は下表を参考に，2週に1回5～30μgを皮下注・静注。
(表開始)
体重(kg) 投与量(μg)
20未満 5
20～30未満 10
30～40未満 15
40～60未満 20
60以上 30
(表終了)
3. 切りかえ初回量
下表を参考に，切りかえ前のエリスロポエチン製剤投与量から本剤の投与量及び投与頻度を決定。
小児に1回3μg／kgを超える時，慎重投与(小児に1回3μg／kgを超える使用経験はない)。
(1). エリスロポエチン製剤が週2回又は週3回投与患者 切りかえ前1週間のエリスロポエチン製剤投与量を合計し，下表を参考に初回量を決定し，週1回から開始。
(2). エリスロポエチン製剤が週1回又は2週に1回投与患者 切りかえ前2週間のエリスロポエチン製剤投与量を合計し，下表を参考に初回量を決定し，2週に1回から開始。
(表開始)
投与量(μg) 投与量(μg)
切りかえ前1週間又は2週間のエリスロポエチン製剤投与量の合計(IU)(小児は切りかえ前2週間) 成人 小児
3000未満 15 10
3000 15 15
4500 20 20
6000 30 30
9000 40 40
12000 60 60
(表終了)
4. 投与量調整 投与初期にヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値に適度な上昇がみられなかった時や，維持投与期に2週連続して目標範囲から逸脱した時等，下表を参考に投与量を増減。増量は1段階ずつ行う。
小児に1回3μg／kgを超える時，慎重投与。
成人(皮下注時)の投与量調整表
(表開始)
段階 投与量(μg)
1 15
2 30
3 60
4 90
5 120
6 180
(表終了)
成人(静注時)及び小児(皮下注・静注時)の投与量調整表
(表開始)
段階 投与量(μg)
1 5
2 10
3 15
4 20
5 30
6 40
7 50

3 代謝性医薬品

8 60
9 80
10 100
11 120
12 140
13 160
14 180
(表終了)
5. 投与間隔変更時
(1). 投与間隔の変更時は，投与間隔を延長する前のヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値の推移を観察し，同一の投与量で安定を確認した上で，週1回から2週に1回又は2週に1回から4週に1回に変更。変更後には推移を確認し，適宜調整。
(2). 1回180μgを投与してもヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値が目標範囲に達しない時には，投与量を1／2とし，投与頻度を2週に1回から週1回又は4週に1回から2週に1回に変更。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・エリスロポエチン製剤に過敏症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 脳梗塞(0. 8%)。
2. 脳出血(0. 1%)。
3. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(0. 1%)。
4. 高血圧性脳症(0. 1%未満)。
5. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(蕁麻疹，呼吸困難，口唇浮腫，咽頭浮腫等)。
6. 赤芽球癆(頻度不明)(抗エリスロポエチン抗体産生を伴う)。
7. 心筋梗塞，肺梗塞(各0. 1%未満)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0. 5～1%未満 0. 5%未満 頻度不明
循環器 血圧上昇(16. 2%) 不整脈 狭心症・心筋虚血，透析時低血圧，動悸，閉塞性動脈硬化症
皮膚 掻痒症，発疹
肝臓 肝機能異常(AI－P上昇，γ－GTP上昇，AST上昇，ALT上昇，ビリルビン上昇) 胆嚢ポリープ
代謝 血清カリウム上昇，尿酸上昇，貯蔵鉄減少，血中リン上昇，食欲減退，二次性副甲状腺機能亢進症
血液 好酸球増多，血小板減少 リンパ球減少，白血球減少，白血球増多
腎臓・泌尿器 腎機能の低下(BUN，クレアチニンの上昇等) 血尿
消化器 腹痛，嘔気・嘔吐，胃炎，十二指腸炎
感覚器 頭痛，倦怠感 眩暈，不眠症，味覚異常，感音性難聴
眼 硝子体出血，結膜炎
その他 シャント血栓・閉塞，LDH上昇 透析回路内残血，筋骨格痛，シャント部疼痛，発熱，胸部不快感，浮腫，止血不良，糖尿病性壊疽 熱感・ほてり感
(表終了)

ダルベポエチン アルファ注30μgシリンジ「KKF」(30μg0. 5mL1筒)

両 注射 後発 流通
劇

【YJコード】3999425S8035
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ダルベポエチン アルファ(遺伝子組換え)
【先発品】ネスプ注射液30μgプラシリンジ
【メーカー】製)協和キリンフロンティア 販)協和キリン
【薬価】1976円/1筒
【薬価収載日】2019/06/14
【標榜薬効】持続型赤血球造血刺激因子製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】腎性貧血
注意
1. 貧血症による日常生活に支障がある患者のみ。投与初期の対象は，血液透析ではヘモグロビン濃度で10g／dL(ヘマトクリット値で30%)未満，活動性の高い若年血液透析，腹膜透析，保存期慢性腎臓病はヘモグロビン濃度で11g／dL(ヘマトクリット値で33%)未満。
2. 腎性貧血を確認し，他の貧血症(失血性貧血，汎血球減少症等)には投与しない。
【用法用量】1. 血液透析
・初回量
成人 1回20μg 週1回 静注。
小児 1回0. 33μg／kg(最高20μg) 週1回 静注。
・エリスロポエチン(エポエチン アルファ(遺伝子組換え)，エポエチンベータ(遺伝子組換え)等)製剤からの切りかえ初回量
成人 1回15～60μg 週1回 静注。
・維持量
成人 貧血改善効果あれば 1回15～60μg 週1回 静注。週1回投与で貧血改善が維持されている時 その時点での1回量の2倍量を開始量とし 2週に1回に変更。1回30～120μg 2週に1回 静注。
小児 貧血改善効果あれば 1回5～60μg 週1回 静注。週1回投与で貧血改善が維持されている時 その時点での1回量の2倍量を開始量とし 2週に1回に変更。1回10～120μg 2週に1回 静注。
適宜増減，1回最高180μg。
2. 腹膜透析・保存期慢性腎臓病
・初回量
成人 1回30μg 2週に1回 皮下注・静注。
小児 1回0. 5μg／kg(最高30μg) 2週に1回 皮下注・静注。
・エリスロポエチン(エポエチン アルファ(遺伝子組換え)，エポエチンベータ(遺伝子組換え)等)製剤からの切りかえ初回量
成人 1回30～120μg 2週に1回 皮下注・静注。
小児 1回10～60μg 2週に1回 皮下注・静注。
・維持量
成人 貧血改善効果あれば 1回30～120μg 2週に1回 皮下注・静注。2週に1回投与で貧血改善が維持されている時 その時点での1回量の2倍量を開始量とし 4週に1回に変更。1回60～180μg 4週に1回 皮下注・静注。
小児 貧血改善効果あれば 1回5～120μg 2週に1回 皮下注・静注。2週に1回投与で貧血改善が維持されている時 その時点での1回量の2倍量を開始量とし 4週に1回に変更。1回10～180μg 4週に1回 皮下注・静注。
適宜増減，1回最高180μg。
注意
1. 貧血改善効果の目標値は学会のガイドライン等，最新の情報を参考。
2. 小児の初回量
(1). 血液透析
小児は下表を参考に，週1回5～20μgを静注。
(表開始)
体重(kg) 投与量(μg)
30未満 5
30～40未満 10
40～60未満 15
60以上 20
(表終了)
(2). 腹膜透析及び保存期慢性腎臓病
小児は下表を参考に，2週に1回5～30μgを皮下注・静注。
(表開始)
体重(kg) 投与量(μg)
20未満 5
20～30未満 10
30～40未満 15
40～60未満 20
60以上 30
(表終了)
3. 切りかえ初回量
下表を参考に，切りかえ前のエリスロポエチン製剤投与量から本剤の投与量及び投与頻度を決定。
小児に1回3μg／kgを超える時，慎重投与(小児に1回3μg／kgを超える使用経験はない)。
(1). エリスロポエチン製剤が週2回又は週3回投与患者 切りかえ前1週間のエリスロポエチン製剤投与量を合計し，下表を参考に初回量を決定し，週1回から開始。
(2). エリスロポエチン製剤が週1回又は2週に1回投与患者 切りかえ前2週間のエリスロポエチン製剤投与量を合計し，下表を参考に初回量を決定し，2週に1回から開始。
(表開始)
投与量(μg) 投与量(μg)
切りかえ前1週間又は2週間のエリスロポエチン製剤投与量の合計(IU)(小児は切りかえ前2週間) 成人 小児
3000未満 15 10
3000 15 15
4500 20 20
6000 30 30
9000 40 40
12000 60 60
(表終了)
4. 投与量調整 投与初期にヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値に適度な上昇がみられなかった時や，維持投与期に2週連続して目標範囲から逸脱した時等，下表を参考に投与量を増減。増量は1段階ずつ行う。
小児に1回3μg／kgを超える時，慎重投与。
成人(皮下注時)の投与量調整表
(表開始)
段階 投与量(μg)
1 15
2 30
3 60
4 90
5 120
6 180
(表終了)
成人(静注時)及び小児(皮下注・静注時)の投与量調整表
(表開始)
段階 投与量(μg)
1 5
2 10
3 15
4 20
5 30
6 40
7 50

3 代謝性医薬品

8 60
9 80
10 100
11 120
12 140
13 160
14 180
(表終了)
5. 投与間隔変更時
(1). 投与間隔の変更時は，投与間隔を延長する前のヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値の推移を観察し，同一の投与量で安定を確認した上で，週1回から2週に1回又は2週に1回から4週に1回に変更。変更後には推移を確認し，適宜調整。
(2). 1回180μgを投与してもヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値が目標範囲に達しない時には，投与量を1／2とし，投与頻度を2週に1回から週1回又は4週に1回から2週に1回に変更。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・エリスロポエチン製剤に過敏症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 脳梗塞(0. 8%)。
2. 脳出血(0. 1%)。
3. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(0. 1%)。
4. 高血圧性脳症(0. 1%未満)。
5. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(蕁麻疹，呼吸困難，口唇浮腫，咽頭浮腫等)。
6. 赤芽球癆(頻度不明)(抗エリスロポエチン抗体産生を伴う)。
7. 心筋梗塞，肺梗塞(各0. 1%未満)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0. 5～1%未満 0. 5%未満 頻度不明
循環器 血圧上昇(16. 2%) 不整脈 狭心症・心筋虚血，透析時低血圧，動悸，閉塞性動脈硬化症
皮膚 掻痒症，発疹
肝臓 肝機能異常(AI－P上昇，γ－GTP上昇，AST上昇，ALT上昇，ビリルビン上昇) 胆嚢ポリープ
代謝 血清カリウム上昇，尿酸上昇，貯蔵鉄減少，血中リン上昇，食欲減退，二次性副甲状腺機能亢進症
血液 好酸球増多，血小板減少 リンパ球減少，白血球減少，白血球増多
腎臓・泌尿器 腎機能の低下(BUN，クレアチニンの上昇等) 血尿
消化器 腹痛，嘔気・嘔吐，胃炎，十二指腸炎
感覚器 頭痛，倦怠感 眩暈，不眠症，味覚異常，感音性難聴
眼 硝子体出血，結膜炎
その他 シャント血栓・閉塞，LDH上昇 透析回路内残血，筋骨格痛，シャント部疼痛，発熱，胸部不快感，浮腫，止血不良，糖尿病性壊疽 熱感・ほてり感
(表終了)

ダルベポエチン アルファ注40μgシリンジ「KKF」(40μg0. 5mL1筒)

両 注射 後発 流通
劇

【YJコード】3999425S9031
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ダルベポエチン アルファ(遺伝子組換え)
【先発品】ネスプ注射液40μgプラシリンジ
【メーカー】製)協和キリンフロンティア 販)協和キリン
【薬価】2361円/1筒
【薬価収載日】2019/06/14
【標榜薬効】持続型赤血球造血刺激因子製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】腎性貧血
注意
1. 貧血症による日常生活に支障がある患者のみ。投与初期の対象は，血液透析ではヘモグロビン濃度で10g／dL(ヘマトクリット値で30%)未満，活動性の高い若年血液透析，腹膜透析，保存期慢性腎臓病はヘモグロビン濃度で11g／dL(ヘマトクリット値で33%)未満。
2. 腎性貧血を確認し，他の貧血症(失血性貧血，汎血球減少症等)には投与しない。
【用法用量】1. 血液透析
・初回量
成人 1回20μg 週1回 静注。
小児 1回0. 33μg／kg(最高20μg) 週1回 静注。
・エリスロポエチン(エポエチン アルファ(遺伝子組換え)，エポエチンベータ(遺伝子組換え)等)製剤からの切りかえ初回量
成人 1回15～60μg 週1回 静注。
・維持量
成人 貧血改善効果あれば 1回15～60μg 週1回 静注。週1回投与で貧血改善が維持されている時 その時点での1回量の2倍量を開始量とし 2週に1回に変更。1回30～120μg 2週に1回 静注。
小児 貧血改善効果あれば 1回5～60μg 週1回 静注。週1回投与で貧血改善が維持されている時 その時点での1回量の2倍量を開始量とし 2週に1回に変更。1回10～120μg 2週に1回 静注。
適宜増減，1回最高180μg。
2. 腹膜透析・保存期慢性腎臓病
・初回量
成人 1回30μg 2週に1回 皮下注・静注。
小児 1回0. 5μg／kg(最高30μg) 2週に1回 皮下注・静注。
・エリスロポエチン(エポエチン アルファ(遺伝子組換え)，エポエチンベータ(遺伝子組換え)等)製剤からの切りかえ初回量
成人 1回30～120μg 2週に1回 皮下注・静注。
小児 1回10～60μg 2週に1回 皮下注・静注。
・維持量
成人 貧血改善効果あれば 1回30～120μg 2週に1回 皮下注・静注。2週に1回投与で貧血改善が維持されている時 その時点での1回量の2倍量を開始量とし 4週に1回に変更。1回60～180μg 4週に1回 皮下注・静注。
小児 貧血改善効果あれば 1回5～120μg 2週に1回 皮下注・静注。2週に1回投与で貧血改善が維持されている時 その時点での1回量の2倍量を開始量とし 4週に1回に変更。1回10～180μg 4週に1回 皮下注・静注。
適宜増減，1回最高180μg。
注意
1. 貧血改善効果の目標値は学会のガイドライン等，最新の情報を参考。
2. 小児の初回量
(1). 血液透析
小児は下表を参考に，週1回5～20μgを静注。
(表開始)
体重(kg) 投与量(μg)
30未満 5
30～40未満 10
40～60未満 15
60以上 20
(表終了)
(2). 腹膜透析及び保存期慢性腎臓病
小児は下表を参考に，2週に1回5～30μgを皮下注・静注。
(表開始)
体重(kg) 投与量(μg)
20未満 5
20～30未満 10
30～40未満 15
40～60未満 20
60以上 30
(表終了)
3. 切りかえ初回量
下表を参考に，切りかえ前のエリスロポエチン製剤投与量から本剤の投与量及び投与頻度を決定。
小児に1回3μg／kgを超える時，慎重投与(小児に1回3μg／kgを超える使用経験はない)。
(1). エリスロポエチン製剤が週2回又は週3回投与患者 切りかえ前1週間のエリスロポエチン製剤投与量を合計し，下表を参考に初回量を決定し，週1回から開始。
(2). エリスロポエチン製剤が週1回又は2週に1回投与患者 切りかえ前2週間のエリスロポエチン製剤投与量を合計し，下表を参考に初回量を決定し，2週に1回から開始。
(表開始)
投与量(μg) 投与量(μg)
切りかえ前1週間又は2週間のエリスロポエチン製剤投与量の合計(IU)(小児は切りかえ前2週間) 成人 小児
3000未満 15 10
3000 15 15
4500 20 20
6000 30 30
9000 40 40
12000 60 60
(表終了)
4. 投与量調整 投与初期にヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値に適度な上昇がみられなかった時や，維持投与期に2週連続して目標範囲から逸脱した時等，下表を参考に投与量を増減。増量は1段階ずつ行う。
小児に1回3μg／kgを超える時，慎重投与。
成人(皮下注時)の投与量調整表
(表開始)
段階 投与量(μg)
1 15
2 30
3 60
4 90
5 120
6 180
(表終了)
成人(静注時)及び小児(皮下注・静注時)の投与量調整表
(表開始)
段階 投与量(μg)
1 5
2 10
3 15
4 20
5 30
6 40
7 50

3 代謝性医薬品

8 60
9 80
10 100
11 120
12 140
13 160
14 180
(表終了)
5. 投与間隔変更時
(1). 投与間隔の変更時は，投与間隔を延長する前のヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値の推移を観察し，同一の投与量で安定を確認した上で，週1回から2週に1回又は2週に1回から4週に1回に変更。変更後には推移を確認し，適宜調整。
(2). 1回180μgを投与してもヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値が目標範囲に達しない時には，投与量を1／2とし，投与頻度を2週に1回から週1回又は4週に1回から2週に1回に変更。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・エリスロポエチン製剤に過敏症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 脳梗塞(0. 8%)。
2. 脳出血(0. 1%)。
3. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(0. 1%)。
4. 高血圧性脳症(0. 1%未満)。
5. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(蕁麻疹，呼吸困難，口唇浮腫，咽頭浮腫等)。
6. 赤芽球癆(頻度不明)(抗エリスロポエチン抗体産生を伴う)。
7. 心筋梗塞，肺梗塞(各0. 1%未満)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0. 5～1%未満 0. 5%未満 頻度不明
循環器 血圧上昇(16. 2%) 不整脈 狭心症・心筋虚血，透析時低血圧，動悸，閉塞性動脈硬化症
皮膚 掻痒症，発疹
肝臓 肝機能異常(AI－P上昇，γ－GTP上昇，AST上昇，ALT上昇，ビリルビン上昇) 胆嚢ポリープ
代謝 血清カリウム上昇，尿酸上昇，貯蔵鉄減少，血中リン上昇，食欲減退，二次性副甲状腺機能亢進症
血液 好酸球増多，血小板減少 リンパ球減少，白血球減少，白血球増多
腎臓・泌尿器 腎機能の低下(BUN，クレアチニンの上昇等) 血尿
消化器 腹痛，嘔気・嘔吐，胃炎，十二指腸炎
感覚器 頭痛，倦怠感 眩暈，不眠症，味覚異常，感音性難聴
眼 硝子体出血，結膜炎
その他 シャント血栓・閉塞，LDH上昇 透析回路内残血，筋骨格痛，シャント部疼痛，発熱，胸部不快感，浮腫，止血不良，糖尿病性壊疽 熱感・ほてり感
(表終了)

ダルベポエチン アルファ注5μgシリンジ「KKF」(5μg0. 5mL1筒)

内 注射 後発 流通
劇

【YJコード】3999425U4030
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ダルベポエチン アルファ(遺伝子組換え)
【先発品】ネスプ注射液5μgプラシリンジ
【メーカー】製)協和キリンフロンティア 販)協和キリン
【薬価】438円/1筒
【薬価収載日】2019/06/14
【標榜薬効】持続型赤血球造血刺激因子製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】腎性貧血
注意
1. 貧血症による日常生活に支障がある患者のみ。投与初期の対象は，血液透析ではヘモグロビン濃度で10g／dL(ヘマトクリット値で30%)未満，活動性の高い若年血液透析，腹膜透析，保存期慢性腎臓病はヘモグロビン濃度で11g／dL(ヘマトクリット値で33%)未満。
2. 腎性貧血を確認し，他の貧血症(失血性貧血，汎血球減少症等)には投与しない。
【用法用量】1. 血液透析
・初回量
成人 1回20μg 週1回 静注。
小児 1回0. 33μg／kg(最高20μg) 週1回 静注。
・エリスロポエチン(エポエチン アルファ(遺伝子組換え)，エポエチンベータ(遺伝子組換え)等)製剤からの切りかえ初回量
成人 1回15～60μg 週1回 静注。
・維持量
成人 貧血改善効果あれば 1回15～60μg 週1回 静注。週1回投与で貧血改善が維持されている時 その時点での1回量の2倍量を開始量とし 2週に1回に変更。1回30～120μg 2週に1回 静注。
小児 貧血改善効果あれば 1回5～60μg 週1回 静注。週1回投与で貧血改善が維持されている時 その時点での1回量の2倍量を開始量とし 2週に1回に変更。1回10～120μg 2週に1回 静注。
適宜増減，1回最高180μg。
2. 腹膜透析・保存期慢性腎臓病
・初回量
成人 1回30μg 2週に1回 皮下注・静注。
小児 1回0. 5μg／kg(最高30μg) 2週に1回 皮下注・静注。
・エリスロポエチン(エポエチン アルファ(遺伝子組換え)，エポエチンベータ(遺伝子組換え)等)製剤からの切りかえ初回量
成人 1回30～120μg 2週に1回 皮下注・静注。
小児 1回10～60μg 2週に1回 皮下注・静注。
・維持量
成人 貧血改善効果あれば 1回30～120μg 2週に1回 皮下注・静注。2週に1回投与で貧血改善が維持されている時 その時点での1回量の2倍量を開始量とし 4週に1回に変更。1回60～180μg 4週に1回 皮下注・静注。
小児 貧血改善効果あれば 1回5～120μg 2週に1回 皮下注・静注。2週に1回投与で貧血改善が維持されている時 その時点での1回量の2倍量を開始量とし 4週に1回に変更。1回10～180μg 4週に1回 皮下注・静注。
適宜増減，1回最高180μg。
注意
1. 貧血改善効果の目標値は学会のガイドライン等，最新の情報を参考。
2. 小児の初回量
(1). 血液透析
小児は下表を参考に，週1回5～20μgを静注。
(表開始)
体重(kg) 投与量(μg)
30未満 5
30～40未満 10
40～60未満 15
60以上 20
(表終了)
(2). 腹膜透析及び保存期慢性腎臓病
小児は下表を参考に，2週に1回5～30μgを皮下注・静注。
(表開始)
体重(kg) 投与量(μg)
20未満 5
20～30未満 10
30～40未満 15
40～60未満 20
60以上 30
(表終了)
3. 切りかえ初回量
下表を参考に，切りかえ前のエリスロポエチン製剤投与量から本剤の投与量及び投与頻度を決定。
小児に1回3μg／kgを超える時，慎重投与(小児に1回3μg／kgを超える使用経験はない)。
(1). エリスロポエチン製剤が週2回又は週3回投与患者 切りかえ前1週間のエリスロポエチン製剤投与量を合計し，下表を参考に初回量を決定し，週1回から開始。
(2). エリスロポエチン製剤が週1回又は2週に1回投与患者 切りかえ前2週間のエリスロポエチン製剤投与量を合計し，下表を参考に初回量を決定し，2週に1回から開始。
(表開始)
投与量(μg) 投与量(μg)
切りかえ前1週間又は2週間のエリスロポエチン製剤投与量の合計(IU)(小児は切りかえ前2週間) 成人 小児
3000未満 15 10
3000 15 15
4500 20 20
6000 30 30
9000 40 40
12000 60 60
(表終了)
4. 投与量調整 投与初期にヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値に適度な上昇がみられなかった時や，維持投与期に2週連続して目標範囲から逸脱した時等，下表を参考に投与量を増減。増量は1段階ずつ行う。
小児に1回3μg／kgを超える時，慎重投与。
成人(皮下注時)の投与量調整表
(表開始)
段階 投与量(μg)
1 15
2 30
3 60
4 90
5 120
6 180
(表終了)
成人(静注時)及び小児(皮下注・静注時)の投与量調整表
(表開始)
段階 投与量(μg)
1 5
2 10
3 15
4 20
5 30
6 40
7 50

3 代謝性医薬品

8 60
9 80
10 100
11 120
12 140
13 160
14 180
(表終了)
5. 投与間隔変更時
(1). 投与間隔の変更時は，投与間隔を延長する前のヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値の推移を観察し，同一の投与量で安定を確認した上で，週1回から2週に1回又は2週に1回から4週に1回に変更。変更後には推移を確認し，適宜調整。
(2). 1回180μgを投与してもヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値が目標範囲に達しない時には，投与量を1／2とし，投与頻度を2週に1回から週1回又は4週に1回から2週に1回に変更。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・エリスロポエチン製剤に過敏症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 脳梗塞(0. 8%)。
2. 脳出血(0. 1%)。
3. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(0. 1%)。
4. 高血圧性脳症(0. 1%未満)。
5. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(蕁麻疹，呼吸困難，口唇浮腫，咽頭浮腫等)。
6. 赤芽球癆(頻度不明)(抗エリスロポエチン抗体産生を伴う)。
7. 心筋梗塞，肺梗塞(各0. 1%未満)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0. 5～1%未満 0. 5%未満 頻度不明
循環器 血圧上昇(16. 2%) 不整脈 狭心症・心筋虚血，透析時低血圧，動悸，閉塞性動脈硬化症
皮膚 掻痒症，発疹
肝臓 肝機能異常(AI－P上昇，γ－GTP上昇，AST上昇，ALT上昇，ビリルビン上昇) 胆嚢ポリープ
代謝 血清カリウム上昇，尿酸上昇，貯蔵鉄減少，血中リン上昇，食欲減退，二次性副甲状腺機能亢進症
血液 好酸球増多，血小板減少 リンパ球減少，白血球減少，白血球増多
腎臓・泌尿器 腎機能の低下(BUN，クレアチニンの上昇等) 血尿
消化器 腹痛，嘔気・嘔吐，胃炎，十二指腸炎
感覚器 頭痛，倦怠感 眩暈，不眠症，味覚異常，感音性難聴
眼 硝子体出血，結膜炎
その他 シャント血栓・閉塞，LDH上昇 透析回路内残血，筋骨格痛，シャント部疼痛，発熱，胸部不快感，浮腫，止血不良，糖尿病性壊疽 熱感・ほてり感
(表終了)

ダルベポエチン アルファ注60μgシリンジ「KKF」(60μg0. 5mL1筒)

両 注射 後発 流通
劇

【YJコード】3999425U1031
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ダルベポエチン アルファ(遺伝子組換え)
【先発品】ネスプ注射液60μgプラシリンジ
【メーカー】製)協和キリンフロンティア 販)協和キリン
【薬価】3424円/1筒
【薬価収載日】2019/06/14
【標榜薬効】持続型赤血球造血刺激因子製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】腎性貧血
注意
1. 貧血症による日常生活に支障がある患者のみ。投与初期の対象は，血液透析ではヘモグロビン濃度で10g／dL(ヘマトクリット値で30%)未満，活動性の高い若年血液透析，腹膜透析，保存期慢性腎臓病はヘモグロビン濃度で11g／dL(ヘマトクリット値で33%)未満。
2. 腎性貧血を確認し，他の貧血症(失血性貧血，汎血球減少症等)には投与しない。
【用法用量】1. 血液透析
・初回量
成人 1回20μg 週1回 静注。
小児 1回0. 33μg／kg(最高20μg) 週1回 静注。
・エリスロポエチン(エポエチン アルファ(遺伝子組換え)，エポエチンベータ(遺伝子組換え)等)製剤からの切りかえ初回量
成人 1回15～60μg 週1回 静注。
・維持量
成人 貧血改善効果あれば 1回15～60μg 週1回 静注。週1回投与で貧血改善が維持されている時 その時点での1回量の2倍量を開始量とし 2週に1回に変更。1回30～120μg 2週に1回 静注。
小児 貧血改善効果あれば 1回5～60μg 週1回 静注。週1回投与で貧血改善が維持されている時 その時点での1回量の2倍量を開始量とし 2週に1回に変更。1回10～120μg 2週に1回 静注。
適宜増減，1回最高180μg。
2. 腹膜透析・保存期慢性腎臓病
・初回量
成人 1回30μg 2週に1回 皮下注・静注。
小児 1回0. 5μg／kg(最高30μg) 2週に1回 皮下注・静注。
・エリスロポエチン(エポエチン アルファ(遺伝子組換え)，エポエチンベータ(遺伝子組換え)等)製剤からの切りかえ初回量
成人 1回30～120μg 2週に1回 皮下注・静注。
小児 1回10～60μg 2週に1回 皮下注・静注。
・維持量
成人 貧血改善効果あれば 1回30～120μg 2週に1回 皮下注・静注。2週に1回投与で貧血改善が維持されている時 その時点での1回量の2倍量を開始量とし 4週に1回に変更。1回60～180μg 4週に1回 皮下注・静注。
小児 貧血改善効果あれば 1回5～120μg 2週に1回 皮下注・静注。2週に1回投与で貧血改善が維持されている時 その時点での1回量の2倍量を開始量とし 4週に1回に変更。1回10～180μg 4週に1回 皮下注・静注。
適宜増減，1回最高180μg。
注意
1. 貧血改善効果の目標値は学会のガイドライン等，最新の情報を参考。
2. 小児の初回量
(1). 血液透析
小児は下表を参考に，週1回5～20μgを静注。
(表開始)
体重(kg) 投与量(μg)
30未満 5
30～40未満 10
40～60未満 15
60以上 20
(表終了)
(2). 腹膜透析及び保存期慢性腎臓病
小児は下表を参考に，2週に1回5～30μgを皮下注・静注。
(表開始)
体重(kg) 投与量(μg)
20未満 5
20～30未満 10
30～40未満 15
40～60未満 20
60以上 30
(表終了)
3. 切りかえ初回量
下表を参考に，切りかえ前のエリスロポエチン製剤投与量から本剤の投与量及び投与頻度を決定。
小児に1回3μg／kgを超える時，慎重投与(小児に1回3μg／kgを超える使用経験はない)。
(1). エリスロポエチン製剤が週2回又は週3回投与患者 切りかえ前1週間のエリスロポエチン製剤投与量を合計し，下表を参考に初回量を決定し，週1回から開始。
(2). エリスロポエチン製剤が週1回又は2週に1回投与患者 切りかえ前2週間のエリスロポエチン製剤投与量を合計し，下表を参考に初回量を決定し，2週に1回から開始。
(表開始)
投与量(μg) 投与量(μg)
切りかえ前1週間又は2週間のエリスロポエチン製剤投与量の合計(IU)(小児は切りかえ前2週間) 成人 小児
3000未満 15 10
3000 15 15
4500 20 20
6000 30 30
9000 40 40
12000 60 60
(表終了)
4. 投与量調整 投与初期にヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値に適度な上昇がみられなかった時や，維持投与期に2週連続して目標範囲から逸脱した時等，下表を参考に投与量を増減。増量は1段階ずつ行う。
小児に1回3μg／kgを超える時，慎重投与。
成人(皮下注時)の投与量調整表
(表開始)
段階 投与量(μg)
1 15
2 30
3 60
4 90
5 120
6 180
(表終了)
成人(静注時)及び小児(皮下注・静注時)の投与量調整表
(表開始)
段階 投与量(μg)
1 5
2 10
3 15
4 20
5 30
6 40
7 50

3 代謝性医薬品

8 60
9 80
10 100
11 120
12 140
13 160
14 180
(表終了)
5. 投与間隔変更時
(1). 投与間隔の変更時は，投与間隔を延長する前のヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値の推移を観察し，同一の投与量で安定を確認した上で，週1回から2週に1回又は2週に1回から4週に1回に変更。変更後には推移を確認し，適宜調整。
(2). 1回180μgを投与してもヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値が目標範囲に達しない時には，投与量を1／2とし，投与頻度を2週に1回から週1回又は4週に1回から2週に1回に変更。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・エリスロポエチン製剤に過敏症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 脳梗塞(0. 8%)。
2. 脳出血(0. 1%)。
3. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(0. 1%)。
4. 高血圧性脳症(0. 1%未満)。
5. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(蕁麻疹，呼吸困難，口唇浮腫，咽頭浮腫等)。
6. 赤芽球癆(頻度不明)(抗エリスロポエチン抗体産生を伴う)。
7. 心筋梗塞，肺梗塞(各0. 1%未満)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0. 5～1%未満 0. 5%未満 頻度不明
循環器 血圧上昇(16. 2%) 不整脈 狭心症・心筋虚血，透析時低血圧，動悸，閉塞性動脈硬化症
皮膚 掻痒症，発疹
肝臓 肝機能異常(AI－P上昇，γ－GTP上昇，AST上昇，ALT上昇，ビリルビン上昇) 胆嚢ポリープ
代謝 血清カリウム上昇，尿酸上昇，貯蔵鉄減少，血中リン上昇，食欲減退，二次性副甲状腺機能亢進症
血液 好酸球増多，血小板減少 リンパ球減少，白血球減少，白血球増多
腎臓・泌尿器 腎機能の低下(BUN，クレアチニンの上昇等) 血尿
消化器 腹痛，嘔気・嘔吐，胃炎，十二指腸炎
感覚器 頭痛，倦怠感 眩暈，不眠症，味覚異常，感音性難聴
眼 硝子体出血，結膜炎
その他 シャント血栓・閉塞，LDH上昇 透析回路内残血，筋骨格痛，シャント部疼痛，発熱，胸部不快感，浮腫，止血不良，糖尿病性壊疽 熱感・ほてり感
(表終了)

注射用ナファタット10（10mg1瓶）

両 注射 後発
劇

【YJコード】3999407D1165
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ナファモスタットメシル酸塩
【メーカー】製)日医工
【薬価収載日】2001/07/06 【経過措置期限】2018/03/31
【標榜薬効】蛋白分解酵素阻害剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 膵炎の急性症状(急性膵炎，慢性膵炎の急性増悪期，術後の急性膵炎，膵管造影後の急性膵炎，外傷性膵炎)の改善
2. DIC
3. 出血性病変・出血傾向の血液体外循環時の灌流血液の凝固防止(血液透析・プラスマフェレーシス)
【用法用量】(1). 膵炎の急性症状の改善 1回10mg 1日1～2回 約2時間かけ 点滴静注(5%ブドウ糖液500mLに溶解)。適宜増減。
(2). DIC 0. 06～0. 2mg／kg／時 24時間かけ 持続静注(1日量を5%ブドウ糖液1000mLに溶解)。
(3). 出血性病変・出血傾向の血液体外循環時の灌流血液の凝固防止
体外循環開始前 20mg(生食500mLに溶解) 血液回路内の洗浄・充填。体外循環開始後 20～50mg／時 抗凝固剤注入ラインより持続注入(5%ブドウ糖液に溶解)。適宜増減。
注射液の調製法
1. 膵炎の急性症状の改善
(1). 本剤1バイアルに1mL以上の5%ブドウ糖液又は注射用水を加え溶解。
(2). 溶解した液を5%ブドウ糖液に混和。
2. DIC
(1). 本剤1バイアルに1mL以上の5%ブドウ糖液又は注射用水を加え溶解。
(2). 溶解した液を5%ブドウ糖液に混和。
3. 出血性病変・出血傾向の血液体外循環時の灌流血液の凝固防止
(1). 血液回路内の洗浄・充填
[1]. 本剤1バイアルに1mLの5%ブドウ糖液又は注射用水を加え溶解。
[2]. ナファモスタットメシル酸塩20mg含有の溶解液を生食に混和。
(2). 体外循環時
[1]. 本剤1バイアルに1mLの5%ブドウ糖液又は注射用水を加え溶解。
[2]. 溶解した液を抗凝固剤持続注入器の容量に合わせ，5%ブドウ糖液で希釈。
4. 溶解時の注意
白濁又は結晶が析出の可能性，生食又は無機塩類を含有する溶液をバイアルに直接加えない。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
(頻度不明)
1. ショック，アナフィラキシー様症状(血圧低下，意識障害，呼吸困難，気管支喘息様発作，喘鳴，胸部不快，腹痛，嘔吐，発熱，冷汗，掻痒感，紅潮，発赤，しびれ等)。
2. 高カリウム血症(不整脈を誘発)。
3. 低ナトリウム血症。
4. 血小板減少。
5. 白血球減少。
6. 肝機能障害(AST(GOT)，ALT(GPT)，γ－GTPの上昇等)，黄疸。
その他の副作用(発現時中止等)(膵炎の急性症状の改善)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
皮膚 発疹，紅斑，掻痒感
(表終了)
その他の副作用(発現時中止等)(DIC)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
皮膚 掻痒感，発疹
血小板・出血凝固 出血傾向
(表終了)
その他の副作用(発現時中止等)(出血性病変，出血傾向の血液体外循環時の灌流血液の凝固防止)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
皮膚 紅斑，掻痒感，発疹
血小板・出血凝固 出血傾向
(表終了)

注射用フサン10（10mg1瓶）

内 注射 流通
劇

【YJコード】3999407D1181
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ナファモスタットメシル酸塩
【メーカー】製)日医工 販)鳥居薬品
【薬価】317円/1V
【薬価収載日】2002/07/05
【標榜薬効】蛋白分解酵素阻害剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 膵炎の急性症状(急性膵炎，慢性膵炎の急性増悪，術後の急性膵炎，膵管造影後の急性膵炎，外傷性膵炎)の改善
2. DIC
3. 出血性病変・出血傾向の血液体外循環時の灌流血液の凝固防止(血液透析・プラスマフェレーシス)
【用法用量】膵炎の急性症状(急性膵炎，慢性膵炎の急性増悪，術後の急性膵炎，膵管造影後の急性膵炎，外傷性膵炎)の改善
1回10mg 1日1～2回 約2時間かけ 点滴静注(5%ブドウ糖液500mLに溶解)。適宜増減。
DIC
0. 06～0. 2mg／kg／時 24時間かけ 持続静注(1日量を5%ブドウ糖液1000mLに溶解)。
出血性病変・出血傾向の血液体外循環時の灌流血液の凝固防止(血液透析・プラスマフェレーシス)
体外循環開始前 20mg(生食500mLに溶解) 血液回路内の洗浄・充填。体外循環開始後 20～50mg／時 抗凝固剤注入ラインより持続注入(5%ブドウ糖液に溶解)。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー(血液体外循環時の灌流血液の凝固防止(0. 16%)，膵炎，DIC(各頻度不明))(血圧低下，意識障害，呼吸困難，気管支喘息様発作，喘鳴，胸部不快，腹痛，嘔吐，発熱，冷汗，掻

3 代謝性医薬品

痒感，紅潮，発赤，しびれ等）。
2．高カリウム血症（膵炎（0．19%），DIC（4．53%），血液体外循環時の灌流血液の凝固防止（0．02%））（不整脈を誘発）。
3．低ナトリウム血症（DIC（0．47%），膵炎，血液体外循環時の灌流血液の凝固防止（各頻度不明））。
4．血小板減少（膵炎（0．04%），DIC（0．03%），血液体外循環時の灌流血液の凝固防止（0．02%））。
5．白血球減少（膵炎（0．13%），DIC（0．08%），血液体外循環時の灌流血液の凝固防止（頻度不明））。
6．肝機能障害（頻度不明）（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（膵炎（0．01%），DIC（0．28%），血液体外循環時の灌流血液の凝固防止（頻度不明））。
その他の副作用（発現時中止等）（膵炎の急性症状の改善）
（表開始）
発現部位等 0．1～1．0%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚 発疹 紅斑，掻痒感
筋・骨格系 筋肉痛，関節痛
消化管 下痢，悪心・嘔吐 食欲不振
肝臓・胆管系 AST上昇，ALT上昇 LDH上昇，総ビリルビン上昇
適用部位 血管炎（発赤・疼痛含む）
白血球・網内系 好酸球増多
血小板・出血凝固 血小板増加
泌尿器系 BUN上昇，クレアチニン上昇
その他 頭重感，発熱，胸部不快感 頭痛，全身倦怠感，胸痛
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（DIC）
（表開始）
発現部位等 0．1～1．0%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚 発疹 掻痒感
筋・骨格系 筋肉痛
消化管 悪心・嘔吐 下痢
肝臓・胆管系 AST上昇，ALT上昇，AlーP上昇，LDH上昇，総ビリルビン上昇
代謝・栄養系 高尿酸血症
心拍数・リズム 動悸
適用部位 血管炎（疼痛・腫脹含む）
白血球・網内系 好酸球増多
血小板・出血凝固 血小板増加 出血傾向
泌尿器系 BUN上昇，クレアチニン上昇
その他 発熱 胸部不快感
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（出血性病変，出血傾向の血液体外循環時の灌流血液の凝固防止）
（表開始）
発現部位等 0．1～1．0%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚 掻痒感 発疹 紅斑
筋・骨格系 筋肉痛，関節痛
消化管 悪心・嘔吐，食欲不振 下痢
肝臓・胆管系 AST上昇，ALT上昇
心拍数・リズム 動悸
白血球・網内系 好酸球増多
血小板・出血凝固 出血傾向
その他 全身倦怠感 頭痛，発熱，胸痛 胸部不快感
（表終了）

注射用フサン50（50mg1瓶）

内 注射 流通
劇

【YJコード】3999407D2021
【薬効分類】3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ナファモスタットメシル酸塩
【メーカー】製）日医工 販）鳥居薬品
【薬価】715円/1V
【標榜薬効】蛋白分解酵素阻害剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．DIC
2．出血性病変・出血傾向の血液体外循環時の灌流血液の凝固防止（血液透析・プラスマフェレーシス）
【用法用量】DIC
0．06～0．2mg／kg／時 24時間かけ 持続静注（1日量を5%ブドウ糖液1000mLに溶解）。
出血性病変・出血傾向の血液体外循環時の灌流血液の凝固防止（血液透析・プラスマフェレーシス）
体外循環開始前 20mg（生食500mLに溶解） 血液回路内の洗浄・充填。体外循環開始後 20～50mg／時 抗凝固剤注入ラインより持続注入（5%ブドウ糖液に溶解）。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（血液体外循環時の灌流血液の凝固防止（0．16%），膵炎，DIC（各頻度不明））（血圧低下，意識障害，呼吸困難，気管支喘息様発作，喘鳴，胸部不快，腹痛，嘔吐，発熱，冷汗，掻痒感，紅潮，発赤，しびれ等）。
2．高カリウム血症（膵炎（0．19%），DIC（4．53%），血液体外循環時の灌流血液の凝固防止（0．02%））（不整脈を誘発）。
3．低ナトリウム血症（DIC（0．47%），膵炎，血液体外循環時の灌流血液の凝固防止（各頻度不明））。
4．血小板減少（膵炎（0．04%），DIC（0．03%），血液体外循環時の灌流血液の凝固防止（0．02%））。
5．白血球減少（膵炎（0．13%），DIC（0．08%），血液体外循環時の灌流血液の凝固防止（頻度不明））。
6．肝機能障害（頻度不明）（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（膵炎（0．01%），DIC（0．28%），血液体外循環時の灌流血液の凝固防止（頻度不明））。
その他の副作用（発現時中止等）（膵炎の急性症状の改善）
（表開始）
発現部位等 0．1～1．0%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚 発疹 紅斑，掻痒感
筋・骨格系 筋肉痛，関節痛
消化管 下痢，悪心・嘔吐 食欲不振
肝臓・胆管系 AST上昇，ALT上昇 LDH上昇，総ビリルビン上昇
適用部位 血管炎（発赤・疼痛含む）
白血球・網内系 好酸球増多
血小板・出血凝固 血小板増加
泌尿器系 BUN上昇，クレアチニン上昇
その他 頭重感，発熱，胸部不快感 頭痛，全身倦怠感，胸痛
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（DIC）
（表開始）
発現部位等 0．1～1．0%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚 発疹 掻痒感
筋・骨格系 筋肉痛
消化管 悪心・嘔吐 下痢
肝臓・胆管系 AST上昇，ALT上昇，AlーP上昇，LDH上昇，総ビリルビン上昇
代謝・栄養系 高尿酸血症
心拍数・リズム 動悸
適用部位 血管炎（疼痛・腫脹含む）
白血球・網内系 好酸球増多
血小板・出血凝固 血小板増加 出血傾向
泌尿器系 BUN上昇，クレアチニン上昇
その他 発熱 胸部不快感
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（出血性病変，出血傾向の血液体外循環時の灌流血液の凝固防止）
（表開始）
発現部位等 0．1～1．0%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚 掻痒感 発疹 紅斑
筋・骨格系 筋肉痛，関節痛
消化管 悪心・嘔吐，食欲不振 下痢
肝臓・胆管系 AST上昇，ALT上昇
心拍数・リズム 動悸
白血球・網内系 好酸球増多
血小板・出血凝固 出血傾向
その他 全身倦怠感 頭痛，発熱，胸痛 胸部不快感
（表終了）

ヒアルロン酸Na関節注25mgシリンジ「NP」（1%2．5mL1筒）

内 注射 後発 流通

【YJコード】3999408G1395
【薬効分類】3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】精製ヒアルロン酸ナトリウム
【先発品】アルツディスポ関節注25mg
【メーカー】製）ニプロ 販）久光製薬
【薬価】600円/1筒
【薬価収載日】2013/06/21
【標榜薬効】関節機能改善剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○変形性膝関節症，肩関節周囲炎
○関節リウマチの膝関節痛（下記を全て満たす時のみ）
（1）．抗リウマチ薬等による治療で全身の病勢がコントロールできていても膝関節痛のある時
（2）．全身の炎症症状がCRP値として10mg／dL以下
（3）．膝関節の症状が軽症から中等症
（4）．膝関節のLarsenX線分類がGradeI～III
注意
関節リウマチの膝関節痛
1．膝関節以外の使用経験はなく，他の関節は有効性・安全性が未確立のため投与しない。
2．膝関節の器質的変化が高度なものは有効性・安全性が未確立のため投与しない。
【用法用量】変形性膝関節症，肩関節周囲炎
成人 1回1シリンジ（精製ヒアルロン酸ナトリウム 25mg） 1週間ごと連続5回 膝関節腔内，又は肩関節（肩関節腔，肩峰下滑液包，上腕二頭筋長頭腱鞘）内投与。適宜回数増減。
関節リウマチの膝関節痛

3 代謝性医薬品

成人 1回2.5mL(本剤 1シリンジ,精製ヒアルロン酸ナトリウム 25mg) 1週間ごと連続5回 膝関節腔内投与。
本剤は関節内に投与,厳重な無菌的操作で行う。
注意
効能共通
1.症状の改善なければ,5回までで投与中止。
関節リウマチの膝関節痛
2.原因療法ではなく局所への対症療法なので抗リウマチ薬等と併用。漫然と連用する薬剤ではない。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0.1～5%未満 頻度不明
過敏症 蕁麻疹等の発疹,掻痒感,浮腫(顔面,眼瞼等),顔面発赤
投与関節 疼痛(主に一過性の疼痛),熱感,局所の重苦しさ 腫脹,水腫,発赤,関節周囲のしびれ感
肝臓 AST上昇,ALT上昇,AI－P上昇,LDH上昇
血液 好酸球増多,ヘマトクリット低下,白血球増多
その他 嘔気・嘔吐,発熱,倦怠感,蛋白尿,尿沈渣異常,動悸,ほてり,総蛋白低下,BUN上昇
(表終了)

ビンゼレックス皮下注160mgオートインジェクター(160mg1mL1キット)

両 注射 自注 流通
劇

【YJコード】3999464G2026
【薬効分類】3.9.9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ビメキズマブ(遺伝子組換え)
【メーカー】製)ユーシービージャパン
【薬価】156820円/1kit
【薬価収載日】2022/04/20
【標榜薬効】ヒト化抗ヒトIL－17A/IL－17Fモノクローナル抗体製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】既存治療で効果不十分な下記
〇尋常性乾癬,膿疱性乾癬,乾癬性紅皮症
〇乾癬性関節炎
〇強直性脊椎炎,X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎
化膿性汗腺炎
注意
尋常性乾癬,膿疱性乾癬,乾癬性紅皮症
1.下記のいずれかを満たす患者に投与。
・光線療法含む既存の全身療法(生物製剤除く)で効果不十分で,皮疹が体表面積の10%以上。
・難治性の皮疹,膿疱。
乾癬性関節炎
2.既存の全身療法(従来型合成疾患修飾性抗リウマチ薬等)で効果不十分,難治性の関節症状を有する患者に投与。
強直性脊椎炎
3.過去,既存治療薬(非ステロイド性抗炎症剤等)の治療を行っても,疾患による臨床症状が残る時に投与。
X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎
4.過去の治療で,既存治療薬(非ステロイド性抗炎症剤等)による治療を行っても,疾患による臨床症状・炎症の客観的徴候ある時に投与。
化膿性汗腺炎
5.局所療法,抗菌薬投与の治療後も臨床症状が残る時に投与。繰り返す病変部位に二次的に細菌感染の可能性,病変部位の管理が必要。
6.軽度の化膿性汗腺炎の有効性・安全性は未確立。臨床成績の項を熟知し,有効性・安全性を理解した上で,適応患者の選択を行う。
【用法用量】尋常性乾癬,膿疱性乾癬,乾癬性紅皮症
成人 1回320mg 初回から16週まで 4週間隔 皮下注,以後8週間隔 皮下注。
状態により16週以降 4週間隔 皮下注。
乾癬性関節炎
成人 1回160mg 4週間隔 皮下注。
強直性脊椎炎,X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎
成人 1回160mg 4週間隔 皮下注。
化膿性汗腺炎
成人 1回320mg 初回から16週まで 2週間隔 皮下注,以後4週間隔 皮下注。
投与間隔は状態により適宜2週間隔又は4週間隔を選択できる。
注意
1.本剤と他の生物製剤や経口ヤヌスキナーゼ阻害剤の併用について安全性・有効性は未確立なので併用を避ける。
2.治療反応は,投与開始から16週以内にあり。16週以内に治療反応なければ,治療計画の継続を再考。

■禁忌
【禁忌】1.重篤な感染症。
2.活動性結核。
3.本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1.重篤な感染症(0.5%)。
2.好中球数減少(0.7%)。
3.炎症性腸疾患(0.3%)。
4.重篤な過敏症反応(0.1%未満)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満
感染症・寄生虫症 口腔カンジダ症(10.1%),上気道感染 毛包炎,白癬感染,耳感染,結膜炎 胃腸炎,中咽頭カンジダ症,食道カンジダ症,単純ヘルペス感染(単純ヘルペス,口腔ヘルペス等),外陰部腟カンジダ症
神経系障害 頭痛
皮膚・皮下組織障害 皮膚炎・湿疹(皮膚炎,接触皮膚炎,異汗性湿疹,湿疹,間擦疹,脂漏性皮膚炎等) ざ瘡
一般・全身障害・投与部位の状態 注射部位反応 疲労
(表終了)

プラリア皮下注60mgシリンジ(60mg1mL1筒)

内 注射 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】3999435G1023
【薬効分類】3.9.9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】デノスマブ(遺伝子組換え)
【メーカー】製)第一三共
【薬価】24939円/1筒
【薬価収載日】2013/05/24
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】ヒト型抗RANKLモノクローナル抗体製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇骨粗鬆症
〇関節リウマチに伴う骨糜爛の進行抑制
注意
骨粗鬆症
1.日本骨代謝学会の診断基準等を参考に,確定診断された患者が対象。
関節リウマチに伴う骨糜爛の進行抑制
2.メトトレキサート等の抗炎症作用を有する抗リウマチ薬による治療を行っても,画像検査で骨糜爛の進行が認められる時に使用。
3.臨床試験(投与期間 1年間)で,骨糜爛の進行を抑制する効果は認められているが,関節症状又は身体機能を改善する効果,関節裂隙の狭小化を抑制する効果は未確認。臨床成績の項の内容・本剤が抗リウマチ薬の補助的な位置付けであることを理解した上で,適応患者を選択。
【用法用量】骨粗鬆症
成人 デノスマブ(遺伝子組換え) 1回60mg 6ヵ月に1回 皮下注。
関節リウマチに伴う骨糜爛の進行抑制
成人 デノスマブ(遺伝子組換え) 1回60mg 6ヵ月に1回 皮下注。
骨糜爛の進行時 3ヵ月に1回 皮下注。
注意
関節リウマチに伴う骨糜爛の進行抑制
1.メトトレキサート等の抗炎症作用を有する抗リウマチ薬と併用。
2.6ヵ月に1回の投与は,関節の画像検査で骨糜爛の進行時,併用する抗リウマチ薬の増量等,関節リウマチの治療変更を検討,ベネフィットとリスクを勘案し,3ヵ月に1回の投与。

■禁忌
【禁忌】1.本剤の成分に過敏症の既往。
2.低カルシウム血症。
3.妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1.低カルシウム血症(1.4%)(QT延長,痙攣,テタニー,しびれ,失見当識等)。
2.顎骨壊死・顎骨骨髄炎(0.1%)。
3.アナフィラキシー(頻度不明)。
4.大腿骨転子下,近位大腿骨骨幹部,近位尺骨骨幹部等の非定型骨折(頻度不明)。
5.治療中止後の多発性椎体骨折(頻度不明)。
6.重篤な皮膚感染症(頻度不明)(重篤な蜂巣炎等)(発赤,腫脹,疼痛,発熱等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0.5～2%未満 0.5%未満 頻度不明
血液 貧血 白血球減少
皮膚 湿疹 脱毛症,扁平苔癬

3 代謝性医薬品

代謝 低リン酸血症
内分泌 血中副甲状腺ホルモン増加
精神神経系 眩暈
循環器 高血圧
呼吸器 鼻咽頭炎
消化器 胃炎，口内炎，歯周炎，胃食道逆流性疾患 上腹部痛，口腔ヘルペス，歯肉炎，悪心，嘔吐
筋骨格系 背部痛 関節痛，四肢痛，筋骨格痛
肝臓 肝機能異常，γ－GTP上昇 ALT上昇，AST上昇
腎臓 尿蛋白陽性
その他 注射部位反応(疼痛，腫脹，紅斑等)，発熱，白内障，倦怠感，ほてり 薬物過敏症，末梢性浮腫，無力症
(表終了)

ベネット錠2．5mg（2．5mg1錠）

両 内服 流通
劇

【YJコード】3999019F1034
【薬効分類】3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】リセドロン酸ナトリウム水和物
【メーカー】製)武田薬品工業
【薬価】47.5円/1T
【薬価収載日】2002/04/26
【標榜薬効】骨粗鬆症治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】骨粗鬆症
注意
日本骨代謝学会の原発性骨粗鬆症の診断基準等を参考に，確定診断された患者が対象。
【用法用量】成人 リセドロン酸ナトリウム 1回2．5mg 1日1回 起床時 十分量(約180mL)の水とともに 内服。
服用後最低30分は横にならず，水以外の飲食，他剤の内服も避ける。
注意
下記を指導。
・水以外の飲料(Ca，Mg等の含量の高いミネラルウォーター含む)や食物，他剤を同時服用すると，吸収を妨げる可能性，起床後，最初の飲食前に服用し，服用後最低30分は水以外の飲食を避ける。
・食道炎や食道潰瘍の報告あり，立位，坐位で，十分量(約180mL)の水とともに服用し，服用後30分は横たわらない。
・就寝時・起床前に服用しない。
・口腔咽頭刺激の可能性，噛まず，なめずに服用。
・食道疾患の症状(嚥下困難又は嚥下痛，胸骨後部の痛み，高度の持続する胸やけ等)の発現時は，主治医に連絡。

■禁忌

【禁忌】1．食道狭窄・アカラシア(食道弛緩不能症)等の食道通過を遅延させる障害。
2．本剤の成分・他のビスホスホネート系薬剤に過敏症の既往。
3．低カルシウム血症。
4．服用時に立位・坐位を30分以上保てない患者。
5．妊婦・妊娠の可能性。
6．高度な腎機能障害(クレアチニンクリアランス値 約30mL／分未満)。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．上部消化管障害(食道穿孔(頻度不明)，食道狭窄(頻度不明)，食道潰瘍(頻度不明)，胃潰瘍(0．9%)，食道炎(0．1%)，十二指腸潰瘍(0．1%)等)。
2．肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの著しい上昇)，黄疸(各頻度不明)。
3．顎骨壊死・顎骨骨髄炎(頻度不明)。
4．外耳道骨壊死(頻度不明)。
5．大腿骨転子下，近位大腿骨骨幹部，近位尺骨骨幹部等の非定型骨折(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
消化器 胃不快感 悪心，上腹部痛，便秘，消化不良(胸やけ)，腹部膨満感，胃炎，口内炎 口渇，嘔吐，食欲不振，下痢，軟便，おくび，鼓腸 舌炎，味覚異常，十二指腸炎，歯肉腫脹
過敏症 掻痒症，発疹，紅斑，蕁麻疹 皮膚炎(水疱性含む)，血管浮腫
肝臓 γ－GTP増加，ALT増加，AST増加，血中AI－P増加，LDH増加
眼 眼痛，ぶどう膜炎 霧視
血液 好中球数減少，リンパ球数増加，白血球数減少，貧血
精神神経系 眩暈 感覚減退(しびれ)，頭痛，耳鳴，傾眠
筋・骨格系 筋・骨格痛(関節痛，背部痛，骨痛，筋痛，頸部痛等) 血中カルシウム減少
その他 尿潜血陽性，尿中β2ミクログロブリン増加 浮腫(顔面，四肢等)，ほてり，倦怠感，無力症(疲労，脱力等)，BUN増加，血中AI－P減少，血中リン減少，血圧上昇 動悸，脱毛，発熱
(表終了)

マスーレッド錠25mg（25mg1錠）

両 内服 流通
劇

【YJコード】3999055F3025
【薬効分類】3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】モリデュスタットナトリウム
【メーカー】製)バイエル薬品
【薬価】156.9円/1T
【薬価収載日】2021/04/21
【標榜薬効】腎性貧血治療薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】腎性貧血
注意
赤血球造血刺激因子製剤未治療での投与開始は，保存期慢性腎臓病・腹膜透析はヘモグロビン濃度で11g／dL未満，血液透析はヘモグロビン濃度で10g／dL未満。
【用法用量】保存期慢性腎臓病
赤血球造血刺激因子製剤で未治療
成人 開始量 モリデュスタット 1回25mg 1日1回 食後 内服。
適宜増減，1回最高200mg。
赤血球造血刺激因子製剤から切りかえ時
成人 開始量 モリデュスタット 1回25mg又は50mg 1日1回 食後 内服。
適宜増減，1回最高200mg。
透析
成人 開始量 モリデュスタット 1回75mg 1日1回 食後 内服。
適宜増減，1回最高200mg。
注意
1．保存期慢性腎臓病患者で，赤血球造血因子製剤から切りかえ時の開始量
下表を参考に切りかえ前の赤血球造血刺激因子製剤投与量から本剤の投与量を決定。
(表開始)
本剤投与量(mg) ダルベポエチン アルファ(μg) ダルベポエチン アルファ(μg) エポエチン ベータ ペゴル(μg) エポエチン アルファ又はベータ(IU) エポエチン アルファ又はベータ(IU)
本剤投与量(mg) 2週に1回 4週に1回 4週に1回 週に1回 2週に1回
25 15以下 30以下 25以下 1500以下 3000以下
50 15超 30超 25超 1500超 3000超
(表終了)
2．投与量調節
用量調整が必要時は，下表を参考に1段階ずつ投与量を増減。
(表開始)
段階 1 2 3 4 5 6 7 8
本剤投与量(mg) 5 12．5 25 50 75 100 150 200
(表終了)
赤血球造血刺激因子製剤で未治療時，投与開始4週後は[4週時投与量増減表]を，それ以降は[投与量増減表]を参考に投与量を増減。
赤血球造血刺激因子製剤から切りかえ時，[投与量増減表]を参考に投与量を増減。増量は4週間以上あける。休薬時は，1段階低い用量で投与再開。
[4週時投与量増減表(赤血球造血刺激因子製剤で未治療時)]
(表開始)
4週間のHb値上昇 Hb値 Hb値 用量調節
4週間のHb値上昇 保存期慢性腎臓病・腹膜透析 血液透析 用量調節
0．5g／dL未満 10．5g／dL未満 9．5g／dL未満 1段階増量
0．5g／dL未満 10．5g／dL以上 9．5g／dL以上 同量を維持
0．5g／dL以上 1g／dL未満 すべての値 すべての値 同量を維持
1g／dL以上 2g／dL以下 11g／dL以下 10g／dL以下 同量を維持
1g／dL以上 2g／dL以下 11g／dL超 10g／dL超 1段階減量
2g／dL超 すべての値 すべての値 1段階減量
(表終了)
[投与量増減表]
(表開始)
用量調節 用量調節 1段階増量 同量を維持(注1) 1段階減量 休薬(注2)
Hb値 保存期慢性腎臓病・腹膜透析 11g／dL未満 11g／dL以上 12．5g／dL未満 12．5g／dL以上 13g／dL未満 13g／dL以上
Hb値 血液透析 10g／dL未満 10g／dL以上 12g／dL未満 12g／dL以上 13g／dL未満 13g／dL以上
(表終了)
(注1)血栓塞栓症(心筋梗塞，肺血栓塞栓症，出血性脳卒中除く脳卒中，急性下肢虚血)の既往は，Hb値が12g／dLを超えた時，投与量を1段階減量してよい。
(注2)休薬後の再開の目安は，Hb値が保存期慢性腎臓病・腹膜透析で12．5g／dL未満，血液透析で12g／dL未満になった時点。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．血栓塞栓症(0．3%)(脳梗塞(0．3%)，心筋梗塞(頻度不明)，

3 代謝性医薬品

シャント閉塞(頻度不明)等)。
2. 間質性肺疾患(0. 5%)(呼吸困難, 咳嗽, 発熱等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
代謝・栄養障害 鉄欠乏
精神障害 不眠症
神経系障害 眩暈(浮動性, 回転性)
眼障害 眼出血, 糖尿病網膜症 結膜炎, 眼瞼炎
心臓障害 心嚢液貯留
血管障害 高血圧 血圧低下
胃腸障害 便秘, 下痢, 悪心, 嘔吐, 腹痛
皮膚・皮下組織障害 発疹, 掻痒症
一般・全身障害・投与部位の状態 浮腫
(表終了)

ミラクリッド注射液5万単位(50000単位1mL1管)

内 注射 流通

【YJコード】3999405A2077
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ウリナスタチン
【メーカー】製)持田製薬
【薬価】824円/1A
【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】多価・酵素阻害剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1. 急性膵炎(外傷性, 術後, ERCP後の急性膵炎含む), 慢性再発性膵炎の急性増悪期
2. 急性循環不全(出血性ショック, 細菌性ショック, 外傷性ショック, 熱傷性ショック)
注意
急性循環不全
下記に注意。
・一般的なショックの治療法(輸液療法, 酸素吸入, 外科的処置, 抗菌剤等)の代替ではない。
・ショック症状が改善すれば, 投与中止。
【用法用量】急性膵炎, 慢性再発性膵炎の急性増悪期
成人 初期量 1回25000～50000単位 1日1～3回 1回1～2時間かけ 点滴静注(500mLの輸液で希釈)。以後は症状の消退に応じ減量。
適宜増減。
急性循環不全
成人 1回100000単位 1日1～3回 1回1～2時間かけ 点滴静注(500mLの輸液で希釈), 又は1回100000単位 1日1～3回 緩徐に静注。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】ウリナスタチン製剤に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. ショック(頻度不明), アナフィラキシーショック(頻度不明)(血圧降下, 頻脈, 胸内苦悶, 呼吸困難, 皮膚の潮紅, 蕁麻疹等)。
2. 白血球減少(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%未満 頻度不明
血液 白血球減少, 好酸球増多
肝臓 AST・ALTの上昇等
過敏症 発疹, 掻痒感
消化器 悪心・嘔吐, 下痢等
注射部位 血管痛 発赤, 掻痒感
その他 発熱
(表終了)

ミルセラ注シリンジ150μg(150μg0. 3mL1筒)

両 注射 流通
劇

【YJコード】3999432G5025
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】エポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え)
【メーカー】製)中外製薬
【薬価】15202円/1筒
【薬価収載日】2011/07/19
【標榜薬効】持続型赤血球造血刺激因子製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】腎性貧血
注意
1. 貧血症に伴う日常生活活動に支障がある腎性貧血のみ。投与開始は, 血液透析ではヘモグロビン濃度で10g／dL(ヘマトクリット値で30%)未満, 活動性の高い若年血液透析, 保存期慢性腎臓病, 腹膜透析はヘモグロビン濃度で11g／dL(ヘマトクリット値で33%)未満。
2. 腎性貧血を確認し, 他の貧血症(失血性貧血, 汎血球減少症等)には投与しない。
【用法用量】血液透析患者
1. 初回量
成人 エポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え) 1回50μg 2週に1回 静注。
2. エリスロポエチン(エポエチン アルファ(遺伝子組換え), エポエチン ベータ(遺伝子組換え)等)製剤からの切りかえ初回量
成人 エポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え) 1回100μg又は150μg 4週に1回 静注。
3. 維持量
貧血改善効果が得られたら 成人 エポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え) 1回25～250μg 4週に1回 静注。
適宜増減, 1回最高250μg。
腹膜透析患者・保存期慢性腎臓病
4. 初回量
成人 エポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え) 1回25μg 2週に1回 皮下注又は静注。
5. エリスロポエチン(エポエチン アルファ(遺伝子組換え), エポエチン ベータ(遺伝子組換え)等)製剤からの切りかえ初回量
成人 エポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え) 1回100μg又は150μg 4週に1回 皮下注又は静注。
6. 維持量
貧血改善効果が得られたら 成人 エポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え) 1回25～250μg 4週に1回 皮下注又は静注。
適宜増減, 1回最高250μg。
注意
貧血改善効果の目標値は学会のガイドライン等, 最新の情報を参考。
1. 切りかえ初回量
エリスロポエチン製剤から本剤に切かえる時は, ヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値の推移の安定を確認した上で, 週あたりのエリスロポエチン製剤の投与量が4500IU未満には本剤100μg, 4500IU以上には本剤150μgを4週に1回皮下注又は静注。国内臨床試験において, ダルベポエチン アルファ(遺伝子組換え)製剤からの切かえ初回量については未検討。
2. 投与量調整
投与初期にヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値に適度な上昇がみられなかった場合や, 維持投与期に目標範囲内の維持が困難な場合等, 用量調整が必要時は, 下表を参考に投与量を増減。本剤は持続型の製剤であり, 造血効果が長時間持続するため, 推移を十分に観察し, 目標値を逸脱する前に増減量を考慮し, 超えた時は減量・休薬。増量時は1段階ずつ行う。
(表開始)
段階 1 2 3 4 5 6 7
投与量(μg) 25 50 75 100 150 200 250
(表終了)
3. 投与間隔変更時
(1). 目標とする貧血改善効果が得られたら, 投与間隔を延長できる。投与間隔を延長する前のヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値の推移を観察し, 同一の投与量で安定を確認した上で, 1回の投与量を2倍にし, 2週に1回から4週に1回に変更。変更後には, 推移を確認し, 適宜用量の調整を行う。
(2). 4週に1回の投与間隔でヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値が目標範囲に維持できない時は, 1回の投与量を1／2にし, 2週に1回の投与間隔に変更できる。変更後には, 推移を確認し, 適宜用量の調整を行う。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分・エリスロポエチン製剤・ダルベポエチン アルファ製剤に過敏症。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 脳出血(0. 2%)。
2. 心筋梗塞(0. 2%)。
3. 高血圧性脳症(0. 2%)。
4. ショック, アナフィラキシー(各頻度不明)(蕁麻疹, 呼吸困難, 口唇浮腫, 咽頭浮腫等)。
5. 赤芽球癆(頻度不明)(抗エリスロポエチン抗体産生を伴う)。
6. 肺梗塞, 脳梗塞(各頻度不明)。
7. 肝機能障害(頻度不明)(AST, ALT, γ－GTPの上昇等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0. 5～1%未満 0. 5%未満
循環器 血圧上昇(7. 6%) 心房細動, 心室性期外収縮
皮膚 湿疹
消化器 悪心・嘔吐, 下痢, 胃炎 結腸ポリープ
血液 好酸球数増加 血小板数減少
腎臓 腎機能障害の増悪
筋・骨格 関節痛 背部痛
精神神経系 眩暈
その他 シャント閉塞・狭窄 透析回路内残血 胸部不快感, 血中カリウム増加
(表終了)

3 代謝性医薬品

ミルセラ注シリンジ250μg（250μg0．3mL1筒）

両 注射 流通
劇

【YJコード】3999432G7028
【薬効分類】3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】エポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え)
【メーカー】製)中外製薬
【薬価】23094円/1筒
【薬価収載日】2011/07/19
【標榜薬効】持続型赤血球造血刺激因子製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】腎性貧血
注意
1．貧血症に伴う日常生活活動に支障がある腎性貧血のみ。投与開始は，血液透析ではヘモグロビン濃度で10g／dL(ヘマトクリット値で30%)未満，活動性の高い若年血液透析，保存期慢性腎臓病，腹膜透析はヘモグロビン濃度で11g／dL(ヘマトクリット値で33%)未満。
2．腎性貧血を確認し，他の貧血症(失血性貧血，汎血球減少症等)には投与しない。
【用法用量】血液透析患者
1．初回量
成人 エポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え) 1回50μg 2週に1回 静注。
2．エリスロポエチン(エポエチン アルファ(遺伝子組換え)，エポエチンベータ(遺伝子組換え)等)製剤からの切りかえ初回量
成人 エポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え) 1回100μg又は150μg 4週に1回 静注。
3．維持量
貧血改善効果が得られたら 成人 エポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え) 1回25～250μg 4週に1回 静注。
適宜増減，1回最高250μg。
腹膜透析患者・保存期慢性腎臓病
4．初回量
成人 エポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え) 1回25μg 2週に1回 皮下注又は静注。
5．エリスロポエチン(エポエチン アルファ(遺伝子組換え)，エポエチンベータ(遺伝子組換え)等)製剤からの切りかえ初回量
成人 エポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え) 1回100μg又は150μg 4週に1回 皮下注又は静注。
6．維持量
貧血改善効果が得られたら 成人 エポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え) 1回25～250μg 4週に1回 皮下注又は静注。
適宜増減，1回最高250μg。
注意
貧血改善効果の目標値は学会のガイドライン等，最新の情報を参考。
1．切りかえ初回量
エリスロポエチン製剤から本剤に切かえる時は，ヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値の推移の安定を確認した上で，週あたりのエリスロポエチン製剤の投与量が4500IU未満には本剤100μg，4500IU以上には本剤150μgを4週に1回皮下注又は静注。国内臨床試験において，ダルベポエチン アルファ(遺伝子組換え)製剤からの切かえ初回量については未検討。
2．投与量調整
投与初期にヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値に適度な上昇がみられなかった場合や，維持投与期に目標範囲内の維持が困難な場合等，用量調整が必要時は，下表を参考に投与量を増減。本剤は持続型の製剤であり，造血効果が長時間持続するため，推移を十分に観察し，目標値を逸脱する前に増減量を考慮し，超えた時は減量・休薬。増量時は1段階ずつ行う。
(表開始)
段階 1 2 3 4 5 6 7
投与量(μg) 25 50 75 100 150 200 250
(表終了)
3．投与間隔変更時
(1)．目標とする貧血改善効果が得られたら，投与間隔を延長できる。投与間隔を延長する前のヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値の推移を観察し，同一の投与量で安定を確認した上で，1回の投与量を2倍にし，2週に1回から4週に1回に変更。変更後には，推移を確認し，適宜用量の調整を行う。
(2)．4週に1回の投与間隔でヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値が目標範囲に維持できない時は，1回の投与量を1／2にし，2週に1回の投与間隔に変更できる。変更後には，推移を確認し，適宜用量の調整を行う。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分・エリスロポエチン製剤・ダルベポエチン アルファ製剤に過敏症。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．脳出血(0．2%)。
2．心筋梗塞(0．2%)。
3．高血圧性脳症(0．2%)。
4．ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(蕁麻疹，呼吸困難，口唇浮腫，咽頭浮腫等)。
5．赤芽球癆(頻度不明)(抗エリスロポエチン抗体産生を伴う)。
6．肺梗塞，脳梗塞(各頻度不明)。
7．肝機能障害(頻度不明)(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0．5～1%未満 0．5%未満
循環器 血圧上昇(7．6%) 心房細動，心室性期外収縮
皮膚 湿疹
消化器 悪心・嘔吐，下痢，胃炎 結腸ポリープ
血液 好酸球数増加 血小板数減少
腎臓 腎機能障害の増悪
筋・骨格 関節痛 背部痛
精神神経系 眩暈
その他 シャント閉塞・狭窄 透析回路内残血 胸部不快感，血中カリウム増加
(表終了)

ミルセラ注シリンジ75μg（75μg0．3mL1筒）

両 注射 流通
劇

【YJコード】3999432G3022
【薬効分類】3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】エポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え)
【メーカー】製)中外製薬
【薬価】9660円/1筒
【薬価収載日】2011/07/19
【標榜薬効】持続型赤血球造血刺激因子製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】腎性貧血
注意
1．貧血症に伴う日常生活活動に支障がある腎性貧血のみ。投与開始は，血液透析ではヘモグロビン濃度で10g／dL(ヘマトクリット値で30%)未満，活動性の高い若年血液透析，保存期慢性腎臓病，腹膜透析はヘモグロビン濃度で11g／dL(ヘマトクリット値で33%)未満。
2．腎性貧血を確認し，他の貧血症(失血性貧血，汎血球減少症等)には投与しない。
【用法用量】血液透析患者
1．初回量
成人 エポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え) 1回50μg 2週に1回 静注。
2．エリスロポエチン(エポエチン アルファ(遺伝子組換え)，エポエチンベータ(遺伝子組換え)等)製剤からの切りかえ初回量
成人 エポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え) 1回100μg又は150μg 4週に1回 静注。
3．維持量
貧血改善効果が得られたら 成人 エポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え) 1回25～250μg 4週に1回 静注。
適宜増減，1回最高250μg。
腹膜透析患者・保存期慢性腎臓病
4．初回量
成人 エポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え) 1回25μg 2週に1回 皮下注又は静注。
5．エリスロポエチン(エポエチン アルファ(遺伝子組換え)，エポエチンベータ(遺伝子組換え)等)製剤からの切りかえ初回量
成人 エポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え) 1回100μg又は150μg 4週に1回 皮下注又は静注。
6．維持量
貧血改善効果が得られたら 成人 エポエチン ベータ ペゴル(遺伝子組換え) 1回25～250μg 4週に1回 皮下注又は静注。
適宜増減，1回最高250μg。
注意
貧血改善効果の目標値は学会のガイドライン等，最新の情報を参考。
1．切りかえ初回量
エリスロポエチン製剤から本剤に切かえる時は，ヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値の推移の安定を確認した上で，週あたりのエリスロポエチン製剤の投与量が4500IU未満には本剤100μg，4500IU以上には本剤150μgを4週に1回皮下注又は静注。国内臨床試験において，ダルベポエチン アルファ(遺伝子組換え)製剤からの切かえ初回量については未検討。
2．投与量調整
投与初期にヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値に適度な上昇がみられなかった場合や，維持投与期に目標範囲内の維持が困難な場合等，用量調整が必要時は，下表を参考に投与量を増減。本剤は持続型の製剤であり，造血効果が長時間持続するため，推移を十分に観察し，目標値を逸脱する前に増減量を考慮し，超えた時は減量・休薬。増量時は1段階ずつ行う。
(表開始)
段階 1 2 3 4 5 6 7
投与量(μg) 25 50 75 100 150 200 250
(表終了)
3．投与間隔変更時
(1)．目標とする貧血改善効果が得られたら，投与間隔を延長できる。投与間隔を延長する前のヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値の推移

3 代謝性医薬品

を観察し，同一の投与量で安定を確認した上で，1回の投与量を2倍にし，2週に1回から4週に1回に変更。変更後には，推移を確認し，適宜用量の調整を行う。
(2). 4週に1回の投与間隔でヘモグロビン濃度又はヘマトクリット値が目標範囲に維持できない時は，1回の投与量を1／2にし，2週に1回の投与間隔に変更できる。変更後には，推移を確認し，適宜用量の調整を行う。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・エリスロポエチン製剤・ダルベポエチン　アルファ製剤に過敏症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 脳出血(0. 2%)。
2. 心筋梗塞(0. 2%)。
3. 高血圧性脳症(0. 2%)。
4. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(蕁麻疹，呼吸困難，口唇浮腫，咽頭浮腫等)。
5. 赤芽球癆(頻度不明)(抗エリスロポエチン抗体産生を伴う)。
6. 肺梗塞，脳梗塞(各頻度不明)。
7. 肝機能障害(頻度不明)(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0. 5～1%未満 0. 5%未満
循環器 血圧上昇(7. 6%) 心房細動，心室性期外収縮
皮膚 湿疹
消化器 悪心・嘔吐，下痢，胃炎 結腸ポリープ
血液 好酸球数増加 血小板数減少
腎臓 腎機能障害の増悪
筋・骨格 関節痛 背部痛
精神神経系 眩暈
その他 シャント閉塞・狭窄 透析回路内残血 胸部不快感，血中カリウム増加
(表終了)

メトトレキサート錠2mg「タナベ」(2mg1錠)

両 内服 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】3999016F1030
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】メトトレキサート
【メーカー】製)田辺三菱製薬
【薬価】77.4円/1T
【薬価収載日】2006/07/07
【ハイリスク分類】免疫抑制剤
【標榜薬効】抗リウマチ剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】○関節リウマチ
○局所療法で効果不十分な尋常性乾癬
○乾癬性関節炎，膿疱性乾癬，乾癬性紅皮症
○関節症状を伴う若年性特発性関節炎
注意
局所療法で効果不十分な尋常性乾癬，乾癬性関節炎，膿疱性乾癬，乾癬性紅皮症
下記のいずれかを満たす患者に投与。
・ステロイド外用剤等で効果不十分，皮疹が体表面積の10%以上。
・難治性の皮疹，関節症状，膿疱。
【用法用量】(表開始)
効能・効果 用法・用量
関節リウマチ 1週間単位の投与量6mg 1回又は2～3回 分割 内服。分割投与時 初日から2日目にかけ 12時間間隔で 投与。1回又は2回分割投与時は残りの6日間，3回分割投与時は残りの5日間は休薬。これを1週間ごとに繰り返す。適宜増減，1週間単位16mgまで。
局所療法で効果不十分な尋常性乾癬 1週間単位の投与量6mg 1回又は2～3回 分割 内服。分割投与時 初日から2日目にかけ 12時間間隔で 投与。1回又は2回分割投与時は残りの6日間，3回分割投与時は残りの5日間は休薬。これを1週間ごとに繰り返す。適宜増減，1週間単位16mgまで。
乾癬性関節炎，膿疱性乾癬，乾癬性紅皮症 1週間単位の投与量6mg 1回又は2～3回 分割 内服。分割投与時 初日から2日目にかけ 12時間間隔で 投与。1回又は2回分割投与時は残りの6日間，3回分割投与時は残りの5日間は休薬。これを1週間ごとに繰り返す。適宜増減，1週間単位16mgまで。
関節症状を伴う若年性特発性関節炎 1週間単位の投与量4～10mg／m2 1回又は2～3回 分割 内服。分割投与時 初日から2日目にかけ 12時間間隔で 投与。1回又は2回分割投与時は残りの6日間，3回分割投与時は残りの5日間は休薬。これを1週間ごとに繰り返す。適宜増減。
(表終了)
注意
関節リウマチ，局所療法で効果不十分な尋常性乾癬，乾癬性関節炎，膿疱性乾癬，乾癬性紅皮症
4～8週間投与しても効果なければ，1回2～4mgずつ増量。増量前は，増量の可否を慎重に判断。

■禁忌
【禁忌】1. 妊婦・妊娠の可能性。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。
3. 骨髄抑制。
4. 慢性肝疾患。
5. 腎障害。
6. 授乳婦。
7. 胸水，腹水等。
8. 活動性結核。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(冷感，呼吸困難，血圧低下等)。
2. 骨髄抑制(0. 1～5%未満)(汎血球減少，無顆粒球症(発熱，咽頭痛，インフルエンザ様症状等)，白血球減少，血小板減少，貧血等)，再生不良性貧血。
3. 感染症(0. 1～5%未満)(呼吸不全にいたるような肺炎(ニューモシスティス肺炎等含む)，敗血症，サイトメガロウイルス感染症，帯状疱疹等の重篤な感染症(日和見感染症含む))。
4. 結核(頻度不明)。
5. 劇症肝炎，肝不全(各頻度不明)，肝組織の壊死・線維化，肝硬変等の重篤な肝障害(B・C型肝炎ウイルス含む)。
6. 急性腎障害，尿細管壊死，重症ネフロパチー(各頻度不明)等の重篤な腎障害。
7. 間質性肺炎(0. 1～5%未満)，肺線維症(0. 1%未満)，胸水(頻度不明)等，呼吸不全(発熱，咳嗽，呼吸困難等)。
8. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群(各頻度不明)等の重篤な皮膚障害(発熱，紅斑，掻痒感，眼充血，口内炎等)。
9. 出血性腸炎，壊死性腸炎(各頻度不明)等の重篤な腸炎(激しい腹痛，下痢等)。
10. 膵炎(0. 1%未満)。
11. 骨粗鬆症(頻度不明)(骨塩量減少等)。
12. 脳症(白質脳症含む)(頻度不明)。
13. 進行性多巣性白質脳症(頻度不明)(意識障害，認知機能障害，麻痺症状(片麻痺，四肢麻痺)，構音障害，失語等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒，発熱 蕁麻疹
血液 好酸球増多 出血 低ガンマグロブリン血症，リンパ節腫脹
肝臓 肝機能障害(ALT，AST，AI－Pの上昇等) LDHの上昇 黄疸，脂肪肝
腎臓 BUN上昇，血尿，クレアチニンの上昇，蛋白尿
消化器 嘔気，腹痛，下痢，口内炎，食欲不振，嘔吐，舌炎 口唇腫脹，消化管潰瘍・出血 メレナ，イレウス
皮膚 脱毛 紅斑，皮下斑状出血，皮膚潰瘍 光線過敏症，色素沈着，色素脱出，ざ瘡，結節，乾癬病変局面の有痛性糜爛
精神神経系 頭痛，眩暈 意識障害，眠気，目のかすみ，しびれ感，味覚異常 項部緊張，背部痛，錯感覚
呼吸器 咳嗽，呼吸困難
生殖器 無精子症，卵巣機能不全，月経不全，流産
その他 倦怠感，動悸，胸部圧迫感，低蛋白血症，血清アルブミン減少，浮腫 膀胱炎，結膜炎，関節痛 耳下腺炎，悪寒
(表終了)

ラグノスNF経口ゼリー分包12g (54. 167%12g1包)

両 内服 後発 流通

【YJコード】3999001Q6029
【薬効分類】3. 9. 9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ラクツロース
【メーカー】製)三和化学研究所
【薬価】49.4円/1包
【薬価収載日】2018/11/28
【標榜薬効】生理的腸管機能改善・高アンモニア血症用剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 慢性便秘症(器質的疾患の便秘除く)
2. 高アンモニア血症に伴う下記の改善
精神神経障害，手指振戦，脳波異常
3. 産婦人科術後の排ガス・排便の促進
【用法用量】1. 慢性便秘症(器質的疾患の便秘除く)
成人 1回24g(本剤 2包) 1日2回 内服。適宜増減，1日最高72g(本剤 6包)。
2. 高アンモニア血症に伴う改善
成人 1回12～24g(本剤 1～2包) 1日3回(本剤 3～6包／日)内服。適宜増減。
3. 産婦人科術後の排ガス・排便の促進
成人 1回12～36g(本剤 1～3包) 1日2回(本剤 3～6包／日)内服。適宜増減。

3 代謝性医薬品

■禁忌
【禁忌】ガラクトース血症。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
消化器 下痢，腹部膨満，腹痛，鼓腸，腹鳴 悪心・嘔吐 食欲不振
（表終了）

ラロキシフェン塩酸塩錠60mg「トーワ」（60mg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】3999021F1090
【薬効分類】3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ラロキシフェン塩酸塩
【先発品】エビスタ錠60mg
【メーカー】製)東和薬品
【薬価】21.6円/1T
【薬価収載日】2016/12/09
【標榜薬効】骨粗鬆症治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】閉経後骨粗鬆症
【用法用量】1回60mg 1日1回 内服。

■禁忌
【禁忌】1．深部静脈血栓症，肺塞栓症，網膜静脈血栓症等の静脈血栓塞栓症・その既往。
2．長期不動状態（術後回復期，長期安静期等）。
3．抗リン脂質抗体症候群。
4．妊婦・妊娠の可能性，授乳婦。
5．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．静脈血栓塞栓症（頻度不明）（深部静脈血栓症，肺塞栓症，網膜静脈血栓症）（下肢の疼痛・浮腫，突然の呼吸困難，息切れ，胸痛，急性視力障害等）。
2．肝機能障害（頻度不明）（AST，ALT，γ－GTP等の著しい上昇）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 2～5%未満 2%未満 頻度不明
血液 ヘモグロビン減少，ヘマトクリット減少，血小板数減少
内分泌・代謝系 血中AI－P減少 血清総蛋白減少，血中アルブミン減少，血清リン減少，血中カルシウム減少
消化器 嘔気 腹部膨満，おくび
肝臓 γ－GTP上昇
皮膚 皮膚炎，掻痒症
生殖器 腟分泌物 良性の子宮内腔液増加
乳房 乳房緊満
その他 下肢痙攣，ほてり 多汗 感覚減退，末梢性浮腫，表在性血栓性静脈炎，体重増加
（表終了）

ランマーク皮下注120mg（120mg1．7mL1瓶）

内 注射 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】3999435A1020
【薬効分類】3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】デノスマブ（遺伝子組換え）
【メーカー】製)第一三共
【薬価】44108円/1V
【薬価収載日】2012/04/17
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】ヒト型抗RANKLモノクローナル抗体製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．多発性骨髄腫・固形癌骨転移による骨病変
2．骨巨細胞腫
注意
骨巨細胞腫
1．骨端線閉鎖を伴わない骨格が未成熟な患者に対する有効性・安全性は未確立。
2．患者の年齢・体重等，臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で，適応患者の選択を行う。
【用法用量】多発性骨髄腫・固形癌骨転移による骨病変
成人 1回120mg 4週間に1回 皮下注。
骨巨細胞腫
1回120mg 第1日，第8日，第15日，第29日，以後4週間に1回 皮下注。
注意
1．グレード3又は4の副作用発現時，グレード1以下に回復するまで休薬を考慮（グレードはCTCAEに準じる）。
2．重篤な低カルシウム血症の発現を軽減するため，血清補正カルシウム値が高値でない限り，毎日最低カルシウム500mg（骨巨細胞腫は600mg）・天然型ビタミンD400IU投与。腎機能障害 ビタミンDの活性化が障害されているため，活性型ビタミンDを使用し，カルシウムは投与の必要性を判断し，投与量を適宜調整。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
効能共通
1．低カルシウム血症（5．6%）（QT延長，痙攣，テタニー，しびれ，失見当識等），死亡。
2．顎骨壊死・顎骨骨髄炎（1．8%）。
3．アナフィラキシー（頻度不明）。
4．大腿骨転子下，近位大腿骨骨幹部，近位尺骨骨幹部等の非定型骨折（頻度不明）。
5．治療中止後の多発性椎体骨折（頻度不明）。
6．重篤な皮膚感染症（0．1%）（重篤な蜂巣炎等）（発赤，腫脹，疼痛，発熱等）。
骨巨細胞腫
7．治療中止後の高カルシウム血症（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
血液 貧血 白血球減少，血小板減少
皮膚 発疹，掻痒症，皮膚乾燥，脱毛症，多汗症，湿疹 扁平苔癬
代謝 低リン酸血症 高カルシウム血症，低マグネシウム血症
精神神経系 頭痛 眩暈，不眠症，錯感覚，味覚異常，感覚鈍麻，嗜眠，末梢性感覚ニューロパチー，錯乱
循環器 高血圧，動悸，心不全，不整脈
呼吸器 呼吸困難，咳嗽，口腔咽頭痛，気胸
消化器 悪心，下痢，食欲減退，嘔吐，便秘，歯の障害（歯痛，歯膿瘍等）腹痛，歯肉障害（歯肉痛，歯肉炎等），消化不良，口内乾燥，鼓腸，口内炎
筋骨格系 関節痛，筋肉痛，骨痛，背部痛，顎痛，四肢痛 筋骨格痛，筋痙縮，頸部痛，脊椎痛
肝臓 ALT上昇，AST上昇，AI－P上昇
腎臓 血中クレアチニン増加 腎機能障害
その他 疲労，無力症，発熱，注射部位反応（疼痛，掻痒感，血腫等）インフルエンザ様疾患，疼痛，末梢性浮腫，体重減少，胸痛，ほてり，悪寒，上気道感染，倦怠感，尿路感染，視力障害，粘膜の炎症，体重増加，骨髄炎，流涙増加，白内障，薬物過敏症
（表終了）

リクラスト点滴静注液5mg（5mg100mL1袋）

内 注射 流通
劇

【YJコード】3999423A5023
【薬効分類】3．9．9 他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】ゾレドロン酸水和物
【メーカー】製)旭化成ファーマ
【薬価】33070円/1袋
【薬価収載日】2022/12/09
【標榜薬効】骨粗鬆症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】骨粗鬆症
注意
1．日本骨代謝学会の診断基準等を参考に，確定診断された患者が対象。
2．1年に1回間欠投与する薬剤であり，有効成分のゾレドロン酸水和物は骨に移行し長期にわたり体内に残存する。各投与前に問診・検査を実施等患者の状態を確認した上で，ベネフィットとリスクを考慮し，薬物治療が必要とされる患者が対象。
【用法用量】成人 1回5mg 年1回 15分以上かけ 点滴静注。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分・他のビスホスホネート製剤に過敏症の既往。
2．重度の腎機能障害（クレアチニンクリアランス35mL／分未満）。
3．脱水状態（高熱，高度な下痢，嘔吐等）。
4．低カルシウム血症。
5．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．急性腎障害，間質性腎炎，ファンコニー症候群（頻度不明）（低リン

血症，低カリウム血症，代謝性アシドーシス等を主症状とする近位腎尿細管障害）等の腎障害。
2. 低カルシウム血症（0. 3%）（QT延長，痙攣，テタニー，しびれ，失見当識等）。
3. 顎骨壊死・顎骨骨髄炎（頻度不明）。
4. 外耳道骨壊死（頻度不明）。
5. 大腿骨転子下，近位大腿骨骨幹部，近位尺骨骨幹部等の非定型骨折（頻度不明）。
6. アナフィラキシー（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
感染症・寄生虫症　肺炎，歯肉炎 インフルエンザ，鼻咽頭炎
血液・リンパ系障害　貧血
代謝・栄養障害　食欲減退　脱水
精神障害　不眠症
神経系障害 頭痛　傾眠，浮動性眩暈 嗜眠，錯感覚，振戦，失神，味覚異常，感覚鈍麻
血管障害　ほてり，潮紅 高血圧
眼障害　虹彩炎 結膜炎，眼痛，ぶどう膜炎，上強膜炎，眼充血，霧視
耳・迷路障害　耳鳴，耳不快感，回転性眩暈
心臓障害　狭心症 心房細動，動悸
呼吸器系　咳嗽，呼吸困難
胃腸障害　悪心 嘔吐，便秘，下痢 消化不良，上腹部痛，腹痛，胃食道逆流性疾患，口内乾燥，食道炎，胃炎，歯痛
肝胆道系障害　肝機能異常
皮膚・皮下組織障害　発疹 全身紅斑，湿疹，皮膚炎，薬疹，脱毛症 多汗症，掻痒症，紅斑
筋骨格系・結合組織障害 関節痛（10. 8%），筋肉痛　背部痛，頚部痛，筋骨格硬直，関節腫脹，筋痙縮，筋骨格痛，関節炎，尾骨痛 骨痛，四肢痛，筋骨格系胸痛，関節硬直，筋力低下
腎・尿路障害　頻尿 蛋白尿
全身障害・投与局所様態 発熱（39. 3%），倦怠感，インフルエンザ様疾患 悪寒，胸痛 疼痛，熱感，注射部位腫脹，浮腫 疲労，無力症，末梢性浮腫，口渇，急性期反応，非心臓性胸痛，注入部位反応，異常感
臨床検査 血中カルシウム減少 血中クレアチニン増加，尿中蛋白陽性，血中リン減少 C－反応性蛋白増加，血中ブドウ糖増加，血中尿酸増加，白血球数減少，肝機能検査異常，好酸球数増加，尿中ブドウ糖陽性，ヘモグロビン減少，血中AI－P減少，血中鉄減少，血中乳酸脱水素酵素増加，血小板数増加，赤血球数減少，血沈亢進，腎機能検査異常
（表終了）

レボカルニチンFF静注1000mgシリンジ「ニプロ」（1000mg5mL1筒）

内　注射　後発　流通

【YJコード】3999436G1044
【薬効分類】3. 9. 9　他に分類されない代謝性医薬品
【一般名】レボカルニチン
【先発品】エルカルチンFF静注1000mgシリンジ
【メーカー】製)ニプロ
【薬価】363円/1筒
【薬価収載日】2022/06/17
【標榜薬効】レボカルニチン製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】カルニチン欠乏症
注意
1. 臨床症状・検査所見からカルニチン欠乏症と診断時，カルニチン欠乏症発症の可能性が高い時のみ投与。
2. カルニチンの欠乏状態の検査に加え，カルニチン欠乏の原因となる原疾患を特定。
【用法用量】1回50mg／kg　3～6時間ごと　緩徐に静注（2～3分）・点滴静注。適宜増減，1日最大300mg／kg。
血液透析に伴うカルニチン欠乏症 10～20mg／kg　透析終了時　透析回路静脈側に注入（静注）。適宜増減。
注意
臨床症状の改善・副作用の程度・定期的な臨床検査，バイタルサイン，カルニチンの欠乏状態等から投与量を総合的に判断。増量時は漫然と投与継続しない。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%未満 頻度不明
消化器 食欲不振，下痢，軟便，腹部膨満感 悪心・嘔吐，腹痛
過敏症　発疹，掻痒感
その他 顔面浮腫，血尿，貧血 体臭
（表終了）

4 組織細胞機能用医薬品

4 組織細胞機能用医薬品

4．2 腫瘍用薬

4．2．2 代謝拮抗剤

エスワンタイホウ配合OD錠T20（20mg1錠（テガフール相当量））

両 内服 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4229101F1050
【薬効分類】4．2．2 代謝拮抗剤
【一般名】テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤
【先発品】ティーエスワン配合OD錠T20
【メーカー】製)岡山大鵬薬品 販)大鵬薬品工業
【薬価】119.3円/1T
【薬価収載日】2017/06/16
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】代謝拮抗剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】胃癌，結腸・直腸癌，頭頸部癌，非小細胞肺癌，手術不能・再発乳癌，膵癌，胆道癌，ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
注意
頭頸部癌
1．術後補助療法として，有効性・安全性は未確立。
非小細胞肺癌
2．術前・術後補助療法の有効性・安全性は未確立。
ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
3．術前薬物療法の有効性・安全性は未確立。
4．臨床試験に組み入れられた再発高リスクの定義等について，臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で，適応患者の選択を行う。
【用法用量】胃癌，結腸・直腸癌，頭頸部癌，非小細胞肺癌，手術不能・再発乳癌，膵癌，胆道癌
胃癌 A法，B法，C法，結腸・直腸癌 A法，C法，D法，頭頸部癌 A法，非小細胞肺癌 A法，B法，C法，手術不能・再発乳癌 A法，膵癌 A法，C法，胆道癌 A法，E法，F法 使用。
A法 成人 初回量（1回量） 体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回 朝・夕食後 28日間連日 内服，以後14日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜増減。
増量は，投与による臨床検査値異常（血液検査，肝・腎機能検査）及び消化器症状が発現せず，安全性に問題がなく，増量できると判断される時に初回基準量から一段階までとし，1回75mgまで。
B法 成人 初回量（1回量） 体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回 朝・夕食後 21日間連日 内服，以後14日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜減量。
C法 成人 初回量（1回量） 体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回 朝・夕食後 14日間連日 内服，以後7日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜減量。
D法 成人 初回量（1回量） 体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回 朝・夕食後 14日間連日 内服，以後14日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜減量。
E法 成人 初回量（1回量） 体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回 朝・夕食後 7日間連日 内服，以後7日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜減量。
A法～E法の初回量（1回量）
（表開始）
体表面積（m2） 初回基準量（テガフール）（mg／回）
1．25未満 40
1．25～1．5未満 50
1．5以上 60
（表終了）
F法 成人 初回量（1回量） 体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回 朝・夕食後 14日間連日 内服，以後7日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜減量。
F法の初回量（1回量）
（表開始）
体表面積（m2） 初回基準量（テガフール）（mg／回）
1．25未満 朝 40，夕 20
1．25～1．5未満 40
1．5以上 50
（表終了）
ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
内分泌療法剤との併用 成人 下記投与量 1日2回 朝・夕食後 14日間連日 内服，以後7日間休薬。これを1コースとし最長1年間，繰り返す。適宜増減。初回基準量を超えない。
（表開始）
体表面積（m2） 初回基準量（テガフール）（mg／回）
1．25未満 40
1．25～1．5未満 50
1．5以上 60
（表終了）
注意
効能共通
1．治療上やむを得ず休薬期間を短縮する時は，臨床検査値異常（血液検査，肝・腎機能検査）及び消化器症状が発現せず，安全性に問題がないことを確認して実施。その場合でも最低7日間の休薬期間を設ける。手術不能・再発乳癌には休薬期間の短縮を行った時の安全性は未確立（使用経験はない）。
2．骨髄抑制，劇症肝炎等の重篤な副作用の回避のため，異常時は休薬期間の延長，減量，投与中止等の処置。
3．基礎的検討（動物）で空腹時投与ではオテラシルカリウムのバイオアベイラビリティが変化し，フルオロウラシルのリン酸化が抑制されて抗腫瘍効果の減弱があるので食後投与。
4．本剤と胸部・腹部放射線療法との併用の有効性・安全性は未確立。胃癌，結腸・直腸癌，頭頸部癌，非小細胞肺癌，手術不能・再発乳癌，膵癌，胆道癌
5．投与スケジュール，周術期治療の投与期間，腎機能に応じた投与量，他の抗悪性腫瘍剤と併用時に併用する他の抗悪性腫瘍剤等については，国内外の最新のガイドライン等を参考に選択。
6．A法の増減時，下記量を参考。
（表開始）
減量 初回基準量（mg／回） 増量（mg／回）
休薬 40 50
休薬←40mg／回 50 60
休薬←40mg／回←50mg／回 60 75
（表終了）
増量時は1コースごと，一段階の増量にとどめる。
手術不能・再発乳癌
7．初回化学療法の本剤含む他の抗悪性腫瘍剤との併用について有効性・安全性は未確立。
ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
8．他の抗悪性腫瘍剤との併用について有効性・安全性は未確立。
9．クレアチニンクリアランスが50～80mL／分未満の時は，下記量で開始。
（表開始）
クレアチニンクリアランス（注）（mL／分） 体表面積（m2） 1回量（テガフール量）（mg／回）
50～80未満 1．25未満 朝 20 夕 40
50～80未満 1．25以上1．5未満 40
50～80未満 1．5以上 50
（表終了）
（注）実測値が無い時は，投与前血清クレアチニン値，性別，年齢及び体重から以下のCockcroft－Gault式を用いて算出したクレアチニンクリアランス値（Ccr推定値）を用いる。Cockcroft－Gault式Ccr推定値＝（（140－年齢）×体重（kg））／（72×血清クレアチニン（mg／dL））
（女性は得られた値を0．85倍する）。
10．クレアチニンクリアランスが50mL／分未満の有効性・安全性は未確立。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に重篤な過敏症の既往。
2．重篤な骨髄抑制。
3．重篤な腎障害。
4．重篤な肝障害。
5．他のフッ化ピリミジン系抗悪性腫瘍剤（これらの薬剤との併用療法含む）の投与患者。
6．フルシトシンの投与患者。
7．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．重篤な骨髄抑制（汎血球減少，無顆粒球症（発熱，咽頭痛，倦怠感等）（各頻度不明），白血球減少（46．7%），貧血（頻度不明），血小板減少（15．7%）等），溶血性貧血（頻度不明）。
2．DIC（0．4%）（血小板数，血清FDP値，血漿フィブリノゲン濃度等の血液検査異常）。
3．劇症肝炎等の重篤な肝障害（B型肝炎ウイルスの再活性化によるもの含む）（頻度不明）。
4．激しい下痢，脱水症状（頻度不明）。
5．重篤な腸炎（0．5%）（出血性腸炎，虚血性腸炎，壊死性腸炎等）（激しい腹痛・下痢等）。
6．間質性肺炎（0．3%）（咳嗽，息切れ，呼吸困難，発熱等）。
7．心筋梗塞，狭心症，不整脈（心室頻拍等含む），心不全（各頻度不明）（胸痛，失神，動悸，心電図異常，息切れ等）。
8．重篤な口内炎（頻度不明），消化管潰瘍（0．5%），消化管出血（0．3%），消化管穿孔（頻度不明）。
9．急性腎障害，ネフローゼ症候群（頻度不明）。
10．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）。
11．白質脳症（意識障害，小脳失調，認知症様症状等）等含む精神神経障害（意識障害，失見当識，傾眠，記憶力低下，錐体外路症状，言語障害，四肢麻痺，歩行障害，尿失禁，知覚障害（各頻度不明）等）。
12．急性膵炎（頻度不明）（腹痛，血清アミラーゼ値の上昇等）。

エスワンタイホウ配合OD錠T20

4 組織細胞機能用医薬品

13. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)，急性腎障害。
14. 嗅覚障害(0. 1%)，嗅覚脱失(頻度不明)。
15. 涙道閉塞(頻度不明)(流涙等)。
16. 肝硬変(プロトロンビン時間延長，アルブミン低下，コリンエステラーゼ低下等)(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 頻度不明
血液 白血球減少，好中球減少，血小板減少，赤血球減少，ヘモグロビン減少，ヘマトクリット値減少，リンパ球減少 出血傾向(皮下出血斑，鼻出血，凝固因子異常)，好酸球増多，白血球増多
肝臓 AST上昇，ALT上昇，ビリルビン上昇，AI－P上昇 黄疸，尿ウロビリノーゲン陽性
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇，蛋白尿，血尿
消化器 食欲不振，悪心・嘔吐，下痢，口内炎，味覚異常 腸管閉塞，イレウス，腹痛，腹部膨満感，心窩部痛，胃炎，腹鳴，白色便，便秘，口角炎，口唇炎，舌炎，口渇
皮膚 色素沈着 紅斑，落屑，潮紅，水疱，手足症候群，皮膚潰瘍，皮膚炎，脱毛，爪の異常，爪囲炎，単純疱疹，皮膚の乾燥・荒れ 光線過敏症，DLE様皮疹
過敏症 発疹 掻痒
精神神経系 全身倦怠感 しびれ，頭痛，頭重感，眩暈 ふらつき，末梢性ニューロパチー
循環器 血圧低下，血圧上昇，心電図異常，レイノー症状 動悸
眼 流涙，結膜炎，角膜炎，角膜糜爛，眼痛，視力低下，眼乾燥 角膜潰瘍，角膜混濁，輪部幹細胞欠乏
その他 LDH上昇，総蛋白減少，アルブミン低下 発熱，全身熱感，鼻炎，咽頭炎，痰，糖尿，血糖値上昇，浮腫，筋肉痛，CK上昇，関節痛，電解質異常(血清ナトリウム上昇，血清ナトリウム低下，血清カリウム上昇，血清カリウム低下，血清カルシウム上昇，血清カルシウム低下，血清クロール上昇，血清クロール低下)，体重減少 血清アミラーゼ値上昇
(表終了)

エスワンタイホウ配合OD錠T25（25mg1錠(テガフール相当量)）

両 内服 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4229101F2057
【薬効分類】4. 2. 2 代謝拮抗剤
【一般名】テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤
【先発品】ティーエスワン配合OD錠T25
【メーカー】(製)岡山大鵬薬品 (販)大鵬薬品工業
【薬価】180.8円/1T
【薬価収載日】2017/06/16
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】代謝拮抗剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】胃癌，結腸・直腸癌，頭頸部癌，非小細胞肺癌，手術不能・再発乳癌，膵癌，胆道癌，ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
注意
頭頸部癌
1. 術後補助療法として，有効性・安全性は未確立。
非小細胞肺癌
2. 術前・術後補助療法の有効性・安全性は未確立。
ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
3. 術前薬物療法の有効性・安全性は未確立。
4. 臨床試験に組み入れられた再発高リスクの定義等について，臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で，適応患者の選択を行う。
【用法用量】胃癌，結腸・直腸癌，頭頸部癌，非小細胞肺癌，手術不能・再発乳癌，膵癌，胆道癌
胃癌 A法，B法，C法，結腸・直腸癌 A法，C法，D法，頭頸部癌 A法，非小細胞肺癌 A法，B法，C法，手術不能・再発乳癌 A法，膵癌 A法，C法，胆道癌 A法，E法，F法 使用。
A法 成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回 朝・夕食後 28日間連日 内服，以後14日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜増減。
増量は，投与による臨床検査値異常(血液検査，肝・腎機能検査)及び消化器症状が発現せず，安全性に問題がなく，増量できると判断される時に初回基準量から一段階までとし，1回75mgまで。
B法 成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回 朝・夕食後 21日間連日 内服，以後14日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜減量。
C法 成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回 朝・夕食後 14日間連日 内服，以後7日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜減量。
D法 成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回 朝・夕食後 14日間連日 内服，以後14日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜減量。
E法 成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回 朝・夕食後 7日間連日 内服，以後7日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜減量。
A法～E法の初回量(1回量)
(表開始)
体表面積(m2) 初回基準量(テガフール)(mg／回)
1. 25未満 40
1. 25～1. 5未満 50
1. 5以上 60
(表終了)
F法 成人 初回量(1回量) 体表面積に合わせ下記の基準量とし，1日2回 朝・夕食後 14日間連日 内服，以後7日間休薬。これを1コースとし，繰り返す。適宜減量。
F法の初回量(1回量)
(表開始)
体表面積(m2) 初回基準量(テガフール)(mg／回)
1. 25未満 朝 40，夕 20
1. 25～1. 5未満 40
1. 5以上 50
(表終了)
ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
内分泌療法剤との併用 成人 下記投与量 1日2回 朝・夕食後 14日間連日 内服，以後7日間休薬。これを1コースとし最長1年間，繰り返す。適宜増減。初回基準量を超えない。
(表開始)
体表面積(m2) 初回基準量(テガフール)(mg／回)
1. 25未満 40
1. 25～1. 5未満 50
1. 5以上 60
(表終了)
注意
効能共通
1. 治療上やむを得ず休薬期間を短縮する時は，臨床検査値異常(血液検査，肝・腎機能検査)及び消化器症状が発現せず，安全性に問題がないことを確認して実施。その場合でも最低7日間の休薬期間を設ける。手術不能・再発乳癌には休薬期間の短縮を行った時の安全性は未確立(使用経験はない)。
2. 骨髄抑制，劇症肝炎等の重篤な副作用の回避のため，異常時は休薬期間の延長，減量，投与中止等の処置。
3. 基礎的検討(動物)で空腹時投与ではオテラシルカリウムのバイオアベイラビリティが変化し，フルオロウラシルのリン酸化が抑制されて抗腫瘍効果の減弱があるので食後投与。
4. 本剤と胸部・腹部放射線療法との併用の有効性・安全性は未確立。
胃癌，結腸・直腸癌，頭頸部癌，非小細胞肺癌，手術不能・再発乳癌，膵癌，胆道癌
5. 投与スケジュール，周術期治療の投与期間，腎機能に応じた投与量，他の抗悪性腫瘍剤と併用時に併用する他の抗悪性腫瘍剤等については，国内外の最新のガイドライン等を参考に選択。
6. A法の増減時，下記量を参考。
(表開始)
減量 初回基準量(mg／回) 増量(mg／回)
休薬 40 50
休薬←40mg／回 50 60
休薬←40mg／回←50mg／回 60 75
(表終了)
増量時は1コースごと，一段階の増量にとどめる。
手術不能・再発乳癌
7. 初回化学療法の本剤含む他の抗悪性腫瘍剤との併用について有効性・安全性は未確立。
ホルモン受容体陽性かつHER2陰性で再発高リスクの乳癌の術後薬物療法
8. 他の抗悪性腫瘍剤との併用について有効性・安全性は未確立。
9. クレアチニンクリアランスが50～80mL／分未満の時は，下記量で開始。
(表開始)
クレアチニンクリアランス(注)(mL／分) 体表面積(m2) 1回量(テガフール量)(mg／回)
50～80未満 1. 25未満 朝 20 夕 40
50～80未満 1. 25以上1. 5未満 40
50～80未満 1. 5以上 50
(表終了)
(注)実測値が無い時は，投与前血清クレアチニン値，性別，年齢及び体重から以下のCockcroft－Gault式を用いて算出したクレアチニンクリアランス値(Ccr推定値)を用いる。Cockcroft－Gault式Ccr推定値＝((140－年齢)×体重(kg))／(72×血清クレアチニン(mg／dL))
(女性は得られた値を0. 85倍する)。
10. クレアチニンクリアランスが50mL／分未満の有効性・安全性は未確立。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に重篤な過敏症の既往。
2. 重篤な骨髄抑制。
3. 重篤な腎障害。
4. 重篤な肝障害。
5. 他のフッ化ピリミジン系抗悪性腫瘍剤(これらの薬剤との併用療法含む)の投与患者。
6. フルシトシンの投与患者。
7. 妊婦・妊娠の可能性。

4 組織細胞機能用医薬品

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 重篤な骨髄抑制(汎血球減少, 無顆粒球症(発熱, 咽頭痛, 倦怠感等)(各頻度不明), 白血球減少(46. 7%), 貧血(頻度不明), 血小板減少(15. 7%)等), 溶血性貧血(頻度不明)。
2. DIC(0. 4%)(血小板数, 血清FDP値, 血漿フィブリノゲン濃度等の血液検査異常)。
3. 劇症肝炎等の重篤な肝障害(B型肝炎ウイルスの再活性化によるもの含む)(頻度不明)。
4. 激しい下痢, 脱水症状(頻度不明)。
5. 重篤な腸炎(0. 5%)(出血性腸炎, 虚血性腸炎, 壊死性腸炎等)(激しい腹痛・下痢等)。
6. 間質性肺炎(0. 3%)(咳嗽, 息切れ, 呼吸困難, 発熱等)。
7. 心筋梗塞, 狭心症, 不整脈(心室頻拍等含む), 心不全(各頻度不明)(胸痛, 失神, 動悸, 心電図異常, 息切れ等)。
8. 重篤な口内炎(頻度不明), 消化管潰瘍(0. 5%), 消化管出血(0. 3%), 消化管穿孔(頻度不明)。
9. 急性腎障害, ネフローゼ症候群(頻度不明)。
10. 中毒性表皮壊死融解症, 皮膚粘膜眼症候群(各頻度不明)。
11. 白質脳症(意識障害, 小脳失調, 認知症様症状等)等含む精神神経障害(意識障害, 失見当識, 傾眠, 記憶力低下, 錐体外路症状, 言語障害, 四肢麻痺, 歩行障害, 尿失禁, 知覚障害(各頻度不明)等)。
12. 急性膵炎(頻度不明)(腹痛, 血清アミラーゼ値の上昇等)。
13. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇), 急性腎障害。
14. 嗅覚障害(0. 1%), 嗅覚脱失(頻度不明)。
15. 涙道閉塞(頻度不明)(流涙等)。
16. 肝硬変(プロトロンビン時間延長, アルブミン低下, コリンエステラーゼ低下等)(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 頻度不明
血液 白血球減少, 好中球減少, 血小板減少, 赤血球減少, ヘモグロビン減少, ヘマトクリット値減少, リンパ球減少 出血傾向(皮下出血斑, 鼻出血, 凝固因子異常), 好酸球増多, 白血球増多
肝臓 AST上昇, ALT上昇, ビリルビン上昇, AI－P上昇 黄疸, 尿ウロビリノーゲン陽性
腎臓 BUN上昇, クレアチニン上昇, 蛋白尿, 血尿
消化器 食欲不振, 悪心・嘔吐, 下痢, 口内炎, 味覚異常 腸管閉塞, イレウス, 腹痛, 腹部膨満感, 心窩部痛, 胃炎, 腹鳴, 白色便, 便秘, 口角炎, 口唇炎, 舌炎, 口渇
皮膚 色素沈着 紅斑, 落屑, 潮紅, 水疱, 手足症候群, 皮膚潰瘍, 皮膚炎, 脱毛, 爪の異常, 爪囲炎, 単純疱疹, 皮膚の乾燥・荒れ 光線過敏症, DLE様皮疹
過敏症 発疹 掻痒
精神神経系 全身倦怠感 しびれ, 頭痛, 頭重感, 眩暈 ふらつき, 末梢性ニューロパチー
循環器 血圧低下, 血圧上昇, 心電図異常, レイノー症状 動悸
眼 流涙, 結膜炎, 角膜炎, 角膜糜爛, 眼痛, 視力低下, 眼乾燥 角膜潰瘍, 角膜混濁, 輪部幹細胞欠乏
その他 LDH上昇, 総蛋白減少, アルブミン低下 発熱, 全身熱感, 鼻炎, 咽頭炎, 痰, 糖尿, 血糖値上昇, 浮腫, 筋肉痛, CK上昇, 関節痛, 電解質異常(血清ナトリウム上昇, 血清ナトリウム低下, 血清カリウム上昇, 血清カリウム低下, 血清カルシウム上昇, 血清カルシウム低下, 血清クロール上昇, 血清クロール低下), 体重減少 血清アミラーゼ値上昇
(表終了)

カペシタビン錠300mg「ヤクルト」(300mg1錠)

両 内服 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4223005F1065
【薬効分類】4. 2. 2 代謝拮抗剤
【一般名】カペシタビン
【先発品】ゼローダ錠300
【メーカー】製)ダイト 販)高田製薬 販)ヤクルト本社
【薬価】54.1円/1T
【薬価収載日】2019/06/14
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗悪性腫瘍剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】○手術不能・再発乳癌
○結腸・直腸癌
○胃癌
注意
手術不能・再発乳癌
1. 術後補助化学療法の有効性・安全性は未確立。
2. 単剤投与は, アントラサイクリン系抗悪性腫瘍剤含む化学療法の増悪又は再発例のみ。
3. 併用療法で, 初回化学療法の有効性・安全性は未確立。
【用法用量】手術不能・再発乳癌 A法又はB法。ラパチニブトシル酸塩水和物と併用 C法。結腸・直腸癌の補助化学療法 B法。オキサリプラチンと併用 C法。治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌 C法又はE法(他の抗悪性腫瘍剤との併用)。直腸癌の補助化学療法で放射線照射と併用 D法。胃癌 C法(白金製剤との併用)。
A法 体表面積に応じ, 下記量 1日2回 朝・夕食後30分以内 21日間連日 内服, 以後7日間休薬。
これを1コースとし, 繰り返す。
(表開始)
体表面積(m2) 1回量(mg)
1. 31未満 900
1. 31～1. 64未満 1200
1. 64以上 1500
(表終了)
B法 体表面積に応じ, 下記量 1日2回 朝・夕食後30分以内 14日間連日 内服, 以後7日間休薬。
これを1コースとし, 繰り返す。適宜減量。
(表開始)
体表面積(m2) 1回量(mg)
1. 33未満 1500
1. 33～1. 57未満 1800
1. 57～1. 81未満 2100
1. 81以上 2400
(表終了)
C法 体表面積に応じ, 下記量 1日2回 朝・夕食後30分以内 14日間連日 内服, 以後7日間休薬。
これを1コースとし, 繰り返す。適宜減量。
(表開始)
体表面積(m2) 1回量(mg)
1. 36未満 1200
1. 36～1. 66未満 1500
1. 66～1. 96未満 1800
1. 96以上 2100
(表終了)
D法 体表面積に応じ, 下記量 1日2回 朝・夕食後30分以内 5日間連日 内服, 以後2日間休薬。
これを繰り返す。適宜減量。
(表開始)
体表面積(m2) 1回量(mg)
1. 31未満 900
1. 31～1. 64未満 1200
1. 64以上 1500
(表終了)
E法 体表面積に応じ, 下記量 1日2回 朝・夕食後30分以内 14日間連日 内服, 以後7日間休薬。
これを1コースとし, 繰り返す。適宜減量。
(表開始)
体表面積(m2) 1回量(mg)
1. 31未満 900
1. 31～1. 69未満 1200
1. 69～2. 07未満 1500
2. 07以上 1800
(表終了)
注意
効能共通
1. 各用法の開始量(1回量)は下記の体表面積あたりの用量から算出。
・A法 825mg／m2
・B法 1250mg／m2
・C法 1000mg／m2
・D法 825mg／m2
・E法 800mg／m2
2. 休薬・減量について
(1). B法及びC法で副作用の発現時は, 下記を参考に休薬・減量。胃癌の術後補助化学療法でGrade2の非血液毒性の発現時は, 下記のGrade3の休薬・減量規定を参考に休薬・減量を考慮。
休薬・減量の規定
(表開始)
NCIによる毒性のGrade判定(注) NCIによる毒性のGrade判定(注) 治療期間中の処置 治療再開時の投与量
Grade1 Grade1 休薬・減量不要 減量不要
Grade2 初回発現 2回目発現 3回目発現 4回目発現 Grade0－1に軽快するまで休薬 Grade0－1に軽快するまで休薬 Grade0－1に軽快するまで休薬 投与中止・再投与不可 減量不要 減量段階1 減量段階2 －
Grade3 初回発現 2回目発現 3回目発現 Grade0－1に軽快するまで休薬 Grade0－1に軽快するまで休薬 投与中止・再投与不可 減量段階1 減量段階2 －
Grade4 初回発現 投与中止・再投与不可 又は治療継続が患者にとって望ましいと判定された時は, Grade0－1に軽快するまで投与中断 減量段階2
(表終了)
上記の休薬・減量に応じて減量を行う時, 下記1回量を参考。
・1250mg／m2相当量で開始した時の減量時の投与量
(表開始)
体表面積(m2) 減量段階1(mg) 減量段階2(mg)
1. 13未満 900 600
1. 13～1. 21未満 1200 600
1. 21～1. 45未満 1200 900
1. 45～1. 69未満 1500 900
1. 69～1. 77未満 1500 1200
1. 77以上 1800 1200
(表終了)

4 組織細胞機能用医薬品

・1000mg／m2相当量で開始した時の減量時の投与量
（表開始）
体表面積（m2） 減量段階1（mg） 減量段階2（mg）
1．41未満 900 600
1．41～1．51未満 1200 600
1．51～1．81未満 1200 900
1．81～2．11未満 1500 900
2．11以上 1500 1200
（表終了）
（2）．一旦減量後に増量しない。
（注）B法による国内臨床試験においてはNCI－CTC（Ver．2．0）によりGradeを判定。手足症候群は下記の判定基準に従った。またC法による国内臨床試験においては手足症候群も含めてCTCAE v3．0又はCTCAE v4．03によりGradeを判定。
（表開始）
Grade 臨床領域 機能領域
1 しびれ，皮膚知覚過敏，ヒリヒリ・チクチク感，無痛性腫脹，無痛性紅斑 日常生活に制限を受けることはない症状
2 腫脹を伴う有痛性皮膚紅斑 日常生活に制限を受ける症状
3 湿性落屑，潰瘍，水疱，強い痛み 日常生活を遂行できない症状
該当する症状のGradeが両基準（臨床領域，機能領域）で一致しない時は，より適切と判断できるGradeを採用 該当する症状のGradeが両基準（臨床領域，機能領域）で一致しない時は，より適切と判断できるGradeを採用 該当する症状のGradeが両基準（臨床領域，機能領域）で一致しない時は，より適切と判断できるGradeを採用
（表終了）
治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌
3．併用する他の抗悪性腫瘍剤は，臨床成績の項を熟知し，国内外の最新のガイドライン等を参考にし，患者の状態や癌化学療法歴に応じて選択。
胃癌の術後補助化学療法
4．併用する他の抗悪性腫瘍剤は，臨床成績の項を熟知し，患者の状態や癌化学療法歴に応じて選択。
結腸癌及び胃癌の術後補助化学療法
5．投与期間が8コースを超えた時の有効性・安全性は未確立。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分・フルオロウラシルに過敏症の既往。
2．テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤投与中・中止後7日以内。
3．重篤な腎障害。
4．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．脱水症状（頻度不明）（激しい下痢（腹痛，頻回の軟便等））。
2．手足症候群（頻度不明）（手掌・足底に湿性落屑，皮膚潰瘍，水疱，疼痛，知覚不全，有痛性紅斑，腫脹等）。
3．心障害（頻度不明）（心筋梗塞，狭心症，律動異常，心停止，心不全，突然死，心電図異常（心房性不整脈，心房細動，心室性期外収縮等）等）。
4．肝障害（肝機能検査値異常，黄疸）（頻度不明），肝不全。
5．腎障害（頻度不明）（腎機能検査値異常）。
6．骨髄抑制（頻度不明）（汎血球減少，顆粒球減少等），易感染症，敗血症等。
7．口内炎（頻度不明）（粘膜炎，粘膜潰瘍，口腔内潰瘍等，有痛性の紅斑，口内潰瘍，舌潰瘍等）。
8．間質性肺炎（頻度不明）（咳嗽，息切れ，呼吸困難，発熱等）。
9．重篤な腸炎（頻度不明）（出血性腸炎，虚血性腸炎，壊死性腸炎等）（激しい腹痛・下痢・血便等）。
10．重篤な精神神経系障害（白質脳症等）（頻度不明）（歩行障害，麻痺，錐体外路症状，失調，協調運動障害，平衡障害，構音障害，意識障害，嗜眠，錯乱，健忘，指南力低下，知覚障害，尿失禁等）。
11．血栓塞栓症（頻度不明）（深部静脈血栓症，脳梗塞，肺塞栓症等）。
12．皮膚粘膜眼症候群（頻度不明）。
13．溶血性貧血（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）（単剤療法）
（表開始）
発現部位等 10%以上 10%未満 頻度不明
精神神経系 味覚異常，頭痛，浮動性眩暈 不眠症，うつ病，錯感覚
消化器 悪心（33．2%），食欲不振（30．5%），嘔吐 便秘，腹痛，上腹部痛，口唇炎 消化不良，鼓腸，食道炎，十二指腸炎，胃腸出血，胃炎，口内乾燥，軟便，口渇，胃不快感
循環器 胸痛，下肢浮腫，心筋症，心筋虚血，頻脈
呼吸器 咳嗽 呼吸困難
血液 赤血球数減少（26．2%），白血球数減少（24．8%），リンパ球数減少（21．5%），ヘモグロビン減少 ヘマトクリット減少，血小板数減少，単球数増加，プロトロンビン時間延長，好中球数減少 貧血
皮膚 色素沈着障害 発疹，脱毛症 爪の異常（爪甲離床症，脆弱爪，爪変色，爪ジストロフィー等），紅斑性皮疹，皮膚亀裂，光線過敏，放射線照射リコール症候群，皮膚乾燥，剥脱性皮膚炎，皮膚落屑，掻痒症，皮膚炎
眼 眼障害（結膜炎，角膜炎，眼刺激等），流涙増加
肝臓・腎臓 血中ビリルビン増加（24．2%），AST増加，LDH増加，ALT増加，AI－P増加 尿沈渣陽性，蛋白尿，BUN増加，尿中ブドウ糖陽性 肝機能異常，血中クレアチニン増加
その他 倦怠感，体重減少，発熱，血中ブドウ糖増加 鼻咽頭炎，体重増加，疲労，背部痛，血中アルブミン減少，関節痛，血圧上昇 無力症，脱力，四肢痛，電解質異常，胸痛，筋痛，高トリグリセリド血症
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（他の抗悪性腫瘍剤と併用）
（表開始）
発現部位等 10%以上 10%未満 頻度不明
精神神経系 神経毒性（末梢性感覚ニューロパシー，末梢性運動ニューロパシー等）（93．9%），味覚異常（32．3%），神経痛 浮動性眩暈，頭痛，不眠症 錯感覚，異常感覚，感覚鈍麻
消化器 悪心（82．9%），食欲不振（75．0%），嘔吐（40．9%），便秘，腹痛 口唇炎，胃不快感，下腹部痛，歯周病，歯痛，歯肉出血，上腹部痛，齲歯，歯肉炎 消化不良，口内乾燥
呼吸器 鼻出血 鼻漏，発声障害，鼻粘膜障害，咽喉痛，しゃっくり 呼吸困難
血液 好中球数減少（66．5%），血小板数減少（35．4%），白血球数減少 ヘモグロビン減少，貧血，リンパ球数減少 発熱性好中球減少症
皮膚 色素沈着障害（35．4%），発疹 爪の障害，脱毛症，爪囲炎，蕁麻疹，皮膚乾燥，掻痒症
眼 流涙増加，霧視
肝臓・腎臓 蛋白尿，AST増加，肝機能異常 血尿，ALT増加，血中ビリルビン増加，AI－P増加，γ－GTP増加，血中アルブミン減少
その他 疲労（57．9%），注射部位反応（疼痛，血管炎，紅斑，腫脹等）（40．9%），過敏症，倦怠感，体重減少 背部痛，胸部不快感，潮紅，膀胱炎，高血圧，発熱，上気道感染（鼻咽頭炎等），四肢痛，浮腫，関節痛，筋骨格痛，起立性低血圧，血中リン減少，CRP増加，頻脈 無力症，温度変化不耐症，低カリウム血症，顎痛，低ナトリウム血症，悪寒，粘膜の炎症，口腔カンジダ症，疼痛，高トリグリセリド血症
（表終了）

ハイドレアカプセル500mg（500mg1カプセル）

両 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4229001M1027
【薬効分類】4．2．2 代謝拮抗剤
【一般名】ヒドロキシカルバミド
【メーカー】(製)クリニジェン 販)ブリストル・マイヤーズスクイブ
【薬価】184.6円/1C
【薬価収載日】1992/08/28
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗悪性腫瘍剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】慢性骨髄性白血病
本態性血小板血症
真性多血症
【用法用量】成人 1日500～2000mg 1日1～3回 分割 内服。
寛解後の維持 1日500～1000mg 1日1～2回 分割 内服。
初回量，維持量を適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．骨髄機能抑制（汎血球減少（0．3%），白血球減少（4．4%），好中球減少（0．5%），血小板減少（6．1%），貧血（4．4%）（ヘモグロビン減少，赤血球減少，ヘマトクリット値減少）等）。
2．間質性肺炎（0．2%）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線写真で浸潤影等の異常）。
3．皮膚潰瘍（0．7%）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
血液 出血 巨赤芽球症
消化器 下痢，腹痛，口内炎，食欲不振，胃炎，嘔気，嘔吐 便秘，胃痛，消化管潰瘍
肝臓 ビリルビン上昇，AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇 黄疸
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇，尿酸上昇 排尿困難
過敏症 発疹 蕁麻疹
皮膚 色素沈着，脱毛，紅斑，爪変色，掻痒 皮膚・爪萎縮，鱗屑形成，紫色丘疹，皮膚乾燥，発汗減少 皮膚エリテマトーデス
精神神経系 頭痛，しびれ 眩暈，舌のしびれ感，眠気，幻覚，見当識障害，痙攣
その他 発熱，倦怠感，浮腫，関節痛，筋肉痛 不快感，悪寒 無精子症
（表終了）

4 組織細胞機能用医薬品

ユーエフティ配合カプセルT100（100mg 1カプセル(テガフール相当量)）

両 内服 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4229100M2035
【薬効分類】4．2．2 代謝拮抗剤
【一般名】テガフール・ウラシル
【メーカー】製)大鵬薬品工業
【薬価】102.8円/1C
【薬価収載日】2009/09/25
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】代謝拮抗剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】テガフール・ウラシル通常療法
下記の自覚的・他覚的症状の寛解
頭頸部癌，胃癌，結腸・直腸癌，肝臓癌，胆嚢・胆管癌，膵臓癌，肺癌，乳癌，膀胱癌，前立腺癌，子宮頸癌
ホリナート・テガフール・ウラシル療法
結腸・直腸癌
注意
ホリナート・テガフール・ウラシル療法
術後補助療法の有効性・安全性は未確立。
【用法用量】テガフール・ウラシル通常療法
1日テガフール300～600mg 1日2～3回 分割 内服。
子宮頸癌 1日テガフール600mg 1日2～3回 分割 内服。
他の抗悪性腫瘍剤との併用 上記に準じ投与。
製剤換算表
(表開始)
販売名 1日量 1日量
販売名 テガフール 300～600mg (子宮頸癌) テガフール 600mg
本剤 3～6カプセル 6カプセル
(表終了)
ホリナート・テガフール・ウラシル療法
結腸・直腸癌 1日テガフール300～600mg(300mg／m2を基準)
1日3回 分割 約8時間ごと 食事の前後1時間を避けて内服。
成人 1日ホリナート75mg 1日3回 分割 約8時間ごと テガフール・ウラシル配合剤と同時に内服。
以上を 28日間連日 内服，以後7日間休薬。これを1クールとし，繰り返す。
注意
ホリナート・テガフール・ウラシル療法
1．食事の影響を受けるため，食事の前後1時間を避けて投与。
2．1日の投与スケジュールは下記を参考。
(表開始)
体表面積 (m2) UFT (mg／日) 午前(mg) 午後(mg) 夜間(mg)
＜1．17 300 100 100 100
1．17－1．49 400 200 100 100
1．5－1．83 500 200 200 100
＞1．83 600 200 200 200
(表終了)

■禁忌

【禁忌】1．重篤な骨髄抑制。
2．重篤な下痢。
3．重篤な感染症の合併。
4．本剤の成分に重篤な過敏症の既往。
5．テガフール・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤投与中・中止後7日以内。
6．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．骨髄抑制，溶血性貧血(0．1%未満)等の血液障害(汎血球減少(0．1%未満)，無顆粒球症(0．1%未満)(発熱，咽頭痛，倦怠感等)，白血球減少(3．1%)，血小板減少(1．1%)，貧血(0．8%)，出血傾向(0．1%未満)等)。
2．劇症肝炎等の重篤な肝障害(頻度不明)。
3．肝硬変(頻度不明)(AST，ALTの上昇を伴わない)(プロトロンビン時間延長，アルブミン低下，コリンエステラーゼ低下，血小板減少等)。
4．激しい下痢，脱水症状(頻度不明)。
5．重篤な腸炎(出血性腸炎，虚血性腸炎，壊死性腸炎等(頻度不明))(激しい腹痛・下痢等)。
6．白質脳症(意識障害，小脳失調，認知症様症状等)(頻度不明)等含む精神神経障害(意識障害(頻度不明)，失見当識(0．1%未満)，傾眠(0．1%未満)，記憶力低下(0．1%未満)，錐体外路症状(0．1%未満)，言語障害(0．1%未満)，四肢麻痺(頻度不明)，歩行障害(0．1%未満)，尿失禁(頻度不明)，知覚障害(0．1%未満)等)。
7．狭心症(0．1%未満)，心筋梗塞(頻度不明)，不整脈(心室頻拍等含む)(頻度不明)(胸痛，失神，息切れ，動悸，心電図異常等)。
8．急性腎障害(0．1%未満)，ネフローゼ症候群(0．1%未満)。
9．嗅覚障害(0．1%未満)，嗅覚脱失(頻度不明)。
10．間質性肺炎(0．1%未満)(咳嗽，息切れ，呼吸困難，発熱等)。
11．急性膵炎(頻度不明)(腹痛，血清アミラーゼ値の上昇等)。
12．重篤な口内炎(頻度不明)，消化管潰瘍(0．1%)，消化管出血(0．1%未満)。
13．中毒性表皮壊死融解症(頻度不明)，皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
血液 赤血球減少，血色素減少，ヘマトクリット値減少，好中球減少，好酸球増多，リンパ球減少，好塩基球増多，平均赤血球容積増加
肝臓 肝機能障害(AST，ALTの上昇等)，黄疸 脂肪肝，AI－P上昇 総ビリルビン上昇
腎臓 腎機能障害(BUN，クレアチニンの上昇等) 蛋白尿，血尿
消化器 食欲不振，悪心，嘔吐，下痢，口内炎，腹痛，味覚異常，心窩部痛，胸やけ 便秘，腹部膨満感，舌炎，口角炎，口渇，胃炎，嚥下困難，腹鳴 胃不快感，胃重感，口唇炎
精神神経系 倦怠感，眩暈，しびれ 頭痛，耳鳴 興奮，頭重感，末梢性ニューロパチー
皮膚 色素沈着，爪の異常，脱毛，浮腫 糜爛・皮膚炎，角化，紅潮，光線過敏症，水疱 DLE様皮疹，皮膚の乾燥，手足症候群
過敏症 発疹，掻痒 蕁麻疹 発赤
循環器 動悸，胸痛，胸内苦悶感，心電図異常(ST上昇等)
その他 LDH上昇，発熱 関節痛，糖尿，血糖値上昇，灼熱感，結膜充血，咳・痰，血清尿酸値上昇，女性型乳房，筋肉痛 血痰，高トリグリセリド血症，高コレステロール血症，無月経，CK上昇，総蛋白低下，血清ナトリウム低下，血清カルシウム上昇，血清カルシウム低下，血清カリウム上昇，血清カリウム低下，血清クロール上昇，血清クロール低下
(表終了)

4．2．3 抗腫瘍性抗生物質製剤

エピルビシン塩酸塩注射用10mg「NK」（10mg1瓶）

内 注射 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4235404D1063
【薬効分類】4．2．3 抗腫瘍性抗生物質製剤
【一般名】エピルビシン塩酸塩
【メーカー】製)ヴィアトリス・ヘルスケア 販)日本化薬 販)マイラン製薬
【薬価】1421円/1V
【薬価収載日】2008/06/20
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗腫瘍性抗生物質
【区分】抗がん剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○下記の自覚的・他覚的症状の緩解
急性白血病，悪性リンパ腫，乳癌，卵巣癌，胃癌，肝癌，尿路上皮癌(膀胱癌，腎盂・尿管腫瘍)
○下記の悪性腫瘍への他の抗悪性腫瘍剤との併用療法
乳癌(手術可能例の術前，術後化学療法)
【用法用量】急性白血病
エピルビシン塩酸塩 1回15mg／m2 1日1回 5～7日間連日 静注(約20mLの注射用水に溶解)，3週間休薬。これを1クールとし，必要時2～3クール反復。
悪性リンパ腫
エピルビシン塩酸塩 1回40～60mg／m2 1日1回 静注(約20mLの注射用水に溶解)，3～4週休薬。これを1クールとし，3～4クール反復。
乳癌，卵巣癌，胃癌，尿路上皮癌(膀胱癌，腎盂・尿管腫瘍)
エピルビシン塩酸塩 1回60mg／m2 1日1回 静注(約20mLの注射用水に溶解)，3～4週休薬。これを1クールとし，3～4クール反復。
肝癌
エピルビシン塩酸塩 1回60mg／m2 1日1回 肝動脈内のカテーテルより 肝動脈内投与(約20mLの注射用水に溶解)，3～4週休薬。これを1クールとし，3～4クール反復。
膀胱癌(表在性膀胱癌のみ)
エピルビシン塩酸塩 1回60mg(30mLの生食に溶解) 1日1回 3日間連日 膀胱腔内注入し，4日間休薬。これを1クールとし，2～4クール反復。
ネラトンカテーテルで導尿し膀胱腔内を空にした後，同カテーテルよりエピルビシン塩酸塩溶液を注入し，1～2時間膀胱腔内に把持。
適宜増減。
乳癌(手術可能例の術前，術後化学療法)への他の抗悪性腫瘍剤との併用療法
・シクロホスファミド水和物との併用 エピルビシン塩酸塩 1回100mg／m2(約20mLの注射用水に溶解) 1日1回 静注後，20日間休薬。これを1クールとし，4～6クール反復。
・シクロホスファミド水和物，フルオロウラシルとの併用 エピルビシン塩酸塩 1回100mg／m2(約20mLの注射用水に溶解) 1日1回 静注後，20日間休薬。これを1クールとし，4～6クール反復。
適宜減量。
肝癌の肝動脈化学塞栓療法
エピルビシン塩酸塩10mgに対し，ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステルを0．5～2mLの割合で加え，肝動脈内に挿入されたカテーテルより

4 組織細胞機能用医薬品

投与。1日60mg／m2，適宜増減し，腫瘍血管に乳濁液が充満した時終了。
注意
肝癌の肝動脈化学塞栓療法
再投与時には，肝機能の回復状況等により投与間隔を設定。

■禁忌
【禁忌】用法共通
1. 心機能異常・その既往。
2. 本剤に重篤な過敏症の既往。
3. 他のアントラサイクリン系薬剤等心毒性のある薬剤での前治療が限界量（ドキソルビシン塩酸塩では総量500mg／m2，ダウノルビシン塩酸塩では総量25mg／kg等）。
肝癌の肝動脈化学塞栓療法
4. ヨード系薬剤に過敏症の既往。
5. 重篤な甲状腺疾患。

■副作用
【副作用】重大な副作用
用法共通
1. 心筋障害（0. 1%），うっ血性心不全等。
2. 骨髄抑制（頻度不明）（汎血球減少，白血球減少，好中球減少，血小板減少，貧血，出血傾向），致命的な感染症（敗血症），消化管出血。
3. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（血圧低下，呼吸困難，発赤，意識低下等）。
4. 間質性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等）。
膀胱腔内注入
5. 萎縮膀胱（頻度不明）。
肝動注
6. 肝・胆道障害（頻度不明）（肝内胆汁性嚢胞，胆管炎，胆管壊死，肝壊死，肝不全，胆嚢炎等）。
7. 胃潰瘍（0. 1%未満），十二指腸潰瘍（0. 1%未満），消化管出血（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
心臓 心電図異常，不整脈，頻脈 胸痛
過敏症 発疹 紅斑，発赤 蕁麻疹
肝臓 肝機能異常（AST・ALT上昇等）
腎臓 腎機能異常（BUN上昇等）
消化器 悪心・嘔吐，食欲不振 口内炎，下痢，腹痛 食道炎，胃炎
皮膚 高度の脱毛 色素沈着，掻痒症 肝動注時の発赤，紅斑，糜爛，潰瘍等の皮膚障害，皮膚壊死
精神神経系 倦怠感 しびれ，疼痛，頭痛 耳痛・耳鳴，不眠，意識障害，知覚異常（口腔内異和感）
泌尿器 頻尿・排尿痛・膀胱炎・血尿等の膀胱刺激症状（膀胱腔内注入）
頻尿，血尿
呼吸器 呼吸困難，気胸・血胸
注射部位 静注で血管痛，静脈炎，血栓
その他 発熱 悪寒，顔面浮腫，血圧低下 ほてり
（表終了）

マイトマイシン注用10mg（10mg1瓶）

内 注射 流通
毒 ハイリスク

【YJコード】4231400D2038
【薬効分類】4. 2. 3 抗腫瘍性抗生物質製剤
【一般名】マイトマイシンC
【メーカー】製)協和キリン
【薬価】2196円/1V
【薬価収載日】2003/07/04
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗悪性腫瘍剤
【区分】抗がん剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記の自覚的・他覚的症状の緩解
慢性リンパ性白血病，慢性骨髄性白血病，胃癌，結腸・直腸癌，肺癌，膵癌，肝癌，子宮頸癌，子宮体癌，乳癌，頭頸部腫瘍
【用法用量】1. 間欠投与法
成人 1日4～6mg 週1～2回 静注。
2. 連日投与法
成人 1日2mg 連日 静注。
3. 大量間欠投与法
成人 1日10～30mg 1～3週間以上の間隔で 静注。
4. 他の抗悪性腫瘍剤と併用
成人 1日2～4mg 週1～2回 他の抗悪性腫瘍剤と併用 静注。
適宜増減。
注射液の調製法
2mgあたり5mLの割合で生食に溶解。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に重篤な過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 溶血性尿毒症症候群，微小血管症性溶血性貧血（各頻度不明）（破砕赤血球を伴う貧血・血小板減少・腎機能低下等）。
2. 急性腎障害等の重篤な腎障害（頻度不明）（BUN，クレアチニン，クレアチニンクリアランス値等の異常）。
3. 骨髄機能抑制（頻度不明）（汎血球減少，白血球減少，好中球減少，血小板減少，出血，貧血等）。
4. 間質性肺炎，肺線維症等（各頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多）。
5. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（掻痒感，発疹，顔面潮紅，発汗，呼吸困難，血圧低下等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 頻度不明
腎臓 蛋白尿 血尿，浮腫，高血圧
肝臓 肝障害
消化器 食欲不振，悪心・嘔吐 口内炎 下痢，便秘，腹部不快感
過敏症 発疹
その他 倦怠感 脱毛 発熱
（表終了）

4. 2. 9 その他の腫瘍用薬

タモキシフェン錠20mg「DSEP」（20mg1錠）

両 内服 後発 流通
ハイリスク

【YJコード】4291003F2119
【薬効分類】4. 2. 9 その他の腫瘍用薬
【一般名】タモキシフェンクエン酸塩
【先発品】ノルバデックス錠20mg
【メーカー】製)第一三共エスファ 販)第一三共
【薬価】29.8円/1T
【薬価収載日】2019/06/13
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗乳癌剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】乳癌
【用法用量】成人 1日1錠（タモキシフェン 20mg） 1日1回 内服。
適宜増量，1日最高2錠（タモキシフェン 40mg）。

■禁忌
【禁忌】1. 妊婦・妊娠の可能性。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 無顆粒球症，白血球減少，好中球減少，貧血，血小板減少（各頻度不明）。
2. 視力異常（0. 4%），視覚障害（頻度不明）（角膜の変化，白内障，網膜症，網膜萎縮，視神経症，視神経炎，視神経萎縮等）（視力低下，かすみ目等）。
3. 血栓塞栓症，静脈炎（各頻度不明）（肺塞栓症，下肢静脈血栓症，脳血栓症，下肢血栓性静脈炎等）。
4. 劇症肝炎，肝炎，胆汁うっ滞等の重篤な肝障害，肝不全（各頻度不明）。
5. 高カルシウム血症（頻度不明）。
6. 子宮筋腫，子宮内膜ポリープ，子宮内膜増殖症，子宮内膜症（各頻度不明）（不正出血等の異常な婦人科学的症状）。
7. 間質性肺炎（頻度不明）。
8. アナフィラキシー，血管浮腫（各頻度不明）等の過敏症状。
9. 皮膚粘膜眼症候群（頻度不明）。
10. 水疱性類天疱瘡（頻度不明）。
11. 膵炎（頻度不明）（血清トリグリセライド上昇）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 頻度不明
肝臓 肝機能異常，脂肪肝（非アルコール性脂肪性肝炎含む）
生殖器 無月経，性器出血 月経異常，腟分泌物，卵巣嚢腫，卵巣嚢胞，陰部掻痒，子宮頸管ポリープ，腟ポリープ
消化器 悪心・嘔吐 食欲不振，下痢 腹痛
精神神経系 頭痛，眩暈・眩暈，不眠，抑うつ状態，感覚異常（錯感覚，味覚異常含む）
皮膚 発疹，発汗，脱毛 皮膚血管炎，皮膚エリテマトーデス，晩発性皮膚ポルフィリン症，放射線照射リコール反応
筋・骨格系 筋肉痛
その他 ほてり・潮紅 体重増加，浮腫，骨痛，腫瘍部の疼痛・発赤，倦怠感，疲労，頻尿，高トリグリセライド血症，下肢痙攣
（表終了）

4 組織細胞機能用医薬品

ビカルタミド錠80mg「NK」（80mg1錠）

両 内服 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4291009F1071
【薬効分類】4．2．9 その他の腫瘍用薬
【一般名】ビカルタミド
【先発品】カソデックス錠80mg，ビカルタミド錠80mg「ケミファ」
【メーカー】製)日本化薬
【薬価】110.9円/1T
【薬価収載日】2009/05/15
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】前立腺癌治療剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】前立腺癌
注意
1．根治療法でない。投与12週後をめどに，効果不十分時又は病勢の進行があれば，手術療法等他の処置を考慮。
2．副作用の発現時は，有益性を考慮の上，必要時，休薬・集学的治療法等の治療法に変更。
【用法用量】成人 1回80mg 1日1回 内服。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．小児。
3．女性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．劇症肝炎，肝機能障害（AST，ALT，AI－P，γ－GTP，LDHの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
2．白血球減少（1．0%），血小板減少（1．9%）。
3．間質性肺炎（頻度不明）。
4．心不全，心筋梗塞（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
内分泌 乳房腫脹（44．7%），乳房圧痛（46．6%），ほてり
生殖器 勃起力低下
肝臓 AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇 γ－GTP上昇，LDH上昇
泌尿器 腎機能障害（クレアチニン上昇，BUN上昇）血尿，夜間頻尿
皮膚 掻痒，発疹 発汗，皮膚乾燥，脱毛，多毛，光線過敏症
精神神経系 性欲減退 傾眠 頭痛，眩暈，不眠，抑うつ状態
循環器 心電図異常
消化器 便秘 口渇 食欲不振，下痢，悪心，嘔吐，消化不良，鼓腸放屈，腹痛
筋・骨格系 胸痛 骨盤痛
過敏症 血管浮腫，蕁麻疹
その他 総コレステロール上昇，中性脂肪上昇 さむけ 貧血，浮腫，倦怠感，無力症，疲労，高血糖，体重増加・減少
（表終了）

フェソロデックス筋注250mg（250mg5mL1筒）

内 注射 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4291421G1020
【薬効分類】4．2．9 その他の腫瘍用薬
【一般名】フルベストラント
【メーカー】製)アストラゼネカ
【薬価】38401円/1筒
【薬価収載日】2011/11/25
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗エストロゲン剤／乳癌治療剤
【区分】抗がん剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】乳癌
注意
1．ホルモン受容体の発現の有無を確認し，陰性の時は使用しない。
2．術前・術後薬物療法の有効性・安全性は未確立。
3．臨床試験に組み入れられたHER2の発現状況等，臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で，適応患者の選択を行う。
【用法用量】成人 2筒（フルベストラント 500mg） 初回・2週後・4週後・以後4週ごとに1回 左右臀部に1筒ずつ 筋注。
閉経前乳癌はLH－RHアゴニスト投与下で他の抗悪性腫瘍剤と併用。
注意
1．1回の投与で2筒を一側の臀部に投与しない。
2．硬結の可能性，注射部位を毎回変更する等注意。
3．併用する他の抗悪性腫瘍剤については，臨床成績の項を熟知し選択。

■禁忌

【禁忌】1．妊婦・妊娠の可能性。
2．授乳婦。
3．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．肝機能障害（4．2%）（AST，ALT，AI－P，ビリルビンの上昇等）。
2．血栓塞栓症（0．7%）（肺塞栓症（0．4%），深部静脈血栓症（0．4%），血栓性静脈炎（頻度不明）等）。
3．注射部位の壊死，潰瘍（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 1～10%未満 1%未満 頻度不明
注射部位 注射部位反応（硬結，疼痛，出血，血腫，膿瘍等） 坐骨神経痛
消化器 悪心，下痢 おくび，便秘，消化不良，嘔吐 鼓腸放屁，腹部膨満，嚥下障害，流涎過多，腹痛
精神神経系 頭痛，眩暈，感覚異常，不眠症 適応障害，気分変調
血管障害 ほてり 血腫
循環器 高血圧 狭心症
筋骨格系 背部痛，筋肉痛，関節痛，筋骨格痛，骨痛 筋骨格硬直，筋力低下，骨粗鬆症 骨折，重感
皮膚 発疹，掻痒症，脱毛症 多汗症 爪痛
過敏症 過敏反応（蕁麻疹等）
全身 無力症，浮腫 発熱
呼吸器 呼吸困難 咳嗽，鼻出血，間質性肺疾患
代謝・栄養障害 食欲不振 高トリグリセリド血症，高コレステロール血症 高血糖
生殖器 卵巣腫大，乳房不快感，膣出血 乳房痛，外陰膣掻痒症
血液 貧血，血小板数減少
その他 白内障，耳不快感 尿路感染，インフルエンザ様疾患，インフルエンザ，腋窩痛，非心臓性胸痛，眼乾燥，膣感染，胆石症
（表終了）

ユニタルク胸膜腔内注入用懸濁剤4g（4g1瓶）

内 注射 流通
ハイリスク

【YJコード】4299405D1022
【薬効分類】4．2．9 その他の腫瘍用薬
【一般名】滅菌調整タルク
【メーカー】製)ノーベルファーマ
【薬価】7236円/1V
【薬価収載日】2013/11/19
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】悪性胸水治療剤
【区分】抗がん剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】悪性胸水の再貯留抑制
外科手術による治療が困難な続発性難治性気胸
注意
腹水の減少に使用しない。
【用法用量】成人 1バイアル（本剤 4g） 生食50mLで懸濁 胸膜腔内 注入。
注意
効能共通
1．両側肺の胸膜腔内に同時投与時，片側胸膜腔内に投与後，対側胸膜腔内に投与時の有効性・安全性は未確立。
2．他の胸膜癒着剤との併用投与の有効性・安全性は未確立。
悪性胸水の再貯留抑制
3．同側肺の胸膜腔内に追加投与（ドレナージチューブ抜管前）又は再投与時の有効性・安全性は未確立。
外科手術で治療が困難な続発性難治性気胸
4．効果不十分と判断され，ドレナージチューブ抜管前に同側肺の胸膜腔内に追加投与時は，7日間以上間隔をあけ1回4gを1回のみ追加注入。
5．再発時に再投与時の有効性・安全性は未確立。

■禁忌

【禁忌】本剤・タルクに過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．急性呼吸窮迫症候群（頻度不明）（急速に進行する呼吸困難，低酸素症，両側性びまん性肺浸潤影等の胸部X線異常等）。
2．間質性肺疾患（頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱等）。
3．ショック，アナフィラキシー（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 1～10%未満 頻度不明
感染症 肺炎，皮膚感染，感染 創傷感染，敗血症

4 組織細胞機能用医薬品

新生物 癌疼痛
代謝・栄養 食欲減退，低アルブミン血症
精神神経 頭痛 錯乱状態
心・血管 低血圧，潮紅 うっ血性心不全，徐脈性不整脈
呼吸器 呼吸困難，胸膜痛，低酸素症，口腔咽頭痛 呼吸不全，呼吸抑制，肺水腫，膿胸，肺塞栓症，気胸
消化器 便秘，下痢，痔核，悪心，嘔吐
肝・胆道系 肝機能異常
皮膚・皮下組織 掻痒症，皮下気腫
筋骨格 背部痛，筋骨格硬直
全身・投与局所 発熱（37．9%），疼痛 倦怠感，胸部不快感，胸痛，熱感，非心臓性胸痛 異物肉芽腫
臨床検査 CRP増加（46．6%） ALT増加，AST増加，LDH増加，AI－P増加，アルブミン減少，カリウム増加，血小板数増加，カリウム減少，BUN増加，ヘマトクリット減少，ヘモグロビン減少，体重減少，白血球数増加
その他 ドレーン留置部位合併症
（表終了）

レトロゾール錠2．5mg「サワイ」（2．5mg1錠）

両 内服 後発 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】4291015F1123
【薬効分類】4．2．9 その他の腫瘍用薬
【一般名】レトロゾール
【先発品】フェマーラ錠2．5mg，レトロゾール錠2．5mg「JG」
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】52.4円/1T
【薬価収載日】2015/06/19
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】閉経後乳癌治療剤
【区分】抗がん剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇閉経後乳癌
〇生殖補助医療の調節卵巣刺激
〇多嚢胞性卵巣症候群の排卵誘発
〇原因不明不妊の排卵誘発
注意
生殖補助医療の調節卵巣刺激，多嚢胞性卵巣症候群の排卵誘発，原因不明不妊の排卵誘発
投与の適否は，患者・パートナーの検査を実施後判断。原発性卵巣不全，妊娠不能な性器奇形，妊娠に不適切な子宮筋腫の合併等の妊娠に不適当時は投与しない。甲状腺機能低下，副腎機能低下，高プロラクチン血症，下垂体・視床下部腫瘍等があれば，当該疾患の治療を優先。
【用法用量】閉経後乳癌
成人 1回2．5mg 1日1回 内服。
生殖補助医療の調節卵巣刺激，多嚢胞性卵巣症候群の排卵誘発，原因不明不妊の排卵誘発
1回2．5mg 1日1回 月経周期3日目から5日間 内服。効果不十分時，次周期以降の1回量を5mgに増量できる。
注意
多嚢胞性卵巣症候群の排卵誘発，原因不明不妊の排卵誘発
本剤で周期を繰りかえしても効果不十分時は，漫然と周期を繰りかえさず，生殖補助医療含め他の治療を考慮。

■禁忌

【禁忌】効能共通
1．妊婦・妊娠の可能性。
2．授乳婦。
3．本剤の成分に過敏症の既往。
生殖補助医療の調節卵巣刺激，多嚢胞性卵巣症候群の排卵誘発，原因不明不妊の排卵誘発
4．活動性の血栓塞栓性疾患。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．血栓症，塞栓症（各頻度不明）（肺塞栓症，脳梗塞，動脈血栓症，血栓性静脈炎，心筋梗塞）。
2．心不全，狭心症（各頻度不明）。
3．肝機能障害（AST，ALTの著しい上昇等），黄疸（各頻度不明）。
4．中毒性表皮壊死症，多形紅斑（各頻度不明）。
5．卵巣過剰刺激症候群（頻度不明）（卵巣腫大，下腹部痛，下腹部緊迫感，腹水，胸水，呼吸困難），卵巣破裂，卵巣茎捻転，脳梗塞，肺塞栓含む血栓塞栓症，肺水腫，腎不全等。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
血液系障害 － 白血球数減少，リンパ球数減少，好塩基球数増加，単球数減少 血小板増加，白血球分画異常
代謝・栄養障害 血中コレステロール増加 食欲不振，体重増加 高カルシウム血症，アルブミン・グロブリン比減少，血中コレステロール減少，血中カリウム減少，低蛋白血症，血中クロール増加，食欲亢進，体重減少
精神障害 － － 易興奮性，うつ病，不安，不眠症
神経系障害 頭痛 浮動性眩暈，味覚障害 注意力障害，傾眠，しびれ感，回転性眩暈，記憶障害，異常感覚
眼障害 － － 白内障，眼刺激，霧視
耳・迷路障害 － 耳鳴 －
心臓障害 － 動悸 頻脈
血管障害 ほてり 高血圧 低血圧，潮紅
呼吸器系障害 － － 喉頭痛，呼吸困難
胃腸障害 － 悪心，嘔吐，消化不良，歯痛，口内炎 上腹部痛，軟便，便秘，腹痛，腹部膨満，下痢
肝・胆道系障害 AST増加，ALT増加，AI－P増加 γ－GTP増加，LDH増加 血中ビリルビン増加
皮膚障害 － 掻痒症，発疹，多汗，湿疹，脱毛症 冷汗，局所性表皮剥脱，皮膚乾燥，蕁麻疹
筋骨格系障害 関節痛 筋痛，関節硬直，背部痛，関節炎 骨痛，骨折，骨粗鬆症
腎・尿路障害 － 尿蛋白陽性 頻尿，尿路感染，BUN増加
生殖系・乳房障害 － 乳房痛，膣出血，膣分泌物 膣乾燥
全身障害 － 疲労，倦怠感，口渇，胸痛，上肢浮腫，全身浮腫 熱感，脱力，発熱，粘膜乾燥，腫瘍疼痛
（表終了）

4．3 放射性医薬品

4．3．0 放射性医薬品

アキュミン静注（185MBq1瓶）

内 注射 流通

【YJコード】4300455A1027
【薬効分類】4．3．0 放射性医薬品
【一般名】フルシクロビン（18F）
【メーカー】製)日本メジフィジックス
【薬価】344867円/1V
【薬価収載日】2024/05/22
【標榜薬効】放射性医薬品・悪性腫瘍診断薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】初発の悪性神経膠腫が疑われる腫瘍の可視化
磁気共鳴コンピューター断層撮影検査による腫瘍摘出計画時の腫瘍摘出範囲の決定補助に用いる
【用法用量】1バイアル（87～270MBq） 静注，投与10～50分後にポジトロン断層撮影法により撮像を開始。
注意
1．投与60分後までに撮像。撮像時間は，投与量，撮像機器，データ収集条件，画像再構成のアルゴリズム・パラメータ等を考慮して決定。
2．FLAIR又はT2強調MRI画像で高信号領域かつ病理検査で腫瘍である部位も，本剤の集積が認められない可能性，本剤を用いたPET検査では偽陰性の可能性を考慮し，腫瘍摘出範囲を決定。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 頻度不明
消化器 口渇
その他 嗅覚錯誤，注射部位紅斑，注射部位疼痛，味覚異常
（表終了）

アミヴィッド静注（370MBq1瓶）

内 注射 流通

【YJコード】4300453A1028
【薬効分類】4．3．0 放射性医薬品
【一般名】フロルベタピル（18F）
【メーカー】製)PDRファーマ
【薬価】184203円/1V
【薬価収載日】2024/05/22
【標榜薬効】放射性医薬品／アミロイドイメージング剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇アルツハイマー病の軽度認知障害・認知症を疑う脳内アミロイドベータプラークの可視化
〇抗アミロイドベータ抗体薬投与後の脳内アミロイドベータプラークの可視化
注意
アルツハイマー病の軽度認知障害・認知症を疑う脳内アミロイドベータプラークの可視化
アルツハイマー病の軽度認知障害・認知症の発症前診断を目的とし無症候者に本剤を用いたPET検査を実施しない。アルツハイマー病の軽

4 組織細胞機能用医薬品

度認知障害・認知症の発症予測の有用性は未確立。
【用法用量】370MBq 静注，投与30～50分後までに撮像を開始。撮像時間は10分。

■禁忌
【禁忌】本剤・本剤の成分に過敏症の既往。

オクトレオスキャン静注用セット（1セット）
内 注射 流通

【YJコード】4300452G1026
【薬効分類】4．3．0 放射性医薬品
【一般名】インジウム（111In）ペンテトレオチド
【メーカー】製)PDRファーマ 販)富士フイルム富山化学
【薬価】117602円/1セット
【薬価収載日】2015/11/26
【標榜薬効】放射性医薬品／神経内分泌腫瘍診断薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】神経内分泌腫瘍の診断におけるソマトスタチン受容体シンチグラフィ
注意
神経内分泌腫瘍（NET）でもソマトスタチン受容体（SSTR）を発現していない時は検出できない。インスリノーマではSSTRの発現が他のNETに比べて少ないため，本剤で検出できない時あり。
【用法用量】インジウムペンテトレオチド（111In）注射液の調製
バイアルAの全量をバイアルBに加え振盪後，常温で30分間放置。
ソマトスタチン受容体シンチグラフィ
成人 111MBq 静注。4時間後及び24時間後 ガンマカメラを用いてシンチグラムを得る。必要時，48時間後にもシンチグラムを得る。適宜増減。
必要時，断層像を追加。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

ダットスキャン静注（167MBq1筒）
内 注射 流通

【YJコード】4300451G1021
【薬効分類】4．3．0 放射性医薬品
【一般名】イオフルパン（123I）
【メーカー】製)日本メジフィジックス
【薬価】57684円/1筒
【薬価収載日】2013/11/19
【標榜薬効】放射性医薬品／脳疾患診断薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】下記診断のドパミントランスポーターシンチグラフィ
1．パーキンソン症候群
2．レビー小体型認知症
【用法用量】成人 1バイアル（111～185MBq） 静注，投与後3～6時間に頭部のシンチグラムを得る。

■禁忌
【禁忌】本剤・本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
過敏症（頻度不明）（投与後局所反応（0．1%），掻痒，紅斑等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
過敏症 － － 過敏症反応
精神神経系 頭痛 浮動性眩暈，蟻走感 －
感覚器 － 回転性眩暈 －
消化器 － 悪心，空腹，口内乾燥 －
その他 － 味覚異常，血腫，注射部位血腫 注射部位疼痛
（表終了）

ビザミル静注（185MBq1瓶）
内 注射 流通

【YJコード】4300454A1022
【薬効分類】4．3．0 放射性医薬品
【一般名】フルテメタモル（18F）
【メーカー】製)日本メジフィジックス
【薬価】196481円/1V
【薬価収載日】2024/05/22
【標榜薬効】放射性医薬品・脳疾患診断薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇アルツハイマー病の軽度認知障害・認知症を疑う脳内アミロイドベータプラークの可視化
〇抗アミロイドベータ抗体薬投与後の脳内アミロイドベータプラークの可視化
注意
アルツハイマー病の軽度認知障害・認知症を疑う脳内アミロイドベータプラークの可視化
アルツハイマー病の軽度認知障害・認知症の発症前診断を目的とし無症候者に本剤を用いたPET検査を実施しない。アルツハイマー病の軽度認知障害・認知症の発症予測の有用性は未確立。
【用法用量】1バイアル（120～370MBq） 静注，投与後60～120分に撮像を開始。
注意
撮像時間は，投与量，撮像機器，データ収集条件，画像再構成のアルゴリズム，パラメータ等を考慮して決定。適切にバリデーションされたPET装置で撮像時，投与量185MBqの標準的な撮像時間は20分。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
アナフィラキシー（0．2%）（顔面潮紅，呼吸困難，胸部圧迫感等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 0．5～1%未満
循環器 潮紅，血圧上昇 －
消化器 悪心 －
精神神経系 － 頭痛，浮動性眩暈
その他 胸部不快感 －
（表終了）

4．4 アレルギー用薬

4．4．1 抗ヒスタミン剤

ペリアクチンシロップ0．04%（0．04%10mL）
両 内服 流通

【YJコード】4419005Q1072
【薬効分類】4．4．1 抗ヒスタミン剤
【一般名】シプロヘプタジン塩酸塩水和物
【メーカー】製)日医工 販)MSD
【薬価】14.7円/10mL
【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】抗アレルギー剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．皮膚疾患に伴う掻痒（湿疹・皮膚炎，皮膚掻痒症，薬疹）
2．蕁麻疹
3．血管運動性浮腫
4．枯草熱
5．アレルギー性鼻炎
6．血管運動性鼻炎
7．感冒等上気道炎に伴うくしゃみ・鼻汁・咳嗽
【用法用量】成人 1回4mg 1日1～3回 内服。
適宜増減。
注意
Augsberger式での小児の例 下記1回量 1日1～3回 内服。
（表開始）
年齢（歳） 投与量（mL）
2～3 3
4～6 4
7～9 5
10～12 6．5
（表終了）

■禁忌
【禁忌】1．閉塞隅角緑内障。
2．狭窄性胃潰瘍。
3．幽門十二指腸閉塞。
4．前立腺肥大等下部尿路に閉塞性疾患。
5．気管支喘息の急性発作時。
6．新生児・低出生体重児。
7．老齢の衰弱。
8．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．錯乱，幻覚（各頻度不明）。
2．痙攣（頻度不明）。

4 組織細胞機能用医薬品

3. 無顆粒球症(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹
精神神経系 眠気 眩暈, もうろう感, 倦怠感, 頭痛, 不眠, しびれ感 注意力低下, いらいら感, 興奮, 運動失調, 意識レベルの低下
消化器 口渇, 悪心, 食欲不振, 下痢, 腹痛
血液 白血球減少, 血小板減少, 紫斑
その他 頻尿 食欲亢進, 粘膜乾燥, 浮腫, 肝機能異常(AST上昇, ALT上昇, AI－P上昇, LDH上昇等), 鼻出血
(表終了)

ポララミン注5mg(0. 5%1mL1管)

内 注射 流通

【YJコード】4419400A1023
【薬効分類】4. 4. 1 抗ヒスタミン剤
【一般名】d－クロルフェニラミンマレイン酸塩
【メーカー】製)高田製薬 販)MSD 販)シェリング・プラウ
【薬価】69円/1A
【標榜薬効】抗ヒスタミン剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇蕁麻疹
〇枯草熱
〇皮膚疾患に伴う掻痒(湿疹・皮膚炎, 皮膚掻痒症, 薬疹, 咬刺症)
〇アレルギー性鼻炎
〇血管運動性鼻炎
【用法用量】成人 1回5mg 1日1回 皮下注・筋注・静注。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分・類似化合物に過敏症の既往。
2. 閉塞隅角緑内障。
3. 前立腺肥大等下部尿路に閉塞性疾患。
4. 低出生体重児・新生児。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック(頻度不明)(チアノーゼ, 呼吸困難, 胸内苦悶, 血圧低下等)。
2. 痙攣, 錯乱(各頻度不明)。
3. 再生不良性貧血, 無顆粒球症(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上又は頻度不明 0. 1%未満
過敏症 発疹, 光線過敏症等
精神神経系 鎮静, 神経過敏, 頭痛, 焦燥感, 複視, 眠気, 不眠, 眩暈, 耳鳴, 前庭障害, 多幸症, 情緒不安, ヒステリー, 振戦, 神経炎, 協調異常, 感覚異常, 霧視等
消化器 口渇, 胸やけ, 食欲不振, 悪心・嘔吐, 腹痛, 便秘, 下痢等
泌尿器 頻尿, 排尿困難, 尿閉等
循環器 低血圧, 心悸亢進, 頻脈, 期外収縮, 微弱脈
呼吸器 鼻・気道の乾燥, 気管分泌液の粘性化, 喘鳴, 鼻閉等
血液 溶血性貧血 血小板減少
肝臓 肝機能障害(ASTの上昇・ALTの上昇・AI－Pの上昇等)
その他 悪寒, 発汗異常, 疲労感, 胸痛, 月経異常 顔面蒼白
(表終了)

4. 4. 2 刺激療法剤

リマチル錠100mg(100mg1錠)

両 内服 流通
劇

【YJコード】4420002F1117
【薬効分類】4. 4. 2 刺激療法剤
【一般名】ブシラミン
【メーカー】製)あゆみ製薬 販)参天製薬
【薬価】29円/1T
【薬価収載日】2003/07/04
【標榜薬効】抗リウマチ剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】関節リウマチ
【用法用量】消炎鎮痛剤等で効果不十分時に使用。
成人 1回100mg 1日3回 食後 内服。効果発現後 1日100～300mg。
1日最大300mg。
注意
遅効性なので, 効果があるまでは, 従来より投与している消炎鎮痛剤等は継続して併用。6ヵ月間継続投与しても効果なければ投与中止。

■禁忌
【禁忌】1. 血液障害, 骨髄機能の低下。
2. 腎機能障害。
3. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 再生不良性貧血(頻度不明), 赤芽球癆(頻度不明), 汎血球減少(頻度不明), 無顆粒球症(頻度不明), 血小板減少(0. 04%)。
2. 過敏性血管炎(頻度不明)。
3. 間質性肺炎(0. 03%), 好酸球性肺炎(頻度不明), 肺線維症(0. 03%), 胸膜炎(頻度不明)(呼吸困難, 咳嗽等の呼吸器症状, 発熱等)。
4. 急性腎障害(頻度不明), ネフローゼ症候群(膜性腎症等)(0. 1%)(尿蛋白)。
5. 肝機能障害(1. 6%)(AST, ALT, AI－P, ビリルビンの上昇等), 黄疸(頻度不明)。
6. 中毒性表皮壊死融解症(頻度不明), 皮膚粘膜眼症候群(頻度不明), 天疱瘡様症状(頻度不明), 紅皮症型薬疹(0. 01%)。
7. 重症筋無力症, 筋力低下, 多発性筋炎(各頻度不明)。
8. ショック, アナフィラキシー(各頻度不明)(紅斑, 発疹, 嘔吐, 呼吸困難, 血圧低下等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
血液 － 貧血 血小板減少 －
腎臓 － 蛋白尿, 血尿, 腎機能異常 － －
過敏症 皮疹, 掻痒感 蕁麻疹, 発熱, 口内炎, 舌炎, 好酸球増加 光線過敏症 －
消化器 － 食欲不振, 悪心・嘔吐, 下痢, 胃痛, 口渇 便秘 －
肝臓 － AST・ALT・AI－P上昇等の肝機能障害 － 黄疸
精神神経系 － 頭痛, 眩暈 眠気 －
その他 － 脱毛, 味覚異常, 手指末端のしびれ感, 倦怠感, 浮腫 黄色爪症候群, 眼痛 乳房肥大, 女性化乳房
(表終了)

4. 4. 9 その他のアレルギー用薬

エピナスチン塩酸塩錠20mg「VTRS」(20mg1錠)

両 内服 後発 流通

【YJコード】4490014F2382
【薬効分類】4. 4. 9 その他のアレルギー用薬
【一般名】エピナスチン塩酸塩
【先発品】アレジオン錠20
【メーカー】製)ヴィアトリス・ヘルスケア 販)ヴィアトリス製薬
【薬価】14.5円/1T
【薬価収載日】2022/06/16
【標榜薬効】アレルギー性疾患治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 気管支喘息
2. アレルギー性鼻炎
3. 蕁麻疹, 湿疹・皮膚炎, 皮膚掻痒症, 痒疹, 掻痒を伴う尋常性乾癬
【用法用量】気管支喘息, 蕁麻疹, 湿疹・皮膚炎, 皮膚掻痒症, 痒疹, 掻痒を伴う尋常性乾癬
成人 1回20mg 1日1回 内服。
適宜増減。
アレルギー性鼻炎
成人 1回10～20mg 1日1回 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 肝機能障害(AST, ALT, γ－GTP, AI－P, LDHの上昇等, 全身倦怠感, 食欲不振, 発熱, 嘔気・嘔吐等), 黄疸(頻度不明)。
2. 血小板減少(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 蕁麻疹, かゆみ, 掻痒性紅斑 浮腫(顔面, 手足等)
精神神経系 眠気, 倦怠感, 頭痛, 眩暈 不眠, 悪夢, しびれ感, 頭がボーッとした感じ 幻覚, 幻聴
消化器 嘔気, 食欲不振, 胃部不快感, 胃もたれ感, 腹痛, 下痢, 口渇 嘔吐, 胃重感, 便秘, 口唇乾燥感, 腹部膨満感 口内炎
腎臓 蛋白尿
泌尿器 尿閉 頻尿, 血尿等の膀胱炎様症状
循環器 心悸亢進
呼吸器 呼吸困難, 去痰困難, 鼻閉
血液 白血球数増加 血小板減少
その他 月経異常, ほてり, にがみ, 味覚低下, 胸痛 女性型乳房, 乳房

4 組織細胞機能用医薬品

腫大
（表終了）

オロパタジン塩酸塩錠5mg「サワイ」（5mg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】4490025F2194
【薬効分類】4．4．9 その他のアレルギー用薬
【一般名】オロパタジン塩酸塩
【先発品】アレロック錠5
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】10.4円/1T
【薬価収載日】2012/12/14
【標榜薬効】アレルギー性疾患治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】成人 アレルギー性鼻炎，蕁麻疹，皮膚疾患に伴う掻痒（湿疹・皮膚炎，痒疹，皮膚掻痒症，尋常性乾癬，多形滲出性紅斑）
小児 アレルギー性鼻炎，蕁麻疹，皮膚疾患（湿疹・皮膚炎，皮膚掻痒症）に伴う掻痒
【用法用量】成人 1回5mg 1日2回 朝・就寝前 内服。
適宜増減。
小児 7歳以上 1回5mg 1日2回 朝・就寝前 内服。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
劇症肝炎，肝機能障害（AST，ALT，γ－GTP，LDH，AI－Pの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 紅斑等の発疹 浮腫（顔面・四肢等），掻痒，呼吸困難
精神神経系 眠気 倦怠感，口渇，頭痛・頭重感，眩暈 集中力低下，しびれ感 不随意運動（顔面・四肢等）
消化器 腹部不快感，腹痛，下痢，嘔気 便秘，口内炎・口角炎・舌痛，胸やけ，食欲亢進 嘔吐
肝臓 肝機能異常（ALT，AST，LDH，γ－GTP，AI－P，総ビリルビン上昇）
血液 白血球増多，好酸球増多，リンパ球減少 白血球減少，血小板減少
腎臓・泌尿器 尿潜血 BUN上昇，尿蛋白陽性，血中クレアチニン上昇，頻尿，排尿困難
循環器 動悸，血圧上昇
その他 血清コレステロール上昇 尿糖陽性，胸部不快感，味覚異常，体重増加，ほてり 月経異常，筋肉痛，関節痛
（表終了）

キプレスチュアブル錠5mg（5mg1錠）

両 内服 流通

【YJコード】4490026F1044
【薬効分類】4．4．9 その他のアレルギー用薬
【一般名】モンテルカストナトリウム
【メーカー】製)杏林製薬
【薬価】73.4円/1T
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】気管支喘息治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】気管支喘息
【用法用量】6歳以上の小児 1回5mg 1日1回 就寝前 内服。
注意
1．モンテルカストフィルムコーティング錠と生物学的に同等でなく，バイオアベイラビリティが高いため，本剤とモンテルカストフィルムコーティング錠5mgをそれぞれ相互に代用しない。
2．1～6歳未満の小児 モンテルカスト細粒4mgを1日1回就寝前に内服。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．アナフィラキシー（頻度不明）。
2．血管浮腫（頻度不明）。
3．劇症肝炎，肝炎，肝機能障害，黄疸（各頻度不明）。
4．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑（各頻度不明）。
5．血小板減少（頻度不明）（紫斑，鼻出血，歯肉出血等の出血傾向）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 皮疹 掻痒，蕁麻疹，肝臓の好酸球浸潤
精神神経系 頭痛，傾眠 異夢，易刺激性，情緒不安，痙攣，不眠，幻覚，眩暈，感覚異常（しびれ等），激越，振戦，夢遊症，失見当識，集中力低下，記憶障害，せん妄，強迫性症状
呼吸器 肺好酸球増多症
消化器系 下痢，腹痛，胃不快感，嘔気，胸やけ，嘔吐，便秘 消化不良，口内炎
肝臓 肝機能異常，AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇，γ－GTP上昇，総ビリルビン上昇
筋骨格系 筋痙攣含む筋痛，関節痛
その他 口渇，尿潜血，血尿，尿糖，浮腫，倦怠感，白血球数増加，尿蛋白，トリグリセリド上昇 出血傾向（鼻出血，紫斑等），挫傷，動悸，頻尿，発熱，脱力，疲労，脱毛，遺尿
（表終了）

ザイザルシロップ0．05%（0．05%1mL）

両 内服 流通

【YJコード】4490028Q1028
【薬効分類】4．4．9 その他のアレルギー用薬
【一般名】レボセチリジン塩酸塩
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】7.3円/1mL
【薬価収載日】2014/04/17
【標榜薬効】持続性選択H1受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】成人
アレルギー性鼻炎，蕁麻疹，湿疹・皮膚炎，痒疹，皮膚掻痒症
小児
アレルギー性鼻炎，蕁麻疹，皮膚疾患（湿疹・皮膚炎，皮膚掻痒症）に伴う掻痒
【用法用量】成人
1回10mL（レボセチリジン塩酸塩 5mg） 1日1回 就寝前 内服。
適宜増減，1日最高20mL（レボセチリジン塩酸塩 10mg）。
小児
6ヵ月～1歳未満 1回2．5mL（レボセチリジン塩酸塩 1．25mg） 1日1回 内服。
1～7歳未満 1回2．5mL（レボセチリジン塩酸塩 1．25mg） 1日2回 朝食後・就寝前 内服。
7～15歳未満 1回5mL（レボセチリジン塩酸塩 2．5mg） 1日2回 朝食後・就寝前 内服。
注意
1．腎障害 血中濃度半減期が延長し，血中濃度が増大，下表の通り投与量の調節が必要。
成人の腎機能に対する用法・用量の目安
（表開始）
クレアチニンクリアランス（mL／分） ≧80 50～79 30～49 10～29
推奨量 5mg 1日1回 2．5mg 1日1回 2．5mg 2日に1回 2．5mg 週2回（3～4日に1回）
（表終了）
腎障害を有する小児 各患者の腎クリアランスと体重を考慮し，個別に用量を調整。
2．高齢者 低用量（例 2．5mg）から開始する等慎重投与。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分・ピペラジン誘導体（セチリジン，ヒドロキシジン含む）に過敏症の既往。
2．重度の腎障害（クレアチニンクリアランス10mL／分未満）。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，血圧低下，蕁麻疹，発赤等）。
2．痙攣（頻度不明）。
3．肝機能障害（0．6%）（AST，ALT，γ－GTP，LDH，AI－Pの上昇等，全身倦怠感，食欲不振，発熱，嘔気等），黄疸（頻度不明）。
4．血小板減少（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 眠気，倦怠感 頭痛，頭重感，ふらふら感，しびれ感，眩暈，浮遊感 不眠，振戦，抑うつ，激越，攻撃性，傾眠，疲労，無力症，睡眠障害，錯感覚，幻覚，自殺念慮，失神，健忘（注），不随意運動（注），意識消失（注），悪夢
消化器 口渇，嘔気，食欲不振 胃不快感，下痢，消化不良，腹痛，腹部不快感，胃痛，口唇炎，便秘，口唇乾燥感，嘔吐，味覚異常，口内炎 腹部膨満感，食欲亢進
循環器 動悸，血圧上昇，不整脈（房室ブロック（注），期外収縮，頻脈，発作性上室性頻拍（注），心房細動）
血液 好酸球増多（注） 好中球減少，リンパ球増多（注），白血球増多，白血球減少，単球増多（注），血小板増加（注），血小板減少（注）
過敏症 発疹，蕁麻疹，浮腫，かぶれ，掻痒感，血管性浮腫 多形紅斑，薬疹

4 組織細胞機能用医薬品

眼 結膜充血，霧視 視覚障害，眼球回転発作
肝臓 ALT上昇，AST上昇，総ビリルビン上昇 Al－P上昇
腎臓・泌尿器 尿蛋白（注），BUN上昇，尿糖（注），ウロビリノーゲンの異常（注），頻尿，血尿（注） 排尿困難，尿閉，遺尿（注）
その他 耳鳴，月経異常，胸痛，ほてり，息苦しさ 関節痛，手足のこわばり，嗅覚異常，鼻出血，脱毛，咳嗽，体重増加，筋肉痛，呼吸困難
（表終了）
（注）セチリジン塩酸塩。

デュピクセント皮下注300mgペン（300mg2mL1キット）

両 注射 自注 流通 劇

【YJコード】4490405G2020
【薬効分類】4．4．9 その他のアレルギー用薬
【一般名】デュピルマブ（遺伝子組換え）
【メーカー】製）サノフィ
【薬価】53659円/1kit
【薬価収載日】2020/11/25
【標榜薬効】ヒト型抗ヒトIL－4／13受容体モノクローナル抗体

■効能効果・用法用量

【効能効果】既存治療で効果不十分な下記
〇アトピー性皮膚炎（注）
〇結節性痒疹
〇特発性の慢性蕁麻疹
〇気管支喘息（既存治療でも喘息症状をコントロールできない重症・難治のみ）（注）
〇鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎（既存治療で効果不十分時のみ）（注）
（注）最適使用推進ガイドライン対象
注意
アトピー性皮膚炎
1．ステロイド外用剤やタクロリムス外用剤等の抗炎症外用剤の治療を一定期間施行しても，効果不十分，強い炎症を伴う皮疹が広範囲の患者に使用。
2．アトピー性皮膚炎の病変部位の状態に応じて抗炎症外用剤を併用。
3．本剤投与時も保湿外用剤を継続使用。
結節性痒疹
4．臨床成績の項を熟知し，臨床試験に組み入れられた背景を理解した上で，ステロイド外用剤等による治療をしても，痒疹結節する病変が多発し，複数の部位に及ぶ者に使用。
5．最新の診療ガイドライン等を参考に，臨床症状・全身検索に基づいて他の皮膚疾患との鑑別を行う。
特発性の慢性蕁麻疹
6．食物，物理的刺激等の蕁麻疹の症状を誘発する原因が特定されず，ヒスタミンH1受容体拮抗薬の増量等を行っても，日常生活に支障をきたすほどのかゆみを伴う膨疹が繰り返し継続的に認められる時に本剤を追加投与。
気管支喘息
7．最新のガイドライン等を参考に，中・高用量の吸入ステロイド薬とその他の長期管理薬を併用しても，全身性ステロイド薬の投与等が必要な喘息増悪に本剤を追加投与。
8．IL－4・IL－13シグナル伝達の阻害により，喘息の病態に関与する2型炎症反応を抑制，臨床試験で投与前の2型炎症に関連するバイオマーカー（血中好酸球数，FeNO，IgE等）の値と有効性の関係を理解し，当該バイオマーカー値を考慮した上で，適応患者の選択を行う。
9．気管支喘息の発作・症状を速やかに軽減する薬剤ではない，急性発作に使用しない。
鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎
10．全身性ステロイド薬，手術等でコントロール不十分時に使用。
【用法用量】アトピー性皮膚炎
成人 初回 600mg 皮下注。以後 1回300mg 2週間隔 皮下注。
生後6ヵ月以上の小児 下記 皮下注。
5～15kg未満 1回200mg 4週間隔。
15～30kg未満 1回300mg 4週間隔。
30～60kg未満 初回 400mg，以後 1回200mg 2週間隔。
60kg以上 初回 600mg，以後 1回300mg 2週間隔。
結節性痒疹
成人 初回 600mg 皮下注。以後 1回300mg 2週間隔 皮下注。
特発性の慢性蕁麻疹
成人 初回 600mg 皮下注。以後 1回300mg 2週間隔 皮下注。
12歳以上の小児 体重に応じて下記 皮下注。
30～60kg未満 初回 400mg，以後 1回200mg 2週間隔。
60kg以上 初回 600mg，以後 1回300mg 2週間隔。
気管支喘息
成人・12歳以上の小児 初回 600mg 皮下注。以後 1回300mg 2週間隔 皮下注。
鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎
成人 1回300mg 2週間隔 皮下注。症状安定後 1回300mg 4週間隔 皮下注。
注意
アトピー性皮膚炎
1．治療反応は，開始から16週以内にあり。16週以内に治療反応なければ，投与中止を考慮。
アトピー性皮膚炎，特発性の慢性蕁麻疹
2．200mgシリンジと300mgシリンジ又は300mgペンの生物学的同等性試験は未実施，600mgを投与時は200mgシリンジを使用しない。
特発性の慢性蕁麻疹
3．臨床試験で，本剤の24週以降の使用経験は無いため，24週以降も継続投与時は，患者の状態を考慮し，必要性を慎重に判断。
用法・用量通り，24週間使用しても効果なければ，漫然投与しない。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
重篤な過敏症（アナフィラキシー（0．1%未満））（血圧低下，呼吸困難，意識消失，眩暈，嘔気，嘔吐，掻痒感，潮紅，血管性浮腫等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
感染症・寄生虫症 結膜炎，口腔ヘルペス，単純ヘルペス
眼障害 アレルギー性結膜炎，眼瞼炎，眼乾燥 眼掻痒症，角膜炎，潰瘍性角膜炎
血液・リンパ系障害 好酸球増加症
注射部位 注射部位紅斑 注射部位反応，注射部位掻痒感，注射部位浮腫
神経系障害 頭痛
皮膚・皮下組織障害 発疹
その他 発熱，関節痛 血清病，血清病様反応
（表終了）

フェキソフェナジン塩酸塩錠60mg「SANIK」（60mg1錠）

両 内服 流通

【YJコード】4490023F1091
【薬効分類】4．4．9 その他のアレルギー用薬
【一般名】フェキソフェナジン塩酸塩
【メーカー】製）日医工
【薬価】28.7円/1T
【薬価収載日】2013/06/21
【標榜薬効】アレルギー性疾患治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】アレルギー性鼻炎，蕁麻疹，皮膚疾患（湿疹・皮膚炎，皮膚掻痒症，アトピー性皮膚炎）に伴う掻痒
【用法用量】成人 フェキソフェナジン塩酸塩 1回60mg 1日2回 内服。
小児 下記1回量 1日2回 内服。
7～12歳未満 フェキソフェナジン塩酸塩 30mg。
12歳以上 フェキソフェナジン塩酸塩 60mg。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，血圧低下，意識消失，血管浮腫，胸痛，潮紅等の過敏症状）。
2．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTP，Al－P，LDHの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
3．無顆粒球症（頻度不明），白血球減少（0．2%），好中球減少（0．1%未満）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
精神神経系 頭痛，眠気，疲労，倦怠感，眩暈，不眠，神経過敏 悪夢，睡眠障害，しびれ感
消化器 嘔気，嘔吐，口渇，腹痛，下痢，消化不良 便秘
過敏症 掻痒 蕁麻疹，潮紅，発疹 血管浮腫
肝臓 AST上昇，ALT上昇
腎臓・泌尿器 頻尿 排尿困難
循環器 動悸，血圧上昇
その他 呼吸困難，味覚異常，浮腫，胸痛，月経異常
（表終了）

プランルカストDS10%「タカタ」（10%1g）

両 内服 後発 流通

【YJコード】4490017R1157
【薬効分類】4．4．9 その他のアレルギー用薬
【一般名】プランルカスト水和物
【先発品】オノンドライシロップ10%
【メーカー】製）高田製薬
【薬価】22.5円/1g
【薬価収載日】2007/07/06
【標榜薬効】気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤

4 組織細胞機能用医薬品

■効能効果・用法用量
【効能効果】気管支喘息，アレルギー性鼻炎
【用法用量】小児 1日7mg／kg（本剤 70mg／kg） 1日2回 分割朝・夕食後 内服（用時懸濁）。適宜増減。
1日最高10mg／kg（本剤 100mg／kg），1日450mg（本剤 4．5g）まで。
体重別 下記1回量 1日2回 朝・夕食後 内服。
（表開始）
体重（kg） 本剤（g） プランルカスト水和物（mg）
12～18未満 0．5 50
18～25未満 0．7 70
25～35未満 1 100
35～45未満 1．4 140
（表終了）

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック（頻度不明），アナフィラキシー（頻度不明）（血圧低下，意識障害，呼吸困難，発疹等）。
2．白血球減少（頻度不明）（発熱，咽頭痛，全身倦怠感等）。
3．血小板減少（頻度不明）（紫斑，鼻出血，歯肉出血等の出血傾向）。
4．肝機能障害（頻度不明）（黄疸，AST・ALTの著しい上昇等）。
5．間質性肺炎，好酸球性肺炎（各頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増加等）。
6．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中ミオグロビン上昇等），急性腎障害。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹等 多形滲出性紅斑，掻痒等
精神神経系 眠気 眩暈，痙攣，興奮，頭痛 不眠，しびれ，ふるえ，不安，味覚異常
消化器 嘔気，嘔吐，下痢 胃部不快感，腹痛，便秘，口内炎 食欲不振，胸やけ，腹部膨満感，舌炎，舌しびれ
循環器 潮紅 不整脈（頻脈・心房細動・期外収縮等），動悸
肝臓 AST・ALTの上昇等 ビリルビン上昇 AI－P上昇
筋骨格系 関節痛，筋肉痛，四肢痛，こわばり，CK上昇
泌尿器 尿潜血，蛋白尿 頻尿，BUN上昇 尿量減少，排尿障害
その他 出血，発熱，咽喉頭異常感，好酸球増多，尿沈渣陽性 胸部絞扼感，浮腫，脱毛，倦怠感，生理不順，乳房腫脹・硬結，乳房痛，女性化乳房，トリグリセリド上昇，口渇，耳鳴
（表終了）

モンテルカスト錠10mg「KM」（10mg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】4490026F2067
【薬効分類】4．4．9 その他のアレルギー用薬
【一般名】モンテルカストナトリウム
【先発品】キプレス錠10mg，シングレア錠10mg
【メーカー】製）キョーリンリメディオ 販）杏林製薬
【薬価】36.6円/1T
【薬価収載日】2016/06/17
【標榜薬効】気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】気管支喘息，アレルギー性鼻炎
【用法用量】気管支喘息
成人 1回10mg 1日1回 就寝前 内服。
アレルギー性鼻炎
成人 1回5～10mg 1日1回 就寝前 内服。
注意
効能共通
1．気管支喘息及びアレルギー性鼻炎を合併し気管支喘息の治療に使用時，成人には10mgを1日1回就寝前に内服。
2．モンテルカストフィルムコーティング錠5mgとモンテルカストチュアブル錠5mgをそれぞれ相互に代用しない。
気管支喘息
3．6歳以上の小児 モンテルカストチュアブル錠5mgを1日1回就寝前に内服。
4．1～6歳未満の小児 モンテルカスト細粒4mgを1日1回就寝前に内服。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．アナフィラキシー（頻度不明）。
2．血管浮腫（頻度不明）。
3．劇症肝炎，肝炎，肝機能障害，黄疸（各頻度不明）。
4．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑（各頻度不明）。
5．血小板減少（頻度不明）（紫斑，鼻出血，歯肉出血等の出血傾向）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 皮疹 掻痒，蕁麻疹，肝臓の好酸球浸潤
精神神経系 頭痛，傾眠 異夢，易刺激性，情緒不安，痙攣，不眠，幻覚，眩暈，感覚異常（しびれ等），激越，振戦，夢遊症，失見当識，集中力低下，記憶障害，せん妄，強迫性症状
呼吸器 肺好酸球増多症
消化器系 下痢，腹痛，胃不快感，嘔気，胸やけ，嘔吐，便秘 消化不良，口内炎
肝臓 肝機能異常，AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇，γ－GTP上昇，総ビリルビン上昇
筋骨格系 筋痙攣含む筋痛，関節痛
その他 口渇，尿潜血，血尿，尿糖，浮腫，倦怠感，白血球数増加，尿蛋白，トリグリセリド上昇 出血傾向（鼻出血，紫斑等），挫傷，動悸，頻尿，発熱，脱力，疲労，脱毛，遺尿
（表終了）

5 生薬及び漢方処方に基づく医薬品

5 生薬及び漢方処方に基づく医薬品

5．2 漢方製剤

5．2．0 漢方製剤

クラシエ葛根湯エキス細粒（1g）

両 内服 流通

【YJコード】5200013C1080
【薬効分類】5．2．0 漢方製剤
【一般名】葛根湯エキス
【メーカー】製)クラシエ 販)クラシエ薬品
【薬価】10.2円/1g
【薬価収載日】2007/06/29
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】感冒，鼻風邪，頭痛，肩こり，筋肉痛，手や肩の痛み
【用法用量】成人 1日7．5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．偽アルドステロン症（頻度不明）（低カリウム血症，血圧上昇，ナトリウム・体液の貯留，浮腫，体重増加等）。
2．ミオパシー（頻度不明）（脱力感，四肢痙攣・麻痺等）。
3．肝機能障害（AST，ALT，AI－P，γ－GTP等の著しい上昇），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，発赤，掻痒等
自律神経系 不眠，発汗過多，頻脈，動悸，全身脱力感，精神興奮等
消化器 食欲不振，胃部不快感，悪心，嘔吐等
泌尿器 排尿障害等
（表終了）

クラシエ加味逍遙散料エキス細粒（1g）

両 内服 流通

【YJコード】5200017C1061
【薬効分類】5．2．0 漢方製剤
【一般名】加味逍遙散エキス
【メーカー】製)クラシエ 販)クラシエ薬品
【薬価】18.3円/1g
【薬価収載日】2007/06/29
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】体質虚弱な婦人で，肩がこり，疲れやすく，精神不安等の精神神経症状，ときに便秘傾向のある下記
冷え症，虚弱体質，月経不順，月経困難，更年期障害，血の道症
【用法用量】成人 1日6g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．偽アルドステロン症（頻度不明）（低カリウム血症，血圧上昇，ナトリウム・体液の貯留，浮腫，体重増加等）。
2．ミオパシー（頻度不明）（脱力感，四肢痙攣・麻痺等）。
3．肝機能障害（AST，ALT，AI－P，γ－GTP等の著しい上昇），黄疸（各頻度不明）。
4．腸間膜静脈硬化症（頻度不明）（腹痛，下痢，便秘，腹部膨満等，便潜血陽性）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，発赤，掻痒等
消化器 食欲不振，胃部不快感，悪心，嘔吐，腹痛，下痢等
（表終了）

クラシエ桂枝茯苓丸料エキス細粒（1g）

両 内服 流通

【YJコード】5200038C1080
【薬効分類】5．2．0 漢方製剤
【一般名】桂枝茯苓丸エキス
【メーカー】製)クラシエ 販)クラシエ薬品
【薬価】13.2円/1g
【薬価収載日】2007/06/29
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】比較的体力があり，ときに下腹部痛，肩こり，頭重，眩暈，のぼせて足冷え等を訴える下記
月経不順，月経異常，月経痛，更年期障害，血の道症，肩こり，眩暈，頭重，打ち身（打撲症），しもやけ，しみ
【用法用量】成人 1日6g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】重大な副作用
肝機能障害（AST，ALT，AI－P，γ－GTP等の著しい上昇），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，発赤，掻痒等
消化器 食欲不振，胃部不快感，悪心，下痢等
（表終了）

クラシエ柴苓湯エキス細粒（1g）

両 内服 流通

【YJコード】5200055C1032
【薬効分類】5．2．0 漢方製剤
【一般名】柴苓湯エキス
【メーカー】製)大峰堂薬品工業 販)クラシエ薬品
【薬価】46.8円/1g
【薬価収載日】2007/07/06
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】吐気，食欲不振，喉の渇き，排尿が少ない等の下記
水瀉性下痢，急性胃腸炎，暑気あたり，むくみ
【用法用量】成人 1日8．1g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．間質性肺炎（頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常等）。
2．偽アルドステロン症（頻度不明）（低カリウム血症，血圧上昇，ナトリウム・体液の貯留，浮腫，体重増加等）。
3．ミオパシー（頻度不明）（脱力感，四肢痙攣・麻痺等）。
4．劇症肝炎，肝機能障害（AST，ALT，AI－P，γ－GTP等の著しい上昇），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，発赤，掻痒，蕁麻疹等
消化器 口渇，食欲不振，胃部不快感，悪心，嘔吐，腹部膨満感，腹痛，下痢，便秘等
泌尿器 頻尿，排尿痛，血尿，残尿感，膀胱炎等
その他 全身倦怠感
（表終了）

クラシエ芍薬甘草湯エキス細粒（1g）

両 内服 流通

【YJコード】5200067C1060
【薬効分類】5．2．0 漢方製剤
【一般名】芍薬甘草湯エキス
【メーカー】製)クラシエ 販)クラシエ薬品
【薬価】10.8円/1g
【薬価収載日】2007/06/29
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】急激におこる筋肉の痙攣を伴う疼痛，筋肉・関節痛，胃痛，腹痛
【用法用量】成人 1日6g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。
注意
必要最小限の期間にとどめる。

5 生薬及び漢方処方に基づく医薬品

■禁忌
【禁忌】1. アルドステロン症。
2. ミオパシー。
3. 低カリウム血症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 間質性肺炎(頻度不明)(咳嗽, 呼吸困難, 発熱, 肺音の異常等)。
2. 偽アルドステロン症(頻度不明)(低カリウム血症, 血圧上昇, ナトリウム・体液の貯留, 浮腫, 体重増加等)。
3. うっ血性心不全, 心室細動, 心室頻拍(Torsades de pointes含む)(各頻度不明)(動悸, 息切れ, 倦怠感, 眩暈, 失神等)。
4. ミオパシー, 横紋筋融解症(各頻度不明)(脱力感, 筋力低下, 筋肉痛, 四肢痙攣・麻痺, CK上昇, 血中・尿中のミオグロビン上昇)。
5. 肝機能障害(AST, ALT, AI－P, γ－GTP等の著しい上昇), 黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹, 発赤, 掻痒等
消化器 悪心, 嘔吐, 下痢等
(表終了)

クラシエ当帰芍薬散料エキス細粒（1g）
両 内服 流通

【YJコード】5200111C1089
【薬効分類】5. 2. 0 漢方製剤
【一般名】当帰芍薬散エキス
【メーカー】製)クラシエ 販)クラシエ薬品
【薬価】15.5円/1g
【薬価収載日】2007/06/29
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】比較的体力が乏しく, 冷え症で貧血の傾向があり, 疲労しやすく, ときに下腹部痛, 頭重, 眩暈, 肩こり, 耳鳴り, 動悸等の下記
月経不順, 月経異常, 月経痛, 更年期障害, 産前産後・流産による障害(貧血, 疲労倦怠, 眩暈, むくみ), 眩暈, 頭重, 肩こり, 腰痛, 足腰の冷え症, しもやけ, むくみ, しみ
【用法用量】成人 1日6g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹, 掻痒等
肝臓 肝機能異常(AST, ALT等の上昇)
消化器 食欲不振, 胃部不快感, 悪心, 嘔吐, 腹痛, 下痢等
(表終了)

クラシエ人参養栄湯エキス細粒（1g）
両 内服 流通

【YJコード】5200117C1043
【薬効分類】5. 2. 0 漢方製剤
【一般名】人参養栄湯エキス
【メーカー】製)クラシエ 販)クラシエ薬品
【薬価】22.3円/1g
【薬価収載日】2007/06/29
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】病後の体力低下, 疲労倦怠, 食欲不振, 寝汗, 手足の冷え, 貧血
【用法用量】成人 1日7. 5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 偽アルドステロン症(頻度不明)(低カリウム血症, 血圧上昇, ナトリウム・体液の貯留, 浮腫, 体重増加等)。
2. ミオパシー(頻度不明)(脱力感, 四肢痙攣・麻痺等)。
3. 肝機能障害(AST, ALT, AI－P, γ－GTP等の著しい上昇), 黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹, 発赤, 掻痒, 蕁麻疹等
消化器 食欲不振, 胃部不快感, 悪心, 嘔吐, 腹痛, 下痢等
(表終了)

クラシエ八味地黄丸料エキス細粒（1g）
両 内服 流通
劇

【YJコード】5200121C1040
【薬効分類】5. 2. 0 漢方製剤
【一般名】八味地黄丸エキス
【メーカー】製)クラシエ 販)クラシエ薬品
【薬価】15.5円/1g
【薬価収載日】2007/06/29
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】疲れやすくて, 四肢が冷えやすく, 尿量減少・多尿で, ときに口渇がある下記
下肢痛, 腰痛, しびれ, 老人のかすみ目, かゆみ, 排尿困難, 頻尿, むくみ
【用法用量】成人 1日6g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹, 発赤, 掻痒等
肝臓 肝機能異常(AST, ALT, T－Bil等の上昇)
消化器 食欲不振, 胃部不快感, 悪心, 嘔吐, 腹痛, 下痢, 便秘等
その他 心悸亢進, のぼせ, 舌のしびれ等
(表終了)

ツムラ牛車腎気丸エキス顆粒(医療用)（1g）
両 内服 流通

【YJコード】5200025D1029
【薬効分類】5. 2. 0 漢方製剤
【一般名】牛車腎気丸エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】17.7円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】疲れやすくて, 四肢が冷えやすく, 尿量減少・多尿で, ときに口渇がある下記
下肢痛, 腰痛, しびれ, 老人のかすみ目, かゆみ, 排尿困難, 頻尿, むくみ
【用法用量】成人 1日7. 5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 間質性肺炎(頻度不明)(咳嗽, 呼吸困難, 発熱, 肺音の異常等)。
2. 肝機能障害(AST, ALT, AI－P, γ－GTP等の著しい上昇), 黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹, 発赤, 掻痒等
消化器 食欲不振, 胃部不快感, 悪心, 嘔吐, 腹部膨満感, 腹痛, 下痢, 便秘等
その他 心悸亢進, のぼせ, 舌のしびれ等
(表終了)

ツムラ五苓散エキス顆粒(医療用)（1g）
両 内服 流通

【YJコード】5200048D1070
【薬効分類】5. 2. 0 漢方製剤
【一般名】五苓散エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】13.6円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】口渇, 尿量減少の下記
浮腫, ネフローゼ, 二日酔, 急性胃腸カタル, 下痢, 悪心, 嘔吐, 眩暈, 胃内停水, 頭痛, 尿毒症, 暑気あたり, 糖尿病

5 生薬及び漢方処方に基づく医薬品

【用法用量】成人 1日7．5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，発赤，掻痒等
肝臓 肝機能異常（AST，ALT，γ－GTP等の上昇）
（表終了）

ツムラ柴朴湯エキス顆粒（医療用）（1g）
両 内服 流通

【YJコード】5200054D1033
【薬効分類】5．2．0 漢方製剤
【一般名】柴朴湯エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】34円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】気分がふさいで，咽喉，食道部に異物感があり，ときに動悸，眩暈，嘔気等を伴う下記
小児喘息，気管支喘息，気管支炎，咳，不安神経症
【用法用量】成人 1日7．5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．間質性肺炎（頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常等）。
2．偽アルドステロン症（頻度不明）（低カリウム血症，血圧上昇，ナトリウム・体液の貯留，浮腫，体重増加等）。
3．ミオパシー（頻度不明）（脱力感，四肢痙攣・麻痺等）。
4．肝機能障害（AST，ALT，AI－P，γ－GTP等の著しい上昇），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹等
消化器 口渇，食欲不振，胃部不快感，腹痛，下痢，便秘等
泌尿器 頻尿，排尿痛，血尿，残尿感，膀胱炎等
（表終了）

ツムラ十全大補湯エキス顆粒（医療用）（1g）
両 内服 流通

【YJコード】5200069D1048
【薬効分類】5．2．0 漢方製剤
【一般名】十全大補湯エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】18.4円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】病後の体力低下，疲労倦怠，食欲不振，寝汗，手足の冷え，貧血
【用法用量】成人 1日7．5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．偽アルドステロン症（頻度不明）（低カリウム血症，血圧上昇，ナトリウム・体液の貯留，浮腫，体重増加等）。
2．ミオパシー（頻度不明）（脱力感，四肢痙攣・麻痺等）。
3．肝機能障害（AST，ALT，AI－P，γ－GTP等の著しい上昇），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，発赤，掻痒，蕁麻疹等
消化器 食欲不振，胃部不快感，悪心，嘔吐，下痢等
（表終了）

ツムラ真武湯エキス顆粒（医療用）（1g）
両 内服 流通

【YJコード】5200083D1030
【薬効分類】5．2．0 漢方製剤
【一般名】真武湯エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】13.1円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】新陳代謝の沈衰している下記
胃腸疾患，胃腸虚弱症，慢性腸炎，消化不良，胃アトニー症，胃下垂症，ネフローゼ，腹膜炎，脳溢血，脊髄疾患による運動・知覚麻痺，神経衰弱，高血圧症，心臓弁膜症，心不全で心悸亢進，半身不随，リウマチ，老人性掻痒症
【用法用量】成人 1日7．5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，発赤，掻痒，蕁麻疹等
その他 心悸亢進，のぼせ，舌のしびれ，悪心等
（表終了）

ツムラ大黄甘草湯エキス顆粒（医療用）（1g）
両 内服 流通

【YJコード】5200090D1030
【薬効分類】5．2．0 漢方製剤
【一般名】大黄甘草湯エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】8円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】便秘症
【用法用量】成人 1日7．5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．偽アルドステロン症（頻度不明）（低カリウム血症，血圧上昇，ナトリウム・体液の貯留，浮腫，体重増加等）。
2．ミオパシー（頻度不明）（脱力感，四肢痙攣・麻痺等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
消化器 食欲不振，腹痛，下痢等
（表終了）

ツムラ大建中湯エキス顆粒（医療用）（1g）
両 内服 流通

【YJコード】5200092D1020
【薬効分類】5．2．0 漢方製剤
【一般名】大建中湯エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】13.7円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量
【効能効果】腹が冷えて痛み，腹部膨満感のあるもの
【用法用量】成人 1日15g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．間質性肺炎（頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常等）。
2．肝機能障害（AST，ALT，AI－P，γ－GTP等の著しい上昇），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹等
消化器 胃部不快感，悪心，嘔吐，腹部膨満，腹痛，下痢等
（表終了）

5 生薬及び漢方処方に基づく医薬品

ツムラ麦門冬湯エキス顆粒(医療用)(1g)

両 内服 流通

【YJコード】5200119D1030
【薬効分類】5．2．0 漢方製剤
【一般名】麦門冬湯エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】16.5円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】痰の切れにくい咳，気管支炎，気管支喘息
【用法用量】成人 1日9g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．間質性肺炎(頻度不明)(咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常等)。
2．偽アルドステロン症(頻度不明)(低カリウム血症，血圧上昇，ナトリウム・体液の貯留，浮腫，体重増加等)。
3．ミオパシー(頻度不明)(脱力感，四肢痙攣・麻痺等)。
4．肝機能障害(AST，ALT，Al－P，γ－GTP等の著しい上昇)，黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹等
(表終了)

ツムラ半夏厚朴湯エキス顆粒(医療用)(1g)

両 内服 流通

【YJコード】5200122D1074
【薬効分類】5．2．0 漢方製剤
【一般名】半夏厚朴湯エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】14.6円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】気分がふさいで，咽喉，食道部に異物感があり，ときに動悸，眩暈，嘔気等を伴う下記
不安神経症，神経性胃炎，つわり，咳，しわがれ声，神経性食道狭窄症，不眠症
【用法用量】成人 1日7．5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，発赤，掻痒等
肝臓 肝機能異常(AST，ALT等の上昇)
(表終了)

ツムラ半夏瀉心湯エキス顆粒(医療用)(1g)

両 内服 流通

【YJコード】5200123D1079
【薬効分類】5．2．0 漢方製剤
【一般名】半夏瀉心湯エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】22.3円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】みぞおちのつかえ，ときに悪心，嘔吐，食欲不振，腹が鳴り軟便・下痢傾向のある下記
急・慢性胃腸カタル，醗酵性下痢，消化不良，胃下垂，神経性胃炎，胃弱，二日酔，げっぷ，胸やけ，口内炎，神経症
【用法用量】成人 1日7．5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．アルドステロン症。
2．ミオパシー。
3．低カリウム血症。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．間質性肺炎(頻度不明)(咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常等)。
2．偽アルドステロン症(頻度不明)(低カリウム血症，血圧上昇，ナトリウム・体液の貯留，浮腫，体重増加等)。
3．ミオパシー(頻度不明)(脱力感，四肢痙攣・麻痺等)。
4．肝機能障害(AST，ALT，Al－P，γ－GTP等の著しい上昇)，黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹等
(表終了)

ツムラ補中益気湯エキス顆粒(医療用)(1g)

両 内服 流通

【YJコード】5200131D1065
【薬効分類】5．2．0 漢方製剤
【一般名】補中益気湯エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】22.5円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】消化機能が衰え，四肢倦怠感著しい虚弱体質者の下記
夏やせ，病後の体力増強，結核症，食欲不振，胃下垂，感冒，痔，脱肛，子宮下垂，陰萎，半身不随，多汗症
【用法用量】成人 1日7．5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．間質性肺炎(頻度不明)(咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常等)。
2．偽アルドステロン症(頻度不明)(低カリウム血症，血圧上昇，ナトリウム・体液の貯留，浮腫，体重増加等)。
3．ミオパシー(頻度不明)(脱力感，四肢痙攣・麻痺等)。
4．肝機能障害(AST，ALT，Al－P，γ－GTP等の著しい上昇)，黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹等
消化器 食欲不振，胃部不快感，悪心，下痢等
(表終了)

ツムラ抑肝散エキス顆粒(医療用)(1g)

両 内服 流通

【YJコード】5200139D1037
【薬効分類】5．2．0 漢方製剤
【一般名】抑肝散エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】16.1円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】虚弱体質で神経がたかぶる下記
神経症，不眠症，小児夜なき，小児疳症
【用法用量】成人 1日7．5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．間質性肺炎(頻度不明)(咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常等)。
2．偽アルドステロン症(頻度不明)(低カリウム血症，血圧上昇，ナトリウム・体液の貯留，浮腫，体重増加等)。
3．心不全(頻度不明)(体液貯留，急激な体重増加，息切れ，心胸比拡大，胸水等)。
4．ミオパシー，横紋筋融解症(各頻度不明)(脱力感，筋力低下，筋肉痛，四肢痙攣・麻痺，CK上昇，血中・尿中のミオグロビン上昇)。
5．肝機能障害(AST，ALT，Al－P，γ－GTP等の著しい上昇)，黄疸(各頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)

５ 生薬及び漢方処方に基づく医薬品

（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，発赤，掻痒等
消化器 食欲不振，胃部不快感，悪心，下痢等
精神神経系 傾眠
その他 倦怠感
（表終了）

ツムラ六君子湯エキス顆粒（医療用）（1g）

両 内服 流通

【YJコード】5200141D1034
【薬効分類】5．2．0 漢方製剤
【一般名】六君子湯エキス
【メーカー】製)ツムラ
【薬価】18円/1g
【標榜薬効】漢方製剤
【区分】漢方薬

■効能効果・用法用量

【効能効果】胃腸が弱く，食欲がなく，みぞおちがつかえ，疲れやすく，貧血性で手足が冷えやすい下記
胃炎，胃アトニー，胃下垂，消化不良，食欲不振，胃痛，嘔吐
【用法用量】成人 1日7．5g 1日2～3回 分割 食前又は食間 内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．偽アルドステロン症（頻度不明）（低カリウム血症，血圧上昇，ナトリウム・体液の貯留，浮腫，体重増加等）。
2．ミオパシー（頻度不明）（脱力感，四肢痙攣・麻痺等）。
3．肝機能障害（AST，ALT，AlーP，γーGTP等の著しい上昇），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹等
消化器 悪心，腹部膨満感，下痢等
（表終了）

6 病原生物に対する医薬品

6 病原生物に対する医薬品

6．1 抗生物質製剤

6．1．1 主としてグラム陽性菌に作用するもの

クリンダマイシンリン酸エステル注射液600mg「サワイ」（600mg1管）

両 注射 流通

【YJコード】6112401A2158
【薬効分類】6．1．1 主としてグラム陽性菌に作用するもの
【一般名】クリンダマイシンリン酸エステル
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】387円/1A
【薬価収載日】2011/11/28
【標榜薬効】リンコマイシン系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種
ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，ペプトストレプトコッカス属，バクテロイデス属，プレボテラ属，マイコプラズマ属
適応症
敗血症，咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，肺炎，慢性呼吸器病変の二次感染，中耳炎，副鼻腔炎，顎骨周辺の蜂巣炎，顎炎
注意
咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，中耳炎，副鼻腔炎
1．「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
効能共通
2．本剤の投与で偽膜性大腸炎の可能性，下記には投与しない。
・軽微な感染症。
・他に有効な使用薬剤あり。
【用法用量】点滴静注
300～600mgあたり100～250mLの5%ブドウ糖液，生食又はアミノ酸製剤等の補液に溶解。
成人 1日600～1200mg 1日2～4回 分割 30分～1時間かけ点滴静注。
小児 1日15～25mg／kg 1日3～4回 分割 30分～1時間かけ点滴静注。
難治性・重症感染症 成人 1日2400mgまで増量 1日2～4回 分割 30分～1時間かけ 点滴静注。
小児 1日40mg／kgまで増量 1日3～4回 分割 30分～1時間かけ 点滴静注。
筋注
成人 1日600～1200mg 1日2～4回 分割 筋注。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分・リンコマイシン系抗生剤に過敏症の既往。
2．エリスロマイシンの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック(頻度不明)，アナフィラキシー(頻度不明)(呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等)。
2．偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎(頻度不明)(腹痛，頻回の下痢)。
3．中毒性表皮壊死融解症(頻度不明)，皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)，急性汎発性発疹性膿疱症(頻度不明)，剥脱性皮膚炎(頻度不明)。
4．薬剤性過敏症症候群(頻度不明)(発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状)。
5．間質性肺炎(頻度不明)，PIE症候群(頻度不明)(発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等)。
6．心停止(頻度不明)。
7．汎血球減少(頻度不明)，無顆粒球症(頻度不明)，血小板減少(0.01%)。
8．肝機能障害(頻度不明)(AST，ALT，AI－P等の上昇)，黄疸(頻度不明)。
9．急性腎障害(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
消化器 下痢，悪心・嘔吐 食欲不振，腹痛 舌炎
過敏症 発疹，掻痒 紅斑，浮腫
血液 好酸球増多 白血球減少，顆粒球減少
腎臓 BUNの上昇 クレアチニンの上昇，窒素血症，乏尿，蛋白尿
神経系 耳鳴，眩暈
菌交代症 口内炎 カンジダ症
注射部位 疼痛・硬結(筋注) 血栓性静脈炎(静注)，壊死・無菌膿瘍(筋注)
その他 苦味 顔面のほてり，発熱，頭痛，倦怠感 膣炎，小水疱性皮膚炎，多発性関節炎
(表終了)

ステルイズ水性懸濁筋注240万単位シリンジ（240万単位1筒）

内 注射 流通

【YJコード】6111403G2020
【薬効分類】6．1．1 主としてグラム陽性菌に作用するもの
【一般名】ベンジルペニシリンベンザチン水和物
【メーカー】製)ファイザー
【薬価】10025円/1筒
【薬価収載日】2021/11/25
【標榜薬効】持続性ペニシリン製剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種 梅毒トレポネーマ
適応症 梅毒(神経梅毒除く)
【用法用量】成人・13歳以上の小児
早期梅毒
240万単位 単回 筋注。
後期梅毒
1回240万単位 週1回 計3回 筋注。
2～13歳未満の小児
早期梅毒
240万単位 単回 筋注。適宜減量。
後期梅毒
1回240万単位 週1回 計3回 筋注。適宜減量。
2歳未満の小児
早期先天梅毒，早期梅毒
5万単位／kg 単回 筋注。
注意
国内外の各種ガイドライン等，最新の情報を参考に投与。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)。
2．偽膜性大腸炎(頻度不明)，クロストリジウム・ディフィシル性下痢等の血便を伴う重篤な大腸炎(腹痛，頻回の下痢)。
3．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群(各頻度不明)。
4．間質性腎炎，急性腎障害(各頻度不明)。
5．溶血性貧血(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 皮疹(斑状丘疹状皮疹，剥脱性皮膚炎)，蕁麻疹，喉頭浮腫，発熱，血清病様反応(悪寒，発熱，浮腫，関節痛，疲はい)，アレルギー性血管炎，掻痒症，疲労，無力症，疼痛
心血管障害 低血圧，頻脈，動悸，肺高血圧症，血管拡張，血管迷走神経性反応，失神，チアノーゼ
呼吸器，胸郭・縦隔障害 低酸素症，呼吸困難，無呼吸
血液・リンパ系障害 好酸球増加症，白血球減少症，血小板減少症，リンパ節症
精神神経系障害 神経過敏，振戦，浮動性眩暈，傾眠，錯乱，不安，多幸症，横断性脊髄炎，昏睡，ホイグネ症候群(重度の錯乱を伴う激越，幻聴と幻視，死の恐怖)，精神病，痙攣発作，耳鳴，ニューロパチー，頭痛，味覚異常
眼障害 霧視，失明
胃腸障害 悪心，嘔吐，血便，腸壊死
腎・尿路障害 腎症，神経因性膀胱，血尿，蛋白尿，腎不全
生殖系・乳房障害 インポテンス，持続勃起症
皮膚・皮下組織障害 発汗
一般・全身障害・投与部位の状態 先在疾患の増悪，ニコラウ症候群
筋骨格系・結合組織障害 関節障害，骨膜炎，関節炎増悪，ミオグロビン尿，横紋筋融解症
投与部位 疼痛，炎症，腫瘤，膿瘍，壊死，浮腫，出血，蜂巣炎，過敏反応，萎縮，斑状出血，皮膚潰瘍，潰瘍
神経血管反応 温感，血管痙攣，蒼白，皮膚変色，壊疽，四肢のしびれ感，末梢神経損傷
臨床検査 BUN増加，クレアチニン増加，血清GOT増加
その他 ヤーリッシュ・ヘルクスハイマー反応
(表終了)

6 病原生物に対する医薬品

ダラシンカプセル150mg（150mg1カプセル）

両 内服 流通

【YJコード】6112001M2038
【薬効分類】6．1．1 主としてグラム陽性菌に作用するもの
【一般名】クリンダマイシン塩酸塩
【メーカー】製)ファイザー
【薬価】23.8円/1C
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】リンコマイシン系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種
ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌
適応症
表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，慢性膿皮症，咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，肺炎，慢性呼吸器病変の二次感染，涙嚢炎，麦粒腫，外耳炎，中耳炎，副鼻腔炎，顎骨周辺の蜂巣炎，顎炎，猩紅熱
注意
咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，中耳炎，副鼻腔炎
1.「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
効能共通
2．本剤の投与で偽膜性大腸炎の可能性，下記には投与しない。
・軽微な感染症。
・他に有効な使用薬剤あり。
【用法用量】成人 1回150mg 6時間ごと 内服。
重症感染症 1回300mg 8時間ごと 内服。
小児 1日15mg／kg 1日3～4回 分割 内服。
重症感染症 1日20mg／kg 1日3～4回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分・リンコマイシン系抗生剤に過敏症の既往。
2．エリスロマイシンの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック(頻度不明)，アナフィラキシー(頻度不明)(呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等)。
2．偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎(頻度不明)(腹痛，頻回の下痢)。
3．中毒性表皮壊死融解症(頻度不明)，皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)，急性汎発性発疹性膿疱症(頻度不明)，剥脱性皮膚炎(頻度不明)。
4．薬剤性過敏症症候群(頻度不明)(発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状)。
5．汎血球減少(頻度不明)，無顆粒球症(頻度不明)，血小板減少(頻度不明)。
6．間質性肺炎(頻度不明)，PIE症候群(頻度不明)(発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等)。
7．肝機能障害(頻度不明)(AST，ALT，AI－P等の上昇)，黄疸(頻度不明)。
8．急性腎障害(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
消化器 食道炎，食道潰瘍，下痢，軟便，食欲不振，悪心・嘔吐，腹痛，舌炎
過敏症 掻痒，発疹，浮腫
血液 好酸球増多，白血球減少，顆粒球減少
肝臓 AI－Pの上昇，ASTの上昇，ALTの上昇
腎臓 BUNの上昇，クレアチニンの上昇，NPNの上昇，窒素血症，乏尿，蛋白尿
神経系 耳鳴，眩暈
菌交代症 口内炎，カンジダ症
その他 発熱，頭痛，倦怠感，膣炎，小水疱性皮膚炎，多発性関節炎，苦味
(表終了)

注射用ペニシリンGカリウム100万単位（100万単位1瓶）

両 注射 流通

【YJコード】6111400D3051
【薬効分類】6．1．1 主としてグラム陽性菌に作用するもの
【一般名】ベンジルペニシリンカリウム
【メーカー】製)MeijiSeikaファルマ
【薬価】485円/1V
【薬価収載日】2003/10/30
【標榜薬効】ペニシリン系抗生物質製剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種 ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，腸球菌属，淋菌，髄膜炎菌，ジフテリア菌，炭疽菌，放線菌，破傷風菌，ガス壊疽菌群，回帰熱ボレリア，ワイル病レプトスピラ，鼠咬症スピリルム，梅毒トレポネーマ
適応症 敗血症，感染性心内膜炎，表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，リンパ管・リンパ節炎，乳腺炎，咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，肺炎，肺膿瘍，膿胸，慢性呼吸器病変の二次感染，淋菌感染症，化膿性髄膜炎，中耳炎，副鼻腔炎，猩紅熱，炭疽，ジフテリア(抗毒素併用)，鼠咬症，破傷風(抗毒素併用)，ガス壊疽(抗毒素併用)，放線菌症，回帰熱，ワイル病，梅毒
注意
咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，中耳炎，副鼻腔炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】化膿性髄膜炎・感染性心内膜炎・梅毒を除く感染症
成人 1回30～60万単位 1日2～4回 筋注。
適宜増減。
化膿性髄膜炎
成人 1回400万単位 1日6回 点滴静注。
適宜減量。
感染性心内膜炎
成人 1回400万単位 1日6回 点滴静注。
適宜増減，1回500万単位 1日3000万単位まで。
梅毒
成人 1回300～400万単位 1日6回 点滴静注。
適宜減量。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック(頻度不明)(不快感，口内異常感，喘鳴，眩暈，便意，耳鳴等)。
2．溶血性貧血，無顆粒球症(各頻度不明)。
3．急性腎障害等の重篤な腎障害(頻度不明)。
4．痙攣(頻度不明)等の神経症状。
5．偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎(頻度不明)(腹痛，頻回の下痢)。
6．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群(各頻度不明)。
7．出血性膀胱炎(頻度不明)(頻尿，排尿痛，血尿，残尿感等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発熱，発疹，蕁麻疹
血液 好酸球増多，顆粒球減少，血小板減少，貧血
肝臓 AST上昇
投与部位 血管痛，静脈炎
その他 梅毒のヤーリッシュ・ヘルクスハイマー反応(発熱，全身倦怠感，頭痛等の発現，病変部の増悪)
(表終了)

テイコプラニン点滴静注用200mg「日医工」（200mg1瓶）

両 注射 後発 流通
劇

【YJコード】6119401D1051
【薬効分類】6．1．1 主としてグラム陽性菌に作用するもの
【一般名】テイコプラニン
【先発品】注射用タゴシッド200mg
【メーカー】製)日医工
【薬価】1404円/1V
【薬価収載日】2008/07/04
【標榜薬効】グリコペプチド系抗生物質製剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種 MRSA
適応症 敗血症，深在性皮膚感染症，慢性膿皮症，外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，肺炎，膿胸，慢性呼吸器病変の二次感染
注意
MRSA感染症のみ有用性あり。
【用法用量】成人 初日 1日400mg，又は1日800mg 1日2回 分割，以後1日200mg，又は1日400mg 1日1回 30分以上かけ 点滴静注。
敗血症 初日 1日800mg 1日2回 分割，以後1日400mg 1日1回 30分以上かけ 点滴静注。
乳・幼・小児 10mg／kg 12時間間隔で3回，以後6～10mg／kg (敗血症等の重症感染症では10mg／kg) 24時間ごと 30分以上かけ 点滴静注。
新生児(低出生体重児含む) 初回のみ16mg／kg，以後8mg／kg

6 病原生物に対する医薬品

24時間ごと 30分以上かけ 点滴静注。
適宜増減。
注意
1. 投与中は血中濃度をモニタリング。トラフレベルの血中濃度は5～10μg／mLを保つことが投与の目安，敗血症等の重症感染症では確実な効果を得るため10μg／mL以上を保つ。
2. 腎臓から排泄され，腎機能障害では腎機能正常者よりも血中半減期が延長するので，投与量を調節する必要あり。クレアチニンクリアランスから投与量・投与間隔を調節する目安は下記。血液透析・腹膜透析へは，クレアチニンクリアランスが10mL／分以下の患者と同様。
（表開始）
障害度 初期投与（3日目まで） 4日目以降
60≧Ccr＞40 腎機能正常者と同投与量 1日量を半減か隔日。
40≧Ccr＞10 腎機能正常者と同投与量 1日量を1／3に減ずるか3日ごと。
10≧Ccr 腎機能正常者と同投与量 1日量を1／5に減ずるか5日ごと。
（表終了）
3. ショック・レッドマン症候群（顔，頸，躯幹の紅斑性充血，掻痒等）の報告あり，30分以上かけ点滴静注し，急速なワンショット静注をしない。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（気管支痙攣，血管浮腫，呼吸困難，顔面蒼白，発汗，頻脈等）。
2. 第8脳神経障害（頻度不明）（眩暈，耳鳴，聴力低下等）。
3. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，急性汎発性発疹性膿疱症，紅皮症（剥脱性皮膚炎）（各頻度不明）。
4. 無顆粒球症，白血球減少，血小板減少（各頻度不明）。
5. 急性腎障害（頻度不明）。
6. 肝機能障害（AST，ALT，LDH，AI－P，γ－GTP，総ビリルビン等の上昇），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発熱，発疹
肝臓 AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇，γ－GTP上昇 黄疸，LDH上昇，ビリルビン上昇
血液 好酸球増多 貧血，白血球減少 汎血球減少
腎臓 BUN上昇 血清クレアチニン上昇
循環器 血圧低下 動悸 血圧上昇
消化器 食欲不振，下痢，嘔吐 悪心
その他 痙攣 注射部位疼痛，静脈炎，悪寒，頭痛，菌交代症
（表終了）

バクトロバン鼻腔用軟膏2%（2%1g）

両 外用 流通

【YJコード】6119700M1035
【薬効分類】6．1．1 主としてグラム陽性菌に作用するもの
【一般名】ムピロシンカルシウム水和物
【メーカー】製）グラクソ・スミスクライン
【薬価】524.4円／1g
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】鼻腔内MRSA除菌剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種 MRSA
適応症 下記及び個人の保菌する鼻腔内のMRSAの除菌
（1）．MRSA感染症発症の危険性の高い免疫機能の低下状態にある患者（易感染患者）
（2）．易感染患者から隔離することが困難な入院患者
（3）．易感染患者に接する医療従事者
注意
1. うがい，手洗い等の他の感染対策を講じた上で適用。
2. 易感染患者は「院内感染対策の手引き－MRSAに注目して－」の定義を参考に，鼻腔内に保菌するMRSAで内因性のMRSA感染症を発症する危険性が高い場合に使用。
（1）．高齢者，寝たきり高齢患者。
（2）．免疫不全状態にある患者（悪性腫瘍患者，糖尿病患者，免疫抑制剤・抗癌剤投与患者等）。
（3）．侵襲が大きく，長時間を要する手術患者（心臓，大血管手術，腹部大手術患者等）。
（4）．IVH施行患者。
（5）．気管内挿管等の長期呼吸管理患者。
（6）．広範囲の熱傷・外傷患者。
3. 鼻腔内にMRSAを保菌する入院患者は，易感染患者から隔離する等，接触を断つ措置を講ずる。困難時は適用を考慮。
4. 鼻腔内にMRSAを保菌する医療従事者は，医師，看護師等で，易感染患者と頻回に接することが避けられない時に適用を考慮。
【用法用量】1日3回 鼻腔内 塗布。
注意
耐性菌の発現等を防ぐため，感受性を確認し，必要最小限の期間（3日間程度）にとどめ，漫然と長期投与しない。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
投与部位 軽度の局所反応（鼻炎様症状，刺激感等）
皮膚 過敏症（発疹，発赤，掻痒等）
（表終了）

ハベカシン注射液200mg（200mg4mL1管）

両 注射 流通
劇

【YJコード】6119400A4025
【薬効分類】6．1．1 主としてグラム陽性菌に作用するもの
【一般名】アルベカシン硫酸塩
【メーカー】製）MeijiSeikaファルマ
【薬価】5830円／1A
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】アミノグリコシド系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種 MRSA
適応症 敗血症，肺炎
注意
MRSA感染症のみ有用性あり。投与時は，下記に注意。
・MRSA感染症の診断確定時に投与。
・臨床症状・菌の検出状況からMRSA感染症と推定時，個々の患者背景，臨床症状の推移等を考慮し，投与可否を判断。
【用法用量】成人 アルベカシン硫酸塩 1回150～200mg 1日1回 30分～2時間かけ 点滴静注。
必要時 1日150～200mg 1日2回 分割 点滴静注。
静注が困難な時 アルベカシン硫酸塩 1日150～200mg 1日1～2回 分割 筋注。
適宜増減。
小児 アルベカシン硫酸塩 1回4～6mg／kg 1日1回 30分かけ 点滴静注。
必要時 1日4～6mg／kg 1日2回 分割 点滴静注。
適宜増減。
注意
1. 1日1回静注。
2. 腎機能異常，聴力障害等の副作用に注意し，投与期間は，14日以内。14日以上投与する時，その理由を常時明確にし漫然と継続投与しない。
3. 体の大きい小児 成人の1日最高200mgまで。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・アミノグリコシド系抗生剤・バシトラシンに過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック（0．1%未満）。
2. 痙攣（0．1%未満）。
3. 眩暈，耳鳴，耳閉感（各0．1%未満），難聴（0．1～5%未満）等の第8脳神経障害。
4. 急性腎障害等の重篤な腎障害（0．1～5%未満）。
5. 汎血球減少（0．1%未満）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
肝臓 AST，ALT，AI－P，LDH，γ－GTPの上昇 黄疸
腎臓 BUN，クレアチニンの上昇，蛋白尿，カリウム等電解質の異常 浮腫，血尿
過敏症 発疹 掻痒，発赤，発熱，蕁麻疹
血液 貧血，白血球減少，血小板減少，好酸球増多
消化器 下痢 下血，軟便，腹痛，悪心・嘔吐，食欲不振
注射部位 注射局所の疼痛・硬結（筋注時）
ビタミン欠乏症 ビタミンK欠乏症状（低プロトロンビン血症，出血傾向等），ビタミンB群欠乏症状（舌炎，口内炎，食欲不振，神経炎等）
その他 頭痛，手指しびれ感，全身倦怠感
（表終了）

6 病原生物に対する医薬品

バンコマイシン塩酸塩散0．5g「明治」（500mg1瓶）

両 内服 流通

【YJコード】6113001B1135
【薬効分類】6．1．1 主としてグラム陽性菌に作用するもの
【一般名】バンコマイシン塩酸塩
【メーカー】製)MeijiSeikaファルマ
【薬価】909.6円/1V
【薬価収載日】2021/03/25
【標榜薬効】グリコペプチド系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○感染性腸炎
適応菌種 MRSA，クロストリジウム・ディフィシル
適応症 感染性腸炎（偽膜性大腸炎含む）
○骨髄移植時の消化管内殺菌
注意
効能共通
耐性菌の発現を防ぐため，他の抗菌薬・本剤に対する感受性を確認。
感染性腸炎（偽膜性大腸炎含む）
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】感染性腸炎（偽膜性大腸炎含む）
成人 1回0．125～0．5g 1日4回 内服（用時溶解）。
適宜増減。
骨髄移植時の消化管内殺菌
成人 1回0．5g 1日4～6回 非吸収性の抗菌剤・抗真菌剤と併用し内服（用時溶解）。
適宜増減。
注意
感染性腸炎（偽膜性大腸炎含む）
7～10日以内に下痢，腹痛，発熱等の症状改善なければ投与中止。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分にショックの既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（血圧低下，不快感，口内異常感，喘鳴，眩暈，便意，耳鳴り，発汗等）。
2．急性腎障害，間質性腎炎（各頻度不明）。
3．汎血球減少，無顆粒球症，血小板減少（各頻度不明）。
4．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，剥脱性皮膚炎（各頻度不明）。
5．薬剤性過敏症症候群（頻度不明）。
6．第8脳神経障害（頻度不明）。
7．偽膜性大腸炎（頻度不明）。
8．肝機能障害，黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 3%以上 3%未満 頻度不明
過敏症 発熱 発疹，潮紅，悪寒，蕁麻疹，掻痒
血液 血小板減少 好酸球増多 白血球減少，貧血
肝臓 AST上昇 ALT上昇 AI－P上昇
消化器 下痢 悪心，嘔吐，食欲不振
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇
その他 舌炎 口内炎
（表終了）

バンコマイシン塩酸塩点滴静注用0．5g「明治」（0．5g1瓶）

両 注射 流通

【YJコード】6113400A1219
【薬効分類】6．1．1 主としてグラム陽性菌に作用するもの
【一般名】バンコマイシン塩酸塩
【メーカー】製)MeijiSeikaファルマ
【薬価】754円/1V
【薬価収載日】2021/04/23
【標榜薬効】グリコペプチド系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○適応菌種 MRSA
適応症 敗血症，感染性心内膜炎，外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，骨髄炎，関節炎，肺炎，肺膿瘍，膿胸，腹膜炎，化膿性髄膜炎
○適応菌種 メチシリン耐性コアグラーゼ陰性ブドウ球菌（MRCNS）
適応症 敗血症，感染性心内膜炎，外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，骨髄炎，関節炎，腹膜炎，化膿性髄膜炎
○適応菌種 ペニシリン耐性肺炎球菌（PRSP）
適応症 敗血症，肺炎，化膿性髄膜炎
○MRSA・MRCNS感染が疑われる発熱性好中球減少症
注意
効能共通
1．耐性菌の発現を防ぐため，他の抗菌薬・本剤に対する感受性を確認。
2．MRSA感染症，MRCNS感染症，PRSP感染症に有用性あり。ブドウ球菌性腸炎は非経口的に投与しても有用性なし。
化膿性髄膜炎
3．後遺症として聴覚障害のおそれ，小児等，適応患者の選択に注意し，慎重投与。
PRSP肺炎
4．アレルギー，薬剤感受性等他剤による効果が期待できない時にのみ使用。
MRSA・MRCNS感染が疑われる発熱性好中球減少症
5．下記の2条件を満たし，MRSA・MRCNSが原因菌と疑われる症例に投与。
（1）．1回の検温で38℃以上の発熱，又は1時間以上持続する37．5℃以上の発熱。
（2）．好中球数が500／mm3未満の時，又は1000／mm3未満で500／mm3未満に減少することが予測される時。
6．国内外のガイドラインを参照し，治療に熟知した医師のもとで，適切と判断される症例にのみ実施。
7．投与前に血液培養を実施。MRSA・MRCNS感染の可能性が否定された時，投与中止や他剤への変更を考慮。腫瘍熱・薬剤熱等の非感染性の発熱である時，速やかに投与中止。
8．投与の開始時期の指標である好中球数が緊急時等で確認できない時は，白血球数の半数を好中球数として推定。
【用法用量】成人 バンコマイシン塩酸塩 1回0．5g 1日2g 6時間ごと，又は1回1g 12時間ごと 各60分以上かけ 点滴静注。
適宜増減。
高齢者 1回0．5g 12時間ごと，又は1回1g 24時間ごと 各60分以上かけ 点滴静注。
適宜増減。
小児，乳児 1日40mg／kg 1日2～4回 分割 各60分以上かけ 点滴静注。
新生児 1回10～15mg／kg 生後1週まで 12時間ごと，生後1ヵ月まで 8時間ごと 各60分以上かけ 点滴静注。
注意
効能共通
1．急速なワンショット静注，短時間での点滴静注を行うとヒスタミンが遊離されてred neck症候群（顔，頸，躯幹の紅斑性充血，掻痒等），血圧低下等の副作用の可能性，60分以上かけて点滴静注。
2．腎機能障害 健康者より血中濃度の半減期が延長するので，投与量を修正する必要あり。クレアチニンクリアランスから投与量を修正する目安は下図により算出できる（外国）。
MRSA・MRCNS感染が疑われる発熱性好中球減少症
3．好中球数，発熱の回復があれば，投与中止を考慮。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，全身潮紅，浮腫等）。
2．急性腎障害，間質性腎炎（各頻度不明）等の重篤な腎障害。
3．汎血球減少，無顆粒球症，血小板減少（各頻度不明）。
4．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，剥脱性皮膚炎（各頻度不明）。
5．薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
6．第8脳神経障害（頻度不明）（眩暈，耳鳴，聴力低下，難聴等）。
7．偽膜性大腸炎（頻度不明）等の血便を伴う重篤な大腸炎（腹痛，頻回の下痢）。
8．肝機能障害（AST，ALT，AI－P等の上昇），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 2%以上 2%未満 頻度不明
過敏症 発疹 発赤，顔面潮紅 掻痒，蕁麻疹，線状IgA水疱症
肝臓 AST上昇，ALT上昇，ビリルビン上昇 AI－P上昇，LDH上昇 γ－GTP上昇，LAP上昇
腎臓 BUN上昇 クレアチニン上昇
血液 白血球減少，血小板減少，好酸球増多 貧血
消化器 下痢 嘔気，嘔吐，腹痛
その他 発熱，静脈炎，血管痛 皮膚血管炎，悪寒，注射部疼痛
（表終了）

バンコマイシン塩酸塩点滴静注用1g「明治」（1g1瓶）

両 注射 流通

【YJコード】6113400A2061
【薬効分類】6．1．1 主としてグラム陽性菌に作用するもの
【一般名】バンコマイシン塩酸塩
【メーカー】製)MeijiSeikaファルマ

6 病原生物に対する医薬品

【薬価】1505円/1V
【薬価収載日】2021/12/09
【標榜薬効】グリコペプチド系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○適応菌種 MRSA
適応症 敗血症，感染性心内膜炎，外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，骨髄炎，関節炎，肺炎，肺膿瘍，膿胸，腹膜炎，化膿性髄膜炎
○適応菌種 メチシリン耐性コアグラーゼ陰性ブドウ球菌（MRCNS）
適応症 敗血症，感染性心内膜炎，外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，骨髄炎，関節炎，腹膜炎，化膿性髄膜炎
○適応菌種 ペニシリン耐性肺炎球菌（PRSP）
適応症 敗血症，肺炎，化膿性髄膜炎
○MRSA・MRCNS感染が疑われる発熱性好中球減少症
注意
効能共通
1. 耐性菌の発現を防ぐため，他の抗菌薬・本剤に対する感受性を確認。
2. MRSA感染症，MRCNS感染症，PRSP感染症に有用性あり。ブドウ球菌性腸炎は非経口的に投与しても有用性なし。
化膿性髄膜炎
3. 後遺症として聴覚障害のおそれ，小児等，適応患者の選択に注意し，慎重投与。
PRSP肺炎
4. アレルギー，薬剤感受性等他剤による効果が期待できない時にのみ使用。
MRSA・MRCNS感染が疑われる発熱性好中球減少症
5. 下記の2条件を満たし，MRSA・MRCNSが原因菌と疑われる症例に投与。
（1）. 1回の検温で38℃以上の発熱，又は1時間以上持続する37.5℃以上の発熱。
（2）. 好中球数が500／mm3未満の時，又は1000／mm3未満で500／mm3未満に減少することが予測される時。
6. 国内外のガイドラインを参照し，治療に熟知した医師のもとで，適切と判断される症例にのみ実施。
7. 投与前に血液培養を実施。MRSA・MRCNS感染の可能性が否定された時，投与中止や他剤への変更を考慮。腫瘍熱・薬剤熱等の非感染性の発熱である時，速やかに投与中止。
8. 投与の開始時期の指標である好中球数が緊急時等で確認できない時は，白血球数の半数を好中球数として推定。
【用法用量】成人 バンコマイシン塩酸塩 1回0. 5g 1日2g 6時間ごと，又は1回1g 12時間ごと 各60分以上かけ 点滴静注。
適宜増減。
高齢者 1回0. 5g 12時間ごと，又は1回1g 24時間ごと 各60分以上かけ 点滴静注。
適宜増減。
小児，乳児 1日40mg／kg 1日2～4回 分割 各60分以上かけ 点滴静注。
新生児 1回10～15mg／kg 生後1週まで 12時間ごと，生後1ヵ月まで 8時間ごと 各60分以上かけ 点滴静注。
注意
効能共通
1. 急速なワンショット静注，短時間での点滴静注を行うとヒスタミンが遊離されてred neck症候群（顔，頸，躯幹の紅斑性充血，掻痒等），血圧低下等の副作用の可能性，60分以上かけて点滴静注。
2. 腎機能障害 健康者より血中濃度の半減期が延長するので，投与量を修正する必要あり。クレアチニンクリアランスから投与量を修正する目安は下図により算出できる（外国）。
MRSA・MRCNS感染が疑われる発熱性好中球減少症
3. 好中球数，発熱の回復があれば，投与中止を考慮。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，全身潮紅，浮腫等）。
2. 急性腎障害，間質性腎炎（各頻度不明）等の重篤な腎障害。
3. 汎血球減少，無顆粒球症，血小板減少（各頻度不明）。
4. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，剥脱性皮膚炎（各頻度不明）。
5. 薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
6. 第8脳神経障害（頻度不明）（眩暈，耳鳴，聴力低下，難聴等）。
7. 偽膜性大腸炎（頻度不明）等の血便を伴う重篤な大腸炎（腹痛，頻回の下痢）。
8. 肝機能障害（AST，ALT，AI－P等の上昇），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 2%以上 2%未満 頻度不明
過敏症 発疹 発赤，顔面潮紅 掻痒，蕁麻疹，線状IgA水疱症
肝臓 AST上昇，ALT上昇，ビリルビン上昇 AI－P上昇，LDH上昇 γ－GTP上昇，LAP上昇
腎臓 BUN上昇 クレアチニン上昇
血液 白血球減少，血小板減少，好酸球増多 貧血
消化器 下痢 嘔気，嘔吐，腹痛
その他 発熱，静脈炎，血管痛 皮膚血管炎，悪寒，注射部疼痛
（表終了）

6．1．2 主としてグラム陰性菌に作用するもの

アミカシン硫酸塩注射液200mg「SW」（200mg1管）

内 注射 流通

【YJコード】6123402A3233
【薬効分類】6．1．2 主としてグラム陰性菌に作用するもの
【一般名】アミカシン硫酸塩
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】357円/1A
【薬価収載日】2023/06/16
【標榜薬効】アミノグリコシド系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種 大腸菌，シトロバクター属，クレブシエラ属，エンテロバクター属，セラチア属，プロテウス属，モルガネラ・モルガニー，プロビデンシア属，緑膿菌
適応症 敗血症，外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，肺炎，肺膿瘍，慢性呼吸器病変の二次感染，膀胱炎，腎盂腎炎，腹膜炎
【用法用量】筋注
成人 1回100～200mg 1日1～2回 筋注。
小児 1日4～8mg／kg 1日1～2回 筋注。
適宜増減。
点滴静注 100～500mLの補液中に100～200mgを溶解。
成人 1回100～200mg 1日2回 30分～1時間かけ 点滴静注。
小児 1日4～8mg／kg 1日2回 30分～1時間かけ 点滴静注。
新生児（未熟児含む） 1回6mg／kg 1日2回 30分～1時間かけ 点滴静注。
適宜増減。
注意
腎障害 起炎菌の感受性，感染症の重症度，感染部位，腎機能障害の程度を考慮，投与量・投与間隔を調整。
1．1回量調節法
体重・クレアチニンクリアランスを用い，図1又は計算式より求めた初回量・維持量を投与。
（図略）
8時間ごと投与の計算式
（表開始）
初回量（mg） DL＝D・W／5×10^4[（Ccr＋132）^2－1700]
維持量（mg） DM＝D・W／101（Ccr＋0. 7）
（表終了）
12時間ごとの計算式
（表開始）
初回量（mg） DL＝D・W／4. 3×10^4[（Ccr＋125）^2－6700]
維持量（mg） DM＝D・W／101（Ccr＋0. 7）
（表終了）
D 腎機能正常者に対する使用量（mg／kg），W 体重（kg） Ccr クレアチニンクリアランス（mL／分）
2．投与間隔調節法
「血清クレアチニン値×9」時間ごとに通常量を投与。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分・アミノグリコシド系抗生剤・バシトラシンに過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. ショック（0. 1%未満）（不快感，口内異常感，喘鳴，眩暈，便意，耳鳴，発汗等）。
2. 第8脳神経障害（0. 1～5%未満）（蝸牛機能障害）（耳鳴・耳閉塞感・耳痛・眩暈・難聴等）。
3. 重篤な腎障害（急性腎障害（頻度不明））。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 掻痒，発熱
腎臓 浮腫，蛋白尿，血尿，血清クレアチニン上昇，BUN上昇，乏尿 カリウム等の電解質異常
肝臓 AST上昇，ALT上昇 AI－P上昇
血液 白血球減少，好酸球増多
消化器 下痢，悪心・嘔吐
ビタミン欠乏症 ビタミンK欠乏症状（低プロトロンビン血症，出血傾向等），ビタミンB群欠乏症状（舌炎，口内炎，食欲不振，神経炎等）
投与部位（筋注時） 注射部位の疼痛，硬結
その他 頭痛，口唇部のしびれ感
（表終了）

6 病原生物に対する医薬品

カナマイシンカプセル250mg「明治」（250mg1カプセル）

両 内服 流通

【YJコード】6123003M1042
【薬効分類】6．1．2 主としてグラム陰性菌に作用するもの
【一般名】カナマイシン一硫酸塩
【メーカー】製)MeijiSeikaファルマ
【薬価】40円/1C
【薬価収載日】2008/12/19
【標榜薬効】アミノグリコシド系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種 大腸菌，赤痢菌，腸炎ビブリオ
適応症 感染性腸炎
注意
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】成人 1日2～4g 1日4回 分割 内服。
小児 1日50～100mg／kg 1日4回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分・アミノグリコシド系抗生剤・バシトラシンに過敏症の既往。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上又は頻度不明 0．1～5%未満 0．1%未満
神経系 難聴
腎臓 腎障害
消化器 食欲不振，悪心，下痢等の胃腸症状
過敏症 過敏症状
ビタミン欠乏症 ビタミンK欠乏症状（低プロトロンビン血症，出血傾向等），ビタミンB群欠乏症状（舌炎，口内炎，食欲不振，神経炎等）
（表終了）

6．1．3 主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの

アモキシシリンカプセル250mg「日医工」（250mg1カプセル）

両 内服 流通

【YJコード】6131001M2327
【薬効分類】6．1．3 主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
【一般名】アモキシシリン水和物
【メーカー】製)日医工ファーマ 販)日医工
【薬価】10.4円/1C
【薬価収載日】2008/12/19
【標榜薬効】合成ペニシリン製剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種
ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，腸球菌属，淋菌，大腸菌，プロテウス・ミラビリス，インフルエンザ菌，ヘリコバクター・ピロリ，梅毒トレポネーマ
適応症
表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，リンパ管・リンパ節炎，慢性膿皮症，外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，糜爛・潰瘍の二次感染，乳腺炎，骨髄炎，咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，肺炎，慢性呼吸器病変の二次感染，膀胱炎，腎盂腎炎，前立腺炎（急性症，慢性症），精巣上体炎（副睾丸炎），淋菌感染症，梅毒，子宮内感染，子宮付属器炎，子宮旁結合織炎，涙嚢炎，麦粒腫，中耳炎，歯周組織炎，歯冠周囲炎，顎炎，猩紅熱，胃潰瘍・十二指腸潰瘍・胃MALTリンパ腫・特発性血小板減少性紫斑病・早期胃癌の内視鏡的治療後胃のヘリコバクター・ピロリ感染症，ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎
注意
咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，中耳炎
1．「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
ヘリコバクター・ピロリ感染症，ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎
2．進行期胃MALTリンパ腫へのヘリコバクター・ピロリ除菌治療の有効性は未確立。
3．特発性血小板減少性紫斑病では，ガイドライン等を参照し，ヘリコバクター・ピロリ除菌治療が適切な症例にのみ行う。
4．早期胃癌の内視鏡的治療後胃以外には，ヘリコバクター・ピロリ除菌治療による胃癌の発症抑制への有効性は未確立。
5．ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎は，ヘリコバクター・ピロリの陽性と内視鏡検査で確認。
【用法用量】ヘリコバクター・ピロリ感染を除く感染症
成人 1回250mg 1日3～4回 内服。
適宜増減。
小児 1日20～40mg／kg 1日3～4回 分割 内服。
適宜増減，1日最大90mg／kg。
ヘリコバクター・ピロリ感染症，ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎
・アモキシシリン水和物，クラリスロマイシン，プロトンポンプインヒビター併用時
成人 1回アモキシシリン水和物750mg，1回クラリスロマイシン200mg，プロトンポンプインヒビター 3剤を同時に 1日2回 7日間 内服。
クラリスロマイシンは適宜増量，1回400mg 1日2回まで。
・アモキシシリン水和物，クラリスロマイシン，プロトンポンプインヒビター併用によるヘリコバクター・ピロリの除菌治療が不成功時
成人 1回アモキシシリン水和物750mg，1回メトロニダゾール250mg，プロトンポンプインヒビター 3剤を同時に 1日2回 7日間 内服。
注意
ヘリコバクター・ピロリ感染症，ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎
プロトンポンプインヒビターは1回ランソプラゾール30mg，1回オメプラゾール20mg，1回ラベプラゾールナトリウム10mg，1回エソメプラゾール20mg又は1回ボノプラザン20mgのいずれか1剤を選択。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．伝染性単核症。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各0．1%未満）（呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等，不快感，口内異常感，喘鳴，眩暈，便意，耳鳴，発汗等）。
2．アレルギー反応に伴う急性冠症候群（頻度不明）。
3．薬剤により誘発される胃腸炎症候群（頻度不明）（反復性嘔吐，下痢，嗜眠，顔面蒼白，低血圧，腹痛，好中球増加等を伴う，食物蛋白誘発性胃腸炎に類似したアレルギー性の胃腸炎）。
4．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各0．1%未満），多形紅斑，急性汎発性発疹性膿疱症，紅皮症（剥脱性皮膚炎）（各頻度不明）（発熱，頭痛，関節痛，皮膚・粘膜の紅斑・水疱，膿疱，皮膚の緊張感・灼熱感・疼痛等）。
5．顆粒球減少（0．1%未満），血小板減少（頻度不明）。
6．肝障害（頻度不明）（黄疸（0．1%未満），AST，ALTの上昇（各0．1%未満）等）。
7．急性腎障害等の重篤な腎障害（0．1%未満）。
8．偽膜性大腸炎，出血性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎（0．1%未満）（腹痛，頻回の下痢）。
9．間質性肺炎，好酸球性肺炎（各頻度不明）（咳嗽，呼吸困難，発熱等）。
10．無菌性髄膜炎（頻度不明）（項部硬直，発熱，頭痛，悪心・嘔吐，意識混濁等）。
その他の副作用（発現時中止等）（ヘリコバクター・ピロリ感染を除く感染症）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 発熱 掻痒
血液 好酸球増多
消化器 下痢，悪心，嘔吐，食欲不振，腹痛 黒毛舌
菌交代症 口内炎，カンジダ症
ビタミン欠乏症 ビタミンK欠乏症状（低プロトロンビン血症，出血傾向等），ビタミンB群欠乏症状（舌炎，口内炎，食欲不振，神経炎等）
その他 梅毒のヤーリッシュ・ヘルクスハイマー反応（発熱，全身倦怠感，頭痛等の発現，病変部の増悪）
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（ヘリコバクター・ピロリ感染症，ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
消化器 下痢（15．5%），軟便（13．5%），味覚異常 腹痛，腹部膨満感，口内炎，便秘，食道炎 口渇，悪心，舌炎，胃食道逆流，胸やけ，十二指腸炎，嘔吐，痔核，食欲不振 黒毛舌
肝臓 AST上昇，ALT上昇，LDH上昇，γ－GTP上昇 AI－P上昇，ビリルビン上昇
血液 好中球減少，好酸球増多 貧血，白血球増多
過敏症 発疹 掻痒
精神神経系 頭痛，しびれ感，眩暈，眠気，不眠，うつ状態
その他 尿蛋白陽性，トリグリセリド上昇，総コレステロールの上昇・低下 尿糖陽性，尿酸上昇，倦怠感，熱感，動悸，発熱，QT延長，カンジダ症，浮腫，血圧上昇，霧視
（表終了）

オーグメンチン配合錠250RS（（375mg）1錠）

両 内服 流通

【YJコード】6139100F2044
【薬効分類】6．1．3 主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
【一般名】アモキシシリン水和物・クラブラン酸カリウム

6 病原生物に対する医薬品

【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】45.7円/1T
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】複合抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種
ブドウ球菌属，淋菌，大腸菌，クレブシエラ属，プロテウス属，インフルエンザ菌，バクテロイデス属，プレボテラ属(プレボテラ・ビビア除く)
適応症
表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，リンパ管・リンパ節炎，慢性膿皮症，咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，慢性呼吸器病変の二次感染，膀胱炎，腎盂腎炎，淋菌感染症，子宮内感染，子宮付属器炎，中耳炎
注意
咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，中耳炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】成人　1回1錠　1日3～4回　6～8時間ごと　内服。適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 伝染性単核症。
3. 本剤の成分に黄疸・肝機能障害の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー(各0. 1%未満)(不快感，口内異常感，喘鳴，眩暈，便意，耳鳴，発汗，顔面浮腫，眼瞼浮腫等)。
2. アレルギー反応に伴う急性冠症候群(頻度不明)。
3. 薬剤により誘発される胃腸炎症候群(頻度不明)(反復性嘔吐，下痢，嗜眠，顔面蒼白，低血圧，腹痛，好中球増加等を伴う，食物蛋白誘発性胃腸炎に類似したアレルギー性の胃腸炎)。
4. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，急性汎発性発疹性膿疱症(各0. 1%未満)，多形紅斑，紅皮症(剥脱性皮膚炎)(各頻度不明)(発熱，頭痛，関節痛，皮膚や粘膜の紅斑・水疱，膿疱，皮膚の緊張感・灼熱感・疼痛等)。
5. 無顆粒球症，顆粒球減少(各頻度不明)，血小板減少(0. 1%未満)。
6. 急性腎障害(0. 1%未満)。
7. 偽膜性大腸炎，出血性大腸炎(各0. 1%未満)等の血便を伴う重篤な大腸炎(腹痛，頻回の下痢)。
8. 肝障害(肝炎，黄疸(各0. 1%未満)，AST，ALT，AI－Pの上昇(各0. 1～5%未満)等)，死亡。
9. 間質性肺炎，好酸球性肺炎(各頻度不明)(咳嗽，呼吸困難，発熱等)。
10. 無菌性髄膜炎(頻度不明)(項部硬直，発熱，頭痛，悪心・嘔吐，意識混濁等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 発熱，蕁麻疹，掻痒，血管神経性浮腫，血清病様症候群，過敏性血管炎
血液 好酸球増多 貧血，白血球減少，好中球減少，溶血性貧血
消化器 悪心，嘔吐，下痢，食欲不振 歯牙変色，黒毛舌，変色便，消化不良
菌交代症 口内炎，カンジダ症
ビタミン欠乏症 ビタミンK欠乏症状(低プロトロンビン血症，出血傾向等)，ビタミンB群欠乏症状(舌炎，口内炎，食欲不振，神経炎等)
中枢神経 頭痛，痙攣 浮動性眩暈，多動
腎臓 結晶尿
皮膚 線状IgA水疱症
(表終了)

クラバモックス小児用配合ドライシロップ((636. 5mg)1g)
両　内服　流通

【YJコード】6139100R1036
【薬効分類】6. 1. 3　主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
【一般名】アモキシシリン水和物・クラブラン酸カリウム
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】107.4円/1g
【薬価収載日】2010/05/28
【標榜薬効】β－ラクタマーゼ阻害剤配合ペニシリン系抗生物質製剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種
肺炎球菌(ペニシリンGに対するMIC≦2μg/mL)，モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス，インフルエンザ菌，ブドウ球菌属，大腸菌，クレブシエラ属，プロテウス属，バクテロイデス属，プレボテラ属(プレボテラ・ビビア除く)
適応症
表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，リンパ管・リンパ節炎，慢性膿皮症，咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，膀胱炎，腎盂腎炎，中耳炎，副鼻腔炎
注意
咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，中耳炎，副鼻腔炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】小児　クラバモックス　1日96. 4mg/kg(クラブラン酸カリウム　6. 4mg/kg，アモキシシリン水和物　90mg/kg)　1日2回分割　12時間ごと　食直前　内服。
注意
分包製剤
1. 下表の体重換算による服用量を目安とし，適宜投与量を決める。
(表開始)
1日量(本剤)(g) 1. 01 2. 02 3. 03 4. 04 5. 05 6. 06
体重(kg) 6～10 11～16 17～23 24～30 31～36 37～39
(表終了)
ボトル製剤
2. 1日量(調製後懸濁液として)が0. 75mL/kgになるよう調製。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 伝染性単核症。
3. 本剤の成分に黄疸・肝機能障害の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(不快感，口内異常感，喘鳴，眩暈，便意，耳鳴，発汗，顔面浮腫，眼瞼浮腫等)。
2. アレルギー反応に伴う急性冠症候群(頻度不明)。
3. 薬剤により誘発される胃腸炎症候群(頻度不明)(反復性嘔吐，下痢，嗜眠，顔面蒼白，低血圧，腹痛，好中球増加等を伴う，食物蛋白誘発性胃腸炎に類似したアレルギー性の胃腸炎)。
4. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑，急性汎発性発疹性膿疱症，紅皮症(剥脱性皮膚炎)(各頻度不明)(発熱，頭痛，関節痛，皮膚や粘膜の紅斑・水疱，膿疱，皮膚の緊張感・灼熱感・疼痛等)。
5. 無顆粒球症，顆粒球減少，血小板減少(各頻度不明)。
6. 急性腎障害(頻度不明)。
7. 偽膜性大腸炎，出血性大腸炎(各頻度不明)等の血便を伴う重篤な大腸炎(腹痛，頻回の下痢)。
8. 肝障害(肝炎，黄疸，AST，ALT，AI－Pの上昇(各頻度不明)等)，死亡。
9. 間質性肺炎，好酸球性肺炎(各頻度不明)(咳嗽，呼吸困難，発熱等)。
10. 無菌性髄膜炎(頻度不明)(項部硬直，発熱，頭痛，悪心・嘔吐，意識混濁等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒 発熱，蕁麻疹，血管神経性浮腫，血清病様症候群，過敏性血管炎
血液 好酸球増多，貧血，白血球減少，好中球減少，溶血性貧血
消化器 下痢，悪心，嘔吐 食欲不振，歯牙変色，黒毛舌，変色便，消化不良
菌交代症 カンジダ症，口内炎
ビタミン欠乏症 ビタミンK欠乏症状(低プロトロンビン血症，出血傾向等)，ビタミンB群欠乏症状(舌炎，口内炎，食欲不振，神経炎等)
中枢神経 頭痛，痙攣，浮動性眩暈，多動
腎臓 結晶尿
皮膚 線状IgA水疱症
(表終了)

ケフラールカプセル250mg (250mg1カプセル)
両　内服　流通

【YJコード】6132005M1059
【薬効分類】6. 1. 3　主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
【一般名】セファクロル
【メーカー】製)共和薬品工業　販)塩野義製薬
【薬価】54.7円/1C
【標榜薬効】セフェム系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種 ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，大腸菌，クレブシエラ属，プロテウス・ミラビリス，インフルエンザ菌
適応症
1. 表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，リンパ管・リンパ節炎，慢性膿皮症
2. 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，乳腺炎
3. 咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，肺炎，慢性呼吸器病変の二次感染
4. 膀胱炎，腎盂腎炎
5. 麦粒腫
6. 中耳炎

6 病原生物に対する医薬品

7. 歯周組織炎，歯冠周囲炎，顎炎
8. 猩紅熱
注意
咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，中耳炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】成人，体重20kg以上の小児　1日750mg　1日3回　分割内服。
重症時や分離菌の感受性が比較的低い症例 1日1500mg　1日3回　分割　内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（各0.1%未満）（呼吸困難，喘鳴，全身潮紅，浮腫等）。
2. 急性腎障害（頻度不明）等の重篤な腎障害。
3. 汎血球減少，無顆粒球症，血小板減少（各頻度不明）。
4. 偽膜性大腸炎（0.1%未満）等の血便を伴う重篤な大腸炎（腹痛，頻回の下痢）。
5. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）。
6. 間質性肺炎，PIE症候群（各頻度不明）等（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等）。
7. 肝機能障害（AST，ALT，Al－Pの著しい上昇等），黄疸（各頻度不明）。
8. 溶血性貧血。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0.1～5%未満 0.1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 蕁麻疹，紅斑，掻痒，発熱等 リンパ腺腫脹，関節痛
血液 顆粒球減少，貧血（赤血球減少，ヘモグロビン減少，ヘマトクリット減少），血小板減少，好酸球増多等
肝臓 AST上昇，ALT上昇 Al－P上昇 黄疸
腎臓 BUN上昇，血清クレアチニン上昇
消化器 悪心，下痢，腹痛 嘔吐，胃不快感，胸やけ，食欲不振等
菌交代症 口内炎，カンジダ症
ビタミン欠乏症 ビタミンK欠乏症状（低プロトロンビン血症，出血傾向等），ビタミンB群欠乏症状（舌炎，口内炎，食欲不振，神経炎等）
その他 頭痛，眩暈等
（表終了）

ゲンタシン注60（60mg1管）

両　注射　流通
劇

【YJコード】6134407A3043
【薬効分類】6.1.3 主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
【一般名】ゲンタマイシン硫酸塩
【メーカー】製)高田製薬　販)MSD　販)シェリング・プラウ
【薬価】307円/1A
【薬価収載日】1992/03/11
【標榜薬効】アミノグリコシド系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種 ブドウ球菌属，大腸菌，クレブシエラ属，エンテロバクター属，セラチア属，プロテウス属，モルガネラ・モルガニー，プロビデンシア属，緑膿菌
適応症 敗血症，外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，肺炎，膀胱炎，腎盂腎炎，腹膜炎，中耳炎
注意
中耳炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】成人　1日3mg／kg　1日3回　分割　筋注・点滴静注。増量時　1日5mg／kgまで　1日3～4回　分割　投与。
小児　1回2～2.5mg／kg　1日2～3回　筋注・点滴静注。
点滴静注　30分～2時間かけ　注入。
適宜減量。
注意
1. 腎機能障害 血中濃度の半減期が延長し，第8脳神経障害又は腎障害のおそれ，腎機能障害度に応じて，下記により投与量・投与間隔を調節。
（1）. 投与間隔調節法
通常量を「血清クレアチニン値（mg／dL）×8」時間ごとに投与。
（2）. 1回量調節法
初回は通常量を投与し，以降の維持量は通常量を血清クレアチニン値（mg／dL）で除した用量を8時間ごとに投与。
2. 成人に1日最大5mg／kgまで増量時，副作用を防ぐため，臨床的改善があれば，速やかに減量。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・他のアミノグリコシド系抗生剤・バシトラシンに過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック（頻度不明）（チアノーゼ，呼吸困難，胸内苦悶，心悸亢進，血圧低下等）。
2. 急性腎障害（0.1%未満）等の重篤な腎障害。
3. 第8脳神経障害（0.1%未満）（眩暈，耳鳴，難聴等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0.1～5%未満 0.1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，発熱 掻痒
腎臓 腎機能障害（BUN・クレアチニン上昇，尿所見異常，乏尿等）血尿，カリウム等電解質の異常 浮腫
肝臓 肝機能障害（AST・ALT・Al－Pの上昇等） ビリルビン上昇
神経 頭痛 四肢のしびれ感，幻覚，妄想，痙攣，意識障害
血液 好酸球増多 貧血，白血球減少，血小板減少
消化器 悪心 嘔吐，食欲不振
ビタミン欠乏症 ビタミンK欠乏症状（低プロトロンビン血症，出血傾向等），ビタミンB群欠乏症状（舌炎，口内炎，食欲不振，神経炎等）
注射部位（筋注時） 疼痛，硬結
（表終了）

サワシリン細粒10%（100mg1g）

両　内服　流通

【YJコード】6131001C1210
【薬効分類】6.1.3 主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
【一般名】アモキシシリン水和物
【メーカー】製)LTLファーマ　販)アステラス製薬
【薬価】7.2円/1g
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】合成ペニシリン製剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種
ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，腸球菌属，淋菌，大腸菌，プロテウス・ミラビリス，インフルエンザ菌，ヘリコバクター・ピロリ，梅毒トレポネーマ
適応症
表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，リンパ管・リンパ節炎，慢性膿皮症，外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，糜爛・潰瘍の二次感染，乳腺炎，骨髄炎，咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，肺炎，慢性呼吸器病変の二次感染，膀胱炎，腎盂腎炎，前立腺炎（急性症，慢性症），精巣上体炎（副睾丸炎），淋菌感染症，梅毒，子宮内感染，子宮付属器炎，子宮旁結合織炎，涙嚢炎，麦粒腫，中耳炎，歯周組織炎，歯冠周囲炎，顎炎，猩紅熱，胃潰瘍・十二指腸潰瘍のヘリコバクター・ピロリ感染症
注意
咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，中耳炎
1.「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
ヘリコバクター・ピロリ感染症，ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎
2. 進行期胃MALTリンパ腫へのヘリコバクター・ピロリ除菌治療の有効性は未確立。
3. 特発性血小板減少性紫斑病では，ガイドライン等を参照し，ヘリコバクター・ピロリ除菌治療が適切な症例にのみ行う。
4. 早期胃癌の内視鏡的治療後胃以外には，ヘリコバクター・ピロリ除菌治療による胃癌の発症抑制への有効性は未確立。
【用法用量】製剤共通
ヘリコバクター・ピロリ感染を除く感染症
成人　1回アモキシシリン水和物250mg　1日3～4回　内服。
適宜増減。
小児　1日アモキシシリン水和物20～40mg／kg　1日3～4回　分割内服。
適宜増減，1日最大90mg／kg。
胃潰瘍・十二指腸潰瘍のヘリコバクター・ピロリ感染症
・アモキシシリン水和物，クラリスロマイシン，ランソプラゾール併用時
成人　1回アモキシシリン水和物750mg，1回クラリスロマイシン200mg，1回ランソプラゾール30mg　3剤を同時に　1日2回　7日間　内服。
クラリスロマイシンは適宜増量，1回400mg　1日2回まで。
・アモキシシリン水和物，クラリスロマイシン，ラベプラゾールナトリウム併用時
成人　1回アモキシシリン水和物750mg，1回クラリスロマイシン200mg，1回ラベプラゾールナトリウム10mg　3剤を同時に　1日2回　7日間　内服。
クラリスロマイシンは適宜増量，1回400mg　1日2回まで。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 伝染性単核症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（各0.1%未満）（呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等，不快感，口内異常感，喘鳴，眩暈，便意，耳鳴，発

6 病原生物に対する医薬品

汗等)。
2. アレルギー反応に伴う急性冠症候群(頻度不明)。
3. 薬剤により誘発される胃腸炎症候群(頻度不明)(反復性嘔吐, 下痢, 嗜眠, 顔面蒼白, 低血圧, 腹痛, 好中球増加等を伴う, 食物蛋白誘発性胃腸炎に類似したアレルギー性の胃腸炎)。
4. 中毒性表皮壊死融解症, 皮膚粘膜眼症候群(各0. 1%未満), 多形紅斑, 急性汎発性発疹性膿疱症, 紅皮症(剥脱性皮膚炎)(各頻度不明)(発熱, 頭痛, 関節痛, 皮膚・粘膜の紅斑・水疱, 膿疱, 皮膚の緊張感・灼熱感・疼痛等)。
5. 顆粒球減少(0. 1%未満), 血小板減少(頻度不明)。
6. 肝障害(頻度不明)(黄疸(0. 1%未満), AST, ALTの上昇(各0. 1%未満)等)。
7. 急性腎障害等の重篤な腎障害(0. 1%未満)。
8. 偽膜性大腸炎, 出血性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎(0. 1%未満)(腹痛, 頻回の下痢)。
9. 間質性肺炎, 好酸球性肺炎(各頻度不明)(咳嗽, 呼吸困難, 発熱等)。
10. 無菌性髄膜炎(頻度不明)(項部硬直, 発熱, 頭痛, 悪心・嘔吐, 意識混濁等)。
その他の副作用(発現時中止等)(ヘリコバクター・ピロリ感染を除く感染症)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 発熱 掻痒
血液 好酸球増多
消化器 下痢, 悪心, 嘔吐, 食欲不振, 腹痛 黒毛舌
菌交代症 口内炎, カンジダ症
ビタミン欠乏症 ビタミンK欠乏症状(低プロトロンビン血症, 出血傾向等), ビタミンB群欠乏症状(舌炎, 口内炎, 食欲不振, 神経炎等)
その他 梅毒のヤーリッシュ・ヘルクスハイマー反応(発熱, 全身倦怠感, 頭痛等の発現, 病変部の増悪)
(表終了)
その他の副作用(発現時中止等)(ヘリコバクター・ピロリ感染症, ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
消化器 下痢(15. 5%), 軟便(13. 5%), 味覚異常 腹痛, 腹部膨満感, 口内炎, 便秘, 食道炎 口渇, 悪心, 舌炎, 胃食道逆流, 胸やけ, 十二指腸炎, 嘔吐, 痔核, 食欲不振 黒毛舌
肝臓 AST上昇, ALT上昇, LDH上昇, γ－GTP上昇 AI－P上昇, ビリルビン上昇
血液 好中球減少, 好酸球増多 貧血, 白血球増多
過敏症 発疹 掻痒
精神神経系 頭痛, しびれ感, 眩暈, 眠気, 不眠, うつ状態
その他 尿蛋白陽性, トリグリセリド上昇, 総コレステロールの上昇・低下 尿糖陽性, 尿酸上昇, 倦怠感, 熱感, 動悸, 発熱, QT延長, カンジダ症, 浮腫, 血圧上昇, 霧視
(表終了)

スルバシリン静注用3g((3g)1瓶)

両 注射 流通

【YJコード】6139504F3033
【薬効分類】6. 1. 3 主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
【一般名】アンピシリンナトリウム・スルバクタムナトリウム
【メーカー】製)MeijiSeikaファルマ
【薬価】778円/1V
【薬価収載日】2015/06/19
【標榜薬効】β－ラクタマーゼ阻害剤配合抗生物質製剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種
ブドウ球菌属, 肺炎球菌, モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス, 大腸菌, プロテウス属, インフルエンザ菌
適応症
肺炎, 肺膿瘍, 膀胱炎, 腹膜炎
【用法用量】肺炎, 肺膿瘍, 腹膜炎
成人 1日6g 1日2回 分割 静注・点滴静注。
重症感染症
適宜増量 1回3g 1日4回 1日12gまで。
膀胱炎
成人 1日3g 1日2回 分割 静注・点滴静注。
効能共通
小児 1日60～150mg／kg 1日3～4回 分割 静注・点滴静注。
静注時 緩徐に投与(注射用水, 生食又はブドウ糖液に溶解)。
点滴静注時 補液に溶解。
注意
耐性菌の発現等を防ぐため, β－ラクタマーゼ産生菌, アンピシリン耐性菌を確認し, 必要最小限の期間にとどめる。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 伝染性単核症。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. ショック(頻度不明), アナフィラキシー(頻度不明)。
2. 中毒性表皮壊死融解症(頻度不明), 皮膚粘膜眼症候群(頻度不明), 急性汎発性発疹性膿疱症(頻度不明)。
3. 重篤な血液障害(無顆粒球症(頻度不明), 貧血(溶血性貧血含む)(0. 38%), 血小板減少(0. 19%)等)。
4. 急性腎障害(0. 1%未満), 間質性腎炎(頻度不明)等の重篤な腎障害。
5. 出血性大腸炎(頻度不明), 偽膜性大腸炎(頻度不明)等の血便を伴う重篤な大腸炎(腹痛, 頻回の下痢)。
6. 肝機能障害(0. 10%)。
7. 間質性肺炎(0. 1%未満), 好酸球性肺炎(頻度不明)(発熱, 咳嗽, 呼吸困難, 胸部X線異常, 好酸球増多等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0. 1～1%未満 0. 1%未満 頻度不明
皮膚 発疹, 掻痒感 蕁麻疹 多形紅斑
血液 好酸球増多 白血球減少
肝臓 AST上昇, ALT上昇 AI－P上昇, LAP上昇, ビリルビン値上昇, γ－GTP上昇 黄疸
消化器 下痢・軟便, 悪心・嘔吐 腹部不快感 黒毛舌
中枢神経 痙攣等の神経症状
菌交代 口内炎, カンジダ症
筋骨格系・結合組織障害 関節痛
その他 発熱 ビタミンK欠乏症状(低プロトロンビン血症, 出血傾向等) ビタミンB群欠乏症状(舌炎, 口内炎, 食欲不振, 神経炎等)
(表終了)

セファゾリンNa点滴静注用1gバッグ「オーツカ」(1g1キット(生理食塩液100mL付))

両 注射 流通

【YJコード】6132401G3079
【薬効分類】6. 1. 3 主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
【一般名】セファゾリンナトリウム
【メーカー】製)大塚製薬工場 販)大塚製薬
【薬価】1062円/1kit
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】セフェム系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種
ブドウ球菌属, レンサ球菌属, 肺炎球菌, 大腸菌, 肺炎桿菌, プロテウス・ミラビリス, プロビデンシア属
適応症
敗血症, 感染性心内膜炎, 表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 慢性膿皮症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 糜爛・潰瘍の二次感染, 乳腺炎, 骨髄炎, 関節炎, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎, 急性気管支炎, 肺炎, 肺膿瘍, 膿胸, 慢性呼吸器病変の二次感染, 膀胱炎, 腎盂腎炎, 腹膜炎, 胆嚢炎, 胆管炎, バルトリン腺炎, 子宮内感染, 子宮付属器炎, 子宮旁結合織炎, 眼内炎(全眼球炎含む), 中耳炎, 副鼻腔炎, 化膿性唾液腺炎
注意
咽頭・喉頭炎, 扁桃炎, 急性気管支炎, 中耳炎, 副鼻腔炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照, 抗菌薬投与の必要性を判断し, 適切な時に投与。
【用法用量】成人 1日1g 1日2回 分割 点滴静注。小児 1日20～40mg／kg 1日2回 分割 点滴静注。
効果不十分時 成人 1日1. 5～3g, 小児 1日50mg／kg 1日3回 分割 投与。
重篤時 成人 1日5g, 小児 1日100mg／kgまで 分割 投与。
添付溶解液で用時溶解し 点滴静注。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. ショック(0. 1%未満)(不快感, 口内異常感, 喘鳴, 眩暈, 便意, 耳鳴, 発汗等)。
2. アナフィラキシー(0. 1%未満)(呼吸困難, 全身潮紅, 血管浮腫, 蕁麻疹等)。
3. アレルギー反応に伴う急性冠症候群(頻度不明)。
4. 血液障害(汎血球減少, 無顆粒球症(発熱, 咽頭痛, 頭痛, 倦怠感等), 溶血性貧血(発熱, ヘモグロビン尿, 貧血症状等), 血小板減少(点状出血, 紫斑等)(各0. 1%未満))。
5. 肝障害(黄疸(0. 1%未満), AST, ALT, AI－Pの上昇(各0. 1～5%未満)等)。
6. 急性腎障害等の重篤な腎障害(0. 1%未満)。
7. 偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎(0. 1%未満)(腹痛, 頻回の下痢)。
8. 皮膚障害(中毒性表皮壊死融解症, 皮膚粘膜眼症候群(各0. 1%未満))(発熱, 頭痛, 関節痛, 皮膚・粘膜の紅斑・水疱, 皮膚の緊張感・灼熱感・疼痛等)。
9. 間質性肺炎, PIE症候群(各0. 1%未満)等(発熱, 咳嗽, 呼吸困

6 病原生物に対する医薬品

難，胸部X線異常，好酸球増多等）。
10．痙攣（頻度不明）等の神経症状。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
過敏症 発疹，蕁麻疹，紅斑 掻痒，発熱，浮腫
血液 顆粒球減少，好酸球増多
腎臓 BUN上昇 血清クレアチニン上昇
消化器 悪心，嘔吐 食欲不振，下痢
菌交代症 口内炎，カンジダ症
ビタミン欠乏症 ビタミンK欠乏症状（低プロトロンビン血症，出血傾向等），ビタミンB群欠乏症状（舌炎，口内炎，食欲不振，神経炎等）
その他 頭痛，眩暈，全身倦怠感
（表終了）

セファゾリンナトリウム注射用1g「日医工」（1g1瓶）

両 注射 流通

【YJコード】6132401D3196
【薬効分類】6．1．3 主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
【一般名】セファゾリンナトリウム
【メーカー】製)日医工
【薬価】346円/1V
【薬価収載日】2013/06/21
【標榜薬効】合成セファロスポリン系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種
ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，大腸菌，肺炎桿菌，プロテウス・ミラビリス，プロビデンシア属
適応症
敗血症，感染性心内膜炎，表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，リンパ管・リンパ節炎，慢性膿皮症，外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，癰癤・潰瘍の二次感染，乳腺炎，骨髄炎，関節炎，咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，肺炎，肺膿瘍，膿胸，慢性呼吸器病変の二次感染，膀胱炎，腎盂腎炎，腹膜炎，胆嚢炎，胆管炎，バルトリン腺炎，子宮内感染，子宮付属器炎，子宮旁結合織炎，眼内炎（全眼球炎含む），中耳炎，副鼻腔炎，化膿性唾液腺炎
注意
咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，中耳炎，副鼻腔炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】成人 1日1g 1日2回 分割 緩徐に静注，筋注。
小児 1日20～40mg／kg 1日2回 分割 緩徐に静注，筋注。
効果不十分時
成人 1日1．5～3g，小児 1日50mg／kg 1日3回 分割 投与。
重篤時
成人 1日5g，小児 1日100mg／kgまで 分割 投与。
輸液に加え点滴静注もできる。
注射液の調製法
静注
注射用水，生食又はブドウ糖液に溶解。
筋注
リドカイン注射液（0．5w／v%）約2～3mLに溶解。
注意
筋注 静注が困難等のみ，必要最小限に行う。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック（0．1%未満）（不快感，口内異常感，喘鳴，眩暈，便意，耳鳴，発汗等）。
2．アナフィラキシー（0．1%未満）（呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等）。
3．アレルギー反応に伴う急性冠症候群（頻度不明）。
4．血液障害（汎血球減少，無顆粒球症（発熱，咽頭痛，頭痛，倦怠感等），溶血性貧血（発熱，ヘモグロビン尿，貧血症状等），血小板減少（点状出血，紫斑等）（各0．1%未満））。
5．肝障害（黄疸（0．1%未満），AST，ALT，Al－Pの上昇（各0．1～5%未満）等）。
6．急性腎障害等の重篤な腎障害（0．1%未満）。
7．偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎（0．1%未満）（腹痛，頻回の下痢）。
8．皮膚障害（中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各0．1%未満））（発熱，頭痛，関節痛，皮膚・粘膜の紅斑・水疱，皮膚の緊張感・灼熱感・疼痛等）。
9．間質性肺炎，PIE症候群（各0．1%未満）等（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等）。
10．痙攣（頻度不明）等の神経症状。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
過敏症 発疹，蕁麻疹，紅斑 掻痒，発熱，浮腫
血液 顆粒球減少，好酸球増多
腎臓 BUN上昇 血清クレアチニン上昇
消化器 悪心，嘔吐 食欲不振，下痢
菌交代症 口内炎，カンジダ症
ビタミン欠乏症 ビタミンK欠乏症状（低プロトロンビン血症，出血傾向等），ビタミンB群欠乏症状（舌炎，口内炎，食欲不振，神経炎等）
その他 頭痛，眩暈，全身倦怠感
（表終了）

セフェピム塩酸塩静注用1g「サンド」（1g1瓶）

両 注射 後発 流通

【YJコード】6132425D2039
【薬効分類】6．1．3 主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
【一般名】セフェピム塩酸塩水和物
【メーカー】製)サンド 販)ニプロ
【薬価】522円/1V
【薬価収載日】2009/11/13
【標榜薬効】セフェム系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇一般感染症
適応菌種
ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス，大腸菌，シトロバクター属，クレブシエラ属，エンテロバクター属，セラチア属，プロテウス属，モルガネラ・モルガニー，プロビデンシア属，インフルエンザ菌，シュードモナス属，緑膿菌，バークホルデリア・セパシア，ステノトロホモナス（ザントモナス）・マルトフィリア，アシネトバクター属，ペプトストレプトコッカス属，バクテロイデス属，プレボテラ属（プレボテラ・ビビア除く）
適応症
敗血症，深在性皮膚感染症，外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，肛門周囲膿瘍，扁桃炎（扁桃周囲膿瘍含む），肺炎，肺膿瘍，慢性呼吸器病変の二次感染，複雑性膀胱炎，腎盂腎炎，前立腺炎（急性症，慢性症），腹膜炎，腹腔内膿瘍，胆嚢炎，胆管炎，子宮内感染，子宮旁結合織炎，中耳炎，副鼻腔炎
〇発熱性好中球減少症
注意
扁桃炎（扁桃周囲膿瘍含む），中耳炎，副鼻腔炎
1．「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
発熱性好中球減少症
2．下記の2条件を満たす症例に投与。
・1回の検温で38℃以上の発熱，又は1時間以上持続する37．5℃以上の発熱。
・好中球数が500／mm3未満の時，又は1000／mm3未満で500／mm3未満に減少することが予測される時。
3．国内外のガイドラインを参照し，治療に熟知した医師のもとで，適切と判断される症例にのみ実施。
4．投与前に血液培養を実施。起炎菌の判明時，投与継続の必要性を検討。
5．投与の開始時期の指標である好中球数が緊急時等で確認できない時は，白血球数の半数を好中球数として推定。
6．好中球数，発熱が回復すれば，投与中止を考慮。
7．腫瘍熱・薬剤熱等の非感染性の発熱である時，速やかに投与中止。
効能共通
8．投与前に感受性が未確認の時，投与開始後3日を目安とし感受性を確認し，投与が適正か判断。感受性がなければ，速やかに他剤に変更。
【用法用量】投与開始後3日を目安とし継続投与が必要か判定し，投与中止又は他剤に切りかえを検討。
投与期間 14日以内。
一般感染症
成人 1日1～2g 1日2回 分割 静注・点滴静注。
難治性・重症感染症 1日4gまで増量 分割 投与。
発熱性好中球減少症
成人 1日4g 1日2回 分割 静注・点滴静注。
効能共通
静注時 緩徐に注射（注射用水，生食又はブドウ糖液に溶解）。
点滴静注時 30分～1時間かけ 点滴静注（糖液，電解質液又はアミノ酸製剤等の補液に加える）。
注意
1．腎障害 下表を目安に減量か，投与間隔をあける等慎重投与。
（表開始）
クレアチニンクリアランス 1回量（g） 一般感染症 1回量（g） 発熱性好中球減少症 難治性・重症感染症（注1） 投与間隔
＞50mL／分 1 2 12時間ごと
30～50mL／分 0．5 1 12時間ごと
10～30mL／分 0．5 0．5 12時間ごと
＜10mL／分 0．5 0．5 24時間ごと
血液透析（注2） 0．5 0．5 24時間ごと
（表終了）
（注1）1日4g投与が必要な場合。
（注2）血液透析により本剤の血中濃度が低下するので，投与は透析後に行う。
2．高齢者 1回0．5gから開始し，慎重投与。

6 病原生物に対する医薬品

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（各0．1%未満）（呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹，血圧低下等）。
2. 偽膜性大腸炎（0．1%未満）等の血便を伴う重篤な大腸炎（腹痛，頻回の下痢）。
3. 急性腎障害（0．1%未満）。
4. 汎血球減少（0．1%未満），無顆粒球症（0．1%未満），血小板減少（0．3%），溶血性貧血（頻度不明）。
5. 間質性肺炎（0．1%未満），PIE症候群（0．1%未満）等（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線像異常，好酸球増多等）。
6. 中毒性表皮壊死融解症（0．1%未満），皮膚粘膜眼症候群（0．1%未満）。
7. 肝機能障害（1．1%）（AST，ALT，AI－P，LDH，γ－GTP，LAPの上昇等），黄疸（0．1%未満）。
8. 精神神経症状（0．1%未満）（意識障害，昏睡，痙攣，振戦，ミオクローヌス等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
過敏症 発疹 蕁麻疹，紅斑，掻痒，発熱
血液 貧血，顆粒球減少，好酸球増多，血小板増多
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇，蛋白尿 血清カリウム上昇
肝臓 AST上昇，ALT上昇，AI－P上昇，LDH上昇，γ－GTP上昇，ビリルビン上昇 LAP上昇
消化器 下痢，悪心 嘔吐，食欲不振，腹痛，便秘
精神神経系 眩暈，しびれ
菌交代症 カンジダ症，口内炎
ビタミン欠乏症 ビタミンK欠乏症状（低プロトロンビン血症，出血傾向等），ビタミンB群欠乏症状（舌炎，口内炎，食欲不振，神経炎等）
その他 頭痛，点滴中の気分不良，血圧低下，顔面紅潮，悪寒，味覚異常
（表終了）

セフォチアム静注用1gバッグ「日医工」（1g1キット（生理食塩液100mL付））

両 注射 流通

【YJコード】6132400G3040
【薬効分類】6．1．3 主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
【一般名】セフォチアム塩酸塩
【メーカー】製)日医工ファーマ 販)日医工
【薬価】1021円/1kit
【薬価収載日】2009/05/15
【標榜薬効】セフェム系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種
ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，大腸菌，シトロバクター属，クレブシエラ属，エンテロバクター属，プロテウス属，モルガネラ・モルガニー，プロビデンシア・レットゲリ，インフルエンザ菌
適応症
敗血症，深在性皮膚感染症，慢性膿皮症，外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，骨髄炎，関節炎，扁桃炎（扁桃周囲炎，扁桃周囲膿瘍含む），急性気管支炎，肺炎，肺膿瘍，膿胸，慢性呼吸器病変の二次感染，膀胱炎，腎盂腎炎，前立腺炎（急性症，慢性症），腹膜炎，胆嚢炎，胆管炎，バルトリン腺炎，子宮内感染，子宮付属器炎，子宮旁結合織炎，化膿性髄膜炎，中耳炎，副鼻腔炎
注意
扁桃炎（扁桃周囲炎，扁桃周囲膿瘍含む），急性気管支炎，中耳炎，副鼻腔炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】成人 1日0．5～2g 1日2～4回 分割 静注。小児 1日40～80mg／kg 1日3～4回 分割 静注。
適宜増減。成人の敗血症 1日4gまで。小児の敗血症，化膿性髄膜炎等の重症・難治性感染症 1日160mg／kgまで。
生食側を手で圧し，隔壁を開通させ溶解後，30分～2時間で点滴静注。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（不快感，口内異常感，眩暈，便意，耳鳴，発汗，喘鳴，呼吸困難，血管浮腫，全身の潮紅・蕁麻疹等）。
2. 急性腎障害等の重篤な腎障害（頻度不明）。
3. 汎血球減少，無顆粒球症，顆粒球減少，溶血性貧血（各頻度不明），血小板減少（0．1%未満）。
4. 偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎（頻度不明）（腹痛，頻回の下痢）。
5. 間質性肺炎，PIE症候群（各頻度不明）等（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等）。
6. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）。
7. 痙攣（頻度不明）等の中枢神経症状。
8. 肝炎（AST，ALTの著しい上昇等），肝機能障害，黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 蕁麻疹，掻痒，発熱 紅斑，リンパ腺腫脹，関節痛
血液 好酸球増多 貧血
肝臓 AST，ALT，AI－Pの上昇 LDHの上昇 γ－GTPの上昇
消化器 悪心，下痢，腹痛 嘔吐，食欲不振
菌交代症 口内炎，カンジダ症
ビタミン欠乏症 ビタミンK欠乏症状（低プロトロンビン血症，出血傾向等），ビタミンB群欠乏症状（舌炎，口内炎，食欲不振，神経炎等）
その他 眩暈 頭痛，倦怠感，しびれ感
（表終了）

セフゾン細粒小児用10%（100mg1g）

両 内服 流通

【YJコード】6132013C1031
【薬効分類】6．1．3 主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
【一般名】セフジニル
【メーカー】製)LTLファーマ 販)アステラス製薬
【薬価】60.8円/1g
【薬価収載日】2006/12/08
【標榜薬効】セフェム系製剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種 ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス，大腸菌，クレブシエラ属，プロテウス・ミラビリス，インフルエンザ菌
適応症 表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，リンパ管・リンパ節炎，慢性膿皮症，咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，肺炎，膀胱炎，腎盂腎炎，中耳炎，副鼻腔炎，猩紅熱
注意
咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，中耳炎，副鼻腔炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】小児 1日セフジニル9～18mg／kg 1日3回 分割 内服。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック（0．1%未満）（不快感，口内異常感，喘鳴，眩暈，便意，耳鳴，発汗等）。
2. アナフィラキシー（0．1%未満）（呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等）。
3. 皮膚障害（頻度不明）（中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各0．1%未満））（発熱，頭痛，関節痛，皮膚・粘膜の紅斑・水疱，皮膚の緊張感・灼熱感・疼痛等）。
4. 血液障害（頻度不明）（汎血球減少，無顆粒球症（発熱，咽頭痛，頭痛，倦怠感等），血小板減少（点状出血，紫斑等），溶血性貧血（発熱，ヘモグロビン尿，貧血症状等）（各0．1%未満））。
5. 偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎（0．1%未満）（腹痛，頻回の下痢）。
6. 間質性肺炎，PIE症候群（各0．1%未満）等（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等）。
7. 急性腎障害等の重篤な腎障害（0．1%未満）。
8. 劇症肝炎等の重篤な肝炎，肝機能障害（著しいAST，ALT，AI－Pの上昇等），黄疸（各0．1%未満）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 蕁麻疹，紅斑，浮腫 掻痒，発熱
血液 好酸球増多 顆粒球減少
腎臓 BUN上昇
消化器 下痢 腹痛，嘔吐，悪心，食欲不振 胃部不快感，胸やけ，便秘
菌交代症 口内炎，カンジダ症 黒毛舌
ビタミン欠乏症 ビタミンK欠乏症状（低プロトロンビン血症，出血傾向等），ビタミンB群欠乏症状（舌炎，口内炎，食欲不振，神経炎等）
その他 眩暈 頭痛，胸部圧迫感，しびれ
（表終了）

6 病原生物に対する医薬品

セフタジジム静注用1g「VTRS」（1g1瓶）

両 注射 流通

【YJコード】6132418F2196
【薬効分類】6．1．3 主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
【一般名】セフタジジム水和物
【メーカー】製)ヴィアトリス・ヘルスケア 販)ヴィアトリス製薬
【薬価】686円/1V
【薬価収載日】2022/06/16
【標榜薬効】セフェム系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種
ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，大腸菌，シトロバクター属，クレブシエラ属，エンテロバクター属，セラチア属，プロテウス属，モルガネラ・モルガニー，プロビデンシア属，インフルエンザ菌，シュードモナス属，緑膿菌，バークホルデリア・セパシア，ステノトロホモナス（ザントモナス）・マルトフィリア，アシネトバクター属，ペプトストレプトコッカス属，バクテロイデス属，プレボテラ属（プレボテラ・ビビア除く）
適応症
敗血症，感染性心内膜炎，外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，咽頭・喉頭炎，扁桃炎（扁桃周囲炎，扁桃周囲膿瘍含む），急性気管支炎，肺炎，肺膿瘍，膿胸，慢性呼吸器病変の二次感染，膀胱炎，腎盂腎炎，前立腺炎（急性症，慢性症），腹膜炎，胆嚢炎，胆管炎，肝膿瘍，バルトリン腺炎，子宮内感染，子宮付属器炎，子宮旁結合織炎，化膿性髄膜炎，中耳炎，副鼻腔炎
注意
咽頭・喉頭炎，扁桃炎（扁桃周囲炎，扁桃周囲膿瘍含む），急性気管支炎，中耳炎，副鼻腔炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】成人 1日1～2g 1日2回 分割 静注。難治性・重症感染症 1日4gまで増量 1日2～4回 分割 投与。
小児 1日40～100mg／kg 1日2～4回 分割 静注。難治性・重症感染症 1日150mg／kgまで増量 1日2～4回 分割 投与。
未熟児・新生児 生後0～3日齢 1回20mg／kg 1日2～3回 静注，生後4日齢以降 1回20mg／kg 1日3～4回 静注。難治性・重症感染症 1日150mg／kgまで増量 1日2～4回 分割 投与。
静注時 緩徐に投与（注射用水，生食又はブドウ糖液に溶解）。
30分～2時間かけ 点滴静注もできる（糖液，電解質液又はアミノ酸製剤等の補液に加える）。
注意
腎機能障害 血中濃度半減期が延長，尿中排泄率の低下があり，血中濃度が増大，投与量・投与間隔の調節が必要。
下表は投与例（外国）。
（表開始）
腎機能検査値 腎機能検査値 投与法 投与法
クレアチニンクリアランス（mL／分）血清クレアチニン（mg／dL）1回量（g）投与間隔（時間）
50～31 1．7～2．3 1 12
30～16 2．3～4 1 24
15～6 4～5．6 0．5 24
＜5 ＞5．6 0．5 48
（表終了）

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各0．1%未満）（不快感，口内異常感，喘鳴，眩暈，便意，耳鳴，発汗，気管支痙攣，呼吸困難，顔面潮紅，血管性浮腫等）。
2．急性腎障害等の重篤な腎障害（頻度不明）。
3．汎血球減少，無顆粒球症，血小板減少（各0．1%未満），溶血性貧血（頻度不明）。
4．偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎（頻度不明）（腹痛，頻回の下痢）。
5．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）。
6．間質性肺炎，PIE症候群（各頻度不明）等（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等）。
7．急性肝炎（AST，ALT，γ－GTP等の著しい上昇），肝機能障害，黄疸（各頻度不明）。
8．精神神経症状（頻度不明）（脳症，昏睡，意識障害，痙攣，振戦，ミオクローヌス等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～1．8% 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，発熱 蕁麻疹，紅斑，掻痒
血液 顆粒球減少，好酸球増多 貧血，血小板増多 リンパ球増多
肝臓 AST，ALT，Al－P，LDH，γ－GTP等の上昇 黄疸，ビリルビン等の上昇
腎臓 BUN等の上昇 クレアチニン等の上昇
消化器 下痢 悪心，嘔吐，腹痛，食欲不振
菌交代症 口内炎，カンジダ症
ビタミン欠乏症 ビタミンK欠乏症状（低プロトロンビン血症，出血傾向等），ビタミンB群欠乏症状（舌炎，口内炎，食欲不振，神経炎等）
その他 眩暈，頭痛，味覚障害，口渇感 しびれ
（表終了）

セフトリアキソンナトリウム静注用1g「日医工」（1g1瓶）

両 注射 流通

【YJコード】6132419F2140
【薬効分類】6．1．3 主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
【一般名】セフトリアキソンナトリウム水和物
【メーカー】製)日医工
【薬価】422円/1V
【薬価収載日】2012/12/14
【標榜薬効】セフェム系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種
ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，淋菌，大腸菌，シトロバクター属，クレブシエラ属，エンテロバクター属，セラチア属，プロテウス属，モルガネラ・モルガニー，プロビデンシア属，インフルエンザ菌，ペプトストレプトコッカス属，バクテロイデス属，プレボテラ属（プレボテラ・ビビア除く）
適応症
敗血症，咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，肺炎，肺膿瘍，膿胸，慢性呼吸器病変の二次感染，膀胱炎，腎盂腎炎，精巣上体炎（副睾丸炎），尿道炎，子宮頸管炎，骨盤内炎症性疾患，直腸炎，腹膜炎，腹腔内膿瘍，胆嚢炎，胆管炎，バルトリン腺炎，子宮内感染，子宮付属器炎，子宮旁結合織炎，化膿性髄膜炎，角膜炎（角膜潰瘍含む），中耳炎，副鼻腔炎，顎骨周辺の蜂巣炎，顎炎
注意
咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，中耳炎，副鼻腔炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】成人
1．1日1～2g 1日1～2回 分割 静注・点滴静注。
2．難治性・重症感染症 1日4gまで増量 1日2回 分割 静注・点滴静注。
3．淋菌感染症
（1）．咽頭・喉頭炎，尿道炎，子宮頸管炎，直腸炎
1g 単回 静注・点滴静注。
（2）．精巣上体炎（副睾丸炎），骨盤内炎症性疾患
1回1g 1日1回 静注・点滴静注。
小児
1．1日20～60mg／kg 1日1～2回 分割 静注・点滴静注。
2．難治性・重症感染症 1日120mg／kgまで増量 1日2回 分割 静注・点滴静注。
未熟児・新生児
1．生後0～3日齢 1回20mg／kg 1日1回 静注・点滴静注。生後4日齢以降 1回20mg／kg 1日2回 静注・点滴静注。
2．難治性・重症感染症 1回40mg／kgまで増量 1日2回 静注・点滴静注。生後2週間以内の未熟児・新生児 1日50mg／kgまで。
静注
緩徐に投与（注射用水，生食又はブドウ糖液に溶解）。
点滴静注
補液に溶解。
注意
高度の腎機能障害 血中濃度を頻回に測定できない時は投与量が1g／日まで。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．高ビリルビン血症の低出生体重児，新生児。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（不快感，口内異常感，喘鳴，眩暈，便意，耳鳴，発汗，呼吸困難，顔面浮腫等）。
2．汎血球減少，無顆粒球症，白血球減少，血小板減少，溶血性貧血（各頻度不明）。
3．劇症肝炎等の重篤な肝炎，肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
4．急性腎障害，間質性腎炎（各頻度不明）。
5．偽膜性大腸炎（頻度不明）等の血便を伴う重篤な大腸炎（腹痛，頻回の下痢）。
6．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑，急性汎発性発疹性膿疱症（各頻度不明）。
7．間質性肺炎，肺好酸球増多症（各頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多）。
8．胆石，胆嚢内沈殿物（各頻度不明），胆嚢炎，胆管炎，膵炎等（腹痛等）。
9．腎・尿路結石（頻度不明）（尿量減少，排尿障害，血尿，結晶尿等），腎後性急性腎不全（外国）。
10．精神神経症状（頻度不明）（意識障害（意識消失，意識レベルの低下等），痙攣，不随意運動（舞踏病アテトーゼ，ミオクローヌス等））。
その他の副作用（発現時中止等）

6 病原生物に対する医薬品

（表開始）
発現部位等 1%以上 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 蕁麻疹，発熱，掻痒 発赤，紅斑
血液 好酸球増多 顆粒球減少，貧血，血小板増多 異常プロトロンビン
好塩基球増多
消化器 下痢 嘔気，嘔吐，腹痛 食欲不振 軟便
菌交代症　口内炎，カンジダ症
ビタミン欠乏症　ビタミンK欠乏症状（低プロトロンビン血症，出血傾向），ビタミンB群欠乏症状（舌炎，口内炎，食欲不振，神経炎）
その他　頭痛，浮腫，心室性期外収縮 注射部位反応（紅斑，疼痛，腫脹等）
（表終了）

セフメタゾールNa静注用1g「NP」（1g1瓶）

両　注射　流通

【YJコード】6132408F3130
【薬効分類】6．1．3　主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
【一般名】セフメタゾールナトリウム
【メーカー】製)ニプロ
【薬価】486円/1V
【薬価収載日】2007/12/21
【標榜薬効】セファマイシン系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種
黄色ブドウ球菌，大腸菌，肺炎桿菌，プロテウス属，モルガネラ・モルガニー，プロビデンシア属，ペプトストレプトコッカス属，バクテロイデス属，プレボテラ属（プレボテラ・ビビア除く）
適応症
敗血症，急性気管支炎，肺炎，肺膿瘍，膿胸，慢性呼吸器病変の二次感染，膀胱炎，腎盂腎炎，腹膜炎，胆嚢炎，胆管炎，バルトリン腺炎，子宮内感染，子宮付属器炎，子宮旁結合織炎，顎骨周辺の蜂巣炎，顎炎
注意
急性気管支炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】バイアル
成人　1日1～2g　1日2回　分割　静注・点滴静注。
小児　1日25～100mg／kg　1日2～4回　分割　静注・点滴静注。
難治性・重症感染症 成人　1日4g，小児　1日150mg／kgまで増量　1日2～4回　分割　投与。
静注時　緩徐に投与（1gあたり注射用水，生食又はブドウ糖液10mLに溶解）。補液に加え点滴静注もできる。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック（0．01%未満），アナフィラキシー（頻度不明）（不快感，口内異常感，喘鳴，眩暈，便意，耳鳴，発汗等）。
2．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）。
3．急性腎障害（頻度不明）等の重篤な腎障害（BUN・血中クレアチニン上昇等）。
4．肝炎（AST，ALTの著しい上昇等），肝機能障害，黄疸（各頻度不明）。
5．無顆粒球症，溶血性貧血，血小板減少（各頻度不明）。
6．偽膜性大腸炎（0．01%未満）等の血便を伴う重篤な大腸炎（腹痛，頻回の下痢）。
7．間質性肺炎，PIE症候群（各頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒 蕁麻疹，紅斑，発熱 －
血液 顆粒球減少，好酸球増多 赤血球減少，血小板減少 －
肝臓 AST上昇，ALT上昇，肝機能異常 AI－P上昇 －
消化器 悪心・嘔吐，下痢 食欲不振 －
菌交代症 － 口内炎，カンジダ症 －
ビタミン欠乏症 － ビタミンB群欠乏症状（舌炎，口内炎，食欲不振，神経炎等） ビタミンK欠乏症状（低プロトロンビン血症，出血傾向等）
その他 － 頭痛 －
（表終了）

セフメタゾールナトリウム点滴静注用バッグ1g「NP」（1g1キット（生理食塩液100mL付））

両　注射　流通

【YJコード】6132408G3038
【薬効分類】6．1．3　主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
【一般名】セフメタゾールナトリウム
【メーカー】製)ニプロ
【薬価】878円/1kit
【薬価収載日】2006/07/07
【標榜薬効】セファマイシン系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種
黄色ブドウ球菌，大腸菌，肺炎桿菌，プロテウス属，モルガネラ・モルガニー，プロビデンシア属，ペプトストレプトコッカス属，バクテロイデス属，プレボテラ属（プレボテラ・ビビア除く）
適応症
敗血症，急性気管支炎，肺炎，肺膿瘍，膿胸，慢性呼吸器病変の二次感染，膀胱炎，腎盂腎炎，腹膜炎，胆嚢炎，胆管炎，バルトリン腺炎，子宮内感染，子宮付属器炎，子宮旁結合織炎，顎骨周辺の蜂巣炎，顎炎
注意
急性気管支炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】バッグ
成人　1日1～2g　1日2回　分割　静注・点滴静注。
小児　1日25～100mg／kg　1日2～4回　分割　静注・点滴静注。
難治性・重症感染症 成人　1日4g，小児　1日150mg／kgまで増量　1日2～4回　分割　投与。
生食に用時溶解し，緩徐に投与。補液に加え点滴静注もできる。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック（0．01%未満），アナフィラキシー（頻度不明）（不快感，口内異常感，喘鳴，眩暈，便意，耳鳴，発汗等）。
2．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）。
3．急性腎障害（頻度不明）等の重篤な腎障害（BUN・血中クレアチニン上昇等）。
4．肝炎（AST，ALTの著しい上昇等），肝機能障害，黄疸（各頻度不明）。
5．無顆粒球症，溶血性貧血，血小板減少（各頻度不明）。
6．偽膜性大腸炎（0．01%未満）等の血便を伴う重篤な大腸炎（腹痛，頻回の下痢）。
7．間質性肺炎，PIE症候群（各頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒 蕁麻疹，紅斑，発熱 －
血液 顆粒球減少，好酸球増多 赤血球減少，血小板減少 －
肝臓 AST上昇，ALT上昇，肝機能異常 AI－P上昇 －
消化器 悪心・嘔吐，下痢 食欲不振 －
菌交代症 － 口内炎，カンジダ症 －
ビタミン欠乏症 － ビタミンB群欠乏症状（舌炎，口内炎，食欲不振，神経炎等） ビタミンK欠乏症状（低プロトロンビン血症，出血傾向等）
その他 － 頭痛 －
（表終了）

タゾピペ配合静注用4．5「明治」（（4．5g）1瓶）

両　注射　後発　流通

【YJコード】6139505F4123
【薬効分類】6．1．3　主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
【一般名】タゾバクタム・ピペラシリン水和物
【先発品】ゾシン静注用4．5
【メーカー】製)MeijiSeikaファルマ
【薬価】892円/1V
【薬価収載日】2015/12/11
【標榜薬効】β －ラクタマーゼ阻害剤配合抗生物質製剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．一般感染症
適応菌種 ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，腸球菌属，モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス，大腸菌，シトロバクター属，クレブシエラ属，エンテロバクター属，セラチア属，プロテウス属，プロビデンシア属，インフルエンザ菌，緑膿菌，アシネトバクター属，ペプトストレプトコッカス属，クロストリジウム属（クロストリジウム・ディフィシル除く），バクテロイデス属，プレボテラ属
適応症 敗血症，深在性皮膚感染症，糜爛・潰瘍の二次感染，肺炎，腎盂腎炎，複雑性膀胱炎，腹膜炎，腹腔内膿瘍，胆嚢炎，胆管炎
2．発熱性好中球減少症

6 病原生物に対する医薬品

注意
効能共通
1. 感受性を確認し，β－lactamaseの関与が考えられ，本剤に感性の起炎菌による中等症以上の感染症に投与。
発熱性好中球減少症
2. 下記の2条件を満たす患者に投与。
(1). 1回の検温で38℃以上の発熱，又は1時間以上持続する37.5℃以上の発熱。
(2). 好中球数が500／mm3未満の時，又は1000／mm3未満で500／mm3未満に減少することが予測される時。
3. 国内外のガイドライン等を参照し，治療に熟知した医師のもとで，適切と判断される患者にのみ実施。
4. 投与前に血液培養等の検査を実施。起炎菌の判明時，投与継続の必要性を検討。
5. 投与開始時期の指標である好中球数が緊急時等で確認できない時は，白血球数の半数を好中球数として推定。
6. 好中球数，発熱が回復すれば，投与中止を考慮。
7. 腫瘍熱・薬剤熱等の非感染性の発熱である時，速やかに投与中止。
【用法用量】一般感染症
・敗血症，肺炎，腹膜炎，腹腔内膿瘍，胆嚢炎，胆管炎
成人 タゾバクタム・ピペラシリン 1回4．5g 1日3回 点滴静注。肺炎の時 1日4回まで。必要時 緩徐に静注もできる。
小児 1回112．5mg／kg 1日3回 点滴静注。必要時 緩徐に静注もできる。
適宜減量。1回4．5gまで。
・深在性皮膚感染症，糜爛・潰瘍の二次感染
成人 タゾバクタム・ピペラシリン 1回4．5g 1日3回 点滴静注。必要時 緩徐に静注もできる。
・腎盂腎炎，複雑性膀胱炎
成人 タゾバクタム・ピペラシリン 1回4．5g 1日2回 点滴静注。1日3回まで。必要時 緩徐に静注もできる。
小児 1回112．5mg／kg 1日2回 点滴静注。必要時 緩徐に静注もできる。
適宜減量。1日3回まで。1回4．5gまで。
発熱性好中球減少症
成人 タゾバクタム・ピペラシリン 1回4．5g 1日4回 点滴静注。必要時 緩徐に静注もできる。
小児 1回90mg／kg 1日4回 点滴静注。必要時 緩徐に静注もできる。1回4．5gまで。
注意
効能共通
1. 投与期間 成人の腎盂腎炎，複雑性膀胱炎は5日間，深在性皮膚感染症，糜爛・潰瘍の二次感染，市中肺炎，腹膜炎，腹腔内膿瘍，胆嚢炎，胆管炎，発熱性好中球減少症，小児の腎盂腎炎，複雑性膀胱炎は14日間，敗血症，院内肺炎は21日間を目安。耐性菌の発現等を防ぐため，必要最小限の期間にとどめる。
2. 著しい水分摂取制限等点滴静注が困難な時には，緩徐に静注。
3. 高齢者 例えば2．25gから開始する等慎重投与。
一般感染症
4. 肺炎の1日4回投与は，重症・難治の市中肺炎，院内肺炎のうち1日4回投与が必要な患者を選択し使用。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分・ペニシリン系抗生剤に過敏症の既往。
2. 伝染性単核球症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(呼吸困難，喘息様発作，掻痒等)。
2. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑，急性汎発性発疹性膿疱症(各頻度不明)。
3. 劇症肝炎(頻度不明)等の重篤な肝炎，肝機能障害(2．7%)(AST，ALTの上昇等)，黄疸(頻度不明)。
4. 急性腎障害(0．4%)，間質性腎炎(頻度不明)等の重篤な腎障害。
5. 汎血球減少症，無顆粒球症(各頻度不明)，血小板減少症(0．4%)，溶血性貧血(頻度不明)(発熱，咽頭痛，皮下・粘膜出血，貧血，黄疸等)。
6. 偽膜性大腸炎(頻度不明)等の血便を伴う重篤な大腸炎(腹痛，頻回の下痢)。
7. 間質性肺炎(0．5%)，PIE症候群(頻度不明)(発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等)。
8. 横紋筋融解症(0．2%)(急激な腎機能悪化を伴う)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇)。
9. 薬剤性過敏症症候群(頻度不明)(発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状(頻度不明))，ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
10. 低カリウム血症(4．0%)(倦怠感，脱力感，不整脈，痙攣等)。
11. 血球貪食性リンパ組織球症(血球貪食症候群)(頻度不明)(発熱，発疹，神経症状，脾腫，リンパ節腫脹，血球減少，LDH上昇，高フェリチン血症，高トリグリセリド血症，肝機能障害，血液凝固障害等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹，発赤，紅斑，掻痒，発熱，潮紅，浮腫 水疱性皮膚炎
血液 好酸球増多 白血球減少，好中球減少，単球減少，血小板減少，貧血，赤血球減少，ヘマトクリット減少，好中球増多，単球増多，血小板増多 顆粒球減少，リンパ球増多，出血傾向(紫斑，鼻出血，出血時間延長含む)
肝臓 ALT上昇(9．9%)，AST上昇，γ－GTP上昇(9．0%) LDH上昇，AI－P上昇，ビリルビン上昇
消化器 下痢(24．3%)，軟便 悪心，嘔吐，便秘，腹部不快感，腹痛，白色便，口内炎，口唇炎 食欲不振，胸やけ，腹部膨満感，下血
中枢神経 痙攣等の神経症状
菌交代症 カンジダ症
ビタミン欠乏症 ビタミンK欠乏症状，ビタミンB群欠乏症状(注)
その他 意識レベル低下，眩暈，不眠，頭痛，CK上昇，クレアチニン上昇，BUN上昇，アンモニア上昇，クロール減少，蛋白尿，尿中ブドウ糖陽性，尿中ウロビリン陽性 関節痛，動悸，発汗，胸内苦悶感，胸部痛，背部異常感，悪寒，総蛋白減少，アルブミン低下，血糖値低下
(表終了)
(注)ビタミンK欠乏症状(低プロトロンビン血症，出血傾向等)，ビタミンB群欠乏症状(舌炎，口内炎，食欲不振，神経炎等)。

ビクシリン注射用2g（2g1瓶）

両 注射 流通

【YJコード】6131400D4077
【薬効分類】6．1．3 主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
【一般名】アンピシリンナトリウム
【メーカー】製)MeijiSeikaファルマ
【薬価】818円／1V
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】ペニシリン系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種 ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，腸球菌属，淋菌，髄膜炎菌，炭疽菌，放線菌，大腸菌，赤痢菌，プロテウス・ミラビリス，インフルエンザ菌，リステリア・モノサイトゲネス
適応症 敗血症，感染性心内膜炎，表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，リンパ管・リンパ節炎，慢性膿皮症，外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，乳腺炎，骨髄炎，咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，肺炎，肺膿瘍，膿胸，慢性呼吸器病変の二次感染，膀胱炎，腎盂腎炎，淋菌感染症，腹膜炎，肝膿瘍，感染性腸炎，子宮内感染，化膿性髄膜炎，眼瞼膿瘍，角膜炎(角膜潰瘍含む)，中耳炎，副鼻腔炎，歯周組織炎，歯冠周囲炎，顎炎，抜歯創・口腔手術創の二次感染，猩紅熱，炭疽，放線菌症
注意
効能共通
1. 筋注は，組織・神経等への影響を避けるため，内服が困難な時，緊急時，内服で効果不十分と考えられる時のみ使用。内服可能で効果が十分な時，速やかに内服に切りかえる。
咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，感染性腸炎，中耳炎，副鼻腔炎
2.「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】1. 成人
筋注
1回250～1000mg 1日2～4回 筋注。
敗血症，感染性心内膜炎，化膿性髄膜炎 通常量より大量使用。
適宜増減。
静注
1日1～2g 1日1～2回 分割 静注(生食又はブドウ糖液に溶解)。
点滴静注時 1日1～4g 1日1～2回 分割 1～2時間かけ 点滴静注(輸液100～500mLに溶解)。
敗血症，感染性心内膜炎，化膿性髄膜炎 通常量より大量使用。
適宜増減。
2. 小児
1日100～200mg／kg 1日3～4回 分割 静注(生食又はブドウ糖液に溶解)。点滴静注時，輸液に溶解。適宜増量，1日400mg／kgまで。
3. 新生児
1日50～200mg／kg 1日2～4回 分割 静注(生食又はブドウ糖液に溶解)。点滴静注時，輸液に溶解。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 伝染性単核症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー(各0．1%未満)(不快感，口内異常感，喘鳴，眩暈，便意，耳鳴等)。
2. 中毒性表皮壊死融解症(0．1%未満)，皮膚粘膜眼症候群(0．1%未満)，急性汎発性発疹性膿疱症(頻度不明)。
3. 無顆粒球症，溶血性貧血(各0．1%未満)。
4. 急性腎障害等の重篤な腎障害(0．1%未満)。
5. 偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎(0．1%未満)(腹痛，頻回の下痢)。
6. 肝機能障害(頻度不明)(AST，ALTの上昇等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上又は頻度不明 0．1～5%未満 0．1%未満
過敏症 発熱，発疹，蕁麻疹等

6 病原生物に対する医薬品

血液　好酸球増多，顆粒球減少，血小板減少，貧血
肝臓　AST，ALT，Al－P上昇
消化器　下痢，悪心，食欲不振等
中枢神経 痙攣等の神経症状
菌交代症　口内炎，カンジダ症
ビタミン欠乏症　ビタミンK欠乏症状（低プロトロンビン血症，出血傾向等），ビタミンB群欠乏症状（舌炎，口内炎，食欲不振，神経炎等）
（表終了）

フルマリンキット静注用1g（1g1キット（生理食塩液100mL付））

両　注射　流通

【YJコード】6133401G1022
【薬効分類】6．1．3　主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
【一般名】フロモキセフナトリウム
【メーカー】製)塩野義製薬
【薬価】2011円/1kit
【薬価収載日】2000/11/24
【標榜薬効】オキサセフェム系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種
ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，淋菌，モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス，大腸菌，クレブシエラ属，プロテウス属，モルガネラ・モルガニー，プロビデンシア属，インフルエンザ菌，ペプトストレプトコッカス属，バクテロイデス属，プレボテラ属（プレボテラ・ビビア除く）
適応症
敗血症，感染性心内膜炎，外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，慢性呼吸器病変の二次感染，膀胱炎，腎盂腎炎，前立腺炎（急性症，慢性症），尿道炎，腹膜炎，腹腔内膿瘍，胆嚢炎，胆管炎，バルトリン腺炎，子宮内感染，子宮付属器炎，子宮旁結合織炎，中耳炎，副鼻腔炎
注意
咽頭・喉頭炎，扁桃炎，急性気管支炎，中耳炎，副鼻腔炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】キット静注用
成人　1日1～2g　1日2回　分割　点滴静注。
小児　1日60～80mg／kg　1日3～4回　分割　点滴静注。
未熟児・新生児　1回20mg／kg　生後3日まで1日2～3回，4日以降1日3～4回　点滴静注。
適宜増減。難治性・重症感染症 成人　1日4gまで増量　1日2～4回　分割　投与。未熟児・新生児・小児　1日150mg／kgまで増量　1日3～4回　分割　投与。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，喘鳴，全身潮紅，浮腫等）。
2．急性腎障害（頻度不明）等の重篤な腎障害。
3．汎血球減少，無顆粒球症，血小板減少，溶血性貧血（各頻度不明）。
4．偽膜性大腸炎（頻度不明）等の血便を伴う重篤な大腸炎（腹痛，頻回の下痢）。
5．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）。
6．間質性肺炎，PIE症候群（各頻度不明）等（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等）。
7．肝機能障害（AST，ALT，Al－P，γ－GTP，LAP等の上昇），黄疸（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症　発疹，発熱 掻痒，発赤，顔面潮紅，皮膚感覚異常感 蕁麻疹
血液　貧血（赤血球減少，ヘモグロビン減少，ヘマトクリット減少），好酸球増多，血小板減少・増多　顆粒球減少
腎臓　BUN上昇，クレアチニン上昇，蛋白尿　乏尿
肝臓 AST上昇，ALT上昇 Al－P上昇，γ－GTP上昇，LAP上昇　黄疸
消化器　下痢・軟便 悪心，嘔吐，腹部膨満感
菌交代症　口内炎 カンジダ症
ビタミン欠乏症　ビタミンK欠乏症状（低プロトロンビン血症，出血傾向等），ビタミンB群欠乏症状（舌炎，口内炎，食欲不振，神経炎等）
その他　頭重感，全身倦怠感，尿道異和感 血清アミラーゼ上昇，尿アミラーゼ上昇
（表終了）

ホスホマイシンナトリウム静注用2g「日医工」（2g1瓶）

両　注射　流通

【YJコード】6135400F3224
【薬効分類】6．1．3　主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
【一般名】ホスホマイシンナトリウム
【メーカー】製)日医工
【薬価】863円/1V
【薬価収載日】2012/06/22
【標榜薬効】ホスホマイシン系抗生物質製剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種
ブドウ球菌属，大腸菌，セラチア属，プロテウス属，モルガネラ・モルガニー，プロビデンシア・レットゲリ，緑膿菌
適応症
敗血症，急性気管支炎，肺炎，肺膿瘍，膿胸，慢性呼吸器病変の二次感染，膀胱炎，腎盂腎炎，腹膜炎，バルトリン腺炎，子宮内感染，子宮付属器炎，子宮旁結合織炎
注意
急性気管支炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】点滴静注
100～500mL補液に溶解。成人　1日2～4g　1日2回　分割　1～2時間かけ　点滴静注。小児　1日100～200mg／kg　1日2回　分割　1～2時間かけ　点滴静注。
静注
注射用水又はブドウ糖液を用い，1～2gを20mLに溶解。成人　1日2～4g　1日2～4回　分割　5分以上かけ　ゆっくり静注。小児　1日100～200mg／kg　1日2～4回　分割　5分以上かけ　ゆっくり静注。
いずれも適宜増減。

■禁忌

【禁忌】ホスホマイシンに過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各0．1%未満）（胸内苦悶，呼吸困難，血圧低下，チアノーゼ，蕁麻疹，不快感等）。
2．偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎（0．1%未満）（腹痛，頻回の下痢）。
3．汎血球減少，無顆粒球症，血小板減少（各0．1%未満）。
4．肝機能障害，黄疸（各0．1%未満）。
5．痙攣（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満
肝臓 AST，ALT，Al－P，LDH，γ－GTP，ビリルビンの上昇
血液　貧血，顆粒球減少，白血球減少，好酸球増多
腎臓　腎機能異常，浮腫，BUN上昇，蛋白尿，電解質異常
消化器 下痢 口内炎，嘔気，嘔吐，腹痛，食欲不振
皮膚 発疹 紅斑，蕁麻疹，掻痒感
呼吸器系　咳嗽，喘息発作
神経系　しびれ感，眩暈
投与部位 血管痛 静脈炎
その他　頭痛，口渇，発赤，発熱，倦怠感，胸部不快感，胸部圧迫感，心悸亢進
（表終了）

ホスミシン錠500（500mg1錠）

両　内服　流通

【YJコード】6135001F2025
【薬効分類】6．1．3　主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
【一般名】ホスホマイシンカルシウム水和物
【メーカー】製)MeijiSeikaファルマ
【薬価】67.7円/1T
【標榜薬効】ホスホマイシン系抗生物質製剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種 ブドウ球菌属，大腸菌，赤痢菌，サルモネラ属，セラチア属，プロテウス属，モルガネラ・モルガニー，プロビデンシア・レットゲリ，緑膿菌，カンピロバクター属
適応症 深在性皮膚感染症，膀胱炎，腎盂腎炎，感染性腸炎，涙嚢炎，麦粒腫，瞼板腺炎，中耳炎，副鼻腔炎
注意
感染性腸炎，中耳炎，副鼻腔炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】成人　1日2～3g　1日3～4回　分割　内服。
小児　1日40～120mg／kg　1日3～4回　分割　内服。
適宜増減。

■副作用

【副作用】重大な副作用

6 病原生物に対する医薬品

偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎(0.1%未満)(腹痛,頻回の下痢)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0.1～5%未満 0.1%未満 頻度不明
肝臓 AST,ALT,Al－P,LDHの上昇等の肝機能異常
消化器 嘔気,腹痛,下痢・軟便 食欲不振,消化不良,胃部不快感,胃もたれ,胸やけ,腹部膨満感,嘔吐
腎臓 浮腫,BUN上昇
皮膚 発疹 蕁麻疹,掻痒感
血液 好酸球増多,血小板減少
神経系 頭痛,耳鳴,眩暈
菌交代症 口内炎
その他 ほてり,発赤,発熱,心悸亢進,倦怠感 菌交代による非感受性のクレブシエラ・オキシトカ
(表終了)

ホスミシンドライシロップ400(400mg1g)

両 内服 流通

【YJコード】6135001R2110
【薬効分類】6.1.3 主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
【一般名】ホスホマイシンカルシウム水和物
【メーカー】製)MeijiSeikaファルマ
【薬価】86.2円/1g
【標榜薬効】ホスホマイシン系抗生物質製剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種 ブドウ球菌属,大腸菌,赤痢菌,サルモネラ属,セラチア属,プロテウス属,モルガネラ・モルガニー,プロビデンシア・レットゲリ,緑膿菌,カンピロバクター属
適応症 深在性皮膚感染症,膀胱炎,腎盂腎炎,感染性腸炎,涙嚢炎,麦粒腫,瞼板腺炎,中耳炎,副鼻腔炎
注意
感染性腸炎,中耳炎,副鼻腔炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照,抗菌薬投与の必要性を判断し,適切な時に投与。
【用法用量】小児 1日ホスホマイシン40～120mg/kg 1日3～4回分割 内服。
適宜増減。
注意
1.体重あたりの1日量
(表開始)
体重(kg) 1日量(mg) 投与法(下記1日量を3～4回に分割) 投与法
(下記1日量を3～4回に分割)
体重(kg) 1日量(mg) ホスホマイシンカルシウム水和物200mg/g ホスホマイシンカルシウム水和物400mg/g
5 200～600 1～3g 0.5～1.5g
10 400～1200 2～6g 1～3g
15 600～1800 3～9g 1.5～4.5g
(表終了)

■副作用

【副作用】重大な副作用
偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎(0.1%未満)(腹痛,頻回の下痢)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0.1～5%未満 0.1%未満 頻度不明
肝臓 AST,ALT,Al－P,LDHの上昇等の肝機能異常
消化器 下痢・軟便 食欲不振,嘔気,嘔吐,腹痛
腎臓 浮腫,BUN上昇
皮膚 発疹 蕁麻疹,掻痒感
血液 好酸球増多,血小板減少
神経系 頭痛,耳鳴,眩暈
菌交代症 口内炎
その他 ほてり,発赤,発熱,心悸亢進,倦怠感 菌交代による非感受性のクレブシエラ・オキシトカ
(表終了)

メロペネム点滴静注用0.5g「明治」(500mg1瓶)

両 注射 流通

【YJコード】6139400D2110
【薬効分類】6.1.3 主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの
【一般名】メロペネム水和物
【メーカー】製)MeijiSeikaファルマ
【薬価】656円/1V
【薬価収載日】2009/11/13
【標榜薬効】カルバペネム系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1.一般感染症
適応菌種 ブドウ球菌属,レンサ球菌属,肺炎球菌,腸球菌属,髄膜炎菌,モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス,大腸菌,シトロバクター属,クレブシエラ属,エンテロバクター属,セラチア属,プロテウス属,プロビデンシア属,インフルエンザ菌,シュードモナス属,緑膿菌,バークホルデリア・セパシア,バクテロイデス属,プレボテラ属
適応症 敗血症,深在性皮膚感染症,リンパ管・リンパ節炎,外傷・熱傷及び手術創等の二次感染,肛門周囲膿瘍,骨髄炎,関節炎,扁桃炎(扁桃周囲膿瘍含む),肺炎,肺膿瘍,膿胸,慢性呼吸器病変の二次感染,複雑性膀胱炎,腎盂腎炎,腹膜炎,胆嚢炎,胆管炎,肝膿瘍,子宮内感染,子宮付属器炎,子宮旁結合織炎,化膿性髄膜炎,眼内炎(全眼球炎含む),中耳炎,副鼻腔炎,顎骨周辺の蜂巣炎,顎炎
2.発熱性好中球減少症
注意
効能共通
1.投与前に感受性が未確認の時,投与開始後3日を目安とし感受性を確認し,投与が適正か判断。感受性がなければ,速やかに他剤に変更。
扁桃炎(扁桃周囲膿瘍含む),中耳炎,副鼻腔炎
2.「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照,抗菌薬投与の必要性を判断し,適切な時に投与。
発熱性好中球減少症
3.下記の2条件を満たす症例に投与。
(1).1回の検温で38℃以上の発熱,又は1時間以上持続する37.5℃以上の発熱。
(2).好中球数が500/mm3未満の時,又は1000/mm3未満で500/mm3未満に減少することが予測される時。
4.国内外のガイドライン等を参照し,治療に熟知した医師のもとで,適切と判断される症例にのみ実施。
5.投与前に血液培養等の検査を実施。起炎菌の判明時,投与継続の必要性を検討。
6.投与の開始時期の指標である好中球数が緊急時等で確認できない時は,白血球数の半数を好中球数として推定。
7.好中球数,発熱が回復すれば,投与中止を考慮。
8.腫瘍熱・薬剤熱等の非感染性の発熱である時,速やかに投与中止。
【用法用量】効能共通
投与開始後3日を目安とし継続投与が必要か判定し,投与中止又は他剤に切りかえを検討。
一般感染症
化膿性髄膜炎以外の一般感染症
成人 1日0.5～1g 1日2～3回 分割 30分以上かけ 点滴静注。
適宜増減。
重症・難治性感染症 1回1g 1日3gまで。
小児 1日30～60mg/kg 1日3回 分割 30分以上かけ 点滴静注。適宜増減。
重症・難治性感染症 1日120mg/kgまで,1日最大3g。
化膿性髄膜炎
成人 1日6g 1日3回 分割 30分以上かけ 点滴静注。適宜減量。
小児 1日120mg/kg 1日3回 分割 30分以上かけ 点滴静注。適宜減量。1日6gまで。
発熱性好中球減少症
成人 1日3g 1日3回 分割 30分以上かけ 点滴静注。
小児 1日120mg/kg 1日3回 分割 30分以上かけ 点滴静注。1日3gまで。
注意
1.腎機能障害 下表を目安に投与量・投与間隔を調節。
Ccr※が50mL/分以下の腎機能障害(成人)の投与量,投与間隔の目安
(表開始)
Ccr(mL/分) 投与量,投与間隔
26～50 1回量を減量せず12時間ごとに投与
10～25 1回量を1/2に減量し12時間ごとに投与
<10 1回量を1/2に減量し24時間ごとに投与
(表終了)
※クレアチニンクリアランス
2.血液透析日には,透析終了後に投与。

■禁忌

【禁忌】1.本剤の成分に過敏症の既往。
2.バルプロ酸ナトリウムの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1.ショック,アナフィラキシー(各0.1%未満)(呼吸困難,不快感,口内異常感,喘鳴,眩暈,便意,耳鳴,発汗,全身潮紅,血管浮腫,蕁麻疹等)。
2.急性腎障害等の重篤な腎機能障害(0.1%未満)。
3.劇症肝炎(頻度不明),肝機能障害(0.1～5%未満),黄疸(0.1%未満)。
4.偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎(0.1%未満)(腹痛,頻回の下痢)。
5.間質性肺炎,PIE症候群(各0.1%未満)(発熱,咳嗽,呼吸困難,胸部X線異常,好酸球増多等)。
6.痙攣,意識障害等の中枢神経症状(0.1%未満)。
7.中毒性表皮壊死融解症(0.1%未満),皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)。
8.汎血球減少,無顆粒球症,溶血性貧血(各頻度不明),白血球減少,血小板減少(各0.1%未満)。

6 病原生物に対する医薬品

9. 血栓性静脈炎(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0.1～5%未満 0.1%未満 頻度不明
過敏症 発疹, 発熱 蕁麻疹, 紅斑, 掻痒, 発赤 熱感
血液 顆粒球減少, 好酸球増多, 血小板減少・増多, 赤血球減少, ヘモグロビンの減少 好塩基球増多, リンパ球増多, 好中球増多, 単球増多, ヘマトクリットの減少, 異型リンパ球出現
肝臓 AST, ALT, LDH, AI－P, LAP, γ－GTP, ビリルビン, 尿ウロビリノーゲンの上昇 黄疸, コリンエステラーゼ低下
腎臓 BUN, クレアチニンの上昇 尿中β2－マイクログロブリンの上昇, 尿蛋白陽性
消化器 下痢 嘔気, 嘔吐, 腹痛 食欲不振
菌交代症 口内炎, カンジダ症
ビタミン欠乏症 ビタミンK欠乏症状(低プロトロンビン血症, 出血傾向等), ビタミンB群欠乏症状(舌炎, 口内炎, 食欲不振, 神経炎等)
その他 血清カリウム上昇 頭痛, 倦怠感, 不穏, 血清ナトリウム低下, 血清カリウム低下, CK上昇, トリグリセリド増加, 胸部不快感, 血中尿酸減少・増加, 注射部位反応(炎症, 疼痛, 硬結等) ミオクローヌス, せん妄
(表終了)

6. 1. 4 主としてグラム陽性菌, マイコプラズマに作用するもの

エリスロシン錠200mg (200mg1錠)

両 内服 流通

【YJコード】6141004F2042
【薬効分類】6. 1. 4 主としてグラム陽性菌, マイコプラズマに作用するもの
【一般名】エリスロマイシンステアリン酸塩
【メーカー】製)ヴィアトリス・ヘルスケア 販)アボットジャパン 販)ヴィアトリス製薬 販)大日本住友製薬
【薬価】8.7円/1T
【薬価収載日】2003/07/04
【標榜薬効】マクロライド系抗生物質
【区分】抗生剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種
ブドウ球菌属, レンサ球菌属, 肺炎球菌, 淋菌, 髄膜炎菌, ジフテリア菌, 軟性下疳菌, 百日咳菌, 破傷風菌, 梅毒トレポネーマ, トラコーマクラミジア(クラミジア・トラコマティス), マイコプラズマ属
適応症
表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 乳腺炎, 骨髄炎, 扁桃炎, 肺炎, 肺膿瘍, 膿胸, 腎盂腎炎, 尿道炎, 淋菌感染症, 軟性下疳, 梅毒, 子宮内感染, 中耳炎, 歯冠周囲炎, 猩紅熱, ジフテリア, 百日咳, 破傷風
注意
扁桃炎, 中耳炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照, 抗菌薬投与の必要性を判断し, 適切な時に投与。
【用法用量】成人 1日800～1200mg 1日4～6回 分割 内服。
小児 1日25～50mg／kg 1日4～6回 分割 内服。
適宜増減, 小児は成人量まで。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン, ジヒドロエルゴタミンメシル酸塩, ピモジド, ロミタピドメシル酸塩, クリンダマイシン(注射剤, 経口剤), リンコマイシン塩酸塩水和物の投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎(頻度不明)(腹痛, 頻回の下痢)。
2. 心室頻拍(Torsades de pointes含む), QT延長(頻度不明)。
3. ショック, アナフィラキシー(頻度不明)(呼吸困難, 胸内苦悶, 血圧低下等)。
4. 中毒性表皮壊死融解症, 皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)。
5. 急性腎障害(急性間質性腎炎)(頻度不明)。
6. 肝機能障害(AST, ALT, AI－Pの上昇等), 黄疸(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0.1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹 蕁麻疹, 血管性浮腫
消化器 食欲不振, 悪心・嘔吐, 胃痛, 胃部不快感, 下痢, 鼓腸, 便秘
腹部痙攣, 膵炎
眼 視力低下, 霧視
(表終了)

クラリスロマイシンDS小児用10%「タカタ」(100mg1g)

両 内服 流通

【YJコード】6149003R1062
【薬効分類】6. 1. 4 主としてグラム陽性菌, マイコプラズマに作用するもの
【一般名】クラリスロマイシン
【メーカー】製)高田製薬 販)大原薬品工業 販)塩野義製薬
【薬価】57.9円/1g
【薬価収載日】2006/07/07
【標榜薬効】マクロライド系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 一般感染症
適応菌種 ブドウ球菌属, レンサ球菌属, 肺炎球菌, モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス, インフルエンザ菌, レジオネラ属, 百日咳菌, カンピロバクター属, クラミジア属, マイコプラズマ属
適応症 表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 慢性膿皮症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎, 急性気管支炎, 肺炎, 肺膿瘍, 慢性呼吸器病変の二次感染, 感染性腸炎, 中耳炎, 副鼻腔炎, 猩紅熱, 百日咳
2. 後天性免疫不全症候群に伴う播種性マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス症
適応菌種 マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス
適応症 後天性免疫不全症候群に伴う播種性マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス症
注意
一般感染症 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎, 急性気管支炎, 感染性腸炎, 中耳炎, 副鼻腔炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照, 抗菌薬投与の必要性を判断し, 適切な時に投与。
【用法用量】(表開始)
効能・効果 用法・用量
一般感染症 小児 1日クラリスロマイシン10～15mg／kg 1日2～3回 分割 内服(用時懸濁)。レジオネラ肺炎;1日15mg／kg 1日2～3回 分割 内服。適宜増減。
後天性免疫不全症候群に伴う播種性マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス(MAC)症 小児 1日クラリスロマイシン15mg／kg 1日2回 分割 内服(用時懸濁)。適宜増減。
(表終了)
注意
一般感染症
1. 小児は1日400mgまで。
2. 免疫不全等合併症を有さない軽症～中等症のレジオネラ肺炎 1日400mg分2投与で, 2～5日で症状は改善。軽快しても投与は2～3週間継続。レジオネラ肺炎は再発の頻度が高い感染症, 特に免疫低下の状態では, 治療終了後, 2～3週間投与を継続し症状を観察。投与期間中に症状の悪化時は, 速やかにレジオネラに有効な注射剤(キノロン系薬剤等)への変更が必要。
3. レジオネラ肺炎の治療は単独使用だが, 併用が必要な時は下記の報告を参考に併用薬の特徴を考慮し選択。
(1). 中等症以上にリファンピシンと併用し有効の報告あり。
(2). in vitro抗菌力の検討において, 本剤とレボフロキサシン又はシプロフロキサシンとの併用効果(相乗ないし相加作用)の報告あり。
後天性免疫不全症候群に伴う播種性MAC症
4. 国内外の最新のガイドライン等を参考に併用療法を行う。
5. 臨床的, 細菌学的な改善が認められた後も継続投与。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤に過敏症の既往。
2. ピモジド, エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン, ジヒドロエルゴタミンメシル酸塩, スボレキサント, ロミタピドメシル酸塩, タダラフィル(アドシルカ), チカグレロル, イブルチニブ, イバブラジン塩酸塩, ベネトクラクス(再発・難治性の慢性リンパ性白血病(小リンパ球性リンパ腫含む)用量漸増期), ルラシドン塩酸塩, アナモレリン塩酸塩, フィネレノン, イサブコナゾニウム硫酸塩の投与患者。
3. 肝臓・腎臓に障害のあるコルヒチンの投与患者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック, アナフィラキシー(各頻度不明)(呼吸困難, 痙攣, 発赤等)。
2. QT延長, 心室頻拍(Torsades de pointes含む), 心室細動(各頻度不明)。
3. 劇症肝炎, 肝機能障害(AST, ALT, γ－GTP, LDH, AI－Pの上昇等), 黄疸, 肝不全(各頻度不明)。
4. 血小板減少, 汎血球減少, 溶血性貧血, 白血球減少, 無顆粒球症(各頻度不明)。
5. 中毒性表皮壊死融解症, 皮膚粘膜眼症候群, 多形紅斑(各頻度不明)。
6. PIE症候群・間質性肺炎(各頻度不明)(発熱, 咳嗽, 呼吸困難, 胸部X線異常, 好酸球増多等)。
7. 偽膜性大腸炎, 出血性大腸炎(各頻度不明)等の重篤な大腸炎(腹痛, 頻回の下痢)。

6 病原生物に対する医薬品

8. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇), 急性腎障害。
9. 痙攣(頻度不明)(強直間代性, ミオクロヌス, 意識消失発作等)。
10. 急性腎障害, 尿細管間質性腎炎(各頻度不明)(乏尿等, 血中クレアチニン値上昇等の腎機能低下)。
11. IgA血管炎(頻度不明)。
12. 薬剤性過敏症症候群(頻度不明)(発疹, 発熱, 肝機能障害, リンパ節腫脹, 白血球増加, 好酸球増多, 異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状)。
その他の副作用(発現時中止等)(一般感染症)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 掻痒感
精神神経系 眩暈 頭痛 幻覚 失見当識 意識障害 せん妄 躁病 眠気 振戦 しびれ(感) 錯感覚 不眠
感覚器 味覚異常(にがみ等) 耳鳴 聴力低下 嗅覚異常
消化器 悪心 嘔吐 胃部不快感 腹部膨満感 腹痛 下痢 食欲不振 軟便 口内炎 舌炎 口渇 口腔内糜爛 胸やけ 歯牙変色 舌変色
血液 好酸球増多
肝臓 AST上昇 ALT上昇 γ－GTP上昇 LDH上昇 AI－P上昇
筋・骨格 筋肉痛
その他 倦怠感 浮腫 カンジダ症 発熱 動悸 CK上昇 脱毛 頻尿 低血糖
(表終了)
その他の副作用(発現時中止等)(後天性免疫不全症候群に伴う播種性MAC症)
(表開始)
発現部位等 5～10%未満 1～5%未満 頻度不明
精神神経系 不眠症 頭痛 眩暈 激越 神経過敏症 感覚異常 痙攣 妄想 幻覚 運動過多 躁病反応 偏執反応 末梢神経炎 精神病
感覚器 味覚減退 味覚倒錯 難聴 耳鳴 味覚喪失 結膜炎
皮膚 発疹 掻痒感 斑状丘疹状皮疹 ざ瘡 帯状疱疹 紫斑皮疹 光線過敏性反応 発汗
消化器 下痢 悪心 食欲不振 腹痛 嘔吐 逆流性食道炎 鼓腸放屁 消化不良 便秘 おくび 口渇 舌炎 舌変色
血液 白血球減少 貧血 再生不良性貧血 好中球減少 骨髄機能不全
肝臓 肝機能異常 γ－GTP上昇 AI－P上昇 AST上昇 ALT上昇 胆汁うっ滞性黄疸 肝炎 ビリルビン上昇
腎臓 急性腎障害 BUN上昇 クレアチニン上昇
生殖器 子宮頸部上皮異形成 膣カンジダ症
筋・骨格 筋肉痛 関節痛
その他 高脂血症 トリグリセリド上昇 高尿酸血症 低カリウム血症 徐脈 無力症 アミラーゼ上昇 カンジダ症 疼痛 しゃっくり 発熱 胸痛 さむけ 酵素上昇
(表終了)

クラリスロマイシン錠200mg「サワイ」(200mg1錠)

両 内服 流通

【YJコード】6149003F2100
【薬効分類】6. 1. 4 主としてグラム陽性菌, マイコプラズマに作用するもの
【一般名】クラリスロマイシン
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】22.8円/1T
【薬価収載日】2006/07/07
【標榜薬効】マクロライド系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1. 一般感染症
適応菌種 ブドウ球菌属, レンサ球菌属, 肺炎球菌, モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス, インフルエンザ菌, レジオネラ属, カンピロバクター属, ペプトストレプトコッカス属, クラミジア属, マイコプラズマ属
適応症 表在性皮膚感染症, 深在性皮膚感染症, リンパ管・リンパ節炎, 慢性膿皮症, 外傷・熱傷及び手術創等の二次感染, 肛門周囲膿瘍, 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎, 急性気管支炎, 肺炎, 肺膿瘍, 慢性呼吸器病変の二次感染, 尿道炎, 子宮頸管炎, 感染性腸炎, 中耳炎, 副鼻腔炎, 歯周組織炎, 歯冠周囲炎, 顎炎
2. 非結核性抗酸菌症
適応菌種 マイコバクテリウム属
適応症 マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス症を含む非結核性抗酸菌症
3. ヘリコバクター・ピロリ感染症
適応菌種 ヘリコバクター・ピロリ
適応症 胃潰瘍・十二指腸潰瘍, 胃MALTリンパ腫, 特発性血小板減少性紫斑病, 早期胃癌の内視鏡的治療後胃のヘリコバクター・ピロリ感染症, ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎
注意
一般感染症 咽頭・喉頭炎, 扁桃炎, 急性気管支炎, 感染性腸炎, 中耳炎, 副鼻腔炎
1.「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照, 抗菌薬投与の必要性を判断し, 適切な時に投与。
ヘリコバクター・ピロリ感染症
2. 進行期胃MALTリンパ腫へのヘリコバクター・ピロリ除菌治療の有効性は未確立。
3. 特発性血小板減少性紫斑病では, ガイドライン等を参照し, ヘリコバクター・ピロリ除菌治療が適切な症例にのみ行う。
4. 早期胃癌の内視鏡的治療後胃以外には, ヘリコバクター・ピロリ除菌治療による胃癌の発症抑制への有効性は未確立。
5. ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎は, ヘリコバクター・ピロリの陽性と内視鏡検査で確認。
【用法用量】一般感染症
成人 1日400mg 1日2回 分割 内服。
適宜増減。
非結核性抗酸菌症
成人 1日800mg 1日2回 分割 内服。
適宜増減。
ヘリコバクター・ピロリ感染症
成人 1回クラリスロマイシン200mg, 1回アモキシシリン水和物750mg, プロトンポンプインヒビターの3剤を同時に1日2回 7日間 内服。
クラリスロマイシンは適宜増量, 1回400mg 1日2回まで。
注意
一般感染症
1. 免疫不全等合併症を有さない軽症～中等症のレジオネラ肺炎 1日400mg分2投与で, 2～5日で症状は改善。軽快しても投与は2～3週間継続。レジオネラ肺炎は再発の頻度が高い感染症, 特に免疫低下の状態では, 治療終了後, 2～3週間投与を継続し症状を観察。投与期間中に症状の悪化時は, 速やかにレジオネラに有効な注射剤(キノロン系薬剤等)への変更が必要。
2. レジオネラ肺炎の治療は単独使用だが, 併用が必要な時は下記の報告を参考に併用薬の特徴を考慮し選択。
(1). 中等症以上にリファンピシンと併用し有効の報告あり。
(2). in vitro抗菌力の検討において, 本剤とレボフロキサシン又はシプロフロキサシンとの併用効果(相乗ないし相加作用)の報告あり。
3. クラミジア感染症の投与期間は14日間とし, 必要時, 投与期間を延長。
非結核性抗酸菌症
4. 肺MAC症及び後天性免疫不全症候群に伴う播種性MAC症 国内外の最新のガイドライン等を参考に併用療法を行う。
5. 投与期間は, 下記を参照。
(表開始)
疾患名 投与期間
肺MAC症 排菌陰性を確認後, 1年以上の投与継続と定期的な検査を実施。再発する可能性, 治療終了後も定期的な検査が必要。
後天性免疫不全症候群に伴う播種性MAC症 臨床的・細菌学的な改善が認められた後も継続投与。
(表終了)
ヘリコバクター・ピロリ感染症
6. プロトンポンプインヒビターは1回ランソプラゾール30mg, 1回オメプラゾール20mg, 1回ラベプラゾールナトリウム10mg, 1回エソメプラゾール20mg又は1回ボノプラザン20mgのいずれか1剤を選択。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤に過敏症の既往。
2. ピモジド, エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン, ジヒドロエルゴタミンメシル酸塩, スボレキサント, ロミタピドメシル酸塩, タダラフィル(アドシルカ), チカグレロル, イブルチニブ, イバブラジン塩酸塩, ベネトクラクス(再発・難治性の慢性リンパ性白血病(小リンパ球性リンパ腫含む)用量漸増期), ルラシドン塩酸塩, アナモレリン塩酸塩, フィネレノン, イサブコナゾニウム硫酸塩の投与患者。
3. 肝臓・腎臓に障害のあるコルヒチンの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. ショック, アナフィラキシー(各頻度不明)(呼吸困難, 痙攣, 発赤等)。
2. QT延長, 心室頻拍(Torsades de pointes含む), 心室細動(各頻度不明)。
3. 劇症肝炎, 肝機能障害(AST, ALT, γ－GTP, LDH, AI－Pの上昇等), 黄疸, 肝不全(各頻度不明)。
4. 血小板減少, 汎血球減少, 溶血性貧血, 白血球減少, 無顆粒球症(各頻度不明)。
5. 中毒性表皮壊死融解症, 皮膚粘膜眼症候群, 多形紅斑(各頻度不明)。
6. PIE症候群・間質性肺炎(各頻度不明)(発熱, 咳嗽, 呼吸困難, 胸部X線異常, 好酸球増多等)。
7. 偽膜性大腸炎, 出血性大腸炎(各頻度不明)等の重篤な大腸炎(腹痛, 頻回の下痢)。
8. 横紋筋融解症(頻度不明)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇), 急性腎障害。
9. 痙攣(頻度不明)(強直間代性, ミオクロヌス, 意識消失発作等)。
10. 急性腎障害, 尿細管間質性腎炎(各頻度不明)(乏尿等, 血中クレアチニン値上昇等の腎機能低下)。
11. IgA血管炎(頻度不明)。
12. 薬剤性過敏症症候群(頻度不明)(発疹, 発熱, 肝機能障害, リンパ節腫脹, 白血球増加, 好酸球増多, 異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状)。
その他の副作用(発現時中止等)(一般感染症)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 掻痒感
精神神経系 眩暈 頭痛 幻覚 失見当識 意識障害 せん妄 躁病 眠気 振戦 しびれ(感) 錯感覚 不眠
感覚器 味覚異常(にがみ等) 耳鳴 聴力低下 嗅覚異常
消化器 悪心 嘔吐 胃部不快感 腹部膨満感 腹痛 下痢 食欲不振 軟便

6 病原生物に対する医薬品

口内炎 舌炎 口渇 口腔内糜爛 胸やけ 歯牙変色 舌変色
血液 好酸球増多
肝臓 AST上昇 ALT上昇 γ－GTP上昇 LDH上昇 AI－P上昇
筋・骨格　筋肉痛
その他 倦怠感 浮腫 カンジダ症 発熱 動悸 CK上昇 脱毛 頻尿 低血糖
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（非結核性抗酸菌症）
（表開始）
発現部位等 5～10%未満 1～5%未満 頻度不明
精神神経系　不眠症 頭痛 眩暈 激越 神経過敏症 感覚異常 痙攣 妄想 幻覚 運動過多 躁病反応 偏執反応 末梢神経炎 精神病
感覚器　味覚減退 味覚倒錯 難聴 耳鳴 味覚喪失 結膜炎
皮膚　発疹 掻痒感 斑状丘疹状皮疹 ざ瘡 蕁麻疹 紫斑皮疹 光線過敏性反応 発汗
消化器 下痢 悪心 食欲不振 腹痛 嘔吐 逆流性食道炎 鼓腸放屁 消化不良 便秘 おくび 口渇 舌炎 舌変色
血液　白血球減少 貧血 再生不良性貧血 好中球減少 骨髄機能不全
肝臓 肝機能異常 γ－GTP上昇 AI－P上昇 AST上昇 ALT上昇 胆汁うっ滞性黄疸 肝炎 ビリルビン上昇
腎臓　急性腎障害 BUN上昇 クレアチニン上昇
生殖器　子宮頸部上皮異形成 膣カンジダ症
筋・骨格　筋肉痛 関節痛
その他 高脂血症 トリグリセリド上昇 高尿酸血症 低カリウム血症 徐脈 無力症 アミラーゼ上昇 カンジダ症 疼痛 しゃっくり 発熱 胸痛 さむけ 酵素上昇
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（ヘリコバクター・ピロリ感染症）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満
過敏症　発疹 掻痒
精神神経系　頭痛 しびれ感 眩暈 眠気 不眠 うつ状態
消化器 下痢（15．5%） 軟便（13．5%） 味覚異常 腹痛 腹部膨満感 口内炎 便秘 食道炎 口渇 悪心 舌炎 胃食道逆流 胸やけ 十二指腸炎 嘔吐 痔核 食欲不振
血液　好中球減少 好酸球増多 貧血 白血球増多 血小板減少
肝臓　AST上昇 ALT上昇 LDH上昇 γ－GTP上昇 AI－P上昇 ビリルビン上昇
その他 尿蛋白陽性 トリグリセリド上昇 総コレステロール上昇・減少 尿糖陽性 尿酸上昇 倦怠感 熱感 動悸 発熱 QT延長 カンジダ症 浮腫 血圧上昇 霧視
（表終了）

ジスロマック細粒小児用10%（100mg1g）

両　内服　流通

【YJコード】6149004C1030
【薬効分類】6．1．4　主としてグラム陽性菌，マイコプラズマに作用するもの
【一般名】アジスロマイシン水和物
【メーカー】㈱ファイザー
【薬価】137.8円/1g
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】15員環マクロライド系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種
ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス，インフルエンザ菌，肺炎クラミジア（クラミジア・ニューモニエ），マイコプラズマ属
適応症
咽頭・喉頭炎，扁桃炎（扁桃周囲炎，扁桃周囲膿瘍含む），急性気管支炎，肺炎，肺膿瘍，中耳炎
注意
咽頭・喉頭炎，扁桃炎（扁桃周囲炎，扁桃周囲膿瘍含む），急性気管支炎，中耳炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】小児　1日10mg／kg　1日1回　3日間　内服。
1日最大500mg。
注意
1．分包品 体重換算による服用量の概算は，下表の通り。
（表開始）
体重（kg） 15～25 26～35 36～45 46～
1日量（mg）（包数） 200（2） 300（3） 400（4） 500（5）
（表終了）
2．外国の臨床成績より，500mgを1日1回3日間内服で，感受性菌に有効な組織内濃度が約7日間持続，治療に必要な投与期間は3日間。
3．4日目以降でも臨床症状の不変又は悪化時は，医師の判断で他剤に変更。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック（頻度不明），アナフィラキシー（頻度不明）（呼吸困難，喘鳴，血管浮腫等）。
2．中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），皮膚粘膜眼症候群（頻度不明），急性汎発性発疹性膿疱症（頻度不明）。
3．薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
4．肝炎（頻度不明），肝機能障害（頻度不明），黄疸（頻度不明），肝不全（頻度不明）。
5．急性腎障害（頻度不明）（乏尿等，血中クレアチニン値上昇等の腎機能低下）。
6．偽膜性大腸炎（頻度不明），出血性大腸炎（頻度不明）等の重篤な大腸炎（腹痛，頻回の下痢，血便等）。
7．間質性肺炎（頻度不明），好酸球性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等）。
8．QT延長（頻度不明），心室性頻脈（Torsades de pointes含む）（頻度不明）。
9．白血球減少（頻度不明），顆粒球減少（頻度不明），血小板減少（頻度不明）。
10．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等），急性腎障害。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚　発疹 蕁麻疹，掻痒症，アトピー性皮膚炎増悪 光線過敏性反応，紅斑，水疱，皮膚剥離，多形紅斑，寝汗，多汗症，皮膚乾燥，皮膚変色，脱毛
血液 好酸球数増加 白血球数減少 血小板数増加，好塩基球数増加，顆粒球数減少，血小板数減少 貧血，リンパ球数減少，ヘモグロビン減少，白血球数増加，プロトロンビン時間延長
血管障害　潮紅，血栓性静脈炎
循環器　血圧低下，動悸，血圧上昇
肝臓 ALT増加 AST増加，AI－P増加，γ－GTP増加，LDH増加 血中ビリルビン増加 肝機能検査異常
腎臓　BUN増加，尿中蛋白陽性 クレアチニン増加，腎臓痛，排尿困難，尿潜血陽性，頻尿
消化器 下痢 腹痛，悪心，嘔吐，腹部不快感，腹部膨満 便秘，口内炎，消化不良，食欲不振，口唇のあれ，黒毛舌，舌炎，舌苔，腹鳴 舌変色，口・舌のしびれ感，おくび，胃炎，口内乾燥，唾液増加，膵炎，鼓腸放屁，アフタ性口内炎，口腔内不快感，消化管障害，口唇炎
精神神経系　頭痛，眩暈，傾眠，感覚鈍麻，不眠症 失神，痙攣，振戦，激越，嗅覚異常，無嗅覚，神経過敏，不安，錯感覚，攻撃性，灼熱感，味覚異常
感染症　カンジダ症 真菌感染，胃腸炎，咽頭炎，皮膚感染，肺炎，β溶血性レンサ球菌感染，膣炎
眼　結膜炎，眼瞼浮腫，霧視，ぶどう膜炎，眼痛，視力障害
筋骨格系　筋肉痛，関節痛，頚部痛，背部痛，四肢痛，関節腫脹
呼吸器　咳嗽，呼吸困難 鼻出血，アレルギー性鼻炎，くしゃみ，ラ音，気管障害，低音性連続性ラ音，鼻部障害，鼻閉，鼻漏，羊鳴性気管支音，痰貯留，嗄声
耳　耳痛，難聴，耳鳴，聴力低下，耳の障害
生殖器　精巣痛，不正子宮出血，卵巣嚢腫
代謝　血中カリウム増加，血中カリウム減少 脱水，血中重炭酸塩減少，低カリウム血症
その他　発熱，口渇，気分不良，倦怠感，浮遊感 胸痛，無力症，浮腫，低体温，不整脈，咽喉頭異物感，局所腫脹，粘膜異常感覚，疼痛，疲労
（表終了）

ジスロマック錠250mg（250mg1錠）

両　内服　流通

【YJコード】6149004F1028
【薬効分類】6．1．4　主としてグラム陽性菌，マイコプラズマに作用するもの
【一般名】アジスロマイシン水和物
【メーカー】㈱ファイザー
【薬価】145.4円/1T
【薬価収載日】2000/05/31
【標榜薬効】15員環マクロライド系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種
ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，淋菌，モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス，インフルエンザ菌，レジオネラ・ニューモフィラ，ペプトストレプトコッカス属，プレボテラ属，クラミジア属，マイコプラズマ属
適応症
深在性皮膚感染症，リンパ管・リンパ節炎，咽頭・喉頭炎，扁桃炎（扁桃周囲炎，扁桃周囲膿瘍含む），急性気管支炎，肺炎，肺膿瘍，慢性呼吸器病変の二次感染，尿道炎，子宮頸管炎，骨盤内炎症性疾患，副鼻腔炎，歯周組織炎，歯冠周囲炎，顎炎
注意
骨盤内炎症性疾患
1．淋菌を適応菌種とするのは，骨盤内炎症性疾患の適応症のみ。
咽頭・喉頭炎，扁桃炎（扁桃周囲炎，扁桃周囲膿瘍含む），急性気管支

6 病原生物に対する医薬品

炎，副鼻腔炎
2.「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
肺炎
3. アジスロマイシン注射剤から治療を開始する必要性を判断。
【用法用量】深在性皮膚感染症，リンパ管・リンパ節炎，咽頭・喉頭炎，扁桃炎（扁桃周囲炎，扁桃周囲膿瘍含む），急性気管支炎，肺炎，肺膿瘍，慢性呼吸器病変の二次感染，副鼻腔炎，歯周組織炎，歯冠周囲炎，顎炎
成人　アジスロマイシン　1回500mg　1日1回　3日間合計1．5g　内服。
尿道炎，子宮頸管炎
成人　アジスロマイシン　1000mg　1回　内服。
骨盤内炎症性疾患
成人　アジスロマイシン注射剤の治療後　アジスロマイシン　1回250mg　1日1回　内服。
注意
深在性皮膚感染症，リンパ管・リンパ節炎，咽頭・喉頭炎，扁桃炎（扁桃周囲炎，扁桃周囲膿瘍含む），急性気管支炎，肺膿瘍，慢性呼吸器病変の二次感染，副鼻腔炎，歯周組織炎，歯冠周囲炎，顎炎
1. 本剤で治療を開始し，4日目以降でも臨床症状の不変又は悪化時は，医師の判断で他剤に変更。
2. 外国の臨床成績より，500mgを1日1回3日間内服で，感受性菌に有効な組織内濃度が約7日間持続，治療に必要な投与期間は3日間。
尿道炎，子宮頸管炎
3. 投与開始後2～4週間は経過観察し，効果を判定。細菌学的検査結果，臨床症状から効果がなければ医師の判断で他剤に変更。
4. 1回1000mg内服で，アジスロマイシン感性のトラコーマクラミジア（クラミジア・トラコマティス）に有効な組織内濃度が約10日間持続，治療に必要な投与回数は1回。
肺炎
5. 本剤で治療を開始し，4日目以降でも臨床症状の不変又は悪化時は，医師の判断で他剤に変更。
6. 注射剤から本剤に切りかえる時は，症状により投与期間を変更。
7. 注射剤から本剤へ切りかえ，総投与期間が10日を超える時は，経過観察。注射剤から錠へ切りかえた臨床試験は，医師が内服可能と判断した時点で，注射剤から錠500mgを1日1回に切りかえ，注射剤の投与期間は2～5日間，総投与期間は合計7～10日間で実施，10日間を超える投与経験は少ない。
8. レジオネラ・ニューモフィラ 本剤のみで治療した時の有効性・安全性は未確立。
骨盤内炎症性疾患
9. 注射剤から本剤へ切りかえ，総投与期間が10日を超える時は，経過観察。注射剤から錠へ切りかえた臨床試験は，医師が内服可能と判断した時点で，注射剤から錠250mgを1日1回に切りかえ，注射剤の投与期間は1～2日間，総投与期間は合計7日間で実施，7日間を超える投与経験なし。
10. 本剤のみで治療した時の有効性・安全性は未確立。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック（頻度不明），アナフィラキシー（頻度不明）（呼吸困難，喘鳴，血管浮腫等）。
2. 中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），皮膚粘膜眼症候群（頻度不明），急性汎発性発疹性膿疱症（頻度不明）。
3. 薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
4. 肝炎（頻度不明），肝機能障害（頻度不明），黄疸（頻度不明），肝不全（頻度不明）。
5. 急性腎障害（頻度不明）（乏尿等，血中クレアチニン値上昇等の腎機能低下）。
6. 偽膜性大腸炎（頻度不明），出血性大腸炎（頻度不明）等の重篤な大腸炎（腹痛，頻回の下痢，血便等）。
7. 間質性肺炎（頻度不明），好酸球性肺炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等）。
8. QT延長（頻度不明），心室性頻脈（Torsades de pointes含む）（頻度不明）。
9. 白血球減少（頻度不明），顆粒球減少（頻度不明），血小板減少（頻度不明）。
10. 横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等），急性腎障害。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 0．1～1%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚　発疹，蕁麻疹，掻痒症 アトピー性皮膚炎増悪 光線過敏性反応，紅斑，水疱，皮膚剥離，多形紅斑，寝汗，多汗症，皮膚乾燥，皮膚変色，脱毛
血液 好酸球数増加 白血球数減少 血小板数増加，好塩基球数増加，顆粒球数減少，プロトロンビン時間延長，血小板数減少 貧血，リンパ球数減少，ヘモグロビン減少，白血球数増加
血管障害　血栓性静脈炎　潮紅
循環器　　血圧低下，動悸，血圧上昇
肝臓 ALT増加 AST増加，Al－P増加，γ－GTP増加，LDH増加，肝機能検査異常 血中ビリルビン増加
腎臓　BUN増加，尿中蛋白陽性 クレアチニン増加，腎臓痛，排尿困難，尿潜血陽性，頻尿
消化器 下痢 腹痛，悪心，嘔吐，腹部不快感，腹部膨満 便秘，口内炎，消化不良，食欲不振，鼓腸放屁，口唇のあれ，黒毛舌，舌炎，舌苔，腹鳴 舌変色，口・舌のしびれ感，おくび，胃炎，口内乾燥，唾液増加，膵炎，アフタ性口内炎，口腔内不快感，消化管障害，口唇炎
精神神経系　頭痛，眩暈，灼熱感，傾眠，味覚異常，感覚鈍麻，不眠症 失神，痙攣，振戦，激越，嗅覚異常，無嗅覚，神経過敏，不安，錯感覚，攻撃性
感染症　カンジダ症 胃腸炎 真菌感染，咽頭炎，皮膚感染，肺炎，β溶血性レンサ球菌感染，膣炎
眼　　結膜炎，眼瞼浮腫，霧視，ぶどう膜炎，眼痛，視力障害
筋骨格系　　筋肉痛，関節痛，頚部痛，背部痛，四肢痛，関節腫脹
呼吸器　咳嗽，呼吸困難，嗄声 鼻出血，アレルギー性鼻炎，くしゃみ，ラ音，気管障害，低音性連続性ラ音，鼻部障害，鼻閉，鼻漏，羊鳴性気管支音，痰貯留
耳　　耳痛，難聴，耳鳴，聴力低下，耳の障害
生殖器　　卵巣嚢腫 精巣痛，不正子宮出血
代謝　　血中カリウム減少，血中カリウム増加 脱水，血中重炭酸塩減少，低カリウム血症
注入部位　疼痛 血管外漏出，紅斑
その他　　発熱，口渇，気分不良，倦怠感，浮遊感 胸痛，無力症，浮腫，低体温，不整脈，咽喉頭異物感，局所腫脹，粘膜異常感覚，疼痛，疲労
（表終了）

6．1．5　主としてグラム陽性・陰性菌，リケッチア，クラミジアに作用するもの

ミノサイクリン塩酸塩錠100mg「サワイ」（100mg1錠）

両　内服　流通

【YJコード】6152005F2113
【薬効分類】6．1．5　主としてグラム陽性・陰性菌，リケッチア，クラミジアに作用するもの
【一般名】ミノサイクリン塩酸塩
【メーカー】製）沢井製薬
【薬価】28円/1T
【薬価収載日】2013/12/13
【標榜薬効】TC系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種 ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，腸球菌属，淋菌，炭疽菌，大腸菌，赤痢菌，シトロバクター属，クレブシエラ属，エンテロバクター属，プロテウス属，モルガネラ・モルガニー，プロビデンシア属，緑膿菌，梅毒トレポネーマ，リケッチア属（オリエンチア・ツツガムシ），クラミジア属，肺炎マイコプラズマ（マイコプラズマ・ニューモニエ）
適応症 表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，リンパ管・リンパ節炎，慢性膿皮症，外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，乳腺炎，骨髄炎，咽頭・喉頭炎，扁桃炎（扁桃周囲炎含む），急性気管支炎，肺炎，肺膿瘍，慢性呼吸器病変の二次感染，膀胱炎，腎盂腎炎，前立腺炎（急性症，慢性症），精巣上体炎（副睾丸炎），尿道炎，淋菌感染症，梅毒，腹膜炎，感染性腸炎，外陰炎，細菌性膣炎，子宮内感染，涙嚢炎，麦粒腫，外耳炎，中耳炎，副鼻腔炎，化膿性唾液腺炎，歯周組織炎，歯冠周囲炎，上顎洞炎，顎炎，炭疽，つつが虫病，オウム病
注意
咽頭・喉頭炎，扁桃炎（扁桃周囲炎含む），急性気管支炎，感染性腸炎，中耳炎，副鼻腔炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】成人　初回量　100～200mg　内服。以後12時間又は24時間ごと　100mg　内服。
適宜増減。
注意
炭疽
発症，進展抑制 類薬のドキシサイクリンで米国疾病管理センターが60日間の投与を推奨。

■禁忌
【禁忌】テトラサイクリン系薬剤に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（不快感，口内異常感，喘鳴，眩暈，便意，耳鳴，発汗，全身潮紅，呼吸困難，血管浮腫（顔面浮腫，喉頭浮腫等），意識障害等）。
2. ループス様症候群（頻度不明）。
3. 結節性多発動脈炎，顕微鏡的多発血管炎（各頻度不明）（発熱，倦怠感，体重減少，関節痛，筋肉痛，網状皮斑，しびれ等）。
4. 自己免疫性肝炎（頻度不明）（抗核抗体陽性）。
5. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑，剥脱性皮膚炎（各頻度不明）（発熱，紅斑，掻痒感，眼充血，口内炎等）。
6. 薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，リンパ節腫脹，肝機

6 病原生物に対する医薬品

能障害等の臓器障害，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
7. 血液障害（頻度不明）（汎血球減少，無顆粒球症，顆粒球減少，白血球減少，血小板減少，貧血）。
溶血性貧血（注射剤）。
8. 重篤な肝機能障害（頻度不明）（肝不全等）。
9. 急性腎障害，間質性腎炎（各頻度不明）。
10. 呼吸困難，間質性肺炎，PIE症候群（各頻度不明）（発熱，咳嗽，労作時息切れ，呼吸困難等）。
11. 膵炎（頻度不明）。
12. 痙攣，意識障害等の精神神経障害（頻度不明）。
13. 出血性腸炎，偽膜性大腸炎（各頻度不明）等の重篤な腸炎。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
過敏症　発疹，発熱，浮腫（四肢，顔面），蕁麻疹
皮膚　色素沈着（皮膚・爪・粘膜）光線過敏症，急性熱性好中球性皮膚症
精神神経系 眩暈感 頭痛 しびれ感
肝臓　AST，ALTの上昇等肝機能検査値異常，黄疸
消化器 悪心，食欲不振，腹痛，嘔吐 舌炎，便秘 胃腸障害，下痢，口内炎，味覚異常，肛門周囲炎，歯牙着色，舌変色
血液　好酸球増多
腎臓　BUN上昇
菌交代症　菌交代症に基づく新しい感染症
ビタミン欠乏症　ビタミンK欠乏症状（低プロトロンビン血症，出血傾向等），ビタミンB群欠乏症状（舌炎，口内炎，食欲不振，神経炎等）
頭蓋内圧上昇　頭蓋内圧上昇に伴う症状（嘔吐，頭痛，複視，うっ血乳頭，大泉門膨隆等）
感覚器　耳鳴，聴覚障害
その他　倦怠感 関節痛
（表終了）

ミノサイクリン塩酸塩点滴静注用100mg「サワイ」（100mg1瓶）

両　注射　流通

【YJコード】6152401F1146
【薬効分類】6．1．5　主としてグラム陽性・陰性菌，リケッチア，クラミジアに作用するもの
【一般名】ミノサイクリン塩酸塩
【メーカー】製）沢井製薬
【薬価】328円/1V
【薬価収載日】2013/12/13
【標榜薬効】TC系抗生物質
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種 黄色ブドウ球菌，レンサ球菌属，肺炎球菌，腸球菌属，モラクセラ・ラクナータ（モラー・アクセンフェルト菌），炭疽菌，大腸菌，クレブシエラ属，エンテロバクター属，インフルエンザ菌，シュードモナス・フルオレッセンス，緑膿菌，バークホルデリア・セパシア，ステノトロホモナス（ザントモナス）・マルトフィリア，アシネトバクター属，フラボバクテリウム属，レジオネラ・ニューモフィラ，リケッチア属（オリエンチア・ツツガムシ），クラミジア属，肺炎マイコプラズマ（マイコプラズマ・ニューモニエ）
適応症 敗血症，深在性皮膚感染症，慢性膿皮症，扁桃炎，急性気管支炎，肺炎，慢性呼吸器病変の二次感染，膀胱炎，腎盂腎炎，腹膜炎，炭疽，つつが虫病，オウム病
注意
扁桃炎，急性気管支炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】点滴静注は，内服不能の患者・救急時に行い，内服が可能になれば切りかえる。
成人　初回　100～200mg　30分～2時間かけ　点滴静注（補液に溶解），以後12時間又は24時間ごと　100mg　30分～2時間かけ　点滴静注（補液に溶解）。
注意
炭疽
発症，進展抑制 類薬のドキシサイクリンで米国疾病管理センターが60日間の投与を推奨。

■禁忌

【禁忌】テトラサイクリン系薬剤に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. ショック（0．1%未満），アナフィラキシー（頻度不明）（不快感，口内異常感，喘鳴，眩暈，便意，耳鳴，発汗，全身潮紅，呼吸困難，血管浮腫（顔面浮腫，喉頭浮腫等），意識障害等）。
2. ループス様症候群（頻度不明）。
3. 結節性多発動脈炎，顕微鏡的多発血管炎（各頻度不明）（発熱，倦怠感，体重減少，関節痛，筋肉痛，網状皮斑，しびれ等）。
4. 自己免疫性肝炎（頻度不明）（抗核抗体陽性）。
5. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑，剥脱性皮膚炎（各頻度不明）（発熱，紅斑，掻痒感，眼充血，口内炎等）。
6. 薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，リンパ節腫脹，肝機能障害等の臓器障害，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
7. 血液障害（頻度不明）（汎血球減少，無顆粒球症，顆粒球減少，白血球減少，血小板減少，溶血性貧血，貧血）。
8. 重篤な肝機能障害（頻度不明）（肝不全等）。
9. 急性腎障害，間質性腎炎（各頻度不明）。
10. 呼吸困難，間質性肺炎，PIE症候群（各頻度不明）（発熱，咳嗽，労作時息切れ，呼吸困難等）。
11. 膵炎（頻度不明）。
12. 痙攣，意識障害等の精神神経障害（頻度不明）。
13. 出血性腸炎，偽膜性大腸炎（各頻度不明）等の重篤な腸炎。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
過敏症　発熱，発疹 浮腫（四肢，顔面），蕁麻疹
皮膚　光線過敏症，色素沈着（皮膚・爪・粘膜），急性熱性好中球性皮膚症
精神神経系　眩暈感 頭痛，しびれ感
肝臓　AST，ALTの上昇等肝機能検査値異常，黄疸
消化器 悪心 食欲不振，嘔吐，腹痛，下痢，舌炎 胃腸障害，口内炎，肛門周囲炎，味覚異常，便秘，歯牙着色，舌変色
血液　好酸球増多
腎臓　BUN上昇
菌交代症　菌交代症に基づく新しい感染症
ビタミン欠乏症　ビタミンK欠乏症状（低プロトロンビン血症，出血傾向等），ビタミンB群欠乏症状（舌炎，口内炎，食欲不振，神経炎等）
頭蓋内圧上昇　頭蓋内圧上昇に伴う症状（嘔吐，頭痛，複視，うっ血乳頭，大泉門膨隆等）
投与部位 血管痛 発赤 静脈炎
感覚器　耳鳴，聴覚障害
その他　倦怠感，関節痛
（表終了）

6．1．6　主として抗酸菌に作用するもの

リファンピシンカプセル150mg「サンド」（150mg1カプセル）

両　内服　流通

【YJコード】6164001M1186
【薬効分類】6．1．6　主として抗酸菌に作用するもの
【一般名】リファンピシン
【メーカー】製）サンド　販）ニプロ　販）日本ジェネリック
【薬価】16.9円/1C
【薬価収載日】2006/07/07
【標榜薬効】抗酸菌症治療薬
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種
マイコバクテリウム属
適応症
肺結核・その他の結核症，マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス症を含む非結核性抗酸菌症，ハンセン病
【用法用量】肺結核・その他の結核症
成人　1回450mg　1日1回　毎日　朝食前空腹時　内服。感性併用剤のある時　週2日投与でもよい。適宜増減。他の抗結核剤と併用。
MAC症含む非結核性抗酸菌症
成人　1回450mg　1日1回　毎日　朝食前空腹時　内服。適宜増減，1日最大600mg。
ハンセン病
成人　1回600mg　1ヵ月に1～2回，又は1回450mg　1日1回　毎日　朝食前空腹時　内服。適宜増減。他の抗ハンセン病剤と併用。
注意
MAC症含む非結核性抗酸菌症
投与開始時期，投与期間，併用薬等について国内外の各種学会ガイドライン等，最新の情報を参考に投与。

■禁忌

【禁忌】1．胆道閉塞，重篤な肝機能障害。
2．ルラシドン塩酸塩，タダラフィル（アドシルカ），マシテンタン，ペマフィブラート，チカグレロル，ロルラチニブ，ボリコナゾール，イサブコナゾニウム硫酸塩，ホスアンプレナビルカルシウム水和物，アタザナビル硫酸塩，リルピビリン塩酸塩，リルピビリン塩酸塩・テノホビル　アラフェナミドフマル酸塩・エムトリシタビン，ドルテグラビルナトリウム・リルピビリン塩酸塩，エルビテグラビル・コビシスタット・エムトリシタビン・テノホビル　アラフェナミドフマル酸塩，ドラビリン，カボテグラビル，カボテグラビルナトリウム，レナカパビルナトリウム，ソホスブビル，レジパスビル　アセトン付加物・ソホスブビル，ソホスブビル・ベルパタスビル，グレカプレビル水和物・ピブレンタスビル，テノホビル　アラフェナミドフマル酸塩，ビクテグラビルナトリウム・エムトリシタビン・テノホビル　アラフェナミドフマル酸塩，アメナメビル，ニルマトレルビル・リトナビル，エンシトレルビル　フマル酸，アルテメテル・ルメファントリン，プラジカンテルの投与患者。

6 病原生物に対する医薬品

3. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 劇症肝炎等の重篤な肝機能障害(頻度不明)。
2. ショック(頻度不明), アナフィラキシー(頻度不明)(悪寒, 顔面潮紅, 呼吸困難等)。
3. 腎不全(頻度不明), 間質性腎炎(頻度不明), ネフローゼ症候群(頻度不明)。
4. 溶血性貧血(頻度不明)。
5. 無顆粒球症(頻度不明), 血小板減少(頻度不明)。
6. 偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎(頻度不明)(腹痛, 頻回の下痢等)。
7. 中毒性表皮壊死融解症(頻度不明), 皮膚粘膜眼症候群(頻度不明), 扁平苔癬型皮疹(頻度不明), 天疱瘡様・類天疱瘡様皮疹(頻度不明), 紅皮症(剥脱性皮膚炎)(頻度不明)。
8. 間質性肺炎(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 頻度不明
肝臓 AST上昇, ALT上昇等 黄疸
過敏症 発疹等 発熱等のかぜ様症候群, 蕁麻疹等
腎臓 尿蛋白等 血尿等
血液 顆粒球減少, 出血傾向, 好酸球増多等
消化器 胃腸障害(食欲不振, 悪心, 嘔吐, 胃痛, 下痢, 胃不快感等) 出血性糜爛性胃炎
精神神経系 頭痛, 眩暈 不眠, いらいら感, 傾眠, 錯乱
内分泌 月経異常, 甲状腺機能低下症, 副腎機能不全
その他 しびれ感 全身倦怠感, 筋脱力, 手指のこわばり, 浮腫, 運動失調, 尿・便等の着色
(表終了)

6. 1. 7 主としてカビに作用するもの

アムビゾーム点滴静注用50mg(50mg1瓶)

両 注射 流通
毒

【YJコード】6173400D2023
【薬効分類】6. 1. 7 主としてカビに作用するもの
【一般名】アムホテリシンB
【メーカー】製)住友ファーマ
【薬価】15239円/1V
【薬価収載日】2006/06/01
【標榜薬効】ポリエンマクロライド系抗真菌性抗生物質製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1. 真菌感染症 アスペルギルス属, カンジダ属, クリプトコッカス属, ムーコル属, アブシジア属, リゾプス属, リゾムーコル属, クラドスポリウム属, クラドヒアロホーラ属, ホンセカエア属, ヒアロホーラ属, エクソフィアラ属, コクシジオイデス属, ヒストプラズマ属及びブラストミセス属による下記感染症
真菌血症, 呼吸器真菌症, 真菌髄膜炎, 播種性真菌症
2. 真菌感染が疑われる発熱性好中球減少症
3. リーシュマニア症
注意
真菌感染症
1. アゾール系抗真菌薬等が十分奏効するような軽症のカンジダ感染症には, 他剤を第一選択薬として使用することを考慮。
2. クロモブラストミコーシスへの本剤の有効性は未確立。
3. アスペルギルス属の呼吸器真菌症(アスペルギローマ(慢性壊死性肺アスペルギルス症含む))には, 発熱等の臨床症状・炎症反応, 胸部X線等で空洞周囲に浸潤影, 注射用抗真菌薬投与の必要時に, 本剤投与を検討した上で投与。
真菌感染が疑われる発熱性好中球減少症
4. 下記の3条件を満たす症例に投与。
(1). 1回の検温で38℃以上の発熱, 又は1時間以上持続する37. 5℃以上の発熱。
(2). 好中球数が500/mm3未満の時, 又は1000/mm3未満で500/mm3未満に減少することが予測される時。
(3). 抗菌薬投与でも解熱せず, 抗真菌薬の投与が必要な時。
5. 発熱性好中球減少症の治療に熟知した医師のもとで, 適切と判断される症例にのみ投与。
6. 投与前に培養検査等を実施, 起炎菌を明らかにする。起炎菌の判明時, 投与継続の必要性を検討。
【用法用量】1. 真菌感染症
1回2. 5mg/kg 1日1回 1～2時間以上かけ 点滴静注。
適宜増減, 1日総量5mg/kgまで。
クリプトコッカス髄膜炎 1日総量6mg/kgまで。
2. 真菌感染が疑われる発熱性好中球減少症
1回2. 5mg/kg 1日1回 1～2時間以上かけ 点滴静注。
3. リーシュマニア症
免疫能の正常時 投与1～5日目の連日, 14日目及び21日目にそれぞれ 1回2. 5mg/kg 1日1回 1～2時間以上かけ 点滴静注。
免疫不全状態時 投与1～5日目の連日, 10日目, 17日目, 24日目, 31日目, 38日目にそれぞれ 1回4mg/kg 1日1回 1～2時間以上かけ 点滴静注。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 白血球の輸注患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. ショック, アナフィラキシー(各1%未満)(呼吸困難, チアノーゼ, 血圧低下, 蕁麻疹等)。
2. 投与時関連反応(1%未満)(咽頭炎, 嚥下障害, 呼吸困難, チアノーゼ, 心房粗動, 胸痛等)(発熱, 悪寒, 悪心, 嘔吐, 頭痛, 背部痛, 骨痛等)。
3. 腎不全, 中毒性ネフロパシー等の重篤な腎障害(1～5%未満)。
4. 肝不全, 黄疸, 高ビリルビン血症等の重篤な肝機能障害(1～5%未満)。
5. 重篤な低カリウム血症(1%未満)(心室頻拍等の不整脈, 全身倦怠感, 脱力感等)。
6. 横紋筋融解症(頻度不明)(低カリウム血症を伴う)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇等)。
7. 無顆粒球症, 白血球減少(各頻度不明), 血小板減少(1%未満)。
8. 心停止, 心不全, 不整脈(心室頻拍, 心室細動, 心房細動等)(各1%未満)。
9. 敗血症, 肺炎等の重篤な感染症(1～5%未満)。
10. 痙攣, 意識障害等の中枢神経症状(1%未満)。
11. 中毒性表皮壊死融解症, 皮膚粘膜眼症候群(各頻度不明)。
12. 肺水腫(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
過敏症 アレルギー反応, 血管神経性浮腫
皮膚・皮下障害 発疹 掻痒, 多汗 紅斑, 蕁麻疹, 顔面浮腫, 皮膚障害
眼障害 結膜炎, 網膜炎
呼吸器 呼吸困難, 咳嗽, 低酸素症, 頻呼吸 鼻炎(鼻漏, 鼻閉), 胸水, 鼻出血, 肺水腫, 気管支痙攣
循環器 頻脈 血圧上昇, 徐脈, 血圧低下
血管障害 熱感・潮紅, 高血圧, 低血圧, 静脈炎 点状出血
消化器 悪心(17. 7%), 嘔吐(12. 7%), 下痢・軟便 腹痛, 食欲不振, 便秘 便失禁, 消化管出血, 口内炎, 舌苔, 大腸炎, リパーゼ増加, 口内乾燥, 消化不良, 吐血, 膵炎
肝臓 ALT増加, AST増加, AlーP増加 γーGTP増加, LDH増加, 血中ビリルビン増加 胆汁うっ滞, 胆嚢炎, 肝腫大
腎臓 血中クレアチニン増加(18. 2%), BUN増加(11. 4%) β2ミクログロブリン増加, 尿潜血, 尿円柱 尿蛋白, 尿中赤血球陽性, 尿失禁, 尿中白血球陽性, 尿量減少, 乏尿, 血尿
精神神経系 うつ病, 幻覚(幻視, 幻聴), 不眠症, 錯乱状態, 不安
神経系 頭痛 眩暈 異常感覚, 痙攣, 傾眠, 味覚異常, 脳症
筋骨格系 背部痛, 筋痛 関節痛 骨痛
全身・投与局所 発熱(40. 0%), 悪寒(19. 3%) 胸痛, 浮腫, 疼痛 無力症, 注射部位反応(紅斑, 腫脹, 知覚異常等), 倦怠感
血液 貧血, 血小板減少, 白血球減少, 単球増加 好中球減少, リンパ球減少, 好塩基球増加, 好酸球増加, 白血球増加
代謝・栄養 低カリウム血症(25. 4%), 低マグネシウム血症(14. 8%) 低カルシウム血症, 低ナトリウム血症, リン脂質増加, コレステロール増加, 高血糖, 高カリウム血症, 血中尿酸増加, トリグリセリド増加, 高クロール血症, 高リン酸塩血症, 低リン酸血症 高マグネシウム血症, 高ナトリウム血症, 血中尿酸減少, 低蛋白血症, 高カルシウム血症, 血中アミラーゼ増加, コレステロール減少, 脱水, 低クロール血症, アシドーシス, 血液量増加症
傷害, 中毒・処置合併症 処置合併症, 輸血反応
感染症 膿瘍
その他 CRP増加
(表終了)

ファンギゾンシロップ100mg/mL(100mg1mL)

両 内服 流通
劇

【YJコード】6173001Q1047
【薬効分類】6. 1. 7 主としてカビに作用するもの
【一般名】アムホテリシンB
【メーカー】製)チェプラファーム 販)クリニジェン 販)ブリストル・マイヤーズスクイブ
【薬価】54.6円/1mL
【薬価収載日】2006/12/08
【標榜薬効】ポリエンマクロライド系抗真菌性抗生物質

■効能効果・用法用量

【効能効果】消化管のカンジダ異常増殖
【用法用量】小児 1回0. 5～1mL(アムホテリシンB 50～100mg) 1日2～4回 食後 内服。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

6 病原生物に対する医薬品

■副作用
【副作用】重大な副作用
中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発熱，発疹，掻痒 蕁麻疹，血管浮腫
消化器 悪心，嘔吐，食欲不振，腹痛，下痢，口内炎，腹部膨満感，胃痛 心窩部痛 舌炎
腎臓 腎障害，BUN上昇，蛋白尿
肝臓 肝障害，AST上昇，ALT上昇，Al－P上昇，ウロビリン尿
（表終了）

ボリコナゾール錠200mg「DSEP」（200mg1錠）

両 内服 後発 流通
劇

【YJコード】6179001F2038
【薬効分類】6．1．7 主としてカビに作用するもの
【一般名】ボリコナゾール
【先発品】ブイフェンド錠200mg
【メーカー】製)第一三共エスファ 販)第一三共
【薬価】457.9円/1T
【薬価収載日】2016/06/17
【標榜薬効】深在性真菌症治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇下記の重症・難治性真菌感染症
・侵襲性アスペルギルス症，肺アスペルギローマ，慢性壊死性肺アスペルギルス症
・カンジダ血症，食道カンジダ症，カンジダ腹膜炎，気管支・肺カンジダ症
・クリプトコックス髄膜炎，肺クリプトコックス症
・フサリウム症
・スケドスポリウム症
〇造血幹細胞移植患者の深在性真菌症の予防
注意
カンジダ感染の治療
1．他の抗真菌剤が無効・忍容性に問題がある時に使用を考慮。
造血幹細胞移植患者の深在性真菌症の予防
2．真菌感染に高リスクの患者（好中球数が500／mm3未満に減少することが予測される等）が対象。
【用法用量】（表開始）
成人（体重40kg以上）初日 ボリコナゾール 1回300mg 1日2回 食間 内服。2日目以降 1回150mg又は1回200mg 1日2回 食間 内服。効果不十分時は増量できる。初日 1回400mg 1日2回，2日目以降 1回300mg 1日2回まで。
成人（体重40kg未満）初日 ボリコナゾール 1回150mg 1日2回 食間 内服。2日目以降 1回100mg 1日2回 食間 内服。効果不十分時 2日目以降 1回150mg 1日2回まで。
小児（2～12歳未満，12歳以上で体重50kg未満）ボリコナゾール注射剤の投与後 ボリコナゾール 1回9mg／kg 1日2回 食間 内服。効果不十分時 1mg／kgずつ増量。忍容性不十分時 1mg／kgずつ減量（最大量350mgを使用時は50mgずつ減量）。1回350mg 1日2回まで。
小児（12歳以上で体重50kg以上）ボリコナゾール注射剤の投与後 ボリコナゾール 1回200mg 1日2回 食間 内服。効果不十分時 1回300mg 1日2回まで。
（表終了）
注意
効能共通
1．注射剤からボリコナゾールの投与を開始した成人にて，内服可能と医師が判断した時は，錠剤又はDSに切りかえができる。
2．小児は，注射剤から投与開始。内服可能と医師が判断した時に，錠剤又はDSに切りかえができるが，投与開始から1週間未満で注射剤から経口剤に変更時の有効性・安全性は未検討のため慎重に判断。ボリコナゾール注射剤では食道カンジダ症の適応はないため，小児の食道カンジダ症への使用は推奨されない。
3．腎機能障害の患者で注射剤の投与ができない成人患者に対し，錠剤又はDSを使用。
4．軽度～中等度の肝機能低下（Child Pugh分類クラスA，Bの肝硬変）は初日は通常の初日投与量とし，2日目以降は通常の2日目以降投与量の半量。
造血幹細胞移植への深在性真菌症の予防
5．好中球数が500／mm3以上に回復，又は免疫抑制剤の投与終了等，適切な時期に投与終了。臨床試験で，180日を超えた投与の有効性・安全性は未検討。

■禁忌
【禁忌】1．下記の投与患者
リファンピシン，リファブチン，エファビレンツ，リトナビル，ロピナビル・リトナビル，ニルマトレルビル・リトナビル，カルバマゼピン，バルビタール，フェノバルビタール，ピモジド，キニジン，イバブラジン，麦角アルカロイド（エルゴタミン・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン，ジヒドロエルゴタミン，エルゴメトリン，メチルエルゴメトリン），トリアゾラム，チカグレロル，アスナプレビル，ロミタピド，ブロナンセリン，スボレキサント，リバーロキサバン，リオシグアト，アゼルニジピン，オルメサルタン メドキソミル・アゼルニジピン，ベネトクラクス（再発・難治性の慢性リンパ性白血病（小リンパ球性リンパ腫含む）用量漸増期），アナモレリン，ルラシドン，イサブコナゾニウム，フィネレノン。
2．本剤の成分に過敏症の既往。
3．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック（頻度不明），アナフィラキシー（頻度不明）。
2．中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），皮膚粘膜眼症候群（頻度不明），多形紅斑（頻度不明）（皮疹等）。
3．重篤な肝障害（5．0%）（肝炎，黄疸，肝不全，肝性昏睡等），死亡。
4．心電図QT延長（頻度不明），心室頻拍（1．0%）（Torsades de pointes含む），心室細動（頻度不明），不整脈（頻度不明），完全房室ブロック（頻度不明），心室性二段脈，心室性期外収縮，頻脈等。
5．心不全（3．0%）。
6．重篤な腎障害（1．0%）（急性腎障害，腎炎，腎尿細管壊死等）。
7．呼吸窮迫症候群（頻度不明）。
8．ギラン・バレー症候群（頻度不明）。
9．骨髄抑制，汎血球減少，再生不良性貧血，無顆粒球症，播種性血管内凝固等の重篤な血液障害（2．0%）。
10．偽膜性大腸炎（頻度不明）等の重篤な大腸炎（腹痛，下痢）。
11．痙攣（頻度不明）等の神経障害。
12．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇）。
13．間質性肺炎（0．2%）（咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常（捻髪音）等）。
14．重篤な低血糖（頻度不明）。
15．意識障害（0．1%）（意識消失，意識レベルの低下等）。
16．高カリウム血症（1．0%）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
血液・リンパ系障害 白血球減少症，血小板減少症 貧血，リンパ節症
心臓障害 動悸，心嚢液貯留 肺水腫，脚ブロック
耳・迷路障害 聴覚過敏，耳鳴，回転性眩暈
内分泌障害 ADH不適合分泌 副腎皮質機能不全，甲状腺機能亢進症，甲状腺機能低下症
眼障害 羞明，霧視，視覚障害 眼の異常感，調節障害，色覚異常，複視，眼瞼浮腫，流涙増加，縮瞳，視神経乳頭浮腫，光視症，網膜滲出物，網膜出血，網膜毛細血管瘤，網膜裂孔，網膜血管炎，黄視症 眼瞼炎，視神経炎，強膜炎，角膜混濁，視神経萎縮
胃腸障害 悪心，嘔吐 腹部膨満，口唇のひび割れ，便秘，下痢，消化不良，胃潰瘍，痔核，イレウス，口唇乾燥，口唇粘膜脱落，口唇炎，逆流性食道炎，口内炎 腹痛，胃腸炎，十二指腸炎，歯肉炎，舌炎，膵炎，舌浮腫，腹膜炎
全身障害・投与局所様態 無力症，胸痛，胸部圧迫感，異常感，倦怠感，末梢性浮腫，発熱，口渇 悪寒，注射部位反応／炎症，インフルエンザ症候群
肝胆道系障害 胆嚢炎，胆石症，肝腫大
感染症・寄生虫症 副鼻腔炎
代謝・栄養障害 食欲不振 高血糖，低カリウム血症 低ナトリウム血症 高コレステロール血症
筋骨格・結合組織障害 背部痛，四肢痛 関節炎 骨膜炎
神経系障害 頭痛 認知不能症，健忘，浮動性眩暈，味覚異常，感覚減退，傾眠，会話障害，振戦，視野欠損 末梢性ニューロパチー 錯感覚，失調，脳浮腫，筋緊張亢進，眼振，失神，注視痙攣，錐体外路症候群 精神障害 不眠症 錯乱状態，幻覚，幻聴，幻視 不安 うつ病，激越
腎・尿路障害 血尿，アルブミン尿
呼吸器，気管支・縦隔障害 喀血
皮膚・皮下組織障害 皮膚乾燥，湿疹，紅斑，結節性紅斑，発疹，毛髪変色，光線過敏性反応，多汗，掻痒症，丘疹，皮膚落屑 蕁麻疹 顔面浮腫，斑状丘疹状皮疹，脱毛症，剥脱性皮膚炎，紫斑，固定薬疹，乾癬，血管浮腫，皮膚エリテマトーデス，偽性ポルフィリン症
血管障害 潮紅 低血圧，血栓性静脈炎，静脈炎，リンパ管炎
臨床検査 ALT増加，AST増加，Al－P増加，γ－GTP増加 血中ビリルビン増加，血中カルシウム増加，血中クレアチニン増加，LDH増加，血中カリウム減少，血中カリウム増加，血圧低下，血圧上昇，フィブリンDダイマー増加，血清FDP増加，膵アミラーゼ増加，好酸球増加，血小板数減少 BUN増加
（表終了）

ボリコナゾール錠50mg「DSEP」（50mg1錠）

両 内服 後発 流通
劇

【YJコード】6179001F1031
【薬効分類】6．1．7 主としてカビに作用するもの
【一般名】ボリコナゾール
【先発品】ブイフェンド錠50mg
【メーカー】製)第一三共エスファ 販)第一三共
【薬価】138.8円/1T
【薬価収載日】2016/06/17
【標榜薬効】深在性真菌症治療剤

6 病原生物に対する医薬品

■効能効果・用法用量
【効能効果】○下記の重症・難治性真菌感染症
・侵襲性アスペルギルス症，肺アスペルギローマ，慢性壊死性肺アスペルギルス症
・カンジダ血症，食道カンジダ症，カンジダ腹膜炎，気管支・肺カンジダ症
・クリプトコックス髄膜炎，肺クリプトコックス症
・フサリウム症
・スケドスポリウム症
○造血幹細胞移植患者の深在性真菌症の予防
注意
カンジダ感染の治療
1. 他の抗真菌剤が無効・忍容性に問題がある時に使用を考慮。
造血幹細胞移植患者の深在性真菌症の予防
2. 真菌感染に高リスクの患者（好中球数が500／mm3未満に減少することが予測される等）が対象。
【用法用量】（表開始）
成人（体重40kg以上） 初日 ボリコナゾール 1回300mg 1日2回 食間 内服。2日目以降 1回150mg又は1回200mg 1日2回 食間 内服。効果不十分時は増量できる。初日 1回400mg 1日2回，2日目以降 1回300mg 1日2回まで。
成人（体重40kg未満） 初日 ボリコナゾール 1回150mg 1日2回 食間 内服。2日目以降 1回100mg 1日2回 食間 内服。効果不十分時 2日目以降 1回150mg 1日2回まで。
小児（2～12歳未満，12歳以上で体重50kg未満） ボリコナゾール注射剤の投与後 ボリコナゾール 1回9mg／kg 1日2回 食間 内服。効果不十分時 1mg／kgずつ増量。忍容性不十分時 1mg／kgずつ減量（最大量350mgを使用時は50mgずつ減量）。1回350mg 1日2回まで。
小児（12歳以上で体重50kg以上） ボリコナゾール注射剤の投与後 ボリコナゾール 1回200mg 1日2回 食間 内服。効果不十分時 1回300mg 1日2回まで。
（表終了）
注意
効能共通
1. 注射剤からボリコナゾールの投与を開始した成人にて，内服可能と医師が判断した時は，錠剤又はDSに切りかえができる。
2. 小児は，注射剤から投与開始。内服可能と医師が判断した時に，錠剤又はDSに切りかえができるが，投与開始から1週間未満で注射剤から経口剤に変更時の有効性・安全性は未検討のため慎重に判断。ボリコナゾール注射剤では食道カンジダ症の適応はないため，小児の食道カンジダ症への使用は推奨されない。
3. 腎機能障害の患者で注射剤の投与ができない成人患者に対し，錠剤又はDSを使用。
4. 軽度～中等度の肝機能低下（Child Pugh分類クラスA，Bの肝硬変）は初日は通常の初日投与量とし，2日目以降は通常の2日目以降投与量の半量。
造血幹細胞移植への深在性真菌症の予防
5. 好中球数が500／mm3以上に回復，又は免疫抑制剤の投与終了等，適切な時期に投与終了。臨床試験で，180日を超えた投与の有効性・安全性は未検討。

■禁忌
【禁忌】1. 下記の投与患者
リファンピシン，リファブチン，エファビレンツ，リトナビル，ロピナビル・リトナビル，ニルマトレルビル・リトナビル，カルバマゼピン，バルビタール，フェノバルビタール，ピモジド，キニジン，イバブラジン，麦角アルカロイド（エルゴタミン・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン，ジヒドロエルゴタミン，エルゴメトリン，メチルエルゴメトリン），トリアゾラム，チカグレロル，アスナプレビル，ロミタピド，ブロナンセリン，スボレキサント，リバーロキサバン，リオシグアト，アゼルニジピン，オルメサルタン メドキソミル・アゼルニジピン，ベネトクラクス（再発・難治性の慢性リンパ性白血病（小リンパ球性リンパ腫含む）用量漸増期），アナモレリン，ルラシドン，イサブコナゾニウム，フィネレノン。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。
3. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック（頻度不明），アナフィラキシー（頻度不明）。
2. 中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），皮膚粘膜眼症候群（頻度不明），多形紅斑（頻度不明）（皮疹等）。
3. 重篤な肝障害（5. 0%）（肝炎，黄疸，肝不全，肝性昏睡等），死亡。
4. 心電図QT延長（頻度不明），心室頻拍（1. 0%）（Torsades de pointes含む），心室細動（頻度不明），不整脈（頻度不明），完全房室ブロック（頻度不明），心室性二段脈，心室性期外収縮，頻脈等。
5. 心不全（3. 0%）。
6. 重篤な腎障害（1. 0%）（急性腎障害，腎炎，腎尿細管壊死等）。
7. 呼吸窮迫症候群（頻度不明）。
8. ギラン・バレー症候群（頻度不明）。
9. 骨髄抑制，汎血球減少，再生不良性貧血，無顆粒球症，播種性血管内凝固等の重篤な血液障害（2. 0%）。
10. 偽膜性大腸炎（頻度不明）等の重篤な大腸炎（腹痛，下痢）。
11. 痙攣（頻度不明）等の神経障害。
12. 横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇）。
13. 間質性肺炎（0. 2%）（咳嗽，呼吸困難，発熱，肺音の異常（捻髪音）等）。
14. 重篤な低血糖（頻度不明）。
15. 意識障害（0. 1%）（意識消失，意識レベルの低下等）。
16. 高カリウム血症（1. 0%）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
血液・リンパ系障害 白血球減少症，血小板減少症 貧血，リンパ節症
心臓障害 動悸，心嚢液貯留 肺水腫，脚ブロック
耳・迷路障害 聴覚過敏，耳鳴，回転性眩暈
内分泌障害 ADH不適合分泌 副腎皮質機能不全，甲状腺機能亢進症，甲状腺機能低下症
眼障害 羞明，霧視，視覚障害 眼の異常感，調節障害，色覚異常，複視，眼瞼浮腫，流涙増加，縮瞳，視神経乳頭浮腫，光視症，網膜滲出物，網膜出血，網膜毛細血管瘤，網膜裂孔，網膜血管炎，黄視症 眼瞼炎，視神経炎，強膜炎，角膜混濁，視神経萎縮
胃腸障害 悪心，嘔吐 腹部膨満，口唇のひび割れ，便秘，下痢，消化不良，胃潰瘍，痔核，イレウス，口唇乾燥，口唇粘膜脱落，口唇炎，逆流性食道炎，口内炎 腹痛，胃腸炎，十二指腸炎，歯肉炎，舌炎，膵炎，舌浮腫，腹膜炎
全身障害・投与局所様態 無力症，胸痛，胸部圧迫感，異常感，倦怠感，末梢性浮腫，発熱，口渇 悪寒，注射部位反応／炎症，インフルエンザ症候群
肝胆道系障害 胆嚢炎，胆石症，肝腫大
感染症・寄生虫症 副鼻腔炎
代謝・栄養障害 食欲不振 高血糖，低カリウム血症 低ナトリウム血症 高コレステロール血症
筋骨格・結合組織障害 背部痛，四肢痛 関節炎 骨膜炎
神経系障害 頭痛 認知不能症，健忘，浮動性眩暈，味覚異常，感覚減退，傾眠，会話障害，振戦，視野欠損 末梢性ニューロパチー 錯感覚，失調，脳浮腫，筋緊張亢進，眼振，失神，注視痙攣，錐体外路症候群 精神障害 不眠症 錯乱状態，幻覚，幻聴，幻視 不安 うつ病，激越
腎・尿路障害 血尿，アルブミン尿
呼吸器，気管支・縦隔障害 喀血
皮膚・皮下組織障害 皮膚乾燥，湿疹，紅斑，結節性紅斑，発疹，毛髪変色，光線過敏性反応，多汗，掻痒症，丘疹，皮膚落屑 蕁麻疹 顔面浮腫，斑状丘疹状皮疹，脱毛症，剥脱性皮膚炎，紫斑，固定薬疹，乾癬，血管浮腫，皮膚エリテマトーデス，偽性ポルフィリン症
血管障害 潮紅 低血圧，血栓性静脈炎，静脈炎，リンパ管炎
臨床検査 ALT増加，AST増加，Al－P増加，γ－GTP増加 血中ビリルビン増加，血中カルシウム増加，血中クレアチニン増加，LDH増加，血中カリウム減少，血中カリウム増加，血圧低下，血圧上昇，フィブリンDダイマー増加，血清FDP増加，膵アミラーゼ増加，好酸球増加，血小板数減少 BUN増加
（表終了）

ミカファンギンNa点滴静注用75mg「明治」（75mg1瓶）

両 注射 後発 流通 劇

【YJコード】6179400D2051
【薬効分類】6. 1. 7 主としてカビに作用するもの
【一般名】ミカファンギンナトリウム
【先発品】ファンガード点滴用75mg
【メーカー】(製)MeijiSeikaファルマ
【薬価】2491円/1V
【薬価収載日】2020/06/19
【標榜薬効】キャンディン系抗真菌剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】アスペルギルス属・カンジダ属による下記感染症
真菌血症，呼吸器真菌症，消化管真菌症
造血幹細胞移植患者のアスペルギルス症・カンジダ症の予防
【用法用量】成人
アスペルギルス症
1回50～150mg 1日1回 点滴静注。重症・難治性アスペルギルス症 増量時 1日300mgまで。
カンジダ症
1回50mg 1日1回 点滴静注。重症・難治性カンジダ症 増量時 1日300mgまで。
造血幹細胞移植のアスペルギルス症・カンジダ症の予防
1回50mg 1日1回 点滴静注。
点滴静注時 生食，ブドウ糖液又は補液に溶解し，75mg以下 30分以上，75mgを超えて投与時 1時間以上かける。
溶解時 注射用水を使用しない（溶液が等張にならないため）。
小児
アスペルギルス症
1回1～3mg／kg 1日1回 点滴静注。重症・難治性アスペルギルス症 増量時 1日6mg／kgまで。
カンジダ症
1回1mg／kg 1日1回 点滴静注。重症・難治性カンジダ症 増量時 1日6mg／kgまで。
造血幹細胞移植のアスペルギルス症・カンジダ症の予防
1回1mg／kg 1日1回 点滴静注。
点滴静注 生食，ブドウ糖液又は補液に溶解し，1時間以上かける。
溶解時 注射用水を使用しない（溶液が等張にならないため）。
注意
成人
アスペルギルス症・カンジダ症

6 病原生物に対する医薬品

1. 体重50kg以下 1日6mg／kgまで。
造血幹細胞移植のアスペルギルス症・カンジダ症の予防
2. 好中球数が500個／mm3以上に回復する等，適切な時期に投与を終了。
3. 体重50kg以下 1日1mg／kgまで。
小児
アスペルギルス症・カンジダ症
4，体重50kg以上 1日300mgまで。
造血幹細胞移植のアスペルギルス症・カンジダ症の予防
5. 好中球数が500個／mm3以上に回復する等，適切な時期に投与を終了。
6. 体重50kg以上 1日50mgまで。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 血液障害（白血球減少（頻度不明），好中球減少（1．1%），溶血性貧血（血管内溶血含む），血小板減少（各頻度不明））。
2. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（血圧低下，口内異常感，呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等）。
3. 肝機能障害（AST，ALT，γ－GTP，AI－Pの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
4. 急性腎障害等の重篤な腎障害（頻度不明）。
5. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
肝臓 ALT上昇 AST上昇，AI－P上昇，LDH上昇，γ－GTP上昇
代謝異常 カリウム上昇，カリウム低下 低カルシウム血症，低マグネシウム血症
血液 好酸球増多
皮膚 発疹
循環器 高血圧，動悸
消化器 下痢，軟便 悪心，嘔吐
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇 クレアチニンクリアランス低下
その他 静脈炎，関節炎，血管痛，悪寒，頭痛 CK上昇，ミオグロビン上昇，発熱，注射部位反応（腫脹，疼痛，紅斑等）
（表終了）

6．1．9 その他の抗生物質製剤（複合抗生物質製剤を含む。）

リフキシマ錠200mg（200mg1錠）
両 内服 流通

【YJコード】6199001F1026
【薬効分類】6．1．9 その他の抗生物質製剤（複合抗生物質製剤を含む。）
【一般名】リファキシミン
【メーカー】製)あすか製薬 販)武田薬品工業
【薬価】235.1円/1T
【薬価収載日】2016/11/18
【標榜薬効】難吸収性リファマイシン系抗菌剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】肝性脳症の高アンモニア血症の改善
注意
抗酸菌に抗菌活性を示し，他のリファマイシン系抗菌薬と交差耐性を示す可能性。他のリファマイシン系抗菌薬への結核菌の耐性化を防ぐため，肺結核・その他結核症を合併している肝性脳症患者の高アンモニア血症には，他の治療法を選択。
【用法用量】成人・小児 1回400mg 1日3回 食後 内服。
注意
国内臨床試験で，12週間を超える使用経験なし，12週間を超えて投与時はその必要性を慎重に判断。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
偽膜性大腸炎（クロストリディオイデス・ディフィシル関連下痢症）（頻度不明）（腹痛，頻回な下痢）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1～5%未満 1%未満
過敏症 発疹，湿疹
消化器 便秘，下痢，悪心，腹痛 上腹部痛，腹部不快感，痔出血
肝臓 高ビリルビン血症 AI－P上昇
精神神経系 眩暈，味覚異常，肝性脳症の悪化，頭蓋内動脈瘤
循環器 高血圧，動悸
その他 声帯の炎症，敗血症，背部痛，発熱，尿中血陽性
（表終了）

6．2 化学療法剤

6．2．1 サルファ剤

サラゾスルファピリジン腸溶錠500mg「CH」（500mg1錠）
両 内服 後発 流通

【YJコード】6219001H1102
【薬効分類】6．2．1 サルファ剤
【一般名】サラゾスルファピリジン
【先発品】アザルフィジンEN錠500mg
【メーカー】製)長生堂製薬 販)日本ジェネリック
【薬価】14円/1T
【薬価収載日】2014/12/12
【標榜薬効】抗リウマチ剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】関節リウマチ
【用法用量】消炎鎮痛剤等で効果不十分時に使用。
成人 1日1g 1日2回 分割 朝・夕食後 内服。
注意
1．1～2ヵ月後に効果あり，臨床効果が発現するまでは，従来の消炎鎮痛剤は継続併用。
2. 高齢者 少量（1回0．5g 1日1回 夕食後）から開始する等慎重投与。

■禁忌
【禁忌】1. サルファ剤・サリチル酸製剤に過敏症の既往。
2. 低出生体重児，新生児。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 再生不良性貧血（0．03%），汎血球減少症（0．06%），無顆粒球症（頻度不明），血小板減少（0．3%），貧血（溶血性貧血，巨赤芽球性貧血（葉酸欠乏）等）（頻度不明），DIC（0．03%）。
2. 中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），皮膚粘膜眼症候群（0．03%），紅皮症型薬疹（0．08%）。
3. 過敏症症候群，伝染性単核球症様症状（各頻度不明）（発疹，発熱，感冒様症状，リンパ節腫脹，肝機能障害，肝腫，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状）。
4. 間質性肺炎（0．03%），薬剤性肺炎（0．06%），PIE症候群（頻度不明），線維性肺胞炎（頻度不明）（発熱，咳嗽，喀痰，呼吸困難等）。
5. 急性腎障害，ネフローゼ症候群，間質性腎炎（各頻度不明）。
6. 消化性潰瘍（出血，穿孔を伴うことあり），S状結腸穿孔（各頻度不明）。
7. 脳症（頻度不明）（意識障害，痙攣等）。
8. 無菌性髄膜（脳）炎（頻度不明）（頸部（項部）硬直，発熱，頭痛，悪心，嘔吐，意識混濁等）。
9. 心膜炎，胸膜炎（各頻度不明）（呼吸困難，胸部痛，胸水等）。
10. SLE様症状（頻度不明）。
11. 劇症肝炎（頻度不明），肝炎（0．03%）（AST，ALTの著しい上昇等），肝機能障害（2．0%），黄疸（頻度不明），肝不全。
12. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（発疹，血圧低下，呼吸困難等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明 1～10%未満 1%未満
血液 － － 白血球減少，免疫グロブリン減少，顆粒球減少，異型リンパ球出現，好酸球増多
肝臓 － － AST，ALTの上昇
腎臓 尿路結石 浮腫 蛋白尿，BUN上昇，血尿，腫脹，糖尿
皮膚 － － 脱毛
消化器 膵炎，口腔咽頭痛 悪心・嘔吐，腹痛，口内炎，胃不快感，食欲不振 便秘，腹部膨満感，下痢，口唇炎，胸やけ，舌炎，口渇
過敏症 光線過敏症，血清病 発疹，掻痒感 顔面潮紅，紅斑，蕁麻疹
精神神経系 抑うつ － 頭痛，末梢神経炎，眩暈，うとうと状態，耳鳴
その他 精子数・精子運動性の可逆的な減少 発熱 倦怠，味覚異常，心悸亢進，筋肉痛，胸痛，関節痛，嗅覚異常
（表終了）

サラゾピリン錠500mg（500mg1錠）
両 内服 流通

【YJコード】6219001F1071
【薬効分類】6．2．1 サルファ剤
【一般名】サラゾスルファピリジン
【メーカー】製)ファイザー

6 病原生物に対する医薬品

【薬価】7.6円/1T
【薬価収載日】2008/12/19
【標榜薬効】潰瘍性大腸炎治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】潰瘍性大腸炎，限局性腸炎，非特異性大腸炎
【用法用量】1日4～8錠(サラゾスルファピリジン 2～4g) 1日4～6回 分割 内服。
症状により 初回毎日16錠(サラゾスルファピリジン 8g)。
3週間経過後 次第に減量し 1日3～4錠(サラゾスルファピリジン 1.5～2g)。
ステロイド療法を長期間継続時 4錠(サラゾスルファピリジン 2g)を併用しながら，ステロイドを漸減。
注意
軽度の悪心が発現時は，半量に減じ，高度の悪心が発現時は，2～3日投与を中止後，次第に増量して元の量に戻す。

■禁忌
【禁忌】1. サルファ剤・サリチル酸製剤に過敏症の既往。
2. 低出生体重児，新生児。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 再生不良性貧血(頻度不明)，汎血球減少症(頻度不明)，無顆粒球症(頻度不明)，血小板減少(頻度不明)，貧血(溶血性貧血，巨赤芽球性貧血(葉酸欠乏)等)(頻度不明)，DIC(頻度不明)。
2. 中毒性表皮壊死融解症(頻度不明)，皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)，紅皮症型薬疹(頻度不明)。
3. 過敏症症候群(頻度不明)，伝染性単核球症様症状(頻度不明)(発疹，発熱，感冒様症状，リンパ節腫脹，肝機能障害，肝腫，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状)。
4. 間質性肺炎(頻度不明)，薬剤性肺炎(頻度不明)，PIE症候群(頻度不明)，線維性肺胞炎(頻度不明)(発熱，咳嗽，喀痰，呼吸困難等)。
5. 急性腎障害(頻度不明)，ネフローゼ症候群(頻度不明)，間質性腎炎(頻度不明)。
6. 消化性潰瘍(出血，穿孔を伴うことあり)(頻度不明)，S状結腸穿孔(頻度不明)。
7. 脳症(頻度不明)(意識障害，痙攣等)。
8. 無菌性髄膜(脳)炎(頻度不明)(頸部(項部)硬直，発熱，頭痛，悪心，嘔吐，意識混濁等)。
9. 心膜炎(頻度不明)，胸膜炎(頻度不明)(呼吸困難，胸部痛，胸水等)。
10. SLE様症状(頻度不明)。
11. 劇症肝炎(頻度不明)，肝炎(頻度不明)(AST，ALTの著しい上昇等)，肝機能障害(頻度不明)，黄疸(頻度不明)，肝不全。
12. ショック(頻度不明)，アナフィラキシー(頻度不明)(発疹，血圧低下，呼吸困難等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
血液 顆粒球減少，白血球減少，異型リンパ球出現，免疫グロブリン減少，好酸球増多
肝臓 AST・ALTの上昇
腎臓 尿路結石，腫脹，浮腫，糖尿，蛋白尿，BUN上昇，血尿
皮膚 脱毛
消化器 食欲不振，悪心・嘔吐，腹部膨満感，口内炎，口唇炎，舌炎，腹痛，胃不快感，胸やけ，膵炎，口渇，便秘，下痢，口腔咽頭痛
過敏症 発疹，掻痒感，光線過敏症，血清病，紅斑，顔面潮紅，蕁麻疹
精神神経系 頭痛，末梢神経炎，うとうと状態，眩暈，耳鳴，抑うつ
その他 精子数・精子運動性の可逆的な減少，倦怠感，胸痛，筋肉痛，関節痛，心悸亢進，発熱，味覚異常，嗅覚異常
(表終了)

6. 2. 2 抗結核剤

イスコチン錠100mg（100mg1錠）
両 内服 流通

【YJコード】6222001F3037
【薬効分類】6. 2. 2 抗結核剤
【一般名】イソニアジド
【メーカー】製)アルフレッサファーマ 販)第一三共 販)第一製薬
【薬価】10.1円/1T
【標榜薬効】結核化学療法剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種 結核菌
適応症 肺結核・その他の結核症
【用法用量】成人 1日200～500mg(4～10mg／kg) 1日1～3回分割 毎日又は週2日 内服。
必要時 成人 1日1g，13歳未満 1日20mg／kgまで。
適宜増減。
他の抗結核薬と併用。

■禁忌
【禁忌】重篤な肝障害。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 劇症肝炎等の重篤な肝障害(頻度不明)。
2. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，紅皮症(剥脱性皮膚炎)(各頻度不明)。
3. 薬剤性過敏症症候群(頻度不明)(発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球の出現等)，ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
4. SLE様症状(頻度不明)(発熱，紅斑，筋肉痛，関節痛，リンパ節腫脹，胸部痛等)。
5. 間質性肺炎(頻度不明)(発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等)。
6. 腎不全，間質性腎炎，ネフローゼ症候群(各頻度不明)(発熱，皮疹，乏尿，浮腫，蛋白尿，腎機能検査値異常等)。
7. 無顆粒球症，血小板減少(各頻度不明)。
8. 痙攣(頻度不明)。
9. 視神経炎，視神経萎縮(各頻度不明)(視力低下，中心暗点等)。
10. 末梢神経炎(頻度不明)(四肢の異常感覚，しびれ感，知覚障害，腱反射低下，筋力低下，筋萎縮等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
肝臓 AST上昇，ALT上昇 黄疸 －
過敏症 － － 発熱，発疹
血液 出血傾向(喀血，血痰，鼻出血，眼底出血等) 貧血，赤芽球癆，白血球減少，好酸球増多 －
精神神経系 頭痛，眩暈，倦怠感 精神障害(せん妄，抑うつ，記憶力低下，幻覚，感情異常，興奮等) －
中枢神経系 － 小脳障害(平衡障害，運動失調，企図振戦，言語障害，眼球運動障害，嚥下障害等) －
消化器 食欲不振，悪心，嘔吐，胃部膨満感，腹痛，便秘 － －
内分泌 － － 女性化乳房，乳汁分泌，月経障害，インポテンス
その他 － － 関節痛
(表終了)

エブトール250mg錠（250mg1錠）
両 内服 流通
劇

【YJコード】6225001F2032
【薬効分類】6. 2. 2 抗結核剤
【一般名】エタンブトール塩酸塩
【メーカー】製)科研製薬
【薬価】32.2円/1T
【標榜薬効】エタンブトール製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種 マイコバクテリウム属
適応症 肺結核・その他の結核症，マイコバクテリウム・アビウムコンプレックス症を含む非結核性抗酸菌症
【用法用量】肺結核・その他の結核症
成人 エタンブトール塩酸塩 1日0. 75～1g 1日1～2回 分割 内服。適宜減量。
他の抗結核薬と併用。
MAC症を含む非結核性抗酸菌症
成人 エタンブトール塩酸塩 1回0. 5～0. 75g 1日1回 内服。
適宜増減，1日1gまで。
注意
肺結核・その他の結核症
1. 体重別1日量の目安は下表の通り。
(表開始)
体重(kg) mg 250mg錠のみ 250mg錠と125mg錠（250mg錠)・(125mg錠) 125mg錠のみ 投与法
60以上 1000 4錠 8錠 1日1回 朝食後 内服，又は1日2回 分割朝・夕 内服。
50以上 875 3錠・1錠 7錠 1日1回 朝食後 内服，又は1日2回分割 朝・夕 内服。
40以上 750 3錠 6錠 1日1回 朝食後 内服，又は1日2回 分割朝・夕 内服。
35以上 625 2錠・1錠 5錠 1日1回 朝食後 内服，又は1日2回分割 朝・夕 内服。
30以上 500 2錠 4錠 1日1回 朝食後 内服，又は1日2回 分割朝・夕 内服。
(表終了)
体重別の1日量 エタンブトール塩酸塩 15～20mg／kgで算出。
MAC症含む非結核性抗酸菌症
2. 投与開始時期，投与期間，併用薬等について国内外の各種学会ガイドライン等，最新の情報を参考に投与。
3. 体重別1日量の目安は下表の通り。
(表開始)
体重(kg) mg 250mg錠のみ 250mg錠と125mg錠（250mg錠)・(125mg錠) 125mg錠のみ 投与法
50以上 750 3錠 6錠 1日1回 朝食後 内服。
40以上 625 2錠・1錠 5錠 1日1回 朝食後 内服。

6 病原生物に対する医薬品

30以上 500 2錠 4錠 1日1回 朝食後 内服。
（表終了）
体重別の1日量 エタンブトール塩酸塩 約15mg／kgで算出。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 視力障害（頻度不明）（視神経障害による視力低下，中心暗点，視野狭窄，色覚異常等）。
2. 劇症肝炎等の重篤な肝障害（頻度不明）。
3. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，全身潮紅，血管浮腫（顔面浮腫，喉頭浮腫等），蕁麻疹等）。
4. 間質性肺炎，好酸球性肺炎（各頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等）。
5. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，紅皮症（剥脱性皮膚炎）（各頻度不明）。
6. 血小板減少（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
中枢・末梢神経系 四肢のしびれ感
精神神経系 幻覚，不安，不眠
過敏症 発熱，発疹，掻痒
血液 白血球減少，好中球減少，好酸球増多
肝臓 一過性のAST，ALTの上昇
消化器 食欲不振，悪心，嘔吐，胃部不快感，胃痛
その他 頭痛，眩暈感，倦怠感，高尿酸血症
（表終了）

ピラマイド原末（1g）
両 内服 流通

【YJコード】6223001X1037
【薬効分類】6．2．2 抗結核剤
【一般名】ピラジナミド
【メーカー】製)アルフレッサファーマ 販)第一三共
【薬価】23円/1g
【薬価収載日】2008/06/23
【標榜薬効】結核化学療法剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種 結核菌
適応症 肺結核・その他の結核症
【用法用量】成人 1日1．5～2g 1日1～3回 分割 内服。
適宜増減。
他の抗結核薬と併用。

■禁忌
【禁忌】肝障害。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 劇症肝炎等の重篤な肝障害（頻度不明），黄疸。
2. 間質性腎炎（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
関節 尿酸値上昇，痛風発作（関節痛）
血液 好酸球増多症
過敏症 発熱，発疹
消化器 食欲不振，悪心，嘔吐
その他 頭痛，筋肉痛，色素沈着
（表終了）

6．2．4 合成抗菌剤

ジェニナック錠200mg（200mg1錠）
両 内服 流通

【YJコード】6241017F1022
【薬効分類】6．2．4 合成抗菌剤
【一般名】メシル酸ガレノキサシン水和物
【メーカー】製)富士フイルム富山化学 販)アステラス製薬 販)大正製薬
【薬価】139.4円/1T
【薬価収載日】2007/09/21
【標榜薬効】キノロン系経口抗菌剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種
ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌（ペニシリン耐性肺炎球菌含む），モラクセラ（ブランハメラ）・カタラーリス，大腸菌，クレブシエラ属，エンテロバクター属，インフルエンザ菌，レジオネラ・ニューモフィラ，肺炎クラミジア（クラミジア・ニューモニエ），肺炎マイコプラズマ（マイコプラズマ・ニューモニエ）
適応症
咽頭・喉頭炎，扁桃炎（扁桃周囲炎，扁桃周囲膿瘍含む），急性気管支炎，肺炎，慢性呼吸器病変の二次感染，中耳炎，副鼻腔炎
注意
効能共通
1. 肺炎球菌には多剤耐性肺炎球菌含む。
咽頭・喉頭炎，扁桃炎（扁桃周囲炎，扁桃周囲膿瘍含む），急性気管支炎，副鼻腔炎
2.「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】成人 ガレノキサシン 1回400mg 1日1回 内服。
注意
低体重（40kg未満）かつ透析等を受けていない高度の腎機能障害（Ccr30mL／分未満）低用量（200mg）を用いる。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分・他のキノロン系抗菌剤に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。
3. 小児等。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，血圧低下，浮腫，発赤等）。
2. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑（各頻度不明）。
3. 徐脈，洞停止，房室ブロック（各頻度不明）（嘔気，眩暈，失神等）。
4. QT延長，心室頻拍（Torsades de pointes含む），心室細動（各頻度不明）。
5. 劇症肝炎，肝機能障害（各頻度不明）（AST，ALT等の著しい上昇）。
6. 低血糖（頻度不明）。
7. 高血糖（頻度不明）。
8. 偽膜性大腸炎（クロストリジウム性大腸炎（0．5%未満））等の血便を伴う重篤な大腸炎（腹痛，頻回の下痢）。
9. 汎血球減少症，無顆粒球症，血小板減少（各頻度不明）。
10. 横紋筋融解症（頻度不明）（急激な腎機能悪化を伴う）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇）。
11. 幻覚，せん妄等の精神症状（頻度不明）。
12. 痙攣（頻度不明）。
13. 間質性肺炎，好酸球性肺炎（各頻度不明）等（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等）。
14. 重症筋無力症の悪化（頻度不明）。
15. 急性腎障害，間質性腎炎（各頻度不明）等の重篤な腎障害。
16. 大動脈瘤，大動脈解離（各頻度不明）。
17. 末梢神経障害（頻度不明）（しびれ，筋力低下，痛み等）。
18. アキレス腱炎，腱断裂等の腱障害（頻度不明）（腱周辺の痛み，浮腫，発赤等）。
19. 血管炎（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 0．5～1%未満 0．5%未満 頻度不明
過敏症 発疹 湿疹，紅斑，皮膚炎，掻痒症，潮紅，眼瞼浮腫，アレルギー性結膜炎，眼掻痒症 光線過敏症
肝臓 AST増加，ALT増加，γ－GTP増加，血中AI－P増加，血中LDH増加，ビリルビン増加 尿中ウロビリン陽性
腎臓 尿中蛋白陽性 血中クレアチニン増加，尿中ブドウ糖陽性 頻尿，BUN増加，尿中白血球陽性，尿中赤血球陽性，尿円柱 着色尿
消化器 下痢，軟便，便秘，血中アミラーゼ増加 悪心，嘔吐，腹痛，食欲不振，腹部膨満，口渇，舌炎，口唇炎 胃・腹部不快感，消化不良，異常便，口内炎，舌苔
血液 好酸球数増加，白血球数減少，リンパ球形態異常 血小板数増加，ヘモグロビン減少，好中球数減少 赤血球数減少，ヘマトクリット減少，血小板数減少，リンパ球数増加，リンパ球数減少，単球数増加
代謝異常 血中カリウム増加，血中ブドウ糖増加，血中ブドウ糖減少 血中塩化物減少，血中カリウム減少，血中ナトリウム減少
循環器 血圧低下，心電図QT延長 徐脈，心不全，心房細動，洞性不整脈，心室性二段脈，動悸，胸部不快感，胸痛，血圧上昇，心電図異常P波，心電図ST－T変化
精神神経系 頭痛 傾眠，不眠症，浮動性眩暈 しびれ 振戦
筋・骨格 背部痛 関節痛，筋痛，筋痙攣，足底筋膜炎
呼吸器 喘息，血痰，鼻出血，鼻閉，鼻道刺激感，咽喉頭疼痛，気胸，鼻漏，上気道の炎症，鼻咽頭炎，咽喉頭炎
その他 血中CK増加，CRP増加，寒冷凝集素陽性 味覚障害 倦怠感，熱感，異常感，結膜出血，眼痛，眼の充血，色覚異常，単純ヘルペス発熱，悪寒
（表終了）

レボフロキサシン錠500mg「DSEP」（500mg1錠（レボフロキサシンとして））
両 内服 後発 流通

【YJコード】6241013F3051

6 病原生物に対する医薬品

【薬効分類】6．2．4 合成抗菌剤
【一般名】レボフロキサシン水和物
【先発品】クラビット錠500mg
【メーカー】製)第一三共エスファ 販)第一三共
【薬価】63.1円/1T
【薬価収載日】2014/12/12
【標榜薬効】広範囲経口抗菌製剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種
ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，腸球菌属，淋菌，モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス，炭疽菌，結核菌，大腸菌，赤痢菌，サルモネラ属，チフス菌，パラチフス菌，シトロバクター属，クレブシエラ属，エンテロバクター属，セラチア属，プロテウス属，モルガネラ・モルガニー，プロビデンシア属，ペスト菌，コレラ菌，インフルエンザ菌，緑膿菌，アシネトバクター属，レジオネラ属，ブルセラ属，野兎病菌，カンピロバクター属，ペプトストレプトコッカス属，アクネ菌，Q熱リケッチア(コクシエラ・ブルネティ)，トラコーマクラミジア(クラミジア・トラコマティス)，肺炎クラミジア(クラミジア・ニューモニエ)，肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニエ)
適応症
表在性皮膚感染症，深在性皮膚感染症，リンパ管・リンパ節炎，慢性膿皮症，ざ瘡(化膿性炎症を伴うもの)，外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，乳腺炎，肛門周囲膿瘍，咽頭・喉頭炎，扁桃炎(扁桃周囲炎，扁桃周囲膿瘍含む)，急性気管支炎，肺炎，慢性呼吸器病変の二次感染，膀胱炎，腎盂腎炎，前立腺炎(急性症，慢性症)，精巣上体炎(副睾丸炎)，尿道炎，子宮頸管炎，胆嚢炎，胆管炎，感染性腸炎，腸チフス，パラチフス，コレラ，バルトリン腺炎，子宮内感染，子宮付属器炎，涙嚢炎，麦粒腫，瞼板腺炎，外耳炎，中耳炎，副鼻腔炎，化膿性唾液腺炎，歯周組織炎，歯冠周囲炎，顎炎，炭疽，ブルセラ症，ペスト，野兎病，肺結核・その他の結核症，Q熱
注意
咽頭・喉頭炎，扁桃炎(扁桃周囲炎，扁桃周囲膿瘍含む)，急性気管支炎，感染性腸炎，副鼻腔炎
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】成人 1回500mg 1日1回 内服。適宜減量。
肺結核・その他の結核症 他の抗結核薬と併用。
腸チフス，パラチフス 1回500mg 1日1回 14日間 内服。
注意
効能共通
1．耐性菌の出現を抑制するため，用量調節時を含め分割投与は避け，必ず1日量を1回で投与。
2．腎機能低下 高い血中濃度が持続，下記を目安とし，必要時減量し，投与間隔をあけて投与。
(表開始)
腎機能クレアチニンクリアランス(CLcr)値(mL／分) 用法・用量
20≦CLcr＜50 初日1回500mg，2日目以降 1回250mg 1日1回。
CLcr＜20 初日1回500mg，3日目以降 1回250mg 2日に1回。
(表終了)
腸チフス，パラチフス
3．注射剤より本剤に切りかえた時は注射剤の投与期間も含め14日間投与。
炭疽
4．炭疽の発症，進展抑制 欧州医薬品庁が60日間の投与を推奨。

■禁忌

【禁忌】効能共通
1．本剤の成分・オフロキサシンに過敏症の既往。
炭疽等の重篤な疾患以外
2．妊婦・妊娠の可能性。
3．小児等。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック(頻度不明)，アナフィラキシー(頻度不明)(紅斑，悪寒，呼吸困難等)。
2．中毒性表皮壊死融解症(頻度不明)，皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)。
3．痙攣(頻度不明)。
4．QT延長(頻度不明)，心室頻拍(Torsades de pointes含む)(頻度不明)。
5．急性腎障害(頻度不明)，間質性腎炎(頻度不明)。
6．劇症肝炎(頻度不明)，肝機能障害(頻度不明)，黄疸(頻度不明)(嘔気・嘔吐，食欲不振，倦怠感，掻痒等)。
7．汎血球減少症(頻度不明)，無顆粒球症(頻度不明)(発熱，咽頭痛，倦怠感等)，溶血性貧血(頻度不明)(ヘモグロビン尿等)，血小板減少(頻度不明)。
8．間質性肺炎(頻度不明)，好酸球性肺炎(頻度不明)(発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等)。
9．偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎(頻度不明)(腹痛，頻回の下痢等)。
10．横紋筋融解症(頻度不明)(急激な腎機能悪化を伴う)(筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等)。
11．低血糖(頻度不明)，低血糖性昏睡。
12．アキレス腱炎，腱断裂等の腱障害(頻度不明)(腱周辺の痛み，浮腫，発赤等)。
13．錯乱(頻度不明)，せん妄(頻度不明)，抑うつ等の精神症状(頻度不明)。
14．過敏性血管炎(頻度不明)(発熱，腹痛，関節痛，紫斑，斑状丘疹，皮膚生検で白血球破砕性血管炎等)。
15．重症筋無力症の悪化(頻度不明)。
16．大動脈瘤(頻度不明)，大動脈解離(頻度不明)。
17．末梢神経障害(頻度不明)(しびれ，筋力低下，痛み等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 掻痒症 蕁麻疹，光線過敏症
精神神経系 眩暈，不眠，頭痛 傾眠，振戦，意識障害 幻覚，錐体外路障害，ぼんやり，しびれ感
泌尿器 血尿，クレアチニン上昇 頻尿，尿閉，無尿，尿蛋白陽性，BUN上昇
肝臓 ALT上昇，LDH上昇，AST上昇 肝機能異常，γ－GTP上昇，血中ビリルビン増加，AI－P上昇
血液 白血球数減少，好酸球数増加，好中球数減少，血小板数減少 リンパ球数減少，貧血
消化器 悪心，嘔吐，下痢，腹部不快感，食欲不振 腹痛，口渇，腹部膨満，胃腸障害，消化不良，便秘 口内炎，舌炎
感覚器 味覚異常，耳鳴 味覚消失，視覚異常，無嗅覚，嗅覚錯誤
循環器 動悸 低血圧，頻脈
その他 胸部不快感，CK上昇，四肢痛，関節痛，咽喉乾燥，尿中ブドウ糖陽性，熱感，浮腫 高血糖，筋肉痛，発熱，関節障害，発汗，胸痛，脱力感，倦怠感
(表終了)

レボフロキサシン点滴静注500mg／20mL「DSEP」(500mg20mL1瓶)

両 注射 後発 流通

【YJコード】6241402A1030
【薬効分類】6．2．4 合成抗菌剤
【一般名】レボフロキサシン水和物
【先発品】クラビット点滴静注500mg／20mL
【メーカー】製)第一三共エスファ 販)第一三共
【薬価】1760円/1V
【薬価収載日】2018/06/15
【標榜薬効】ニューキノロン系抗菌剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種
ブドウ球菌属，レンサ球菌属，肺炎球菌，腸球菌属，モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス，炭疽菌，大腸菌，チフス菌，パラチフス菌，シトロバクター属，クレブシエラ属，エンテロバクター属，セラチア属，プロテウス属，モルガネラ・モルガニー，プロビデンシア属，ペスト菌，インフルエンザ菌，緑膿菌，アシネトバクター属，レジオネラ属，ブルセラ属，野兎病菌，ペプトストレプトコッカス属，プレボテラ属，Q熱リケッチア(コクシエラ・ブルネティ)，トラコーマクラミジア(クラミジア・トラコマティス)，肺炎クラミジア(クラミジア・ニューモニエ)，肺炎マイコプラズマ(マイコプラズマ・ニューモニエ)
適応症
外傷・熱傷及び手術創等の二次感染，肺炎，慢性呼吸器病変の二次感染，膀胱炎，腎盂腎炎，前立腺炎(急性症，慢性症)，精巣上体炎(副睾丸炎)，腹膜炎，胆嚢炎，胆管炎，腸チフス，パラチフス，子宮内感染，子宮付属器炎，炭疽，ブルセラ症，ペスト，野兎病，Q熱
【用法用量】成人 レボフロキサシン 1回500mg 1日1回 約60分間かけ 点滴静注。
注意
効能共通
1．腎機能低下 高い血中濃度が持続，下記を目安とし，必要時減量し，投与間隔をあけて投与。
(表開始)
腎機能クレアチニンクリアランス(CLcr)値(mL／分) 用法・用量
20≦CLcr＜50 初日1回500mg，2日目以降 1回250mg 1日1回 投与。
CLcr＜20 初日1回500mg，3日目以降 1回250mg 2日に1回投与。
(表終了)
腸チフス，パラチフス
2．レボフロキサシンとして(経口剤に切りかえた時は経口剤の投与期間も含め)14日間投与。
炭疽
3．炭疽の発症，進展抑制 欧州医薬品庁が60日間の投与を推奨。症状が緩解した時は，内服に切りかえる。

■禁忌

【禁忌】効能共通
1．本剤の成分・オフロキサシンに過敏症の既往。
炭疽等の重篤な疾患以外
2．妊婦・妊娠の可能性。
3．小児等。

■副作用

【副作用】重大な副作用

6 病原生物に対する医薬品

1. ショック(頻度不明), アナフィラキシー(頻度不明)(紅斑, 悪寒, 呼吸困難等)。
2. 中毒性表皮壊死融解症(頻度不明), 皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)。
3. 痙攣(頻度不明)。
4. QT延長(頻度不明), 心室頻拍(Torsades de pointes含む)(頻度不明)。
5. 急性腎障害(頻度不明), 間質性腎炎(頻度不明)。
6. 劇症肝炎(頻度不明), 肝機能障害(頻度不明), 黄疸(頻度不明)(嘔気・嘔吐, 食欲不振, 倦怠感, 掻痒等)。
7. 汎血球減少症(頻度不明), 無顆粒球症(頻度不明)(発熱, 咽頭痛, 倦怠感等), 溶血性貧血(頻度不明)(ヘモグロビン尿等), 血小板減少(頻度不明)。
8. 間質性肺炎(頻度不明), 好酸球性肺炎(頻度不明)(発熱, 咳嗽, 呼吸困難, 胸部X線異常, 好酸球増多等)。
9. 偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎(頻度不明)(腹痛, 頻回の下痢等)。
10. 横紋筋融解症(頻度不明)(急激な腎機能悪化を伴う)(筋肉痛, 脱力感, CK上昇, 血中・尿中ミオグロビン上昇等)。
11. 低血糖(頻度不明), 低血糖性昏睡。
12. アキレス腱炎, 腱断裂等の腱障害(頻度不明)(腱周辺の痛み, 浮腫, 発赤等)。
13. 錯乱(頻度不明), せん妄(頻度不明), 抑うつ等の精神症状(頻度不明)。
14. 過敏性血管炎(頻度不明)(発熱, 腹痛, 関節痛, 紫斑, 斑状丘疹, 皮膚生検で白血球破砕性血管炎等)。
15. 重症筋無力症の悪化(頻度不明)。
16. 大動脈瘤(頻度不明), 大動脈解離(頻度不明)。
17. 末梢神経障害(頻度不明)(しびれ, 筋力低下, 痛み等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
過敏症 掻痒症, 発疹 蕁麻疹, 光線過敏症
精神神経系 不眠 頭痛, 眩暈, しびれ感, 幻覚 傾眠, 振戦, ぼんやり, 意識障害, 錐体外路障害
泌尿器 血尿, 尿蛋白陽性 クレアチニン上昇, BUN上昇, 尿閉, 無尿, 頻尿
肝臓 ALT上昇, AST上昇, γ－GTP上昇, AI－P上昇 LDH上昇, 血中ビリルビン増加 肝機能異常
血液 好酸球数増加 好中球数減少, 白血球数減少 血小板数減少, リンパ球数減少, 貧血
消化器 下痢, 便秘 悪心, 嘔吐, 食欲不振, 腹部不快感, 腹痛, 口渇, 腹部膨満, 舌炎 消化不良, 胃腸障害, 口内炎
感覚器 耳鳴 視覚異常, 味覚消失, 味覚異常, 無嗅覚, 嗅覚錯誤
循環器 動悸, 低血圧, 頻脈
注射部位反応 注射部位紅斑(12. 3%), 注射部位掻痒感, 注射部位疼痛, 注射部位腫脹 静脈炎, 注射部位硬結, 注射部位熱感, 血管炎, 注射部位不快感, 血管障害, 穿刺部位疼痛
その他 CK上昇, 尿中ブドウ糖陽性, 関節痛, 倦怠感, 発熱 胸部不快感, 四肢痛, 咽喉乾燥, 熱感, 浮腫, 筋肉痛, 脱力感, 胸痛, 発汗, 高血糖, 関節障害
(表終了)

6. 2. 5 抗ウイルス剤

アシクロビル点滴静注液250mg「日医工」(250mg1管)

両 注射 流通

【YJコード】6250401A1085
【薬効分類】6. 2. 5 抗ウイルス剤
【一般名】アシクロビル
【メーカー】製)日医工 販)日本ケミファ
【薬価】368円/1A
【薬価収載日】2017/06/15
【標榜薬効】抗ウイルス化学療法剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○単純ヘルペスウイルス, 水痘・帯状疱疹ウイルスによる下記感染症
免疫機能の低下した患者(悪性腫瘍・自己免疫疾患等)に発症した単純疱疹・水痘・帯状疱疹
脳炎・髄膜炎
○新生児単純ヘルペスウイルス感染症
【用法用量】単純ヘルペスウイルス及び水痘・帯状疱疹ウイルスによる下記感染症 免疫機能の低下した患者(悪性腫瘍・自己免疫疾患等)に発症した単純疱疹・水痘・帯状疱疹, 脳炎・髄膜炎
成人
アシクロビル 1回5mg／kg 1日3回 8時間ごとに1時間以上かけ7日間 点滴静注。
脳炎・髄膜炎 必要時, 期間延長又は増量。1回10mg／kgまで。
小児
アシクロビル 1回5mg／kg 1日3回 8時間ごとに1時間以上かけ7日間 点滴静注。必要時増量, 1回20mg／kgまで。
脳炎・髄膜炎 期間延長もできる。
新生児単純ヘルペスウイルス感染症
新生児 アシクロビル 1回10mg／kg 1日3回 8時間ごとに1時間以上かけ 10日間 点滴静注。
必要時, 期間延長又は増量。1回20mg／kgまで。
注意
1. 発病初期に近いほど効果が期待できるので, 早期に投与開始。
2. クレアチニンクリアランスに応じた投与間隔, 減量の目安は下表の通り(外国)。
(表開始)
クレアチニンクリアランス (mL／分／1. 73m2) 1回量に対する百分率(%) 投与間隔 (時間)
＞50 100 8
25～50 100 12
10～25 100 24
0～10 50 24
(表終了)

■禁忌

【禁忌】本剤の成分・バラシクロビル塩酸塩に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. アナフィラキシーショック(頻度不明), アナフィラキシー(0. 06%)(呼吸困難, 血管性浮腫等)。
2. 汎血球減少(頻度不明), 無顆粒球症(頻度不明), 血小板減少(頻度不明), DIC(0. 02%), 血小板減少性紫斑病(頻度不明)。
3. 急性腎障害, 尿細管間質性腎炎(各頻度不明)。
4. 精神神経症状(0. 2%)(意識障害(昏睡), せん妄, 妄想, 幻覚, 錯乱, 痙攣, てんかん発作, 麻痺, 脳症等)。
5. 中毒性表皮壊死融解症, 皮膚粘膜眼症候群(各頻度不明)。
6. 呼吸抑制(頻度不明), 無呼吸(0. 02%)。
7. 間質性肺炎(頻度不明)。
8. 肝炎, 肝機能障害, 黄疸(各頻度不明)。
9. 急性膵炎(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 発熱, 発疹, 紅斑, 蕁麻疹 掻痒 水疱, 固定薬疹, 光線過敏症
血液 貧血 紫斑, 血小板減少, 顆粒球減少, 好酸球増多, リンパ球増多 出血, 白血球増多, 好塩基球増多, リンパ球減少, 血小板増多
肝臓 肝機能検査値異常(AST, ALT等の上昇) 肝腫大
腎臓・泌尿器 BUN上昇, 血清クレアチニン値上昇 蛋白尿, 血尿, 尿円柱 乏尿, 膿尿, 結晶尿, 尿閉, 排尿困難
消化器 嘔気, 嘔吐, 腹痛, 胃痛, 心窩部痛, 胃不快感 下痢, 軟便, 食欲不振 胃炎, 消化不良, 舌炎, 口渇, 便秘, 鼓腸放屁
精神神経系 意識障害, 傾眠, 見当識障害, 情動失禁, そう状態, 多弁, 不安, 攣縮, しびれ感, 振戦, 眩暈, 眠気 感情鈍麻, うつ状態, 集中力障害, 徘徊, 離人症, 興奮, 健忘, 不眠, 言語障害, 独語, 異常感覚, 運動失調, 歩行異常, 不随意運動, 眼振等
循環器 胸痛 頻脈, 動悸, 血圧上昇 不整脈, 血圧低下
筋骨格 関節痛, 筋肉痛
全身症状 全身倦怠感, 発熱, 頭痛 蒼白, ほてり, 悪寒 失神, 浮腫, 脱力感, 筋力低下
適用部位 注射部壊死 注射部炎症
その他 呼吸困難, 血清トリグリセライド値上昇, 血清コレステロール値上昇, 血清蛋白低下, 尿糖 肺炎, 咽頭炎, 喘鳴, 胸水, 疼痛, 難聴, 結膜炎, 視力異常, 味覚障害, 脱毛, 発汗, 低ナトリウム血症, 血清アルブミン低下, AG比低下, 血清カリウム値上昇
(表終了)

アラセナーA軟膏3%(3%1g)

両 外用 流通

【YJコード】6250700M1189
【薬効分類】6. 2. 5 抗ウイルス剤
【一般名】ビダラビン
【メーカー】製)持田製薬
【薬価】132.8円/1g
【薬価収載日】2008/12/19
【標榜薬効】抗ウイルス剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】帯状疱疹, 単純疱疹
注意
局所治療を目的とした薬剤である, 発熱, 汎発疹等の全身症状がある又は使用中にあらわれた時は重症化する可能性, 他の全身的治療を考慮。
【用法用量】1日1～4回 塗布・貼布。
注意
1. 発症から5日以内に使用開始。
2. 7日間使用し, 改善がないか悪化時は他の治療に切りかえる。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】その他の副作用(発現時中止等)

6 病原生物に対する医薬品

（表開始）
発現部位等 1%未満
皮膚 接触皮膚炎様症状，刺激感，掻痒感等
（表終了）

イナビル吸入粉末剤20mg（20mg1キット）

両 外用 流通

【YJコード】6250703G1022
【薬効分類】6．2．5 抗ウイルス剤
【一般名】ラニナミビルオクタン酸エステル水和物
【メーカー】製)第一三共
【薬価】2098.1円/1kit
【薬価収載日】2010/10/04
【標榜薬効】長時間作用型ノイラミニダーゼ阻害剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】A型・B型インフルエンザウイルス感染症の治療・その予防
注意
効能共通
1．C型インフルエンザウイルス感染症には効果なし。
2．細菌感染症には効果なし。
治療
3．抗ウイルス薬の投与が全てのA型・B型インフルエンザウイルス感染症の治療に必須ではない。本剤の必要性を検討。
予防
4．インフルエンザウイルス感染症を発症している患者の同居家族・共同生活者である下記を対象。
・高齢者（65歳以上）
・慢性呼吸器疾患又は慢性心疾患
・代謝性疾患（糖尿病等）
・腎機能障害
【用法用量】（表開始）
効能・効果 用法・用量 用法・用量 用法・用量
治療 成人 成人 1回40mg 単回吸入。
治療 小児 10歳以上 1回40mg 単回吸入。
治療 小児 10歳未満 1回20mg 単回吸入。
予防 成人 成人 1回40mg 単回吸入。1回20mg 1日1回，2日間吸入もできる。
予防 小児 10歳以上 1回40mg 単回吸入。1回20mg 1日1回，2日間吸入もできる。
予防 小児 10歳未満 1回20mg 単回吸入。
（表終了）
注意
効能共通
1．1容器あたりラニナミビルオクタン酸エステル20mgを含有し，薬剤が2ヵ所に充填されているので，下表の通り吸入。
（表開始）
治療 予防
成人・10歳以上 2容器（計4ヵ所）（1）単回投与；2容器（計4ヵ所）（2）2日間投与；1回あたり1容器（1回あたり2ヵ所）
10歳未満 1容器（2ヵ所） 1容器（2ヵ所）
（表終了）
治療
2．症状発現後，速やかに投与を開始。症状発現から48時間経過後の開始で有効性データなし。
予防
3．下記に注意。
・インフルエンザウイルス感染症患者に接触後2日以内に投与を開始。接触から48時間経過後の開始で有効性データなし。
・服用開始10日以降のインフルエンザウイルス感染症への予防効果は未確認。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック（頻度不明），アナフィラキシー（頻度不明）（失神，呼吸困難，蕁麻疹，血圧低下，顔面蒼白，冷汗等）。
2．気管支攣縮（頻度不明），呼吸困難（頻度不明）。
3．異常行動（頻度不明）（急に走り出す，徘徊する等）。
4．皮膚粘膜眼症候群（頻度不明），中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），多形紅斑（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．5%以上 0．5%未満 頻度不明
過敏症 蕁麻疹 発疹，紅斑，掻痒
消化器 下痢 胃腸炎，悪心，嘔吐，腹痛，口内炎，腹部膨満，食欲減退，腹部不快感
精神神経系 眩暈，頭痛
呼吸器 咳嗽（むせ）
血液 白血球数増加
肝臓 ALT上昇 肝機能異常，AST上昇，γ－GTP上昇
泌尿器 尿蛋白
その他 CRP上昇，尿中ブドウ糖陽性
（表終了）

エンテカビル錠0．5mg「EE」（0．5mg1錠）

両 内服 後発 流通
劇

【YJコード】6250029F1059
【薬効分類】6．2．5 抗ウイルス剤
【一般名】エンテカビル水和物
【先発品】バラクルード錠0．5mg
【メーカー】製)シオノケミカル 販)エルメッド 販)日医工
【薬価】71.5円/1T
【薬価収載日】2017/06/16
【標榜薬効】抗ウイルス化学療法剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】B型肝炎ウイルスの増殖を伴い肝機能異常が確認されたB型慢性肝疾患のB型肝炎ウイルスの増殖抑制
注意
HBV DNA，HBV DNAポリメラーゼ，HBe抗原により，ウイルスの増殖を確認。
【用法用量】成人 エンテカビル 1回0．5mg 1日1回 空腹時（食後2時間以降かつ次の食事の2時間以上前） 内服。
ラミブジン不応（ラミブジン投与中にB型肝炎ウイルス血症が認められる又はラミブジン耐性変異ウイルスを有する等）エンテカビル 1回1mg 1日1回 内服。
注意
1．食事の影響により吸収率が低下，空腹時（食後2時間以降かつ次の食事の2時間以上前）に投与。
2．腎機能障害 下記を参考にクレアチニンクリアランスが50mL／分未満，血液透析・持続携行式腹膜透析を施行中の患者は，投与間隔の調節が必要。
腎機能障害 用法・用量の目安
（表開始）
クレアチニンクリアランス（mL／分） 通常量 ラミブジン不応患者
30～50未満 0．5mg 2日に1回 1mg 2日に1回
10～30未満 0．5mg 3日に1回 1mg 3日に1回
10未満 0．5mg 7日に1回 1mg 7日に1回
血液透析（注）又は持続携行式腹膜透析患者 0．5mg 7日に1回 1mg 7日に1回
（表終了）
（注）血液透析日は透析後に投与。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．肝機能障害（頻度不明）（AST，ALTの上昇）。
2．投与終了後の肝炎の悪化（頻度不明）。
3．アナフィラキシー（頻度不明）。
4．乳酸アシドーシス（頻度不明），死亡。
5．脂肪沈着による重度の肝腫大（脂肪肝）（頻度不明），死亡。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 3～10%未満 3%未満
胃腸障害 下痢，悪心，便秘，上腹部痛
全身障害・投与局所様態 倦怠感
感染症・寄生虫症 鼻咽頭炎
筋骨格系・結合組織障害 筋硬直
神経系障害 頭痛 浮動性眩暈
皮膚・皮下組織障害 発疹，脱毛
臨床検査 血中アミラーゼ増加，リパーゼ増加，血中乳酸増加，白血球数減少 AST上昇，ALT上昇，血中ビリルビン増加，血中ブドウ糖増加，BUN上昇，尿潜血陽性，尿中白血球陽性，好酸球数増加
（表終了）

オセルタミビルカプセル75mg「サワイ」（75mg1カプセル）

両 内服 後発 流通

【YJコード】6250021M1035
【薬効分類】6．2．5 抗ウイルス剤
【一般名】オセルタミビルリン酸塩
【先発品】タミフルカプセル75
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】111.6円/1C
【薬価収載日】2018/06/15
【標榜薬効】抗インフルエンザウイルス剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】A型・B型インフルエンザウイルス感染症・その予防
注意

6 病原生物に対する医薬品

治療
1. A型・B型インフルエンザウイルス感染症のみが対象だが，抗ウイルス薬の投与がA型・B型インフルエンザウイルス感染症の全ての患者に必須ではない。本剤の必要性を検討。幼児・高齢者に比べ，その他の年代ではインフルエンザによる死亡率が低いことを考慮。
予防
2. インフルエンザウイルス感染症を発症している患者の同居家族・共同生活者である下記を対象。
・高齢者（65歳以上）
・慢性呼吸器疾患又は慢性心疾患
・代謝性疾患（糖尿病等）
・腎機能障害
効能共通
3. A型・B型インフルエンザウイルス感染症以外の感染症には効果なし。
4. 細菌感染症には効果なし。
【用法用量】治療
成人，体重37．5kg以上の小児　1回75mg　1日2回　5日間　内服。
予防
成人　1回75mg　1日1回　7～10日間　内服。
体重37．5kg以上の小児　1回75mg　1日1回　10日間　内服。
注意
治療
1. インフルエンザ様症状の発現から2日以内に投与開始。発症から48時間経過後の開始で有効性データなし。
予防
2. インフルエンザウイルス感染症患者に接触後2日以内に投与を開始。接触後48時間経過後の開始で有効性データなし。
3. インフルエンザウイルス感染症への予防効果は，連続して服用している期間のみ持続。
効能共通
4. 成人の腎機能障害 血漿中濃度が増加。下記投与法を目安（外国）。
（表開始）
クレアチニンクリアランス（mL／分） 治療 予防
Ccr＞30 1回75mg　1日2回 1回75mg　1日1回
10＜Ccr≦30 1回75mg　1日1回 1回75mg　隔日
Ccr≦10 推奨量は未確立 推奨量は未確立
（表終了）
Ccr クレアチニンクリアランス

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（頻度不明）（蕁麻疹，顔面・喉頭浮腫，呼吸困難，血圧低下等）。
2. 肺炎（頻度不明）。
3. 劇症肝炎（重篤な肝炎），肝機能障害（AST，ALT，γ－GTP，AI－Pの著しい上昇等），黄疸（頻度不明）。
4. 皮膚粘膜眼症候群，中毒性表皮壊死融解症（頻度不明）。
5. 急性腎障害（頻度不明）。
6. 白血球減少，血小板減少（頻度不明）。
7. 精神神経症状（意識障害，せん妄，幻覚，妄想，痙攣等），異常行動（頻度不明）（急に走り出す，徘徊する等）。
8. 出血性大腸炎，虚血性大腸炎（頻度不明）（血便，血性下痢等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1%以上 0．1%未満 頻度不明
皮膚 発疹 蕁麻疹 皮下出血，紅斑（多形紅斑含む），掻痒症
消化器 下痢（0．9%），腹痛（0．6%），悪心（0．5%），嘔吐 口内炎（潰瘍性含む），食欲不振，腹部膨満，口腔内不快感，便異常 口唇炎，血便，メレナ，吐血，消化性潰瘍
精神神経系 眩暈，頭痛，不眠症 傾眠，嗜眠，感覚鈍麻 激越，振戦，悪夢
循環器　動悸 上室性頻脈，心室性期外収縮，心電図異常（ST上昇）
肝臓 ALT増加 γ－GTP増加，AI－P増加，AST増加
腎臓 蛋白尿　血尿
血液 好酸球数増加
呼吸器　気管支炎，咳嗽，鼻出血
眼　眼痛 視覚障害（視野欠損，視力低下），霧視，複視，結膜炎
その他 低体温 血中ブドウ糖増加，背部痛，胸痛，浮腫 疲労，不正子宮出血，耳の障害（灼熱感，耳痛等），発熱
（表終了）

ゼビュディ点滴静注液500mg（500mg8mL1瓶）

内　注射　流通

【YJコード】62504A4A1023
【薬効分類】6．2．5　抗ウイルス剤
【一般名】ソトロビマブ（遺伝子組換え）
【メーカー】製）グラクソ・スミスクライン
【経過措置期限】2026/10/31

■効能効果・用法用量
【効能効果】SARS－CoV－2感染症
注意
1. 臨床試験の投与経験を踏まえ，SARS－CoV－2感染症重症化リスク因子を有し，酸素投与を要しない患者に投与。
2. 他の抗SARS－CoV－2モノクローナル抗体が投与された高流量酸素・人工呼吸器管理を要する患者の症状悪化の報告あり。
3. 中和活性が低いSARS－CoV－2変異株への有効性が期待できない可能性，最新のガイドライン等を参考に，投与の適切性を検討。
【用法用量】成人・12歳以上かつ体重40kg以上の小児　500mg　単回　点滴静注。
注意
SARS－CoV－2による感染症の発症後速やかに投与。発症から1週間程度を目安に投与。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に重篤な過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 重篤な過敏症（頻度不明）（アナフィラキシー含む）。
2. infusion　reaction（頻度不明）（発熱，呼吸困難，酸素飽和度低下，悪寒，嘔気，不整脈，胸痛，胸部不快感，脱力感，精神状態変化，頭痛，気管支痙攣，低血圧，高血圧，咽頭炎，蕁麻疹，掻痒，筋痛，眩暈等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%未満
過敏症 発疹，皮膚反応
胃腸障害 悪心
一般・全身障害・投与部位の状態 注入部位疼痛，疼痛
臨床検査 血中重炭酸塩減少，C－反応性蛋白増加，AST増加，AI－P増加，γ－GTP増加，酸素飽和度低下
神経系障害 頭痛，味覚不全
精神障害 不眠症
（表終了）

ゾコーバ錠125mg（125mg1錠）

両　内服　流通
劇

【YJコード】6250052F1023
【薬効分類】6．2．5　抗ウイルス剤
【一般名】エンシトレルビル　フマル酸
【メーカー】製）塩野義製薬
【薬価】7090円/1T
【薬価収載日】2023/03/15
【標榜薬効】抗SARS－CoV－2剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】SARS－CoV－2感染症
注意
1. 投与対象は最新のガイドラインを参考。
2. 臨床成績の項を熟知し，有効性・安全性を理解した上で，本剤の必要性を検討。
3. 重症度の高いSARS－CoV－2感染症の有効性は未検討。
【用法用量】12歳以上の小児・成人　1日目　1回375mg，2～5日目　1回125mg　1日1回　内服。
注意
SARS－CoV－2の感染症が発現して72時間以内に投与開始。臨床試験では，症状発現から72時間経過後に開始で有効性データなし。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 下記の投与患者
ピモジド，キニジン硫酸塩水和物，ベプリジル塩酸塩水和物，チカグレロル，エプレレノン，エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン，エルゴメトリンマレイン酸塩，メチルエルゴメトリンマレイン酸塩，ジヒドロエルゴタミンメシル酸塩，シンバスタチン，トリアゾラム，アナモレリン塩酸塩，イバブラジン塩酸塩，ベネトクラクス（再発・難治性の慢性リンパ性白血病（小リンパ球性リンパ腫含む）用量漸増期），イブルチニブ，ブロナンセリン，ルラシドン塩酸塩，アゼルニジピン，アゼルニジピン・オルメサルタン　メドキソミル，スボレキサント，タダラフィル（アドシルカ），バルデナフィル塩酸塩水和物，ロミタピドメシル酸塩，リファブチン，フィネレノン，リバーロキサバン，リオシグアト，アパルタミド，カルバマゼピン，エンザルタミド，ミトタン，フェニトイン，ホスフェニトインナトリウム水和物，リファンピシン，セイヨウオトギリソウ含有食品。
3. 腎機能・肝機能障害のあるコルヒチンの投与患者。
4. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
過敏症　発疹 掻痒
消化器　悪心，嘔吐，下痢，腹部不快感

6 病原生物に対する医薬品

精神神経系　頭痛
代謝　脂質異常症
その他 HDLコレステロール低下（16．6%）トリグリセリド上昇，ビリルビン上昇，血中コレステロール低下 血清鉄上昇
（表終了）

ゾフルーザ錠20mg（20mg1錠）

両　内服　流通

【YJコード】6250047F2029
【薬効分類】6．2．5　抗ウイルス剤
【一般名】バロキサビル　マルボキシル
【メーカー】製)塩野義製薬
【薬価】2438.8円/1T
【薬価収載日】2018/03/14
【標榜薬効】抗インフルエンザウイルス剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】A型・B型インフルエンザウイルス感染症の治療・その予防
注意
効能共通
1．細菌感染症には効果なし。
2．小児では，低年齢になるほど低感受性株の出現頻度が高くなる傾向あり，学会等から提唱されている最新のガイドライン等を参照し，検討。
治療
3．抗ウイルス薬の投与がA型・B型インフルエンザウイルス感染症の全ての患者に必須ではない。本剤の必要性を検討。
予防
4．インフルエンザウイルス感染症を発症している患者の同居家族・共同生活者でインフルエンザウイルス感染症罹患時に，重症化のリスクが高い者※が対象。
※高齢者（65歳以上），慢性呼吸器疾患・慢性心疾患患者，代謝性疾患患者（糖尿病等）等
5．小児は，流行ウイルスの薬剤耐性情報に注意し，他の抗インフルエンザウイルス薬を考慮し，検討。
6．B型インフルエンザウイルス感染症の予防投与について，有効性を示すデータは限られていることを考慮し，投与を検討。
【用法用量】下記を単回投与。
（表開始）
効能・効果 年齢 体重（kg） 用量（バロキサビル　マルボキシル）
治療 成人・12歳以上の小児 80以上 20mg錠4錠又は顆粒8包（80mg）
治療 成人・12歳以上の小児 80未満 20mg錠2錠又は顆粒4包（40mg）
治療 12歳未満の小児 40以上 20mg錠2錠又は顆粒4包（40mg）
治療 12歳未満の小児 20～40未満 20mg錠1錠又は顆粒2包（20mg）
予防 成人・12歳以上の小児 80以上 20mg錠4錠又は顆粒8包（80mg）
予防 成人・12歳以上の小児 80未満 20mg錠2錠又は顆粒4包（40mg）
予防 12歳未満の小児 40以上 20mg錠2錠又は顆粒4包（40mg）
予防 12歳未満の小児 20～40未満 20mg錠1錠又は顆粒2包（20mg）
（表終了）
注意
効能共通
1．10mg錠と20mg錠又は顆粒2%分包の生物学的同等性は示されていないため，10mgを投与時は顆粒2%分包を使用しない。20mg以上を投与時は，10mg錠を使用しない。
治療
2．症状発現後，速やかに開始。症状発現から48時間経過後の開始で有効性データなし。
予防
3．インフルエンザウイルス感染症患者に接触後2日以内に投与を開始。接触後48時間経過後の開始で有効性データなし。
4．服用日から10日を超えた期間のインフルエンザウイルス感染症への予防効果は未確認。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（頻度不明）。
2．異常行動（頻度不明）（急に走り出す，徘徊する等）。
3．虚血性大腸炎（頻度不明）（腹痛，下痢，血便等）。
4．出血（頻度不明）（血便，鼻出血，血尿等）。

タミフルドライシロップ3%（3%1g）

両　内服　流通

【YJコード】6250021R1024
【薬効分類】6．2．5　抗ウイルス剤
【一般名】オセルタミビルリン酸塩
【メーカー】製)中外製薬
【薬価】120.3円/1g
【薬価収載日】2002/04/26
【標榜薬効】抗インフルエンザウイルス剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】A型・B型インフルエンザウイルス感染症・その予防
注意
治療
1．A型・B型インフルエンザウイルス感染症のみが対象だが，抗ウイルス薬の投与がA型・B型インフルエンザウイルス感染症の全ての患者に必須ではない。本剤の必要性を検討。幼児・高齢者に比べ，その他の年代ではインフルエンザによる死亡率が低いことを考慮。
予防
2．インフルエンザウイルス感染症を発症している患者の同居家族・共同生活者である下記を対象。
・高齢者（65歳以上）
・慢性呼吸器疾患又は慢性心疾患
・代謝性疾患（糖尿病等）
・腎機能障害
効能共通
3．A型・B型インフルエンザウイルス感染症以外の感染症には効果なし。
4．細菌感染症には効果なし。
【用法用量】治療
成人
1回75mg　1日2回　5日間　内服（用時懸濁）。
小児
下記1回量　1日2回　5日間　内服（用時懸濁）。1回最高75mg。
幼・小児　2mg／kg（本剤　66．7mg／kg）。
新生児，乳児　3mg／kg（本剤　100mg／kg）。
予防
成人
1回75mg　1日1回　7～10日間　内服（用時懸濁）。
小児
下記1回量　1日1回　10日間　内服（用時懸濁）。1回最高75mg。
幼・小児　2mg／kg（本剤　66．7mg／kg）。
注意
治療
1．インフルエンザ様症状の発現から2日以内に投与開始。発症から48時間経過後の開始で有効性データなし。
予防
2．インフルエンザウイルス感染症患者に接触後2日以内に投与を開始。接触後48時間経過後の開始で有効性データなし。
3．インフルエンザウイルス感染症への予防効果は，連続して服用している期間のみ持続。
効能共通
4．成人の腎機能障害 血漿中濃度が増加。
下記投与法を目安（外国）。
（表開始）
クレアチニンクリアランス（mL／分） 治療 予防
Ccr＞30 1回75mg　1日2回 1回75mg　1日1回
10＜Ccr≦30 1回75mg　1日1回 1回75mg　隔日又は1回30mg 1日1回
Ccr≦10 推奨量は未確立 推奨量は未確立
（表終了）
Ccr クレアチニンクリアランス
（参考）幼・小児のクリアランス能を考慮し，下記体重群別固定用量を使用（外国）。
（表開始）
体重（kg） 1回固定量（mg）（注）
15以下 30
15を超え23以下 45
23を超え40以下 60
40を超える 75
（表終了）
（注）用量（mg）はオセルタミビルとして治療に使用時は1日2回，予防に使用時は1日1回。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（頻度不明）（蕁麻疹，顔面・喉頭浮腫，呼吸困難，血圧低下等）。
2．肺炎（頻度不明）。
3．劇症肝炎（重篤な肝炎），肝機能障害（AST，ALT，γ－GTP，AI－Pの著しい上昇等），黄疸（頻度不明）。
4．皮膚粘膜眼症候群，中毒性表皮壊死融解症（頻度不明）。
5．急性腎障害（頻度不明）。
6．白血球減少，血小板減少（頻度不明）。
7．精神神経症状（意識障害，せん妄，幻覚，妄想，痙攣等），異常行動（頻度不明）（急に走り出す，徘徊する等）。
8．出血性大腸炎，虚血性大腸炎（頻度不明）（血便，血性下痢等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1%以上 0．1%未満 頻度不明
皮膚 発疹（0．8%），紅斑（多形紅斑含む） 蕁麻疹，掻痒症 皮下出血
消化器 下痢（2．8%），嘔吐（2．0%），腹痛，悪心 口内炎（潰瘍性含

6 病原生物に対する医薬品

む)，便異常 口唇炎，血便，メレナ，吐血，消化性潰瘍，腹部膨満，口腔内不快感，食欲不振
精神神経系　激越，嗜眠，傾眠，振戦 眩暈，頭痛，不眠症，感覚鈍麻，悪夢
循環器　上室性頻脈，心室性期外収縮，心電図異常(ST上昇)，動悸
肝臓 ALT増加，AST増加　γ－GTP増加，AI－P増加
腎臓　血尿，蛋白尿
血液　好酸球数増加
呼吸器 鼻出血，気管支炎　咳嗽
眼　結膜炎 視覚障害(視野欠損，視力低下)，霧視，複視，眼痛
その他 低体温(0．8%) 発熱 疲労，不正子宮出血，耳の障害(灼熱感，耳痛等)，浮腫，血中ブドウ糖増加，背部痛，胸痛
(表終了)

パキロビッドパック300（1シート）

両　内服　流通
劇

【YJコード】6250120X1027
【薬効分類】6．2．5　抗ウイルス剤
【一般名】ニルマトレルビル・リトナビル
【メーカー】製)ファイザー
【薬価】12538.6円/1シート
【薬価収載日】2023/03/15
【標榜薬効】抗ウイルス剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】SARS－CoV－2感染症
注意
1．臨床試験の投与経験を踏まえ，SARS－CoV－2感染症重症化リスク因子を有する等，投与が必要な患者に投与。投与対象は最新のガイドラインも参考。
2．重症度の高いSARS－CoV－2感染症への有効性は未確立。
【用法用量】成人・12歳以上で体重40kg以上の小児　1回ニルマトレルビル300mg，1回リトナビル100mg　同時に　1日2回　5日間　内服。
注意
1．SARS－CoV－2感染症の発現から速やかに投与開始。臨床試験では，発症から6日目以降に投与開始した有効性データなし。
2．中等度の腎機能障害患者(eGFR[推算糸球体ろ過量]30～60mL／分未満) 1回ニルマトレルビル150mg・1回リトナビル100mgを同時に1日2回，5日間内服。重度の腎機能障害患者(eGFR30mL／分未満)には推奨しない。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．下記の投与患者
エレトリプタン臭化水素酸塩，アゼルニジピン，オルメサルタン　メドキソミル・アゼルニジピン，エプレレノン，アミオダロン塩酸塩，ベプリジル塩酸塩水和物，フレカイニド酢酸塩，プロパフェノン塩酸塩，キニジン硫酸塩水和物，リバーロキサバン，チカグレロル，アナモレリン塩酸塩，リファブチン，ブロナンセリン，ルラシドン塩酸塩，ピモジド，スボレキサント，エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン，エルゴメトリンマレイン酸塩，ジヒドロエルゴタミンメシル酸塩，メチルエルゴメトリンマレイン酸塩，フィネレノン，イバブラジン塩酸塩，シルデナフィルクエン酸塩(レバチオ)，タダラフィル(アドシルカ)，バルデナフィル塩酸塩水和物，ロミタピドメシル酸塩，ベネトクラクス(再発・難治性の慢性リンパ性白血病(小リンパ球性リンパ腫含む)用量漸増期)，ジアゼパム，クロラゼプ酸ニカリウム，エスタゾラム，フルラゼパム塩酸塩，トリアゾラム，ミダゾラム，ボリコナゾール，アパルタミド，カルバマゼピン，フェニトイン，ホスフェニトインナトリウム水和物，フェノバルビタール，メペンゾラート臭化物・フェノバルビタール，リファンピシン，セイヨウオトギリソウ含有食品。
3．腎機能・肝機能障害のあるコルヒチンの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．肝機能障害(頻度不明)。
2．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群(各頻度不明)。
3．アナフィラキシー(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
過敏症　蕁麻疹，掻痒症，紅斑，咽喉絞扼感，血管性浮腫
神経系障害 味覚不全 浮動性眩暈，頭痛
血管障害　高血圧
胃腸障害 下痢・軟便 悪心，嘔吐，消化不良，胃食道逆流性疾患 腹痛
肝胆道系障害　ALT上昇，AST上昇
皮膚・皮下組織障害　発疹
筋骨格系・結合組織障害　筋肉痛
一般・全身障害・投与部位の状態　倦怠感
(表終了)

パキロビッドパック600（1シート）

両　内服　流通
劇

【YJコード】6250120X2023
【薬効分類】6．2．5　抗ウイルス剤
【一般名】ニルマトレルビル・リトナビル
【メーカー】製)ファイザー
【薬価】19805.5円/1シート
【薬価収載日】2023/03/15
【標榜薬効】抗ウイルス剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】SARS－CoV－2感染症
注意
1．臨床試験の投与経験を踏まえ，SARS－CoV－2感染症重症化リスク因子を有する等，投与が必要な患者に投与。投与対象は最新のガイドラインも参考。
2．重症度の高いSARS－CoV－2感染症への有効性は未確立。
【用法用量】成人・12歳以上で体重40kg以上の小児　1回ニルマトレルビル300mg，1回リトナビル100mg　同時に　1日2回　5日間　内服。
注意
1．SARS－CoV－2感染症の発現から速やかに投与開始。臨床試験では，発症から6日目以降に投与開始した有効性データなし。
2．中等度の腎機能障害患者(eGFR[推算糸球体ろ過量]30～60mL／分未満) 1回ニルマトレルビル150mg・1回リトナビル100mgを同時に1日2回，5日間内服。重度の腎機能障害患者(eGFR30mL／分未満)には推奨しない。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分に過敏症の既往。
2．下記の投与患者
エレトリプタン臭化水素酸塩，アゼルニジピン，オルメサルタン　メドキソミル・アゼルニジピン，エプレレノン，アミオダロン塩酸塩，ベプリジル塩酸塩水和物，フレカイニド酢酸塩，プロパフェノン塩酸塩，キニジン硫酸塩水和物，リバーロキサバン，チカグレロル，アナモレリン塩酸塩，リファブチン，ブロナンセリン，ルラシドン塩酸塩，ピモジド，スボレキサント，エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン，エルゴメトリンマレイン酸塩，ジヒドロエルゴタミンメシル酸塩，メチルエルゴメトリンマレイン酸塩，フィネレノン，イバブラジン塩酸塩，シルデナフィルクエン酸塩(レバチオ)，タダラフィル(アドシルカ)，バルデナフィル塩酸塩水和物，ロミタピドメシル酸塩，ベネトクラクス(再発・難治性の慢性リンパ性白血病(小リンパ球性リンパ腫含む)用量漸増期)，ジアゼパム，クロラゼプ酸ニカリウム，エスタゾラム，フルラゼパム塩酸塩，トリアゾラム，ミダゾラム，ボリコナゾール，アパルタミド，カルバマゼピン，フェニトイン，ホスフェニトインナトリウム水和物，フェノバルビタール，メペンゾラート臭化物・フェノバルビタール，リファンピシン，セイヨウオトギリソウ含有食品。
3．腎機能・肝機能障害のあるコルヒチンの投与患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．肝機能障害(頻度不明)。
2．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群(各頻度不明)。
3．アナフィラキシー(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 1%未満 頻度不明
過敏症　蕁麻疹，掻痒症，紅斑，咽喉絞扼感，血管性浮腫
神経系障害 味覚不全 浮動性眩暈，頭痛
血管障害　高血圧
胃腸障害 下痢・軟便 悪心，嘔吐，消化不良，胃食道逆流性疾患 腹痛
肝胆道系障害　ALT上昇，AST上昇
皮膚・皮下組織障害　発疹
筋骨格系・結合組織障害　筋肉痛
一般・全身障害・投与部位の状態　倦怠感
(表終了)

バラシクロビル顆粒50%「SPKK」（50% 1g）

両　内服　後発　流通

【YJコード】6250019D1089
【薬効分類】6．2．5　抗ウイルス剤
【一般名】バラシクロビル塩酸塩
【先発品】バルトレックス顆粒50%
【メーカー】製)サンドファーマ　販)サンド
【薬価】82.7円/1g
【薬価収載日】2021/12/10
【標榜薬効】抗ウイルス化学療法剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○単純疱疹
○造血幹細胞移植の単純ヘルペスウイルス感染症(単純疱疹)の発症抑制
○帯状疱疹
○水痘
○性器ヘルペスの再発抑制

6 病原生物に対する医薬品

注意
性器ヘルペスの再発抑制
1. セックスパートナーへの感染抑制あり。ただし，セックスパートナーへの感染リスクあり，コンドームの使用等を推奨。
2. 性器ヘルペスの発症を繰り返す患者（免疫正常患者は，年6回以上の頻度で再発する者）に投与。
【用法用量】成人
単純疱疹
1回バラシクロビル500mg 1日2回 内服。
造血幹細胞移植の単純ヘルペスウイルス感染症（単純疱疹）の発症抑制
1回バラシクロビル500mg 1日2回 造血幹細胞移植施行7日前より施行後35日まで 内服。
帯状疱疹
1回バラシクロビル1000mg 1日3回 内服。
水痘
1回バラシクロビル1000mg 1日3回 内服。
性器ヘルペスの再発抑制
1回バラシクロビル500mg 1日1回 内服。
HIV感染症（CD4リンパ球数100／mm3以上） 1回バラシクロビル500mg 1日2回 内服。
小児
単純疱疹
体重10kg未満 1回バラシクロビル25mg／kg 1日3回 内服。
体重10kg以上 1回バラシクロビル25mg／kg 1日2回 内服。1回最高500mg。
造血幹細胞移植の単純ヘルペスウイルス感染症（単純疱疹）の発症抑制
体重10kg未満 1回バラシクロビル25mg／kg 1日3回 内服。
体重10kg以上 1回バラシクロビル25mg／kg 1日2回 造血幹細胞移植施行7日前より施行後35日まで 内服。1回最高500mg。
帯状疱疹
1回バラシクロビル25mg／kg 1日3回 内服。1回最高1000mg。
水痘
1回バラシクロビル25mg／kg 1日3回 内服。1回最高1000mg。
性器ヘルペスの再発抑制
体重40kg以上 1回バラシクロビル500mg 1日1回 内服。HIV感染症（CD4リンパ球数100／mm3以上） 1回バラシクロビル500mg 1日2回 内服。
注意
効能共通
1. 早期に投与開始。
2. 腎障害 成人のクレアチニンクリアランスによる投与間隔・投与量の目安は下表の通り。血液透析患者では，腎機能，体重，臨床症状に応じ，クレアチニンクリアランス10mL／分未満の目安よりさらに減量（250mgを24時間ごと等）を考慮。血液透析日には透析後に投与。小児の投与間隔，投与量調節の目安は未確立。
（表開始）
クレアチニンクリアランス（mL／分） ≧50 30～49 10～29 ＜10
単純疱疹 造血幹細胞移植の単純ヘルペスウイルス感染症（単純疱疹）の発症抑制 500mgを12時間ごと 500mgを12時間ごと 500mgを24時間ごと 500mgを24時間ごと
帯状疱疹 水痘 1000mgを8時間ごと 1000mgを12時間ごと 1000mgを24時間ごと 500mgを24時間ごと
性器ヘルペスの再発抑制 500mgを24時間ごと HIV感染症（CD4リンパ球数100／mm3以上）には，500mgを12時間ごと 500mgを24時間ごと HIV感染症（CD4リンパ球数100／mm3以上）には，500mgを12時間ごと 250mgを24時間ごと HIV感染症（CD4リンパ球数100／mm3以上）には，500mgを24時間ごと 250mgを24時間ごと HIV感染症（CD4リンパ球数100／mm3以上）には，500mgを24時間ごと
（表終了）
単純疱疹
3. 5日間使用し，改善がないか悪化時は，他の治療に切りかえる。初発型性器ヘルペスは重症化の可能性，10日間まで使用可能。
帯状疱疹
4. 皮疹出現後5日以内に投与開始。
5. 7日間使用し，改善がないか悪化時は，他の治療に切りかえる。
水痘
6. 皮疹出現後2日以内に投与開始。
7. 成人は5～7日間，小児は5日間使用し，改善がないか悪化時は，他の治療に切りかえる。
性器ヘルペスの再発抑制
8. 免疫正常患者 性器ヘルペスの再発抑制に使用時，再発があれば，1回500mg1日1回（性器ヘルペスの再発抑制への用法・用量）から1回500mg1日2回（単純疱疹の治療への用法・用量）に変更。治癒後，必要時1回500mg1日1回（性器ヘルペスの再発抑制への用法・用量）の再開を考慮。頻回に再発を繰り返す時，1回250mg1日2回，又は1回1000mg1日1回に変更を考慮。
9. 1年間投与後，投与継続の必要性を検討。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・アシクロビルに過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. アナフィラキシーショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，血管性浮腫等）。
2. 汎血球減少（0. 73%），無顆粒球症（0. 24%），血小板減少（0. 36%），DIC（頻度不明），血小板減少性紫斑病（頻度不明）。
3. 急性腎障害（0. 12%），尿細管間質性腎炎（頻度不明）。
4. 精神神経症状（1. 09%）（意識障害（昏睡），せん妄，妄想，幻覚，錯乱，痙攣，てんかん発作，麻痺，脳症等）。
5. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（各頻度不明）。
6. 呼吸抑制，無呼吸（各頻度不明）。
7. 間質性肺炎（頻度不明）。
8. 肝炎，肝機能障害，黄疸（各頻度不明）。
9. 急性膵炎（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0. 5%以上 0. 5%未満 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹，掻痒，光線過敏症
肝臓 肝機能検査値の上昇
消化器 腹痛，下痢，腹部不快感，嘔気 嘔吐
精神神経系 頭痛 眩暈 意識低下
腎臓・泌尿器 腎障害 排尿困難 尿閉
（表終了）

バラシクロビル錠500mg「SPKK」（500mg1錠）

両 内服 後発 流通

【YJコード】6250019F1365
【薬効分類】6. 2. 5 抗ウイルス剤
【一般名】バラシクロビル塩酸塩
【先発品】バラシクロビル錠500mg「日本臓器」，バルトレックス錠500
【メーカー】製）サンドファーマ 販）サンド
【薬価】67.5円／1T
【薬価収載日】2021/12/10
【標榜薬効】抗ウイルス化学療法剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇単純疱疹
〇造血幹細胞移植の単純ヘルペスウイルス感染症（単純疱疹）の発症抑制
〇帯状疱疹
〇水痘
〇性器ヘルペスの再発抑制
注意
性器ヘルペスの再発抑制
1. セックスパートナーへの感染抑制あり。ただし，セックスパートナーへの感染リスクあり，コンドームの使用等を推奨。
2. 性器ヘルペスの発症を繰り返す患者（免疫正常患者は，年6回以上の頻度で再発する者）に投与。
【用法用量】成人
単純疱疹
1回500mg 1日2回 内服。
造血幹細胞移植の単純ヘルペスウイルス感染症（単純疱疹）の発症抑制
1回500mg 1日2回 造血幹細胞移植施行7日前より施行後35日まで 内服。
帯状疱疹
1回1000mg 1日3回 内服。
水痘
1回1000mg 1日3回 内服。
性器ヘルペスの再発抑制
1回500mg 1日1回 内服。HIV感染症（CD4リンパ球数100／mm3以上） 1回500mg 1日2回 内服。
小児
単純疱疹
体重40kg以上 1回500mg 1日2回 内服。
造血幹細胞移植の単純ヘルペスウイルス感染症（単純疱疹）の発症抑制
体重40kg以上 1回500mg 1日2回 造血幹細胞移植施行7日前より施行後35日まで 内服。
帯状疱疹
体重40kg以上 1回1000mg 1日3回 内服。
水痘
体重40kg以上 1回1000mg 1日3回 内服。
性器ヘルペスの再発抑制
体重40kg以上 1回500mg 1日1回 内服。HIV感染症（CD4リンパ球数100／mm3以上） 1回500mg 1日2回 内服。
注意
効能共通
1. 発病初期に近いほど効果が期待できるので，早期に投与開始。
2. 腎障害 成人のクレアチニンクリアランスによる投与間隔・投与量の目安は下表の通り。血液透析患者では，腎機能，体重，臨床症状に応じ，クレアチニンクリアランス10mL／分未満の目安よりさらに減量（250mgを24時間ごと等）を考慮。血液透析日には透析後に投与。小児の投与間隔，投与量調節の目安は未確立。
（表開始）
クレアチニンクリアランス（mL／分） ≧50 30～49 10～29 ＜10
単純疱疹 造血幹細胞移植の単純ヘルペスウイルス感染症（単純疱疹）の発症抑制 500mgを12時間ごと 500mgを12時間ごと 500mgを24時間ごと 500mgを24時間ごと
帯状疱疹 水痘 1000mgを8時間ごと 1000mgを12時間ごと 1000

6 病原生物に対する医薬品

mgを24時間ごと 500mgを24時間ごと
性器ヘルペスの再発抑制 500mgを24時間ごと HIV感染症(CD4リンパ球数100／mm3以上)には，500mgを12時間ごと 500mgを24時間ごと HIV感染症(CD4リンパ球数100／mm3以上)には，500mgを12時間ごと 250mgを24時間ごと HIV感染症(CD4リンパ球数100／mm3以上)には，500mgを24時間ごと 250mgを24時間ごと HIV感染症(CD4リンパ球数100／mm3以上)には，500mgを24時間ごと
(表終了)
単純疱疹
3. 5日間使用し，改善がないか悪化時は，他の治療に切りかえる。初発型性器ヘルペスは重症化の可能性，10日間まで使用可能。
帯状疱疹
4. 皮疹出現後5日以内に投与開始。
5. 7日間使用し，改善がないか悪化時は，他の治療に切りかえる。
水痘
6. 皮疹出現後2日以内に投与開始。
7. 成人は5～7日間，小児は5日間使用し，改善がないか悪化時は，他の治療に切りかえる。
性器ヘルペスの再発抑制
8. 免疫正常患者 性器ヘルペスの再発抑制に本剤を使用時に，再発が認められた時は，1回500mg1日1回投与(性器ヘルペスの再発抑制への用法・用量)から1回500mg1日2回投与(単純疱疹の治療への用法・用量)に変更。治癒後，必要に応じ1回500mg1日1回投与(性器ヘルペスの再発抑制への用法・用量)の再開を考慮。頻回に再発を繰り返す時，1回250mg1日2回，又は1回1000mg1日1回投与に変更を考慮。
9. 1年間投与後，投与継続の必要性を検討。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・アシクロビルに過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. アナフィラキシーショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(呼吸困難，血管性浮腫等)。
2. 汎血球減少(0. 73%)，無顆粒球症(0. 24%)，血小板減少(0. 36%)，DIC(頻度不明)，血小板減少性紫斑病(頻度不明)。
3. 急性腎障害(0. 12%)，尿細管間質性腎炎(頻度不明)。
4. 精神神経症状(1. 09%)(意識障害(昏睡)，せん妄，妄想，幻覚，錯乱，痙攣，てんかん発作，麻痺，脳症等)。
5. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群(各頻度不明)。
6. 呼吸抑制，無呼吸(各頻度不明)。
7. 間質性肺炎(頻度不明)。
8. 肝炎，肝機能障害，黄疸(各頻度不明)。
9. 急性膵炎(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 5%以上 0. 5%未満 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹，掻痒，光線過敏症
肝臓 肝機能検査値の上昇
消化器 腹痛，下痢，腹部不快感，嘔気 嘔吐
精神神経系 頭痛 眩暈 意識低下
腎臓・泌尿器 腎障害 排尿困難 尿閉
(表終了)

ベクルリー点滴静注用100mg（100mg1瓶）

内 注射 流通

【YJコード】6250407D1020
【薬効分類】6. 2. 5 抗ウイルス剤
【一般名】レムデシビル
【メーカー】製)ギリアド・サイエンシズ
【薬価】46498円/1V
【薬価収載日】2021/08/12
【標榜薬効】抗ウイルス剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】SARS－CoV－2感染症
注意
臨床試験等の投与経験を踏まえ，下記を対象に投与。投与対象は最新のガイドラインも参考。
1. 酸素投与を要さず，SARS－CoV－2感染症重症化リスク因子を有する等，投与が必要な患者。
2. SARS－CoV－2の肺炎。
【用法用量】成人・体重40kg以上の小児 初日 1回200mg 1日1回，2日目以降 1回100mg 1日1回 点滴静注。
体重3. 5～40kg未満の小児 初日 1回5mg／kg 1日1回，2日目以降 1回2. 5mg／kg 1日1回 点滴静注。
総投与期間は10日まで。
注意
1. 生食に添加し，30～120分かけて点滴静注。
2. SARS－CoV－2による感染症の発症後速やかに投与開始し，3日目まで投与。SARS－CoV－2による肺炎では，5日目まで投与し，症状の改善がなければ10日目まで投与。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 肝機能障害(ALT上昇，肝機能障害の徴候，検査値異常(抱合型ビリルビン，AI－P・INRの異常))。
2. 過敏症(infusion reaction，アナフィラキシー含む)(低血圧，血圧上昇，頻脈，徐脈，低酸素症，発熱，呼吸困難，喘鳴，血管性浮腫，発疹，悪心，嘔吐，発汗，悪寒等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～4%未満 0. 1～1%未満 頻度不明
血液・リンパ系障害 貧血
心臓障害 徐脈
胃腸障害 悪心 嘔吐，便秘，下痢
一般・全身障害・投与部位の状態 注入部位疼痛，疲労，発熱，悪寒
肝胆道系障害 高トランスアミナーゼ血症，高ビリルビン血症
臨床検査 ALT増加，AST増加 プロトロンビン時間延長，肝酵素上昇，肝機能検査値上昇，糸球体濾過率減少，血中クレアチニン増加，血中ビリルビン増加，トランスアミナーゼ上昇，ヘモグロビン減少
代謝・栄養障害 高トリグリセリド血症
筋骨格系・結合組織障害 関節痛
神経系障害 頭痛，浮動性眩暈
精神障害 不眠症
皮膚・皮下組織障害 発疹，掻痒症，斑状皮疹
血管障害 静脈炎
(表終了)

ラゲブリオカプセル200mg（200mg1カプセル）

両 内服 流通
劇

【YJコード】6250051M1028
【薬効分類】6. 2. 5 抗ウイルス剤
【一般名】モルヌピラビル
【メーカー】製)MSD
【薬価】2164.9円/1C
【薬価収載日】2022/08/18
【標榜薬効】抗ウイルス剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】SARS－CoV－2感染症
注意
1. 臨床試験の投与経験を踏まえ，SARS－CoV－2感染症重症化リスク因子を有する等，投与が必要な患者に投与。投与対象は最新のガイドラインも参考。
2. 重症度の高いSARS－CoV－2感染症への有効性は未確立。
【用法用量】18歳以上 1回800mg 1日2回 5日間 内服。
注意
SARS－CoV－2感染症の発現から速やかに投与開始。臨床試験では，発症から6日目以降に投与開始した有効性データなし。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
アナフィラキシー(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～2%未満 1%未満 頻度不明
胃腸障害 下痢，悪心 嘔吐
神経系障害 浮動性眩暈 頭痛
皮膚・皮下組織障害 発疹，蕁麻疹 中毒性皮疹，紅斑，掻痒
過敏症 血管性浮腫
(表終了)

ラピアクタ点滴静注液バイアル150mg（150mg15mL1瓶）

両 注射 流通

【YJコード】6250405A1032
【薬効分類】6. 2. 5 抗ウイルス剤
【一般名】ペラミビル水和物
【メーカー】製)塩野義製薬
【薬価】3182円/1V
【薬価収載日】2012/06/22
【標榜薬効】抗インフルエンザウイルス剤

6 病原生物に対する医薬品

■効能効果・用法用量
【効能効果】A型・B型インフルエンザウイルス感染症
注意
1. 抗ウイルス薬の投与がA型・B型インフルエンザウイルス感染症の全ての患者に必須ではない。本剤の必要性を検討。
2. 本剤は点滴用製剤で，経口剤や吸入剤等の他の抗インフルエンザウイルス薬の使用を考慮し，本剤投与の必要性を検討。
3. 流行ウイルスの薬剤耐性情報に注意し，本剤投与の適切性を検討。
4. C型インフルエンザウイルス感染症には効果なし。
5. 細菌感染症には効果なし。
【用法用量】成人
300mg 15分以上かけ 単回 点滴静注。
合併症等により重症化のおそれ 1回600mg 1日1回 15分以上かけ 単回 点滴静注，必要時 連日反復投与。
適宜減量。
小児
1回10mg／kg 1日1回 15分以上かけ 単回点滴静注，必要時 連日反復投与。1回600mgまで。
注意
1. 症状発現後，速やかに開始（症状発現から48時間経過後の開始で有効性データなし）。
2. 反復投与は，体温等の臨床症状から継続が必要な時に行い，漫然と投与継続しない。3日間以上反復投与した経験は限られている。
3. 腎機能障害 腎機能の低下に応じて，下表を目安に投与量を調節。反復投与時も，下表を目安。
（表開始）
Ccr（mL／分）1回量（mg）1回量（mg）
Ccr（mL／分）通常時 重症化のおそれ
50≦Ccr 300 600
30≦Ccr＜50 100 200
10※≦Ccr＜30 50 100
（表終了）
Ccr クレアチニンクリアランス
※ クレアチニンクリアランス10mL／分未満及び透析患者 慎重に投与量を調節の上投与。ペラミビルは血液透析により速やかに血漿中から除去。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（頻度不明）（血圧低下，顔面蒼白，冷汗，呼吸困難，蕁麻疹等）。
2. 白血球減少，好中球減少（1～5%未満）。
3. 劇症肝炎，肝機能障害（AST，ALT，γ－GTP，AI－Pの著しい上昇等），黄疸（頻度不明）。
4. 急性腎障害（頻度不明）。
5. 精神神経症状（意識障害，せん妄，幻覚，妄想，痙攣等），異常行動（頻度不明）（急に走り出す，徘徊する等）。
6. 肺炎（頻度不明）。
7. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群（頻度不明）。
8. 血小板減少（頻度不明）。
9. 出血性大腸炎（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 0．5～1%未満 0．5%未満 頻度不明
皮膚 発疹 湿疹，蕁麻疹
消化器 下痢（6．3%），悪心，嘔吐 腹痛 食欲不振，腹部不快感，口内炎
肝臓 AST上昇，ALT上昇 LDH上昇，ビリルビン上昇，γ－GTP上昇 AI－P上昇
腎臓 蛋白尿，尿中β2ミクログロブリン上昇，NAG上昇 BUN上昇
血液 リンパ球増加 好酸球増加 血小板減少
精神神経系 眩暈，不眠
その他 血中ブドウ糖増加 尿中血陽性，CK上昇，尿糖 霧視 血管痛
（表終了）

ロナプリーブ点滴静注セット1332（1セット）

内 注射

【YJコード】62505A0A2020
【薬効分類】6．2．5 抗ウイルス剤
【一般名】カシリビマブ（遺伝子組換え）・イムデビマブ（遺伝子組換え）
【メーカー】製)中外製薬
【経過措置期限】2022/10/31

■効能効果・用法用量
【効能効果】SARS－CoV－2による感染症
注意
1. 臨床試験の投与経験を踏まえ，SARS－CoV－2の感染症重症化リスク因子を有し，酸素投与を要しない患者に投与。
2. 高流量酸素・人工呼吸器管理を要する患者の症状悪化の報告あり。
3. 中和活性が低いSARS－CoV－2変異株への有効性が期待できない可能性，投与の適切性を検討。
【用法用量】成人・12歳以上で体重40kg以上の小児 カシリビマブ（遺伝子組換え）・イムデビマブ（遺伝子組換え） それぞれ600mgを併用 単回 点滴静注。
注意
SARS－CoV－2による感染症の発症後速やかに投与。臨床試験で，発症から8日目以降の開始で有効性データなし。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に重篤な過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 重篤な過敏症（頻度不明）（アナフィラキシー含む）。
2. infusion reaction（0．2%）（発熱，呼吸困難，酸素飽和度低下，悪寒，嘔気，不整脈，胸痛，胸部不快感，脱力感，精神状態変化，頭痛，気管支痙攣，低血圧，高血圧，咽頭炎，蕁麻疹，掻痒，筋痛，眩暈等）。

6．2．9 その他の化学療法剤

サムチレール内用懸濁液15%（750mg5mL1包）

両 内服 流通

【YJコード】6290006S1027
【薬効分類】6．2．9 その他の化学療法剤
【一般名】アトバコン
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン
【薬価】1471.1円/1包
【薬価収載日】2012/04/17
【標榜薬効】ニューモシスチス肺炎治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】適応菌種
ニューモシスチス・イロベチー
適応症
〇ニューモシスチス肺炎
〇ニューモシスチス肺炎の発症抑制
注意
効能共通
1. 副作用によりスルファメトキサゾール・トリメトプリム配合剤（ST合剤）の使用が困難な時に使用。
2. 食後投与ができない患者では，代替治療を検討。
3. 投与開始時・投与中に下痢があれば，本剤の吸収が低下し，効果減弱の可能性。下痢があれば，代替治療を検討。
ニューモシスチス肺炎の治療
4. 重症のニューモシスチス肺炎（肺胞気・動脈血酸素分圧較差が45mmHgを超える）での使用成績は，検討されていない。他の治療法で効果が得られなかった重症のニューモシスチス肺炎の有効性を示すデータは限られている。
5. 他の真菌・細菌，マイコバクテリア・ウイルス疾患の治療に有効ではない。
ニューモシスチス肺炎の発症抑制
6. ニューモシスチス肺炎のリスク（CD4＋細胞数が目安として200／mm3未満，ニューモシスチス肺炎の既往がある等）を有する患者を対象。
【用法用量】ニューモシスチス肺炎の治療
成人 1回5mL（アトバコン 750mg） 1日2回 21日間 食後 内服。
ニューモシスチス肺炎の発症抑制
成人 1回10mL（アトバコン 1500mg） 1日1回 食後 内服。
注意
絶食下では吸収量が低下，食後に投与。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑（各頻度不明）。
2. 重度の肝機能障害（頻度不明）。
3. 無顆粒球症，白血球減少（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
血液 貧血
過敏症 血管性浮腫，気管支痙攣，咽喉絞扼感
精神神経系 頭痛，不眠症
消化器 悪心・嘔吐，下痢
その他 肝酵素上昇，低ナトリウム血症，アミラーゼ上昇，発疹，発熱
（表終了）

6 病原生物に対する医薬品

ダイフェン配合錠（1錠）

両 内服 流通

【YJコード】6290100F2107
【薬効分類】6．2．9 その他の化学療法剤
【一般名】スルファメトキサゾール・トリメトプリム
【メーカー】製)鶴原製薬 販)和薬
【薬価】15.1円/1T
【薬価収載日】2009/08/24
【標榜薬効】合成抗菌剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇一般感染症
適応菌種
腸球菌属，大腸菌，赤痢菌，チフス菌，パラチフス菌，シトロバクター属，クレブシエラ属，エンテロバクター属，プロテウス属，モルガネラ・モルガニー，プロビデンシア・レットゲリ，インフルエンザ菌
適応症
肺炎，慢性呼吸器病変の二次感染
複雑性膀胱炎，腎盂腎炎
感染性腸炎，腸チフス，パラチフス
〇ニューモシスチス肺炎の治療・発症抑制
適応菌種
ニューモシスチス・イロベチー
適応症
ニューモシスチス肺炎，ニューモシスチス肺炎の発症抑制
注意
効能共通
1．他剤耐性菌による上記で，他剤が無効又は使用できない時に投与。
感染性腸炎
2．「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
ニューモシスチス肺炎の発症抑制
3．ニューモシスチス肺炎の発症リスクを有する患者（免疫抑制剤の投与患者，免疫抑制状態の患者，ニューモシスチス肺炎の既往がある患者等）を対象。
【用法用量】一般感染症
成人 1日4錠（顆粒 4g） 1日2回 分割 内服。
適宜増減。
ニューモシスチス肺炎の治療・発症抑制
（1）．治療
成人 1日9～12錠（顆粒 9～12g） 1日3～4回 分割 内服。
小児 トリメトプリム 1日15～20mg／kg 1日3～4回 分割 内服。
適宜増減。
（2）．発症抑制
成人 1日1～2錠（顆粒 1～2g） 1日1回 連日又は週3日 内服。
小児 トリメトプリム 1日4～8mg／kg 1日2回 分割 連日又は週3日 内服。
注意
効能共通
1．腎障害 下表を目安に投与量を調節。
Ccrを指標とした用量調節の目安
（表開始）
Ccr（mL／分） 推奨量
30＜Ccr 通常量
15≦Ccr≦30 通常の1／2量
Ccr＜15 投与しない
（表終了）
Ccr クレアチニンクリアランス
ニューモシスチス肺炎
2．小児の用法・用量は，国内外の各種ガイドライン等，最新の情報を参考に投与。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分・サルファ剤に過敏症の既往。
2．妊婦・妊娠の可能性。
3．低出生体重児，新生児。
4．グルコース－6－リン酸脱水素酵素欠乏。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．再生不良性貧血，溶血性貧血，巨赤芽球性貧血，メトヘモグロビン血症，汎血球減少，無顆粒球症，血小板減少症（各頻度不明）。
2．血栓性血小板減少性紫斑病（血小板減少，溶血性貧血（破砕赤血球の出現），精神神経症状，発熱，腎機能障害），溶血性尿毒症症候群（各頻度不明）（血小板減少，溶血性貧血（破砕赤血球の出現），急性腎障害）。
3．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（不快感，口内異常感，喘鳴，眩暈，便意，耳鳴，発汗，浮腫等）。
4．中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群，多形紅斑（各頻度不明）。
5．薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
6．急性膵炎（頻度不明）。
7．偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎（頻度不明）（腹痛，頻回の下痢）。
8．重度の肝障害（頻度不明）。
9．急性腎障害，間質性腎炎（各頻度不明）。
10．無菌性髄膜炎，末梢神経炎（各頻度不明）。
11．間質性肺炎，PIE症候群（各頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等）。
12．低血糖発作（頻度不明）。
13．高カリウム血症，低ナトリウム血症（各頻度不明）。
14．横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等），急激な腎機能悪化，急性腎障害等。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
血液 顆粒球減少 血小板減少
過敏症 発疹，掻痒感 紅斑 水疱，蕁麻疹，光線過敏症
皮膚 皮膚血管炎（白血球破砕性血管炎，IgA血管炎等）
消化器 食欲不振，悪心・嘔吐，下痢，便秘，腹痛，胃不快感，舌炎，口角炎・口内炎 口渇 血便
肝臓 AST上昇，ALT上昇 黄疸，AI－P上昇
腎臓 腎障害（BUNの上昇，血尿等）
精神神経系 頭痛 眩暈・ふらふら感，しびれ感 ふるえ，脱力・倦怠感，うとうと状態
その他 発熱・熱感 血圧下降，胸内苦悶，発汗，血色素尿 関節痛，筋（肉）痛，ぶどう膜炎，血圧上昇，動悸，顔面潮紅，浮腫
（表終了）

フルコナゾールカプセル100mg「サワイ」（100mg1カプセル）

両 内服 流通

【YJコード】6290002M2131
【薬効分類】6．2．9 その他の化学療法剤
【一般名】フルコナゾール
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】150円/1C
【薬価収載日】2010/05/28
【標榜薬効】深在性真菌症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇カンジダ属，クリプトコッカス属による下記感染症
真菌血症，呼吸器真菌症，消化管真菌症，尿路真菌症，真菌髄膜炎
〇造血幹細胞移植患者の深在性真菌症の予防
〇カンジダ属による腟炎・外陰腟炎
【用法用量】（表開始）
成人 カンジダ症；フルコナゾール 1回50～100mg 1日1回 内服。
クリプトコッカス症；フルコナゾール 1回50～200mg 1日1回 内服。重症・難治性真菌感染症；1日400mgまで。造血幹細胞移植における深在性真菌症の予防；フルコナゾール 1回400mg 1日1回 内服。カンジダ属による腟炎・外陰腟炎；フルコナゾール 1回150mg 内服。
小児 カンジダ症；フルコナゾール 1回3mg／kg 1日1回 内服。クリプトコッカス症；フルコナゾール 1回3～6mg／kg 1日1回 内服。重症・難治性真菌感染症；1日12mg／kgまで。造血幹細胞移植における深在性真菌症の予防；フルコナゾール 1回12mg／kg 1日1回 内服。適宜減量。1日400mgまで。
新生児 生後14日まで フルコナゾール 小児と同量 72時間ごと 投与。生後15日以降 フルコナゾール 小児と同量 48時間ごと 投与。
（表終了）
注意
効能共通（カンジダ属による腟炎・外陰腟炎除く）
1．腎機能障害への用量調節の目安
腎機能障害 下記値を参考に用量を調節。
（表開始）
クレアチニンクリアランス（mL／分） 用量の目安
＞50 通常量
≦50（透析患者除く） 半量
透析患者 透析終了後に通常量
（表終了）
造血幹細胞移植への深在性真菌症の予防
2．好中球減少症が予想される数日前から開始。
3．好中球数が1000／mm3を超えてから7日間投与。
カンジダ属による腟炎・外陰腟炎
4．効果判定は投与後4～7日目を目安に行い，効果なければ，他剤を投与等の処置。

■禁忌

【禁忌】1．下記の投与患者
トリアゾラム，エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン，ジヒドロエルゴタミン，キニジン，ピモジド，アスナプレビル，ダクラタスビル・アスナプレビル・ベクラブビル，アゼルニジピン，オルメサルタン メドキソミル・アゼルニジピン，ロミタピド，ブロナンセリン，ルラシドン。
2．本剤に過敏症の既往。
3．妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

6 病原生物に対する医薬品

【副作用】重大な副作用
1. ショック(頻度不明), アナフィラキシー(頻度不明)(血管浮腫, 顔面浮腫, 掻痒等)。
2. 中毒性表皮壊死融解症(頻度不明), 皮膚粘膜眼症候群(頻度不明)。
3. 薬剤性過敏症症候群(頻度不明)(発疹, 発熱, 肝機能障害, リンパ節腫脹, 白血球増加, 好酸球増多, 異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状), ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
4. 無顆粒球症, 汎血球減少症, 血小板減少, 白血球減少, 貧血等の重篤な血液障害(頻度不明)。
5. 急性腎障害(頻度不明)等の重篤な腎障害。
6. 肝障害(頻度不明)(黄疸, 肝炎, 胆汁うっ滞性肝炎, 肝壊死, 肝不全等), 死亡。
7. 意識障害(頻度不明)(錯乱, 見当識障害等)。
8. 痙攣(頻度不明)等の神経障害。
9. 高カリウム血症(頻度不明)。
10. 心室頻拍(頻度不明)(Torsades de pointes含む), QT延長(頻度不明), 不整脈(頻度不明), 心室細動, 房室ブロック, 徐脈等。
11. 間質性肺炎(頻度不明)(発熱, 咳嗽, 呼吸困難, 肺音の異常(捻髪音)等)。
12. 偽膜性大腸炎(頻度不明)等の重篤な大腸炎(発熱, 腹痛, 頻回の下痢)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0. 1～1%未満 頻度不明
肝臓 AST, ALTの上昇 AI－P, LDH, ビリルビンの上昇 黄疸
皮膚 発疹 剥脱性皮膚炎
消化器 悪心, しゃっくり, 食欲不振, 下痢, 腹部不快感, 腹痛 口渇, 嘔吐, 消化不良, 鼓腸放屁
精神神経系 頭痛, 手指のこわばり 眩暈, 傾眠, 振戦
腎臓 BUN, クレアチニンの上昇, 乏尿
代謝異常 低カリウム血症 高コレステロール血症, 高トリグリセリド血症, 高血糖
血液 好酸球増多, 好中球減少
その他 浮腫, 発熱, 倦怠感 熱感, 脱毛, 味覚倒錯, 副腎機能不全
(表終了)

フルコナゾール静注液200mg「サワイ」(0. 2%100mL1瓶)

両 注射 後発 流通

【YJコード】6290401A3180
【薬効分類】6. 2. 9 その他の化学療法剤
【一般名】フルコナゾール
【メーカー】製)沢井製薬
【薬価】1687円/1V
【薬価収載日】2008/12/19
【標榜薬効】深在性真菌症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】カンジダ属, クリプトコッカス属による下記感染症
真菌血症, 呼吸器真菌症, 消化管真菌症, 尿路真菌症, 真菌髄膜炎
造血幹細胞移植患者の深在性真菌症の予防
【用法用量】(表開始)
成人 カンジダ症; フルコナゾール 1回50～100mg 1日1回 静注。クリプトコッカス症; フルコナゾール 1回50～200mg 1日1回 静注。重症・難治性真菌感染症; 1日400mgまで。造血幹細胞移植おける深在性真菌症の予防; フルコナゾール 1回400mg 1日1回 静注。
小児 カンジダ症; フルコナゾール 1回3mg／kg 1日1回 静注。クリプトコッカス症; フルコナゾール 1回3～6mg／kg 1日1回 静注。重症・難治性真菌感染症; 1日12mg／kgまで。造血幹細胞移植における深在性真菌症の予防; フルコナゾール 1回12mg／kg 1日1回 静注。適宜減量。1日400mgまで。
新生児 生後14日まで 小児と同量 72時間ごと 投与。生後15日以降 小児と同量 48時間ごと 投与。
(表終了)
注意
効能共通
1. 腎機能障害への用量調節の目安
腎機能障害 下記値を参考に用量を調節。
(表開始)
クレアチニンクリアランス(mL／分) 用量の目安
＞50 通常量
≦50(透析患者除く) 半量
透析患者 透析終了後に通常量
(表終了)
造血幹細胞移植への深在性真菌症の予防
2. 好中球減少症が予想される数日前から開始。
3. 好中球数が1000／mm3を超えてから7日間投与。

■禁忌

【禁忌】1. 下記の投与患者
トリアゾラム, エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン, ジヒドロエルゴタミン, キニジン, ピモジド, アスナプレビル, ダクラタスビル・アスナプレビル・ベクラブビル, アゼルニジピン, オルメサルタン メドキソミル・アゼルニジピン, ロミタピド, ブロナンセリン, ルラシドン。
2. 本剤に過敏症の既往。
3. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. ショック(頻度不明), アナフィラキシー(頻度不明)(血管浮腫, 顔面浮腫, 掻痒等)。
2. 中毒性表皮壊死融解症(頻度不明), 皮膚粘膜眼症候群(0. 04%)。
3. 薬剤性過敏症症候群(頻度不明)(発疹, 発熱, 肝機能障害, リンパ節腫脹, 白血球増加, 好酸球増多, 異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状), ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
4. 無顆粒球症, 汎血球減少症, 血小板減少, 白血球減少, 貧血等の重篤な血液障害(頻度不明)。
5. 急性腎障害(頻度不明)等の重篤な腎障害。
6. 肝障害(頻度不明)(黄疸, 肝炎, 胆汁うっ滞性肝炎, 肝壊死, 肝不全等), 死亡。
7. 意識障害(頻度不明)(錯乱, 見当識障害等)。
8. 痙攣(頻度不明)等の神経障害。
9. 高カリウム血症(頻度不明)。
10. 心室頻拍(頻度不明)(Torsades de pointes含む), QT延長(頻度不明), 不整脈(頻度不明), 心室細動, 房室ブロック, 徐脈等。
11. 間質性肺炎(頻度不明)(発熱, 咳嗽, 呼吸困難, 肺音の異常(捻髪音)等)。
12. 偽膜性大腸炎(頻度不明)等の重篤な大腸炎(発熱, 腹痛, 頻回の下痢)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 0. 1～1%未満 0. 1%未満 頻度不明
肝臓 AST, ALT, AI－P, LDH, ビリルビンの上昇 黄疸
皮膚 発疹 剥脱性皮膚炎
消化器 嘔気, 食欲不振 下痢, 腹痛, 嘔吐 口渇, しゃっくり, 腹部不快感, 消化不良, 鼓腸放屁
精神神経系 頭痛, 手指のこわばり, 眩暈, 傾眠, 振戦
腎臓 BUNの上昇 クレアチニンの上昇 乏尿
代謝異常 低カリウム血症 高コレステロール血症, 高トリグリセリド血症, 高血糖
血液 好酸球増多 好中球減少
その他 発熱 浮腫, 脱毛, 倦怠感 熱感, 血管痛, 味覚倒錯, 副腎機能不全
(表終了)

フロリードゲル経口用2%(2%1g)

両 内服 流通

【YJコード】6290003X1039
【薬効分類】6. 2. 9 その他の化学療法剤
【一般名】ミコナゾール
【メーカー】製)持田製薬 販)ジーシー昭和薬品
【薬価】98.2円/1g
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】口腔・食道カンジダ症治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】カンジダ属による下記感染症
口腔カンジダ症, 食道カンジダ症
【用法用量】1. 口腔カンジダ症
成人 1日ミコナゾール200～400mg(ミコナゾールゲル 10～20g)1日4回 分割 毎食後・就寝前 口腔内にまんべんなく塗布。病巣が広範囲な時 口腔内に長く含んだ後, 嚥下。
2. 食道カンジダ症
成人 1日ミコナゾール200～400mg(ミコナゾールゲル 10～20g)1日4回 分割 毎食後・就寝前 口腔内に含んだ後, 少量ずつ嚥下。
注意
投与期間は14日間。7日間投与しても改善なければ中止し, 他の療法に変更。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. ワルファリンカリウム, ピモジド, キニジン硫酸塩水和物, トリアゾラム, シンバスタチン, アゼルニジピン, オルメサルタン メドキソミル・アゼルニジピン, ニソルジピン, ブロナンセリン, エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン, ジヒドロエルゴタミンメシル酸塩, リバーロキサバン, アスナプレビル, ロミタピドメシル酸塩, ルラシドン塩酸塩の投与患者。
3. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用

【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹等
消化器 嘔気・嘔吐, 食欲不振 下痢, 口渇等 腹鳴
肝臓 AST・ALTの上昇等

6 病原生物に対する医薬品

その他 口腔内疼痛，味覚異常，口腔内異常感，口唇腫脹 黒毛舌
（表終了）

6．3 生物学的製剤

6．3．1 ワクチン類

アクトヒブ（10μg1瓶（溶解液付））

内 注射
劇

【YJコード】631140CD1029
【薬効分類】6．3．1 ワクチン類
【一般名】乾燥ヘモフィルスb型ワクチン（破傷風トキソイド結合体）
【メーカー】製)サノフィ
【経過措置期限】2023/08/29

■効能効果・用法用量

【効能効果】インフルエンザ菌b型による感染症の予防
注意
1．b型以外のインフルエンザ菌による感染症又は他の起炎菌による髄膜炎を予防できない。
2．本剤含有破傷風トキソイドを，予防接種法に基づく破傷風の予防接種に転用できない。
3．インフルエンザ菌b型による感染症，特に侵襲性の感染症（髄膜炎，敗血症，蜂巣炎，関節炎，喉頭蓋炎，肺炎，骨髄炎等）への予防効果が期待できる。
【用法用量】本剤 添付溶剤0．5mLで溶解 その全量を1回分。
初回免疫 3回 4～8週間あけて 皮下注。医師が必要と認めた時 3週間隔で接種できる。
追加免疫 1回 初回免疫後約1年あけて 皮下注。
注意
1．接種対象者・接種時期 2ヵ月齢～5歳未満に行うが，2～7ヵ月齢未満で接種を開始。接種もれ者には下記のように接種回数を減らすことができる。
（1）．接種開始齢が7～12ヵ月齢未満
初回免疫 2回，4～8週間あけて皮下注。医師が必要と認めた時は3週間隔で接種できる。
追加免疫 初回免疫後約1年あけて，1回皮下注。
（2）．接種開始齢が1～5歳未満 1回皮下注。
2．同時接種
医師が必要と認めた時は他のワクチンと同時に接種できる。

■禁忌

【禁忌】下記該当時は，接種しない。
（1）．発熱。
（2）．重篤な急性疾患。
（3）．本剤の成分・破傷風トキソイドにアナフィラキシーの既往。
（4）．上記の他，予防接種が不適当な者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（0．1%未満）（蕁麻疹，呼吸困難，血管浮腫，顔面浮腫，喉頭浮腫等）。
2．痙攣（熱性痙攣含む）（0．1%未満）。
3．血小板減少性紫斑病（頻度不明）（紫斑，鼻出血，口腔粘膜出血等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
過敏症 蕁麻疹，発疹，掻痒症 過敏症反応，浮腫（顔面，喉頭等）
局所症状（注射部位） 紅斑（発赤），腫脹，硬結等 疼痛 注射部位の炎症症状
精神神経系 易刺激性（不機嫌），不眠 傾眠，神経過敏，異常号泣
消化器 食欲不振，下痢 嘔吐，口唇変色
呼吸器 咳，鼻炎，鼻出血
その他 発熱 血色不良，結膜炎，皮膚肥厚 下肢浮腫
（表終了）

エイムゲン（一人分1瓶（溶解液付））

内 注射 流通
劇

【YJコード】631340GD1030
【薬効分類】6．3．1 ワクチン類
【一般名】乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン
【メーカー】製)KMバイオロジクス

■効能効果・用法用量

【効能効果】A型肝炎の予防
【用法用量】添付溶剤0．65mLで溶解。0．5mL 2回 2～4週間隔 筋注・皮下注。初回接種24週後 0．5mL 追加接種。
免疫の賦与を急ぐ時 0．5mL 2回 2週間隔 筋注・皮下注。長期に抗体価を維持 3回目の追加接種。
注意
同時接種
医師が必要と認めた時は他のワクチンと同時に接種できる。

■禁忌

【禁忌】1．発熱。
2．重篤な急性疾患。
3．本剤の成分にアナフィラキシーの既往。
4．上記の他，予防接種が不適当な者。

乾燥BCGワクチン（経皮用・1人用）（一人分1管（溶解液付））

内 注射 流通
劇

【YJコード】631140BD3027
【薬効分類】6．3．1 ワクチン類
【一般名】乾燥BCGワクチン
【メーカー】製)日本ビーシージー製造

■効能効果・用法用量

【効能効果】結核の予防
【用法用量】溶剤を加えたものを上腕外側のほぼ中央部に滴下塗布，経皮用接種針を用いて行う。
注意
1．接種方法（管針法による経皮接種）
添付溶剤を加えて80mg／mLの濃度の均一な懸濁液とし，接種部位の皮膚を緊張させ，懸濁液を塗った後，9本針植付けの管針を接種皮膚面に対してほぼ垂直に保ち，これを強く圧して行う。
接種数は2個とし，管針の円跡は相互に接するもの。
2．経皮接種用の濃厚なワクチンで，皮内等に注射すると強い局所反応，注射しない。
3．定期接種対象者と標準的接種期間
一歳までの間。生後5～8月までを標準的な接種期間として1回行う。
4．他の生ワクチン（注射剤）との接種間隔
他の生ワクチン（注射剤）の接種後27日以上あけて本剤を接種。
5．同時接種
医師が必要と認めた時は他のワクチンと同時に接種できる（他のワクチンと混合接種しない）。

■禁忌

【禁忌】1．発熱。
2．重篤な急性疾患。
3．本剤の成分にアナフィラキシーの既往。
4．結核その他の疾病の予防接種，外傷等によるケロイドの認められる者。
5．免疫機能に異常のある疾患，免疫抑制をきたす治療を受けている者。
6．結核の既往。
7．上記の他，予防接種が不適当な者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）。
2．BCG感染症（頻度不明）（髄膜炎，骨炎，骨髄炎，骨膜炎），全身播種性BCG感染症。
3．皮膚結核様病変（狼瘡，腺病性苔癬等）（頻度不明）。

乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン「タケダ」（一人分1瓶（溶解液付））

内 注射 流通
劇

【YJコード】631340AD1040
【薬効分類】6．3．1 ワクチン類
【一般名】乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン
【メーカー】製)武田薬品工業

■効能効果・用法用量

【効能効果】おたふくかぜの予防
【用法用量】0．5mL 1回 皮下注（添付溶剤0．7mLで溶解）。
注意
1．接種対象者
生後12ヵ月以上（おたふくかぜ既往のない者）であれば，性，年齢に関係なく使用できる。接種年齢は，学会等の最新の情報を考慮して総合的に判断。
2．輸血・ガンマグロブリン製剤投与との関係
輸血・ガンマグロブリン製剤を受けた者は，3ヵ月以上あけて本剤を接種。また，ガンマグロブリン製剤の大量療法で200mg／kg以上投与を受けた者は，6ヵ月以上あけて本剤を接種。
3．他の生ワクチン（注射剤）との接種間隔
他の生ワクチン（注射剤）の接種後27日以上あけて本剤を接種。

6 病原生物に対する医薬品

4. 同時接種
医師が必要と認めた時は他のワクチンと同時に接種できる。

■禁忌
【禁忌】(1). 発熱。
(2). 重篤な急性疾患。
(3). 本剤の成分にアナフィラキシーの既往。
(4). 免疫機能に異常のある疾患，免疫抑制をきたす治療を受けている者。
(5). 妊娠。
(6). 上記の他，予防接種が不適当な者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー(頻度不明)(蕁麻疹，呼吸困難，血管浮腫等)。
2. 無菌性髄膜炎(0. 1%未満)。
3. 急性散在性脳脊髄炎(頻度不明)(発熱，頭痛，痙攣，運動障害，意識障害等)。
4. 脳炎・脳症(頻度不明)。
5. 血小板減少性紫斑病(頻度不明)(紫斑，鼻出血，口腔粘膜出血等)。
6. 難聴(頻度不明)。
7. 精巣炎(頻度不明)(精巣腫脹等)。
8. 急性膵炎(頻度不明)(腹痛，発熱，嘔気，嘔吐，血清アミラーゼ上昇等)。

乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」(一人分1瓶(溶解液付))

内 注射 流通
劇

【YJコード】631340ED1022
【薬効分類】6. 3. 1 ワクチン類
【一般名】乾燥弱毒生水痘ワクチン
【メーカー】製)阪大微生物病研究会

■効能効果・用法用量
【効能効果】水痘の予防
50歳以上の帯状疱疹の予防
【用法用量】0. 5mL 1回 皮下注(添付溶剤(注射用水)0. 7mLで溶解)。
注意
水痘の予防
1. 接種対象者
生後12ヵ月以上の水痘既往のない者及び下記(1)～(6)に該当する者。
接種時に下記(1)～(6)に該当していても，接種後2週間以内に治療等により末梢血リンパ球数の減少又は免疫機能の低下が予想される時，接種を避ける。ワクチンウイルスの感染を増強させる可能性。
(1). 水痘の罹患が特に危険なハイリスク患者(急性白血病等の悪性腫瘍患者，治療で免疫機能障害・そのおそれのある者)。
[1]. 急性リンパ性白血病は下記に注意
・接種時点で，完全寛解後 最低3ヵ月以上経過。
・接種時点で，リンパ球数が500／mm3以上。
・精製ツベルクリン，ジニトロクロロベンゼン又はフィトヘモアグルチニン(5μg／0. 1mL)反応が陽性。
・維持化学療法としての6－メルカプトプリン投与以外の薬剤は，接種前最低1週間は中止，接種後1週間で再開。
・白血病の強化療法，広範な放射線治療等の免疫抑制作用の強い治療中は，接種を避ける。
[2]. 悪性固形腫瘍 摘出手術・化学療法で腫瘍の増殖が抑制状態に接種(条件は(1)[1]に準ずる)。
[3]. 急性骨髄性白血病，T細胞白血病，悪性リンパ腫 原疾病・治療薬によって一般に続発性免疫不全状態にあり臨床反応が出やすく抗体価の上昇も悪いので，本剤の接種は推奨されない。
(2). ネフローゼ，重症気管支喘息等でACTH，コルチコステロイド等の使用時は，症状が安定している症例が接種対象。薬剤等による続発性免疫不全が疑われる時には，細胞免疫能遅延型皮膚過敏反応テスト等で確かめた後に接種。
(3). 緊急時(例えば感受性白血病児が水痘患者と密に接触した時等)で，帯状ヘルペス免疫グロブリンが利用できない時には，上記(1)，(2)に該当しなくても，接触後72時間以内に接種を行う。免疫機能障害と思われる時(例えばリンパ球数500／mm3以下)は接種を避ける。副反応の程度に比較して自然水痘に罹患した場合の症状がより重篤で危険性が高いと判断。
(4). (1)～(3)のハイリスク患者の水痘感染の危険性をさらに減じるため，予防接種を受けたハイリスク患者と密に接触する感受性者も接種対象。ハイリスク患者の両親，兄弟等の同居者・各患者の医療に関係する者が該当。
(5). 成人は水痘が重症になる危険性が高い，水痘に感受性のある成人，特に医療関係者，医学生，水痘・帯状疱疹ウイルスへの免疫能が低下した高齢者，妊娠時の水痘罹患防止のため成人女性は接種対象。
(6). 病院の病棟，学校の寮等閉鎖共同体の感受性対象者の予防，蔓延の終結・防止に使用。
2. 定期接種対象者と標準的接種年齢
定期接種は，生後12ヵ月から生後36ヵ月までに，3ヵ月以上あけて2回行うが，1回目の接種は生後12ヵ月から生後15ヵ月の間に行い，2回目の接種は1回目の接種後6ヵ月から12ヵ月を経過した者に行う。
帯状疱疹の予防
3. 接種対象者
50歳以上が接種対象者。免疫機能に異常のある者・免疫抑制をきたす治療を受けている者には接種しない。
効能共通
4. 輸血・ガンマグロブリン製剤投与との関係
輸血・ガンマグロブリン製剤の投与患者は，3ヵ月以上あけて本剤を接種。ガンマグロブリン製剤の大量療法で200mg／kg以上投与を受けた者は，6ヵ月以上あけて本剤を接種。
5. 他の生ワクチン(注射剤)との接種間隔
他の生ワクチン(注射剤)の接種後27日以上あけて本剤を接種。
6. 同時接種
医師が必要と認めた時は他のワクチンと同時に接種できる。

■禁忌
【禁忌】効能共通
1. 発熱。
2. 重篤な急性疾患。
3. 本剤の成分にアナフィラキシーの既往。
4. 妊娠。
5. 上記の他，予防接種が不適当な者。
帯状疱疹の予防
6. 免疫機能に異常のある疾患，免疫抑制をきたす治療を受けている者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. アナフィラキシー(頻度不明)(蕁麻疹，呼吸困難，口唇浮腫，咽頭浮腫等)。
2. 血小板減少性紫斑病(頻度不明)(紫斑，鼻出血，口腔粘膜出血等)。
3. 無菌性髄膜炎(頻度不明)(項部硬直，発熱，頭痛，悪心・嘔吐，意識混濁等)。

乾燥弱毒生風しんワクチン「タケダ」(一人分1瓶(溶解液付))

内 注射 流通
劇

【YJコード】631340BD1053
【薬効分類】6. 3. 1 ワクチン類
【一般名】乾燥弱毒生風しんワクチン
【メーカー】製)武田薬品工業

■効能効果・用法用量
【効能効果】風疹の予防
【用法用量】0. 5mL 1回 皮下注(添付溶剤0. 7mLで溶解)。
注意
1. 接種対象者
(1). 定期の予防接種
[1]. 第1期
生後12～24ヵ月の間にある者。
[2]. 第2期
5～7歳未満で，小学校就学の始期に達する日の1年前の日から当該始期に達する日の前日までの間にある者(小学校就学前の1年間にある者)。
[3]. 昭和37年4月2日～昭和54年4月1日の間に生まれた男性。この対象者は，令和7年3月31日までの適用。
(2). 任意の予防接種
生後12ヵ月以上であれば，性，年齢に関係なく接種できる。
風疹既往の記憶は確かでないことが多く，流行時に罹患，免疫が明らかな者以外は接種。
2. 輸血・ガンマグロブリン製剤投与との関係
輸血・ガンマグロブリン製剤の投与患者は，3ヵ月以上あけて本剤を接種。ガンマグロブリン製剤の大量療法で200mg／kg以上投与を受けた者は，6ヵ月以上あけて本剤を接種。
3. 他の生ワクチン(注射剤)との接種間隔
他の生ワクチン(注射剤)の接種後27日以上あけて本剤を接種。
4. 同時接種
医師が必要と認めた時は他のワクチンと同時に接種できる。

■禁忌
【禁忌】(1). 発熱。
(2). 重篤な急性疾患。
(3). 本剤の成分にアナフィラキシーの既往。
(4). 免疫機能に異常のある疾患，免疫抑制をきたす治療を受けている者。
(5). 妊娠。
(6). 上記の他，予防接種が不適当な者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(蕁麻疹，呼吸困難，血管浮

6 病原生物に対する医薬品

腫等)。
2. 血小板減少性紫斑病(頻度不明)(紫斑，鼻出血，口腔粘膜出血等)。

コミナティ筋注シリンジ12歳以上用（0．3mL1筒）

内 注射 流通
劇

【YJコード】631341DG1028
【薬効分類】6．3．1 ワクチン類
【一般名】コロナウイルス(SARS－CoV－2)RNAワクチン
【メーカー】製)ファイザー

■効能効果・用法用量

【効能効果】SARS－CoV－2感染症の予防
注意
予防効果の持続期間は未確立。
【用法用量】1回0．3mL 筋注。
注意
1．接種対象者
12歳以上。
2．接種時期
前回のSARS－CoV－2ワクチン接種から最低3ヵ月経過後に接種できる。
3．接種回数
過去にSARS－CoV－2ワクチン接種歴のない者は，約4週間あけて2回目接種ができる。
4．同時接種
医師が必要と認めた時は他のワクチンと同時に接種できる。

■禁忌

【禁忌】1．発熱。
2．重篤な急性疾患。
3．本剤の成分に重度の過敏症の既往。
4．上記の他，予防接種が不適当な者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー(頻度不明)。
2．心筋炎，心膜炎(頻度不明)。

ジェービックV（一人分1瓶(溶解液付)）

内 注射 流通
劇

【YJコード】631340ND1022
【薬効分類】6．3．1 ワクチン類
【一般名】乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン
【メーカー】製)阪大微生物病研究会

■効能効果・用法用量

【効能効果】日本脳炎の予防
【用法用量】添付溶剤(注射用水)0．7mLで溶解。
1．初回免疫
0．5mL 2回 1～4週間隔 皮下注。
3歳未満 0．25mLを同様の用法で注射。
2．追加免疫
初回免疫後，約1年経過時 0．5mL 1回 皮下注。
3歳未満 0．25mLを同様の用法で注射。
注意
1．基礎免疫，追加免疫，免疫の保持
初回免疫で2回接種，さらに第1回の追加免疫で基礎免疫ができる。その後の追加免疫の接種量は第1回目の追加免疫に準ずることとし，接種間隔は地域の日本脳炎ウイルスの汚染状況等に応じて実施。
2．定期接種対象者と標準的接種年齢
(1)．第1期 生後6月から90月までの間。初回免疫は3歳に達した時から4歳に達するまで，追加免疫は4歳に達した時から5歳に達するまでの期間を標準的な接種年齢とする。
(2)．第2期 9歳以上13歳未満に行う。9歳に達した時から10歳に達するまでの期間を標準的な接種年齢とする。
(3)．平成7年4月2日～平成19年4月1日生まれの者のうち，7歳6ヵ月以上9歳未満・13歳以上20歳未満の者も定期の予防接種の対象。
(4)．定期の予防接種への使用は，予防接種実施規則による。
3．同時接種
医師が必要と認めた時は他のワクチンと同時に接種できる。

■禁忌

【禁忌】1．発熱。
2．重篤な急性疾患。
3．本剤の成分にアナフィラキシーの既往。
4．上記の他，予防接種が不適当な者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー(頻度不明)(蕁麻疹，呼吸困難，血管浮腫等)。
2．急性散在性脳脊髄炎(頻度不明)(発熱，頭痛，痙攣，運動障害，意識障害等)。
3．脳炎・脳症(頻度不明)(発熱，四肢麻痺，痙攣，意識障害等)。
4．痙攣(頻度不明)。
5．血小板減少性紫斑病(頻度不明)(紫斑，鼻出血，口腔粘膜出血等)。

シングリックス筋注用（1瓶(溶解液付)）

内 注射 流通
劇

【YJコード】631341BE1028
【薬効分類】6．3．1 ワクチン類
【一般名】乾燥組換え帯状疱疹ワクチン(チャイニーズハムスター卵巣細胞由来)
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン

■効能効果・用法用量

【効能効果】帯状疱疹の予防
注意
予防接種法による水痘の予防接種に転用できない。
【用法用量】抗原製剤を専用溶解用液全量で溶解。
50歳以上 0．5mL 2回 2ヵ月間隔 筋注。
帯状疱疹に罹患するリスクが高いと考えられる18歳以上 0．5mL 2回 1～2ヵ月間隔 筋注。
注意
1．接種対象者
帯状疱疹に罹患するリスクが高いと考えられる18歳以上の者とは，下記を指す。
・疾病・治療により免疫不全者，免疫機能低下者，免疫機能低下する可能性。
・上記以外で，医師が本剤の接種を必要と認めた者。
2．接種間隔・接種時期
50歳以上又は帯状疱疹に罹患するリスクが高いと考えられる18歳以上
(1)．1回目の接種から2ヵ月間隔あけて2回目の接種を実施。1回目の接種から2ヵ月を超えても，6ヵ月後までに2回目の接種を実施。
帯状疱疹に罹患するリスクが高いと考えられる18歳以上
(2)．ワクチン接種スケジュール短縮によりベネフィットが得られる時は，1回目の接種から2回目の接種までの間隔を1ヵ月まで短縮できる。
(3)．造血幹細胞移植，化学療法等の実施予定・実施後において，高度にリンパ球が減少・抑制されることが予想される又は減少・抑制されている等の時は，個々の被接種者の状態を考慮し，本剤の接種時期を決定。
3．同時接種
医師が必要と認めた時は他のワクチンと同時に接種できる。

■禁忌

【禁忌】1．発熱。
2．重篤な急性疾患。
3．本剤の成分にアナフィラキシーの既往。
4．上記の他，予防接種が不適当な者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)反応含む過敏症状。

ニューモバックスNPシリンジ（0．5mL1筒）

内 注射 流通
劇

【YJコード】6311400G1021
【薬効分類】6．3．1 ワクチン類
【一般名】肺炎球菌ワクチン
【メーカー】製)MSD
【薬価】4735円/1筒
【薬価収載日】2020/11/25
【標榜薬効】細菌ワクチン類

■効能効果・用法用量

【効能効果】2歳以上で肺炎球菌による重篤疾患に罹患する危険が高い下記
○脾摘の肺炎球菌による感染症の発症予防
○肺炎球菌の感染症の予防
(1)．鎌状赤血球疾患，又はその他の原因で脾機能不全
(2)．心・呼吸器の慢性疾患，腎不全，肝機能障害，糖尿病，慢性髄液漏等の基礎疾患
(3)．高齢者
(4)．免疫抑制作用を有する治療の開始まで最低14日以上ある患者

6 病原生物に対する医薬品

【用法用量】1回0．5mL 筋注・皮下注。
注意
同時接種
医師が必要と認めた時は他のワクチンと同時に接種できる。

■禁忌
【禁忌】1．2歳未満。
2．発熱。
3．重篤な急性疾患。
4．本剤の成分にアナフィラキシーの既往。
5．上記の他，予防接種が不適当な者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．アナフィラキシー様反応（頻度不明）（呼吸困難，血管浮腫，蕁麻疹，発汗等）。
2．血小板減少（頻度不明）。
3．知覚異常，ギランバレー症候群等の急性神経根障害（頻度不明）。
4．蜂巣炎・蜂巣炎様反応（発赤，腫脹，疼痛，発熱等），注射部位壊死，注射部位潰瘍（頻度不明）。

バクニュバンス水性懸濁注シリンジ（0．5mL1筒）

内 注射 流通
劇

【YJコード】631140KG1020
【薬効分類】6．3．1 ワクチン類
【一般名】沈降15価肺炎球菌結合型ワクチン（無毒性変異ジフテリア毒素結合体）
【メーカー】製)MSD

■効能効果・用法用量
【効能効果】○高齢者・肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる者の肺炎球菌（血清型1，3，4，5，6A，6B，7F，9V，14，18C，19A，19F，22F，23F，33F）による感染症の予防
○小児の肺炎球菌（血清型1，3，4，5，6A，6B，7F，9V，14，18C，19A，19F，22F，23F及び33F）による侵襲性感染症の予防
注意
1．本剤含有血清型以外の肺炎球菌による感染症又は他の起炎菌による感染症は予防できない。
2．ジフテリアの予防接種に転用できない。
3．肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる者は，下記。
・慢性的な心疾患，肺疾患，肝疾患，腎疾患。
・糖尿病。
・基礎疾患・治療により免疫不全状態又はその疑い。
・先天的・後天的無脾症。
・鎌状赤血球症・その他の異常ヘモグロビン症。
・人工内耳の装用，慢性髄液漏等の解剖学的要因により生体防御能が低下した者。
・上記以外で医師が接種を必要と認めた者。
【用法用量】高齢者・肺炎球菌の疾患に罹患するリスクが高い18歳以上の肺炎球菌の感染症予防
1回0．5mL 筋注。
肺炎球菌の疾患に罹患するリスクが高い18歳未満の肺炎球菌の感染症予防
1回0．5mL 皮下注又は筋注。
小児の肺炎球菌の侵襲性感染症予防
・初回免疫 1回0．5mL 3回 27日間以上の間隔 皮下注又は筋注。
・追加免疫 1回0．5mL 1回 皮下注又は筋注。3回目接種から60日間以上あける。
注意
効能共通
1．同時接種
医師が必要と認めた時は他のワクチンと同時に接種できる。
小児の肺炎球菌の侵襲性感染症予防
2．接種対象者・接種時期
2ヵ月齢以上18歳未満に行う。
2ヵ月齢以上7ヵ月齢未満で接種を開始。3回目接種は，12ヵ月齢未満までに完了し，追加免疫は12ヵ月齢以降，12～15ヵ月齢の間に行う。
接種もれ者には，下記の接種間隔・回数により接種できる。
（1）．7ヵ月齢以上12ヵ月齢未満
・初回免疫 1回0．5mL 2回，27日間以上の間隔 皮下注又は筋注。
・追加免疫 1回0．5mL 1回，2回目の接種後60日間以上の間隔で，12ヵ月齢後，皮下注又は筋注。
（2）．12ヵ月齢以上24ヵ月齢未満
・1回0．5mLずつを2回，60日間以上あけて皮下注又は筋注。
（3）．24ヵ月齢以上18歳未満
・1回0．5mL 皮下注又は筋注。
3．肺炎球菌結合型ワクチンの接種スケジュール中で，沈降13価肺炎球菌結合型ワクチンにより接種を開始後，途中で本剤に切りかえる時は，残りの接種回数を本剤により接種する。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分・ジフテリアトキソイド含有ワクチンにアナフィラキシーの既往。
2．発熱。
3．重篤な急性疾患。
4．上記の他，予防接種が不適当な者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（頻度不明）含む重度のアレルギー反応。
2．痙攣（熱性痙攣含む）（0．3%）。

プレベナー20水性懸濁注（0．5mL1筒）

内 注射 流通
劇

【YJコード】631140LC1023
【薬効分類】6．3．1 ワクチン類
【一般名】沈降20価肺炎球菌結合型ワクチン（無毒性変異ジフテリア毒素結合体）
【メーカー】製)ファイザー

■効能効果・用法用量
【効能効果】○高齢者・肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる者
肺炎球菌（血清型1，3，4，5，6A，6B，7F，8，9V，10A，11A，12F，14，15B，18C，19A，19F，22F，23F，33F）による感染症の予防
○小児
肺炎球菌（血清型1，3，4，5，6A，6B，7F，8，9V，10A，11A，12F，14，15B，18C，19A，19F，22F，23F，33F）による侵襲性感染症の予防
注意
1．本剤含有肺炎球菌血清型以外による感染症又は他の起炎菌による感染症は予防できない。
2．ジフテリアの予防接種に転用できない。
3．肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる者は，下記。
・慢性的な心疾患，肺疾患，肝疾患，腎疾患。
・糖尿病。
・基礎疾患・治療により免疫不全状態又はその疑い。
・先天的・後天的無脾症（無脾症候群，脾臓摘出術を受けた者等）。
・鎌状赤血球症・その他の異常ヘモグロビン症。
・人工内耳の装用，慢性髄液漏等の解剖学的要因により生体防御機能が低下した者。
・上記以外で医師が接種を必要と認めた者。
【用法用量】高齢者・肺炎球菌の疾患に罹患するリスクが高い6歳以上肺炎球菌の感染症予防
1回0．5mL 筋注。
肺炎球菌の疾患に罹患するリスクが高い6歳未満 肺炎球菌の感染症予防
1回0．5mL 皮下注・筋注。
小児 肺炎球菌の侵襲性感染症予防
・初回免疫 1回0．5mL 3回 27日間以上の間隔 皮下注・筋注。
・追加免疫 3回目接種から60日間以上あけ 1回0．5mL 皮下注・筋注。
注意
小児 肺炎球菌の侵襲性感染症予防
1．接種対象者・接種時期
接種 2ヵ月齢以上6歳未満。
2ヵ月齢以上7ヵ月齢未満で接種を開始。3回目接種は，12ヵ月齢未満までに完了し，追加免疫は，12～15ヵ月齢の間に行う。
接種もれ者には下記の接種間隔・回数。
（1）．7ヵ月齢以上12ヵ月齢未満
・初回免疫 1回0．5mL 2回，27日間以上の間隔 皮下注・筋注。
・追加免疫 1回0．5mL 1回，2回目の接種後60日間以上の間隔で，12ヵ月齢後，皮下注・筋注。
（2）．12ヵ月齢以上24ヵ月齢未満
・1回0．5mL 2回，60日間以上の間隔 皮下注・筋注。
（3）．24ヵ月齢以上6歳未満
・1回0．5mL 皮下注・筋注。
効能共通
2．CRM197とは異なるキャリア蛋白を結合した肺炎球菌結合型ワクチンと本剤との互換性の安全性・有効性は未確立。
3．同時接種
医師が必要と認めた時は他のワクチンと同時に接種できる。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分・ジフテリアトキソイドにアナフィラキシーの既往。
2．発熱。
3．重篤な急性疾患。
4．上記の他，予防接種が不適当な者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）。
2．痙攣（熱性痙攣含む）（0．1%）。
3．血小板減少性紫斑病（頻度不明）（紫斑，鼻出血，口腔粘膜出血等）。

6 病原生物に対する医薬品

ヘプタバックスーII水性懸濁注シリンジ0．25mL（0．25mL1筒）

内 注射 流通
劇

【YJコード】6313402G1025
【薬効分類】6．3．1 ワクチン類
【一般名】組換え沈降B型肝炎ワクチン（酵母由来）
【メーカー】製)MSD
【薬価】2216円/1筒
【薬価収載日】2018/05/30
【標榜薬効】ウイルスワクチン類

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．B型肝炎の予防
2．B型肝炎ウイルス母子感染の予防（抗HBs人免疫グロブリンとの併用）
3．HBs抗原陽性で，HBe抗原陽性の血液による汚染事故後のB型肝炎発症予防（抗HBs人免疫グロブリンとの併用）
【用法用量】（表開始）
効能・効果 用法・用量
B型肝炎の予防 0．5mLずつ 4週間隔で2回，さらに初回注射の20～24週後に1回 皮下注・筋注。10歳未満 0．25mLずつ 同様の投与間隔で 皮下注。能動的HBs抗体が獲得されてない時は追加。
B型肝炎ウイルス母子感染の予防 0．25mL 生後12時間以内に1回 皮下注。さらに0．25mLずつ 初回注射の1ヵ月後，6ヵ月後の2回 同様の用法で注射。能動的HBs抗体が獲得されてない時は追加。
HBs抗原陽性で，HBe抗原陽性の血液による汚染事故後のB型肝炎発症予防 0．5mL 事故発生後7日以内に1回 皮下注・筋注。さらに0．5mLずつ 初回注射の1ヵ月後，3～6ヵ月後の2回 同様の用法で注射。10歳未満 0．25mLずつ 同様の投与間隔で皮下注。能動的HBs抗体が獲得されてない時は追加。
（表終了）
注意
1．定期接種対象者と標準的接種年齢
生後1歳までで，生後2月から生後9月までの間に，27日以上あけて2回，さらに1回目の接種から139日以上あけて1回皮下注。
2．一般的注意
効能共通
（1）．年齢により異なる接種量。10歳未満には0．25mL，10歳以上には0．5mLを接種。接種前に被接種者の年齢・その接種量を確認後，適切な製剤を使用。
（2）．B型肝炎ウイルスへの曝露による感染・発症の可能性が高い者又はB型肝炎ウイルスに感染すると重症化するおそれがある者には，3回目接種1～2ヵ月後を目途に抗体検査を実施し，HBs抗体が獲得されていない時は追加接種を考慮。
B型肝炎ウイルス母子感染の予防
（3）．抗HBs人免疫グロブリンを併用。
（4）．初回注射の時期は，生後12時間以降もできるが，生後早期に行う。
HBs抗原陽性で，HBe抗原陽性の血液による汚染事故後のB型肝炎発症予防
（5）．抗HBs人免疫グロブリンを併用。
3．同時接種
医師が必要と認めた時は他のワクチンと同時に接種できる。

■禁忌

【禁忌】1．発熱。
2．重篤な急性疾患。
3．本剤の成分にアナフィラキシーの既往。
4．上記の他，予防接種が不適当な者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック（0．1%未満），アナフィラキシー（頻度不明）（血圧低下，呼吸困難，顔面蒼白等）。
2．多発性硬化症，急性散在性脳脊髄炎，脊髄炎，視神経炎，ギラン・バレー症候群，末梢神経障害（頻度不明）。

ヘプタバックスーII水性懸濁注シリンジ0．5mL（0．5mL1筒）

内 注射 流通
劇

【YJコード】6313402G2021
【薬効分類】6．3．1 ワクチン類
【一般名】組換え沈降B型肝炎ワクチン（酵母由来）
【メーカー】製)MSD
【薬価】2460円/1筒
【薬価収載日】2018/05/30
【標榜薬効】ウイルスワクチン類

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．B型肝炎の予防
2．B型肝炎ウイルス母子感染の予防（抗HBs人免疫グロブリンとの併用）
3．HBs抗原陽性で，HBe抗原陽性の血液による汚染事故後のB型肝炎発症予防（抗HBs人免疫グロブリンとの併用）
【用法用量】（表開始）
効能・効果 用法・用量
B型肝炎の予防 0．5mLずつ 4週間隔で2回，さらに初回注射の20～24週後に1回 皮下注・筋注。10歳未満 0．25mLずつ 同様の投与間隔で 皮下注。能動的HBs抗体が獲得されてない時は追加。
B型肝炎ウイルス母子感染の予防 0．25mL 生後12時間以内に1回 皮下注。さらに0．25mLずつ 初回注射の1ヵ月後，6ヵ月後の2回 同様の用法で注射。能動的HBs抗体が獲得されてない時は追加。
HBs抗原陽性で，HBe抗原陽性の血液による汚染事故後のB型肝炎発症予防 0．5mL 事故発生後7日以内に1回 皮下注・筋注。さらに0．5mLずつ 初回注射の1ヵ月後，3～6ヵ月後の2回 同様の用法で注射。10歳未満 0．25mLずつ 同様の投与間隔で皮下注。能動的HBs抗体が獲得されてない時は追加。
（表終了）
注意
1．定期接種対象者と標準的接種年齢
生後1歳までで，生後2月から生後9月までの間に，27日以上あけて2回，さらに1回目の接種から139日以上あけて1回皮下注。
2．一般的注意
効能共通
（1）．年齢により異なる接種量。10歳未満には0．25mL，10歳以上には0．5mLを接種。接種前に被接種者の年齢・その接種量を確認後，適切な製剤を使用。
（2）．B型肝炎ウイルスへの曝露による感染・発症の可能性が高い者又はB型肝炎ウイルスに感染すると重症化するおそれがある者には，3回目接種1～2ヵ月後を目途に抗体検査を実施し，HBs抗体が獲得されていない時は追加接種を考慮。
B型肝炎ウイルス母子感染の予防
（3）．抗HBs人免疫グロブリンを併用。
（4）．初回注射の時期は，生後12時間以降もできるが，生後早期に行う。
HBs抗原陽性で，HBe抗原陽性の血液による汚染事故後のB型肝炎発症予防
（5）．抗HBs人免疫グロブリンを併用。
3．同時接種
医師が必要と認めた時は他のワクチンと同時に接種できる。

■禁忌

【禁忌】1．発熱。
2．重篤な急性疾患。
3．本剤の成分にアナフィラキシーの既往。
4．上記の他，予防接種が不適当な者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック（0．1%未満），アナフィラキシー（頻度不明）（血圧低下，呼吸困難，顔面蒼白等）。
2．多発性硬化症，急性散在性脳脊髄炎，脊髄炎，視神経炎，ギラン・バレー症候群，末梢神経障害（頻度不明）。

ラビピュール筋注用（1瓶（溶解液付））

内 注射 流通
劇

【YJコード】6313400E1025
【薬効分類】6．3．1 ワクチン類
【一般名】乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン
【メーカー】製)オーファンパシフィック 販)グラクソ・スミスクライン
【薬価】12087円/1V
【薬価収載日】2019/05/22
【標榜薬効】ウイルスワクチン類

■効能効果・用法用量

【効能効果】狂犬病の予防，発病阻止
【用法用量】添付溶剤（注射用水）の全量で溶解し，下記の通り使用。
曝露前免疫
1回1mL 適切な間隔をあけて3回 筋注。
曝露後免疫
1回1mL 適切な間隔をあけて4～6回 筋注。
注意
曝露前免疫・曝露後免疫の接種日の目安等は下記の通り。接種要否・接種スケジュールは世界保健機関の推奨も参考に検討。
1．曝露前免疫（狂犬病の予防）
（1）．接種日の目安（1回目接種日を0日とする。）
（表開始）
接種日の目安（日）
3回接種 0，7，21又は0，7，28
（表終了）
（2）．同時接種
医師が必要と認めた時は他のワクチンと同時に接種できる。
2．曝露後免疫（狂犬病の発病阻止）

6 病原生物に対する医薬品

(1). 接種日の目安(1回目接種日を0日とする。)
(表開始)
接種日の目安(日)
4回接種 0(接種部位を変えて，2箇所に1回ずつ，計2回)，7，21
5回接種 0，3，7，14，28
6回接種 0，3，7，14，30，90
(表終了)
(2). 咬傷等の曝露を受けた時は，以前に曝露前免疫を完了しても，必ず曝露後免疫を行う。

■禁忌
【禁忌】1. 発熱。
2. 重篤な急性疾患。
3. 本剤の成分にアナフィラキシーの既往。
4. 上記の他，予防接種が不適当な者。
曝露後免疫を目的とした使用のみ，有益性を考慮し接種。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)。
2. 脳炎(頻度不明)。
3. ギラン・バレー症候群(頻度不明)(四肢遠位から始まる弛緩性麻痺，腱反射の減弱ないし消失等)。

ロタリックス内用液(1. 5mL1本)
両 内服 流通
劇

【YJコード】631300AS1020
【薬効分類】6. 3. 1 ワクチン類
【一般名】経口弱毒生ヒトロタウイルスワクチン
【メーカー】製)グラクソ・スミスクライン

■効能効果・用法用量
【効能効果】ロタウイルスによる胃腸炎の予防
注意
1. ロタウイルスG1P[8]，G2P[4]，G3P[8]，G4P[8]，G9P[8]への予防効果が示唆。
2. 他のウイルスによる胃腸炎を予防できない。
【用法用量】乳児 1回1. 5mL 2回 4週間以上あけて 経口接種。
注意
1. 接種対象者・接種時期
生後6週から初回接種を開始し，最低4週間あけて2回目の接種を完了。遅くとも生後24週までには接種を完了。早期産児も同様に接種できる。
初回接種は生後14週6日までを推奨。
2. 接種方法
接種直後にワクチンの大半を吐き出した時は，改めて本剤1. 5mLを接種できる。
3. 同時接種
医師が必要と認めた時は他のワクチンと同時に接種できる。

■禁忌
【禁忌】1. 発熱。
2. 重篤な急性疾患。
3. 本剤の接種後，本剤・本剤の成分に過敏症の既往。
4. 腸重積症の可能性のある未治療の先天性消化管障害(メッケル憩室等)。
5. 腸重積症の既往。
6. 重症複合型免疫不全。
7. 上記の他，予防接種が不適当な者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
アナフィラキシー(頻度不明)。

6. 3. 2 毒素及びトキソイド類

沈降破傷風トキソイド「生研」(0. 5mL1瓶)
内 注射 流通
劇

【YJコード】6322400X2048
【薬効分類】6. 3. 2 毒素及びトキソイド類
【一般名】沈降破傷風トキソイド
【メーカー】製)デンカ 販)アステラス製薬 販)田辺三菱製薬 販)三菱ウェルファーマ
【薬価】1063円/1V
【標榜薬効】トキソイド類

■効能効果・用法用量
【効能効果】破傷風の予防
【用法用量】初回免疫 1回0. 5mL 2回 3～8週間隔 皮下注・筋注。追加免疫 1回0. 5mL 1回 初回免疫後6ヵ月以上あけて(初回免疫終了後12～18ヵ月までの間に) 皮下注・筋注。初回免疫で副反応の強かった者は適宜減量。以後の追加免疫の接種量もこれに準ずる。
注意
1. 接種対象者・接種時期
(1). 初回免疫と追加免疫完了者は，数年ごとに再追加免疫で，1回0. 5mLを皮下注・筋注。再追加免疫の接種間隔は職業，スポーツ等の実施状況を考慮。
(2). 初回免疫，追加免疫，再追加免疫を受けた者で，破傷風感染のおそれのある負傷を受けた時は，直ちに1回0. 5mLを皮下注・筋注。
2. 同時接種
医師が必要と認めた時は他のワクチンと同時に接種できる。

■禁忌
【禁忌】1. 発熱。
2. 重篤な急性疾患。
3. 本剤の成分にアナフィラキシーの既往。
4. 上記の他，予防接種が不適当な者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(全身発赤，呼吸困難，血管性浮腫等)。

6. 3. 3 抗毒素類及び抗レプトスピラ血清類

乾燥まむし抗毒素"化血研"(各6000単位入1瓶(溶解液付))
内 注射 流通
劇

【YJコード】6331412X1027
【薬効分類】6. 3. 3 抗毒素類及び抗レプトスピラ血清類
【一般名】乾燥まむしウマ抗毒素
【メーカー】製)KMバイオロジクス 販)アステラス製薬 販)藤沢薬品工業
【薬価】108252円/1V
【標榜薬効】抗毒素類

■効能効果・用法用量
【効能効果】まむし咬傷の治療
【用法用量】添付溶剤(注射用水)20mLで溶解。
早期に約6000単位(約20mL) 咬傷局所を避けて 筋注・皮下注・静注，点滴静注(生食で希釈)。
症状が軽減しない時 2～3時間後 3000～6000単位(10～20mL)を追加。
注意
ウマ血清過敏症試験を行い，反応陰性又は軽微の時は，1mLを皮下注。30分間反応を観察し，異常のない時には，所要量を下記の通り注射。
(1). 筋注・皮下注・静注 ゆっくり時間をかけて注射。ショックは5～10分の間に発現が多いがその間，さらに30分後まで血圧を測定。著しい血圧降下がおこれば，直ちにエピネフリンの注射等の処置。
(2). 点滴静注 生食等で10～20倍に希釈し，1～2mL／分の速さで注射。血圧測定その他の観察を継続。

■禁忌
【禁忌】原則禁忌
ウマ血清にショック・アナフィラキシー(血圧降下，喉頭浮腫，呼吸困難等)・その他の過敏症の既往(投与必要時は，ウマ血清過敏症試験・除感作処置等を実施)。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー(頻度不明)(急激な血圧降下，喉頭浮腫，呼吸困難等)。

6. 3. 4 血液製剤類

グロブリン筋注450mg／3mL「JB」(150mg1mL)
内 注射 流通
特生

【YJコード】6343412X1168
【薬効分類】6. 3. 4 血液製剤類
【一般名】人免疫グロブリン
【メーカー】製)日本血液製剤機構
【薬価】1054円/1mL

6 病原生物に対する医薬品

【薬価収載日】2015/12/25
【標榜薬効】血漿分画製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 無・低ガンマグロブリン血症
2. 下記の予防，症状の軽減
麻疹，A型肝炎，ポリオ
【用法用量】無・低ガンマグロブリン血症
100～300mg／kg 毎月1回 筋注。
適宜増減。
麻疹，A型肝炎，ポリオの予防，症状の軽減
1回15～50mg／kg 筋注。
適宜増減。
注意
効能・効果ごとの1回量，投与量は下記。
（表開始）
効能・効果 人免疫グロブリン投与量（mg／kg） 投与量（mL／kg）
無・低ガンマグロブリン血症 毎月100～300 0．67～2
麻疹，A型肝炎・ポリオの予防・症状の軽減 1回15～50 0．1～0．33
（表終了）

■禁忌
【禁忌】本剤の成分にショックの既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック（頻度不明）（悪心，嘔吐，発汗，四肢冷感，血圧低下等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発熱，発疹等
注射部位 疼痛，腫脹，硬結
（表終了）

ケイセントラ静注用1000（1000国際単位1瓶（溶解液付））

内 注射 流通
特生

【YJコード】6343449D2020
【薬効分類】6．3．4 血液製剤類
【一般名】乾燥濃縮人プロトロンビン複合体
【メーカー】製)CSLベーリング
【薬価】66306円／1V
【薬価収載日】2017/08/30
【標榜薬効】血漿分画製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】ビタミンK拮抗薬投与中の急性重篤出血時，重大な出血が予想される緊急を要する手術・処置の施行時の出血傾向の抑制
【用法用量】下記量を単回静注。
（表開始）
投与前のプロトロンビン時間－国際標準比（PT－INR） 投与量（IU／kg） 投与量（IU）
投与前のプロトロンビン時間－国際標準比（PT－INR） 体重100kg以下 体重100kgを超える時
2～＜4 25 2500
4～6 35 3500
＞6 50 5000
（表終了）
注意
ビタミンK製剤の併用を考慮。

■禁忌
【禁忌】DIC状態。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．血栓塞栓症（3．8%）（致死的転帰の症例含む）。
2．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）。
3．DIC（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．5%以上 頻度不明
一般・全身障害・投与部位の状態 体温上昇
神経系障害 頭痛
免疫系障害 抗体産生，過敏症／アレルギー反応
（表終了）
（注）頻度は外国。

ケイセントラ静注用500（500国際単位1瓶（溶解液付））

内 注射 流通
特生

【YJコード】6343449D1024
【薬効分類】6．3．4 血液製剤類
【一般名】乾燥濃縮人プロトロンビン複合体
【メーカー】製)CSLベーリング
【薬価】35571円／1V
【薬価収載日】2017/08/30
【標榜薬効】血漿分画製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】ビタミンK拮抗薬投与中の急性重篤出血時，重大な出血が予想される緊急を要する手術・処置の施行時の出血傾向の抑制
【用法用量】下記量を単回静注。
（表開始）
投与前のプロトロンビン時間－国際標準比（PT－INR） 投与量（IU／kg） 投与量（IU）
投与前のプロトロンビン時間－国際標準比（PT－INR） 体重100kg以下 体重100kgを超える時
2～＜4 25 2500
4～6 35 3500
＞6 50 5000
（表終了）
注意
ビタミンK製剤の併用を考慮。

■禁忌
【禁忌】DIC状態。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．血栓塞栓症（3．8%）（致死的転帰の症例含む）。
2．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）。
3．DIC（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．5%以上 頻度不明
一般・全身障害・投与部位の状態 体温上昇
神経系障害 頭痛
免疫系障害 抗体産生，過敏症／アレルギー反応
（表終了）
（注）頻度は外国。

献血アルブミン20%静注10g／50mL「ニチヤク」（20%50mL1瓶）

内 注射
特生

【YJコード】6343410X6160
【薬効分類】6．3．4 血液製剤類
【一般名】人血清アルブミン
【メーカー】製)日本製薬
【薬価収載日】2015/06/19 【経過措置期限】2023/03/31
【標榜薬効】血漿分画製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．アルブミンの喪失（熱傷，ネフローゼ症候群等），アルブミン合成低下（肝硬変症等）による低アルブミン血症
2．出血性ショック
【用法用量】成人 1回20～50mL（人血清アルブミン 4～10g） 緩徐に静注，点滴静注。
適宜増減。
注意
1．急激な循環血漿量の増加あり，輸注速度を調節し，肺水腫，心不全等の発生に注意。本剤50mL（アルブミン 10g），20mL（アルブミン4g）の輸注は，約200mL，80mLの循環血漿量の増加に相当。
2．参考 投与後の目標血清アルブミン濃度は，急性時は3g／dL以上，慢性時は2．5g／dL以上を使用。
投与前には，必要性を把握し，投与前後の血清アルブミン濃度と臨床所見の改善を比べ，投与効果の評価を3日間を目途に行い，継続を判断し，漫然投与しない。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分にショックの既往。
原則禁忌
本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用

6 病原生物に対する医薬品

ショック，アナフィラキシー（頻度不明）（呼吸困難，喘鳴，胸内苦悶，血圧低下，脈拍微弱，チアノーゼ等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発熱，顔面紅潮，蕁麻疹等
（表終了）

献血アルブミン5%静注12．5g／250mL「JB」（5%250mL1瓶）

内 注射 流通
特生

【YJコード】6343410X2130
【薬効分類】6．3．4 血液製剤類
【一般名】人血清アルブミン
【メーカー】製)日本血液製剤機構
【薬価】4362円/1V
【薬価収載日】2015/12/11
【標榜薬効】血漿分画製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】1．アルブミンの喪失（熱傷，ネフローゼ症候群等），アルブミン合成低下（肝硬変症等）による低アルブミン血症
2．出血性ショック
注意
1．血清アルブミン濃度が2．5～3g／dLでは，臨床症状を認められない場合も多く，血清アルブミン濃度の維持を目的として使用しない。
2．肝硬変等の慢性病態による低アルブミン血症では，血清アルブミン濃度は上昇せず，アルブミンの分解が促進されるので注意。
3．「血液製剤の使用指針」を参考に，不適切な使用をしない。
【用法用量】成人 1回100～250mL（人血清アルブミン 5～12．5g） 緩徐に静注，点滴静注。
適宜増減。
注意
1．大量使用はナトリウムの過大な負荷の可能性。
2．参考 投与後の目標血清アルブミン濃度は，急性時は3g／dL以上，慢性時は2．5g／dL以上を使用。
投与前には，必要性を把握し，投与前後の血清アルブミン濃度と臨床所見の改善を比べ，投与効果の評価を3日間を目途に行い，継続を判断し，漫然投与しない。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分にショックの既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，喘鳴，胸内苦悶，血圧低下，脈拍微弱，チアノーゼ等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 顔面潮紅，蕁麻疹，紅斑，発疹
その他 発熱，悪寒，腰痛
（表終了）

献血グロベニンーI静注用2500mg（2．5g50mL1瓶（溶解液付））

内 注射 流通
特生

【YJコード】6343402X2071
【薬効分類】6．3．4 血液製剤類
【一般名】乾燥ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン
【メーカー】製)武田薬品工業
【薬価】27426円/1V
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】血漿分画製剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○無・低ガンマグロブリン血症
○重症感染症で抗生剤との併用
○特発性血小板減少性紫斑病（他剤が無効で，著明な出血傾向があり，外科的処置・出産等一時的止血管理の必要時）
○川崎病の急性期（重症で，冠動脈障害の発生の危険がある時）
○慢性炎症性脱髄性多発根神経炎（多巣性運動ニューロパチー含む）の筋力低下の改善
○慢性炎症性脱髄性多発根神経炎（多巣性運動ニューロパチー含む）の運動機能低下の進行抑制（筋力低下の改善が認められた時）
○天疱瘡（ステロイド剤が効果不十分時）
○スティーブンス・ジョンソン症候群・中毒性表皮壊死症（ステロイド剤が効果不十分時）
○水疱性類天疱瘡（ステロイド剤が効果不十分時のみ）
○ギラン・バレー症候群（急性増悪期で歩行困難な重症例）
○血清IgG2値の低下を伴う，肺炎球菌又はインフルエンザ菌を起炎菌とする急性中耳炎，急性気管支炎又は肺炎の発症抑制（ワクチン接種による予防・他の治療を行っても効果不十分，発症を繰り返す時のみ）
○多発性筋炎・皮膚筋炎の筋力低下の改善（ステロイド剤が効果不十分時のみ）
○全身型重症筋無力症（ステロイド剤又はステロイド剤以外の免疫抑制剤が十分に奏効しない時のみ）
注意
重症感染症の抗生剤との併用
1．適切な抗菌化学療法でも効果不十分時。
川崎病の急性期
2．発病後7日以内に投与開始。
慢性炎症性脱髄性多発根神経炎（多巣性運動ニューロパチー含む）の運動機能低下の進行抑制
3．「慢性炎症性脱髄性多発根神経炎（多巣性運動ニューロパチー含む）の筋力低下の改善」への有効性が認められたが，症状の再発・再燃を繰り返している患者にのみ投与。
天疱瘡
4．副腎皮質ホルモン剤による適切な治療でも効果不十分時のみを対象。臨床試験では，副腎皮質ホルモン剤20mg／日（プレドニゾロン換算）以上を3～7日間使用したにもかかわらず，臨床症状の改善のない患者に，本剤の有効性・安全性が検討されている。
5．腫瘍随伴性天疱瘡，疱疹状天疱瘡，薬剤誘発性天疱瘡への有効性・安全性は未確立。
水疱性類天疱瘡
6．副腎皮質ホルモン剤による適切な治療でも効果不十分時のみを対象。臨床試験で，副腎皮質ホルモン剤0．4mg／kg／日（プレドニゾロン換算）以上を7～21日間使用したにもかかわらず，臨床症状の改善のない患者に，有効性・安全性が検討されている。
スティーブンス・ジョンソン症候群・中毒性表皮壊死症
7．副腎皮質ホルモン剤による適切な治療でも効果不十分時のみを対象。臨床試験で，副腎皮質ホルモン剤20mg／日（プレドニゾロン換算）以上を2日間以上使用したにもかかわらず，効果不十分で追加治療が必要な患者に，有効性・安全性が検討されている。
血清IgG2値の低下を伴う，肺炎球菌，インフルエンザ菌を起炎菌とする急性中耳炎，急性気管支炎，肺炎の発症抑制
8．投与開始時に下記のすべての条件を満たす患者のみ投与。
・過去6ヵ月間に急性中耳炎が4回以上，又は急性気管支炎又は肺炎で2回以上の発症あり。
・起炎菌として肺炎球菌又はインフルエンザ菌が同定。
・血清IgG2値80mg／dL未満が継続。
多発性筋炎・皮膚筋炎の筋力低下の改善
9．下記に規定するステロイド剤での治療でも効果不十分時。
ステロイド剤が効果不十分の判断基準
（1）．投与12週以上前からの治療歴 投与の12週以上前に副腎皮質ステロイドをプレドニゾロン換算で50mg／日以上又は1mg／kg／日以上のステロイド大量療法で1ヵ月以上治療した治療歴があり，その後，投与開始時までステロイド治療を継続しても，十分な改善がなく，血中CK値が基準値上限を超えている患者。
（2）．投与前12週未満の治療歴 投与前6～12週に副腎皮質ステロイドをプレドニゾロン換算で50mg／日以上又は1mg／kg／日以上のステロイド大量療法を実施した治療歴があり，その後，投与開始時までステロイド治療を継続しても，十分な改善がなく，血中CK値が基準値上限を超えており，4週間以上の間隔で測定した直近の検査値の比較で，血中CK値の低下がない患者。
10．多発性筋炎・皮膚筋炎の皮膚症状改善の薬剤ではない（皮膚症状に対する有効性は未確立）。
全身型重症筋無力症
11．ステロイド剤又はステロイド剤以外の免疫抑制剤による適切な治療でも効果不十分時のみを対象。治療前に，胸腺摘除術の実施を考慮。臨床試験では，プレドニゾロン換算で60mg／隔日以上又は1．2mg／kg／隔日以上，又は30mg／連日以上又は0．6mg／kg／連日以上のステロイド剤を4週間以上服用した治療歴があり，現在も継続してステロイド剤又はステロイド剤以外の免疫抑制剤を服用しているにもかかわらず改善が不十分又は再燃を繰り返す患者に，有効性・安全性が検討されている。
【用法用量】効能共通
添付注射用水（500mg製剤は10mL，2500mg製剤は50mL，5000mg製剤は100mL）で溶解。静注する時は，極めて緩徐に行う。
無又は低ガンマグロブリン血症
人免疫グロブリンG 1回200～600mg（4～12mL）／kg 3～4週間隔 点滴静注・静注。適宜増減。
重症感染症の抗生剤との併用
成人 人免疫グロブリンG 1回2500～5000mg（50～100mL） 点滴静注・静注。
小児 人免疫グロブリンG 1回100～150mg（2～3mL）／kg 点滴静注・静注。
適宜増減。
特発性血小板減少性紫斑病
人免疫グロブリンG 1日200～400mg（4～8mL）／kg 点滴静注・静注。5日間使用しても改善なければ中止。適宜増減。
川崎病の急性期
人免疫グロブリンG 1日200mg（4mL）／kg 5日間 点滴静注・静注。適宜増減。又は2000mg（40mL）／kg 1回 点滴静注。適宜減量。
慢性炎症性脱髄性多発根神経炎（多巣性運動ニューロパチー含む）の筋力低下の改善
人免疫グロブリンG 1日400mg（8mL）／kg 5日間連日 点滴静注・静注。適宜減量。
慢性炎症性脱髄性多発根神経炎（多巣性運動ニューロパチー含む）の

6 病原生物に対する医薬品

運動機能低下の進行抑制
人免疫グロブリンG 「1000mg(20mL)／kg 1日」又は「500mg(10mL)／kg 2日間連日」 3週間隔 点滴静注。
天疱瘡
人免疫グロブリンG 1日400mg(8mL)／kg 5日間連日 点滴静注。適宜減量。
スティーブンス・ジョンソン症候群，中毒性表皮壊死症
人免疫グロブリンG 1日400mg(8mL)／kg 5日間連日 点滴静注。
水疱性類天疱瘡
人免疫グロブリンG 1日400mg(8mL)／kg 5日間連日 点滴静注。
ギラン・バレー症候群
人免疫グロブリンG 1日400mg(8mL)／kg 5日間連日 点滴静注。
血清IgG2値の低下を伴う，肺炎球菌又はインフルエンザ菌を起炎菌とする急性中耳炎，急性気管支炎又は肺炎の発症抑制
人免疫グロブリンG 初回 300mg(6mL)／kg，2回目以降 200mg(4mL)／kg 点滴静注。投与間隔は4週間。
多発性筋炎・皮膚筋炎の筋力低下の改善
成人 人免疫グロブリンG 1日400mg(8mL)／kg 5日間 点滴静注。
全身型重症筋無力症
成人 人免疫グロブリンG 1日400mg(8mL)／kg 5日間 点滴静注。
注意
効能共通
1. 急速注射で血圧降下の可能性。無又は低ガンマグロブリン血症の患者には注意。
2. ショック等の副作用は初日の投与開始1時間以内，また速度を上げるとおこる可能性，これらの時間帯は特に注意。
無又は低ガンマグロブリン血症
3. 投与速度
初日の投与開始から1時間は0．01mL／kg／分で投与。副作用等の異常所見がなければ，徐々に速度を上げてよい。0．06mL／kg／分まで。2日目以降は，前日に耐容した速度で投与。
4. 血清IgGトラフ値を参考に，基礎疾患や感染症等の臨床症状に応じて，投与量，投与間隔を調節する必要を考慮。
重症感染症の抗生剤との併用，特発性血小板減少性紫斑病，スティーブンス・ジョンソン症候群，中毒性表皮壊死症，ギラン・バレー症候群
5. 投与速度
初日の投与開始から1時間は0．01mL／kg／分で投与。副作用等の異常所見がなければ，徐々に速度を上げてよい。0．06mL／kg／分まで。2日目以降は，前日に耐容した速度で投与。
川崎病の急性期
6. 投与速度
(1)．初日の投与開始から1時間は0．01mL／kg／分で投与。副作用等の異常所見がなければ，徐々に速度を上げてよい。0．06mL／kg／分まで。2日目以降は，前日に耐容した速度で投与。
(2)．2000mg(40mL)／kgを1回で投与時は，(1)の速度を遵守するが，急激な循環血液量の増大に注意し，12時間以上かけて点滴静注。
慢性炎症性脱髄性多発根神経炎(多巣性運動ニューロパチー含む)の筋力低下の改善
7. 投与速度
初日の投与開始から1時間は0．01mL／kg／分で投与。副作用等の異常所見がなければ，徐々に速度を上げてよい。0．06mL／kg／分まで。2日目以降は，前日に耐容した速度で投与。
8. 筋力低下の改善は投与終了1ヵ月後に認められることあり，投与終了後1ヵ月間は本剤の追加は行わない。
慢性炎症性脱髄性多発根神経炎(多巣性運動ニューロパチー含む)の運動機能低下の進行抑制
9. 投与速度
投与開始から30分間は0．01mL／kg／分で投与。副作用等の異常所見がなければ，徐々に速度を上げてよい。0．06mL／kg／分まで。2日目以降は，前日に耐容した速度で投与。
天疱瘡，水疱性類天疱瘡
10. 投与速度
初日の投与開始から1時間は0．01mL／kg／分で投与。副作用等の異常所見がなければ，徐々に速度を上げてよい。0．06mL／kg／分まで。2日目以降は，前日に耐容した速度で投与。
11. 症状改善は投与終了4週後までに認められることあり，投与終了後4週間は本剤の追加は行わない。
血清IgG2値の低下を伴う，肺炎球菌又はインフルエンザ菌を起炎菌とする急性中耳炎，急性気管支炎又は肺炎の発症抑制
12. 投与速度
初日の投与開始から1時間は0．01mL／kg／分で投与。副作用等の異常所見がなければ，徐々に速度を上げてよい。0．06mL／kg／分まで。2日目以降は，前日に耐容した速度で投与。
13. 本剤の投与は6回を目安。投与再開時は，対象患者の条件への適合を再度確認し，投与の要否を判断。
多発性筋炎・皮膚筋炎の筋力低下の改善，全身型重症筋無力症
14. 投与速度
初日の投与開始から1時間は0．01mL／kg／分で投与。副作用等の異常所見がなければ，徐々に速度を上げてよい。0．06mL／kg／分まで。2日目以降は，前日に耐容した速度で投与。
15. 少なくとも本剤投与後4週間は再投与しない。4週間以内に再投与時の有効性・安全性は未検討。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分にショックの既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. ショック(0．1～5%未満)，アナフィラキシー(0．1～5%未満)(呼吸困難，頻脈，喘鳴，喘息様症状，胸内苦悶，血圧低下，脈拍微弱，チアノーゼ等)。
2. 肝機能障害(頻度不明)(AST，ALT，AI－P，γ－GTP，LDHの著しい上昇等)，黄疸(頻度不明)。
3. 無菌性髄膜炎(頻度不明)(項部硬直，発熱，頭痛，悪心，嘔吐，意識混濁等)。
4. 急性腎障害(頻度不明)(腎機能検査値(BUN，血清クレアチニン等)の悪化，尿量減少)。
5. 血小板減少(頻度不明)。
6. 肺水腫(頻度不明)(呼吸困難等)。
7. 血栓塞栓症(頻度不明)(脳梗塞，心筋梗塞，肺塞栓症，深部静脈血栓症等，中枢神経症状(眩暈，意識障害，四肢麻痺等)，胸痛，突然の呼吸困難，息切れ，下肢の疼痛・浮腫等)。
8. 心不全(頻度不明)(発症・悪化)(呼吸困難，心雑音，心機能低下，浮腫，尿量減少等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹，掻痒感，水疱，汗疱 顔面潮紅，局所性浮腫，全身発赤，紫斑性皮疹，湿疹，丘疹
精神神経系 痙攣，振戦 眩暈，しびれ感 意識障害
循環器 顔色不良，四肢冷感，胸部圧迫感 血圧上昇，動悸
肝臓 AST，ALT，AI－Pの上昇等
呼吸器 喘息様症状，咳嗽
消化器 悪心，嘔吐 下痢 腹痛
血液 好酸球増多，好中球減少，白血球減少 溶血性貧血
その他 頭痛，発熱，悪寒，戦慄，血管痛，倦怠感 静脈炎 関節痛，筋肉痛，背部痛，CK上昇，ほてり，不機嫌，結膜充血，体温低下
(表終了)

献血ノンスロン1500注射用（1500単位1瓶(溶解液付)）

内 注射 流通
特生

【YJコード】6343424D3027
【薬効分類】6．3．4 血液製剤類
【一般名】乾燥濃縮人アンチトロンビンIII
【メーカー】(製)武田薬品工業
【薬価】54896円/1V
【薬価収載日】2001/07/06
【標榜薬効】血液凝固阻止剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】○先天性アンチトロンビンIII欠乏による血栓形成傾向
○アンチトロンビンIII低下を伴うDIC
○アンチトロンビンIII低下を伴う門脈血栓症
注意
アンチトロンビンIII低下を伴うDIC
1. 緊急措置以外の治療に使用時，アンチトロンビンIII値が正常の70%以下に低下しても，医療上必要と判断時に使用。
アンチトロンビンIII低下を伴う門脈血栓症
2. 完全閉塞した門脈血栓症，陳旧性の門脈血栓症への有効性は期待できないので，他の治療法を考慮。
【用法用量】効能共通
緩徐に静注，点滴静注(添付注射用水で溶解)。
先天性アンチトロンビンIII欠乏による血栓形成傾向
1日1000～3000国際単位(又は20～60国際単位／kg)。適宜減量。
アンチトロンビンIII低下を伴うDIC
アンチトロンビンIIIが正常の70%以下に低下時 成人 1日1500国際単位(又は30国際単位／kg) ヘパリンの持続点滴静注のもとに 投与。
産科的，外科的DIC等の緊急処置 1回40～60国際単位／kg 1日1回 投与。適宜増減。
アンチトロンビンIII低下を伴う門脈血栓症
アンチトロンビンIIIが正常の70%以下に低下時 成人 1日1500国際単位(又は30国際単位／kg) 5日間 投与。血栓縮小傾向があれば，成人 1日1500国際単位(又は30国際単位／kg) 5日間投与を最大2回まで追加できる。
注意
先天性アンチトロンビンIII欠乏に基づく血栓形成傾向，アンチトロンビンIII低下を伴うDIC
1. 出血検査等出血管理しつつ使用。
2. ヘパリンの併用で出血を助長する危険性がある時は単独投与。
3. 最低2日以上使用し効果を判定，使用継続を判断。
アンチトロンビンIII低下を伴うDIC
4. ヘパリンの1日持続点滴は，10000単位，適宜増減。ヘパリンの投与は500単位／時まで。
アンチトロンビンIII低下を伴う門脈血栓症
5. 追加投与 5日間投与後に経過観察し，腹部超音波検査，CT検査等で効果を判定，縮小傾向があるものの効果不十分時に実施。効果なけ

6 病原生物に対する医薬品

れば，追加投与せず，他の治療法を考慮。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分にショックの既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック(頻度不明)，アナフィラキシー(頻度不明)(呼吸困難，喘鳴，胸内苦悶，血圧低下，チアノーゼ等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹 蕁麻疹等
皮膚 注射部位皮膚炎，注射部位炎症
肝臓 AST，ALTの上昇等
消化器 悪心 嘔気，嘔吐
血液 凝固因子異常，PT－INR増加
その他 血尿，頭痛，発熱，好酸球数増加 悪寒，胸部不快感
(表終了)

抗D人免疫グロブリン筋注用1000倍「JB」(1000倍1瓶(溶解液付))

内 注射 流通
特生

【YJコード】6343407X2074
【薬効分類】6．3．4 血液製剤類
【一般名】乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン
【メーカー】製)日本血液製剤機構
【薬価】20155円/1V
【薬価収載日】2015/09/25
【標榜薬効】血漿分画製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】D(Rho)陰性で以前にD(Rho)因子で感作を受けていない女性に対し，下記に投与することにより，D(Rho)因子による感作を抑制
○分娩後，流産後，人工妊娠中絶後，異所性妊娠後，妊娠中の検査・処置後(羊水穿刺，胎位外回転術等)又は腹部打撲後等のD(Rho)感作の可能性がある時
○妊娠28週前後
注意
1．事前に妊産婦のD(Rho)陰性を確認。
2．新生児がD(Rho)陽性である時，胎児・新生児の父親がD(Rho)陽性である時，又は父親がD(Rho)陰性か不明であり，胎児・新生児もD(Rho)陰性が不明の場合も，妊産婦に投与。
3．D(Rho)因子に未感作のD(Rho)陰性の妊産婦に投与。既にD(Rho)因子で感作され抗D(Rho)抗体を持っている女性(分娩前の本剤投与により受動抗D(Rho)抗体を持っている女性除く)及びD(Rho)陰性の新生児を分娩した女性には，本剤投与による予防は無効，投与しない。
4．妊娠28週前後及び妊娠に関連したD(Rho)感作が疑われる時の妊娠中の投与に加え，新生児がD(Rho)陽性の場合，分娩後にも産婦に投与。
【用法用量】分娩後，流産後，人工妊娠中絶後，異所性妊娠後，妊娠中の検査・処置後又は腹部打撲後
72時間以内 1バイアル 筋注(添付溶剤2mLに溶解)。
妊娠28週前後
1バイアル 筋注(添付溶剤2mLに溶解)。

■禁忌
【禁忌】1．D(Rho)陽性の新生児，妊産婦
2．本剤の成分にショックの既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック(頻度不明)(悪心，嘔気，発汗，四肢冷感，血圧低下等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発熱，発疹等
注射部位 疼痛，腫脹，硬結
(表終了)

テタガムP筋注シリンジ250(250国際単位1mL1筒)

内 注射 流通
特生

【YJコード】6343415G1021
【薬効分類】6．3．4 血液製剤類
【一般名】抗破傷風人免疫グロブリン
【メーカー】製)CSLベーリング
【薬価】3694円/1筒
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】血漿分画製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】破傷風の発症予防，発症後の症状軽減
【用法用量】破傷風の発症予防(破傷風の潜伏期の初めに使用) 成人 250国際単位 筋注。
破傷風発症後の症状軽減 5000国際単位以上 筋注。
注意
予防に使用時は，同時に沈降破傷風トキソイドの免疫を開始。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分にショックの既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック(頻度不明)(悪心・嘔吐，発汗・四肢冷感，血圧低下等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発熱，発疹等
注射部位 疼痛，腫脹，硬結
(表終了)

ハプトグロビン静注2000単位「JB」(2000単位100mL1瓶)

内 注射 流通
特生

【YJコード】6343419X1046
【薬効分類】6．3．4 血液製剤類
【一般名】人ハプトグロビン
【メーカー】製)日本血液製剤機構
【薬価】91194円/1V
【薬価収載日】2015/09/25
【標榜薬効】血漿分画製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】熱傷・火傷，輸血，体外循環下開心術等の溶血反応に伴うヘモグロビン血症，ヘモグロビン尿症の治療
【用法用量】成人 1回4000単位 緩徐に点滴静注，又は体外循環時灌流液中に投与。
適宜反復投与。
適宜増減。
注意
1．急速注入で血圧降下の可能性，注射速度を緩徐にする。
2．小児 1回2000単位を目安。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分にショックの既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(呼吸困難，喘鳴，胸内苦悶，血圧低下，脈拍微弱，チアノーゼ等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．5%未満 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹
消化器 嘔吐
(表終了)

ヘブスブリンIH静注1000単位(1000単位5mL1瓶)

内 注射 流通
特生

【YJコード】6343436A1039
【薬効分類】6．3．4 血液製剤類
【一般名】ポリエチレングリコール処理抗HBs人免疫グロブリン
【メーカー】製)日本血液製剤機構 販)田辺三菱製薬
【薬価】35976円/1V
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】血漿分画製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○HBs抗原陽性血液の汚染事故後のB型肝炎発症予防
○HBs抗原陽性のレシピエントにおける肝移植後のB型肝炎再発抑制
○HBc抗体陽性ドナーからの肝移植後のレシピエントにおけるB型肝炎発症抑制
【用法用量】効能共通
極めて徐々に静注，又は点滴静注(生食等中性に近い補液に混合)。

6 病原生物に対する医薬品

HBs抗原陽性血液の汚染事故後のB型肝炎発症予防
成人 1回1000～2000国際単位(本剤 5～10mL)。
小児 1回32～48国際単位(本剤 0.16～0.24mL)／kg。
投与の時期 事故発生後7日以内。48時間以内が望ましい。
HBs抗原陽性のレシピエントの肝移植後のB型肝炎再発抑制
成人 無肝期 5000～10000国際単位(本剤 25～50mL)。
術後初期 1日2000～10000国際単位(本剤 10～50mL)。
小児 無肝期 100～200国際単位(本剤 0.5～1mL)／kg，術後初期 1日40～200国際単位(本剤 0.2～1mL)／kg。
術後初期の投与 7日間以内。以降，状態により血中HBs抗体価200～1000国際単位／L以上を維持。
HBc抗体陽性ドナーからの肝移植後のレシピエントのB型肝炎発症抑制
成人 無肝期 10000国際単位(本剤 50mL)，術後初期 1日10000国際単位(本剤 50mL)。
小児 無肝期 200国際単位(本剤 1mL)／kg，術後初期 1日200国際単位(本剤 1mL)／kg。
術後初期の投与 7日間以内。以降，状態により血中HBs抗体価200国際単位／L以上を維持。
注意
1. 点滴静注で投与。静注時は極めて徐々に行う。低・無ガンマグロブリン血症には注意。
2. 肝移植に大量投与する時，必要投与量を直接又は生食等中性に近い補液に混じ，30分～60分以上かけてシリンジポンプ等で静注又は点滴静注。
3. 肝移植に使用時，血中HBs抗体価の低下によるB型肝炎再発又は発症を防ぐため患者の状態により適宜血中HBs抗体価を測定し，本剤の投与量及び血中HBs抗体価の測定間隔を調節。特に，血中HBs抗体価に影響を与える因子(術前のHBV－DNA量，術中の出血量，術後の腹水貯留・ドレナージ等)が患者ごとに異なっている術後早期並びに患者の肝機能に変化が生じた際には頻回に血中HBs抗体価を測定。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分にショックの既往。
2. HBs抗原陽性(肝移植施行患者除く)。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック(頻度不明)(呼吸困難，喘鳴，胸内苦悶，血圧低下，脈拍微弱，チアノーゼ等)。
2. 急性腎障害(頻度不明)(尿量減少，クレアチニンの上昇，BUNの上昇等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感，顔面潮紅，局所性浮腫等
循環器 血圧降下
肝臓 AST，ALT等の上昇
消化器 悪心，嘔吐，下痢
血液 好中球減少
その他 倦怠感，発熱，頭痛
(表終了)

ヘブスブリン筋注用200単位（200単位1mL1瓶(溶解液付)）

内 注射 流通
特生

【YJコード】6343423X1042
【薬効分類】6.3.4 血液製剤類
【一般名】乾燥抗HBs人免疫グロブリン
【メーカー】製)日本血液製剤機構 販)田辺三菱製薬
【薬価】8838円/1V
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】血漿分画製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○HBs抗原陽性血液の汚染事故後のB型肝炎発症予防
○新生児のB型肝炎予防(沈降B型肝炎ワクチンとの併用)
【用法用量】HBs抗原陽性血液の汚染事故後のB型肝炎発症予防
成人 1回5～10mL(1000～2000国際単位) 筋注(添付溶剤(注射用水)で溶解)。
必要時 増量，又は同量を繰り返す。
小児 0.16～0.24mL／kg(32～48国際単位／kg)。
投与時期 事故発生後7日以内。48時間以内が望ましい。
新生児のB型肝炎予防(沈降B型肝炎ワクチンとの併用)
初回 0.5～1mL(100～200国際単位) 筋注(添付溶剤(注射用水)で溶解)。初回注射の時期 生後5日以内。生後12時間以内が望ましい。
追加 0.16～0.24mL／kg(32～48国際単位／kg) 投与。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分にショックの既往。
2. HBs抗原陽性者(新生児に必要時，HBs抗原検査の結果を待たずに投与できる)。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック(頻度不明)(悪寒，嘔気，発汗，腰痛等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発熱，発疹等
注射部位 疼痛，腫脹，発赤，硬結
(表終了)

6.3.6 混合生物学的製剤

DTビック（0.1mL1瓶）

内 注射 流通
劇

【YJコード】636140AA5020
【薬効分類】6.3.6 混合生物学的製剤
【一般名】沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド
【メーカー】製)阪大微生物病研究会

■効能効果・用法用量
【効能効果】ジフテリア・破傷風の予防
【用法用量】初回免疫 1回0.5mL 2回 3～8週間隔 皮下注。10歳以上 第1回量0.1mL 副反応の少ない時 第2回以後適宜増量。
追加免疫 1回0.5mL 1回 初回免疫後6ヵ月以上あけて(初回免疫終了後12～18ヵ月まで) 皮下注。初回免疫で副反応の強かった者は適宜減量。以後の追加免疫の接種量もこれに準ずる。10歳以上 0.1mL以下 皮下注。
注意
1. 接種対象者・接種時期
定期接種の場合，ジフテリア・破傷風の第2期の予防接種は，11～13歳未満(11歳に達した時から12歳に達するまでの期間を標準的な接種期間)に，0.1mLを1回皮下注。
2. 同時接種
医師が必要と認めた時は他のワクチンと同時に接種できる。

■禁忌
【禁忌】1. 発熱。
2. 重篤な急性疾患。
3. 本剤の成分にアナフィラキシーの既往。
4. 上記の他，予防接種が不適当な者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(蕁麻疹，呼吸困難，血管性浮腫等)。

ミールビック（一人分1瓶(溶解液付)）

内 注射 流通
劇

【YJコード】636940CD1029
【薬効分類】6.3.6 混合生物学的製剤
【一般名】乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン
【メーカー】製)阪大微生物病研究会

■効能効果・用法用量
【効能効果】麻疹・風疹の予防
【用法用量】0.5mL 1回 皮下注(添付溶剤0.7mLで溶解)。
注意
1. 接種対象者
(1). 定期の予防接種
[1]. 第1期 生後12～24月の間にある者。
[2]. 第2期 5～7歳未満で，小学校就学の始期に達する日の1年前の日から当該始期に達する日の前日までの間にある者(小学校就学前の1年間にある者)。
[3]. 昭和37年4月2日～昭和54年4月1日の間に生まれた男性。この対象者は，令和7年3月31日までの適用。
(2). 任意の予防接種
性，年齢に関係なく接種できる。
2. 輸血・ガンマグロブリン製剤投与との関係
輸血・ガンマグロブリン製剤を受けた者は，3ヵ月以上あけて本剤を接種。ガンマグロブリン製剤の大量療法で200mg／kg以上投与を受けた者は，6ヵ月以上あけて本剤を接種。
3. 他の生ワクチン(注射剤)との接種間隔
他の生ワクチン(注射剤)の接種後27日以上あけて本剤を接種。
4. 同時接種
医師が必要と認めた時は他のワクチンと同時に接種できる。

■禁忌
【禁忌】(1). 発熱。

6 病原生物に対する医薬品

(2). 重篤な急性疾患。
(3). 本剤の成分にアナフィラキシーの既往。
(4). 免疫機能に異常のある疾患，免疫抑制をきたす治療を受けている者。
(5). 妊娠。
(6). 上記の他，予防接種が不適当な者。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(蕁麻疹，呼吸困難，血管浮腫等)。
2. 血小板減少性紫斑病(頻度不明)(紫斑，鼻出血，口腔粘膜出血等)。
3. 急性散在性脳脊髄炎(頻度不明)(発熱，頭痛，痙攣，運動障害，意識障害等)。
4. 脳炎・脳症(頻度不明)。
5. 痙攣(熱性痙攣含む)(頻度不明)。

6. 3. 9 その他の生物学的製剤

一般診断用精製ツベルクリン(PPD)1人用((一般診断用・1人用)0. 25μg1瓶(溶解液付))
内 注射 流通
劇

【YJコード】6393401X2028
【薬効分類】6. 3. 9 その他の生物学的製剤
【一般名】精製ツベルクリン
【メーカー】製)日本ビーシージー製造 販)北里薬品産業 販)武田薬品工業
【薬価】3865円/1V
【薬価収載日】1992/04/01
【標榜薬効】生物学的製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】結核の診断
【用法用量】1. 添付溶解液の全量を本剤に溶解し，0. 5μg/mLの精製ツベルクリン溶液をつくる。
2. 精製ツベルクリン溶液0. 1mLを前腕屈側のほぼ中央部又は上腕屈側の中央から下部に皮内注し，注射後約48時間後に判読。
注意
1. 判読
注射後約48時間後に判読(判読の基準は下表の通り。1mm未満は四捨五入)。
(表開始)
反応 判定 判定 符号
発赤の長径9mm以下 陰性 陰性 (−)
発赤の長径10mm以上 陽性 弱陽性 (＋)
発赤の長径10mm以上で硬結を伴うもの 陽性 中等度陽性 (＋＋)
発赤の長径10mm以上で硬結に二重発赤，水疱，壊死等を伴うもの 陽性 強陽性 (＋＋＋)
(表終了)
2. 下記の条件下で，ツベルクリン反応が弱められる。
高齢，栄養不良，細胞性免疫異常，悪性腫瘍，重症・急激な進展時期の結核(粟粒結核・胸膜炎・髄膜炎・重症肺結核等)，ウイルス感染症(麻疹・風疹・インフルエンザ・水痘等)又はそれらの生ワクチン接種，膠原病，ホジキン病，サルコイドーシス，薬剤(免疫抑制剤・副腎皮質ホルモン剤・制癌剤等)の投与中。

■禁忌
【禁忌】1. ツベルクリン反応検査で水疱，壊死等の強い反応を示した者。
2. 上記の他，ツベルクリン反応検査が不適当な者。

イムノブラダー膀注用80mg (80mg1瓶(溶解液付))
内 外用 流通
劇 ハイリスク

【YJコード】6391700X4026
【薬効分類】6. 3. 9 その他の生物学的製剤
【一般名】乾燥BCG膀胱内用(日本株)
【メーカー】製)日本ビーシージー製造 販)日本化薬
【薬価】14643.3円/1V
【薬価収載日】2004/07/09
【ハイリスク分類】抗悪性腫瘍剤
【標榜薬効】抗悪性腫瘍剤
【区分】抗がん剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】表在性膀胱癌，膀胱上皮内癌
注意
1. 癌の予防薬ではない。
2. 浸潤性の膀胱癌(組織学的深達度T2以上)は適応外，投与前に必ず生検等を実施し，浸潤性ではないことを確認。
3. 本剤の治療投与で治癒者への維持療法の有効性・安全性は未確立。
【用法用量】1. 薬剤の調製
本剤1本(80mg)に添付溶剤2mLを加え40mg/mLの懸濁液とする。これに生食39mLをさらに加え均等なBCG希釈液を調製。
2. 投与法
尿道カテーテルを膀胱内に無菌条件下で挿入し，残尿を排出後，80mgのBCGを含有している希釈液を同カテーテルより膀胱内にゆっくりと注入し，2時間膀胱内に保持。週1回8週間繰り返す。
用量及び回数は症状に応じ適宜増減し，投与間隔も必要時延長できる。
注意
本剤は膀胱内注入にのみ使用，経皮接種又はいかなる経路(皮内，皮下，筋肉内，静脈内等)でも注射しない。

■禁忌
【禁忌】1. AIDS・白血病・悪性リンパ腫等併発疾患で免疫抑制状態，先天性・後天性免疫不全。
2. HIVキャリア。
3. 活動性の結核症。
4. 熱性疾患，尿路感染症，肉眼的血尿。
5. 妊婦・妊娠の可能性。
6. BCG全身性過敏症反応の既往。
7. 免疫抑制剤・免疫抑制量の副腎皮質ステロイド剤の投与患者。
8. 抗癌療法(例 細胞傷害性薬剤療法，放射線照射)中。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. BCG感染(敗血症，肝炎，脳脊髄膜炎，膀胱炎，腎盂腎炎，腎炎，前立腺炎，精巣上体炎，動脈瘤等)
(1)播種性BCG感染(頻度不明)(48時間以上続くインフルエンザ様熱性症状，39℃以上の発熱，反復投与によって激しさを増す全身症状，肝機能検査値異常の持続)，死亡。
(2)局所性BCG感染(膀胱(2. 0%)・管腔等(前立腺(0. 5%)，尿管(頻度不明)，腎盂(頻度不明)，腎(頻度不明)，精巣上体(頻度不明)等))。
(3)異所性BCG感染(頻度不明)(動脈瘤等)。
2. 重篤な間質性肺炎(頻度不明)(発熱，咳嗽，呼吸困難等，胸部X線異常，低酸素血症，死亡)。
3. 全身性遅延型過敏性反応(頻度不明)(咳嗽，皮疹等を伴ったアナフィラキシー，死亡)。
4. 萎縮膀胱(頻度不明)。
5. 腎不全(頻度不明)等の重篤な腎障害。
6. ライター症候群(結膜炎，多発性関節炎等)(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 10%以上 10%未満 頻度不明
泌尿器 排尿痛(57. 6%) 頻尿(56. 6%) 肉眼的血尿(29. 3%) 尿混濁(21. 2%) 膀胱容量減少(18. 7%) 排尿困難(15. 2%) 尿道痛，残尿感 膀胱タンポナーデ(膀胱内血腫による)，尿道狭窄，切迫性尿失禁
泌尿器 尿沈渣[白血球](59. 1%) 尿沈渣[赤血球](38. 1%) 尿蛋白(29. 8%) 尿潜血(28. 7%) 尿糖(10. 1%)
生殖器 陰茎浮腫
腎臓 血清クレアチニン上昇，BUN上昇
肝臓 肝機能検査値異常[Al−P，AST，ALT，γ−GTP，LDHの上昇] 肝機能障害
血液 白血球数の増加・減少(17. 5%) 赤血球沈降速度の異常(14. 1%) 赤血球数の増加・減少，血色素量減少 ヘマトクリット減少，血小板数減少，血清総蛋白低下，血清電解質異常[Na，K，Cl]
皮膚 蕁麻疹，発疹，皮疹
精神神経系 倦怠感 頭痛，頭重感
呼吸器 肺炎 咳嗽
消化器 悪心，食欲不振，口内炎，ストレス性胃潰瘍による出血 嘔吐，下痢
発熱 発熱(33. 8%) 悪寒戦慄 体熱感
その他 関節痛，下腹部痛，下腹部重圧感，消耗，衰弱 腰痛，筋肉痛，鼠径部リンパ節腫脹，結膜炎
(表終了)

6. 4 寄生動物用薬

6. 4. 1 抗原虫剤

アネメトロ点滴静注液500mg (500mg100mL1瓶)
内 注射 流通

【YJコード】6419401A1027
【薬効分類】6. 4. 1 抗原虫剤
【一般名】メトロニダゾール
【メーカー】製)ファイザー

6 病原生物に対する医薬品

【薬価】1131円/1V
【薬価収載日】2014/09/02
【標榜薬効】嫌気性菌感染症治療剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇嫌気性菌感染症
適応菌種
ペプトストレプトコッカス属，バクテロイデス属，プレボテラ属，ポルフィロモナス属，フソバクテリウム属，クロストリジウム属，ユーバクテリウム属
適応症
・敗血症
・深在性皮膚感染症
・外傷・熱傷及び手術創等の二次感染
・骨髄炎
・肺炎，肺膿瘍，膿胸
・骨盤内炎症性疾患
・腹膜炎，腹腔内膿瘍
・胆嚢炎，肝膿瘍
・化膿性髄膜炎
・脳膿瘍
〇感染性腸炎
適応菌種
クロストリジウム・ディフィシル
適応症
感染性腸炎（偽膜性大腸炎含む）
〇アメーバ赤痢
注意
感染性腸炎（偽膜性大腸炎含む）
「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
【用法用量】成人　1回500mg　1日3回　20分以上かけ　点滴静注。
難治性・重症感染症　1回500mg　1日4回。
注意
1. 中枢神経障害，末梢神経障害等の副作用の可能性，10日を超えて投与する時は，副作用に注意。
2. 本剤は嫌気性菌に抗菌活性を有する。好気性菌等を含む混合感染と診断された時，混合感染が疑われる時は，適切な薬剤を併用して治療。
3. クロストリジウム・ディフィシルの感染性腸炎では，他の抗菌薬併用で，治癒遷延の可能性，併用の必要性を検討。
4. 血液透析患者 血液透析により除去されるため，透析後に投与。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 脳・脊髄に器質的疾患（化膿性髄膜炎・脳膿瘍除く）。
3. 妊娠3ヵ月以内（有益性が危険性を上回る疾患除く）。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 中枢神経障害（頻度不明）（脳症，痙攣，錯乱，幻覚，小脳失調等，ふらつき，歩行障害，意識障害，構語障害，四肢のしびれ等）。
2. 末梢神経障害（頻度不明）（四肢のしびれ，異常感等）。
3. 無菌性髄膜炎（頻度不明）（頸部硬直，発熱，頭痛，悪心・嘔吐，意識混濁等）。
4. 中毒性表皮壊死融解症（頻度不明），皮膚粘膜眼症候群（頻度不明）。
5. 急性膵炎（頻度不明）（腹痛，背部痛，悪心・嘔吐，血清アミラーゼ値の上昇等）。
6. 白血球減少（頻度不明），好中球減少（頻度不明）。
7. 肝機能障害（頻度不明）。
8. QT延長（頻度不明），心室頻拍（Torsades de pointes含む）（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 10%未満 頻度不明
胃腸障害 下痢 悪心，腹痛，嘔吐 舌苔，胃不快感，口内炎，舌炎，口内乾燥，胃腸の炎症
一般・全身障害・投与部位の状態　無力症，発熱
感染症・寄生虫症　カンジダ属の出現，膿疱
肝胆道系障害　AST増加，ALT増加，γ－GTP増加 総ビリルビン上昇，AI－P上昇，LDH上昇，黄疸
眼障害　複視，近視
筋骨格系・結合組織障害　筋肉痛
血液・リンパ系障害　血小板減少症，血液障害
呼吸器，胸郭・縦隔障害　咳嗽
心臓障害　心房細動，洞性頻脈
神経系障害　味覚異常 頭痛，傾眠，浮動性眩暈，運動失調，痙攣，耳鳴，難聴
腎・尿路障害　着色尿
精神障害　幻覚
代謝・栄養障害　食欲減退
皮膚・皮下組織障害　湿疹，皮膚乾燥 発疹，蕁麻疹，血管浮腫，水疱性皮膚炎，固定薬疹
免疫系障害　ヤーリッシュ・ヘルクスハイマー反応
（表終了）

バクトラミン注（5mL1管）

両　注射　流通

【YJコード】6419500A1020
【薬効分類】6. 4. 1　抗原虫剤
【一般名】スルファメトキサゾール・トリメトプリム
【メーカー】(製)太陽ファルマ　販)中外製薬
【薬価】690円/1A
【薬価収載日】1993/11/26
【標榜薬効】カリニ肺炎治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】適応菌種
ニューモシスチス・カリニ
適応症
カリニ肺炎
【用法用量】トリメトプリム　1日15～20mg／kg　1日3回　分割　1～2時間かけ　点滴静注。
適宜増減。
注意
1. 14日以上の投与は，有益性が危険性を上回る時のみ。
2. 腎機能障害 血清中半減期が延長するので，クレアチニンクリアランス値を指標として調整。（参考 外国人経口投与データ）
Ccrを指標とした用量設定の目安
（表開始）
Ccr（mL／分） 推奨量
30＜Ccr 通常量
15≦Ccr≦30 通常の1／2量
Ccr＜15 投与しない
（表終了）
Ccr クレアチニンクリアランス

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分・サルファ剤に過敏症の既往。
2. 妊婦・妊娠の可能性。
3. 低出生体重児，新生児。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 再生不良性貧血，巨赤芽球性貧血，メトヘモグロビン血症，血小板減少症，無顆粒球症，溶血性貧血，汎血球減少（各頻度不明）。
2. 血栓性血小板減少性紫斑病（血小板減少，溶血性貧血（破砕赤血球の出現），精神神経症状，発熱，腎機能障害），溶血性尿毒症症候群（各頻度不明）（血小板減少，溶血性貧血（破砕赤血球の出現），急性腎障害）。
3. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（不快感，口内異常感，喘鳴，眩暈，便意，耳鳴，発汗，浮腫等）。
4. 皮膚粘膜眼症候群，中毒性表皮壊死融解症，多形紅斑（各頻度不明）。
5. 薬剤性過敏症症候群（頻度不明）（発疹，発熱，肝機能障害，リンパ節腫脹，白血球増加，好酸球増多，異型リンパ球出現等を伴う遅発性の重篤な過敏症状），ヒトヘルペスウイルス6等のウイルスの再活性化。
6. 急性膵炎（頻度不明）。
7. 偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎（頻度不明）（腹痛，頻回の下痢）。
8. 重度の肝障害（頻度不明）。
9. 急性腎障害，間質性腎炎（各頻度不明）。
10. 無菌性髄膜炎，末梢神経炎（各頻度不明）。
11. 間質性肺炎，PIE症候群（各頻度不明）（発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常，好酸球増多等）。
12. 低血糖発作（頻度不明）。
13. 高カリウム血症，低ナトリウム血症（各頻度不明）。
14. 横紋筋融解症（頻度不明）（筋肉痛，脱力感，CK上昇，血中・尿中ミオグロビン上昇等），急激な腎機能悪化，急性腎障害等。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
血液 血小板減少，顆粒球減少
過敏症　発疹 紅斑，掻痒感，水疱，蕁麻疹，光線過敏症
皮膚　皮膚血管炎（白血球破砕性血管炎，IgA血管炎等）
消化器 悪心，嘔吐　食欲不振，舌炎，下痢，胃不快感，口渇，口内炎，口角炎，血便，腹痛，便秘
肝臓 AI－P，ALT，AST，γ－GTPの上昇 黄疸
腎臓　BUN上昇 腎機能障害，腎障害，血清クレアチニンの上昇，血尿
精神神経系　眩暈，幻覚，痙攣，抑うつ，いらいら感，頭痛，うとうと状態，ふらふら感，しびれ感，ふるえ，脱力，倦怠感
その他 静脈炎　発熱，熱感，胸内苦悶，血圧下降，血圧上昇，動悸，発汗，顔面潮紅，浮腫，関節痛，筋（肉）痛，血色素尿，ぶどう膜炎
（表終了）

フラジール内服錠250mg（250mg1錠）

両　内服　流通

【YJコード】6419002F1131

6 病原生物に対する医薬品

【薬効分類】6．4．1 抗原虫剤
【一般名】メトロニダゾール
【メーカー】製)シオノギファーマ 販)塩野義製薬
【薬価】36.2円/1T
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】抗原虫剤
【区分】抗生剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○トリコモナス症(膣トリコモナスによる感染症)
○嫌気性菌感染症
適応菌種 ペプトストレプトコッカス属，バクテロイデス属，プレボテラ属，ポルフィロモナス属，フソバクテリウム属，クロストリジウム属，ユーバクテリウム属
適応症
深在性皮膚感染症
外傷・熱傷及び手術創等の二次感染
骨髄炎
肺炎，肺膿瘍
骨盤内炎症性疾患
腹膜炎，腹腔内膿瘍
肝膿瘍
脳膿瘍
○感染性腸炎
適応菌種
クロストリジウム・ディフィシル
適応症
感染性腸炎(偽膜性大腸炎含む)
○細菌性膣症
適応菌種
ペプトストレプトコッカス属，バクテロイデス・フラジリス，プレボテラ・ビビア，モビルンカス属，ガードネラ・バジナリス
適応症
細菌性膣症
○ヘリコバクター・ピロリ感染症
胃潰瘍・十二指腸潰瘍・胃MALTリンパ腫・特発性血小板減少性紫斑病・早期胃癌の内視鏡的治療後胃のヘリコバクター・ピロリ感染症，ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎
○アメーバ赤痢
○ランブル鞭毛虫感染症
注意
感染性腸炎(偽膜性大腸炎含む)
1.「抗微生物薬適正使用の手引き」を参照，抗菌薬投与の必要性を判断し，適切な時に投与。
ヘリコバクター・ピロリ感染症
2. プロトンポンプインヒビター(ランソプラゾール，オメプラゾール，ラベプラゾールナトリウム，エソメプラゾール，ボノプラザン)，アモキシシリン水和物，クラリスロマイシン併用による除菌治療が不成功だった患者に適用。
3. 進行期胃MALTリンパ腫へのヘリコバクター・ピロリ除菌治療の有効性は未確立。
4. 特発性血小板減少性紫斑病では，ガイドライン等を参照し，ヘリコバクター・ピロリ除菌治療が適切な症例にのみ行う。
5. 早期胃癌の内視鏡的治療後胃以外には，ヘリコバクター・ピロリ除菌治療による胃癌の発症抑制への有効性は未確立。
6. ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎は，ヘリコバクター・ピロリの陽性と内視鏡検査で確認。
【用法用量】トリコモナス症(膣トリコモナスの感染症)
成人 1クール メトロニダゾール 1回250mg 1日2回 10日間 内服。
嫌気性菌感染症
成人 メトロニダゾール 1回500mg 1日3回又は4回 内服。
感染性腸炎
成人 メトロニダゾール 1回250mg 1日4回，又は1回500mg 1日3回 10～14日間 内服。
細菌性膣症
成人 メトロニダゾール 1回250mg 1日3回，又は1回500mg 1日2回 7日間 内服。
ヘリコバクター・ピロリ感染症
アモキシシリン水和物，クラリスロマイシン，プロトンポンプインヒビター併用によるヘリコバクター・ピロリの除菌治療が不成功時
成人 メトロニダゾール 1回250mg，アモキシシリン水和物 1回750mg，プロトンポンプインヒビター 3剤を同時に 1日2回 7日間 内服。
アメーバ赤痢
成人 メトロニダゾール 1回500mg 1日3回 10日間 内服。
症状により 1回750mg 1日3回 内服。
ランブル鞭毛虫感染症
成人 メトロニダゾール 1回250mg 1日3回 5～7日間 内服。
注意
効能共通
1. 末梢神経障害，中枢神経障害等の副作用があらわれることがあるので，特に10日を超えて本剤を投与する場合や1500mg／日以上の高用量投与時には注意。
ヘリコバクター・ピロリ感染症
2. プロトンポンプインヒビターは下記のいずれか1剤を選択。
・ランソプラゾール 1回30mg。
・オメプラゾール 1回20mg。
・ラベプラゾールナトリウム 1回10mg。
・エソメプラゾール 1回20mg。
・ボノプラザン 1回20mg。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 脳・脊髄に器質的疾患(脳膿瘍除く)。
3. 妊娠3ヵ月以内(有益性が危険性を上回る疾患除く)。

■副作用
【副作用】重大な副作用
効能共通
1. 末梢神経障害(頻度不明)(四肢のしびれ，異常感等)。
2. 中枢神経障害(頻度不明)(脳症，痙攣，錯乱，幻覚，小脳失調等，ふらつき，歩行障害，意識障害，構語障害，四肢のしびれ等)。
3. 無菌性髄膜炎(頻度不明)(項部硬直，発熱，頭痛，悪心・嘔吐，意識混濁等)。
4. 中毒性表皮壊死融解症，皮膚粘膜眼症候群(各頻度不明)。
5. 急性膵炎(頻度不明)(腹痛，背部痛，悪心・嘔吐，血清アミラーゼ値の上昇等)。
6. 白血球減少，好中球減少(各頻度不明)。
7. 肝機能障害(頻度不明)。
8. QT延長，心室頻拍(Torsades de pointes含む)(各頻度不明)。
ヘリコバクター・ピロリ感染症
9. 出血性大腸炎(頻度不明)(腹痛，血便，頻回の下痢)。
その他の副作用(発現時中止等)(トリコモナス症(膣トリコモナスによる感染症)，嫌気性菌感染症，感染性腸炎，細菌性膣症，アメーバ赤痢，ランブル鞭毛虫感染症)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹
消化器 舌苔，食欲不振，悪心，胃不快感，下痢，腹痛，味覚異常
肝臓 AST上昇，ALT上昇，総ビリルビン上昇，AI－P上昇，LDH上昇，γ－GTP上昇
生殖器 Candida albicansの出現
その他 暗赤色尿，発熱
(表終了)
その他の副作用(発現時中止等)(ヘリコバクター・ピロリ感染症)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感
血液 好塩基球増多
消化器 下痢，胸やけ，悪心，上腹部痛，味覚異常，口腔アフタ，舌炎，鼓腸，黒色便
精神神経系 うつ病，頭痛，浮動性眩暈，不安定感
その他 眼精疲労，疲労，しびれ感
(表終了)

6．4．2 駆虫剤

ストロメクトール錠3mg（3mg1錠）

両 内服 流通
劇

【YJコード】6429008F1020
【薬効分類】6．4．2 駆虫剤
【一般名】イベルメクチン
【メーカー】製)MSD 販)マルホ
【薬価】574.8円/1T
【薬価収載日】2002/12/06
【標榜薬効】駆虫剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○腸管糞線虫症
○疥癬
注意
疥癬
1. 確定診断された患者，その患者と接触の機会があり，疥癬の症状を呈する者に使用。
2. 爪疥癬には無効のため，使用しない。
【用法用量】腸管糞線虫症
約200μg／kg 2週間隔で2回 水とともに 内服。
疥癬
約200μg／kg 1回 水とともに 内服。
下記，体重ごとの1回量。
(表開始)
体重(kg) 錠数
15－24 1
25－35 2
36－50 3
51－65 4
66－79 5
≧80 約200μg／kg
(表終了)
注意
効能共通
1. 水のみで服用。高脂肪食により血中薬物濃度上昇のおそれ。空腹時に投与。

6 病原生物に対する医薬品

腸管糞線虫症
2. 糞便内幼虫が陰転しない時は再投与を考慮。
疥癬
3. 重症型(角化型疥癬等) 初回投与後, 1～2週間以内に検鏡含めて効果を確認し, 2回目の投与を考慮。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 中毒性表皮壊死融解症, 皮膚粘膜眼症候群(各頻度不明)。
2. 肝機能障害(著しいAST, ALTの上昇等), 黄疸(各頻度不明)。
3. 血小板減少(頻度不明)。
4. 意識障害(頻度不明)(昏睡, 意識レベルの低下, 意識変容状態等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 掻痒, 発疹 掻痒の一過性の増悪, 蕁麻疹
肝臓 肝機能異常(AST上昇, ALT上昇, 総ビリルビン値上昇, γ－GTP上昇) AI－P上昇
腎臓 BUN上昇
消化器系 悪心, 嘔吐 下痢, 食欲不振, 便秘, 腹痛
精神神経系 眩暈, 傾眠, 振戦
血液 貧血, 好酸球数増加 白血球数減少, リンパ球数増加, 単球数減少
その他 LDH上昇 血尿 無力症・疲労, 低血圧, 気管支喘息の増悪
(表終了)

スミスリンローション5%（5%1g）

両 外用 流通

【YJコード】6429700Q1021
【薬効分類】6. 4. 2 駆虫剤
【一般名】フェノトリン
【メーカー】製)クラシエ 販)クラシエ薬品
【薬価】70.6円/1g
【薬価収載日】2014/05/23
【標榜薬効】駆虫剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】疥癬
注意
1. 疥癬は, 確定診断された患者, その患者と接触の機会があり, 疥癬の症状を呈する者に使用。
2. 角化型疥癬・爪疥癬の有効性・安全性は未確立。
【用法用量】1回1本(本剤 30g) 1週間隔 頸部以下(頸部から足底まで)の皮膚に塗布 12時間以上経過後 入浴, シャワー等で洗浄, 除去。
注意
1. ヒゼンダニを確実に駆除するため, 最低2回の塗布を行う。
2. 2回目以降は1週ごとに検鏡を含めて効果を確認し, 再塗布を考慮。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1～5%未満 頻度不明
皮膚 皮膚炎, 接触性皮膚炎, ひびあかぎれ(皮膚亀裂), 水疱, 末梢性浮腫 皮膚乾燥
肝臓 AST上昇, ALT上昇
血液 血小板増加
末梢神経系 ヒリヒリ感(錯感覚)
(表終了)

7 治療を主目的としない医薬品

7 治療を主目的としない医薬品

7．1 調剤用薬

7．1．1 賦形剤

乳糖水和物「ホエイ」（10g）

両 内服 流通

【YJコード】7111001X1370
【薬効分類】7．1．1 賦形剤
【一般名】乳糖水和物
【メーカー】製)ヴィアトリス・ヘルスケア 販)ヴィアトリス製薬
【薬価】15.6円/10g
【薬価収載日】2023/12/08
【標榜薬効】賦形剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】賦形剤として調剤
【用法用量】賦形剤として調剤。

7．1．2 軟膏基剤

オリブ油＊（丸石）（10mL）

両 外用 流通

【YJコード】7121704X1300
【薬効分類】7．1．2 軟膏基剤
【一般名】オリブ油
【メーカー】製)丸石製薬 販)ニプロ
【薬価】17.3円/10mL
【標榜薬効】軟膏基剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1．軟膏剤，硬膏剤，リニメント剤等の基剤として調剤
2．皮膚・粘膜の保護剤
【用法用量】軟膏剤，硬膏剤，リニメント剤等の基剤として調剤。
皮膚・粘膜の保護剤。

白色ワセリン＊（日興製薬）（10g）

両 外用 流通

【YJコード】7121703X1216
【薬効分類】7．1．2 軟膏基剤
【一般名】白色ワセリン
【メーカー】製)日興製薬 販)日興製薬販売 販)丸石製薬
【薬価】24.3円/10g
【標榜薬効】軟膏基剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】軟膏基剤として調剤，皮膚保護剤
【用法用量】軟膏基剤として調剤。皮膚保護剤。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
皮膚 接触皮膚炎
（表終了）

7．1．3 溶解剤

大塚蒸留水（500mL1瓶）

両 注射 流通

【YJコード】7131400A5020
【薬効分類】7．1．3 溶解剤
【一般名】注射用水
【メーカー】製)大塚製薬工場 販)大塚製薬
【薬価】216円/1V
【標榜薬効】注射用水

■効能効果・用法用量
【効能効果】注射剤の溶解希釈，注射剤の製剤
【用法用量】注射剤の溶解・希釈，注射剤の製剤に使用。

精製水「ケンエー」（10mL）

両 内服 流通

【YJコード】7131001X1100
【薬効分類】7．1．3 溶解剤
【一般名】精製水
【メーカー】製)健栄製薬
【薬価】2.5円/10mL
【標榜薬効】溶解剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇溶解剤として製剤，試薬，試液の調製
〇医療機器の洗浄
【用法用量】溶解剤で製剤，試薬，試液の調製に使用。
医療機器の洗浄に使用。
溶解剤でコンタクトレンズの洗浄剤，保存剤の調製に使用（コンタクトレンズ装着液として用いない）。

注射用水（20mL1管）

両 注射 流通

【YJコード】7131400A2110
【薬効分類】7．1．3 溶解剤
【一般名】注射用水
【メーカー】製)日新製薬 販)宇治製薬 販)ヴィアトリス製薬 販)共和薬品工業 販)日本ジェネリック 販)ネオクリティケア製薬 販)ファイザー 販)富士フイルムファーマ 販)マイラン製薬 販)和薬
【薬価】100円/1A
【標榜薬効】注射用水

■効能効果・用法用量
【効能効果】注射用医薬品の溶解・希釈
【用法用量】注射用医薬品の溶解・希釈に使用。

注射用水（100mL1瓶）

両 注射 流通

【YJコード】7131400A4040
【薬効分類】7．1．3 溶解剤
【一般名】注射用水
【メーカー】製)光製薬
【薬価】147円/1V
【標榜薬効】注射用水

■効能効果・用法用量
【効能効果】注射剤の溶解希釈，注射剤の製剤
【用法用量】注射用医薬品の溶解・希釈，注射剤の製剤に使用。

プロピレングリコール＊（丸石）（10mL）

両 外用 流通

【YJコード】7139700X1047
【薬効分類】7．1．3 溶解剤
【一般名】プロピレングリコール
【メーカー】製)丸石製薬
【薬価】10.9円/10mL
【標榜薬効】溶解剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】注射剤，内用剤等の溶解補助剤，軟膏基剤として調剤
【用法用量】注射剤，内用剤等の溶解補助剤，軟膏基剤として調剤。

滅菌精製水＊（ヤクハン）（10mL）

両 外用 流通

【YJコード】7131700X1081
【薬効分類】7．1．3 溶解剤
【一般名】滅菌精製水
【メーカー】製)ヤクハン製薬 販)安藤製薬 販)サラヤ 販)日医工 販)日興製薬販売 販)ニプロ
【薬価】4.3円/10mL
【標榜薬効】溶解剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】溶解剤として無菌条件とする製剤の調製，医療器具の洗浄
【用法用量】溶解剤で無菌条件とする製剤の調製，医療器具の洗浄に使用。

7 治療を主目的としない医薬品

7．1．4 矯味，矯臭，着色剤

単シロップ「ケンエー」（10mL）

両 内服 流通

【YJコード】7142001X1040
【薬効分類】7．1．4 矯味，矯臭，着色剤
【一般名】単シロップ
【メーカー】製)健栄製薬
【薬価】5.5円/10mL
【標榜薬効】矯味剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】矯味として調剤
【用法用量】矯味として調剤。

7．1．9 その他の調剤用薬

塩化ナトリウム＊（山善）（10g）

両 内服 外用 流通

【YJコード】7190701X1095
【薬効分類】7．1．9 その他の調剤用薬
【一般名】塩化ナトリウム
【メーカー】製)山善製薬 販)日興製薬販売
【薬価】9.1円/10g
【標榜薬効】調剤用薬（食塩）

■効能効果・用法用量

【効能効果】経口
〇食塩喪失時の補給
外用
〇皮膚・創傷面・粘膜の洗浄・湿布
〇含嗽・噴霧吸入剤として気管支粘膜洗浄・喀痰排出促進
その他
〇医療用器具の洗浄
【用法用量】食塩喪失時の補給
成人 1回1～2g 内服（そのまま，又は水に溶解）。
適宜増減。
皮膚・創傷面・粘膜の洗浄・湿布
等張液で皮膚・創傷面・粘膜の洗浄・湿布に使用。
含嗽・噴霧吸入剤で気管支粘膜洗浄・喀痰排出促進
等張液で含嗽，噴霧吸入に使用。
医療用器具の洗浄
生食で医療用器具の洗浄に使用。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）（経口）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
大量投与 悪心・嘔吐等の消化器症状，高ナトリウム血症，うっ血性心不全，浮腫
（表終了）

7．2 診断用薬（体外診断用医薬品を除く）

7．2．1 X線造影剤

イオパミドール300注20mL「F」（61．24%20mL1瓶）

内 注射 流通

【YJコード】7219412A9127
【薬効分類】7．2．1 X線造影剤
【一般名】イオパミドール
【メーカー】製)富士製薬工業
【薬価】1394円/1V
【薬価収載日】2020/12/10
【標榜薬効】非イオン性尿路・血管造影剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】脳血管撮影，大動脈撮影，選択的血管撮影，四肢血管撮影，ディジタルX線撮影法による静脈性血管撮影，ディジタルX線撮影法による動脈性血管撮影，コンピューター断層撮影の造影，静脈性尿路撮影，逆行性尿路撮影
【用法用量】成人 下記1回量。適宜増減。
（表開始）
効能・効果 本剤（mL）
脳血管撮影 6～13
血管心臓撮影（肺動脈撮影含む） －
大動脈撮影 30～50
選択的血管撮影 5～40
四肢血管撮影 20～50
ディジタルX線撮影法による静脈性血管撮影 30～50
ディジタルX線撮影法による動脈性血管撮影 3～30（注1）
コンピューター断層撮影の造影 100（注3）
静脈性尿路撮影 40～100（注2）
逆行性尿路撮影 5～200（注1）
（表終了）
（注1）原液又は原液を生食で2～4倍希釈して使用。
（注2）50mL以上投与時 点滴静注。
（注3）50mL以上投与時 点滴静注。
胸・腹部を高速らせんコンピューター断層撮影で撮像時 撮影対象部位により速度を調節。肝臓領域を除く胸・腹部の時 100mLまで，肝臓領域の時 150mLまで。

■禁忌

【禁忌】1．ヨード・ヨード造影剤に過敏症の既往。
2．重篤な甲状腺疾患。

■副作用

【副作用】重大な副作用
効能共通
1．ショック（頻度不明）（遅発性含む）（失神，意識消失，呼吸困難，呼吸停止，心停止等），軽度の過敏症状。
2．アナフィラキシー（頻度不明）（遅発性含む）（呼吸困難，咽・喉頭浮腫，顔面浮腫等）。
3．腎不全（頻度不明）（急性腎障害）。
4．急性呼吸窮迫症候群，肺水腫（各頻度不明）（急速に進行する呼吸困難，低酸素血症，両側性びまん性肺浸潤影等の胸部X線異常等）。
5．ショックを伴わない意識障害，失神（各頻度不明）。
6．血小板減少（頻度不明）。
7．痙攣発作（頻度不明）。
8．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
9．心室細動，冠動脈攣縮（各頻度不明）。
10．皮膚障害（頻度不明）（皮膚粘膜眼症候群，急性汎発性発疹性膿疱症）（発熱，紅斑，小膿疱，掻痒感，眼充血，口内炎等）。
11．アレルギー反応に伴う急性冠症候群（頻度不明）。
脳血管撮影
12．せん妄，錯乱，健忘症，麻痺（各頻度不明）。
脳血管撮影，血管心臓撮影（肺動脈撮影含む），大動脈撮影
13．造影剤脳症（頻度不明）（意識障害，麻痺，失語，皮質盲等の中枢神経症状）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 掻痒感，蕁麻疹 潮紅
循環器 血圧上昇，頻脈，血圧低下，顔面蒼白 チアノーゼ，動悸，不整脈，虚脱，徐脈
呼吸器 咳，くしゃみ 咽頭不快感，喘息発作，頻呼吸，喉頭不快感，嗄声，鼻閉，鼻汁
精神神経系 閃光感 頭痛，眩暈，羞明感，しびれ（感） あくび，不安感，振戦，一過性盲等の視力障害，意識レベルの低下，錯感覚（ピリピリ感等）
自律神経系 発汗
消化器 口渇，悪心 嘔吐，腹痛 口内にがみ感，口腔内不快感，唾液増加，下痢，耳下腺腫大
内分泌系 甲状腺機能低下症
その他 熱感 発熱 胸内苦悶感，悪寒，冷感，倦怠感，異常感，結膜充血，流涙，疼痛，背部痛，四肢痛，関節痛
（表終了）

イオパミドール370注シリンジ100mL「F」（75．52%100mL1筒）

内 注射 流通

【YJコード】7219412G7089
【薬効分類】7．2．1 X線造影剤
【一般名】イオパミドール
【メーカー】製)富士製薬工業
【薬価】4323円/1筒
【薬価収載日】2020/12/11
【標榜薬効】非イオン性尿路・血管造影剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】血管心臓撮影（肺動脈撮影含む），大動脈撮影，選択的血管撮影，四肢血管撮影，ディジタルX線撮影法による静脈性血管撮影，ディジタルX線撮影法による動脈性血管撮影，コンピューター断層撮影の造影，静脈性尿路撮影
【用法用量】成人 下記1回量。適宜増減。
（表開始）
効能・効果 本剤（mL）
脳血管撮影 －
血管心臓撮影（肺動脈撮影含む） 20～50
大動脈撮影 30～50

7 治療を主目的としない医薬品

選択的血管撮影 5～40
四肢血管撮影 20～50
ディジタルX線撮影法による静脈性血管撮影 30～50
ディジタルX線撮影法による動脈性血管撮影 3～30
コンピューター断層撮影の造影 100
静脈性尿路撮影 20～100
逆行性尿路撮影 －
（表終了）

■禁忌

【禁忌】1. ヨード・ヨード造影剤に過敏症の既往。
2. 重篤な甲状腺疾患。

■副作用

【副作用】重大な副作用
効能共通
1. ショック（頻度不明）（遅発性含む）（失神，意識消失，呼吸困難，呼吸停止，心停止等），軽度の過敏症状。
2. アナフィラキシー（頻度不明）（遅発性含む）（呼吸困難，咽・喉頭浮腫，顔面浮腫等）。
3. 腎不全（頻度不明）（急性腎障害）。
4. 急性呼吸窮迫症候群，肺水腫（各頻度不明）（急速に進行する呼吸困難，低酸素血症，両側性びまん性肺浸潤影等の胸部X線異常等）。
5. ショックを伴わない意識障害，失神（各頻度不明）。
6. 血小板減少（頻度不明）。
7. 痙攣発作（頻度不明）。
8. 肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
9. 心室細動，冠動脈攣縮（各頻度不明）。
10. 皮膚障害（頻度不明）（皮膚粘膜眼症候群，急性汎発性発疹性膿疱症）（発熱，紅斑，小膿疱，掻痒感，眼充血，口内炎等）。
11. アレルギー反応に伴う急性冠症候群（頻度不明）。
脳血管撮影
12. せん妄，錯乱，健忘症，麻痺（各頻度不明）。
脳血管撮影，血管心臓撮影（肺動脈撮影含む），大動脈撮影
13. 造影剤脳症（頻度不明）（意識障害，麻痺，失語，皮質盲等の中枢神経症状）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 掻痒感，蕁麻疹 潮紅
循環器 血圧上昇，頻脈，血圧低下，顔面蒼白 チアノーゼ，動悸，不整脈，虚脱，徐脈
呼吸器 咳 くしゃみ，咽頭不快感，喘息発作，頻呼吸，喉頭不快感，嗄声，鼻閉，鼻汁
精神神経系 閃光感 頭痛，眩暈，羞明感，しびれ（感）あくび，不安感，振戦，一過性盲等の視力障害，意識レベルの低下，錯感覚（ピリピリ感等）
自律神経系 発汗
消化器 口渇，悪心 嘔吐，腹痛 口内にがみ感，口腔内不快感，唾液増加，下痢，耳下腺腫大
内分泌系 甲状腺機能低下症
その他 熱感 発熱 胸内苦悶感，悪寒，冷感，倦怠感，異常感，結膜充血，流涙，疼痛，背部痛，四肢痛，関節痛
（表終了）

イオパミロン注300（61．24%50mL1瓶）

内 注射 流通

【YJコード】7219412A2068
【薬効分類】7．2．1 X線造影剤
【一般名】イオパミドール
【メーカー】製)バイエル薬品 販)日本シエーリング
【薬価】1796円/1V
【薬価収載日】2006/06/09
【標榜薬効】非イオン性尿路・血管造影剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】脳血管撮影，大動脈撮影，選択的血管撮影，四肢血管撮影，ディジタルX線撮影法による静脈性血管撮影，ディジタルX線撮影法による動脈性血管撮影，コンピューター断層撮影の造影，静脈性尿路撮影，逆行性尿路撮影
【用法用量】成人 下記1回量。適宜増減。
（表開始）
効能・効果 本剤（mL）
脳血管撮影 6～13
血管心臓撮影（肺動脈撮影含む） －
大動脈撮影 30～50
選択的血管撮影 5～40
四肢血管撮影 20～50
ディジタルX線撮影法による静脈性血管撮影 30～50
ディジタルX線撮影法による動脈性血管撮影 3～30（注1）
コンピューター断層撮影の造影 100（注3）
静脈性尿路撮影 40～100（注2）
逆行性尿路撮影 5～200（注1）
（表終了）
（注1）原液又は原液を生食で2～4倍希釈して使用。
（注2）50mL以上投与時 点滴静注。
（注3）50mL以上投与時 点滴静注。胸・腹部を高速らせんコンピューター断層撮影で撮像時 撮影対象部位により速度を調節。肝臓領域を除く胸・腹部の時 100mLまで，肝臓領域の時 150mLまで。

■禁忌

【禁忌】1. ヨード・ヨード造影剤に過敏症の既往。
2. 重篤な甲状腺疾患。

■副作用

【副作用】重大な副作用
効能共通
1. ショック（頻度不明）（遅発性含む）（失神，意識消失，呼吸困難，呼吸停止，心停止等），軽度の過敏症状。
2. アナフィラキシー（頻度不明）（遅発性含む）（呼吸困難，咽・喉頭浮腫，顔面浮腫等）。
3. 腎不全（頻度不明）（急性腎障害）。
4. 急性呼吸窮迫症候群，肺水腫（各頻度不明）（急速に進行する呼吸困難，低酸素血症，両側性びまん性肺浸潤影等の胸部X線異常等）。
5. ショックを伴わない意識障害，失神（各頻度不明）。
6. 血小板減少（頻度不明）。
7. 痙攣発作（頻度不明）。
8. 肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
9. 心室細動，冠動脈攣縮（各頻度不明）。
10. 皮膚障害（頻度不明）（皮膚粘膜眼症候群，急性汎発性発疹性膿疱症）（発熱，紅斑，小膿疱，掻痒感，眼充血，口内炎等）。
11. アレルギー反応に伴う急性冠症候群（頻度不明）。
脳血管撮影
12. せん妄，錯乱，健忘症，麻痺（各頻度不明）。
脳血管撮影，血管心臓撮影（肺動脈撮影含む），大動脈撮影
13. 造影剤脳症（頻度不明）（意識障害，麻痺，失語，皮質盲等の中枢神経症状）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 掻痒感，蕁麻疹 潮紅
循環器 血圧上昇，頻脈，血圧低下，顔面蒼白 チアノーゼ，動悸，不整脈，虚脱，徐脈
呼吸器 咳，くしゃみ 咽頭不快感，喘息発作，頻呼吸，喉頭不快感，嗄声，鼻閉，鼻汁
精神神経系 閃光感 頭痛，眩暈，羞明感，しびれ（感）あくび，不安感，振戦，一過性盲等の視力障害，意識レベルの低下，錯感覚（ピリピリ感等）
自律神経系 発汗
消化器 口渇，悪心 嘔吐，腹痛 口内にがみ感，口腔内不快感，唾液増加，下痢，耳下腺腫大
内分泌系 甲状腺機能低下症
その他 熱感 発熱 胸内苦悶感，悪寒，冷感，倦怠感，異常感，結膜充血，流涙，疼痛，背部痛，四肢痛，関節痛
（表終了）

イオパミロン注300（61．24%100mL1瓶）

内 注射 流通

【YJコード】7219412A3072
【薬効分類】7．2．1 X線造影剤
【一般名】イオパミドール
【メーカー】製)バイエル薬品 販)日本シエーリング
【薬価】3559円/1V
【薬価収載日】2006/06/09
【標榜薬効】非イオン性尿路・血管造影剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】脳血管撮影，大動脈撮影，選択的血管撮影，四肢血管撮影，ディジタルX線撮影法による静脈性血管撮影，ディジタルX線撮影法による動脈性血管撮影，コンピューター断層撮影の造影，静脈性尿路撮影，逆行性尿路撮影
【用法用量】成人 下記1回量。適宜増減。
（表開始）
効能・効果 本剤（mL）
脳血管撮影 6～13
血管心臓撮影（肺動脈撮影含む） －
大動脈撮影 30～50
選択的血管撮影 5～40
四肢血管撮影 20～50
ディジタルX線撮影法による静脈性血管撮影 30～50
ディジタルX線撮影法による動脈性血管撮影 3～30（注1）
コンピューター断層撮影の造影 100（注3）
静脈性尿路撮影 40～100（注2）
逆行性尿路撮影 5～200（注1）
（表終了）
（注1）原液又は原液を生食で2～4倍希釈して使用。
（注2）50mL以上投与時 点滴静注。
（注3）50mL以上投与時 点滴静注。胸・腹部を高速らせんコンピュー

ター断層撮影で撮像時　撮影対象部位により速度を調節。肝臓領域を除く胸・腹部の時　100mLまで，肝臓領域の時　150mLまで。

■禁忌

【禁忌】1. ヨード・ヨード造影剤に過敏症の既往。
2. 重篤な甲状腺疾患。

■副作用

【副作用】重大な副作用
効能共通
1. ショック(頻度不明)(遅発性含む)(失神，意識消失，呼吸困難，呼吸停止，心停止等)，軽度の過敏症状。
2. アナフィラキシー(頻度不明)(遅発性含む)(呼吸困難，咽・喉頭浮腫，顔面浮腫等)。
3. 腎不全(頻度不明)(急性腎障害)。
4. 急性呼吸窮迫症候群，肺水腫(各頻度不明)(急速に進行する呼吸困難，低酸素血症，両側性びまん性肺浸潤影等の胸部X線異常等)。
5. ショックを伴わない意識障害，失神(各頻度不明)。
6. 血小板減少(頻度不明)。
7. 痙攣発作(頻度不明)。
8. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
9. 心室細動，冠動脈攣縮(各頻度不明)。
10. 皮膚障害(頻度不明)(皮膚粘膜眼症候群，急性汎発性発疹性膿疱症)(発熱，紅斑，小膿疱，掻痒感，眼充血，口内炎等)。
11. アレルギー反応に伴う急性冠症候群(頻度不明)。
脳血管撮影
12. せん妄，錯乱，健忘症，麻痺(各頻度不明)。
脳血管撮影，血管心臓撮影(肺動脈撮影含む)，大動脈撮影
13. 造影剤脳症(頻度不明)(意識障害，麻痺，失語，皮質盲等の中枢神経症状)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 掻痒感，蕁麻疹 潮紅
循環器　血圧上昇，頻脈，血圧低下，顔面蒼白 チアノーゼ，動悸，不整脈，虚脱，徐脈
呼吸器　咳，くしゃみ 咽頭不快感，喘息発作，頻呼吸，喉頭不快感，嗄声，鼻閉，鼻汁
精神神経系 閃光感 頭痛，眩暈，羞明感，しびれ(感) あくび，不安感，振戦，一過性盲等の視力障害，意識レベルの低下，錯感覚(ピリピリ感等)
自律神経系　発汗
消化器 口渇，悪心 嘔吐，腹痛 口内にがみ感，口腔内不快感，唾液増加，下痢，耳下腺腫大
内分泌系　甲状腺機能低下症
その他 熱感 発熱 胸内苦悶感，悪寒，冷感，倦怠感，異常感，結膜充血，流涙，疼痛，背部痛，四肢痛，関節痛
(表終了)

イオパミロン注300シリンジ（61．24%100mL1筒）

内　注射　流通

【YJコード】7219412G1030
【薬効分類】7．2．1　X線造影剤
【一般名】イオパミドール
【メーカー】製)バイエル薬品　販)日本シエーリング
【薬価】4047円/1筒
【薬価収載日】2006/06/09
【標榜薬効】非イオン性尿路・血管造影剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】脳血管撮影，大動脈撮影，選択的血管撮影，四肢血管撮影，ディジタルX線撮影法による静脈性血管撮影，ディジタルX線撮影法による動脈性血管撮影，コンピューター断層撮影の造影，静脈性尿路撮影，逆行性尿路撮影
【用法用量】成人　下記1回量。適宜増減。
(表開始)
効能・効果 本剤(mL)
脳血管撮影 6～13
血管心臓撮影(肺動脈撮影含む) －
大動脈撮影 30～50
選択的血管撮影 5～40
四肢血管撮影 20～50
ディジタルX線撮影法による静脈性血管撮影 30～50
ディジタルX線撮影法による動脈性血管撮影 3～30
コンピューター断層撮影の造影 100(注1)
静脈性尿路撮影 40～100
逆行性尿路撮影 5～200
(表終了)
(注1)胸・腹部を高速らせんコンピューター断層撮影で撮像時　撮影対象部位により速度を調節。肝臓領域を除く胸・腹部の時　100mLまで，肝臓領域の時　150mLまで。

■禁忌

【禁忌】1. ヨード・ヨード造影剤に過敏症の既往。
2. 重篤な甲状腺疾患。

■副作用

【副作用】重大な副作用
効能共通
1. ショック(頻度不明)(遅発性含む)(失神，意識消失，呼吸困難，呼吸停止，心停止等)，軽度の過敏症状。
2. アナフィラキシー(頻度不明)(遅発性含む)(呼吸困難，咽・喉頭浮腫，顔面浮腫等)。
3. 腎不全(頻度不明)(急性腎障害)。
4. 急性呼吸窮迫症候群，肺水腫(各頻度不明)(急速に進行する呼吸困難，低酸素血症，両側性びまん性肺浸潤影等の胸部X線異常等)。
5. ショックを伴わない意識障害，失神(各頻度不明)。
6. 血小板減少(頻度不明)。
7. 痙攣発作(頻度不明)。
8. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
9. 心室細動，冠動脈攣縮(各頻度不明)。
10. 皮膚障害(頻度不明)(皮膚粘膜眼症候群，急性汎発性発疹性膿疱症)(発熱，紅斑，小膿疱，掻痒感，眼充血，口内炎等)。
11. アレルギー反応に伴う急性冠症候群(頻度不明)。
脳血管撮影
12. せん妄，錯乱，健忘症，麻痺(各頻度不明)。
脳血管撮影，血管心臓撮影(肺動脈撮影含む)，大動脈撮影
13. 造影剤脳症(頻度不明)(意識障害，麻痺，失語，皮質盲等の中枢神経症状)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 掻痒感，蕁麻疹 潮紅
循環器　血圧上昇，頻脈，血圧低下，顔面蒼白 チアノーゼ，動悸，不整脈，虚脱，徐脈
呼吸器　咳 くしゃみ，咽頭不快感，喘息発作，頻呼吸，喉頭不快感，嗄声，鼻閉，鼻汁
精神神経系 閃光感 頭痛，眩暈，羞明感，しびれ(感) あくび，不安感，振戦，一過性盲等の視力障害，意識レベルの低下，錯感覚(ピリピリ感等)
自律神経系　発汗
消化器 口渇，悪心 嘔吐，腹痛 口内にがみ感，口腔内不快感，唾液増加，下痢，耳下腺腫大
内分泌系　甲状腺機能低下症
その他 熱感 発熱 胸内苦悶感，悪寒，冷感，倦怠感，異常感，結膜充血，流涙，疼痛，背部痛，四肢痛，関節痛
(表終了)

イオパミロン注370（75．52%100mL1瓶）

内　注射　流通

【YJコード】7219412A6071
【薬効分類】7．2．1　X線造影剤
【一般名】イオパミドール
【メーカー】製)バイエル薬品　販)日本シエーリング
【薬価】4044円/1V
【薬価収載日】2006/06/09
【標榜薬効】非イオン性尿路・血管造影剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】血管心臓撮影(肺動脈撮影含む)，大動脈撮影，選択的血管撮影，四肢血管撮影，ディジタルX線撮影法による静脈性血管撮影，ディジタルX線撮影法による動脈性血管撮影，コンピューター断層撮影の造影，静脈性尿路撮影
【用法用量】成人　下記1回量。適宜増減。
(表開始)
効能・効果 本剤(mL)
脳血管撮影 －
血管心臓撮影(肺動脈撮影含む) 20～50
大動脈撮影 30～50
選択的血管撮影 5～40
四肢血管撮影 20～50
ディジタルX線撮影法による静脈性血管撮影 30～50
ディジタルX線撮影法による動脈性血管撮影 3～30(注1)
コンピューター断層撮影の造影 100(注2)
静脈性尿路撮影 20～100(注2)
逆行性尿路撮影 －
(表終了)
(注1)原液又は原液を生食で2～4倍希釈して使用。
(注2)50mL以上投与時　点滴静注。
胸・腹部を高速らせんコンピューター断層撮影で撮像時　撮影対象部位により速度を調節。肝臓領域を除く胸・腹部の時　100mLまで，肝臓領域の時　150mLまで。

■禁忌

【禁忌】1. ヨード・ヨード造影剤に過敏症の既往。

7 治療を主目的としない医薬品

2. 重篤な甲状腺疾患。

■副作用

【副作用】重大な副作用
効能共通
1. ショック(頻度不明)(遅発性含む)(失神，意識消失，呼吸困難，呼吸停止，心停止等)，軽度の過敏症状。
2. アナフィラキシー(頻度不明)(遅発性含む)(呼吸困難，咽・喉頭浮腫，顔面浮腫等)。
3. 腎不全(頻度不明)(急性腎障害)。
4. 急性呼吸窮迫症候群，肺水腫(各頻度不明)(急速に進行する呼吸困難，低酸素血症，両側性びまん性肺浸潤影等の胸部X線異常等)。
5. ショックを伴わない意識障害，失神(各頻度不明)。
6. 血小板減少(頻度不明)。
7. 痙攣発作(頻度不明)。
8. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
9. 心室細動，冠動脈攣縮(各頻度不明)。
10. 皮膚障害(頻度不明)(皮膚粘膜眼症候群，急性汎発性発疹性膿疱症)(発熱，紅斑，小膿疱，掻痒感，眼充血，口内炎等)。
11. アレルギー反応に伴う急性冠症候群(頻度不明)。
脳血管撮影
12. せん妄，錯乱，健忘症，麻痺(各頻度不明)。
脳血管撮影，血管心臓撮影(肺動脈撮影含む)，大動脈撮影
13. 造影剤脳症(頻度不明)(意識障害，麻痺，失語，皮質盲等の中枢神経症状)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 掻痒感，蕁麻疹 潮紅
循環器 血圧上昇，頻脈，血圧低下，顔面蒼白 チアノーゼ，動悸，不整脈，虚脱，徐脈
呼吸器 咳，くしゃみ 咽頭不快感，喘息発作，頻呼吸，喉頭不快感，嗄声，鼻閉，鼻汁
精神神経系 閃光感 頭痛，眩暈，羞明感，しびれ(感) あくび，不安感，振戦，一過性盲等の視力障害，意識レベルの低下，錯感覚(ピリピリ感等)
自律神経系 発汗
消化器 口渇，悪心 嘔吐，腹痛 口内にがみ感，口腔内不快感，唾液増加，下痢，耳下腺腫大
内分泌系 甲状腺機能低下症
その他 熱感 発熱 胸内苦悶感，悪寒，冷感，倦怠感，異常感，結膜充血，流涙，疼痛，背部痛，四肢痛，関節痛
(表終了)

イオパミロン注370シリンジ（75．52%100mL1筒）

内 注射 流通

【YJコード】7219412G7038
【薬効分類】7．2．1 X線造影剤
【一般名】イオパミドール
【メーカー】製)バイエル薬品 販)日本シエーリング
【薬価】4260円/1筒
【薬価収載日】2006/06/09
【標榜薬効】非イオン性尿路・血管造影剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】血管心臓撮影(肺動脈撮影含む)，大動脈撮影，選択的血管撮影，四肢血管撮影，ディジタルX線撮影法による静脈性血管撮影，ディジタルX線撮影法による動脈性血管撮影，コンピューター断層撮影の造影，静脈性尿路撮影
【用法用量】成人 下記1回量。適宜増減。
(表開始)
効能・効果 本剤(mL)
脳血管撮影 －
血管心臓撮影(肺動脈撮影含む) 20～50
大動脈撮影 30～50
選択的血管撮影 5～40
四肢血管撮影 20～50
ディジタルX線撮影法による静脈性血管撮影 30～50
ディジタルX線撮影法による動脈性血管撮影 3～30
コンピューター断層撮影の造影 100
静脈性尿路撮影 20～100
逆行性尿路撮影 －
(表終了)

■禁忌

【禁忌】1. ヨード・ヨード造影剤に過敏症の既往。
2. 重篤な甲状腺疾患。

■副作用

【副作用】重大な副作用
効能共通
1. ショック(頻度不明)(遅発性含む)(失神，意識消失，呼吸困難，呼吸停止，心停止等)，軽度の過敏症状。
2. アナフィラキシー(頻度不明)(遅発性含む)(呼吸困難，咽・喉頭浮腫，顔面浮腫等)。
3. 腎不全(頻度不明)(急性腎障害)。
4. 急性呼吸窮迫症候群，肺水腫(各頻度不明)(急速に進行する呼吸困難，低酸素血症，両側性びまん性肺浸潤影等の胸部X線異常等)。
5. ショックを伴わない意識障害，失神(各頻度不明)。
6. 血小板減少(頻度不明)。
7. 痙攣発作(頻度不明)。
8. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
9. 心室細動，冠動脈攣縮(各頻度不明)。
10. 皮膚障害(頻度不明)(皮膚粘膜眼症候群，急性汎発性発疹性膿疱症)(発熱，紅斑，小膿疱，掻痒感，眼充血，口内炎等)。
11. アレルギー反応に伴う急性冠症候群(頻度不明)。
脳血管撮影
12. せん妄，錯乱，健忘症，麻痺(各頻度不明)。
脳血管撮影，血管心臓撮影(肺動脈撮影含む)，大動脈撮影
13. 造影剤脳症(頻度不明)(意識障害，麻痺，失語，皮質盲等の中枢神経症状)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 1%以上 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹 掻痒感，蕁麻疹 潮紅
循環器 血圧上昇，頻脈，血圧低下，顔面蒼白 チアノーゼ，動悸，不整脈，虚脱，徐脈
呼吸器 咳，くしゃみ，咽頭不快感，喘息発作，頻呼吸，喉頭不快感，嗄声，鼻閉，鼻汁
精神神経系 閃光感 頭痛，眩暈，羞明感，しびれ(感) あくび，不安感，振戦，一過性盲等の視力障害，意識レベルの低下，錯感覚(ピリピリ感等)
自律神経系 発汗
消化器 口渇，悪心 嘔吐，腹痛 口内にがみ感，口腔内不快感，唾液増加，下痢，耳下腺腫大
内分泌系 甲状腺機能低下症
その他 熱感 発熱 胸内苦悶感，悪寒，冷感，倦怠感，異常感，結膜充血，流涙，疼痛，背部痛，四肢痛，関節痛
(表終了)

イオヘキソール350注100mL「F」（75．49%100mL1瓶）

内 注射 流通

【YJコード】7219415H5085
【薬効分類】7．2．1 X線造影剤
【一般名】イオヘキソール
【メーカー】製)富士製薬工業
【薬価】4340円/1V
【薬価収載日】2020/12/11
【標榜薬効】非イオン性造影剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】血管心臓撮影(肺動脈撮影含む)，大動脈撮影，選択的血管撮影，四肢血管撮影，ディジタルX線撮影法による静脈性血管撮影，コンピューター断層撮影の造影，静脈性尿路撮影，小児血管心臓撮影(肺動脈撮影含む)
【用法用量】成人 下記1回量。適宜増減。
(表開始)
効能・効果 本剤(mL)
脳血管撮影 －
血管心臓撮影 心腔内撮影 20～40
血管心臓撮影 冠状動脈撮影 3～8
血管心臓撮影 肺動脈撮影 20～40
大動脈撮影 30～50
選択的血管撮影 5～50
四肢血管撮影 10～50
ディジタルX線撮影法による動脈性血管撮影 －
ディジタルX線撮影法による静脈性血管撮影 20～50
コンピューター断層撮影の造影 40～100 (50以上投与時 点滴)
静脈性尿路撮影 40
(表終了)
小児血管心臓撮影時 下記1回量。適宜増減。
(表開始)
効能・効果 本剤
心腔内撮影 0．5～2mL／kg
冠状動脈撮影 2～4mL
肺動脈撮影 0．5～2mL／kg
上行大動脈撮影 0．5～2mL／kg
(表終了)

■禁忌

【禁忌】1. ヨード・ヨード造影剤に過敏症の既往。
2. 重篤な甲状腺疾患。

■副作用

【副作用】重大な副作用
効能共通
1. ショック(頻度不明)(遅発性含む)(失神，意識消失，呼吸困難，呼

7 治療を主目的としない医薬品

吸停止，心停止等），軽度の過敏症状。
2．アナフィラキシー（頻度不明）（遅発性含む）（呼吸困難，咽・喉頭浮腫等）。
3．腎不全（頻度不明）（急性腎障害）。
4．痙攣発作（頻度不明）。
5．肺水腫（頻度不明）。
6．肝機能障害（AST，ALT，γ－GTPの上昇等），黄疸（各頻度不明）。
7．心室細動，冠動脈攣縮（各頻度不明）。
8．皮膚障害（頻度不明）（皮膚粘膜眼症候群，急性汎発性発疹性膿疱症）（発熱，紅斑，小膿疱，掻痒感，眼充血，口内炎等）。
9．血小板減少（頻度不明）。
10．ショックを伴わない意識障害，失神（各頻度不明）。
11．一過性麻痺（頻度不明）。
12．アレルギー反応に伴う急性冠症候群（頻度不明）。
脳血管撮影，血管心臓撮影（肺動脈撮影含む），大動脈撮影，小児血管心臓撮影（肺動脈撮影含む）
13．造影剤脳症（頻度不明）（意識障害，麻痺，失語，皮質盲等の中枢神経症状）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹，発赤，掻痒感等 潮紅，浮腫
循環器 不整脈 血圧低下，熱感，徐脈，顔面蒼白 血圧上昇，頻脈，動悸，チアノーゼ
呼吸器 咳，くしゃみ，鼻閉 呼吸困難，咽頭不快感，喉頭不快感，喘息発作
精神神経系 頭痛 眩暈，目のかすみ 脱力感，一過性盲等の視力障害，眠気（傾眠），健忘
消化器 悪心，嘔吐 腹痛，口渇，下痢
内分泌系 甲状腺機能低下症
その他 発熱 胸内苦悶感 倦怠感，悪寒，冷汗，関節痛，発汗，充血
（表終了）

イソビスト注240（51．26%10mL1瓶）

内 注射 流通

【YJコード】7219414A3039
【薬効分類】7．2．1 X線造影剤
【一般名】イオトロラン
【メーカー】製)バイエル薬品 販)日本シエーリング
【薬価】4510円/1V
【薬価収載日】2006/06/09
【標榜薬効】非イオン性脳槽・脊髄・関節造影剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】脊髄撮影，コンピューター断層撮影の脳室，脳槽，脊髄造影，関節撮影
【用法用量】脊髄撮影，コンピューター断層撮影の脳室，脳槽，脊髄造影
撮影部位，穿刺部位に応じて下表を使用。適宜増減。
（表開始）
効能・効果 脊髄撮影 脊髄撮影 脊髄撮影 コンピューター断層撮影の脳室，脳槽，脊髄造影 コンピューター断層撮影の脳室，脳槽，脊髄造影 コンピューター断層撮影の脳室，脳槽，脊髄造影
撮影部位 腰部 胸部 頸部 脳室 脳槽 脊髄
穿刺部位 腰椎 腰椎 腰椎・頸椎 腰椎 腰椎 腰椎
使用濃度（mgI／mL） 190～240 240 240 240 240 240
用量（mL） 6～10 6～10 6～10 6～10 6～10 6～10
（表終了）
関節撮影
成人 1回1～10mL 関節腔内注入。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】効能共通
1．ヨード・ヨード造影剤に過敏症の既往。
2．重篤な甲状腺疾患。
脊髄撮影，コンピューター断層撮影の脳室，脳槽，脊髄造影
3．痙攣，てんかん，その素質・その既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
効能共通
1．ショック（頻度不明），軽度の過敏症状。
2．アナフィラキシー（頻度不明）（顔面浮腫等）。
脊髄撮影，コンピューター断層撮影の脳室，脳槽，脊髄造影
3．痙攣発作（頻度不明）。
4．麻痺（0．2%），髄膜炎（頻度不明）等。
その他の副作用（発現時中止等）（脊髄撮影，コンピューター断層撮影の脳室，脳槽，脊髄造影）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒感，発赤 蕁麻疹，潮紅
循環器 血圧低下
消化器 悪心 嘔吐
精神神経系 頭痛 下肢脱力感・しびれ感，眩暈，項部硬直，頭重感
内分泌系 甲状腺機能低下症
その他 発熱（37～38℃），腰・背痛，下肢痛 胸内苦悶感，熱感
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（関節撮影）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 発赤，発疹，掻痒感
消化器 悪心，嘔吐
内分泌系 甲状腺機能低下症
その他 疼痛
（表終了）

ウログラフイン注60%（60%20mL1管）

内 注射 流通

【YJコード】7214400A2034
【薬効分類】7．2．1 X線造影剤
【一般名】アミドトリゾ酸ナトリウムメグルミン
【メーカー】製)バイエル薬品 販)日本シエーリング
【薬価】1021円/1A
【薬価収載日】2006/06/09
【標榜薬効】直接膵管胆道・唾液腺造影剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】内視鏡的逆行性膵胆管撮影，経皮経肝胆道撮影
注意
内視鏡的逆行性膵胆管撮影
急性膵炎の診断には内視鏡的逆行性膵胆管撮影をしない。急性膵炎発作時に内視鏡的逆行性膵胆管撮影を施行時，急性膵炎悪化のおそれ。
他の方法で診断され，胆管炎の合併や胆道通過障害の遷延が疑われる胆石性膵炎等の内視鏡的治療を前提とした内視鏡的逆行性膵胆管撮影では，最新の急性膵炎診療ガイドライン等を参考に施行。
【用法用量】成人 下記1回量。適宜増減。
（表開始）
効能・効果 本剤（mL）
内視鏡的逆行性膵胆管撮影 20～40
経皮経肝胆道撮影 20～60
唾液腺撮影 －
（表終了）
注意
血管内投与による撮影の効能・効果はない。

■禁忌

【禁忌】1．ヨード・ヨード造影剤に過敏症の既往。
2．重篤な甲状腺疾患。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック（頻度不明），軽度の過敏症状。
2．アナフィラキシー（頻度不明）（呼吸困難，顔面浮腫等）。
3．腎不全（頻度不明）（急性腎障害）。
4．痙攣発作（頻度不明）。
5．肺水腫（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
過敏症 蕁麻疹・発疹，掻痒感，潮紅，発赤
循環器 血圧低下，血圧上昇，動悸，不整脈，虚脱
呼吸器 咳，くしゃみ，喘息発作，頻呼吸，咽頭不快感
精神神経系 頭痛，不安感，あくび，一過性皮質盲
消化器 悪心・嘔吐，口渇
内分泌系 甲状腺機能低下症
その他 熱感，悪寒，胸内苦悶感
（表終了）

オムニパーク240注10mL（51．77%10mL1瓶）

内 注射 流通

【YJコード】7219415A4030
【薬効分類】7．2．1 X線造影剤
【一般名】イオヘキソール
【メーカー】製)GEヘルスケアファーマ 販)第一三共
【薬価】641円/1V
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】非イオン性造影剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】コンピューター断層撮影による脳槽造影，コンピューター断層撮影による脊髄造影，頸部脊髄撮影，胸部脊髄撮影，腰部脊髄撮影
【用法用量】成人 下記1回量。
適宜増減。
〔（ ）内はヨウ素含有量〕
（表開始）

7 治療を主目的としない医薬品

撮影の種類 穿刺部位 用量(mL)
コンピューター断層撮影による脳槽造影 腰椎 5～10(1200～2400mg)
コンピューター断層撮影による脊髄造影 腰椎 8～12(1920～2880mg)
頸部脊髄撮影 外側頸椎 腰椎 8～10(1920～2400mg) 8～12(1920～2880mg)
胸部脊髄撮影 腰椎 8～12(1920～2880mg)
腰部脊髄撮影 腰椎 8～12(1920～2880mg)
(表終了)

■禁忌
【禁忌】1. 痙攣，てんかん，その素質・その既往。
2. ヨード・ヨード造影剤に過敏症の既往。
3. 重篤な甲状腺疾患。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック(頻度不明)，軽度の過敏症状。
2. 痙攣発作(頻度不明)。
3. アナフィラキシー(頻度不明)(呼吸困難，咽・喉頭浮腫等)。
4. 麻痺，髄膜炎(各頻度不明)。
5. アレルギー反応に伴う急性冠症候群(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
精神神経系 頭痛，発熱(37～38℃) 知覚異常，反射亢進，眩暈
消化器 悪心，嘔吐
循環器 血圧低下
過敏症 発疹
内分泌系 甲状腺機能低下症
その他 背部痛，発汗
(表終了)

オムニパーク300注100mL（64．71%100mL1瓶）

内 注射 流通

【YJコード】7219415H2078
【薬効分類】7．2．1 X線造影剤
【一般名】イオヘキソール
【メーカー】製)GEヘルスケアファーマ 販)第一三共
【薬価】3239円/1V
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】非イオン性造影剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】脳血管撮影，選択的血管撮影，四肢血管撮影，ディジタルX線撮影法による動脈性血管撮影，ディジタルX線撮影法による静脈性血管撮影，コンピューター断層撮影の造影，静脈性尿路撮影
【用法用量】成人 下記1回量。
適宜増減。
〔( )内はヨウ素含有量〕
(表開始)
撮影の種類 用量(mL)
脳血管撮影 5～15（1．5～4．5g）
血管心臓撮影 心腔内撮影 －
血管心臓撮影 冠状動脈撮影 －
血管心臓撮影 肺動脈撮影 －
大動脈撮影 －
選択的血管撮影 5～50（1．5～15g）
四肢血管撮影 10～50（3～15g）
ディジタルX線撮影法による動脈性血管撮影 1．5～50（0．45～15g）
ディジタルX線撮影法による静脈性血管撮影 20～50（6～15g）
コンピューター断層撮影の造影 40～100（12～30g）［50以上投与時 点滴］高速ラセンコンピューター断層撮影で腹部の撮影時は，150まで。
静脈性尿路撮影 50～100（15～30g）［60以上投与時 点滴］
(表終了)

■禁忌
【禁忌】1. ヨード・ヨード造影剤に過敏症の既往。
2. 重篤な甲状腺疾患。

■副作用
【副作用】重大な副作用
効能共通
1. ショック(頻度不明)(遅発性含む)(失神，意識消失，呼吸困難，呼吸停止，心停止等)，軽度の過敏症状。
2. アナフィラキシー(頻度不明)(遅発性含む)(呼吸困難，咽・喉頭浮腫等)。
3. 腎不全(頻度不明)(急性腎障害)。
4. 痙攣発作(頻度不明)。
5. 肺水腫(頻度不明)。
6. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
7. 心室細動，冠動脈攣縮(各頻度不明)。
8. 皮膚障害(頻度不明)(皮膚粘膜眼症候群，急性汎発性発疹性膿疱症)(発熱，紅斑，小膿疱，掻痒感，眼充血，口内炎等)。
9. 血小板減少(頻度不明)。
10. ショックを伴わない意識障害，失神(各頻度不明)。
11. 一過性麻痺(頻度不明)。
12. アレルギー反応に伴う急性冠症候群(頻度不明)。
脳血管撮影，血管心臓撮影(肺動脈撮影含む)，大動脈撮影，小児血管心臓撮影(肺動脈撮影含む)
13. 造影剤脳症(頻度不明)(意識障害，麻痺，失語，皮質盲等の中枢神経症状)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹，発赤，掻痒感等 潮紅，浮腫
循環器 不整脈 血圧低下，熱感，徐脈，顔面蒼白 血圧上昇，頻脈，動悸，チアノーゼ
呼吸器 咳，くしゃみ，鼻閉 呼吸困難，咽頭不快感，喉頭不快感，喘息発作
精神神経系 頭痛 眩暈，目のかすみ 脱力感，一過性盲等の視力障害，眠気(傾眠)，健忘
消化器 悪心，嘔吐 腹痛，口渇，下痢
内分泌系 甲状腺機能低下症
その他 発熱 胸内苦悶感 倦怠感，悪寒，冷汗，関節痛，発汗，充血
(表終了)

オムニパーク300注シリンジ100mL（64．71%100mL1筒）

内 注射 流通

【YJコード】7219415G3117
【薬効分類】7．2．1 X線造影剤
【一般名】イオヘキソール
【メーカー】製)GEヘルスケアファーマ 販)第一三共
【薬価】3746円/1筒
【薬価収載日】2009/03/24
【標榜薬効】非イオン性造影剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】脳血管撮影，選択的血管撮影，四肢血管撮影，ディジタルX線撮影法による動脈性血管撮影，ディジタルX線撮影法による静脈性血管撮影，コンピューター断層撮影の造影，静脈性尿路撮影
【用法用量】成人 下記1回量。
適宜増減。
〔( )内はヨウ素含有量〕
(表開始)
撮影の種類 用量(mL)
脳血管撮影 5～15(1．5～4．5g)
血管心臓撮影 心腔内撮影 －
血管心臓撮影 冠状動脈撮影 －
血管心臓撮影 肺動脈撮影 －
大動脈撮影 －
選択的血管撮影 5～50(1．5～15g)
四肢血管撮影 10～50(3～15g)
ディジタルX線撮影法による動脈性血管撮影 1．5～50(0．45～15g)
ディジタルX線撮影法による静脈性血管撮影 20～50(6～15g)
コンピューター断層撮影の造影 40～100(12～30g) 高速ラセンコンピューター断層撮影で腹部の撮影時は，150まで。
静脈性尿路撮影 50～100(15～30g)
(表終了)

■禁忌
【禁忌】1. ヨード・ヨード造影剤に過敏症の既往。
2. 重篤な甲状腺疾患。

■副作用
【副作用】重大な副作用
効能共通
1. ショック(頻度不明)(遅発性含む)(失神，意識消失，呼吸困難，呼吸停止，心停止等)，軽度の過敏症状。
2. アナフィラキシー(頻度不明)(遅発性含む)(呼吸困難，咽・喉頭浮腫等)。
3. 腎不全(頻度不明)(急性腎障害)。
4. 痙攣発作(頻度不明)。
5. 肺水腫(頻度不明)。
6. 肝機能障害(AST，ALT，γ－GTPの上昇等)，黄疸(各頻度不明)。
7. 心室細動，冠動脈攣縮(各頻度不明)。
8. 皮膚障害(頻度不明)(皮膚粘膜眼症候群，急性汎発性発疹性膿疱症)(発熱，紅斑，小膿疱，掻痒感，眼充血，口内炎等)。
9. 血小板減少(頻度不明)。
10. ショックを伴わない意識障害，失神(各頻度不明)。
11. 一過性麻痺(頻度不明)。
12. アレルギー反応に伴う急性冠症候群(頻度不明)。
脳血管撮影，血管心臓撮影(肺動脈撮影含む)，大動脈撮影，小児血

管心臓撮影(肺動脈撮影含む)
13. 造影剤脳症(頻度不明)(意識障害, 麻痺, 失語, 皮質盲等の中枢神経症状)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹, 蕁麻疹, 発赤, 掻痒感等 潮紅, 浮腫
循環器 不整脈 血圧低下, 熱感, 徐脈, 顔面蒼白 血圧上昇, 頻脈, 動悸, チアノーゼ
呼吸器 咳, くしゃみ, 鼻閉 呼吸困難, 咽頭不快感, 喉頭不快感, 喘息発作
精神神経系 頭痛 眩暈, 目のかすみ 脱力感, 一過性盲等の視力障害, 眠気(傾眠), 健忘
消化器 悪心, 嘔吐 腹痛, 口渇, 下痢
内分泌系 甲状腺機能低下症
その他 発熱 胸内苦悶感 倦怠感, 悪寒, 冷汗, 関節痛, 発汗, 充血
(表終了)

管心臓撮影(肺動脈撮影含む)
13. 造影剤脳症(頻度不明)(意識障害, 麻痺, 失語, 皮質盲等の中枢神経症状)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹, 蕁麻疹, 発赤, 掻痒感等 潮紅, 浮腫
循環器 不整脈 血圧低下, 熱感, 徐脈, 顔面蒼白 血圧上昇, 頻脈, 動悸, チアノーゼ
呼吸器 咳, くしゃみ, 鼻閉 呼吸困難, 咽頭不快感, 喉頭不快感, 喘息発作
精神神経系 頭痛 眩暈, 目のかすみ 脱力感, 一過性盲等の視力障害, 眠気(傾眠), 健忘
消化器 悪心, 嘔吐 腹痛, 口渇, 下痢
内分泌系 甲状腺機能低下症
その他 発熱 胸内苦悶感 倦怠感, 悪寒, 冷汗, 関節痛, 発汗, 充血
(表終了)

オムニパーク350注100mL(75. 49%100mL1瓶)

内 注射 流通

【YJコード】7219415H5069
【薬効分類】7. 2. 1 X線造影剤
【一般名】イオヘキソール
【メーカー】製)GEヘルスケアファーマ 販)第一三共
【薬価】2780円/1V
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】非イオン性造影剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】血管心臓撮影(肺動脈撮影含む), 大動脈撮影, 選択的血管撮影, 四肢血管撮影, ディジタルX線撮影法による静脈性血管撮影, コンピューター断層撮影の造影, 静脈性尿路撮影, 小児血管心臓撮影(肺動脈撮影含む)
【用法用量】成人 下記1回量。
適宜増減。
〔( )内はヨウ素含有量〕
(表開始)
撮影の種類 用量(mL)
脳血管撮影 －
血管心臓撮影 心腔内撮影 20～40 (7～14g)
血管心臓撮影 冠状動脈撮影 3～8 (1. 05～2. 8g)
血管心臓撮影 肺動脈撮影 20～40 (7～14g)
大動脈撮影 30～50 (10. 5～17. 5g)
選択的血管撮影 5～50 (1. 75～17. 5g)
四肢血管撮影 10～50 (3. 5～17. 5g)
ディジタルX線撮影法による動脈性血管撮影 －
ディジタルX線撮影法による静脈性血管撮影 20～50 (7～17. 5g)
コンピューター断層撮影の造影 40～100 (14～35g) [50以上投与時 点滴]
静脈性尿路撮影 40 (14g)
(表終了)
小児血管心臓撮影時 下記1回量。
適宜増減。
(表開始)
撮影の種類 用量
心腔内撮影 0. 5～2mL/kg (175～700mg/kg)
冠状動脈撮影 2～4mL (700～1400mg)
肺動脈撮影 0. 5～2mL/kg (175～700mg/kg)
上行大動脈撮影 0. 5～2mL/kg (175～700mg/kg)
(表終了)

■禁忌

【禁忌】1. ヨード・ヨード造影剤に過敏症の既往。
2. 重篤な甲状腺疾患。

■副作用

【副作用】重大な副作用
効能共通
1. ショック(頻度不明)(遅発性含む)(失神, 意識消失, 呼吸困難, 呼吸停止, 心停止等), 軽度の過敏症状。
2. アナフィラキシー(頻度不明)(遅発性含む)(呼吸困難, 咽・喉頭浮腫等)。
3. 腎不全(頻度不明)(急性腎障害)。
4. 痙攣発作(頻度不明)。
5. 肺水腫(頻度不明)。
6. 肝機能障害(AST, ALT, γ－GTPの上昇等), 黄疸(各頻度不明)。
7. 心室細動, 冠動脈攣縮(各頻度不明)。
8. 皮膚障害(頻度不明)(皮膚粘膜眼症候群, 急性汎発性発疹性膿疱症)(発熱, 紅斑, 小膿疱, 掻痒感, 眼充血, 口内炎等)。
9. 血小板減少(頻度不明)。
10. ショックを伴わない意識障害, 失神(各頻度不明)。
11. 一過性麻痺(頻度不明)。
12. アレルギー反応に伴う急性冠症候群(頻度不明)。
脳血管撮影, 血管心臓撮影(肺動脈撮影含む), 大動脈撮影, 小児血

オムニパーク350注シリンジ100mL(75. 49%100mL1筒)

内 注射 流通

【YJコード】7219415G5063
【薬効分類】7. 2. 1 X線造影剤
【一般名】イオヘキソール
【メーカー】製)GEヘルスケアファーマ 販)第一三共
【薬価】3888円/1筒
【薬価収載日】2009/03/24
【標榜薬効】非イオン性造影剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】血管心臓撮影(肺動脈撮影含む), 大動脈撮影, 選択的血管撮影, 四肢血管撮影, ディジタルX線撮影法による静脈性血管撮影, コンピューター断層撮影の造影, 静脈性尿路撮影, 小児血管心臓撮影(肺動脈撮影含む)
【用法用量】成人 下記1回量。
適宜増減。
〔( )内はヨウ素含有量〕
(表開始)
撮影の種類 用量(mL)
脳血管撮影 －
血管心臓撮影 心腔内撮影 20～40 (7～14g)
血管心臓撮影 冠状動脈撮影 3～8 (1. 05～2. 8g)
血管心臓撮影 肺動脈撮影 20～40 (7～14g)
大動脈撮影 30～50 (10. 5～17. 5g)
選択的血管撮影 5～50 (1. 75～17. 5g)
四肢血管撮影 10～50 (3. 5～17. 5g)
ディジタルX線撮影法による動脈性血管撮影 －
ディジタルX線撮影法による静脈性血管撮影 20～50 (7～17. 5g)
コンピューター断層撮影の造影 40～100 (14～35g)
静脈性尿路撮影 40 (14g)
(表終了)
小児血管心臓撮影時 下記1回量。
適宜増減。
(表開始)
撮影の種類 用量
心腔内撮影 0. 5～2mL/kg (175～700mg/kg)
冠状動脈撮影 2～4mL (700～1400mg)
肺動脈撮影 0. 5～2mL/kg (175～700mg/kg)
上行大動脈撮影 0. 5～2mL/kg (175～700mg/kg)
(表終了)

■禁忌

【禁忌】1. ヨード・ヨード造影剤に過敏症の既往。
2. 重篤な甲状腺疾患。

■副作用

【副作用】重大な副作用
効能共通
1. ショック(頻度不明)(遅発性含む)(失神, 意識消失, 呼吸困難, 呼吸停止, 心停止等), 軽度の過敏症状。
2. アナフィラキシー(頻度不明)(遅発性含む)(呼吸困難, 咽・喉頭浮腫等)。
3. 腎不全(頻度不明)(急性腎障害)。
4. 痙攣発作(頻度不明)。
5. 肺水腫(頻度不明)。
6. 肝機能障害(AST, ALT, γ－GTPの上昇等), 黄疸(各頻度不明)。
7. 心室細動, 冠動脈攣縮(各頻度不明)。
8. 皮膚障害(頻度不明)(皮膚粘膜眼症候群, 急性汎発性発疹性膿疱症)(発熱, 紅斑, 小膿疱, 掻痒感, 眼充血, 口内炎等)。
9. 血小板減少(頻度不明)。
10. ショックを伴わない意識障害, 失神(各頻度不明)。
11. 一過性麻痺(頻度不明)。
12. アレルギー反応に伴う急性冠症候群(頻度不明)。
脳血管撮影, 血管心臓撮影(肺動脈撮影含む), 大動脈撮影, 小児血管心臓撮影(肺動脈撮影含む)

7 治療を主目的としない医薬品

13. 造影剤脳症(頻度不明)(意識障害, 麻痺, 失語, 皮質盲等の中枢神経症状)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0.1～5%未満 0.1%未満 頻度不明
過敏症 発疹, 蕁麻疹, 発赤, 掻痒感等 潮紅, 浮腫
循環器 不整脈 血圧低下, 熱感, 徐脈, 顔面蒼白 血圧上昇, 頻脈, 動悸, チアノーゼ
呼吸器 咳, くしゃみ, 鼻閉 呼吸困難, 咽頭不快感, 喉頭不快感, 喘息発作
精神神経系 頭痛 眩暈, 目のかすみ 脱力感, 一過性盲等の視力障害, 眠気(傾眠), 健忘
消化器 悪心, 嘔吐 腹痛, 口渇, 下痢
内分泌系 甲状腺機能低下症
その他 発熱 胸内苦悶感 倦怠感, 悪寒, 冷汗, 関節痛, 発汗, 充血
(表終了)

ガストログラフイン経口・注腸用（1mL）

内 内服 流通

【YJコード】7211001X1030
【薬効分類】7. 2. 1 X線造影剤
【一般名】アミドトリゾ酸ナトリウムメグルミン
【メーカー】製)バイエル薬品 販)日本シエーリング
【薬価】19.5円/1mL
【薬価収載日】2006/06/09
【標榜薬効】水溶性消化管造影剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】1. 消化管撮影
下記の消化管造影
狭窄の疑いのある時
急性出血
穿孔のおそれのある時(消化器潰瘍, 憩室)
その他, 外科手術を要する急性症状時
胃, 腸切除後(穿孔の危険, 縫合不全)
内視鏡検査法実施前の異物, 腫瘍の造影
胃・腸瘻孔の造影
2. コンピューター断層撮影の上部消化管造影
【用法用量】経口
消化管撮影 成人 1回60mL(レリーフ造影 10～30mL) 内服。
コンピューター断層撮影の上部消化管造影 成人 30～50倍量の水で希釈し 1回250～300mL 内服。
注腸
成人 3～4倍量の水で希釈し 最高500mLを注腸投与。

■禁忌
【禁忌】ヨード・ヨード造影剤に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック(意識消失, 心停止等), アナフィラキシー(各頻度不明)(呼吸困難等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 掻痒感, 蕁麻疹, 発疹, 発赤, 紅斑
循環器 血圧低下
消化器 下痢, 悪心, 嘔吐, 腹痛, 腹部不快感
内分泌系 甲状腺機能低下症
その他 発熱
(表終了)

バリコンミール（99%10g）

内 内服 流通

【YJコード】7212022A1029
【薬効分類】7. 2. 1 X線造影剤
【一般名】硫酸バリウム
【メーカー】製)堀井薬品工業
【薬価】14.9円/10g
【標榜薬効】胃二重造影用硫酸バリウムX線造影剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】食道・胃・十二指腸二重造影撮影
【用法用量】100gに水18～26mLを加え200～240w／v%の濃度の懸濁液とし, 内服。
成人 下記量。
(表開始)
検査部位 検査方法 硫酸バリウム濃度(w／v%) 用量(mL)
食道 二重造影 200～240 30～50
胃・十二指腸 二重造影 200～240 200～230
(表終了)

■禁忌
【禁忌】1. 消化管の穿孔・その疑い。
2. 消化管の急性出血。
3. 消化管の閉塞・その疑い。
4. 全身衰弱。
5. 硫酸バリウム製剤に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック, アナフィラキシー(各頻度不明)(顔面蒼白, 四肢冷感, 血圧低下, チアノーゼ, 意識消失, 潮紅, 蕁麻疹, 顔面浮腫, 喉頭浮腫, 呼吸困難等)。
2. 消化管穿孔, 腸閉塞, 腹膜炎(各頻度不明)(腹痛等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
消化器 排便困難, 便秘, 一過性の下痢・腹痛, 肛門部痛・出血, 悪心, 嘔吐
過敏症 発疹, 掻痒感, 蕁麻疹
(表終了)

バリトゲンHD（98. 6%10g）

内 内服 流通

【YJコード】7212029X1023
【薬効分類】7. 2. 1 X線造影剤
【一般名】硫酸バリウム
【メーカー】製)伏見製薬所
【薬価】14.4円/10g
【薬価収載日】1994/07/08
【標榜薬効】消化管X線造影剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】消化管撮影
【用法用量】水を加え適当な濃度とし, 経口・注腸。
成人 下記量。
(表開始)
検査部位 検査方法 硫酸バリウム濃度(w／v%) 用量(mL)
食道 (経口) 50～200 10～150
胃・十二指腸 (経口) 充盈 レリーフ 二重造影 30～200 10～300
小腸 (経口) 30～150 100～300
大腸 (注腸) 20～130 200～2000
(表終了)

■禁忌
【禁忌】1. 消化管の穿孔・その疑い。
2. 消化管の急性出血。
3. 消化管の閉塞・その疑い。
4. 全身衰弱。
5. 硫酸バリウム製剤に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック, アナフィラキシー(各頻度不明)(顔面蒼白, 四肢冷感, 血圧低下, チアノーゼ, 意識消失, 潮紅, 蕁麻疹, 顔面浮腫, 喉頭浮腫, 呼吸困難等)。
2. 消化管穿孔, 腸閉塞, 腹膜炎(各頻度不明)(腹痛等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
消化器 排便困難, 便秘, 一過性の下痢・腹痛, 肛門部痛・出血, 悪心, 嘔吐
過敏症 発疹, 掻痒感, 蕁麻疹
(表終了)

バリトップP（94. 6%10g）

両 内服 流通

【YJコード】7212013B1025
【薬効分類】7. 2. 1 X線造影剤
【一般名】硫酸バリウム
【メーカー】製)カイゲンファーマ
【薬価】14.2円/10g
【標榜薬効】消化管造影剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】消化管撮影
【用法用量】水を加え適当な濃度とし, 経口・注腸。
成人 下記量。
(表開始)
検査部位 検査方法 硫酸バリウム濃度(w／v%) 用量(mL)
食道 (経口) 50～200 10～150
胃・十二指腸 (経口) 充盈 レリーフ 二重造影 30～200 10～300
小腸 (経口) 30～150 100～300

7 治療を主目的としない医薬品

大腸（注腸） 20～130 200～2000
（表終了）

■禁忌
【禁忌】1. 消化管の穿孔・その疑い。
2. 消化管の急性出血。
3. 消化管の閉塞・その疑い。
4. 全身衰弱。
5. 硫酸バリウム製剤に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（顔面蒼白，四肢冷感，血圧低下，チアノーゼ，意識消失，潮紅，蕁麻疹，顔面浮腫，喉頭浮腫，呼吸困難等）。
2. 消化管穿孔，腸閉塞，腹膜炎（各頻度不明）（腹痛等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
消化器 排便困難，便秘，一過性の下痢・腹痛，肛門部痛・出血，悪心，嘔吐
過敏症 発疹，掻痒感，蕁麻疹
（表終了）

バロス発泡顆粒－S（1g）
内 内服 後発 流通

【YJコード】7213014D1028
【薬効分類】7．2．1 X線造影剤
【一般名】炭酸水素ナトリウム・酒石酸
【メーカー】製)堀井薬品工業
【薬価】13.5円/1g
【標榜薬効】X線診断二重造影用発泡剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】胃，十二指腸の透視・撮影の造影補助
【用法用量】透視開始時，造影剤投与開始直前又は投与開始後 年齢，胃内容積の個人差，造影の体位に応じ，約100～400mLの炭酸ガスの発生量に相当する量 少量の水又は造影剤とともに 内服。

■禁忌
【禁忌】1. 消化管の穿孔・その疑い。
2. 消化管の急性出血。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
消化器 腹部膨満感，おくび
（表終了）

ビジパーク270注100mL（54．97%100mL1瓶）
内 注射 流通

【YJコード】7219420A3034
【薬効分類】7．2．1 X線造影剤
【一般名】イオジキサノール
【メーカー】製)GEヘルスケアファーマ 販)第一三共
【薬価】6557円/1V
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】非イオン性等浸透圧造影剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】脳血管撮影，四肢血管撮影，逆行性尿路撮影，内視鏡的逆行性膵胆管撮影
注意
内視鏡的逆行性膵胆管撮影
急性膵炎の診断には内視鏡的逆行性膵胆管撮影をしない（急性膵炎発作時に内視鏡的逆行性膵胆管撮影を施行時，急性膵炎悪化のおそれ）。
他の方法で診断され，胆管炎の合併や胆道通過障害の遷延が疑われる胆石性膵炎等の内視鏡的治療を前提とした内視鏡的逆行性膵胆管撮影では，最新の急性膵炎診療ガイドライン等を参考に施行。
【用法用量】成人 下記1回量。非血管内への注入時 適宜増減。
血管内に投与時 総量180mLまで。
〔（ ）内はヨウ素含有量〕
（表開始）
撮影の種類 本剤（mL）
脳血管撮影 4～15（1．08～4．05g）
四肢血管撮影 8～80（2．16～21．6g）
逆行性尿路撮影 20～200（5．4～54g）（原液を生食で2倍希釈して使用もできる。）
内視鏡的逆行性膵胆管撮影 3～40（注）（0．81～10．8g）
（表終了）
（注）1回の検査の総量。

■禁忌
【禁忌】1. ヨード・ヨード造影剤に過敏症の既往。
2. 重篤な甲状腺疾患。

■副作用
【副作用】重大な副作用
効能共通
1. ショック（0．1%未満）（遅発性含む），軽度の過敏症状。
2. アナフィラキシー（頻度不明）（遅発性含む）（呼吸困難，咽・喉頭浮腫等）。
3. 肺水腫（頻度不明）。
4. 心室細動（頻度不明）。
5. 痙攣発作（頻度不明）。
6. 腎不全（頻度不明）（急性腎障害）。
7. 急性汎発性発疹性膿疱症（頻度不明）。
脳血管撮影
8. 造影剤脳症（頻度不明）（意識障害，麻痺，失語，皮質盲等の中枢神経症状）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹，発赤，掻痒感，浮腫，潮紅 結膜炎，点状出血，剥離等 多形紅斑
循環器 血圧低下 チアノーゼ
血液 赤血球減少，白血球増多，血小板減少，ヘマトクリット減少
呼吸器 咳，咽・喉頭不快感 鼻閉，くしゃみ
精神神経系 頭痛 視力障害，難聴，嗅覚錯誤
消化器 悪心，嘔吐 腹痛，腹部膨満感
肝臓 AST上昇，ALT上昇，LDH上昇等
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇 乏尿
電解質 カリウム値変動等
尿 尿糖上昇
内分泌系 甲状腺機能低下症
その他 悪寒 倦怠感，発熱，胸部圧迫感
（表終了）

マグコロール内用液13．6%分包250mL（13．6%250mL1包）
内 内服 流通

【YJコード】7213005S2024
【薬効分類】7．2．1 X線造影剤
【一般名】クエン酸マグネシウム
【メーカー】製)堀井薬品工業
【薬価】393.5円/1包
【薬価収載日】2020/12/11
【標榜薬効】大腸検査・腹部外科手術前処置用下剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】大腸検査（X線・内視鏡）前処置の腸管内容物の排除
腹部外科手術時の前処置用下剤
【用法用量】大腸X線検査前処置，腹部外科手術時の前処置
高張液投与 クエン酸マグネシウム 1回27～34g（本剤 200～250mL） 検査予定時間の10～15時間前 内服。
適宜増減。
大腸内視鏡検査前処置
高張液投与 クエン酸マグネシウム 1回27～34g（本剤 200～250mL） 検査予定時間の10～15時間前 内服。
適宜増減。
等張液投与 成人 クエン酸マグネシウム 68g（本剤 500mL）を水に溶解 全量約1800mLとし，1回1800mL 検査予定時間の4時間以上前に200mLずつ約1時間かけ 内服。
適宜増減，2400mLまで。
注意
1. 等張液投与時，下記に注意。
（1）．200mL投与ごとに排便，腹痛等の状況を確認し，慎重に投与するとともに，腹痛等の消化器症状発現時は投与を中断し，腹部の診察や画像検査（単純X線，超音波，CT等）を実施し，投与継続の可否を慎重に検討。
（2）．1800mLを投与しても排便がない時は，投与中断し，腹痛，嘔吐等がないことを確認し，腹部の診察や画像検査（単純X線，超音波，CT等）を実施し，投与継続の可否を慎重に検討。
（3）．高齢者は特に時間をかけて投与。
2. 高張液を投与時は，下記に注意。
体内水分を吸収し脱水の可能性，水分を摂取させる。

■禁忌
【禁忌】1. 消化管の閉塞・その疑い，重症の硬結便。
2. 急性腹症の疑い。
3. 腎障害。
4. 中毒性巨大結腸症。

■副作用

7 治療を主目的としない医薬品

【副作用】重大な副作用
1. 腸管穿孔，腸閉塞(各頻度不明)(腹痛等)。
2. 虚血性大腸炎(頻度不明)(腹痛，血便等)。
3. 高マグネシウム血症(頻度不明)(嘔気，嘔吐，筋力低下，傾眠，血圧低下，徐脈，皮膚潮紅等)，呼吸抑制，意識障害，不整脈，心停止。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹，掻痒感等
消化器 腹部膨満感，腹痛，悪心，嘔吐，腹鳴等
循環器 熱感，潮紅，しびれ，顔面蒼白，血圧低下等
精神神経系 眩暈，ふらつき，脱力感，不快感等
内分泌 尿ケトン体の陽性化，尿酸値の上昇
肝臓 総ビリルビンの上昇，AST，ALT，総コレステロールの上昇
腎・尿路系 尿pHの上昇，BUNの低下，尿蛋白の陽性化
血液 白血球数の増加，単球数の増加・減少
代謝・電解質 血清マグネシウム上昇，血清カルシウム上昇・低下，血清ナトリウム上昇・低下，血清カリウム上昇・低下，血清クロール低下
(表終了)

リピオドール480注10mL（10mL1管）

内 注射 流通

【YJコード】7211404X1037
【薬効分類】7．2．1 X線造影剤
【一般名】ヨード化ケシ油脂肪酸エチルエステル
【メーカー】製)ゲルベ・ジャパン 販)テルモ 販)富士製薬工業
【薬価】25792円/1A
【薬価収載日】2011/06/24
【標榜薬効】リンパ系・子宮卵管造影剤／医薬品又は医療機器の調整用剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】リンパ系撮影，子宮卵管撮影，医薬品・医療機器の調製
注意
調製用剤として，下記の医薬品・医療機器に使用。
注射用エピルビシン塩酸塩。
中心循環系血管内塞栓促進用補綴材 ヒストアクリル。
【用法用量】リンパ系撮影
皮膚直下の末梢リンパ管内に注入。上腕片側5～6mL，下肢片側10mL。
注入速度 0．3～0．5mL／分。
子宮卵管撮影
5～8mLを200mmHg以下の圧で注入(用時医師が定める)。適宜増減。
医薬品・医療機器の調製
医薬品・医療機器の調製に使用。
注意
医薬品・医療機器の調製
下記の医薬品・医療機器の電子添文を必ず確認。
注射用エピルビシン塩酸塩。
中心循環系血管内塞栓促進用補綴材 ヒストアクリル。

■禁忌
【禁忌】効能共通
1. 本剤の成分・ヨウ素に過敏症の既往。
2. 重篤な甲状腺疾患。
子宮卵管撮影
3. 妊婦・妊娠の可能性。

■副作用
【副作用】重大な副作用
効能共通
1. ショック(頻度不明)。
リンパ系撮影
2. 肺炎(頻度不明)。
3. 血栓塞栓症(頻度不明)(脳塞栓，肺塞栓)。
注射用エピルビシン塩酸塩の調製
4. 心筋障害(頻度不明)，うっ血性心不全等。
5. 骨髄抑制(頻度不明)(汎血球減少，白血球減少，好中球減少，血小板減少，貧血，出血傾向)，致命的な感染症(敗血症)，消化管出血。
6. 間質性肺炎(頻度不明)(発熱，咳嗽，呼吸困難，胸部X線異常等)。
7. 肝・胆道障害(頻度不明)(肝内胆汁性嚢胞，胆管炎，胆管壊死，肝壊死，肝不全，胆嚢炎等)。
8. 胃潰瘍，十二指腸潰瘍，消化管出血(各頻度不明)。
ヒストアクリルの調製
9. 肺炎(頻度不明)。
10. 血栓塞栓症(頻度不明)(脳塞栓，肺塞栓，門脈塞栓，脾梗塞等)。
その他の副作用(発現時中止等)(リンパ系撮影・子宮卵管撮影)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
皮膚 皮膚炎 発疹
呼吸器 咳，くしゃみ，喀痰等
循環器 肺脂肪塞栓像 チアノーゼ
消化器 腹痛 食欲不振，下痢等
適用部位 疼痛
白血球・網内系 リンパ管炎(一過性)
内分泌系 甲状腺機能低下症
その他 発熱 油性剤の残留 胸痛 熱感等，異物肉芽腫
(表終了)
その他の副作用(発現時中止等)(注射用エピルビシン塩酸塩の調製)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
心臓 心電図異常，不整脈，頻脈，胸痛
過敏症 発疹，紅斑，発赤，蕁麻疹
肝臓 肝機能異常(AST(GOT)・ALT(GPT)上昇等)
腎臓 腎機能異常(BUN上昇等)
消化器 悪心・嘔吐，食欲不振，口内炎，下痢，腹痛，食道炎，胃炎
皮膚 高度の脱毛，色素沈着，掻痒症，発赤，紅斑，糜爛，潰瘍等の皮膚障害，皮膚壊死
精神神経系 倦怠感，しびれ，疼痛，頭痛，耳痛・耳鳴，不眠，意識障害，知覚異常(口腔内異和感)
泌尿器 頻尿，血尿
呼吸器 呼吸困難
内分泌系 甲状腺機能低下症
その他 発熱，悪寒，顔面浮腫，血圧低下，ほてり
(表終了)
その他の副作用(発現時中止等)(ヒストアクリルの調製)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
呼吸器 咳，胸痛
消化器 嚥下障害
精神神経系 一過性の麻痺
適用部位 潰瘍，粘膜の壊死，出血
内分泌系 甲状腺機能低下症
その他 発熱，腹痛，背部痛，感染症，菌血症，敗血症
(表終了)

7．2．2 機能検査用試薬

グルカゴンGノボ注射用1mg（1mg1瓶(溶解液付)）

両 注射 自注 流通
劇

【YJコード】7229402D1036
【薬効分類】7．2．2 機能検査用試薬
【一般名】グルカゴン(遺伝子組換え)
【メーカー】製)ノボノルディスクファーマ 販)EAファーマ 販)エーザイ
【薬価】2371円/1V
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】グルカゴン(遺伝子組換え)製剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○消化管のX線・内視鏡検査の前処置
○低血糖時の救急処置
○成長ホルモン分泌機能検査
○肝型糖原病検査
○胃の内視鏡的治療の前処置
注意
低血糖時の救急処置
1. 飢餓状態，副腎機能低下症，一部糖原病等は血糖上昇効果は期待できない。アルコール性低血糖の血糖上昇効果はない。
胃の内視鏡的治療の前処置
2. 食道，十二指腸，下部消化管の内視鏡的治療の前処置は使用経験なし。
【用法用量】(表開始)
効能・効果 用法・用量
消化管のX線・内視鏡検査の前処置 0．5～1mg 筋注・静注(1mgを1mLの注射用水に溶解)。適宜増減。作用持続時間は，筋注 約25分間，静注 15～20分間。
低血糖時の救急処置 1mg 筋注・静注(1mgを1mLの注射用水に溶解)。
成長ホルモン分泌機能検査 0．03mg／kg 空腹時 皮下注(1mgを1mLの注射用水に溶解)。最大1mg。(判定基準) 血中hGH値は，正常人では，投与後60～180分でピークに達し，10ng／mL以上を示す。血中hGH値が5ng／mL以下の時hGH分泌不全とする。投与後60分以降は30分ごとに180分まで測定し，判定。
肝型糖原病検査 成人 1mg 3分かけ 静注(1mgを生食20mLに溶解)。小児 0．03mg／kg 筋注(1mgを1mLの注射用水に溶解)。最大1mg。(判定基準) 正常小児は，筋注後30～60分で血糖はピークに達し，前値より25mg／dL以上上昇。正常成人は，静注後15～30分でピークに達し，前値より30～60mg／dL上昇。投与後の血糖のピーク値だけで判定できなければ投与後15～30分ごとに測定し，判定。
胃の内視鏡的治療の前処置 1mg 筋注・静注(1mgを1mLの注射用水に溶解)。内視鏡的治療中に消化管運動が再開し，治療困難な時又はその可能性がある時，1mgを追加。作用発現時間は，筋注 約5分，静注 1分以内で，作用持続時間は，筋注 約25分間，静注 15～20分間。
(表終了)

■禁忌
【禁忌】1. 褐色細胞腫・パラガングリオーマ・その疑い。

7 治療を主目的としない医薬品

2. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシーショック（各頻度不明）（不快感，顔面蒼白，血圧低下等）。
2. 低血糖症状（0. 1%未満）（嘔吐，嘔気，全身倦怠，傾眠，顔面蒼白，発汗，冷汗，冷感，意識障害等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 蕁麻疹
消化器 嘔気，嘔吐 腹痛，腹鳴，下痢
血液 白血球数増加，白血球分画の変動
心血管系 心悸亢進 血圧低下，高血圧
肝臓 血清ビリルビン上昇
糖代謝 血糖値上昇，尿糖
脂質代謝 トリグリセライド上昇
その他 頭痛，倦怠感 眠気，顔色不良，発汗，眩暈，ほてり，冷感，LDH上昇，血清カリウム上昇，血清カリウム低下，血清無機リン上昇，尿潜血 熱感，発赤，注射部位反応
（表終了）

ヒルトニン0. 5mg注射液（0. 5mg1管）
内 注射 流通

【YJコード】7223401A1104
【薬効分類】7. 2. 2 機能検査用試薬
【一般名】プロチレリン酒石酸塩水和物
【メーカー】(製)武田テバ薬品 (販)武田薬品工業
【薬価】691円/1A
【薬価収載日】2001/09/07
【標榜薬効】遷延性意識障害・脊髄小脳変性症治療・TSH分泌機能検査用剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】〇下記に伴う昏睡，半昏睡を除く遷延性意識障害
・頭部外傷
・くも膜下出血（意識障害固定期間3週以内）
〇脊髄小脳変性症の運動失調の改善
〇下垂体TSH分泌機能検査
（1）. 採血時間 注射前と注射後30分に採血，必要時さらに経時的に採血。
（2）. 測定方法 TSH測定キットを使用し，ラジオイムノアッセイ法で測定。
（3）. 正常範囲 血中TSHの正常範囲は，投与後30分でピーク，血中TSH値は10μU／mL以上。投与前の血中TSH値は5μU／mL以下。
【用法用量】遷延性意識障害（昏睡，半昏睡除く）
成人 下記量 1日1回 10日間 静注・点滴静注。静注時 生食，ブドウ糖液又は注射用水5～10mLに希釈し，徐々に注射。
1. 頭部外傷 1回プロチレリン0. 5～2mg。
2. くも膜下出血（意識障害固定期間3週以内）1回プロチレリン2mg。
脊髄小脳変性症
成人 1回プロチレリン0. 5～2mg 1日1回 筋注・静注。
重症例 プロチレリン2mg 注射。
2～3週間連日注射後，2～3週間休薬。以後，これを反復するか，週2～3回の間欠注射。
静注時 生食，ブドウ糖液又は注射用水5～10mLに希釈し，徐々に注射。
下垂体TSH分泌機能検査
成人 1回プロチレリン0. 5mg 静注・皮下注。
静注時 生食又は注射用水5～10mLに希釈し，徐々に注射。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック様症状（頻度不明）（一過性の血圧低下，意識喪失等）。
2. 痙攣（頻度不明）。
3. 下垂体卒中（頻度不明）（頭痛，視力・視野障害等）。
4. 血小板減少（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
循環器 脈拍数の変動，熱感，顔面潮紅感 動悸，胸部圧迫感，血圧の変動
消化器 悪心 心窩部不快感，嘔吐，食欲不振，腹痛，口渇，異味感
肝臓 ALTの上昇 AI－Pの上昇 ASTの上昇
血液 白血球減少 貧血
精神神経系 興奮，多弁，頭痛，眩暈，しびれ感 振戦，不眠 不安
過敏症 発疹，掻痒
その他 尿意，発熱，発汗，悪寒，倦怠感，浮腫 排尿障害 脱力感，咽頭違和感，乳房腫大，乳汁分泌
（表終了）

7. 2. 9 その他の診断用薬（体外診断用医薬品を除く。）

EOB・プリモビスト注シリンジ（18. 143%10mL1筒）
内 注射 流通

【YJコード】7290415G2027
【薬効分類】7. 2. 9 その他の診断用薬（体外診断用医薬品を除く。）
【一般名】ガドキセト酸ナトリウム
【メーカー】(製)バイエル薬品
【薬価】12146円/1筒
【薬価収載日】2007/12/14
【標榜薬効】線状型MRI用肝臓造影剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】磁気共鳴コンピューター断層撮影の肝腫瘍の造影
注意
ガドリニウム造影剤を複数回投与で，非造影T1強調MR画像上，小脳歯状核，淡蒼球等に高信号の報告や脳の剖検組織からガドリニウム検出の報告あり，ガドリニウム造影剤を用いた検査の必要性を慎重に判断。
【用法用量】成人 0. 1mL／kg 静注。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・ガドリニウム造影剤に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（血圧低下，呼吸困難，咽・喉頭浮腫，蕁麻疹，咳嗽，蒼白等）。
2. 腎性全身性線維症（頻度不明）（皮膚の掻痒，腫脹，硬化，関節の硬直，筋力低下等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0. 1～1%未満 頻度不明
過敏症 掻痒，発疹 蕁麻疹，紅斑
精神神経系 頭痛，眩暈
循環器 血圧上昇
呼吸器 呼吸困難 くしゃみ
消化器 悪心，嘔吐，下痢
感覚器 味覚倒錯，嗅覚錯誤
投与部位 注射部位反応（疼痛等）
その他 血管拡張（熱感，潮紅），錯感覚 不快感，異常感，ビリルビン上昇
（表終了）

ガドテル酸メグルミン静注38%シリンジ10mL「GE」（37. 695%10mL1筒）
内 注射 後発 流通

【YJコード】7290411G1049
【薬効分類】7. 2. 9 その他の診断用薬（体外診断用医薬品を除く。）
【一般名】ガドテル酸メグルミン
【先発品】マグネスコープ静注38%シリンジ10mL
【メーカー】(製)GEヘルスケアファーマ (販)第一三共
【薬価】2019円/1筒
【薬価収載日】2020/06/19
【標榜薬効】環状型MRI用造影剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】磁気共鳴コンピューター断層撮影の下記造影
脳・脊髄造影
躯幹部・四肢造影
注意
ガドリニウム造影剤を複数回投与で，非造影T1強調MR画像上，小脳歯状核，淡蒼球等に高信号の報告や脳の剖検組織からガドリニウム検出の報告あり，ガドリニウム造影剤を用いた検査の必要性を慎重に判断。
【用法用量】成人 0. 2mL／kg 静注。
腎臓対象 0. 1mL／kg 静注。必要時 0. 2mL／kgまで。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・ガドリニウム造影剤に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（血圧低下，意識消失，呼吸困難，喉頭浮腫，顔面浮腫，全身の潮紅，蕁麻疹等）。
2. 腎性全身性線維症（頻度不明）（皮膚の掻痒，腫脹，硬化，関節の硬直，筋力低下等）（外国）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0. 1～0. 5%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒症 顔面浮腫，血管浮腫，潮紅，紅斑，眼瞼浮腫，蕁

7 治療を主目的としない医薬品

麻疹
循環器 血圧上昇，血圧低下
呼吸器 呼吸困難，口腔咽頭不快感，鼻閉，咳嗽，くしゃみ
消化器 悪心，嘔吐
精神神経系 頭痛 浮動性眩暈
眼 眼の異物感 眼充血，眼掻痒症
その他 熱感，味覚異常，胸部不快感 感覚鈍麻，冷感，多汗症，異常感
（表終了）

ガドテル酸メグルミン静注38%シリンジ15mL「GE」（37．695%15mL1筒）

内 注射 後発 流通

【YJコード】7290411G2045
【薬効分類】7．2．9 その他の診断用薬（体外診断用医薬品を除く。）
【一般名】ガドテル酸メグルミン
【先発品】マグネスコープ静注38%シリンジ15mL
【メーカー】製)GEヘルスケアファーマ 販)第一三共
【薬価】2772円/1筒
【薬価収載日】2020/06/19
【標榜薬効】環状型MRI用造影剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】磁気共鳴コンピューター断層撮影の下記造影
脳・脊髄造影
躯幹部・四肢造影
注意
ガドリニウム造影剤を複数回投与で，非造影T1強調MR画像上，小脳歯状核，淡蒼球等に高信号の報告や脳の剖検組織からガドリニウム検出の報告あり，ガドリニウム造影剤を用いた検査の必要性を慎重に判断。
【用法用量】成人 0．2mL／kg 静注。
腎臓対象 0．1mL／kg 静注。必要時 0．2mL／kgまで。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分・ガドリニウム造影剤に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（血圧低下，意識消失，呼吸困難，喉頭浮腫，顔面浮腫，全身の潮紅，蕁麻疹等）。
2．腎性全身性線維症（頻度不明）（皮膚の掻痒，腫脹，硬化，関節の硬直，筋力低下等）（外国）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～0．5%未満 頻度不明
過敏症 発疹，掻痒症 顔面浮腫，血管浮腫，潮紅，紅斑，眼瞼浮腫，蕁麻疹
循環器 血圧上昇，血圧低下
呼吸器 呼吸困難，口腔咽頭不快感，鼻閉，咳嗽，くしゃみ
消化器 悪心，嘔吐
精神神経系 頭痛 浮動性眩暈
眼 眼の異物感 眼充血，眼掻痒症
その他 熱感，味覚異常，胸部不快感 感覚鈍麻，冷感，多汗症，異常感
（表終了）

ガドビスト静注1．0mol／Lシリンジ10mL（60．47%10mL1筒）

内 注射 流通

【YJコード】7290416G3028
【薬効分類】7．2．9 その他の診断用薬（体外診断用医薬品を除く。）
【一般名】ガドブトロール
【メーカー】製)バイエル薬品
【薬価】7953円/1筒
【薬価収載日】2015/05/20
【標榜薬効】環状型非イオン性MRI用造影剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】磁気共鳴コンピューター断層撮影の下記造影
脳・脊髄造影
躯幹部・四肢造影
注意
ガドリニウム造影剤を複数回投与で，非造影T1強調MR画像上，小脳歯状核，淡蒼球等に高信号の報告や脳の剖検組織からガドリニウム検出の報告あり，ガドリニウム造影剤を用いた検査の必要性を慎重に判断。
【用法用量】0．1mL／kg 静注。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分・ガドリニウム造影剤に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（血圧低下，呼吸困難，意識消失，咽・喉頭浮腫，顔面浮腫，呼吸停止，心停止等）。
2．痙攣発作（頻度不明）（意識消失）等。
3．腎性全身性線維症（頻度不明）（皮膚の掻痒，腫脹，硬化，関節の硬直，筋力低下等）（外国）。
4．急性呼吸窮迫症候群，肺水腫（各頻度不明）（急速に進行する呼吸困難，低酸素血症，両側性びまん性肺浸潤影等の胸部X線異常等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，潮紅，蕁麻疹 血管浮腫，紅斑，掻痒感
精神神経系 頭痛 眩暈
感覚器 結膜炎，味覚異常，錯感覚，嗅覚錯誤
消化器 嘔気，嘔吐，口内乾燥
循環器 血圧上昇，頻脈 蒼白，チアノーゼ，動悸
呼吸器 気管支痙攣，咳嗽，くしゃみ，呼吸困難
自律神経系 多汗症
その他 熱感，注射部位反応 胸痛，倦怠感，冷感
（表終了）

ガドビスト静注1．0mol／Lシリンジ5mL（60．47%5mL1筒）

内 注射 流通

【YJコード】7290416G1025
【薬効分類】7．2．9 その他の診断用薬（体外診断用医薬品を除く。）
【一般名】ガドブトロール
【メーカー】製)バイエル薬品
【薬価】4206円/1筒
【薬価収載日】2015/05/20
【標榜薬効】環状型非イオン性MRI用造影剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】磁気共鳴コンピューター断層撮影の下記造影
脳・脊髄造影
躯幹部・四肢造影
注意
ガドリニウム造影剤を複数回投与で，非造影T1強調MR画像上，小脳歯状核，淡蒼球等に高信号の報告や脳の剖検組織からガドリニウム検出の報告あり，ガドリニウム造影剤を用いた検査の必要性を慎重に判断。
【用法用量】0．1mL／kg 静注。

■禁忌

【禁忌】本剤の成分・ガドリニウム造影剤に過敏症の既往。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（血圧低下，呼吸困難，意識消失，咽・喉頭浮腫，顔面浮腫，呼吸停止，心停止等）。
2．痙攣発作（頻度不明）（意識消失）等。
3．腎性全身性線維症（頻度不明）（皮膚の掻痒，腫脹，硬化，関節の硬直，筋力低下等）（外国）。
4．急性呼吸窮迫症候群，肺水腫（各頻度不明）（急速に進行する呼吸困難，低酸素血症，両側性びまん性肺浸潤影等の胸部X線異常等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，潮紅，蕁麻疹 血管浮腫，紅斑，掻痒感
精神神経系 頭痛 眩暈
感覚器 結膜炎，味覚異常，錯感覚，嗅覚錯誤
消化器 嘔気，嘔吐，口内乾燥
循環器 血圧上昇，頻脈 蒼白，チアノーゼ，動悸
呼吸器 気管支痙攣，咳嗽，くしゃみ，呼吸困難
自律神経系 多汗症
その他 熱感，注射部位反応 胸痛，倦怠感，冷感
（表終了）

ガドビスト静注1．0mol／Lシリンジ7．5mL（60．47%7．5mL1筒）

内 注射 流通

【YJコード】7290416G2021
【薬効分類】7．2．9 その他の診断用薬（体外診断用医薬品を除く。）
【一般名】ガドブトロール
【メーカー】製)バイエル薬品
【薬価】6059円/1筒
【薬価収載日】2015/05/20
【標榜薬効】環状型非イオン性MRI用造影剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】磁気共鳴コンピューター断層撮影の下記造影
脳・脊髄造影

7 治療を主目的としない医薬品

躯幹部・四肢造影
注意
ガドリニウム造影剤を複数回投与で，非造影T1強調MR画像上，小脳歯状核，淡蒼球等に高信号の報告や脳の剖検組織からガドリニウム検出の報告あり，ガドリニウム造影剤を用いた検査の必要性を慎重に判断。
【用法用量】0．1mL／kg 静注。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分・ガドリニウム造影剤に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（血圧低下，呼吸困難，意識消失，咽・喉頭浮腫，顔面浮腫，呼吸停止，心停止等）。
2．痙攣発作（頻度不明）（意識消失）等。
3．腎性全身性線維症（頻度不明）（皮膚の掻痒，腫脹，硬化，関節の硬直，筋力低下等）（外国）。
4．急性呼吸窮迫症候群，肺水腫（各頻度不明）（急速に進行する呼吸困難，低酸素血症，両側性びまん性肺浸潤影等の胸部X線異常等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，潮紅，蕁麻疹 血管浮腫，紅斑，掻痒感
精神神経系 頭痛 眩暈
感覚器 結膜炎，味覚異常，錯感覚，嗅覚錯誤
消化器 嘔気，嘔吐，口内乾燥
循環器 血圧上昇，頻脈 蒼白，チアノーゼ，動悸
呼吸器 気管支痙攣，咳嗽，くしゃみ，呼吸困難
自律神経系 多汗症
その他 熱感，注射部位反応 胸痛，倦怠感，冷感
（表終了）

ソナゾイド注射用16μL（1瓶（溶解液付））
内 注射 流通

【YJコード】7290414D1038
【薬効分類】7．2．9 その他の診断用薬（体外診断用医薬品を除く。）
【一般名】ペルフルブタン
【メーカー】製)GEヘルスケアファーマ 販)第一三共
【薬価】8023円/1V
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】超音波診断用造影剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】超音波検査の下記造影
肝腫瘤性病変，乳房腫瘤性病変
【用法用量】成人 1回0．015mL／kg 静注（ペルフルブタンマイクロバブル 16μL（1バイアル）を添付の注射用水2mLで懸濁）。
参考
投与量換算表 体重あたりの投与量は下表を参照。
（表開始）
体重（kg） 40 50 60 70 80 90 100
懸濁液（mL） 0．6 0．75 0．9 1．05 1．2 1．35 1．5
ペルフルブタンマイクロバブル（μLMB（注）） 4．8 6 7．2 8．4 9．6 10．8 12
（表終了）
（注）ペルフルブタンマイクロバブルの体積（μL）
注意
1．成人1日1回投与。反復投与の使用経験なし。
2．撮影方法としてはハーモニック法を使用。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，血圧低下，発疹等）。
2．心筋虚血・心筋梗塞を伴う徐脈，低血圧（各頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹，発赤，掻痒 潮紅
精神神経系 頭痛
消化器 下痢，口渇，嘔吐，腹痛
臨床検査 蛋白尿，好中球減少，LDH上昇，尿糖陽性，血圧上昇，リンパ球減少，血小板数減少
その他 注射部疼痛，熱感，下肢冷感 味覚不全
（表終了）

トレーランG液75g（225mL1瓶）
内 内服 流通

【YJコード】7290003S1044
【薬効分類】7．2．9 その他の診断用薬（体外診断用医薬品を除く。）
【一般名】デンプン部分加水分解物
【メーカー】製)エイワイファーマ 販)EAファーマ 販)陽進堂
【薬価】205.2円/1V
【薬価収載日】2008/06/20
【標榜薬効】糖忍容力試験用糖質液

■効能効果・用法用量
【効能効果】糖尿病診断時の糖負荷試験
【用法用量】成人 1回50g，75g又は100g 内服。小児 1回1．75g／kg（本剤 5．25mL／kg） 内服。
注意
1．薬剤投与（試験）前の注意
（1）．医薬品は投与中止。
（2）．過激な運動は禁止。
（3）．前日の午後9時以降試験直前までは絶食。
（4）．前日の暴飲暴食及び飲酒は禁止。
2．薬剤投与（試験）時の注意
（1）．試験は早朝空腹時に行い，終了まで水以外の摂取を禁止。
（2）．試験中は安静にし，安楽な姿勢を保ち，過激な運動を避ける。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 蕁麻疹，掻痒症，発疹，紅斑
消化器 悪心 嘔吐，下痢，腹部膨満感，腹痛
精神神経系 頭痛
（表終了）

フルオレサイト静注500mg（10%5mL1瓶）
内 注射 後発 流通

【YJコード】7290402A2035
【薬効分類】7．2．9 その他の診断用薬（体外診断用医薬品を除く。）
【一般名】フルオレセイン
【メーカー】製)ノバルティスファーマ 販)日本アルコン
【薬価】872円/1V
【薬価収載日】2007/06/15
【標榜薬効】蛍光眼底造影剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】ぶどう膜・網膜・視神経等の疾患の診断
注意
慎重に適応を決定。他の方法による診断の可能性を検討する。
【用法用量】200～500mg 肘静脈に注射。
注意
静脈内のみ使用，髄腔内へは重篤な副作用の可能性，使用しない。

■禁忌
【禁忌】1．本剤に過敏症の既往。
2．全身衰弱。
3．重篤な糖尿病。
4．重篤な心疾患。
5．重篤な脳血流障害。
6．妊婦・妊娠の可能性。
7．肝硬変。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック（0．1%未満），アナフィラキシー（頻度不明）（発赤，掻痒感，胸内苦悶，血圧低下，顔面蒼白，脈拍異常，呼吸困難，意識消失等）。
2．心停止（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上又は頻度不明 0．1～5%未満 0．1%未満
消化器 悪心，腹痛 嘔吐
過敏症 掻痒症，潮紅，紅斑 蕁麻疹，発疹 光線過敏症等
精神神経系 意識消失，眩暈 頭痛
その他 尿の黄褐色着色，皮膚の一過性の黄変，血圧低下，血圧上昇，咳嗽，咽喉刺激感，熱感 注射部位の血栓性静脈炎
（表終了）

プロハンス静注シリンジ13mL（13mL1筒）
内 注射 流通

【YJコード】7290407G1034
【薬効分類】7．2．9 その他の診断用薬（体外診断用医薬品を除く。）
【一般名】ガドテリドール
【メーカー】製)ブラッコ・ジャパン 販)エーザイ
【薬価】3958円/1筒

7 治療を主目的としない医薬品

【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】環状型非イオン性MRI用造影剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】磁気共鳴コンピューター断層撮影の下記造影
脳・脊髄造影
躯幹部・四肢造影
注意
ガドリニウム造影剤を複数回投与で，非造影T1強調MR画像上，小脳歯状核，淡蒼球等に高信号の報告や脳の剖検組織からガドリニウム検出の報告あり，ガドリニウム造影剤を用いた検査の必要性を慎重に判断。
【用法用量】効能共通（腎臓造影除く）
成人 0．2mL／kg 静注。
転移性脳腫瘍の疑い 0．2mL／kg初回投与後，腫瘍が検出されないか，検出されても造影効果不十分時 初回投与後30分以内に0．2mL／kgを追加できる。
腎臓造影
成人 0．1mL／kg 静注。

■禁忌
【禁忌】1．本剤で重篤な副作用の既往。
2．本剤の成分・ガドリニウム造影剤に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，失神，昏迷，意識消失，呼吸停止，心停止，全身潮紅，血管浮腫，蕁麻疹等）。
2．痙攣発作（0．1%未満）。
3．腎性全身性線維症（頻度不明）（皮膚の掻痒，腫脹，硬化，関節の硬直，筋力低下等）（外国）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 0．1%未満 頻度不明
過敏症 蕁麻疹 ほてり 掻痒，発疹，潮紅
循環器 動悸，血圧低下，血圧上昇
呼吸器 咳嗽 くしゃみ，嚏声，咽喉頭不快感，鼻炎，喘息
消化器 嘔気・嘔吐 口渇，腹痛
精神神経系 眩暈感，頭痛 しびれ感，振戦，一過性意識消失
血液系 白血球増加，血小板増加
肝臓・胆管系 肝機能異常，AST増加，ALT増加
投与部位 血管痛 疼痛
その他 熱感 血清カリウム増加，気分不良，BUN増加，胸痛，血清鉄低下，血中クレアチニン増加，冷感，多汗，味覚異常，眼の異常，倦怠感
（表終了）

ボースデル内用液10（10mg250mL1袋）

内 内服 流通

【YJコード】7290006S1021
【薬効分類】7．2．9 その他の診断用薬（体外診断用医薬品を除く。）
【一般名】塩化マンガン四水和物
【メーカー】製)MeijiSeikaファルマ 販)協和キリン 販)健栄製薬
【薬価】784.1円/1袋
【薬価収載日】2006/09/15
【標榜薬効】MRI用経口消化管造影剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】磁気共鳴胆道膵管撮影の消化管陰性造影
注意
本剤はT2強調画像で陰性造影効果を示す。なお，T1強調画像では陽性造影効果を示す。
【用法用量】成人 1袋250mL（塩化マンガン四水和物36mg（マンガン 10mg）含む） 内服。
注意
1T以上のMRI機器で使用。

■禁忌
【禁忌】1．消化管の穿孔・その疑い。
2．本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹・蕁麻疹
消化器 軟便 下痢，腹痛，腹鳴，悪心，腹部膨満，胸やけ
精神神経系 眠気，頭痛
その他 尿蛋白陽性，尿糖陽性 血清鉄低下，血清フェリチン減少
（表終了）

リゾビスト注（44．6mg1．6mL1瓶）

内 注射 流通

【YJコード】7290413A1029
【薬効分類】7．2．9 その他の診断用薬（体外診断用医薬品を除く。）
【一般名】フェルカルボトラン
【メーカー】製)ネオクリティケア製薬 販)日本シエーリング 販)バイエル薬品 販)PDRファーマ 販)富士フイルム富山化学
【薬価】13680円/1V
【薬価収載日】2002/12/06
【標榜薬効】MRI用肝臓造影剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】磁気共鳴コンピューター断層撮影の肝腫瘍の局在診断のための肝臓造影
注意
本剤・類薬の投与歴がある時，投与前の単純MR画像，特にT2強調画像での肝臓の信号における前回投与の影響を考慮し，投与の適否を判断。
【用法用量】成人 0．016mL／kg（鉄 0．45mg／kg＝8μmol／kg） 静注。
投与量 1．4mLまで。過剰量又は追加はしない。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分・鉄注射剤に過敏症の既往。
2．一般状態の極度に悪い患者。
3．ヘモクロマトーシス等鉄過剰症。
4．出血。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（呼吸困難，顔面浮腫，発赤，喉頭浮腫，痙攣等）。
2．中毒性表皮壊死融解症（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹，発赤，掻痒感 顔面潮紅
消化器 嘔気 嘔吐
精神神経系 後頭部痛，灼熱感，頭痛，手のしびれ，下肢のしびれ
自律神経系 冷汗 発汗
循環器 血圧上昇 虚脱，血圧低下
その他 鼻出血，熱感，倦怠感，腰痛，背部痛，胸膜刺激症状，発熱
（表終了）

レギチーン注射液5mg（0．5%1mL1瓶）

内 注射 流通

【YJコード】7290404A2026
【薬効分類】7．2．9 その他の診断用薬（体外診断用医薬品を除く。）
【一般名】フェントラミンメシル酸塩
【メーカー】製)ノバルティスファーマ
【薬価】61円/1V
【薬価収載日】2018/06/15
【標榜薬効】褐色細胞腫用αブロッカー

■効能効果・用法用量
【効能効果】褐色細胞腫の術前・術中の血圧調整，褐色細胞腫の診断
注意
褐色細胞腫の診断（フェントラミン試験）
尿・血漿中のカテコラミン等を測定。検査で褐色細胞腫が診断された時，フェントラミン試験は不要。
【用法用量】褐色細胞腫の術前・術中の血圧調整
（1）．術前 成人 5mg（本剤 1mL） 小児 1mg（本剤 0．2mL） 静注・筋注。適宜増減。
（2）．術中 成人 1～5mg（本剤 0．2～1mL） 適時静注。適宜増減。
褐色細胞腫の診断（フェントラミン試験）
成人 5mg（本剤 1mL） 静注・筋注。
小児 1mg（本剤 0．2mL） 静注，又は3mg（本剤 0．6mL） 筋注。
注意
褐色細胞腫の診断（フェントラミン試験）
1．鎮静剤，鎮痛剤等全ての投薬を，フェントラミン試験の最低24時間前，できれば48～72時間前に中止。降圧剤が投与されている時は，投与前の値に戻ってから試験実施。本試験を正常な血圧に実施する意味はない。
2．静注は下記の手技
・仰臥，安静で，血圧を安定させる。
・静脈内に注射針を刺入し，穿刺による血圧の動揺消失を待ち投与。
・静注後，血圧測定を開始し，最初3分は30秒ごと，次の7分は60秒ごとに血圧測定。
3．筋注は下記の手技
・静注時に準じ実施。
・投与後の血圧測定は，5分ごとに45分間行う。

7 治療を主目的としない医薬品

4. 収縮期圧35mmHg以上，拡張期圧25mmHg以上の血圧降下を示し，かつ血圧降下が静注後では2分以内，筋注後では20分以内に最大となれば，褐色細胞腫を示唆。
本試験は確実なスクリーニング法だが，偽陽性（尿毒症や，鎮静剤等の投薬時）又は偽陰性（発作性血圧上昇型の時）の結果を示す可能性。

■禁忌

【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症の既往。
2. 心筋梗塞，狭心症等の冠動脈疾患。
3. 低血圧。
4. 亜硫酸塩に過敏症。

■副作用

【副作用】その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
循環器 急激な血圧低下によるショック様症状，頻脈，心拍数減少，不整脈，胸内苦悶，狭心症様発作，心筋梗塞，起立性低血圧，鼻閉，皮膚潮紅
過敏症 過敏症状
精神神経系 熱感，頭痛，眩暈，脱力感，背痛，発汗
消化器 悪心・嘔吐，下痢
（表終了）

7．9 その他の治療を主目的としない医薬品

7．9．9 他に分類されない治療を主目的としない医薬品

Dーソルビトール経口液75%「コーワ」（75%10mL）

両 内服 流通

【YJコード】7990001S3054
【薬効分類】7．9．9 他に分類されない治療を主目的としない医薬品
【一般名】Dーソルビトール
【メーカー】製)興和
【薬価】10.5円/10mL
【薬価収載日】2012/06/22
【標榜薬効】X線造影促進・栄養補給剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】〇消化管のX線造影の迅速化
〇消化管のX線造影時の便秘の防止
〇経口的栄養補給
【用法用量】消化管のX線造影の迅速化，消化管のX線造影時の便秘の防止
X線造影剤に添加して内服。添加量はX線造影剤中の硫酸バリウム100gに対してDーソルビトール 10～20g（13～27mL）。
経口的栄養補給
必要量 内服。

■副作用

【副作用】重大な副作用
腸穿孔，腸潰瘍，腸壊死（各頻度不明）（小腸の穿孔，腸粘膜壊死，大腸潰瘍，結腸壊死等，激しい腹痛，下痢，嘔吐等）（ポリスチレンスルホン酸ナトリウムのソルビトール懸濁液）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
消化器 腹痛，下痢，腹部膨満，放屁
（表終了）

アデノスキャン注60mg（60mg20mL1瓶）

内 注射 流通

【YJコード】7990402A1029
【薬効分類】7．9．9 他に分類されない治療を主目的としない医薬品
【一般名】アデノシン
【メーカー】製)第一三共 販)第一製薬
【薬価】6867円/1V
【薬価収載日】2005/06/03
【標榜薬効】心臓疾患診断補助剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】十分に運動負荷をかけられない患者の心筋血流シンチグラフィによる心臓疾患の診断時の負荷誘導
注意
1. 国内承認前の臨床試験成績は201Tlを使用した成績。
2. 心筋シンチグラフィ施行時のみ使用。
【用法用量】120μg／kg／分 6分間 持続静注（アデノシン総量 0.72mg／kg）。
注意
1. シリンジポンプで持続静注。本剤及び放射性診断薬は別々の投与経路を確保。
2. 持続静注開始3分後に放射性診断薬を静注。本剤の持続静注は放射性診断薬投与時も継続し，合計6分間行う。
3. 急速静注するとII度又はIII度房室ブロック，徐脈及び血圧低下等の発現が増強するおそれ，投与時間を遵守。

■禁忌

【禁忌】1. 薬物治療によっても安定化しない不安定狭心症。
2. II度・III度房室ブロック（人工ペースメーカーの装着患者除く）。
3. 洞不全症候群・症候性の著しい洞性徐脈（人工ペースメーカーの装着患者除く）。
4. QT延長症候群。
5. 高度な低血圧。
6. 代償不全状態にある心不全。
7. 喘息等の気管支攣縮性肺疾患・その既往・その疑い。
8. アデノシンに過敏症の既往。
9. ジピリダモール，メチルキサンチン類（無水カフェイン・カフェイン水和物，テオフィリン，アミノフィリン水和物）を投与中・カフェイン含む飲食物の摂取患者。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1. 心停止（頻度不明），心室頻拍（頻度不明），心室細動（頻度不明），心筋梗塞（頻度不明）。
2. 過度の血圧低下（0．5%）。
3. 洞房ブロック（頻度不明），完全房室ブロック（頻度不明）。
4. 重篤な呼吸障害（頻度不明），呼吸停止。
5. 重篤な肺浮腫（頻度不明）。
6. 脳血管障害（頻度不明）。
7. アナフィラキシー（頻度不明），アナフィラキシーショック。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 0．5～5%未満 0．5%未満 頻度不明
循環器 胸痛・胸部不快感・心窩部不快感（36．9%），血圧低下，ST－T変化，房室ブロック 胸部・心窩部圧迫感，頻脈，心室性期外収縮，上室性期外収縮，動悸，血圧上昇，QT延長 洞停止，心房細動，洞房ブロック，脚ブロック，冠動脈攣縮，徐脈，QRS幅拡大
呼吸器 息切れ・呼吸困難 頻呼吸 鼻炎，気管支痙攣，咳
過敏症 皮疹 紅斑
精神神経系 眩暈，あくび 不安・神経過敏，異常感覚，振戦，傾眠，意識消失
消化器 口渇，腹痛，腹部不快感，嘔気・嘔吐 歯痛 嚥下困難，胃腸不快感
血液 赤血球減少，血小板減少，ヘモグロビン減少，ヘマトクリット値低下 白血球増加，白血球減少，血小板増加
肝臓 ALT上昇 AlーP上昇，総ビリルビン上昇
腎臓 BUN上昇，クレアチニン上昇
全身 熱感（16．7%），頭痛・頭重感 潮紅，喉・首・顎の不快感，倦怠感，異常感 背部痛，発汗・冷汗 無力症，背部不快感，上肢不快感，下肢不快感，気分不良
その他 眼のかすみ，鼻腔・口内異常感覚，総コレステロール上昇，総コレステロール減少，CK上昇 弱視，眼痛，耳痛，味覚倒錯
（表終了）

ニフレック配合内用剤（1袋）

内 内服 流通

【YJコード】7990100A1106
【薬効分類】7．9．9 他に分類されない治療を主目的としない医薬品
【一般名】ナトリウム・カリウム配合剤
【メーカー】製)EAファーマ
【薬価】741円/1袋
【薬価収載日】2009/09/25
【標榜薬効】経口腸管洗浄剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】大腸内視鏡検査，バリウム注腸X線造影検査，大腸手術時の前処置の腸管内容物の排除
【用法用量】1袋を水に溶解して約2Lとし，溶解液とする。
成人 1回溶解液2～4L 約1L／時 内服。排泄液が透明になった時点で投与を終了。4Lを超えて投与しない。
大腸内視鏡検査前処置
（1）．検査当日に投与時 当日の朝食は絶食（水分摂取のみ可），検査開始予定時間の約4時間前から開始。
（2）．検査前日に投与時 前日の夕食後は絶食（水分摂取のみ可），夕食後約1時間以上経過後，投与開始。前日の朝食，昼食は残渣の少ないもの，夕食は固形物の入っていない液状食。
バリウム注腸X線造影検査前処置
検査当日の朝は絶食（水分摂取のみ可），検査開始予定時間の約6時間前から開始。成人 溶解液の投与開始時 モサプリドクエン酸塩20mg 溶解液（約180mL）で 内服。溶解液投与終了後 モサプリドクエ

7 治療を主目的としない医薬品

ン酸塩20mg 少量の水で 内服。
大腸手術前処置
手術前日の昼食後は絶食(水分摂取のみ可), 昼食後約3時間以上経過後, 投与開始。
注意
1. 排便, 腹痛等を確認しながら慎重に投与。
2. 約1Lを投与しても排便がない時, 腹痛, 嘔気, 嘔吐のないことを必ず確認後投与を継続し, 排便が認められるまで観察。
2Lを投与しても排便がない時, 投与を中断し, 腹痛, 嘔吐等がないことを確認するとともに, 腹部の診察や画像検査(単純X線, 超音波, CT等)を実施し, 投与継続の可否を慎重に検討。
3. 高齢者では特に時間をかけて投与。
4. バリウム注腸X線造影検査では, 2回目のモサプリドクエン酸塩水和物の投与後はバリウム注腸X線造影検査まで飲食物を摂取しない。

■禁忌
【禁忌】1. 胃腸管閉塞症・腸閉塞の疑い。
2. 腸管穿孔。
3. 中毒性巨大結腸症。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック, アナフィラキシー(頻度不明)(顔面蒼白, 血圧低下, 嘔吐, 嘔気持続, 気分不良, 眩暈, 冷感, 蕁麻疹, 呼吸困難, 顔面浮腫等)。
2. 腸管穿孔, 腸閉塞, 嵌径ヘルニア嵌頓(頻度不明)。
3. 低ナトリウム血症(頻度不明)(嘔吐, 意識障害, 痙攣等)。
4. 虚血性大腸炎(頻度不明)。
5. マロリー・ワイス症候群(頻度不明)(嘔吐, 嘔気, 吐血, 血便等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 0. 1～5%未満 0. 1%未満 頻度不明
過敏症 蕁麻疹, 発疹
中枢・末梢神経系 ふらつき感, 冷感 意識障害
精神神経系 不眠
消化器 腹部膨満感, 嘔気, 腹痛, 嘔吐 腹鳴 肛門部痛
循環器 胸痛
内分泌 尿ケトン体陽性, 尿酸値上昇 低血糖発作, 血糖値上昇
肝臓 AST上昇, ALT上昇, LDH上昇, ビリルビン値上昇, 蛋白上昇, 蛋白低下, AI－P上昇
腎臓 尿蛋白陽性, 尿潜血陽性
血液 白血球減少, 白血球増多 血清カリウム上昇, 血清カリウム低下
その他 倦怠感 頭痛, 口渇, 頻尿, 胸やけ, さむけ 発熱, 頭重感, ほてり 発赤, 顔面紅潮
(表終了)

プロナーゼMS(20000単位)
内 内服 流通

【YJコード】7990002B2036
【薬効分類】7. 9. 9 他に分類されない治療を主目的としない医薬品
【一般名】プロナーゼ
【メーカー】製)科研製薬
【薬価】123.3円/20000U
【薬価収載日】2000/07/07
【標榜薬効】胃内粘液溶解除去剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】胃内視鏡検査の胃内粘液の溶解除去
【用法用量】検査15～30分前に 20000単位 内服(炭酸水素ナトリウム1gとともに約50～80mLの水に溶解)。
注意
酸性条件下では不安定, 炭酸水素ナトリウム1gを同時投与。

■禁忌
【禁忌】1. 胃内出血。
2. 本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】重大な副作用
ショック, アナフィラキシー(各頻度不明)(呼吸困難, 全身潮紅, 浮腫等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
消化器 胃出血(胃の潰瘍部, ポリープ等の病変からの出血), 嘔気・嘔吐, 下痢
過敏症 発疹・発赤等
(表終了)

ミンクリア内用散布液0. 8%(20mL1筒)
両 内服 流通

【YJコード】7990004S1020
【薬効分類】7. 9. 9 他に分類されない治療を主目的としない医薬品
【一般名】l－メントール
【メーカー】製)富士製薬工業 販)武田薬品工業
【薬価】836.4円/1筒
【薬価収載日】2010/12/10
【標榜薬効】胃蠕動運動抑制剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】上部消化管内視鏡時の胃蠕動運動の抑制
注意
臨床試験成績等を踏まえ, 本剤投与が適切な時に使用。
【用法用量】20mL(l－メントール 160mg) 内視鏡の鉗子口より胃幽門前庭部に行きわたるよう散布。

■禁忌
【禁忌】本剤の成分に過敏症の既往。

■副作用
【副作用】その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 0. 1～5%未満 頻度不明
過敏症 発疹, 蕁麻疹, 接触性皮膚炎
循環器 心電図異常(不整脈, ST－T変化)
呼吸器 息詰まり感 喘鳴
消化器 下痢, 腹部不快感, 上腹部痛, 腹痛 悪心, 嘔吐, 腹部膨満
血液 血中アミラーゼ増加, 白血球数増加
その他 頭痛, 倦怠感, 尿中ブドウ糖陽性 気分不良
(表終了)

8 麻薬

8．1 アルカロイド系麻薬（天然麻薬）

8．1．1 あへんアルカロイド系麻薬

アンペック坐剤10mg（10mg1個）

両 外用 流通
麻 劇

【YJコード】8114700J1023
【薬効分類】8．1．1 あへんアルカロイド系麻薬
【一般名】モルヒネ塩酸塩水和物
【メーカー】製)住友ファーマ 販)塩野義製薬 販)武田薬品工業 販)田辺三菱製薬 販)第一三共
【薬価】356円/1個
【薬価収載日】1991/11/29
【標榜薬効】癌疼痛治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】激痛を伴う各種癌の鎮痛
【用法用量】成人 1日20～120mg 1日2～4回 分割 直腸内投与。
初めてのモルヒネ製剤投与時 1回10mgから開始。
適宜増減。

■禁忌

【禁忌】1．重篤な呼吸抑制。
2．気管支喘息発作中。
3．重篤な肝機能障害。
4．慢性肺疾患に続発する心不全。
5．痙攣状態（てんかん重積症，破傷風，ストリキニーネ中毒）。
6．急性アルコール中毒。
7．本剤の成分・アヘンアルカロイドに過敏症。
8．ナルメフェン塩酸塩水和物の投与中・中止後1週間以内。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．依存性（0．2%），退薬症候（あくび，くしゃみ，流涙，発汗，悪心，嘔吐，下痢，腹痛，散瞳，頭痛，不眠，不安，せん妄，振戦，全身の筋肉・関節痛，呼吸促迫等）。
2．呼吸抑制（0．8%）（息切れ，呼吸緩慢，不規則な呼吸，呼吸異常等）。
3．錯乱（0．2%），せん妄（0．1%未満）。
4．無気肺（0．1%未満），気管支痙攣（0．1%未満），喉頭浮腫（0．1%未満）。
5．麻痺性イレウス（0．1%未満），中毒性巨大結腸（0．1%未満）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
循環器 血圧変動 不整脈，顔面潮紅
精神神経系 眠気 眩暈，不安，不穏，意識障害，幻覚，発汗，不眠 興奮，視調節障害，痛覚過敏・異痛症
消化器 悪心・嘔吐（16．8%），便秘（12．7%） 食欲不振，腹部膨満，直腸粘膜の刺激（肛門痛，粘膜糜爛等），口渇
過敏症 掻痒感 発疹
血液 白血球減少，血小板増多，血小板減少
肝臓 AST，ALT，AI－Pの上昇
腎臓 尿蛋白
その他 排尿障害，全身倦怠感 頭蓋内圧の亢進
（表終了）

オキシコドン徐放錠20mgNX「第一三共」（20mg1錠）

両 内服 流通
麻 劇

【YJコード】8119002G7030
【薬効分類】8．1．1 あへんアルカロイド系麻薬
【一般名】オキシコドン塩酸塩水和物
【メーカー】製)第一三共プロファーマ 販)第一三共
【薬価】433.7円/1T
【薬価収載日】2019/06/14
【標榜薬効】持続性癌疼痛治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】中等度から高度の疼痛を伴う各種癌の鎮痛
【用法用量】成人 オキシコドン塩酸塩（無水物） 1日10～80mg 1日2回 分割 内服。
適宜増減。
注意
1．初回投与
投与開始前のオピオイド鎮痛薬の治療の有無を考慮し，1日量を2分割し12時間ごとに投与。
（1）．オピオイド鎮痛薬の未使用患者は，疼痛の程度により10～20mgを1日量とする。
（2）．モルヒネ製剤の内服を本剤に変更時は，モルヒネ製剤1日量の2／3量を1日量の目安とする。
（3）．経皮フェンタニル貼付剤から変更時は，経皮フェンタニル貼付剤剥離後にフェンタニルの血中濃度が半減するまで17時間以上かかるため，剥離直後の本剤の使用は避ける。フェンタニルの血中濃度が低下するまでの時間をあけ，低用量から投与を考慮。
2．疼痛増強時
服用中の疼痛増強時や鎮痛効果がある患者の突発性疼痛は，直ちにオキシコドン塩酸塩等の即放性製剤の追加で鎮痛を図る。
3．増量
投与開始後，鎮痛効果が適切で副作用が最小の用量に調整。5mgから10mgへの増量の場合を除き増量の目安は，使用量の25～50%増とする。
4．減量
連用中の急激な減量は，退薬症候があらわれるので行わない。副作用等で減量する時は，慎重に行う。
5．投与の中止
退薬症候を防ぐために漸減。

■禁忌

【禁忌】1．重篤な呼吸抑制，重篤な慢性閉塞性肺疾患。
2．気管支喘息発作中。
3．慢性肺疾患に続発する心不全。
4．痙攣状態（てんかん重積症，破傷風，ストリキニーネ中毒）。
5．麻痺性イレウス。
6．急性アルコール中毒。
7．本剤の成分（オキシコドン，ナロキソン等）・アヘンアルカロイドに過敏症。
8．出血性大腸炎。
9．ナルメフェン塩酸塩水和物の投与中・中止後1週間以内。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（顔面蒼白，血圧低下，呼吸困難，頻脈，全身発赤，血管浮腫，蕁麻疹等）。
2．依存性（頻度不明）（薬物依存），退薬症候（あくび，くしゃみ，流涙，発汗，悪心，嘔吐，下痢，腹痛，散瞳，頭痛，不眠，不安，せん妄，痙攣，振戦，全身の筋肉・関節痛，呼吸促迫，動悸等）。
3．呼吸抑制（頻度不明）（息切れ，呼吸緩慢，不規則な呼吸，呼吸異常等）。
4．錯乱，せん妄（各頻度不明）。
5．無気肺，気管支痙攣，喉頭浮腫（各頻度不明）。
6．麻痺性イレウス（0．1～1%未満），中毒性巨大結腸（頻度不明）。
7．肝機能障害（頻度不明）（AST，ALT，AI－P等の著しい上昇）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
過敏症 発疹 蕁麻疹
循環器 低血圧 不整脈，血圧変動，起立性低血圧，失神
精神神経系 眠気（22．8%），傾眠（18．7%），眩暈 発汗，幻覚，意識障害，しびれ，筋攣縮，頭痛，頭重感，焦燥，不安，異夢，悪夢，不眠，抑うつ，感情不安定，振戦，筋緊張亢進，健忘，構語障害 興奮，縮瞳，神経過敏，感覚異常，痙攣，多幸感，思考異常，視調節障害，痛覚過敏，アロディニア
消化器 便秘（42．4%），嘔気（39．5%），嘔吐（16．5%） 下痢，食欲不振，胃不快感，口渇，腹痛，味覚異常 おくび，嚥下障害，鼓腸，オッジ筋の機能不全
その他 掻痒感，発熱，脱力感，倦怠感，胸部圧迫感，血管拡張（顔面潮紅，熱感），排尿障害，尿閉，脱水，呼吸困難，悪寒，勃起障害，浮腫 頭蓋内圧の亢進，無月経，性欲減退，皮膚乾燥
（表終了）

オキシコドン徐放錠5mgNX「第一三共」（5mg1錠）

両 内服 流通
麻 劇

【YJコード】8119002G5038
【薬効分類】8．1．1 あへんアルカロイド系麻薬
【一般名】オキシコドン塩酸塩水和物
【メーカー】製)第一三共プロファーマ 販)第一三共
【薬価】121.4円/1T
【薬価収載日】2019/06/14
【標榜薬効】持続性癌疼痛治療剤
【粉砕情報】粉砕不可

■効能効果・用法用量

【効能効果】中等度から高度の疼痛を伴う各種癌の鎮痛
【用法用量】成人 オキシコドン塩酸塩（無水物） 1日10～80mg 1日

8 麻薬

2回 分割 内服。
適宜増減。
注意
1. 初回投与
投与開始前のオピオイド鎮痛薬の治療の有無を考慮し，1日量を2分割し12時間ごとに投与。
(1). オピオイド鎮痛薬の未使用患者は，疼痛の程度により10～20mgを1日量とする。
(2). モルヒネ製剤の内服を本剤に変更時は，モルヒネ製剤1日量の2／3量を1日量の目安とする。
(3). 経皮フェンタニル貼付剤から変更時は，経皮フェンタニル貼付剤剥離後にフェンタニルの血中濃度が半減するまで17時間以上かかるため，剥離直後の本剤の使用は避ける。フェンタニルの血中濃度が低下するまでの時間をあけ，低用量から投与を考慮。
2. 疼痛増強時
服用中の疼痛増強時や鎮痛効果がある患者の突発性疼痛は，直ちにオキシコドン塩酸塩等の即放性製剤の追加で鎮痛を図る。
3. 増量
投与開始後，鎮痛効果が適切で副作用が最小の用量に調整。5mgから10mgへの増量の場合を除き増量の目安は，使用量の25～50%増とする。
4. 減量
連用中の急激な減量は，退薬症候があらわれるので行わない。副作用等で減量する時は，慎重に行う。
5. 投与の中止
退薬症候を防ぐために漸減。

■禁忌
【禁忌】1. 重篤な呼吸抑制，重篤な慢性閉塞性肺疾患。
2. 気管支喘息発作中。
3. 慢性肺疾患に続発する心不全。
4. 痙攣状態(てんかん重積症，破傷風，ストリキニーネ中毒)。
5. 麻痺性イレウス。
6. 急性アルコール中毒。
7. 本剤の成分(オキシコドン，ナロキソン等)・アヘンアルカロイドに過敏症。
8. 出血性大腸炎。
9. ナルメフェン塩酸塩水和物の投与中・中止後1週間以内。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(顔面蒼白，血圧低下，呼吸困難，頻脈，全身発赤，血管浮腫，蕁麻疹等)。
2. 依存性(頻度不明)(薬物依存)，退薬症候(あくび，くしゃみ，流涙，発汗，悪心，嘔吐，下痢，腹痛，散瞳，頭痛，不眠，不安，せん妄，痙攣，振戦，全身の筋肉・関節痛，呼吸促迫，動悸等)。
3. 呼吸抑制(頻度不明)(息切れ，呼吸緩慢，不規則な呼吸，呼吸異常等)。
4. 錯乱，せん妄(各頻度不明)。
5. 無気肺，気管支痙攣，喉頭浮腫(各頻度不明)。
6. 麻痺性イレウス(0. 1～1%未満)，中毒性巨大結腸(頻度不明)。
7. 肝機能障害(頻度不明)(AST，ALT，AI－P等の著しい上昇)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
過敏症 発疹 蕁麻疹
循環器 低血圧 不整脈，血圧変動，起立性低血圧，失神
精神神経系 眠気(22. 8%)，傾眠(18. 7%)，眩暈 発汗，幻覚，意識障害，しびれ，筋攣縮，頭痛，頭重感，焦燥，不安，異夢，悪夢，不眠，抑うつ，感情不安定，振戦，筋緊張亢進，健忘，構語障害 興奮，縮瞳，神経過敏，感覚異常，痙攣，多幸感，思考異常，視調節障害，痛覚過敏，アロディニア
消化器 便秘(42. 4%)，嘔気(39. 5%)，嘔吐(16. 5%) 下痢，食欲不振，胃不快感，口渇，腹痛，味覚異常 おくび，嚥下障害，鼓腸，オッジ筋の機能不全
その他 掻痒感，発熱，脱力感，倦怠感，胸部圧迫感，血管拡張(顔面潮紅，熱感)，排尿障害，尿閉，脱水，呼吸困難，悪寒，勃起障害，浮腫 頭蓋内圧の亢進，無月経，性欲減退，皮膚乾燥
(表終了)

オキシコドン注射液10mg「第一三共」(1%1mL1管)

両 注射 後発 流通
麻 劇

【YJコード】8119400A1033
【薬効分類】8. 1. 1 あへんアルカロイド系麻薬
【一般名】オキシコドン塩酸塩水和物
【先発品】オキファスト注10mg
【メーカー】製)第一三共プロファーマ 販)第一三共
【薬価】141円/1A
【薬価収載日】2019/06/14
【標榜薬効】癌疼痛治療用注射剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】中等度から高度の疼痛を伴う各種癌の鎮痛
【用法用量】成人 1日7. 5～250mg 持続静注・持続皮下注。
適宜増減。
注意
持続投与時
1. 初回投与
投与開始前のオピオイド鎮痛薬による治療の有無を考慮して初回量を設定し，既に治療されている時にはその投与量及び鎮痛効果の持続を考慮して副作用に注意しながら投与量を調節。
(1). オピオイド鎮痛薬の未使用患者は，疼痛の程度により7. 5～12. 5mgを1日量とする。
(2). モルヒネ注射剤の持続静注を本剤に変更時，モルヒネ注射剤1日量の1. 25倍量を1日量の目安とする。
(3). 経口オキシコドン製剤から本剤へ変更時，オキシコドン製剤1日量の0. 75倍量を1日量の目安とする。
(4). 経皮フェンタニル貼付剤から本剤へ変更時，経皮フェンタニル貼付剤剥離後にフェンタニルの血中濃度が半減するまで17時間以上かかることから，剥離直後の使用は避ける。フェンタニルの血中濃度が低下するまでの時間をあけ，低用量から投与を考慮。
2. 増量
投与開始後，鎮痛効果が適切で副作用が最小の用量に調整。鎮痛効果不十分時は，レスキュー薬の投与量を考慮して前日の1日量の25～50%増を目安として増量。
3. 減量
連用中の急激な減量は，退薬症候があらわれるので行わない。副作用等で減量する時は，慎重に行う。
4. 投与の中止
退薬症候を防ぐために漸減。
臨時追加に使用
5. 疼痛増強時や鎮痛効果がある患者で突発性疼痛の発現時は，1日量の1／24量(1時間量相当分)を目安に早送りによる投与又は追加の静注を行い，鎮痛を図る。連続して行う時は，呼吸抑制等の副作用に注意。

■禁忌
【禁忌】1. 重篤な呼吸抑制，重篤な慢性閉塞性肺疾患。
2. 気管支喘息発作中。
3. 慢性肺疾患に続発する心不全。
4. 痙攣状態(てんかん重積症，破傷風，ストリキニーネ中毒)。
5. 麻痺性イレウス。
6. 急性アルコール中毒。
7. アヘンアルカロイドに過敏症。
8. 出血性大腸炎。
9. ナルメフェン塩酸塩水和物の投与中・中止後1週間以内。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(顔面蒼白，血圧低下，呼吸困難，頻脈，全身発赤，血管浮腫，蕁麻疹等)。
2. 依存性(頻度不明)(薬物依存)，退薬症候(あくび，くしゃみ，流涙，発汗，悪心，嘔吐，下痢，腹痛，散瞳，頭痛，不眠，不安，せん妄，痙攣，振戦，全身の筋肉・関節痛，呼吸促迫，動悸等)。
3. 呼吸抑制(3%未満)(息切れ，呼吸緩慢，不規則な呼吸，呼吸異常等)。
4. 錯乱(1%未満)，せん妄(3%未満)。
5. 無気肺，気管支痙攣，喉頭浮腫(各頻度不明)。
6. 麻痺性イレウス，中毒性巨大結腸(各頻度不明)。
7. 肝機能障害(5%未満)(AST，ALT，AI－P等の著しい上昇)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
過敏症 発疹 蕁麻疹
循環器 低血圧，血圧変動 不整脈，起立性低血圧，失神
精神神経系 眠気・傾眠(23. 8%) 眩暈，頭痛・頭重感，不眠，悪夢，筋攣縮，発汗，焦燥 幻覚，意識障害，しびれ，不安，異夢，興奮，視調節障害，縮瞳，神経過敏，感覚異常，痙攣，振戦，筋緊張亢進，健忘，抑うつ，感情不安定，多幸感，思考異常，構語障害，痛覚過敏，アロディニア
消化器 便秘(23. 8%)，嘔気(22. 8%)，嘔吐(19. 8%) 下痢，食欲不振，腹痛 胃不快感，おくび，鼓腸，味覚異常，嚥下障害，口渇，オッジ筋の機能不全
投与部位 発赤 腫脹，硬結，疼痛，掻痒感等の注射部位反応
その他 掻痒感，呼吸困難，倦怠感，脱水 発熱，悪寒，頭蓋内圧の亢進，脱力感，胸部圧迫感，排尿障害，尿閉，無月経，性欲減退，勃起障害，浮腫，皮膚乾燥，血管拡張(顔面潮紅，熱感)
(表終了)

オキシコドン注射液50mg「第一三共」(1%5mL1管)

両 注射 後発 流通
麻 劇

【YJコード】8119400A2030
【薬効分類】8. 1. 1 あへんアルカロイド系麻薬
【一般名】オキシコドン塩酸塩水和物
【先発品】オキファスト注50mg
【メーカー】製)第一三共プロファーマ 販)第一三共
【薬価】653円/1A
【薬価収載日】2019/06/14

8 麻薬

【標榜薬効】癌疼痛治療用注射剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】中等度から高度の疼痛を伴う各種癌の鎮痛
【用法用量】成人　1日7．5～250mg　持続静注・持続皮下注。
適宜増減。
注意
持続投与時
1．初回投与
投与開始前のオピオイド鎮痛薬による治療の有無を考慮して初回量を設定し，既に治療されている時にはその投与量及び鎮痛効果の持続を考慮して副作用に注意しながら投与量を調節。
(1)．オピオイド鎮痛薬の未使用患者は，疼痛の程度により7．5～12．5mgを1日量とする。
(2)．モルヒネ注射剤の持続静注を本剤に変更時，モルヒネ注射剤1日量の1．25倍量を1日量の目安とする。
(3)．経口オキシコドン製剤から本剤へ変更時，オキシコドン製剤1日量の0．75倍量を1日量の目安とする。
(4)．経皮フェンタニル貼付剤から本剤へ変更時，経皮フェンタニル貼付剤剥離後にフェンタニルの血中濃度が半減するまで17時間以上かかることから，剥離直後の使用は避ける。フェンタニルの血中濃度が低下するまでの時間をあけ，低用量から投与を考慮。
2．増量
投与開始後，鎮痛効果が適切で副作用が最小の用量に調整。鎮痛効果不十分時は，レスキュー薬の投与量を考慮して前日の1日量の25～50%増を目安として増量。
3．減量
連用中の急激な減量は，退薬症候があらわれるので行わない。副作用等で減量する時は，慎重に行う。
4．投与の中止
退薬症候を防ぐために漸減。
臨時追加に使用
5．疼痛増強時や鎮痛効果がある患者で突発性疼痛の発現時は，1日量の1／24量(1時間量相当分)を目安に早送りによる投与又は追加の静注を行い，鎮痛を図る。連続して行う時は，呼吸抑制等の副作用に注意。

■禁忌

【禁忌】1．重篤な呼吸抑制，重篤な慢性閉塞性肺疾患。
2．気管支喘息発作中。
3．慢性肺疾患に続発する心不全。
4．痙攣状態(てんかん重積症，破傷風，ストリキニーネ中毒)。
5．麻痺性イレウス。
6．急性アルコール中毒。
7．アヘンアルカロイドに過敏症。
8．出血性大腸炎。
9．ナルメフェン塩酸塩水和物の投与中・中止後1週間以内。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(顔面蒼白，血圧低下，呼吸困難，頻脈，全身発赤，血管浮腫，蕁麻疹等)。
2．依存性(頻度不明)(薬物依存)，退薬症候(あくび，くしゃみ，流涙，発汗，悪心，嘔吐，下痢，腹痛，散瞳，頭痛，不眠，不安，せん妄，痙攣，振戦，全身の筋肉・関節痛，呼吸促迫，動悸等)。
3．呼吸抑制(3%未満)(息切れ，呼吸緩慢，不規則な呼吸，呼吸異常等)。
4．錯乱(1%未満)，せん妄(3%未満)。
5．無気肺，気管支痙攣，喉頭浮腫(各頻度不明)。
6．麻痺性イレウス，中毒性巨大結腸(各頻度不明)。
7．肝機能障害(5%未満)(AST，ALT，AlーP等の著しい上昇)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
過敏症　発疹 蕁麻疹
循環器　低血圧，血圧変動 不整脈，起立性低血圧，失神
精神神経系 眠気・傾眠(23．8%) 眩暈，頭痛・頭重感，不眠，悪夢，筋攣縮，発汗，焦燥 幻覚，意識障害，しびれ，不安，異夢，興奮，視調節障害，縮瞳，神経過敏，感覚異常，痙攣，振戦，筋緊張亢進，健忘，抑うつ，感情不安定，多幸感，思考異常，構語障害，痛覚過敏，アロディニア
消化器 便秘(23．8%)，嘔気(22．8%)，嘔吐(19．8%) 下痢，食欲不振，腹痛 胃不快感，おくび，鼓腸，味覚異常，嚥下障害，口渇，オッジ筋の機能不全
投与部位 発赤 腫脹，硬結，疼痛，掻痒感等の注射部位反応
その他　掻痒感，呼吸困難，倦怠感，脱水 発熱，悪寒，頭蓋内圧の亢進，脱力感，胸部圧迫感，排尿障害，尿閉，無月経，性欲減退，勃起障害，浮腫，皮膚乾燥，血管拡張(顔面潮紅，熱感)
(表終了)

オキノーム散2．5mg（2．5mg1包）

両　内服　流通
麻　劇

【YJコード】8119002B2023
【薬効分類】8．1．1　あへんアルカロイド系麻薬
【一般名】オキシコドン塩酸塩水和物
【メーカー】製)シオノギファーマ　販)塩野義製薬　販)住友ファーマ　販)武田薬品工業　販)田辺三菱製薬　販)第一三共
【薬価】53.8円/1包
【薬価収載日】2010/09/24
【標榜薬効】癌疼痛治療用剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】中等度から高度の疼痛を伴う各種癌の鎮痛
【用法用量】成人　オキシコドン塩酸塩(無水物)　1日10～80mg　1日4回　分割　内服。
適宜増減。
注意
臨時追加に使用
1．疼痛増強時や鎮痛効果がある患者で突発性疼痛の発現時は，直ちに臨時追加を行い鎮痛を図る。1回量は定時投与中のオキシコドン塩酸塩経口剤の1日量の1／8～1／4を内服。
定時投与時
2．1日量を4分割して使用時は，6時間ごとの定時に内服。
(1)．初回投与
投与開始前のオピオイド鎮痛薬による治療の有無を考慮して初回量を設定し，既に治療されている場合にはその投与量及び鎮痛効果の持続を考慮して副作用の発現に注意しながら適宜投与量を調節。
[1]．オピオイド鎮痛薬の未使用患者は，疼痛の程度により10～20mgを1日量とする。
[2]．モルヒネ製剤の内服を本剤に変更時は，モルヒネ製剤1日量の2／3量を1日量の目安とする。
[3]．経皮フェンタニル貼付剤から本剤へ変更時は，経皮フェンタニル貼付剤剥離後にフェンタニルの血中濃度が半減するまで17時間以上かかるため，剥離直後の本剤の使用は避ける。フェンタニルの血中濃度が低下するまでの時間をあけ，低用量から投与を考慮。
(2)．増量
投与開始後，鎮痛効果が適切で副作用が最小の用量に調整。2．5mgから5mgへの増量の場合を除き増量の目安は，使用量の25～50%増とする。
(3)．減量
連用中の急激な減量は，退薬症候があらわれるので行わない。副作用等で減量する時は，慎重に行う。
(4)．投与の中止
退薬症候を防ぐために漸減。

■禁忌

【禁忌】1．重篤な呼吸抑制，重篤な慢性閉塞性肺疾患。
2．気管支喘息発作中。
3．慢性肺疾患に続発する心不全。
4．痙攣状態(てんかん重積症，破傷風，ストリキニーネ中毒)。
5．麻痺性イレウス。
6．急性アルコール中毒。
7．アヘンアルカロイドに過敏症。
8．出血性大腸炎。
9．ナルメフェン塩酸塩水和物の投与中・中止後1週間以内。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(顔面蒼白，血圧低下，呼吸困難，頻脈，全身発赤，血管浮腫，蕁麻疹等)。
2．依存性(頻度不明)(薬物依存)，退薬症候(あくび，くしゃみ，流涙，発汗，悪心，嘔吐，下痢，腹痛，散瞳，頭痛，不眠，不安，せん妄，痙攣，振戦，全身の筋肉・関節痛，呼吸促迫，動悸等)。
3．呼吸抑制(頻度不明)(息切れ，呼吸緩慢，不規則な呼吸，呼吸異常等)。
4．錯乱(頻度不明)，せん妄(2%未満)。
5．無気肺，気管支痙攣，喉頭浮腫(各頻度不明)。
6．麻痺性イレウス，中毒性巨大結腸(各頻度不明)。
7．肝機能障害(頻度不明)(AST，ALT，AlーP等の著しい上昇)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
過敏症　発疹，蕁麻疹
循環器　低血圧 不整脈，血圧変動，起立性低血圧，失神
精神神経系 眠気(16．9%)，傾眠，眩暈 頭痛・頭重感，不眠 発汗，幻覚，意識障害，しびれ，筋攣縮，焦燥，不安，異夢，悪夢，興奮，視調節障害，縮瞳，神経過敏，感覚異常，痙攣，振戦，筋緊張亢進，健忘，抑うつ，感情不安定，多幸感，思考異常，構語障害，痛覚過敏，アロディニア
消化器 便秘(26．8%)，嘔気(16．9%)，嘔吐 下痢，食欲不振，胃不快感，口渇 腹痛，おくび，鼓腸，味覚異常，嚥下障害，オッジ筋の機能不全
その他　掻痒感，発熱，倦怠感，血管拡張(顔面潮紅，熱感)，呼吸困難 悪寒，頭蓋内圧の亢進，脱力感，胸部圧迫感，排尿障害，尿閉，脱水，無月経，性欲減退，勃起障害，浮腫，皮膚乾燥
(表終了)

オキノーム散5mg（5mg1包）

両　内服　流通
麻　劇

【YJコード】8119002B3020

【薬効分類】8．1．1 あへんアルカロイド系麻薬
【一般名】オキシコドン塩酸塩水和物
【メーカー】製)シオノギファーマ 販)塩野義製薬 販)住友ファーマ 販)武田薬品工業 販)田辺三菱製薬 販)第一三共
【薬価】111.2円/1包
【薬価収載日】2010/09/24
【標榜薬効】癌疼痛治療用剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】中等度から高度の疼痛を伴う各種癌の鎮痛
【用法用量】成人 オキシコドン塩酸塩（無水物） 1日10～80mg 1日4回 分割 内服。
適宜増減。
注意
臨時追加に使用
1．疼痛増強時や鎮痛効果がある患者で突発性疼痛の発現時は，直ちに臨時追加を行い鎮痛を図る。1回量は定時投与中のオキシコドン塩酸塩経口剤の1日量の1／8～1／4を内服。
定時投与時
2．1日量を4分割して使用時は，6時間ごとの定時に内服。
（1）．初回投与
投与開始前のオピオイド鎮痛薬による治療の有無を考慮して初回量を設定し，既に治療されている場合にはその投与量及び鎮痛効果の持続を考慮して副作用の発現に注意しながら適宜投与量を調節。
［1］．オピオイド鎮痛薬の未使用患者は，疼痛の程度により10～20mgを1日量とする。
［2］．モルヒネ製剤の内服を本剤に変更時は，モルヒネ製剤1日量の2／3量を1日量の目安とする。
［3］．経皮フェンタニル貼付剤から本剤へ変更時は，経皮フェンタニル貼付剤剥離後にフェンタニルの血中濃度が半減するまで17時間以上かかるため，剥離直後の本剤の使用は避ける。フェンタニルの血中濃度が低下するまでの時間をあけ，低用量から投与を考慮。
（2）．増量
投与開始後，鎮痛効果が適切で副作用が最小の用量に調整。2．5mgから5mgへの増量の場合を除き増量の目安は，使用量の25～50%増とする。
（3）．減量
連用中の急激な減量は，退薬症候があらわれるので行わない。副作用等で減量する時は，慎重に行う。
（4）．投与の中止
退薬症候を防ぐために漸減。

■禁忌
【禁忌】1．重篤な呼吸抑制，重篤な慢性閉塞性肺疾患。
2．気管支喘息発作中。
3．慢性肺疾患に続発する心不全。
4．痙攣状態（てんかん重積症，破傷風，ストリキニーネ中毒）。
5．麻痺性イレウス。
6．急性アルコール中毒。
7．アヘンアルカロイドに過敏症。
8．出血性大腸炎。
9．ナルメフェン塩酸塩水和物の投与中・中止後1週間以内。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）（顔面蒼白，血圧低下，呼吸困難，頻脈，全身発赤，血管浮腫，蕁麻疹等）。
2．依存性（頻度不明）（薬物依存），退薬症候（あくび，くしゃみ，流涙，発汗，悪心，嘔吐，下痢，腹痛，散瞳，頭痛，不眠，不安，せん妄，痙攣，振戦，全身の筋肉・関節痛，呼吸促迫，動悸等）。
3．呼吸抑制（頻度不明）（息切れ，呼吸緩慢，不規則な呼吸，呼吸異常等）。
4．錯乱（頻度不明），せん妄（2%未満）。
5．無気肺，気管支痙攣，喉頭浮腫（各頻度不明）。
6．麻痺性イレウス，中毒性巨大結腸（各頻度不明）。
7．肝機能障害（頻度不明）（AST，ALT，AI－P等の著しい上昇）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 5%未満 頻度不明
過敏症 発疹，蕁麻疹
循環器 低血圧 不整脈，血圧変動，起立性低血圧，失神
精神神経系 眠気（16．9%），傾眠，眩暈 頭痛・頭重感，不眠 発汗，幻覚，意識障害，しびれ，筋攣縮，焦燥，不安，異夢，悪夢，興奮，視調節障害，縮瞳，神経過敏，感覚異常，痙攣，振戦，筋緊張亢進，健忘，抑うつ，感情不安定，多幸感，思考異常，構語障害，痛覚過敏，アロディニア
消化器 便秘（26．8%），嘔気（16．9%），嘔吐 下痢，食欲不振，胃不快感，口渇 腹痛，おくび，鼓腸，味覚異常，嚥下障害，オッジ筋の機能不全
その他 掻痒感，発熱，倦怠感，血管拡張（顔面潮紅，熱感），呼吸困難 悪寒，頭蓋内圧の亢進，脱力感，胸部圧迫感，排尿障害，尿閉，脱水，無月経，性欲減退，勃起障害，浮腫，皮膚乾燥
（表終了）

オプソ内服液5mg（5mg2．5mL1包）
両 内服 流通
麻 劇

【YJコード】8114005S1024
【薬効分類】8．1．1 あへんアルカロイド系麻薬
【一般名】モルヒネ塩酸塩水和物
【メーカー】製)住友ファーマ 販)塩野義製薬 販)武田薬品工業 販)田辺三菱製薬 販)第一三共
【薬価】263.3円/1包
【薬価収載日】2003/06/13
【標榜薬効】癌疼痛治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】中等度から高度の疼痛を伴う各種癌の鎮痛
【用法用量】成人 1日30～120mg 1日6回 分割 内服。
適宜増減。
注意
1．臨時追加に使用
本剤1回量は定時投与中のモルヒネ経口剤の1日量の1／6を目安。
2．定時投与時
（1）．初めてモルヒネ製剤を使用
1回5～10mgから開始。鎮痛効果，副作用発現状況を観察し，用量調節。
（2）．定時投与間隔
1日量を6分割で使用時，4時間ごとに内服。深夜の睡眠のため就寝前は2回分を投与できる。
（3）．他のオピオイド製剤から本剤へ変更 前薬の投与量，鎮痛効果の持続時間を考慮して，副作用に注意しながら，適宜用量調節。
（4）．経皮フェンタニル貼付剤から本剤へ変更 経皮フェンタニル貼付剤剥離後にフェンタニルの血中濃度が半減するまで17時間以上かかるため，剥離直後の本剤使用は避ける。フェンタニル血中濃度が低下するまで時間をあけ，低用量から投与を考慮。
（5）．減量
連用中の急激な減量は，退薬症候があらわれるので行わない。副作用等で減量する時は，慎重に行う。
（6）．投与の中止
退薬症候を防ぐために漸減。

■禁忌
【禁忌】1．重篤な呼吸抑制。
2．気管支喘息発作中。
3．重篤な肝機能障害。
4．慢性肺疾患に続発する心不全。
5．痙攣状態（てんかん重積症，破傷風，ストリキニーネ中毒）。
6．急性アルコール中毒。
7．本剤の成分・アヘンアルカロイドに過敏症。
8．出血性大腸炎。
9．ナルメフェン塩酸塩水和物の投与中・中止後1週間以内。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．依存性（頻度不明），退薬症候（あくび，くしゃみ，流涙，発汗，悪心，嘔吐，下痢，腹痛，散瞳，頭痛，不眠，不安，せん妄，振戦，全身の筋肉・関節痛，呼吸促迫等）。
2．呼吸抑制（1．2%）（息切れ，呼吸緩慢，不規則な呼吸，呼吸異常等）。
3．錯乱（頻度不明），せん妄（頻度不明）。
4．無気肺（頻度不明），気管支痙攣（頻度不明），喉頭浮腫（頻度不明）。
5．麻痺性イレウス（頻度不明），中毒性巨大結腸（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 頻度不明
循環器 低血圧 不整脈，血圧変動，顔面潮紅
呼吸器 呼吸抑制，一過性無呼吸，低酸素血症
精神神経系 眠気（29．4%） 意識障害，一過性失見当識，ふらつき，頭重感 眩暈，不安，不穏，興奮，視調節障害，発汗，痛覚過敏・異痛症
消化器 便秘（52．9%），嘔気（25．9%），嘔吐（14．1%） 食欲不振，腹部不快感 口渇
過敏症 掻痒感 発疹
肝臓 ALTの上昇，AI－Pの上昇 ASTの上昇
その他 排尿障害，全身倦怠感 頭蓋内圧の亢進
（表終了）

モルヒネ塩酸塩注射液10mg「第一三共」（1%1mL1管）
両 注射 流通
麻 劇

【YJコード】8114401A1120
【薬効分類】8．1．1 あへんアルカロイド系麻薬
【一般名】モルヒネ塩酸塩水和物
【メーカー】製)第一三共プロファーマ 販)塩野義製薬 販)武田薬品工業 販)田辺三菱製薬 販)第一三共
【薬価】305円/1A
【薬価収載日】2009/04/22
【標榜薬効】鎮痛・鎮静剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】皮下注・静注
〇激痛時の鎮痛・鎮静
〇激しい咳嗽発作の鎮咳
〇激しい下痢症状の改善，術後等の腸管蠕動運動の抑制
〇麻酔前投薬，麻酔の補助
〇中等度から高度の疼痛を伴う各種癌の鎮痛
硬膜外・くも膜下投与
〇激痛時の鎮痛
〇中等度から高度の疼痛を伴う各種癌の鎮痛
【用法用量】皮下注・静注
成人 1回5～10mg 皮下注。麻酔の補助で 静注。
適宜増減。
中等度から高度の疼痛を伴う各種癌の鎮痛で持続点滴静注・持続皮下注時 成人 1回50～200mg 投与。
適宜増減。
硬膜外投与
成人 1回2～6mg 硬膜外腔注入。
適宜増減。
硬膜外腔に持続注入時 成人 1日2～10mg 投与。
適宜増減。
くも膜下投与
成人 1回0．1～0．5mg くも膜下腔注入。
適宜増減。
注意
皮下注・静注
1．200mg注射液（4%製剤）は，10mg，50mg注射液（1%製剤）の4倍濃度なので，1%製剤から4%製剤への切りかえは，過量投与に注意して使用。
硬膜外投与
2．200mg注射液（4%製剤）は硬膜外投与には使用しない。
3．オピオイド系鎮痛薬の未使用患者は，初回24時間以内の総量10mgまで。
4．硬膜外投与で効果不十分で，追加の必要時，患者の状態（呼吸抑制等）を観察しながら慎重投与。
くも膜下投与
5．200mg注射液（4%製剤）はくも膜下投与には使用せず，10mg注射液（1%製剤）を使用。
6．患者の状態（呼吸抑制等）を観察しながら慎重投与。
7．追加投与や持続投与は行わないが，他の方法で鎮痛効果なければ，安全性上問題がない時のみ，実施を考慮。

■禁忌

【禁忌】投与経路共通
1．重篤な呼吸抑制。
2．気管支喘息発作中。
3．重篤な肝機能障害。
4．慢性肺疾患に続発する心不全。
5．痙攣状態（てんかん重積症，破傷風，ストリキニーネ中毒）。
6．急性アルコール中毒。
7．本剤の成分・アヘンアルカロイドに過敏症。
8．出血性大腸炎。
9．ナルメフェン塩酸塩水和物の投与中・中止後1週間以内。
硬膜外投与
10．注射部位・その周辺に炎症。
11．敗血症。
くも膜下投与
12．注射部位・その周辺に炎症。
13．敗血症。
14．中枢神経系疾患（髄膜炎，灰白脊髄炎，脊髄癆等）。
15．脊髄・脊椎に結核，脊椎炎及び転移性腫瘍等の活動性疾患。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．依存性（頻度不明），退薬症候（あくび，くしゃみ，流涙，発汗，悪心，嘔吐，下痢，腹痛，散瞳，頭痛，不眠，不安，せん妄，振戦，全身の筋肉・関節痛，呼吸促迫等）。
2．呼吸抑制（頻度不明）（息切れ，呼吸緩慢，不規則な呼吸，呼吸異常等）。
3．錯乱（頻度不明），せん妄（頻度不明）。
4．無気肺（頻度不明），気管支痙攣（頻度不明），喉頭浮腫（頻度不明）。
5．麻痺性イレウス（頻度不明），中毒性巨大結腸（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
循環器 不整脈，血圧変動，顔面潮紅
精神神経系 眠気，眩暈，不安，不穏，興奮，視調節障害，発汗，痛覚過敏，アロディニア
消化器 悪心，嘔吐，便秘，口渇
過敏症 発疹，掻痒感
投与部位 発赤，腫脹，硬結，疼痛，肉芽腫等の腫瘤
その他 排尿障害，尿閉，頭蓋内圧の亢進，脱力
（表終了）

モルヒネ塩酸塩注射液50mg「第一三共」（1%5mL1管）

両 注射 流通
麻 劇

【YJコード】8114401A2127
【薬効分類】8．1．1 あへんアルカロイド系麻薬
【一般名】モルヒネ塩酸塩水和物
【メーカー】製)第一三共プロファーマ 販)塩野義製薬 販)武田薬品工業 販)田辺三菱製薬 販)第一三共
【薬価】1371円/1A
【薬価収載日】2009/04/22
【標榜薬効】鎮痛・鎮静剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】皮下注・静注
〇激痛時の鎮痛・鎮静
〇激しい咳嗽発作の鎮咳
〇激しい下痢症状の改善，術後等の腸管蠕動運動の抑制
〇麻酔前投薬，麻酔の補助
〇中等度から高度の疼痛を伴う各種癌の鎮痛
硬膜外・くも膜下投与
〇激痛時の鎮痛
〇中等度から高度の疼痛を伴う各種癌の鎮痛
【用法用量】皮下注・静注
成人 1回5～10mg 皮下注。麻酔の補助で 静注。
適宜増減。
中等度から高度の疼痛を伴う各種癌の鎮痛で持続点滴静注・持続皮下注時 成人 1回50～200mg 投与。
適宜増減。
硬膜外投与
成人 1回2～6mg 硬膜外腔注入。
適宜増減。
硬膜外腔に持続注入時 成人 1日2～10mg 投与。
適宜増減。
くも膜下投与
成人 1回0．1～0．5mg くも膜下腔注入。
適宜増減。
注意
皮下注・静注
1．200mg注射液（4%製剤）は，10mg，50mg注射液（1%製剤）の4倍濃度なので，1%製剤から4%製剤への切りかえは，過量投与に注意して使用。
硬膜外投与
2．200mg注射液（4%製剤）は硬膜外投与には使用しない。
3．オピオイド系鎮痛薬の未使用患者は，初回24時間以内の総量10mgまで。
4．硬膜外投与で効果不十分で，追加の必要時，患者の状態（呼吸抑制等）を観察しながら慎重投与。
くも膜下投与
5．200mg注射液（4%製剤）はくも膜下投与には使用せず，10mg注射液（1%製剤）を使用。
6．患者の状態（呼吸抑制等）を観察しながら慎重投与。
7．追加投与や持続投与は行わないが，他の方法で鎮痛効果なければ，安全性上問題がない時のみ，実施を考慮。

■禁忌

【禁忌】投与経路共通
1．重篤な呼吸抑制。
2．気管支喘息発作中。
3．重篤な肝機能障害。
4．慢性肺疾患に続発する心不全。
5．痙攣状態（てんかん重積症，破傷風，ストリキニーネ中毒）。
6．急性アルコール中毒。
7．本剤の成分・アヘンアルカロイドに過敏症。
8．出血性大腸炎。
9．ナルメフェン塩酸塩水和物の投与中・中止後1週間以内。
硬膜外投与
10．注射部位・その周辺に炎症。
11．敗血症。
くも膜下投与
12．注射部位・その周辺に炎症。
13．敗血症。
14．中枢神経系疾患（髄膜炎，灰白脊髄炎，脊髄癆等）。
15．脊髄・脊椎に結核，脊椎炎及び転移性腫瘍等の活動性疾患。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．依存性（頻度不明），退薬症候（あくび，くしゃみ，流涙，発汗，悪心，嘔吐，下痢，腹痛，散瞳，頭痛，不眠，不安，せん妄，振戦，全身の筋肉・関節痛，呼吸促迫等）。
2．呼吸抑制（頻度不明）（息切れ，呼吸緩慢，不規則な呼吸，呼吸異常等）。
3．錯乱（頻度不明），せん妄（頻度不明）。
4．無気肺（頻度不明），気管支痙攣（頻度不明），喉頭浮腫（頻度不明）。

5. 麻痺性イレウス(頻度不明), 中毒性巨大結腸(頻度不明)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 頻度不明
循環器 不整脈, 血圧変動, 顔面潮紅
精神神経系 眠気, 眩暈, 不安, 不穏, 興奮, 視調節障害, 発汗, 痛覚過敏, アロディニア
消化器 悪心, 嘔吐, 便秘, 口渇
過敏症 発疹, 掻痒感
投与部位 発赤, 腫脹, 硬結, 疼痛, 肉芽腫等の腫瘤
その他 排尿障害, 尿閉, 頭蓋内圧の亢進, 脱力
(表終了)

8. 2 非アルカロイド系麻薬

8. 2. 1 合成麻薬

フェンタニルクエン酸塩1日用テープ1mg「第一三共」(1mg1枚)

両 外用 後発 流通
麻 劇

【YJコード】8219701S1033
【薬効分類】8. 2. 1 合成麻薬
【一般名】フェンタニルクエン酸塩
【先発品】フェントステープ1mg
【メーカー】製)救急薬品工業 販)第一三共
【薬価】240.1円/1枚
【薬価収載日】2018/06/15
【標榜薬効】経皮吸収型持続性癌疼痛治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】非オピオイド鎮痛剤・弱オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記の鎮痛(他のオピオイド鎮痛剤から切りかえて使用時のみ)
中等度から高度の疼痛を伴う各種癌
注意
他のオピオイド鎮痛剤が一定期間投与され, 忍容性が確認され, オピオイド鎮痛剤の継続的投与を要する癌疼痛の管理にのみ使用。
【用法用量】オピオイド鎮痛剤から切りかえて使用。
成人 胸部, 腹部, 上腕部, 大腿部等に貼付し 1日(約24時間)ごと貼りかえ。
初回貼付用量は本剤貼付前のオピオイド鎮痛剤の用法・用量を勘案して, 1mg, 2mg, 4mg, 6mgのいずれかの用量を選択。
適宜増減。
注意
1. 初回貼付用量
初回貼付用量として, 本剤8mgは推奨されない(初回貼付用量6mgを超える使用経験は少ない)。
初回貼付用量を選択する換算表は, 1日経口モルヒネ量60mg(坐剤1日30mg, 注射 1日20mg), 1日経口オキシコドン量40mg, フェンタニル経皮吸収型製剤(3日貼付型製剤)4. 2mg(25μg/時;1日フェンタニル0. 6mg), 本剤2mgへ切りかえるもので設定。
初回貼付用量は換算表で用量を選択し, 過量投与に注意。
換算表(オピオイド鎮痛剤から本剤へ切りかえる時の推奨貼付用量)
(表開始)
本剤1日量 本剤1日量 本剤1日量 1mg 2mg 4mg 6mg
定常状態の推定平均吸収量(フェンタニルとして)(注) 定常状態の推定平均吸収量(フェンタニルとして)(注) 定常状態の推定平均吸収量(フェンタニルとして)(注) 0. 3mg/日 0. 6mg/日 1. 2mg/日 1. 8mg/日
↑ ↑ ↑ ↑
使用前の鎮痛剤 モルヒネ 経口剤(mg/日) ≦29 30～89 90～149 150～209
使用前の鎮痛剤 モルヒネ 坐剤(mg/日) ≦10 20～40 50～70 80～100
使用前の鎮痛剤 モルヒネ 注射剤/静注(mg/日) ≦9 10～29 30～49 50～69
使用前の鎮痛剤 オキシコドン経口剤(mg/日) オキシコドン経口剤(mg/日) ≦19 20～59 60～99 100～139
使用前の鎮痛剤 フェンタニル経皮吸収型製剤(3日貼付型製剤;貼付用量mg) フェンタニル経皮吸収型製剤(3日貼付型製剤;貼付用量mg) 2. 1 4. 2 8. 4 12. 6
(表終了)
(注)本剤8mgは, 初回貼付用量としては推奨されないが, 定常状態の推定平均吸収量は, 1日フェンタニル2. 4mgに相当。
2. 初回貼付時
初回貼付後最低2日間は増量を行わない。他のオピオイド鎮痛剤から本剤に初めて切りかえた場合, フェンタニルの血中濃度が徐々に上昇するため, 鎮痛効果が得られるまで時間を要す。下記を参考に切りかえ前に使用していたオピオイド鎮痛剤を投与。
使用方法例
(表開始)
使用していたオピオイド鎮痛剤(a)の投与回数 オピオイド鎮痛剤の使用方法例
1日1回 投与12時間後に本剤貼付開始。
1日2～3回 本剤貼付開始と同時に1回量を投与。
1日4～6回 本剤貼付開始と同時及び4～6時間後に1回量を投与。
持続投与 本剤貼付開始後6時間まで継続して持続投与。
(表終了)
(a)経皮吸収型製剤除く。
上記の「使用方法例」では, 鎮痛効果不十分な時あり。状態を観察し, 鎮痛効果が得られるまで, オピオイド鎮痛剤の追加により鎮痛をはかる。1回の追加投与量として, 切りかえ前に使用していたオピオイド鎮痛剤が経口剤又は坐剤では1日量の1/6量を, 注射剤では1/12量を目安に投与。この場合, 速効性のオピオイド鎮痛剤を使用。
3. 用量調整と維持
(1). 疼痛増強時の処置
本剤貼付中に痛みが増強したり, 疼痛管理されている患者で突出痛があれば, オピオイド鎮痛剤の追加により鎮痛をはかる。1回の追加投与量として, 切りかえ前に使用していたオピオイド鎮痛剤が経口剤又は坐剤では1日量の1/6量を, 注射剤では1/12量を目安に投与。この場合, 速効性のオピオイド鎮痛剤を使用。
(2). 増量
初回貼付後・増量後最低2日間は増量を行わない。連日の増量で呼吸抑制の発現あり。
鎮痛効果が得られるまで患者ごとに用量調整を行う。効果不十分時, 追加された鎮痛剤の1日量及び疼痛程度を考慮し, 本剤を1mg(1日0. 3mg)又は2mg(1日0. 6mg)ずつ増量。1mgから増量する場合は2mgに増量。1回貼付用量が24mg(1日7. 2mg)を超える時は, 他の方法を考慮。
(3). 減量
連用中の急激な減量は, 退薬症候があらわれるので行わない。副作用等で減量する時は, 慎重に行う。
4. 使用中止
(1). 退薬症候を防ぐために漸減。
(2). 使用を中止し他のオピオイド鎮痛剤への変更時には, 本剤剥離後の血中フェンタニル濃度が半減するのに17時間以上(16. 75～45. 07時間)かかるため, 他のオピオイド鎮痛剤の投与は低用量から開始し, 鎮痛効果が得られるまで漸増。

■禁忌
【禁忌】1. 本剤の成分に過敏症。
2. ナルメフェン塩酸塩水和物の投与中・中止後1週間以内。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1. 呼吸抑制(0. 5%)(無呼吸, 呼吸困難, 呼吸異常, 呼吸緩慢, 不規則な呼吸, 換気低下等)。
2. 意識障害(0. 2%)(意識レベルの低下, 意識消失等)。
3. 依存性(頻度不明), 退薬症候, 死亡。
4. ショック, アナフィラキシー(各頻度不明)。
5. 痙攣(頻度不明)(間代性, 大発作型等)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 傾眠 眩暈, 頭痛, 不眠, せん妄 幻覚, 気分変動 健忘, 不安, 易刺激性, 振戦, 不快気分, 感覚鈍麻, アカシジア, 失見当識, 構語障害, 悪夢, 痛覚過敏, アロディニア
循環器 上室性期外収縮 血圧上昇, 動悸, 心房細動, 徐脈
皮膚 貼付部位の掻痒感 掻痒, 貼付部位の紅斑 発疹 紅斑, 貼付部位の皮膚炎, 湿疹, 蕁麻疹, 貼付部位の湿疹
呼吸器 咽頭痛, 呼吸困難 過換気, 口腔咽頭不快感
消化器 悪心, 嘔吐, 便秘 下痢, 食欲不振 胃部不快感, 腹部膨満感, 胃炎, 腹痛, 味覚異常 腹部不快感, 消化不良, 口内炎, 憩室炎, 食道運動障害
肝臓 ALT, AST, γ-GTP, AI-Pの上昇 ビリルビン上昇
腎臓 尿蛋白 排尿困難, BUN上昇 クレアチニン上昇
血液 好中球増加, 単球増加, 白血球数増加 リンパ球減少, 白血球数減少, 血小板数増加, 好酸球増加
その他 倦怠感, 発熱 発汗, しゃっくり, 血中カリウム減少 口渇, 薬剤離脱症候群, 異常感, 末梢性浮腫, 血中カリウム増加, 鼻咽頭炎, 悪寒, 胸部不快感, 高血圧, 筋痙縮, 耳鳴, 挫傷
(表終了)

フェンタニルクエン酸塩1日用テープ2mg「第一三共」(2mg1枚)

両 外用 後発 流通
麻 劇

【YJコード】8219701S2030
【薬効分類】8. 2. 1 合成麻薬
【一般名】フェンタニルクエン酸塩
【先発品】フェントステープ2mg
【メーカー】製)救急薬品工業 販)第一三共
【薬価】464.4円/1枚
【薬価収載日】2018/06/15
【標榜薬効】経皮吸収型持続性癌疼痛治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】非オピオイド鎮痛剤・弱オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記の鎮痛(他のオピオイド鎮痛剤から切りかえて使用時のみ)
中等度から高度の疼痛を伴う各種癌

注意
他のオピオイド鎮痛剤が一定期間投与され，忍容性が確認され，オピオイド鎮痛剤の継続的投与を要する癌疼痛の管理にのみ使用。
【用法用量】オピオイド鎮痛剤から切りかえて使用。
成人　胸部，腹部，上腕部，大腿部等に貼付し　1日（約24時間）ごと貼りかえ。
初回貼付用量は本剤貼付前のオピオイド鎮痛剤の用法・用量を勘案して，1mg，2mg，4mg，6mgのいずれかの用量を選択。
適宜増減。
注意
1．初回貼付用量
初回貼付用量として，本剤8mgは推奨されない（初回貼付用量6mgを超える使用経験は少ない）。
初回貼付用量を選択する換算表は，1日経口モルヒネ量60mg（坐剤1日30mg，注射　1日20mg），1日経口オキシコドン量40mg，フェンタニル経皮吸収型製剤（3日貼付型製剤）4．2mg（25μg／時；1日フェンタニル0．6mg），本剤2mgへ切りかえるもので設定。
初回貼付用量は換算表で用量を選択し，過量投与に注意。
換算表（オピオイド鎮痛剤から本剤へ切りかえる時の推奨貼付用量）
（表開始）
本剤1日量 本剤1日量 本剤1日量 1mg 2mg 4mg 6mg
定常状態の推定平均吸収量（フェンタニルとして）（注） 定常状態の推定平均吸収量（フェンタニルとして）（注） 定常状態の推定平均吸収量（フェンタニルとして）（注） 0．3mg／日 0．6mg／日 1．2mg／日 1．8mg／日
↑ ↑ ↑ ↑
使用前の鎮痛剤 モルヒネ 経口剤（mg／日） ≦29 30～89 90～149 150～209
使用前の鎮痛剤 モルヒネ 坐剤（mg／日） ≦10 20～40 50～70 80～100
使用前の鎮痛剤 モルヒネ 注射剤／静注（mg／日） ≦9 10～29 30～49 50～69
使用前の鎮痛剤 オキシコドン経口剤（mg／日） オキシコドン経口剤（mg／日） ≦19 20～59 60～99 100～139
使用前の鎮痛剤 フェンタニル経皮吸収型製剤（3日貼付型製剤；貼付用量mg） フェンタニル経皮吸収型製剤（3日貼付型製剤；貼付用量mg） 2．1 4．2 8．4 12．6
（表終了）
（注）本剤8mgは，初回貼付用量としては推奨されないが，定常状態の推定平均吸収量は，1日フェンタニル2．4mgに相当。
2．初回貼付時
初回貼付後最低2日間は増量を行わない。他のオピオイド鎮痛剤から本剤に初めて切りかえた場合，フェンタニルの血中濃度が徐々に上昇するため，鎮痛効果が得られるまで時間を要す。下記を参考に切りかえ前に使用していたオピオイド鎮痛剤を投与。
使用方法例
（表開始）
使用していたオピオイド鎮痛剤（a）の投与回数 オピオイド鎮痛剤の使用方法例
1日1回 投与12時間後に本剤貼付開始。
1日2～3回 本剤貼付開始と同時に1回量を投与。
1日4～6回 本剤貼付開始と同時及び4～6時間後に1回量を投与。
持続投与 本剤貼付開始後6時間まで継続して持続投与。
（表終了）
（a）経皮吸収型製剤除く。
上記の「使用方法例」では，鎮痛効果不十分な時あり。状態を観察し，鎮痛効果が得られるまで，オピオイド鎮痛剤の追加により鎮痛をはかる。1回の追加投与量として，切りかえ前に使用していたオピオイド鎮痛剤が経口剤又は坐剤では1日量の1／6量を，注射剤では1／12量を目安に投与。この場合，速効性のオピオイド鎮痛剤を使用。
3．用量調整と維持
（1）．疼痛増強時の処置
本剤貼付中に痛みが増強したり，疼痛管理されている患者で突出痛があれば，オピオイド鎮痛剤の追加により鎮痛をはかる。1回の追加投与量として，切りかえ前に使用していたオピオイド鎮痛剤が経口剤又は坐剤では1日量の1／6量を，注射剤では1／12量を目安に投与。この場合，速効性のオピオイド鎮痛剤を使用。
（2）．増量
初回貼付後・増量後最低2日間は増量を行わない。連日の増量で呼吸抑制の発現あり。
鎮痛効果が得られるまで患者ごとに用量調整を行う。効果不十分時，追加された鎮痛剤の1日量及び疼痛程度を考慮し，本剤を1mg（1日0．3mg）又は2mg（1日0．6mg）ずつ増量。1mgから増量する場合は2mgに増量。1回貼付用量が24mg（1日7．2mg）を超える時は，他の方法を考慮。
（3）．減量
連用中の急激な減量は，退薬症候があらわれるので行わない。副作用等で減量する時は，慎重に行う。
4．使用中止
（1）．退薬症候を防ぐために漸減。
（2）．使用を中止し他のオピオイド鎮痛剤への変更時には，本剤剥離後の血中フェンタニル濃度が半減するのに17時間以上（16．75～45．07時間）かかるため，他のオピオイド鎮痛剤の投与は低用量から開始し，鎮痛効果が得られるまで漸増。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症。
2．ナルメフェン塩酸塩水和物の投与中・中止後1週間以内。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．呼吸抑制（0．5%）（無呼吸，呼吸困難，呼吸異常，呼吸緩慢，不規則な呼吸，換気低下等）。
2．意識障害（0．2%）（意識レベルの低下，意識消失等）。
3．依存性（頻度不明），退薬症候，死亡。
4．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）。
5．痙攣（頻度不明）（間代性，大発作型等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 傾眠 眩暈，頭痛，不眠，せん妄 幻覚，気分変動 健忘，不安，易刺激性，振戦，不快気分，感覚鈍麻，アカシジア，失見当識，構語障害，悪夢，痛覚過敏，アロディニア
循環器　上室性期外収縮 血圧上昇，動悸，心房細動，徐脈
皮膚 貼付部位の掻痒感 掻痒，貼付部位の紅斑 発疹 紅斑，貼付部位の皮膚炎，湿疹，蕁麻疹，貼付部位の湿疹
呼吸器　咽頭痛，呼吸困難 過換気，口腔咽頭不快感
消化器 悪心，嘔吐，便秘 下痢，食欲不振 胃部不快感，腹部膨満感，胃炎，腹痛，味覚異常 腹部不快感，消化不良，口内炎，憩室炎，食道運動障害
肝臓　ALT，AST，γ－GTP，AI－Pの上昇 ビリルビン上昇
腎臓　尿蛋白 排尿困難，BUN上昇 クレアチニン上昇
血液　好中球増加，単球増加，白血球数増加 リンパ球減少，白血球数減少，血小板数増加，好酸球増加
その他　倦怠感，発熱 発汗，しゃっくり，血中カリウム減少 口渇，薬剤離脱症候群，異常感，末梢性浮腫，血中カリウム増加，鼻咽頭炎，悪寒，胸部不快感，高血圧，筋痙縮，耳鳴，挫傷
（表終了）

フェンタニルクエン酸塩1日用テープ6mg「第一三共」（6mg1枚）

両　外用　後発　流通
麻　劇

【YJコード】8219701S4032
【薬効分類】8．2．1　合成麻薬
【一般名】フェンタニルクエン酸塩
【先発品】フェントステープ6mg
【メーカー】製）救急薬品工業　販）第一三共
【薬価】1246.8円/1枚
【薬価収載日】2018/06/15
【標榜薬効】経皮吸収型持続性癌疼痛治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】非オピオイド鎮痛剤・弱オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記の鎮痛（他のオピオイド鎮痛剤から切りかえて使用時のみ）
中等度から高度の疼痛を伴う各種癌
注意
他のオピオイド鎮痛剤が一定期間投与され，忍容性が確認され，オピオイド鎮痛剤の継続的投与を要する癌疼痛の管理にのみ使用。
【用法用量】オピオイド鎮痛剤から切りかえて使用。
成人　胸部，腹部，上腕部，大腿部等に貼付し　1日（約24時間）ごと貼りかえ。
初回貼付用量は本剤貼付前のオピオイド鎮痛剤の用法・用量を勘案して，1mg，2mg，4mg，6mgのいずれかの用量を選択。
適宜増減。
注意
1．初回貼付用量
初回貼付用量として，本剤8mgは推奨されない（初回貼付用量6mgを超える使用経験は少ない）。
初回貼付用量を選択する換算表は，1日経口モルヒネ量60mg（坐剤1日30mg，注射　1日20mg），1日経口オキシコドン量40mg，フェンタニル経皮吸収型製剤（3日貼付型製剤）4．2mg（25μg／時；1日フェンタニル0．6mg），本剤2mgへ切りかえるもので設定。
初回貼付用量は換算表で用量を選択し，過量投与に注意。
換算表（オピオイド鎮痛剤から本剤へ切りかえる時の推奨貼付用量）
（表開始）
本剤1日量 本剤1日量 本剤1日量 1mg 2mg 4mg 6mg
定常状態の推定平均吸収量（フェンタニルとして）（注） 定常状態の推定平均吸収量（フェンタニルとして）（注） 定常状態の推定平均吸収量（フェンタニルとして）（注） 0．3mg／日 0．6mg／日 1．2mg／日 1．8mg／日
↑ ↑ ↑ ↑
使用前の鎮痛剤 モルヒネ 経口剤（mg／日） ≦29 30～89 90～149 150～209
使用前の鎮痛剤 モルヒネ 坐剤（mg／日） ≦10 20～40 50～70 80～100
使用前の鎮痛剤 モルヒネ 注射剤／静注（mg／日） ≦9 10～29 30～49 50～69
使用前の鎮痛剤 オキシコドン経口剤（mg／日） オキシコドン経口剤（mg／日） ≦19 20～59 60～99 100～139
使用前の鎮痛剤 フェンタニル経皮吸収型製剤（3日貼付型製剤；貼付用量mg） フェンタニル経皮吸収型製剤（3日貼付型製剤；貼付用量mg） 2．1 4．2 8．4 12．6
（表終了）
（注）本剤8mgは，初回貼付用量としては推奨されないが，定常状態の

推定平均吸収量は，1日フェンタニル2．4mgに相当。
2．初回貼付時
初回貼付後最低2日間は増量を行わない。他のオピオイド鎮痛剤から本剤に初めて切りかえた場合，フェンタニルの血中濃度が徐々に上昇するため，鎮痛効果が得られるまで時間を要す。下記を参考に切りかえ前に使用していたオピオイド鎮痛剤を投与。
使用方法例
（表開始）
使用していたオピオイド鎮痛剤（a）の投与回数 オピオイド鎮痛剤の使用方法例
1日1回 投与12時間後に本剤貼付開始。
1日2～3回 本剤貼付開始と同時に1回量を投与。
1日4～6回 本剤貼付開始と同時及び4～6時間後に1回量を投与。
持続投与 本剤貼付開始後6時間まで継続して持続投与。
（表終了）
（a）経皮吸収型製剤除く。
上記の「使用方法例」では，鎮痛効果不十分な時あり。状態を観察し，鎮痛効果が得られるまで，オピオイド鎮痛剤の追加により鎮痛をはかる。1回の追加投与量として，切りかえ前に使用していたオピオイド鎮痛剤が経口剤又は坐剤では1日量の1／6量を，注射剤では1／12量を目安に投与。この場合，速効性のオピオイド鎮痛剤を使用。
3．用量調整と維持
（1）．疼痛増強時の処置
本剤貼付中に痛みが増強したり，疼痛管理されている患者で突出痛があれば，オピオイド鎮痛剤の追加により鎮痛をはかる。1回の追加投与量として，切りかえ前に使用していたオピオイド鎮痛剤が経口剤又は坐剤では1日量の1／6量を，注射剤では1／12量を目安に投与。この場合，速効性のオピオイド鎮痛剤を使用。
（2）．増量
初回貼付後・増量後最低2日間は増量を行わない。連日の増量で呼吸抑制の発現あり。
鎮痛効果が得られるまで患者ごとに用量調整を行う。効果不十分時，追加された鎮痛剤の1日量及び疼痛程度を考慮し，本剤を1mg（1日0．3mg）又は2mg（1日0．6mg）ずつ増量。1mgから増量する場合は2mgに増量。1回貼付用量が24mg（1日7．2mg）を超える時は，他の方法を考慮。
（3）．減量
連用中の急激な減量は，退薬症候があらわれるので行わない。副作用等で減量する時は，慎重に行う。
4．使用中止
（1）．退薬症候を防ぐために漸減。
（2）．使用を中止し他のオピオイド鎮痛剤への変更時には，本剤剥離後の血中フェンタニル濃度が半減するのに17時間以上（16．75～45．07時間）かかるため，他のオピオイド鎮痛剤の投与は低用量から開始し，鎮痛効果が得られるまで漸増。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症。
2．ナルメフェン塩酸塩水和物の投与中・中止後1週間以内。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．呼吸抑制（0．5%）（無呼吸，呼吸困難，呼吸異常，呼吸緩慢，不規則な呼吸，換気低下等）。
2．意識障害（0．2%）（意識レベルの低下，意識消失等）。
3．依存性（頻度不明），退薬症候，死亡。
4．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）。
5．痙攣（頻度不明）（間代性，大発作型等）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 傾眠 眩暈，頭痛，不眠，せん妄 幻覚，気分変動 健忘，不安，易刺激性，振戦，不快気分，感覚鈍麻，アカシジア，失見当識，構語障害，悪夢，痛覚過敏，アロディニア
循環器 上室性期外収縮 血圧上昇，動悸，心房細動，徐脈
皮膚 貼付部位の掻痒感 掻痒，貼付部位の紅斑 発疹 紅斑，貼付部位の皮膚炎，湿疹，蕁麻疹，貼付部位の湿疹
呼吸器 咽頭痛，呼吸困難 過換気，口腔咽頭不快感
消化器 悪心，嘔吐，便秘 下痢，食欲不振 胃部不快感，腹部膨満感，胃炎，腹痛，味覚異常 腹部不快感，消化不良，口内炎，憩室炎，食道運動障害
肝臓 ALT，AST，γ－GTP，AI－Pの上昇 ビリルビン上昇
腎臓 尿蛋白 排尿困難，BUN上昇 クレアチニン上昇
血液 好中球増加，単球増加，白血球数増加 リンパ球減少，白血球数減少，血小板数増加，好酸球増加
その他 倦怠感，発熱 発汗，しゃっくり，血中カリウム減少 口渇，薬剤離脱症候群，異常感，末梢性浮腫，血中カリウム増加，鼻咽頭炎，悪寒，胸部不快感，高血圧，筋痙縮，耳鳴，挫傷
（表終了）

フェンタニル注射液0．1mg「テルモ」（0．005%2mL1管）

両 注射 後発 流通
麻 劇

【YJコード】8219400A1071
【薬効分類】8．2．1 合成麻薬
【一般名】フェンタニルクエン酸塩
【先発品】フェンタニル注射液0．1mg「第一三共」
【メーカー】製）テルモ
【薬価】242円/1A
【薬価収載日】2019/11/27
【標榜薬効】麻酔用鎮痛剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○全身麻酔，全身麻酔の鎮痛
○局所麻酔の鎮痛の補助
○激痛（術後疼痛，癌性疼痛等）の鎮痛
【用法用量】（表開始）
効能・効果 用法・用量 用法・用量
全身麻酔，全身麻酔の鎮痛 成人 右記量。適宜増減。バランス麻酔；麻酔導入時；0．03～0．16mL／kg（フェンタニル 1．5～8μg／kg） 緩徐に静注，点滴静注（ブドウ糖液等に希釈）。麻酔維持；ブドウ糖液等に希釈し，下記（1）又は（2）により投与。（1）．間欠投与；0．5～1mL（フェンタニル 25～50μg）ずつ 静注。（2）．持続投与；0．01～0．1mL／kg／時（フェンタニル 0．5～5μg／kg／時） 点滴静注。
全身麻酔，全身麻酔の鎮痛 成人 右記量。適宜増減。大量フェンタニル麻酔；麻酔導入時；0．4～3mL／kg（フェンタニル 20～150μg／kg） 緩徐に静注，点滴静注（ブドウ糖液等に希釈）。麻酔維持；必要時 0．4～0．8mL／kg／時（フェンタニル 20～40μg／kg／時） 点滴静注（ブドウ糖液等に希釈）。
全身麻酔，全身麻酔の鎮痛 小児 右記量。適宜増減。バランス麻酔・大量フェンタニル麻酔；麻酔導入時；0．02～0．1mL／kg（フェンタニル 1～5μg／kg） 緩徐に静注，点滴静注（ブドウ糖液等に希釈）。大量フェンタニル麻酔；2mL／kg（フェンタニル 100μg／kg） まで。麻酔維持；0．02～0．1mL／kg（フェンタニル 1～5μg／kg） 間欠的に静注，点滴静注（ブドウ糖液等に希釈）。
局所麻酔の鎮痛の補助 成人 0．02～0．06mL／kg（フェンタニル 1～3μg／kg） 静注。適宜増減。成人 0．02～0．06mL／kg（フェンタニル 1～3μg／kg） 静注。適宜増減。
激痛（術後疼痛，癌性疼痛等）の鎮痛 成人 右記量。適宜増減。静注；術後疼痛；0．02～0．04mL／kg（フェンタニル 1～2μg／kg） 緩徐に静注後，0．02～0．04mL／kg／時（フェンタニル 1～2μg／kg／時） 点滴静注。癌性疼痛への点滴静注；1日2～6mL（フェンタニル 0．1～0．3mg）から開始 適宜増量。
激痛（術後疼痛，癌性疼痛等）の鎮痛 成人 右記量。適宜増減。硬膜外投与；単回投与法；1回0．5～2mL（フェンタニル 25～100μg）。持続注入法；0．5～2mL／時（フェンタニル 25～100μg／時）。
激痛（術後疼痛，癌性疼痛等）の鎮痛 成人 右記量。適宜増減。くも膜下投与；単回投与法；1回0．1～0．5mL（フェンタニル 5～25μg）。
（表終了）
注意
投与法共通
1．バランス麻酔 適宜，全身麻酔剤や筋弛緩剤等を併用。
2．大量フェンタニル麻酔の導入時（開心術は人工心肺開始時まで）に，適切な麻酔深度が得られるよう全身状態を観察しながら補助呼吸下で緩徐に投与。必要時，局所麻酔剤，静脈麻酔剤，吸入麻酔剤，筋弛緩剤等を併用。
3．状態（呼吸抑制等）を観察しながら慎重に投与。特に癌性疼痛に対して追加及び他のオピオイド製剤からの変更には，前投与薬剤の投与量，効力比及び鎮痛効果の持続時間を考慮し，副作用に注意しながら，適宜用量調節を行う（ガイドライン※参照）。
4．癌性疼痛 初めてオピオイド製剤として静注する時は，通常よりも低用量（ガイドライン※参照）から開始することを考慮し，鎮痛効果，副作用の発現状況を観察しながら用量調節を行う。
（表開始）
※日本麻酔科学会－麻酔薬及び麻酔関連薬使用ガイドライン（抜粋）
使用法（フェンタニル注射液） 激痛（術後疼痛，癌性疼痛等）の鎮痛；静注；術後痛には，初回量として1～2μg／kgを静注し，引き続き1～2μg／kg／時で持続静注。適宜増減。患者自己調節鎮痛の実施時は，4～60μg／時で持続投与を行い，痛みに応じて5～10分以上の間隔で7～50μg（10～20μgを用いることが多い）の単回投与を行う。癌性疼痛に対して，経口モルヒネ製剤から切りかえる時は，1日量の1／300量から開始。持続静注の維持量は，0．1～3．9mg／日と個人差が大きいので，0．1～0．3mg／日から開始し，投与量を滴定。
（表終了）
硬膜外投与・くも膜下投与
5．局所麻酔剤等を併用。

■禁忌
【禁忌】投与法共通
1．筋弛緩剤が禁忌の患者。
2．本剤の成分に過敏症の既往。
3．頭部外傷・脳腫瘍等による昏睡状態のような呼吸抑制をおこしやすい患者。
4．痙攣発作の既往。
5．喘息。
6．ナルメフェン塩酸塩水和物の投与中・中止後1週間以内。
硬膜外投与・くも膜下投与
7．注射部位・その周辺に炎症。
8．敗血症。
9．中枢神経系疾患（髄膜炎，灰白脊髄炎，脊髄癆等）。
10．脊髄・脊椎に結核，脊椎炎及び転移性腫瘍等の活動性疾患。

■副作用
【副作用】重大な副作用

1. 依存性(頻度不明)(モルヒネ様の薬物依存)。
2. 呼吸抑制(頻度不明),無呼吸(頻度不明)。
3. 筋強直による換気困難(頻度不明)。
4. 血圧降下(頻度不明)。
5. ショック(頻度不明),アナフィラキシー(頻度不明)(血圧低下,蕁麻疹等)。
6. 不整脈(頻度不明),期外収縮(頻度不明),心停止(頻度不明)。
7. 興奮(頻度不明),筋強直(頻度不明)。
8. チアノーゼ(頻度不明)。

その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
過敏症 発疹,紅斑,掻痒症,蕁麻疹
循環器系 徐脈 血圧上昇,起立性低血圧,頻脈
精神神経系 不眠,後睡眠,眩暈,頭痛,精神症状,気分の動揺 ふるえ,錐体外路症状,四肢振戦,視力障害,多幸症,せん妄,うわ言,傾眠,しびれ,痛覚過敏,アロディニア
その他 悪心・嘔吐 発汗,咽頭痛,喀痰排出増加,喀痰排出困難 体温低下・悪寒,四肢冷感,喘鳴,吃逆,嗄声 口渇,食道運動障害,咳嗽,発熱,尿閉
(表終了)

フェントステープ0．5mg（0．5mg1枚）

両 外用 流通
麻 劇

【YJコード】8219701S6027
【薬効分類】8．2．1 合成麻薬
【一般名】フェンタニルクエン酸塩
【メーカー】製)久光製薬 販)協和キリン
【薬価】262.7円/1枚
【薬価収載日】2018/11/28
【標榜薬効】経皮吸収型持続性疼痛治療剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】成人
非オピオイド鎮痛剤・弱オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記の鎮痛(慢性疼痛は他のオピオイド鎮痛剤から切りかえて使用時のみ)
中等度から高度の疼痛を伴う各種癌
中等度から高度の慢性疼痛
小児
非オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記の鎮痛(他のオピオイド鎮痛剤から切りかえて使用時のみ)
中等度から高度の疼痛を伴う各種癌
注意
効能共通
1．オピオイド鎮痛剤の継続的投与を要する癌疼痛・慢性疼痛の管理にのみ使用。
2．他のオピオイド鎮痛剤から切りかえて使用する時は，他のオピオイド鎮痛剤が一定期間投与され，忍容性が確認された患者に使用。
癌疼痛
3．成人 貼付前にオピオイド鎮痛剤を使用していない癌疼痛には，経口オピオイド鎮痛剤に比べ治療が有益である時(内服が困難，経口剤による副作用発現のおそれ，多剤併用等により貼付剤の投与が望まれる等)にのみ使用。経口オピオイド鎮痛剤に比べ有効成分の血中濃度が徐々に上昇するため，至適用量を決定するまでに時間を要する可能性。
慢性疼痛
4．慢性疼痛の原因となる器質的病変，心理的・社会的要因，依存リスクを含めた包括的な診断を行い，使用の適否を慎重に判断。
【用法用量】成人
胸部，腹部，上腕部，大腿部等に貼付し 1日(約24時間)ごと 貼りかえ。
初回貼付用量は本剤貼付前のオピオイド鎮痛剤の治療有無で下記を選択。
その後の貼付用量は適宜増減。
癌疼痛
貼付前にオピオイド鎮痛剤を未使用 0．5mgより開始。
他のオピオイド鎮痛剤から本剤に切りかえる時 貼付前のオピオイド鎮痛剤の用法・用量を勘案して，0．5mg，1mg，2mg，4mg，6mgのいずれかの用量を選択。
慢性疼痛
他のオピオイド鎮痛剤から本剤に切りかえて使用。
貼付前のオピオイド鎮痛剤の用法・用量を勘案して，0．5mg，1mg，2mg，4mg，6mgのいずれかの用量を選択。
小児
癌疼痛
他のオピオイド鎮痛剤から本剤に切りかえて使用。
小児(2歳以上) 胸部，腹部，上腕部，大腿部等に貼付し 1日(約24時間)ごと 貼りかえ。
初回貼付用量は本剤貼付前のオピオイド鎮痛剤の用法・用量を勘案し，6歳以上は，0．5mg，1mg，2mg，4mg，6mgのいずれかの用量を選択し，2～6歳未満は，0．5mg，1mg，2mgのいずれかの用量を選択。
その後の貼付用量は適宜増減。
注意
1．初回貼付用量
他のオピオイド鎮痛剤から本剤に切りかえる時
癌疼痛
成人 初回貼付用量として，本剤8mgは推奨されない(初回貼付用量6mgを超える使用経験は少ない)。
6歳以上の小児 初回貼付用量として8mgは推奨されず，4mg・6mgは，慎重投与(6歳以上の小児の初回貼付用量として，臨床試験では2mgを超える使用経験なし)。
2～6歳未満の小児 初回貼付用量は換算表を目安に選択するが，2mgを超える用量は推奨されず，換算表よりも低用量への切りかえも考慮(2～6歳未満の小児は，成人に比べ血中フェンタニル濃度の上昇及び傾眠の発現割合の増加が認められており，初回貼付用量として，臨床試験では2mgを超える使用経験なし)。
初回貼付用量を選択する換算表は，1日経口モルヒネ量60mg(坐剤1日30mg，注射 1日20mg)，1日経口オキシコドン量40mg，フェンタニル経皮吸収型製剤(3日貼付型製剤)4．2mg(25μg／時;1日フェンタニル0．6mg)に本剤2mgへ切りかえるもので設定。
初回貼付用量は換算表で用量を選択し，過量投与に注意。
換算表(オピオイド鎮痛剤から本剤へ切りかえる時の推奨貼付用量)
癌疼痛
(表開始)
本剤1日量 本剤1日量 0．5mg 1mg 2mg 4mg 6mg
定常状態の推定平均吸収量(フェンタニルとして)(注) 定常状態の推定平均吸収量(フェンタニルとして)(注) 定常状態の推定平均吸収量(フェンタニルとして)(注) 0．15mg／日 0．3mg／日 0．6mg／日 1．2mg／日 1．8mg／日
↑ ↑ ↑ ↑ ↑
使用前の鎮痛剤 モルヒネ 経口剤(mg／日) ≦15 16～29 30～89 90～149 150～209
使用前の鎮痛剤 モルヒネ 坐剤(mg／日) － ≦10 20～40 50～70 80～100
使用前の鎮痛剤 モルヒネ 注射剤／静注(mg／日) ≦5 6～9 10～29 30～49 50～69
使用前の鎮痛剤 オキシコドン経口剤(mg／日) オキシコドン経口剤(mg／日) ≦10 11～19 20～59 60～99 100～139
使用前の鎮痛剤 フェンタニル経皮吸収型製剤(3日貼付型製剤;貼付用量mg) フェンタニル経皮吸収型製剤(3日貼付型製剤;貼付用量mg) － 2．1 4．2 8．4 12．6
(表終了)
(注)本剤8mgは，初回貼付用量としては推奨されないが，定常状態の推定平均吸収量は，1日フェンタニル2．4mgに相当。
慢性疼痛
初回貼付用量として，本剤8mgは推奨されない(初回貼付用量として6mgを超える使用経験は少ない)。初回貼付用量を選択する換算表は，1日経口モルヒネ量60mg(坐剤 1日30mg，注射 1日20mg)，フェンタニル経皮吸収型製剤(3日貼付型製剤)4．2mg(25μg／時;1日フェンタニル0．6mg)，1日経口コデイン量180mg以上に本剤2mgへ切りかえるもので設定。
初回貼付用量は換算表で用量を選択し，過量投与に注意。
換算表(オピオイド鎮痛剤から本剤へ切りかえる時の推奨貼付用量)
慢性疼痛
(表開始)
本剤1日量 本剤1日量 0．5mg 1mg 2mg 4mg 6mg
定常状態の推定平均吸収量(フェンタニルとして)(注) 定常状態の推定平均吸収量(フェンタニルとして)(注) 0．15mg／日 0．3mg／日 0．6mg／日 1．2mg／日 1．8mg／日
↑ ↑ ↑ ↑ ↑
使用前の鎮痛剤 モルヒネ経口剤(mg／日) ≦15 16～29 30～89 90～149 150～209
使用前の鎮痛剤 フェンタニル経皮吸収型製剤(3日貼付型製剤;貼付用量mg) － 2．1 4．2 8．4 12．6
使用前の鎮痛剤 コデイン経口剤(mg／日) ≦90 91～179 180～ － －
(表終了)
(注)本剤8mgは，初回貼付用量としては推奨されないが，定常状態の推定平均吸収量は，1日フェンタニル2．4mgに相当。
2．初回貼付時
(1)．他のオピオイド鎮痛剤から本剤に切りかえる時(癌疼痛，慢性疼痛)
初回貼付後最低2日間は増量を行わない。他のオピオイド鎮痛剤から本剤に初めて切りかえた時，フェンタニルの血中濃度が徐々に上昇するため，鎮痛効果が得られるまで時間を要す。下記を参考に切りかえ前に使用していたオピオイド鎮痛剤を投与。
使用方法例
(表開始)
使用していたオピオイド鎮痛剤(a)の投与回数 オピオイド鎮痛剤の使用方法例
1日1回 投与12時間後に本剤貼付開始。
1日2～3回 本剤貼付開始と同時に1回量を投与。
1日4～6回 本剤貼付開始と同時及び4～6時間後に1回量を投与。
持続投与 本剤貼付開始後6時間まで継続して持続投与。
(表終了)
(a)経皮吸収型製剤除く。
上記の「使用方法例」では，鎮痛効果不十分な時あり。状態を観察し，鎮痛効果が得られるまで，オピオイド鎮痛剤の追加により鎮痛をはかる。1回の追加量として，切りかえ前に使用していたオピオイド鎮痛剤が経口剤又は坐剤では1日量の1／6量を，注射剤では1／12量を目安に投与。この場合，速効性のオピオイド鎮痛剤を使用。
(2)．貼付前にオピオイド鎮痛剤を未使用(癌疼痛)
初回貼付後最低2日間は増量を行わない。フェンタニルの血中濃度が徐々に上昇するため，鎮痛効果が得られるまで時間を要す。鎮痛効果が得られるまで，適時オピオイド鎮痛剤の追加により鎮痛をはかる。1

8 麻薬

回の追加量として，経口剤では1日量の1／6量を，注射剤では1／12量を目安に投与。速効性のオピオイド鎮痛剤を使用。本剤0．5mgは1日経口モルヒネ量15mg（注射剤　1日5mg），1日経口オキシコドン量10mgに相当。
3．用量調整と維持
（1）．疼痛増強時の処置
本剤貼付中に痛みが増強したり，疼痛管理されている患者で突出痛があれば，オピオイド鎮痛剤の追加により鎮痛をはかる。
［1］．他のオピオイド鎮痛剤から本剤に切りかえる時（癌疼痛，慢性疼痛）
1回の追加量として，切りかえ前に使用していたオピオイド鎮痛剤が経口剤又は坐剤では1日量の1／6量を，注射剤では1／12量を目安に投与。この場合，速効性のオピオイド鎮痛剤を使用。
［2］．貼付前にオピオイド鎮痛剤を未使用（癌疼痛）
1回の追加量として，経口剤では1日量の1／6量を，注射剤では1／12量を目安に投与。この場合，速効性のオピオイド鎮痛剤を使用。本剤0．5mgは1日経口モルヒネ量15mg（注射剤　1日5mg），1日経口オキシコドン量10mgに相当。
（2）．増量
初回貼付後・増量後最低2日間は増量しない。連日の増量で呼吸抑制の発現あり。
鎮痛効果が得られるまで患者ごとに用量調整を行う。効果不十分時，追加された鎮痛剤の1日量及び疼痛程度を考慮し，下記の通り増量。1回貼付用量が24mg（1日7．2mg）を超える時は，他の方法を考慮。
［1］．他のオピオイド鎮痛剤から切りかえる時（癌疼痛，慢性疼痛）
本剤を0．5mg（1日0．15mg），1mg（1日0．3mg），1．5mg（1日0．45mg）又は2mg（1日0．6mg）ずつ増量。0．5mgから増量する時は1mg，1mgから増量する時は1．5mg又は2mg，1．5mgから増量する時は2mg，2．5mg又は3mgに増量。
［2］．貼付前にオピオイド鎮痛剤を未使用（癌疼痛）
初回貼付後，至適用量決定までは，0．5mgから1mgへ増量時除き貼付用量の50%を超えて増量しない。
以降は［1］．他のオピオイド鎮痛剤から切りかえる時により増量。
（3）．減量
連用中の急激な減量は，退薬症候があらわれるので行わない。副作用等で減量する時は，慎重に行う。
（4）．慢性疼痛への使用継続
貼付開始後4週間を経過しても効果なければ，他の適切な治療への変更を検討。定期的に症状・効果を確認し，使用の継続の必要性を検討。
4．使用中止
（1）．退薬症候を防ぐために漸減。
（2）．使用を中止し他のオピオイド鎮痛剤への変更時には，本剤剥離後の血中フェンタニル濃度が半減するのに17時間以上（16．75～45．07時間）かかるため，他のオピオイド鎮痛剤の投与は低用量から開始し，鎮痛効果が得られるまで漸増。

■禁忌
【禁忌】1．本剤の成分に過敏症。
2．ナルメフェン塩酸塩水和物の投与中・中止後1週間以内。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．呼吸抑制（0．5%）（無呼吸，呼吸困難，呼吸異常，呼吸緩慢，不規則な呼吸，換気低下等）。
2．意識障害（0．2%）（意識レベルの低下，意識消失等）。
3．依存性（頻度不明），退薬症候，死亡。
4．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明）。
5．痙攣（頻度不明）（間代性，大発作型等）。
その他の副作用（発現時中止等）（癌疼痛）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 傾眠 眩暈，頭痛，不眠，せん妄 幻覚，気分変動 健忘，不安，易刺激性，振戦，不快気分，感覚鈍麻，アカシジア，失見当識，構語障害，悪夢，痛覚過敏，アロディニア
循環器　上室性期外収縮 血圧上昇，動悸，心房細動，徐脈
皮膚 貼付部位の掻痒感 掻痒，貼付部位の紅斑 発疹 紅斑，貼付部位の皮膚炎，湿疹，蕁麻疹，貼付部位の湿疹
呼吸器　咽頭痛，呼吸困難 過換気，口腔咽頭不快感
消化器 悪心，嘔吐，便秘 下痢，食欲不振 胃部不快感，腹部膨満感，胃炎，腹痛，味覚異常 腹部不快感，消化不良，口内炎，憩室炎，食道運動障害
肝臓　ALT，AST，γ－GTP，AI－Pの上昇 ビリルビン上昇
腎臓　尿蛋白 排尿困難，BUN上昇 クレアチニン上昇
血液　好中球増加，単球増加，白血球数増加 リンパ球減少，白血球数減少，血小板数増加，好酸球増加
その他　倦怠感，発熱 発汗，しゃっくり，血中カリウム減少 口渇，薬剤離脱症候群，異常感，末梢性浮腫，血中カリウム増加，鼻咽頭炎，悪寒，胸部不快感，高血圧，筋痙縮，耳鳴，挫傷
（表終了）
その他の副作用（発現時中止等）（慢性疼痛）
（表開始）
発現部位等 5%以上 1～5%未満 1%未満 頻度不明
精神神経系 傾眠（23．9%），眩暈 頭痛，不眠，不安，易刺激性，振戦 不快気分，感覚鈍麻，アカシジア，失見当識，構語障害，悪夢 せん妄，幻覚，気分変動，健忘，痛覚過敏，アロディニア
循環器　血圧上昇，動悸，心房細動，上室性期外収縮，徐脈
皮膚 貼付部位の掻痒感 掻痒，貼付部位の紅斑，貼付部位の皮膚炎 発疹，湿疹，蕁麻疹，貼付部位の湿疹 紅斑
呼吸器　呼吸困難，過換気，口腔咽頭不快感 咽頭痛
消化器 悪心（21．7%），嘔吐，便秘，食欲不振 腹部不快感，下痢 消化不良，口内炎，腹痛，憩室炎 胃部不快感，腹部膨満感，胃炎，味覚異常，食道運動障害
肝臓　AI－P上昇 γ－GTP増加 ALT，AST，ビリルビンの上昇
腎臓　BUN上昇，クレアチニン上昇 排尿困難 尿蛋白
血液　リンパ球減少，白血球数増加，白血球数減少，好酸球増加，好中球増加，単球増加 血小板数増加
その他 薬剤離脱症候群 倦怠感，異常感，口渇，発汗，末梢性浮腫，血中カリウム増加，鼻咽頭炎 血中カリウム減少，悪寒，発熱，胸部不快感，高血圧，筋痙縮，耳鳴，挫傷 しゃっくり
（表終了）

ペチジン塩酸塩注射液35mg「タケダ」（3．5%1mL1管）

内　注射　流通
麻

【YJコード】8211400A1049
【薬効分類】8．2．1　合成麻薬
【一般名】ペチジン塩酸塩
【メーカー】製）武田薬品工業　販）塩野義製薬　販）田辺三菱製薬　販）第一三共
【薬価】341円/1A
【薬価収載日】2009/10/20
【標榜薬効】鎮痛・鎮痙剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】○激痛時の鎮痛・鎮静・鎮痙
○麻酔前投薬，麻酔の補助，無痛分娩
【用法用量】○激痛時の鎮痛・鎮静・鎮痙
成人　1回35～50mg　皮下注・筋注。必要時　3～4時間ごとに追加。緊急時　緩徐に静注。
○麻酔前投薬
麻酔前30～90分　50～100mg　皮下注・筋注。
○全身麻酔の補助
10～15mg　間欠的に静注（5%ブドウ糖液又は生食で10mg／mLを含有するように希釈）。場合により50mgまで。
○無痛分娩
子宮口二横指開大～全開時　70～100mg　皮下注・筋注。必要時　3～4時間ごと　35～70mgずつ　1～2回追加。母体・胎児の呼吸抑制を防ぐため，ペチジン塩酸塩100mgにレバロルファン酒石酸塩1mgの投与比率で混合注射。
適宜増減。

■禁忌
【禁忌】1．重篤な呼吸抑制。
2．重篤な肝機能障害。
3．慢性肺疾患に続発する心不全。
4．痙攣状態（てんかん重積症，破傷風，ストリキニーネ中毒）。
5．急性アルコール中毒。
6．本剤に過敏症の既往。
7．MAO阻害剤の投与患者。
8．ナルメフェン塩酸塩水和物の投与中・中止後1週間以内。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．依存性（頻度不明），退薬症候（あくび，くしゃみ，流涙，発汗，悪心，嘔吐，下痢，腹痛，散瞳，頭痛，不眠，不安，せん妄，振戦，全身の筋肉・関節痛，呼吸促迫等）。
2．ショック（頻度不明），アナフィラキシー（頻度不明）（血圧低下，呼吸困難，意識低下等）。
3．呼吸抑制（頻度不明）（息切れ，呼吸緩慢，不規則な呼吸，呼吸異常等）。
4．錯乱（頻度不明），せん妄（頻度不明）。
5．痙攣（頻度不明）。
6．無気肺（頻度不明），気管支痙攣（頻度不明），喉頭浮腫（頻度不明）。
7．麻痺性イレウス（頻度不明），中毒性巨大結腸（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 頻度不明
循環器 不整脈，動悸，血圧変動，顔面潮紅
精神神経系 眠気，眩暈，不安，不穏，多幸感，振戦，幻覚，興奮，発汗
眼 視調節障害
消化器 口渇，悪心，嘔吐，便秘
過敏症 発疹，掻痒感
投与部位 静注で静脈炎・発赤
その他 排尿障害，頭蓋内圧の亢進
（表終了）

メサペイン錠10mg（10mg1錠）

両　内服　流通
麻　劇

【YJコード】8219002F2020

【薬効分類】8．2．1 合成麻薬
【一般名】メサドン塩酸塩
【メーカー】製)帝國製薬 販)塩野義製薬 販)テルモ
【薬価】351.2円/1T
【薬価収載日】2012/11/22
【標榜薬効】癌疼痛治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】他の強オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記の鎮痛
中等度から高度の疼痛を伴う各種癌
注意
他の強オピオイド鎮痛剤では鎮痛効果が不十分で，オピオイド鎮痛剤の継続的投与を要する癌疼痛の管理にのみ使用。
【用法用量】他の強オピオイド鎮痛剤から切りかえて使用。
成人 初回量は本剤投与前の強オピオイド鎮痛剤の用法・用量を勘案し，1回5～15mg 1日3回 内服。
適宜増減。
注意
1．初回量
(1)．薬物動態は個人差が大きく，他のオピオイド鎮痛剤との交差耐性が不完全であるため，等鎮痛比は未確立。
(2)．下記換算表は，初回量を選択する時の目安であり，換算比は本剤投与前のオピオイド鎮痛剤の投与量により異なる。オピオイド耐性の程度，併用薬剤を考慮して用量を選択し，過量投与に注意。
(3)．経口モルヒネ量60mg／日未満のオピオイド鎮痛剤からの切りかえは推奨されない。
投与量換算表(本剤初回投与時の目安)
(表開始)
メサドン塩酸塩（mg／日）15（5mg／回×3回）30（10mg／回×3回）45（15mg／回×3回）
↑ ↑ ↑
モルヒネ経口剤（mg／日）60≦～≦160 160＜～≦390 390＜
(表終了)
2．初回投与時
(1)．投与後最低7日間は増量しない。血中濃度の定常状態までに時間を要するため，7日未満の増量は過量投与の可能性。
(2)．フェンタニル貼付剤から変更時は，剥離後にフェンタニルの血中濃度が半減するまで17時間以上かかることから，剥離直後の使用は避ける。フェンタニルの血中濃度が低下するまでの時間をあけ，低用量から投与を考慮。
3．疼痛増強時
服用中の疼痛増強時や鎮痛効果がある患者の突発性疼痛は，直ちに速効性のオピオイド鎮痛剤の臨時追加投与を行い鎮痛を図る。
4．増量
(1)．初回投与後・増量後最低7日間は増量しない。呼吸抑制のおそれ。
(2)．鎮痛効果が得られるまで用量調整。鎮痛効果なければ，1日量の50%，1回5mgまで増量。
(3)．増量時は副作用に注意。
5．減量
連用中の急激な減量は，退薬症候があらわれるので行わない。副作用等で減量する時は，慎重に行う。
6．投与の中止
投与中止時には，退薬症候を防ぐために漸減。副作用等で直ちに投与中止時，退薬症候に注意。

■禁忌
【禁忌】1．重篤な呼吸抑制，重篤な慢性閉塞性肺疾患。
2．気管支喘息発作中。
3．麻痺性イレウス。
4．急性アルコール中毒。
5．本剤の成分に過敏症の既往。
6．出血性大腸炎。
7．ナルメフェン塩酸塩水和物の投与中・中止後1週間以内。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(顔面蒼白，血圧低下，呼吸困難，頻脈，全身発赤，血管浮腫，蕁麻疹等)。
2．依存性(頻度不明)(薬物依存)，退薬症候(あくび，くしゃみ，流涙，発汗，悪心，嘔吐，下痢，腹痛，散瞳，頭痛，不眠，不安，せん妄，痙攣，振戦，全身の筋肉・関節痛，呼吸促迫，動悸等)。
3．呼吸停止，呼吸抑制(各頻度不明)(息切れ，呼吸緩慢，不規則な呼吸，呼吸異常等)。
4．心停止，心室細動，心室頻拍(Torsades de pointes含む)，心不全，期外収縮(各頻度不明)，QT延長(15．4%)。
5．錯乱(頻度不明)，せん妄(7．7%)。
6．肺水腫，無気肺，気管支痙攣，喉頭浮腫(各頻度不明)。
7．腸閉塞(3．8%)，麻痺性イレウス，中毒性巨大結腸(各頻度不明)。
8．肝機能障害(頻度不明)(AST(GOT)，ALT(GPT)，AI－P等の著しい上昇)。
その他の副作用(発現時中止等)
(表開始)
発現部位等 10%以上 10%未満 頻度不明
循環器 不整脈，二段脈，徐脈，頻脈，T波逆転，血圧変動，失神，心筋症，動悸
精神神経系 眠気・傾眠 振戦 不眠，眩暈，ふらふら感，幻覚，健忘，失見当識，激越，不安，鎮静，気分不快，多幸感，感覚異常，痙攣発作，頭痛，発汗，ミオクローヌス
消化器 悪心，嘔吐，便秘 下痢 腹痛，口渇，味覚異常，食欲不振，舌炎，胆管痙攣
過敏症 発疹 掻痒症
血液 血小板減少症
泌尿器 排尿障害，尿閉
感覚器 視覚障害(霧視，複視等)
その他 血管拡張(顔面潮紅，熱感)，潮紅，浮腫，呼吸困難，無力症，脱力，倦怠感，低カリウム血症，低マグネシウム血症，静脈炎，体重増加，無月経，性欲減退，性能力減退
(表終了)

メサペイン錠5mg（5mg1錠）

両 内服 流通
麻 劇

【YJコード】8219002F1024
【薬効分類】8．2．1 合成麻薬
【一般名】メサドン塩酸塩
【メーカー】製)帝國製薬 販)塩野義製薬 販)テルモ
【薬価】184.8円/1T
【薬価収載日】2012/11/22
【標榜薬効】癌疼痛治療剤

■効能効果・用法用量
【効能効果】他の強オピオイド鎮痛剤で治療困難な下記の鎮痛
中等度から高度の疼痛を伴う各種癌
注意
他の強オピオイド鎮痛剤では鎮痛効果が不十分で，オピオイド鎮痛剤の継続的投与を要する癌疼痛の管理にのみ使用。
【用法用量】他の強オピオイド鎮痛剤から切りかえて使用。
成人 初回量は本剤投与前の強オピオイド鎮痛剤の用法・用量を勘案し，1回5～15mg 1日3回 内服。
適宜増減。
注意
1．初回量
(1)．薬物動態は個人差が大きく，他のオピオイド鎮痛剤との交差耐性が不完全であるため，等鎮痛比は未確立。
(2)．下記換算表は，初回量を選択する時の目安であり，換算比は本剤投与前のオピオイド鎮痛剤の投与量により異なる。オピオイド耐性の程度，併用薬剤を考慮して用量を選択し，過量投与に注意。
(3)．経口モルヒネ量60mg／日未満のオピオイド鎮痛剤からの切りかえは推奨されない。
投与量換算表(本剤初回投与時の目安)
(表開始)
メサドン塩酸塩（mg／日）15（5mg／回×3回）30（10mg／回×3回）45（15mg／回×3回）
↑ ↑ ↑
モルヒネ経口剤（mg／日）60≦～≦160 160＜～≦390 390＜
(表終了)
2．初回投与時
(1)．投与後最低7日間は増量しない。血中濃度の定常状態までに時間を要するため，7日未満の増量は過量投与の可能性。
(2)．フェンタニル貼付剤から変更時は，剥離後にフェンタニルの血中濃度が半減するまで17時間以上かかることから，剥離直後の使用は避ける。フェンタニルの血中濃度が低下するまでの時間をあけ，低用量から投与を考慮。
3．疼痛増強時
服用中の疼痛増強時や鎮痛効果がある患者の突発性疼痛は，直ちに速効性のオピオイド鎮痛剤の臨時追加投与を行い鎮痛を図る。
4．増量
(1)．初回投与後・増量後最低7日間は増量しない。呼吸抑制のおそれ。
(2)．鎮痛効果が得られるまで用量調整。鎮痛効果なければ，1日量の50%，1回5mgまで増量。
(3)．増量時は副作用に注意。
5．減量
連用中の急激な減量は，退薬症候があらわれるので行わない。副作用等で減量する時は，慎重に行う。
6．投与の中止
投与中止時には，退薬症候を防ぐために漸減。副作用等で直ちに投与中止時，退薬症候に注意。

■禁忌
【禁忌】1．重篤な呼吸抑制，重篤な慢性閉塞性肺疾患。
2．気管支喘息発作中。
3．麻痺性イレウス。
4．急性アルコール中毒。
5．本剤の成分に過敏症の既往。
6．出血性大腸炎。
7．ナルメフェン塩酸塩水和物の投与中・中止後1週間以内。

■副作用
【副作用】重大な副作用
1．ショック，アナフィラキシー(各頻度不明)(顔面蒼白，血圧低下，呼吸困難，頻脈，全身発赤，血管浮腫，蕁麻疹等)。
2．依存性(頻度不明)(薬物依存)，退薬症候(あくび，くしゃみ，流涙，

発汗，悪心，嘔吐，下痢，腹痛，散瞳，頭痛，不眠，不安，せん妄，痙攣，振戦，全身の筋肉・関節痛，呼吸促迫，動悸等）。
3．呼吸停止，呼吸抑制（各頻度不明）（息切れ，呼吸緩慢，不規則な呼吸，呼吸異常等）。
4．心停止，心室細動，心室頻拍（Torsades de pointes含む），心不全，期外収縮（各頻度不明），QT延長（15．4%）。
5．錯乱（頻度不明），せん妄（7．7%）。
6．肺水腫，無気肺，気管支痙攣，喉頭浮腫（各頻度不明）。
7．腸閉塞（3．8%），麻痺性イレウス，中毒性巨大結腸（各頻度不明）。
8．肝機能障害（頻度不明）（AST（GOT），ALT（GPT），Al－P等の著しい上昇）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 10%以上 10%未満 頻度不明
循環器 不整脈，二段脈，徐脈，頻脈，T波逆転，血圧変動，失神，心筋症，動悸
精神神経系 眠気・傾眠 振戦 不眠，眩暈，ふらふら感，幻覚，健忘，失見当識，激越，不安，鎮静，気分不快，多幸感，感覚異常，痙攣発作，頭痛，発汗，ミオクローヌス
消化器 悪心，嘔吐，便秘 下痢 腹痛，口渇，味覚異常，食欲不振，舌炎，胆管痙攣
過敏症 発疹 掻痒症
血液 血小板減少症
泌尿器 排尿障害，尿閉
感覚器 視覚障害（霧視，複視等）
その他 血管拡張（顔面潮紅，熱感），潮紅，浮腫，呼吸困難，無力症，脱力，倦怠感，低カリウム血症，低マグネシウム血症，静脈炎，体重増加，無月経，性欲減退，性能力減退
（表終了）

レミフェンタニル静注用2mg「第一三共」（2mg1瓶）

内 注射 後発 流通
麻 劇

【YJコード】8219401D1030
【薬効分類】8．2．1 合成麻薬
【一般名】レミフェンタニル塩酸塩
【先発品】アルチバ静注用2mg
【メーカー】製）丸石製薬 販）第一三共
【薬価】935円/1V
【薬価収載日】2016/12/09
【標榜薬効】全身麻酔用鎮痛剤

■効能効果・用法用量

【効能効果】成人 全身麻酔の導入・維持における鎮痛
小児 全身麻酔の維持における鎮痛
集中治療の人工呼吸中の鎮痛
【用法用量】成人 全身麻酔の導入・維持の鎮痛
成人 下記量 他の全身麻酔剤を必ず併用。
麻酔導入
0．5μg／kg／分 持続静注。ダブルルーメンチューブの使用，挿管困難等，気管挿管時に強い刺激が予想される時は，1μg／kg／分。必要時，持続静注開始前に1μg／kg 30～60秒かけ 単回静注できる。気管挿管を投与開始から10分以上経過後に行う時は単回静注の必要なし。
麻酔維持
0．25μg／kg／分 持続静注。速度は，全身状態を観察しながら，2～5分間隔で25～100%の範囲で加速又は25～50%の範囲で減速できるが，最大2μg／kg／分まで。浅麻酔時 0．5～1μg／kgを2～5分間隔で追加単回静注できる。
小児 全身麻酔の維持の鎮痛
1歳以上の小児 下記量 他の全身麻酔剤を必ず併用。
麻酔維持
0．25μg／kg／分 持続静注。速度は，全身状態を観察しながら，2～5分間隔で25～100%の範囲で加速又は25～50%の範囲で減速できるが，最大1．3μg／kg／分まで。浅麻酔時 1μg／kgを2～5分間隔で追加単回静注できる。
集中治療の人工呼吸中の鎮痛
成人 0．025μg／kg／分から開始 持続静注。全身状態を観察しながら，投与速度を適宜調節。
5分以上の間隔で，0．1μg／kg／分までは最大0．025μg／kg／分ずつ加速又は減速，0．1μg／kg／分を超える時は25～50%の範囲で加速又は最大25%の範囲で減速させるが，0．5μg／kg／分まで。投与終了時は，10分以上の間隔で，最大25%ずつ減速させ，0．025μg／kg／分を目安として終了。
注意
効能共通
1．肥満の用量設定は実際の体重よりも標準体重に基づく（成人ではBMI25以上）。
成人 全身麻酔の導入・維持の鎮痛，小児 全身麻酔の維持の鎮痛
2．単独で全身麻酔に使用しない。鎮静効果が弱いため，意識消失を得るためには他の全身麻酔剤を併用。
3．単回静注時，30秒以上かける。
集中治療の人工呼吸中の鎮痛
4．単回静注しない。

■禁忌

【禁忌】1．本剤の成分・フェンタニル系化合物に過敏症の既往。
2．ナルメフェン塩酸塩の投与中・中止後1週間以内。

■副作用

【副作用】重大な副作用
1．筋硬直（頻度不明）。
2．筋硬直，喉頭痙攣による換気困難（頻度不明）。
3．呼吸停止（頻度不明），呼吸抑制（1．1%）。
4．低血圧（3．3%），血圧低下（頻度不明）。
5．徐脈（1．1%）。
6．不全収縮，心停止（各頻度不明）。
重篤な徐脈（他の全身麻酔剤併用）。
7．ショック，アナフィラキシー（各頻度不明），アレルギー（他の全身麻酔剤併用）。
8．全身痙攣（頻度不明）。
その他の副作用（発現時中止等）
（表開始）
発現部位等 0．1～5%未満 頻度不明
精神障害 せん妄，落ち着きのなさ 幻視，激越
神経系障害 傾眠 振戦，鎮静
心臓障害 結節性調律，期外収縮，房室解離，洞房ブロック，心室無収縮，房室ブロック
血管障害 潮紅，高血圧
呼吸器，胸郭・縦隔障害 徐呼吸，過換気
胃腸障害 便秘，悪心 嘔吐，腹痛，腹部膨満
肝胆道系障害 肝機能異常
皮膚・皮下組織障害 発疹 紅斑，皮膚炎
腎・尿路障害 乏尿
全身障害・投与局所様態 悪寒，冷感
臨床検査 一回換気量増加 ビリルビン増加，AST増加，LDH増加，ALT増加，血圧上昇，体温低下
傷害，中毒，処置合併症 鎮静合併症 術後血圧上昇，創合併症
（表終了）